

Oracle9i

データベース・エラー・メッセージ

リリース 1 (9.0.1)

2001 年 10 月

部品番号 : J04103-01

ORACLE®

部品番号: J04103-01

原本名: Oracle9i Database Error Messages, Release 1 (9.0.1)

原本部品番号: A90203-02 (Vol.1)、A90204-02 (Vol.2)、A90205-01 (Vol.3)

Copyright © 1996, 2001, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

| | |
|----------------|------|
| はじめに | vii |
| 対象読者 | viii |
| 構成 | viii |
| 関連ドキュメント | xi |
| 表記規則 | xiii |

Vol.1

第 I 部 概要

1 メッセージの使用方法

| | |
|-------------------------------|-----|
| メッセージ関連のマニュアル | 1-2 |
| Oracle データベース・サーバー | 1-2 |
| 製品固有 | 1-2 |
| オペレーティング・システム固有 | 1-2 |
| メッセージの精度 | 1-2 |
| メッセージの形式 | 1-2 |
| メッセージにおける埋込み変数の認識 | 1-3 |
| メッセージ・スタック | 1-3 |
| オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡 | 1-4 |
| Oracle 例外メッセージ | 1-4 |
| トレース・ファイル | 1-5 |
| 警告ファイル | 1-6 |

第 II 部 Oracle データベース・サーバー・メッセージ

2 ORA-00000 ～ ORA-00899

3 ORA-00900 ～ ORA-01499

4 ORA-01500 ～ ORA-02099

5 ORA-02100 ～ ORA-04099

6 ORA-04100 ～ ORA-07499

7 ORA-07500 ～ ORA-09857

8 ORA-09858 ～ ORA-12299

9 ORA-12300 ～ ORA-12399

Vol.2

第 II 部 Oracle データベース・サーバー・メッセージ (続き)

10 ORA-12400 ～ ORA-12699

11 ORA-12700 ～ ORA-19399

12 ORA-19400 ～ ORA-24279

13 ORA-24280 ～ ORA-29249

14 ORA-29250 ～ ORA-32767

Vol.3

第 III 部 Oracle データベース・サーバー・ユーティリティ・メッセージ

- 15 Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)**
- 16 エクスポート・メッセージ (EXP)**
- 17 インポート・メッセージ (IMP)**
- 18 パラメータ・メッセージ (LRM)**
- 19 パラメータ・メッセージ (LCD)**
- 20 BFILE 関連のメッセージ (LFI)**
- 21 PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)**
- 22 サマリー・アドバイザ、EXPLAIN リライトおよび EXPLAIN マテリアライズド・ビュー・メッセージ (QSM)**
- 23 Recovery Manager メッセージ (RMAN)**
- 24 SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)**

第 IV 部 ネットワーク・メッセージ

- 25 Oracle Net メッセージ (TNS)**
- 26 Oracle Names Client メッセージ (NNC)**
- 27 Oracle Names Server メッセージ (NNO)**

- 28 Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)
- 29 Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)

Vol.4

第Ⅳ部 ネットワーク・メッセージ (続き)

- 30 External Naming メッセージ (NNF)
- 31 簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)
- 32 リモート操作メッセージ (NCR)
- 33 ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)

第Ⅴ部 プリコンパイラ・メッセージ

- 34 SQL*Module メッセージ (MOD)
- 35 Object Type Translator 型ファイル・メッセージ (O2F)
- 36 Object Type Translator 初期化メッセージ (O2I)
- 37 Object Type Translator 解析解除メッセージ (O2U)
- 38 Pro*COBOL メッセージ (PCB)
- 39 PCF FIPS メッセージ (PCF)
- 40 Pro*C/C++ メッセージ (PCC)

41 SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

第 VI 部 オプション・メッセージ

42 *interMedia* Audio メッセージ (AUD)

43 *interMedia* Image メッセージ (IMG)

44 *interMedia* Video メッセージ (VID)

45 Oracle Text メッセージ (DRG)

46 Time Series メッセージ (TS)

47 Spatial Data Option メッセージ (SDO)

48 Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

索引

はじめに

このマニュアルでは、Oracle 製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて説明します。各メッセージについて、メッセージの文、および考えられる原因の説明と対処方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合は、解決方法を示します。

ここでは、次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [構成](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表記規則](#)

対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle ユーザーを対象にしています。

構成

『Oracle9i データベース・エラー・メッセージ』は、全部で 4 冊あります。それぞれの内容は、次のとおりです。

Vol.1

第 I 部「概要」

第 1 章「メッセージの使用方法」

第 II 部「Oracle データベース・サーバー・メッセージ」

第 2 章「ORA-00000 ～ ORA-00899」

第 3 章「ORA-00900 ～ ORA-01499」

第 4 章「ORA-01500 ～ ORA-02099」

第 5 章「ORA-02100 ～ ORA-04099」

第 6 章「ORA-04100 ～ ORA-07499」

第 7 章「ORA-07500 ～ ORA-09857」

第 8 章「ORA-09858 ～ ORA-12299」

第 9 章「ORA-12300 ～ ORA-12399」

Vol.2

第 10 章「ORA-12400 ～ ORA-12699」

第 11 章「ORA-12700 ～ ORA-19399」

第 12 章「ORA-19400 ～ ORA-24279」

第 13 章「ORA-24280 ～ ORA-29249」

第 14 章「ORA-29250 ～ ORA-32767」

Vol.3

第 III 部「Oracle データベース・サーバー・ユーティリティ・メッセージ」

第 15 章「Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)」

第 16 章「エクスポート・メッセージ (EXP)」

第 17 章「インポート・メッセージ (IMP)」

第 18 章「パラメータ・メッセージ (LRM)」

第 19 章「パラメータ・メッセージ (LCD)」

第 20 章「BFILE 関連のメッセージ (LFI)」

第 21 章「PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)」

第 22 章「サマリー・アドバイザ、EXPLAIN リライトおよび EXPLAIN マテリアライズド・ビュー・メッセージ (QSM)」

第 23 章「Recovery Manager メッセージ (RMAN)」

第 24 章「SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)」

第 IV 部「ネットワーク・メッセージ」

第 25 章「Oracle Net メッセージ (TNS)」

第 26 章「Oracle Names Client メッセージ (NNC)」

第 27 章「Oracle Names Server メッセージ (NNO)」

第 28 章「Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)」

第 29 章「Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)」

Vol.4

第 30 章「External Naming メッセージ (NNF)」

第 31 章「簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)」

第 32 章「リモート操作メッセージ (NCR)」

第 33 章「ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)」

第 V 部「プリコンパイラ・メッセージ」

第 34 章「SQL*Module メッセージ (MOD)」

第 35 章「Object Type Translator 型ファイル・メッセージ (O2F)」

第 36 章「Object Type Translator 初期化メッセージ (O2I)」

第 37 章「Object Type Translator 解析解除メッセージ (O2U)」

第 38 章「Pro*COBOL メッセージ (PCB)」

第 39 章「PCF FIPS メッセージ (PCF)」

第 40 章「Pro*C/C++ メッセージ (PCC)」

第 41 章「SQL ランタイム・メッセージ (SQL)」

第 VI 部「オプション・メッセージ」

第 42 章「interMedia Audio メッセージ (AUD)」

第 43 章「interMedia Image メッセージ (IMG)」

第 44 章「interMedia Video メッセージ (VID)」

第 45 章「Oracle Text メッセージ (DRG)」

第 46 章「Time Series メッセージ (TS)」

第 47 章「Spatial Data Option メッセージ (SDO)」

第 48 章「Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)」

関連ドキュメント

詳細は、次の Oracle ドキュメントを参照してください。

- Oracle データベース・サーバーの概要および機能については、『Oracle9i データベース概要』を参照してください。
- Oracle データベース・サーバーの管理については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』および『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。
- Oracle データベース・サーバーでのデータベース・アプリケーションの開発については、『Oracle9i アプリケーション開発者ガイド - 基礎編』、『Oracle9i PL/SQL パッケージ・プロシージャおよびタイプ・リファレンス』、『Oracle9i アプリケーション開発者ガイド - ラージ・オブジェクト』および『Oracle9i アプリケーション開発者ガイド - アドバンスド・キューイング』を参照してください。
- 前のリリースの Oracle から Oracle9i への移行手順については、『Oracle9i データベース移行ガイド』を参照してください。

- Oracle の SQL コマンドおよび関数については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。
- Oracle データベース・サーバーにバンドルされているユーティリティ（エクスポート、インポート、SQL*Loader など）については、『Oracle9i データベース・ユーティリティ』を参照してください。
- Oracle Net Services については、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。
- データの暗号化、外部認証サービスおよび Oracle DCE 統合など Oracle Advanced Networking Option に組み込まれている機能については、『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。
- ホスト・オペレーティング・システムで稼働している Oracle サーバー固有の情報については、各オペレーティング・システムに対応する Oracle マニュアル（タイトルはオペレーティング・システムによって異なります）を参照してください。使用可能な場合は、システム・リリース・ノートも参照してください。

このマニュアルの多くの例で、Oracle のインストール時にデフォルトとしてインストールされるシード・データベースのサンプル・スキーマを使用しています。スキーマの作成方法および使用方法の詳細は、『Oracle9i サンプル・スキーマ』を参照してください。

リリース・ノート、インストール・マニュアル、ホワイト・ペーパーまたはその他の関連書籍は、Oracle Technology Network (OTN) に接続すれば、無償でダウンロードできます。OTN を利用するには、オンライン登録をする必要があります。次の URL で登録できます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

すでに OTN のユーザー名およびパスワードを所有している場合は、OTN の Web サイトから無償でドキュメントを参照およびダウンロードすることが可能です。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

表記規則

この項では、コード例で使用する表記規則について説明します。

コード例の表記規則

コード例は、SQL、PL/SQL、SQL*Plus または他のコマンドライン文を説明します。コード例は、固定幅フォントで表示され、この例に示すとおり通常のテキストと区別されます。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表に、コード例で使用する表記規則を説明し、その使用例を示します。

| 規則 | 意味 | 例 |
|-------------|--|---|
| [] | 大カッコは、任意に選択する 1 つ以上の項目を囲みます。大カッコは、入力しないでください。 | DECIMAL (<i>digits</i> [, <i>precision</i>]) |
| { } | 中カッコは、2 つ以上の項目を囲み、そのうちの 1 つの項目は必須です。中カッコは、入力しないでください。 | { ENABLE DISABLE } |
| | 縦線は、大カッコまたは中カッコ内の 2 つ以上のオプションの選択項目を表します。オプションのうちの 1 つを入力します。縦線は、入力しないでください。 | { ENABLE DISABLE } [COMPRESS NOCOMPRESS] |
| ... | 水平省略記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 例に直接関連しないコードの一部が省略されている。■ コードの一部を繰り返すことができる。 | CREATE TABLE ... AS <i>subquery</i> ; SELECT <i>col1</i> , <i>col2</i> , ... , <i>coln</i> FROM employees; |
| . : . | 垂直の省略記号は、例に直接関連しない複数の行が省略されていることを示します。 | |
| その他の句読点 | 大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の句読点は、表示されているとおり入力する必要があります。 | <i>acctbal</i> NUMBER (11,2) ; <i>acct</i> CONSTANT NUMBER (4) := 3 ; |
| イタリック体 | イタリック体は、特定の値を指定する必要のあるプレースホルダまたは変数を示します。 | CONNECT SYSTEM/ <i>system_password</i> DB_NAME = <i>database_name</i> |

| 規則 | 意味 | 例 |
|-----|--|--|
| 大文字 | 大文字は、システムが提供する要素を示します。これらの用語は、ユーザー定義の用語と区別するために大文字で示されます。用語が大カッコ内にかぎり、表示されているとおりの順序および綴りで入力します。ただし、これらの用語は大文字 / 小文字の識別がされないため、小文字でも入力できます。 | <pre>SELECT last_name, employee_id FROM employees; SELECT * FROM USER_TABLES; DROP TABLE hr.employees;</pre> |
| 小文字 | 小文字は、ユーザーが提供するプログラム要素を示します。たとえば、表名、列名またはファイル名などです。 注意： 大文字と小文字を組み合わせて使用するプログラム要素もあります。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。 | <pre>SELECT last_name, employee_id FROM employees; sqlplus hr/hr CREATE USER mjjones IDENTIFIED BY ty3MU9;</pre> |

第 I 部

概要

第 I 部には、次の章があります。

- [第 1 章「メッセージの使用方法」](#)

メッセージの使用方法

この章では、エラー・メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。この章の内容は、次のとおりです。

- [メッセージ関連のマニュアル](#)
- [メッセージの精度](#)
- [メッセージの形式](#)
- [メッセージにおける埋込み変数の認識](#)
- [メッセージ・スタック](#)
- [オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)
- [Oracle 例外メッセージ](#)
- [トレース・ファイル](#)
- [警告ファイル](#)

メッセージ関連のマニュアル

Oracle データベース・サーバー

これらのメッセージは、Oracle プログラムの実行時に Oracle データベース・サーバーによって生成されます。このマニュアルには、Oracle 製品および Oracle のツール製品に共通するメッセージを記載します。

製品固有

これらのメッセージは各製品ごとに異なり、マニュアルの文章はその製品用のものです。たとえば、Windows 上で SQL*Plus を使用する場合は、『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』でメッセージを参照する必要があります。

オペレーティング・システム固有

これらのメッセージは各オペレーティング・システムに固有のものです。各オペレーティング・システムには、一定の範囲のメッセージ・コード番号が割り当てられています。たとえば、ORA-07500 ～ ORA-07999 の範囲のメッセージは DEC VAX/VMS メッセージ用であり、これらのメッセージは該当するオペレーティング・システム固有のマニュアルに記載されています。

メッセージの接頭辞を見れば、そのメッセージの情報がどこに記載されているかわかります。たとえば、このマニュアル中のメッセージには「ORA」の接頭辞が付いているものがあります。接頭辞がないメッセージがある場合、最初にご使用の Oracle Server 用のマニュアルを調べ、その後このマニュアルで調べます。

メッセージの精度

このマニュアルのメッセージで最も重要なのは、その精度です。バージョン・アップ時のメッセージの変更により、Oracle ソフトウェアと一致しない場合があります。

メッセージの形式

表示されるすべてのメッセージには、どのプログラムから出力されたかを示す接頭辞が付いています。たとえば、接頭辞「ORA」は、Oracle 製品によって生成されたメッセージに表示されます。このマニュアルに記載されているメッセージはこの接頭辞ごとに並んでいます。

なお、すべてのメッセージは、メッセージ・コード番号に従って示されています。メッセージを検索するときは、このメッセージ・コード番号を使用してください。

メッセージにおける埋込み変数の認識

メッセージを容易に見出しエラーを解決するため、Oracle ではある種のメッセージにオブジェクト名、数、文字列が埋め込まれています。これらの埋め込まれた変数は *string*、*number* または *character* の部分に表示されます。次に例を示します。

ORA-00020: 最大プロセス数 *string* を超えました。

このメッセージは、実際には次のように表示されます。

ORA-00020: 最大プロセス数 50 を超えました。

メッセージ・スタック

「メッセージ・スタック」が表示されることがよくあります。メッセージ・スタックは、Oracle の各レベルから出力される一連の関連メッセージです。

次のメッセージ・スタックは一般的な例です。

ORA-06502: PL/SQL: 数値または値のエラー *string* が発生しました

ORA-06512: "SCOTT.VALUE_ERR" 行 1

ORA-06512: 行 1

次のメッセージ・スタックは VAX/VMS の例です。

ORA-01034: Oracle は使用できません。

ORA-07625: smsget: \$MGBLSC に失敗しました。

%SYSTEM-W-NOSUCHSEC、このような（グローバル）セクションはありません。

この例の場合、スタックの一番下のメッセージは VMS オペレーティング・システムから出力されたものです。システム内の各レベルで検出されるメッセージは、その原因をたどるときに役立ちます。たとえば、前述の場合、Oracle がまだ起動されていないためにシステム・グローバル領域（SGA）が存在せず、Oracle Server を使用できない可能性もあります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する場合、必ずメッセージのスタック全体を報告してください。

オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡

メッセージによっては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する場合、次の項目を確認してください。

- Oracle が実行しているハードウェア、オペレーティング・システムおよびオペレーティング・システムのリリース番号。
- Oracle Server の詳細なリリース番号（たとえば、8.0.5 や 7.1.3）。
- エラー発生時に実行していたすべての Oracle プログラム（バージョン番号も含む）。たとえば、SQL*Net V2.0 や SQL*Forms V3.0。
- メッセージ・コードまたはメッセージがいくつか表示されている場合、出力順の正確なコード番号とメッセージ本文。
- 問題の重要度：次の順位に従います。
 - 1 = プログラムを実行できない。操作に重大な影響がある。
 - 2 = プログラムが実行できる。操作は非常に制限される。
 - 3 = 限定された機能でプログラムを実行可能。操作全体ではそれほど重大ではない。
 - 4 = 問題はユーザーが回避できる。操作に対する影響はきわめて小さい。

さらに、次の情報を提供してください。

- ユーザーの氏名
- 会社名
- Oracle サポート ID 番号
- 電話番号

Oracle 例外メッセージ

Oracle の広範囲な自動検査機能は、内部エラーの検出に役立ちます。Oracle 内部例外として次のメッセージが一括して出力されます。

ORA-00600: 内部エラー・コード、引数: [num], [], [], [], [], []

このメッセージは実際には次のように表示されます。

ORA-00600 内部エラー・コード、引数: [1042], [3], [upilam], [], [], []

メッセージ文の後には、エラーの発生地点および属性を示す引数が最高 6 個まで表示されます。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。他の引数は、各種の数値、名前、文字列です。空のカッコは無視してかまいません。

ユーザーにメッセージが返されるのみでなく、このメッセージの原因に関する情報と一緒に内部エラーが警告ファイルに書き込まれます。警告ファイルには、内部エラーによって生成されたトレース・ファイルの保存位置も書き込まれます。トレース・ファイルと警告ファイルについては、次の項を参照してください。

この ORA-00600 メッセージが出力された場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

トレース・ファイル

Oracle インスタンスの起動時、ユーザー・プロセスまたはバックグラウンド・プロセスで予期しないイベントが発生した場合、必ずトレース・ファイルが作成されます。トレース・ファイル名には、インスタンス名、プロセス名、Oracle プロセス番号が含まれています。ファイル拡張子つまりファイル・タイプは、通常 TRC となります。それ以外の場合については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルに記述されています。このトレース・ファイルには、システム・グローバル領域、プロセス・グローバル領域、スーパーバイザ・スタック、レジスタのダンプが入っています。

2 つの初期化パラメータは、トレース・ファイルの位置を指定するために使用されます。

- **BACKGROUND_DUMP_DEST** 初期化パラメータは、Oracle バックグラウンド・プロセス PMON、DBWR、LGWR および SMON によって作成されたトレース・ファイルの位置を指定します。
- **USER_DUMP_DEST** 初期化パラメータは、SQL*Loader や Pro*C などのユーザー・プロセスによって作成されたトレース・ファイルの位置を指定します。

警告ファイルには、内部エラーが発生したときに生成されるトレース・ファイルの位置が書き込まれます。警告ファイルについては、1-6 ページの「[警告ファイル](#)」を参照してください。

参照： トレース・ファイルの詳細は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

警告ファイル

警告ファイルは、内部エラーやバックアップのような管理作業に関する情報を記録したログ・ファイルです。内部エラーが発生した場合、メッセージは端末の画面に表示されるのみでなく、警告ファイルにも書き込まれます。Oracle は内部エラーに関する他の情報、たとえば、エラーなどによって生成されたトレース・ファイルの名前および位置などを、警告ファイルに書き込みます。

警告ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります。警告ファイルの位置は、バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルの位置と同じです。この位置は、BACKGROUND_DUMP_DEST 初期化パラメータで指定されます。詳細は、ご使用のオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

オペレータのコンソールを使用している場合、Oracle からのメッセージがコンソールに表示されることがあります。重要なメッセージは、オペレータのコンソールのみでなく警告ファイルにも書き込まれます。Oracle 以外のメッセージもコンソールに表示される場合があるため、Oracle の管理作業やエラーをトレースするには、コンソール・ログより警告ファイルの方が適しています。

警告ファイルには、バックアップやオンライン REDO ログ・ファイルのアーカイブのような管理作業の情報も記録されます。

参照： 警告ファイルの詳細は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

第Ⅱ部

Oracle データベース・サーバー・メッセージ

第Ⅱ部には、次の章があります。

- 第2章「ORA-00000 ～ ORA-00899」
- 第3章「ORA-00900 ～ ORA-01499」
- 第4章「ORA-01500 ～ ORA-02099」
- 第5章「ORA-02100 ～ ORA-04099」
- 第6章「ORA-04100 ～ ORA-07499」
- 第7章「ORA-07500 ～ ORA-09857」
- 第8章「ORA-09858 ～ ORA-12299」
- 第9章「ORA-12300 ～ ORA-12399」
- 第10章「ORA-12400 ～ ORA-12699」
- 第11章「ORA-12700 ～ ORA-19399」
- 第12章「ORA-19400 ～ ORA-24279」
- 第13章「ORA-24280 ～ ORA-29249」
- 第14章「ORA-29250 ～ ORA-32767」

ORA-00000 ~ ORA-00899

ORA-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-00001 一意制約 (*string.string*) に反しています

原因：UPDATE または INSERT 文が重複するキーを挿入しようとした。

処置：重複しないように値を変更するか、索引の一意性の制約を取り消してください。

ORA-00017 セッションがトレース・イベントを設定するよう要求しました。

原因：別のセッションがカレント・セッションにトレース・イベントを設定することを要求しました。

処置：これは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00018 最大セッション数を超えました。

原因：すべてのセッション・ステート・オブジェクトが使用中です。

処置：SESSIONS 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00019 最大セッション・ライセンス数を超えました。

原因：すべてのライセンスが使用中です。

処置：LICENSE MAX SESSIONS 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00020 最大プロセス数 *string* を超えました。

原因：すべてのプロセス・ステート・オブジェクトが使用中です。

処置：PROCESSES 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00021 他のプロセスに接続されています:セッションは切替えできません

原因: ユーザー・セッションは現在他のユーザーによって使用されています。

処置: 他のプロセスに接続されているセッションには切り替えないでください。

ORA-00022 無効なセッション ID です: アクセスは拒否されました

原因: 指定されたセッションが存在しないか、またはコールを実行したユーザーがアクセス権限を持っていません。

処置: アクセス権限を持っている（所有しているか、CHANGE_USER 権限を持っている）有効なセッション ID を指定してください。

ORA-00023 セッションがプロセス・プライベート・メモリーを参照します:セッションを切断できません

原因: プロセス・プライベート・メモリーを参照するカレント・セッションを切断しようとした。

処置: オープン・ネットワーク接続をしているセッション、非常に大きいコンテキスト領域を持つセッション、オペレーティング・システム権限を持つセッションはプロセス・メモリー（PGA）を参照することがあります。切断するには、セッションのデータベース・リンクまたはカーソルをクローズする必要があります。オペレーティング・システム権限を持つセッションの切断は、常に無効となります。

ORA-00024 シングル・プロセス・モードで複数ログインは使用できません。

原因: シングル・プロセス・モードで起動している Oracle に対して、異なるプロセスから複数回ログインしようとした。

処置: 他のプロセスからログオフしてください。

ORA-00025 *string* の割当てに失敗しました

原因: メモリー不足のためにアプリケーションが失敗しました。

処置: SGA ヒープを大きくして Oracle を再起動してください。

ORA-00026 セッション ID が欠落しているか、または無効です。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID 文字列が無効か、または文字列が指定されていません。

処置: 有効なセッション ID を指定してコマンドを再実行してください。

ORA-00027 カレント・セッションを強制終了できません。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION を使用して、カレント・セッションを強制終了しようとした。

処置: カレント・セッションは強制終了できません。別のユーザー・セッションでコマンドを使用してください。

ORA-00028 セッションは強制終了されました。

原因: 権限のあるユーザーによってセッションが強制終了され、データベースにログインできなくなりました。

処置: データベース管理者に連絡してください。管理者がユーザーをログアウトさせる必要のある操作を実行しようとしている可能性があります。データベースが使用可能になったことをデータベース管理者から通告されてから、再度ログインして作業を再開してください。

ORA-00029 セッションはユーザー・セッションではありません

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID は、ユーザー・セッションではありません。たとえば、セッションが再帰的に起動されている可能性があります。

処置: 有効なセッション ID を指定してコマンドを再実行してください。

ORA-00030 ユーザー・セッション ID がありません。

原因: ユーザー・セッション ID が存在しません。セッションがログアウトした可能性があります。

処置: 有効なセッション ID を使用してください。

ORA-00031 セッションは強制終了されます。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッションは、中断できない操作（たとえば、トランザクションのロールバックまたはネットワーク操作によるブロック）にかかっているため、ただちに強制終了できません。セッションは、カレント操作の終了後、ただちに強制終了するようにマークされました。

処置: セッションを強制終了するために処置は必要ありませんが、このセッションで ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドをさらに実行すると、セッションがより早く強制終了されます。

ORA-00032 セッション移行パスワードが無効です。

原因: セッション作成コールに指定したセッション移行パスワードが無効です（長すぎます）。

処置: 有効な（29 文字以下の）パスワードを使用して再実行してください。

ORA-00033 カレント・セッションには移行パスワードが入力されていません。

原因: カレント・セッションを切断しようとしたか、または複製しようとしたが、移行パスワードが入力されていません。これは許可されていません。

処置: 移行パスワードを入力してセッションを作成してください。

ORA-00034 カレント PL/SQL セッションでは *string* はできません。

原因：ALTER SESSION DISABLE COMMIT IN PROCEDURE 文によって COMMIT または ROLLBACK を禁止されているセッションで、PL/SQL オブジェクト（プロシージャ、ファンクション、パッケージ）から COMMIT または ROLLBACK を発行しようとした。

処置：このセッションで PL/SQL から COMMIT および ROLLBACK を使用可能にするか、カレント・セッションでこれらが使用不可のときは、COMMIT または ROLLBACK を使用しないでください。

ORA-00035 LICENSE_MAX_USERS はカレント・ユーザー数より少なくできません。

原因：LICENSE_MAX_USERS の値にカレント・ユーザー数より少ない数字を指定しました。

処置：ライセンス制限を確認して、ユーザー数を減らすか、ライセンスを追加購入してください。

ORA-00036 再帰的 SQL レベルの最大値 (*string*) を超過しました

原因：指定した数を超えて再帰的 SQL を作成しようとした。

処置：再帰的 SQL を削除してください。再帰的トリガーがある場合は、それも削除してください。

ORA-00037 異なるサーバー・グループに属するセッションには切り換えられません。

原因：異なるサーバー・グループでセッションを切り換えようとした。これは許可されていません。

処置：サーバーが、同じサーバー・グループに属するセッションに切り換えるようにしてください。

ORA-00038 セッションを作成できません：サーバー・グループは別のユーザーに所属しています。

原因：別のユーザーが所有しているサーバー・グループで、移行不可なセッションを作成しようとした。

処置：サーバー・グループは、移行不可モードでサーバー・グループのサーバーにログインする最初のユーザーによって所有されます。サーバー・グループを所有するユーザーが、後続のすべての移行不可モードのログインを行う必要があります。移行不可モードで別のユーザーにログインさせるには、サーバー・グループの所有権の変更が必要です。所有権を変更するには、すべてのカレント・セッションをログオフし、サーバー・グループのすべての既存サーバーから切断した後、新しいユーザーでログインしてください。

ORA-00050 エンキューの取得中に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

原因：Oracle エンキューに必要な OS リソースを取得できませんでした。通常、これはオペレーティング・システム・ユーザーの割当て制限が低すぎるのが原因です。

処置：システムのマニュアルでオペレーティング・システムのエラーについて調べ、必要な処置を実行してください。

ORA-00051 リソースの待機中に、タイムアウトが発生しました。

原因：通常、このエラーは、異常終了したインスタンスに起因して発生します。

処置：リカバリしていないインスタンスを再起動してください。

ORA-00052 最大エンキュー・リソース数 *string* を超過しました

原因：エンキュー・リソースが不足しています。

処置：ENQUEUE_RESOURCES 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00053 最大エンキュー数を超過しました

原因：エンキュー・ステート・オブジェクトが設定数を超えました。

処置：ENQUEUES 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00054 リソース・ビジー、NOWAIT が指定されていました。

原因：使用できないリソースに対して LOCK TABLE コマンドまたは SELECT FOR UPDATE コマンドが発行されました。NOWAIT キーワードによって、コマンド・プロンプトの状態に戻されています。

処置：数分してからコマンドを再実行してください。または、NOWAIT キーワードを指定しないでコマンドを実行してください。

ORA-00055 最大 DML ロック数を超過しました

原因：DML ロック・ステート・オブジェクトが設定数を超えました。

処置：DML_LOCKS 初期化パラメータの値を増やして、Oracle を再起動してください。

ORA-00056 オブジェクト *string.string* に対しての DDL ロックがすでに非互換モードで設定されています

原因：示されたオブジェクトに対して別のユーザーがすでにロックを保持しているときに、DDL ロックを取得しようとしてしました。これは、解析ロックを持つ表を削除するときに発生します。

処置：表を削除する前に、その表が解析ロックを持たないことを確認してください。数分待ってから操作を再試行してください。

ORA-00057 一時的表ロック数の最大値を超過しました

原因：一時表の数が一時表ロック数と同値または超えています。一時表は、大規模なソート時に作成されることが多くあります。

ORA-00058 このデータベースをマウントするには、DB_BLOCK_SIZE は *string* である必要があります (*string* ではありません)

原因: データベースを起動するときに使用した DB_BLOCK_SIZE 初期化パラメータの値が、そのデータベースを作成したときに使用された値と一致しません。この不一致が発生した理由としては、次のことが考えられます。

- マウントするデータベースを誤った。
- 使用する初期化パラメータ・ファイルを誤った。
- DB_BLOCK_SIZE パラメータの値を変更した。

処置: この原因に対して次のいずれかの処置を実行してください。

- 正しいデータベースをマウントする。
- 正しい初期化パラメータ・ファイルを使用する。
- DB_BLOCK_SIZE パラメータの値を修正する。

ORA-00059 DB_FILES の最大数を超過しました

原因: DB_FILES 初期化パラメータの値を超えています。

処置: DB_FILES 初期化パラメータの値を増やして、Oracle を再起動してください。

ORA-00060 リソース待機の間デッドロックが検出されました。

原因: ユーザー・セッションと別のセッションが、互いにロックしたリソースを待機していました。このような状況をデッドロックと呼びます。デッドロックを解消するため、他のセッションが作業を継続できるように、発行済の 1 つ以上の文がロールバックされました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- ROLLBACK 文を発行してから、最後のコミット以降に実行したすべての操作を再実行する。
- ロックが解除されるまで少し（約数分）待ってから ROLLBACK 文を再実行する。

ORA-00061 別のインスタンスが異なった DML_LOCKS を設定をしています。

原因: 起動した共有インスタンスが DML_LOCKS を使用し、実行中のインスタンスが使用していないか、またはこれの逆になっています。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- すべてのインスタンスで DML_LOCKS に 0（ゼロ）を設定することによって、DML_LOCKS を使用しないようにする。
- すべてのインスタンスで DML_LOCKS に正の整数を設定することによって、DML_LOCKS を使用するようになる。

ORA-00062 DML 全表ロックが取得できません: DML_LOCKS が 0 に設定されています

原因: インスタンスが、DML_LOCKS の値を 0 (ゼロ) に設定されて起動されましたが、実行される文には全表ロック (S、X または SSX) が必要です。

処置: 0 (ゼロ) でない DML_LOCKS でインスタンスを再起動し、文を再実行してください。

ORA-00063 LOG_FILES の最大数を超過しました

原因: LOG_FILES 初期化パラメータの値を超えました。

処置: LOG_FILES 初期化パラメータの値を増やして、Oracle を再起動してください。このパラメータの値は、存在するログ・ファイルの最大数と同値にする必要があります。

ORA-00064 オブジェクトが大きすぎてこの O/S 上に割り当てられません (*string*,*string*)。

原因: 初期化パラメータが、このオペレーティング・システム上で割当て可能な領域より大きい連続領域の割当てを必要とする値に設定されました。

処置: 初期化パラメータの値を減らしてください。

ORA-00065 FIXED_DATE の初期化に失敗しました

原因: FIXED_DATE 文字列が yyyy-mm-dd:hh24:mi:ss の日付書式ではありません。

処置: 初期化パラメータが正しい日付書式で設定されていることを確認してください。

ORA-00066 LOG_FILES は *string* ですが、互換性を実現するために *string* である必要があります

原因: このインスタンスでサポートされているログ・ファイルの最大数が、他のインスタンスでの数と異なります。オープンできるすべてのファイルを、すべてのインスタンスがオープンできる必要があります。

処置: LOG_FILES 初期化パラメータの値を同じ値に変更してください。

ORA-00067 値 *string* (パラメータ *string* に対する) が無効です: 少なくとも *string* である必要があります

原因: 初期化パラメータの値が無効です。

処置: メッセージに示されている値を指定してください。

ORA-00068 値 *string* (パラメータ *string* に対する) が無効です。 *string* から *string* の間に設定する必要があります

原因: 初期化パラメータの値が無効です。

処置: メッセージに示されている値を指定してください。

ORA-00069 ロックを獲得できません -- *string* に対して表ロックが使用不可になっています

原因: メッセージに示されている表をロックしようとして、コマンドを発行しました。表をロックできるコマンドの例として、LOCK TABLE、ALTER TABLE... ADD (...) などがあります。

処置: ALTER TABLE... ENABLE TABLE LOCK コマンドを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-00070 コマンド *string* が無効です。

原因: 無効なデバッグ・コマンドが指定されました。

処置: HELP と入力して、使用可能なコマンドのリストを確認してください。

ORA-00071 プロセス番号は 1 から *string* の間である必要があります

原因: 無効なプロセス番号が指定されました。

処置: 有効なプロセス番号を指定してください。

ORA-00072 プロセス "*string*" がアクティブではありません。

原因: 無効なプロセスが指定されました。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00073 コマンド *string* は *string* から *string* の間の引数を取ります。

原因: 無効な引数番号が指定されました。

処置: 有効な引数番号を指定してください。HELP と入力して、コマンドとその構文のリストを確認してください。

ORA-00074 プロセスが指定されていません。

原因: デバッグ・プロセスが指定されていません。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00075 プロセス "*string*" がこのインスタンス内に見つかりません。

原因: 指定されたプロセスがカレント・インスタンスに記録されませんでした。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00076 ダンプ *string* が見つかりません。

原因: 存在しないダンプを呼び出そうとしました。

処置: DUMPLIST と入力して、使用可能なダンプのリストを確認してください。

ORA-00077 ダンプ *string* が無効です。

原因: 無効なダンプを呼び出そうとしました。

処置: 別のダンプを指定してください。

ORA-00078 名前で変数をダンプできません。

原因: 名前で変数をダンプしようとしたが、この機能はシステムでサポートされていません。

処置: PEEK コマンドを実行してください。

ORA-00079 変数 *string* が見つかりません。

原因: 存在しない変数をダンプしようとした。

処置: 有効な変数名を使用してください。

ORA-00080 無効なグローバル領域がレベル *string* で指定されました。

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

処置: PGA はレベル 1、SGA はレベル 2、UGA はレベル 3 を使用してください。
extra + level を使用して、各ポインタの *extra* バイトおよびグローバル領域 *level* をダンプしてください。この場合、*extra* は 4 の倍数です。

ORA-00081 アドレス範囲 [*string,string*] が読取り不能です。

原因: 無効なメモリー・アドレス範囲を読み取ろうとしたか、書き込もうとした。

処置: 別のアドレスまたは長さを指定してください。

ORA-00082 *string* のメモリー・サイズが有効な [1], [2], [4] *stringstringstringstringstring* のセットではありません。

原因: POKE コマンドに無効な長さが指定されました。

処置: 有効な長さ (1、2、4、8 のいずれか) を指定してください。

ORA-00083 警告: 破損した SGA がマップされた可能性があります

原因: SGA が破損した可能性があります、SGA はマップされました。

処置: DUMPSGA コマンドを使用して SGA をダンプしてください。

ORA-00084 グローバル領域は PGA、SGA または UGA である必要があります

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

処置: PGA、SGA または UGA のいずれかを指定してください。

ORA-00085 カレント・コールが存在しません。

原因: カレント・コール・ヒープをダンプしようとしたが、これは無効です。

処置: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00086 ユーザー・コールが存在しません。

原因: ユーザー・コール・ヒープをダンプしようとしたが、これは無効です。

処置: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00087 このコマンドはリモート・インスタンスでは実行できません。

原因: クラスタ・データベース・コマンドがクラスタ・データベース ORADEBUG でないコマンドで発行されました。

処置: クラスタ・データベース構文を使用しないでコマンドを発行してください。

ORA-00088 このコマンドは共有サーバーで実行できません

原因: デバッグ・コマンドが共有サーバーで発行されました。

処置: 専用サーバーを使用して、コマンドを再発行してください。

ORA-00089 ORADEBUG コマンドでのインスタンス番号が無効です。

原因: クラスタ・データベース ORADEBUG コマンドで無効なインスタンス番号が指定されました。

処置: 有効なインスタンス番号を指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-00090 クラスタ・データベース ORADEBUG コマンドのメモリーの割当てに失敗しました

原因: クラスタ・データベース ORADEBUG の実行に必要なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: シングル・インスタンス ORADEBUG で各インスタンスでコマンドを再発行してください。

ORA-00091 LARGE_POOL_SIZE は、少なくとも *string* である必要があります

原因: LARGE_POOL_SIZE の値が最小サイズより小さいです。

処置: LARGE_POOL_SIZE の値を増やして、最小サイズより大きくしてください。

ORA-00092 LARGE_POOL_SIZE は、LARGE_POOL_MIN_ALLOC よりも大きくする必要があります

原因: LARGE_POOL_SIZE の値が LARGE_POOL_MIN_ALLOC の値より小さいです。

処置: LARGE_POOL_SIZE の値を増やして、LARGE_POOL_MIN_ALLOC より大きくしてください。

ORA-00093 *string* は *string* から *string* の間である必要があります

原因: パラメータ値が有効な範囲内ではありません。

処置: パラメータ値を変更して、指定された範囲内にしてください。

ORA-00094 *string* は整数値である必要があります

原因: パラメータ値が整数ではありません。

処置: パラメータ値を変更して、整数にしてください。

ORA-00096 無効な値 *string* がパラメータ *string* に指定されています。値は *string* の中から設定する必要があります

原因：初期化パラメータの値が無効です。

処置：メッセージに示されている値を指定してください。

ORA-00097 Oracle SQL 機能は、SQL92*string* レベルでは使用できません。

原因：SQL92 標準に準拠していない Oracle SQL 機能を使用しようとしてしました。

処置：この機能を使用しないか、ALTER SESSION SET FLAGGER コマンドで適切な SQL92 準拠レベルを設定してください。

**ORA-00099 リソース待機中にタイムアウトしました。PDML デッドロックの可能性があり
ます。**

原因：トランザクションに必要なリソースがビジーです。PDML トランザクションは、指定の時間内にリソースを取得することができませんでした。この PDML トランザクションと現在システム内で稼働している他のトランザクションに関連して、デッドロックが発生している可能性があります。

処置：PARALLEL_TRANSACTION_RESOURCE_TIMEOUT パラメータの値を増やして、操作を再試行してください。

ORA-00100 データが見つかりません。

原因：アプリケーションが、不明またはアクセス不可能なデータを参照しました。

処置：このエラー条件をアプリケーション内で処理するか、アプリケーション・コードを適切に変更してください。

ORA-00101 システム・パラメータ DISPATCHERS の指定が無効です

原因：DISPATCHERS 初期化パラメータの構文が不適切です。

処置：初期化パラメータ・ファイルに正しい構文で DISPATCHERS 初期化パラメータを指定し、インスタンスを停止してから再起動してください。

ORA-00102 ディスパッチャはネットワーク・プロトコル *string* を使用できません。

原因：DISPATCHERS に指定されたネットワークには、ディスパッチャに必要な機能がありません。

処置：ディスパッチャがサポートしているネットワーク・プロトコルについては、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-00103 ネットワーク・プロトコルが無効です。ディスパッチャが使用します

原因：Oracle Net の CONNECT 文字列に指定されたネットワークは、ディスパッチャが使用します。

処置：接続文字列に別のネットワーク・プロトコルを指定してください。

ORA-00104 デッドロック検出: 共有サーバーはすべてブロックされ、リソース待機しています

原因: すべての使用可能な共有サーバーが、クライアントによってロックされたリソースを必要とする要求をサービスしています。クライアントは、共有サーバーのリソースを解放することはできません。

処置: システム・パラメータ `MAX_SHARED_SERVERS` の制限を増やしてください。システムは、サーバーの数が `MAX_SHARED_SERVERS` で指定された値に達するまで自動的に新しいサーバーを起動して、デッドロックを中断させます。

ORA-00105 ディスパッチャ機能はネットワーク・プロトコル *string* 用に構成されていません

原因: 初期化パラメータ・ファイルで指定されていないネットワーク・プロトコルに対して、ディスパッチャの構成を変更しようとしました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- `DISPATCHERS` 初期化パラメータの定義にこのネットワーク・プロトコルを指定してシステムを再起動する。
- 初期化パラメータ・ファイルに指定されているネットワーク・プロトコルで `ALTER SYSTEM SET DISPATCHERS` 文を使用する。

ORA-00106 データベースはディスパッチャ接続時には起動または停止できません。

原因: ディスパッチャを介して共有サーバーに接続している間に、インスタンスを起動または停止しようとしました。

処置: ディスパッチャを介さずに、`INTERNAL` ユーザーで再接続してください。多くの場合、ネットワーク接続文字列を指定しないで `INTERNAL` に接続すると、これを実行できます。

ORA-00107 Oracle リスナー・プロセスへの接続に失敗しました。

原因: 通常は、ネットワーク・リスナー・プロセスが起動されていないと発生します。

処置: 次の点を確認してください。

- ネットワーク構成ファイルは正しく設定されているか。
- クライアント側のアドレスは正しく指定されているか。
- リスナー初期化パラメータ・ファイルは正しく設定されているか。

ORA-00108 非同期接続に対するディスパッチャのセットアップに失敗しました

原因: 通常、非同期処理をサポートしていないディスパッチャがネットワーク・プロトコルを使用すると発生します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00111 サーバー数が *string* に制限されているため、起動しなかったサーバーがあります

原因: システム・パラメータ MAX_SHARED_SERVERS によって指定されているより多くのサーバーを起動しようとした。

処置: 必要に応じて、MAX_SHARED_SERVERS 初期化パラメータの値を増やすか、または適切なサーバーの数で ALTER SYSTEM SET SHARED_SERVERS 文を再発行してください。

ORA-00112 ディスパッチャは *string* (最大指定) まで起動できます

原因: システム・パラメータ MAX_DISPATCHERS によって指定されているより多くのディスパッチャを起動しようとした。

処置: 必要に応じて、MAX_DISPATCHERS 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-00113 プロトコル名 *string* が長すぎます。

原因: DISPATCHERS 初期化パラメータで指定されたプロトコル名が長すぎます。

処置: DISPATCHERS 値の有効なプロトコル名を使用してください。

ORA-00114 システム・パラメータ SERVICE_NAMES の値が欠落しています

原因: SERVICE_NAMES 初期化パラメータのみでなく、DB_NAME パラメータの値も存在しません。

処置: 初期化パラメータ・ファイルに、SERVICE_NAMES または DB_NAME の定義を追加してください。明示的に SERVICE_NAMES を指定しない場合、この値はデフォルトで DB_NAME の値に等しくなります。

ORA-00115 接続が拒否されました: ディスパッチャ接続表が満杯です

原因: ディスパッチャがこれ以上接続をサポートしないために、ディスパッチャによって接続要求が拒否されました。

処置: 別のディスパッチャに接続するか、または専用サーバーを使用してください。

ORA-00116 SERVICE_NAMES 名が長すぎます

原因: SERVICE_NAMES 初期化パラメータに指定されたサービス名が長すぎます。

処置: 短いサービス名を SERVICE_NAMES 値に使用してください (255 文字以下)。

ORA-00117 システム・パラメータ SERVICE_NAMES の値は範囲外です

原因: SHARED_SERVERS 初期化パラメータに指定された値が不適切です。

処置: SHARED_SERVERS は 0 (ゼロ) 以上で、MAX_SHARED_SERVERS の値以下である必要があります。

ORA-00118 システム・パラメータ DISPATCHERS の値は範囲外です

原因: DISPATCHERS パラメータの値が不適切です。

処置: すべての DISPATCHERS 値の合計は、0（ゼロ）以上で、MAX_DISPATCHERS の値以下である必要があります。

ORA-00119 システム・パラメータ *string* の指定が無効です。

原因: 指定したパラメータの構文が不適切です。

処置: 正しい構文については、『Oracle9i データベース・リファレンス』を参照してください。

ORA-00120 ディスパッチャ機能が使用可能になっていません。

原因: ディスパッチャ機能が使用可能になっていないか、またはディスパッチャ機能を使用して Oracle の実行イメージがインストールされていません。

処置: ディスパッチャ・プロセスの開始および設定の手順は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』およびオペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

ORA-00121 DISPATCHERS のない SHARED_SERVERS が指定されました

原因: 初期化パラメータ・ファイルには、SHARED_SERVERS の定義は指定されていますが、DISPATCHERS の定義は指定されていません。DISPATCHERS の値を指定しないと、共有サーバーを使用できません。

処置: 初期化パラメータ・ファイルに、DISPATCHERS の定義を追加してください（または、共有サーバーが使用されていない場合は、SHARED_SERVERS の定義を削除してください）。

ORA-00122 ネットワーク構成を初期化できません。

原因: Oracle は Oracle Net を初期化できませんでした。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

ORA-00123 アイドル状態の共有サーバーが終了しています。

原因: 共通の待ち行列で待機中の、アイドル状態のサーバーの数が多すぎます。

処置: このエラーは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00124 MAX_SHARED_SERVERS のない DISPATCHERS が指定されました

原因: 初期化パラメータ・ファイルに DISPATCHERS の定義が指定されていますが、MAX_SHARED_SERVERS には 0（ゼロ）が指定されています。

処置: MAX_SHARED_SERVERS に 1 以上の値を指定してください。

ORA-00125 接続は拒否されました : PRESENTATION が無効です

原因: TNS アドレス DESCRIPTION の CONNECT_DATA にある PRESENTATION が正しくないか、またはサポートされていません。

処置: TNS アドレスで指定された PRESENTATION を修正してください。

ORA-00126 接続は拒否されました : DUPLICITY が無効です

原因: TNS アドレス DESCRIPTION の CONNECT_DATA にある DUPLICITY が正しくないか、またはサポートされていません。

処置: TNS アドレスで指定された DUPLICITY を修正してください。

ORA-00127 ディスパッチャ *string* は存在しません。

原因: 現在、指定した名前のディスパッチャは実行されていません。

処置: 存在するディスパッチャ・プロセスを D### 形式の名前で指定して、再試行してください。

ORA-00128 このコマンドにはディスパッチャ名が必要です。

原因: ALTER SYSTEM SHUTDOWN の構文が誤っています。

処置: 正しい構文を使用してください。

```
ALTER SYSTEM SHUTDOWN [ IMMEDIATE ] 'dispatcher name'
```

ORA-00129 listener address validation failed '*string*'

原因: リスナー・アドレスを検査中にエラーが発生しました。

処置: エラーを解決するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00130 invalid listener address '*string*'

原因: リスナー・アドレスの指定が無効です。

処置: リスナー・アドレス（プロトコル、ポート、ホスト、キー、...）のすべてのフィールドが正しいかどうかを確認してください。

ORA-00131 network protocol does not support registration '*string*'

原因: 指定したプロトコルは、非同期通知をサポートしていません。

処置: サポートされているネットワーク・プロトコルの詳細は、マニュアルを参照してください。

ORA-00132 syntax error or unresolved network name '*string*'

原因: リスナー・アドレスに構文エラーがあるか、解決できません。

処置: ネットワーク名が指定されている場合、TNSNAMES.ORA のエントリ、またはご使用のシステム用に構成された他のアドレス・リポジトリに対応しているかを確認してください。エントリの構文が正しいことを確認してください。

ORA-00150 トランザクション ID が重複しています。

原因: 既存のトランザクションによってすでに使用されている ID で、新規のトランザクションを開始しようとした。

処置: アプリケーションを確認してください。

ORA-00151 トランザクション ID が無効です。

原因: 指定されたトランザクション ID が、存在する有効なトランザクションに対応していません。

処置: アプリケーションを確認してください。

ORA-00152 カレント・セッションが要求されたセッションと一致しません。

原因: カレント・セッションが、UPIXADO() コールに渡されたものと異なります。

処置: アプリケーションを確認してください。

ORA-00153 XA ライブラリで内部エラーが発生しました。

原因: XA ライブラリが、スレッド固有のポインタにアクセスできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00154 トランザクション・モニターでプロトコル・エラーが発生しました。

原因: トランザクション・モニターは AX_REG コールに対し TMJOIN を返しましたが、トランザクションはローカルに中断されました。

処置: トランザクション・モニター・ベンダーの技術サポートに連絡してください。

ORA-00155 グローバル・トランザクション以外では作業を実行できません。

原因: アプリケーションが、グローバル・トランザクション以外であるときに、Oracle Server リリース 7.3 または Oracle8 Server の作業を、ローカル・トランザクションが使用不可の状態で行おうとした。

処置: そのアプリケーションが Oracle Server リリース 7.3 に接続されているかを確認してください。リソース・マネージャが Oracle Server リリース 7.3 の場合、AX_REG コールに対してトランザクション・モニターから NULL XID を返してはいけません。アプリケーションが Oracle8 Server に接続している場合、xa_open 文字列に nolocal=f を設定するか、または作業の前にグローバル・トランザクションを起動してください。

ORA-00160 グローバル・トランザクションの長さ string が最大長 (string) を上回っています

原因: フィールド長が長すぎる外部グローバル・トランザクション ID が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00161 トランザクション・ブランチの長さ *string* が不正です (最大許容の長さ *string*)

原因: 長すぎるか、または長さが 0 の外部トランザクション・ブランチ ID が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00162 外部 DBID の長さ *string* が最大長 (*string*) を上回っています

原因: フィールド長が長すぎる外部データベース名が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00163 内部データベース名の長さ *string* が最大長 (*string*) を超過しています

原因: フィールド長が長すぎる内部データベース名が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00164 自律型トランザクションは分散トランザクション内では使用できません

原因: アプリケーションが分散トランザクション内にあるときに、自律型トランザクションを起動する要求が作成されました。

処置: 現在の分散トランザクションをロールバックするか、またはコミットしてください。

ORA-00200 制御ファイルを作成できませんでした。

原因: 制御ファイルを作成できませんでした。

処置: 十分なディスク領域があることおよびファイル名の重複がないことを確認して、制御ファイルを再作成してください。

ORA-00201 制御ファイルのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因: 制御ファイルが互換性のないソフトウェアによって作成されました。

処置: 互換性のあるソフトウェア・リリースで再起動するか、または CREATE CONTROLFILE を使用して、このリリースと互換性のある新規の制御ファイルを作成してください。

ORA-00202 制御ファイル: '*string*'

原因: 他のエラー・メッセージに関連するファイル名です。

処置: 問題の説明については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00203 無効な制御ファイルを使用しています。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用された制御ファイル内のマウント ID と同一ではありません。これらの制御ファイルは同一データベース用ですが、同一ファイルではありません。1 つのインスタンスがバックアップ制御ファイルを使用している可能性があります。

処置: 正しい制御ファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-00204 制御ファイル（ブロック *string*, 番号 *string*）で読み込みエラーが発生しました。

原因: ディスクの I/O 障害が、制御ファイルの読み込み中に検出されました。

処置: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていない場合はオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合はオペレーティング・システムの状況を調査して、Oracle がディスクまたは制御ファイルを読み込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルのリカバリについては、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00205 制御ファイル識別エラー。詳細はアラート・ログをチェックしてください。

原因: システムは指定された名前およびサイズの制御ファイルを見つけることができません。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- 正しい制御ファイル名が初期化パラメータ・ファイルの CONTROL_FILES 初期化パラメータで、正しく指定されていることを確認したうえで操作を再試行してください。
- ミラー化制御ファイルの（初期化パラメータ・ファイルで複数の制御ファイルを参照している）場合、エラー・メッセージに示された制御ファイル名を初期化パラメータ・ファイルから削除し、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00206 制御ファイルで（ブロック *string*, 番号 *string*）書き込みエラーが発生しました。

原因: ディスクの I/O 障害が、制御ファイルの書き込み中に検出されました。

処置: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていない場合はオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合はオペレーティング・システムの状況を調査して、Oracle がディスクまたは制御ファイルを書き込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルのリカバリについては、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00207 同一データベースに対する制御ファイルではありません。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用されたマウント ID と同一ではありません。一方のマウントで誤った制御ファイルを使用しているか、または 2 つのデータベースが同一の名前を持っている可能性があります。

処置: 制御ファイルを正しいデータベースに対して使用しており、旧バージョンのものでないことを確認してください。制御ファイルを多重化している（初期化パラメータ・ファイルで複数の制御ファイルを参照している）場合、エラー・メッセージに示された制御ファイルの名前を初期化パラメータ・ファイルから削除し、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00208 制御ファイル名の数制限数 *string* を超過しています

原因: Oracle サポートの制限を超える数の制御ファイルを使用しようとしてしました。

処置: Oracle を停止してください。初期化パラメータ・ファイル内の CONTROL_FILES パラメータの制御ファイルの数を減らしてから Oracle を再起動してください。使用していないファイルを削除してください。

ORA-00209 制御ファイルのブロック・サイズの不一致です。詳細はアラート・ログをチェックしてください。

原因: 制御ファイル・ヘッダーのブロック・サイズが、DB_BLOCK_SIZE パラメータで指定されたサイズと一致しません。

処置: エラー・メッセージに示されたサイズまでブロック・サイズを減らしてから、操作を再試行してください。

ORA-00210 指定された制御ファイルをオープンできません。

原因: 制御ファイルをオープンできません。

処置: 制御ファイルが存在し、それが別のプログラムによってロックされていないかを確認してください。

ORA-00211 制御ファイルが前の制御ファイルと一致していません。

原因: 制御ファイルが、別のデータベースに属するように指定されました。

処置: 正しい制御ファイルを見つけてインストールしてください。

ORA-00212 ブロック・サイズ *string* が必要最小サイズ *string* バイト未満です。

原因: 指定されたブロック・サイズが小さすぎます。システム・オーバーヘッドの領域が必要です。

処置: より大きいブロック・サイズを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00213 制御ファイルを再利用できません: 旧ファイル・サイズは *string* です。 *string* が必要です。

原因: 制御ファイルを再利用するには、前に利用したものと同じファイル・サイズである必要があります。

処置: REUSE を指定しないか、CREATE DATABASE 文または CREATE CONTROLFILE 文にある MAXDATAFILES 句、MAXLOGFILES 句、MAXLOGMEMBERS 句、MAXLOGHISTORY 句および MAXINSTANCES 句の一致した組合せを指定してください。

ORA-00214 制御ファイル '*string*' のバージョン *string* はファイル '*string*' のバージョン *string* と適合しません

原因: 使用した制御ファイル、データ・ファイルおよび REDO ログ・ファイルのバージョンが一致しません。

処置: 一貫した制御ファイル、データ・ファイルおよび REDO ログ・ファイルの組合せを使用してください。すべてのファイルが同じデータベースに対するもので、同時期のものである必要があります。

ORA-00215 少なくとも 1 つの制御ファイルが必要です。

原因: 制御ファイルが指定されていません、または、指定した制御ファイルが存在しません。

処置: 有効な制御ファイルを 1 つ以上指定して、操作を再試行してください。

ORA-00216 8.0.2 の制御ファイルは、移行用にサイズ変更できません。

原因: リリース 8.0.2 で作成された制御ファイル内のレコードが欠けています。これ以降のリリースを実行しようとするとき、制御ファイルのサイズを変更することによって欠けているレコードが自動的に追加されますが、このサイズ変更に失敗しました。

処置: サイズ変更失敗の原因を、アラート・ログで調べてください。制御ファイルに領域を追加して解決される場合は、追加してください。解決しなければ、トレース・ファイルにダンプされた CREATE CONTROLFILE スクリプトを使用して新しい制御ファイルを作成してください。

ORA-00218 制御ファイルのブロック・サイズ *string* が DB_BLOCK_SIZE (*string*) と一致しません。

原因: 制御ファイル・ヘッダーに格納されたブロック・サイズが、初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE の値と異なります。これは、DB_BLOCK_SIZE が誤って設定されたか、制御ファイルが破損してしまったか、または別のデータベースに属している可能性があります。

処置: 破損していない制御ファイルのコピーをリストアしてください。

ORA-00219 必要な制御ファイル・サイズ *string* が、最大許容サイズ *string* を超過しています

原因: CREATE DATABASE、CREATE CONTROLFILE、cfileCalcSizeList または cfileCalcSizeArray が、最大許容値を超える制御ファイル・サイズ（ブロック単位）を必要とするパラメータの組合せを指定して実行されました。

処置: CREATE DATABASE または CREATE CONTROLFILE の場合、MAXDATAFILES 句、MAXLOGFILES 句、MAXLOGMEMBERS 句、MAXLOGHISTORY 句および MAXINSTANCES 句の別の組合せを使用してください。cfileCalcSizeList() または cfileCalcSizeArray() の場合、レコード単位でカウントされる別の組合せを使用してください。

ORA-00220 制御ファイルが最初のインスタンスでマウントされていません。詳細はアラート・ログをチェックしてください

原因: 指定された制御ファイルは、マウントされている他の制御ファイルとは異なるマウント ID を持っています。これは、データベースをマウントした最初のインスタンスがこの制御ファイルを使用しないことを意味します。

処置: 正しい制御ファイルを見つけてインストールしてください。

ORA-00221 制御ファイルへの書込みでエラーが発生しました。

原因: 1 つ以上の制御ファイルへの書込み中にエラーが発生しました。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

ORA-00222 現在マウントされている制御ファイルの名前を再利用します

原因: ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドまたは cfileSetSnapshotName へのパラメータとして指定されたファイル名が、現在マウントされている制御ファイルの名前と一致しません。

処置: 別のファイル名で操作を再試行してください。

ORA-00223 変換ファイルが無効またはバージョンが正しくありません。

原因: Oracle7 から Oracle8 への変換ファイルが、無効なデータを含んでいるか、または別のバージョンの移行ユーティリティによって作成されました。このエラーは、ALTER DATABASE CONVERT コマンドの発行時に、誤った ORACLE_HOME 環境変数を指定した場合にも発生します。

処置: 正しいバージョンの変換ファイルを使用するか、または移行ユーティリティで変換ファイルを再生成してください。移行ユーティリティが実行可能な Oracle8 RDBMS と同じバージョンであることと、環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定されていることを確認してください。

ORA-00224 無効なレコード型 (*string*) で制御ファイルのサイズを変更しようとした

原因: RECORD_TYPE パラメータに無効な値を使用して cfileResizeSection をコールすることによって、制御ファイルを拡張または縮小しようとした。

処置: 0 (ゼロ) 型以外の有効なレコード型 (有効範囲は 1 ~ 16) を指定する RECORD_TYPE パラメータの値を使用してください。

ORA-00225 制御ファイルに必要なサイズ *string* が実際のサイズ *string* と異なっています。

原因: 制御ファイルのヘッダーに指定されている制御ファイルに必要なサイズと実際のオペレーティング・システム・ファイルのサイズが異なっています。通常、これは制御ファイルが破損していることを示しています。

処置: 破損していない制御ファイルのコピーをリストアしてください。

ORA-00226 代替制御ファイル・オープン中は操作できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。このプロセスでは、固定表アクセス用に代替制御ファイルがオープンされています。

処置: cfileUseCurrent をコールした後、操作を再試行してください。

ORA-00227 制御ファイル (ブロック *string*, 番号 *string*) で破損ブロックが検出されました。

原因: 制御ファイルの読取り中に、ブロック・ヘッダーの破損またはチェックサム・エラーが検出されました。

処置: CREATE CONTROLFILE または RECOVER DATABASE USING BACKUP CONTROLFILE コマンドを使用してください。

ORA-00228 代替制御ファイル名の長さが最大値 *string* を超えています。

原因: cfileSetSnapshotName または cfileUseCopy のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-00229 処理不可:すでにスナップショット制御ファイル・エンキューを保持しています。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。このプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキューを保持しています。

処置: cfileUseCurrent をコールしてスナップショット制御ファイル・エンキューを解放した後、操作を再試行してください。

ORA-00230 処理不可:スナップショット制御ファイル・エンキューが使用できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。別のプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキューを保持しています。

処置: スナップショット制御ファイル・エンキューを保持している並行操作が終了してから、操作を再試行してください。

ORA-00231 スナップショット制御ファイルの名前が指定されていません。

原因： cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseSnapshot の呼出し中に、前回指定されていたスナップショット制御ファイルのファイル名が指定されていないことがわかりました。

処置： cfileSetSnapshotName をコールし、スナップショット制御ファイル名を指定してください。

ORA-00232 スナップショット制御ファイルが存在しないか、破損かまたは読み込み不可です

原因： cfileUseSnapshot の呼出し中に、スナップショット制御ファイルが存在しないか、破損または読み込み不可であることがわかりました。

処置： cfileMakeAndUseSnapshot を再コールまたは初回コールしてください。

ORA-00233 コピー制御ファイルが破損または読み込み不可です

原因： cfileUseCopy の呼出し中に、指定のコピー制御ファイルが破損または読み込み不可であることがわかりました。

処置： ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドを実行し、cfileUseCopy と同じファイル名を指定してから、cfileUseCopy を再試行してください。

ORA-00234 スナップショットまたはコピー制御ファイルの識別またはオープンでエラーが発生しました

原因： cfileUseSnapshot、cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseCopy の呼出しで、指定の名前のスナップショットまたはコピー制御ファイルが検出されないか、オープンできません。

処置： cfileMakeAndUseSnapshot または ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE を使用して、スナップショットまたはコピー制御ファイルをそれぞれ再作成してください。

ORA-00235 同時更新されたため制御ファイル固定テーブルが矛盾しています。

原因： 制御ファイルの更新アクティビティが同時に実行されたので、制御ファイル固定テーブルの問合せで、矛盾した情報が読み込まれました。

処置： 操作を再試行してください。

ORA-00236 スナップショット処理不可：マウントされた制御ファイルはバックアップです。

原因： マウントされたカレント制御ファイルがバックアップ制御ファイルであるときに、cfileSetSnapshotName、cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseSnapshot を呼び出そうとしました。

処置： カレント制御ファイルをマウントして、操作を再試行してください。

ORA-00237 スナップショット処理不可：制御ファイルが新規に作成されました。

原因： CREATE CONTROLFILE で新規に作成された制御ファイルをマウントしているときに、cfileMakeAndUseSnapshot を呼び出そうとしました。

処置： カレント制御ファイルをマウントして、操作を再試行してください。

ORA-00238 データベースの一部であるファイル名が再利用されます

原因: ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドまたは cfileSetSnapshotName のパラメータとして渡されたファイル名が、現行のデータベースの一部であるファイル名と一致します。

処置: 別のファイル名で操作を再試行してください。

ORA-00250 アーカイバが起動していません。

原因: 自動アーカイブを停止しようとしたますが、アーカイバ・プロセスは実行されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-00251 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST は文字列 *string* と同じ宛先にできません。

原因: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータで指定された宛先が、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先と同じです。

処置: パラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST に別の宛先を指定するか、ALTER SYSTEM コマンドで別の宛先を指定してください。

ORA-00252 ログ *string* (スレッド *string*) は空です。アーカイブできません

原因: アーカイブする前に、ログを REDO 生成に使用する必要があります。指定されたログは、データベースに認識された時点から使用されていません。ただし、ログ・スイッチにおいてインスタンスが消滅した可能性があり、ログは空です。

処置: 空のログをアーカイブする必要はありません。REDO ログ・ファイルをアーカイブしないでください。

ORA-00253 文字制限 *string* が、アーカイブ先文字列 *string* の分だけ超過しています。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先が長すぎます。

処置: エラー・メッセージに指定されている制限より短い文字列を使用して、ALTER SYSTEM コマンドを再試行してください。

ORA-00254 アーカイブ制御文字列 '*string*' でエラーが発生しました

原因: 指定されたアーカイブ・ログ位置は、アーカイブ・コマンドにおいても LOG_ARCHIVE_DEST 初期化パラメータにおいても有効ではありません。

処置: 使用されたアーカイブ文字列を確認し、有効なオンライン・デバイスを参照していることを確認してください。

ORA-00255 ログ *string* (スレッド *string*、順序番号 *string*) のアーカイブでエラーが発生しました

原因: アーカイブ中にエラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージ・スタックを調べて、さらに詳しい情報を得てください。オンライン・ログが破損している場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログを消去してください。ログ作成後までのバックアップによるリカバリは使用不可になりますが、データベースで REDO が生成できます。

ORA-00256 アーカイブ先文字列 *string* を変換できません。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先が変換できません。

処置: 付随するエラー・メッセージ・スタックを調べて、さらに詳しい情報を得てください。別の文字列を使用して、ALTER SYSTEM コマンドを再試行してください。

ORA-00257 アーカイブ・エラーです。解除されるまで内部接続のみにしてください。

原因: ARCH プロセスが REDO ログをアーカイブしようとして、エラーを受け取りました。問題がすぐに解決されない場合、データベースはトランザクションの実行を停止します。アーカイブ先のデバイスで、REDO ログ・ファイルを格納する領域が不足している可能性があります。

処置: アーカイバ・トレース・ファイルを確認して、問題の詳細な説明を調べてください。また、初期化パラメータ ARCHIVE_LOG_DEST に指定されたデバイスが、アーカイブに対して適切に設定されていることを検証してください。

ORA-00258 NOARCHIVELOG モードの手動アーカイブではログ指定が必要です。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードです。手動でログをアーカイブするコマンドで、順序番号、グループ番号またはファイル名によって、ログを明示的に指定しませんでした。

処置: ファイル名、グループ番号またはスレッドおよび順序番号でログを指定してください。

ORA-00259 ログ *string* (オープン・スレッド *string*) は現在のログです。アーカイブできません

原因: オープン・スレッドの現在のログをアーカイブしようとしていました。ログ・ファイルは REDO エントリを生成するために使用されるので、この操作は実行できません。

処置: スレッドがオープンしているインスタンスで、ログ・スイッチを強制実行してください。インスタンスがオープンされていない場合、データベースをオープンする必要があります。その後、インスタンス・リカバリはスレッドをリカバリできます。

ORA-00260 オンライン・ログ順序 *string* (スレッド *string*) が見つかりません

原因: ARCHIVE 文にあるログ順序番号に一致するオンライン・ログがスレッドにありません。このことは、次の状況で発生する可能性があります。

- このログが他の順序番号で再使用された。
- このログは消去された。
- 順序番号が現時点のログ順序番号より大きい。
- いずれのログもスレッドに存在しない。

処置: ARCHIVE 文を調べて、有効なログ順序番号を指定してください。

ORA-00261 ログ *string* (スレッド *string*) は現在アーカイブ中または修正中です。

原因: 他のプロセスによってログは現在アーカイブされているか、または管理コマンドがログを修正中です。ログを修正する操作には、消去、メンバーの追加、メンバーの削除、メンバーの名前の変更およびログの削除があります。

処置: 現在の操作の終了を待って、再試行してください。

ORA-00262 カレント・ログ *string* (クローズしているスレッド *string*) は切替えできません。

原因: ログはクローズされたスレッドのカレント・ログなので、消去したり手動でアーカイブすることはできません。別のログをカレント・ログにするためにログを切り替えることはできません。このスレッドに対する他のすべてのログをアーカイブし消去する必要があります、再使用できません。

処置: 同じスレッドの中の別のログを最初にアーカイブするか、または他のすべてのログを消去してください。切替えができない原因については、付随するエラーを調べてください。

ORA-00263 スレッド *string* でアーカイブを必要とするログがありません。

原因: このスレッドにあるアーカイブされていないログを手動でアーカイブしようとしたますが、アーカイブが必要なログがありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-00264 リカバリは必要ありません。

原因: どのような種類のリカバリも必要ないファイルに対して、メディア・リカバリを行おうとしました。

処置: 選択したファイルに対してメディア・リカバリを行わないでください。ファイル名が適切に指定されていることを調べてください。そうでない場合は、適切なファイル名を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00265 インスタンス・リカバリが必要です、ARCHIVELOG モードに設定できません。

原因：データベースがクラッシュしたか、または ABORT オプションによって停止されました。カレント・データ・ファイルをリカバリするにはオンライン・ログが不十分な可能性があるため、メディア・リカバリを使用できません。

処置：データベースをオープンしてから、NORMAL または IMMEDIATE を指定して SHUTDOWN コマンドを入力してください。

ORA-00266 アーカイブ済ログ・ファイルの名前が必要です。

原因：メディア・リカバリ中にアーカイブ済 REDO ログ・ファイルの名前を入力するように要求されましたが、入力しませんでした。

処置：正しいログ・ファイルをマウントして、要求された時点でその名前を入力してください。

ORA-00267 アーカイブ済ログ・ファイルの名前は必要ありません。

原因：メディア・リカバリ中にアーカイブ済 REDO ログ・ファイルの名前を入力しましたが、名前は要求されませんでした。

処置：新しいログ・ファイルの名前を入力しないでメディア・リカバリを継続してください。

ORA-00268 指定したログ・ファイルは存在しません 'string'

原因：指定した REDO ログ・ファイルは存在しません。

処置：ファイル名の綴りと大文字 / 小文字の区別を確認してからコマンドを再試行してください。

ORA-00269 指定したログ・ファイルはスレッド *string* の一部で、*string* ではありません。

原因：指定した REDO ログ・ファイルは、指定されたスレッドの一部ではありません。

処置：適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用していない場合、REDO ログ・ファイルのスレッドがコマンドライン上のスレッドと一致していることを確認してください。一致していない場合は、適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用してください。エラーを修正してから、コマンドを再試行してください。

ORA-00270 アーカイブ・ログ *string* の作成中にエラーが発生しました。

原因：アーカイブ先のファイルを作成またはオープンしているときにエラーが発生しました。

処置：アーカイブ先が有効であり、アーカイブ先のデバイス上に十分な領域があることを確認してください。

ORA-00271 アーカイブの必要なログは存在しません。

原因：アーカイブされていない REDO ログ・ファイルを手動でアーカイブしようとしたが、アーカイブの必要なファイルは存在しません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-00272 アーカイブ・ログ *string* の書込みでエラーが発生しました。

原因: REDO ログ・ファイルのアーカイブ中に I/O エラーが発生しました。

処置: 出力デバイスが使用可能な状態にあることを確認し、発生したデバイス・エラーを修正してください。また、アーカイブのための十分な領域が出力デバイス上で使用可能であることを確認してください。

ORA-00273 ダイレクト・ロード・データのメディアのリカバリは記録されていません。

原因: メディア・リカバリ・セッションで、ダイレクト・ローダーによってロードされ、REDO 情報を記録していない表が見つかりました。この表の中のブロックのいくつかまたはすべてが、破損としてマークされました。

処置: 表を削除するか切り捨てて、破損しているブロックを再使用できるようにしてください。ファイルの最新のバックアップが使用できる場合、このファイルをリカバリしてエラーを解決してください。

ORA-00274 リカバリ・オプション *string* が無効です。

原因: 無効なオプションがリカバリ・コマンドに対して指定されました。

処置: 構文を修正して、コマンドを再試行してください。

ORA-00275 メディアのリカバリがすでに開始されています。

原因: 同一のセッションで 2 回目のメディア・リカバリを開始しようとしてしました。

処置: 最初のメディア・リカバリ・セッションを完了するか、または取り消してください。または、メディア・リカバリを実行するために別のセッションを開始してください。

ORA-00276 CHANGE キーワードに変更数が指定されていません。

原因: コマンドラインに CHANGE キーワードが指定されましたが、変更数が指定されていません。

処置: CHANGE キーワードの後に有効な変更数を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-00277 UNTIL リカバリ・フラグ *string* に対するオプションが無効です。

原因: UNTIL キーワードを使用できるのは、CANCEL、CHANGE および TIME のみです。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00278 ログ・ファイル '*string*' はこのリカバリでは必要なくなりました

原因: 指定された REDO ログ・ファイルは、このリカバリでは必要なくなりました。

処置: 処置は必要ありません。アーカイブされた REDO ログ・ファイルを必要に応じてカレント位置から削除すると、ディスク領域を節約できます。ただし、将来、別のリカバリ・セッションにこの REDO ログ・ファイルが必要になることもあります。

ORA-00279 変更 *string* (*string* で生成) にはスレッド *string* が必要です

原因: リカバリを続行するには、要求されたログが必要です。

処置: 要求されたログに ALTER DATABASE RECOVER LOGFILE *filename* を指定するか、ALTER DATABASE RECOVER CANCEL でリカバリを取り消してください。

ORA-00280 変更 *string* (スレッド *string*) は順序番号 *string* に存在します。

原因: このメッセージは、他のエラー・メッセージで要求される REDO ログ・ファイルを指定された変更番号で配置するために役立ちます。

処置: このメッセージで示された情報を使用して、他のエラーのために必要なアーカイブ REDO ログ・ファイルを指定してください。

ORA-00281 メディア・リカバリにディスクパッチャは使用できません。

原因: ディスクパッチャ・プロセスを使用してメディア・リカバリを実行しようとした。メモリー要件によって、メディア・リカバリを実行するときにディスクパッチャ・プロセス接続は使用できません。

処置: 専用サーバー・プロセスを介してインスタンスを接続し、メディア・リカバリを実行してください。

ORA-00282 UPI *string* コールはサポートされません。ALTER DATABASE RECOVER を使用してください。

原因: 指定された UPI コールは、現在サポートされていません。

処置: すべてのリカバリ処理には、ALTER DATABASE RECOVER コマンドを使用してください。

ORA-00283 エラーによってリカバリ・セッションは取り消されました。

原因: リカバリ中に発生したエラーは、カレント・リカバリ・セッションを終了させる致命的なエラーと判断されました。

処置: このメッセージに付随して、詳細なメッセージが表示されます。適切な処置については、他のメッセージを調べてください。

ORA-00284 リカバリ・セッションは継続します。

原因: リカバリ中に発生したエラーは、カレント・リカバリ・セッションを継続できる致命的ではないエラーと判断されました。

処置: このメッセージに付随して、詳細なメッセージが表示されます。適切な処置については、他のメッセージを調べてください。

ORA-00285 TIME は文字列制約として指定されていません。

原因: 時間の文字列制約として、UNTIL TIME が指定されていません。

処置: 一重引用符 (') で囲んで時間を入力してください。

ORA-00286 メンバーが使用不可か、または有効なデータを持つメンバーが存在しません

原因: 使用可能な REDO ログ・ファイル・グループのメンバーが存在しないか、または使用可能なメンバーに完全なデータが含まれていません。

処置: メンバーが一時的にオフラインになっている場合は、使用できるようにしてください。特に REDO ログ・ファイルをリモート・アクセスしている場合は、正しいファイル名を使用していることを確認してください。

ORA-00287 指定された変更番号 *string* はスレッド *string* にはありません。

原因: 指定された変更番号は、指定されたスレッドに対するオンライン REDO ログに存在しません。

処置: 文を調べて、有効な変更番号を指定してください。アーカイブ・ログに対しては、NEXT オプションを使用してください。

ORA-00288 リカバリを継続するには ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力してください。

原因: メディア・リカバリにおいて、新しいログは必要ではありませんが、チェックポイントを行ってエラーをレポートするには、CONTINUE コマンドが必要です。

処置: ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力して、リカバリを再開してください。

ORA-00289 検討すべきログ・ファイル:*string*

原因: 初期化パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST および LOG_ARCHIVE_FORMAT によって、必要とされる次の REDO ログ・ファイル名をこのメッセージは示しています。このメッセージでは、必要とされる REDO ログ・ファイルがアーカイブされた時点で、LOG_ARCHIVE_DEST と LOG_ARCHIVE_FORMAT が同一であると想定しています。

処置: リカバリに必要とされる次のログ・ファイルには、このファイル名を使用するようにしてください。

ORA-00290 オペレーティング・システムのアーカイブ・エラーが発生しました。次のエラーを参照してください

原因: REDO ログ・ファイルにアーカイブしようとしているときに、サーバーで予期しないオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: メッセージに示されているオペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00291 PARALLEL オプションには数値が必要です。

原因: リカバリ・コマンドが誤って指定されました。PARALLEL オプションには、並列度を指定する数値引数を続ける必要があります。

処置: 望ましい並列度を指定する数値引数を使用して、コマンドを再入力してください。

ORA-00292 パラレル・リカバリ機能がインストールされていません。

原因: パラレル・リカバリが要求されましたが、パラレル・リカバリ・オプションがインストールされていません。

処置: RECOVER コマンドから PARALLEL 句を削除してください。また、初期化ファイルの RECOVERY_PARALLELISM パラメータも削除してください。

ORA-00293 制御ファイルが REDO ログと同期していません。

原因: インスタンスの起動時にカレントではない制御ファイルが指定されたので、REDO ログ・ファイルと制御ファイルが同期しません。

処置: カレント制御ファイルを使用して RECOVER コマンドを再試行するか、または USING BACKUP CONTROL FILE 句を付けて RECOVER コマンドを再試行してください。

ORA-00294 アーカイブ・ログ・フォーマットの指定子 'string' が無効です。

原因: LOG_ARCHIVE_FORMAT 初期化パラメータに、無効なフォーマット指定子が検出されました。string に指定できる文字は、s、S、t および T のみです。

処置: 初期化パラメータ・ファイルを修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-00295 データ・ファイル番号 string が無効です。1 から string の間で指定する必要があります

原因: 無効なファイル番号が指定されました。

処置: 正しいデータ・ファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-00296 RECOVER DATAFILE LIST で指定できる最大ファイル数 (string) を超過しています。

原因: RECOVER DATAFILE LIST コマンドが、DB_FILES 初期化パラメータで許可されるファイルより多くのデータ・ファイルを指定しました。Recovery Manager でリカバリを実行し、DB_FILES 初期化パラメータでインスタンスが開始されているとき、このエラーは発生します。ここで DB_FILES 初期化パラメータに、ユーザーの RECOVER コマンドを実行するために Recovery Manager がリカバリする必要があるデータ・ファイルより少ないデータ・ファイルを指定しています。

処置: DB_FILES の値を大きくして、インスタンスを再起動してください。

ORA-00297 RECOVER DATAFILE START の前に RECOVER DATAFILE LIST の指定が必要です。

原因: RECOVER DATAFILE START コマンドが発行されましたが、RECOVER DATAFILE LIST コマンドが発行されませんでした。Recovery Manager は常に RECOVER DATAFILE START の前に RECOVER DATAFILE LIST を発行するため、Recovery Manager でリカバリを実行するときのみ、このエラーが発生します。これは、Recovery Manager の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00298 TIMEOUT 間隔が欠落しているか、または無効です。

原因: TIMEOUT キーワードの後に、0（ゼロ）でない整数の TIMEOUT 間隔（分単位）を指定する必要があります。

処置: 構文を修正して、コマンドを再試行してください。

ORA-00299 データ・ファイル *string* にファイルレベルのメディア・リカバリを使用する必要があります。

原因: 制御ファイルには、このファイルのエントリが含まれていないため、ブロック・メディア・リカバリは実行できません。

処置: データ・ファイルをリストアし、ファイルレベルのメディア・リカバリを実行してください。

ORA-00300 REDO ログ・ブロック・サイズ *string* の指定が無効です - 制限値 *string* を超過しています

原因: オペレーティング・システムの最大ブロック・サイズより大きいブロック・サイズの REDO ログを指定しました。

処置: REDO ログのブロック・サイズを小さくして、操作を再試行してください。

ORA-00301 ログ・ファイル'*string*' の追加でのエラー - ファイルを作成することができません

原因: ログ・ファイルの作成に失敗しました。

処置: 次のことを確認してください。

1. デバイスに十分な記憶領域がある。
2. 有効なファイル名である。
3. デバイスがオンラインである。
4. I/O エラーが発生している。

また、コマンドラインで REUSE が指定されているか、または誤ったサイズのファイルが存在している可能性があります。REUSE を指定しないか、または正しいサイズのファイルを使用してください。

ORA-00302 ログの制限数 *string* を超えました。

原因: REDO ログ・ファイルの最大数を超えました。ログ・ファイルの数については、データベース作成時に設定した制限があります（一般的には 16）。

処置: MAXLOGFILES の値を大きくして CREATE CONTROLFILE コマンドを実行してください。

ORA-00303 Multi-Strand Redo を処理できません

原因：Multi-Strand Redo を含む REDO ログが削除されました。現行のリリースの Oracle では、このフォーマットの REDO ログを処理できません。

処置：このログを処理するには、Multi-Strand Redo をサポートしている新しいリリースを使用してください。

ORA-00304 要求した INSTANCE_NUMBER は使用中です。

原因：すでに使用中の初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER の値を使用してインスタンスを起動しようとしてしました。

処置：次のいずれかの処置を行ってください。

- 別の INSTANCE_NUMBER を指定する。
- この番号で実行中のインスタンスを停止する。
- この番号で実行中のインスタンスで、インスタンス・リカバリが終了するまで待機する。

ORA-00305 ログ *string* (スレッド *string*) が矛盾しています。別のデータベースに属しています。

原因：REDO ログ・ファイル中のデータベース ID が、制御ファイル内のデータベース ID と一致しません。この REDO ログ・ファイルは、カレント・データベースのものではありません。

処置：正しい REDO ログ・ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00306 インスタンス数が制限数 *string* を超えました。

原因：このインスタンス数を起動すると、このデータベースに許可されたインスタンスの最大数を超過してしまいます。このメッセージは、STARTUP 共有および複数インスタンスのみで表示されます。

処置：起動するインスタンス数は、次に示す数のいずれか小さい方の値までにしてください。

- オペレーティング・システム固有の最大数
- CREATE DATABASE 文に指定される MAXINSTANCES オプションによって指定されたインスタンス数

ORA-00307 要求した INSTANCE_NUMBER が有効範囲外です (最大値 *string*)

原因：初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER に有効範囲外の数値が指定されました。

処置：INSTANCE_NUMBER の値を有効範囲内に変更してからインスタンスを再起動してください。最小値は 1 です。最大値は、オペレーティング・システム固有の最大値または CREATE DATABASE 文に指定された MAXINSTANCES オプションの値の小さい方になります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00308 アーカイブ・ログ *string* をオープンできません。

原因: アーカイブ REDO ログ・ファイルにシステムがアクセスできません。

処置: オフライン・ログが存在すること、記憶デバイスがオンラインになっていることおよびアーカイブ・ファイルの位置を確認してください。その後、リカバリを続行するか、リカバリ・セッションを再起動してください。

ORA-00309 ログが無効なデータベースに属しています。

原因: ログが別のデータベースに属しているため、システムがアーカイブ REDO ログにアクセスできません。

処置: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00310 アーカイブ・ログは順序番号 *string* を含んでいますが、順序番号 *string* が必要です。

原因: アーカイブ・ログの順序番号に誤りがあります。アーカイブ・ログが破損したか、リカバリ中に異なる REDO ログ・ファイル名が指定された可能性があります。

処置: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00311 アーカイブ済ログのヘッダーを読み込むことができません。

原因: アーカイブ済 REDO ログ・ファイルのログ・ファイル・ヘッダーを読み取ろうとしたときに、I/O エラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随して、別のメッセージが表示されます。適切な処置については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00312 オンライン・ログ *string* スレッド *string*: '*string*'

原因: このメッセージは、ファイル名をレポートします。詳細は、別のメッセージを参照してください。

処置: このメッセージに付随して、別のメッセージが表示されます。適切な処置については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00313 ログ・グループ *string* (スレッド *string*) のメンバーをオープンできません。

原因: オンライン・ログをオープンできません。ファイルが存在すべき位置にない可能性があります。

処置: 必要な場合は、正しい REDO ログ・ファイルを指定するか、またはログを使用可能にしてください。付随するメッセージも参照してください。

ORA-00314 ログ *string* (スレッド *string*) 順序番号 *string* が *string* と一致しません。

原因: オンライン・ログに欠陥があるか、またはファイルが古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00315 ログ *string* (スレッド *string*) でヘッダーに無効なスレッド番号 *string* があります。

原因: オンライン・ログが破損しているか、またはファイルが古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00316 ログ *string* (スレッド *string*) のヘッダー型 *string* はログ・ファイルではありません

原因: オンライン・ログが破損しているか、またはファイルが古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00317 ヘッダーのファイル型 *string* はログ・ファイルではありません

原因: これはアーカイブ済ログ・ファイルではありません。

処置: 正しいファイルを見つけて、再試行してください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00318 ログ *string* (スレッド *string*) のファイル・サイズ *string* は *string* と一致しません。

原因: 制御ファイルに示されたファイル・サイズが、ログ・ファイル内の制御ファイルのファイル・サイズと一致しません。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00319 ログ *string* (スレッド *string*) が不適切なログ・リセット状態です

原因: オンライン REDO ログが、制御ファイルのものとは異なるログ・リセット・データを持っています。ログが誤ってリストアされたバックアップである可能性があります。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00320 ログ *string* (スレッド *string*) からファイル・ヘッダーを読み込めません

原因: ファイルが使用可能ではありません。

処置: ログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00321 ログ *string* (スレッド *string*) のログ・ファイル・ヘッダーを更新できません

原因: ファイルに書き込めません。

処置: ファイルへのアクセス権限を正しく設定してください。

ORA-00322 ログ *string* (スレッド *string*) はカレント・コピーではありません。

原因: オンライン・ログは、誤ってリストアされたバックアップであると判断されました。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00323 現在のログ (スレッド *string*) は使用不可で他のログはすべてアーカイブが必要です

原因: REDO 生成を別のオンライン・ログに切り替える必要がありますが、他のすべてのログはアーカイブしてからでなければ使用できません。このため、スレッドをオープンしようとして失敗しました。

処置: スレッドのログをアーカイブして、オープンを再試行してください。

ORA-00324 ログ・ファイル '*string*' の変換された名前 '*string*' が長すぎます。 *string* 文字は制限 *string* 文字を超過しています

原因: ログ・ファイルの変換名が長すぎます。

処置: より短い変換名の未変換名を指定してください。

ORA-00325 アーカイブ済ログ (スレッド *string*) でヘッダー内のスレッド番号 *string* が無効です。

原因: アーカイブ済ログが破損しているか、別のスレッド番号です。REDO の適応にログを使用できません。

処置: 正しいアーカイブ済ログを見つけてください。

ORA-00326 ログは変更 *string* で開始します。さらに前の変更 *string* が必要です

原因: リカバリのために用意されたアーカイブ・ログは、必要となるログの後に生成されたものです。REDO に合ったログは、まだ使用できません。

処置: 正しいアーカイブ済ログを見つけてください。

ORA-00327 ログ *string* (スレッド *string*) の物理サイズ *string* は *string* より小さい必要があります

原因: ログ・ファイルのサイズが小さくなっています。これは、コンピュータ処理の誤りか、オペレーティング・システム・エラーが原因です。

処置: バックアップからログ・ファイルをリストアしてください。バックアップを使用できない場合、このログを削除して再作成してください。データベースが正常に停止されている場合、これ以外の処置は必要ありません。データベースが正常に停止されていない場合、不完全なリカバリが必要になることがあります。

ORA-00328 アーカイブ済ログは変更 *string* で終了します。さらに新しい変更 *string* が必要です

原因: リカバリに指定されたアーカイブ済ログは、必要なログの前に生成されたものです。REDO に合ったログを使用できません。

処置: 正しいアーカイブ済ログを見つけてください。

ORA-00329 アーカイブ済ログは変更 *string* で開始します。変更 *string* が必要です。

原因: アーカイブ済ログが正しいログではありません。さらに前のログが必要です。

処置: 正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00330 アーカイブ済ログは変更 *string* で終了します。変更 *string* が必要です。

原因: アーカイブ済ログが正しいログではありません。さらに新しいログが必要です。

処置: 正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00331 ログのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因: ログが Oracle のバージョンと互換性のないバージョンで書かれています。

処置: 互換性のあるソフトウェアでデータベースをリカバリし、正常に停止してから、現在のソフトウェアで Oracle を再起動してください。

ORA-00332 アーカイブ済ログが小さすぎます - 完全にアーカイブされていない可能性があります

原因: 割り当てられた領域より小さいログです。アーカイバでの書込み中は、SHUTDOWN ABORT が原因の可能性があります。

処置: このログの完全バージョンを入手して、リカバリに使用してください。オンライン・バージョンまたは正常にアーカイブされたコピーのいずれかにあります。

ORA-00333 REDO ログの読み込みでエラーが発生しました (ブロック *string*, 件数 *string*)。

原因: 付随するエラーに示されているログを読み込み中に、I/O エラーが発生しました。

処置: ファイルへのアクセス権限を修正するか、またはファイルの別のコピーを入手してください。

ORA-00334 アーカイブ済ログ: '*string*'

原因: このメッセージは他のエラーに関連するファイル名を示します。

処置: 関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00335 オンライン・ログ *string*: この番号のログはありません。ログは存在しません。

原因: このメッセージは他のエラーに関連するファイル名を示します。

処置: 関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00336 ログ・ファイルのサイズ *string* が最小値 *string* より小さくなっています

原因: CREATE DATABASE 文に指定したログ・ファイルのサイズが小さすぎます。

処置: ログ・ファイルのサイズを増やしてください。

ORA-00337 ログ・ファイル '*string*' が存在せず、サイズが指定されていません

原因: 追加しようとしたログは存在せず、ファイル作成のためのサイズも指定されていません。

処置: ログ・ファイルにサイズを指定してください。

ORA-00338 ログ *string* (スレッド *string*) は制御ファイルよりも新しいものです。

原因: ログ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号は、制御ファイル内の番号より大きくなっています。これは、誤った制御ファイルが使用されていることを示しています。このエラーが繰り返されると、実際の問題を修正しなくてもエラーが発生しなくなることにご注意してください。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は十分な大きさになるまで更新されます。

処置: カレント制御ファイルを使用するか、バックアップ制御ファイルのリカバリを実行して、制御ファイルをカレントにしてください。バックアップ制御ファイルのリカバリの実行に関するすべての制限事項に必ず従ってください。

ORA-00339 アーカイブ済ログに REDO 情報が含まれていません。

原因: アーカイブ済ログが正しいログではありません。このログは、REDO 生成に使用されていないログ・ファイルのコピーか、オンライン・ログ・ファイルです。

処置: 正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00340 オンライン・ログ *string* (スレッド *string*) 処理中に I/O エラーが発生しました。

原因: このオンライン・ログで I/O エラーが発生しました。

処置: ファイルへのアクセス権限を正しく設定するか、またはバックアップからファイルをリストアしてください。

ORA-00341 ログ *string* (スレッド *string*) でヘッダーに無効なログ番号 *string* があります。

原因: オンライン・ログ・ファイル内の内部情報が制御ファイルと一致しません。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00342 アーカイブ済ログは最新の RESETLOGS より前に作成されました

原因: 最後の ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンド以前に作成されたログをリカバリに使用しました。そのコマンドより後に作成された、正しい REDO を含む別のログ・ファイルが必要です。

処置: 正しいログ・ファイルを指定してください。

ORA-00343 エラーが多すぎます。ログ・メンバーはクローズされました。

原因: このログ・メンバーに対するエラーの最大数を超過しました。

処置: この問題とともに表示される別のエラー・メッセージを参照して、根本的な問題を修正してください。

ORA-00344 オンライン・ログ '*string*' を再作成できません

原因: ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドまたは ALTER DATABASE CLEAR LOGFILE コマンドの実行中に、ログ I/O エラーが発生しました。

処置: 付随するエラーに示されるファイルまたはデバイスを修正してください。

ORA-00345 REDO ログの書込みでエラーが発生しました (ブロック *string*, 件数 *string*)。

原因: ログの書込み中に I/O エラーが発生しました。

処置: エラーの原因を修正し、システムを再起動してください。ログが失われている場合は、メディア・リカバリまたは不完全リカバリを使用してください。

ORA-00346 ログ・メンバーは STALE としてマークされました。

原因: ログ・ファイル・メンバーが完全ではありません。

処置: この問題とともに表示される別のエラー・メッセージを参照して、根本的な問題を修正してください。

ORA-00347 ログ *string* (スレッド *string*) でブロック・サイズ *string* と *string* が一致しません。

原因: オンラインのリカバリ中に、制御ファイルに指定されているブロック・サイズと、REDO ログ・ファイル中のブロック・サイズが一致しません。

処置: バックアップから正しい REDO ファイルをリストアするか、またはオンライン REDO ログ・ファイルをリセットしてください。

ORA-00348 単一プロセス REDO で障害が発生しました。インスタンスを中止してください。

原因: 単一プロセス操作中に、ログ・コードの致命的部分で障害が発生しました。このエラーは、正常な複数プロセス操作では発生しません。

処置: SHUTDOWN ABORT を実行して、データベースを再起動してください。

ORA-00349 '*string*' のブロック・サイズの取得に失敗しました

原因: オペレーティング・システムは、このファイルのブロック・サイズを判断することができません。

処置: 付随するエラー・メッセージを調べて、デバイスを修正するか、別のファイル名を指定してください。

ORA-00350 ログ *string* (スレッド *string*) はアーカイブする必要があります。

原因: ログがアーカイブされていないのにメディア・リカバリが使用可能であるため、コマンドは実行できません。

処置: ログをアーカイブするか、またはメディア・リカバリを使用不可にしてください。コマンドが UNARCHIVED オプションをサポートする場合は、それを使用することができます。ただし、これは、バックアップを使用不可にし、いくつかのオフライン・ファイルを強制的に削除する可能性があります。

ORA-00351 リカバリ時間が無効です

原因: RECOVER UNTIL 文に指定された時間は、1998 年 1 月 2 日以降である必要があります。

処置: 1998 年 1 月 2 日以降の時間を指定してください。

ORA-00352 すべてのログ (スレッド *string*) をアーカイブする必要があります - 使用可能にできません

原因: アーカイブが必要なログでスレッドを使用可能にしようとし、メディア・リカバリが使用可能になっています。スレッドに対して新しい現行ログを作成できるログが存在しません。

処置: スレッドのログをアーカイブするか、またはメディア・リカバリを使用不可にしてください。

ORA-00353 ブロック *string* (変更 *string*、時間 *string*) 付近のログが破損しています

原因: REDO ログの破損が何種類か見つかりました。このエラーでは、破損している位置が指摘されています。付随するエラーには、破損の種類が説明されます。

処置: 正しいバージョンの REDO ログでリカバリを実行するか、指摘された変更または時間までの不完全リカバリを実行してください。

ORA-00354 REDO ログ・ブロック・ヘッダーに欠陥があります。

原因: 付随するエラーで示された REDO ブロックのブロック・ヘッダーは無効です。付随するエラー・メッセージには、ブロック番号とタイムスタンプが示されます。

処置: 正しいバージョンの REDO ログでリカバリを実行するか、または欠陥のある REDO ログ・ファイルの前まで取消しベースのリカバリを実行してください。アーカイブ中にこれが発生した場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログを消去することによって、問題のあるログのアーカイブをスキップすることができます。その後、データベースのリカバリ能力を保証するために、それぞれのデータ・ファイルのバックアップを取る必要があります。

ORA-00355 変更番号に欠陥があります。

原因: REDO ログで先の変更番号より小さい変更番号が見つかりました。ログに欠陥が存在します。先の変更か、またはこの変更において欠陥が存在します。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。

ORA-00356 変更の記述に矛盾した長さが含まれています。

原因：REDO ログ内の変更レコードに、加算すると矛盾した値になる長さが含まれています。ログに欠陥が存在します。

処置：正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。

ORA-00357 ログ・ファイルに指定したメンバーが多すぎます (最大値 *string*)。

原因：ADD LOGFILE コマンドまたは ADD LOGFILE MEMBER コマンドを実行すると、ログのメンバーが多すぎる結果になります。メンバーの数は、データベース作成時に設定されます。

処置：ログ・ファイル・メンバーを少なくして使用してください。

ORA-00358 指定したファイル・メンバーが多すぎます (最大値 *string*)

原因：CREATE 文または ALTER 文で、カッコで囲んだファイル・リストに指定されたメンバーが多すぎます。

処置：ポート定義制限内のファイル・メンバーの数を指定してください。

ORA-00359 ログ・ファイル・グループ *string* は存在しません。

原因：ADD LOGFILE MEMBER または DROP LOGFILE の要求で、存在しないログ・ファイル・グループ番号が指定されました。

処置：ログ・ファイルの構成を確認し、コマンドを再発行してください。

ORA-00360 *string* はログ・ファイル・メンバーではありません。

原因：ファイル名が DROP LOGFILE MEMBER コマンドに渡されましたが、データベースの一部ではないか、またはデータ・ファイルです。

処置：有効なログ・ファイル・メンバー名を指定してください。

ORA-00361 *string* はグループ *string* の最後のログ・ファイル・メンバーなので削除できません

原因：ログ・グループの最後のメンバーを削除しようとしてしました。

処置：必要な場合は、DROP LOGFILE を使用してログ全体を削除してください。

ORA-00362 メンバーはグループ *string* の有効なログファイルを形成するために必要です

原因：完全なログ・ファイルを形成するために必要なデータが削除されるため、ログ・ファイル・メンバーを削除する要求は拒否されました。

処置：必要な場合は、DROP LOGFILE を使用して、(必要な場合は、アーカイブの後で) ログ全体を削除してください。

ORA-00363 ログはアーカイブされたバージョンではありません

原因: リカバリに使用されたログは、現行ログからのオンライン・バージョンのバックアップです。このログのアーカイブ済バージョンは、スレッド最終のマークがされていない可能性があります。また、CREATE CONTROLFILE コマンド中の使用可能スレッドの現行ログの出力に失敗した可能性があります。

処置: アーカイブ済バージョンのログを見つけて、そのログの名前を指定してください。CREATE CONTROLFILE 実行直後のメディア・リカバリの場合、このスレッドの現行ログが含まれていることを確認してください。

ORA-00364 ヘッダーを新規ログ・メンバーに書き込めません。

原因: 既存のグループへ追加するログ・メンバーにヘッダーを書き込もうとした時点で、I/O エラーが発生しました。

処置: 付随するエラーを参照してください。問題を修正するか、別のファイルを使用してください。

ORA-00365 指定したログは、正しい次のログではありません。

原因: 指定したログは、適用されたログと一致しないことが確認されました。おそらくこれは、データベースのコールド・バックアップ・イメージに対して生成されたログを使用したことが原因です。

処置: データベースのコピーに対して生成されたログを見つけ、リカバリにファイル名を指定してください。

ORA-00366 ログ *string* (スレッド *string*) ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

処置: ログの正しいバージョンを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。

ORA-00367 ログ・ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

処置: 正しいファイルを見つけて、再試行してください。

ORA-00368 REDO ログ・ブロックでチェックサム・エラーが発生しました

原因: 付随するエラーで示された REDO ブロックは無効です。REDO ブロックにブロックの内容と一致しないチェックサムがあります。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。アーカイブ中にこのエラーが発生した場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログを消去することにより、問題のあるログのアーカイブをスキップすることができます。その後に、データベースのリカバリ能力を保証するために、それぞれのデータ・ファイルのバックアップを取る必要があります。正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。

ORA-00369 スレッド *string* のカレント・ログは使用できません。他のログが消去されています。

原因: REDO 生成を他のオンライン・ログに切り替える必要がありますが、スレッドのオープンに失敗しました。しかし、他のすべてのログは消去されているか、またはそれらを使用する前にアーカイブする必要があります。

処置: ALTER DATABASE CLEAR LOGFILE コマンドがアクティブな場合は、コマンドの完了を待ってください。アクティブでない場合は、CLEAR コマンドを再入力してください。他に消去されていないスレッドのオンライン・ログがある場合は、そのログをアーカイブしてください。

ORA-00371 共有プール・メモリーが不足しています

原因: SHARED_POOL_SIZE 初期化パラメータの値が小さすぎます。

処置: このパラメータの値を増やしてください。

ORA-00372 現在、ファイル *string* を修正することはできません

原因: 変更できないファイルの内容を変更しようとしてしました。このファイルは読取り専用の表領域の一部とみられますが、オフラインにする途中であるか、クローズの途中である可能性があります。

処置: ファイルおよびその表領域の状態を確認してください。

ORA-00373 オンライン・ログのバージョン *string* には Oracle バージョン *string* との互換性がありません。

原因: オンライン・ログが Oracle バージョンと互換性のないバージョンで書かれています。ログ・ファイルが旧バージョンか新バージョンの Oracle で作成された可能性があります。

処置: 互換性のあるソフトウェアでデータベースをリカバリしてから、正常に停止させ、現在のソフトウェアで再起動してください。

ORA-00374 パラメータ db_block_size = *string* は無効です。*string* の倍数にする必要があります (範囲 [*string*..*string*])

原因: DB_BLOCK_SIZE パラメータに無効な値が指定されました。

処置: パラメータの値を修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-00375 デフォルトの DB_BLOCK_SIZE が取得できません。

原因: システムが、デフォルトの DB_BLOCK_SIZE の値を判断できません。

処置: 付随するシステム固有のエラーを参照してください。対処として、初期化パラメータ・ファイルにブロック・サイズを指定してください。

ORA-00376 ファイル *string* を読み込むことはできません。

原因: 読み込み不可能なファイルから読み込もうとしました。ファイルがオフラインの可能性あります。

処置: ファイルの状態を調べてください。オンラインにしてください。

ORA-00377 ファイル *string* のバックアップ間隔が短いと、書込み操作の停止の原因になります。

原因: このファイルに対するバックアップの間隔が短すぎます。新しくファイルのバックアップを開始するたびに、以前に発行した（ただし、未完了の）すべての書込みを再発行する必要があります。バックアップの間隔が非常に短いと、書込みの一部が繰り返して発行され、完了しない可能性があります。

処置: このファイルに対する hot-backup コマンドの発行間隔を長くしてください。

ORA-00378 バッファ・プールが指定どおりに作成できません。

原因: バッファ数または LRU ラッチ数が少なすぎるため、指定されたバッファ・プールの構成を満たすことができません。

処置: バッファ数または LRU ラッチ数（あるいはその両方）を増やしてください。または、バッファ・プールの構成を小さくしてください。

ORA-00379 バッファ・プール *string* (ブロック・サイズ *stringK*) には使用可能バッファがありません

原因: 指定したブロック・サイズ用に指定したバッファ・プール内のすべてのバッファが使用され、使用可能なバッファがありません。

処置: 指定したブロック・サイズ用に指定したプール内のバッファの数を増やしてください。

ORA-00380 DB_stringK_CACHE_SIZE を指定できません。stringK は標準ブロック・サイズです。

原因: このデータベースの標準ブロック・サイズは *n* KB ですが、パラメータ DB_nK_CACHE_SIZE (*n* は、2、4、8、16、32 のいずれか) が指定されています。これは不正です。

処置: DB_CACHE_SIZE (DEFAULT プール) (および、追加のバッファ・プールが必要な場合は DB_RECYCLE_CACHE_SIZE、DB_KEEP_CACHE_SIZE) を使用して、標準ブロック・サイズのキャッシュを指定します。標準ブロック・サイズに対応する DB_nK_CACHE_SIZE パラメータは、使用しないでください。

ORA-00381 バッファ・キャッシュ・サイズの指定に新旧どちらのパラメータも使用できません。

原因: DB_CACHE_SIZE、DB_RECYCLE_CACHE_SIZE、DB_KEEP_CACHE_SIZE、DB_nK_CACHE_SIZE (*n* は、2、4、8、16、32 のいずれか) から 1 つ以上と、DB_BLOCK_BUFFERS、BUFFER_POOL_KEEP、BUFFER_POOL_RECYCLE から 1 つ以上を指定しました。これは不正です。

処置: リリース 1 (9.0.1) より前のパラメータか、新しいパラメータのいずれかを使用してください。両方は指定しないでください。パラメータ・ファイルに以前の SIZE パラメータが指定されている場合は、それらを新しいパラメータに置換することをお勧めします。新しいパラメータでは、ブロック・サイズを追加した場合、追加のキャッシュを動的に変更し、構成できます。

ORA-00382 *string* は有効なブロック・サイズではありません。有効な範囲は [*string*..*string*] です。

原因: DB_nK_CACHE_SIZE の値 (*n* は、2、4、8、16、32 のいずれか) が指定されましたが、*nK* は、このプラットフォームでは有効なブロック・サイズではありません。

処置: 初期化パラメータ・ファイルから、対応するパラメータを削除し、インスタンスを再起動してください。

ORA-00383 ブロックサイズ *string* のデフォルト・キャッシュは 0 (ゼロ) まで減らせません

原因: ブロック・サイズが *nK* である表領域が、まだオンライン状態のときに、DB_CACHE_SIZE または DB_nK_CACHE_SIZE の値を 0 に減らそうとしました。SYSTEM 表領域はオフラインにできないため、DB_CACHE_SIZE の値を 0 にする操作は、常に不正です。

処置: 対応するブロック・サイズを持つすべての表領域をオフラインにし、操作を再実行してください。

ORA-00384 キャッシュを大きくするにはメモリーが足りません。

原因: システムに割り当てるメモリーが不足しているため、指定されたサイズまでキャッシュを増やすことができません。

処置: パラメータに指定する値を小さくしてください。

ORA-00390 ログ *string* (スレッド *string*) は消去中なので、カレント・ログにはなりません。

原因: 再使用不可能なログが見つかったので REDO スレッドの新しいオンライン・ログに切り替えようとしたが失敗しました。このログは現在消去中であり、消去が完了したときに使用可能になります。このコマンドは、消去を完了しないで終了することもあります。

処置: 消去コマンドが実行中の場合は、完了するまで待ってください。打ち切られた場合は、消去コマンドを再発行するか、ログを削除してください。

ORA-00391 すべてのスレッドは同時に新しいログ・フォーマットに切り替える必要があります

原因: 互換条件が新しいログ・フォーマット・ナンバーを適用するため、シングル・スレッドの現行のログを切り替えようとしたことが許可されませんでした。ログ・フォーマットを変更する場合、すべてのスレッドは同時に新しいフォーマットに切り替える必要があります。

処置: データベースをオープンして、調整されたログ・スイッチを作動させてください。それができない場合は、以前にデータベースをオープンするために使用したソフトウェア・バージョンおよび互換性設定へ戻ってください。

ORA-00392 ログ *string* (スレッド *string*) を消去中です。操作できません。

原因: このオンライン・ログの操作は現在消去中です。このコマンドは、消去を完了しないで終了することもあります。

処置: 消去コマンドが実行中の場合は、完了するまで待ってください。打ち切られた場合は、消去コマンドを再発行するか、ログを削除してください。

ORA-00393 ログ *string* (スレッド *string*) はオフライン・データファイルのリカバリに必要です。

原因: オフライン・データファイルのリカバリに必要なので、このログは消去できません。ログがアーカイブされていないので、他に使用可能なコピーはありません。このログが消去されると、そのファイルを含む表領域は削除されます。

処置: ログをアーカイブしてから、消去コマンドを再入力してください。アーカイブが不可能であり、表領域を削除するのが望ましい場合は、消去コマンドの最後に UNRECOVERABLE DATAFILE と入力してください。

ORA-00394 アーカイブ中にオンライン・ログが再使用されました。

原因: アーカイブ中のオンライン・ログ・ファイルを再使用しようとした。

処置: オンライン・ログ・ファイルは上書きされています。アーカイブできません。

ORA-00395 クローン・データベース用のオンライン・ログを改名する必要があります。

原因: クローン・データベースをオープンすると、プライマリ・ログ・ファイルが上書きされないようにするために、強制的にログ・ファイルの名前が変更されます。

処置: LOG_FILE_NAME_CONVERT 初期化パラメータを使用するか、または手動で、ログ・ファイルの名前を変更してください。

ORA-00396 エラー *string* にはシングルパス・リカバリへのフォールバックが必須でした。

原因: 示されているエラーは、2 パス・インスタンス・リカバリまたはクラッシュ・リカバリの失敗が原因です。リカバリは、このエラーを回避するために、代替の（より遅い）方法で再試行されました。

処置: 今後、インスタンス・リカバリまたはクラッシュ・リカバリを、新しいアルゴリズムで正常に実行できるように、示されている（または記録されている）エラーの原因を修正してください。通常、これには、リカバリ処理に使用可能な主要領域を増やす必要があります。

ORA-00397 ファイル *string*、ブロック *string* に書き込みの欠落が検出されました。

原因: 指定されたブロックには、ディスクに書き込まれているはずの変更が欠落しています。ファイル I/O サブシステムまたはボリューム・マネージャによる書き込みの欠落が示されています。

処置: I/O サブシステムに診断チェックを実行し、すべてのエラーを解決してください。

ORA-00398 再構成のためにスレッド・リカバリを終了します。

原因: インスタンス・リカバリまたはクラッシュ・リカバリで、グローバル・エンキュー・サービスの再構成が発生しました。

処置: これは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00399 REDO ログで破損した変更説明

原因: REDO ログにあるチェンジ・ベクターが、妥当性チェックに失敗しました。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。

ORA-00400 リリース番号 *string*（パラメータ *string*）が無効です。

原因: 初期化パラメータに指定されたリリース・レベルが無効です。

処置: パラメータ・ファイルのパラメータ値を修正して、再試行してください。

ORA-00401 パラメータ *string* の値はこのリリースではサポートされません。

原因: 指定されたパラメータ値は、このリリースではサポートされません。

処置: 正しい値を指定するか、または該当パラメータを削除してデフォルト値が使用されるようにしてください。

ORA-00402 リリース *string* のデータベース変更はリリース *string* では使用できません

原因: データベースに対してソフトウェアの新しいリリースを必要とする変更が行われました。または、互換性パラメータに違反する変更が行われました。

処置: 変更を認識するソフトウェア・バージョンを使用してください。または、初期化パラメータ・ファイルの互換性要件を調整してください。

ORA-00403 *string* (*string*) は他のインスタンス (*string*) と一致しません。

原因: 別のインスタンスが、COMPATIBLE または COMPATIBLE NO RECOVERY パラメータを、このインスタンスとは異なる設定にしました。

処置: カレント・インスタンスのパラメータを変更して、すでに実行中のインスタンスに一致させてください。

ORA-00404 変換ファイルが見つかりません: '*string*'

原因: バージョン7からバージョン8に変換するためのファイルが見つかりません。

処置: 正しいデータベースに対して移行プロセスを開始したことで、変換ファイル名がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-00405 関係のある型 "*string*"

原因: レポートされた型は、他のエラーに関連しています。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

ORA-00406 COMPATIBLE パラメータは、*string* 以上必要です。

原因: COMPATIBLE 初期化パラメータの値が十分に高くないため、操作が実行できませんでした。コマンドを許可すると、データベースは現在の COMPATIBLE パラメータで指定されたリリースとの互換性がなくなります。

処置: 停止し、互換性の設定値を高くして再起動してください。

ORA-00407 リリース *string.string* から *string.string* へのアップグレードはできません。

原因: 異なるリリースでソフトウェアを実行する他のインスタンスが、すでにデータベースをマウントしています。

処置: すべてのインスタンスを停止し、新しいソフトウェアで再起動してください。

ORA-00408 パラメータ *string* が TRUE に設定されています。

原因: 互換性エラーのパラメータをレポートします。

処置: 停止し、互換性の設定値を高くして再起動してください。

ORA-00436 Oracle のライセンス許可が与えられていません。オラクル社に連絡してください。

原因: 現在インストールされている Oracle のソフトウェアは、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも発生します（たとえば、誤ったライセンス・コードを使用した場合）。

処置: Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00437 Oracle 機能のライセンス許可が与えられていません。オラクル社に連絡してください。

原因：現在インストールされている Oracle の機能は、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも発生します（たとえば、誤ったライセンス・コードを使用した場合）。

処置：Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00438 *string* のオプションがインストールされていません。

原因：指定されたオプションはインストールされていません。

処置：オプションのコールをやめるか、オプションを購入してインストールしてください。

ORA-00439 機能は使用できません: *string*

原因：指定された機能が使用可能ではありません。

処置：この機能は使用しないでください。

ORA-00443 バックグラウンド・プロセス "*string*" が起動しませんでした

原因：指定されたプロセスは起動しませんでした。

処置：実行可能イメージが正しい保護状態で正しい位置にあること、また十分なメモリーがあることを確認してください。

ORA-00444 バックグラウンド・プロセス "*string*" の起動中に障害が発生しました。

原因：通常は、無効な（または存在しない）バックグラウンド・プロセス・イメージが原因です。

処置：有効なバックグラウンド・プロセス・イメージを取得してください。

ORA-00445 バックグラウンド・プロセス "*string*" が *string* 秒後に起動しませんでした。

原因：指定されたプロセスが、指定時間後に起動しませんでした。

処置：バックグラウンド・プロセスが停止しておらず、トレース・ファイルを残しているかを確認してください。

ORA-00446 予期しないときにバックグラウンド・プロセスが起動されました

原因：Oracle ですでに実行されているバックグラウンド・プロセスが指定されました。

処置：付随するエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正し、このプロセスを起動したユーザーがサイトに存在しない場合は、このメッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00447 バックグラウンド・プロセスに致命的なエラーが発生しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの1つが突然停止しました。

処置: システムを再起動してください。BACKGROUND_DUMP_DEST のバックグラウンド・トレース・ファイルが示している問題を確認して、必要に応じて修正してください。

ORA-00448 バックグラウンド・プロセスが正常終了しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの1つが、特定ユーザーの要求によって正常終了しました。

処置: 問題を解決中の場合は、他のメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを確認してください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正し、Oracle を一度停止してから再起動してください。

ORA-00449 バックグラウンド・プロセス 'string' がエラー string で予期せず終了しました

原因: バックグラウンド・プロセスの機能を必要とするフォアグラウンド・プロセスによって、プロセスが停止していることが検知されました。

処置: そのプロセスに対するメッセージおよびトレース・ファイル中に記録されたエラー・コードを参照してください。

ORA-00470 LGWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: ログ・ライター・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00471 DBWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: データベース・ライター・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00472 PMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: プロセス・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00473 ARCH プロセスはエラーで終了しました。

原因: アーカイブ・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00474 SMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00475 TRWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・トレース・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00476 RECO プロセスはエラーで終了しました。

原因: 分散トランザクション (2 フェーズ・コミット) のリカバリ・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00477 SNP* プロセスはエラーで終了しました。

原因: マテリアライズド・ビューのリフレッシュ・プロセスが異常終了しました。

処置: PMON は、SNP プロセスをすぐに再起動します。SNP プロセスが起動しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00480 LCK* プロセスはエラーで終了しました。

原因: ロック・プロセスが異常終了しました。

処置: 付随するエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00481 LMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: グローバル・エンキュー・サービス・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00482 LMD* プロセスはエラーで終了しました。

原因: グローバル・エンキュー・サービス・デーモン・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00483 停止中にプロセスが異常終了しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの 1 つが、停止の時点で正常に終了しませんでした。

処置: SHUTDOWN ABORT コマンドを使用してください。付随するエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を修正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00484 LMS* プロセスはエラーで終了しました

原因: グローバル・キャッシュ・サービス・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-00568 割込みハンドラの最大数を超過しました

原因: ブレーク・キーが入力されたときのために登録されている割込み処理ルーチンの数が、許容最大数を超過しています。

処置: 登録されている割込みハンドラの数減らしてください。

ORA-00600 内部エラー・コード、引数: [string],[string],[string],[string],[string],[string],[string],[string]

原因: これは、Oracle プログラムの例外に対する一括内部エラー番号です。プロセスに予期しない条件が発生したことを示しています。次に、このメッセージの原因をいくつか示します。

- タイムアウト
- ファイルの破壊
- メモリー内のデータ・チェックの誤り
- ハードウェア、メモリー、I/O の誤り
- 誤ったファイルのリストア

最初の引数は、内部メッセージ番号です。他の引数は、各種の数値、名前、文字列です。数値は、Oracle の異なるバージョン間では意味が異なる場合があります。

処置: 次の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

- エラーに至るまでの経過
- エラーに至った操作
- エラー時のオペレーティング・システムおよびデータベースの状況
- ORA-00600 メッセージが出力される以前に発生したなんらかの異常な状況
- エラー発生によって生成されたトレース・ファイルの内容
- アラート・ファイルの関連部分

注意: このメッセージの原因は、別の時点で別のエラーとして明示されます。この内部エラーより前のエラーに注目してください。

ORA-00601 クリーン・アップ・ロックの競合が発生しました。

原因: プロセス・モニターによるプロセスのリカバリ中に、ロックの競合が発生しました。通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00602 内部プログラミング例外が発生しました。

原因: 内部プログラミング例外が発生しました。

処置: このエラーをプログラム・バグとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00603 致命的エラーが発生したため、Oracle Server セッションが終了しました

原因: Oracle Server セッションはリカバリ不能の状態にあります。

処置: Oracle に再ログインしてください。新規の Oracle Server セッションが自動的に作成されます。詳細は、セッション・トレース・ファイルを調べてください。

ORA-00604 再帰 SQL レベル *string* でエラーが発生しました。

原因: 再帰 SQL レベル文（内部ディクショナリ表に適用する文）を処理中にエラーが発生しました。

処置: スタックに次に表示されるエラーに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00606 内部エラー・コード

原因: 遅延 UPI 関数へのコールが、遅延モード以外で行われました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00607 データ・ブロックの変更中に内部エラーが発生しました。

原因: Oracle がデータ・ブロックに REDO を適用しているときに、内部エラーまたはメモリー例外が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00701 データベースの起動に必要なオブジェクトを変更できません。

原因: データベースのウォーム・スタートに必要な、制御ファイルのブートストラップ・セグメント中に定義されているデータベース・オブジェクト（表、クラスタまたは索引）を変更しようとしたか、または削除しようとした。

処置: オブジェクト名の綴りを修正するか、その名前を ALTER 文または DROP 文から削除してください。

ORA-00702 ブートストラップ・バージョン '*string*' はバージョン '*string*' と一貫性がありません

原因: ブートストラップ・データのバージョンが、現行のソフトウェアのバージョンと互換性がありません。

処置: データ・ファイルと互換性のあるソフトウェアのバージョンをリストアしてください。

ORA-00703 行キャッシュ・インスタンス・ロックの最大数を超過しました

原因: 十分な行キャッシュ・エンキューがありません。

処置: ROW CACHE ENQUEUE パラメータの値を増やし、システムを再起動してください。

ORA-00704 ブートストラップ・プロセス障害です。

原因：ブートストラップ・プロセスに障害が発生しました。問題の原因に関する詳細は、付随するエラー・メッセージを調べてください。

処置：他のメッセージで示される問題を修正してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00705 起動中の状態が不安定です：インスタンスを停止して再起動してください

原因：直前のインスタンスの起動が終了しました。

処置：インスタンスを完全に停止してから、再起動してください。

ORA-00816 エラー・メッセージ変換に失敗しました

原因：ルーチンでメッセージ・コードを変換できないような内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00900 ～ ORA-01499

ORA-00900 SQL 文が無効です。

原因：ユーザーが入力した文は、有効な SQL 文として認められません。このエラーは Procedural Option がインストールされていない場合で、かつ（CREATE PROCEDURE 文などの）このオプションを必要とする SQL 文が発行された場合に発生します。SQL*Plus を起動して Procedural Option がインストールされているかを判断できます。PL/SQL バナーが表示されていない場合は、このオプションはインストールされません。

処置：構文を修正するか、または Procedural Option をインストールしてください。

ORA-00901 CREATE コマンドが無効です。

原因：CREATE コマンドの後に、有効な CREATE オプションが指定されませんでした。

処置：構文を修正してください。

ORA-00902 データ型が無効です。

原因：CREATE 文または ALTER TABLE 文に指定したデータ型は無効です。

処置：構文を修正してください。

ORA-00903 表名が無効です。

原因：無効または存在しない表名またはクラスタ名を指定しました。また、このメッセージは ALTER CLUSTER 文や DROP CLUSTER 文中に無効なクラスタ名を指定したか、またはクラスタ名を指定しなかった場合にも出力されます。

処置：綴りを確認してください。表名またはクラスタ名の先頭は、英字にしてください。また、英数字および特殊文字 \$、_、# のみ使用してください。名前は 30 文字以下で、予約語は指定しないでください。

ORA-00904 列名が無効です。

原因: 列名を入力していないか、または無効です。

処置: 有効な列名を入力してください。列名の先頭は、英字にしてください。長さは 30 文字以内で、英数字および特殊文字 \$、_、# のみで構成してください。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲んでください。また、予約語は指定しないでください。

ORA-00905 キーワードがありません。

原因: 必須のキーワードがありません。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00906 左カッコがありません。

原因: 左カッコが省略されています。特定のコマンド (CREATE TABLE、CREATE CLUSTER、INSERT など) では、項目リストをカッコで囲む必要があります。WHERE 句および UPDATE *table* SET *column* = (SELECT...) 文の副問合せもカッコで囲む必要があります。

処置: 必要な箇所に左カッコを挿入して構文を修正してから、文を再試行してください。

ORA-00907 右カッコがありません。

原因: 左カッコはあるが右カッコが抜けている、またはカッコの間に不要な情報があります。カッコは、対で指定する必要があります。

処置: 構文を修正して、文を再試行してください。

ORA-00908 NULL キーワードがありません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文で、その列中に NULL 値を認めないことを指定する NOT はありますが、NULL キーワードが省略されていました。
- IS [NOT] NULL 論理オペレータで、NULL キーワードが検出されませんでした。

たとえば、次の文に続いてこのメッセージが出力されます。

```
SELECT * FROM EMP WHERE DEPTNO IS NOT;
```

NULL キーワードが IS NOT キーワードの後に続く必要があります。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00909 引数の個数が無効です。

原因: 参照した Oracle 関数の引数の数が誤っています。SYSDATE を除くすべての Oracle 関数には、1 つ以上の引数が必要です。

処置: 必要な数の引数を入力して、関数の構文を修正してください。

ORA-00910 指定した長さがデータ型に対して長すぎます

原因：文字フィールドにサイズを指定しなかったか、または指定したサイズが正しくありませんでした。それぞれの文字列には、最大長を指定する必要があります。この長さの最大値は、CHAR または VARCHAR2 など、文字データ型によって異なります。

処置：フィールドに最大長を入力してください。

ORA-00911 文字が無効です。

原因：特殊文字は、特定の場所のみで使用できます。名前に \$、_ および # 以外の特殊文字を使用しており、その名前を二重引用符 (") で囲んでいない場合、このメッセージが出力されます。この規則が適用されない 1 つの例外は、データベースの名前です。この場合は、二重引用符は削除され、無視されます。

処置：無効な文字を文から削除するか、オブジェクト名を二重引用符で囲んでください。

ORA-00913 値の個数が多すぎます。

原因：SQL 文には、同数の 2 組の値が必要です。このエラーは、2 組目の項目数が 1 組目に比べて多くなっている場合に発生します。たとえば、WHERE 句または HAVING 句の中の副問合せから返される列が多すぎる、VALUES 句または SELECT 句から INSERT にリストされている列より多くの列が返されるなどです。

処置：各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00914 ADD キーワードがありません。

原因：次の中にキーワード ADD がないものがあります。

- ALTER DATABASE 文のキーワード LOGFILE
- ALTER TABLE 文の列要素または表制約
- ALTER TABLESPACE 文のキーワード DATAFILE

処置：ALTER 文にキーワード ADD を指定してください。

ORA-00915 ディクショナリ表のネットワーク・アクセスは現在使用できません。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00917 カンマがありません。

原因：INSERT 文中の列または値のリスト、または ((C,D),(E,F), ...) 書式のリストに必要なカンマが省略されています。

処置：構文を修正してください。

ORA-00918 列の定義が未確定です。

原因: 結合に使用されている単一の列名が複数の表に存在しており、参照があいまいです。結合において列名を参照する場合、それが複数の表に存在している場合は、その列名に表名の接頭辞を付ける必要があります。列は、TABLE.COLUMN または TABLE_ALIAS.COLUMN のように参照されます。たとえば、EMP 表と DEPT 表を結合しており、両方に DEPTNO 列が含まれている場合、DEPTNO に対するすべての参照は、EMP.DEPTNO または E.DEPTNO のように表名の接頭辞を付けます。

処置: 複数の表に存在する列名には、前述の例のように、表名または表の別名とピリオド (.) を接頭辞としてその列名の前に付けてください。

ORA-00919 関数が無効です。

原因: ある入力関数呼出しのような書式になっていますが、Oracle 関数として認識できません。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00920 関係演算子が無効です。

原因: 関係演算子が欠落しているか、無効な状態で検索条件が入力されました。

処置: 条件の中に、=、!=、^=、<>、>、<、>=、<=、ALL、ANY、[NOT]BETWEEN、EXISTS、[NOT]IN、IS[NOT]NULL、[NOT]LIKE などの有効な関係演算子を指定してください。

ORA-00921 SQL コマンドが不完全です。

原因: SQL コマンドが不完全です。有効なコマンドの一部が入力されましたが、1 つ以上の主要な構成要素が省略されています。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00922 オプション指定されていないか、または無効です。

原因: 列または記憶域句の定義で無効なオプションが指定されました。列指定には、列に NULL 値を入力できないことを指定する NOT NULL オプションが有効です。また、データ型の後には制約条件のみを指定できます。なお、DATE または LONG データ型に対して最大長を指定した場合もこのエラーが発生します。

処置: 構文を修正してください。列または記憶域の指定から、誤ったオプションまたは長さの指定を削除してください。

ORA-00923 FROM キーワードが指定の位置にありません。

原因: SELECT 文または REVOKE 文の中で、FROM キーワードが欠落しているか、位置が誤っているか、綴りが誤っています。FROM キーワードは、SELECT 文では最後に選択した項目の後に、REVOKE 文では権限の後に指定してください。

処置: 構文を修正してください。適切な位置に FROM キーワードを挿入してください。SELECT リストそのものが誤っている可能性もあります。別名で引用符を使用している場合は、その別名を二重引用符で囲んでいることを確認してください。また、別名に予約語を使用していないことを確認してください。

ORA-00924 BY キーワードがありません。

原因：GROUP BY、ORDER BY または CONNECT BY 句の BY キーワードがありません。GRANT 文では、IDENTIFIED キーワードの後にも BY が必要です。

処置：構文を修正してください。必要な位置に BY キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00925 INTO キーワードがありません。

原因：INSERT 文に INTO キーワードが指定されていません。

処置：構文を修正してください。必要な位置に INTO キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00926 VALUES キーワードがありません。

原因：INSERT 文に VALUES キーワードまたは SELECT が指定されていません。INSERT INTO 句の後には、VALUES 句または SELECT 副問合せを指定する必要があります。

処置：構文を修正してください。INSERT INTO 句の後に、VALUES 句または副問合せを指定してください。

ORA-00927 等号がありません。

原因：次の箇所のいずれかに等号がありません。

- UPDATE 文の SET 句
- 検索条件で等しくないことを意味する「!」の後

処置：構文を修正してください。必要な位置に等号を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00928 SELECT キーワードがありません。

原因：CREATE VIEW 文には SELECT 副問合せを指定する必要があります。

処置：構文を修正してください。CREATE VIEW 句の後に必須の SELECT 句を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00929 ピリオドがありません。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00930 アスタリスクがありません。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00931 識別子がありません。

原因：指定された文字列に識別子がありません。

処置：文字列引数を修正してください。

ORA-00932 データ型が一致しません。

原因：原因は次のいずれかです。

- データ型の互換性がない操作を実行しようとしてしました。たとえば、文字フィールドを日付フィールドに追加する（日付は、数値フィールドのみに追加できます）、または文字フィールドを長いフィールドに連結する操作などが、この操作に該当します。
- 通常は使用しないことになっているデータベース・オブジェクト（表、ビューなど）に対し、操作を実行しようとしてしました。たとえば、システム表をユーザーが変更することはできません。まれに、誤った綴りのオブジェクト名が制限付きオブジェクト名に対応付けられていることが原因で、このエラーが発生することもあります。
- 記述されていないビューを使用しようとしてしました。

処置：原因に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- データ型が異なっていることが原因である場合は、データ型が一致するようにしてください。たとえば、TO_NUMBER 関数で文字フィールドを数値フィールドに変換してから、日付フィールドに追加してください。長いフィールドで関数は使用できません。
- 通常は使用しないことになっているオブジェクトにアクセスしたことが原因である場合は、制限付きオブジェクトにアクセスしないようにしてください。

ORA-00933 SQL コマンドが正しく終了されていません。

原因：SQL 文が不適切な句で終了しています。たとえば、CREATE VIEW 文または INSERT 文の中に ORDER BY 句がある可能性があります。ORDER BY を順序付ビューの作成または特定の順序の挿入には使用できません。

処置：不適切な句を削除して構文を修正してください。削除した句は、別の SQL 文で重複して使用できます。たとえば、ビューの行を順序付けする場合、ビューの作成時ではなく、問合せ時に実行できます。このエラーは、SQL*Forms のアプリケーション中で継続行が字下げされている場合にも発生します。字下げされている行を調べ、その空白部を削除してください。

ORA-00934 ここではグループ関数は使用できません。

原因：WHERE 句または GROUP BY 句の中で、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などのグループ関数のいずれかが使用されました。

処置：WHERE 句または GROUP BY 句からグループ関数を削除してください。副問合せまたは HAVING 句の中に関数を指定することによって、必要な結果が得られます。

ORA-00935 グループ関数のネスト・レベルが深すぎます。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00936 式がありません。

原因：句または式の必須部分が省略されています。たとえば、列または式のリストがない SELECT 文、または不完全な式の SELECT 文を入力しています。また、このメッセージは、SELECT TABLE 文などに誤って予約語を使用した場合にも出力されます。

処置：構文を調べて、欠落している部分を指定してください。

ORA-00937 単一グループのグループ関数ではありません。

原因：個別の列式を GROUP BY 句に含めないかぎり、SELECT リストには、グループ関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など) および個別の列式の両方を含めることができません。

処置：SELECT リストからグループ関数または個別の列式のどちらかを削除するか、またはリストされている個別のすべての列式を含む GROUP BY 句を追加してください。

ORA-00938 関数の引数が不足しています。

原因：関数の参照での引数が少なすぎます。

処置：関数の構文を調べて、必要な数の引数を指定してください。

ORA-00939 関数の引数が多すぎます。

原因：関数の参照での引数が多すぎます。

処置：関数の構文を調べて、必要な数の引数のみを指定してください。

ORA-00940 ALTER コマンドが無効です。

原因：無効な ALTER オプションを指定しています。

処置：構文を修正してください。

ORA-00941 クラスタ名がありません。

原因：クラスタ名が欠けているか無効です。

処置：有効なクラスタ名を指定してください。有効なクラスタ名は、英字で始め、30 文字以内で、英数字または特殊文字 \$、_ および # のみ使用してください。また、予約語は指定しないでください。名前は、CREATE CLUSTER キーワードの直後に指定してください。

ORA-00942 表またはビューが存在しません。

原因: 指定した表またはビューが存在しないか、ここでは許可されていないシノニムが使用されました。または、表が要求されているところでビューが参照されました。既存のユーザーの表およびビューは、データ・ディクショナリを問い合わせることによって表示できます。表へのアクセスには、特定の権限が必要な場合があります。アプリケーションがこのメッセージを返した場合は、アプリケーションがアクセスしようとした表がデータベースに存在しないか、または表へのアクセス権がありません。

処置: 次の点を確認してください。

- 表またはビューの名前の綴りが正しいか。
- 表が必要な位置にビューが指定されていないか。
- 存在する表またはビューの名前があるか。

表を作成する必要がある場合、または表へのアクセスに必要な権限がユーザーまたはアプリケーションに必要な場合は、データベース管理者に連絡してください。

また、他のスキーマの表またはビューにアクセスする場合は、正しいスキーマが参照されていること、およびオブジェクトに対するアクセス権が付与されていることを確認してください。

ORA-00943 クラスタが存在しません。

原因: 現行のユーザーは、指定した名前のクラスタを所有していません。

処置: CLUSTER キーワードの後に有効なクラスタ名を指定して、文を再試行してください。

ORA-00944 クラスタ列の個数が不足しています。

原因: CREATE CLUSTER 文の指定より少ない数のクラスタ列で表を作成しようとしてしました。CREATE TABLE 文の CLUSTER 句では、クラスタを作成したときに定義されたすべてのクラスタ列を指定する必要があります。

処置: CREATE TABLE 文のすべてのクラスタ列を指定して、文を再試行してください。

ORA-00945 指定したクラスタ列は存在しません。

原因: CREATE TABLE 文の CLUSTER 句に指定した列は、この表の列ではありません。

処置: 表に対して定義した列の名前を使用して、文を再試行してください。

ORA-00946 TO キーワードがありません。

原因: TO キーワードがない GRANT 文を指定したか、または GRANT コマンドが無効な書式で入力されました。

処置: GRANT コマンドの構文を調べて、必要な箇所に TO キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00947 値の個数が不足しています。

原因：SQL 文には同数の 2 組の値が必要ですが、2 組目の項目数が 1 組目に比べて少ない場合にこのエラーが発生します。この原因は、次に示すように、WHERE 句または HAVING 句でネストした SELECT 文が返す列が不足している点にあります。

```
WHERE (A,B) IN (SELECT C FROM ...)
```

このエラーのもう 1 つの共通した原因は、次の例のように、INSERT 文の VALUES 句または SELECT 句に INSERT に必要な個数の値が含まれていない場合です。

```
INSERT INTO EMP (EMPNO,ENAME) VALUES ('JONES')
```

処置：各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00948 ALTER CLUSTER 文はサポートされていません。

原因：ALTER CLUSTER 文は使用できなくなりました。

処置：既存の表からクラスタにデータを追加するには、次の SQL 文を使用してください。

```
CREATE TABLE newtable SELECT * FROM oldtable CLUSTER clustername;  
DROP oldtable;  
RENAME TABLE newtable oldtable;
```

ORA-00949 リモート・データベースへの参照は無効です。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00950 DROP オプションは無効です。

原因：DROP コマンドの後に、CLUSTER、DATABASE LINK、INDEX、ROLLBACK SEGMENT、SEQUENCE、SYNONYM、TABLE、TABLESPACE、VIEW などの、有効な DROP オプションが指定されていません。

処置：コマンドの構文を調べ、有効な DROP オプションを指定して、文を再試行してください。

ORA-00951 クラスタが空ではありません。

原因：DROP CLUSTER 文に空ではないクラスタを指定しました。オプションの INCLUDING TABLES 句を指定しないかぎり、表を含んでいるクラスタを削除できません。DROP TABLE コマンドを使用すると、クラスタから表を削除できます。

処置：DROP CLUSTER 文で INCLUDING TABLES 句を指定するか、DROP TABLE コマンドでクラスタからすべての表を削除してから、DROP CLUSTER コマンドを発行してください。

ORA-00952 GROUP キーワードがありません。

原因：現在、グループは実装されていません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-00953 索引名が指定されていないか、または無効です。

原因：CREATE INDEX、DROP INDEX または VALIDATE INDEX 文で、索引名が指定されていないか、または無効です。

処置：INDEX キーワードの後に、有効な索引名を指定してください。既存の索引を削除または検証する場合は、データ・ディクショナリを検索して名前を調べてください。新しい索引を作成する場合は、再試行の前に構文に誤りがないことを調べてください。

ORA-00954 IDENTIFIED キーワードがありません。

原因：GRANT CONNECT 文に IDENTIFIED キーワードが指定されていません。

処置：構文を調べて、最後のユーザー名の後に IDENTIFIED キーワードを指定してください。書式は次のとおりです。

```
GRANT CONNECT TO user-list IDENTIFIED BY password-list;
```

ORA-00955 すでに使用されているオブジェクト名です。

原因：すでに存在するデータベース・オブジェクト（表、ビュー、クラスタ、索引、シノニムなど）を作成しようとしてしました。ユーザーのデータベース・オブジェクトには、一意の名前を付ける必要があります。

処置：データベース・オブジェクトに一意の名前を入力するか、既存のオブジェクトを変更または削除して、再使用できるようにしてください。

ORA-00956 監査オプションがないか、または無効です

原因：AUDIT または NOAUDIT コマンドの後に、有効なオプションまたはキーワード ALL が指定されていません。たとえば、表を監査する場合、ALTER、AUDIT、COMMENT、DELETE、GRANT、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、SELECT、UPDATE などのオプションを指定する必要があります。

処置：構文を修正してください。

ORA-00957 列名が重複しています。

原因：CREATE 文または INSERT 文の中で、1つの列名が2度指定されました。表、ビューまたはクラスタで、列名は一意である必要があります。

処置：CREATE 文で、どちらかの列名を新しい一意の列名に変更してください。INSERT 文の場合は、重複する名前の片方を削除してください。

ORA-00958 CHECK キーワードがありません。

原因：CREATE VIEW 文の WITH OPTION 句では、WITH キーワードの後に CHECK キーワードを続けて指定する必要があります。

処置：構文を調べて、必要な箇所に CHECK キーワードを挿入してから、文を再試行してください。

ORA-00959 表領域 '*string*' は存在しません

原因：文で存在しない表領域名を指定しました。

処置：存在する表領域の名前を入力してください。表領域名のリストについては、データ・ディクショナリを参照してください。

ORA-00960 選択リストに未確定の列名があります。

原因：ORDER BY 句で指定している列名が、選択リストの複数の列と一致しています。

処置：重複する列名を選択リストから削除してください。

ORA-00961 日時 / 間隔の値が正しくありません。

ORA-00962 GROUP BY/ORDER BY 句が多すぎます

原因：GROUP BY 句または ORDER BY 句に 1001 個以上の式があります。

処置：GROUP BY 句または ORDER BY で使用する式を 1000 個以下にしてください。

ORA-00963 間隔の型がサポートされていません。

原因：サポートされてない間隔の型が検出されました。

処置：有効な間隔の型を使用してください。

ORA-00964 FROM リストに表名がありません。

原因：問合せの SELECT リストに指定した表が、FROM 句リストには指定されていません。

処置：表名の綴りを調べ、SELECT リストの各表名が FROM リストの表名と一致することを確認してから、文を再試行してください。

ORA-00965 * (アスタリスク) に対して列の別名は使用できません。

原因：SELECT リストのすべての列を返す関数 (*) に対して別名を使用しました。次に例を示します。

```
SELECT * COL_ALIAS FROM EMP;
```

処置：個別に列を指定するか、または、「*」に別名を指定しないでください。

ORA-00966 TABLE キーワードがありません。

原因： LOCK 文を指定しましたが、TABLE キーワードがないか、綴りが誤っているか、または位置が誤っています。LOCK 文は、LOCK TABLE *tablename* で始める必要があります。

処置： 構文を修正してください。

ORA-00967 WHERE キーワードがありません。

原因： SELECT 文の WHERE キーワードが欠落しているか、綴りが誤っているか、または位置が誤っています。

処置： 構文を修正してください。

ORA-00968 INDEX キーワードがありません。

原因： CREATE UNIQUE INDEX または VALIDATE INDEX 文の INDEX キーワードが欠落しているか、綴りが誤っているか、または位置が誤っています。

処置： 構文を修正してください。

ORA-00969 ON キーワードがありません。

原因： GRANT、REVOKE または CREATE INDEX 文の ON キーワードが欠落しているか、綴りが誤っているか、または位置が誤っています。

処置： 構文および綴りを調べ、必要な箇所に ON キーワードを使用してください。

ORA-00970 WITH キーワードがありません。

原因： WITH キーワードを付けずに START キーワードが指定されました。ツリー構造の間合せて START WITH 句を使用する場合は、キーワードは両方とも必要になります。

処置： START キーワードを START WITH キーワードに変更して、文を再試行してください。

ORA-00971 SET キーワードがありません。

原因： UPDATE 文の SET キーワードが欠落しているか、綴りが誤っているか、または位置が誤っています。

処置： 構文および綴りを調べ、更新される表名の後に SET キーワードを使用してください。

ORA-00972 識別子が長すぎます。

原因： スキーマ・オブジェクトの名前が 31 文字以上です。スキーマ・オブジェクトとは、表、クラスタ、ビュー、索引、シノニム、表領域、ユーザー名などです。

処置： 名前を 30 文字以下にしてください。

ORA-00973 行件数の見積りが無効です。

ORA-00974 PCTFREE 値（パーセンテージ）が無効です。

原因：CREATE INDEX 文に指定された空き領域のパーセンテージが、0 ～ 100 の間ではありません。PCTFREE 値が 0 の場合は、ブロック全体を使用できます。値が 100 の場合は、データをこれ以上挿入できないので無効です。デフォルト値は 10 です。

処置：PCTFREE 値を 0 ～ 100 の間に指定し、文を再実行してください。

ORA-00975 日付と日付の加算はできません。

原因：2 つの日付フィールドを同時に加算しようとしてしました。日付は、数値フィールドのみに加算できます。他の日付フィールドには加算できません。

処置：Oracle の TO_NUMBER 関数を使用して、片方の日付フィールドを数値フィールドに変換してから、もう片方の日付フィールドにそれを加算してください。

ORA-00976 LEVEL、PRIOR または ROWNUM はここでは使用できません

原因：このコンテキストにおいて、PRIOR 句、擬似列 LEVEL または ROWNUM を使用することは不適切です。

処置：SQL 文の構文を調べて、キーワード PRIOR、LEVEL または ROWNUM を削除または再配置してください。

ORA-00977 監査オプションが重複しています。

原因：AUDIT 文または NOAUDIT 文に、同じオプションが 2 度以上指定されました。

処置：他の監査オプションを指定せずに ALL を指定するか、または重複する監査指定を削除してください。

ORA-00978 GROUP BY 句が指定されずにグループ関数がネストしています。

原因：グループ関数（AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など）が別のグループ関数（たとえば、MAX (COUNT(*)) など）で、対応する GROUP BY 句を指定しないで使用されています。

処置：GROUP BY 句を指定するか、または不要なレベルのネストを削除してください。

ORA-00979 GROUP BY の式ではありません

原因：GROUP BY 句に、SELECT 句中のすべての式は含まれていません。グループ関数 AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などに含まれない SELECT 式は、GROUP BY 句の中にリストされている必要があります。

処置：GROUP BY 句に、グループ関数引数でないすべての SELECT 式を含めてください。

ORA-00980 シノニム変換が無効です

原因: 使用したシノニムは、存在しない表、ビューまたはシノニムに基づいています。

処置: シノニムが参照するオブジェクトの名前でシノニムを置き換えるか、またはシノニムを再作成して、有効な表、ビューまたはシノニムを参照するようにしてください。

ORA-00981 表およびシステム監査オプションは混在できません。

原因: 1 つの AUDIT 文中に、表およびシステム範囲のオプションが両方指定されています。

処置: AUDIT コマンドの構文を調べて、1 つ以上の AUDIT 文を再試行してください。

ORA-00982 正符号がありません。

原因: 結合条件の中に左カッコがありますが、その後に正符号 (+) がありません。通常、結合条件中の左カッコは外部結合を指定するため、後に正符号が続きます。結合処理で、ある列に対して外部結合を指定するには、結合条件の列参照の後に、カッコで囲んで正符号 (+) を指定する必要があります。

処置: SQL 構文を修正して、文を再試行してください。

ORA-00984 ここでは列は使用できません。

原因: INSERT 文の VALUES 句のように、式の認められていない位置に列名が使用されました。

処置: 文の構文を調べて、適切な位置に列名のみを使用するようにしてください。

ORA-00985 プログラム名が無効です。

原因: 構文エラーの可能性あります。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00986 グループ名が指定されていないか、または無効です。

原因: 構文エラーの可能性あります。

処置: 構文を修正してください。

ORA-00987 ユーザー名が指定されていないか、または無効です。

原因: GRANT 文にユーザー名が指定されていません。または、指定されたユーザー名のいずれかが無効です。GRANT 文では、有効なユーザー名をキーワード TO の後に続けて指定し、ユーザーを定義する必要があります。ユーザー名は、英字で始まり、英数字および特殊文字 \$、_、# のみで構成され、30 文字以下である必要があります。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲んでください。また、予約語は指定しないでください。

処置: GRANT 文に、有効なユーザー名またはユーザー名のリストをキーワード TO の後に続けて指定してください。

ORA-00988 パスワードが指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 文にパスワードの数より多いユーザー名が指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、有効なパスワードを 1 つ指定する必要があります。

処置：各ユーザー名に対して有効なパスワードを 1 つ入力してください。

ORA-00989 ユーザー名に対するパスワードが多すぎます。

原因：GRANT 文にユーザー名の数より多いパスワードが指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、パスワードは 1 つのみ入力できます。

処置：ユーザー名およびパスワードの数を同一にして入力してください。

ORA-00990 権限が指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 権限文に権限が指定されていないか、指定された権限の 1 つが無効です。

処置：SELECT、INSERT、DELETE、UPDATE、ALTER、INDEX、REFERENCES、ALL などの有効な権限を 1 つ以上入力してください。複数の権限を付与する場合は、リスト内にカンマ (,) で区切って入力してください。または、ALL キーワードを指定すると、すべての権限を付与できます。

ORA-00991 MAC の権限のみプロシージャに付与されます。

原因：オブジェクト権限または MAC 以外のシステム権限がプロシージャに付与されました。

処置：PROCEDURE 句を使用して、MAC 権限のみを付与してください。

ORA-00992 REVOKE コマンドの書式が無効です。

原因：入力された REVOKE コマンドの書式が無効です。REVOKE コマンドには 2 つの書式があります。第 1 の書式は、ユーザーのデータベース・アクセス権限の取消しに使用されます。第 2 の書式は、ユーザーのオブジェクト権限の取消しに使用されます。

処置：コマンド構文を調べ、文を再試行してください。

ORA-00993 GRANT キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、GRANT キーワードを指定せずに WITH キーワードが指定されました。権限および他のユーザーに同権限を付与する許可をユーザーに付与するには、GRANT 文の終わりに WITH GRANT OPTION キーワードを指定する必要があります。

処置：WITH キーワードを WITH GRANT OPTION キーワードに変更して、文を再試行してください。

ORA-00994 OPTION キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、OPTION キーワードを伴わない WITH GRANT キーワードが指定されました。

処置：WITH GRANT キーワードを WITH GRANT OPTION キーワードに変更して、文を再試行してください。

ORA-00995 シノニムの識別子が無効です。

原因：CREATE SYNONYM 文または DROP SYNONYM 文中のシノニム名が欠落しているか、無効です。

処置：構文と綴りを調べてください。どちらの文にも、キーワード SYNONYM の直後に有効なシノニム名を指定してください。有効なシノニム名は、英字で始め、英数字および特殊文字 \$、_、# で構成し、30 文字以内にしてください。また、予約語は指定しないでください。

ORA-00996 連結演算子は | ではなく || です。

原因：1 本の縦線 (|) で連結を指定しようとしたましたが、連結演算子は 2 本の縦線 (||) です。

処置：連結する場合は、2 本の縦線 (||) を入力してください。連結でなければ、1 本の縦線 (|) は削除してください。

ORA-00997 LONG データ型は使用できません。

原因：関数あるいは DISTINCT、WHERE、CONNECT BY、GROUP BY または ORDER BY 句で、LONG データ型の値が使用されました。LONG 値は、SELECT 句のみで使用できます。

処置：関数または句から LONG 値を削除してください。

ORA-00998 式に列の別名を指定する必要があります

原因：CREATE VIEW 文で式または関数を使用していますが、対応する列名が指定されていません。式または関数をビューで使用する場合は、そのビューに対するすべての列名を CREATE VIEW 文に明示的に指定する必要があります。

処置：ビュー内の各列について、ビュー名の後にカッコで囲んで列名を入力してください。

ORA-00999 ビュー名が無効です。

原因：CREATE VIEW 文のビュー名が欠落しているか、無効です。

処置：有効なビュー名を CREATE VIEW の後に指定してください。有効なビュー名は、英字で始め、英数字および特殊文字 \$、_、# で構成し、30 文字以内にしてください。また、予約語は指定しないでください。これ以外の文字を使用する場合は、二重引用符で囲んでください。

ORA-01000 最大オープン・カーソル数を超過しました

原因: ホスト言語プログラムがオープンしようとしているカーソルの数が多すぎます。1 ユーザー当たりのカーソルの最大数は、初期化パラメータ OPEN_CURSORS によって決定されています。

処置: プログラムを変更して、使用するカーソルの数を減らしてください。繰り返しエラーが発生する場合は、Oracle を停止して、OPEN_CURSORS の値を大きくしてから、Oracle を再起動してください。

ORA-01001 カーソルが無効です。

原因: ホスト言語のプログラム・コールが無効なカーソルを指定したか、プリコンパイラ・コマンドの MAXOPENCURSORS オプションの値が小さすぎます。SQL、DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXEC、FETCH、CLOSE などのコールで参照される前に、OOPEN コールを使用してすべてのカーソルをオープンしておく必要があります。ログイン・データ領域 (LDA) は、OLON または OLOGON を使用して定義しておく必要があります。LDA が定義されていない場合、OPEN、COM、CON、ROL および LOGOFF の各コールに対して、このメッセージが出力されます。

処置: エラーとなったコール文を確認してください。必要に応じて、正しい LDA 領域を指定するか、カーソルをオープンしてください。カーソルに問題がなければ、プリコンパイルの前に MAXOPENCURSORS オプションの値を大きくしてください。

ORA-01002 フェッチ順序が無効です。

原因: ホスト言語プログラムの FETCH コールの発行順序が誤っています。フェッチの前に parse-and-execute コールが正常に発行される必要があります。すべてのレコードのフェッチ後に、アクティブ・セットから FETCH を実行しようとする、このエラーが発生する場合があります。または、コミット後の SELECT FOR UPDATE カーソルからのフェッチによってエラーが発生する場合があります。また、PL/SQL カーソル・ループが暗黙にフェッチを行うとエラーの原因となる場合もあります。

処置: データをフェッチする前に、SQL 文を解析して実行してください。

ORA-01003 解析された文がありません。

原因: ホスト言語プログラム・コールがカーソルを参照しましたが、対応する解析済の SQL 文がありません。単一の SQL コール (たとえば OSQL3) を使用して、SQL 文を Oracle に渡し、文とオープン・カーソルを対応させる必要があります。DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXECUTE および FETCH コールのいずれかで参照される場合、カーソルには、対応する SQL 文が必要です。

処置: SQL コール (たとえば OSQL) を実行して、必要な SQL 文を渡してから、カーソルを参照してください。

ORA-01004 デフォルトのユーザー名は使用できません。ログオンは拒否されました。

原因: 自動ログオンをサポートしていないシステムで、この機能を使用しようとした。

処置: 完全なユーザー名およびパスワードを指定して、Oracle にログオンしてください。

ORA-01005 パスワードに NULL が入力されました: ログオンは拒否されました

原因: ログオンで指定したパスワードは無効です。

処置: 有効なパスワードを指定してください。

ORA-01006 バインド変数がありません。

原因: 対応する SQL 文中にリストされていない変数に対して、プログラムから BIND コールが発行されました。BIND コール (OBIND または OBINDN) では、SQL 文のコロン (:) またはアンパサンド (&) の接頭辞が付いている変数のみを参照できます。このエラーは、プリコンパイラ・プログラムおよび関連するライブラリ (SQLLIB) 間の不一致が原因で発生することもあります。

処置: BIND コールを変更して、対応付けられた SQL 文に指定された置換変数の 1 つを参照するようにしてください。

ORA-01007 変数が選択リストにありません。

原因: SELECT 句にリストされていない変数を参照しました。OCI の場合、位置パラメータに対して渡された数が 0 以下か、あるいは DESCRIBE、NAME または DEFINE コールの SELECT 句内の変数の数より大きい場合に、このエラーが発生することがあります。また、SQL*Forms または SQL*Report では、SELECT 句に指定した数より多くの変数を INTO 句に指定すると、このエラーが発生します。

処置: 示された問題のうち、どれが障害を発生させているかを判別し、適切な処置を実行してください。

ORA-01008 バインドされていない変数があります。

原因: 置換変数を含む SQL 文を実行したとき、バインドされない変数が残りました。SQL 文を実行するとき、置換変数には置換される値が必要です。

処置: OCI で OBIND または OBINDN コールを使用して、必要な値を置換してください。

ORA-01009 必須パラメータがありません。

原因: ホスト言語プログラム・コールによって、すべての必須パラメータが渡されているとはかぎりません。

処置: コールの構文を調べて、すべての必須パラメータを入力してください。

ORA-01010 OCI 操作が無効です。

原因：原因は次のいずれかです。

- 無効な OCI 操作を試行しました。
- リリース 7.1 以上のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用し、環境変数 ORA_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状態で、リリース 7.0 以下の Oracle Server に接続しようとした。
- リリース 7.1 以上の Oracle Server に接続し、初期化パラメータ DBLINK_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状態で、リリース 7.0 以下の Oracle Server を示すデータベース・リンクを使用しようとした。

処置：原因に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- 無効な OCI 操作を使用しないでください。
- 分散データベースの暗号化された接続パスワードを使用しない場合は、ORA_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化された接続パスワードを使用する場合は、すべての Oracle Server をリリース 7.1 以上にアップグレードしてください。
- 分散データベースの暗号化されたデータベース・リンクを使用しない場合は、DBLINK_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化されたデータベース・リンクを使用する場合は、すべての Oracle Server をリリース 7.1 以上にアップグレードしてください。

ORA-01011 V6 サーバーと交信するときは、V7 互換モードは使用できません。

原因：Oracle バージョン 6 に接続しているときに、Oracle7 の互換モードを使用しようとした。

処置：バージョン 6 の SQL 言語タイプを使用してください。必要に応じてバージョン 6 の SET COMPATIBILITY コマンドを使用してください。

ORA-01012 ログオンされていません。

原因：Oracle にログオンせずに、ホスト言語プログラムが OLON または OLOGON 以外の Oracle コールを発行しました。このエラーは、ユーザー・プロセスが接続されているインスタンスがプロセスを強制的に切断して終了した後に、このユーザー・プロセスがデータベースにアクセスしようとする場合と発生する場合があります。

処置：OLON または OLOGON をコールして Oracle にログオンした後に、Oracle コールを発行してください。インスタンスが再起動されたら、処理を再試行してください。

ORA-01013 ユーザーによってカレント操作の取消が要求されました

原因：ユーザーが CTRL-C (Control-C) または他の取消し操作によって、Oracle の操作を中断しました。カレント操作は強制的に終了されます。これは情報メッセージです。

処置：次の操作を続行してください。

ORA-01014 Oracle の停止処理中です

原因: インスタンスの停止処理中に、ユーザーが Oracle にログインしようとしてしました。停止処理中は、Oracle にログインできません。

処置: Oracle が起動した後で、ログインしてください。

ORA-01015 ログオンが再帰的にコールされました

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01016 フェッチ後のみこのファンクションをコールできます

原因: カーソルが無効な状態です。

処置: フェッチ後、このファンクションをコールする前に、適切な OCI/UIPI ファンクションをコールしてください。

ORA-01017 ユーザー名 / パスワードが無効です: ログオンは拒否されました

原因: Oracle にログオンするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。ユーザー名およびパスワードは、GRANT CONNECT 文に指定したものである必要があります。ユーザー名およびパスワードを同時に入力する場合の書式は、ユーザー名 / パスワードです。

処置: 有効なユーザー名およびパスワードの組合せを、正しい書式で入力してください。

ORA-01018 LONG データ型の列ではありません。

原因: LONG フェッチ・オプションを使用してデータをフェッチしようとしてしましたが、指定した列は LONG ではありません。

処置: LONG フェッチ・オプションを指定しないでフェッチを再実行するか、LONG 列で表を作成してください。

ORA-01019 ユーザー側のメモリーを割り当てることができません

原因: ユーザー側のメモリー・アロケートがエラーを返しました。

処置: プロセス・ヒープ・サイズを大きくするか、または古いコール・セットに切り替えてください。

ORA-01020 コンテキストの状態が不明です。

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01021 無効なコンテキスト・サイズが指定されました

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01022 この構成では、データベース操作はサポートされていません。

原因: 通信している 2 つの Oracle Server に対して、データベース操作がユーザー・プログラミング・インタフェース (UPI) に一致しませんでした。

処置: Oracle Server をアップグレードするか、またはユーザー側のアプリケーションを新しいライブラリに再リンクしてください。この問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01023 カーソル・コンテキストが見つかりません (カーソル番号が無効です)。

原因: カーソル番号が有効なオープン・カーソルではありません。

処置: カーソルがオープンしていることを確認してください。

ORA-01024 OCI コールのデータ型が無効です。

原因: OCI プログラム・コールで無効なデータ型が指定されました。OCI コールでは、Oracle データ型に 1 ～ 7 までの数を指定します。

処置: データ型の記述を確認して、データ型に正しい数を入力してください。

ORA-01025 UPI パラメータの値が有効範囲外です。

原因: UPI 関数に対する整数パラメータが有効範囲外です。

処置: 通常、これは Oracle DBMS 上に組み込まれたツールのエラーです。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01026 バインド・リストにサイズが 4000 を超える複数バッファが存在しています。

原因: バインド・リストに複数の長いバッファが存在します。

処置: 通常の列にバインドされているバインド変数のバッファ・サイズを、3999 以下に変更してください。

ORA-01027 データ定義操作ではバインド変数は使用できません。

原因: SQL データ定義操作でバインド変数を使用しようとしてしました。

処置: バインド変数は許可されていません。

ORA-01028 2 タスクで内部エラーが発生しました。

原因: LONG メッセージの送信を受け取りましたが、カーソル・コンテキストがありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01029 2 タスクで内部エラーが発生しました。

原因: LONG がないときに、LONG の再送信の要求を受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01030 SELECT ... INTO 変数がありません

原因: バインド・コールに指定された SELECT... INTO が、SQL 文の変数に対応していません。

処置: 文を修正できない場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01031 権限が不足しています。

原因: 適切な権限のないユーザーが、現行のユーザー名またはパスワードを変更しようとしてしました。必要なオペレーティング・システム権限がないデータベースをインストールしようとする、このエラーが発生します。

処置: データベース管理者にこの操作を実行してもらうか、または必要な権限を付与してもらってください。

ORA-01032 ユーザー ID が存在しません。

原因: エクスポート / インポートに関連する内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01033 Oracle の初期化または停止中です

原因: Oracle の起動中または停止中にログオンしようとしてしました。

処置: 数分間待つてから、操作を再試行してください。

ORA-01034 Oracle は使用できません。

原因: Oracle は起動していません。次の原因が考えられます。

- 割り当てられていたより多くの領域が SGA に必要になっている。
- インスタンスを指定するオペレーティング・システム環境変数が正しく定義されていない。

処置: 付随するメッセージを参照して、原因を確認し、その他のメッセージで示されている問題を修正してください。Oracle が初期化されている場合は、いくつかのオペレーティング・システム上で、Oracle が正しくリンクされていることを確認してください。プラットフォーム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-01035 Oracle は RESTRICTED SESSION 権限を持つユーザーのみ使用可能です。

原因: インスタンスが制限モードで起動されているため、ログインは禁止されています。RESTRICTED SESSION システム権限を有するユーザーのみがログインできます。

処置: 制限オプションを付けずに Oracle を再起動するように要求するか、または RESTRICTED SESSION システム権限を取得してください。

ORA-01036 変数の名前 / 数が無効です。

原因: ユーザー側にバインド・コンテキストを見つけることができません。

処置: バインドされている変数が SQL 文に存在することを確認してください。

ORA-01037 カーソル・メモリの最大値を超過しました

原因: カーソルの使用可能なすべてのメモリを消費する複雑な SQL 文を処理しようとしていました。

処置: 複雑な SQL 文を単純にしてください。あるいは、NO_EXPAND ヒントを使用して、WHERE 句に OR 条件または INLISTS を指定した問合せに対して、コストベース・オブティマイザが OR 拡張を考慮しないようにしてください。通常、コストベース・オブティマイザは OR 拡張の使用を考慮し、使用しない場合よりコストが低くなると判断したときに、このメソッドを使用してください。ヒントの使用については、『Oracle9i データベース・パフォーマンス・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-01038 データベース・ファイルのバージョン string は Oracle バージョン string では書き込めません。

原因: 古い書式でデータ・ファイルのヘッダーに書き込もうとしました。新しい書式は、現在のソフトウェア・バージョンに互換性があることをデータベースが確認した後で使用可能です。

処置: データベースをオープンして新しいファイル書式にしてから、操作を繰り返してください。データベースをオープンする前にその操作が必要な場合は、前のリリースのソフトウェアを使用して操作してください。

ORA-01039 ビューの基礎オブジェクトに対する権限が不十分です。

原因: 他のユーザーのビューの基礎オブジェクトに必要な権限を持たずに、そのビューの実行計画を表示しようとしていました。

処置: 必要な権限を取得するか、無効な操作を実行しないようにしてください。

ORA-01040 パスワードに無効な文字が使用されました: ログオンが拒否されました

原因: パスワードにマルチバイト文字があるか、US7ASCII 範囲にない文字があります。

処置: 有効な文字でパスワードを再送信してください。

ORA-01041 内部エラーが発生しました。hostdef エクステンションが存在しません。

原因: HSTDEF にある HSTDEF エクステンションへのポインタが NULL です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01042 オープン・カーソルを持つセッションを切り離すことはできません。

原因: オープン・カーソルを持つセッションを切り離そうとしました。

処置: セッションを切り離す前に、すべてのカーソルをクローズしてください。

ORA-01043 ユーザー・サイドのメモリ異常 [string],[string],[string],[string]

原因: アプリケーション・コードが、Oracle が使用するユーザー・メモリの一部を破損させました。

処置: アプリケーション・コードがメモリを上書きしていないことを確認してください。

ORA-01044 変数にバインドされたバッファのサイズ *string* が最大値 *string* を超えています

原因: 合計サイズが許可されている最大サイズを超えたバッファをバインドしようとしていました。配列の合計サイズは、次のように計算されます。

`(element_size)*(number of elements)`

処置: バッファ・サイズを小さくしてください。

ORA-01045 ユーザー *string* には CREATE SESSION 権限がありません: ログオンが拒否されました

原因: CREATE SESSION 権限を持たないユーザー ID で接続しようとしていました。

処置: ユーザーに CREATE SESSION 権限を付与してください。

ORA-01046 コンテキスト領域を拡張するための領域を獲得できません。

原因: 必要な領域をオペレーティング・システムが割り当てられないため、Oracle は現行の領域をこれ以上拡張できません。このメッセージに続いて、システム固有のエラー・メッセージが出力されます。

処置: カーソルをいくつかクローズして、再試行してください。または、オペレーティング・システムの割当て量を確認して、さらに多くの仮想メモリーを使用できるか調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01047 上のエラーは、スキーマ=*string*、パッケージ=*string*、プロシージャ=*string* で発生しました

原因: このメッセージは以前に出力されたメッセージの詳細を表示しています。

処置: 以前に出力されたメッセージから、原因と処置を調べてください。

ORA-01048 指定されたプロシージャがコンテキストで見つかりません。

原因: 遅延 RPC で指定されているプロシージャ・ユーザーが存在しません。

処置: プロシージャが存在し、レプリケーション・プロセスを参照できることを確認してください。

ORA-01049 名前によるバインドはストリーム RPC ではサポートされていません。

原因: 新しいサーバー・バージョンが、古いサーバー・バージョンではサポートされていない操作を要求するときにこのエラーが発生します。

処置: 1 つ以上の Oracle Server をアップグレードするか、またはユーザー・アプリケーションを新しいライブラリに再リンクしてください。

ORA-01050 コンテキスト領域をオープンするための領域を取得できません

原因: 必要な領域をオペレーティング・システムが割り当てられないため、Oracle は新しいコンテキスト領域をオープンできません。このメッセージに続いて、システム固有のエラー・メッセージが出力されます。

処置: カーソルをいくつかクローズして、再試行してください。または、オペレーティング・システムの割当て量を確認して、さらに多くの仮想メモリーを使用できるか調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01051 遅延 RPC バッファの書式が無効です

原因: SYS.DEF\$_CALL にある遅延 RPC が破損しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01052 宛先 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が必要ですが、未指定です。

原因: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータが 2 に設定されているときに、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの有効な宛先が指定されていませんでした。

処置: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの値を指定するか、または LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータの値を 1 に設定してください。

ORA-01053 ユーザー記憶域のアドレスが読み込めません

原因: バインド変数または他のユーザー領域を Oracle で読み込めませんでした。

処置: 有効なユーザー・バッファ上で正しくバインドしていることを調べて、操作を再試行してください。

ORA-01054 ユーザー記憶域のアドレスに書き込めません

原因: 定義 (FETCH... INTO または SELECT... INTO) 変数または他のユーザー領域に書き込めません。

処置: INTO 変数およびインジケータが正しく指定されていることを調べて、操作を再試行してください。

ORA-01057 ユーザー・イグジット中のブロック領域への参照が無効またはあいまいです

原因: ユーザー・イグジット中の block.field の識別子に対する参照が、正しくないか、あいまいです。綴りが誤っているか、不完全である可能性があります。

処置: 構文と識別子の綴りを調べてください。その後、参照を修正してください。

ORA-01058 新規 Upi インタフェースの内部エラーです

原因: 存在しない HSTDEF エクステンションを削除しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01059 バインドまたは実行の前に解析する必要があります。

原因：クライアント・アプリケーションが、文の解析前に変数をバインドしようとしたか、または PL/SQL ブロックでオープンされたカーソルを実行しようとした。

処置：バインドまたは実行前に、文が解析されるようにしてください。

ORA-01060 配列のバインドまたは実行はできません。

原因：クライアント・アプリケーションがカーソルの配列をバインドしようとしたか、またはタイプ・カーソルのバインド変数を使用して PL/SQL ブロックに対して繰り返し実行しようとした。

処置：単一カーソルをバインドするか、PL/SQL ブロックを 1 回のみ実行してください。

ORA-01061 V7 のクライアント・アプリケーションを使って V8 のサーバーは起動できません

原因：バージョン 7 以下のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用して、バージョン 8 以上のサーバーを起動しようとした。

処置：バージョン 8 以上のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用してください。

ORA-01062 定義されたバッファにメモリーを割り当てることができません

原因：現在のプラットフォームに対する最大バッファ・サイズを超えています。

処置：より小さいバッファ・サイズでピース単位のフェッチを使用してください。

ORA-01070 サーバーとして、旧バージョンの Oracle を使用しようとしています

原因：古い Oracle Server を使用しようとした。

処置：サーバーをアップグレードしてください。

ORA-01071 Oracle を起動しないで操作を実行することはできません。

原因：Oracle を起動する前に操作を実行しようとした。

処置：Oracle を起動してください。その後、操作を再試行してください。

ORA-01072 Oracle を停止できません：Oracle は稼働していません

原因：Oracle を停止しようとしたが、Oracle は稼働していません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01073 致命的な接続エラーが発生しました：コール型が認識できません

原因：無効な内部操作を行おうとした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01074 Oracle を停止できません: ログイン・セッション内です - ログオフしてください

原因: ログイン・セッション内で Oracle を停止しようとしてしました。

処置: Oracle を停止する前にログオフしてください。

ORA-01075 すでにログオンしています。

原因: すでにログオンしているのにログオンしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01076 1 つのプロセスに対する複数ログオンはサポートされていません。

原因: Oracle は 1 つのプロセスに対する複数ログオンをサポートしていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01077 バックグラウンド・プロセス初期化に失敗しました

原因: Oracle バックグラウンド・プロセスの初期化中に障害が発生しました。

処置: 付随するメッセージ・スタックまたはトレース・ファイル中の診断情報を参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01078 システム・パラメータの処理に失敗しました

原因: システム起動時の初期化パラメータの処理に失敗しました。

処置: 診断情報の詳細は、エラー・スタックを参照してください。

ORA-01079 Oracle データベースが正しく作成されていません。操作は中断されました

原因: データベースまたは制御ファイル作成時のエラーです。

処置: データベースが最初に作成されたとき、または制御ファイルが再作成されたときに表示されたメッセージを確認してください。適切な処置を行い、データベースまたは制御ファイルを再作成してください。

ORA-01080 Oracle の停止中にエラーが発生しました

原因: システムの停止時に障害が発生しました。

処置: 付随するメッセージ・スタックの診断情報を参照し、適切な処理を行ってください。

ORA-01081 すでに稼働中の Oracle は起動できません - まず停止してください

原因: すでに稼働中の Oracle を起動しようとしてしました。

処置: Oracle を再起動する場合は、一度停止してください。

ORA-01082 row_locking = always' はトランザクション処理オプションです

原因: 「row_locking = always」が INIT.ORA ファイルに指定されています。この機能は、トランザクション処理オプションのない Oracle ではサポートしていません。

処置: INIT.ORA ファイルから指定を削除するか、「default」または「intent」に設定してください。

ORA-01083 パラメータ値 "string" は他のインスタンスのパラメータ値と矛盾しています

原因: 指定された初期化パラメータ値は、パラレル構成のすべてのインスタンスと同じである必要があります。

処置: 他の制御ファイルの値と一致するように、初期化パラメータ・ファイルの値を変更してください。

ORA-01084 OCI コールの引数が無効です。

原因: エラーの原因となった OCI コールには、無効な値の引数があります。

処置: 有効な引数値を使用してください。詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』および適切なプログラミング言語のドキュメントを参照してください。

ORA-01085 遅延 RPC のエラーを "string.string.string" に送ります。

原因: 指定したプロシージャが遅延リモート・プロシージャ・コールとして実行されたときに、エラーが検出されました。

処置: 前に発生したエラーの原因を修正してください。

ORA-01086 セーブポイント 'string' は設定されていません

原因: 一度も設定していないセーブポイントに対してロールバックしようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01087 Oracle を起動できません - 現在ログオンしています

原因: 現在 Oracle にログオンしているユーザーが Oracle を起動しようとした。

処置: ログオフしてください。その後、STARTUP コマンドを発行してください。

ORA-01088 アクティブ・プロセスがあるので Oracle を停止できません

原因: ユーザーがインスタンスにログインしています。

処置: すべてのユーザーがログオフするまで待機するか、または SHUTDOWN IMMEDIATE を使用してください。

ORA-01089 即時停止処理中 - 操作はできません

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドが使用されました。実行中の操作は終了しました。

処置: インスタンスの再起動を待つか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-01090 停止処理中 - 接続はできません

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、SHUTDOWN コマンドが使用されました。Oracle への接続はできません。

処置: インスタンスの再起動を待つか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-01091 強制起動時にエラーが発生しました。

原因: 旧 SGA は破棄できません。

処置: 手作業で旧 SGA を削除してください。手順については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。その後、STARTUP コマンドを再実行してください。

ORA-01092 Oracle インスタンスが終了しました。強制的に切断されます

原因: 接続していたインスタンスが異常終了しました。SHUTDOWN ABORT による可能性があります。カレント・プロセスは、強制的にインスタンスから切断されました。

処置: 詳細は、アラート・ログを調べてください。データベース管理者に連絡して、インスタンスが再起動される時間を確認してください。インスタンスが再起動された後に再接続してください。

ORA-01093 ALTER DATABASE CLOSE は接続中のセッションがない場合にのみ実行できます

原因: インスタンスにログインしているセッションが、カレント・セッション以外に、1 つ以上存在しています。他のセッションがアクティブであるときに ALTER DATABASE CLOSE は実行できません。

処置: 他のセッションを見つけて切断してから、ALTER DATABASE CLOSE 文を再実行してください。また、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドを実行して、ユーザーをシステムから強制的に切断するか、または SHUTDOWN ABORT コマンドを使用して、ユーザーが切断されるのを待たずに、データベースを停止してください。

ORA-01094 ALTER DATABASE CLOSE を実行しましたが、接続できませんでした

原因: ALTER DATABASE CLOSE 文が実行中に、クローズ中のデータベースに接続しようとしてしました。

処置: データベースがオープンしているときに再接続してください。データベース管理者に連絡して、データベースがオープンされる時間を確認してください。

ORA-01095 DML 文は 0 行処理しました。

原因: OTEX() コールからの DML カーソルが実行時に 0 行処理しました。

処置: コール側でロールバックするか、またはメッセージを無視してカーソル配列中の残りのカーソルを実行してください。

ORA-01096 プログラムのバージョン (string) はインスタンス string と互換性がありません

原因: このプログラムは、接続しようとしているインスタンスとは異なるバージョンのサーバーにリンクされています。

処置: プログラムをインスタンスと同じバージョンの Oracle と再リンクするか、そのプログラムのバージョンのサーバーを使用してデータベースを再起動（強制起動）してください。

ORA-01097 トランザクションの処理中に停止できません - まずコミットまたはロールバックを実行してください

原因: トランザクションの処理中にデータベースを停止しようとしてしました。

処置: カレント・トランザクションをコミットまたはロールバックしてから、データベースを停止してください。

ORA-01098 LONG 挿入の際にプログラム・インタフェース・エラーが発生しました。

原因: TTCGETV コールが失敗するときの内部エラーのために、アプリケーション・プログラム・インタフェースが LONG 列を挿入または更新できません。たとえば、ネットワークの読み込みエラーまたはコールに渡されたパラメータは有効ではありません。

処置: 挿入または更新を再試行してください。

ORA-01099 単一プロセス・モードで起動したデータベースは共有モードではマウントできません

原因: 初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を TRUE に設定して、パラレル・モードでデータベースをマウントしようとしてしました。

処置: パラレル（共有）・モードでインスタンスを起動する前に、排他モードでデータベースをマウントするか、初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を FALSE に設定してください。

ORA-01100 データベースはすでにマウントされています。

原因: マウントしようとしているデータベースと同じ名前のデータベースを別のインスタンスがマウントしています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01101 作成中のデータベースは別のインスタンスによってマウントされています。

原因: 他のインスタンスに現在マウントされているデータベースと同じ名前のデータベースを作成しようとしています。

処置: データベース名を変更するか、他のインスタンスを停止してください。

ORA-01102 データベースを排他モードでマウントすることができません。

原因: いくつかの別のインスタンスが、排他または共有モードでマウントされたデータベースを使用しています。

処置: 他のインスタンスを停止するか、または互換性のあるモードでマウントしてください。

ORA-01103 制御ファイルのデータベース名 '*string*' は '*string*' ではありません

原因: 制御ファイルのデータベース名が、使用中のデータベース名と一致していません。

処置: 正しい制御ファイルを見つけるか、または使用中のデータベース名を変更してください。

ORA-01104 制御ファイルの数 (*string*) が *string* と一致しません

原因: このインスタンスに使用される制御ファイルの数が、既存のインスタンスの制御ファイルの数と一致しません。

処置: すべての制御ファイルがリストされていることを確認してください。

ORA-01105 マウントは別のインスタンスによるマウントと矛盾します。

原因: データベースをマウントしようとして、同じ名前別のインスタンスがデータベースをマウントしていることを検出しましたが、そのマウントは矛盾します。追加エラーにその理由が示されます。

処置: 付随するエラーを参照してください。

ORA-01106 ディスマウントする前にデータベースをクローズする必要があります

原因: クローズする前にデータベースをディスマウントしようとしてしました。

処置: データベースをクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-01107 メディア・リカバリを行うにはまずデータベースをマウントする必要があります

原因: データベースがマウントされていない状態で、メディア・リカバリを実行しようとしてしました。

処置: データベースをマウントしてください。

ORA-01108 ファイル *string* は、バックアップ中またはメディア・リカバリ中です。

原因: メディア・リカバリがファイルに適用中であるか、またはデータベースが NOARCHIVELOG モードでバックアップ中です。ファイルを通常のデータベース・アクセスまたはクラッシュ・リカバリには使用できません。

処置: メディア・リカバリ・セッションまたはバックアップを完了させるか取り消してください。

ORA-01109 データベースがオープンされていません。

原因: このコマンドを実行するには、データベースをオープンする必要があります。

処置: データベースをオープンして、コマンドを再試行してください。

ORA-01110 データ・ファイル *string*: '*string*'

原因: このメッセージは、他のエラー・メッセージに関係のあるファイル名を示しています。

処置: 問題の内容については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-01111 データ・ファイル名 *string* が不明です - 正しいファイルへの改名が必要です

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されたデータ・ファイルがありません。または、そのデータ・ファイルが作成される以前に保存された制御ファイルを使用して、BACKUP CONTROLFILE RECOVERY が行われました。

処置: 不明なファイルの名前を実際のファイルの名前に変更してください。

ORA-01112 メディア・リカバリが開始されていません

原因: メディア・リカバリを継続しようとしています、メディア・リカバリは開始されていませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01113 ファイル *string* はメディア・リカバリが必要です

原因: メディア・リカバリが必要なデータ・ファイルをオープンしようとした。

処置: メッセージに示されたデータ・ファイルをメディア・リカバリしてから、操作を再試行してください。

ORA-01114 ファイル *string* (ブロック番号 *string*) への書込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが保存されているデバイスが、オフラインになっている可能性があります。そのファイルがテンポラリ・ファイルの場合、そのデバイスは領域不足である可能性があります。これは、テンポラリ・ファイルのディスク領域が、ファイル作成時に割り当てられるとはかぎらないために発生する場合があります。

処置: デバイスへのアクセスをリストアするか、または不要なファイルを削除して、領域を解放してください。

ORA-01115 ファイル *string* (ブロック番号 *string*) からの読込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが保存されているデバイスが、オフラインになっている可能性があります。

処置: デバイスへのアクセスをリストアしてから、操作を再試行してください。

ORA-01116 データベース・ファイル *string* のオープンでエラーが発生しました。

原因: 通常、そのファイルにアクセスできないために発生します。

処置: データベース・ファイルが所定の位置にあり、アクセス可能であることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-01117 ファイル *string* はブロック・サイズ:*string* では追加できません: 制限値 *string*

原因: 許可されている最大のブロック・サイズを超える大きさのデータベース・ファイルを追加しようとした。

処置: ブロック・サイズを小さくして、操作を再試行してください。

ORA-01118 データベース・ファイルをこれ以上追加できません: 制限数 *string* を超過しました

原因: データベース・ファイルを追加しようとして失敗しました。ファイル数の制限を超えています。

処置: データベース領域がさらに必要な場合は、データベースをエクスポートしてから、データ・ファイル数の制限やファイル・サイズを大きくして、データベースを再作成してください。

ORA-01119 データベース・ファイル '*string*' の作成中にエラーが発生しました

原因: デバイスの領域が不十分です。

処置: 作成するファイルのサイズを小さくするか、使用可能な領域を確保できる別のデバイス上にファイルを割り当ててください。ファイル・サイズが文に指定されなかった場合は、デバイス上の使用可能な領域より小さいファイル・サイズを指定してください。

ORA-01120 オンライン・データベース・ファイル *string* は削除できません。

原因: オンラインのときに、データベース・ファイルを削除しようとしてしました。

処置: 削除する前に、ファイルをオフラインにしてください。

ORA-01121 データベース・ファイル *string* は改名できません- ファイルは使用中またはリカバリ中です

原因: オープン・インスタンスでオンラインのデータ・ファイルまたはリカバリ中のデータ・ファイルを、ALTER DATABASE RENAME を使用して名前を変更しようとしてしました。

処置: すべてのインスタンスでデータベースをクローズして、すべてのリカバリ・セッションを終了してください。

ORA-01122 データベース・ファイル *string* の照合検査でエラーが発生しました。

原因: このファイルの情報が、制御ファイルの情報と矛盾しています。理由については、付随するエラーを確認してください。

処置: データベース・ファイルおよび制御ファイルが、このデータベースに対して正しいファイルであることを確認してください。

ORA-01123 オンライン・バックアップを開始できません: メディア・リカバリが使用不能です

原因: オンラインの表領域のバックアップを開始しようとして失敗しました。メディア・リカバリが使用できないためです。

処置: メディア・リカバリを使用可能にして、この操作を再試行してください。

ORA-01124 データ・ファイル *string* はリカバリできません - ファイルは使用中またはリカバリ中です

原因: メディア・リカバリを行おうとしましたが、ファイルをリカバリできませんでした。オンラインで他のインスタンスがデータベースをオープンしているか、または他のプロセスがファイルのメディア・リカバリを行っています。

処置: メディア・リカバリを行わないでください。

ORA-01125 メディア・リカバリを使用不可にできません - ファイル *string* にはオンライン・バックアップが設定されています

原因: メディア・リカバリを使用不可にしようとしたが、オンライン・バックアップが実行中です。

処置: 問題のある表領域のバックアップを終了して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01126 データベースを排他モードでマウントする必要があります。この操作用にはオープンされていません。

原因: データベースが排他モードでマウントされていないため、操作が失敗しました。

処置: Oracle を停止してから、データベースを排他モードでマウントしてください。

ORA-01127 データベース名 '*string*' が文字制限数 *string* を超過しています

原因: 指定したデータベース名が長すぎます。

処置: 8 文字（バイト）以内のデータベース名を指定しなおして、操作を再試行してください。

ORA-01128 オンライン・バックアップを開始できません - ファイル *string* はオフラインになっています

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたが、ファイルの 1 つがオフラインです。

処置: 問題のあるファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行するか、またはコールド・バックアップを実行してください。

ORA-01129 ユーザーのデフォルト表領域または一時表領域が存在しません。

原因: ユーザーのデフォルト表領域または一時表領域が削除されています。

処置: デフォルト表領域または一時表領域を再度割り当ててください。

ORA-01130 データベース・ファイルのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* と互換性がありません。

原因: 指定されたデータベース・ファイルは、互換性のないバージョンの Oracle で作成されています。または、ファイルが無効であるか存在しません。

処置: Oracle を停止して、適切なバージョンを起動するか、またはデータ・ファイルに対する参照を確認して、データ・ファイルが存在することを確認してください。

ORA-01131 DB_FILES システム・パラメータ値 *string* が制限値 *string* を超過しています

原因: 初期化パラメータ DB_FILES に指定した値が大きすぎます。

処置: DB_FILES パラメータの値を小さくして、操作を再試行してください。

ORA-01132 データベース・ファイル名 '*string*' の長さが文字制限数 *string* を超過しています

原因: 指定したデータ・ファイル名が長すぎます。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01133 ログ・ファイル名 '*string*' の長さが文字制限数 *string* を超過しています

原因: 指定した REDO ログ・ファイル名が長すぎます。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01134 データベースは別のインスタンスにより排他モードでマウントされています。

原因: データベースにアクセスしようとして失敗しました。別のインスタンスによって、排他モードでマウントされているためです。

処置: 別のインスタンスを停止するか、あるいはそのインスタンスがデータベースをクローズするかまたは共有モードでマウントするまで待って、操作を再試行してください。

ORA-01135 DML/ 問合せでアクセスしているファイル *string* はオフラインです。

原因: オフラインのデータ・ファイルにアクセスしようとして失敗しました。

処置: データ・ファイルをオンラインに戻してください。

ORA-01136 ファイル *string* に指定したサイズ (*string* ブロック) は元のサイズの *string* ブロック未満です。

原因: ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文の AS 句にファイル・サイズが指定されましたが、そのサイズは、必要な大きさよりも小さいサイズです。

処置: サイズを大きくして、ファイルを作成してください。

ORA-01137 データ・ファイル *string* はオフラインにされています。

原因: オンラインにしようとしているオフラインのファイルに対して、ロックを取得できませんでした。ファイルをオフラインにしているインスタンスが、ロックを保持している可能性があります。

処置: 他のインスタンスが、ファイルのロックを解放するまで待ってください。

**ORA-01138 このインスタンスでデータベースをオープンするか、何もオープンしない必要
があります**

原因: データベースがこのインスタンスによってマウントされ、オープンされていないときに、別のインスタンスがデータベースをオープンしている場合、要求された操作は実行できません。

処置: オープン・インスタンスで操作を実行するか、このインスタンスでデータベースをオープンするか、または他のインスタンスでデータベースをクローズしてください。

ORA-01139 RESETLOGS オプションは不完全なデータベース・リカバリの後のみ有効です

原因: ALTER DATABASE OPEN で、RESETLOGS オプションが指定されましたが、不完全リカバリ・セッションがありません。

処置: RESETLOGS を指定しないで、ALTER DATABASE OPEN 文を再発行してください。

ORA-01140 オンライン・バックアップを終了できません - 全ファイルがオフラインです

原因: オンライン・バックアップを終了しようとしたときに、すべてのファイルがオフライン状態でした。

処置: 処置は必要ありません。オンライン・バックアップは、この表領域に対して終了する必要はありません。

ORA-01141 データ・ファイル *string* の改名でエラーが発生しました - 新規ファイル '*string*' は見つかりません

原因: 新しい名前のファイルが見つからないために、制御ファイル中のデータ・ファイル名を変更しようとして失敗しました。

処置: データ・ファイルの名前がオペレーティング・システムによって正しく変更されていることを確認して、再試行してください。

ORA-01142 オンライン・バックアップを終了できません - バックアップ中のファイルがありません

原因: オンライン・バックアップを終了しようとしたときに、ファイルが見つかりませんでした。

処置: 処置は必要ありません。オンライン・バックアップは、この表領域に対して終了する必要はありません。

ORA-01143 メディア・リカバリを使用不可にできません - ファイル *string* はメディア・リカバリが必要です

原因: メディア・リカバリを使用不可にしようとしたましたが、ファイルにメディア・リカバリが必要です。このため、メディア・リカバリを使用不可にできません。

処置: 問題のあるファイルをリカバリするか、またはそのファイルが属する表領域を削除して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01144 ファイル・サイズ (*string* ブロック) が最大値 *string* ブロックを超過しています

原因: 指定されたファイル・サイズが、最大許容サイズの値より大きくなっています。

処置: 小さいサイズを指定してください。

ORA-01145 メディアのリカバリが使用可能でないと即時にオフラインにできません。

原因: ALTER TABLESPACE ... OFFLINE IMMEDIATE または ALTER DATABASE DATAFILE ... OFFLINE は、データベースが ARCHIVELOG モードの場合のみ使用できます。

処置: 表領域をオフラインにするか、必要な操作の前に停止処理をしてください。データベースのバックアップ計画を見なおす必要があります。ARCHIVE LOG モードが使用可能な場合は、操作が実行されます。

ORA-01146 オンライン・バックアップを開始できません - ファイル *string* はすでにバックアップ中です

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたますが、オンライン・バックアップがデータ・ファイルの 1 つに対してすでに開始されていました。

処置: 最初のバックアップが終了してから次のバックアップを開始してください。

ORA-01147 SYSTEM 表領域ファイル *string* がオフラインです。

原因: SYSTEM 表領域に属するファイルを、データベース管理者がオフラインにしました。SYSTEM 表領域に属するすべてのファイルがオンラインとなりオープン可能になるまで、データベースは起動できません。

処置: ファイルをオンラインにしてください。

ORA-01148 Oracle Lock Manager がインストールされていないので PARALLEL ではデータベースをマウントできません。

原因: Oracle Lock Manager が存在しないにもかかわらず、データベースを PARALLEL でマウントしようとした。

処置: EXCLUSIVE モードでデータベースをマウントしてください。

ORA-01149 停止できません - ファイル *string* にオンライン・バックアップが設定されています

原因: 正常に停止しようとしたますが、オンライン・バックアップが実行中です。

処置: 問題のある表領域のバックアップを終了して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01150 書き込みを防止できません - ファイル *string* にオンライン・バックアップが設定されています。

原因: オンライン・バックアップの実行中に、表領域をオフラインまたは読取り専用にできません。この操作が許可されてしまうと、バックアップ終了時のファイル・ヘッダーの書き込みが実行されません。

処置: オンライン・バックアップを終了させてから、表領域をオフラインまたは読取り専用に設定してください。

ORA-01151 メディア・リカバリを使用してブロックのリカバリを行い、必要であればバックアップのリストアを行ってください

原因: クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリは、ブロックに変更を適用できませんでした。継続する変更ではなかったためです。これは、ブロックが破損し、リカバリ中に修正された場合に発生します。通常、このエラーは ORA-01172 とともに発生します。

処置: ORA-01172 には追加情報があります。ブロックを含むファイルに対して、データ・ファイルを対象としたリカバリを実行してください。これによって問題が解決されない場合は、バックアップからファイルをリストアし、再度リカバリを行ってください。

ORA-01152 ファイル *string* は十分に古いバックアップからリストアされていません。

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、データベースの一貫性のために適用する REDO ログ・ファイルの数が足りません。このファイルは、最後に適用された REDO ログより新しい情報を含んでいます。不完全リカバリを実行する前に、バックアップからファイルをリストアしなかったためにエラーが発生した可能性があります。

処置: データベースの一貫性が保たれた状態になるまで追加 REDO ログ・ファイルを適用するか、またはより古いバックアップからデータ・ファイルをリストアして、リカバリを繰り返してください。

ORA-01153 非互換のメディア・リカバリがアクティブです。

原因: 互換性のないメディア・リカバリを開始しようとしたか、あるいはメディア・リカバリまたは RMAN バックアップ中に RESETLOGS でオープンしようとした。同一のデータ・ファイルをリカバリしようとする場合、メディア・リカバリ・セッションには互換性がありません。不完全メディア・リカバリまたは RESETLOGS でのオープンは、どのメディア・リカバリとも互換性がありません。RMAN によるバックアップまたはリストアは、RESETLOGS でのオープンと互換性がありません。

処置: 他のメディア・リカバリ・セッションまたは RMAN バックアップを完了させるか取り消してください。

ORA-01154 データベースがビジーです。オープン、クローズ、マウント、ディスマウントは現在実行できません

原因: インスタンスがオープンまたはマウント状態であることを必要とする操作が進行中です。

処置: その操作の終了を待って、再試行してください。データベースを停止させる場合は、SHUTDOWN ABORT を実行してください。

ORA-01155 データベースは現在オープン、クローズ、マウント、ディスマウントのいずれかを実行中です。

原因: 実行しようとした操作は、インスタンスがこのメッセージで示しているいずれかの状態である場合、正常に終了しません。

処置: オープン、クローズ、マウントまたはディスマウントが終了するまで待って、再試行してください。データベースを停止させる場合は、SHUTDOWN ABORT を実行してください。

ORA-01156 現在処理中のリカバリ作業で、ファイルへのアクセスを必要とする可能性があります

原因: メディア・リカバリまたはインスタンス・リカバリが進行中です。リカバリでは、その操作で使用しようとしたファイルにアクセスが必要な場合があります。

処置: リカバリが終了するまで待って、再試行してください。

ORA-01157 データ・ファイル *string* を識別 / ロックできません - DBWR トレース・ファイルを参照してください

原因: ファイルがすでに使用されていたため、バックグラウンド・プロセスはデータ・ファイルを識別できないか、またはロックできませんでした。データベースはこのファイルへのアクセスを禁止しますが、他のファイルには影響しません。ただし、データベースをオープンする最初のインスタンスは、すべてのオンライン・データ・ファイルをアクセスする必要があります。付随するオペレーティング・システムからのエラーには、ファイルが認識されない理由が説明されています。

処置: オペレーティング・システム・レベルで、ファイルをデータベースに対して使用可能にしてからデータベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES を実行してください。

ORA-01158 データベース *string* はすでにマウントされています。

原因: 別のインスタンスによって、データベースがこの名前でマウントされています。

処置: どのインスタンスが実行中であるかを検出してください。制御ファイルが存在している可能性があります。

ORA-01159 ファイルは前のファイルと同じデータベースに存在しません - データベース ID が無効です

原因: CREATE CONTROLFILE に指定したファイルで、同一データベースに存在しないファイルがあります。このファイルのデータベース ID が、指定された最初のファイルからのデータベース ID と一致しません。

処置: CREATE に指定されたファイルのリストを確認してください。

ORA-01160 ファイルは *string* ではありません。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドの DATAFILE または LOGFILE セクションで指定されたファイルが、指定された状態ではありません。

処置: 指定されたファイルを確認してください。

ORA-01161 ファイル・ヘッダー内のデータベース名 *string* は指定した *string* と一致しません。

原因: コマンドラインに指定したデータベース名と、ファイル・ヘッダーに指定されたデータベース名が一致しません。

処置: コマンドラインに指定したデータベース名が誤っている可能性があります。矛盾を解決し、コマンドを再実行してください。データベース名を変更しようとしている場合、SET DATABASE オプションを使用していることを確認してください。

ORA-01162 ファイルのヘッダーのブロック・サイズ *string* が構成されたブロック・サイズと一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE によって、このファイルのブロック・サイズは、初期化パラメータ・ファイルに設定されているすべてのキャッシュのブロック・サイズと互換性がないことが判明しました。

処置: DB_2K_cache_size、DB_4K_cache_size、DB_8K_cache_size、DB_16K_cache_size、DB_32K_cache_size パラメータのいずれか 1 つを使用して、このブロック・サイズに対して適切なキャッシュを設定してください。

ORA-01163 SIZE 句で示す *string* (ブロック) はヘッダー *string* と一致している必要があります。

原因: CREATE CONTROLFILE 文の SIZE 句にバイト単位で指定されたサイズが、ヘッダーに記録されているブロック数と一致しません。

処置: 正しいファイル名およびサイズをバイト単位で指定してください。

ORA-01164 MAXLOGFILES は *string* を超過することはできません

原因: コマンドラインで、値の大きすぎる MAXLOGFILES が指定されました。

処置: MAXLOGFILES の値を小さくして、コマンドを再実行してください。

ORA-01165 MAXDATAFILES は *string* を超過することはできません

原因: コマンドラインで、値の大きすぎる MAXDATAFILES が指定されました。

処置: MAXDATAFILES の値を小さくして、コマンドを再実行してください。

ORA-01166 ファイル番号 *string* が *string* (*string*) より大きくなっています。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定されたファイル番号が、MAXDATAFILES または MAXLOGFILES に指定された番号より大きくなっています。

処置: MAXDATAFILES、MAXLOGFILES またはパラメータ DB_FILES の値を大きくしてください。

ORA-01167 2 つのファイルは同一ファイル番号 / グループ番号または同一ファイルです。

原因: コマンドラインで指定したファイルにファイル番号の重複があるか、同一ファイルが 2 回指定されています。完全に同じファイルでない場合は、どちらかのファイルは一方のファイルのバックアップである可能性があります。同じログの 2 つのメンバーである場合は、グループ・ファイル仕様部に一緒に指定する必要があります。このメッセージは、同じ制御ファイルが INIT.ORA ファイル内の CONTROL_FILES に 2 回以上指定されたときにも表示されます。この場合は、追加のエラー・メッセージも確認してください。

処置: 指定したファイルが、コマンドですでに指定したファイルではないことを確認してください。別のファイルである場合は、以前のバックアップを削除してください。同じログのメンバーである場合は、同じグループのファイル指定であることを確認してください。制御ファイルが重複しているために、このメッセージが表示された場合は、INIT.ORA 内の CONTROL_FILES パラメータを確認し、ファイルが 2 回以上指定されていないかどうかを確認してください。すべてのファイル名が一意な場合は、実際の制御ファイル自体が一意であることを確認してください。たとえば、UNIX では、リスト内の別の制御ファイルにシンボリック・リンクまたはハード・リンクしていることを確認してください。

ORA-01168 物理ブロック・サイズ *string* は他メンバーのサイズ *string* と一致しません。

原因: ファイルが、グループ内の他のメンバーとは異なる物理ブロック・サイズのデバイス上にあります。

処置: 一致するブロック・サイズの物理デバイスを使用してください。

ORA-01169 DATAFILE 番号 1 がありません。この番号は必ず存在していなければなりません。

原因: DATAFILE 番号 1 が、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されていません。

処置: DATAFILE 番号 1 を指定して、CREATE CONTROLFILE コマンドを再実行してください。

ORA-01170 ファイル '*string*' がありません

原因: CREATE CONTROLFILE 文に指定されたファイルがありません。

NORESETLOGS が使用されている場合、CREATE CONTROLFILE 文を発行するプロセスは、すべてのデータ・ファイルおよび REDO ログ・ファイルにアクセスできる必要があります。

処置: ファイル名の綴りが誤っていないかを確認し、すべてのファイルが存在することを確認してください。ファイル名を修正してから文を再発行してください。

ORA-01171 エラーでチェックポイントを通過できないためデータ・ファイル *string* はオフラインになりました。

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントを進められません。理由については、付随するエラーを確認してください。データ・ブロックの書込みエラーの場合と同様に、データ・ファイルはオフラインになります。

処置: 詳細は、付随するメッセージを参照してください。ファイルへのアクセスをリストアし、メディア・リカバリを行い、オンラインに戻してください。

ORA-01172 スレッド *string* のリカバリは停止しました (ブロック *string*, ファイル *string*)。

原因: クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリは、ブロックに変更を適用できませんでした。継続する変更ではなかったためです。これはブロックが破損し、リカバリ中に修正された場合に発生します。

処置: ブロックを含むファイルに対して、RECOVER DATAFILE を実行してください。これで問題が解決されない場合は、バックアップからファイルをリストアし、再度リカバリしてください。

ORA-01173 データ・ディクショナリが SYSTEM 表領域にデータ・ファイルがないことを示しています。

原因: 原因は次のいずれかです。

- データベースが制御ファイルより先の時点にリカバリされている。
- CREATE CONTROLFILE 文に、SYSTEM 表領域のデータ・ファイルが指定されていない。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- 最新の制御ファイルによってデータベースをリカバリする。
- SYSTEM 表領域内のすべてのデータ・ファイルがコマンドラインに指定されていることを確認して、制御ファイルを再作成する。

ORA-01174 DB_FILES は *string* ですが、互換性のために *string* にする必要があります

原因: このインスタンスでのデータベース・ファイルの最大数は、他のインスタンスの数値と異なっています。オープンできるすべてのファイルを、すべてのインスタンスがオープンできる必要があります。

処置: 互換性を持たせるために、DB_FILES パラメータの値を変更してください。

ORA-01175 インスタンスがサポートできる数 *string* を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因：データ・ディクショナリに、このインスタンスがサポートできるファイル数より多くのファイルがあります。

処置：インスタンスを停止して、DB_FILES に大きい値を設定して再起動してください。

ORA-01176 制御ファイルがサポートできる数 *string* を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因：CREATE CONTROLFILE の実行後、データ・ディクショナリに、制御ファイルがサポートできるデータ・ファイル数より多いファイルがあります。

処置：MAXDATAFILES の値を大きくし、制御ファイルを再作成してください。

ORA-01177 データ・ファイルはデータ・ディクショナリと一致しません - 古いインカネーションの可能性があり

原因：CREATE CONTROLFILE または OPEN RESETLOGS の実行後に、制御ファイルをデータ・ディクショナリと比較したときに、このデータ・ファイルがディクショナリと矛盾していることが判明しました。そのファイルは、データベースから削除されたファイルのバックアップであり、同じファイル番号が新しいファイルに再使用された可能性があります。また、このファイル番号が別のデータ・ファイルに使用されたときに、不完全リカバリが停止した可能性もあります。

処置：正しいファイルを指定して CREATE CONTROLFILE を実行するか、またはファイルを指定せずに CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01178 最後の CREATE CONTROLFILE 文より前に作成されたファイル *string* は再作成できません。

原因：CREATE CONTROLFILE コマンドを最後に使用したときに存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを使用して再作成しようとした。このファイルを再作成するために必要な情報は、このファイルをデータベースに追加したときに存在した制御ファイルによって失われました。

処置：ファイルのバックアップを検出し、リカバリしてください。そのファイルが最初に作成されたときより前の時点まで、不完全リカバリを実行してください。

ORA-01179 ファイル *string* は存在しません。

原因：データベース・ファイルのリカバリ中に、データベースに含まれていないファイルがリストされました。

処置：ファイル名を再確認してください。SQL*DBA のコマンドラインでは、一重引用符を使用することに注意してください。SQL*DBA の動作環境では、ファイル名も変換されます。

ORA-01180 データ・ファイル 1 は作成できません。

原因：ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して、データ・ファイル 1 を作成しようとしてしました。

処置：バックアップからファイルをリカバリするか、またはデータベースを再作成してください。

ORA-01181 最後の RESETLOGS より前に作成されたファイル *string* は再作成できません。

原因：RESETLOGS データベースを最後にオープンしたときに存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して再作成しようとしてしました。

処置：ファイルのバックアップを検出し、リカバリしてください。そのファイルが最初に作成されたときより前の時点まで、不完全リカバリを実行してください。

ORA-01182 データベース・ファイル *string* は作成できません-ファイルは使用中またはリカバリ中です

原因：オープン・インスタンスでオンラインのデータ・ファイルまたはリカバリ中のデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して再作成しようとしてしました。

処置：すべてのインスタンスでデータベースをクローズして、すべてのリカバリ・セッションを終了してください。

ORA-01183 データベースを共有モードでマウントすることはできません

原因：他のインスタンスが、排他モードでマウントされたデータベースを使用しています。

処置：その他のインスタンスを停止して、共有モードでマウントしてください。

ORA-01184 ログファイル・グループ *string* はすでに存在しています

原因：ALTER DATABASE ADD LOGFILE 文で指定した、新しいログのログ番号は、すでに使用されています。

処置：別のログ・ファイル番号を指定するか、または未使用の番号をデータベースに選択させてください。

ORA-01185 ログファイル・グループ番号 *string* が無効です

原因：ALTER DATABASE ADD LOGFILE 文で指定した、新しいログのログ番号が大きすぎます。

処置：正しいログ・ファイル番号を指定してください。

ORA-01186 ファイル *string* は検査を通過しませんでした。

原因: データ・ファイルが、データベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過しなかった理由は、付随するエラー・メッセージを調べてください。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01187 ファイル *string* が検査を通過しなかったため、このファイルから読み込むことができません。

原因: データ・ファイルが、データベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過するまで読み込みできません。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01188 ヘッダー内のブロック・サイズ *string* は物理ブロック・サイズ *string* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定されたログ・ファイル・メンバーが、ログを作成するために最初に使用されたデバイスとはブロック・サイズが異なる物理デバイス上に存在しています。

処置: 正しいブロック・サイズのデバイスにファイルを移動するか、または RESETLOGS オプションを使用して CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01189 以前のファイルと異なる RESETLOGS からのファイルです。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンド中のこのファイルまたはそれ以前のすべてのファイルは、最新の RESETLOGS より前にバックアップされたものです。これは、そのファイルがオフラインであるか、または最新の RESETLOGS からオフラインであった場合にも発生する可能性があります。

処置: ファイルが、最新の RESETLOGS より前にオフラインになり、依然としてオフラインである場合は、CREATE CONTROLFILE コマンドからこのファイルを削除してください。データベースをオープンした後で、このファイルの名前を変更し、オンラインにしてください。それ以外の場合は、残りのデータ・ファイルと一貫性のある該当ファイルのバージョンを確認し、コマンドを再実行してください。

ORA-01190 制御ファイルまたはデータ・ファイル *string* は最後の RESETLOGS 以前のものです。

原因: ファイルのログ・リセット情報が制御ファイルと一致しないときに、データ・ファイルを使用しようとしてしました。データ・ファイルまたは制御ファイルは、ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS を最後に実行する前に作成されたバックアップです。

処置: さらに新しいバックアップからファイルをリストアしてください。

ORA-01191 ファイル *string* はすでにオフラインです - 通常のオフライン操作はできません

原因: 正常な表領域をオフラインにしようとしたとき、表領域のファイルの 1 つがすでにオフラインになっていました。

処置: データ・ファイルをオンラインにするか、または別の表領域にオフライン・オプションを使用してください。

ORA-01192 少なくとも 1 つの使用可能なスレッドが必要です。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドラインに、1 つ以上のスレッドから、2 つ以上の REDO ログ・ファイルを指定する必要があります。

処置: 欠落している REDO ログ・ファイルを検出してください。検出された REDO ログ・ファイルを新しくコマンドラインに指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01193 ファイル *string* はリカバリの開始時に存在したファイルと異なります。

原因: メディア・リカバリがファイル・ヘッダーを最後に検査したときにアクセスされたファイルは、異なるコピーでした。ファイルのバックアップがリストアされたか、またはリカバリ中にファイル名の意味が変更されました。

処置: 正しいファイルが使用可能であることを確認し、リカバ리를再試行してください。

ORA-01194 ファイル *string* は一貫した状態にするためにさらにリカバリが必要です。

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。レポートされたファイルは、データベースによって以前オープンされてから、完全にクローズされていません。ファイルは更新される前の状態にリカバリする必要があります。不完全リカバリを実行する前に、バックアップからファイルをリストアしなかったためにエラーが発生した可能性があります。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからファイルをリストアしてリカバ리를繰り返してください。

ORA-01195 ファイル *string* のオンライン・バックアップは一貫した状態にするためにさらにリカバリが必要です

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。指摘されたファイルは、バックアップが終了した時点までリカバリする必要があるオンライン・バックアップ・ファイルです。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからデータベース・ファイルをリストアして、リカバ리를繰り返してください。

ORA-01196 メディア・リカバリ・セッションでエラーが発生したためファイル *string* は矛盾した状態にあります

原因: ファイルのリカバリ中に、リカバリが異常終了しました。このため、ファイルは一貫性のない状態です。このファイルのリカバリは、正常に実行できませんでした。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはバックアップからファイルを再度リストアして、リカバリを繰り返してください。

ORA-01197 スレッド *string* はログ 1 つのみを含んでいます

原因: CREATE CONTROLFILE の実行中、ログに表示されたすべてのスレッドは、2 つ以上のログ（最後のログおよび 2 番目のログ）によって指定される必要があります。指定したスレッドには、このような 2 つのログが含まれていません。

処置: 指定したスレッドからさらにログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用して、CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01198 RESETLOGS ではログ・ファイルにサイズを指定する必要があります。

原因: OPEN RESETLOGS オプション付きで CREATE CONTROLFILE を実行している場合は、すべてのログ・ファイルにファイル・サイズを指定する必要があります。

処置: 適切なログ・ファイル・サイズを指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01199 ファイル *string* はオンライン・バックアップ・モードではありません

原因: オンライン・バックアップ中でないファイルに対してオンライン・バックアップを終了しようとしてしました。

処置: コマンドは必要ないので、入力しないでください。

ORA-01200 実ファイル・サイズ *string* が正しいサイズ *string* ブロックより小さくなっています。

原因: オペレーティング・システムが返すファイル・サイズが、ファイル・ヘッダーと制御ファイルに示されているファイル・サイズより小さくなっています。ファイルは切り捨てられた可能性があります。不完全なコピーが原因である可能性があります。

処置: データ・ファイルの正しいコピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01201 ファイル *string* のヘッダーで書込みに失敗しました。

原因: ファイル・ヘッダーの I/O エラーがレポートされました。エラーが検出されたため、再実行されます。

処置: ファイルのリカバリが必要である可能性があります。別のエラー・メッセージで、必要な処置が示されます。

ORA-01202 このファイルのインカネーションが無効です - 作成日時が一致しません

原因: ファイル・ヘッダー内の作成日付と制御ファイル内の作成日付が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

処置: データ・ファイルのカレント・コピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01203 このファイルのインカネーションが無効です - 作成システム変更番号 (SCN) が一致しません

原因: ファイル・ヘッダー内の作成システム変更番号 (SCN) と制御ファイル内の SCN が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

処置: データ・ファイルのカレント・コピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01204 ファイル番号は *string* です (*string* ではない) - ファイルが無効です

原因: ファイル・ヘッダー内のファイル番号が正しくありません。同じデータベース内の無効なファイルのバックアップをリストアした可能性があります。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01205 データ・ファイルではありません - ヘッダー内のファイル型は *string* です

原因: ヘッダー内のファイル型がデータ・ファイルとして正しくありません。このファイルは、ログ・ファイルまたは制御ファイルです。型が 0 (ゼロ) 以外の小さい正数でない場合、ヘッダーは破損しています。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01206 ファイルはこのデータベースの一部ではありません - データベース ID が無効です

原因: ファイル・ヘッダー内のデータベース ID が制御ファイル内のデータベース ID と一致しません。データベースが異なるか、またはデータベース・ファイルではない可能性があります。データベースを再構築した場合、再構築前のファイルである可能性もあります。トランスポートابل表領域の機能を介して、別のデータベースからファイルがプラグ・インするときにこのエラーが表示される場合は、ファイル・ヘッダーのデータベース ID が予期したものと一致していないことに注意してください。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要な場合はリカバリを行ってください。

ORA-01207 ファイルが制御ファイルより新しくなっています - 古い制御ファイルです

原因: データ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号が、制御ファイル内の番号より大きくなっています。これは、誤った制御ファイルが使用されていることを示しています。このエラーが繰り返されると、実際の問題を修正しなくてもエラーが発生しなくなることに注意してください。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は十分な大きさになるまで更新されます。

処置: カレント制御ファイルを使用するか、または BACKUP CONTROLFILE RECOVERY を実行して制御ファイルをカレントにしてください。BACKUP CONTROLFILE RECOVERY の実行に関するすべての制限事項に従ってください。

ORA-01208 データ・ファイルは古いバージョンです - 現在のバージョンにアクセスできません

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントが、制御ファイル内のチェックポイントより前のものです。別のインスタンスですでにオープンされているデータベースをオープンする場合、または別のインスタンスがこのファイルをオンラインにした場合、このインスタンスにアクセスされるファイルは、おそらく別のバージョンです。それ以外の場合は、ファイルの使用中にそのファイルのバックアップがリストアされた可能性があります。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01209 データ・ファイルは最後の RESETLOGS より前のものです。

原因: ファイル・ヘッダー内のリセット・ログ・データと制御ファイルが一致しません。データベースがクローズされているか、またはファイルがオフラインの場合、バックアップは、ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS 文を最後に実行した時点より前に取られたために、古いバックアップです。別のインスタンスですでにオープンされているデータベースをオープンする場合、または別のインスタンスがこのファイルをオンラインにした場合、このインスタンスにアクセスされるファイルは、おそらく別のバージョンです。それ以外の場合は、ファイルの使用中にそのファイルのバックアップがリストアされた可能性があります。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01210 データ・ファイル・ヘッダーにメディア欠陥があります。

原因: ファイル・ヘッダー・ブロックが内部的に矛盾しています。ブロックの先頭にはチェックサム付きのヘッダー、およびブロックの一貫性を保証する他のデータが存在します。最後のディスクの書込みが正常に行われなかった可能性があります。問題として最も可能性が高いのは、このファイルがデータベース用ではないということです。

処置: オペレーティング・システムで、データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。チェックサムのみが不当であることをトレース・ファイル・ダンプが示している場合、バックアップからファイルをリストアしてメディア・リカバリを行ってください。

ORA-01211 Oracle7 データ・ファイルは Oracle8 に移行していません

原因: 移行しようとするデータ・ファイルが、移行前に取られたバックアップまたは移行ユーティリティ実行後に Oracle7 によってオープンされたデータベース・ファイルのいずれかです。データベースを Oracle7 から Oracle8 に移行するときは、移行プログラムが Oracle7 でそのデータベースにアクセスした最後のファイルである必要があります。移行が完了したときに Oracle8 がアクセスできるのは、カレント・データ・ファイルのみです。

処置: オペレーティング・システムに、データベースが正しいデータ・ファイルを使用できるようにさせるか、または Oracle7 から Oracle8 への移行を繰り返してください。移行ユーティリティ実行後に、データベースがオープンしていないことを確認してください。

ORA-01212 MAXLOGMEMBERS は *string* を超過することはできません

原因: MAXLOGMEMBERS が大きすぎるコマンドラインを指定しました。

処置: MAXLOGMEMBERS の値を小さくして、コマンドを再実行してください。

ORA-01213 MAXINSTANCES は *string* を超過することはできません

原因: MAXINSTANCES が大きすぎるコマンドラインを指定しました。

処置: MAXINSTANCES の値を小さくして、コマンドを再実行してください。

ORA-01214 MAXLOGHISTORY は *string* を超過することはできません

原因: MAXLOGHISTORY が大きすぎるコマンドラインを指定しました。

処置: MAXLOGHISTORY の値を小さくして、コマンドを再実行してください。

ORA-01215 CREATE CONTROLFILE 文に使用可能なスレッド *string* がありません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文が指定されましたが、それはデータベースで使用可能なすべてのスレッドをリストしていません。

処置: 使用可能なすべてのスレッドを含めて、CREATE CONTROLFILE 文を再発行してください。

ORA-01216 CREATE CONTROLFILE 文のスレッド *string* を使用不可にする必要があります。

原因：CREATE CONTROLFILE に指定されたスレッドは使用可能ですが、データ・ファイルは、そのスレッドが使用不可であることを示しています。これは、CREATE CONTROLFILE に指定されたログが（スレッドを使用不可にする前から）古い可能性があります。

処置：データベースの実行に、このスレッドは不要です。問題のあるスレッドを使用せずに CREATE CONTROLFILE 文を再発行できます。必要に応じて、データベースがオープンした後にスレッドを再作成してください。

ORA-01217 ログファイル・メンバーは異なるログファイル・グループに属しています

原因：CREATE CONTROLFILE に指定した複数メンバーのログ・ファイル・グループのメンバーが、以前のメンバーと同じグループの一部ではありません。

処置：CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したメンバーを、正しいメンバーに修正してください。

ORA-01218 ログファイル・メンバーが同じ時点のものではありません

原因：複数メンバーのログ・ファイル・グループのメンバーが、異なる時点のものです。指定されたメンバーの 1 つが、ログの（バックアップ）コピーより古い可能性があります。

処置：ログの正しいバージョンを見つけるか、または CREATE CONTROLFILE コマンドから削除してください。

ORA-01219 データベースがオープンしていません：固定の表 / ビューに対する問合せのみ可能です

原因：データベースがオープンされる前に、固定の表 / ビューとして認識されていないオブジェクトに対し、問合せが発行されました。

処置：固定のオブジェクトのみに対する問合せを書きなおすか、データベースをオープンしてください。

ORA-01220 データベースのオープン前のファイル・ベースのソートは無効です。

原因：データベースがオープンされる前に、ソート用の一時セグメントが必要な表またはビューに対し問合せが発行されました。データベースがオープンされる前は、メモリー内のソートのみが可能です。

処置：大きいソートをしないように問合せを書きなおし、SORT_AREA_SIZE または SORT_AREA_RETAINED_SIZE 初期化パラメータ（あるいはその両方）の値を増やして、メモリーでソートできるようにしてください。

ORA-01221 データ・ファイル *string* はバックグラウンド・プロセスに対して同一ファイルではありません。

原因: データベース・ライターがデータ・ファイルをオープンする際、フォアグラウンドでリカバリを行う物理ファイルと異なるファイルにアクセスしました。フォアグラウンドで設定されるタイムスタンプは、バックグラウンドでは見つかりません。バックグラウンド・プロセスがそのファイルを読んでいない可能性があります。

処置: DBWR トレース・ファイルの中を見て、ファイル・ヘッダーの読み込みの際に受け取ったエラーを調べてください。バックグラウンド・プロセスによって同一のファイルが正常にそのファイル名でオープンする必要がある場合は、オペレーティング・システムの再構成を行ってください。

ORA-01222 *string* の MAXINSTANCES は少なくとも *string* の MAXLOGFILES が必要です (*string* ではない)。

原因: REDO の 1 スレッド当たり、2 つ以上のログ用の領域のないデータベースまたは制御ファイルを作成しようとしてしました。REDO のスレッドを使用可能にするには、このスレッドが 2 つのオンライン・ログを持つ必要があります。そのログでサポートできる数以上の REDO のスレッドを許可することは、意味がありません。

処置: MAXINSTANCES 引数を減らすか、または MAXLOGFILES の値を増やしてください。

ORA-01223 新規データベース名を設定するには RESETLOGS を指定する必要があります

原因: CREATE CONTROLFILE で SET DATABASE NAME オプションが指定されましたが、RESETLOGS は指定されませんでした。データベース名は、RESETLOGS を使用してデータベースをオープンするときのみ変更できます。

処置: CREATE CONTROLFILE に対し、RESETLOGS オプションを追加するか、SET オプションを削除してください。

ORA-01224 ヘッダー内のグループ番号 *string* は GROUP*string* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE で指定されたグループ番号が、ヘッダー中のグループ番号と一致していません。指定が誤っている可能性があります。

処置: GROUP オプションを指定しないか、正しい GRUOP オプションを指定してください。

ORA-01225 スレッド番号 *string* が MAXINSTANCES*string* より大きいです。

原因: スレッド番号に MAXINSTANCES より大きい値を指定しました。

処置: MAXINSTANCES に、より大きい値を指定してから再試行してください。

ORA-01226 ログ・メンバーのファイル・ヘッダーが他メンバーと矛盾しています。

原因: 付随するエラー・メッセージのログ・ファイル・メンバーは、以前のメンバーと同じグループですが、ヘッダー中の他のフィールドとは異なっています。ファイル・ヘッダーが破損しているか、いくつかのファイルが削除されたログのメンバーとなっている可能性があります。

処置: 正しいログ・メンバーを見つけるか、またはこのメンバーをコマンドから削除してください。

ORA-01227 ログ *string* が他メンバーと矛盾しています。

原因: 付随するエラー・メッセージに示されたログ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されているログの内容と一貫性がありません。ファイル・ヘッダーが破損しているか、またはいくつかのファイルが現行バージョンより古いコピーである可能性があります。一貫性の不一致なので、問題の原因は表示されたログではない場合があります。コマンド中にリストされるすべてのログ・ファイルは、現行バージョンのオンライン・ログである必要があります。

処置: 正しいオンライン・ログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01228 SET DATABASE オプションは初期データベースをインストールする必要があります

原因: 初期データベースのインストール時に、CREATE CONTROLFILE コマンド中に SET DATABASE オプションが含まれていませんでした。データベースは複数のサイトでインストールされるため、データベース ID を持っていません。各サイトでは、それぞれのデータベース ID が必要となります。SET DATABASE と RESETLOGS オプションを、このデータベースの制御ファイル作成のために指定する必要があります。

処置: SET DATABASE と RESETLOGS オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01229 データ・ファイル *string* がログと矛盾しています。

原因: 付随するエラー・メッセージに示されたデータ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されているログの内容と一貫性がありません。コマンドに対して 1 つ以上のオンライン・ログを指定していない可能性があります。また、指定されている場合でも、そのバージョンが現行バージョンより古いことが考えられます。すべてのオンライン・ログ・ファイルは、コマンド中にリストされる必要があり、また現行バージョンのオンライン・ログである必要があります。

処置: 正しいオンライン・ログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01230 読取り専用にできません - ファイル *string* がオフラインです

原因: 表領域を読取り専用にしようとした際に、そのファイルの 1 つがオフラインでした。

処置: ファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行してください。

ORA-01231 読取り / 書込みにできません - ファイル *string* がオフラインです

原因: 表領域を読取り / 書込み両用にしようとした際に、そのファイルの 1 つがオフラインでした。

処置: ファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行してください。

ORA-01232 オンライン・バックアップを開始できません - ファイル *string* は読取り専用です

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたしましたが、ファイルの 1 つが読取り専用とマークされています。読取り専用ファイルは、オンライン・バックアップ・モードに設定する必要はありません。

処置: BEGIN BACKUP コマンドを使用せずに、バックアップを作成してください。

ORA-01233 ファイル *string* は読取り専用です - バックアップの制御ファイルを使用してリカバリできません

原因: バックアップ制御ファイルを使用して、メディア・リカバリを実行しようとしたしましたが、ファイルの 1 つが読取り専用とマークされています。通常、読取り専用ファイルをリカバリする必要はありませんが、バックアップ制御ファイルでのリカバリは、すべてのオンライン・ファイルをリカバリする必要があります。

処置: ファイルが読取り専用の場合、リカバリ前にそのファイルをオフラインにし、データベースがオープンしてから読取り専用の表領域をオンラインにしてください。ファイルをリカバリする必要がある場合は、ファイルが読取り / 書込み両用になったときからの制御ファイルを使用してください。正しい制御ファイルが使用可能でない場合、CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを作成してください。

ORA-01234 ファイル *string* のバックアップが終了できません - ファイルが使用中またはリカバリ中です

原因: ファイルがビジーなときに、ファイルのオンライン・バックアップを終了させようとした。リカバリや名前の変更などの操作がアクティブになっているか、このファイルがオンラインの状態データベースをオープンさせたインスタンスが存在する可能性があります。

処置: データベースをオープンさせたインスタンスがある場合、ALTER TABLESPACE コマンドを使用して、そこでバックアップを終了させることができます。それ以外の場合は、その他の操作の完了を待ってください。

ORA-01235 END BACKUP は *string* ファイルで失敗しましたが、*string* では正常に終了しました

原因：END BACKUP コマンドの 1 つまたは複数のファイルが失敗しました。同じコマンド中のその他のいくつかのファイルは成功しました。

処置：バックアップが終了しなかった理由については、付随するエラー・メッセージを参照してください。エラー・メッセージにリストされていないファイルは、成功しています。

ORA-01236 ファイル・ヘッダー・アクセスの初期化処理中にエラー *string* が発生しました

原因：示されたエラーが、ファイル・ヘッダーの初期化処理中に発生しました。

処置：示されたエラーを修正してください。さらに遅いアクセス・アルゴリズムを使用して、このエラーからのリカバリを試みてください。

ORA-01237 データ・ファイル *string* は拡張できません

原因：サイズ変更中に、オペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置：オペレーティング・システム・エラーを修正してから、コマンドを再実行してください。

ORA-01238 データ・ファイル *string* は縮小できません

原因：サイズ変更中に、オペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置：このエラーは無視され、操作は正常に続行します。

ORA-01239 外部キャッシュを使用するには、データベースは ARCHIVELOG モードである必要があります

原因：オンライン・ファイルで外部キャッシュを使用しましたが、データベースが NOARCHIVELOG モードでした。外部キャッシュにはメディア・リカバリが必要な場合もあるので、これは許可されません。

処置：データベースを ARCHIVELOG モードに変更するか、または外部キャッシュを使用しないでください。

ORA-01240 1 つのコマンドで追加するデータ・ファイルが多すぎます。

原因：コマンドに指定されたデータ・ファイルの数が、1 つのコマンドで追加できる数を超えました。すべてのファイル名を 1 つのログ・エントリに組み込む必要がありますが、その場合はエントリが大きくなりすぎます。

処置：CREATE TABLESPACE コマンドの場合、ファイルの数を減らして作成し、後で他のファイルを追加してください。ADD DATAFILE コマンドの場合は、複数のコマンドに分割してください。

ORA-01241 外部キャッシュが再起動された可能性があります。

原因: 外部キャッシュが再起動された可能性があります。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルをオフラインにして、メディア・リカバリを行い、そのファイルをオンラインに戻してから操作を再試行してください。また、すべてのインスタンスを再起動して、一貫した外部キャッシュを介してインスタンスがすべてのデータ・ファイルに確実にアクセスすることも確認できます。

ORA-01242 データ・ファイルのメディア障害が発生しました: データベースは NOARCHIVELOG モードです

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードで、メディア障害のためデータベース・ファイルがアクセス不能であることが判明しました。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセス権限をリストアし、インスタンスを再起動してください。

ORA-01243 システム表領域ファイルにメディア障害が起こりました。

原因: システム表領域ファイルが、メディア障害によってアクセス不能であることが判明しました。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセス権限をリストアし、インスタンスを再起動してください。

ORA-01244 メディア・リカバリによって名前なしデータ・ファイルが制御ファイルに追加されました

原因: 再作成された制御ファイルまたはバックアップ制御ファイルを使用したメディア・リカバリで、制御ファイルにないデータ・ファイルが作成されました。新しいデータ・ファイル用の制御ファイルにエントリが1つ追加されます。このファイル名は UNNAMEDnnnn となり、nnnn はファイル番号です。ファイルの作成に使用された元のファイル名は、付随するエラー・メッセージでわかります。

処置: ファイルの名前を変更して有効なファイル名にし、リカバリを再開してください。必要に応じて、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文を使用し、リカバリに適したファイルを作成して名前を変更してください。ファイルをリカバリしない場合は、FOR DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにしてください。

ORA-01245 RESETLOGS が行われるとオフライン・ファイル *string* が失われます。

原因: オフラインであるため失われる可能性があるファイルを使用して、OPEN RESETLOGS を実行しようとした。このファイルは、FOR DROP オプションを指定してオフラインにされていません。

処置: ファイルをオンラインにしてリカバリするか、FOR DROP オプションを指定してファイルをオフラインにしてください。

ORA-01246 表領域 *string* の TSPITR を使用してファイルをリカバリします。

原因: 付随するエラーに示されるファイルは、この表領域に対して表領域の Point-in-Time リカバリが行われる前に作成されたバックアップです。これらのファイルは、Point-in-Time リカバリ後の状態にリカバリすることはできません。

処置: さらに新しいバックアップをリストアして、それらをリカバリしてください。

ORA-01247 表領域 *string* の TSPITR を使用してデータベースをリカバリします。

原因: データベース全体をリカバリしようとしたことが、表領域の Point-in-Time リカバリが行われたことを REDO が示しています。表領域内のファイルの新規バージョンがリカバリに組み込まれている必要がありますが、組み込まれていませんでした。

処置: 表領域をリカバリしない場合は、表領域内のファイルをオフラインにして削除してください。リカバリする必要がある場合は、その後に、必要に応じてリストアまたは名前の変更を行い、リカバリを再始動してください。

ORA-01248 ファイル *string* が不完全リカバリの未来の時刻で作成されました。

原因: 不完全リカバリの UNTIL 時後に最初に作成された制御ファイルのファイル・エントリで、RESETLOGS オープンを行おうとしました。このようなエントリを許可すると、この時点で必要なファイルのバージョンを隠してしまう可能性があります。ファイル番号は、RESETLOGS が使用されていれば失われているはずの別のファイルに使用されている可能性があります。

処置: さらにリカバリを行う必要があれば、ファイルの作成時になるまで REDO を適用してください。ファイルを必要とせず、リカバリの停止時に同じファイル番号が使用されていない場合は、FOR DROP オプションでファイルをオフラインにすることができます。それ以外の場合は、RESETLOGS を使用するには別の制御ファイルが必要です。他のバックアップのリストアおよびリカバリ、または CREATE CONTROLFILE を使用した制御ファイルの作成ができます。

ORA-01249 クローン・データベースでのアーカイブはできません

原因: オンライン REDO ログをアーカイブしようとしたか、またはクローン・データベースのアーカイブを使用可能にしようとしたか。

処置: クローンからアーカイブしないでください。アーカイブ・ログの宛先は簡単にプライマリ・データベースの宛先と同じにして、アーカイブしたログを破棄することができます。アーカイブが必要な場合は、データベースをクローンとしてではなく再作成してください。

ORA-01250 ファイル・ヘッダー・アクセスの終了時にエラー *string* が発生しました。

原因: ファイル・ヘッダー処理の終了中に、示されたエラーが発生しました。エラーは、書込みエラーではありませんでした。

処置: 示されたエラーを修正してください。

ORA-01251 ファイル番号 *string* に対して読込まれたファイル・ヘッダーのバージョンは不明です。

原因: ファイル・ヘッダーの読み込みがレコードを返しましたが、そのバージョンが不明です。ヘッダーが破損しているか、またはファイルが有効なデータベース・ファイルではありません。

処置: オペレーティング・システムで正しいファイルをデータベースで使用可能にするか、ファイルをリカバリしてください。

ORA-01252 書き込みを防止できません - Recovery Manager がファイル *string* のバックアップ中です

原因: 表領域を読取り専用または通常オフラインにしようとしたましたが、Recovery Manager プロキシ・バックアップが実行中です。ファイルがオフラインまたは読取り専用の場合、バックアップの完了時に、ファイル・ヘッダーを更新できません。

処置: Recovery Manager バックアップの完了を待って、このコマンドを再試行してください。

ORA-01253 オンライン・バックアップを開始できません - Recovery Manager がファイル *string* のバックアップ中です

原因: Recovery Manager が、指定されたファイルをバックアップしています。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待ってから、別のバックアップを開始してください。

ORA-01254 オンライン・バックアップを終了できません - Recovery Manager がファイル *string* のバックアップ中です

原因: Recovery Manager が、指定されたファイルをバックアップしています。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待ってください。手動で Recovery Manager のバックアップ・モードを開始または終了しないでください。

ORA-01255 停止できません - Recovery Manager がファイル *string* のバックアップ中です

原因: 正常に停止しようとしたましたが、Recovery Manager バックアップがまだ実行中です。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待って、このコマンドを再試行してください。

ORA-01256 データベース・ファイル *string* のロックでエラーが発生しました。

原因: ファイルは、他のデータベース・インスタンスによって使用中です。

処置: どのデータベース・インスタンスがこのファイルを所有しているかを確認してください。

ORA-01257 ファイル・サイズが不明のため、データベース・ファイル *string* を再利用できません。

原因：RAW パーティションのサイズを判断できません。

処置：SIZE パラメータを指定して、データ・ファイルを追加してください。

ORA-01258 テンポラリ・ファイル *string* を削除できません。

原因：DROP TABLESPACE INCLUDING CONTENTS AND DATAFILES または ALTER DATABASE TEMPFILE DROP INCLUDING DATAFILES の操作で、データベース内のテンポラリ・ファイルを削除できませんでした。

処置：ファイルの削除を妨げているオペレーティング・システムのエラーが、後続のエラーに表示されます。可能であれば、問題を修正し、手動でそのファイルを削除してください。

ORA-01259 データ・ファイル *string* を削除できません。

原因：DROP TABLESPACE INCLUDING CONTENTS AND DATAFILES の操作で、表領域内のデータ・ファイルを削除できませんでした。

処置：ファイルの削除を妨げているオペレーティング・システムのエラーが、後続のエラーに表示されます。可能であれば、問題を修正し、手動でそのファイルを削除してください。

ORA-01260 データベースがオープンされているとき、ALTER DATABASE END BACKUP を発行しない場合があります。

原因：データベースがオープンしているときに、ALTER DATABASE END BACKUP が発行されました。

処置：ALTER DATABASE DATAFILE <filename> END BACKUP を使用して、指定したファイルのバックアップを終了します。表領域内のすべてのファイルについてバックアップが完了している場合は、ALTER TABLESPACE <name> END BACKUP を使用してください。

ORA-01261 パラメータ *string* の接続先文字列を変換できません。

原因：指定されたパラメータ値に変換できない接続先文字列が指定されました。

処置：指定されたパラメータで有効な接続先文字列を使用してください。

ORA-01262 統計がファイルの接続先ディレクトリで失敗しました。

原因：Oracle Managed Files の接続先ディレクトリについての情報を取得できません。

処置：ディレクトリの許可を確認するか、または別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-01263 ファイルの接続先ディレクトリに指定された名前が無効です。

原因: Oracle Managed Files の接続先に指定された名前が、ディレクトリに対応していません。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01264 string ファイル名を作成できません。

原因: データ・ファイル、ログ・ファイルまたは制御ファイルに対する Oracle Managed Files 名を作成できません。

処置: 前に発生したエラーで、Oracle がファイル名を作成できなかった原因を確認してください。対処措置として、可能であれば、コマンドを再試行してください。

ORA-01265 ファイル string を削除できません。

原因: エラーのため、ファイルを削除できませんでした。

処置: ファイルの削除を妨げているオペレーティング・システムのエラーが、後続のエラーに表示されます。可能であれば、問題を修正し、手動でそのファイルを削除してください。

ORA-01266 一意のファイル名を作成できません。

原因: Oracle Managed Files のデータ・ファイル、ログ・ファイルまたは制御ファイルに対して、一意のファイル名を作成できません。Oracle は、いくつかの名前で作成を試みましたが、各ファイル名は、そのファイル・タイプのデフォルトの接続先ディレクトリで、すでに使用中でした。

処置: 操作を再試行してください。失敗した場合は、そのファイル・タイプに対するデフォルトの接続先ディレクトリを変更した後、再試行してください。

ORA-01267 日付 / 時間の取得に失敗しました。

原因: 一意のファイル名を作成しようとしたときに、日付 / 時間を取得できませんでした。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01268 永続 TABLESPACE の変更のための TEMPFILE 句が無効です。

原因: ALTER TABLESPACE で、永続表領域に対して TEMPFILE 句が指定されました。

処置: DATAFILE 句を使用して、再試行してください。

ORA-01269 接続先パラメータ文字列が長すぎます。

原因: DB_CREATE_FILE_DEST または DB_CREATE_ONLINE_LOG_DEST_n パラメータに対する値が長すぎます。

処置: 接続先の値を、より短い文字列で指定したパラメータに変更してください。

ORA-01270 STANDBY_PRESERVES_NAMES が TRUE の場合、*string* 操作はできません。

原因：スタンバイ・データベースで STANDBY_PRESERVES_NAMES が TRUE の場合に、ファイル名を変更、ファイルを追加または削除しようとしました。

処置：それらの操作が必要な場合は、STANDBY_PRESERVES_NAMES に FALSE を設定してください。

ORA-01271 ファイル *string* の新規ファイル名を作成できません。

原因：スタンバイ・データベースのリカバリ中に、示されているファイルに対する新しいファイル名を作成しようとしてエラーが発生しました。

処置：ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドに新しく一意の名前を使用し、その後、スタンバイ・データベースのリカバリを再開してください。

ORA-01272 ファイル名が与えられている場合、REUSE のみが使用可能です。

原因：コマンドで、ファイル名を指定しないで REUSE パラメータを指定しました。

処置：ファイル名を指定するか、または REUSE パラメータを削除してください。

ORA-01273 STANDBY_FILE_MANAGEMENT = AUTO は、COMPATIBLE = *string* 以上である必要があります

原因：COMPATIBLE 初期化パラメータには、STANDBY_FILE_MANAGEMENT に AUTO を設定するための適切な値が設定されていません。

処置：COMPATIBLE に適切なリリースを設定して、インスタンスを再起動してください。

ORA-01274 データ・ファイル '*string*' を追加できません - ファイルを作成できませんでした

原因：スタンバイ・ファイル管理の自動化は可能ですが、追加されたファイルは、自動的にはスタンバイに作成されません。作成しようとして発生したエラーが、別のメッセージに表示されます。そのファイルに対する制御ファイルのエントリが、「UNNAMEDnnnnn」と表示されます。

処置：一時的に STANDBY_FILE_MANAGEMENT に MANUAL を設定し、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文を使用してファイルを作成してください。その後、STANDBY_FILE_MANAGEMENT に AUTO を設定し、スタンバイ・リカバリを再起動してください。

ORA-01275 操作 *string* は、スタンバイ・ファイル管理が自動の場合は使用できません。

原因：スタンバイ・データベースで STANDBY_FILE_MANAGEMENT に AUTO が設定されているときに、ファイル名を変更、ファイルを追加または削除しようとしました。

処置：それらの操作が必要な場合は、STANDBY_FILE_MANAGEMENT に MANUAL を設定してください。

ORA-01280 致命的な LogMiner エラーです

原因: 原因は次のいずれかです。

- DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャの 1 つ以上の入力パラメータが無効である可能性がある。
- SCN の開始または終了が、選択されたログ・ファイルで使用できない可能性がある。
- 指定されたディクショナリ・ファイルが、ログ・ファイルを生成したデータベースとは異なるデータベースのファイルである可能性がある。
- LogMiner にリカバリできない内部エラーが発生した可能性がある。

処置: 入力パラメータが有効であるかどうかを確認してください。V\$LOGMNR_LOGS ビューを問い合せて、指定されたログ・ファイル・セットに有効な SCN の範囲、およびログ・ファイルを生成したデータベースの DB_ID を参照できます。

ORA-01281 指定された SCN の範囲が無効です

原因: StartSCN が EndSCN より大きい値になっているか、SCN 指定子が有効ではありません。

処置: 有効な SCN 範囲を指定してください。

ORA-01282 指定された日付の範囲が無効です。

原因: 指定された日付の値が、ログ・ファイルに対して無効です。

処置: 有効な日付範囲を指定してください。

ORA-01283 指定したオプションは無効です。

原因: 指定されたオプションが、プロシージャに対して無効です。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-01284 ファイル *string* をオープンできません。

原因: 指定されたファイルはオープンできません。

処置: ファイルまたはディレクトリが存在し、アクセス可能であることを確認してください。

ORA-01285 ファイル *string* の読み込みエラーです。

原因: ファイルまたはディレクトリが存在しないか、アクセス不能です。

処置: 有効なファイルまたはディレクトリを指定してください。また、ファイルおよびディレクトリがアクセス可能であることを確認してください。

ORA-01286 DB_ID が一致しないため、ファイル *string* を追加できません。

原因: このログ・ファイルは、これまでにリストに追加されたログ・ファイルとは異なるデータベースが作成したものです。

処置: 同じデータベースが作成したログ・ファイルを指定してください。

ORA-01287 *string* は別のデータベース・インカネーションからのファイルです

原因: このログ・ファイルは、データベースの異なるインカネーションによって作成されたものです。

処置: 同じインカネーションによって作成されたログ・ファイルを追加してください。

ORA-01289 重複するログファイル *string* を追加できません。

原因: 指定されたログ・ファイルは、すでにログ・ファイルのリストに追加されています。

処置: 別のログ・ファイルを指定してください。

ORA-01290 リストにないログファイル *string* を削除できません。

原因: リストにないログ・ファイルを削除しようとしました。

処置: 有効なログ・ファイルを指定してください。

ORA-01291 ログファイルがありません。

原因: データに対応していないログ・ファイルがあるか、または指定された SCN の範囲で、リストに追加されていないログ・ファイルがあります。

処置: v\$logmnr_logs ビューで、SCN の範囲外にあるものを確認し、必要なログ・ファイルを追加してください。

ORA-01292 カレント LogMiner セッションにログ・ファイルが指定されていません。

原因: カレント LogMiner セッションにログ・ファイルが指定されていません。

処置: ログ・ファイルを 1 つ以上指定してください。

ORA-01293 時間または SCN 範囲がリストされたログファイルに完全には含まれていません

原因: 入力された日付 /SCN 範囲が、セッションに指定されたログ・ファイルに完全には含まれていません。

処置: V\$LOGMNR_LOGS ビューから SELECT して LogMiner セッションに指定されたログ・ファイルに含まれる日付または SCN 範囲を調べ、適切な日付または SCN 範囲でプロシージャを再発行してください。

ORA-01294 ディクショナリ・ファイル *string* で情報を処理中、エラーが発生しました。破損の可能性があります。

原因: ディクショナリ・ファイルが破損しています。

処置: 新しいディクショナリ・ファイルを取得してください。

ORA-01295 ディクショナリ *string* とログファイルで DB_ID が一致しません。

原因: ディクショナリ・ファイルは、ログ・ファイルを作成したデータベースとは異なるデータベースが作成したものです。

処置: 適合するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01296 ディクショナリ *string* とログファイルでキャラクタ・セットが一致しません。

原因: ディクショナリ・ファイルを作成したデータベースのキャラクタ・セットは、ログ・ファイルを作成したデータベースのキャラクタ・セットと異なります。

処置: キャラクタ・セットが一致するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01297 ディクショナリ *string* とログファイルで REDO バージョンが一致しません

原因: ディクショナリを生成しているデータベースの REDO バージョンが、ログ・ファイルを生成しているものと異なります。

ORA-01298 ディクショナリ *string* と一番初期のログファイルとでは SCN 互換性がありません。

原因: ディクショナリ・マテリアライズド・ビューは、一番初期のログ・ファイルの SCN 作成に対応していない SCN で取得されました。

処置: 正しいディクショナリ・マテリアライズド・ビューを取得してください。

ORA-01299 ディクショナリ *string* は別のデータベース・インカネーションに対応します

原因: ディクショナリ・ファイルは、データベースの異なるインカネーションから抽出されました。

処置: 適切なデータベースのインカネーションから抽出した、ディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01300 ディクショナリ *string* と一番初期のログファイルとでは使用可能なスレッド・ビットのベクトルが一致しません。

ORA-01301 dbms_logmnr.USE_COLMAP は有効なディクショナリとのみ使用できます。

原因: dbms_logmnr.USE_COLMAP は有効なディクショナリとのみ使用できます。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() のディレクトリ・ファイルを指定してください。

ORA-01302 logmnr.opt ファイルに構文エラーがあります。

原因: logmnr.opt ファイルで、構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-01303 logmnr.opt ファイルに指定されているスキーマ *string* が存在しません。

原因: 指定したスキーマが存在しません。

処置: 正しいスキーマまたは適合するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01304 logmnr.opt ファイルに指定されている表 *string*、スキーマ *string* が存在しません。

原因: logmnr.opt ファイルで指定された表が、LogMiner のディクショナリに存在しません。

処置: 指定された表が有効であることを確認してください。

ORA-01305 logmnr.opt ファイルに指定されている列 *string* は、表 *string*、スキーマ *string* ではありません。

原因: logmnr.opt ファイルで指定された列が、LogMiner のディクショナリの表定義に存在しません。

処置: 指定された列が有効であることを確認してください。

ORA-01306 dbms_logmnr.start_logmnr() は、v\$logmnr_contents から選択する前に起動する必要があります。

原因: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動する前に、V\$LOGMNR_CONTENTS からの SELECT が発行されました。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動した後で、V\$LOGMNR_CONTENTS ビューからの SELECT を発行してください。

ORA-01307 LogMiner セッションは現在アクティブではありません。

原因: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動する前に、V\$LOGMNR_CONTENTS からの SELECT が発行されました。あるいは、DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() または DBMS_LOGMNR.ADD_LOGFILE() をコールする前に、DBMS_LOGMNR.END_LOGMNR() がコールされました。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動した後で、V\$LOGMNR_CONTENTS ビューからの SELECT を発行してください。

ORA-01308 初期化パラメータ utl_file_dir が設定されていません。

原因: 初期化パラメータ・ファイルに、utl_file_dir が設定されていません。

処置: utl_file_dir に適切なディレクトリを設定してください。

ORA-01309 セッションが無効です。

原因: 指定された Logminer セッション ID またはセッション・ハンドルが無効です。

処置: 有効な Logminer セッション ID またはセッション・ハンドルを使用してください。

ORA-01310 要求された戻り型は lcr_mine 関数にサポートされていません。

原因: 要求された戻り型は、lcr_mine 関数でサポートされていません。

処置: lcr_mine 関数で指定されている戻り型を指定してください。

ORA-01311 mine_value 関数の起動が無効です。

原因: SYS.V\$LOGMNR_CONTENTS 固定表や固定ビューの redo_value または undo_value 以外の列で、mine_value 関数を使用しようとしました。

処置: mine_value が正しく起動するように、SQL 文を修正してください。

ORA-01312 指定された表 / 列が存在しません。

原因: lcr_mine コールで指定された表や列が、指定された SCN に存在しません。表や列を正しく識別するには、lcr_mine に対して指定された SCN の先頭に、表や列の定義が存在している必要があります。

処置: SCN の先頭で表定義を使用できるように LogMiner セッションを作成してください。

ORA-01313 LogMiner ディクショナリ列型が指定された型と異なります。

原因: lcr_mine コールで、その列に対して指定された戻り型が、その列の実際の型と異なります。

処置: 正しい戻り型で lcr_mine を起動するように修正してください。

ORA-01314 調べられる列の名前は文字列リテラルである必要があります。

原因: LogMiner 関数によって調べられる列の完全修飾名は、文字列リテラルである必要があります。

処置: 調べられる列の完全修飾名が a.b.c.d である場合、列名を 'a.b.c.d' のようにして、引用符で囲んでください。

ORA-01315 選択中にログ・ファイルが追加または削除されました。

原因: v\$logmnr_logs 固定ビューで選択中に、REDO ログ・ファイルが追加または削除されました。

処置: v\$logmnr_logs ビューで、SQL の SELECT 文を再発行してください。

ORA-01316 すでに LogMiner セッションに連結されました。

原因: すでに LogMiner セッションにアタッチされているときに、LogMiner アタッチ・セッションが発行されました。

処置: 現行の LogMiner セッションからデタッチし、要求されたセッションにアタッチしてください。

ORA-01317 LogMiner セッションに連結されていません。

原因: アタッチされた LogMiner セッションが必要なコマンドまたはプロシージャが実行されました。

処置: コマンドまたはプロシージャを実行する前に、LogMiner セッションにアタッチしてください。

ORA-01318 LogMiner セッションが開始していません。

原因: LogMiner を使用するセッションが、セッションを準備する前にコールされました。

ORA-01319 LogMiner セッションの属性が無効です。

原因: 無効なセッション属性が指定されました。

処置: 有効なセッション属性で再発行してください。

ORA-01320 LogMiner ディクショナリの属性が無効です。

原因：無効な LogMiner ディクショナリ属性が指定されました。

処置：有効なディクショナリ属性で再発行してください。

ORA-01321 SCN の範囲はリストされたログファイルに完全には含まれていません。

原因：入力された日付 /SCN 範囲が、セッションに指定されたログ・ファイルに完全には含まれていません。

処置：V\$LOGMNR_LOGS ビューから SELECT して LogMiner セッションに指定されたログ・ファイルに含まれる日付または SCN 範囲を調べ、適切な日付または SCN 範囲でプロシージャを再発行してください。

ORA-01322 そのような表はありません。

原因：LogMiner の include_src_tbl() または exclude_src_table() に対して、存在しない表が指定されました。

処置：有効な表名で再発行してください。

ORA-01323 状態が無効です。

原因：無効な状態から、LogMiner ルーチンがコールされました。

ORA-01324 DB_ID が一致しないためにファイルを追加できません。

原因：これまでにリストに追加されたログ・ファイルとは異なるデータベースによって作成されたログ・ファイルです。

処置：同じデータベースによって作成されたログ・ファイルを指定してください。

ORA-01325 logstream に組み込むためにはアーカイブ・ログ・モードを使用可能にする必要があります。

原因：データベースで、アーカイブ・ログ・モードが使用可能ではありません。

処置：初期化パラメータで、アーカイブ・ログ・モードを使用可能に設定してください。次に例を示します。

```
log_archive_start=true
log_archive_dest="ORACLE_HOME/dbs"
log_archive_format="archstring.log"
```

データベースをマウントし、次のようにコマンドを実行して、アーカイブ・ログ・モードを使用可能にしてください。

```
startup pfile=init.ora mount
ALTER DATABASE ARCHIVELOG
ALTER DATABASE OPEN
```

ORA-01326 logstream に組み込むためには 8.2 以上の互換性が必須です。

原因: COMPATIBLE 初期化パラメータに、8.2 より小さい値が、設定されています。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータに 8.2.0.0 以上を設定してください。次に例を示します。

```
COMPATIBLE=8.2.0.0.0.0
```

ORA-01327 ビルドに必須のシステム・ディクショナリの排他ロックに失敗しました。

原因: 他のユーザーが DDL 処理を実行中です。

ORA-01328 一度に発生するビルド操作は 1 つのみです。

原因: 他のプロセスが同時に build() を実行しようとしています。

処置: 他のプロセスが完了するまで待機してください。

ORA-01329 必須のビルド表を切捨てできません。

原因: 表が欠落しているか、または他のユーザーによってロックされています。

処置: 通常、このエラーは発生しません。このエラーが発生した場合、必須の表が欠落していると考えられる理由があるときは、最後の手段として、パッケージ dbmslmd.sql を再インストールしてください。これによって、すべての既存の LogMiner ディクショナリ・データが削除されます。

ORA-01332 内部 LogMiner ディクショナリ・エラーです。

原因: 予期しないエラー状態です。

処置: トレース・ファイルを確認してください。

ORA-01333 LogMiner ディクショナリの確立に失敗しました。

原因: 確立された使用可能な LogMiner ディクショナリがなく、元のシステム・データ・ディクショナリの完全な収集が、logstream 内に見つかりません。build() が実行されていなかったために、元のシステム・データ・ディクショナリが収集されていないか、または、add_log_file() がコールされていなかったために、完全に収集されたシステム・データ・ディクショナリを含む、すべてのログ・ファイルが追加されていない可能性があります。

処置: このマイニング・セッションの前に build() が実行されていなかった場合、LogMiner の非定型ユーザーは、現在のシステム・カタログのような、代替ディクショナリを使用するか、または以前に作成されたフラット・ファイル・ディクショナリを使用してください。その他の LogMiner クライアントは、マイニングの前に build() を実行してください。build() が実行されていた場合、収集されたシステム・ディクショナリを含むすべてのログ・ファイルが追加されていることを確認してください。build() を実行したシステムで、次の問合せを実行することによって、必要なファイルが判断できます。

```
select DICTIONARY_BEGIN, DICTIONARY_END, name from v$archived_log;
```

最初に DICTIONARY_BEGIN = 'YES' であるファイル、次にすべてのログ・ファイル、最後に DICTIONARY_END = 'YESmustbeadded' であるファイルが表示されます。

ORA-01336 指定されたディクショナリ・ファイルがオープンできません。

原因: ディクショナリ・ファイルまたはディレクトリが、存在しないかアクセス不能です。

処置: ディレクトリ・ファイルおよびディレクトリが存在し、アクセス可能であることを確認してください。

ORA-01337 ログファイルは異なる互換バージョンがあります

原因: このログ・ファイルは、セッションの他のログ・ファイルとは異なる互換バージョンです。

処置: セッションのすべてのログ・ファイルが、同じ互換バージョンであることを確認してください。

ORA-01341 LogMiner のメモリーが足りません

原因: カレントの LogMiner セッションで解析されるログ・ファイルには、現在使用可能であるよりもさらに多くのシステム・リソースが必要です。

処置: 指定した LogMiner セッションで解析するログ・ファイル数を減らし、再試行してください。

ORA-01400 (*string*) には NULL は挿入できません。

原因: 列 "USER"."TABLE"."COLUMN" に NULL を挿入しようとした。

たとえば、次のように入力した場合、

```
connect scott/tiger
create table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
```

Oracle は、次のように返します。

```
ORA-01400 ("SCOTT"."A"."A1") には NULL は挿入できません。
```

これは、"SCOTT"."A"."A1" に NULL を挿入できないという意味です。

処置: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01401 列に挿入した値が大きすぎます。

原因: 入力した値が、列に定義した最大の幅を超えています。

処置: 列幅より小さい値を入力するか、または ALTER TABLE 文に MODIFY オプションを使用して列の幅を大きくしてください。

ORA-01402 ビューの WITH CHECK OPTION WHERE 句でエラーが発生しました。

原因: CHECK OPTION で作成したビューに対して INSERT 文または UPDATE 文を実行しようとしてしました。この結果、ビューの WHERE 句に適合しない行が作成されます。

処置: ディクショナリ表のビューの WHERE 句を調べてください。カレント・ビューに CHECK OPTION がない場合、FROM 句は CHECK OPTION を使用して定義した第2のビューを参照しています。第2のビューの WHERE 句は、どのような INSERT 文または UPDATE 文でも満足する必要があります。行を挿入するには、ビューを介して挿入するのではなく、基礎となっている表に直接挿入する必要がある場合があります。

ORA-01403 データが見つかりません。

原因: ホスト言語プログラム中で、すべてのレコードがフェッチされています。フェッチからのリターン・コードは +4 です。SQL の問合せからすべてのレコードが返されたことを示しています。

処置: SELECT 文の処理を終了してください。

ORA-01404 ALTER COLUMN による索引が大きすぎます

原因: ある列の長さを増やすと、以前の CREATE INDEX 文に指定した列結合の長さ、索引の最大長 (255) を超えてしまいます。索引全体の長さは、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものとなります。日付フィールドは長さ 7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドは長さ 22 になります。

処置: 列を変更するには、影響を受ける索引を削除してください。索引の最大幅を超える場合があるので、索引は作成しなさいでください。

ORA-01405 フェッチした列の値が NULL です

原因: フェッチ操作の INTO 句に NULL 値が含まれていて、インジケータが使用されませんでした。プログラム内の列バッファがそのまま、カーソルのリターン・コードが +2 です。Oracle を DBMS=6、エミュレーティング・バージョン 6 で実行している場合以外は、エラーです。実行している場合は、警告です。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- NVL 関数を使用して、検索された NULL を 0 や空白などの他の値に変換してください。これが最も簡潔な処置です。
- インジケータを使用して NULL の発生を記録してください。NULL の発生時に固有の処置を行う場合、この項目を使用できます。
- カーソル定義を修正して、NULL 値を含む列が検索されないようにしてください。

ORA-01406 フェッチされた列の値は切り捨てられました

原因: ホスト言語プログラム中のフェッチ操作によって、ある文字列が強制的に切り捨てられました。この列のプログラム・バッファ領域が、文字列全体を格納するために十分な大きさではありませんでした。フェッチからのカーソル・リターン・コードは +3 でした。

処置: 最大列値を保持できるよう列のバッファ領域を増やすか、または他の適切な処理を実行してください。

ORA-01407 (*string*) を NULL には更新できません。

原因: NULL 値で表列 "USER"."TABLE"."COLUMN" を更新しようとした。

たとえば、次のように入力した場合、

```
connect scott/tiger
update table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
```

Oracle は、次のように返します。

```
ORA-01407 ("SCOTT"."A"."A1") を NULL には更新できません。
```

これは、列 "SCOTT"."A"."A1" を NULL に更新できないという意味です。

処置: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01408 列リストはすでに索引付けされています

原因: CREATE INDEX 文によって、すでに索引が付いている列が指定されました。1 つの列には 1 度のみ索引を付けることができます。連結索引の一部として使用する場合、つまり、索引が複数の列で構成されている場合は、その列にさらに索引を作成できません。

処置: 必要なければ、列に索引を付けなおさないでください。連結キーを作成するには、CREATE INDEX 文に 1 列以上を追加して指定してください。

ORA-01409 NOSORT オプションは使用できません: 行が昇順になっていません

原因: 行が昇順ではないのに、NOSORT オプションで索引を作成しました。NOSORT オプションは、すでに昇順である行グループのみで使用できます。

一意ではない索引では、ROWID が索引キーの一部とみなされました。つまり、昇順に記憶されていると思われる 2 行がそうではなかったことになります。NOSORT 索引を作成する場合、表の中の 2 つの行が同じ索引値を持ち、2 つのエクステントに渡って分割されているときは、2 番目のエクステントの最初のブロックのデータ・ブロック・アドレスは 1 番目のエクステントの最後のブロックのデータ・ブロック・アドレスより小さくできます。これらのアドレスが昇順ではない場合、ROWID も昇順ではありません。これらの ROWID は索引キーとみなされているので、索引キーは昇順ではなく、したがって NOSORT 索引も作成できません。

処置: NOSORT オプションを使用せずに索引を作成するか、または表が 1 つのエクステントの中に格納されるようにしてください。

ORA-01410 ROWID が無効です。

原因: 入力された ROWID が不適切です。ROWID は、数字および A ~ F までの文字を使用する 16 進数として入力する必要があります。通常の ROWID の書式は、「000001F8.0001.0006」です。

処置: 書式を確認し、正しい書式を使用して ROWID を入力してください。ROWID の書式は、ブロック ID、ブロック内の行、ファイル ID です。

ORA-01411 列の長さを標識に格納することができません。

原因: サイズが 64KB より大きい列をフェッチしようとし、指定された 2 バイトのインジケータに列の長さを格納できませんでした。

処置: 長い列をフェッチするために、新しいバインド型を使用してください。

ORA-01412 このデータ型で長さ 0 は使用できません。

原因: データ型 97 の長さが 0 です。

処置: 正しい長さを指定してください。

ORA-01413 パック 10 進数のバッファの値が無効です。

原因: ユーザーによってパック 10 進数としてバインドされているユーザー・バッファに、無効な値が含まれていました。

処置: 正しい値を使用してください。

ORA-01414 配列をバインドするには、配列長が無効です。

原因: カレント配列長ポインタ、または最大配列長ゼロのいずれも指定せずに、配列をバインドしようとしてしました。

処置: 有効な長さを指定してください。

ORA-01415 個別集計関数が多すぎます

原因: 問合せが、処理できる数より多くの個別集計関数を含んでいます。現在の制限は 255 です。

処置: 問合せ内の個別集計関数の数を減らしてください。

ORA-01416 2 つの表を相互に外部結合することはできません。

原因: 結合操作中に 2 つの表が互いに外部結合を指定しました。結合条件では、一方の表上に外部結合を指定した場合、これを他方の表上で指定することはできません。

処置: 表の 1 つから外部結合の指定 (+) を削除してから、操作を再試行してください。

ORA-01417 表が少なくとも 1 つの他の表に外部結合されている可能性があります。

原因: a.b (+) = b.b and a.c (+) = c.c は許可されていません。

処置: 必要な操作であるかを確認し、まず、ビュー内で b と c を結合してください。

ORA-01418 指定した索引は存在しません。

原因: ALTER INDEX 文、DROP INDEX 文または VALIDATE INDEX 文に、存在しない索引名が指定されました。存在する索引以外は変更、削除または検証できません。データ・ディクショナリを問い合わせることによって、既存の索引をリストできます。

処置: ALTER INDEX 文、DROP INDEX 文または VALIDATE INDEX 文に既存の索引名を指定してください。

ORA-01419 datdts: 書式コードが無効です。

原因: 無効な書式を使用しようとしてしました。

処置: 書式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01420 datstd: 書式コードが無効です。

原因: 無効な書式を使用しようとしてしました。

処置: 書式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01421 datrnd/dattrn: 精度指定子が無効です。

原因: 無効な精度指定子を使用しようとしてしました。

処置: 精度指定子を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01422 完全フェッチが要求よりもよりも多くの行を返しました

原因: 返された行より少ない数が実際のフェッチで指定されています。

処置: 問合せを書きなおすか、または要求する行数を変更してください。

ORA-01423 完全フェッチで余分な行をチェック中にエラーが発生しました

原因: フェッチの実行中にエラーが発生しました。このエラーに続いて、より詳細なエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01424 エスケープ文字に続く文字がないか、または無効です。

原因: LIKE パターンにエスケープ文字に続く文字が指定されていないか、またはエスケープ文字「%」または「_」のいずれかではありません。

処置: エスケープ文字を削除するか、または正しく指定してください。

ORA-01425 エスケープ文字は長さ 1 の文字列である必要があります

原因: LIKE に指定されたエスケープ文字が長さ 1 の文字列ではありません。

処置: 長さ 1 の文字列に変更してください。

ORA-01426 数値オーバーフローが発生しました

原因: オーバフロー / アンダーフローが発生しました。

処置: オペランドを減らしてください。

ORA-01427 単一行副問合せにより 2 つ以上の行が返されます。

原因: 副問合せから複数の行が返されたので、外部問合せには比較する値を指定するためのキーワード ANY、ALL、IN または NOT IN のいずれかを使用する必要があります。

処置: 比較する値を指定するために、ANY、ALL、IN、NOT IN のいずれかを使用するか、または 1 行のみ検索されるように問合せを修正してください。

ORA-01428 引数 'string' が有効範囲外です

原因: 算術関数に無効な引数が指定されました。たとえば、次のような場合です。

```
SELECT SQRT(-1) "Square Root" FROM DUAL;
```

処置: 算術関数の有効な入力および範囲については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01429 索引編成表: オーバーフロー列を格納するデータ・セグメントがありません

原因: オーバフロー・セグメントが定義されていません。

処置: オーバフロー・セグメントを追加してください。

ORA-01430 追加する列がすでに表に存在しています。

原因: ALTER TABLE ADD 文に、すでに表上にある列の名前を指定しました。1 つの表中のすべての列名は、一意である必要があります。

処置: 新しい列に一意の名前を指定して、文を再実行してください。

ORA-01431 GRANT コマンドで内部エラーが発生しました。

原因: GRANT 文の実行中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01432 削除するパブリック・シノニムが存在しません。

原因：DROP PUBLIC SYNONYM に指定したパブリック・シノニムは無効です。プライベート・シノニムの可能性があります。

処置：シノニムの名前を修正するか、またはシノニムがパブリックでない場合は DROP SYNONYM を使用してください。

ORA-01433 作成するシノニムがすでに定義されています。

原因：CREATE SYNONYM 文に、既存のシノニム、表、ビューまたはクラスタと同じ名前のシノニム名を指定しました。シノニムには、それを作成したユーザーが使用可能な他のシノニム、表、ビューまたはクラスタと同じ名前を付けることはできません。

処置：シノニムに一意の名前を指定して、文を再実行してください。

ORA-01434 削除するプライベート・シノニムが存在しません。

原因：DROP SYNONYM 文に存在しないシノニムを指定しました。既存のシノニム名は、データ・ディクショナリを問い合わせることによってリストできます。

処置：DROP SYNONYM 文に存在するシノニムの名前を指定してください。

ORA-01435 ユーザーが存在しません。

原因：存在しないユーザーを参照すると、このエラーが発生します。たとえば、SELECT、GRANT または REVOKE 文に存在しないユーザー名を指定すると、エラーとなります。GRANT CONNECT 文のみに新しいユーザー名を指定できます。他の GRANT および REVOKE 文には、既存のユーザー名を指定する必要があります。また、SELECT 文には既存のユーザー名を指定する必要があります。

処置：SELECT、GRANT または REVOKE 文に存在するユーザー名のみを指定するか、データベース管理者に新しいユーザー名を定義してもらってください。

ORA-01436 ユーザー・データで CONNECT BY のループが発生しました。

原因：CONNECT BY 句に指定した条件によって、問合せでループが発生しました。選択する次のレコードが自分の後続者となっています。このため、問合せは無限に続きます。

処置：CONNECT BY 句を確認して、循環参照を削除してください。

ORA-01437 結合は CONNECT BY と一緒に指定できません。

原因：CONNECT BY 句と一緒に結合処理を指定しました。ツリー構造の問合せに対する SELECT 文に CONNECT BY 句を使用する場合、問合せで参照できる表は、1 つのみです。

処置：CONNECT BY 句または結合処理を SQL 文から削除してください。

ORA-01438 指定した精度を超過した値が列に指定されています

原因：レコードの挿入または更新時に、その列に対して定義されている精度を超える数値が入力されました。

処置：数値列の精度に適合する値を入力するか、または ALTER TABLE コマンドに MODIFY オプションを使用して、精度を上げてください。

ORA-01439 データ型を変更するには、修正する列を空にする必要があります

原因：ALTER TABLE MODIFY 文でデータを含む列のデータ型を変更しようとした。列のデータ型を変更する場合、列の値は NULL である必要があります。

処置：データ型を変更する列の値は、NULL にしてください。

ORA-01440 精度またはスケールを下げるには、修正する列を空にする必要があります

原因：ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む数字列のスケールまたは精度を下げようとした。いずれの値を下げるにしても、列の値は NULL である必要があります。精度を上げずにスケールのみを上げようとしても、このエラーが発生します。

処置：列のすべての値を NULL に設定してから、数字の精度またはスケールを下げてください。スケールを上げる場合は、スケールに合わせて精度も上げるか、あらかじめ列のすべての値を NULL に設定してください。

ORA-01441 大きすぎる値があるため、列の長さを減らせません。

原因：ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む文字フィールドのサイズを小さくしようとした。列の最大サイズを小さくする場合、列の値は NULL である必要があります。

処置：列のすべての値を NULL に設定してから、最大サイズを小さくしてください。

ORA-01442 NOT NULL に変更しようとした列はすでに NOT NULL です。

原因：ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、列指定を NOT NULL から NOT NULL へ変更しようとした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01443 内部エラー：参照結果のビュー列のデータ型が無効です

原因：ビューの参照中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01444 内部エラー：内部データ型が無効な外部データ型をマップしました

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01445 キー保存表なしに結合ビューから ROWID を選択できません

原因: SELECT 文を使用して、結合処理によって導出されたビューから ROWID を検索しようとしてしました。ビュー中の検索された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

処置: ビュー検索句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01446 DISTINCT、GROUP BY などを含むビューから ROWID を選択できません

原因: SELECT 文を使用して、関数または式から導出された列を含んでいるビューから ROWID を検索しようとしてしました。ビュー中の検索された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

処置: ビュー検索句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01447 クラスタ列に ALTER TABLE 文は使用できません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文に、表のクラスタ化で使用する列を指定しました。クラスタ列は変更できません。

処置: 列を変更するには、最初に、クラスタ化されてないフォームで表を再作成してください。また、同時に列のサイズを大きくできます。

ORA-01448 任意の型に変更する前に索引を削除する必要があります

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、索引の付いた文字列を LONG 列に変更しようとしてしました。データ型が LONG である列に索引を付けることはできません。したがって、変更する前に索引を削除する必要があります。

処置: 列を参照するすべての索引を削除してから、データ型を LONG に変更してください。

ORA-01449 列は NULL 値を含んでいます: NOT NULL に変更できません

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、NULL 値を含む列の定義を NOT NULL に変更しようとしてしました。NOT NULL に変更する列には、NULL 値が含まれてはいけません。

処置: 列の NULL 値を NULL 以外の値に設定してから、列を NOT NULL に変更してください。

ORA-01450 キーが最大長 (string) を超過しました

原因: CREATE INDEX 文に指定されたすべての列を結合した長さが、最大索引長を超えました。最大索引長は、オペレーティング・システムに依存します。索引全体の長さは、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものとなります。日付フィールドの長さは7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドの長さは22として計算されます。数値の長さ = (精度 / 2) + 1 で、負の場合は、+1 を加えてください。

処置: 索引長が、オペレーティング・システムの最大索引長を超えないように、索引を付ける列を指定してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01451 NULL に変更しようとした列は NULL に変更できません

原因: その列がすでに NULL 値を受け入れるようになっているか、NOT NULL 制約が主キーまたはチェック制約の一部であるか、または ALTER TABLE MODIFY 文が列指定を NULL から NULL に不必要に変更しようとした。

処置: 主キーまたはチェック制約によって NOT NULL 制約が施行されている場合は、NOT NULL 制約を削除してください。

ORA-01452 CREATE UNIQUE INDEX は実行できません: 重複するキーがあります

原因: CREATE UNIQUE INDEX 文に、重複する値を含む列を 1 つ以上指定しました。UNIQUE INDEX を作成するには、索引を付ける列のすべての値は行ごとに一意である必要があります。

処置: エントリが一意でなくてもよい場合は、CREATE INDEX 文から UNIQUE キーワードを削除してから、文を再実行してください。主キーのようにエントリが一意である必要がある場合は、UNIQUE の索引を作成する前に、重複する値をなくしてください。

ORA-01453 SET TRANSACTION はトランザクションの最初の文である必要があります

原因: SET TRANSACTION 文が最初になかったため、トランザクションは正しく処理されませんでした。

処置: SET TRANSACTION 文を使用する前に、カレント・トランザクションをコミットまたはロールバックしてください。

ORA-01454 列を数値データ型に変換できません。

原因: 非数値を数値に変換できません。

処置: 値に、数字、符号、小数点、文字 E または e 以外の値が含まれていないことを確認して、操作を再試行してください。

ORA-01455 列の変換により整数データ型がオーバーフローしました。

原因: 指定した式の変換書式が、指定したデータ型に対して大きすぎます。

処置: より大きいデータ型を定義するか、データを修正してください。

ORA-01456 READ ONLY トランザクションでは挿入 / 削除 / 更新ができません。

原因: 非 DDL の挿入 / 削除 / 更新をしようとしたか、または更新操作を選択しようとした。

処置: トランザクションをコミット（またはロールバック）して、再実行してください。

ORA-01457 列の変換により 10 進数データ型がオーバーフローしました。

原因：指定した式の変換書式が、指定した型に対して大きすぎます。COBOL プログラムの PICTURE 句で COMP-3 を使用する場合にも、このエラーが発生します。この句は Pro*COBOL プリコンパイラおよび COBOL で受け入れられますが、このエラーとなります。

処置：より大きいデータ型を定義するか、データを修正してください。

ORA-01458 可変長文字列の長さが無効です。

原因：可変長文字列をバインドまたは定義していますが、バッファ長が必要最小限の長さより小さくなっています。

処置：バッファ・サイズを大きくするか、他のデータ型を使用してください。

ORA-01459 可変長文字列の長さが無効です。

原因：バッファ長が、必要な最小値より小さいか、バインド実行時のバッファ長から 2 バイトを減じた長さより大きい値でした。

処置：文字列のサイズが、バッファを保持できるほど十分大きいかどうかを確認してください。

ORA-01460 要求された変換はできません。

原因：要求された書式変換はサポートされていません。

処置：要求された変換を SQL 文から削除してください。TO_CHAR、TO_DATE および TO_NUMBER 関数の構文を調べて、サポートされている変換を確認してください。

ORA-01461 LONG 値は LONG 列にのみバインドできます。

原因：LONG データ型の値を他のデータ型に挿入しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：LONG データ型を他の型の列に挿入しないでください。

ORA-01462 4000 文字より長い文字列を挿入できません

原因：Oracle がサポートしているリテラル長の最大値は、4000 バイトです。

処置：リテラルの文字数を 4000 バイト以内にするか、4000 バイトを超える場合は VARCHAR2 または LONG データ型を使用してください。

ORA-01463 現行の制約では、列のデータ型を変更できません。

原因：CHAR から VARCHAR、または VARCHAR から CHAR へのデータ型変更のみを許可する参照制約あるいはチェック制約を持つ列のデータ型を変更しようとしてしました。

処置：制約を削除するか、または制約に違反するような操作は行わないでください。

ORA-01464 表またはビューの循環的な付与が検出されました（上位のユーザーに権限を与えようとして）。

原因： GRANT 文の TO 句に指定したユーザーには、この表上の権限がすでに付与されています。

処置： 表上に最初に権限を付与したユーザーに、その表に対する権限を付与しないでください。エラーとなった文は不要である可能性があります。

ORA-01465 16 進数の指定が無効です。

原因： SELECT FOR UPDATE に続く UPDATE 文の ROWID の一部に無効な文字が含まれています。ROWID は、正しいフォーマットで、引用符で囲んで指定する必要があります。

処置： SELECT FOR UPDATE の中で返されたとおりに ROWID を入力してください。

ORA-01466 データを読み込めません - 表定義が変更されました

原因： これは、表や索引などのデータベース・オブジェクトに対する時ベースの読み込み整合性エラーです。次のいずれかが発生した可能性があります。

- オブジェクトが変更された時刻より古いマテリアライズド・ビューを使用して、問合せが解析および実行されました。
- オブジェクトの作成タイムスタンプが、現在のシステム時刻より後になっています。たとえば、システム時刻がオブジェクトの作成時刻より前に設定されているような場合に発生します。

処置： 原因に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- 古いスナップショットが原因の場合は、トランザクションをコミットまたはロールバックして、作業を再開してください。
- 作成タイムスタンプの値が大きいことが原因の場合は、システム時刻を正しく設定してください。

オブジェクトの作成タイムスタンプが依然としてシステム時刻より大きい場合は、オブジェクトが新しい作成タイムスタンプを持つように、オブジェクトのデータをエクスポートしてこのオブジェクトを削除し、オブジェクトを再作成してから、オブジェクトのデータをインポートし、作業を再開してください。

ORA-01467 ソート・キーが長すぎます。

原因： DISTINCT、GROUP BY、ORDER BY または SET 操作では、Oracle がサポートしている長さを超える長さのソート・キーが要求されます。SELECT 文に指定した列またはグループ関数の数が多すぎます。

処置： 操作に関連する列またはグループ関数の数を減らしてください。

ORA-01468 1 つの述語に対して外部結合表は 1 つのみ参照できます

原因： WHERE 句のある述語には、異なる表から 2 つの列が (+) で指定されています。

処置： WHERE 句を変更して、それぞれ述語には外部結合表が 1 つのみ含まれるようにしてください。

ORA-01469 PRIOR の後に指定できるのは列名のみです

原因： PRIOR キーワードの後に、無効な列名が指定されました。

処置： 構文と綴りを確認し、有効な列名を使用して再試行してください。

ORA-01470 In リストの反復では、混合演算子はサポートされていません。

原因： In リストに異なる型の定数が指定されました。

処置： In リストに同じ型の定数を使用してください。

ORA-01471 オブジェクトと同じ名前のシノニムは作成できません。

原因： 参照するオブジェクトと同じ名前のプライベート・シノニムを作成しようとしてしました。通常、このエラーは、参照するいずれかのオブジェクトと同じ名前を持つプライベート・シノニムをユーザーが作成しようとするとき発生します。

処置： 異なるシノニム名を選択するか、異なるユーザー名でシノニムを作成してください。

ORA-01472 CONNECT BY は DISTINCT、GROUP BY などを含むビューには使用できません

原因： 出力行と基本表の行が一致していないビュー上で、CONNECT BY 句は使用できません。

処置： ビューから DISTINCT または GROUP BY を削除するか、CONNECT BY 句をビュー内に移動してください。

ORA-01473 CONNECT BY 句には副問合せを指定できません。

原因： CONNECT BY 句に副問合せは使用できません。

処置： 副問合せを削除するか、または WHERE 句に移動してください。

ORA-01474 CONNECT BY なしで START WITH や PRIOR は指定できません。

原因： START WITH および PRIOR は、CONNECT BY を伴わなくては意味を持ちません。

処置： SQL 文の構文を調べて、必要に応じて CONNECT BY 句を指定してください。

ORA-01475 バインド変数のデータ型を変更するには、カーソルを再解析する必要があります

原因： 文を実行した後で、バインド変数を元のバインドとは異なるデータ型で再バインドしようとしてしました。

処置： 異なるデータ型による再バインドの前に、カーソルを再解析してください。

ORA-01476 除数がゼロです。

原因: ある式で、ゼロで除算しようとした。

処置: 式を修正して、操作を再試行してください。

ORA-01477 ユーザー・データ領域記述子が大きすぎます。

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01478 LONG 列はバインド配列に使用できません。

原因: ユーザーが、2001 バイト以上の最大数を持つバインド変数で、バインド配列を実行しています。

処置: このようなバインド変数は、バインド配列に入れることができません。かわりに、通常のバインド操作を使用してください。

ORA-01479 パッファ内の最後の文字が NULL ではありません。

原因: タイプ 97 のバインド変数が、NULL を最後に含んでいません。

処置: 最後の文字を NULL にしてください。

ORA-01480 STR バインド値に終了の NULL がありません。

原因: タイプ 5 (NULL で終了した文字列) のバインド変数が、終了の NULL をパッファに含んでいません。

処置: NULL 文字で文字列を終了してください。

ORA-01481 数値書式モデルが無効です

原因: TO_CHAR または TO_NUMBER 関数に無効な書式パラメータが使用されました。

処置: 構文を修正して、操作を再試行してください。

ORA-01482 指定されたキャラクタ・セットはサポートされていません。

原因: CONVERT 関数などの処理の実行に使用されるキャラクタ・セットが、サポートされていないキャラクタ・セットです。

処置: サポートされているキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-01484 配列は PL/SQL 文に対してのみバインドすることができます。

原因: PL/SQL 文以外に配列をバインドしようとした。

処置: PL/SQL 文のみに配列をバインドするように注意して、違反しているコードを書きなおしてください。

ORA-01485 コンパイル・バインド長が実行バインド長と異なります。

原因: DTYVCS 型（前部に 2 バイトの長さを持つ VARCHAR）のバッファをバインドしました。実行時に、最初の 2 バイトの長さが、バインド・コールで指定された最大のバッファ長を超えています。配列内の要素数および配列内の現在の要素数が、配列の最大サイズを超えることはできません。

処置: 配列 +2 バイトのバッファ長を格納できるように、バッファ・サイズを十分大きくしてください。

ORA-01486 配列要素のサイズが大きすぎます。

原因: そのデータ型には大きすぎるデータ値（たとえば、NUMBER）、または 2001 バイト以上のデータ値（たとえば、VARCHAR または LONG）をバインドしようとした。

処置: 許容される長さになるように、データ値を変換または切り捨てる方法を調べてください。

ORA-01487 指定のバッファに対してバック 10 進数が大きすぎます。

原因: バッファが小さすぎて変換結果を格納できないため、変換要求を実行できませんでした。

処置: バッファのサイズを増やしてください。

ORA-01488 入力データ中のニブルまたはバイトが無効です。

原因: 数値が無効であり、変換要求を実行できませんでした。

処置: 数値を修正して、再試行してください。

ORA-01489 文字列を連結した結果、長さが最大長を超過しました

原因: 文字列を連結した結果、長さが最大サイズを超えました。

処置: 結果が最大サイズより小さいことを確認してください。

ORA-01490 ANALYZE コマンドが無効です。

原因: ANALYZE コマンドの構文が誤っています。

処置: 構文を調べて、正しい構文を使用してコマンドを入力してください。

ORA-01491 CASCADE オプションが無効です。

原因: CASCADE オプションは、表またはクラスタに対してのみ使用します。

処置: CASCADE オプションをこのように使用することはできません。構文を調べて、再試行してください。

ORA-01492 LIST オプションが無効です。

原因: LIST オプションは、表またはクラスタに対してのみ使用します。

処置: LIST オプションをこのように使用することはできません。構文を調べて、再試行してください。

ORA-01493 指定された SAMPLE サイズが無効です。

原因: 指定した SAMPLE サイズが範囲外です。

処置: 適切な範囲内の値を指定してください。

ORA-01494 指定された SIZE が無効です。

原因: 指定したヒストグラムの SIZE 値が範囲外でした。

処置: 適切な範囲内の値を指定してください。

ORA-01495 指定した連鎖行の表がありません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーに適切な権限がありません。

処置: 正しい表を指定してください。

ORA-01496 指定した連鎖行の表形式が正しくありません

原因: 指定した表に、適切なフィールド定義がありません。

処置: 正しい表を指定してください。

ORA-01497 ANALYZE CLUSTER のオプションが無効です。

原因: FOR COLUMNS *column_list* 句は、ANALYZE CLUSTER では使用できません。

処置: 有効な構文を使用して、再試行してください。

ANALYZE CLUSTER の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01498 ブロック検査エラーです - トレース・ファイルを調べてください

原因: ANALYZE コマンドによるブロックの検査中に、エラーが発生しました。

処置: 問題についての詳細メッセージを、トレース・ファイルで確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01499 表または索引の相互参照エラーです - トレース・ファイルを調べてください

原因: ANALYZE コマンドによる索引または表の検査中に、エラーが発生しました。適切な相互参照を指していないエントリが 1 つ以上あります。

処置: 問題についての詳細メッセージを、トレース・ファイルで確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01500 ~ ORA-02099

ORA-01500 日付 / 時間の取得に失敗しました

原因: CREATE DATABASE または ALTER TABLESPACE の実行中、日付および時間の取得に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01501 CREATE DATABASE 文でエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文を実行中にエラーが発生しました。

処置: 付随するエラーを参照してください。

ORA-01502 索引 '*string.string*' またはそのパーティションが使用不可の状態です。

原因: ダイレクト・ロードまたは DDL 操作によって、使用不可の索引またはそのパーティションにアクセスしようとしてしました。

処置: 指定した索引を DROP または REBUILD するか、または使用不可の索引パーティションを REBUILD してください。

ORA-01503 CREATE CONTROLFILE でエラーが発生しました。

原因: CREATE CONTROLFILE を実行中にエラーが発生しました。

処置: 付随するエラーを参照してください。

ORA-01504 データベース名 '*string*' がパラメータ DB_NAME *string* と一致しません

原因: データベースが作成またはマウントした名前が、初期化パラメータ DB_NAME に指定されている名前と一致しません。

処置: いずれかの名前を修正するか、または省略してください。

ORA-01505 ログ・ファイル追加の際にエラーが発生しました

原因: CREATE または ALTER DATABASE の実行で、新しいログ・ファイルの追加中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01506 データベース名がないか、または無効です

原因: CREATE または ALTER DATABASE 文にデータベース名が指定されていません。DB_NAME 初期化パラメータも指定されていません。

処置: CREATE/ALTER DATABASE 文または DB_NAME 初期化パラメータに、データベース名を指定してください。STARTUP の一部として指定されているデータベース名を使用して、SVRMGR または SQL*Plus の STARTUP コマンドが、ALTER DATABASE 文を発行することに注意してください。

ORA-01507 データベースがマウントされていません。

原因: データベースのマウントを必要とするコマンドを実行しようとした。

処置: SVRMGR または SQL*Plus の STARTUP コマンドを介して ALTER DATABASE 文を使用している場合は、MOUNT オプションを指定して起動してください。ALTER DATABASE DISMOUNT を直接実行している場合は、何もしないでください。それ以外の場合は、MOUNT オプションを ALTER DATABASE 文に指定してください。バックアップまたはコピーを実行している場合は、まず、必要なデータベースをマウントしてください。

ORA-01508 データベースを作成できません: ファイル '*string*'、行 *string* でエラーが発生しました

原因: CREATE DATABASE 文は、指定されたファイルを処理できませんでした。

処置: 指定されたファイル中のエラーの行を確認してください。

ORA-01509 指定した名前 '*string*' が実際の名前 '*string*' と一致しません

原因: ALTER DATABASE 文に指定したデータベース名は、現在マウントされているデータベース名と一致しません。

処置: データベース名を修正するか、またはマウントされたデータベースをディスマウントしてください。

ORA-01510 ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01511 ログ / データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、ログまたはデータ・ファイル名の変更中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01512 ログ・ファイル *string* の改名中にエラーが発生しました - 新規ファイル *string* が見つかりません

原因: 新しい名前のファイルが見つからなかったため、制御ファイル内のログ・ファイル名の変更に失敗しました。

処置: ログ・ファイル名の変更がオペレーティング・システムによって正しく行われたかどうかを確認し、再試行してください。

ORA-01513 オペレーティング・システムが返した現行時間が無効です。

原因: オペレーティング・システムが 1988 年から 2121 年までの間にない時間を返しました。

処置: オペレーティング・システムが管理している時間を修正してください。

ORA-01514 ログの指定でエラーが発生しました: ログが存在しません

原因: ログ・ファイル名またはメンバー名リストが、既存のファイルと一致しません。

処置: 既存のログ・ファイルを指定してください。

ORA-01515 ログ・グループ *string* の削除でエラーが発生しました: ログが存在しません

原因: ALTER DATABASE 文が、データベース制御ファイルに認識されていないログ・ファイルを削除しようとしてしました。

処置: 既存のログ・ファイルの名前を指定してください。

ORA-01516 ログ・ファイル、データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイル '*string*' が存在しません。

原因: ALTER DATABASE 文を使用して、ログ・ファイルかデータ・ファイルの名前を変更しようとしたか、またはデータ・ファイルかテンポラリ・ファイルの属性を変更しようとしてしました。指定されたファイルがデータベースの制御ファイルに認識されていないか、またはその要求に対してサポートされない型であるため、失敗しました。

処置: 正しい型の既存ファイルの名前を指定してください。

ORA-01517 ログ・メンバー: '*string*'

原因: このメッセージは、他のエラー・メッセージに関係のあるファイル名を示します。

処置: 付随するメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01518 CREATE DATABASE では 2 つ以上のログ・ファイルを指定する必要があります

原因: CREATE DATABASE 文に指定されているログ・ファイルが、1 つのみです。

処置: ログ・ファイルを 2 つ以上指定してください。

ORA-01519 ファイル '*string*'、行 *string* 付近で処理中にエラーが発生しました

原因: 指定されたファイルの処理中に、CREATE DATABASE 文に問題が発生しました。指定されたファイルは無効です。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01520 追加するデータ・ファイル数 (*string*) が制限数 *string* を超過しています

原因: CREATE TABLESPACE 文が、このデータベースに許可されている数を超える数のファイルを指定しています。

処置: ファイル数を減らすか、または MAXDATAFILES の値を大きくして制御ファイルを再作成してください。

ORA-01521 データ・ファイルの追加中にエラーが発生しました

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE 文で、データ・ファイルの追加中にエラーが検出されました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01522 改名するファイル '*string*' がありません

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、名前を変更すべきファイルがデータベース制御ファイル中に見つかりませんでした。

処置: 正しいファイル名を指定してください。

ORA-01523 データ・ファイルは '*string*' に改名できません - ファイルはすでにデータベースに存在しています

原因: ALTER DATABASE RENAME または ALTER TABLESPACE RENAME 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

処置: データベースの一部として使用されていないファイル名に変更してください。

ORA-01524 データ・ファイルを '*string*' として作成できません - ファイルはすでにデータベースに存在しています

原因: ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

処置: データベースの一部として使用されていないファイル名を作成してください。

ORA-01525 データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因：ALTER TABLESPACE の一部のファイル名の変更中にエラーが発生しました。

処置：詳細情報については、エラー・スタックを確認してください（エラー・スタックにあげられているものを除くすべてのファイル名が変更されています）。

ORA-01526 ファイル'*string*'のオープン中にエラーが発生しました

原因：CREATE DATABASE 文は、指定されたファイルをオープンできませんでした。システム導入時の問題の可能性があります。

処置：システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01527 ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因：CREATE DATABASE 文は、指定されたファイルを読み込めませんでした。システム導入時の問題の可能性があります。

処置：システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01528 SQL 文の処理中に EOF エラーが発生しました。

原因：指定されたファイルの読み込み中に、CREATE DATABASE 文が预期せずファイルの終わりとなりました。SQL.BSQ ファイルは無効です。

処置：システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01529 ファイル'*string*'のクローズ中にエラーが発生しました

原因：CREATE DATABASE 文は、指定されたファイルをクローズできませんでした。

処置：システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01530 このインスタンスはすでにデータベースをマウントしています。

原因：ALTER DATABASE MOUNT で、すでにマウントされているデータベースのあるインスタンスでデータベースをマウントしようとした。

処置：データベースをマウントする場合は、インスタンスを一度停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01531 このインスタンスはすでにデータベースをオープンしています。

原因：ALTER DATABASE 文で、すでにオープンされているデータベースのあるインスタンスでデータベースをオープンしようとした。

処置：このインスタンスで新しいデータベースをオープンする場合は、インスタンスを一度停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01532 データベースを作成できません - インスタンスがすでに他で起動されています

原因: CREATE DATABASE 文で、別のユーザーがこのインスタンスを同時に変更している可能性があります。

処置: 別のユーザーが同時にインスタンスを変更していないことを確認してください。別のユーザーが変更していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡するか、または操作を再試行してください。

ORA-01533 ファイル *string* は表領域に属していないので改名できません。

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、名前を変更すべきファイルが表領域中に見つかりませんでした。

処置: 正しいファイル名または正しい表領域名を指定してください。

ORA-01534 ロールバック・セグメント '*string*' が存在しません

原因: ALTER または DROP ROLLBACK SEGMENT で、指定されたロールバック・セグメント名が不明です。

処置: 正しいロールバック・セグメント名を使用してください。

ORA-01535 ロールバック・セグメント '*string*' はすでに存在しています

原因: 指定されたロールバック・セグメントがすでに存在しています。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01536 表領域 *string* に対して割り当てられた領域を使い果たしました。

原因: 表領域内に新しいセグメントのエクステントを作成しようとしたますが、表領域内のセグメント所有者に対して割り当てられた領域の空きがなくなりました。

処置: 表領域内の不要なオブジェクトを削除して領域を再生するか、または権限のあるユーザーに依頼して、セグメント所有者に対する表領域の割当てを増やしてください。

ORA-01537 データ・ファイル '*string*' を追加できません - すでにデータベースの一部として存在します

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE 文で、追加しようとしているファイルはすでにデータベースの一部となっています。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01538 ロールバック・セグメントの取得に失敗しました

原因: 共有モードで起動中に、ロールバック・セグメントの取得に失敗しました。

処置: 排他モードで再起動してパブリック・セグメントをもう1つ作成するか、または初期化パラメータ `ROLLBACK_SEGMENTS_REQUIRED` で使用可能なプライベート・セグメントを指定し、共有モードで起動してください。

ORA-01539 表領域 '*string*' はオンラインになっていません

原因: 表領域を読取り専用またはオフラインにしようとしたのですが、この表領域がオンラインでないため失敗しました。通常、表領域を読取り専用またはオフラインにする前に、表領域はオンラインである必要があります。

処置: 表領域の状態を確認してください。IMMEDIATE オプションまたは TEMPORARY オプションを使用して、すべてのファイルを強制的にオフラインにしてください。表領域を読取り専用にする前にオンラインにしてください。

ORA-01540 表領域 '*string*' はオフラインになっていません

原因: 表領域がオフラインの状態ではないので、オンラインにできませんでした。

処置: 表領域の状態を確認してください。

ORA-01541 SYSTEM 表領域はオフラインにできません: 必要な場合は停止してください

原因: SYSTEM 表領域をオフラインにしようとした。

処置: リカバリを行うために必要な場合は、停止してください。

ORA-01542 表領域 '*string*' はオフラインです。領域を割り当てられません

原因: オフラインの表領域に領域を割り当てようとした。

処置: 表領域をオンラインにするか、または他の表領域中にオブジェクトを作成してください。

ORA-01543 表領域 '*string*' はすでに存在します

原因: すでに存在している表領域を作成しようとした。

処置: 新しい表領域には別の名前を使用してください。

ORA-01544 システム・ロールバック・セグメントは削除できません。

原因: システム・ロールバック・セグメントを削除しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01545 指定したロールバック・セグメント '*string*' は使用できません

原因: 原因は次のいずれかです。

1. 起動中に使用不可能なロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。たとえば、ロールバック・セグメントがオフラインの表領域にあるような場合です。
2. すでにオンラインのロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。これは、初期化パラメータ・ファイルの `ROLLBACK_SEGMENTS` パラメータ中で、そのロールバック・セグメントが 2 回指定されたか、または他のインスタンスによってすでにオンラインになっているためです。
3. 現在オンラインになっているロールバック・セグメントを削除しようとした。
4. `unlimited` エクステントを使用して、現在オンラインになっているロールバック・セグメントを変更しようとした。

処置: 原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. 指定したロールバック・セグメントを使用可能にしてください。たとえば、オフラインの表領域をオンラインにしてください。
2. 名前が重複しているとき、または他のインスタンスがそのロールバック・セグメントをすでに取得しているときは、その名前をパラメータ `ROLLBACK_SEGMENTS` から削除してください。
3. まず、ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。これを行うには、アクティブなトランザクションが終了するまで待つ必要がある場合があります。ロールバック・セグメントをリカバリする必要がある場合は、どのエラーが原因でトランザクションのロールバックが停止しているかを調べて、適切な処置を行ってください。
4. 3 と同じです。

ORA-01546 表領域にアクティブなロールバック・セグメント *string* があります

原因: アクティブになっているロールバック・セグメントを持つ表領域をオフラインまたは読取り専用にしようとした。

処置: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスを一度停止してから、表領域をオフラインまたは読取り専用にしてください。

ORA-01547 警告: RECOVER は成功しましたが OPEN RESETLOGS が次のエラーを受け取りました。

原因: 不完全リカバリ・オプションのうちの 1 つであるメディア・リカバリが、エラーなしで終了しました。ただし、現時点で ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを実行しようとする指定のエラーで失敗します。不完全リカバリを実行する前に、十分に古いバックアップから 1 つ以上のデータ・ファイルのリストアを忘れたために、エラーが発生した可能性があります。

処置: 別のデータ・ファイルのバックアップ、別の制御ファイル、または別の停止基準を使用して、不完全メディア・リカバリを再実行してください。

ORA-01548 アクティブなロールバック・セグメント '*string*' があります。表領域の削除を終了しました

原因: アクティブなロールバック・セグメントを含む表領域を削除しようとしてしました。

処置: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスを一度停止してから、表領域を削除してください。

ORA-01549 表領域が空ではありません。INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください

原因: 空でない表領域を削除しようとしてしました。

処置: 表領域中のすべてのオブジェクトを削除するには、INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください。

ORA-01550 SYSTEM 表領域は削除できません。

原因: SYSTEM 表領域を削除しようとしてしました。これは許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01551 ロールバック・セグメント拡張中に使用ブロックが解放されました。

原因: システムがロールバック・セグメントの再帰エクステンツを内部で検出しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01552 SYSTEM 表領域でない表領域 '*string*' にシステム・ロールバック・セグメントは使用できません

原因: SYSTEM 表領域でない表領域に関係する操作に、システム・ロールバック・セグメントを使用しようとしてしました。これがクローン・データベースである場合、SYSTEM 表領域外でデータを変更しようとする、このエラーが発生します。クローン・データベース内では、SYSTEM ロールバック・セグメントのみオンラインにできます。

処置: プライベートまたはパブリック・セグメントを 1 つ以上作成し、一度停止してから再起動してください。プライベート・ロールバック・セグメントを取得するために、初期化パラメータ ROLLBACK_SEGMENTS の変更が必要になることがあります。これが表領域の Point-in-Time リカバリ用に使用されているクローン・データベースである場合、この操作はしないでください。

ORA-01553 MAXEXTENTS は現在割り当てられている *string* よりも大きい値である必要があります

原因: 割り当てられている範囲が、指定された MAXEXTENTS より大きくなっています。

処置: MAXEXTENTS の値を大きくしてください。

ORA-01554 トランザクション表にトランザクション・スロットがありません。

原因: 同時実行のトランザクション件数が多すぎます。

処置: システムを一度停止して、初期化パラメータ TRANSACTIONS、ROLLBACK_SEGMENTS または ROLLBACK_SEGMENTS_REQUIRED を変更し、再起動してください。

ORA-01555 スナップショットが古すぎます: ロールバック・セグメント番号 *string*、名前 *string* が小さすぎます

原因: 一貫した読取りに必要なロールバック・レコードが他のユーザーによって上書きされています。

処置: さらに大きいロールバック・セグメントを使用してください。

ORA-01556 ロールバック・セグメントの MINEXTENTS は 1 より大きい値である必要があります

原因: ロールバック・セグメントの MINEXTENTS に 1 以下の値を指定しました。

処置: MINEXTENTS にさらに大きい値を指定してください。

ORA-01557 ロールバック・セグメントのエクステントは最低 *string* ブロックが必要です。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントに最小値以下のブロックを指定しました。

処置: エクステントにさらに大きいブロックを指定してください。

ORA-01558 ロールバック・セグメント *string* にトランザクション ID がありません。

原因: 使用可能なすべてのトランザクション ID が使用されています。

処置: インスタンスを一度停止して、別のロールバック・セグメントを使用して再起動してください。次に、これ以上トランザクション ID を持たないロールバック・セグメントを削除してください。

ORA-01559 ロールバック・セグメントの MAXEXTENTS は 1 より大きい値である必要があります

原因: ロールバック・セグメントの MAXEXTENTS に 1 以下の値を指定しました。

処置: MAXEXTENTS にさらに大きい値を指定してください。

ORA-01560 global hash table size mismatch for string (string != string)

原因: 指定された「GC_」初期化パラメータには、マウントされたデータベースをすでに持っているインスタンスとの互換性がありませんでした。

処置: 「GC_」パラメータを修正して、再起動してください。

ORA-01561 指定された表領域内のオブジェクトすべてを削除できませんでした。

原因: 表領域の削除中に、すべてのオブジェクトを削除できませんでした。

処置: すべてのオブジェクトが削除されるまで、表領域の削除を再試行してください。

ORA-01562 ロールバック・セグメント番号 string の拡張に失敗しました

原因: ロールバック・セグメントを拡張しようとして障害が発生しました。

処置: 通常、このメッセージの後には、障害の原因となる別のエラー・メッセージが続きます。メンテナンスを実行するために、ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。SELECT SEGMENT_NAME FROM DBA_ROLLBACK_SEGS WHERE SEGMENT_ID=string (string はメッセージに示されたセグメント番号) を使用して、ロールバック・セグメント名を判断してください。その後、ALTER ROLLBACK SEGMENT OFFLINE コマンドを使用して、ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。

ORA-01563 ロールバック・セグメントが PUBLIC です。キーワード PUBLIC を使用してください。

原因: 指定されたパブリック・ロールバック・セグメントに、PUBLIC キーワードを使用しませんでした。

処置: パブリック・ロールバック・セグメントを識別する場合は、PUBLIC キーワードを使用してください。

ORA-01564 ロールバック・セグメントは PUBLIC ではありません。

原因: 指定されたロールバック・セグメントは PUBLIC ではありません。

処置: プライベート・ロールバック・セグメントを識別する場合は、PUBLIC キーワードを使用しないでください。

ORA-01565 ファイル 'string' の識別中にエラーが発生しました

原因: ファイルを識別しようとしてエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください

ORA-01566 DROP LOGFILE にファイルが 2 回以上指定されています。

原因: DROP LOGFILE に指定されたファイルのリストには、重複が 1 つ以上あります。

処置: 重複するファイルの指定を削除して、再試行してください。

ORA-01567 ログ *string* を削除するとスレッド *string* 内の残りログ・ファイルが 1 つ以下になります

原因: 指定したすべてのログを削除すると、残りの使用可能なスレッドごとのログ・ファイル数が 1 つ以下になります。

処置: 削除するログを減らすか、ログを削除する前にスレッドを使用不可にしてください。ログを削除するより、ログの内容を消去する方が可能な場合があります。

ORA-01568 PUBLIC には表領域の割当て制限を設定できません。

原因: PUBLIC に表領域の割当て制限を設定しようとしてしました。

処置: すべてのユーザーに対してシステム全体または表領域全体の領域権限を付与する場合、GRANT RESOURCE [ON *tablespace*] TO PUBLIC を使用してください。

ORA-01569 システム・ディクショナリ表に対してデータ・ファイルが小さすぎます。

原因: データベースの作成中、指定したデータ・ファイルが小さすぎるため、システム・ディクショナリ表を保持できません。

処置: より大きな、またはより多くのファイルを指定して、データベースを再作成してください。

ORA-01570 MINEXTENTS は現在割り当てられているエクステント数 *string* より大きくてはなりません

原因: 割り当てられているエクステントの数が、指定された MINEXTENTS より小さくなっています。

処置: 割り当てられているエクステントの数より小さい MINEXTENTS 値を指定してください。

ORA-01571 REDO パージョン *string* には Oracle パージョン *string* との互換性がありません。

原因: このソフトウェア・バージョンでは、カレント REDO ログを読み取れません。クラッシュ・リカバリが必要か、またはメディア・リカバリの必要なオフライン・データベース・ファイルがあります。ファイル名が表示されている場合、メディア・リカバリが必要です。

処置: 一度停止して、互換性のあるソフトウェアを使用して再起動してください。必要なメディア・リカバリを行い、データベースをオープンしてください。一度停止して、現行のソフトウェアを使用して再起動してください。ファイルを削除する場合は、DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにし、このチェックをスキップしてください。

ORA-01572 ロールバック・セグメント *string* をオンラインにできません。 *string* エクステントを超えています。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントの数が制限を超えています。書込み用にオンラインにできません。

処置: ロールバック・セグメントを削除し再作成してください。

ORA-01573 インスタンス停止中です。変更できません。

原因：データベースが停止している間に、プロセスが変更を加えようとした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01574 最大同時実行トランザクション数を超過しました。

原因：同時実行トランザクション数の制限を超過しました。

処置：Oracle を停止し、初期化パラメータ TRANSACTIONS の値を増やしてから、Oracle を再起動してください。

ORA-01575 領域管理リソースの待機中にタイムアウトが発生しました。

原因：領域管理に必要なリソースの取得に失敗しました。

処置：操作を再試行してください。

ORA-01576 インスタンス・ロック・プロトコルのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因：現行のソフトウェアが互換性のないロック・プロトコルを使用しています。

処置：インスタンスの起動に使用するソフトウェアをアップグレードして、互換性のあるロック・プロトコルを使用してください。

ORA-01577 ログ・ファイル '*string*' を追加できません - すでにデータベースの一部として存在します

原因：CREATE または ALTER DATABASE 文で、追加しようとしているファイルはすでにデータベースの一部となっています。

処置：別の名前を使用してください。

ORA-01578 Oracle データ・ブロックに障害が発生しました (ファイル番号 *string*、ブロック番号 *string*)

原因：指定されたデータ・ブロックに障害が発生しました。プログラム・エラーの可能性あります。

処置：次のようなコマンドを使用して、どのオブジェクトに障害があるか調べてください。

```
SELECT SEGMENT_TYPE, OWNER || '.' || SEGMENT_NAME FROM DBA_EXTENTS  
WHERE file = FILE_ID AND block BETWEEN BLOCK_ID AND BLOCK_ID+BLOCKS -1;
```

file および *block* の値は、メッセージに表示されたものを使用してください。

指定されたブロックを含むセグメントのリストアを試行してください。このためには、セグメントを削除し、再作成する必要があります。トレース・ファイルがある場合、そこに記録されているエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01579 リカバリ中に書き込みエラーが発生しました。

原因: リカバリ中に書き込みエラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルで書き込みエラーの詳細を確認して、エラーを修正してください。

ORA-01580 バックアップ制御ファイル *string* を作成中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に制御ファイルを作成しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

**ORA-01581 ロールバック・セグメント (*string*) を、すでに割り当てられた新規エクステン
ト (*string*) で使用しようとした**

原因: ロールバック・セグメントを拡張するために生成された UNDO が、カレント UNDO ブロック領域外で実行されました。Oracle は、完全に割り当てられていない新しいエクステントに書き込みをしようとした。

処置: ロールバック・セグメントの拡張は、システムによってロールバックされます。それ以上の拡張は、他のトランザクションがロールバックまたはコミットされ、次のエクステントが空くまでしないでください。

ORA-01582 バックアップ用の制御ファイルがオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01583 バックアップされる制御ファイルのブロック・サイズを取得できません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのブロック・サイズを取得しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01584 バックアップされる制御ファイルのファイル・サイズを取得できません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのファイル・サイズを取得しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01585 バックアップ・ファイル *string* の識別中にエラーが発生しました。

原因: 制御ファイルのバックアップに使用されたファイルを識別しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01586 バックアップ先ファイル *string* がオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報については、エラー・スタックを確認してください。

ORA-01587 制御ファイルのバックアップ・ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に制御ファイルをコピーしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージ・スタックで詳細を調べて、適切な処置を行ってください。

ORA-01588 データベースをオープンするには RESETLOGS オプションを使用する必要があります

原因: この処理より前に RESETLOGS オプションを使用してデータベースをオープンしようとしたが、完了しませんでした。または、制御ファイル・バックアップを使用してリカバリが行われました。

処置: データベースをオープンする場合は、RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01589 データベースをオープンするには RESETLOGS または NORESETLOGS を使用する必要があります

原因: 不完全リカバリまたはバックアップ制御ファイルを使用したリカバリのいずれかが実行されています。これらのリカバリの終了後、データベースをオープンするには、RESETLOGS オプションまたは NORESETLOGS オプションを指定する必要があります。

処置: 適切なオプションを指定してください。

ORA-01590 セグメント空きリストの数 (*string*) が最大値 *string* を超過しました

原因: 記憶域パラメータ FREELIST GROUPS の値が大きすぎます。

処置: 記憶域パラメータ FREELIST GROUPS の値を小さくしてください。

ORA-01591 インダウト分散トランザクション *string* がロックを保持しています。

原因: 準備状態で機能していない 2 フェーズ・コミット・トランザクションによってロックされているリソースをアクセスしようとした。

処置: データベース管理者は PENDING_TRANS\$ および関連する表を確認して、コディネータおよびコミット・ポイントに対するネットワーク接続を修復してください。COMMIT または ABORT コマンドの発行にデフォルトが指定されていればそれを使用して、分散トランザクションのローカルな部分を完了してください。

ORA-01592 バージョン7から Oracle8 へのロールバック・セグメント (*string*) の形式の変換中にエラーが発生しました

原因: 付随する内部エラーを参照してください。バージョン7のデータベースが正しく停止されなかった可能性があります。

処置: 内部エラーを調べてください。バージョン7のデータベースをバックアップから再ロードし、データベースを完全に停止する必要がある場合もあります。

ORA-01593 ロールバック・セグメント最適化サイズ *string* ブロックが計算された初期化サイズ *string* ブロックより小さいです。

原因: ロールバック・セグメントの作成中、初期エクステンツの累積サイズ（単位はブロック）が、指定した OPTIMAL サイズを超えました。

処置: OPTIMAL サイズを大きくしてください。

ORA-01594 すでに開放されているロールバック・セグメント (*string*)、エクステンツ (*string*) にラップしようとしてしました

原因: ロールバック・セグメントのエクステンツを解放するために生成された UNDO が、同じエクステンツに書き込もうとしてしました。これは、エクステンツが小さいか、または解放する数が多すぎるか（あるいはその両方）が原因です。

処置: 縮小するロールバック・セグメントは、システムによってロールバックされます。ロールバック・セグメントの OPTIMAL サイズを大きくしてください。

ORA-01595 エクステンツ (*string*) (ロールバック・セグメント (*string*)) 解放中にエラーが発生しました

原因: 非アクティブのロールバック・セグメントのエクステンツを解放しようとして、エラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

ORA-01596 *string* パラメータにはシステムを指定できません。

原因: エラー・メッセージに示されている初期化パラメータに、システム・ロールバック・セグメントが指定されました。

処置: 初期化パラメータの値を変更してください。

ORA-01597 ロールバック・セグメントをオンライン/オフラインに変更できません。

原因: システム・ロールバック・セグメントをオンラインまたはオフラインにしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01598 ロールバック・セグメント '*string*' はオンラインではありません

原因:すでに、データベース管理者によってオフラインにされているか、SMONによってクリーンアップされました。

処置:UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGMENTS でロールバック・セグメントの状態を調べ、ロールバック・セグメントが実際にオンラインであることを確認してください。

ORA-01599 ロールバック・セグメント (*string*) の取得に失敗しました。キャッシュ領域がいっぱいです。

原因:MAX_ROLLBACK_SEGMENTS パラメータの値を基にすると、静的に割り当てられた量は十分ではありません。

処置:ロールバック・セグメントをオフラインにするか、または MAX_ROLLBACK_SEGMENTS パラメータの値を大きくしてください。

ORA-01600 "*string*" は "*string*" 句 (*string*) で1つである必要があります

原因:初期化パラメータが正しく指定されませんでした。

処置:初期化パラメータを修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01601 "*string*" 句 (*string*) でバケット・サイズが無効です。

原因:このパラメータではバケット・サイズが無効です。

処置:初期化パラメータを修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01603 "*string*" 句 (*string*) でグループ・サイズが無効です

原因:このパラメータではグループ・サイズが無効です。

処置:初期化パラメータを修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01604 "*string*" 句 (*string*) で番号の範囲が無効です

原因:このパラメータでは番号の範囲が無効です。

処置:初期化パラメータを修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01605 "*string*" 句 (*string*) に数値がありません

原因:このパラメータに数値がありません。

処置:初期化パラメータを修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01606 GC_FILES_TO_LOCKS がマウントされている別のインスタンスと同一ではありません。

原因:2つのインスタンスにおける GC_FILES_TO_LOCKS パラメータが異なっています。

処置:初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS を修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01607 gc_lck_procs (*string*) is not the same as other instances (*string*)

原因: 初期化パラメータ GC_LCK_PROCS が、データベースをオープンしている他のインスタンスと同じではありません。

処置: 初期化パラメータ GC_LCK_PROCS を修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01608 ロールバック・セグメント '*string*' はオンラインにできません。状態が (*string*) です

原因:すでに、データベース管理者によって、ロールバック・セグメントがオンラインにされているか、プロセス・クラッシュの結果が残されたままになっている可能性があります。

処置: UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGS で、ロールバック・セグメントの状態を確認してください。

ORA-01609 ログ *string* はスレッド *string* の現在のログです - メンバーは削除できません

原因: スレッドの現在のログのメンバーは削除できません。

処置: スレッドがオープンされている場合、そのスレッドを使用しているインスタンスによってログ・スイッチを要求してください。スレッドがオープンされていない場合は、スレッドを使用不可にし、ログをアーカイブするかまたは削除してください。

ORA-01610 BACKUP CONTROLFILE オプションを指定してリカバリを実行してください。

原因: 以前のデータベース・リカバリ・セッションが BACKUP CONTROLFILE を指定したか、RESETLOGS オプションを指定して制御ファイルが再作成されたか、使用中の制御ファイルがバックアップの制御ファイルであるかのいずれかが原因です。BACKUP CONTROLFILE リカバリのみが許可されます。データベースを次回オープンするときに、ログのリセットが必要です。

処置: BACKUP CONTROLFILE オプションを使用してリカバリを実行してください。

ORA-01611 スレッド番号 *string* は無効です - 1 から *string* の範囲で指定してください

原因: コマンドに指定したスレッド番号は、制御ファイルによってサポートされるスレッドの数を超えています。

処置: 有効なスレッド番号を使用するか、制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイント・プロGRESS・レコード・セクション（あるいはその両方）をサイズ変更してください。

ORA-01612 スレッド *string* はすでに使用可能です

原因:すでに使用可能にされているスレッドを使用可能にしようとしてしました。

処置: このスレッドまたは使用可能な別のスレッドのいずれかを使用してください。

ORA-01613 スレッド *string* にはログが *string* のみあります - ログは少なくとも 2 つ必要です

原因: 対応付けられたオンライン・ログ・ファイルが 2 つのみのため、スレッドを使用可能にできません。

処置: スレッドにログを追加するか、または別のスレッドを使用可能にしてください。

ORA-01614 スレッド *string* はビジーです - 使用可能にできません

原因: スレッドを使用可能にしようとしているときに、そのスレッドに対するマウント・エンキューが取得できませんでした。このスレッドを使用可能にする別のプロセスが起動されている可能性があります。

処置: しばらく待ってから再試行するか、または使用可能な別のスレッドを見つけてください。

ORA-01615 スレッド *string* はマウントされています - 使用不可にできません

原因: いくつかのインスタンス（このインスタンスも）が使用するためにスレッドを割り当てています。使用中のスレッドを使用不可にはできません。

処置: スレッドを使用しているインスタンスを正しく停止してください。

ORA-01616 スレッド *string* はオープンされています - 使用不可にできません

原因: スレッドがクローズされていません。スレッドを使用した最後のインスタンスが、スレッドをオープンしたまま停止しました。クローズしないかぎり、スレッドを使用不可にはできません。クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリには、スレッドが必要です。

処置: データベースがオープンしている場合は、インスタンス・リカバリはスレッドをすぐにクローズします。しばらく待機してください。それ以外の場合は、データベースをオープンすると、クラッシュ・リカバリによってスレッドはクローズされます。

ORA-01617 マウントできません: *string* は有効なスレッド番号ではありません

原因: 初期化パラメータ THREAD の値が、1 から制御ファイルで許可されているスレッド数の間にありません。

処置: インスタンスを停止するか、初期化パラメータの値を変更して再起動してください。または、制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイント・プログレス・レコード・セクション（あるいはその両方）をサイズ変更してください。

ORA-01618 スレッド *string* が使用可能ではありません - マウントできません

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、使用可能になっていないスレッドを要求しています。マウントする前に、スレッドを使用可能にする必要があります。

処置: インスタンスを停止して、初期化パラメータの値を変更し、異なるスレッドをマウントした状態で再起動してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドは使用可能にできます。

ORA-01619 スレッド *string* は別のインスタンスによってマウントされています。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、別のインスタンスによってマウントされているスレッドを要求しています。1つのスレッドを使用するインスタンスは1つのみです。

処置: インスタンスを停止して、初期化パラメータの値を変更し、異なるスレッドをマウントした状態で再起動してください。

ORA-01620 マウントに使用できるパブリック・スレッドが存在しません。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、デフォルト値である 0（ゼロ）になっています。パブリックで使用可能なスレッドがなく、マウントされていません。

処置: インスタンスを停止し、プライベートに使用可能にしているマウントされていないスレッドに対して、初期化パラメータの値を変更してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドをパブリックで使用可能にできます。

ORA-01621 データベースがオープンされている場合はカレント・ログ・メンバーは改名できません。

原因: オープン・スレッドのカレント・ログのメンバー名を変更しようとしています。データベースがオープンされている場合、ログは使用中なので名前の変更はできません。

処置: ログがカレント・ログでなくなるまで待つか、またはデータベースを排他的にマウントしてください。

ORA-01622 スレッド番号を指定してください - デフォルト指定はありません

原因: ログの追加時にスレッドが指定されておらず、現在マウントされているスレッドが、マウント時にデフォルトで選択されました。カレント・スレッドが明示的に指定されていないため、ユーザーはログが追加されるスレッドを認識できません。

処置: 初期化パラメータ THREAD または ADD コマンドのどちらかで、スレッド番号を明示的に指定してください。

ORA-01623 ログ *string* は現在のログ（スレッド *string*）です - 削除できません

原因: スレッドがクローズされていても、そのスレッドの現在のログは削除できません。通常、使用不可となっているスレッドは現在のログを持っていません。ただし、不完全に使用不可にされているスレッドは、再度使用不可にする必要があります。

処置: データベースがオープンされていない場合、スレッドを使用不可にしてください。データベースがオープンされており、インスタンスがスレッドをオープンさせる場合、インスタンスにログ・スイッチを要求できます。データベースがクローズされている場合、ログを消去またはアーカイブしてログ・スイッチを強制できます。

ORA-01624 ログ *string* はスレッド *string* のクラッシュ・リカバリに必要です。

原因: スレッドのチェックポイントがログの外に進まないかぎり、ログを削除または消去できません。

処置: データベースがオープンしていない場合は、オープンしてください。クラッシュ・リカバリはチェックポイントを進めます。データベースがオープンしている場合は、グローバル・チェックポイントを強制実行してください。ログが破損したためにデータベースをオープンできない場合は、このログが取り消されるまで、不完全リカバリを行う必要がある場合があります。

ORA-01625 ロールバック・セグメント '*string*' はこのインスタンスに属しません

原因: このインスタンスに属していないロールバック・セグメントを縮小またはオフラインにしようとした。

処置: 現行のインスタンスに属するロールバック・セグメントのみオフラインにしてください。オフラインにするロールバック・セグメントを含むインスタンスに接続してください。

ORA-01626 ロールバック・セグメント番号 '*string*' はこれ以上のトランザクションを処理できません

原因: このセグメント内のトランザクションが多すぎます。

処置: 別のロールバック・セグメントを選択するか、または同時実行のトランザクション数を削減してください。

ORA-01627 ロールバック・セグメント番号 '*string*' はオンラインになっていません

原因: すでに、データベース管理者によってオフラインにされているか、SMON によってクリーンアップされました。

処置: UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGMENTS でロールバック・セグメントの状態を調べ、ロールバック・セグメントが実際にオンラインであることを確認してください。

ORA-01628 最大エクステント数 (*string*) に達しました (ロールバック・セグメント *string*)

原因: すでに MAXEXTENTS 値であるロールバック・セグメントを拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS 記憶域パラメータの値がシステムに可能な最大値より小さい場合、この値を大きくしてください。

ORA-01629 UNDO を保存して最大エクステント数 (*string*) に達しました (表領域 *string*)

原因: オフライン表領域の UNDO を保存するための MAXEXTENTS に達しました。

処置: SYSTEM 表領域の記憶域パラメータを確認してください。表領域は、UNDO が適用できるようにオンラインに戻す必要があります。

ORA-01630 一時セグメントで最大エクステント数 (*string*) に達しました (表領域 *string*)

原因: 一時セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: 表領域の MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくできます。それ以外の場合は、表領域の PCTINCREASE を大きくしてください。

ORA-01631 最大エクステント数 (*string*) に達しました (表 *string.string*)

原因: 表が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01632 最大エクステント数 (*string*) に達しました (索引 *string.string*)

原因: 索引が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: 索引記憶域句の MAXEXTENTS の値が、現在のブロック・サイズに基づいた最大値より小さい場合、値を大きくしてください。それ以外は、エクステントの合計数が最大値を下回るようにより大きなエクステント・サイズで索引を再作成してください。

ORA-01633 この操作には Real Application Clusters オプションが必要です

原因: システムは、Oracle Real Application Clusters で構成されていません。

処置: Oracle Real Application Clusters オプションを入手してください。

ORA-01634 ロールバック・セグメント番号 '*string*' がオフラインになります

原因: 指定したロールバック・セグメントは、データベース管理者によってオフライン指定されています。

処置: まず、ロールバック・セグメントをオンラインにしてください。

ORA-01635 指定されたロールバック・セグメント番号 *string* は使用できません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- 起動中にオフライン・ロールバック・セグメントを取得しようとした。
- アクティブなトランザクションを含むロールバック・セグメントを削除しようとした。

処置: 原因に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- そのロールバック・セグメントを含む表領域をオンラインにするか、またはそのロールバック・セグメントを初期化パラメータ・ファイルに指定しないでください。
- そのロールバック・セグメントが使用中の場合、ロールバック・セグメントを使用しているインスタンスを停止してください。または、ロールバック・セグメントをリカバリする必要がある場合、トランザクションのロールバックを抑止しているエラーを確認して適切な処置を行ってください。

ORA-01636 ロールバック・セグメント '*string*' はすでにオンラインです

原因: ロールバック・セグメントは1つのインスタンスによってのみ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメントをインスタンスがオンラインにしようとしてしました。

処置: 初期化パラメータ・ファイルで ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL および ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに対して設定されている値が、問題のあるインスタンスに対して正しく設定されていることを確認してください。また、インスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを使用していることを確認してください。プライベート・ロールバック・セグメントおよびパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでのロールバック・セグメントの使用については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01637 ロールバック・セグメント '*string*' は他のインスタンス (番号 *string*) が使用中です

原因: ロールバック・セグメントは1つのインスタンスによってのみ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメント・オンラインにインスタンスがアクセスしようとしてしました。

処置: 初期化パラメータ・ファイルで ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL および ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに対して設定されている値が、問題のあるインスタンスに対して正しく設定されていることを確認してください。また、インスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを使用していることを確認してください。プライベート・ロールバック・セグメントおよびパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでのロールバック・セグメントの使用については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01638 パラメータ *string* を指定して ORACLE バージョン *string* でクラスタ・データベースをマウントできません

原因: RECOVERY_COMPATIBLE パラメータの値の設定が小さすぎたために、このソフトウェア・バージョンがクラスタ・データベースをマウントできません。

処置: ソフトウェアの以前のリリースを使用するか、または RECOVERY_COMPATIBLE パラメータを大きくしてください。RECOVERY_COMPATIBLE パラメータが指定されていないときにこのエラーが発生する場合は、このパラメータを現行のソフトウェアのリリースに設定してください。

ORA-01640 アクティブなトランザクションがあるため表領域を読取り専用にできません。

原因: アクティブなトランザクションがあるデータベースで、表領域を読取り専用にしようとした。表領域を読取り専用にする前に、UNDO がその中に入っていることを確認するため、すべてのトランザクションをコミットまたはロールバックする必要があります。これには、インダウト分散トランザクションが含まれます。

処置: これ以上トランザクションが起動されないようにしてください。データベースを制限モードにすると、トランザクションの起動を防ぐことができます。インダウト・トランザクションがある場合は、解決してください。

ORA-01641 表領域 '*string*' はオンラインではありません - データ・ファイルを追加できません

原因: 読取り専用またはオフラインに設定されている表領域に、データ・ファイルを追加しようとした。

処置: 表領域をオンラインまたは読取り / 書込み両用にしてからデータ・ファイルを追加してください。

ORA-01642 読取り専用の表領域 '*string*' には BEGIN BACKUP は必要ありません

原因: 読取り専用に設定されている表領域に、BEGIN BACKUP または END BACKUP しようとした。

処置: BEGIN または END コマンドを使用せずにバックアップを実行してください。ファイルが変更されていないので、バックアップには一貫性があります。

ORA-01643 SYSTEM 表領域は読取り専用にできません。

原因: SYSTEM 表領域を読取り専用に設定しようとした。SYSTEM 表領域は、データベース操作に対して読取り / 書込み両用である必要があります。

処置: SYSTEM 表領域を読取り / 書込み両用のままにしておいてください。

ORA-01644 表領域 '*string*' はすでに読取り専用です

原因: すでに読取り専用の表領域を読取り専用にしようとした。

処置: 表領域を読取り専用のままにするか、読取り / 書込み両用に変更してから再度読取り専用にしてください。

ORA-01645 以前実行した読取り / 書込みにする試行は半分完了しています

原因: 表領域を読取り / 書込み両用に行っている最中に障害が発生し、表領域は読取り専用のままですが、チェックポイントは前進しました。表領域のファイルがオフラインの場合は、RESETLOGS 後に表領域は使用不可能になります。

処置: コマンドを繰り返して、表領域を読取り / 書込み両用にしてください。

ORA-01646 表領域 '*string*' は読取り専用ではありません - 読取り / 書込みにできません

原因: 読取り専用ではない表領域を読取り / 書込み両用にしようとした。表領域はオンライン、オフラインいずれの可能性もあります。

処置: 表領域を読取り / 書込み両用のままにしておいてください。

ORA-01647 表領域 '*string*' は読取り専用です。領域を割り当てられません

原因: 読取り専用の表領域に領域を割り当てようとした。

処置: 別の表領域中にオブジェクトを作成してください。

ORA-01648 ログ *string* は使用不能スレッド *string* のカレント・ログです。

原因: スレッドを使用可能にしようとしたましたが、半分だけ完了した後失敗しました。このログは、スレッドが使用できない状態のままですが、カレント・ログとして残っています。ログ・スイッチはスレッドが使用可能になるまで行われなため、そのログは消去またはアーカイブできません。

処置: ENABLE コマンドを再発行して、スレッドの使用可能化を完了してください。

ORA-01649 バックアップ制御ファイルを使用した操作はできません

原因: 制御ファイルがリストアされたバックアップであるときに無効なコマンドを実行しようとしています。

処置: データベースがオープンされるまで待つってから再試行してください。

ORA-01650 ロールバック・セグメント *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域のロールバック・セグメントにエクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01651 アンドゥ・セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 指定されたオフライン表領域のアンドゥ・エンTRIESを保存するために、エクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置: SYSTEM 表領域に対する記憶域パラメータを確認してください。表領域は、アンドゥが適用できるようにオンラインに戻す必要があります。

ORA-01652 一時セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の一時セグメントにエクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01653 表 *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の表セグメントにエクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01654 索引 *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の索引セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01655 クラスタ *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域のクラスタ・セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01656 最大エクステント数 (*string*) に達しました (クラスタ *string.string*)

原因: クラスタが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01657 SHRINK オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を指定してください。

ORA-01658 表領域 *string* にセグメント用の INITIAL エクステントを作成できません。

原因: 作成中のセグメントに INITIAL エクステントを割り当てられる十分な連続領域を見つけられませんでした。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、INITIAL の値を小さくして再試行してください。

ORA-01659 *string* を超える MINEXTENTS を表領域 *string* に割当てられません。

原因: 作成中のセグメントに MINEXTENTS を割り当てられる十分な連続領域を見つけられませんでした。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、MINEXTENTS、NEXT または PCTINCREASE の値を小さくして再試行してください。

ORA-01660 表領域 '*string*' はすでに永続領域です。

原因: すでに永続領域になっている表領域を、永続領域にしようとしてしました。

処置: 表領域を永続領域のままにしておいてください。

ORA-01661 表領域 '*string*' はすでに一時領域です。

原因: すでに一時領域になっている表領域を、一時領域にしようとしてしました。

処置: 表領域を一時領域のままにしておいてください。

ORA-01662 表領域 '*string*' は空ではなく一時領域にできません。

原因: 空でない表領域を一時表領域に変換しようとしました。

処置: 表領域中のすべてのオブジェクトを削除してください。

ORA-01663 表領域 '*string*' の内容は常に変更されています。

原因: 表領域の内容が常に PERMANENT と TEMPORARY の間で変更されています。

処置: 表領域の内容をどちらかに決定し、固定してください。

ORA-01664 ソート・セグメントを拡張したトランザクションが異常終了しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01665 制御ファイルがスタンバイ制御ファイルではありません

原因: スタンバイ制御ファイルを使用せずに、スタンバイ・データベースのマウント、リカバリまたはアクティブ化を実行しようとしました。

処置: スタンバイ制御ファイルを作成してから、データベースをスタンバイ・データベースとして使用してください。

ORA-01666 制御ファイルはスタンバイ・データベース用です

原因: スタンバイ・データベースを指定する適切なコマンド・オプションを使用せずに、スタンバイ・データベースのマウント、リカバリまたはオープンを実行しようとしました。

処置: スタンバイ・オプションまたは適切なコマンドを使用するか、プライマリ制御ファイルを使用してマウントを実行してください。

ORA-01667 表領域をこれ以上追加できません: 制限数 *string* を超過しました

原因: 制御ファイルには、これ以上表領域を追加する空きがありません。

処置: 制御ファイルのサイズを変更するか、他の表領域を削除してください。

ORA-01668 スタンバイ・データベースにはデータ・ファイルのオフライン用 DROP オプションが必要です

原因: DROP オプションを指定せずに、スタンバイ・データベースでデータ・ファイルをオフラインにしようとしました。スタンバイ・データベースでオフラインになっているファイルがリカバリされず、スタンバイ・データベースをアクティブにしても使用できない可能性があります。DROP オプションを指定しても、後でファイルがオンラインにならないとはかぎりません。

処置: DROP オプションを指定するか、ファイルをオンラインのままにしておいてください。

ORA-01669 スタンバイ・データベース制御ファイルが矛盾しています。

原因: データ・ファイルと同じ状態でリカバリされなかった制御ファイルを使用して、スタンバイ・データベースをアクティブにしようとした。制御ファイルはプライマリ・データベースからコピーされ、リカバリに使用されなかった可能性があります。

処置: すべてのファイルの整合性がとれるまで、スタンバイ・データベースをリカバリしてください。

ORA-01670 スタンバイ・データベースのリカバリに新しいデータ・ファイル *string* が必要です。

原因: スタンバイ・データベースのリカバリによって、ファイルがプライマリ・データベースに追加されたことが通知されましたが、このファイルはスタンバイ・データベースでは使用できません。

処置: プライマリ・データベースでファイルをコピーするか、スタンバイ・データベースで ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを実行して、リカバリに使用するファイルを作成してください。

ORA-01671 制御ファイルはバックアップ用です。スタンバイ制御ファイルにはできません

原因: 現在マウントされている制御ファイルがバックアップ制御ファイルであり、スタンバイ・データベース用に制御ファイルを作成しようとした。

処置: 必要なリカバリを完了してから、RESETLOGS オプションを指定してデータベースをオープンしてください。

ORA-01672 制御ファイルでファイルが不足しているか、余分なファイルがある可能性があります

原因: スタンバイ制御ファイルを作成しようとしたが、CREATE CONTROLFILE を介して、最新の制御ファイルが作成されたか、不完全リカバリが実行されました。このため、制御ファイル内とデータ・ディクショナリ内のデータ・ファイルは一致していない可能性があります。

処置: データベースをオープンしてから操作を再試行してください。

ORA-01673 データ・ファイル *string* を識別できません。

原因: 不完全リカバリまたは CREATE CONTROLFILE の完了後、データ・ファイルが制御ファイル内にありませんでした。スタンバイ・データベースのリカバリにはデータ・ファイルのヘッダーからの情報が必要なため、スタンバイ制御ファイルが作成できません。

処置: ファイルを検索して、それをオンラインにしてください。ファイルは必要に応じてオフラインに戻してください。このファイルを削除する場合、DROP オプションを指定してオフラインにすると、このエラーは発生しません。

ORA-01674 データ・ファイル *string* がカレント・ファイルより古いインカネーションのものです

原因: このファイルがデータベースから削除されていることを示す REDO ログがリカバリで検出されましたが、削除されたファイルと同じファイル番号を使用して別のファイルが追加されました。これは、CREATE CONTROLFILE コマンドで、カレント・ファイルではなく削除された古いファイルが指定されているということです。

処置: CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを再構築し、正しいファイルを指定してください。

ORA-01675 MAX_COMMIT_PROPAGATION_DELAY が他のインスタンスと矛盾しています

原因: MAX_COMMIT_PROPAGATION_DELAY 初期化パラメータが他のインスタンスのパラメータと矛盾しています。

処置: すべてのインスタンスが同じ MAX_COMMIT_PROPAGATION_DELAY を持っていることを確認してください。

ORA-01676 *string*' の変換であるスタンバイ・ファイル名が *string* の最大長を超過しました

原因: 指定されたファイル名をスタンバイ・データベースで使用される名前に変換するとき、変換された名前がファイル名の許容最大長を超えています。

処置: 初期化パラメータ DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT または LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT を変更して、有効な名前に変換してください。

ORA-01677 スタンバイ・ファイル名変換パラメータは他のインスタンスと異なっています

原因: 初期化パラメータ DB_FILE_NAME_CONVERT または LOG_FILE_NAME_CONVERT が、すでにデータベースにマウントされている他のインスタンスと一致しません。

処置: 初期化パラメータ DB_FILE_NAME_CONVERT および LOG_FILE_NAME_CONVERT の値を、他のインスタンスと一致するように変更してください。

ORA-01678 パラメータ *string* はパターンと置換文字列の組合せである必要があります。

原因: 初期化パラメータの値に、偶数の文字列が指定されていません。奇数の文字列は、ファイル名で検索されるパターンです。偶数の文字列は、ファイル名で検索されたときに対応するパターンを置換するために使用します。

処置: パラメータに偶数の文字列を指定するか、またはパラメータを省略してください。

ORA-01679 データベースが EXCLUSIVE にマウントされ、活動化するようにオープンされていません。

原因: データベースが EXCLUSIVE でマウントされていないとき、またはすでにオープンしているときにスタンバイ・データベースをアクティブにしようとした。

処置: データベースを EXCLUSIVE オプションで指定してマウントし、ACTIVATE コマンドを再実行してください。

ORA-01680 LOB セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01681 最大エクステント数 (*string*) に達しました (LOB セグメント、表領域 *string*)

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: 表領域の MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくできます。それ以外の場合は、表領域の PCTINCREASE を大きくしてください。

ORA-01682 読取り専用データベースでは表領域 *string* に一時領域の割当てはできません。

原因: 一時領域 (通常ソートに対して) が、主記憶域またはテンポラリ・ファイルのいずれにも割り当てられませんでした。指定された表領域からの領域を割り当てようとしたが、データベースが読取り専用でオープンされています。データベースのオープンには、ソート作業領域が必要です。

処置: 主記憶域 (SORT_AREA_SIZE 初期化パラメータ) に十分な作業領域を割り当てるか、一時表領域を作成してデータベースを読取り専用にしてください。ALTER TABLESPACE ADD TEMPFILE 文を使用して、テンポラリ・ファイルを一時表領域に追加してください。

ORA-01683 索引 *string.string* のパーティション *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の索引セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01684 最大エクステント数 (*string*) に達しました (表 *string.string* のパーティション *string*)

原因: 表が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01685 最大エクステント数 (*string*) に達しました (索引 *string.string* のパーティション *string*)

原因: 索引が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01686 最大ファイル数 (*string*) に達しました (表領域 *string*)。

原因: 指定の表領域のファイル数が最大値に達しました。

処置: 表領域内の既存ファイルのサイズを変更するか、複数の表領域間のオブジェクトをパーティション化してください。または、いくつかのオブジェクトを別の表領域に移動してください。

ORA-01687 表領域 '*string*' に指定されたロギング属性が既存のものと同じです

原因: 表領域のデフォルトのロギング属性 (LOGGING または NOLOGGING) を既存のロギング属性と同じにしようとした。

処置: 指定したロギング属性を変更してください。

ORA-01688 表 *string.string* のパーティション *string* を拡張できません (*string*、表領域 *string*)

原因: 表領域の表セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01689 "*string*" 句 (*string*) に構文エラーがあります。

原因: 初期化パラメータに構文エラーがありました。

処置: 構文エラーを修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01690 ソート領域のサイズが小さすぎます

原因: ソート領域のサイズが小さすぎて、2 つのレコードがメモリーに入りません。

処置: SORT_AREA_SIZE 初期化パラメータの値を増やしてください。

ORA-01691 LOB セグメント *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01692 LOB セグメント *string.string* のパーティション *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-01693 最大エクステント数 (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string*)

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01694 最大エクステント数 (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string* のパーティション *string*)

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-01695 バージョン 8.0.2 へのロールバック・セグメント *string* の変換中にエラーが発生しました。

原因: バージョン 8.0.1 のデータベースが正しく停止されなかった可能性があります。

処置: 8.0.1 のデータベースを再ロードし、正しく停止してください。

ORA-01696 制御ファイルがクローン制御ファイルではありません。

原因: 他のインスタンスでクローンとしてではなくマウントされているデータベースに、クローンとしてマウントしようとしてしました。または、カレント制御ファイルをクローンとして使用しようとしてしました。

処置: クローン・オプションなしでマウントするか、バックアップ制御ファイルを使用して他のインスタンスを停止してからクローンとしてマウントしてください。

ORA-01697 制御ファイルはクローン・データベース用です。

原因: クローン・データベースを指定する適切なコマンド・オプションなしで、クローン・データベースをマウントしようとしてしました。

処置: クローン・オプションまたは適切なコマンドを使用するか、プライマリ制御ファイルを使用してマウントを実行してください。

ORA-01698 クローン・データベースで SYSTEM ロールバック・セグメントをオンラインにしています。

原因: クローン・データベース内のロールバック・セグメントをオンラインにしようとしてしました。

処置: このコマンドを使用しないでください。

ORA-01699 表領域 'string' が Point-in-Time リカバリ用にインポートされています

原因: 表領域をオンラインにしようとした。または、Point-in-Time インポートの処理中に、別の Point-in-Time インポートを開始しようとした。

処置: インポートが完了するまで待機してください。

ORA-01700 リスト中のユーザー名が重複しています。

ORA-01701 ここではクラスタは指定できません。

ORA-01702 ここではビューは指定できません。

ORA-01703 SYNONYM キーワードがありません。

ORA-01704 文字列リテラルが長すぎます

原因: 文字列リテラルが 4000 文字より長くなっています。

処置: 4000 文字以下の文字列リテラルを使用してください。バインド変数を使用する場合のみに、長い値を入力してください。

ORA-01705 関連列に外部結合は指定できません。

ORA-01706 ユーザー関数結果値が大きすぎます

ORA-01707 LIST キーワードがありません。

ORA-01708 ACCESS または SESSION が必要です

ORA-01709 プログラムがありません。

ORA-01710 OF キーワードがありません。

ORA-01711 権限が重複してリストされています。

ORA-01712 自分が所有していない権限は付与できません。

ORA-01713 その権限に対する GRANT OPTION がありません。

ORA-01714 ユーザー関数の実行中にエラーが発生しました

ORA-01715 クラスタ索引に UNIQUE は使用できません。

原因: クラスタ索引を UNIQUE 属性で作成しようとした。

処置: CREATE INDEX 文から UNIQUE を削除してください。

ORA-01716 クラスタ索引に NOSORT は使用できません。

原因: NOSORT オプションを使用してクラスタ索引を作成しようとした。

処置: CREATE INDEX 文から NOSORT を削除してください。

ORA-01717 seccta: 渡されたアクセス・モード・トークンが無効です。

ORA-01718 NOAUDIT 文では BY ACCESS 句または BY SESSION 句は使用できません。

原因: NOAUDIT 文で BY ACCESS 句または BY SESSION 句を指定しようとした。

処置: BY ACCESS 句または BY SESSION 句を削除してください。

ORA-01719 OR または IN オペランドの中で外部結合演算子 (+) は使用できません

原因: OR 句の中で外部結合が使用されました。

処置: A および B を述語とすると、(A(+) OR B) と同じ結果を得るためには、(SELECT WHERE(A(+) AND NOT B)) UNION ALL (SELECT WHERE(B)) を試行してください。

ORA-01720 *string.string'* に対する GRANT オプションは存在しません。

原因: ビューで GRANT が実行されましたが、このオブジェクトに対して権限がありません。

処置: 必要な GRANT 権限を付与してもらってください。

ORA-01721 USERENV(COMMITSCN) がトランザクションで複数回起動されました。

原因: USERENV(COMMITSCN) 関数は、トランザクションで1回のみ使用できます。

処置: トランザクションを修正して、USERENV(COMMITSCN) を1回のみ使用してください。

ORA-01722 数値が無効です。

原因: 数値列が無効であるため、文字列から数値への変換は失敗しました。算術関数または式では、数値データを含む文字フィールドまたは数値フィールドのみ使用できます。数値フィールドのみ、日付から加算または減算できます。

処置: 関数または式の中の文字列を確認してください。文字列が、数字、単一の符号、単一の小数点および文字 E または e のみで構成されていることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-01723 長さゼロの列は指定できません。

原因: CREATE TABLE の実行中に、長さゼロの列が指定されました（たとえば、CHAR(0) など）。

処置: 長さが1以上になるように列宣言を修正し、操作を再試行してください。

ORA-01724 浮動小数点の精度が有効範囲（1 から 126）外です

原因: 浮動小数点の精度が、小さすぎるか、または大きすぎます。

処置: 修正して再試行してください。

ORA-01725 USERENV('COMMITSCN') はここでは使用できません。

原因：USERENV ('COMMITSCN') 関数は、INSERT 文の VALUES 句および UPDATE 文の代入文の右辺においてのみ最上位の式として使用できます。

処置：関数の使用方法を修正してください。

ORA-01726 表はここでは指定できません

原因：表の指定が許可されていない文に表名を使用しました。

処置：有効な文を入力するか、適切なオブジェクトに対して現在の文を使用してください。

ORA-01727 数値の精度指定が有効範囲 (1 から 38) 外です

原因：CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値型の列に指定する精度の桁数は、38 桁以内である必要があります。精度を指定しない場合は、デフォルトの 22 桁が指定されます。

処置：1 ～ 38 までの数値精度を指定し、文を再試行してください。

ORA-01728 数値の位取り指定が有効範囲 (-84 から 127) 外です

原因：CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値フィールドに指定している位取りの範囲が無効です。-84 ～ 127 の間である必要があります。

処置：-84 ～ 127 までの位取りを指定してください。位取りを指定しない場合は、列のデフォルトの位取りは小数点以下 0 桁になります。

ORA-01729 データベース・リンク名が必要です。

原因：リモート・データベース中の表の参照において、アットマーク (@) の後にデータベース・リンク名が指定されていません。

処置：参照を修正して、操作を再試行してください。リモート・データベース中の表を指定する正しい構文は次のとおりです。

```
username.table_name@ database_name
```

アットマーク (@) の前後の空白はオプションです。

ORA-01730 指定した列名の個数が無効です。

原因：CREATE VIEW 文に指定された列名の数が、SELECT 句にリストされた列の数と一致しません。CREATE VIEW 文に列名を指定する場合、SELECT 句の各列または各式に対して正しい名前を 1 つのみ指定する必要があります。

処置：SELECT 句の各列に対して、1 つのビュー列名を指定してください。

ORA-01731 循環ビュー定義が検出されました

原因：一連の CREATE VIEW 文および DROP VIEW 文において、あるビューが自身を参照して定義されました。たとえば、VIEW1 が VIEW1 内のある列に定義される VIEW2 中のある列を含んでいる、という定義です。ビュー定義は、データ・ディクショナリを問い合わせることによって参照できます。

処置：ビュー定義を確認し、循環参照を削除してから文を再試行してください。

ORA-01732 このビューではデータ操作が無効です

原因：式または関数を含んでいるか、複数の表から導出されたビューにおいて、UPDATE、INSERT または DELETE 文を使用しようとした。複数のビューを結合して作成しているか、ビューが関数または式から導出された仮想列を含んでいる場合は、問合せのみ可能です。

処置：実表内の行に対して UPDATE、INSERT または DELETE を実行し、問い合わせるビュー上の操作を制限してください。

ORA-01733 ここでは仮想列は使用できません。

原因：ビュー内の式に対して INSERT 文、UPDATE 文または DELETE 文を使用しようとした。

処置：ビューのかわりに、実表のデータに対して INSERT、UPDATE または DELETE を実行してください。

ORA-01734 パラメータが無効です - EXTENT MIN が EXTENT MAX より大きいです

原因：不適切な値がパラメータに指定されました。

処置：パラメータを修正してから、文を再試行してください。

ORA-01735 ALTER TABLE オプションが無効です。

原因：ALTER TABLE 文に無効なオプションが指定されました。

処置：構文を調べて、有効なオプションを指定してから文を再試行してください。

ORA-01736 [NOT] SUCCESSFUL が必要です。

原因：AUDIT 文または NOAUDIT 文の WHENEVER の後に、SUCCESSFUL または NOT SUCCESSFUL 以外のものが指定されています。

処置：WHENEVER 句を修正して、文を再試行してください。

ORA-01737 有効なモード: [ROW] SHARE、[[SHARE]] ROW EXCLUSIVE、SHARE UPDATE

原因：入力されたロック・モードが認識されませんでした。

処置：次のうちの 1 つを入力してください。SHARE、ROW SHARE、EXCLUSIVE、ROW EXCLUSIVE、SHARE ROW EXCLUSIVE または SHARE UPDATE。

ORA-01738 IN キーワードがありません。

原因：LOCK TABLE 文にキーワード IN がありません。

処置：LOCK TABLE 文の表名の直後にキーワード IN を指定し、文を再試行してください。

ORA-01739 MODE キーワードがありません。

原因：LOCK TABLE 文にキーワード MODE がありません。指定したロック・モードの直後には、キーワード MODE を指定する必要があります。

処置：構文を調べて、必要な箇所にキーワード MODE を挿入してから、文を再試行してください。

ORA-01740 識別子に二重引用符がありません

原因：識別子を囲むために最初の二重引用符 (") が付いていますが、終わりの二重引用符がありません。識別子に \$、# または _ 以外の特殊文字あるいは空白が含まれている場合は、二重引用符で囲む必要があります。

処置：閉じる二重引用符 (") を識別子の終わりに追加してください。

ORA-01741 長さゼロの識別子は無効です。

原因：連続した二重引用符 ("") を識別子として使用しようとしてしました。識別子の長さは 1 文字以上である必要があります。

処置：識別子の二重引用符の間に、1 文字以上挿入してください。空白文字の識別子が必要な場合は、二重引用符の間に空白を入れてください。

ORA-01742 コメントが正しく終了していません。

原因：表示されている /* トークンで始まるコメントまたはヒントが、終わりを示す */ トークンで終了していません。

処置：*/ でコメントまたはヒントを正しく終了させてください。

ORA-01743 索引を作成できるのは純関数のみです。

原因：索引関数は、SYSDATE またはユーザー環境を使用してください。

処置：PL/SQL ファンクションは、純関数 (RNDS、RNPS、WNDS、WNPS) である必要があります。SQL 式は、SYSDATE、USER、USERENV(), またはセッション状態に依存する関数を使用できません。NLS に依存する関数は使用できます。

ORA-01744 INTO 句の指定が無効です。

原因：副問合せで INTO 句は使用できません。

処置：構文を調べて、最上位の問合せに INTO 句を配置してから、文を再試行してください。

ORA-01745 ホスト/バインド変数名が無効です。

原因：バインド変数のコロンの後または INTO 指定の後に、不適切な名前（予約語など）があります。

処置：変数名を変更して、操作を再試行してください。

ORA-01746 ここでは標識変数は使用できません。

原因：このコンテキストでは、インジケータ変数の使用は許可されません。

処置：インジケータ変数を削除して、再試行してください。

ORA-01747 user.table.column、table.column または列指定が無効です

原因：現在の SQL 文に列名が正しく指定されていません。

処置：構文（特に列名の参照について）を調べてから、文を再試行してください。

ORA-01748 ここでは修飾された列名は使用できません。

原因：この SQL 文では、`username.table.column`、`table.column` などの修飾された列名は使用できません。

処置：列の修飾を削除して、操作を再試行してください。

ORA-01749 自分自身に対して、権限を GRANT/REVOKE することはできません

原因：自分自身に対して、オブジェクトまたはシステム権限を付与したり取り消すことはできません。

処置：別のデータベース管理者アカウントに、システム権限の GRANT または REVOKE を発行してもらってください。

ORA-01750 UPDATE/REFERENCES は列ではなく表全体からのみ REVOKE できます

原因：更新の権限は列単位で GRANT することができますが、REVOKE は表全体に対してのみ可能です。

処置：特定の列を指定しないでください。特定の列の更新の権限を取り消す場合は、表全体に対して REVOKE を行い、それらの特定列に対してユーザー権限を GRANT するようにしてください。

ORA-01751 DUMP UNDO オプションが無効です

原因：ALTER DUMP UNDO コマンドに無効なオプションが指定されています。

処置：コマンドを修正して、再発行してください。

ORA-01752 複数表のビューから削除できません。

原因：削除された表にはキー保存された表がないか、複数のキー保存された表があります。または、キー保存された表がマージされていないビューか、読取り専用ビューからの表です。

処置：ビューを再定義するか、基礎となる実表からビューを削除してください。

ORA-01753 列定義がクラスタ列の定義と一致しません。

原因：クラスタに表を追加するときに、表の列の定義がクラスタの列の定義と一致していません。

処置：すべてのクラスタ列定義が一致しないかぎり、表をクラスタには追加しないでください。

ORA-01754 LONG 型の列は表に 1 つのみ含められます

原因：LONG 列をすでに LONG 列を持っている表に追加しようとしてしました。表の LONG 列が現在すでに未使用とマークされていても、その未使用の列が削除されるまで、別の LONG 列を追加できません。

処置：ALTER TABLE コマンドを使用して、現在表にある LONG 列を削除してください。

ORA-01755 エクステント番号またはブロック番号を指定する必要があります

原因：エクステント番号またはブロック番号以外のものが指定されました。

処置：エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01756 引用符付き文字列が正しく終了していません

原因：引用符付きの文字列は、単一引用符 (') で終わる必要があります。

処置：閉じる単一引用符を挿入して、文を再発行してください。

ORA-01757 オブジェクト番号を指定する必要があります

原因：オブジェクト番号以外のものが指定されました。

処置：エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01758 必須列 (NOT NULL) を追加するには表が空である必要があります

原因：変更する表にすでに行が存在する場合は、新しい列を NOT NULL として定義できません。

処置：NOT NULL の指定なしで、文を再試行してください。

ORA-01759 ユーザー関数が正しく定義されていません。

原因：ユーザー関数が正しく定義されていません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01760 関数の引数が無効です。

原因：引数またはこの関数に対して指定された引数が、このコンテキストでは無効です。

処置：関数の定義を調べて、引数を修正してください。

ORA-01761 DML 操作が、結合の中の一意の表にマップしません。

原因：主表は、更新、挿入または削除操作が最後に実行される実表です。削除操作の場合、結合問合せの中に主表がないか、または2つ以上の主表があります。更新または挿入操作の場合、指定された列が2つ以上の実表にマップします。

処置：結合指定を変更してください。

ORA-01762 vopdrv: ビューの問合せブロックが FROM にありません。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01763 更新または削除に外部結合された表が含まれています

原因：削除操作の場合、削除された表は他のいずれかの表に対して外部結合になっています。更新操作の場合、更新された表が他のいずれかの表に対して外部結合になっているか、主表から到達可能な表が主表から到達できない表に対して外部結合になっています。

処置：結合指定を変更してください。

ORA-01764 結合の新規更新値が一意であることを保証されていません。

原因：結合問合せ表の行が、更新される行に対して1つの値のみを持つことが保証されていない表の行を使用して更新されています。

処置：結合指定を変更してください。

ORA-01765 指定された表の所有者名は使用できません。

原因：表名またはビュー名の指定にピリオド (.) が含まれていたか、これらの名前が無効な接頭辞によって識別されました。

処置：そのオブジェクトが正しく識別されていることを確認し、必要に応じて名前からピリオドを削除してください。

ORA-01766 このコンテキストでディクショナリ表は使用できません。

原因：SELECT 文の FROM 句の範囲外でデータ・ディクショナリ・オブジェクトの名前を使用しました。データ・ディクショナリ・オブジェクトに対しては、SELECT することのみが許可されています。

処置：問合せを実行するデータ・ディクショナリ・オブジェクト上の操作を制限してください。

ORA-01767 UPDATE ... SET 式は副問合せである必要があります

原因：列のリストを更新しようとして副問合せのない単純式を使用しようとしてしました。

処置：データの更新に使用する副問合せの構文を調べて、必要な副問合せを追加してください。

ORA-01768 数値列が長すぎます。

原因: 入力した文字数が 255 文字（数字、符号、小数点および指数も含む）の制限を超えています。

処置: 科学計算表記法を使用するなどして、数値列を短くしてください（たとえば、1,850,000,000 を 1.85E9 とする）。

ORA-01769 CLUSTER オプションの指定が重複しています。

原因: クラスタ化された表の CREATE に対して、複数の CLUSTER オプションを指定しようとした。

処置: 重複するクラスタを削除してください。

ORA-01770 CREATE CLUSTER コマンドで CLUSTER オプションは使用できません。

原因: CREATE CLUSTER 文で CLUSTER オプションを使用しようとした。

処置: CLUSTER 句を削除して、文を再試行してください。

ORA-01771 クラスタ表に対するオプションが無効です。

原因: クラスタ化された表の CREATE または ALTER に対して、次のオプションを 1 つ以上入力しようとした。INITRANS、MAXTRANS、PCTFREE、PCTUSED、STORAGE、TABLESPACE、CACHE、NOCACHE。これらのオプションは、クラスタ自身に対してのみ指定されます。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-01772 LEVEL の値を指定する必要があります

原因: LEVEL の値以外のものが指定されました。

処置: エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01773 この CREATE TABLE 文では列データ型は指定できません。

原因: 表を直接作成およびロードするために使用される SELECT 文に、列データ型が指定されました。

処置: 列データ型を削除してください。SELECT リスト式のデータ型が自動的に列データ型として使用されます。

ORA-01774 DUMP UNDO オプションが複数指定されています

原因: ALTER DUMP UNDO に同じオプションが 2 回指定されました。

処置: 不要なオプションを削除して、コマンドを再発行してください。

ORA-01775 シノニム定義がループしています。

原因: CREATE SYNONYM 文の中で、シノニムが自身を参照して定義されました。たとえば、次のような定義は循環定義です。

```
CREATE SYNONYM s1 for s2
CREATE SYNONYM s2 for s3
CREATE SYNONYM s3 for s1
```

処置: 1つのシノニム定義を変更して実表またはビューに適用されるようにしてから、操作を再試行してください。

ORA-01776 結合ビューを介して複数の実表を変更できません。

原因: 複数の基礎となる表に属する列が挿入または更新されました。

処置: 文を2つ以上の別々の文として句にしてください。

ORA-01777 このシステムでは WITH GRANT OPTION は使用できません。

原因: Oracle のこのバージョンでは、WITH GRANT OPTION はサポートされていません。

処置: WITH GRANT OPTION を削除してください。

ORA-01778 副問合せの最大ネスト・レベル制限値を超過しました

原因: 255 レベルを超えるネストした副問合せを使用しようとしてしました。

処置: ネストのレベルが 255 未満になるように、いくつかの副問合せを上位の問合せにマージしてください。

ORA-01779 キー保存されていない表にマップする列は変更できません

原因: キー保存されていない表にマップする結合ビューの列を、挿入または更新しようとしてしました。

処置: 基礎となる実表を直接変更してください。

ORA-01780 文字列リテラルが必要です

原因: COMMENT 文では、キーワード IS の後のコメントは引用符付きの文字列リテラルである必要があります。

処置: コメントが文字列リテラルであることを確認してください。

ORA-01781 AS SELECT を使用せずに UNRECOVERABLE を指定することはできません

原因: 移入している副問合せを AS 句で指定しないで、CREATE TABLE 文に UNRECOVERABLE を指定しました。

処置: UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01782 UNRECOVERABLE をクラスタまたはクラスタ化された表に対して指定することはできません

原因：CREATE CLUSTER 文またはクラスタ化された CREATE TABLE 文によって UNRECOVERABLE が指定されました。

処置：UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01783 RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句は 1 つのみ指定できます

原因：RECOVERABLE が複数回指定されたか、UNRECOVERABLE が複数回指定されたか、RECOVERABLE と UNRECOVERABLE の両方が CREATE TABLE 文、CREATE INDEX 文または ALTER INDEX REBUILD 文で指定されたかのいずれかが原因です。

処置：RECOVERABLE 句または UNRECOVERABLE 句のうちのいずれか 1 つを残してその他はすべて削除し、文を再発行してください。

ORA-01784 データベースのメディア・リカバリが使用不能の状態では RECOVERABLE を指定できません。

原因：データベースが NOARCHIVELOG モードで実行しているときに、CREATE TABLE 文または CREATE INDEX 文が RECOVERABLE を指定しました。ログがアーカイブされていないので、上書きされ、オブジェクトの作成前に取ったバックアップから、作成中のオブジェクトをリカバリできません。

処置：RECOVERABLE を指定しないか、メディア・リカバリを使用可能にしてデータベースを再起動してください。

ORA-01785 ORDER BY 項目は、SELECT リスト式の数値である必要があります

原因：集合式に対する ORDER BY 項目が列番号ではないか、ORDER BY 項目が SELECT リスト列の数ではありません。

処置：ORDER BY 項目は、1 から SELECT リスト列数の数である必要があります。列数を調べて文を再試行してください。

ORA-01786 この問合せ式では FOR UPDATE 句は使用できません。

原因：GROUP BY、DISTINCT、UNION、INTERSECT または MINUS を含む集合式の結果に対して、FOR UPDATE 句を使用しようとしてしました。

処置：構文を調べて、FOR UPDATE 句を削除してから、文を再試行してください。

ORA-01787 問合せブロック 1 つにつき 1 つの句のみ使用できます

原因：問合せの中で、複数の WHERE、GROUP BY、CONNECT BY または HAVING 句を使用しようとしてしました。

処置：重複する句を単一の句に組み合わせて、文を再試行してください。

ORA-01788 この問合せブロックでは CONNECT BY 句が必要です。

原因：CONNECT BY 句を指定せずに START WITH 句が指定されました。

処置：構文を調べて、CONNECT BY 句を指定してから文を再試行してください。

ORA-01789 問合せブロックにある結果の列数が正しくありません

原因: 集合式にかかわるすべての問合せに、SELECT リスト列と同じ数が含まれていません。

処置: 集合式の中のすべての問合せと、SELECT リスト列のすべての数が同じになるようにしてください。

ORA-01790 式には対応する式と同じデータ型を持つ必要があります

原因: SELECT リスト項目が、同じ集合式の別の問合せの異なるデータ型を含む SELECT リスト項目に対応しています。

処置: 対応するすべての SELECT リスト項目に、同じデータ型が含まれていることを確認してください。TO_NUMBER、TO_CHAR および TO_DATE の関数を使用して、明示的にデータ変換を実行してください。

ORA-01791 SELECT 式が無効です。

原因: 不適切な ORDER BY 項目があります。問合せは、ORDER BY 句を伴う SELECT DISTINCT です。このコンテキストでは、すべての ORDER BY 項目は、定数、SELECT リスト式、オペランドが定数または SELECT リスト式である式のいずれかである必要があります。

処置: 不適切な ORDER BY 項目を SELECT リストから削除して、文を再試行してください。

ORA-01792 表またはビューに指定できる最大列数は 1000 です。

原因: 1001 列以上で表またはビューを作成しようとしたか、列を追加しすぎて許容できる最大の列数 1000 を超えました。表にある未使用の列も最大列数 1000 に含まれることに注意してください。

処置: CREATE コマンドが原因でエラーが発生した場合、コマンドの列数を少なくして再実行してください。ALTER TABLE コマンドが原因でエラーが発生した場合は、次のいずれかの処置を行ってください。

- テーブルに未使用の列がある場合、新しい列を追加する前に、ALTER TABLE DROP UNUSED COLUMNS を実行して未使用の列を削除してください。
- コマンドの列数を少なくして、再実行してください。

ORA-01793 指定できる最大索引列数は 32 です。

原因: 索引の作成中、33 列以上が指定されました。

処置: 索引定義から、制限を超える列を削除してください。すべての索引列が必要な場合は、2つの索引に分割してください。

ORA-01794 指定できる最大クラスタ列数は 32 です。

原因: クラスタ・キーに 33 列以上が指定されました。

処置: クラスタ・キー定義から、制限を超える列を削除してください。複数の文字列を単一列に連結してみてください。

ORA-01795 リストに指定できる式の最大数は 1000 です。

原因：リストに 1001 以上の列または式を指定しました。

処置：リストから、制限を超える式を削除してください。

ORA-01796 リストではこの演算子は使用できません。

原因：このコンテキストでは関係演算子を使用できません。リストを比較するときは、等価値をテストする演算子（たとえば =、!=、IN）のみ使用してください。

処置：リスト等価値のみを比較するように、問合せを修正してください。たとえば、次の句は無効です。

```
WHERE (A,B) > ((C,D), (E,F))
```

個々の列を別々に比較する必要がある場合もあります。たとえば、A と B がそれぞれ C と D より大きいことをテストするには、WHERE(A,B)>(C,D) ではなく、WHERE A>B AND C>D としてください。

ORA-01797 この演算子の後には ANY または ALL を指定する必要があります

原因：キーワード ANY または ALL がありません。

処置：構文を調べて、適切な箇所に ANY または ALL を追加してください。

ORA-01798 EXCEPTION キーワードがありません。

原因：ENABLE 句に EXCEPTION キーワードがありません。

処置：構文を修正してください。

ORA-01799 列は副問合せに対して外部結合されません。

原因：*expression (+) relop (subquery)* は使用できません。

処置：(+) を削除するか、ビューを副問合せ外にしてください。バージョン 6 以下では、この場合の (+) は無視されていました。

ORA-01800 日付書式のリテラルが長すぎて処理できません

原因：日付書式で指定したリテラルが長すぎます。リテラルを日付として入力する場合、長さは 219 文字以下である必要があります。

処置：日付書式には 219 文字以下のリテラルのみ使用してください。

ORA-01801 日付書式が内部バッファに対して長すぎます

原因：日付書式のリテラルが長すぎて処理できません。このエラーは、日付の一部に長いリテラルを指定した場合に発生します。

処置：日付書式の文字列から長いリテラルを削除してください。

ORA-01802 ユリウス日の指定が有効範囲を超過しています

原因: 無効なユリウス日が入力されました。有効なユリウス日は、1 ～ 3,442,447 までです。

処置: 1 ～ 3,442,447 までの有効なユリウス日を入力してください。

ORA-01803 日付 / 時間の取得に失敗しました

原因: 通常、発生しない内部エラー・メッセージです。ほとんどの場合、システム・クロックの障害によって発生します。

処置: システム・クロックと日付または時間を要求したプロセスを調べてください。必要に応じて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01804 タイムゾーン情報の初期化に失敗しました。

原因: タイムゾーン情報ファイルを正しく読み込めませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01810 書式コードが 2 回現れています

原因: 日付指定に書式コードが 2 回リストされました。各書式コードは、TO_DATE 関数に 1 回のみ指定できます。

処置: 日付指定から重複する書式コードを削除して、操作を再試行してください。

ORA-01811 ユリウス日と年間通算日は混在できません

原因: TO_DATE 関数にユリウス日および年間通算日の両方が指定されました。ユリウス日を指定する場合、年間通算日 (DDD) はユリウス日に含まれるため指定できません。

処置: 指定から年間通算日またはユリウス日を削除して、操作を再試行してください。

ORA-01812 年は 1 度のみ指定できます

原因: 日付指定に複数の年書式コードがリストされました。日付には、次の年書式コードの中のいずれか 1 つのみ指定できます。YYYY、YYY、YY、Y。

処置: 日付指定から年書式を 1 つ残して、その他はすべて削除してください。

ORA-01813 時は 1 度のみ指定できます

原因: 日付指定に複数の時書式コードがリストされました。日付には、次の時書式コードの中のいずれか 1 つのみ指定できます。HH、HH12、HH24。

処置: 日付指定から時書式を 1 つ残して、その他はすべて削除してください。

ORA-01814 AM/PM と A.M./P.M. は混在できません。

原因：両方の正午インジケータタイプ（AM および PM）が日付指定にリストされました。正午インジケータの書式マスク（AM または A.M.）のいずれかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

処置：ピリオドなしまたはありで、1 つの正午インジケータ書式を一貫して使用してください。

ORA-01815 BC/AD と B.C./A.D. は混在できません。

原因：両方のタイプのインジケータ（BC/AD）が日付指定にリストされました。インジケータ（BC/AD）の書式マスク（BC または B.C.）のいずれかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

処置：ピリオドなしまたはありで、1 つの BC/AD インジケータ書式を一貫して使用してください。

ORA-01816 月は 1 度のみ指定できます

原因：日付指定に複数の月書式コードがリストされました。日付には、次の月書式コードの中のいずれか 1 つのみ指定できます。MM、MON、MONTH。

処置：日付指定から月書式を 1 つ残して、その他はすべて削除してください。

ORA-01817 曜日は 1 度のみ指定できます

原因：日付指定に複数の曜日書式コードがリストされました。日付には、次の曜日書式コードの中のいずれか 1 つのみ指定できます。D、DY、DAY。

処置：日付指定から曜日書式を 1 つ残して、その他はすべて削除してください。

ORA-01818 24 時間書式と AM/PM は混在できません

原因：日付指定に、24 時間書式コードおよび正午インジケータ・コードの両方が含まれています。24 時間書式（HH24）を使用して時を指定すると、正午インジケータ（AM または PM）は指定できません。

処置：日付指定から正午インジケータ書式コード（AM/PM または A.M./P.M.）、または 24 時間書式コード（HH24）を削除してください。

ORA-01819 符号付き年と BC/AD は混在できません。

原因：日付指定に、符号付き年と B.C./A.D. インジケータの両方が含まれています。年が符号付きで指定されている場合（SYYYY など）、B.C. または A.D. は日付に含まれているので、入力しないでください。

処置：日付指定から B.C./A.D. インジケータを削除してください。

ORA-01820 日付入力書式に含まれている書式コードが無効です

原因：日付指定に含まれている書式コードが無効です。日付の入力では、次のもののみ指定できます。年、月、日、時、分、秒、ユリウス日、A.M./P.M. および B.C./A.D.。

処置：日付指定から無効な書式コードを削除してください。

ORA-01821 日付書式コードが無効です

原因: 日付指定に含まれている書式コードが無効です。

処置: 有効な日付書式コードのみが指定されていることを確認してください。

ORA-01822 年代書式コードがこのカレンダーでは無効です

原因: 年代情報を使用しないカレンダーに、年代書式コード E または EE を指定しました。

処置: 年代書式コードを含まない日付書式マスクを使用して、操作を再試行してください。

ORA-01830 日付書式の変換で不要なデータが含まれています

原因: 有効な日付書式ピクチャに、不要なデータが含まれています。書式ピクチャの最初の部分は有効な日付に変換されましたが、不要なデータが残っています。

処置: 日付書式ピクチャの指定を調べて、文を修正してください。

ORA-01831 年とユリウス日は混在できません

原因: ユリウス日に対して、誤った年が指定されました。ユリウス日に年を指定する場合、ユリウス日が発生する年である必要があります。

処置: 日付指定から年の値を削除するか、ユリウス日の正しい年を入力してください。

ORA-01832 年間通算日とユリウス日は混在できません

原因: 年間通算日とともにユリウス日が指定されましたが、日がユリウス日と一致しません。ユリウス日とともに年間通算日を指定する場合、ユリウス日と同じ日である必要があります。

処置: 日付指定から年間通算日の値を削除するか、ユリウス日の正しい日付を入力してください。

ORA-01833 月とユリウス日は混在できません

原因: ユリウス日に対して、誤った月が指定されました。ユリウス日とともに月を指定する場合、ユリウス日が発生する月である必要があります。

処置: 日付指定から月の値を削除するか、ユリウス日の正しい月を入力してください。

ORA-01834 月単位の日付とユリウス日は混在できません

原因: 月単位の日とともにユリウス日が指定されましたが、月単位の日がユリウス日と一致しません。ユリウス日とともに月単位の日を指定する場合、ユリウス日と同じ月単位の日である必要があります。

処置: 日付指定から月単位の日付の値を削除するか、ユリウス日の正しい月単位の日を入力してください。

ORA-01835 曜日とユリウス日は混在できません

原因: 曜日とともにユリウス日が指定されましたが、曜日がユリウス日と一致しません。ユリウス日とともに曜日を指定する場合、ユリウス日と同じ曜日にする必要があります。

処置: 日付指定から曜日の値を削除するか、ユリウス日の正しい曜日を入力してください。

ORA-01836 時と日単位の秒が一致していません

原因: 日単位の秒と合わない時が指定されました。午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) とともに時を指定する場合、その秒を含んでいる時にしてください。

処置: 日付指定から時の値を削除するか、午前 0 時からの経過秒を含んだ正しい時を入力してください。

ORA-01837 時単位の分と日単位の秒が一致していません

原因: 日付指定に時単位の分と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。時単位の分 (MI) と午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) の両方を指定する場合、分にはその秒の値を含む必要があります。

処置: 日付指定から分の値を削除するか、指定した秒の値に対する正しい分を入力してください。

ORA-01838 分単位の秒と日単位の秒が一致していません

原因: 日付指定に分単位の秒と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。両方の秒を指定する場合、分単位の秒 (SS) は、午前 0 時からの経過秒 (SSSSS) に対応させる必要があります。

処置: 日付指定から分単位の秒の値を削除するか、指定された日単位の秒に対応する値を入力してください。

ORA-01839 指定された月に対して日付が無効です

原因: 日付に指定された月の日が、所定の月に対して無効です。月の日 (DD) は、1 から月の日数の間で指定する必要があります。

処置: 指定された月に有効な月の日を入力してください。

ORA-01840 入力された値の長さが日付書式に対して不足しています

原因: 日付書式に変換するデータが不完全です。入力データより日付書式ピクチャの方が長くなっています。

処置: 入力を追加するか、日付書式ピクチャを短くして、操作を再試行してください。

ORA-01841 (周) 年は -4713 と +9999 の間の 0 以外の数を指定する必要があります

原因: 日付に指定した年が有効な日付範囲にありません。有効な日付は、4712 B.C.1 月 1 日から 9999 A.D.12 月 31 日の間の任意の日付です。

処置: 4712 B.C. ~ 9999 A.D. の間の有効な日付値を入力してください。

ORA-01842 四半期は1から4の間で指定する必要があります

原因: 日付の年の四半期に対して、指定した値が無効です。四半期 (Q) は、1～4の間で指定する必要があります。

処置: 1～4の間の有効な四半期の値を入力してください。

ORA-01843 指定した月が無効です。

原因: 日付に指定した月は無効です。有効な月は、January～December（書式コード MONTH の場合）および Jan～Dec（書式コード MON の場合）です。

処置: 有効な月の値を正しい書式で入力してください。

ORA-01844 年単位の週は1から52の間で指定する必要があります

原因: 日付の年単位の週に対して、指定した値が無効です。年単位の週 (WW) は、1～52の間で指定する必要があります。

処置: 1～52の間の年単位の週の値を入力してください。

ORA-01845 月単位の週は1から5の間で指定する必要があります

原因: 日付の月単位の週に対して、指定した値が無効です。月単位の週 (W) は、1～5の間で指定する必要があります。

処置: 1～5の間の月単位の週の値を入力してください。

ORA-01846 指定した曜日が無効です。

原因: 日付が指定した曜日は無効です。有効な曜日は次のとおりです。

- Monday～Sunday（書式コード DAY の場合）
- Mon～Sun（書式コード DY の場合）
- 1～7（書式コード D の場合）

処置: 正しい書式で有効な曜日を入力してください。

ORA-01847 月単位の日付は1から月末日の間で指定する必要があります

原因: 日付にリストされた月単位の日は、指定した月に対して無効です。月単位の日 (DD) は、1からその月の日数の間で指定する必要があります。

処置: 指定された月に有効な日の値を入力してください。

ORA-01848 年単位の日付は1から365（うるう年は366）の間で指定する必要があります

原因: 日付に指定した年間通算日は無効です。年間通算日 (DDD) は、うるう年以外の場合は1～365の間、うるう年の場合は1～366の間で指定する必要があります。

処置: 1～365（または366）の間の年間通算日の値を入力してください。

ORA-01849 時は 1 から 12 の間で指定する必要があります

原因：12 時間書式を使用する日付に指定した時が無効です。12 時間書式コード (HH または HH12) を使用する場合、時は 1 ～ 12 の間で指定する必要があります。

処置：1 ～ 12 の間の時の値を入力してください。

ORA-01850 時は 0 から 23 の間で指定する必要があります

原因：24 時間書式を使用する日付に指定した時が無効です。24 時間書式コード (HH24) を使用する場合、時は 0 ～ 23 の間で指定する必要があります。

処置：0 ～ 23 の間の時の値を入力してください。

ORA-01851 分は 0 から 59 の間で指定する必要があります

原因：日付に指定した分の値は無効です。分は 0 ～ 59 の間で指定する必要があります。

処置：0 ～ 59 の間の分の値を入力してください。

ORA-01852 秒は 0 から 59 の間で指定する必要があります

原因：日付に指定した秒の値が無効です。秒書式コード (SS) を使用する場合、秒は 0 ～ 59 の間で指定する必要があります。

処置：0 ～ 59 の間の秒の値を入力してください。

ORA-01853 日単位の秒は 0 から 86399 の間で指定する必要があります

原因：日付に指定した日単位の秒の値が無効です。午前 0 時からの経過秒書式コード (SSSSS) を使用する場合、秒は 0 ～ 86399 の間で指定する必要があります。

処置：0 ～ 86399 の間の秒の値を指定してください。

ORA-01854 ユリウス日は 1 から 5373484 の間で指定する必要があります

原因：無効なユリウス日が入力されました。

処置：1 ～ 5373484 の間の有効なユリウス日を入力してください。

ORA-01855 AM/A.M. または PM/P.M. が必要です。

原因：日付指定には正午インジケータ書式コードが含まれていますが、指定された正午インジケータが無効です。日付書式に正午インジケータコード (A.M./P.M. または AM/PM) が含まれている場合は、その日付に有効な正午インジケータを含む必要があります。

処置：正しい書式、A.M./AM または P.M./PM で、正午インジケータを指定してください。

ORA-01856 BC/B.C. または AD/A.D. が必要です。

原因: 日付指定には BC/AD 書式コードが含まれていますが、指定された BC/AD インジケータが無効です。日付書式に BC/AD 書式コードのいずれか (BC/AD または B.C./A.D.) が指定されている場合は、その日付に BC/B.C. または AD/A.D. が含まれている必要があります。

処置: 正しい書式を使用して、日付に BC/AD インジケータを指定してください。

ORA-01857 時間帯コードが無効です

原因: NEW_TIME 関数に使用している時間帯コードが不適切です。

処置: 時間帯コードを修正して、操作を再試行してください。

ORA-01858 数値を指定する箇所に数値でないものが指定されています

原因: 日付書式モデルを使用して変換すべき入力データが不適切です。入力データには、書式モデルが数値を必要とする箇所に数値が含まれていませんでした。

処置: 入力データまたは日付書式モデルを修正して、各要素の数値と型を一致させてください。その後、操作を再試行してください。

ORA-01859 アルファベットを指定する箇所にアルファベットでないものが指定されています

原因: 日付書式モデルを使用して変換すべき入力データが不適切です。入力データには、書式モデルがアルファベットを必要とする箇所にアルファベットが含まれていませんでした。

処置: 入力データまたは日付書式モデルを修正して、各要素の数値と型を一致させてください。その後、操作を再試行してください。

ORA-01860 年単位の週は 1 から 53 の間で指定する必要があります

原因: 1 ~ 52 の間にはない週の数指定しようとしてしました。

処置: 週の数として有効な範囲内の値のみを使用してください。

ORA-01861 リテラルがフォーマット文字列と一致しません

原因: 入力内のリテラルは、フォーマット文字列内のリテラルと同じ長さである必要があります (先行の空白文字は除く)。FX 修飾子が指定されている場合は、リテラルを完全に一致させる必要があります (不要な空白は除く)。

処置: フォーマット文字列を修正して、リテラルを一致させてください。

ORA-01862 桁数がこの書式項目と一致しません

原因: FX および FM 書式コードが入力した日付に指定されている場合、その桁数を書式コードが指定した数値と完全に一致させる必要があります。たとえば、9 は書式指定子 DD と一致しませんが、09 は一致します。

処置: 入力した日付を修正するか、書式文字列の FX または FM 書式指定子をオフにしてください。

ORA-01863 この年は現行カレンダーではサポートされていません

原因：この年は、現行カレンダーではサポートされていません。

処置：現行カレンダーでサポートされている年を確認してください。

ORA-01864 指定した日付は現行カレンダーの有効範囲外です

原因：現行カレンダーは、指定された日付まで拡張しません。

処置：このカレンダーに有効な日付を指定してください。

ORA-01865 年代が無効です

原因：入力した年代が不明です。

処置：有効な年代を入力してください。

ORA-01866 日付時刻クラスが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01867 間隔が無効です。

原因：指定した文字列の間隔が無効です。

処置：有効な間隔を指定してください。

ORA-01868 間隔の先行精度が小さすぎます。

原因：間隔の先行精度が小さすぎるので、指定された間隔を格納できません。

処置：間隔の先行精度を大きくするか、先行精度が小さい間隔を指定してください。

ORA-01869 今後使用予定の予約番号。

原因：エラーではありません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01870 間隔または日付時刻は互に比較できません。

原因：間隔または日付時刻は相互に比較できません。

処置：相互に比較できる対の間隔または日付時刻を指定してください。

ORA-01871 秒数は 60 より小さい必要があります

原因：指定した秒数が、60 以上でした。

処置：59 以下の秒の値を指定してください。

ORA-01872 今後使用予定の予約番号。

原因：エラーではありません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01873 間隔の先行精度が小さすぎます。

原因: 間隔の先行精度が小さすぎるので、指定された間隔を格納できません。

処置: 間隔の先行精度を大きくするか、先行精度が小さい間隔を指定してください。

ORA-01874 時間帯の時は、-12 から 13 の間で指定する必要があります

原因: 指定した時間帯の時が無効な範囲でした。

処置: -12 ～ 13 の間の時間帯の時を指定してください。

ORA-01875 時間帯の分は、-59 から 59 の間で指定する必要があります

原因: 指定した時間帯の分が無効な範囲でした。

処置: -59 ～ 59 の間の時間帯の分を指定してください。

ORA-01876 年の値は、-4713 以上にする必要があります

原因: 指定した年が範囲外でした。

処置: -4713 以上の数値を指定してください。

ORA-01877 内部バッファに対して文字列が長すぎます。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01878 指定したフィールドが日付時刻または間隔で見つかりません。

原因: 指定したフィールドが、日付時刻または間隔で見つかりませんでした。

処置: 指定したフィールドが、日付時刻または間隔内にあることを確認してください。

ORA-01879 hh25 フィールドは、0 から 24 の間で指定する必要があります

原因: 指定した hh25 フィールドが無効な範囲でした。

処置: 0 ～ 24 の間の hh25 フィールドを指定してください。

ORA-01880 小数秒は、0 から 999999999 の間で指定する必要があります

原因: 指定した小数秒が無効な範囲でした。

処置: 0 ～ 999999999 の間の小数秒の値を指定してください。

ORA-01881 タイムゾーンのリージョン IDnumber が無効です。

原因: リージョン ID が無効なリージョンを参照しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01882 タイムゾーンのリージョン string が見つかりません。

原因: 指定されたリージョン名が見つかりません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01883 リージョン推移中にオーバーラップが無効化されました。

原因：リージョンが変更中の状態で、オーバーラップ・フラグが無効化されました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01890 NLS エラーが検出されました

原因：NLS エラーが検出されました。

処置：追加のエラー・メッセージを検索して、適切な処置を行ってください。追加のエラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01891 日付時刻 / 間隔の内部エラーです。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01898 精度指定子が多すぎます

原因：日付を簡潔にしようとしたところ、日付書式ピクチャに不要なデータが見つかりました。

処置：日付書式ピクチャの構文を調べて、再試行してください。

ORA-01899 精度指定子が正しくありません。

原因：日付に指定した精度コードは無効です。

処置：日付書式に有効な精度コードを入力してください。有効な書式は、世紀、年、月、日、ユリウス日、時、分、秒です。

ORA-01900 LOGFILE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01901 ROLLBACK キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01902 SEGMENT キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01903 EVENTS キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01904 DATAFILE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01905 STORAGE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01906 BACKUP キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01907 TABLESPACE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01908 EXISTS キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01909 REUSE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01910 TABLES キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01911 CONTENTS キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01912 ROW キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01913 EXCLUSIVE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01914 順序番号に対する監査オプションが無効です。

原因: 順序番号に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、順序番号に対しては不適切です。

処置: 順序番号に使用できないオプション (COMMENT、DELETE、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、UPDATE、REFERENCES、EXECUTE) を削除してください。

ORA-01915 ビューに対する監査オプションが無効です。

原因: ビューに対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、ビューに対しては不適切です。

処置: ビューに使用できないオプション (ALTER、INDEX、REFERENCES、EXECUTE) を削除してください。

ORA-01916 ONLINE、OFFLINE、RESIZE、AUTOEXTEND または END/DROP のキーワードが入ります。

原因: DATAFILE/TEMPFILE 句に必要なキーワードが使用されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-01917 ユーザーまたはロール '*string*' は存在しません

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールが存在しません。

処置: 名前を再指定してください。

ORA-01918 ユーザー '*string*' は存在しません

原因: ユーザーがシステムに存在しません。

処置: ユーザー名が正しいかどうかを確認してください。

ORA-01919 ロール '*string*' は存在しません

原因: 指定した名前を持つロールが存在しません。

処置: 正しいロール名を使用しているかどうかを確認してください。

ORA-01920 ユーザー名 '*string*' は他のユーザー名またはロール名と競合しています

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールがすでに存在しています。

処置: 異なるユーザー名を指定してください。

ORA-01921 ロール名 '*string*' は他のユーザー名またはロール名と競合しています

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールがすでに存在しています。

処置: 異なるロール名を指定してください。

ORA-01922 *string*' を削除するには CASCADE を指定する必要があります

原因: このユーザーをシステムから削除するには、CASCADE が必要です。削除する必要があるオブジェクトを、ユーザーが所有しています。

処置: CASCADE を指定してください。

ORA-01923 CASCADE は中断されました。オブジェクトを別のユーザーがロックしています

原因: ユーザーのオブジェクトを削除できません。別のユーザーがオブジェクトをロックしています。

処置: ロック・モニターを使用して、オブジェクトをロックしているユーザーを確認してください。

ORA-01924 ロール '*string*' が付与されていないか存在しません

原因: ロール設定は、アカウントに直接付与されたロールのみで実行できます（たとえば、サブロールでは実行できません）。

処置: ロールを設定しないでください。

ORA-01925 使用可能なロールの最大数 *string* を超過しました

原因: 初期化パラメータ MAX_ENABLED_ROLES が最大数を超過しました。

処置: MAX_ENABLED_ROLES を大きくして、データベースをウォーム・スタートしてください。

ORA-01926 WITH GRANT OPTION を使用してもロールへ GRANT を実行できません。

原因: ロールは、GRANT OPTION の権限を持つことができません。

処置: GRANT OPTION なしで GRANT を実行してください。

ORA-01927 付与していない権限には REVOKE を実行できません。

原因: 付与された権限のみ取り消すことができます。

処置: これらの権限を取り消さないでください。

ORA-01928 GRANT オプションがすべての権限に対して付与されていません。

原因: 権限を付与するには、最初に GRANT オプションの権限が必要です。

処置: GRANT オプションの権限を付与してもらって、再試行してください。

ORA-01929 GRANT を実行するための権限がありません。

原因: ALL は指定されましたが、ユーザーには GRANT オプションの権限がありません。

処置: そのオブジェクトに対する権限を付与しないでください。

ORA-01930 オブジェクトの監査はサポートされていません。

原因：監査されていないオブジェクトに、AUDIT または NOAUDIT が指定されました。

処置：このオブジェクトに AUDIT は指定しないでください。

ORA-01931 *string* はロールに権限付与できません

原因：UNLIMITED TABLESPACE、REFERENCES、INDEX、SYSDBA または SYSOPER 権限を、ロールに付与できません。

処置：権限をユーザーに直接付与してください。

ORA-01932 ADMIN オプションはロール '*string*' に権限付与されていません

原因：ロールの操作には、ADMIN オプションが必要です。

処置：ADMIN オプションを付与してもらって、再試行してください。

ORA-01933 ロールの権限を使用してストアド・オブジェクトを作成できません。

原因：ロールの権限を使用して、ストアド・オブジェクトを作成しようとしました。ストアド・オブジェクトは、ロール権限を使用できません。

処置：必要な権限をユーザーに直接付与してください。

ORA-01934 循環ロールの権限付与が検出されました

原因：ロールは循環的に付与されません。また、ロールは自身にも付与されません。

処置：権限付与を実行しないでください。

ORA-01935 ユーザー名またはロール名がありません。

原因：ユーザー名またはロール名が必要です。

処置：ユーザー名またはロール名を指定してください。

ORA-01936 ユーザーまたはロールの作成時に所有者を指定することはできません。

原因：ユーザーおよびロールに所有者は存在しません。

処置：所有者を指定しないでください。

ORA-01937 ロール名がないか、無効です。

原因：有効なロール名が必要です。

処置：有効なロール名を指定してください。

ORA-01938 CREATE USER では IDENTIFIED BY を指定する必要があります

原因：パスワードまたは IDENTIFIED EXTERNALLY を指定せずに、ユーザーの作成はできません。

処置：パスワード句を 1 つ指定してください。

ORA-01939 ADMIN OPTION のみ指定できます。

原因：ADMIN OPTION のみで、システム権限およびロールは付与されます。GRANT OPTION は、これらの権限で使用できません。

処置：ADMIN OPTION を指定してください。

ORA-01940 現在接続中のユーザーを削除することはできません。

原因：現在ログインしているユーザーを削除しようとしてしました。

処置：ユーザーがログオフしていることを確認して、コマンドを再実行してください。

ORA-01941 SEQUENCE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01942 IDENTIFIED BY と EXTERNALLY を両方指定することはできません。

原因：ユーザーは、パスワード所有の有無を指定できません。

処置：これらのオプションのどちらか一方を指定してください。

ORA-01943 IDENTIFIED BY はすでに指定されています。

原因：IDENTIFIED BY 句が、2 度指定されています。

処置：IDENTIFIED BY 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01944 IDENTIFIED EXTERNALLY はすでに指定されています。

原因：IDENTIFIED EXTERNALLY 句が、2 度指定されています。

処置：IDENTIFIED EXTERNALLY 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01945 DEFAULT ROLE はすでに指定されています。

原因：DEFAULT ROLE 句が、2 度指定されています。

処置：DEFAULT ROLE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01946 DEFAULT TABLESPACE はすでに指定されています。

原因：DEFAULT TABLESPACE 句が、2 度指定されています。

処置：DEFAULT TABLESPACE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01947 TEMPORARY TABLESPACE はすでに指定されています。

原因：TEMPORARY TABLESPACE 句が、2 度指定されています。

処置：TEMPORARY TABLESPACE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01948 識別子名の長さ (*string*) が最大 (*string*) を超過しています

原因: 指定した名前が長すぎます。たとえば、DBMS_SESSION.IS_ROLE_ENABLED() などの名前です。これは長すぎます。

処置: アプリケーションまたはコマンドを変更し、正しい識別子を使用してください。

ORA-01949 ROLE キーワードが必要です。

原因: ROLE キーワードがここで必要です。

処置: ROLE キーワードを指定してください。

ORA-01950 表領域 '*string*' に対する権限がありません

原因: ユーザーには、指定された表領域でエクステンツを割り当てる権限がありません。

処置: ユーザーに適切なシステム権限を付与するか、表領域における領域リソースを付与してください。

ORA-01951 ロール '*string*' は '*string*' に権限付与されていません

原因: 取り消そうとしたロールが、ユーザーに付与されていません。

処置: ユーザーに付与していない権限を取り消そうとしないでください。

ORA-01952 システム権限は '*string*' に付与されていません

原因: 取り消そうとしたシステム権限が、ユーザーに付与されていません。

処置: 取り消そうとしている権限が付与されることを確認してください。

ORA-01953 コマンドは無効になりました。ALTER USER を使用してください。

原因: 表領域に対する割当て制限を与えるための構文が変更されました。機能を実行するために、ALTER USER コマンドを使用します。

処置: かわりに、ALTER USER コマンドを使用してください。

ORA-01954 CREATE USER では DEFAULT ROLE 句は無効です。

原因: DEFAULT ROLE を CREATE USER に指定できません。

処置: ユーザーを作成した後に、DEFAULT ROLE を付与および変更してください。

ORA-01955 DEFAULT ROLE '*string*' はユーザーに権限付与されていません

原因: ユーザーが持っていないロールを DEFAULT ROLE に設定しようとしてしました。サブロールは DEFAULT ROLE 句では使用できないことに注意してください。

処置: ユーザーにロールを付与してください。

ORA-01956 OS_ROLES が使用されているためコマンドは無効です。

原因: このコマンドは、初期化パラメータ OS_ROLES が TRUE のときには使用できません。

処置: オペレーティング・システム内のユーザーにロールを付与してください。

ORA-01957 キーワード MIN または MAX がみつかりません。

原因：引数としてキーワード MIN または MAX が必要です。

処置：キーワード MIN または MAX を入力して、操作を再試行してください。

ORA-01958 LAYER オプションには整数を指定してください。

原因：LAYER オプションに整数以外の項目が入力されました。

処置：LAYER オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

ORA-01959 OPCODE オプションには整数を指定してください。

原因：OPCODE オプションに整数以外の項目が入力されました。ALTER SYSTEM DUMP ... OPCODE *value* の *value* は、整数である必要があります。

処置：OPCODE オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

OPCODE オプションの詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01960 ダンプ・ログファイル・オプションが無効です。

原因：ALTER SYSTEM DUMP LOGFILE *option* コマンドに、無効なオプションが入力されました。

処置：DUMP LOGFILE の有効なオプションのリストは、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01961 ダンプ・オプションが無効です。

原因：ALTER SYSTEM DUMP 文に無効なオプションが入力されました。

処置：ALTER SYSTEM DUMP に有効なオプションを入力してください。有効なオプションの例には、LOGFILE および UNDO があります。DUMP オプションの詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01962 ファイル番号またはログ順序番号を指定する必要があります

原因：無効なファイル番号またはログ順序番号が指定されました。

処置：有効なファイル番号またはログ順序番号を入力して、操作を再試行してください。有効なファイル番号およびログ順序番号の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01963 ブロック番号を指定する必要があります

原因：無効なブロック番号が指定されました。

処置：有効なブロック番号を入力して、操作を再試行してください。有効なブロック番号の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01964 TIME オプションに時間を指定する必要があります

原因：TIME オプションに、日付と解釈できない値が入力されました。

処置：有効な日付を入力してください。TIME オプションの詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01965 ピリオド (.) を指定する必要があります

原因: ファイル番号とブロック番号の間のピリオドが欠落しています。

処置: ファイル番号とブロック番号の間にピリオドを入力して、操作を再試行してください。ファイル番号およびブロック番号の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01967 CREATE CONTROLFILE のオプションが無効です。

原因: 無効な CREATE CONTROLFILE オプションが存在します。

処置: 有効な CREATE CONTROLFILE オプションのみ指定してください。

ORA-01968 RESETLOGS または NORESETLOGS は一度にどちらかのみ指定できます

原因: 複数の RESETLOGS または NORESETLOGS キーワードを指定しています。

処置: RESETLOGS または NORESETLOGS を 1 度のみ指定してください。

ORA-01969 RESETLOGS または NORESETLOGS を指定する必要があります

原因: RESETLOGS または NORESETLOGS が欠落しています。

処置: RESETLOGS または NORESETLOGS を 1 度のみ指定してください。

ORA-01970 CREATE CONTROLFILE のデータベース名を指定する必要があります

原因: データベース名が欠落しています。

処置: DATABASE キーワードで、CREATE CONTROLFILE コマンドを再入力してください。

ORA-01971 ALTER TRACING オプションが無効です。

原因: 無効な ALTER TRACING オプションが存在します。

処置: 有効な ALTER TRACING オプションのみ指定してください。有効なオプションの例には、ENABLE および DISABLE があります。詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01972 ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に文字列を指定する必要があります

原因: ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に、有効な識別子以外が指定されました。

処置: ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に有効な識別子を指定して、操作を再試行してください。有効な識別子の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01973 変更番号がありません。

原因: キーワード CHANGE が見つかりましたが、変更番号が指定されていません。

処置: コマンドラインを修正して、再実行してください。

ORA-01974 アーカイブ・オプションが無効です。

原因：ALTER SYSTEM ARCHIVE コマンドに、無効なオプションが指定されました。

処置：コマンドの構文を調べて、再実行してください。

ORA-01975 変更番号 *string* 内の文字は無効です。

原因：無効な変更番号が指定されました。

処置：有効な変更番号を指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01976 変更番号がありません。

原因：必要な変更番号を指定していません。

処置：コマンドの構文を調べて必要な箇所に変更番号を指定してから、コマンドを再実行してください。

ORA-01977 スレッド番号がありません。

原因：キーワード THREAD が見つかりましたが、スレッド番号が指定されていません。

処置：コマンドラインを修正して、再実行してください。

ORA-01978 順序番号がありません。

原因：キーワード SEQUENCE を指定しましたが、順序番号を指定していません。

処置：コマンドラインを修正して、再実行してください。

ORA-01979 ロール '*string*' のパスワードがないか、無効です

原因：ロールを使用可能にしようとしたましたが、正しいパスワードを入力しませんでした。

処置：SET ROLE コマンドで IDENTIFIED BY 句を使用して、正しいパスワードを指定してください。

ORA-01980 OS ROLE の初期化中にエラーが発生しました。

原因：ユーザーの OS ROLES をロード中、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：オペレーティング・システムのエラーを確認してください。

ORA-01981 この取消を実行するには CASCADE CONSTRAINTS を指定する必要があります

原因：この取消し処理では、いくつかの外部キー制約が削除されます。これを自動的に実行するために、CASUCADE CONSTRAINTS を指定する必要があります。

処置：制約を削除するか、CASCADE CONSTRAINTS を指定してください。

ORA-01982 表に対する監査オプションが無効です。

原因：表に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、表に対しては不適切です。

処置：表に REFERENCES および EXECUTE オプションは使用できません。削除してください。

ORA-01983 DEFAULT に対する監査オプションが無効です。

原因：DEFAULT に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、DEFAULT に対しては不適切です。

処置：DEFAULT に使用できないオプション (REFERENCES) を削除してください。

ORA-01984 プロシージャ / パッケージ / 関数に対する監査オプションが無効です

原因：DEFAULT に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、プロシージャ、パッケージまたは関数に対しては不適切です。

処置：プロシージャ、パッケージおよび関数に使用できないオプション (EXECUTE 以外すべて) を削除してください。

ORA-01985 LICENSE_MAX_USERS で指定された数を超過したユーザーを作成することはできません

原因：データベース・ライセンス制限の最大ユーザー数を超過しました。

処置：ライセンス制限を増やしてください。

ORA-01986 OPTIMIZER_GOAL のオプションが無効です。

原因：無効な OPTIMIZER_GOAL オプションが存在します。

処置：OPTIMIZER_GOAL の構文を調べて、有効なオプションを指定し、文を再実行してください。

ORA-01987 クライアントの OS ユーザー名が長すぎます

原因：クライアントのオペレーティング・システム・ユーザー名が長すぎて、OS ログインを続行できません。

処置：より短いオペレーティング・システム・ユーザー名を使用してください。

ORA-01988 リモート OS ログオンはできません。

原因：リモート OS ログオンしようとしたますが、これは許可されていません。

処置：ローカル・クライアントを使用するか、REMOTE_OS_AUTHENT システム・パラメータを使用して、リモートでオペレーティング・システムへのログオンができるようにしてください。

ORA-01989 ロール'*string*'はオペレーティング・システムで許可されていません。

原因: 指定されたオペレーティング・システムのロールが存在しないか、付与されていません。または、正しいパスワードが指定されていません。

処置: 必要な場合、有効なオペレーティング・システムのロールまたはパスワードを使用して、SET ROLE を再試行してください。

ORA-01990 パスワード・ファイル'*string*'のオープン中にエラーが発生しました

原因: 指定されたパスワード・ファイルをオープンしようとしたましたが、次のいずれかのエラーによって失敗しました。

- オペレーティング・システムのエラーが発生した。
- ORAPWD がすでに実行しているので、パスワード・ファイルがロックされている。
- 環境変数 ORA_sid_PWFILE および ORA_PWFILE が設定されていない。

処置: 前述の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01991 パスワード・ファイル'*string*'が無効です

原因: 指定されたパスワード・ファイル名は無効です。

処置: 正しいパスワード・ファイル名を指定してください。

ORA-01992 パスワード・ファイル'*string*'のクローズ中にエラーが発生しました

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

処置: 前述の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01993 パスワード・ファイル'*string*'の書き込み中にエラーが発生しました

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルを書き込めませんでした。

処置: 前述の原因を調べて、必要な修正を行ってください。

ORA-01994 GRANT 失敗: パブリック・パスワード・ファイルにユーザーを追加できません。

原因: ユーザーがパスワード・ファイルに追加できなかったため、権限付与に失敗しました。これは、REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータの値が SHARED に設定されているためです。

処置: パスワード・ファイルにユーザーを追加するには、データベースを一度停止し、REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータを EXCLUSIVE に変更してから、データベースを再起動してください。

ORA-01995 パスワード・ファイル'*string*'の読み込み中にエラーが発生しました

原因: パスワード・ファイルを読み込もうとしたときに、オペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してください。

ORA-01996 GRANT 失敗: パスワード・ファイル'*string*'が満杯です

原因: パスワード・ファイル中の使用可能なスロットがすでに使用されていたため、ユーザーをパスワード・ファイルに追加できず、権限付与に失敗しました。

処置: より大きなパスワード・ファイルを作成するか、いくつかのリモート・ユーザーから SYSOPER 権限および SYSDBA 権限を取り消してパスワード・ファイル中のスロットを解放してください。どのリモート・ユーザーが有効でどんな権限を持っているかは、SQL*Plus で次の問合せを発行して調べてください。

```
SELECT * FROM V$REMOTE_USERS;
```

ORA-01997 GRANT 失敗: ユーザー '*string*' は外部で識別されています

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY 句で作成されたユーザーに、SYSOPER 権限または SYSDBA 権限は付与できません。

処置: ユーザーに SYSOPER 権限または SYSDBA 権限を付与する場合は、IDENTIFIED EXTERNALLY 句を使用せずに、一度ユーザーを削除してから再作成してください。

ORA-01998 REVOKE 失敗: ユーザー SYS は常に SYSOPER および SYSDBA を持っています。

原因: 必須の権限 SYSOPER または SYSDBA の 1 つをユーザー SYS から取り消そうとしました。これらの権限は取消しできません。

処置: この操作は行わないでください。

ORA-01999 パスワード・ファイル・モードは、'*string*' から '*string*' に変更されました

原因: FORCE_PASSWORD_FILEMODE 初期化パラメータを使用して、別のインスタンスが起動されました。これは、現在のインスタンスの起動モードと互換性がありません。

処置: インスタンスを停止し、もう一方のインスタンス用にパスワード・ファイルの変更が完了した後に再起動してください。

ORA-02000 *string* キーワードがありません。

原因: 文で必須となるキーワードを指定しませんでした。

処置: 指定されたキーワードを使用してください。

ORA-02001 ユーザー SYS が空きリスト・グループの索引を作成することは許可されていません。

原因: SYS 権限で実行中に索引を作成しようとしました。

処置: 索引は、SYS 権限では作成できません。索引を作成しないか、USER 権限に切り替えてください。

ORA-02002 監査証拠への書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 監査機能は、AUDIT_TRAIL 表に書き込むことができません。このエラーが発生した場合、現在監査されている SQL 文は失敗します。このエラーは、SYSTEM 表領域が不足すると発生します。

処置: SYSTEM 表領域に領域を追加するか、AUDIT_TRAIL 表から行を削除してください。それでも失敗し、問題が解決されない場合は、Oracle を一度停止し、監査を使用不可にしてから再起動してください。これは、初期化パラメータ AUDIT_TRAIL を FALSE に設定することによって実行できます。

ORA-02003 USERENV パラメータが無効です。

原因: USERENV 関数に指定したパラメータが無効です。

処置: 有効なパラメータ (TERMINAL、SESSIONID、ENTRYID、NLS_LANG) を指定してください。

ORA-02004 セキュリティ違反です。

原因: ユーザーが適切な許可を得ずに、処理を行おうとしています。これは AUDIT_TRAIL 表に記録されます。このエラー・メッセージは、AUDIT_TRAIL 表のターン・コード列のみに出力されます。

処置: 監査情報としてのみ使用されます。処置は必要ありません。

ORA-02005 このバインドまたはデータ型定義に対して暗黙の長さ (-1) は無効です

原因: 定義変数に対して負の長さが定義関数に渡されました。

処置: ゼロまたは正の長さパラメータを明示的に渡してください。

ORA-02006 パック 10 進フォーマット文字列が無効です

原因: パック 10 進データ型がバインドまたは定義関数に渡されましたが、フォーマット文字列パラメータがないか、無効でした。

処置: パック 10 進変数に対して有効なフォーマット文字列パラメータを渡してください。パック 10 進フォーマット文字列の定義については、プログラミング・マニュアルを参照してください。

ORA-02007 ALLOCATE または DEALLOCATE オプションを REBUILD とともに使用できません。

原因: ALLOCATE STORAGE または DEALLOCATE STORAGE と、REBUILD INDEX は同時に使用できません。

処置: いずれかを指定してください。

ORA-02008 非数値列に対してゼロ以外の位取りが指定されました。

原因：非数値変数のバインドまたは定義に対して位取り因子が指定されました。

処置：位取り因子をゼロに設定して、操作を再試行してください。

ORA-02009 ファイルのサイズには0を指定できません。

原因：ファイル指定の SIZE 句または RESIZE 句で、0 の値が指定されました。

処置：正しい構文を使用するか、SIZE 句または RESIZE 句を省略してください。

ORA-02010 ホスト接続文字列がありません。

原因：CREATE DATABASE LINK 文の USING 句のキーワード USING の後に、引用符付き文字列が指定されていません。

処置：ホスト接続文字列を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02011 データベース・リンク名が重複しています。

原因：CREATE DATABASE LINK 文で指定されたデータベース・リンク名は、すでに存在します。

処置：新しい名前を指定するか、既存のリンクを削除してください。

ORA-02012 USING キーワードがありません。

原因：CREATE DATABASE LINK 文の CONNECT TO 句の後に、キーワード USING が指定されていません。

処置：CONNECT TO 句の後に USING 句を指定してください。

ORA-02013 CONNECT キーワードありません。

原因：CREATE DATABASE LINK 文のデータベース・リンク名の後に、キーワード CONNECT が指定されていません。

処置：データベース・リンク名の後に、CONNECT 句を指定してください。

ORA-02014 DISTINCT、GROUP BY などを含むビューに対して FOR UPDATE 句を使用できません

原因：ビューから SELECT...FOR UPDATE を試みましたが、そのビューの定義 SELECT 文には、その外部ブロック中の要素（外部結合、GROUP BY 句、グループ関数、SELECT DISTINCT、CONNECT BY 句、または UNION、INTERSECT、MINUS などの集合演算）が 1 つ以上使用されています。

処置：このビューでは、SELECT...FOR UPDATE を使用しないでください。

ORA-02015 リモート表に対して FOR UPDATE 句は使用できません。

原因：リモート・データベースの表から SELECT...FOR UPDATE を試みました。

処置：現在、リモート・データベースの表から SECECT...FOR UPDATE を実行しないでください。そのかわりに、その表に対して SELECT...FOR UPDATE を実行する前に、直接リモート・データベースにログインまたは接続してください。

ORA-02016 リモート・データベースでは START WITH 句で副問合せは使用できません。

原因: START WITH 句に副問合せを使用しようとしてしました。ツリー構造の問合せの FROM 句の表がリモート・データベースに格納されている場合、この種の副問合せは実行できません。

処置: リモート・データベースに直接接続してから、START WITH 句の副問合せを使用してください。

ORA-02017 整数値が必要です。

原因: 指定する値は、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02018 同じ名前のデータベース・リンクがオープン接続されています。

原因: ユーザーが現在接続している PUBLIC データベース・リンクは、CREATE または DROP DATABASE LINK 文に指定されているデータベース・リンク名と同じ名前です。

処置: その PUBLIC データベース・リンクを使用するカーソルをクローズしてください。

ORA-02019 指定されたリモート・データベースは存在しません。

原因: 存在しないリモート・データベースに対して接続またはログインしようとしてしました。

処置: 既存のデータベース・リンクを指定してください。データ・ディクショナリに問い合せて、すべての既存のデータベース・リンクを調べてください。有効な接続記述子については、オペレーティング・システム固有の Oracle Net ドキュメントを参照してください。

ORA-02020 使用中のデータベース・リンクが多すぎます。

原因: カレント・セッションが、INIT.ORA OPEN_LINKS の最大値を超えました。

処置: OPEN_LINKS の制限を増加するか、トランザクションをコミットまたはロールバックし、リモート・データベースを参照するオープン・カーソルをキャンセルして、オープン・リンクのいくつかを解放してください。

ORA-02021 リモート・データベースに対する DDL 操作が無効です。

原因: リモート・データベースに対して DDL 操作を行おうとしてしました（たとえば、「CREATE TABLE tablename@remotedbname...」など）。

処置: リモート・データベース構造を変更するには、適切な権限でリモート・データベースに接続してください。

ORA-02022 リモート文に、リモート・オブジェクトを参照する最適化されていないビューがあります。

原因：ローカル・ビューは最適化されていないうえ、リモート・データベース・オブジェクトを参照しています。そして、その文はリモート・データベースで実行されるようになっています。

処置：リモート・データベース上で同様のビューを作成し、新規の `view@remote` を使用して SQL 文内の違反しているビューを変更してください。

ORA-02023 リモート・データベースは START WITH または CONNECT BY 述語を評価できません

原因：文にはリモート・データベースに対するツリー構造の問合せが含まれており、そのツリー構造の問合せの `START WITH` または `CONNECT BY` 述語に、リモート・データベースで評価できない項目が含まれています。このような項目には、ユーザー・ファンクションに対するコール、`USERENV` に対するコール、`ROWID` に対する参照が含まれます。

処置：使用不可の項目を削除するか、リモート・データベースに直接接続またはログインしてください。

ORA-02024 データベース・リンクが見つかりません。

原因：削除するデータベース・リンクがディクショナリ内にありません。

処置：データベース・リンク名を修正してください。

ORA-02025 SQL 文の中の表はすべてリモート・データベースにある必要があります

原因：SQL 文は複数のデータベースの表を参照していますが、リモート・データベースのうち 1 つ以上が Oracle Server ではありません。

処置：リモート更新は、SQL 文内のすべてのデータベースが Oracle Server の場合のみ、実行してください。前のバージョンのデータベースは、個々の文で更新してください。

ORA-02026 LINK キーワードがありません。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-02027 複数行にわたる LONG 列の更新はサポートされていません

原因：列の更新に 4001 バイト以上のバインド変数が使用されており、`UPDATE` 文が複数の行を更新しています。

処置：このバインド変数を使用して、単一行のみ更新してください。

ORA-02028 正確な数の行の取出しはサーバーではサポートされていません。

原因：サーバーは `UPIALL` をサポートしていません。したがって、正確な行数の取出しをユーザー側でエミュレートすることはできません。

処置：有効なサーバーに接続するか、または正確な取出しを使用しないでください。

ORA-02029 FILE キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-02030 固定表 / 固定ビューでは選択のみ可能です。

原因: 固定表 / 固定ビューで、検索以外の操作を実行しようとしています。

処置: 固定表 / 固定ビューで、行の選択のみ実行してください。

ORA-02031 ROWID が固定表または外部構成表にありません

原因: 固定表または外部構成表から ROWID にアクセスしようとしています。

処置: 固定表または外部構成表から ROWID をアクセスしないでください。

ORA-02032 クラスタ索引の作成前にクラスタ表は使用できません。

原因: ユーザーが、クラスタ索引が作成されていないクラスタ表に対して DML 操作を実行しようとしました。

処置: クラスタ索引を作成してください。

ORA-02033 このクラスタに対するクラスタ索引はすでに存在しています

原因: クラスタ索引はすでに存在しています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02034 スピード・バインドは許可されていません。

原因: スピード・バインドは、バインド変数で許可されていません。システムが内部検出しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02035 バンドル操作の組合せが無効です。

原因: UPI バンドル実行コールが、不適切な組合せの操作を実行するように要求されました。

処置: 正しい操作の組合せを使用して再試行してください。

ORA-02036 自動カーソル・オープンが記述されている変数が多すぎます。

原因: UPI バンドル実行コールが、記述されている操作に対して、自動のカーソル・オープンとクローズの実行を要求しました。ただし、SELECT リスト項目またはバインド変数が多すぎて、これを実行できません。

処置: 明示的にカーソルをオープンおよびクローズしてください。

ORA-02037 スピード・バインド記憶域が初期化されていません

原因: スピード・バインド・コールを実行する前に、ホスト変数を含む SQL 文のスピード実行コールを実行しようとしました。

処置: スピード実行コールを実行する前に、スピード・バインド・コールを実行してください。

ORA-02038 配列型への定義はできません

原因: 配列型の SELECT リスト変数を定義しようとしました。配列は、ホスト・バインド変数としてのみ機能します。

処置: 違反しているコードを修正してください。

ORA-02039 配列型への値によるバインドはできません

原因: 配列ホスト変数を値でバインドしようとしました。配列は、参照のみでバインドできます。

処置: 違反しているコードを修正してください。

ORA-02040 リモート・データベース *string* は 2 フェーズ・コミットをサポートしていません。

原因: 複数のデータベースを分散更新しようとしたますが、指定されたデータベースは 2 フェーズ・コミットの準備フェーズをサポートしていません。これはそのログイン・トランザクション特性によって決まっています。トランザクションがロールバックされました。

処置: 指定したデータベースが、トランザクションで更新する唯一のデータベースでないかぎり、更新しないようにしてください。単一トランザクション内での複数データベースの分散更新は、すべてのデータベースが 2 フェーズ・コミット機構をサポートしている場合のみに実行できます。

ORA-02041 クライアント・データベースはトランザクションを開始しませんでした。

原因: コーディネータが分散トランザクションを開始しないまま、調整されたデータベースで更新が発生しました。ストアド・プロシージャがコミットしてから更新を行った場合およびストアド・プロシージャをリモートで起動した場合に、これが発生することがあります。外部トランザクション・モニターが XA プロトコルに違反した場合も、これが発生することがあります。

処置: 前者が原因の場合、どのコミットの後にも更新が行われていないことを確認してください。

ORA-02042 分散トランザクションが多すぎます。

原因: 実行中の分散トランザクションが多すぎるため、分散トランザクション表がいっぱいになりました。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの DISTRIBUTED_TRANSACTIONS パラメータの値を大きくし、Oracle を一度停止してから再起動してください。または、実行するトランザクションを少なくしてください。同時実行の分散トランザクションが少ないことが確認された場合は、内部エラーが発生している可能性があるため、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。インスタンスを一度停止してから再起動すると、問題が解決する可能性があります。

ORA-02043 *string* を実行する前に、カレント・トランザクションを終了させてください。

原因: トランザクションの実行中に、次のいずれかのコマンドが実行されました。

- COMMIT FORCE
- ROLLBACK FORCE
- ALTER SYSTEM ENABLE DISTRIBUTED RECOVERY
(シングル・プロセス・モード)

処置: カレント・トランザクションを COMMIT または ROLLBACK してからコマンドを再試行してください。

ORA-02044 トランザクション・マネージャのログインは拒否されました: トランザクションが動作中です

原因: 分散トランザクションの処理中に、リモート・トランザクション・マネージャがログインしようとしてしました。リモート・トランザクション・マネージャでプロトコル・エラーが発生しました。

処置: カレント・トランザクションを終了してください。

ORA-02045 グローバル・トランザクションに関わるローカル・セッションが多すぎます。

原因: このサイトでは、セッションが多すぎるため、このトランザクションを保存できません。

処置: リモート・サイトで別のセッションを作成する必要があるようにするため、既存のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-02046 分散トランザクションはすでに開始しています。

原因: 通常は発生しない内部エラーです。サーバー・セッションは、先の分散トランザクションを終了する前に、BEGIN_TRAN リモート・プロシージャ・コール (RPC) を受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02047 動作中の分散トランザクションは結合できません。

原因: これは、Oracle バージョン 6 および Oracle7 データベースを同じトランザクションで更新しようとした場合にのみ発生することがあります。原因は次のいずれかです。

- トランザクションが 2 フェーズ・コミットをサポートしていないリモート・データベースに対して動作中である。
- 更新が保留中であり、2 フェーズ・コミットをサポートしていない別のデータベースを更新しようとした。

処置: カレント・トランザクションを完了してから、エラーの原因に対して必要な処置を行ってください。

ORA-02048 ログオンしないで分散トランザクションを開始しようとしてしました。

原因: クライアント・プログラムは分散トランザクションのログオンを実行しませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02049 タイムアウト: 分散トランザクションがロックを待機しています。

原因: ロックの待機が INIT.ORA の DISTRIBUTED_LOCK_TIMEOUT 秒を超えました。

処置: デッドロックとして処理してください。

ORA-02050 トランザクション *string* はロールバックされました。いくつかのリモート・データベースはインダウトの可能性があり

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: 障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期化されます。

ORA-02051 同一トランザクション内の別セッションでエラーが発生しました。

原因: 同一サイトにおいて同じグローバル・トランザクション ID を持つセッションで、エラーが発生しました。

処置: 処置は必要ありません。このトランザクションは、自動的にリカバリされます。

ORA-02052 *string* においてリモート・トランザクション・エラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクにおいて、リモート・トランザクション・エラーが発生しました。

処置: 詳細なエラー・メッセージが続いて表示されます。このメッセージで示されている問題を修正し、操作を再試行してください。

ORA-02053 トランザクション *string* はコミットしました。いくつかのリモート・データベースはインダウトの可能性があります

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期化されます。

ORA-02054 トランザクション *string* はインダウトです

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期化されます。必要に応じて、結果としての DBA_2PC_PENDING 表を監視し、トランザクションを再実行してください。

ORA-02055 分散更新操作でエラーが発生しました: ロールバックが必要です

原因: 分散更新操作において、すべての操作結果をロールバックしないうちにエラーが発生しました。一貫性のないサイトが存在する可能性もあるため、このトランザクションをセーブポイントまでロールバックするか、または全体をロールバックする必要があります。

処置: セーブポイントまでロールバックするか、またはトランザクション全体をロールバックしてから、ロールバックされた文を再実行してください。

ORA-02056 2PC: *string*: 2 フェーズ・コマンド番号 *string* (*string*) が無効です

原因: 2 フェーズ・コミットのプロトコル・エラーです。

処置: このトランザクションは、自動的にリカバリされます。DBA_2PC_PENDING 表を監視して、問題を解決してください。必要に応じて、トランザクションを再入力してください。必要に応じて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02057 2PC: *string*: 2 フェーズ・リカバリ状態番号 *string* (*string*) が無効です

原因: 2 フェーズ・リカバリ・プロトコルに内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02058 ID*string* を持つ準備完了状態のトランザクションがありません。

原因: PENDING_TRANS\$ 表に LOCAL_TRAN_ID または GLOBAL_TRAN_ID を持つ、準備完了状態のトランザクションがありません。

処置: PENDING_TRANS\$ 表を確認してください。

ORA-02059 コミット・コメントに ORA-2PC-CRASH-TEST-*string* が含まれています。

原因: 2 フェーズ・コミットをテストするために使用される特別なコメントです。

処置: この特別なコメントは使用しないでください (*string* は、1 ~ 10 の数値)。

ORA-02060 SELECT...FOR UPDATE で分散している表の結合を指定しました。

原因：SELECT... FOR UPDATE 文で、異なるリモート・データベースの表を結合しようとした。

処置：SELECT 文で FOR UPDATE 句を使用して結合する表は、同一データベースに存在する必要があります。SELECT...FOR UPDATE 文を簡潔にし、同一データベースの表のみを結合してください。

ORA-02061 LOCK TABLE に分散している表を指定しました。

原因：LOCK TABLE 文では、同一データベースに存在する表を指定する必要があります。

処置：LOCK TABLE コマンドを複数発行してください。

ORA-02062 分散リカバリで DBIDstring を受け取りました。string が必要です。

原因：コーディネータ・ポイントのデータベース・リンクが、目的のデータベースを指していません。リンクが再定義されたか、異なるデータベースがマウントされている可能性があります。

処置：リンクの定義またはリモート・データベースをリストアしてください。

ORA-02063 先行のエラー・メッセージを参照してください stringstring (stringstring)

原因：リモート・データベース・リンクの Oracle エラーです。

処置：先行のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-02064 分散処理はサポートされていません。

原因：次のサポートされていない操作の 1 つを行おうとしました。

- データベース・リンクを参照する副問合せを使用して、リモート更新の配列処理を実行しようとした。
- バインド変数を使用した LONG 列の更新、およびデータベース・リンクとバインド変数の両方を参照する副問合せによる 2 番目の列の更新を行おうとした。
- コーディネート・セッションで、OUT パラメータを使用するリモート・プロシージャ・コール (RPC) からコミットが発行された。

処置：リモート更新文を単純にしてください。

ORA-02065 ALTER SYSTEM のオプションが無効です。

原因：ALTER SYSTEM に、サポートされていないオプションを指定しました。

処置：サポートされているオプションの詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02066 DISPATCHERS テキストが指定されていないか、または無効です

原因: ALTER SYSTEM SET DISPATCHERS の後に文字列リテラルが必要ですが、見つかりませんでした。

処置: ALTER SYSTEM SET DISPATCHERS の後に、ディスパッチャ指定を含む文字列リテラルを指定してください。

ORA-02067 トランザクションまたはセーブポイントのロールバックが必要です。

原因: 複数のリモート更新を実行するトリガーまたはストアド・プロシージャで、前の Oracle コールでは保証できないような障害が発生しました。

処置: セーブポイントまでロールバックするか、トランザクションをロールバックして、再実行してください。

ORA-02068 *stringstring* で重大なエラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクから重大なエラー（接続の切断、または致命的な Oracle エラー）を受け取りました。続いて表示されるエラー・テキストを参照してください。

処置: リモート・システム管理者に連絡してください。

ORA-02069 この操作を行うには、GLOBAL_NAMES パラメータを TRUE に設定する必要があります

原因: 文のリモート・マッピングが必要ですが、GLOBAL_NAMES が TRUE に設定されている必要があるため実行できません。

処置: 可能な場合は、ALTER SESSION SET GLOBAL_NAMES=TRUE を発行してください。

ORA-02070 データベース *stringstring* はこのコンテキストでは *string* をサポートしません。

原因: リモート・データベースは、使用されているコンテキストにおいて指定された機能をサポートしていません。

処置: SQL 文を単純にしてください。

ORA-02071 リモート・データベース *string* の機能の初期化でエラーが発生しました。

原因: リモートで指定した機能表をロードできませんでした。

処置: リモート SQL*Connect 製品については、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02072 分散データベース・ネットワーク・プロトコルが一致しません。

原因: このエラーは、Oracle の異なる本番リリース間では発生しませんが、アルファ・リリースとベータ・リリースの間で発生することがあります。

処置: 古いリリースをアップグレードしてください。

ORA-02073 リモート更新では順序番号はサポートされません。

原因：リモート表の INSERT、UPDATE または DELETE で、順序番号は使用できません。

処置：順序番号を指定しないで操作を実行してください。

ORA-02074 分散トランザクションでは、string は実行できません。

原因：分散トランザクションの親セッション以外のセッションから、コミットまたはロールバックしようとしてしました。

処置：親セッションからのみコミットまたはロールバックしてください。

ORA-02075 別のインスタンスによりトランザクション string の状態が変更されました。

原因：別のインスタンスでのセッションから、強制コミットまたは強制ロールバックが発行されました。

処置：Oracle の別のインスタンスが、保留トランザクションのリカバリを実行しているかを確認してください。DBA_2PC_PENDING に問い合わせ、トランザクションの現在の状態を判断してください。

ORA-02076 順序は更新される表または LONG 列と同一ノードにありません

原因：すべての参照される順序は、更新される表または LONG 列と同一ノードにある必要があります。

処置：問題を修正してから、文を再発行してください。

ORA-02077 LONG 列は同一ノード上の表から選択する必要があります

原因：SELECT 文で LONG 列の値を返すすべての表は、同一ノードにある必要があります。

処置：問題を修正してから、文を再発行してください。

ORA-02078 ALTER SYSTEM FIXED_DATE の設定が無効です。

原因：無効な値が使用されました。

処置：正しい値を使用してください。

ORA-02079 新規セッションはコミット分散トランザクションに結合しません

原因：他のブランチでコミットを開始しているトランザクションのセッションで、UP12BG コールが発行されました。すなわち、他のセッションで同じトランザクションのブランチに UP12EN コールが発行されました。これは、外部トランザクション・マネージャを使用している場合のみに発生します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02080 データベース・リンクは使用中です。

原因: ALTER SESSION CLOSE DATABASE LINK の *link* コマンドで指定されたデータベース・リンクで、トランザクションがアクティブであるか、またはカーソルがオープンしています。

処置: コミットまたはロールバックして、すべてのカーソルをクローズしてください。

ORA-02081 データベース・リンクがオープンしていません。

原因: 現在オープンされていないデータベース・リンクを使用しようとしてしました。

処置: ネットワークの問題を解決するか、リモート・データベースの問題が解決されているかどうかを判断するために、リモート・データベース管理者に連絡してください。ネットワーク問題が解決済かどうかは、ローカル・データベース管理者に問い合わせてください。リンクがオープンしてから、操作を再試行してください。

ORA-02082 ループバック・データベース・リンクには接続修飾子が必要です。

原因: カレント・データベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成しようとしてしました。

処置: このデータベース・リンクには、名前を一意にするための後続の修飾子が必要です。これらの修飾子は、オペレーティング・システムに固有のものです。データベース・リンクの作成の詳細は、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-02083 データベース名に無効な文字 '*string*' が含まれています。

原因: 指定されたデータベース名に無効な文字が含まれています。たとえば、データベース名には、ピリオド、セミコロン、引用符、二重引用符、空白、印字できない文字を含めることはできません。ネーミング規則の詳細は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

処置: 有効なデータベース名を指定してください。

ORA-02084 データベース名が無効です。

原因: 完全なデータベース名が指定されませんでした。

処置: 完全なデータベース名を指定してください。

ORA-02085 データベース・リンク *string* は *string* に接続します。

原因: データベース・リンクは、リンク名とは別の名前のデータベースに接続しようとしてしました。データベース・リンク名は、そのデータベース名と同じ名前である必要があります。

処置: 接続するデータベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成してください。

ORA-02086 データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。

原因：データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。データベース名とデータベース・リンク名は、128 文字以内で指定します。

処置：正しいデータベース名またはデータベース・リンク名を指定するか、文字数を少なくして名前を指定してください。

ORA-02087 オブジェクトは同一トランザクション内の別プロセスによってロックされています

原因：Oracle Real Application Clusters 環境において、同一インスタンスをループバックするデータベース・リンクが使用されています。あるセッションが、別のセッションが取得したロックを変換しようとしています。

処置：より制限的なロックを最初に取得してください。たとえば、同じオブジェクトでセッション 1 が共有ロックを取得し、セッション 2 が排他ロックを取得する場合、最初に排他ロックを取得してください。そうでなければ、オブジェクトにアクセスするために同じセッションを使用してください。

ORA-02088 分散データベース・オプションがインストールされていません。

原因：分散データベース・オプションがインストールされていません。したがって、要求した操作は実行できません。

処置：分散データベース・オプションの取得については、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02089 下位セッションに COMMIT は使用できません。

原因：2 フェーズ・コミット・グローバル・コーディネータでないセッションで、COMMIT が発行されました。

処置：COMMIT は、グローバル・コーディネータのみで発行してください。

ORA-02090 ネットワーク・エラー：CALLBACK+PASSTHRU を試行しました

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02091 トランザクションがロールバックされました。

原因：分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割り当てられ、PREPARED 状態に入ろうとしました。ただし、必要な数の PREPARED でないスロットが得られないので、トランザクションがロールバックされました。

トランザクションがリモート・サイトで異常終了した場合、ORA-02091 のみが表示されます。トランザクションがホストで異常終了した場合、ORA-02091 と ORA-02092 の両方が表示されます。

処置：カレント・トランザクションを完了してから、必要な操作を実行してください。

ORA-02092 分散トランザクションのトランザクション表スロットが不足しています。

原因: 分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割り当てられ、PREPARED 状態に入ろうとしました。ただし、必要な数の PREPARED でないスロットが得られないので、トランザクションがロールバックされました。

処置: ロールバック・セグメントを追加して、トランザクションを再試行してください。

ORA-02093 TRANSACTIONS_PER_ROLLBACK_SEGMENT (string) が最大可能数 (string) を超過しました

原因: パラメータで指定した値が、このポートで可能な最大値を超えています。

処置: デフォルト値を使用するか、最大可能数より小さい値にしてください。

ORA-02094 レプリケーション・オプションがインストールされていません。

原因: このサイトには、レプリケーション・オプションがインストールされていません。したがって、更新可能マテリアライズド・ビュー、遅延 RPC などのレプリケーション機能は使用できません。

処置: レプリケーション・オプションをインストールしてください。レプリケーション・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入してください。レプリケーション・オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02095 指定した初期化パラメータを変更できません。

原因: 指定した初期化パラメータは、このオプションでは変更できません。

処置: 『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。

初期化パラメータの変更の詳細は、『Oracle9i データベース・リファレンス』を参照してください。

ORA-02096 指定した初期化パラメータはこのオプションでは修正できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、指定したコマンドでは変更できません。

処置: 『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。

ORA-02097 指定した値が無効なので、パラメータを変更できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、変更した値はパラメータには使用できません。

処置: 『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照して、このパラメータの許容値の範囲を確認してください。

ORA-02098 索引表参照 (:I) の解析でエラーが発生しました

原因：不適切な索引表 (:I) 構文があります。

処置：これは Oracle が内部のみで使用する構文です。

ORA-02100 ~ ORA-04099

ORA-02100 PCC: メモリー不足のためメモリーが割り当てられません。

原因: SQLLIB は、プログラムの実行に必要なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: ユーザー・プロセス用に、より多くのメモリーを割り当ててください。その後、プログラムを再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02101 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。(uce/cuc が一致しません)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02102 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。(この uce の cuc がありません)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02103 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。(cuc ref の範囲を超えています)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02104 PCC: 無効なホスト・キャッシュです。(使用可能な cuc がありません)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02105 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。(キャッシュに cuc がありません)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02106 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。(OraCursor nr が無効です)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02107 PCC: 実行時ライブラリに対してプログラムが古すぎます: プログラムを再度プリコンパイルしてください

原因: プログラムが、このリリースの SQLLIB と互換性のない古いバージョンの Oracle プリコンパイラでプリコンパイルされています。

処置: より新しいバージョンの Oracle プリコンパイラを使用して、このプログラムをプリコンパイルしてください。

ORA-02108 PCC: 実行時ライブラリに無効な記述子が渡されました。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02109 PCC: 無効なホスト・キャッシュです。(sit ref 範囲外です)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02110 PCC: ホスト・キャッシュが無効です。(Sqi 型が無効です)

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02111 PCC: ヒープ一貫性エラーが発生しました。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー (たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など) がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02112 PCC: SELECT..INTO が返す行が多すぎます

原因: SELECT ...INTO 文が、指定したホスト変数に格納できる行数より多くの行を返しました。

処置: 3つの解決方法が考えられます。

1. プリコンパイラ・オプション SELECT_ERROR=NO を使用する。
2. より大きな配列のホスト変数を宣言する。
3. SELECT 文のカーソルまたはカーソル変数を宣言する。

ORA-02140 表領域名が無効です。

原因: ALTER TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置: ALTER TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02141 OFFLINE オプションが無効です。

原因: OFFLINE の後に NORMAL または IMMEDIATE 以外のオプションが指定されています。

処置: OFFLINE の後には、オプションを指定しないか、NORMAL または IMMEDIATE のいずれか1つを指定してください。

ORA-02142 ALTER TABLESPACE オプションがないか、または無効です。

原因: 有効なオプションがありません。

処置: ADD、RENAME、DEFAULT、ONLINE、OFFLINE、READ ONLY、READ WRITE、BEGIN、END などの有効なオプションを1つ使用してください。

ORA-02143 STORAGE オプションが無効です。

原因: INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS または PCTINCREASE 以外のオプションが、STORAGE 句で指定されました。

処置: 有効なオプションのみを指定してください。

ORA-02144 ALTER CLUSTER にオプションが指定されていません。

原因: ALTER CLUSTER オプションが指定されていません。

処置: PCTFREE、PCTUSED、SIZE、STORAGE などのオプションを1つ以上指定してください。

ORA-02145 STORAGE オプションがありません。

原因: STORAGE (*string*) のように STORAGE オプションが指定されていません。

処置: カッコ内に STORAGE オプションを1つ以上指定してください。

ORA-02146 SHARED の指定が重複しています。

原因：CREATE DATABASE 文に SHARED オプションが複数回指定されました。

処置：SHARED オプションを 1 つのみ指定してください。

ORA-02147 SHARED と EXCLUSIVE のオプションが混在しています

原因：CREATE DATABASE 文に、SHARED と EXCLUSIVE のオプションが両方指定されています。

処置：SHARED または EXCLUSIVE のいずれか 1 つのみを指定してください。

ORA-02148 EXCLUSIVE の指定が重複しています。

原因：CREATE DATABASE 文に EXCLUSIVE オプションが複数回指定されました。

処置：EXCLUSIVE オプションを 1 回のみ指定してください。

ORA-02149 指定されたパーティションが存在しません。

原因：オブジェクトのパーティションが見つかりません。

処置：正しいパーティション名を使用してください。

ORA-02153 VALUES 句の後のパスワード文字列が正しくありません。

原因：VALUES 句の後に暗号化パスワード文字列が入力されていません。

処置：VALUES 句の後に正しい暗号化パスワード文字列を入力してください。

ORA-02155 DEFAULT の表領域識別子が無効です。

原因：DEFAULT TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置：DEFAULT TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02156 TEMPORARY の表領域識別子が無効です。

原因：TEMPORARY TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置：TEMPORARY TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02157 ALTER USER オプションが指定されていません。

原因：オプションの指定がありません。

処置：ALTER USER オプションを、1 つ以上指定してください。

ORA-02158 CREATE INDEX オプションが無効です。

原因：COMPRESS、NOCOMPRESS、PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、TABLESPACE、PARALLEL、NOPARALLEL、RECOVERABLE、UNRECOVERABLE、LOGGING、NOLOGGING、LOCAL または GLOBAL 以外のオプションが指定されています。

処置：有効な CREATE INDEX オプションの 1 つを選択してください。

ORA-02159 インストール済の DLM は解放可能ロック・モードをサポートしません。

原因： GC_*PARAMETERS がパラメータ・ファイルで指定されました。これは、使用していないロックを LCK プロセスで解放できるようにします。このモードは DLM の追加サポートが必要ですが、DLM は使用できません。

処置： 追加機能を必要としない構成パラメータを指定してください。

ORA-02160 索引構成表に LONG 型の列は組み込みません。

原因： 索引構成表に定義された LONG 型の列です。

処置： 索引構成表に LONG 型の列を使用しないでください。

ORA-02161 MAXLOGFILES に対する値が無効です。

原因： MAXLOGFILES の後に数値が指定されていません。

処置： MAXLOGFILES の後に数値を指定してください。

ORA-02162 MAXDATAFILES に対する値が無効です。

原因： MAXDATAFILES の後に数値が指定されていません。

処置： MAXDATAFILES の後に数値を指定してください。

ORA-02163 FREELIST GROUPS に対する値が無効です。

原因： FREELIST GROUPS の後に数値が指定されていません。

処置： FREELIST GROUPS の後に数値を指定してください。

ORA-02164 DATAFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因： CREATE DATABASE コマンドに 2 つ以上の DATAFILE 句が指定されています。

処置： DATAFILE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02165 CREATE DATABASE に対するオプションが無効です

原因： 無効な CREATE DATABASE オプションがあります。

処置： 有効な CREATE DATABASE オプションのみを指定してください。

ORA-02166 ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG が両方指定されています。

原因： CREATE DATABASE 文に ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG が両方指定されています。

処置： これら 2 つのオプションのうち 1 つのみを指定してください。

ORA-02167 LOGFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因： CREATE DATABASE コマンドに 2 つ以上の LOGFILE 句が指定されています。

処置： LOGFILE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02168 FREELISTS の値が無効です。

原因：FREELISTS の後に数値が指定されていません。

処置：FREELISTS の後に数値を指定してください。

ORA-02169 FREELISTS 記憶域オプションは使用できません

原因：FREELISTS 記憶域オプションを指定しようとしてしました。このオプションは、表作成または索引作成中のみに指定できます。

処置：これらのオプションを削除して、文を再試行してください。

ORA-02170 FREELISTS GROUPS 記憶域オプションは使用できません

原因：FREELIST GROUPS 記憶域オプションを指定しようとしてしました。このオプションは、CREATE TABLE コマンドを使用している場合と、初期化パラメータ・ファイルに ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータが指定されている場合のみに指定できます。

処置：FREELIST GROUPS 記憶域オプションなしで文を再試行するか、初期化パラメータ・ファイル内の ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータを設定してください。

ORA-02171 MAXLOGHISTORY の値が無効です。

原因：MAXLOGHISTORY の後に数値が指定されていません。

処置：MAXLOGHISTORY の後に数値を指定してください。

ORA-02172 使用不能のスレッドに対して PUBLIC キーワードは無効です。

原因：PUBLIC キーワードが使用不能に指定されています。

処置：キーワードを削除して再発行してください。

ORA-02173 DROP TABLESPACE のオプションが無効です。

原因：表領域名の後に INCLUDING 以外のトークンが指定されていたか、INCLUDING CONTENTS の後にテキストが指定されています。

処置：表領域の後には何も指定しないか、INCLUDING CONTENTS のみを指定してください。

ORA-02174 必須のスレッド番号がありません。

原因：THREAD キーワードの後にスレッド番号を指定する必要があります。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02175 ロールバック・セグメント名が無効です。

原因：CREATE または DROP ROLLBACK SEGMENT 文の ROLLBACK SEGMENT の後に、識別子が指定されていません。

処置：ROLLBACK SEGMENT の後にセグメント名を指定してください。

ORA-02176 CREATE ROLLBACK SEGMENT のオプションが無効です。

原因：CREATE ROLLBACK SEGMENT 文に無効なオプションが指定されました。

処置：有効なオプション（TABLESPACE および STORAGE）のいずれかを指定してください。

ORA-02177 グループ番号を指定する必要があります。

原因：GROUP キーワードの後にグループ番号を指定する必要があります。

処置：コマンドの構文を調べて、GROUP の後にグループ番号を指定してから、文を再試行してください。

ORA-02178 正しい構文：SET TRANSACTION READ ONLY | WRITE

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02179 有効オプション：ISOLATION LEVEL SERIALIZABLE | READ COMMITTED

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02180 CREATE TABLESPACE のオプションが無効です。

原因：無効なオプションが指定されています。

処置：有効なオプション（DATAFILE、DEFAULT STORAGE、ONLINE、OFFLINE）を1つ指定してください。

ORA-02181 ROLLBACK WORK のオプションが無効です。

原因：ROLLBACK [WORK] の後に TO 以外のトークンが指定されています。

処置：ROLLBACK [WORK] の後には、何も指定しないか、TO SAVEPOINT *name* のみを指定してください。

ORA-02182 セーブポイント名が必要です。

原因：ROLLBACK [WORK] TO [SAVEPOINT] の後に識別子がありません。

処置：TO [SAVEPOINT] の後にセーブポイント名を指定してください。

ORA-02183 有効オプション：ISOLATION_LEVEL SERIALIZABLE | READ COMMITTED

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02184 REVOKE ではリソース割当て量は使用できません。

原因：REVOKE 文に、リソースの割当て量が指定されました。

処置：割当て量のないリソース権限を指定してください。

ORA-02185 COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

原因: COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

処置: COMMIT の後に何も指定しないか、WORK を指定してください。

ORA-02186 表領域のリソース管理権限は他の権限と同時に指定できません。

原因: 他の権限を付与または取消ししている文に、リソース割当て量権限を付与または取消しようとしてしました。

処置: リソースの割当て量権限に対しては、別の GRANT 文または REVOKE 文を使用してください。

ORA-02187 割当て量の指定が無効です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文に、上限値を超える表領域の割当て量を許可しようとしてしました。

処置: 表領域の割当て量を少なくしてください。

ORA-02189 ON *tablespace* が必要です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文で、ユーザーが表領域の割当て量を指定しましたが、その後に ON 表領域句を指定していません。

処置: 適用される割当て量の表領域を ON 表領域句で指定してください。

ORA-02190 キーワード TABLES が必要です。

原因: DROP CLUSTER 名の INCLUDING の後には、キーワード TABLES を指定する必要があります。

処置: INCLUDING の後に TABLES を指定してください。

ORA-02191 正しい構文: SET TRANSACTION USE ROLLBACK SEGMENT *rls*

原因: ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置: 示されているように構文を修正してください。

ORA-02192 ロールバック・セグメントの記憶域句に PCTINCREASE は使用できません

原因: 記憶域パラメータ PCTINCREASE を CREATE ROLLBACK SEGMENT コマンドまたは ALTER ROLLBACK SEGMENT コマンドに指定しました。

処置: PCTINCREASE 句なしでコマンドを再試行してください。

ORA-02194 イベント指定構文エラー *string* (内部エラー *string*) が '*string*' 付近で発生しました。

原因: イベント指定に構文エラーがあります。

処置: 構文および入力した綴りを調べて、操作を再試行してください。

ORA-02195 *string* オブジェクトが *string* 表領域に作成されようとしてしました。

原因：表領域の内容とオブジェクト・タイプが一致していません。

処置：別の表領域内にオブジェクトを作成するか、ユーザー・デフォルトを変更してください。

ORA-02196 PERMANENT/TEMPORARY オプションはすでに指定されています。

原因：CREATE TABLESPACE に、PERMANENT または TEMPORARY（あるいはその両方の）オプションが 2 回以上指定されました。

処置：REBUILD、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE の中から 1 つまたは複数を指定してください。

CREATE TABLESPACE のパラメータについては、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02197 ファイル・リストがすでに指定されています。

原因：CREATE TABLESPACE で、2 つ以上の DATAFILE/TEMPFILE 句が指定されています。

処置：DATAFILE/TEMPFILE 句を 1 つの句に結合してください。

ORA-02198 ONLINE/OFFLINE オプションがすでに指定されています。

原因：CREATE TABLESPACE に、ONLINE または OFFLINE（あるいはその両方の）オプションが 2 回以上指定されました。

処置：ONLINE または OFFLINE のうち 1 つのみを指定してください。

ORA-02199 DATAFILE/TEMPFILE 句がありません。

原因：CREATE TABLESPACE 文に DATAFILE/TEMPFILE 句がありません。

処置：DATAFILE/TEMPFILE 句を指定してください。

ORA-02200 WITH GRANT OPTION は PUBLIC に対して使用できません。

原因：PUBLIC に WITH GRANT OPTION を付与しようとしてしました。

処置：WITH GRANT OPTION 句を削除してください。

ORA-02201 順序はここで使用できません

原因：FROM リストの中で順序を参照しようとしてしました。

処置：順序は SELECT リストの中のみで参照できます。

ORA-02202 このクラスタには表をこれ以上作成できません。

原因：すでに 32 の表を含むクラスタに、表を作成しようとしてしました。

処置：クラスタ当たり 32 までの表が格納できます。

ORA-02203 INITIAL 記憶域オプションは使用できません

原因: 表、クラスタ、索引、ロールバック・セグメントの INITIAL 記憶域オプションを変更しようとしてしました。このオプションは、オブジェクトを作成する場合のみ指定できます。

処置: これらのオプションを削除して、文を再試行してください。

ORA-02204 ALTER、INDEX および EXECUTE はビューでは使用できません

原因: ビューに対して無効な権限を付与または取消しようとしてしました。

処置: ビューに対して、ALTER、INDEX または EXECUTE 権限の付与または取消しをしないでください。

ORA-02205 順序に対して使用できるのは SELECT および ALTER 権限のみです

原因: 順序に対して無効な権限を付与または取消しようとしてしました。

処置: 順序に対して、DELETE、INDEX、INSERT、UPDATE、REFERENCES または EXECUTE 権限を付与または取消ししないでください。

ORA-02206 INITRANS オプションが重複しています。

原因: INITRANS が複数指定されています。

処置: INITRANS オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02207 INITRANS オプションの値が無効です。

原因: INITRANS 値が 1 ～ 255 以内の整数でなく、MAXTRANS の値以下ではありません。

処置: 有効な INITRANS 値を選択してください。

ORA-02208 MAXTRANS オプションが重複しています。

原因: MAXTRANS が複数指定されています。

処置: MAXTRANS オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02209 MAXTRANS オプションの値が無効です。

原因: MAXTRANS 値が 1 ～ 255 以内の整数でなく、INITRANS の値以上ではありません。

処置: 有効な MAXTRANS 値を選択してください。

ORA-02210 ALTER TABLE にオプションが指定されていません。

原因: ALTER TABLE オプションが指定されていません。

処置: ALTER TABLE オプションを 1 つ以上指定してください。

ORA-02211 PCTFREE または PCTUSED に対する値が無効です。

原因：PCTFREE または PCTUSED に対して指定された値が 0 ～ 100 以内の整数ではありません。

処置：オプションに適切な値を選択してください。

ORA-02212 PCTFREE オプションが重複しています。

原因：PCTFREE が複数指定されています。

処置：PCTFREE オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02213 PCTUSED オプションが重複しています。

原因：PCTUSED が複数指定されています。

処置：PCTUSED オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02214 BACKUP オプションが重複しています。

原因：ALTER TABLE に対して BACKUP オプションが 2 回以上指定されています。

処置：オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02215 TABLESPACE 句が重複しています。

原因：CREATE TABLE、CREATE INDEX または CREATE ROLLBACK SEGMENT 文に 2 つ以上の TABLESPACE 句があります。

処置：TABLESPACE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02216 表領域名が必要です。

原因：CREATE/DROP TABLESPACE、CREATE TABLE、CREATE INDEX または CREATE ROLLBACK SEGMENT のいずれかの文の構文で、必要な場所に表領域名がありません。

処置：構文で必須の表領域名を指定してください。

ORA-02217 記憶領域オプションが重複しています。

原因：INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS、PCTINCREASE などの記憶領域オプションが複数回指定されました。

処置：記憶領域オプションは、最高 1 回まで指定してください。

ORA-02218 INITIAL 記憶領域オプションの値が無効です

原因：指定する値は、整数である必要があります。

処置：適切な整数値を指定してください。

ORA-02219 NEXT 記憶域オプションの値が無効です

原因：指定する値は、整数である必要があります。

処置：適切な整数値を指定してください。

ORA-02220 MINEXTENTS 記憶域オプションの値が無効です

原因: 指定する値は、MAXEXTENTS の値以下の正の整数である必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02221 MAXEXTENTS 記憶域オプションの値が無効です

原因: 指定する値は、MINEXTENTS の値以上の正の整数である必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02222 PCTINCREASE 記憶域オプションの値が無効です

原因: 指定する値は、正の整数である必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02223 OPTIMAL 記憶域オプションの値が無効です

原因: 指定する値は、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を指定してください。

ORA-02224 表に対して EXECUTE 権限は使用できません。

原因: 表に対して無効な権限を付与または取消しようとしてしました。

処置: 表に対して EXECUTE 権限を GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02225 手順に対して使用できるのは、EXECUTE と DEBUG 権限のみです

原因: プロシージャ、ファンクションまたはパッケージに対して、無効な権限を GRANT または REVOKE しようとしてしました。

処置: プロシージャ、ファンクションまたはパッケージに対して、EXECUTE または DEBUG 以外の権限を、GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02226 MAXEXTENTS の値が無効です (最大値: *string*)

原因: MAXEXTENTS に指定した値はデータベース・ブロックに対して大きすぎます。これは、SYSTEM ロールバック・セグメントのみに適用されます。

処置: 小さい値を指定してください。

ORA-02227 クラスタ名が無効です。

原因: クラスタ名が正しくありません。

処置: オブジェクト名のネーミング規則を調べ、適切なクラスタ名を入力してください。

ORA-02228 SIZE 指定が重複しています

原因: SIZE オプションが 2 回以上指定されています。

処置: SIZE オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-02229 SIZE オプションの値が無効です。

原因：指定する値は整数のバイト数にしてください。

処置：適切な値を指定してください。

ORA-02230 ALTER CLUSTER オプションが無効です。

原因：ALTER CLUSTER 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP 以外のオプションが指定されました。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02231 ALTER DATABASE のオプションがないか、または無効です。

原因：ADD、DROP、RENAME、ARCHIVELOG、NOARCHIVELOG、MOUNT、DISMOUNT、OPEN または CLOSE 以外のオプションが文に指定されています。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02232 MOUNT モードが無効です。

原因：ALTER DATABASE 文のキーワード MOUNT の後に、SHARED または EXCLUSIVE 以外のモードが指定されています。

処置：MOUNT の後に何も指定しないか、SHARED または EXCLUSIVE を指定してください。

ORA-02233 CLOSE モードが無効です。

原因：ALTER DATABASE 文のキーワード CLOSE の後に、NORMAL または IMMEDIATE 以外のモードが指定されています。

処置：CLOSE の後に何も指定しないか、NORMAL または IMMEDIATE を指定してください。

ORA-02234 この表に対する変更はすでに記録されています。

原因：追加するログ表が他と重複しています。

処置：この変更ログをシステムに追加しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02235 この表は別の表に対する変更をすでに記録しています。

原因：変更する表は、別の表に対する変更をすでに記録しています。

処置：この表に指定された実表への変更を記録しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02236 ファイル名が無効です。

原因：LOGFILE、DATAFILE または RENAME 句のファイル名リストに、文字列リテラルが使用されていません。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02237 ファイル・サイズが無効です。

原因：SIZE 句または RESIZE 句に整数以外の値が指定されました。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02238 ファイル名リストのファイル数が異なります。

原因：ALTER DATABASE または ALTER TABLESPACE の RENAME 句では、既存のファイル名の数と、新規ファイル名の数^が等しくありません。

処置：既存の各ファイル名に対応する新規ファイル名があることを確認してください。

ORA-02239 この順序を参照しているオブジェクトがあります。

原因：削除する順序は、他のオブジェクトによって参照されています。

処置：順序の名前が正しいことを確認するか、または順序を参照する制約やオブジェクトを削除してください。

ORA-02240 OBJNO または TABNO の値が無効です。

原因：OBJNO または TABNO の後に数値が指定されていません。

処置：OBJNO または TABNO の後に数値を指定してください。

ORA-02241 EXTENTS (FILE *n* BLOCK *n* SIZE *n*,...) のフォームにする必要があります

原因：エクステンツの記憶域句にエラーがあります。

処置：正しい構文を使用して記憶域句を再指定し、コマンドを再試行してください。

ORA-02242 ALTER INDEX のオプションが指定されていません。

原因：オプションの指定がありません。

処置：REBUILD、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE の中から 1 つまたは複数を指定してください。

ORA-02243 ALTER INDEX または ALTER MATERIALIZED VIEW オプションが無効です。

原因：ALTER INDEX 文、または ALTER MATERIALIZED VIEW 文の USING INDEX 句に、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE 以外のオプションが指定されています。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02244 ALTER ROLLBACK SEGMENT オプションが無効です。

原因：指定されるべき STORAGE オプションがありません。

処置：STORAGE オプションを指定してください。

ORA-02245 ロールバック・セグメント名が無効です。

原因：ALTER [PUBLIC] ROLLBACK SEGMENT の後に、指定されるべき識別子がありません。

処置：SEGMENT の後にロールバック・セグメント名を指定してください。

ORA-02246 EVENTS の後に文字列がありません

原因：ALTER SESSION SET EVENTS の後に、指定されるべき文字列リテラルがありません。

処置：EVENTS の後にイベント文字を含む文字列リテラルを指定してください。

ORA-02247 ALTER SESSION にオプションが指定されていません。

原因：ALTER SESSION の後に、指定されるべき SET EVENTS オプションがありません。

処置：ALTER SESSION の後に、SET EVENTS オプションを指定してください。

ORA-02248 ALTER SESSION のオプションが無効です。

原因：ALTER SESSION コマンドの後に、SET EVENTS 以外のオプションが指定されています。

処置：ALTER SESSION コマンドの後に SET EVENTS オプションを指定して、文を再試行してください。

ORA-02249 MAXLOGMEMBERS の値がないか、無効です

原因：MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値が指定されていません。その指定された値は、1 からログ・ファイル・メンバーのポート固有の最小値の間にしてください。

処置：MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値を指定してください。

ORA-02250 制約名がないか、無効です。

原因：制約名がないか、無効です。

処置：制約名に対して有効な識別子名を指定してください。

ORA-02251 ここでは副問合せは使用できません。

原因：この文での副問合せは許可されていません。

処置：副問合せを文から削除してください。

ORA-02252 制約検査条件が正しく終了していません。

原因：チェック制約に対して指定された検索条件が正しく終了していません。

処置：条件を正しく終了してください。

ORA-02253 ここでは制約は指定できません。

原因：この文では制約の指定は許可されていません。

処置：制約の指定を文から削除してください。

ORA-02254 ここでは DEFAULT *expression* は使用できません

原因：この文での列に対して、デフォルト値の式は許可されていません。

処置：デフォルト値の式を文から削除してください。

ORA-02256 参照する列の数が、参照される列の数と一致する必要があります

原因: 参照する外部キー・リスト内の列数と参照されるリスト内の列数が一致しません。

処置: 参照する列と参照される列を一致させてください。

ORA-02257 最大列数を超過しました

原因: キー・リストの中での列の数が最大数を超過しています。

処置: リストの中での列の数を減らしてください。

ORA-02258 NULL と NOT NULL 指定が重複または混在しています。

原因: NULL または NOT NULL の指定が重複または混在しています。

処置: 一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02259 UNIQUE/PRIMARY KEY の指定が重複しています。

原因: UNIQUE または PRIMARY KEY を重複して指定しました。

処置: 重複する指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02260 表には主キーを1つのみ持つことができます

原因: 同じ表に対して主キーを2つ以上指定しました。

処置: 不要な主キーを削除して、文を再試行してください。

ORA-02261 表に一意キーまたは主キーがすでに存在しています。

原因: その表に対してすでに存在する一意キーまたは主キーを指定しました。

処置: 不要なキーを削除して、文を再試行してください。

ORA-02262 ORA-string が列デフォルト値の式の型をチェック中に発生しました

原因: 新しい列のデータ型によって、既存の列のデフォルト値式に対するデータ型のチェック・エラーが発生しました。

処置: デフォルト値の式を削除するか、または列のデータ型を変更しないでください。

ORA-02263 この列に対してデータ型を指定する必要があります

原因: 列に対する必須データ型が指定されていません。

処置: 必須データ型を指定してください。

ORA-02264 既存の制約によってすでに使用されている名前です。

原因: 指定された制約名は一意である必要があります。

処置: 制約に対して一意の制約名を指定してください。

ORA-02265 参照する列のデータ型が定義されていません。

原因：参照列のデータ型が未定義です。

処置：参照列のデータ型は、参照される前に定義してください。

ORA-02266 表には使用可能な外部キーによって参照される一意キー/主キーが含まれていません。

原因：別の表で使用可能な外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除または切り捨てようとしてしました。

処置：表を削除または切り捨てる前に、他の表の外部キー制約を使用不可にしてください。次のコマンドを実行すると、表を参照している制約を確認できます。

```
select constraint_name, table_name, status
from user_constraints
where r_constraint_name in (
select constraint_name from user_constraints where table_name
='tabnam');
```

ORA-02267 列型が参照する列型と一致しません

原因：参照している列のデータ型が、参照される列のデータ型と一致しません。

処置：参照している列に対して、一致するデータ型を指定してください。

ORA-02268 参照された表に主キーがありません。

原因：参照された表に主キーがありません。

処置：参照された表の一意キーを明示的に指定してください。

ORA-02269 キー列は LONG データ型にできません

原因：キー列に LONG データ型を定義しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：列のデータ型を変更するか、キーから LONG 型を削除してから、文を再試行してください。

ORA-02270 この列リストに対して一致する一意キーまたは主キーが存在しません。

原因：CREATE 文または ALTER TABLE 文を使用して表内の一意キーまたは主キーを参照しようとしてしましたが、参照された表に該当する一意キーまたは主キーはありません。

処置：表に一意キーまたは主キーを追加するか、一意キーまたは主キーを指定した列の正しい名前を確認してから、文を再試行してください。

ORA-02271 表にそのような制約はありません

原因：存在しない制約を使用して表を参照しようとしてしました。

処置：制約名の綴りを調べるか、表に制約を追加して、操作を再試行してください。

ORA-02272 制約のある列は LONG データ型にできません

原因: 制約のある列は、LONG データ型として定義できません。これは許可されていません。

処置: 列のデータ型を変更するか、列の制約を削除してから、文を再試行してください。

ORA-02273 この一意 / 主キーは外部キーによって参照されています。

原因: 外部キーによって参照される一意キーまたは主キーを削除しようとした。

処置: 削除する前に、そのキーに対するすべての参照を削除してください。

ORA-02274 参照する制約の指定が重複しています。

原因: 1 つの参照制約の指定が複数指定されています。これは許可されていません。

処置: 重複する指定を削除してください。

ORA-02275 参照する制約は表にすでに存在しています。

原因: すでに存在している参照制約を指定しようとした。指定が重複することになり、これは指定できません。

処置: 制約は 1 回のみ指定してください。

ORA-02276 デフォルトのデータ型が列のデータ型と一致しません。

原因: 評価されたデフォルトの型と列のデータ型が一致しません。

処置: 列の型を変更するか、デフォルトの式を修正してください。

ORA-02277 順序名が無効です。

原因: 指定した順序名が無効な識別子名です。

処置: 順序名に対して有効な識別子名を指定してください。

ORA-02278 MAXVALUE/NOMAXVALUE の指定が重複または混在しています。

原因: MAXVALUE または NOMAXVALUE (あるいはその両方) が重複または混在して指定されました。

処置: 一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02279 MINVALUE/NOMINVALUE の指定が重複または混在しています。

原因: MINVALUE または NOMINVALUE (あるいはその両方) が重複または混在して指定されました。

処置: 一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02280 CYCLE/NOCYCLE の指定が重複または混在しています。

原因：CYCLE または NOCYCLE（あるいはその両方）が重複または混在して指定されました。

処置：一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02281 CACHE/NOCACHE の指定が重複または混在しています。

原因：CACHE または NOCACHE（あるいはその両方）が重複または混在して指定されました。

処置：一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02282 ORDER/NOORDER の指定が重複または混在しています。

原因：ORDER または NOORDER（あるいはその両方）が重複または混在して指定されました。

処置：一方の指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02283 開始順序番号は変更できません。

原因：開始順序番号を変更しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：開始順序番号は変更しないでください。

ORA-02284 INCREMENT BY の指定が重複しています。

原因：INCREMENT BY 句が重複して指定されました。

処置：重複する指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02285 START WITH の指定が重複しています。

原因：START WITH 句が重複して指定されました。

処置：重複する指定を削除して、文を再試行してください。

ORA-02286 ALTER SEQUENCE のオプションが指定されていません。

原因：ALTER SEQUENCE オプションが指定されていません。

処置：構文を確認してください。ALTER SEQUENCE オプションを、1 つ以上指定してください。

ORA-02287 ここでは順序番号は使用できません。

原因：指定された順序番号の参照（CURRVAL または NEXTVAL）は、文のこの位置では不適切です。

処置：構文を確認してください。順序番号の位置を変更するか、削除してください。

ORA-02288 OPEN モードが無効です。

原因： ALTER DATABASE OPEN 文に、RESETLOGS 以外のモードが指定されました。RESETLOGS が唯一の有効な OPEN モードです。

処置： 文から無効なモードを削除するか、かわりにキーワード RESETLOGS を指定して、文を再試行してください。

ORA-02289 順序が存在しません。

原因： 指定された文字列が存在しないか、またはユーザーがこの操作を行うために必要な権限を持っていません。

処置： 順序名が正しく、この順序で必要な操作を行うための権限を持っていることを確認してください。

ORA-02290 チェック制約 (*string.string*) に違反しました

原因： フィールドに入力された値は定義済のチェック制約に違反します。

処置： 制約を満たす値を入力してください。

ORA-02291 整合性制約 (*string.string*) に違反しました - 親キーがありません

原因： 外部キー値に一致する主キー値がありません。

処置： 外部キーを削除するか、または一致する主キーを追加してください。

ORA-02292 整合性制約 (*string.string*) に違反しました - 子レコードがあります

原因： 外部キーが参照している行を削除しようとした。

処置： この行を変更する前に、外部キーを削除または更新してください。

ORA-02293 (*string.string*) を有効にできません - チェック制約違反です。

原因： ALTER TABLE 文で該当する値を持たない表に、チェック制約を追加しようとした。

処置： 該当する値を含む表に対して、チェック制約を指定する ALTER TABLE 文を再試行してください。ALTER TABLE 文については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02294 (*string.string*) を使用可能にできません - 妥当性チェック中に制約が変更されました

原因： 1 つの DDL 文がこの制約を使用可能にしようとしているときに、別の DDL 文が同じ制約を変更しました。

処置： 今回の制約の変更を、1 つの DDL のみで再試行してください。

ORA-02295 制約に対する ENABLE 句または DISABLE 句が複数あります。

原因: CREATE 文または ALTER TABLE 文に、与えられた制約に対して ENABLE 句または DISABLE 句（あるいはその両方）を複数指定しました。

処置: 与えられた制約に対して、ENABLE 句または DISABLE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02296 (*string.string*) を使用可能にできません - NULL 値が見つかりました

原因: ENABLE CONSTRAINT 句を指定した ALTER TABLE コマンドは、表に制約を満たさない値が含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 表の中のすべての値が制約を満たすことを確認してから、ENABLE CONSTRAINT 句を指定した ALTER TABLE コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02297 制約 (*string.string*) を使用不可にできません - 依存性があります

原因: ALTER TABLE DISABLE CONSTRAINT コマンドは、表が制約に依存する外部キーを持っていたためにエラーとなりました。

処置: 外部キー制約を使用禁止にするか、または DISABLE CASCADE コマンドを指定してください。

ORA-02298 (*string.string*) を有効にできません - 親キーが見つかりません。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、親を持たない子レコードが表に含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 親を持たない子レコードが表に含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02299 (*string.string*) を有効にできません - キーが重複しています。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、表に重複するキー値が含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 表に重複するキー値が含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02300 OIDGENERATORS の値が無効です。

原因: OIDGENERATORS の値に数値が指定されていません。

処置: OIDGENERATORS に数値を指定してください。

ORA-02301 OIDGENERATORS の最大値は 255 です。

原因: OIDGENERATORS の値に 256 以上の数値が指定されました。

処置: OIDGENERATORS に指定する数値は 255 以下にしてください。

ORA-02302 型名が無効か、または指定されていません。

原因: 文中に無効な型名が入力されました。または、型名が入力されませんでした。

処置: 文中に有効な型名を入力し、操作を再試行してください。

ORA-02303 依存する型か表がある型は、削除または置換できません。

原因: 依存関係がある型を削除または置換しようとしてしました。削除しようとしている型のスーパータイプの代替列である可能性があります。

処置: 型に依存するすべての型および表を削除し、VALIDATE オプションまたは FORCE オプションを使用して、操作を再試行してください。

ORA-02304 オブジェクト識別子リテラルが無効です。

原因: CREATE TYPE に対し、次のいずれかのオブジェクト識別子リテラルを入力しようとしてしました。

- 32 文字の 16 進文字列以外
- すでに既存のオブジェクトを識別しているオブジェクト識別子
- その型に対してすでに割当て済である元のオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子

処置: オブジェクト識別子句を指定しないでください。指定する場合は、一意の、または最初に割り当てられたオブジェクト識別子と同一の、32 文字の 16 進文字のオブジェクト識別子リテラルを指定してください。その後、操作を再試行してください。

ORA-02305 型に対して使用できるのは、EXECUTE、DEBUG および UNDER 権限のみです

原因: 型に対して、無効な権限 (EXECUTE、DEBUG、UNDER 以外) を GRANT または REVOKE しようとしてしました。

処置: 型に対しては、EXECUTE、DEBUG または UNDER 権限のみを GRANT または REVOKE してください。

ORA-02306 すでに有効な依存関係のある型を作成できません。

原因: すでにいくつかの有効な依存関係のある型を作成しようとしてしました (これらの依存関係は、その型が存在しないという事実に基づいています)。

処置: 先に依存関係を削除してから型を作成してください。または、その型を作成しないでください。

ORA-02307 REPLACE オプションで無効な型を変更できません。

原因：REPLACE オプションで無効な型を変更しようとしてしました。

処置：CREATE OR REPLACE TYPE コマンドを使用して型を変更してください。

ORA-02308 オプション *string* はオブジェクト型の列には無効です。

原因：オブジェクト型の列に対し、PACKED または UNPACKED などの無効なオプションが指定されました。

処置：列の指定から無効なオプションを削除して、操作を再試行してください。

ORA-02309 アトミック NULL 違反です。

原因：属性が NULL のオブジェクト・インスタンスにアクセスしようとしてしました。

処置：オブジェクト・インスタンスが NULL でないことを確認してからアクセスしてください。

ORA-02310 表の許容最大列を超過しました

原因：オブジェクト型の列の属性が 1 つの表の許容最大数を超過しました。

処置：オブジェクト型の属性を少なくして、操作を再試行してください。

ORA-02311 依存する型または表がある有効な型は、COMPILE オプションで変更できません

原因：COMPILE オプションで、依存する型または表がある有効な型を変更しようとしてしました。

処置：この操作を実行する必要はありません。

ORA-02313 オブジェクト型に問合せ不可型 *string* の属性が含まれています。

原因：指定のオブジェクト型に問合せ不可型のネストした属性が含まれています。

処置：問合せ可能型のオブジェクト型を使用してください。

ORA-02315 デフォルト・コンストラクタの引数の数が正しくありません。

原因：デフォルト・コンストラクタに指定された引数の数がオブジェクト型の属性の数と一致しません。

処置：デフォルト・コンストラクタに正しい数の引数を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02320 ネストされた表の列 *string* の記憶表作成時にエラーが発生しました。

原因：指定されたネストした表の列に記憶表を作成している間に、エラーが発生しました。

処置：詳細は、付随するメッセージを参照してください。そのメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02322 ネストした表の列の記憶表へのアクセス時にエラーが発生しました

原因: ネストした表の列の記憶表で DML を実行している間に、エラーが発生しました。

処置: 付随するメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02324 副問合せの SELECT リストで列が複数選択されています。

原因: THE 副問合せで列が複数選択されています。

処置: THE 副問合せの SELECT リストで 1 列のみを指定して、操作を再試行してください。

ORA-02327 データ型 *string* の式に索引は作成できません。

原因: 索引を作成不可能な式に索引を作成しようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、式のデータ型が VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、REF のいずれかの場合は、索引を作成しないでください。

ORA-02329 データ型 *string* の列に一意キーまたは主キーの指定はできません。

原因: データ型が、VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、FILE、REF の列に、UNIQUE または PRIMARY KEY 制約を指定しようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、制約を削除してください。その後、操作を再試行してください。

ORA-02330 データ型の指定はできません。

原因: オブジェクト表の列制約指定で、データ型を指定しようとしてしました。

処置: データ型指定を削除して、操作を再試行してください。

ORA-02331 データ型 *string* の列に制約は作成できません。

原因: 制約を作成できないデータ型である VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、FILE または REF を持つ列に、制約を作成しようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、制約を削除してください。

ORA-02332 この列の属性に索引は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に索引を作成しようとしてしました。

処置: この属性には索引を作成しないでください。

ORA-02333 この列の属性に制約は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に制約を作成しようとしてしました。

処置: 制約を削除してください。または、オブジェクト型を変更してください。

ORA-02334 列の型を推論できません。

原因：(CREATE TABLE で) この列に対するデータ型が宣言されていません。また、この列の属性に制約を作成しようとしてしました。

処置：列に対してデータ型を宣言してください。

ORA-02335 クラスタ列のデータ型が無効です。

原因：データ型が、オブジェクト、REF、ネストした表、VARRAY、LOB または FILE の CLUSTER 列を宣言しようとしてしました。

処置：CLUSTER 列を削除してください。または、列のデータ型を変更してください。

ORA-02336 列の属性にアクセスできません。

原因：オブジェクト型の列の属性を取り出そうとしてしました。

処置：列のオブジェクト型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-02337 オブジェクト型の列ではありません。

原因：ユーザー定義型以外の列にピリオド付表示をしようとしてしました。つまり、「a」がオブジェクト型でない場合に「a.b.c」という表示をしようとしてしました。

処置：列の型をオブジェクト型に変更してください。または、この操作を実行しないでください。

ORA-02338 列の制約が指定されていないか、または無効です。

原因：列制約が指定されていません。

処置：列指定を削除してください。または、列制約を指定してください。その後、操作を再試行してください。

ORA-02339 列の指定が無効です。

原因：オブジェクト型以外の列に PACKED または UNPACKED キーワードを指定しようとしてしました。

処置：列指定から PACKED または UNPACKED キーワードを削除して、操作を再試行してください。

ORA-02340 列の指定が無効です。

原因：パックされた表内で UNPACKED 列を指定しようとしてしました。

処置：列指定から UNPACKED キーワードを削除してください。

ORA-02342 置換型にコンパイル・エラーがあります。

原因：有効な型に対して ALTER...REPLACE 文を使用しましたが、コンパイル・エラーが発生しました。

処置：ALTER...REPLACE 文を使用して、その型をコンパイル・エラーが発生しない有効な型に置き換えてください。

ORA-02344 依存する表がある型で実行の取消しはできません。

原因: 依存関係がある型で実行を取り消そうとしました。

処置: 型に依存するすべての表を削除して、操作を再試行するか、FORCE オプションを使用してください。

ORA-02345 CURSOR オペレータに基づいた列をもつビューは作成できません。

原因: CURSOR オペレータが CREATE VIEW または CREATE TABLE ... AS SELECT 文の副問合せの中の SELECT 要素の 1 つとして使用されました。

処置: CURSOR オペレータを削除して、CAST オペレータと置き換えてください。

ORA-02347 オブジェクト表の列に権限は付与できません。

原因: オブジェクト表の列に権限を付与しようとしてしました。

処置: 別の表を選択してください。オブジェクト表の列に権限を付与できません。

ORA-02348 埋込み LOB で VARRAY 列を作成できません

原因: 埋込み LOB 属性で VARRAY 型の列を作成しようとしてしました。LOB は、VARRAY の要素の宣言された型のサブタイプの属性である可能性があります。

処置: その型からエラーの属性を削除してください。サブタイプの属性である場合は、VARRAY 列に、NOT SUBSTITUTABLE を宣言してください。

ORA-02349 ユーザー定義型が無効です - 型が不完全です

原因: 列または表のデータ型として不完全な型の定義を使用しようとしてしました。

処置: 型の定義を完全にして、操作を再試行してください。

ORA-02351 レコード *string*: 拒否されました - 表 *string*、列 *string* でエラーが発生しました

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。

ORA-02352 ダイレクト・パス接続は同機種である必要があります

原因: ユーザー側とカーネル側の接続の種類が異なります。

処置: 9.0.0 より前のバージョンでは、同一のハードウェアおよびオペレーティングシステム間で接続してください。さらに、SQL*Loader と RDBMS のバージョンも同一にしてください。

ORA-02353 マルチ・バイト・キャラクタ・エラーが発生しました。

原因: POSITION によって指定されたテキスト、または改行で終了したテキストが無効です。

処置: 制御ファイルまたはデータ・ファイルを編集して、列の配置を修正してください。

ORA-02354 フィールド *string* で変換初期化エラーが発生しました。

原因：フィールドに対する変換の初期化においてエラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02355 CONSTANT フィールド *string* で変換エラーが発生しました。

原因：CONSTANT フィールドが原因でエラーが発生しました。すべての行は拒否されました。

処置：Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。

ORA-02356 データベース領域が不足しています。ロードが継続できません

原因：データベースで領域が不足したためにロードが打ち切られました。

処置：指定した表に対して領域を追加してください。

ORA-02357 パック 10 進変換エラーが発生しました。

原因：列をパック 10 進から文字へ変換できませんでした。

処置：列を調べてパック 10 進フォーマットに合わせてください。

ORA-02358 ゾーン 10 進変換エラーが発生しました。

原因：列をゾーン 10 進から文字へ変換できませんでした。

処置：列を調べてゾーン 10 進フォーマットに合わせてください。

ORA-02359 データ・ファイルのフィールドが指定した最大長を超過しました

原因：指定した列に対してフィールドが長すぎます。

処置：フィールド長を短くして列の長さ以内にしてください。

ORA-02360 論理レコードの最後まで列が見つかりませんでした (TRAILING NULLCOLS を使用)

原因：論理レコードの最後に達した後に列が開始しました。

処置：TRAILING NULLCOLS オプションを使用するか、または列にデータを入力してください。

ORA-02361 最初の囲み文字がありません。

原因：フィールドを囲む最初の文字が見つかりません。

処置：フィールドを始める前に囲み文字を入力してください。

ORA-02362 論理レコードが終了しました - 2 番目の囲み文字がありません

原因：フィールドを囲む 2 番目の文字が見つかりません。

処置：フィールドを終えた後にこの文字を入力してください。

ORA-02363 TERMINATED または ENCLOSED フィールドの後に終了記号がありません

原因: TERMINATED フィールドと ENCLOSED フィールドの後に終了記号が見つかりません。

処置: フィールドを終えた後にこの文字を入力してください。

ORA-02364 レコード *string*: 廃棄されました - WHEN 句でエラーが発生しました。

原因: 表の WHEN 句でエラーが発生したため、レコードはロードされませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02365 索引 *string* が次のエラーのため使用できません。

原因: 索引はロードされませんでした。エラーの原因は、エラー・メッセージの後に示されます。

処置: エラーの原因を修正し、それから再ロードしてください。

ORA-02366 表 *string* に対する次の索引は処理されました。:

原因: 指定した表に対してリストされた索引はロードされました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02367 索引 *string* はロードされました。

原因: メッセージに示された索引はロードされました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02368 レコード *string*: 廃棄されました - すべての列が NULL です。

原因: 表の中の列はすべて NULL であるため、レコードはロードされませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-02369 警告: 可変長フィールドは切り捨てられました。

原因: 可変長フィールドは論理レコードの終了で切り捨てられました。

処置: このメッセージは単なる警告ですが、可変長フィールドは各行のデータに埋め込まれた長さを持っているので、自分のデータを確認してください。

ORA-02370 レコード *string* - 表 *string*、列 *string* で警告エラーが発生しました

原因: 示されたレコードが原因で警告が出されました。

処置: 必要に応じて、警告から判断してレコードを修正してください。

ORA-02371 ダイレクト・パスではバージョン *string.string.string.string.string* 以上のローダーが必要です

原因: 使用しているローダーがこのカーネルのバージョンと互換性がありません。

処置: 使用中のバージョンを、示された以上のバージョンにアップグレードするか、または従来型パスを使用してください。

ORA-02372 相対開始位置が絶対フィールド終了位置よりも後に指定されています。

原因： POSITION (*+*n*:*y*) として指定されたフィールドの相対開始位置が、絶対位置 *y* の後に発生しています。

処置： デリミタが欠落していないことと、*n* と *y* の値が正しいことを確認してください。

ORA-02373 表 *string* に対する INSERT 文を解析中にエラーが発生しました

原因： 解析エラーが発生しました。

処置： このエラー・メッセージに続くメッセージを確認してください。

ORA-02374 バッファ・キュー読み用のスロットがありません。

原因： 読み込み用の使用可能バッファがありません。

処置： READBUFFERS キーワードを使用して、読み込みバッファ数を増やしてください。

ORA-02375 レコード *string*: 拒否されました - 表 *string* でエラーが発生しました

原因： 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置： Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。違反している列は不明です。

ORA-02376 リソースが無効または重複しています。

原因： 発行した CREATE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、未定義のリソースを指定したか、または同じリソースを 2 度指定しようとしてしました。

処置： リソースを定義してから CREATE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドを実行してください。または、文を調べて各リソースが 1 度のみ指定されていることを確認してください。

ORA-02377 リソース制限が無効です。

原因： 無効なリソース制限 (0) を指定しました。

処置： リソース制限には、1 以上の値を指定する必要があります。

ORA-02378 リソース名 *string* が重複しています。

原因： CREATE PROFILE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、同じリソースを 2 度指定しました。

処置： 各リソースは 1 度のみ指定可能であることに注意して、文を再発行してください。

ORA-02379 プロファイル *string* はすでに存在しています。

原因： すでに存在しているプロファイルを作成しようとしてしました。

処置： 他のプロファイルに使用されていない名前で作成してください。

ORA-02380 プロファイル *string* は存在しません。

原因: 存在しないプロファイルにユーザーを割り当てようとした。

処置: 既存のプロファイルにユーザーを割り当ててください。

ORA-02381 PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

原因: PUBLIC_DEFAULT プロファイルを削除しようとした。

処置: PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

ORA-02382 プロファイル *string* はユーザーに割り当てられています。CASCADE なしでは削除できません

原因: DROP PROFILE 文の CASCADE オプションを使用しないで、ユーザーに割り当てられているプロファイルを削除しようとした。ユーザーに割り当てられているプロファイルは、CASCADE オプションを指定しないと削除できません。プロファイルを削除する前に、ユーザーは CASCADE によって PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当てられます。

処置: DROP PROFILE を CASCADE オプション付きで実行して、再度すべてのユーザーを PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当ててください。

ORA-02383 コスト係数が無効です。

原因: ALTER RESOURCE COST 文で、このリソースに対して負の値または UNLIMITED コストが指定されました。

処置: ALTER RESOURCE COST 文のリソースには、正の整数値のみを指定できます。各リソースに対して正の整数値を指定して、文を再発行してください。

ORA-02390 COMPOSITE_LIMIT を超過しました。ログオフします

原因: 自分の属するプロファイルの COMPOSITE_LIMIT を超えました。つまり、接続時間の合計、セッション当たりの論理的読取り件数、セッション当たりの CPU 使用時間、セッションで使ったプライベート SGA 領域が、プロファイルの COMPOSITE_TIME 句に設定されている制限値を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合は、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの COMPOSITE_LIMIT を大きくしてもらるか、どのリソースが最も使用されているかを判断してそのリソースの制限を大きくしてもらってください。

ORA-02391 同時実行の SESSION_PER_USER 制限を超過しました

原因: ユーザー・プロファイルの SESSION_PER_USER によって許可されている同時実行セッションの最大数を超えました。

処置: 1 つ以上の同時実行セッションを終了するか、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの SESSIONS_PER_USER 制限を大きくしてもらってください。SESSIONS_PER_USER およびデータベース管理者が指定する同時実行セッションの管理作業の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』および『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-02392 CPU 使用に対するセッション制限を超過しました。ログオフします

原因: ユーザー・プロファイルの CPU_PER_SESSION によって許可されている最大 CPU 使用を超過しました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合は、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの CPU_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02393 CPU 使用に対するコール制限を超過しました

原因: ユーザー・プロファイルの CPU_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 CPU 時間を超過しました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合は、データベース管理者に依頼してプロファイルの CPU_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02394 I/O 使用に対するセッション制限を超過しました。ログオフします

原因: ユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION によって許可されているセッションの最大 I/O を超過しました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合は、データベース管理者に依頼してプロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02395 I/O 使用に対するコール制限を超過しました

原因: ユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 I/O を超過しました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合は、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02396 最大アイドル時間を超過しました。再接続してください

原因: アイドル状態を持続できる最大時間を超過しました。

処置: データベースに再接続してください。

ORA-02397 PRIVATE_SGA 制限を超過しました。ログオフします

原因: このエラーは、マルチスレッド・サーバーを使用している場合のみに発生します。

処置: データベース管理者に依頼して PRIVATE_SGA 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02398 プロシージャの領域使用制限を超過しました

原因: ストアド・プロシージャが SYSTEM 表領域内の領域の制限を超過して使用しました。

処置: 使用するストアド・プロシージャを少なくするか、システム表領域に追加ファイルを加えてください。

ORA-02399 最大接続時間を超過しました。ログオフします

原因: データベースに接続していることができる最大時間を超えました。

処置: データベースに再接続してください。

ORA-02401 別のユーザーに所有されているビューに EXPLAIN コマンドは実行できません。

原因: SQL 文で指定されたビューは、他のユーザーのもので、EXPLAIN は実行できません。

処置: 現行のユーザーが所有するビューと同じ定義でビューを作成してください。

ORA-02402 PLAN_TABLE 表が見つかりません。

原因: 行ソース情報の格納のために EXPLAIN が使用する表が、カレント・スキーマに存在しません。

処置: カレント・スキーマに PLAN_TABLE を作成するか、または文の INTO 句を使用して既存の PLAN_TABLE に EXPLAIN コマンドの結果を入力してください。

ORA-02403 PLAN_TABLE 表の形式が無効です。

原因: 明示的な PLAN_TABLE に適切なフィールド定義がありません。

処置: PLAN_TABLE を再定義して、適切なフィールドの定義を得てください。

ORA-02404 指定した PLAN_TABLE 表が見つかりません。

原因: 指定した PLAN_TABLE が見あたりません。

処置: 指定した PLAN_TABLE を作成するか、既存のものを使用してください。

ORA-02420 スキーマの AUTHORIZATION 句がありません。

原因: AUTHORIZATION 句が CREATE SCHEMA 文にありません。

処置: AUTHORIZATION キーワードでスキーマの認可識別子を処理してください。

ORA-02421 スキーマの認可識別子がないか、または無効です。

原因: 原因は次のいずれかです。

- スキーマの認可識別子が認識されません。
- 接続しているユーザー以外のスキーマ認可識別子を使用しようとしてしました。

処置: 原因に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- 識別子が認識されない場合は、既存の識別子を使用してください。
- 異なるユーザー名で接続している場合は、一度その接続を切断して、正しいユーザー名で接続してください。

ORA-02422 スキーマ要素がないか、または無効です。

原因：CREATE SCHEMA 文に、CREATE TABLE、CREATE VIEW または GRANT 以外の文が指定されています。

処置：『Oracle9i SQL リファレンス』で CREATE SCHEMA 文の有効な要素を参照してください。

ORA-02423 スキーマ名がスキーマの認可識別子と一致しません。

原因：表定義で表名を修飾しているスキーマ名と CREATE SCHEMA 文の AUTHORIZATION 句に指定されたスキーマ名が一致しません。

処置：スキーマ名が CREATE SCHEMA 文に指定された名前と一致することを確認してください。

ORA-02424 循環したビュー参照または不明な参照表が存在します。

原因：CREATE SCHEMA 文において、その文の中の他のビューに依存するビューが含まれているか、または存在しない表に対する参照が含まれています。

処置：依存するビューを CREATE SCHEMA 文で個別に作成してください。参照される表がすべて CREATE SCHEMA 文で定義されているか、またはこの文に関係なく存在していることを確認してください。

ORA-02425 表の作成に失敗しました

原因：CREATE SCHEMA 文の中の CREATE TABLE 文でエラーが発生しました。

処置：エラーの原因は、後続するエラー・メッセージに示されます。メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02426 権限付与に失敗しました

原因：CREATE SCHEMA 文の中の GRANT 文でエラーが発生しました。

処置：エラーの原因は、後続するエラー・メッセージに示されます。メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02427 ビューの作成に失敗しました

原因：CREATE SCHEMA 文の中の CREATE VIEW 文でエラーが発生しました。

処置：エラーの原因は、後続するエラー・メッセージに示されます。メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02428 外部キー参照を追加できませんでした

原因：宣言エラーのため、外部キー参照を追加できませんでした。参照される表が存在しないか、または表に一意キーが含まれていません。

処置：参照表が存在し、一意キーが含まれていることを確認してください。

ORA-02429 一意キーまたは主キーの保持に使用される索引は削除できません。

原因: 一意キーまたは主キーの保持機構として使用されている索引を削除しようとした。

処置: 索引を削除するかわりに整合性制約を削除してください。

ORA-02430 制約 (*string*) は使用可能にできません - そのような制約は存在しません

原因: この表には指定された制約がありません。

処置: 制約を使用可能にする前にその制約が定義されていることを確認してください。

ORA-02431 制約 (*string*) は使用不可にできません - そのような制約は存在しません

原因: この表には指定された制約がありません。

処置: 制約を使用不可にする前に定義されていることを確認してください。

ORA-02432 主キーは使用可能にできません - 表に主キーが定義されていません

原因: 表に定義されていない主キーを使用可能にしようとした。

処置: その表に主キーの定義を追加してください。

ORA-02433 主キーは使用不可にできません - 表に主キーが定義されていません

原因: 表に定義されていない主キーを使用不可にしようとした。

処置: 主キーを使用不可にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02434 一意キー (*string*) は使用可能にできません - 表に一意キーが定義されていません

原因: 表に定義されていない一意キーを使用可能にしようとした。

処置: 一意キーを使用可能にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02435 一意キー (*string*) は使用不可にできません - 表に一意キーが定義されていません

原因: 表に定義されていない一意キーを使用不可にしようとした。

処置: 一意キーを使用不可にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02436 チェック制約で指定した日付変数またはシステム変数が無効です

原因: CREATE TABLE 文や ALTER TABLE 文のチェック制約で、不完全な日付定数やシステム変数 (USER など) が使用されました。たとえば、世紀を指定しないで日付を指定しました。

処置: 日付定数またはシステム変数を完全に指定してください。

ORA-02437 (*string.string*) を有効にできません - 主キー違反です。

原因: 重複値または NULL 値を含む列で主キーを有効にしようとした。

処置: 重複値または NULL 値を削除してから主キーを使用可能にしてください。

ORA-02438 列のチェック制約では別の列を参照できません。

原因：別の列を参照する、列のチェック制約を定義しようとした。

処置：表のチェック制約として定義してください。

ORA-02439 遅延可能な制約で一意索引は使用できません

原因：制約列で既存の一意的索引を持つ遅延可能な主キー / 一意の制約を使用可能にしようとした。

処置：制約列の索引を削除するか、または制約を遅延可能にしないでください。

ORA-02440 参照制約を指定した AS SELECT 形式で表を作成することはできません。

原因：CREATE TABLE... AS SELECT... の形式を使用して表を作成する場合は、その表に対して整合性制約は作成できません。

処置：最初に表を作成してから、その表を変更して必要な整合性制約を追加してください。

ORA-02441 存在しない主キーを削除することはできません。

原因：表に対する主キー制約を削除しようとしたが、主キー制約は存在しません。

処置：表の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外に処置は必要ありません。

ORA-02442 存在しない一意キーを削除することはできません。

原因：一意キー制約が存在しない列に対して、一意キー制約を削除しようとした。

処置：列の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外に処置は必要ありません。

ORA-02443 制約を削除できません - 制約が存在しません

原因：存在しない制約を削除しようとした。

処置：制約と表の名前が正しく入力されていることを確認して、プロシージャを再試行してください。

ORA-02444 参照制約で参照されるオブジェクトを解決できません。

原因：スキーマ・オブジェクトへの参照を持った外部キーを定義しようとしたが、そのスキーマ・オブジェクトは実表を参照できません。

処置：実表を参照できるスキーマ・オブジェクトとのみ参照制約を定義してください。

ORA-02445 例外表が見つかりません。

原因：明示または暗黙宣言された例外表が見つかりませんでした。

処置：正しい例外表名が使用されている場合は、表を作成して使用可能なコマンドを再試行してください。

ORA-02446 CREATE TABLE ... AS SELECT に失敗しました - チェック制約に違反しました

原因: いくつかの行が 1 つ以上のチェック制約に違反しているときに、CREATE TABLE ... AS SELECT 文を使用しようとした。

処置: 制約に違反している行を選択しないでください。

ORA-02447 遅延可能ではない制約は遅延できません

原因: 遅延不可能な制約を遅延しようとした。

処置: その制約を削除して、遅延可能な制約を新規に作成してください。

ORA-02448 制約が存在しません。

原因: 指定された制約がありません。

処置: 存在する制約を選択するか、またはこの操作を実行しないでください。

ORA-02449 表の一意キーまたは主キーが外部キーに参照されています

原因: 別の表の外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除しようとした。

処置: 前述の表操作を実行する前に、他の表の外部キー制約を削除してください。次のコマンドを実行すると、どんな制約が表を参照しているかを確認できます。

```
SELECT * FROM USER_CONSTRAINTS WHERE TABLE_NAME = "tabnam";
```

ORA-02450 ハッシュ・オプションが無効です - キーワード IS がありません

原因: キーワード IS がありません。

処置: HASH IS オプションを指定してください。

ORA-02451 HASHKEYS の指定が重複しています。

原因: HASHKEYS オプションが 2 回以上指定されています。

処置: HASHKEYS オプションを 1 回のみ指定してください。

ORA-02452 HASHKEYS オプションの値が無効です。

原因: HASHKEYS オプションは、整数値で指定する必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02453 HASH IS の指定が重複しています。

原因: HASH IS オプションが 2 回以上指定されています。

処置: HASH IS オプションは、1 回のみ指定してください。

ORA-02454 ブロックあたりのハッシュ・キー数 (string) が最大値 string を超過しました

原因: SIZE 引数が小さすぎます。

処置: SIZE 引数を増やしてください。

ORA-02455 クラスタ・キー列の数は1である必要があります

原因: HASH IS オプションを指定する場合、キー列数は1である必要があります。

処置: HASH IS オプションを指定しないか、またはキー列数を減らしてください。

ORA-02456 HASH IS 列指定は NUMBER(*,0) である必要があります

原因: 列指定では整数を指定する必要があります。

処置: 列の定義を型 NUMBER(精度 ,0) として指定してください。

ORA-02457 HASH IS オプションには有効な列を指定する必要があります

原因: HASH IS 列名がクラスタ定義に指定されていません。

処置: 有効な列名を指定してください。

ORA-02458 HASH CLUSTER には HASHKEYS を指定する必要があります

原因: HASH CLUSTER 作成時に、HASHKEYS オプションを指定する必要があります。

処置: HASHKEYS オプションを指定してください。

ORA-02459 ハッシュ・キー値は正の整数である必要があります

原因: ハッシュ・キーの値が正数ではありません。

処置: 正の整数を指定してください。

ORA-02460 ハッシュ・クラスタに対する索引操作は無効です。

原因: ハッシュ・クラスタに対して、クラスタ索引を作成しようとした。

処置: このような索引を作成しないでください。

ORA-02461 INDEX オプションの使用は無効です。

原因: このオプションはハッシュ・クラスタ以外のみに有効です。

処置: このオプションを指定しないでください。

ORA-02462 INDEX オプションの指定が重複しています。

原因: INDEX オプションが2回以上指定されています。

処置: INDEX オプションを1回のみ指定してください。

ORA-02463 HASH IS オプションの指定が重複しています。

原因: HASH IS オプションが2回以上指定されています。

処置: HASH IS オプションを1回のみ指定してください。

ORA-02464 クラスタ定義に HASH と INDEX を両方指定することはできません。

原因: クラスタは HASH または INDEX のいずれかであり、その両方にすることはできません。

処置: HASH IS または INDEX オプションのいずれかを削除してください。

ORA-02465 HASH IS オプションの使用は無効です。

原因：このオプションはクラスタのみに有効です。

処置：このオプションを指定しないでください。

ORA-02466 HASH CLUSTERS に対して SIZE オプションを変更することはできません。

原因：HASH CLUSTERS 作成時に指定した SIZE は変更できません。

処置：このオプションを指定しないでください。

ORA-02467 式で参照される列がクラスタ定義にありません。

原因：ハッシュ式で参照される列がクラスタ定義に存在しません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式のエラーを修正してください。

ORA-02468 式での定数またはシステム変数の指定が誤っています。

原因：定数またはシステム変数がハッシュ式に指定されました。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式のエラーを修正してください。

ORA-02469 ハッシュ式は Oracle 番号を返しません。

原因：ハッシュ式の評価結果が Oracle 番号ではありません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式のエラーを修正してください。

ORA-02470 TO_DATE、USERENV または SYSDATE のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因：TO_DATE、USERENV、SYSDATE は、ハッシュ式では使用できません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式のエラーを修正してください。

ORA-02471 SYSDATE、UID、USER、ROWNUM または LEVEL のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因：SYSDATE、UID、USER、ROWNUM、LEVEL は、ハッシュ式では使用できません。

処置：クラスタを再作成し、違反しているキーワードを削除してください。

ORA-02472 PL/SQL ファンクションはハッシュ式では使用できません

原因：PL/SQL ファンクションがハッシュ式で使用されています。

処置：クラスタを再作成して、PL/SQL ファンクションを削除してください。

ORA-02473 クラスタのハッシュ式を評価する際にエラーが発生しました。

原因：クラスタのハッシュ式の評価中にエラーが発生しました。

処置：問合せを修正して、再試行してください。

ORA-02474 使用された固定ハッシュ領域エクステンツ (*string*) が最大値 (*string*) を超過しています

原因: 固定ハッシュ領域の作成に必要なエクステンツの数が許容最大値を超えています。

処置: STORAGE 句内のエクステンツ割当てサイズを増やし、必要なエクステンツの数を減らしてください。

ORA-02475 最大クラスタ連鎖ブロック数 *string* を超過しました

原因: クラスタ連鎖のブロック数が許容最大値を超えています。

処置: CREATE CLUSTER 文の SIZE パラメータ値を増やすか、またはクラスタ・キーの適応性を再検討してください。

ORA-02476 表がパラレル・ダイレクト・ロード中なので、索引を作成できません。

原因: 指定された表は、パラレル・ダイレクト・ロード中です。

処置: ロードが完了してから文を再試行してください。

ORA-02477 オブジェクト *string* のパラレル・ダイレクト・ロードを実行できません。

原因: 表に索引を作成中のため、パラレル・ダイレクト・ロードを実行できません。

処置: 索引の作成が完了してからロードを実行してください。

ORA-02478 ベース・セグメントへマージすると、MAXEXTENTS 制限を超えてしまいます。

原因: MAXEXTENTS が一時セグメントおよびベース・セグメントにおける合計より大きい場合、一時セグメントをベース・セグメントにマージすることに失敗しました。

処置: ベース・セグメントの MAXEXTENTS に対してより大きな値を使用するか、または一時セグメントのエクステンツを、さらに大きくしてください。

ORA-02479 ファイル名をパラレル・ロード用に変換中にエラーが発生しました。

原因: 無効なファイル名がロード・データ内に指定されました。

処置: 有効なデータベース・ファイルを指定してください。

ORA-02481 イベントに指定された処理が多すぎます (最大 *string*)。

原因: 指定された処理は、イベントに指定可能な処理よりも多すぎます。

処置: 指定可能な範囲の処理数を入力するか、またはワイルド・カード (可能な場合) を入力してください。

ORA-02482 イベント指定 (*string*) で構文エラーが発生しました。

原因: イベント文字列が無効です。

処置: 正しいイベント文字列を入力してください。

ORA-02483 処理指定 (*string*) で構文エラーが発生しました。

原因: 処理文字列が無効です。

処置: 正しい処理文字列を入力してください。

ORA-02486 トレース・ファイル *string* の書き込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの作成または書き込み中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名を確認し、正しく構成されていることを確認してください。さらに、ディレクトリに対する許可も確認してください。

ORA-02490 RESIZE 句に必須のファイル・サイズが指定されていません。

原因: RESIZE 句に値が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02491 AUTOEXTEND 句に必須キーワード ON または OFF が指定されていません。

原因: AUTOEXTEND 句にキーワード ON または OFF が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02492 NEXT 句に必須のファイル・ブロック増分サイズが指定されていません。

原因: NEXT 句に値が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02493 NEXT 句のファイル増分サイズが無効です。

原因: DATAFILE リストの NEXT 句に整数以外の値が使用されました。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02494 MAXSIZE 句の最大ファイル・サイズが無効か、または指定されていません。

原因: DATAFILE ファイル・リストの MAXSIZE 句に、UNLIMITED が指定されていないか、または無効な整数値が指定されました。MAXSIZE に SIZE の値より小さい値は指定できません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02495 ファイル *string* のサイズを変更できません。表領域 *string* は読取り専用です。

原因: 読取り専用表領域内のデータ・ファイルのサイズを変更しようとした。

処置: 表領域を読取り / 書き込み両用に変更して、サイズ変更操作を再試行してください。

ORA-02700 osnoraenv: ORACLE_SID の変換でエラーが発生しました。

原因: 2 タスク・ドライバが、ORACLE_SID 値の検索に失敗しました。

処置: 環境変数 ORACLE_SID が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02701 osnoraenv: Oracle イメージ名の変換でエラーが発生しました

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02702 osnoraenv: ORAPOP イメージ名の変換でエラーが発生しました

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02703 osnpopipe: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが、ORAPOP プロセスとの通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が一杯である可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-02704 osndopop: FORK に失敗しました

原因: 2 タスク・ドライバが、ORAPOP を FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、使用可能なメモリーまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-02705 osnpol: 通信チャネルのポーリングに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャネルのポーリングに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02706 osnshs: ホスト名が長すぎます。

原因: 環境変数 TWO_TASK によって指定されたホスト文字列の長さが、Oracle システム・インポーズ制限を超えています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02707 osnacc: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: 起動された UNIX の 2 タスク・ドライバが、コンテキスト領域にヒープ領域を割り当てられませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02708 osnrtab: ホストへの接続に失敗しました。ORACLE_SID が不明です

原因: 起動された UNIX の 2 タスク・ドライバが、ORATAB エントリの SID の検索に失敗しました。

処置: 最初に、ORATAB への読取りアクセス権があるかどうかを確認し、必要な SID がそこにあるかどうかを確認してください。必要に応じて、必要な SID に対する ORATAB へのエントリを追加してください。

ORA-02709 osnpop: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が一杯である可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-02710 osnpop: FORK に失敗しました

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスを FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、使用可能なメモリーまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-02711 osnpvalid: 検証チャネルへの書込みに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが、ORAPOP プロセスへの書込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02712 osnpop: malloc に失敗しました

原因: パイプ・ドライバが、十分なヒープ領域をそのコンテキスト領域バッファに割り当てるのに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02713 osnprd: メッセージの受信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが、通信チャネルからのメッセージの読込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02714 osnpwr: メッセージの送信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが、通信チャネルへのメッセージの書込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02715 osnpgetbrkmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが、認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02716 osnpgetdatmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが、認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02717 osnpfs: 書き込まれたバイト数が正しくありません

原因: パイプ・ドライバが成功のメッセージを送信しましたが、送信されたバイト数とドライバに提供されたバイト数が一致しませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02718 osnprs: リセット・プロトコル・エラーが発生しました

原因: 2 タスク・ドライバが接続をリセットできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02719 osnfop: FORK に失敗しました

原因: 高速ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスを FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、使用可能なメモリーまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-02720 osnfop: SHMAT に失敗しました

原因: 高速ドライバ起動時に、プロセスが共有メモリー・バッファの連結に失敗しました。無効な共有メモリー連結アドレスが提供されたか、システムがバッファに対応するためデータ領域を使い果たしました。

処置: 高速ドライバの速度を落として起動するか、デフォルトの連結アドレスを使用してください。

ORA-02721 osnsemin: セマフォ・セットが作成できません。

原因: 高速ドライバが、セマフォ・セットの受信に失敗しました。

処置: セマフォまたはセマフォ識別子のシステム・インボーズ制限を超えています。返されたオペレーティング・システムのエラー・コードを読み取り、システム管理者に確認してください。

ORA-02722 osnpui: ORAPOP にブレイク・メッセージが送信できません

原因: パイプ・ドライバが、ORAPOP へのブレイク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02723 osnpui: ブレイク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスへのブレイク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02724 osnpbr: orapop にブレイク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが、ORAPOP へのブレイク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02725 osnpbr: ブレイク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスへのブレイク・メッセージを送信できませんでした。

処置: 失敗したシステム・コールを中断してください。エラー・コード (エラー番号) を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02726 osnpop: Oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました

原因: パイプドライバが、Oracle 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02727 osnpop: ORAPOP 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました

原因: パイプドライバが、ORAPOP 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: ORAPOP 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02728 osnfop: Oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました

原因: 高速ドライバが、Oracle 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02729 osncon: osntab にドライバがありません。

原因: 指定されたドライバがサポートされていません。

処置: データベース管理者にどのドライバがサポートされているかを確認してください。

ORA-02730 osnrnf: ユーザー・ログオン・ディレクトリが見つかりません。

原因: 指定したドライバが、ローカル .SQLNET ファイルの検索時にログオン・ディレクトリを見つけることができませんでした。

処置: 環境変数 HOME の設定およびエクスポートを行い、ホーム・ディレクトリを識別してください。システム管理者に /etc/passwd ファイルの UID およびホーム・ディレクトリが正しいかどうかを確認してください。

ORA-02731 osnrnf: バッファの malloc に失敗しました

原因: 指定されたドライバが、バッファの malloc に十分なヒープ領域を検索できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02732 osnrnf: 一致するデータベース・エイリアスが見つかりません。

原因: 指定されたデータベース・エイリアスが、\$HOME/.sqlnet または /etc/sqlnet のどちらにも識別されませんでした。

処置: \$HOME/.sqlnet ファイルにエイリアスを作成するか、システム管理者が作成したシステム全体で使用するエイリアスを入手してください。

ORA-02733 osnsnf: データベース文字列が長すぎます。

原因: データベース・エイリアスのデータベース ID への変換時に、結果のデータベース ID 文字列が Oracle システム・インポーズ制限を超えました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02734 osnftt: 共有メモリー・アクセス権をリセットできません

原因: 高速ドライバが、共有メモリー・アクセス権のリセットに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02735 osnfpmp: 共有メモリー・セグメントを作成できません。

原因: 高速ドライバが、2 タスク通信の共有メモリー・セグメントの作成に失敗しました。

処置: 共有メモリー識別子のシステム・インポーズ制限が、システムに達しているかどうかを確認してください。

ORA-02736 osnfpmp: デフォルトの共有メモリー・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバが、デフォルトの共有メモリー・アドレスの確立に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02737 osnpcl: ORAPOP を終了させることができません。

原因: パイプ・ドライバが、ORAPOP の終了コマンドの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02738 osnpwrtbrkmsg: 書込みバイト数が正しくありません

原因: パイプ・ドライバが、明らかに不完全なブレーク・メッセージを送信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02739 osncon: ホスト・エイリアスが長すぎます。

原因: SQLNET ホストに使用されたエイリアスの長さが、162 文字以上です。

処置: より短いエイリアスを使用してください。

ORA-02750 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイル ?/dbs/ftt_pid.dbf をオープンできません。

原因: 高速ドライバが、2 タスク通信の共有メモリー・ファイルの作成に失敗しました。

処置: ディレクトリ ?/dbs の許可を確認してください。

ORA-02751 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルをマップできません

原因: 高速ドライバが、2 タスク通信の共有メモリー・ファイルのマップに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02752 osnfsmmap: 共有メモリー・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバが、予定の位置に共有メモリーを連結することに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02753 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルをクローズできません

原因: 高速ドライバが、共有メモリー・ファイルをクローズできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02754 osnfsmmap: 共有メモリー継承を変更できません。

原因: 高速ドライバが、共有メモリーの継承属性を変更できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02755 osnfsmcre: 共有メモリー・ファイル ?/dbs/ftt_pid.dbf をオープンできません。

原因: 高速ドライバが、共有メモリーにファイルを作成することに失敗しました。

処置: ディレクトリ ?/dbs の許可を確認してください。

ORA-02756 osnfsmnam: 名前の変換に失敗しました。

原因: 高速ドライバが、共有メモリーのファイル名 ?/dbs/ftt_pid.dbf の変換エラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02757 osnfop: fork およびバインドに失敗しました。

原因: 高速ドライバが、必要なクラスタおよびノード番号へのプロセスの fork に失敗しました。

処置: sercose[0] で必要なノード番号および sercose[1] のクラスタ ID を確認してください。これらが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02758 内部配列の割当てに失敗しました

原因: システムがメモリーを使い果たしたため、パッケージが配列にメモリーを割り当てられませんでした。

処置: その他のプロセスを中断するか、メモリーを増やしてマシンを再起動してください。

ORA-02759 使用可能なリクエスト記述子が不十分です

原因: パッケージのすべてのリクエスト記述子が、他の要求の実行に使用中です。

処置: 十分に要求が終了するまで待機するか、パッケージを停止し、リクエスト記述子を増やして再度初期化してください。

ORA-02760 クライアントによるファイルのクローズに失敗しました。

原因: クライアントがサーバーの fork 後、ファイルをクローズできませんでした。

処置: システムに問題があります。システム管理者に連絡してください。

ORA-02761 取り消されるファイル番号は負数です。

原因: SFIOV 構造体に含まれるファイル番号が、-1 以下になっています。

処置: これは、プログラミング・エラーの可能性あります。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02762 取り消されるファイル番号は最大値を超過しています。

原因: SFIOV 構造体に含まれるファイル番号が、最大値より大きくなっています。

処置: これは、プログラミング・エラーの可能性あります。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02763 要求を取り消すことができません。

原因: 取消し可能な要求が見つかりませんでした。

処置: このエラーは、すべての要求のファイル番号がすでに一杯になっている場合に発生します。

ORA-02764 パッケージ・モードが無効です。

原因: パッケージに可能なモードは、パラレルまたはデュプレックスのみです。

処置: 正しい値については、SFA.H を調べてください。

ORA-02765 サーバーの最大数が無効です。

原因: 指定されたサーバーの数が、0 以下でした。

処置: 1 以上の数値を指定してください。

ORA-02766 要求記述子の最大数が無効です。

原因: 要求記述子の数が、0 以下でした。

処置: 1 以上の数値を指定してください。

ORA-02767 1 つのサーバーに対して 1 未満の要求記述子が割り当てられました

原因: パッケージには、使用されるサーバー数以上の数の要求記述子が必要です。

処置: より大きい数値を指定してください。

ORA-02768 最大ファイル数が無効です。

原因: パッケージに使用される最大ファイル数が、0 以下でした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02769 SIGTERM のハンドラ設定に失敗しました。

原因: パッケージが、終了シグナルのためにサーバーによってハンドラを設定できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02770 ブロック合計数は無効です。

原因: パッケージが使用するために割り当てられるブロック合計数が 0 以下でした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02771 要求のタイムアウト値が無効です。

原因: 数値が正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02772 最大サーバー・アイドル時間が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02773 最大クライアント待機時間が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02774 要求リストのラッチ・タイムアウト値が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02775 シグナルを実行した要求は無効です。

原因：シグナルの数値が、正数ではありませんでした。

処置：正数を使用してください。

ORA-02776 シグナルを実行した要求の値は最大値を超過しました

原因：パッケージに「request done」シグナルとして使用するために送信された値が、オペレーティング・システムによって許可される最大値を超えています。

処置：システム管理者に連絡してください。

ORA-02777 ログ・ディレクトリで Stat に失敗しました

原因：パッケージが、ログ・ファイルが常駐するディレクトリについての情報を取得できませんでした。

処置：ディレクトリの許可を確認するか、または別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02778 ログ・ディレクトリに付けられた名前が無効です。

原因：ログが保存されるディレクトリに付けられた名前が、ディレクトリに対応していません。

処置：別の名前を使用してください。

ORA-02779 コア・ダンプ・ディレクトリで Stat に失敗しました

原因：パッケージが、サーバーが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリについての情報を取得できませんでした。

処置：ディレクトリの許可を確認するか、または別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02780 コア・ダンプ・ディレクトリに指定された名前が無効です。

原因：サーバー・プロセスが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリに付けられた名前が無効です。

処置：別の名前を使用してください。

ORA-02781 タイミングをとるフラグに指定した値が無効です

原因：指定した値が、TRUE または FALSE ではありませんでした。

処置：タイミングをとるべきところのフラグに、TRUE または FALSE を指定してください。

ORA-02782 読み込み、書き込み機能がどちらも指定されていません

原因：機能の対称的な作動を確実にするには、読み込みと書き込み機能の両方にポインタが必要です。

処置：両方の機能を指定するか、または両方の機能を解除してください。パッケージは、それ自体の機能を提供します。

ORA-02783 ポスト、ウェイト機能がどちらも指定されていません

原因: 機能の対称的な作動を確実にするには、ポストとウェイト機能の両方にポインタが必要です。

処置: 両方の機能を指定するか、または両方の機能を解除してください。パッケージは、それ自体の機能を提供します。

ORA-02784 指定された共有メモリー ID が無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために指定されたセグメントの ID が無効です。

処置: 別の ID を使用するか、またはパッケージ自体に指定させてください。

ORA-02785 共有メモリー・バッファ・サイズが無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために共有メモリー・セグメントに与えられたサイズが 0 以下になっています。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02786 共有領域に必要なサイズはセグメント・サイズより大きい必要があります

原因: 共有バッファ領域のために指定された共有セグメントのサイズが、必要なバイト数より小さくなっています。「追加情報」フィールドの最初のフィールドが、必要なサイズです。2 番目のフィールドは、セグメントのサイズです。

処置: より大きいサイズのセグメントを使用するか、パッケージ自体に割り当てさせてください。

ORA-02787 セグメント・リストにメモリーを割り当てることができません。

原因: システムがメモリーを使い果たしたため、パッケージが内部セグメント・リストにメモリーを割り当てするのに失敗しました。「追加情報」フィールドは、パッケージが割り当てようとしたメモリーの量です。

処置: プロセスをいくつかクローズするか、またはシステム管理者に連絡してください。

ORA-02788 非同期プロセス配列内でカーネル・プロセス・ポインタを見つけることができません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02789 最大ファイル数に達しました。

原因: 非同期 I/O で使用可能な最大ファイル数に達しました。

処置: サーバーを停止し、より大きい数値でパッケージを再度初期化してください。

ORA-02790 ファイル名が長すぎます。

原因: 非同期 I/O でオープンされているファイルの名前の長さが、最大値より長くなっています。「追加情報」フィールドは最大長です。

処置: より短い名前を使用してください。

ORA-02791 このファイルを非同期 I/O で使用するためにオープンできません

原因: パッケージがなんらかの理由でオープンできません。

処置: ファイル名を確認してください。

ORA-02792 非同期 I/O で使用しているこのファイルに fstat() を実行できません。

原因: fstat(2) が、非同期 I/O で使用しているファイルのコールに失敗しました。

処置: ファイル名を確認してください。

ORA-02793 非同期 I/O のクローズに失敗しました。

原因: クライアントが、非同期 I/O で使用しているファイルをクローズできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02794 クライアントは共有メモリーのキーを取得できませんでした。

原因: クライアントが、共有メモリーと使用する共有メモリーを得るためのキーを取得できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02795 要求リストは空です。

原因: クライアントがサーバーからシグナルを受け取りましたが、done リストが空でした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02796 要求が正常に終了していません。

原因: 要求が正しい状態にありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02797 使用可能な要求はありません。

原因: 使用可能な要求記述子がありません。

処置: 一部の要求が満たされるまで待機し、次に、要求を再試行するかサーバーを停止し、より多い要求でパッケージを初期化してください。

ORA-02798 要求数が無効です。

原因: SFARD() または SFAWRITE() のどちらかに送信された操作の数値が、-1 以下です。これはユーザーのプログラミング・エラーです。

処置: コール側プログラムを確認してください。

ORA-02799 シグナル・ハンドラをアームできません

原因: done シグナルに対するシグナル・ハンドラのアームに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02800 要求がタイムアウトしました

原因: 非同期入力または出力に対する要求の一部が、必須の時間量でサービスされませんでした。

処置: システム上のロードが高い場合は、タイムアウト制限が低すぎる可能性があります。SFAINIT() でリセットしてください。サーバー・プロセスが予期しないシグナルのために停止している場合、これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02801 操作がタイムアウトしました

原因: 一部の非同期操作が、カーネル・モードでタイムアウトしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02802 パラレル・モードで使用可能なアイドル・サーバーがありません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02803 現在の時間の取得に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02804 ログ・ファイル名に対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: クライアントが、ログ・ファイル名に対するバッファを割り当てることができませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-02805 SIGTPA のハンドラを設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02806 SIGALRM のハンドラを設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02807 I/O ベクトルに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: クライアントが、サーバーが使用する I/O ベクトルの配列に対するメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-02808 オープン・ファイル配列に対するメモリーの割当てに失敗しました

原因: クライアントが、サーバーが使用するフラグの配列に対するメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-02809 ジャンプ・バッファが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02810 メモリー・マップ・ファイルのテンポラリ・ファイル名を作成できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02811 共有メモリー・セグメントに連結できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02812 連結されたアドレスは無効です

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02813 キーを取得するためのテンポラリ・ファイル名を作成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02814 共有メモリーを取得できません

原因: SHMGET(2) が失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。これらの意味を判断できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02815 共有メモリーを連結できません

原因: SHMAT(2) が失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。これらの意味を判断できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02816 プロセスを強制終了できません。

原因: サーバーが、強制終了シグナルが送信された後に停止されませんでした。

処置: プロセスが暴走する可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02817 読込みに失敗しました。

原因: サーバーが、要求されたデータ量を読み込めませんでした。

処置: SFARD() のコールを確認してください。誤ったファイル記述子が、SFARD() に送信された可能性があります。「追加情報」フィールドの数値は、読み込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。

ORA-02818 読み込んだブロック数は要求された数に対して不足しています。

原因: サーバーが、要求されたデータ量を読み込めませんでした。「追加情報」フィールドの最初の数値は、読み込まれたブロック数です。2 番目は、読み込まれた実際のバイト数です。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側プログラムを確認してください。

ORA-02819 書込みに失敗しました。

原因: サーバーが、書込みを実行できませんでした。「追加情報」フィールドの数値は、書き込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。「追加情報」フィールドの最初の数値は、書き込まれたブロック数です。2 番目は、書き込まれた実際のバイト数です。ディスクに空きがない可能性があります。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02820 要求されたブロック数を書き込めません。

原因: サーバーが、ディスクに要求されたデータ量を書き込めませんでした。ディスクの領域が不足している可能性があります。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02821 要求されたブロック数を読み込めません。

原因: サーバーが、要求されたブロック数を読み込めませんでした。ファイルの終わりが読み込まれている可能性があります。

処置: ディスク上のファイルを確認してください。

ORA-02822 ブロック・オフセットが無効です。

原因：サーバーが、指定されたブロックをシークできませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02823 バッファが正しい境界にありません

原因：I/O 済のバッファが正しい境界にありません。

処置：コール側プログラムを確認してください。

ORA-02824 要求の空きリストが空です。

原因：すべての記述子が使用中のため、パッケージが要求記述子を割り当てるリストが空になっています。

処置：一部が空くまで待機するか、またはパッケージをより多い要求記述子で初期化してください。

ORA-02825 使用しようとした空きリストは使われています。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02826 ブロック・サイズが無効です。

原因：非同期 I/O パッケージで使用される I/O ブロック・サイズが負数になっています。これはプログラミング・エラーです。

処置：正数または 0 を使用して、デフォルト値を取得してください。

ORA-02827 ファイル数が無効です。

原因：処理されるファイル番号が -1 以下になっているか、オープンできるファイルの最大値より大きくなっています。

処置：コール側プログラムがこの数値に触れることはないので、これはプログラミング・エラーです。

ORA-02828 セグメントの空きリストが空です。

原因：割当て可能なセグメントがありません。

処置：一部のセグメントを空けるか、パッケージを停止してより多いセグメントで再度初期化してください。

ORA-02829 十分な大きさのセグメントがありません。

原因：使用できるだけの十分な大きさのセグメントが用意されていません。

処置：一部のセグメントを空けてしてください。

ORA-02830 セグメントが分割できません - 空きセグメントがありません

原因: 空きセグメントがないため、必要なものより大きいセグメントが分割できません。

処置: 一部のセグメントを空けてしてください。

ORA-02831 セグメントの割当て解除に失敗しました - セグメント・リストが空です

原因: セグメントの割当てを解除しようとしたが、「in use」リストが空でした。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側プログラムを確認してください。

ORA-02832 セグメントの割当て解除に失敗しました - セグメントがリストにありません

原因: コール側が「in use」リストにないセグメントの割当てを解除しようとした。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側プログラムを確認してください。

ORA-02833 サーバーはファイルをクローズできません。

原因: サーバーが、非同期 I/O で使用しているファイルをクローズできませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02834 サーバーはファイルをオープンできません。

原因: サーバーが、非同期 I/O に使用するファイルをオープンできませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02835 サーバーはクライアントにシグナルを送ることができません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02836 一時キー・ファイルを作成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02837 テンポラリ・ファイルをリンク解除できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02838 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラをアームできません

原因: 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラのアームに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02839 ディスクへのブロックの同期化に失敗しました。

原因: サーバーが、ディスクへの書込みをフラッシュできませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02840 クライアントによるログ・ファイルのオープンに失敗しました

原因: クライアント・プロセスが、ログ・ファイルをオープンできませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02841 サーバーが起動時に停止しました。

原因: サーバーがその初期化プロセス中に終了しました。

処置: 詳細は、サーバーのログを確認してください。

ORA-02842 クライアントはサーバーを fork できません。

原因: クライアントが、サーバーを拡張できませんでした。オペレーティング・システムが、拡張可能なプロセス数の制限に達した可能性があります。

処置: 使用可能なサーバーの数を減らすか、より多くのプロセスを処理できるようにオペレーティング・システムを再構成してください。

ORA-02843 カーネル・フラグの値が無効です。

原因: 情報構造体でカーネル・フラグに無効な値が設定されました。許可されているのは、TRUE および FALSE のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側ルーチンを確認してください。

ORA-02844 オープンしたままのフラグの値が無効です。

原因: クライアントが、サーバーがファイルを使用可能かどうかを検証した後で、ファイルがオープンされたままになっているかどうかを判別するフラグに値が設定されています。サポートされているのは、TRUE および FALSE のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側ルーチンを確認してください。

ORA-02845 タイミングをとるフラグの値が無効です。

原因: 操作のタイムアウトを示すフラグに値が設定されています。サポートされているのは、true および false のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側ルーチンを確認してください。

ORA-02846 サーバーを強制終了できません。

原因: サーバーが終了シグナルの応答に失敗しました。最初の数値は、サーバーの番号です。2 番目は、その UNIX プロセス番号です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02847 ポスト時にサーバーは終了しませんでした。

原因: サーバーが、停止するためにポストされた要求に応答しませんでした。最初の数値は、サーバーの番号です。2 番目は、その UNIX プロセス番号です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02848 非同期 I/O パッケージが実行していません。

原因: 最初に SFAINIT() を使用してパッケージを初期化せずに、非同期 I/O パッケージを使用して操作しようとしました。

処置: パッケージを使用する前に SFAINIT() をコールしてください。

ORA-02849 エラーが発生したため読み込みに失敗しました。

原因: サーバーが、要求されたデータ量をディスクから読み込めませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-02850 ファイルがクローズされています

原因: 非同期 I/O 操作が実行されるファイルが、すでにパッケージによってクローズされました。これはプログラミング・エラーです。

処置: コール側プログラムを確認してください。

ORA-02851 要求リストが空です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02852 クリティカル・セクション・タイムアウト値は無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02853 サーバー・リストのラッチ・タイムアウト値は無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02854 要求バッファの数が無効です。

原因: INIT.ORA ファイルで DB_SLAVE_BUFFERS に設定された値が、-1 以下です。

処置: 0 以上の数値を使用してください。

ORA-02855 要求数がスレーブの数より小さいです

原因: INIT.ORA ファイルで DB_SLAVE_BUFFERS に設定された値が、SLAVE (DB_SLAVES) に指定された数より小さい値です。

処置: DB_SLAVES に指定された数より大きい数を指定するか、0 を指定してください。カーネルが適切な数を提供します。

ORA-02875 smpini: PGA の共有メモリーを取得できません。

原因: エラー・コード (エラー番号) に表示されています。

処置: 問題を解決してください。

ORA-02876 smpini: PGA の共有メモリーを連結できません。

原因: エラー・コード (エラー番号) に表示されています。

処置: 問題を解決してください。

ORA-02877 smpini: メモリー保護を初期化できません。

原因: ADSPCINIT プログラムが実行されていません。

処置: インストレーション・ガイドおよびユーザズ・ガイドに記載されている ADSPCINIT プログラムを実行してください。問題が繰り返される場合は、コンピュータを再起動してください。

ORA-02878 sou2o: smpdidini 変数が上書きされました。

原因: SMPDIDINI 変数が、おそらくクライアント・コードによって上書きされました。

処置: クライアント・コードを確認してください (たとえば、Pro*C では無効なメモリー・アクセスを確認してください)。シングル・タスク操作以外で問題が発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02879 sou2o: 保護メモリーへアクセスできません

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: アプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。エラーが繰り返される場合は、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02880 smpini: 保護用 PGA を登録できません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: アプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。エラーが繰り返される場合は、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02881 sou2o: 保護メモリーへのアクセス権を取消しできません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: アプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。エラーが繰り返される場合は、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02882 sou2o: 保護用 SGA を登録できません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: アプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。エラーが繰り返される場合は、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02899 smscre: 拡張共有メモリー機能で SGA を作成できません。

原因: 環境変数 EXTSHM が、Oracle を起動する前に設定されました。

処置: 環境変数 EXTSHM を設定しないで、Oracle を再起動してください。

ORA-03001 実装されていない機能です

原因: 現在実装されていない機能を使用しようとしてしました。

処置: 現時点では、この機能は使用しないでください。

ORA-03002 演算子は実装されていません

原因: 現在実装されていない演算子を使用しようとしてしました。

処置: 現時点では、この演算子は使用しないでください。

ORA-03007 機能は廃止されました。

原因: 現在サポートされていない機能を使用しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-03008 パラメータ COMPATIBLE>= *string* が *string* には必要です。

原因: 初期化パラメータ COMPATIBLE の設定以降の Oracle バージョンの機能を使用しようとしてしました。

処置: COMPATIBLE をメッセージに記述されている値（またはそれ以上の値）に設定して、コマンドを再試行してください。ただし、これによって、ダウングレード・オプションが制限されるので注意してください。

ORA-03100 通信領域を割り当てられません: メモリーが不足しています

原因: 通信の目的でスタック領域を割り当てようとしてしましたが、できませんでした。通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03105 内部プロトコル・エラーが発生しました

ORA-03106 致命的な 2 タスク通信プロトコル・エラーが発生しました

原因: Oracle とユーザー・タスク間の通信経路が停止しました。通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03107 oranet バッファがアンダーフローしました

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03108 oranet: Oracle はこのインタフェースのバージョンをサポートしていません。

原因: Oracle Net を介してユーザーが接続しているバージョンの Oracle は、このバージョンの Oracle Net プロトコルをサポートしていません。

処置: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03109 oranet バッファがオーバーフローしました

原因: ユーザー・プログラムと Oracle 間のデータを転送しようとしたところ、バッファ領域がオーバーフローしました。通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03110 oranet: Oracle はこの SQL のバージョンをサポートしていません。

原因: Oracle Net を介してユーザーが接続しているバージョンの Oracle は、このバージョンの Oracle Net プロトコルをサポートしていません。

処置: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03111 通信チャンネルでブレイクを受信しました。

原因: 通信チャンネル上でブレイクが処理されましたが、Oracle Net ソフトウェアによって正しく処理されませんでした。通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03112 単一タスクとしてリンクしているサーバーは SQL*Net を使用できません。

原因: 単一タスク・サーバーに対して、Oracle Net 接続文字列を含む文が発行されました。たとえば、DATABASE LINK が SQL 文で使用されました。

処置: 単一タスク環境で Oracle Net 接続文字列を使用しないでください。

ORA-03113 通信チャネルでファイルの終わりが検出されました。

原因: 通信チャネル上で、予期しないファイルの終了処理が行われました。この問題は、Oracle Net (2 タスク) ソフトウェアで処理できませんでした。このメッセージは、Oracle Net 接続と対応付けられているシャドウ 2 タスク・プロセスが異常終了した場合、またはプロセス間通信媒体の物理的障害、つまり、ネットワーク・マシンまたはサーバー・マシンがダウンした場合に発生することがあります。

さらに、このメッセージは、次のいずれかの文やコマンドが実行されたときに発生する場合があります。

- ALTER SYSTEM KILL SESSION ... IMMEDIATE
- ALTER SYSTEM DISCONNECT SESSION ... IMMEDIATE
- SHUTDOWN ABORT/IMMEDIATE/TRANSACTIONAL

処置: このメッセージが接続の試行中に発生する場合は、該当する Oracle Net ドライバのセットアップ・ファイルを調べて、Oracle Net ソフトウェアがサーバー上に正しくインストールされていることを確認してください。接続に成功した後でこのメッセージが発生し、エラーの原因が物理的な障害ではない場合は、障害発生時にサーバー上でトレース・ファイルが生成されたかどうかを確認してください。トレース・ファイルがあれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターの援助が必要な Oracle 内部エラーが発生した可能性があります。

ORA-03114 Oracle に接続されていません。

原因: 接続が確立されていないのに Oracle をコールしようとしてしました。通常、このエラーは、ユーザー作成プログラムがログインしていないために発生します。また、通信障害のため切断しているときにも発生します。また、このメッセージは、ALTER SYSTEM KILL SESSION または ALTER SYSTEM DISCONNECT SESSION が IMMEDIATE 修飾子を付けて発行された場合に発生することがあります。クライアントからの要求を待たずに、クライアントからデータベースへの接続が終了するためです。

処置: 操作を再試行してください。ユーザーが作成したプログラムの使用中に、このエラーが繰り返される場合は、プログラムを調べてください。

ORA-03115 サポートされていないネットワークのデータ型または表現があります。

原因: あるユーザー・バインド、ユーザー定義または Oracle 関数が、この Oracle Net の接続ではサポートされていません。

処置: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03116 変換ルーチンに渡されたバッファ長が無効です。

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03117 2 タスク保存領域がオーバーフローしました

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03118 2 タスク・コルーチンが無効状態です。

原因: 通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03119 2 タスクが一貫性のないデータ型指定を検出しました。

原因: データ型宣言および匿名データ型宣言の両方を検出しました。

処置: 正しく指定してください。

ORA-03120 2 タスク変換ルーチン: 整数値がオーバーフローしました

原因: 異機種間接続を介してデータを変換するとき、内部 Oracle 構造中の整数値がオーバーフローしました。これは、バッファ長が無効であるか、または行カウントが大きすぎるときに発生する可能性があります。通常は、ユーザー・アプリケーションのバグに起因します。

処置: Oracle コールのパラメータを確認してください。問題が繰り返される場合は、列値を除くすべての整数パラメータを 32766 以下に設定してください。

ORA-03121 インタフェース・ドライバが接続されていません - 関数は実行されません

原因: 通常、このメッセージは、Oracle Net ドライバがメモリーにロードされていない場合、またはドライバのバージョンの不一致がある場合に発生します。古いライブラリとリンクされているユーザー・プログラムが、このメッセージの原因となる場合もあります。このインタフェースは、オラクル社が提供しているプログラムのみで使用できます。

処置: オラクル社が提供したプログラムの使用中にメッセージが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ユーザー・プログラムにエラーの原因が認められる場合、現行のバージョンのオラクル・ライブラリを使用してプログラムをリンクしてください。

ORA-03122 ユーザー側で Oracle 側のウィンドウをクローズしようとしてしました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03123 操作がブロックされます。

原因: 試行した操作は、現在完了できません。

処置: しばらく待ってから再試行してください。

ORA-03124 2 タスク内部エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03125 クライアント・サーバー・プロトコル違反が発生しました

原因: サーバーから、アプリケーションが誤ったエスケープ・シーケンスを受け取りました。クライアント・アプリケーションのユーザー・コードに問題がある可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03126 ネットワーク・ドライバは、非ブロック操作をサポートしません。

原因: 非ブロック操作が試行されましたが、ネットワーク・ドライバが非ブロック操作をサポートしません。

処置: デフォルトのブロック操作を使用するか、または非ブロック操作をサポートするドライバを使用してください。

ORA-03127 アクティブ操作が完了するまで、新しい操作を行えません。

原因: アクティブな非ブロック操作が完了する前または列のすべてのピースの挿入やフェッチが完了する前に新しい操作を実行しようとした。

処置: 非ブロック操作が完了してから、新しい操作を実行してください。ピース単位のバインド / 定義を実行する場合、すべてのピースの挿入またはフェッチが完了してから新しい操作を実行してください。

ORA-03128 接続がブロック・モードです。

原因: 接続に対する非ブロック・モードの OCI テストは、接続がブロック・モードになっていることを示しています。

処置: 非ブロック・モードが必要な場合は、適切な OCI コールを使用して、モードを変更してください。

ORA-03129 次に挿入するピースが必要です

原因: アプリケーションがピース単位のバインドを列で実行しました。

処置: このバインド変数の次のピースを指定してください。

ORA-03130 次にフェッチするピース用のバッファが必要です

原因: アプリケーションがピース単位の定義を列で実行しました。

処置: 次のピース用に別のバッファを指定して、ピースを取り出せるようにしてください。

ORA-03131 次のピースに無効なバッファが提供されました。

原因：アプリケーションで、次のピース用のバッファの長さがゼロに指定されたか、または、NULL ポインタが指定されました。

処置：次のピース用のバッファ・ポインタが NULL に指定されているかどうか、または長さがゼロに指定されているかどうかを確認してください。

ORA-03132 2 タスク・デフォルト値がオーバーフローしました。

原因：レコード・フィールドに対して指定されたデフォルト値が大きすぎます。

処置：デフォルト値を変更し、フィールド・サイズに合わせてください。

ORA-03200 セグメント型の指定が無効です

原因：セグメント型が TABLE、INDEX または CLUSTER ではありません。

処置：正しいセグメント型を使用してください。

ORA-03201 グループ番号の指定が無効です。

原因：空きリスト・グループの番号が負か、またはセグメント内の空きリスト・グループ数より大きくなっています。

処置：正しいグループ番号を使用してください。

ORA-03202 スキャン制限の指定が無効です。

原因：スキャン制限に、セグメント内の空きリスト・グループの数より大きい正の整数値がありません。

処置：正しいスキャン制限を使用してください。

ORA-03203 同時実行の更新アクティビティにより、領域分析が実行できません。

原因：ユーザー更新の量が多いため、領域の解析を妨げています。

処置：コマンドを再試行するか、または基礎となるオブジェクトをロックしてください。

ORA-03204 セグメント型の指定は、パーティション化を示す必要があります

原因：領域分析にパーティション名が指定されましたが、オブジェクト型はパーティション化を示していません。

処置：オブジェクトがパーティション化されている場合は、セグメント型に PARTITION を指定してください。それ以外の場合は、パーティション名を省略してください。

ORA-03205 パーティション化された型を指定するときは、パーティション名が必要です。

原因：領域分析にパーティション名が指定されませんでした。オブジェクト型はパーティション化を示しています。

処置：オブジェクトがパーティション化されている場合は、パーティション名を指定してください。それ以外の場合は、非パーティション型を指定してください。

ORA-03206 AUTOEXTEND 句で (*string*) ブロックの最大ファイル・サイズが範囲外です。

原因: 自動拡張可能ファイルの最大ファイル・サイズが、使用可能なブロックの最大数を超えています。

処置: サイズを小さくして、再試行してください。

ORA-03207 複合オブジェクトにはサブパーティション型を指定する必要があります

原因: 領域分析にパーティション型が指定されましたが、オブジェクト型は複合パーティション化を示しています。

処置: サブパーティション名およびサブパーティション型を指定してください。

ORA-03208 非複合オブジェクトにはパーティション型を指定する必要があります

原因: 領域分析にサブパーティション型が指定されましたが、オブジェクト型は非複合パーティション化を示しています。

処置: パーティション名およびパーティション型を指定してください。

ORA-03209 DBMS_ADMIN_PACKAGE のファイル/ブロック指定が無効です

原因: ファイル番号の値またはブロック番号の値が、制限外であるか、または矛盾しています。

処置: ファイル番号またはブロック番号の値を修正してください。

ORA-03210 DBMS_ADMIN_PACKAGE のオプション指定が無効です

原因: オプション・パラメータの値のうち 1 つが正しくありません。

処置: オプション値を修正してください。

ORA-03211 セグメントが存在しないか、または無効な状態です。

原因: DBMS_SPACE_ADMIN または DBMS_SPACE の操作で指定されているセグメントが、存在しないか、またはこの操作に適切な状態ではありません。

処置: セグメントの指定を修正するか、または適切な状態でセグメントを指定してください。

ORA-03212 一時セグメントはローカル管理の表領域に作成できません

原因: ローカル管理の永続表領域で、SORT/HASH/LOBS に一時セグメントを作成しようとした。

処置: ユーザーの一時表領域を一時表領域に変更するか、またはディクショナリ管理の永続表領域に変更してください。

ORA-03213 DBMS_SPACE パッケージの LOB セグメント名が無効です。

原因: DBMS_SPACE 操作で指定された LOB セグメントが存在しません。

処置: セグメントの指定を修正してください。

ORA-03214 指定したファイル・サイズが必要最小値を下回っています。

原因: データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルの追加またはサイズ変更で指定されたファイル・サイズが、割当て単位の必要最小値として許可されていません。

処置: ファイル・サイズの指定を増やしてください。

ORA-03215 サイズ変更で指定したファイル・サイズが小さすぎます。

原因: データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのサイズ変更で指定したファイル・サイズによって、ビットマップ制御構造がオーバーラップしました。

処置: ファイル・サイズの指定を増やしてください。

ORA-03216 表領域 / セグメント検証を続行できません。

原因: 検証中に、処理できない破損を検出しました。

処置: 手動で検証してください。

ORA-03217 TEMPORARY TABLESPACE の変更用オプションが無効です。

原因: TEMPORARY TABLESPACE の変更に、無効なオプションが指定されました。

処置: 有効なオプション (ADD TEMPFILE、TEMPFILE ONLINE、TEMPFILE OFFLINE) を 1 つ指定してください。

ORA-03218 CREATE/ALTER TABLESPACE に対するオプションが無効です。

原因: ローカル管理型の CREATE/ALTER TABLESPACE に対するオプションが無効です。

処置: 有効なオプションを 1 つ指定してください。

ORA-03219 表領域 '*string*' はディクショナリ管理されているか、オフラインまたは一時表領域です。

原因: 永続、オンライン、ローカル管理の表領域のみに適用できる操作が、ディクショナリ管理、オフラインまたは一時表領域に指定されました。

処置: 別の表領域に対して再実行するか、表領域をマウントしてください。または指定された表領域には適用されないため、操作を実行しないでください。

ORA-03220 DBMS_ADMIN_PACKAGE で必要なパラメータが NULL か、または欠落しています。

原因: プロシージャのいくつかが、欠落しているパラメータまたは NULL パラメータでコールされました。

処置: 欠落しているパラメータを指定してください。

ORA-03221 一時表領域と一時セグメントには、標準ブロック・サイズが必要です

原因: 次のいずれかを行おうとしました。

1. 標準ブロック・サイズ以外の一時表領域の作成
2. 標準ブロック・サイズ以外の既存の永続表領域から一時表領域への変更
3. 標準ブロック・サイズ以外の表領域に一次セグメントを作成する DDL 文の発行

処置: 3つの解決方法が考えられます。

1. 一時表領域の作成の場合、標準ブロック・サイズ以外のブロック・サイズを指定しないでください。
2. 既存の永続表領域から一時表領域への変更の場合は、永続表領域が標準ブロック・サイズであることを確認してください。
3. ユーザーの一時表領域を標準ブロック・サイズの表領域にしてください。

ORA-03230 セグメントは最高水位より *string* ブロック多く含んでいます。

原因: 確保しようとしたブロックが多すぎます。

処置: KEEP の量を減らしてください。

ORA-03231 INITIAL エクステントが割当て解除されていない可能性があります。

原因: リリース 7.2 以下のリリースで切り捨てられたセグメントから、領域を割当て解除しようとしてしました。

処置: KEEP の量を増やすか、またはセグメントを切り捨ててコマンドを再発行してください。

ORA-03232 *string* ブロックのエクステントを表領域 *string* から割り当てられません

原因: 表領域の NEXT 値より大きい HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT 値を指定しようとしてしました。

処置: ALTER TABLESPACE DEFAULT STORAGE を使用して表領域の NEXT 値を大きくするか、または HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT の値を小さくしてください。

ORA-03233 表 *string.string* のサブパーティション *string* を *string* (表領域 *string*) で拡張できません。

原因: 表領域の表サブパーティション・セグメントに、エクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-03234 索引 *string.string* のサブパーティション *string* を *string* (表領域 *string*) で拡張できません。

原因：表領域の索引サブパーティション・セグメントに、エクステントを割り当てることに失敗しました。

処置：ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-03235 最大エクステント数 (*string*) に達しました (表 *string.string*、サブパーティション *string*)

原因：表サブパーティションが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置：MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-03236 最大エクステント数 (*string*) に達しました (索引 *string.string*、サブパーティション *string*)

原因：索引サブパーティションが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置：MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成してください。

ORA-03237 指定サイズの初期エクステントを割り当てられません

原因：空きリスト・グループの指定のために、初期エクステントのサイズが大きすぎます。

処置：セグメントに指定した空きリスト・グループの数を減らしてください。

ORA-03238 LOB セグメント *string.string* のサブパーティション *string* が *string* で拡張できませんでした (表領域 *string*)。

原因：表領域の LOB サブパーティション・セグメントのエクステントを割り当てようとしてしましたが、示された表領域に十分な領域がないためできませんでした。

処置：ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、指定された表領域に 1 つ以上のファイルを追加してください。

ORA-03239 MAXEXTENTS (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string*、サブパーティション *string*)。

原因：LOB サブパーティション・セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置：MAXEXTENTS がシステムの最大値より小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータを使用してサブパーティションを再作成してください。

ORA-03240 ユーザーの一時表領域は移行中の表領域と同一です。

原因：ユーザーのデフォルト一時表領域は、移行中の表領域とは別の表領域である必要があります。

処置：ユーザーのデフォルト一時表領域を別の表領域に変更してください。

ORA-03241 単位サイズが無効です。

原因：表領域に対して無効な単位サイズを指定しました。

処置：正しい単位サイズを指定してください。単位サイズの見積りについては、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

ORA-03242 表領域の移行が 500 回されました。

原因：移行が完了するまでの間、移行時の表領域内に一時セグメントが存在してはいけません。

処置：オブジェクトの削除などで、大きな一時セグメントが作成されているときに、表領域を移行しないでください。

ORA-03243 宛先 DBA が既存の制御情報と重複しています。

原因：再配置中、制御情報は重複できません。

処置：別の宛先アドレスを選択してください。

ORA-03244 制御情報を割り当てる空き領域がありません。

原因：表領域の移行中、制御情報を割り当てる領域がありません。ビットマップの再配置中の場合は、指定した宛先に領域がないことが検出されました。

処置：移行中の場合は、表領域に領域を追加し、移行を再発行してください。ビットマップの再配置中の場合は、十分な空き領域がある宛先アドレスを指定してください。

ORA-03245 移行するには表領域がディクショナリ管理され、オンラインかつ永続領域である必要があります。

原因：表領域が、ディクショナリ管理、オンラインまたは永続の表領域ではありません。

処置：表領域を、オンライン、永続またはディクショナリ管理の表領域にしてください。

ORA-03246 無効なブロック番号が指定されました。

原因：指定されたブロック番号がファイルの終わりを超えているか、またはその位置に制御情報を格納するには、ファイルの大きさが十分ではないため、制御情報を指定した DBA に格納できません。

処置：正しいブロック番号を指定してください。

ORA-03247 無効なブロック番号が指定されました。

原因：指定された宛先ヘビットマップを再配置すると、その表領域自身へ記述することになります。

処置：別の宛先 DBA を選択してください。

ORA-03248 移行処理でセグメント作成アクティビティが多すぎます。

原因：移行中に一時セグメントを作成しようとしてしました。

処置：このエラーは、移行が 500 回再試行された後、表示されます。現在作成中のセグメントがないときに、移行を実行してください。

ORA-03249 自動セグメント領域管理されている表領域の均一サイズは、少なくとも *string* ブロックが必要です

原因：指定したブロック・サイズに対して、指定された均一サイズは不十分です。

処置：より大きいエクステント・サイズを指定して、再試行してください。

ORA-03274 ALLOCATE EXTENT と DEALLOCATE UNUSED オプションの両方が指定されています。

原因：DEALLOCATE オプションおよび ALLOCATE オプションが同じコマンドに指定されています。

処置：いずれか 1 つのオプションを選択するか、または 2 つのコマンドをそれぞれ実行してください。

ORA-03275 DEALLOCATE オプションの指定が重複しています。

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX に DEALLOCATE UNUSED オプションを複数指定しています。

処置：オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-03276 ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX に ALLOCATE EXTENT オプションを複数指定しています。

処置：オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-03277 指定された SIZE が無効です。

原因：指定する値は、整数である必要があります。

処置：適切な整数値を指定してください。

ORA-03278 ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因：オプション (DATAFILE、SIZE または INSTANCE) が、複数指定されました。

処置：各オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-03279 INSTANCE の指定が無効です。

原因: 指定された値が、有効なインスタンス名として認識されていません。

処置: 有効な名前を使用してください。

ORA-03280 DATAFILE ファイル名の指定が無効です。

原因: 想定された文字列リテラルが見つかりません。

処置: 文字列リテラルを使用して、ファイル名を指定してください。

ORA-03281 ALLOCATE EXTENT オプションが無効です。

原因: DATAFILE、SIZE または INSTANCE 以外のオプションが指定されました。

処置: 無効なオプションを削除して、コマンドを再試行してください。

ORA-03282 ALLOCATE EXTENT オプションがありません。

原因: ALLOCATE EXTENT オプションの指定がありません。

処置: DATAFILE、SIZE または INSTANCE オプションを 1 つ以上指定してください。

ORA-03283 指定したデータ・ファイル *string* は存在しません。

原因: そのデータ・ファイルは存在しません。

処置: 正しいデータ・ファイルでオプションを再試行してください。

ORA-03284 データ・ファイル *string* は表領域 *string* のメンバーではありません。

原因: 指定されたデータ・ファイルは、オブジェクトが常駐している表領域に属していません。

処置: 正しいデータ・ファイルでオプションを再試行してください。

ORA-03286 ALLOCATE EXTENT は HASH CLUSTERS に対して無効です。

原因: クラスタはハッシュ・クラスタなので、EXTENT 割当てオプションは使用できません。

処置: ハッシュ・クラスタではこのコマンドを使用しないでください。

ORA-03287 FREELIST GROUP の指定が無効です。

原因: 指定した FREELIST GROUP の数値が無効です。

処置: このオブジェクトには、1 からフリー・リスト・グループ数の間の数値を指定してください。

ORA-03288 FREELIST GROUP および INSTANCE パラメータの両方は指定できません。

原因: FREELIST GROUP と INSTANCE の両方が 1 つの句に指定されています。

処置: いずれか 1 つを削除してください。

ORA-03290 切捨てコマンドが無効です - CLUSTER または TABLE キーワードがありません

原因：無効なオブジェクトを指定しました。

処置：TRUNCATE CLUSTER または TRUNCATE TABLE のいずれかを指定してください。

ORA-03291 切捨てオプションが無効です - STORAGE キーワードがありません

原因：STORAGE キーワードが必要です。

処置：DROP STORAGE または REUSE STORAGE のいずれかを指定してください。

ORA-03292 切り捨てようとした表はクラスタの一部です。

原因：切り捨てようとしている表は、クラスタのメンバーです。

処置：TRUNCATE CLUSTER または DROP TABLE のいずれかを使用してください。

ORA-03293 切り捨てようとしたクラスタはハッシュ・クラスタです。

原因：INDEX CLUSTERS のみを切り捨てることができます。

処置：TRUNCATE を使用するかわりに、HASH CLUSTER を削除して再作成してください。

ORA-03296 データ・ファイルのサイズ変更ができません - ファイル *string* が見つかりません

原因：指定されたデータ・ファイルは、サイズ変更できません。

処置：データ・ファイル名が有効であることを確認し、有効な場合は、そのファイルがアクセス可能であることを確認してください。

ORA-03297 ファイルには、要求した RESIZE 値を超える使用中のデータが含まれています。

原因：切り捨てられる領域内のファイルの一部分が、データベース・オブジェクトによって現在使用されています。

処置：ファイルをサイズ変更する前に、この領域にエクステントを含んでいるセグメントを削除または移動するか、または切り捨てられた領域内が使用可能領域のみになるように、サイズ変更値を選択してください。

ORA-03298 データファイルを縮小できません - ファイル *string* はホット・バックアップです

原因：ファイルがホット・バックアップのとき、データ・ファイルを縮小しようとした。これは許可されていません。

処置：ホット・バックアップの完了後に、ファイルを縮小してください。

ORA-03299 ディクショナリ表 *string* を作成できません

原因: ディクショナリ表は、データベースに対するコマンド ALTER DATABASE DATAFILE AUTOEXTEND ON の最初の実行時に作成されます。この操作に失敗しました。その原因として、システム表領域内の領域が不十分である可能性があります。

処置: エラー・スタックにある次のエラー・メッセージの処置を参照してください。

ORA-04000 PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超過することはできません

原因: クラスタまたは表の PCTUSED および PCTFREE の合計が、101 以上です。

処置: 値の合計を 100 以下に指定して、表またはクラスタを作成してください。

ORA-04001 順序パラメータ *string* は整数である必要があります

原因: 指定した *string* (順序パラメータ) が整数ではありません。

処置: 指定したパラメータに整数値を与えて、順序を作成してください。

ORA-04002 INCREMENT はゼロでない整数である必要があります

原因: 順序の INCREMENT がゼロに指定されました。

処置: INCREMENT をゼロでない値に指定してください。

ORA-04003 順序パラメータ *string* が順序に対して指定できる最大サイズ *string* 桁を超過しています

原因: *string* (順序パラメータ) の桁が多すぎます。

処置: 使用できる桁数でパラメータを指定してください。

ORA-04004 MINVALUE は MAXVALUE より小さい必要があります

原因: MINVALUE に MAXVALUE 以上の値が指定されています。

処置: MAXVALUE より小さい MINVALUE を指定してください。

ORA-04005 INCREMENT は (MAXVALUE-MINVALUE) より小さい必要があります

原因: 指定された INCREMENT が、MAXVALUE-MINVALUE の値以上です。

処置: MAXVALUE-MINVALUE の値より小さい INCREMENT を指定してください。

ORA-04006 START WITH に MINVALUE より小さい値は指定できません。

原因: 指定した開始値が、MINVALUE より小さくなっています。

処置: 開始値が MINVALUE 以上であることを確認してください。

ORA-04007 MINVALUE に現在値より大きい値は指定できません。

原因: 指定した MINVALUE が、現在値を超える値です。

処置: MINVALUE が現在値以下であることを常に確認してください。

ORA-04008 START WITH に MAXVALUE より大きい値は指定できません。

原因：開始値が、MAXVALUE より大きいです。

処置：開始値が MAXVALUE より小さいことを確認してください。

ORA-04009 MAXVALUE に現在値より小さい値は指定できません。

原因：現在値が、指定している MAXVALUE の値より大きくなっています。

処置：新しい MAXVALUE が、現在値より大きいことを確認してください。

ORA-04010 CACHE には 1 より大きい値を指定する必要があります

原因：CACHE 句の値が 1 でした。

処置：NOCACHE を指定するか、または 2 以上の値を指定してください。

ORA-04011 順序 *string* は *string* から *string* の間の範囲にする必要があります

原因：順序パラメータのいずれかに指定した値が制限を超えています。

処置：これらの制限を超えない値をパラメータに指定してください。

ORA-04012 指定されたオブジェクトは順序ではありません。

原因：指定したオブジェクト上で順序 DDL は実行できません。

処置：名前の綴りに注意して、文を再入力してください。

ORA-04013 CACHE は 1 サイクルより小さい値にする必要があります

原因：CREATE SEQUENCE 文で指定した CACHE に対する数が、1 サイクルの値を超えています。

処置：サイクルを拡張するか、より小さい値でキャッシュして、文を再試行してください。

ORA-04014 CYCLE を実施する降順の順序には MINVALUE を指定する必要があります

原因：その値が CREATE SEQUENCE 文に指定されていません。CYCLE を実施する順序は、そこから再び開始する値を指定する必要があります。

処置：順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04015 CYCLE を実施する昇順の順序には MAXVALUE を指定する必要があります

原因：その値が CREATE SEQUENCE 文に指定されていません。CYCLE を実施する順序は、そこから再び開始する値を指定する必要があります。

処置：順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04016 順序 *string* はもう存在していません。

原因：その次の値の処理中に順序が削除されました。

処置：順序を再作成してください。

ORA-04017 パラメータ MAX_DUMP_FILE_SIZE の値 *string* (長さ =*string*) が無効です。

原因: MAX_DUMP_FILE_SIZE パラメータの文字列が、UNLIMITED 文字列の値と一致しないか、または基数である整数の 10 を示していませんでした。

処置: このパラメータに、適切な値を再度割り当ててください。

ORA-04018 パラメータ _SCN_SCHEME の値 *string* が無効です

原因: _SCN_SCHEME 初期化パラメータに指定された値が、定義されたスキーマとして認識されません。

処置: 適切な値を再度割り当ててください。

ORA-04019 SCN スキーマは他のインスタンスと互換性がありません

原因: 別のインスタンスが互換性のない Oracle リリースを実行しているか、または別のインスタンスにある _SCN_SCHEME 初期化パラメータに、別の値が割り当てられました。

処置: _SCN_SCHEME パラメータが、すべてのインスタンスにある同じ値に設定されていることを確認してください。

ORA-04020 オブジェクト *stringstringstringstringstring* をロックしようとしてデッドロックを検出しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトをロックしようとして、デッドロックが検出されました。

処置:しばらく待ってから再試行してください。

ORA-04021 オブジェクト *stringstringstringstringstring* をロック待ちしていてタイムアウトが発生しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトをロックしようと待っている間、タイムアウトが発生しました。

処置:しばらく待ってから再試行してください。

ORA-04022 待機なしが要求されましたが、ディクショナリ・オブジェクトのロックで待機が必要です。

原因: 待機なしが要求されている間、ライブラリ・オブジェクトのロックを待つ必要があります。

処置:しばらく待ってから再試行してください。

ORA-04028 オブジェクト *stringstringstringstringstring* のダイアナを生成できません。

原因: ロックが競合しているため、オブジェクトにダイアナを生成できません。

処置: このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04029 エラー ORA--string が発生しました (問合せ stringstringstring)。

原因: 問合せ対象の表またはビューがありません。エラー番号がそのエラーを示しています。

処置: エラーを修正してください。

ORA-04030 string バイト (string,string) を割り当てようとしてプロセス・メモリーが不足しました。

原因: オペレーティング・システム・プロセスのプライベート・メモリーを使い果たしています。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。アプリケーションには、プロセスのメモリー領域を過度に割り当てる原因となる問題が存在している可能性があります。

ORA-04031 共有メモリーの string バイトを割り当てられません ("string","string","string","string")

原因: 共有プールに割り当てられた共有メモリーより多くの共有メモリーが必要です。

処置: 共有プールがメモリー不足の場合、大きいパッケージを確保するために DBMS_SHARED_POOL パッケージを使用するか、使用している共有メモリーを削減するか、または SHARED_POOL_RESERVED_SIZE および SHARED_POOL_SIZE 初期化パラメータの値を増やすことによって、使用可能な共有メモリーの量を増やしてください。大きいプールがメモリー不足の場合、LARGE_POOL_SIZE 初期化パラメータを増やしてください。

ORA-04032 自動モードに切り替える場合はあらかじめ pga_aggregate_target を設定しておく必要があります

原因: PGA_AGGREGATE_TARGET が指定されていないときに、WORKAREA_SIZE_POLICY に AUTO を設定しようとしてしました。

処置: WORKAREA_SIZE_POLICY を設定する前に、PGA_AGGREGATE_TARGET にインスタンスに使用可能なプライベート・メモリーの合計を示す値を設定してください。合計は、一般的には、システムで使用可能な物理メモリーの合計から、SGA に必要なメモリーを引き、さらにオペレーティング・システムに必要なメモリーを引くと算出できます (たとえば、500MB など)。

ORA-04033 プールを大きくするにはメモリーが足りません

原因: システムにメモリーが不足しているため、指定されたサイズまでプールを大きくすることができません。

処置: プールに指定する値を小さくしてください。

ORA-04041 パッケージ本体を作成する前にパッケージ仕様部を作成する必要があります。

原因: パッケージ仕様部を作成する前に、パッケージ本体を作成しようとしてしました。

処置: パッケージ仕様部を作成してから、パッケージ本体を作成してください。

ORA-04042 プロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体が存在しません。

原因: 存在しないプロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体をアクセスしようとした。

処置: 名前が正しいかどうかを確認してください。

ORA-04043 オブジェクト *string* は存在しません。

原因: システムが認識しないオブジェクト名が指定されました。考えられる原因は次のとおりです。

- 表、ビュー、順序、プロシージャ、ファンクション、パッケージまたはパッケージ本体に対して無効な名前が入力されました。システムは、無効な名前を認識できなかったため、指定したオブジェクトは存在しないというメッセージで応答しました。
- 名前を変更できない索引またはクラスタ、またはその他のオブジェクトの名前を変更しようとした。

処置: 指定したオブジェクトの綴りを確認し、コードを再実行してください。(データ・ディクショナリを問い合わせることによって、表、ビュー、ファンクションなどの有効な名前をリストできます。)

ORA-04044 ここにはプロシージャ、ファンクション、パッケージ、型は指定できません。

原因: 文中の不適切な位置に、プロシージャ、ファンクションまたはパッケージが指定されました。

処置: 名前が正しいことを確認するか、または削除してください。

ORA-04045 *string.string* の再コンパイルまたは再検証中にエラーが発生しました。

原因: このメッセージは、次のエラーが適用されるオブジェクトを示しています。オブジェクトの暗黙の再コンパイルまたは再検証中に、エラーが発生しました。

処置: 詳細は、次のエラーを確認して、オブジェクトに必要な修正をしてください。

ORA-04046 コンパイル結果が大きすぎてサポートできません。

原因: 大きなストアド・プロシージャをコンパイルおよび格納しようとした結果、大きすぎてシステムがサポートまたは格納できないコンパイル・データになりました。

処置: 小さいストアド・プロシージャに分割して、ストアド・プロシージャのサイズを小さくしてください。

ORA-04047 指定したオブジェクトは指定したフラグと互換性がありません

原因: フラグが示すオブジェクト型が、指定されたオブジェクト型と一致しません。

処置: 正しいオブジェクトを指定するか、または適切なフラグを使用してください。

ORA-04050 プロシージャ、ファンクション、パッケージの名前がないか、または無効です。

原因: 必須のプロシージャ、ファンクション、パッケージの名前が無効であるか、またはそれらが指定されていません。

処置: 有効な名前を指定してください。

ORA-04051 ユーザー *string* はデータベース・リンク *string.string* を使用できません。

原因: リモート・オブジェクト・アクセスの進行中に、存在しないデータベース・リンクを使用しようとしたか、ログイン・ユーザーまたは PUBLIC 以外のユーザーが所有しているデータベース・リンクを使用しようとした。

処置: 要求を出す同一のユーザー ID から間接的なリモート・アクセスをすべて実行するために、データベース・リンクの構成を変更してください。

ORA-04052 リモート・オブジェクト *stringstringstringstringstring* の検索中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトの検索中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してください。リモート・データベース・システムが、問合せおよび検索に必要なビューを作成するために、KGLR.SQL を実行していることを確認してください。

ORA-04053 リモート・オブジェクト *stringstringstringstringstring* 評価中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトの評価中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してください。リモート・データベース・システムが、問合せおよび検索に必要なビューを作成するために、KGLR.SQL を実行していることを確認してください。

ORA-04054 データベース・リンク *string* が存在しません。

原因: PL/SQL ブロックのコンパイル中に、存在しないデータベース・リンクを使用しようとした。

処置: 別のデータベース・リンクを使用するか、またはデータベース・リンクを作成してください。

ORA-04055 異常終了: "*string*" で、"*string*" を伴う非 REF の相互依存サイクルが形成されました

原因: コンパイルされたライブラリ単位が、他のライブラリ単位と非 REF の相互依存サイクルを形成しているため、コンパイルが異常終了しました。このエラーは、この型を伴うサイクルに加わる他の型の属性を持つ型とコンパイルしようとするると発生します。次に例を示します。

```
create type t1; create type t2 (a t1); create type t1 (a t2);
```

処置: (REF を追加するか、または別の型を使用して) サイクルを中断してください。

ORA-04060 *string* を実行する権限が不十分です。

原因: 十分な権限なしに、ストアド・プロシージャを実行しようとした。

処置: 必要な権限を取得してください。

ORA-04061 *string* の既存状態は無効になりました。

原因: プロシージャが変更または削除されたため、無効になった既存状態またはストアド・プロシージャと矛盾が発生した既存状態を使用して、ストアド・プロシージャの実行を再開しようとした。

処置: 再試行してください。このエラーでは、すべてのパッケージの既存状態に再初期化が必要です。

ORA-04062 *string* (*string* について) が変更されました。

原因: ストアド・プロシージャを実行して、プロシージャの現行とは異なるタイムスタンプまたは署名を指定する RPC スタブを扱おうとした。

処置: 新しいタイムスタンプを取得するために、コール元のプログラムを再コンパイルしてください。

ORA-04063 *string* にエラーがあります。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしたか、またはエラーのあるビューを使用しようとした。ストアド・プロシージャの場合は、問題は構文エラーか、または他の存在していないプロシージャへの参照にある可能性があります。ビューの場合は、問題はビューの定義問合せで、存在していない表への参照にある可能性があります。表が存在していない型やアクセスできない型を参照している場合も、このエラーは発生します。

処置: エラーを修正するか、または必要に応じて参照されるオブジェクトを作成（あるいはその両方）してください。

ORA-04064 実行されませんでした。 *string* は無効になりました

原因: 無効になったストアド・プロシージャを実行しようとした。

処置: ストアド・プロシージャを再コンパイルしてください。

ORA-04065 実行されませんでした。 *string* を変更または削除しています

原因: 変更または削除されたストアド・プロシージャを実行しようとしたので、コール側プロシージャからのコールができません。

処置: その依存関係を再コンパイルしてください。

ORA-04066 実行不可能なオブジェクト、 *string*

原因: 非プロシージャを実行しようとしています。

処置: 正しい名前が指定されているかどうかを確認してください。

ORA-04067 実行されませんでした。string は存在しません

原因: 存在していないプロシージャを実行しようとしています。

処置: 正しい名前が指定されているかどうかを確認してください。

ORA-04068 パッケージ stringstringstring の既存状態は廃棄されました。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしてエラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージを参照して、指摘されているエラーを修正してください。アプリケーション状態を再初期化してから、プロシージャを再試行してください。

ORA-04070 トリガー名が無効です。

原因: 無効なトリガー名を指定しました。

処置: トリガー名が予約済のキーワードでないことを確認してください。

ORA-04071 キーワード BEFORE、AFTER または INSTEAD OF がありません

原因: トリガー文に BEFORE 句、AFTER 句または INSTEAD OF 句を指定していません。

処置: BEFORE、AFTER または INSTEAD OF のいずれかを指定してください。

ORA-04072 トリガー型が無効です。

原因: 無効なトリガー名を指定しました。

処置: INSERT、UPDATE または DELETE のいずれかを指定してください。

ORA-04073 このトリガー型では列リストが無効です。

原因: 列リストが、更新できないトリガー型に指定されました。

処置: 列リストを削除してください。

ORA-04074 REFERENCING の名前が無効です

原因: REFERENCING 句に無効な名前を指定しました。

処置: REFERENCING 名が予約語でないことを確認してください。

ORA-04075 トリガー・アクションが無効です。

原因: トリガー・アクションに対して、文を指定しました。

処置: トリガー・アクションを再指定してください。

ORA-04076 NEW または OLD の指定が無効です。

原因: 列に対して無効な NEW または OLD を指定しました。

処置: 正しい NEW または OLD を使用して、列を再指定してください。

ORA-04077 WHEN 句は表レベル・トリガーで使用できません。

原因： WHEN 句は行レベル・トリガーのみに指定できます。

処置： WHEN 句を削除するか、または各行に指定してください。

ORA-04078 OLD と NEW の値を同一にすることはできません

原因： REFERENCING 句には NEW および OLD に対して同一の値が指定されています。

処置： OLD または NEW の REFERENCING 値を再指定してください。

ORA-04079 トリガーの指定が無効です。

原因： CREATE TRIGGER 文が無効です。

処置： 正しい構文のために文を確認してください。

ORA-04080 トリガー '*string*' が存在しません

原因： TRIGGER 名が無効です。

処置： トリガー名を確認してください。

ORA-04081 トリガー '*string*' がすでに存在します

原因： TRIGGER 名または TRIGGER 型がすでに存在しています。

処置： 異なるトリガー名を指定するか、または同じ名前のトリガーを削除してください。

ORA-04082 表レベル・トリガーで NEW または OLD 参照は使用できません。

原因： トリガーが、表トリガーの NEW 値または OLD 値にアクセスしています。

処置： NEW または OLD の参照を削除してください。

ORA-04083 トリガー変数 '*string*' が無効です

原因： トリガー本体で参照されている変数が無効です。

処置： 有効なトリガー変数型については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-04084 このトリガー型の NEW の値は変更できません。

原因： BEFORE 行挿入トリガーまたは更新トリガーのみで、NEW トリガー変数を変更できます。

処置： トリガー型を変更するか、または変数の参照を削除してください。

ORA-04085 OLD 参照変数の値は変更できません。

原因： OLD 値は読取り専用であり、変更できません。

処置： OLD 変数を変更しないでください。

ORA-04086 トリガー説明が長すぎます。コメントをトリガー・コードに移動してください

原因: トリガー説明は、(ディクショナリの記憶域のために) 2000 文字に制限されています。記述に「when」句のテキスト、またはトリガーに対して実行された PL/SQL コードのテキストが含まれていません。

処置: トリガー説明に長すぎるコメントがある場合は、コメントをトリガーの PL/SQL コードに移動してください。

ORA-04087 ROWID 参照変数の値は変更できません。

原因: ROWID は読取り専用であり、変更できません。

処置: ROWID の値を変更しないでください。

ORA-04088 トリガー '*string.string*' の実行中にエラーが発生しました

原因: トリガーの実行中に、実行時エラーが発生しました。

処置: 操作に関連のあるトリガーを調べてください。

ORA-04089 SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーは作成できません。

原因: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しようとしました。

処置: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しないでください。

ORA-04090 *string* に *string* と同じ表、イベント、トリガー時間が指定されています。

原因: トリガーが、重複したイベントおよびトリガー時間になっています。

処置: トリガーする情報を組み合わせて、指定時間に発生するトリガーにしてください。

ORA-04091 表 *string.string* は変更しています。トリガー / 関数は見ることができません

原因: トリガー (または文中で参照されるユーザー定義の PL/SQL 関数) が、トリガーを起動した文によって変更中の表を問合せ (または変更) しようとしました。

処置: その表をコールしないようにトリガー (または関数) を修正してください。

ORA-04092 トリガーは *string* できません

原因: トリガーが、コミットまたはロールバックしようとしました。

処置: トリガーを書きなおして、コミットまたはロールバックしないようにしてください。

ORA-04093 LONG 型の列への参照はトリガー内で作成することはできません。

原因: トリガーが、トリガーしている表内の LONG 型列を参照しようとしました。

処置: トリガーしている表の LONG 列を参照しないようにしてください。

ORA-04094 表 *string.string* は制約が付いています。トリガーによって修正することはできません。

原因: 親である SQL 文の参照制約のために、制限される表をトリガーが修正しようとしてしました。

処置: その表を修正しないようにトリガーを修正してください。

ORA-04095 トリガー '*string*' はすでに別の表に存在しています。置換できません

原因: 置換しようとしているトリガーが、別の表にすでに存在しているトリガーなので置換できません。

処置: 同じ名前のトリガーを削除して、トリガーを再作成してください。

ORA-04096 トリガー '*string*' にある WHEN 句が大きすぎます。最大 2K です

原因: トリガーの WHEN 句は、ディクショナリの記憶域のために 2KB に制限されています。作成中のトリガーが大きすぎます。

処置: 小さい WHEN 句を使用してください。トリガー本体は、WHEN 句と同じ制限処理を実行するために使用されることに注意してください。

ORA-04097 トリガーを削除または変更の際に DDL の競合が発生しました

原因: 2 つの DDL 操作をトリガーまたはトリガー表で同時に実行しようとしてしました。

処置: トリガーの現在の状態を調べ、必要に応じて DDL 操作を再試行してください。

ORA-04098 トリガー '*string.string*' が無効で再検証に失敗しました。

原因: トリガーを実行しようとして検索し、無効であることがわかりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

処置: コンパイル / 許可エラーを解決するには、トリガーを使用禁止にするか、トリガーを削除してください。

ORA-04099 トリガー '*string*' は有効ですが、コンパイルされた形式で保存されていません

原因: トリガーを実行しようとして検索し、有効であることがわかりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

処置: トリガーのコンパイルを変更して、保存された書式でトリガーを作成してください。また、適切にアップグレードされているかを確認する必要がある場合もあります。

ORA-04100 ~ ORA-07499

ORA-04930 順序番号のオープンに失敗したか、または無効な初期状態です。

原因：順序番号を共有するオペレーティング・システム・コンポーネントが正しくインストールされていないか、MC ハードウェア障害が発生した可能性があるか、または前のインスタンスが正しく停止されませんでした。

処置：オペレーティング・システム・コマンド `ps -ef | grep instance_name` を使用して、このノードに前のインスタンスからのバックグラウンドまたはフォアグラウンド Oracle プロセスがないことを確認してください。オペレーティング・システム・コマンド `ipcs -b` を発行することによって、Oracle の owner に属する共有メモリー・セグメントがないことを確認してください。システムに共有メモリー・セグメントまたはプロセスがまだある場合、強制終了オプションを指定して、インスタンスを停止してください。インスタンスが起動していない場合は、クラスタ・ソフトウェアまたはハードウェア（あるいはその両方）がインストールされ、作動していることを確認してください。スーパー・ユーザーとしてログインし、`CNXSHOW` コマンドを発行してください。クラスタのノードがすべて表示されているか？それらはクラスタのメンバーか？ノード間の通信は正常か？これらの質問に対する答えのいずれかが「いいえ」である場合、Compaq 社のカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-04931 順序番号の初期値を設定できません。

原因：SSN のコールが順序番号の初期値の設定に失敗しました。これは MC ハードウェアの問題で発生することがあります。

処置：MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能していない場合は、Compaq 社のカスタマ・サポートに連絡してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04932 順序番号の増分または調整に失敗しました。

原因：SSN のコールが順序番号の増分に失敗しました。

処置：MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能していない場合は、Compaq 社のカスタマ・サポートに連絡してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04933 初期のサービス識別子がゼロ以外です。

原因: 順序番号サービスがオープンされる前に、有効なサービス識別子が存在しました。

処置: インスタンスが完全に停止していることを確認してください。

ORA-04934 現行の順序番号を取得できません。

原因: SSN のコールが、現行の値を返すことに失敗しました。MC ハードウェアに多くのエラーが発生したか、または順序番号が無効になり確認できません。

処置: MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04935 SCN リカバリロックを取得または変換できません。

原因: プロセスが SCN リカバリ・ロックの取得または変換中にタイムアウトしました。別のプロセスが排他または共有モードでロックし、解放されていない可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04940 Oracle バイナリのサポートされない最適化を使用しました。詳細はアラート・ログを確認してください。

原因: Oracle バイナリが、サポートされていないオプションで最適化されたか、または必要なオプションが使用されていません。

処置: Oracle の最適化でサポートされている必要なフラグのリストについては、ドキュメントを確認してください。インスタンスを停止し、サポートされているオプションの組合せで、再度 Oracle を最適化してください。その後、インスタンスを再起動してください。

ORA-06000 NETASY: ポートのオープンに失敗しました

原因: 自動ログインでポートをオープンできません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06001 NETASY: ポートの設定に失敗しました

原因: 自動ログインでポートの属性を変更できません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06002 NETASY: ポートの読み込みに失敗しました

原因: 自動ログインではポートを読み込むことができません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06003 NETASY: ポートの書き込みに失敗しました

原因: 自動ログインではポートを書き込むことができません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06004 NETASY: ダイアログ・ファイルのオープンに失敗しました

原因: 自動ログインではダイアログ・ファイルをオープンできません。

処置: 接続文字列が正しいか、または誤字などがないかを確認してください。

ORA-06005 NETASY: ダイアログ・ファイルの読み込みに失敗しました

原因: 自動ログインではダイアログ・ファイルを読み込みできません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06006 NETASY: ダイアログの実行に失敗しました。

原因: 予期していた応答が受信できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06007 NETASY: ダイアログに構文エラーがあります

原因: ダイアログ・ファイルに構文エラーがあります。

処置: ダイアログ・ファイルを修正してください。

ORA-06009 NETASY: ダイアログ・ファイル名が長すぎます。

原因: ダイアログ・ファイルのファイル指定の全体の長さが 65 バイト以上です。

処置: 接続文字列を修正してください。

ORA-06010 NETASY: ダイアログ・ファイルが長すぎます。

原因: ダイアログ・ファイルの長さが 769 バイト以上です。

処置: ダイアログを簡潔にするか（たとえば、コメントや冗長な空白の削除など）、または 2 つに分割して MORE コマンドでリンクしてください。

ORA-06011 NETASY: ダイアログが長すぎます。

原因: 原因は次のいずれかです。

- ダイアログに 25 以上の交換ブロックが含まれている。
- ダイアログ送信文字列の長さが 85 バイト以上である。

処置: ダイアログを簡潔にするか、2 つに分割して MORE コマンドでリンクしてください。

ORA-06017 NETASY: メッセージの受信に失敗しました

原因: ネットワーク読み込み操作中に、非同期ドライバが I/O エラーを取得しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06018 NETASY: メッセージの送信に失敗しました

原因: ネットワーク書き込み操作中に、非同期ドライバが I/O エラーを取得しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06019 NETASY: ログイン（接続）文字列が無効です

原因: ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置: 正しい文字列で再実行してください。

ORA-06020 NETASY: 初期化に失敗しました

原因: 非同期ドライバが初期化を完了できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06021 NETASY: 接続に失敗しました。

原因: 非同期ドライバがパートナと接続できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06022 NETASY: チャネルのオープンに失敗しました

原因: 空きチャネルがありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06023 NETASY: ポートのオープンに失敗しました

原因: 非同期ドライバがポートをオープンできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06024 NETASY: VTM エラーが発生しました。

原因: Virtual Terminal Manager (VTM) でポートの読取り / 書き込みができませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06025 NETASY: 構成エラーが発生しました

原因: 生成された非同期ドライバはサーバー専用ですが、クライアント・サービスによって要求されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06026 NETASY: ポートのクローズに失敗しました

原因: 非同期ドライバでポートをクローズできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06027 NETASY: チャネルのクローズに失敗しました

原因: 非同期ドライバでチャネルをクローズできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06028 NETASY: ログに対して初期化できません。

原因: 非同期ドライバでロギング I/O に対して初期化できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06029 NETASY: ポートの割当てに失敗しました

原因: 非同期ドライバでチャネルにポートを割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06030 NETDNT: 接続に失敗しました。ノード名が認識できません

原因: ホスト文字列に指定されたノード名が不明です（綴りが誤っている可能性があります）。

処置: 正しいノード名で再試行してください。

ORA-06031 NETDNT: 接続に失敗しました。オブジェクト名が認識できません

原因: ホスト文字列に（存在しない）オブジェクトへの参照が含まれています。

`@d:node=obj => オブジェクトは ORDNobj;`

- `node` が VMS の場合、オブジェクトは ORDNobj.COM
- `node` が UNIX の場合、オブジェクトは ORDNobj

`@d:node:."task=obj" => オブジェクトは obj;`

- `node` が VMS の場合、オブジェクトは `obj.COM`
- `node` が UNIX の場合、オブジェクトは `obj`

処置: 正しいオブジェクト名で再試行するか、またはホスト・ノードに必要なオブジェクトを作成してください。

ORA-06032 NETDNT: 接続に失敗しました。アクセス制御データが拒否されました

原因: ホスト文字列に無効なユーザー名 / パスワードが含まれています。

処置: 正しいユーザー名 / パスワードで再試行してください。

ORA-06033 NETDNT: 接続に失敗しました。パートナが接続を拒否しました

原因: パートナとの接続が拒否されました。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06034 NETDNT: 接続に失敗しました。パートナが予期せず終了しました

原因: ホスト・ノードとの接続がパートナによって強制終了されました。

処置: オブジェクト（前述の ORA-06031 を参照）が作動しているか（VMS がコマンド・ファイルを実行している場合は、Oracle サーバー・プロセスが起動しているか）を確認してください。これは、ネットワーク / ノードに負荷がかかっている場合に発生することがあります。この場合、再試行が有効です。

ORA-06035 NETDNT: 接続に失敗しました。リソースが不十分です

原因: 接続を完了するにはシステム・リソースが不十分です。たとえば、DECnet チャネルがすべて使用中です。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06037 NETDNT: 接続に失敗しました。ノードが起動していません

原因: ホスト・ノードが停止しています。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06039 NETDNT: 接続に失敗しました。

原因: 予期しない理由で接続が失敗しました（OSD エラーを参照）。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06040 NETDNT: ログイン（接続）文字列が無効です

原因: ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置: 正しい文字列で再実行してください。

ORA-06041 NETDNT: 切断に失敗しました

原因: ネットワークのクローズ操作中に、ドライバがエラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06042 NETDNT: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワーク読み込み操作中に、ドライバが I/O エラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06043 NETDNT: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワーク書込み操作中に、ドライバが I/O エラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06044 NETDNT: 接続に失敗しました。バイト・カウント割当て制限を超過しました

原因: バイト・カウント割当てが十分でないため接続に失敗しました。

処置: バイト・カウント割当てを増やしてください。

ORA-06102 NETTCP: コンテキスト領域を割当てられません。

原因: 接続コンテキスト領域で使用できる動的メモリーが不十分です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06105 NETTCP: リモート・ホストが不明です。

原因: ログイン (接続) 文字列で指定されたホスト名が不明です。

処置: 綴りを調べ、その名前が TCP/IP ホスト・ファイルにあることを確認してください。

ORA-06106 NETTCP: ソケット作成に失敗しました。

原因: プロセスのオープン・ファイルの割当てを超えている可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06107 NETTCP: Oracle ネットワーク・サーバーが見つかりません。

原因: Oracle サーバーの SERVICES ファイルにエントリがありません。

処置: TCP/IP SERVICES ファイルに (ORASRV) エントリを追加してください。

ORA-06108 NETTCP: ホストへの接続に失敗しました。

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました。リモート・ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが起動されていないか、またはホスト自体が起動されていない (Telnet で確認してください) 可能性があります。

処置: リモート・ホストで、SQL*Net TCP/IP サーバー・プロセスを起動してください。

ORA-06109 NETTCP: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワークの読取り操作の試行中に I/O エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06110 NETTCP: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワークの書込み操作の試行中に I/O エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06111 NETTCP: 切断に失敗しました

原因: ソケットのクローズ中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06112 NETTCP: バッファ・サイズが無効です。

原因: ログイン文字列に指定されたバッファ・サイズが最大値（4096）を超えています。

処置: 有効なバッファ・サイズで再実行してください。

ORA-06113 NETTCP: 接続数が多すぎます。

原因: 同時にオープンする接続が最大数に達しました。

処置: 必要のないオープン接続を行っているアプリケーションを終了してください。

ORA-06114 NETTCP: SID の参照に失敗しました。

原因: リモート・ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーから、ログイン（接続）文字列に指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置: リモート・ホストの CONFIG.ORA ファイルに適切な SID エントリを追加してください（SQL*Net TCP/IP サーバーを再起動してください）。

ORA-06115 NETTCP: Oracle ロジカルを作成できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、Oracle サーバー・プロセスに必要な論理名を作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06116 NETTCP: ORASRV プロセスを作成できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06117 NETTCP: ORASRV を作成できません: 割当て制限を超過しています

原因: 割当てが不十分のため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを作成できませんでした。

処置: SQL*Net TCP/IP サーバー・プロセスへの割当てを増やしてください。

ORA-06118 NETTCP: ORASRV とのハンドシェイクを完了できません

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動されましたが、初期化を完了できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06119 NETTCP: クライアント要求が無効です。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーがこの接続要求を認識できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06120 NETTCP: ネットワーク・ドライバがロードされていません。

原因: TCP/IP ネットワーク・ドライバがロードされていません。

処置: TCP/IP ドライバが正しくロードされていることを確認してください。

ORA-06121 NETTCP: アクセスに失敗しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) のアクセス可能性をテストできませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06122 NETTCP: 設定に失敗しました

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求の処理に適した環境を設定できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06123 NETTCP: KEEPALIVE 設定ができません。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーがソケット KEEPALIVE オプションを設定できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06124 NETTCP: ORASRV を待っている間にタイムアウトしました

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、N 秒後も応答できませんでした。

処置: 負荷の高いシステムの場合によくあるエラーです。CONFIG.ORA ファイルに SQLNET ORASRV_WAIT = no_of_secs エントリを入力して、N の値 (デフォルトは 30) を増やしてください。これは、次に SQL*Net TCP/IP サーバーが起動したときに有効になります。

ORA-06125 NETTCP: ORASRV は予期せず終了しました。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、予期せず終了しました。次の原因が考えられます。

1. ORASRV を実行する割当てが不十分です。
2. Oracle がインストールされていません。詳細は、ORASRV 出力ファイルを参照してください。ファイルは ORA_SQLNET ディレクトリにあり、ORA_SrvTnn_sid.OUT 形式の名前が付いています。

処置: 適切な処置が ORASRV 出力ファイルで明らかにならない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06126 NETTCP: ORASRV はネットワーク接続をオープンできません。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、ORASRV によって渡されたソケットをオープンできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06127 NETTCP: ユーザー名を変更することはできません。

原因: クライアントのユーザー名が（ホスト・オペレーティング・システムに対して）不明のため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが PROXY LOGIN 接続を確立できませんでした。

処置: 新規のユーザー・アカウントをホストに作成してください。

ORA-06128 NETTCP: メールボックスを作成できません

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、(Oracle サーバー・プロセスとの IPC 通信に必要な) メールボックスを作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06129 NETTCP: ORASRV にソケットのオーナー権限を転送できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、Oracle サーバー・プロセスへのネットワーク通信ハンドルを転送できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06130 NETTCP: ホスト・アクセスは拒否されました

原因: ホストの CONFIG.ORA のコンポーネントである有効ノード表 (VNT) の内容によって決定されているように、クライアント・ノードはアクセス権限を持たないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーによって、この接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、ホストの VNT に適切なエントリを追加してください。

ORA-06131 NETTCP: ユーザー・アクセスは拒否されました

原因: ホストの CONFIG.ORA のコンポーネントであるユーザー名マッピング表 (UMT) の内容によって決定されているように、クライアント・ユーザー (名) はアクセス権限を持たないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーによって、この接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、ホストの UMT に適切なエントリを追加してください。

ORA-06132 NETTCP: アクセスが拒否されました。パスワードが正しくありません

原因: クライアント・パスワードがホスト・パスワードと一致しないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーによってこの接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、パスワードを一致させてください。

ORA-06133 NETTCP: ファイルが見つかりません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) を見つけることができませんでした。

処置: CONFIG.ORA の綴りを確認し、エントリを修正してください。

ORA-06134 NETTCP: ファイル・アクセス権限違反です。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) に対して READ/EXECUTE 権限を持っていませんでした。

処置: SID マッピング・ファイルの保護を変更してください。

ORA-06135 NETTCP: 接続は拒否されました : サーバーが停止しています

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが停止しているため、この接続を拒否しました。

処置: SQL*Net TCP/IP サーバーを再起動してください。

ORA-06136 NETTCP: 接続ハンドシェイク中にエラーが発生しました

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06137 NETTCP: 接続ハンドシェイク中にエラーが発生しました

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06138 NETTCP: 接続ハンドシェイク中にエラーが発生しました

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06140 NETTCP: このユーザーは登録されていません。

原因: ホストにクライアント・ユーザー名と対応するものがないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。

処置: ホストに対応するものがあるユーザーで再試行してください。

ORA-06141 NETTCP: このユーザーには権限がありません。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーがプロキシ・アカウントにアクセスするための十分な権限がないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。

処置: アカウント保護を変更し、サーバー権限を変更してください。

ORA-06142 NETTCP: ユーザー情報の取得中にエラーが発生しました。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーにプロキシ・アカウントへアクセスできないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06143 NETTCP: 最大接続数を超過しました

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーでサポートされている同時接続の最大値にすでに達しているため、接続に失敗しました。

処置:しばらく待って再試行してください。

ORA-06144 NETTCP: SID (データベース) は使用できません。

原因: ホストのデータベース管理者によって SID がオフラインに変更されました。

処置: オンラインに変更されるまで待ってください。

ORA-06145 NETTCP: ORASRV を開始できません: イメージがインストールされていません

原因: Oracle の保護イメージがインストールされていないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを起動できませんでした。

処置: イメージをインストールしてください。

ORA-06200 TWOTASK: 接続に失敗しました。メールボックスを作成できません

ORA-06201 TWOTASK: 接続に失敗しました。メールボックスへ連結できません

ORA-06202 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV プロセスを起動できません

ORA-06203 TWOTASK: 接続に失敗しました。ハンドシェイクできません

ORA-06204 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV2.COM にアクセスできません

ORA-06205 TWOTASK: 接続に失敗しました。論理名を作成できません

ORA-06206 TWOTASK: メッセージの受信に失敗しました。

ORA-06207 TWOTASK: メッセージの送信に失敗しました。

ORA-06208 TWOTASK: ログイン (接続) 文字列が無効です

ORA-06209 TWOTASK: 接続に失敗しました。メールボックスはすでに存在します

ORA-06210 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV が予期せず終了しました

ORA-06211 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV を待っている間にタイムアウトになりました

ORA-06212 TWOTASK: 接続に失敗しました。論理名の表が満杯です

ORA-06213 TWOTASK: 接続に失敗しました。

ORA-06214 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV を作成するための割当て制限が不十分です

ORA-06215 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV 保護イメージがインストールされていません

ORA-06216 TWOTASK: 接続に失敗しました。ORASRV イメージ・ファイルが見つかりません

ORA-06250 NETNTT: 送信および受信バッファを割り当てられません
原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。
処置: プログラムを実行するのに十分なメモリーがありません。他のプロセスを停止し、メモリーを解放してください。

ORA-06251 NETNTT: アドレス・ファイル名を変換できません。
原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。
処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-06252 NETNTT: アドレス・ファイルをオープンできません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、アドレス情報を含むファイルをオープンできませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06253 NETNTT: アドレス・ファイルから引数を読み込みません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、アドレス・ファイルからアドレッシング情報を読み込みませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06254 NETNTT: キューブと接続を共有できません。

原因: NTT2 タスク・ドライバがキューブと接続を共有できませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06255 NETNTT: リモート・プロセスの PID を読み込みません。

原因: NTT 通信リンクの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06256 NETNTT: リモートの FORK に失敗しました

原因: キューブの Oracle リスナー・プロセスがシャドウ・プロセスを FORK できませんでした。

処置: 接続しようとしているインスタンスに、別のシャドウ・プロセスを実行するために十分なメモリがない可能性があります。他のユーザーにログオフを依頼するか、または別のインスタンスに接続してください。

ORA-06257 NETNTT: シャドウ・プロセスにコマンドラインを送信できません

原因: NTT 通信リンクの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06258 NETNTT: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。

処置: プログラムを実行するために十分なメモリがありません。他のプロセスを停止し、メモリを解放してください。

ORA-06259 NETNTT: リモート・プロセスから読み込めません。

原因: NTT 通信リンクの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06260 NETNTT: リモート・プロセスに書き込めません。

原因: NTT 通信リンクの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06261 NETNTT: nrange() が失敗しました。

原因: 接続を確立中に nrange() のコールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06262 NETNTT: nfconn() が失敗しました。

原因: 接続を確立中に nfconn() のコールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06263 NETNTT: pi_connect でメモリーが足りません

原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。

処置: プログラムを実行するために十分なメモリーがありません。他のプロセスを停止し、メモリーを解放してください。

ORA-06264 NETNTT: データ・プロトコル・エラーが発生しました。

原因: NTT2 タスク・ドライバが予期しないメッセージ・タイプを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06265 NETNTT: ブレーク・プロトコル・エラーが発生しました

原因: NTT2 タスク・ドライバが予期しないメッセージ・タイプを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06266 NETNTT: 書き込み長が無効です

原因: NTT2 タスク・ドライバが内部一貫性チェックで失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06267 NETNTT: 状態が無効です

原因: NTT2 タスク・ドライバが内部一貫性チェックで失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06268 NETNTT: /etc/oratab を読み込みません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、/etc/oratab から構成情報を読み込みませんでした。

処置: /etc/oratab が存在し、読み込み可能であることを確認してください。ファイルのフォーマットが無効な場合にこのエラーが発生することがあります。また、ドライバのメモリーが足りない場合もこのエラーが発生します。

ORA-06300 IPA: 切断に失敗しました。

原因: サーバーからの切断中に致命的なエラーが発生しました。これは、アクセス不可なメッセージ・キューによって発生した可能性があります。

処置: メッセージ・キューがない場合、IPACTL を使用して SQL*Net IPA サーバーを再起動してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06301 IPA: ドライバ・コンテキストを割り当てられません。

原因: メモリー・プールがなくなりました。

処置: 状況を確認し、使用中のプログラムのメモリー割当てを少なくするか、または使用中の初期化パラメータ・ファイルを調整して再試行してください。

ORA-06302 IPA: リモート・ホストに接続できません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- 指定されたホストへの接続を反映するように定義された ADI サーバーがない。
- リモート・ホストがローカル・システムに認識されていない。
- リモート・ホストの Oracle カーネルが、IPA ドライバで生成されていない。

処置: 前述の原因を順次確認し、実際の原因を取り除いてください。

ORA-06303 IPA: メッセージ送信エラーが発生しました。

原因: SQL*Net IPA ドライバが、メッセージ・キューにメッセージを書き込みませんでした。

処置: メッセージ・キューが存在し、アクセス可能であることを確認してください。必要であれば、IPACTL を再実行してください。

ORA-06304 IPA: メッセージ受信エラーが発生しました

原因: SQL*Net IPA ドライバが、メッセージ・キューからメッセージを読み込みませんでした。

処置: メッセージ・キューが存在し、アクセス可能であることを確認してください。必要であれば、IPACTL を再実行してください。

ORA-06305 IPA: メッセージ型が無効です。

原因: ユーザーと Oracle 間の通信の同期がとれていません。通常、このメッセージは発行されません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06306 IPA: メッセージ書込み長にエラーがあります。

原因: IPA ドライバがキューにメッセージを書き込もうとしましたが、キューには大きすぎます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06307 IPA: 接続をリセットできません。

原因: 接続のリセット中に致命的なエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06308 IPA: これ以上の接続はできません

原因: 接続がすべて使用中です。

処置: 何人かの現行のユーザーがログオフしてから再試行してください。

ORA-06309 IPA: メッセージ・キューが使用できません。

原因: SQL*Net IPA サーバーが起動されていません。

処置: IPACTL を実行してください。

ORA-06310 IPA: 環境変数が設定されていません。

原因: 環境変数が正しく設定されていません。

処置: 確認して修正してください。

ORA-06311 IPA: サーバーの最大数に達しました

原因: サーバーの最大数に達しました。

処置: サーバーを一度停止してから、最大数を増やして再起動してください。データベース・リンクには、リンクごとに 1 つのサーバーが必要です。データベース・リンクをサポートするために十分な数のサーバーを起動してください。

ORA-06312 IPA: 送信サービス名が正しくありません

原因: 指定された送信サービス名が無効です。

処置: サービス名を調べて修正してください。

ORA-06313 IPA: 共有メモリーの初期化に失敗しました

原因: 共有メモリーが正しく設定されていません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06314 IPA: イベント設定に失敗しました

原因: 致命的なプロセス間通信エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06315 IPA: 接続文字列が無効です。

原因: 接続文字列が無効です。

処置: 確認して修正してください。

ORA-06316 IPA: データベース SID が無効です。

原因: SID がリモート側で認識されていません。

処置: データベースが存在していないか、実行されていないか、またはその SID 用に確保されているサーバーがありません。

ORA-06317 IPA: ローカル・ユーザー最大数を超過しました

原因: ローカル側で、SQL*Net IPA の同時ユーザーの最大数を超過しました。

処置: 接続が使用可能になるまで待ってください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06318 IPA: ローカルの接続最大数を超過しました

原因: ローカル側で、異なるホストに対して SQL*Net IPA が処理できる同時接続の最大数を超過しました。

処置: 接続が使用可能になるまで待ってください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06319 IPA: リモート・ユーザー最大数を超過しました

原因: リモート側で、SQL*Net IPA の同時ユーザーの最大数を超過しました。

処置: 接続が使用可能になるまで待ってください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06320 IPA: リモート接続最大数を超過しました

原因: リモート側で、異なるホストから SQL*Net IPA が処理できる同時接続の最大数を超過しました。

処置: 接続が使用可能になるまで待ってください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06321 IPA: リモート・サイトに接続できません。

原因: リモート・サーバーに接続中に、タイムアウトしました。この原因として、リモート SQL*Net IPA ソフトウェアが実行されていない可能性があります。別の原因として、リモートの開始サービス名が不適切である可能性があります。

処置: リモートの SQL*Net ソフトウェアを確認し、起動してください。正しいサービス名で起動されていることを確認してください。

ORA-06322 IPA: 共有メモリーで致命的なエラーが発生しました。

原因: 共有メモリー操作で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06323 IPA: イベント・エラーが発生しました。

原因: 致命的なプロセス間通信エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06400 NETCMN: デフォルトのホスト文字列が指定されていません。

原因: 構成にデフォルトのホスト文字列が指定されていません。また、ユーザーによって接続文字列が明示的に指定されていません。

処置: デフォルトの接続文字列を指定してシステムを再構成するか、または接続文字列を明示的に指定してください。

ORA-06401 NETCMN: ドライバの指定文字が無効です。

原因: ログイン（接続）文字列に無効なドライバ指定文字が含まれています。

処置: 文字列を修正し、再実行してください。

ORA-06402 NETCMN: ブレーク・メッセージ受信中にエラーが発生しました。

原因: ブレーク・メッセージの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06403 メモリーが割り当てられません。

原因: システムが必要な仮想メモリーを割り当てられませんでした。

処置: さらに多くのメモリーを再構成するか、負荷を減らすか、または再試行してください。

ORA-06404 NETCMN: ログイン（接続）文字列が無効です。

原因: ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置: 文字列を修正し、再実行してください。

ORA-06405 NETCMN: リセット・プロトコル・エラーが発生しました

原因: ブレーク状態からリセットできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06406 NETCMN: ブレーク・メッセージの送信中にエラーが発生しました。

原因: ブレーク・メッセージの送信中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06407 NETCMN: ブレーク処理環境が設定できません

原因: 受信のバンド外ブレーク・メッセージに対する非同期ハンドラの設定中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06408 NETCMN: メッセージ書式が正しくありません

原因: パートナからのメッセージに不正なヘッダーが含まれています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06413 接続がオープンしていません。

原因: 接続を確立できません。

処置: 診断プロシージャを使用して、問題を正確に確認してください。

ORA-06416 NETCMN: テスト時にエラーが発生しました。

原因: ネットワーク接続の I/O 状態のテスト中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06419 NETCMN: サーバーは Oracle を開始できません。

原因: リモート・サーバーが、クライアントのかわりに Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: リモート Oracle プログラムの許可が正しく設定されていることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-06420 NETCMN: SID の参照に失敗しました。

原因: リモート・ホストのサーバーで、ログイン（接続）文字列に指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置: リモート・ホストの CONFIG.ORA または ORATAB ファイルに適切な SID エントリを追加してください（リモート・サーバーの再起動が必要です）。

ORA-06421 NETCMN: 読み込みデータでエラーが検出されました。

原因: チェックサムまたは CRC の再計算中にエラーが見つかりました。

処置: 通信ノードのハードウェア障害の可能性があります。システム管理者にすぐに連絡してください。

ORA-06422 NETCMN: データの送信中にエラーが発生しました。

原因: リモート・ホストにデータを送信できませんでした。

処置: リモート・ホストに再接続し、システム管理者に連絡してください。

ORA-06423 NETCMN: データの受信中にエラーが発生しました。

原因: リモート・ホストからデータを受信できませんでした。

処置: リモート・ホストに再接続し、システム管理者に連絡してください。

ORA-06430 ssaio: シールが一致しません。

原因: 関数コールで無効な引数が使用されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06431 ssaio: ブロック番号が無効です。

原因: ファイル・ブロック番号が、ファイルの範囲内にありません。追加情報として、ブロック番号が返されます。

処置: ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。DBFSIZE を実行し、ブロック番号がその範囲にあることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06432 ssaio: バッファが割り当てられていません。

原因: I/O バッファが 2KB 境界に割り当てられていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06433 ssaio: LSEEK エラーが発生しました。要求されたブロックを検索できません。

原因: 追加情報として、ブロック番号が返されます。

処置: 返された追加情報をオペレーティング・システムの参照マニュアルで調べてください。ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06434 ssaio: 読み込みエラー。データベース・ファイルから要求されたブロックを読み込めません。

原因: 読み込みシステム・コールからエラーが返されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06435 ssaio: 書き込みエラー。データベース・ファイルに要求されたブロックを書き込めません。

原因: 書き込みシステム・コールからエラーが返されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06436 ssaio: パラメータが無効なため非同期 I/O は失敗しました。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが返されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06437 ssaio: 非同期書込みではデータベース・ファイルへ書き込めません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが返されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06438 ssaio: 非同期読込みではデータベース・ファイルから読み込めません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが返されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06439 ssaio: 非同期書込みが返したバイト数が正しくありません

原因: この書込みコールは切り捨てられています。追加情報として、ブロック番号とバイト数が返されます。

処置: 書き込まれたブロック番号とバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06440 ssaio: 非同期読込みが返したバイト数が正しくありません

原因: この読込みコールは切り捨てられています。追加情報として、ブロック番号とバイト数が返されます。

処置: 読み込まれたブロック番号およびバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06441 ssvwatev: 関数コールへ渡されたパラメータが正しくありません

原因: Oracle プロセス ID、待機時間またはイベント ID のいずれかが無効です。

処置: 追加情報として、プロセス ID、時間、イベント ID が示されます。

ORA-06442 ssvwatev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06443 ssvpstev: 関数コールへ渡されたパラメータが正しくありません

原因: このルーチンに無効なイベント ID が渡されました。

処置: 追加情報として、イベント ID が示されます。

ORA-06444 ssvpstev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06445 ssvpstevrg: 関数コールへ渡されたパラメータが正しくありません

原因: イベント ID が無効か、または低および高イベント ID が存在しません。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。また、イベント ID、低位限界および高位限界が示されます。

ORA-06446 ssvpstevrg: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06447 ssvpstp: 関数コールへ渡されたパラメータが正しくありません

原因: このルーチンに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。

処置: 追加情報として、プロセス ID が示されます。

ORA-06448 ssvpstp: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: システムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。返された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06449 I/O リストまたは SYSVENDOR がインストールされていません。

原因: Oracle は SYSVENDOR インタフェース (INIT.ORA パラメータ USE_SYSVENDOR=TRUE) を使用しようとしたますが、UNIX カーネルにリンクされた Oracle SYSVENDOR インタフェースがありません。

処置: このインタフェースを使用しない場合、または Oracle が使用できるようにこのインタフェースと UNIX カーネルをリンクしない場合は、INIT.ORA に USE_SYSVENDOR=FALSE を設定してください。

ORA-06500 PL/SQL: 記憶域エラーが発生しました

原因: これは出力されない内部エラー・メッセージです。メモリーを使い果たしたか、または破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06501 PL/SQL: プログラム・エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。PL/SQL プログラムでエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06502 PL/SQL: 数値または値のエラー *string* が発生しました

原因: 算術、数値、文字列、変換または制約エラーが発生しました。たとえば、NULL 値を NOT NULL で宣言した変数に割り当てようとした場合、または 100 以上の整数を NUMBER(2) で宣言した変数に割り当てようとした場合にこのエラーが発生します。

処置: 値が制約違反をしないように、データ、操作方法または宣言方法を変更してください。

ORA-06503 PL/SQL: ファンクションが値なしで返されました。

原因: PL/SQL ファンクションをコールしましたが、RETURN 文が実行されませんでした。

処置: 適当な型の値が返されるように PL/SQL ファンクションを書きなおしてください。

ORA-06504 PL/SQL: Result Set 変数、または問合せの戻り型が一致しません

原因: 問合せの列の数または型（あるいはその両方）が、Result Set 変数の宣言されている戻り型と一致していないか、2つの Result Set 変数の宣言されている型が一致していません。

処置: プログラムの文または宣言を変更してください。変数が実行中に実際に参照している問合せを確認してください。

ORA-06505 PL/SQL: 変数には、連続メモリーが 32767 バイト以上必要です。

原因: 32768 バイト以上のメモリーを必要とする制約付きの PL/SQL 変数が宣言されました。現行の PL/SQL では、32768 バイト以上の連続メモリーの割当てをサポートしていません。

処置: 変数宣言の制約を減らしてください。それが不可能な場合は、データベースまたは各国語キャラクタ・セットを、同じ制約に対して小さいメモリー以外必要としないように変更してください。

注意: キャラクタ・セットを変更すると、すべての PL/SQL の実行に影響を与えます。

ORA-06508 PL/SQL: コールしているプログラム単位が見つかりませんでした

原因: 見つけられないストアド・プログラムをコールしようとしていました。そのプログラムは削除されているか、変更されて互換性がなくなっているか、またはコンパイルされてエラーが発生している可能性があります。

処置: パッケージ本体など参照されているすべてのプログラムが存在し、互換性があるかどうかを確認してください。

ORA-06509 PL/SQL: このパッケージに対して ICD ベクトルがありません。

原因: Oracle 製品に付属のパッケージと実行可能製品とで、バージョンが競合しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06510 PL/SQL: ユーザー定義の例外が発生しましたが、処理されませんでした

原因: ユーザー定義の例外が PL/SQL によって発生しましたが、処理されませんでした。

処置: 例外の原因となった問題を修正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、アプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06511 PL/SQL: カーソルはすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしているカーソルをオープンしようとした。

処置: 再オープンする前に、カーソルをクローズしてください。

ORA-06512 string 行 string

原因: 通常、これはメッセージ・スタックの最後で、PL/SQL コードのどこで問題が発生したかを示します。

処置: 例外の原因となった問題を修正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、アプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06513 PL/SQL: PL/SQL 表の索引がホスト言語配列の有効範囲内にありません。

原因: PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーしようとした。しかし、表の索引が 0 以下またはホスト言語配列の最大サイズを超えています。PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーする場合、索引 1 の表項目が配列の最初の要素に置かれ、索引 2 の項目が配列の 2 番目の要素に置かれます。表項目が割り当てられてない場合、ホスト言語配列の対応する要素は NULL に設定されます。

処置: ホスト言語配列のサイズを大きくするか、または PL/SQL 表のサイズを小さくしてください。また、0 以上の索引値を使用していないことも確認してください。

ORA-06514 PL/SQL: サーバーはリモート・コールを処理できません。

原因: リモート・コールに、カーソルの変数である複数のパラメータがあります。これは、このサーバーのストアード・プロシージャでは処理できません。

処置: このサーバーのストアード・プロシージャに対するパラメータとしてカーソル変数を使用しないようにするか、またはこれをサポートするバージョンにサーバーをアップグレードしてください。

ORA-06515 PL/SQL: 例外 string が発生しましたが、処理されませんでした

原因: PL/SQL コードによって例外が発生しましたが、処理されませんでした。例外番号は、Oracle エラーの有効範囲外です。

処置: 例外の原因となった問題を修正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、アプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06516 PL/SQL: プローブ・パッケージが存在しないか、または無効です

原因: プローブ・パッケージがロードされていないか、無効になってしまったことが原因で、PL/SQL をデバッグするために Oracle Server を初期化しようとするプローブ操作が完了しなかった可能性があります。

処置: DBA は、プローブ・パッケージをロードする必要があります。RDBMS で提供されている PBLOAD.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-06517 PL/SQL: プローブ・エラー - *string*

原因: 実行用にプローブ操作をサーバーへ渡しているときにエラーが発生しました。

処置: 組み込まれたエラー・メッセージのエントリを参照してください。

ORA-06518 PL/SQL: プローブ・バージョン *string* はバージョン *string* と互換性がありません

原因: プローブの現行バージョンは、Oracle Server 上のバージョンと互換性がありません。

処置: ドキュメントを参照して、このレベルの互換性がサポートされていることを確認してください。

ORA-06519 アクティブな自律型トランザクションが検出され、ロールバックされました

原因: 自律型 PL/SQL ブロックから返される前に、ブロック内で開始したすべての自律型トランザクションを完了（コミットまたはロールバック）する必要があります。そうしない場合は、アクティブな自律型トランザクションが暗黙的にロールバックされ、このエラーが発生します。

処置: 自律型 PL/SQL ブロックから返される前に、アクティブな自律型トランザクションが明示的にコミットまたはロールバックされることを確認してください。

ORA-06520 PL/SQL: 外部ライブラリのロード中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL で外部ライブラリを動的ロード中にエラーが検出されました。

処置: その他にエラーがある場合は、そのメッセージを参照して詳細を確認してください。

ORA-06521 PL/SQL: 関数のマップ中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL で示された関数を動的にマップしているときにエラーが検出されました。

処置: その他にエラーがある場合は、そのメッセージを参照して詳細を確認してください。

ORA-06522 *string*

原因: ORA-06520 または ORA-06521 後に、システム固有のエラー文字列を伴うメッセージを表示する場合があります。

処置: このエラー文字列は、ORA-06520 または ORA-06521 のエラーの原因を示しています。

ORA-06523 引数が最大値を超過しました

原因: 外部ファンクションに渡す引数の数には上限があります。

処置: ポート固有のドキュメントを参照して、上限の計算方法を確認してください。

ORA-06524 サポートされていないオプション: *string*

原因: 指定されたオプションは、外部プロシージャ用にはサポートされていない機能です。

処置: 外部指定の構文を修正してください。

ORA-06525 CHAR または RAW データの長さが一致しません。

原因: 長さ変数で指定された長さは、正しい値ではありません。対応する長さ変数のない RAW として PL/SQL の INOUT、OUT または RETURN RAW 変数を渡すように、要求した可能性があります。長さ変数に設定した長さの値が、ORLVSTR または ORLRAW の長さと一致しない場合も、このエラーが発生します。

処置: 外部プロシージャ・コードを修正して、長さ変数を正しく設定してください。

ORA-06526 PL/SQL ライブラリをロードできません。

原因: EXTERNAL 構文で参照されているライブラリを PL/SQL でインスタンス化できません。これは、重大なエラーです。通常は発生しません。

処置: この問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06527 外部プロシージャ SQLLIB エラー: *string*

原因: Pro* 外部プロシージャの実行中、SQLLIB でエラーが発生しました。

処置: メッセージ・テキストに、実際に発生した SQLLIB エラーが示されています。

ORA-06528 PL/SQL プロファイラの実行でエラーが発生しました。

原因: PL/SQL プロファイラ・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

処置: 詳細はその他のエラーを確認してください。

ORA-06529 バージョンの不一致 - PL/SQL プロファイラ

原因: PL/SQL プロファイラ・パッケージ (DBMSPB.SQL、PRVTPBP.PLB) が、プロファイラを実装しているサーバーのコードのバージョンと一致していません。

処置: \$ORACLE_HOME/rdbms/admin にある PROFLOAD.SQL パッケージを実行して、正しいバージョンの PL/SQL プロファイラ・パッケージをロードしてください。

ORA-06530 参照しているコンポジットは初期化されていません。

原因: 初期化されていないオブジェクト、LOB またはその他のコンポジットを間接的に参照しました。

処置: 適切なコンストラクタを使用するかまたはオブジェクト全体を割り当てて、コンポジットを初期化してください。

ORA-06531 参照しているコレクションは初期化されていません。

原因: (初期化されたコレクションが必要な場合に) コレクションを初期化せずに、ネストした表または VARRAY の要素またはメンバー・ファンクションを参照しました。

処置: 適切なコンストラクタを使用するかまたはオブジェクト全体を割り当てて、コレクションを初期化してください。

ORA-06532 サブスクリプトが有効範囲外です。

原因: サブスクリプトが VARRAY の制限を超えています。あるいは、VARRAY またはネストした表に対して正の値ではありません。

処置: プログラムのロジックを確認して、必要があれば VARRAY の制限を上げてください。

ORA-06533 サブスクリプトがカウントを超過しています

原因: インリミット・サブスクリプトが VARRAY のカウントを超えています。または、ネストした表に対して大きすぎます。

処置: プログラムのロジックを確認して、必要があれば明示的に拡張してください。

ORA-06534 トリガーのコンテキストでは逐次再使用可能パッケージ *string* にアクセスできません。

原因: トリガー・コンテキストで、逐次再使用可能パッケージにアクセスしようとした。このようなアクセスは、現在サポートされていません。

処置: プログラム・ロジックを調べて、トリガー・コンテキストにある逐次再使用可能パッケージ (プロシージャ、ファンクションまたは変数参照) に対する参照を削除してください。

ORA-06535 *string* で文の文字列が NULL または長さが 0 です。

原因: プログラムが、NULL または 0 の長さの動的文の文字列を使用しようとした。

処置: プログラム・ロジックを調べて、動的文の文字列が正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-06536 IN バインド変数が OUT の位置にバインドされました。

原因: プログラムが、その位置には OUT バインド変数が想定される文に IN バインド変数をバインドしようとした。

処置: OUT または IN OUT バインド・モードが、バインド引数に指定されていることを確認してください。

ORA-06537 OUT バインド変数が IN の位置にバインドされました。

原因: プログラムが、その位置には IN バインド変数が想定される文に OUT バインド変数をバインドしようとした。

処置: IN または IN OUT バインド・モードが、バインド引数に指定されていることを確認してください。

ORA-06538 文が *string*RESTRICT_REFERENCES プラグマに違反しています。

原因：プログラムが、文を実行するモジュールに対して（プラグマ RESTRICT_REFERENCES ディレクティブで）指定された純正レベルを満たしていない動的文を実行しようとした。

処置：動的文が、文を実行するモジュールに対して指定された純正レベルを満たしていることを確認してください。

ORA-06539 OPEN のターゲットは問合せである必要があります

原因：プログラムが、問合せでない動的文で OPEN カーソル操作を実行しようとした。

処置：カーソルの OPEN 操作が動的問合せ文で実行されていることを確認してください。

ORA-06540 PL/SQL: コンパイル・エラーが発生しました

原因：PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。ただし、通常、このメッセージは表示されません。また、このメッセージに付随して PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

処置：付随する PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06541 PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中断されました

原因：PL/SQL コンパイル・エラーが発生したため、コンパイルが異常終了しましたが、このコンパイル単位は、バックアップ格納域に書き込まれています。ただし、ORA-06545 とは異なり、通常このエラー・メッセージは表示されません。また、このメッセージに付随して PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

処置：付随する PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06544 PL/SQL: 内部エラーです。引数: [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string]

原因：PL/SQL 内部エラーが発生しました。

処置：このエラーをバグとして報告してください。最初の引数は内部エラー番号です。

ORA-06545 PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中断されました

原因：PL/SQL コンパイル・エラーが発生したため、コンパイルが異常終了しました。このコンパイル単位は、バックアップ格納域に書き込まれていません。ORA-06541 の場合とは異なり、このエラー・メッセージはよく表示されます。また、このメッセージに付随して PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

処置：付随する PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06546 不正なコンテキストで DDL 文が実行されました。

原因: 不正な PL/SQL コンテキストで DDL 文が動的に実行されました。

- PL/SQL で DDL の動的 OPEN カーソル。
- DDL の EXECUTE IMMEDIATE の実行で、USING 句にバインド変数が使用された。
- DDL の EXECUTE IMMEDIATE の実行で、INTO 句に事前定義変数が使用された。

処置: DDL 文の実行には、USING 句および INTO 句を含まない EXECUTE IMMEDIATE を使用してください。

ORA-06547 RETURNING 句は、INSERT、UPDATE または DELETE 文で使⽤します。

原因: RETURNING 句を含む EXECUTE IMMEDIATE は、動的 UPDATE、INSERT または DELETE 文を実行する場合にのみ使⽤します。

処置: EXECUTE IMMEDIATE の RETURNING 句は、INSERT、UPDATE または DELETE 文でのみ使⽤してください。その他の文については、USING 句を⽤して⼢してください。

ORA-06548 行はこれ以上必要ありません。

原因: パイプライン関数のコール側は、これ以上、パイプライン関数によって生成される行を必要としません。

処置: 例外処理ブロックで、NO_DATA_NEEDED 例外をキャッチしてください。

ORA-06549 PL/SQL: 共有オブジェクト (DLL) :string の動的オープンに失敗しました

原因: 同時にオープンしている DDL が多すぎることが原因である可能性があります。

ORA-06550 行 string、列 string:string

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。行と列に対して示された数値は、PL/SQL ブロック内においてエラーが発生した位置です。

処置: エラーについての情報は、次の PL/SQL メッセージを参照してください。

ORA-06551 PL/SQL: 例外は処理されませんでした。

ORA-06552 PL/SQL: string

ORA-06553 PLS-string: string

ORA-06554 PL/SQL を使用する前にパッケージ DBMS_STANDARD を作成する必要があります

原因: PL/SQL のパッケージ STANDARD に対する DBMS 固有の拡張機能が、パッケージ DBMS_STANDARD にあります。このパッケージは、PL/SQL を使用する前に作成する必要があります。

処置: パッケージ DBMS_STANDARD を作成してください。この PL/SQL ストアド・パッケージは、配布時に提供されます。

ORA-06555 この名前は現在ユーザー SYS によって予約されています。

原因： STANDARD、DBMS_STANDARD または DEBUG_IO という名前のパッケージを作成しようとしてしました。現在、これらはユーザー SYS によって予約されています。

処置： パッケージに別の名前を指定してください。

ORA-06556 パイプが空です。UNPACK_MESSAGE 要求を実行できません。

原因： パイプには項目が 1 つもありません。

処置： 送信側と受信側でパイプの項目の数と型の同期がとれているかを確認してください。

ORA-06557 ICD をパイプするパラメータには NULL 値を使用できません

原因： DBMS_PIPE パッケージの内部エラーです。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06558 DBMS_PIPE パッケージのバッファがいっぱいです。これ以上の項目は使用できません。

原因： パイプ・バッファ・サイズが限界です。

処置： プログラムを検査して、パイプへの入出力の比率を分析してください。
RECEIVE_MESSAGE を実行してパイプから項目を取り出すか、またはそのパイプに対して PURGE を実行してパイプ全体を空にする必要があります。

ORA-06559 要求されたデータ型 *string* が無効です。実際のデータ型は *string* です。

原因： 送信側が、要求されたデータ型（パッケージ DBMS_PIPE）とは異なるデータ型をパイプ上に置きました。数値は次のとおりです。

- 6 - number
- 9 - char
- 12 - date

処置： 送信側と受信側でパイプの項目の数と型の同期がとれているかを確認してください。

ORA-06560 pos、*string* は、負数またはバッファ・サイズ *string* よりも大きい値です

原因： DBMS_PIPE パッケージの内部エラーです。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06561 パッケージ DBMS_SQL ではこの文はサポートされていません。

原因： パッケージ DBMS_SQL で提供されているプロシージャ PARSE を使用して、サポートされていない文を解析しようとしてしました。

処置： サポートされているのは、SELECT、DELETE、INSERT、UPDATE、LOCK、BEGIN、DECLARE または << (PL/SQL ラベル・デリミタ) で始まる文のみです。

ORA-06562 外部の引数の型が列またはバインド変数の型に一致しません。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールして、列またはバインド変数の値を取得しようとした。ただし、指定された外部引数の型が、DBMS_SQL パッケージの DEFINE_COLUMN プロシージャ（列定義の場合）、または BIND_VARIABLE プロシージャ（バインド変数をバインドする場合）をコールして、以前に定義した列またはバインド変数の型と異なっていました。

処置：プロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールする場合に、正しい型の OUT 引数を渡してください。この場合の正しい型とは、列の定義またはバインド変数のバインド時に指定した型のことです。

ORA-06563 最上位レベルのプロシージャ / ファンクションを指定しましたが、2 次的な部分は指定できません。

原因：解決する名前に 3 つの部分 a、b、c を指定しましたが、a と b の部分はネストしたプロシージャを持たない最上位レベルのプロシージャまたはファンクションに解決されました。これは、最上位レベルのパッケージまたはプロシージャに対するシノニムである 2 パート名 a.b の場合も発生します。

処置：パッケージ、または最上位レベルのプロシージャ / ファンクション内でプロシージャ / ファンクションを指定してください。

ORA-06564 オブジェクト *string* は存在しません。

原因：指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。存在していないか、アクセス権がない可能性があります。

処置：オブジェクトを作成するか、オブジェクトへのアクセス権を取得してください。

ORA-06565 ストアド・プロシージャ内から *string* は実行できません。

原因：指定されたプロシージャを、ストアド・プロシージャ、ファンクションまたはパッケージの内部から実行することができません。このファンクションは、PL/SQL の無名ブロックからのみ使用できます。

処置：コールするストアド・プロシージャからプロシージャを削除してください。

ORA-06566 指定された行数が無効です。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ DEFINE_COLUMN に対するコールに指定された行数が、無効でした。指定カーソルに指定されている解析文の場合、すべての列に同じ行数を定義するので、DEFINE_COLUMN に対するすべてのコールに同じ行数を指定する必要があります。

処置：前に定義された列と同じ数を指定してください。

ORA-06567 指定された値の数が無効です

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ BIND_VARIABLE に対するコールに指定されたバインド値の数が無効でした。指定カーソルに指定されている解析文の場合、すべてのバインド変数に同じ数の値をバインドする必要があります。そのため、EXECUTE を実行する場合、BIND_VARIABLE に対する前回のコールで、すべてのバインド変数に同じ数の値が指定されている必要があります。

処置：すべてのバインド変数に同じ数の値がバインドされているかどうかを確認してください。

ORA-06568 廃止になった ICD プロシージャがコールされました。

原因：PL/SQL プログラムによってコールされた ICD プロシージャは廃止されました。この PL/SQL プログラムは、旧リリースの RDBMS 用である可能性があります。

処置：すべての PL/SQL プログラムが、最新のリリースの RDBMS にアップグレードされているかどうかを確認してください。README ファイルのアップグレード指示に従うか、または RDBMS で提供されている CATPROC.SQL を実行すると確認できます。

ORA-06569 BIND_ARRAY で結合されたコレクションに要素がありません。

原因：要素が 0 個のコレクションが、パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ BIND_ARRAY に対するコールでバインド変数にバインドされました。コレクションのバインドを実行するためには、コレクションに 1 つ以上の要素が含まれている必要があります。実行時に要素が 1 つもないと値がバインドされず、文を実行する意味がありません。

処置：バインドする要素をコレクションに入れて、バインド・コールを再試行してください。

ORA-06570 共有プール・オブジェクトが存在しないため、確保できません

原因：指定された共有プールの共有カーソルが見つかりません。このため、確保できません。

処置：正しい共有カーソル名が指定されているかどうかを確認してください。名前の文字列書式は「HHHHHHHHH,SDDDDDDDDD」で、この場合、H は V\$SQLAREA の「address」列の 8 桁の 16 進数、D は「HASH_VALUE」列の 1 ～ 10 桁の 10 進数（オブションの先行符号付き）を表しています。コールするストアード・プロシージャからプロシージャを削除してください。

ORA-06571 ファンクション *string* が、データベースを更新しないという保証はありません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- SQL 文が、データベースが更新されないようにするプラグマが含まれていないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照しています。
- SQL 文が、データベースを更新する指示が含まれているスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照しています。

処置: 参照されたファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、必要なプラグマで PL/SQL ファンクションを再作成し、プラグマの引数リストに「Write No Database State」(WNDS) 引数を指定してください。参照されたファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合は、そのファンクションを使用しないでください。

ORA-06572 関数 *string* に出力引数が指定されています

原因: SQL 文が、引数リストに OUT パラメータが含まれているパッケージ化された PL/SQL ファンクションまたはスタンドアロン PL/SQL ファンクションのどちらかを参照しています。SQL 文によって参照される PL/SQL ファンクションには、OUT パラメータが含まれてはいけません。

処置: 引数リストで OUT パラメータを使用せずに、PL/SQL ファンクションを再作成してください。

ORA-06573 ファンクション *string* はパッケージ状態を変更するので、ここでは使用できません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- SQL 文が、「Write no Package State」(WNPS) が指定されたプラグマを含んでいないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照しています。
- SQL 文が、パッケージ状態を変更するスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照しています。SQL 文によって参照されるスタンドアロン PL/SQL ファンクションは、パッケージ状態を変更できません。

処置: ファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、ファンクションを再作成して、「Write no Package State」(WNPS) を含むプラグマを追加してください。ファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合は、SQL 文からそのファンクションを削除してください。

ORA-06574 ファンクション *string* はパッケージ状態を参照するので、リモートで実行できません。

原因：原因は次のいずれかです。

- 「Write no Package State」(WNPS) 引数および「Read no Package State」(RNPS) 引数を持つプラグマを含んでいないリモートのパッケージ化されたファンクション、またはリモート・マップされたローカルのパッケージ化されたファンクションが、パッケージ状態を参照します。
- リモートのスタンドアロン・ファンクションまたはリモート・マップされたローカルのスタンドアロン・ファンクションに、パッケージ変数を読み取り / 書き込みするパッケージ状態への参照が含まれています。SELECT リスト、INSERT 文の VALUES 句または UPDATE 文の SET 句で参照されるローカル・ファンクションのみがパッケージ状態を変更できます。

処置：ファンクションがパッケージ化されたファンクションの場合は、ファンクションを再作成して、「Write no Package State」(WNPS) および「Read no Package State」(RNPS) 引数を含むプラグマを追加してください。ファンクションがスタンドアロン・ファンクションの場合は、このファンクションをコールしないでください。

ORA-06575 パッケージまたはファンクション *string* は無効な状態です。

原因：SQL 文が、無効な状態になっている PL/SQL ファンクションを参照しています。Oracle がファンクションをコンパイルしようとしたますが、エラーを検出しました。

処置：SQL 文および PL/SQL ファンクションに構文エラーがないかどうか、参照されているオブジェクトに権限が正しく割り当てられているか、または権限が欠落していないかを確認してください。

ORA-06576 ファンクション名またはプロシージャ名が無効です。

原因：コールするファンクション (INTO 句が存在する場合) またはプロシージャ (文に INTO 句がない場合) が見つかりません。

処置：文を変更して、ファンクションまたはプロシージャを起動してください。

ORA-06577 出力パラメータがバインド変数ではありません。

原因：ファンクションまたはプロシージャの IN/OUT または OUT パラメータに対応する引数、あるいは CALL 文のファンクションの戻り値は、バインド変数である必要があります。

処置：引数をバインド変数に変更してください。

ORA-06578 出力パラメータのバインド変数が重複しています。

原因：ファンクションまたはプロシージャの IN/OUT または OUT パラメータに対応するバインド変数、あるいは CALL 文のファンクションの戻り値は、重複するバインド変数であってははいけません。

処置：バインド変数が一意になるように変更してください。

ORA-06580 メモリー内に大きな行を保持中にハッシュ結合でメモリーがなくなりました。

原因: ハッシュ結合で1つの行に対してスロットを3つ（それぞれのスロットのサイズ = DB_BLOCK_SIZE × HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT）確保していました。行がそれぞれのスロット・サイズより大きい場合に、このエラーが発生します。

処置: 結合された行がスロットに入るように、HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT を増やしてください。HASH_AREA_SIZE も増やす必要があります。

ORA-06592 CASE 文の実行中に CASE が見つかりません

原因: CASE 文には、すべてのケースを記述するか、または ELSE 句が1つ必要です。

処置: 不足しているケースを追加するか、または ELSE 句を追加してください。

ORA-06600 LU6.2 Driver: SNA ソフトウェアがロードされていません

原因: SNA ソフトウェアが実行されていません。

処置: SNA ソフトウェアを起動し、再試行してください。

ORA-06601 LU6.2 Driver: データベース ID 文字列が無効です

原因: データベース接続文字列が無効です。

処置: ドキュメントに定義されているように、有効なデータベース文字列を指定してください。

ORA-06602 LU6.2 Driver: コンテキスト領域の割当てでエラーが発生しました

原因: コンテキスト領域障害です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06603 LU6.2 Driver: メモリー割当てでエラーが発生しました

原因: オペレーティング・システムがメモリーに対する要求を拒否しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06604 LU6.2 Driver: リモート LU にセッションを割り当てられません

原因: システム・コールの割当てに失敗しました。

処置: SNA ソフトウェアが実行され、セッションが解放されていることを確認してください。このような場合は、SNA 構成データのエラーを確認してください。無効なパラメータを入力した可能性があります。

ORA-06605 LU6.2 Driver: 予期しない行が返されました

原因: SNA ソフトウェアが、送信から受信へ予期せずに切替えを行いました。

処置: SNA 構成データ、特にセッションに関連したパラメータを確認してください。

ORA-06606 LU6.2 Driver: SNA から予期しない応答がありました

原因: SNA コールのパラメータが予期しない値を返しました。

処置: 問題を再現させて、エラー時のデータ・パラメータの値をデバッグして記録してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06607 LU6.2 Driver: 送信状態でリセットされました

原因: 送信状態でリセットが発行されました。

処置: 必要に応じて、詳細を SNA LOG データで確認してください。

ORA-06608 LU6.2 Driver: 受信状態でリセットされました

原因: 受信状態でパートナーからのリセットが受信されました。パートナーが割当て解除された可能性があります。

処置: 必要に応じて、詳細を SNA LOG データで確認してください。

ORA-06610 LU6.2 Driver: 割当て解除中に失敗しました

原因: LU6.2 ドライバが正しく割当て解除されませんでした。

処置: 割当て解除の理由を確認してください。SNA LOG データを調べてください。

ORA-06611 LU6.2 Driver: 送信要求でエラーが発生しました

ORA-06612 LU6.2 Driver: データの送信でエラーが発生しました

ORA-06613 LU6.2 Driver: 受信および待機でエラーが発生しました

ORA-06614 LU6.2 Driver: 即時受信の実行でエラーが発生しました

ORA-06615 LU6.2 Driver: 送信エラーが発生しました

ORA-06616 LU6.2 Driver: LU への連結に失敗しました

原因: SQL*Net LU6.2 ドライバが、接続文字列に指定された LU に連結できないか、またはデフォルトの LU に連結できませんでした。

処置: 接続文字列に指定された LU 名、またはデフォルトの LU 名が（指定されていない場合）、正しく構成され、操作可能であることを確認してください。

ORA-06617 LU6.2 Driver: PU の連結に失敗しました

ORA-06618 LU6.2 Driver: サブネットワークをアクティブにできませんでした

ORA-06619 LU6.2 Driver: リモート・パートナーをアクティブにできません

ORA-06620 LU6.2 Driver: リモート・パートナーが無効です

ORA-06621 LU6.2 Driver: 割当てエラーが発生しました

ORA-06622 LU6.2 Driver: SNA に連結できません

原因: SQL*Net LU6.2 ドライバが、マシンの SNA ソフトウェアに連結できませんでした。SNA ソフトウェアが操作可能でない可能性があります。

処置: SNA ソフトウェアの状態を調べ、操作可能であることを確認し、再実行してください。

ORA-06700 TLI Driver: ホストからのメッセージ型が無効です

原因: TLI が認識不可なメッセージ型のメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06701 TLI Driver: 書き込まれたバイト数が正しくありません

原因: TLI が明らかに成功のメッセージを送信しましたが、送信されたバイト数とドライバに提供されたバイト数が一致しませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06702 TLI Driver: コンテキスト領域を割り当てられません

原因: TLI がコンテキスト領域のヒープ領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06703 TLI Driver: ブレーク・メッセージの送信に失敗しました

原因: TLI が接続間のブレーク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06704 TLI Driver: ブレーク・メッセージの受信に失敗しました

原因: TLI が予期していたブレーク・メッセージの受信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06705 TLI Driver: リモート・ノードが不明です

原因: TLI が使用中のリモート・ホスト情報を見つけることができませんでした。

処置: ホスト名をコマンドラインに正しく指定していることを確認してください。(ホスト名の太文字 / 小文字の区別および綴りも確認してください。)

ORA-06706 TLI Driver: サービスが見つかりません

原因: TLI が指定されたサービス名に対するサービス情報を見つけることができませんでした。

処置: コマンドラインまたは環境変数 `TLI_SERVER` でサービス名を指定した場合、正しく指定されていることを確認してください。サービス名がプロトコルの `SERVICES` ファイルにない場合、システム管理者に追加を依頼してください。

ORA-06707 TLI Driver: 接続に失敗しました

原因: リモート・サーバーが検出したエラーによって、TLI が SQL*Net TCP/IP サーバーへの接続の確立に失敗しました。このため、リモート・エラーを示す文字列が表示されます。

処置: 固有の原因および処置については、『SQL*Net TCP/IP ユーザーズ・ガイド』または『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-06708 TLI Driver: メッセージの受信に失敗しました

原因: TLI が通信チャネルからのメッセージの受信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06709 TLI Driver: メッセージの送信に失敗しました

原因: TLI が通信チャネル間のメッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06710 TLI Driver: 割込みブレイク・メッセージの送信に失敗しました

原因: TLI がユーザーからの割込みシグナルの処理中、ブレイク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06711 TLI Driver: バインド中にエラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルへのネットワーク・アドレスの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06712 TLI Driver: アクセプト中にエラーが発生しました。

原因: TLI がクライアントからの通信要求のアクセプトに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06713 TLI Driver: 接続でエラーが発生しました

原因: TLI がリモート・サーバーへのクライアントの接続に失敗しました。リモート・ホストへのネットワーク回線が切断されている可能性があります。

処置: 他のネットワーク・ログイン・プログラムを使用し、リモート・ホストにアクセス可能であることを確認してください。

ORA-06720 TLI Driver: SID の参照に失敗しました

原因: データベース・ログイン文字列で提供されたデータベース SID が、リモート・ホストで認識できませんでした。

処置: システム管理者に依頼して、リモート・ホストの ORATAB に適切な SID を追加してください。

ORA-06721 TLI Driver: クライアント要求が無効です

原因: リモート TLI サーバーが未定義要求を受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06722 TLI Driver: 接続の設定に失敗しました

原因: リモート TLI サーバーが接続要求を拒否しました。また、クライアントは、エラー・コードまたはメッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06730 TLI Driver: クローン・デバイスをオープンできません

原因: TLI が転送プロバイダに対応付けられたストリーム・クローン・デバイスのオープンに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06731 TLI Driver: t_call を割り当てられません。

原因: TLI がクライアントの接続情報に対して領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06732 TLI Driver: t_discon を割り当てられません。

原因: TLI がクライアントの切断情報に対して領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06733 TLI Driver: 切断メッセージの受信に失敗しました

原因: TLI が接続の切断中に想定される切断メッセージの受信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06734 TLI Driver: 接続できません

原因: TLI がリモート・サーバーへのクライアントの接続に失敗しました。

処置: リモート TLI サーバーが実行されていることを確認してください。

ORA-06735 TLI Driver: クライアントはエラー受信後の接続のクローズに失敗しました

原因: TLI がエラーを受信した後に接続を正しくクローズすることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06736 TLI Driver: サーバーは稼働していません

原因: TLI がリモート TLI サーバーへの接続試行中にタイムアウトしました。

処置: リモート TLI サーバーが、使用している転送プロバイダに対する状態ユーティリティで実行されていることを確認してください。そうでない場合は、システム管理者に依頼して起動してください。

ORA-06737 TLI Driver: 接続に失敗しました

原因: TLI がリモート TLI サーバーへの接続を確立できませんでした。

処置: リモート TLI サーバーが、使用している転送プロバイダに対する状態ユーティリティで実行されていることを確認してください。

ORA-06741 TLI Driver: プロトコル・デバイスをオープンできません

原因: TLI サーバーが転送プロバイダと対応付けられたストリーム・デバイスのオープンに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06742 TLI Driver: t_bind を割り当てられません

原因: TLI が要求されたネットワークのアドレスに領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06743 TLI Driver: t_bind を割り当てられません

原因: TLI サーバーが実際のネットワーク・アドレスに領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06744 TLI Driver: リスナーはバインドできません

原因: TLI サーバーが接続をリスニングする正しいネットワーク・アドレスの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06745 TLI Driver: リスナーはすでに稼働しています

原因: TLI サーバーが接続要求を待つネットワーク・アドレスが使用中です。サーバーがすでに実行されている可能性があります。

処置: TLI サーバーが実行されていないことを確認してください。サーバーが実行中でもないにもかかわらずこのエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06746 TLI Driver: t_call を割り当てられません

原因: TLI が TLI サーバーの接続情報に対する領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06747 TLI Driver: リスナー実行中にエラーが発生しました

原因: TLI サーバーが、接続要求のリスニング中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06748 TLI Driver: t_discon を割り当てられません

原因: TLI が TLI サーバーの切断情報に対する領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06749 TLI Driver: オプションはネットワークを介して使用できません

原因: 要求された TLI サーバー・コマンドは、サーバーが実行されている同じホストから発行される必要があります。

処置: リモート・ホストにログインし、再試行してください。

ORA-06750 TLI Driver: 同期化に失敗しました

原因: TLI サーバーによって起動された Oracle プロセスが、継承する接続を同期化できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06751 TLI Driver: バインドされたアドレスが等しくありません

原因: OSN チェック・サーバーのアドレスに障害があります。バインドされたサーバーのアドレスが、要求されたバインド・アドレスと異なります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06752 TLI Driver: シグナル設定中にエラーが発生しました

原因: SIGACTION() へのコールがシステム・エラーで返されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06753 TLI Driver: 名前からアドレスへのマッピングに失敗しました

原因: SVR4 に対する NETDIR_GETBYNAME() コールがなんらかの理由で失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06754 TLI Driver: ローカル・ホスト・アドレスを取得できません

原因: 接続するリモート・ホスト名が指定されておらず、ローカル・ホスト名を HOSTS ファイルから取り出すことができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06755 TLI Driver: 転送のエンドポイントをクローズできません。

原因: TLI サーバーが、Oracle プロセスへ渡された後の接続をクローズできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06756 TLI Driver: oratab をオープンできません

原因: TLI サーバーが、リモートでアクセス可能なデータベースの位置を定義するために使用するファイルをオープンできませんでした。

処置: システム管理者に依頼して、ファイルが存在し適切なアクセス権があることを確認してください。

ORA-06757 TLI Driver: サーバーが取得したコマンドは無効です

原因: TLI サーバーが無効なコマンドを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06760 TLI Driver: 解放中に読み込みタイムアウトが発生しました

原因: TLI が通信チャネルのクローズ中に想定される切断メッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06761 TLI Driver: 解放中に送信エラーが発生しました

原因: TLI が通信チャネルをクローズする切断メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06762 TLI Driver: 解放中に読み込みエラーが発生しました

原因: TLI が通信チャネルをクローズする際、想定される切断メッセージの受信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06763 TLI Driver: 切断の送信中にエラーが発生しました

原因: TLI が通信チャネルをクローズする切断メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06764 TLI Driver: 切断の読み込み中にエラーが発生しました

原因: TLI が通信チャネルのクローズ中に想定される切断メッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06765 TLI Driver: 解放中に受信待機エラーが発生しました

原因: TLI が通信チャネルをクローズする際、切断メッセージの受信待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06766 TLI Driver: 解放中にクローズが失敗しました

原因: TLI が切断メッセージの受信後、通信チャネルのクローズに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06767 TLI Driver: 解放中に割当てが失敗しました。

原因: TLI が通信チャネルのクローズ中、切断情報の領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06770 TLI Driver: バージョンの送信中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI がバージョン情報の送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06771 TLI Driver: バージョンの読み込み中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI が想定されるバージョン情報の待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06772 TLI Driver: コマンドの送信中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI がコマンド・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06773 TLI Driver: コマンドの読み込み中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI が想定されるコマンド・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06774 TLI Driver: ブレーク・モードの送信中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI がブレーク・モード・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06775 TLI Driver: ブレーク・モードの読み込み中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI が想定されるブレーク・モード・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06776 TLI Driver: 接続パラメータの送信中にエラーが発生しました。

原因: 接続確立時、TLI が接続パラメータの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06777 TLI Driver: 接続パラメータの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: 接続確立時、TLI が想定される接続パラメータ・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06778 TLI Driver: 完了コードの送信中にエラーが発生しました。

原因: 接続確立時、TLI が完了ステータス・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06779 TLI Driver: 完了コードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: 接続確立時、TLI が想定される完了ステータス・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06780 TLI Driver: recv エラー・メッセージの受信中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI が想定されるエラー・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06781 TLI Driver: ネゴシエーション文字列の読み込み中にエラーが発生しました

原因: 接続確立時、TLI が想定されるネゴシエーション・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06790 TLI Driver: ポーリングに失敗しました

原因: TLI が、受信する可能性のあるメッセージに対して通信チャネルをポーリングできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06791 TLI Driver: ポーリングでエラー・イベントが返されました

原因: TLI が、受信する可能性のあるメッセージに対する通信チャネルのポーリング中に、予期しないイベントを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06792 TLI Driver: サーバーは Oracle を実行できません

原因: リモート TLI サーバーが、クライアントにかかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラー・メッセージまたは番号を記録し、システム管理者に連絡してください。リモート Oracle プログラムの許可が適切に設定されていない可能性があります。

ORA-06793 TLI Driver: サーバーは新規プロセスを作成できません

原因: リモート TLI サーバーが、クライアントにかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラー・メッセージまたは番号を記録し、システム管理者に連絡してください。リモート・ホストは、プロセス表が一杯であるために新規のプロセスを作成できない可能性があります。

ORA-06794 TLI Driver: シェドウ・プロセスはプロトコル情報を取り出せません

原因: Oracle プロセスが、プロトコル情報の記録を保存するためのメモリーの割当てに失敗したか、またはなんらかの理由でプロトコルが要求を拒否しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06800 TLI Driver: SQL*Net SPX クライアントは存在しないので再接続できません。

原因: クライアント・プロセスがシステムまたはユーザーによって中断され、サーバー・リスナー・プロセスとの接続を確立できませんでした。

処置: クライアントが終了した原因を確認し、接続を再実行してください。

ORA-06801 TLI Driver: SPX サーバーのリスナーは再接続に失敗しました

原因: 不明なイベントがクライアントのリスニング・ソケットで発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06802 TLI Driver: /etc/network/yellowpages ファイルをオープンできませんでした

原因: /etc/network/yellowpages ファイルが存在していないか、またはそのファイルを TLI リスナー・プロセスで読み込むことができません。

処置: ファイルが存在し、読み込み可能であることを確認してください。サーバー・マシンのノード名、ネットワーク番号、イーサネット・アドレスおよびリスニング・ソケット番号がファイルにエンコーディングされていることを確認してください。

ORA-06803 TLI Driver: IPX デバイス・ファイルをオープンできません。

原因: /dev/ipx ファイルが存在しないか、またはドライバがカーネルに正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06804 TLI Driver: 初期化時に IPX アドレスをバインドできませんでした

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06805 TLI Driver: SPX に対してデータグラム SAP パケットを送信できませんでした

原因: SAP パケット送信用のソケットのエンド・ポイントが、なんらかの理由で破損しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06806 TLI Driver: SPX に対してプロトコル初期化が完了できませんでした

原因: SPX/IPX プロトコルの初期化に失敗しました。

処置: 以前にレポートされたエラーを確認し、正しい解決方法に従ってください。

ORA-06807 TLI Driver: イーサネット・デバイス・ドライバ・ファイルをオープンできませんでした

原因: ファイル /dev/eth が存在しないか、または参照するドライバをオープンできませんでした。

処置: Western Digital 社のイーサネット・ドライバ用システムの実際のイーサネット・デバイス・ファイル（たとえば /dev/wd）を、/dev/eth ファイルにリンクする必要があります。リンクされている場合、ご使用のシステムで TCP/IP のインストールを完了し、接続をテストして、イーサネット・ドライバがインストールされていることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06808 TLI Driver: IPX ストリームとイーサネット・ストリームをリンクできませんでした

原因: イーサネット・ドライバがシステムに正しくインストールされていないか、またはイーサネット・ドライバがサポートされていません。

処置: ご使用のシステムで TCP/IP のインストールを完了し、接続をテストして、イーサネット・ドライバがインストールされていることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06809 TLI Driver: 初期化時に IPX イーサネットの SAP をクリアできませんでした

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06810 TLI Driver: 初期化時に IPX イーサネットの SAP を設定できませんでした

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06811 TLI Driver: 初期化時に IPX ネットワーク番号を設定できませんでした

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていないか、または /etc/network/yellowpages ファイルでエンコーディングされたネットワーク番号が無効です。

処置: yellowpages ファイルのネットワーク番号は、ご使用の Novell 社のファイル・サーバーの 4 バイトのネットワーク番号と一致する必要があります。これが正しく設定されている場合、Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06812 TLI Driver: イーサネット・ドライバのノード・アドレスを読み込めませんでした

原因: イーサネット・ドライバが正しくインストールされていないか、またはこの操作がサポートされていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06813 TLI Driver: 構成されたイーサネット・アドレスは正しくありません

原因: イーサネット・ドライバから読み込まれたノード・アドレスが、このサーバーの /etc/network/yellowpages ファイルでエンコーディングされた値と一致しません。

処置: LAN カードの正しいイーサネット・ノード・アドレスを確認し、yellowpages ファイルにこの値を入力してください。

ORA-06814 TLI Driver: SPX デバイス・ファイルをオープンできませんでした

原因: /dev/nspxd ファイルが存在しないか、またはドライバがカーネルに正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06815 TLI Driver: SPX ストリームと IPX ストリームをリンクできませんでした

原因: SPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06816 TLI Driver: SPX SAP アドレスを設定できませんでした

原因: SPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06817 TLI Driver: Novell ネットワーク・アドレスを読み込めませんでした

原因: ファイル \$ORACLE_HOME/spx/address を読み取り / 書き込み両用にオープンできませんでした。

処置: ORACLE_HOME が設定され、ORACLE_HOME の許可が読み取りおよび書き込みであることを確認してください。このファイルが不本意に削除されている場合、SPXCTL (ネット・オプション) を実行し、SQL*Net の SPX プロトコルに対する Novell ネットワーク番号を再設定してください。

ORA-06900 CMX: TNS ディレクトリを読み込めません

原因: システムで CMX が起動されていません。

処置: システムに CMX をインストールし、起動してください。

ORA-06901 CMX: ローカル・アプリケーションに割り当てられたローカル名がありません。

原因: ローカル・アプリケーション ORACMX に割り当てられたローカル名がありません。

処置: TNS ディレクトリに ORACMX 用の一意なローカル名を入力してください。

ORA-06902 CMX: CMX サブシステムへ連結できません

原因: CCP-xxxx が起動していません。

処置: 通信コントローラで CCP ソフトウェアを起動してください。

ORA-06903 CMX: リモート・アプリケーションの転送アドレスを読み込めません。

原因: リモート・アプリケーションが TNS ディレクトリに入力されていません。

処置: TNS ディレクトリにリモート・アプリケーションを入力してください。

ORA-06904 CMX: リモート・アプリケーションに使用できる転送アドレスがありません。

原因: リモート・アプリケーションにローカル名が割り当てられていません。

処置: リモート・アプリケーションにローカル名を割り当ててください。

ORA-06905 CMX: 接続エラーが発生しました。

原因: リモート・パートナーがリスニングしていません。

処置: リモート・ノードにインストールされた CMX が実行中で、ORACMX がリモート・ホストで実行されていることを確認してください。

ORA-06906 CMX: CMX から最大パケット・サイズを取得できません。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06907 CMX: 接続確認中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06908 CMX: ORACLE_SID の転送中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06909 CMX: ORACLE_SID の認識中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06910 CMX: リモート・マシンで Oracle プロセスを開始できません。

原因: Oracle プロセスが見つからないか、またはモードが誤っています (4751 である必要があります)。

処置: /etc/oratab を変更するか、モードを 4751 に設定してください。

ORA-06911 CMX: t_event がエラーを返しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06912 CMX: datarq で書き込みエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06913 CMX: 接続のリダイレクション中にエラーが発生しました。

原因: ORACMX が停止中か、またはユーザー・プロセスが異常終了しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06914 CMX: Oracle の起動中に予期しないイベントが発生しました。

原因: 接続順序の同期がとれていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06915 CMX: datarq に不明の t_event があります。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06916 CMX: データ読み込みでエラーが発生しました。(t_datain)

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06917 CMX: データ読み込みでエラーが発生しました (読み込むバイトが大きすぎます)

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06918 CMX: 読み込みイベントの待機中に t_noevent が発生しました

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06919 CMX: 書き込み要求中にエラーが発生しました (不明のイベント)

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06920 CMX: getbrkmsg データ型が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06921 CMX: getdatmsg データ型が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06922 CMX: 書き込み長が無効です。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06923 CMX: ブレーク条件が無効です

原因: ブレーク・ハンドルの同期がとれていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06924 CMX: ブレーク・メッセージ長が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06925 CMX: 接続要求中に切断されました。

原因: パートナが応答しません。

処置: パートナが実行中で、接続可能であることを確認してください。

ORA-06926 CMX: データ読み中に t_error が発生しました

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06927 CMX: データ書き込みが完了する前に t_datain を受信しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06928 CMX: ORACLE_SID が無効です。

原因: ORACLE_SID がリモートの ORATAB に入力されていません。

処置: ORACLE_SID をリモートの ORATAB に追加してください。

ORA-06929 CMX: ORACLE_SID 送信中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06930 CMX: ORACLE_SID 確認中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06931 CMX: サーバーの read_properties 実行中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06932 CMX: ローカル名にエラーがあります。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06933 CMX: 連結中にエラーが発生しました

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06950 エラーはありませんでした。

原因: コード・ベースの SQL*Net AppleTalk エラーです。これはエラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-06951 オペレーティング・システム・コールでエラーが発生しました

原因: AppleTalk API が VMS システム・サービスでエラーを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06952 通信のリモート・エンドが forward-reset パケットを発行しました。

原因: ピア・プログラムが異常終了している可能性があります。

処置: ネットワーク問題を調べ、再試行してください。

ORA-06953 仮想メモリーが不足しています。

原因: 使用可能なメモリーが十分ではありません。

処置: VMS プロセス割当てまたは SYSGEN パラメータ（あるいはその両方）を確認してください。

ORA-06954 ファイル名が無効です。

原因: ファイル名にエラーがあります。

処置: サーバー出力ファイルのパス名、または SQL*Net Appletalk 論理名および記号を確認してください。

ORA-06955 データベース・サーバーの数が制限を超過しました

原因: データベース接続が多すぎます。

処置: 構成ファイルの ATKSrv_MAXCON パラメータを確認してください。

ORA-06956 ローカル・ホスト名の取得に失敗しました

原因: Appletalk ホスト名を取得できません。

処置: Appletalk 構成を確認してください。

ORA-06957 現在使用できる SID がありません。

原因: 受信する SQL*Net 接続要求に、無効な SID 名が指定されています。

処置: 接続文字列に正しい SID を指定して、再試行してください。

ORA-06958 構成ファイルへのアクセスに失敗しました。

原因: CONFIG.ATK にアクセスできません。

処置: ファイルの保護を確認してください。

ORA-06959 バッファ I/O 割当てが小さすぎます。

原因: バッファされる I/O 割当てを超えています。

処置: AUTHORIZE ユーティリティを使用して BIOLM を増やし、再試行してください。

ORA-06960 ログ・ファイルへのアクセスに失敗しました。

原因: SQL*Net Appletalk リスナーがログ・ファイルを作成できませんでした。

処置: ディレクトリのパスおよび保護を確認してください。

ORA-06961 行った操作に対する権限が不足しています

原因: 行った操作に対する十分な権限がありません。

処置: プロセス権限を確認し、再試行してください。

ORA-06970 X.25 Driver: リモート・ホストが不明です

原因: ログイン（接続文字列）に指定されたホスト名が不明です。

処置: 綴りを調べ、名前が X.25 HOST ファイルにあることを確認してください。

ORA-06971 X.25 Driver: データの受信でエラーが発生しました

ORA-06972 X.25 Driver: データの送信でエラーが発生しました

ORA-06973 X.25 Driver: バッファ・サイズが無効です

原因: ログイン文字列に指定されたバッファ・サイズは、5 ～ 4096 の範囲内である必要があります。

処置: 有効なバッファ・サイズで再実行してください。

ORA-06974 X.25 Driver: SID の参照に失敗しました

原因: リモート・ホストの SQL*Net X.25 サーバーから、ログイン（接続）文字列として指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置: リモート・ホストの CONFIG.ORA ファイルに適切な SID エントリを追加してください（SQL*Net X.25 サーバーを再起動してください）。

ORA-06975 X.25 Driver: ホストへの接続に失敗しました

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました。リモート・ホストの SQL*Net X.25 サーバーが起動されていないか、またはホスト自体が起動されていない可能性があります。

処置: リモート・ホストで、SQL*Net X.25 サーバー・プロセスを起動してください。

ORA-06976 X.25 Driver: エンドポイントの作成に失敗しました

原因: プロセスのオープン・ファイルの割当てを超えている可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06977 X.25 Driver: X.25 レベル 2 で失敗しました

原因: X.25 レベル 2 が停止しています。X.25 リンクが機能していません。

処置: システム・チェックを実行し、X.25 ソフトウェアが機能していることを確認してください。ハードウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-06978 X.25 Driver: コールバック・アドレスが多すぎます。

原因: コールバック・アドレスがコールしたアドレスと同じである可能性があります。

処置: コールバック・アドレスおよびコールしたアドレスが異なることを確認してください。

ORA-06979 X.25 Driver: サーバーは Oracle を起動できません

原因: リモート X.25 サーバーが、クライアントにかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: リモート Oracle プログラムの許可が正しく設定されていることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07200 slsid: ORACLE_SID が設定されていません

原因: 環境変数 \$(ORACLE_SID) が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_SID を設定してください。

ORA-07201 slhom: 環境設定で ORACLE_HOME 変数が設定されていません

原因: 環境変数 \$(ORACLE_HOME) が設定されていません。

処置: ORACLE_HOME を設定してください。

ORA-07202 sltln: sltln のパラメータが無効です。

原因: SLTLN 名前変換ルーチンのコールで、無効な引数が使用されました。入力または出力文字列が NULL または長さ 0 です。

処置: Oracle の内部エラーの可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07203 sltln: 変換する環境変数が長すぎます。

原因: 長い環境変数を含む文字列が SLTLN に渡されました。SLTLN が受け入れる環境名は、30 文字以下です。

処置: 環境変数名を 30 文字以下にしてください。

ORA-07204 sltln: 出力バッファ領域不足のため名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN ルーチンでは名前を拡張するために最大長バッファが指定されています。このバッファが、オーバーフローしました。

処置: 内部エラーの可能性があります。sercose[0] に格納された出力バッファの長さを調べてください。パス名は、255 文字までです。

ORA-07205 slgtd: TIME からエラーが戻されました。時間を取得できません。

原因: TIME() システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07206 slgtd: GETTIMEOFDAY からエラーが戻されました。時間を取得できません。

原因: GETTIMEOFDAY() システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07207 sigpidu: プロセス ID 文字列が内部バッファでオーバーフローしました。

原因: SIGPIDU ルーチンでは、プロセス ID 文字列を保持するために最大長バッファが指定されています。このバッファが、オーバーフローしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07208 sfwfb: 使用済バッファをディスクヘフラッシュするのに失敗しました。

原因: FSYNC システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07209 sfofi: ファイル・サイズ制限を超過しました。

原因: オープンしようとしたファイルのサイズが、このプロセスに与えられたオペレーティング・システムの制限を超えました。

処置: OSH を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07210 slcpu: GETRUSAGE からエラーが戻されました。CPU 時間を取得できません。

原因: GETRUSAGE システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07211 slgcs: GETTIMEOFDAY からエラーが戻されました。実時間を取得できません。

原因: GETTIMEOFDAY システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07212 slcpu: TIMES からエラーが戻されました。CPU 時間を取得できません。

原因: TIMES システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07213 slgcs: TIME からエラーが戻されました。実時間を取得できません

原因: TIMES システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07214 slgunm: UNAME からエラーが戻されました。システム情報を取得できません。

原因: UNAME システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07215 slsget: GETRUSAGE からエラーが戻されました。

原因: GETRUSAGE システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07216 slghst: GETHOSTNAME からエラーが戻されました。現ホスト名を取得できません。

原因: GETHOSTNAME システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07217 sltln: 環境変数の値を求めることができません。

原因: GETENV コールから NULL ポインタが戻されました。

処置: 環境変数を設定して、再試行してください。

ORA-07218 slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: UNIX system() コールに失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べてください。

ORA-07219 slspool: スプール引数をバッファに割り当てることができません。

原因: MALLOC がスプール引数を保持する領域の割当てに失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07220 slspool: WAIT からエラーが戻されました。

原因: スプール・ジョブの完了の待機中に、WAIT にエラーが戻されました。スプール・プログラム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07221 slspool: EXEC からエラーが戻されました。スプール・プログラムを起動できません。

原因: ライン・プリンタ・スプール・コマンドの起動時に、EXEC が失敗しました。デフォルトのライン・プリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されていない可能性があります。

処置: デフォルトのライン・プリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されているかどうかを調べてください。ORACLE_LPPROG に稼働しているライン・プリンタ・スプールを設定してください。

ORA-07222 slspool: ライン・プリンタ・スプール・コマンドがエラーで終了しました。

原因: ライン・プリンタ・スプールが終了し、ゼロ以外の値を戻しました。ファイルのスプール中にエラーが発生した可能性があります。

処置: ライン・プリンタ・スプールが稼働しているかどうかを確認してください。ORACLE_LPPROG および ORACLE_LPARG が正しく設定されているかどうかを調べてください。追加情報として戻された終了値を調べてください。

ORA-07223 slspool: FORK に失敗しました。スプール・プロセスを起動できません。

原因: FORK システム・コールが失敗したため、追加プロセスを作成できませんでした。リソース制限に達した可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。操作を再試行してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07224 sfmfy: ファイル・サイズ制限の取得に失敗しました : エラー番号 :*string*。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 戻されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07225 sldept: 変換エラーが発生しました。ファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報として、SLTLN からのエラーが戻されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-07226 rtneco: 端末モードを取得できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07227 rtneco: noecho モードを設定できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07228 rtecho: 端末を echo モードへ戻せません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07229 slcpuc: CPU 数の取得でエラーが発生しました。

原因: MPCNTL システム・コールでエラーが発生しました。

処置: エラー番号を調べてください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07230 slemcr: fopen に失敗しました。ファイルをオープンできません。

原因: FOPEN がファイルのオープンに失敗しました。

処置: オープンできなかったファイルを調べてください。そのファイルが存在し、アクセス可能かどうかを調べてください。

ORA-07231 slemcc: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効な引数を使用されました。取得できなかったファイル・ハンドルは SLEMCR です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07232 slemcc: fclose に失敗しました。

原因: ファイルのクローズでエラーが発生しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-07233 slemcw: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。SLEMCR がファイル・ハンドルを取得できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07234 slemcw: fseek からエラーが戻されました

原因: ファイルの要求位置をシークできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。内部エラーの可能性あります。

処置: エラー・メッセージ・ファイルが存在しているかどうかを調べてください。エラー・メッセージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07235 slemcw: fwrite からエラーが戻されました

原因: ファイルに項目を書き込めません。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。パーミッションの問題の可能性あります。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-07236 slemop: open に失敗しました

原因: エラー・ファイルをオープンできません。パーミッションの問題の可能性あります。

処置: エラー・メッセージ・ファイルに対するパーミッションを調べてください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07237 slemcl: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。前の SLEMOP のコールでハンドルが取得されませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07238 slemcl: close に失敗しました

原因: ファイルをクローズできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: システム管理者に連絡してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07239 slemrd: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。SLEMOP のコールでハンドルが取得されませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07240 slemrd: seek に失敗しました

原因: ファイルの要求位置をシークできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー・ファイルが存在しているかどうかを確認してください。デバイスの領域を調べてください。システム管理者に連絡してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07241 slemrd: read に失敗しました。

原因: ファイルを読み込めません。オペレーティング・システム・エラーの可能性が
あります。

処置: エラー・ファイルが存在しているかどうかを調べてください。エラー・メッセ
ージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡
してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07242 slembfn: 変換エラーが発生しました。エラー・ファイル名は変換できません。

原因: 追加情報に SLTLN から戻されたエラーが表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-07243 指定したバッファはすべての行を保持するには小さすぎます

原因: 指定したバッファが十分な大きさではありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。追加情報とし
て、指定されたバッファ・サイズが示されます。

ORA-07244 ssfcf: ファイルの作成に失敗しました。ファイル・サイズ制限を超過しました。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとしてしました。

処置: OSH を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07245 sfccf: 最後のブロックに lseek および write 操作ができません。

原因: 無効なデバイス・アドレスを移動して書き込もうとしました。

処置: エラー番号を確認してください。デバイス上の領域が不足している可能性があり
ます。

**ORA-07246 sfofi: オープン・エラーが発生しました。データベース・ファイルをオープンで
きません。**

原因: SFOFI からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

**ORA-07247 sfrfb: 読み込みエラーが発生しました。データベース・ファイルから要求されたブ
ロックを読み込めません。**

原因: SFRFB からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

**ORA-07248 sfwfb: 書き込みエラーが発生しました。データベース・ブロックを書き込めませ
ん。**

原因: SFWFB からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07249 slsget: open からエラーが戻されました。/proc/pid をオープンできません。

原因: OPEN() からエラーが戻されました。

処置: /proc に正しいパーミッションがあるかどうかを調べてください。

ORA-07250 spcre: semget からエラーが戻されました。最初のセマフォ・セットを取得できません。

原因: 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07251 spcre: semget からエラーが戻されました。1 つもセマフォを割り当てられませんでした。

原因: 1 つもセマフォを割り当てることができませんでした。すべて使用中か、またはセマフォを持つようにシステムが構成されていません。

処置: すべてのセマフォが使用中であるかどうかを調べてください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを調べてください。エラー番号を確認してください。

ORA-07252 spcre: semget からエラー戻されました。セマフォを割り当てられませんでした。

原因: SEMGET システム・コールからエラーが戻されました。リソース制限問題の可能性あります。

処置: エラー番号を確認してください。システムで十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。セマフォ・セットの破棄中にもエラーが発生すると、sercose[0] がゼロ以外の値になります。この場合には、IPCRM を使用して、セマフォ・セットを削除してください。

ORA-07253 spdes: semctl からエラーが戻されました。セマフォ・セットを破棄できません。

原因: SEMCTL システム・コールからエラーが戻されました。

処置: セマフォ・セットを確認してください。これには、手動のクリーンアップが必要になります。戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルを参照してください。

ORA-07254 spdcr: ?/bin/oracle を拡張する際に変換エラーが発生しました。

原因: Oracle 実行可能ファイルの名前の変換中にエラーが発生しました。

処置: SLTLN から戻されたエラーの sercose[0] を確認してください。
\$(ORACLE_HOME) が正しく設定されていない可能性があります。

ORA-07255 spini: シグナル・ハンドラを設定できません。

原因: システムがシグナル・ハンドラの設定に失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07256 sptap: 例外を取り込むためのシグナル・ハンドラを設定できません。

原因: システムが例外を取り込むためのシグナル・ハンドラの設定に失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および `sercose[0]` を確認してください。

ORA-07257 spdcr: プログラム名の拡張で変換エラーが発生しました。

原因: プログラム名 `ora_PNAME_@` の拡張中にエラーが発生しました。この変換の結果は、Oracle プロセスの `argv[0]` に出力されます。

処置: `sercose[0]` にある `SLTLN` から戻されたエラーを確認してください。

ORA-07258 spdcr: FORK に失敗しました。プロセスを作成できません。

原因: 新しいプロセスの作成中にエラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。プロセス数のシステム制限を超えた可能性があります。

ORA-07259 spdcr: EXEC に失敗しました。分離プロセスの起動に失敗しました。

原因: 起動直後に Oracle 分離プロセスが停止しました。WAIT() は終了した子プロセスを示します。

処置: トレースまたはコア・ファイル用の `?/dbs` ディレクトリを確認してください。エラー番号を確認してください。

ORA-07260 spdcr: WAIT からエラーが戻されました。

原因: WAIT システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07261 spdde: KILL からエラーが戻されました。プロセスへシグナルを送信できません。

原因: KILL システム・コールからエラーが戻されました。すでに実行中のプロセスは破棄される可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07262 sptpa: sptpa のコールに指定したプロセス ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07263 sptpa: KILL からエラーが戻されました。

原因: KILL システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。追加情報として、テストされたプロセス ID が示されます。

ORA-07264 spwat: semop からエラーが戻されました。セマフォを減らすことができません。

原因: SEMOP システム・コールからエラーが戻されました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。セマフォ ID は `sercose[0]` に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを調べてください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に SHUTDOWN ABORT が行われた可能性があります。

ORA-07265 sppst: semop からエラーが戻されました。セマフォを増やすことができません。

原因: SEMOP システム・コールからエラーが戻されました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。セマフォ ID は `sercose[0]` に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを確認してください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に SHUTDOWN ABORT が行われた可能性があります。

ORA-07266 sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07267 spwat: プロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: 追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07268 szguns: getpwuid からエラーが戻されました。

原因: `GETPWUID()` が、ユーザーの `passwd` ファイルからエントリを検索できませんでした。

処置: `passwd` ファイルにユーザーのエントリを追加してください。

ORA-07269 spdcr: 分離プロセスが起動後すぐに停止しました。

原因: 分離プロセスは正常に実行されましたが、この直後に停止しました。追加情報によって終了コードおよび終了状態が示されます。

処置: プロセス終了の原因に関する情報の終了コードを確認してください。コア・ダンプまたはトレース・ファイルを確認してください。

ORA-07270 spalck: setitimer がエラーを戻しました。間隔タイマーを設定できません。

原因: インターバル・タイマーの設定中にエラーが発生しました。ポートに問題がある可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07271 spwat: Oracle プロセス番号が無効です。

原因: ファンクション・コールで無効な Oracle プロセス番号 (0) が使用されました。

処置: これは内部エラーです。

ORA-07272 spwat: セマフォ・セット ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID を有効な値で初期化できませんでした。追加情報として、セマフォ・セット索引および Oracle プロセス番号が戻されます。これは内部エラーです。

処置: セマフォ・セット索引を確認してください。Oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07273 sppst: セマフォ ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID に無効な値がありました。追加情報として、セマフォ・セット索引および Oracle プロセス番号が戻されます。これは内部エラーです。

処置: セマフォ・セット索引を確認してください。Oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07274 spdcr: アクセス・エラーが発生しました。Oracle へのアクセスが拒否されました。

原因: Oracle プログラムにアクセスできません。?/bin/oracle または \$ORABCKPRG が存在するか、および実行可能であるかどうかを調べてください。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。

ORA-07275 処理するシグナルを送信できません。

原因: KILL システム・コールからエラーが戻されました。存在していないプロセスにシグナルを送信している可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07276 /etc/group に dba グループが指定されていません。

原因: グループに dba ユーザーのための設定がありません。

処置: システム管理者に連絡してください。/etc/group に dba グループを設定してください。

ORA-07277 spdde: 引数として渡された PID は無効です。

原因: 0 の PID が SPDDE に渡されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07278 splon: ops\$username がバッファ長を超過しています。

原因: SPLON が、割り当てられたバッファ領域を超える ops\$username ログインを構成しました。

処置: UNIX ユーザー名または Oracle ユーザー名を短くしてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07279 spcre: semget の実行中にエラーが発生しました。最初のセマフォ・セットを取得できません。

原因: 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07280 slsget: プロセス情報を取得できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07281 slsget: TIME からエラーが戻されました。CPU 時間を取得できません。

原因: TIME システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07282 sksaprd: 文字列がオーバーフローしました。

原因: 内部バッファが大きくないため、アーカイブ制御文字列を保持することができません。

処置: 内部制限です。アーカイブ制御文字列を短くしてください。

ORA-07283 sksaprd: アーカイブ先のボリューム・サイズが無効です。

原因: 無効なボリューム・サイズが指定されました。

処置: アーカイブ制御文字列で有効なボリューム・サイズを指定してください。

ORA-07284 sksaprd: ボリューム・サイズの指定は正常に終了していません。

原因: ボリューム・サイズの指定の後に数字ではないテキストがあります。

処置: 正しいアーカイブ制御文字列を入力してください。

ORA-07285 sksaprd: ボリューム・サイズはディスク・ファイルに指定できません。

原因: ボリューム・サイズがディスク・ファイル用に指定されました。

処置: ディスク・ファイルをアーカイブする場合、ボリューム・サイズを指定しないでください。

ORA-07286 sksagdi: デバイス情報が取得できません。

原因: ログのアーカイブ・デバイス上の STAT が失敗しました。

処置: 失敗の理由について、戻された OSD エラーを確認してください。

ORA-07287 sksagdi: ログ・アーカイブ用にデバイスはサポートされていません。

原因: このデバイスへのログのアーカイブはサポートされていません。

処置: サポートされているデバイスへのログのアーカイブを試行してください。

ORA-07290 sksagdi: アーカイブ先に指定されたディレクトリが存在しません。

原因: 指定されたパス名は、ディレクトリではありません。

処置: アーカイブ先のディレクトリが存在するかどうかを調べてください。

ORA-07303 ksmcsg: データベース・バッファ・サイズが無効です。

原因: データベース・バッファ・サイズは、データベース・ブロック・サイズの倍数で最大ブロック・サイズより小さくする必要があります。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの DB_BLOCK_SIZE 初期化パラメータが正しく設定されていることを確認してください。

ORA-07304 ksmcsg: 再実行バッファ・サイズが無効です。

原因: 再実行バッファ・サイズは、マシン・ブロック・サイズの倍数である必要があります。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの LOG_BUFFER 初期化パラメータが正しく設定されていることを確認してください。

ORA-07305 ksmcsg: データベース・バッファ・サイズが無効です。

原因: データベース・バッファ・サイズは、使用する間接的なデータ・バッファに対する拡張キャッシュ・マッピング・サイズの倍数である必要があります。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの DB_BLOCK_SIZE 初期化パラメータが正しく設定されていることを確認するか、または USE_INDIRECT_DATA_BUFFERS 初期化パラメータを無効にしてください。

ORA-07324 smpall: PGA 割当て中に malloc がエラーを戻しました。

原因: MALLOC ライブラリ・ルーチンからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。スワップ領域不足である可能性があります。

ORA-07327 smpdal: マッピングされていない PGA を削除しようとしてしました。

原因: PGA が作成されていないときに、SMPDAL がコールされました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07339 spcre: 最大セマフォ・セット数を超過しました。

原因: 内部バッファが大きくないため、要求された数のセマフォ・セット識別子を入れることができません。

処置: セット当たりのセマフォをより多くするために、オペレーティング・システムを再構築してください。

ORA-07345 データ・ファイル名に文字列 '..' は使用できません。

原因: 指定されたデータ・ファイル名に '..' が含まれています。

処置: データ・ファイル名を修正して、操作を再試行してください。

ORA-07390 sftopn: 変換エラーが発生しました。ファイル名を変換できません。

原因: オープンするファイル名の拡張中にエラーが発生しました。追加情報として、変換ルーチンで生成されたエラーが返されます。

処置: 詳細は、追加エラー・コードを参照してください。

ORA-07391 sftopn: fopen に失敗しました。テキスト・ファイルをオープンできません。

原因: FOPEN ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。

処置: 存在と権限を確認してください。

ORA-07392 sftcls: fclose に失敗しました。テキスト・ファイルをクローズできません。

原因: FCLOSE ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。

処置: 内部エラーの可能性あります。

ORA-07393 テキスト・ファイルを削除できません

原因: テキスト・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

処置: ファイルが存在することを確認し、追加エラーを確認してください。

ORA-07394 テキスト・ファイルに文字列を追加できません

原因: 文字列を追加する操作の実行中に、エラーが発生しました。

処置: これは内部エラーです。追加情報を調べてください。

ORA-07400 slemtr: メッセージ・ファイルの変換された名前が長すぎます。

原因: メッセージ・ファイル用の名前が内部バッファをオーバーフローしています。

処置: メッセージ・ファイルの完全なパス名がディレクトリ階層の再編成によって短くなるようにしてください。

ORA-07401 sptap: ユーザー例外ハンドラをリストアできません。

原因: システムがユーザーの例外ハンドラのリストアに失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07402 sprst: ユーザー・シグナル・ハンドラをリストアできません。

原因: システムがユーザーのシグナル・ハンドラのリストアに失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07403 sfanfy: db_writers パラメータが無効です。

原因: 初期化パラメータ・ファイルの DB_WRITERS 初期化パラメータが、システムごとの最大値を超えているか、0 未満の値になっています。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの DB_WRITERS 初期化パラメータを変更してください。

ORA-07404 sfareq: 完了の要求を待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: 書込みまたはクローズの完了を待機しているときに、マスター・データベース・ライターにタイムアウトが発生しました。データベース・ライターの 1 つが実行を停止している可能性があります。

処置: すべてのデータベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試行してください。

ORA-07406 slbtspd: 数値が無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07407 slbtspd: 指数が無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07408 slbtspd: バック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07409 slpdtb: バック 10 進数ニブルが無効です。

原因: 10 進数から 2 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07410 slpdtb: 与えられたバッファに対して数値が大きすぎます。

原因: 10 進数から 2 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07411 slgfn: 与えられたバッファに対してフルパス名が大きすぎます。

原因: 与えられたバッファが大きくないため、フルパス名を保持することができません。

処置: フルパス名の構成は実行できません。

ORA-07412 sfsalv: 非同期書込み配列でエントリを取得する際にエラーが発生しました。

原因: データベース・ライター・プロセスの1つがSGA中のエントリを見つけることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07415 slpath: メモリー・バッファの割当てに失敗しました。

原因: `MALLOC()` が `ORACLE_PATH` を格納するためのバッファの割当てに失敗しました。

処置: システムのヒープ領域が不足しています。追加情報としてエラー番号が示されます。

ORA-07416 slpath: パス名の構成に失敗しました: 出力バッファ領域が不足しています。

原因: `SLPATH` ルーチンの中には入れる名前を拡張するための最大長バッファを与えます。このバッファが、オーバーフローしました。これは内部エラーです。

処置: `sercose[0]` に格納された出力バッファ長と `sercose[1]` の構成後のパス名の長さを確認してください。

ORA-07417 sfareq: 1 つ以上の DBWR が使用できない状態です。

原因: 1 つ以上のデータベース・ライター・プロセスが実行されていません。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試行してください。

ORA-07418 sfareq: DBWR のタイミグ関数呼び出しでエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミグ関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試行してください。

ORA-07419 sfareq: DBWR のタイミグ関数呼び出しでエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミグ関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試行してください。

ORA-07425 sdpri: ダンプ・ファイル位置を変換中にエラー *string* が発生しました。

原因: ダンプ・ファイルの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラー・コードを確認してください。

ORA-07426 spstp: dbs ディレクトリの位置を取得できません。

原因: dbs ディレクトリの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

処置: SLTLN が返したエラーの追加情報を確認してください。

ORA-07427 spstp: dbs ディレクトリへ変更できません。

原因: CHDIR システム・コールからエラーが返されました。パーミッションに問題がある可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラー・コードの追加情報を確認してください。

ORA-07431 FORK に失敗しました

原因: サーバー・プロセスが、子プロセスを FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセスが制限を超えているか、使用可能なメモリーまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-07432 ネストされたスリープを実行できません

原因: すでにスリープしているプロセスをスリープにしようとしてしました。このプラットフォームはこの機能をサポートしていません。

処置: プロセスがスリープしていないときに SLEEP コマンドを実行してください。

ORA-07440 WMON プロセスがエラーで終了しました。

原因: 起動監視プロセスが停止しました。

処置: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-07441 ファンクション・アドレスが *string* バイト境界で位置合せされていません。

原因: 無効な整列ファンクション・アドレスが指定されました。

処置: 正しく整列したファンクション・アドレスを使用してください。

ORA-07442 ファンクション・アドレスは *string* から *string* の範囲でなければなりません。

原因: 無効なファンクション・アドレスが指定されました。

処置: 有効なファンクション・アドレスを使用してください。

ORA-07443 ファンクション *string* が見つかりません。

原因: 無効なファンクション名が指定されました。

処置: 有効なファンクション名を使用してください。

ORA-07444 ファンクション・アドレス *string* が読み込めません。

原因: 無効なファンクション名 / アドレスが指定されました。

処置: 有効なファンクション名 / アドレスを使用してください。

ORA-07445 例外が検出されました: コア・ダンプ [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*]

原因: オペレーティング・システム例外が発生しました。これは、コア・ファイルを作成した結果です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07446 sdnfy: 値 '*string*' が無効です (パラメータ *string*)。

原因: 示されたパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

処置: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリ / ファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-07447 ssarena: usinit に失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ファイルの作成に失敗しました。

処置: SERCERRNO フィールドで失敗の原因を判断してください。

ORA-07448 ssarena: 共有アリーナの最大数を超過しました。

原因: Oracle は、許可されている以上の共有アリーナ・ファイルを作成しようとしてしました。

処置: INIT.ORA の MAX_ARENA の値を大きくしてください。

ORA-07449 sc: usnewlock に失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ロックの取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認して、失敗の原因を判断してください。

ORA-07451 slskstat: ロード情報を取得できません。

原因: KSTAT ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 詳細は、sercose[0] の結果コードを確認してください。

ORA-07452 指定されたリソース・マネージャ計画がデータ・ディクショナリに存在しません

原因: 存在しないリソース・マネージャ計画をロードしようとしてしました。

処置: データ・ディクショナリに存在するリソース・マネージャ計画を使用してください。

ORA-07453 要求されたリソース・マネージャ計画スキーマに、OTHER_GROUPS が含まれていません。

原因: OTHER_GROUPS グループを含まないリソース・マネージャ計画スキーマをロードしようとした。

処置: OTHER_GROUPS グループを含むリソース・マネージャ計画スキーマを使用してください。

ORA-07454 キュー・タイムアウトの *string* 秒を超過しました。

原因: ユーザー・セッションが、コンシューマ・グループに対して指定されたキュー継続時間を超えてキューしました。

処置: 後でジョブを再実行するか、またはキューのタイムアウトを増やしてください。

ORA-07455 見積み実行時間 (*string* 秒) が上限 (*string* 秒) を超過しています。

原因: ユーザーは見積み実行時間がコンシューマ・グループに指定された制限時間を超える操作を実行しようとした。

処置: 他のグループのかわりにジョブを実行するか、または制限時間を増やしてください。

ORA-07456 データベースがクローズしているときには、RESOURCE_MANAGER_PLAN を設定できません

原因: データベースがクローズしているときに、Resource Manager を開始しようとした。

処置: データベースをオープンし、再試行してください。

ORA-07468 spwat: mset がエラーを返しました。セマフォを設定できません。

原因: MSET ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。セマフォ番号は、sercose[0] に返されています。

ORA-07469 sppst: mclear がエラーを返しました。セマフォをクリアできません。

原因: MCLEAR ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。セマフォ番号は、sercose[0] に返されています。

ORA-07470 snclget: クラスタ番号を取得できません。

原因: CLUSTER_STATUS システム・コールが、カレント・クラスタのステータス情報の取得に失敗しました。

処置: sercose[0] の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

ORA-07471 snclrd: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因: ?/dbs/sgadef@.dbf のファイル名を拡張できませんでした。

処置: \$(ORACLE_HOME) と \$(ORACLE_SID) が正しく設定されていることを確認してください。SLTLN から sercose[0] に返されたエラー番号を確認してください。

ORA-07472 snclrd: sgadef.dbf ファイルのオープンに失敗しました

原因: ?/dbs/sgadef@.dbf ファイルのオープンに失敗しました。

処置: エラー番号を確認してください。アクセス権に問題がある可能性があります。?
?/dbs/sgadef@.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。

ORA-07473 snclrd: sgadef.dbf ファイルの読み込みに失敗しました

原因: SGADEF.DBF ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在し、適切なサイズかどうかを調べてください。

ORA-07474 snclrd: sgadef.dbf ファイルのクローズに失敗しました

原因: ファイル ?/dbs/sgadef@.dbf をクローズするときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。オペレーティング・システム・エラーの可能性
があります。

ORA-07475 slsget: 仮想記憶の統計情報を取得できません。

原因: VM_STATISTICS システム・コールが、仮想記憶の統計情報の取得に失敗しまし
た。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム・
エラーの可能性がありす。

ORA-07476 slsget: マップされたメモリー統計を取得できません。

原因: VM_MAPMEM システム・コールが、マップされたメモリーの統計情報の取得に
失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム・
エラーの可能性がありす。

ORA-07477 scgcmn: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因: ロック・マネージャは、ロックを変換する前に初期化する必要があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発
生している可能性があります。

ORA-07478 scgcmn: ロック状態を取得できません。

原因: LM_STAT_LOCK が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発
生している可能性があります。

ORA-07479 scgcmn: ロックのオープンまたは変換ができません。

原因: LM_OPEN または LM_OPEN_CONVERT が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07480 snchmod: ?/dbs/sgalm.dbf のアクセス権限を変更できません。

原因: インスタンスの作成時に、SNLMINI が ?/dbs/sgalm.dbf に対するアクセス権限を変更できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07481 snlmatt: ロック・マネージャ・インスタンスに連結できません。

原因: LM_ATTACH がロック・マネージャ・インスタンスの連結に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07482 snlmini: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: LM_CREATE がロック・マネージャ・インスタンスの作成に失敗しました。

処置: ?/dbs に対するアクセス権限を確認して、?/dbs/sgalm.dbf が存在する場合には削除して、再試行してください。

ORA-07483 snlkgget: ロックを変換（取得）できません。

原因: LM_CONVERT がロックの変換または取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07484 snlkput: ロックを変換（書込み）できません。

原因: LM_CONVERT がロック値の出力に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07485 scg_get_inst: インスタンス番号ロックをオープンできません。

原因: LM_OPEN が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07486 scg_get_inst: インスタンス番号ロックを変換（取得）できません。

原因: LM_CONVERT がロック値の取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07487 scg_init_lm: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: LM_CREATE が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07488 scgrcl: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因: ロック・マネージャは、ロックを解放する前に初期化する必要があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07489 scgrcl: ロック状態を取得できません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_STAT_LOCK が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07490 scgrcl: ロックを変換できません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CONVERT が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07491 scgrcl: ロック要求を取消できません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CANCEL が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07492 scgrcl: ロックをクローズできません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CLOSE が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07493 scgrcl: ロック・マネージャでエラーが発生しました。

原因: ロックを解放するときにエラーが発生しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07494 scgcm: 予期せぬエラーが発生しました。

原因: 未知または予期しないエラー・コードです。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07495 spwat: lm_wait に失敗しました。

原因：LM_WAIT が失敗しました。

処置：SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07496 sppst: lm_post に失敗しました。

原因：LM_POST が失敗しました。

処置：SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が発生している可能性があります。

ORA-07497 sdpri: トレース・ファイル '*string*' を作成できません: エラー番号 :*string*。

原因：書込みのためのトレース・ファイルが作成できません。

処置：ダンプ・ディレクトリが存在するかどうか、そのディレクトリが書込み可能かどうかを確認してください。

ORA-07498 spstp: /dev/resched をオープンできません。

原因：リスケジュールするドライバ /dev/resched が見つからないか、または正しく機能していません。

処置：AIX カーネルに Oracle リスケジュール・ドライバがインストールされているかどうかを確認してください。

ORA-07499 spglk: リスケジュールできません。

原因：リスケジュールするドライバ /dev/resched がオープンできません。これは発生してはならない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07500 ~ ORA-09857

ORA-07500 scglaa: \$CANTIM から予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$CANTIM が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07501 scgtoa: \$DEQ から予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07502 scgcmn: \$ENQ から予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07503 scgcmn: \$SETIMR から予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$SETIMR が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07504 scgcmn: \$HIDER から予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$HIDER が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07505 scggt: \$ENQ から親ロックの予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07506 scgrl: \$DEQ から予期しないロック IDstring に関する値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07507 scgcm: 予期しないロック・ステータス条件です

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージがある場合はそれを調べて、VMS ドキュメントを参照するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07508 scgfl: \$DEQ からすべて予期しない値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07509 scgfl: \$DEQ から予期しない親ロックの値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07510 scgbrm: \$GETLKI から予期しないロック IDstring に関する値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$GETLKI が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07511 sscggtl: \$ENQ から予期しないマスター終了ロックに対する値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07512 sscggtl: \$ENQ から予期しないクライアント終了ロックに対する値が戻されました

原因: VMS システム・サービスの \$ENQ が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

-
- ORA-07513 sscgctl: \$DEQ から予期しない終了ロックの取消に関する値が戻されました**
原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07514 scgcan: \$DEQ からロックの取消し中に予期しない値が戻されました**
原因: VMS システム・サービスの \$DEQ が、予期しない値を戻しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07534 scginq: \$GETLKI から予期しないロック IDstring に関する値が戻されました**
原因: VMS システム・サービスの \$GETLKI が、予期しない値を戻しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07548 sftopn: オープンされているファイルが最大数に達しています。**
原因: オープンされているテスト・ファイルが多すぎます。これは内部エラーです。
処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。
- ORA-07549 sftopn: \$OPEN に失敗しました。**
原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07550 sftopn: \$CONNECT に失敗しました。**
原因: VMS システム・サービスの \$CONNECT に失敗しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07551 sftcls: \$CLOSE に失敗しました。**
原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。
- ORA-07552 sftget: \$GET に失敗しました。**
原因: VMS システム・サービスの \$GET に失敗しました。
処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07561 szprv: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07562 sldext: 拡張子は 3 文字にする必要があります

原因: 拡張子が見つかりましたが、長さが不適切です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07563 sldext: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07564 sldext: ファイル名または拡張子にワイルドカードが含まれています

原因: ファイル名にワイルド・カードが使用されました。

処置: 正しいファイル名を再入力してください。

ORA-07565 sldext: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07568 slspool: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07569 slspool: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07570 szrffc: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07571 szrfc: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07572 szrfc: ロール名のバッファ領域が不足しています。

原因: OS ロール名が長すぎます。

処置: ロール名を正しい長さで再定義してください。

ORA-07573 slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$SPAWN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07574 szrfc: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07576 sspexst: \$GETJPIW に失敗しました。(プロセス ID:string)

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07577 認証ファイルにはそのようなユーザーは含まれていません。

原因: INTERNAL パスワード (たとえば DBA または OPER 権限) を設定しようとしたが、対応する VMS アカウント (ORA_sid_DBA または ORA_sid_OPER) がまだ作成されていません。

処置: VMS アカウントを ORA_sid_DBA または ORA_sid_OPER (あるいはその両方) に追加して、対応するパスワードを設定してください。

ORA-07578 szprv: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07579 spini: \$DCLEXH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DCLEXH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07580 spstp: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07581 spstp: 予期しないプロセス名から SID を導出することはできません。

原因: バックグラウンド・プロセスで、無効な形式の名前が見つかりました。

処置: ジョブ名が変更されている場合は、リストアしてください。それ以外の場合は、内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07582 spstp: ORA_SID の値は無効です

原因: ORA_SID が存在し、5 文字以下である必要があります。

処置: SID の設定方法については、『VMS Installation Guide』を参照してください。

ORA-07584 spdcr: ORA_sid_(proc_)PQL\$_item の値は無効です。

原因: 分離プロセスの割当て制限の設定に使用された論理名に、無効な値（数値以外の値）があります。

処置: 論理名の値を確認して、エラーのある論理名を修正してください。その後、再試行してください。

ORA-07585 spdcr: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07586 spdcr: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07587 spdcr: \$CREPRC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CREPRC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07588 spdcr: \$GETJPIW はイメージ名の取得に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07589 spdde: システム ID が設定されていません。

原因: 論理名 ORA_SID が有効な値に変換できません。

処置: エラーのあるプロセスの ORA_SID 値を調べて、ORA_SID の不適切な設定の原因となるインストールまたはコマンド・プロシージャを修正してください。

ORA-07590 spdde: \$DELPRC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DELPRC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07591 spdde: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07592 sspgprv: 必要な権限を取得中にエラーが発生しました。

原因: 必要な権限の取得中に、エラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07593 ssprprv: 権限の解放でエラーが発生しました。

原因: 権限の解放中に、SYS\$SETPRV からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07594 spiip: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07595 sppid: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07596 sptpa: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07597 spguns: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07598 spwat: \$SETIMR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SETIMR に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07599 spwat: \$SCHDWK に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SCHDWK に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07600 slkmnm: \$GETSYIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETSYIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07601 spguno: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07602 spgto: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07605 szprv: \$ASCTOID に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$ASCTOID に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07606 szprv: \$CHKPRO に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHKPRO に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07607 szaud: \$SENDOPR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SENDOPR に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07608 szprv: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07609 szprv: \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07610 \$GETJPIW は、ユーザーの MAC 権限の取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07612 \$GETUAI は、ユーザーのクリアランス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07613 \$GETJPIW は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07614 \$CHANGE_CLASS は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07615 \$CHANGE_CLASS は、指定ファイル・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07616 \$CHANGE_CLASS は、指定デバイス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07617 \$FORMAT_CLASS はバイナリ・ラベルの文字列への変換に失敗しました

原因: 指定されたバイナリ分類が無効なため、VMS システム・サービスの \$FORMAT_CLASS が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07618 \$IDTOASC は秘密レベルの変換に失敗しました

原因: 権限データベースの秘密レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07619 \$IDTOASC は整合性レベルの変換に失敗しました

原因: 権限データベースの整合性レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07620 smscre: データベース・ブロック・サイズが無効です

原因: パラメータ・ファイルに、無効なデータベース・ブロック・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数であり、物理 I/O データ・サイズの最大値より小さいサイズである必要があります。

処置: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの DB_BLOCK_SIZE を変更してください。

ORA-07621 smscre: REDO ブロック・サイズが無効です

原因: パラメータ・ファイルに、無効な REDO ログ・バッファ・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数である必要があります。

処置: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの LOG_BUFFER を変更してください。

ORA-07622 smscre: \$CREATE に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルの作成中に、VMS システム・サービスの \$CREATE が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07623 smscre: \$CRMPSC に失敗しました。

原因：システム・グローバル領域（SGA）の作成中に、VMS システム・サービスの \$CRMPSC が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07624 smsdes: \$DGBLSC に失敗しました。

原因：システム・グローバル領域（SGA）の削除中に、VMS システム・サービスの \$DGBLSC が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07625 smsget: \$MGBLSC に失敗しました。

原因：ログイン時、システム・グローバル領域（SGA）をマップしているときに、VMS システム・サービスの \$MGBLSC が失敗しました。ほとんどの場合、Oracle が起動していないことが原因です。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。Oracle が起動していない場合は、起動してください。

ORA-07626 smsget: SGA はすでにマップされています。

原因：ログイン時、SGA のマップに失敗しました。すでにマップされています。これは内部エラーです。

処置：プログラムを終了し、再試行してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07627 smsfre: \$CRETVA に失敗しました。

原因：ログオフ時、システム・グローバル領域（SGA）をマップ解除しているときに、VMS システム・サービスの \$CRETVA が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07628 smsfre: SGA はマップされていません。

原因：ログオフ時、SGA のマップ解除に失敗しました。すでにマップ解除されています。これは内部エラーです。

処置：プログラムを終了し、再試行してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07629 smpall: \$EXPREG に失敗しました。

原因：プログラム・グローバル領域（PGA）の拡張中に、VMS システム・サービスの \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07630 smpdal: \$DELTVA に失敗しました。

原因：ログオフ時、プログラム・グローバル領域（PGA）を削除しているときに、VMS システム・サービスの \$DELTVA が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07631 smcacx: \$EXPREG に失敗しました。

原因：コンテキスト領域の作成または拡張中に、VMS システム・サービスの \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07632 smsrcx: \$DELTVA に失敗しました。

原因：コンテキスト領域の削除中に、VMS システム・サービスの \$DELTVA が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07633 smsdbp: 保護値が無効です

原因：バッファ・デバッグ・ファンクションで無効な値が使用されました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07634 smsdbp: \$CRETVA に失敗しました。

原因：データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$CRETVA が失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07635 smsdbp: \$SETPRT に失敗しました。

原因：データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$SETPRT が失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07636 smsdbp: \$MGBLSC に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$MGBLSC が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07637 smsdbp: SGA の作成時に、バッファ保護オプションは指定されていません。

原因: バッファを保護モードに変更しようとしたますが、SGA がバッファ保護デバッグ・オプションで作成されていませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07638 smsget: SGA パッド領域は、作成された SGA に対して大きさが不十分です

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA をマップしようとした。

処置: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07639 smscre: SGA パッド領域は大きさが不十分です (*string* バイト必要)

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA を作成しようとした。

処置: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07640 smsget: SGA は有効ではありません。初期化中です。

原因: SGA の初期化中に SGA をマップしようとした。

処置: 初期化が完了してから、再試行してください。

ORA-07641 smscre: SGA にシステム・ページファイルを使用できません。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルが、システム・ページファイルを使用して割り当てられませんでした。グローバル・ページのシステム全体の制限を超えています。

処置: VMS システム・パラメータ GBLPAGFIL を大きくするか、またはディスク・ファイルを SGA バックアップ・ファイルとして使用してください。

ORA-07642 smprtset: \$CMKRNL に失敗しました。

原因: メモリーの領域の保護を設定しようとしたますが、\$CMKRNL システム・サービスからエラーが戻されました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07643 smsalo: SMSVAR は無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、初期化パラメータ・ファイルを送付してください。

ORA-07645 sszfsl: \$CHANGE_CLASS に失敗しました

原因: ファイル・ラベルの設定中に、SEVMS サービス \$CHANGE_CLASS が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07646 sszfck: \$CREATE に失敗しました

原因: ファイルの作成中に、VMS システム・サービスの \$CREATE が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07647 sszfck: \$OPEN に失敗しました

原因: ファイルの再オープン中に、VMS システム・サービスの \$OPEN が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07650 sigunc: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: ログイン時、ユーザーの端末デバイス名、ユーザー名、ユーザー・プログラム名またはプロセス名を取得しようとしたますが、VMS システム・サービスの \$GETJPIW が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07655 slsprom: \$TRNLOG に失敗しました。

原因: パスワードの要求で SYS\$INPUT の変換中に、VMS システム・サービスの \$TRNLOG が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07656 slsprom: \$GETDVI に失敗しました。

原因: パスワードの要求でデバイス特性を取得中に、VMS システム・サービスの \$GETDVI が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07657 slsprom: \$ASSIGN に失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービスの \$ASSIGN が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07658 slsprom: \$QIOW は読み込みに失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービスの \$QIOW が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07665 ssrexhd: 再帰的例外が検出されました *stringstringstringstringstringstring*

原因: Oracle 例外ハンドラの実行中に、VMS 例外が発生しました。メッセージに、信号番号、1 番目と 2 番目の信号指数、例外 PC、PSL および R0 が示されます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07670 \$IDTOASC は、秘密カテゴリの変換に失敗しました

原因: 秘密カテゴリの権限データベースの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07671 \$IDTOASC は、整合性カテゴリの変換に失敗しました

原因: 権限データベースの整合性カテゴリの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07672 \$PARSE_CLASS は、文字列のバイナリ・ラベルへの変換に失敗しました

原因: 指定された文字列に有効な分類がなかったため、SEVMS システム・サービスの \$PARSE_CLASS が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07680 sou2os: 現在 Oracle への別コールが実行されています。

原因: Oracle 共有イメージ・エントリ・ポイントのコールが、共有イメージから発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07681 sou2os: Oracle を初期化中にエラーが発生しました。

原因: 共有イメージのディスパッチ・ベクターの設定中に、エラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07682 sou2os: カーネル分散設定に失敗し、エラーが発生しました。

原因: Oracle 共有イメージ・エントリで、カーネル・モードのディスパッチが失敗しました。

処置: 共有イメージが CMKRNL 権限でインストールされていることを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07683 sou2os: \$SETPRV リセット・エラーが発生しました

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットでユーザー権限のリストア中に、VMS システム・サービスの \$SETPRV が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07684 sou2os: スーパーバイザ・スタックのリセット・エラーが発生しました

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットでスーパーバイザ・モード・スタックのリストア中に、VMS システム・サービスの \$SETSTK が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07685 sou2os: スーパーバイザ・スタックの設定エラーが発生しました

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットで Oracle スーパーバイザ・モード・スタックの設定中に、VMS システム・サービスの \$SETSTK が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07700 sksarch: 中断されました。

原因: ログのアーカイブが割り込まれました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-07701 sksatln: 内部例外: 出力バッファが小さすぎます

原因: 制御テキスト文字列の解析で、バッファがオーバーフローしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07702 アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。

原因: アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07703 アーカイブ・テキストにエラーがあります: デバイス型の後に '/' が必要です

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス型（ファイルまたはテープを指定する）の後には「/」が必要です。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07704 アーカイブ・テキストにエラーがあります: デバイス名の後に ':' が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス名の後には「:」が必要です。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07705 sksaprs: デバイス名のバッファが小さすぎます

原因: デバイス名のバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07706 アーカイブ・テキストにエラーがあります: ディスク・ファイル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。ディスク・ファイル名がありません。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07707 アーカイブ・テキストにエラーがあります: テープ・ラベル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。テープ・ラベル名がありません。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07708 sksaprs: テープ・ラベル名のバッファが小さすぎます

原因: テープ・ラベルのバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07709 sksaprs: リモート・ホストへのアーカイブはできません。

原因: ユーザーが、DECnet を介してアーカイブにリモート・ディスクを指定しました。

処置: ディスクをローカル・ホストにアーカイブしてください。

ORA-07710 sksaprs: ファイル名のバッファが小さすぎます

原因: ファイル名のバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07713 sksamtd: アーカイブ・デバイスをマウントできませんでした (SYS\$MOUNT 障害)

原因: VMS システム・サービスの SYS\$MOUNT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07715 sksadt: アーカイブ・デバイスをディスマウントできませんでした (SYS\$DISMNT 障害)

原因: VMS システム・サービスの SYS\$DISMNT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07716 sksachk: ARCHIVE へのデバイス指定が無効です。

原因: VMS システム・サービスの SYS\$GETDVI に失敗しました。

処置: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-07717 sksaalo: メモリー割当てに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$GET_VM に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07718 sksafre: メモリー解放に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$FREE_VM に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07721 scgcm: システムのエンキューを取得するのに OS リソースが不足しています。

原因: SYS\$ENQ のコールでエラーが戻されました。ロックの作成に必要なリソースが不足しています。これは、メッセージ SS\$_EXENQLM または SS\$_INSFMEM の後に発行されます。

処置: 必要なロックを作成できるように、リソースを解放してください。

ORA-07740 slemop: ハンドル・サイズが正しくありません (プログラミング・エラー)

原因: エラー・メッセージの読取りに使用した構造が一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07741 slemop: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07742 slemop: \$CONNECT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CONNECT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07743 slemop: エラー・ファイルの属性が正しくありません

原因: エラー・メッセージ・ファイルが不正なフォーマットになっています。

処置: エラー・ファイルを変更する場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07744 slemcl: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルに渡されたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07745 slemcl: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07746 slemrd: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルに渡されたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07747 slemrd: \$READ に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$READ に失敗しました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07750 slemcr: fopen に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイルを作成しようとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07751 slemcr: malloc に失敗しました。

原因: 新規に作成されるメッセージ・ファイル用のキャッシュを割り当てようとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07753 slemcf: write 前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を書き込む前に検索しようとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07754 slemcf: fwrite に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を書き込もうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07755 slemcf: read の前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を読み込む前に検索しようとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07756 slemcf: fread に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を読み込もうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07757 slemcc: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルに渡されたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07758 slemcw: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルに渡されたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07759 slemtr: 宛先は無効です。

原因: 関数に渡された宛先文字列が短すぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07760 slemtr: \$OPEN に失敗しました。

原因: \$OPEN サービスが失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07800 slbtpd: 数値は無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07801 slbtpd: 指数は無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07802 slbtpd: パック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: 2 進数から 10 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07803 slpdtb: パック 10 進ニブルは無効です

原因: 10 進数から 2 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07804 slpdtb: 提供されたバッファに対して数値が大きすぎます

原因: 10 進数から 2 進数への変換に対して不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07820 sspscn: SYS\$CRELNM からエラーが戻されました

原因: SYS\$CRELNM 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07821 sspsdn: SYS\$DELLNM からエラーが戻されました

原因: SYS\$DELLNM 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07822 sspscm: SYS\$CREMBX からエラーが戻されました

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスを作成しようとしたときに、SYS\$CREMBX 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07823 sspsqr: \$QIO からエラーが戻されました

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスを読み込もうとしたときに、\$QIO からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07824 sspsain: \$SETIMR からエラーが戻されました

原因: プロセス spin-watch タイマーをキューしようとしたときに、SYS\$SETIMR からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07825 sspsck: AST レベルで \$QIO からエラーが戻されました

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスを読み込もうとしたときに、SYS\$QIO からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07826 sspscm: SYS\$GETDVIW からエラーが戻されました

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスに関する情報を取得しようとしたときに、SYS\$GETDVIW からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07840 sllfop: LIB\$GET_VM からエラーが戻されました

原因: I/O ベクター用のメモリーの割当て中に、LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07841 sllfop: SYS\$OPEN からエラーが戻されました

原因: 読み込むデータ・ファイルをオープン中に、SYS\$OPEN からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07842 sllfcl: SYS\$CLOSE からエラーが戻されました

原因: 入力データ・ファイルのクローズ中に、SYS\$CLOSE からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07843 sllfcl: LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました

原因: I/O ベクター用のメモリーの解放中に、LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07844 sllfop: LIB\$GET_VM からエラーが戻されました

原因: データおよび索引バッファ用のメモリーの割当て中に、LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07845 sllfcl: LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました

原因: データおよび索引バッファによって使用されていたメモリーの解放中に、LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07846 sllfop: *string* バイトのレコードは、*string* バイトのユーザー・バッファには大きすぎます

原因: ファイルの最長レコードが、割当て可能な最大データ・バッファに入りません。

処置: より小さいレコードを持つように RMS ファイルを変更してください。

ORA-07847 sllfop: \$CONNECT によってエラーが戻されました

原因: データ・ファイルを開こうとしたときに、SYS\$CONNECT によってエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07848 sllfrb: \$GET によってエラーが戻されました

原因: データ・ファイルを読み込もうとしたときに、SYS\$GET によってエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07849 sllfsk: \$GET によってエラーが戻されました

原因: 入力ファイルのレコードをスキップしようとしたときに、SYS\$GET によってエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07850 sllfop: オプションは無効です

原因: Fixed= に無効なオプションが使用されています。その他のオプションについては、ドキュメントで確認してください。

処置: ドキュメントを確認してください。

ORA-07860 osnsoi: 中断ハンドラを設定中にエラーが発生しました。

原因: 制御中断ハンドラの設定中にエラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07880 sdopnf: 内部エラーが発生しました。

原因: このプロセスによってオープンするすべてのファイルのリストが取得できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08000 セッション順序リスト数が最大値を超過しました

原因: このセッションに対する順序の親ステート・オブジェクトがすべて使用されています。これは内部エラーです。

処置: このセッションを終了し、新しいセッションを開始してください。

ORA-08001 セッションあたりの順序数が最大値を超過しました

原因: セッションによって使用可能な順序数の制限を超えました。

処置: 初期化パラメータ USER_SEQUENCES の値を増やしてください。

ORA-08002 順序 string.CURRVAL はこのセッションではまだ定義されていません

原因: 順序 NEXTVAL より先に順序 CURRVAL が選択されました。

処置: CURRVAL を選択する前に、順序から NEXTVAL を選択してください。

ORA-08003 順序 *string*.NEXTVAL が内部制限を超過しました

原因: 一部のパラメータに不正な値が指定された状態で、順序が作成されました。正当な表示サイズを超えているので、NEXTVAL の計算はできません。

処置: 有効制限内で順序番号に変更するか、順序番号を再作成してください。

ORA-08004 順序 *string*.NEXTVAL の *stringstring*VALUE と矛盾しています。インスタンス化できません

原因: NEXTVAL のインスタンスシートが MAX/MINVALUE の 1 つに違反しました。

処置: 新しい値を要求できるように順序を変更してください。

ORA-08005 指定した行は存在しません。

原因: 指定した ROWID を含む行は、指定した表には存在しません。

処置: 問合せに表名の綴り間違いがないかおよび ROWID を確認してください。

ORA-08006 現在、指定した行は存在しません。

原因: 指定した行は、操作が開始された後、他のユーザーによって削除されています。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-08008 別のインスタンスが USE_ROW_ENQUEUEES=*string* でマウントされています。

原因: 起動された共有インスタンスには、すでに稼働中のインスタンスと同じ USE_ROW_ENQUEUEES に対する値がありません。

処置: すべてのインスタンスの INIT.ORA ファイルがパラメータ USE_ROW_ENQUEUEES に対して同じ値を指定していることを確認してください。

ORA-08100 索引が無効です - トレース・ファイルを参照して診断してください

原因: 引数索引の中で不一致が検出された索引を確認してください。

処置: トレース・ファイルをオラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-08101 索引キーは root dbastring に存在せず dbastring (*string*) に存在します。

原因: これは内部エラーです。索引に不一致があります。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-08102 索引キーは見つかりません (オブジェクト番号 *string*、dbastring (*string*))

原因: これは内部エラーです。索引に不一致があります。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-08103 現在、指定したオブジェクトは存在しません。

原因：指定したオブジェクトは、操作が開始された後、他のユーザーによって削除されています。

処置：そのオブジェクトへの参照を削除してください。

ORA-08104 この索引オブジェクト *string* は、オンラインで（再）作成中です。

原因：索引が（再）作成中か、またはオンラインでの（再）作成からのリカバリを待機中です。

処置：オンラインでの索引作成またはリカバリの完了を待ってください。

ORA-08105 オンライン索引作成用の SMON クリーン・アップをオフに切替える Oracle イベントです

原因：このイベントは、Oracle 開発者の監視下でのみ設定できます。

処置：デバッグのみ行ってください。

ORA-08106 ジャーナル表 *string.string* を作成できません

原因：オンライン索引作成がジャーナル表を作成できません。

処置：矛盾する表名を変更してください。

ORA-08108 この型の索引は、オンラインで作成または再作成できません。

原因：標準の索引または IOT トップレベル索引のみがサポートされています。

処置：索引の型を変更してください。

ORA-08109 nosort は、オンライン索引作成ではサポートされていないオプションです。

原因：オンライン索引作成では nosort を指定できません。

処置：索引作成コマンドの nosort を削除してください。

ORA-08110 オンライン索引作成用の SMON クリーン・アップをテストする Oracle イベントです

原因：Oracle カーネルのテスト用です。

処置：このイベントを設定しないでください。（テスト用のみ）

ORA-08111 パーティション索引が全体として結合されていない可能性があります。

原因：ユーザーが ALTER INDEX COALESCE 文を使用して 1 つのパーティション索引を結合しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：索引を一度に（サブ）パーティションに結合します（ALTER INDEX MODIFY(sub)PARTITION COALESCE を使用します）。

ORA-08112 コンポジット・パーティションが全体として結合されていない可能性があります。

原因: 1つのコンポジット・パーティションを結合しようとした。

処置: 索引を一度にサブパーティションに結合します (ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION COALESCE を使用します)。

ORA-08113 コンポジット・パーティション索引は圧縮できません。

原因: ユーザーがコンポジット・パーティション索引を圧縮しようとした。

処置: 圧縮されていないコンポジット・パーティション索引を作成してください。

ORA-08114 不正な索引は変更できません。

原因: 不正な索引を変更しようとした。

処置: 不正な索引を削除してください。

ORA-08115 この索引タイプはオンライン (再) 作成できません

原因: オンラインでサポートされていない索引型を作成しようとした。

処置: オフライン索引 (再) 作成コマンドを使用してください。

ORA-08116 オンライン索引作成をロック (S モード) するための十分な DML を取得できません。

原因: DML 共有ロックを許可せずに、索引をオンラインで作成しようとした。

処置: 実表での DML 共有ロックを許可してください。

ORA-08175 ディスクリット・トランザクション制約違反です (*string*)。

原因: 現在ディスクリット・トランザクションではサポートされていない機能を実行しようとした。

処置: トランザクションをロールバックして、通常のトランザクションとして実行してください。

ORA-08176 一貫読み込み障害: ロールバック・データが使用できません

原因: ロールバック・データを生成しない操作 (索引作成、ダイレクト・ロードまたはディスクリット・トランザクション) によって変更されたデータが検出されました。

処置: 読み取り / 書き込みトランザクションの場合は、実行しようとした操作またはトランザクションを再試行してください。読み取り専用トランザクションを再起動してください。

ORA-08177 このトランザクションのアクセスをシリアル化できません

原因: このシリアル化可能トランザクションの開始後に発生した操作によって変更されたデータが検出されました。

処置: 読み取り / 書き込みトランザクションの場合は、実行しようとした操作またはトランザクションを再試行してください。

ORA-08178 ユーザー INTERNAL に SERIALIZABLE 句の指定は許可されていません

原因: ユーザー INTERNAL には、SERIALIZABLE モードはサポートされていません。

処置: 別のユーザーとして再接続し、SET TRANSACTION コマンドを再実行してください。

ORA-08179 並行性チェックに失敗しました

原因: 特定のスナップショット後に発生した操作により変更されたデータが検出されました。ほとんどの場合、データ・ブロックの特定のキャッシュ・コピーが古いことを示しています。現在は内部的に使用されています。

処置: データ・ブロックのキャッシュ・コピーをリフレッシュし、操作を再試行してください。

ORA-08180 指定された時間に基づくスナップショットが見つかりません

原因: 時間とマッピング表からの SCN が一致していない可能性があります。

処置: 時間を長くして再試行してください。

ORA-08181 指定された数字は有効なシステム変更番号ではありません

原因: 指定された SCN は、有効な SCN の範囲外です。

処置: 有効な SCN を使用してください。

ORA-08182 フラッシュバック・モード時にサポートされない操作です

原因: フラッシュバック・モードのときに、DML または DDL 操作を実行しようとした。

処置: フラッシュバックを使用不可にし、操作を再試行してください。

ORA-08183 トランザクションの実行中は、フラッシュバックを使用できません

原因: トランザクションの途中で、フラッシュバックを実行しようとした。

処置: COMMIT 文を発行してください。

ORA-08184 フラッシュバック・モード時にフラッシュバックを再び使用可能にしようとしています

原因: フラッシュバック・モードのときに、フラッシュバックを再度使用可能にしようとした。

処置: フラッシュバック・モードを再度使用可能にする前に、フラッシュバックを使用不可にしてください。

ORA-08185 フラッシュバックはユーザー SYS に対してサポートされていません

原因: ユーザーが、SYS でログインしています。

処置: 別のユーザーでログインしてください。

ORA-08186 無効なタイムスタンプが指定されました

原因: 指定されたタイムスタンプが無効です。

処置: 有効なタイムスタンプを入力してください。

ORA-08200 scggc: ロックのオープンに失敗しました

原因: ロック・マネージャがロックのオープンに失敗しました。

処置: 使用可能なメモリーが十分にあることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-08201 scggc: ロックの変換に失敗しました

原因: ロック・マネージャがロックの変換に失敗しました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-08202 scggc: ロックのクローズに失敗しました

原因: ロック・マネージャでロックのクローズのエラーが発生しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08203 scggcan: 未処理の変換要求の取消に失敗しました

原因: ロック・マネージャで変換要求の取消のエラーが発生しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08204 scgcm: 予期しないロック・マネージャのリターン・コードです

原因: ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08205 ora_addr: 環境変数に \$ORACLE_SID が設定されていません。

原因: 環境変数 ORACLE_SID が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_SID を設定してください。

ORA-08206 ora_addr: アドレス・ファイル名を変換できません。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgadef\$ORACLE_SID.dbf を変換できません。

処置: ORACLE_HOME および ORACLE_SID が正しく設定されていることを確認してください。

ORA-08207 ora_addr: アドレス・ファイルをオープンできません。

原因: アドレス・ファイルをオープンできませんでした。

処置: Oracle が起動していることを確認してください。ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgadef\$(ORACLE_SID).dbf が存在し、適切な許可があるかどうかを確認してください。

ORA-08208 ora_addr: アドレス・ファイルを読み込みません。

原因: アドレス・ファイルを読み込みませんでした。

処置: ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgadeff\$(ORACLE_SID).dbf が存在し、テキストの 1 行が含まれているかどうかを確認してください。

ORA-08209 scngrs: SCN が初期化されていません。

原因: System Commit Number が初期化されていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08210 I/O エラーになる要求です

原因: この操作で、Oracle が I/O エラーになる処理を要求しました。

処置: Oracle の通常の操作では発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08230 smscre: SGA の割当てに失敗しました。

原因: N_CORE システム・コールが失敗しました。メモリー不足の可能性があります。

処置: より少ないバッファ数を指定してください。INIT.ORA パラメータを確認してください。

ORA-08231 smscre: SGA に連結できません

原因: プロセスが SGA に接続できません。リスナーが接続できないか、プロセスがリスナーと通信できない可能性があります。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08232 smsdes: SGA から切り離せません。

原因: リスナー・プロセスが停止した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08233 smsdes: SGA のマップ解除に失敗しました

原因: SGA からの割当て解除で N_CORE システム・コールが失敗しました。

処置: 戻された NCX エラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08234 smsget: インスタンス・リスナー・アドレスの取得に失敗しました

原因: インスタンス・リスナー・アドレスを SGADef ファイルから読み込みません。

処置: \$(ORACLE_HOME) および \$(ORACLE_SID) の設定が正しいことを確認してください。追加情報として、ORA_ADDR からエラーが戻されます。

ORA-08235 smsget: このノードにはリスナーがありません。

原因: SGA に連結するプロセスが、インスタンスのリスナーと異なるノードにあります。

処置: \$(ORACLE_HOME) および \$(ORACLE_SID) の設定が正しいことを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08236 smsget: リスナーとサブキューブを共有できません

原因: N_SHARE コールが失敗しました。リスナーが停止している可能性があります。

処置: リスナーが実行されているかどうかを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08237 smsget: SGA リージョンがまだ作成されていません

原因: 作成されていない SGA に連結しようとしてしました。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08238 smsfre: SGA から切り離せません。

原因: SGA からの割当て解除で N_CORE システム・コールが失敗しました。

処置: 戻された NCX エラーを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08240 snlmatt: パラレル・サーバー名が長すぎます

原因: ロック・マネージャのアドレス・ファイルの名前が長すぎます。

処置: 短いパラレル・サーバー名を使用してください。

ORA-08241 snlmatt: ロック・マネージャの連結に失敗しました

原因: ロック・マネージャの連結に失敗しました。実行されていない可能性があります。

処置: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。ロック・マネージャが実行されているかどうかを確認してください。

ORA-08242 snlmdet: ロック・マネージャからの切断に失敗しました。

原因: ロック・マネージャからの切断中に、エラーが発生しました。

処置: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08260 ora_addr: ネーム・サーバーのオープンに失敗しました

原因: プロセスがネーム・サーバーに接続できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08261 ora_addr: ネーム・サーバー名が見つかりませんでした

原因: インスタンスのリスナー・ネーム・サーバーのエントリが見つかりませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08262 ora_addr: ORACLE_PSRV が定義されていません。

原因: パラレル・サーバー名 ORACLE_PSRV が未定義です。

処置: 環境変数 ORACLE_PSRV を設定して、再試行してください。

ORA-08263 ora_addr: リスナー・アドレスを解放に失敗しました

原因: インスタンスのリスナー・ネーム・サーバーを解放できませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08264 ora_addr: ネーム・サーバーへの接続のクローズに失敗しました。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08265 create_ora_addr: ネーム・サーバーへの接続のオープンに失敗しました。

原因: プロセスがネーム・サーバーに接続できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08266 create_ora_addr: ネーム・サーバー名を登録できません。

原因: リスナーのアドレッシング情報が登録できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08267 destroy_ora_addr: ネーム・サーバーへの接続のクローズに失敗しました。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08268 create_ora_addr: ネーム・サーバーへの接続のクローズに失敗しました。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08269 destroy_ora_addr: 名前を削除できません。

原因: リスナーのアドレッシング情報を削除できませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08270 sksachk: アーカイブ制御文字列が無効です。

原因: 指定されたアーカイブ制御文字列内に、アーカイブ・ファイルが作成できません。

処置: ボリュームが存在するかどうかを確認してください。

ORA-08271 sksabln: アーカイブ制御文字列に対してバッファ・サイズが不十分です

原因: 指定されたアーカイブ制御文字列が、多くの文字に拡張されています。

処置: アーカイブ制御文字列の長さを短くしてください。

ORA-08274 環境変数に対してメモリーが不足しています

原因: メモリーが不足しているため、要求された値を戻せません。

処置: メモリーの使用率を低くして再試行してください。

ORA-08275 環境変数が設定されていません。

原因: 要求された環境変数が設定されていません。

処置: 要求された環境変数名が正しいかどうかを確認してください。

ORA-08276 ネーム・サーバーに PID の入る容量がありません。

原因: バックグラウンド・プロセスの PID を格納できません。

処置: SHUTDOWN ABORT を実行して、データベースを再起動してください。

ORA-08277 環境変数を設定できません。

原因: メモリーが不足しているため、環境を拡張できません。

処置: メモリーの使用率を低くして再試行してください。

ORA-08278 CPU 統計を取得できません

原因: N_STAT が失敗したため、CPU 時間を取得できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08308 sllfop: ファイルをオープンできません。

原因: Oracle がファイルをオープンできませんでした。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08309 sllfop: ファイルに対し fstat を実行できません。

原因: Oracle が、オープンしているファイルの情報を取得できませんでした。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08310 sllfop: recsize の値が無効です。

原因: レコード・サイズに無効な値が指定されました。

処置: RECSIZE オプションに、1 以上の値を指定してください。

ORA-08311 sllfop: maxrecsize の値が無効です

原因: 最大レコード・サイズに無効な値が指定されました。

処置: MAXRECSIZE オプションに、1 以上の値を指定してください。

ORA-08312 sllfop: 認識されていない処理オプションです。

原因: 認識されていない処理オプションが指定されました。

処置: 『Oracle for nCUBE 2 Installation and User's Guide』で有効なオプションを調べてください。

ORA-08313 sllfop: バッファの割当てに失敗しました

原因: ロード・バッファのメモリーが割り当てられませんでした。

処置: 最大レコード・サイズを小さくしてください。カレント・ノードで不要なプロセスを排除してから、SQL*Loader を実行してください。

ORA-08314 sllfcf: ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08315 sllfrb: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08316 sllfsk: ファイル内での検索でエラーが発生しました。

原因: LSEEK システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08317 sllfsk: ファイル内での検索でエラーが発生しました。

原因: LSEEK システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08318 sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08319 sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08320 scnget: scnset または scnfnfnd の前に scnget をコールしました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08321 scnmin: まだ実装されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08322 scnmin: バイアス・ロックのオープンまたは変換に失敗しました

原因: LKMGR のコールが失敗したため、バイアス・ロックがオープンおよび変換できません。

処置: LKMGR が起動していることを確認してください。

ORA-08323 scnmin: バイアス・ロックのクローズに失敗しました

原因: LKMGR のコールが失敗したため、バイアス・ロックがクローズできません。

処置: LKMGR が起動していることを確認してください。

ORA-08330 印刷はサポートされていません。

原因: ファイルが自動的にプリンタにスプールされました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-08331 待機操作がタイムアウトになりました

原因: Oracle がイベントの待機をタイムアウトしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08332 指定されたロールバック・セグメント番号 *string* は使用できません。

原因: ORA-01545 を参照してください。

処置: ORA-01545 を参照してください。また、開始するインスタンス数に十分なロールバック・セグメントが作成されているかどうかを確認してください。

ORA-08340 このコマンドは nCUBE には実行できません。使用されているスレッドは 1 つのみです。

原因: nCUBE プラットフォームで無効なコマンドが実行されました。

処置: このコマンドは、実行する必要はありません。

ORA-08341 nCUBE では、このコマンドはインスタンス 1 からのみ実行できます。

原因: インスタンス 1 以外は実行できないコマンドが発行されました。

処置: インスタンス 1 にログインし、コマンドを繰り返してください。

ORA-08342 sropen: REDO サーバーへの接続のオープンに失敗しました

原因: REDO サーバーに接続しようとしてエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08343 srclose: REDO サーバーへの接続のクローズに失敗しました

原因: REDO サーバーへの接続をクローズしようとしてエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08344 srapp: REDO サーバーへの REDO データの送信に失敗しました

原因: REDO サーバーへ REDO を送信しようとしてエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08362 scgcm: ロック・マネージャのメモリーが不足しています。

原因: ロック・マネージャでメモリーが不足しました。

処置: GC_FILES_TO_LOCKS および GC_ROLLBACK_LOCKS 初期化パラメータで指定されているロック数を少なくするか、ロック・マネージャの数を増やしてください。

ORA-08401 コンパイラ名: *string* が無効です

原因: 無効なコンパイラ名 *comp_name* が UTL_PG 変換ルーチンに渡されました。

処置: 変換ルーチンをコールした PL/SQL コードのコンパイラ名パラメータを修正してください。

ORA-08412 WMSGBSIZ にエラーがあります。WMSGBLK のサイズが警告メッセージに対して小さすぎます。

原因: WMSGBSIZ は警告メッセージ・ブロックの最大サイズです。1 ～ 8KB にすることをお薦めします。

処置: 定義されている WMSGBLK のサイズを 1 ～ 8KB にして、WMSGBSIZ を WMSGBLK のサイズに更新してください。

ORA-08413 *string* の FORMAT パラメータのコンパイラ型が無効です。

原因：書式制御ブロックに、無効なコンパイラ型が定義されています。書式制御ブロックが無効です。

処置：MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で FORMAT パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08414 *string* にエラーがあります。

原因：ファンクション・ルーチンがエラーを返しました。このルーチンは次のいずれかです。

- RAW_TO_NUMBER
- NUMBER_TO_RAW
- RAW_TO_NUMBER_FORMAT
- NUMBER_TO_RAW_FORMAT
- MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT
- MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT

処置：このメッセージの前のメッセージに、エラーの詳細が説明されています。それらのメッセージを確認して、適切な処置を判断してください。

ORA-08429 ロー・データの表示型データに無効な数字があります

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに無効なデータが含まれていました。ピクチャ・マスク・パラメータは数字を指定しましたが、ロー・データからの該当する入力に有効な数字が含まれていませんでした。

処置：入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を修正してください。

ORA-08430 ロー・データに先行記号がありません。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに先行記号がありませんでしたが、マスク・オプション・パラメータが先行記号を指定しました。

処置：入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように修正してください。

ORA-08431 ロー・データにピクチャで定義されているゼロがありません。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータにはゼロが含まれていますが、ロー・データからの該当する入力ではゼロではありませんでした。

処置：入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を修正してください。

ORA-08432 ロー・データの浮動小数点データが無効です。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・データに、無効な浮動小数点データが含まれています。

処置：入力ロー・データを修正してください。

ORA-08433 ロー・データから数値への変換でピクチャ型が無効です

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれていますが、数値データ型への変換が行われませんでした。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08434 ロー・データの後続記号が無効です。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファには後続記号がありませんが、マスク・オプション・パラメータが後続記号を指定しました。

処置：入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように修正してください。

ORA-08435 先行記号が指定されていますが、ピクチャ・マスクに先行記号がありません

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力 MASK に先行記号がないのに、マスク・オプション・パラメータが先行記号を指定しました。

処置：入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように修正してください。

ORA-08436 ロー・データに無効な記号桁があります。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファのピクチャ・マスクが記号を指定した位置に、無効な記号数字があります。

処置：入力ロー・データまたはピクチャ・マスクが一致するように修正してください。

ORA-08437 ピクチャ・マスクのピクチャ型が無効です

原因：UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれていますが、数値データ型への変換が行われませんでした。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08440 ロー・バッファが小さすぎて、変換されたデータを保持できません。

原因：UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡された出力ロー・バッファのサイズが、ピクチャ・マスクに基づいた変換結果に十分な大きさではありませんでした。

処置：ロー・バッファ・サイズを、変換の結果全体を保持するために必要なサイズまで大きくしてください。

ORA-08441 ピクチャ・マスクに閉じカッコがありません。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、閉じカッコがありませんでした。

処置：ピクチャ・マスクを修正してください。

ORA-08443 マスク・オプションの BLANK WHEN ZERO 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの BLANK WHEN ZERO 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、次のとおりです。

- BLANK ZERO
- BLANK ZEROS
- BLANK ZEROES
- BLANK WHEN ZERO
- BLANK WHEN ZEROS
- BLANK WHEN ZEROES

処置：マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08444 マスク・オプションの JUSTIFIED 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの JUSTIFIED 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- JUST
- JUST RIGHT
- JUSTIFIED
- JUSTIFIED RIGHT

処置：マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08445 マスク・オプションの SIGN 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- SIGN LEADING
- SIGN LEADING SEPARATE
- SIGN LEADING SEPARATE CHARACTER
- SIGN TRAILING
- SIGN TRAILING SEPARATE
- SIGN TRAILING SEPARATE CHARACTER
- SIGN IS LEADING
- SIGN IS LEADING SEPARATE
- SIGN IS LEADING SEPARATE CHARACTER
- SIGN IS TRAILING
- SIGN IS TRAILING SEPARATE
- SIGN IS TRAILING SEPARATE CHARACTER

処置: マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08446 マスク・オプションの SYNCHRONIZED 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SYNCHRONIZED 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- SYNC
- SYNC LEFT
- SYNC RIGHT
- SYNCHRONIZED
- SYNCHRONIZED LEFT
- SYNCHRONIZED RIGHT

処置: マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08447 マスク・オプションの USAGE 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの USAGE 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- USAGE DISPLAY
- USAGE COMP
- USAGE COMP-3
- USAGE COMP-4
- USAGE COMPUTATIONAL
- USAGE COMPUTATIONAL-3
- USAGE COMPUTATIONAL-4
- USAGE IS DISPLAY
- USAGE IS COMP
- USAGE IS COMP-3
- USAGE IS COMP-4
- USAGE IS COMPUTATIONAL
- USAGE IS COMPUTATIONAL-3
- USAGE IS COMPUTATIONAL-4

処置：マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08448 DECIMAL-POINT 環境句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡された DECIMAL-POINT 環境句パラメータで構文エラーが見つかりました。有効な指定は、DECIMAL-POINT IS COMMA です。

処置：環境句パラメータを修正してください。

ORA-08449 ピクチャ・マスクに無効な数値シンボルがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、無効な数値シンボルが見つかりました。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08450 ピクチャ・マスクに CR の無効な指定があります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 CR が正しく指定されていませんでした。接尾辞 CR を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりのみです。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08451 ピクチャ・マスクに DB の無効な指定があります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 DB が正しく指定されていませんでした。接尾辞 DB を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりのみです。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08452 ピクチャ・マスクの E の指定はサポートされていません。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータに、浮動小数点指数記号「E」が指定されました。浮動小数点データ型は、UTL_PG 変換ルーチンでは現在サポートされていません。

処置：ピクチャ・マスクを修正してください。必要であれば、データも修正してください。

ORA-08453 ピクチャ・マスクに V シンボルが複数指定されています。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の小数点インジケータ「V」が含まれています。ピクチャ・マスクで使用できる小数点インジケータは1つのみです。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08454 ピクチャ・マスクに S シンボルが複数指定されています。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の演算符号インジケータ「S」が含まれています。ピクチャ・マスクで使用できる演算符号インジケータは1つのみです。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータを修正してください。

ORA-08455 CURRENCY SIGN 環境句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡された CURRENCY SIGN 環境句パラメータで構文エラーが見つかりました。有効な指定は、CURRENCY SIGN IS *x* です。この *x* は有効な通貨記号です。

処置：環境句パラメータを修正してください。

ORA-08456 ピクチャ・マスクに記号がありませんが、マスク・オプションに SIGN 句があります

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに「S」、「+」、「-」などの記号が含まれていませんが、マスク・オプション・パラメータには SIGN 句が含まれています。マスク・オプション・パラメータに SIGN 句が含まれている場合は、ピクチャ・マスク・パラメータに記号が必要です。

処置：ピクチャ・マスク・パラメータまたはマスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08457 SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションに構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションで、構文エラーが見つかりました。有効な指定は、SEPARATE、SEPARATE CHARACTER です。

処置: マスク・オプション・パラメータを修正してください。

ORA-08458 書式パラメータが無効です

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された書式パラメータが無効でした。書式パラメータは、MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT のいずれかより前のコールで作成される必要があります。

処置: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で FORMAT パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08459 書式パラメータ長が無効です

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された書式パラメータの長さが正しくありませんでした。書式パラメータの長さは、2048 バイトである必要があります。

処置: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT で FORMAT パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08460 環境パラメータの環境句が無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された環境パラメータに、サポートされていない環境句または無効な環境句が含まれていました。CURRENCY SIGN 環境句および DECIMAL-POINT IS COMMA 環境句のみがサポートされています。

処置: 環境パラメータを修正してください。

ORA-08462 ロー・バッファに無効な 10 進データがあります。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに無効なデータが含まれていました。

処置: 入力データを修正してください。

ORA-08463 10 進数から Oracle の数値への変換でオーバーフローしました

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER に渡された出力変数は、入力された 10 進数の変換結果である Oracle の数値を保持するために十分な大きさではありませんでした。

処置: 入力 10 進数が有効なことで、出力変数が Oracle の数値を保持できる大きさになっていることを確認してください。

ORA-08464 10 進のロー・データ入力が 42 桁を超えています。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに 43 桁以上の桁が含まれていました。これは、Oracle の数値の最大サイズを超えています。

処置: 入力ロー・バッファを修正してください。

ORA-08465 入力マスクに 32 文字を超える文字が含まれています。

原因: UTL_PG 数値変換ルーチンに渡された入力マスクに、32 文字を超える文字が含まれていました。

処置: 入力マスク・バッファを修正してください。

ORA-08466 ロー・バッファ長 *string* が *string* には短すぎます。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファが、長さ *string* バイト未満であるのに、ピクチャ・マスク・パラメータは、*string* バイトの入力データの変換を指定しました。

処置: 入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を修正してください。

ORA-08467 Oracle の数値を *string* に変換中にエラーが発生しました

原因: Oracle の数値を COBOL の型 (DISPLAY COMP-3 または文字変数) のいずれかに変換するときに、エラーが発生しました。Oracle の数値の書式が正しくありませんでした。

処置: 変換ルーチンのコールを修正してください。入力は、有効な Oracle 数値変数にしてください。

ORA-08468 マスク・オプション *string* はサポートされていません

原因: マスク・オプション句が UTL_PG 変換ルーチンに渡されましたが、UTL_PG でサポートされていません。句には次のいずれかを指定できます。

- USAGE IS POINTER
- USAGE IS INDEX
- USAGE IS COMP-1
- USAGE IS COMP-2 POINTER

処置: UTL_PG に対する PL/SQL コールのマスク・オプション・パラメータから句を削除してください。

ORA-08498 警告: ピクチャ・マスク '*string*' がピクチャ・マスク・オプション '**USAGE IS*string***' を '**USAGE IS DISPLAY**' に上書きしました

原因: ピクチャ・マスク USAGE オプションが、ピクチャ・マスクによって上書きされました。

処置: これは情報メッセージです。このメッセージは、USAGE オプションを変更してピクチャ・マスクと一致させると表示されなくなります。

ORA-08499 警告: ピクチャ・マスク・オプション '*string*' が UTL_PG によって無視されました。

原因: OCCUR、SYNC、その他のピクチャ・マスク・オプションが、UTL_PG 数値変換ルーチンによって処理されませんでした。

処置: これは情報メッセージです。UTL_PG ルーチンに渡されるパラメータ・リストから不要なピクチャ・マスク・オプションを削除すると、このメッセージは表示されなくなります。

ORA-09200 sfccf: ファイルの作成中にエラーが発生しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09201 sfcopy: ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: ブロック・サイズが一致していない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09202 sfifi: ファイルの識別中にエラーが発生しました。

原因: INIT.ORA ファイルで指定された DB_BLOCK_SIZE が正しくありません。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09203 sfofi: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイル属性が変更されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09204 sfotf: テンポラリ・ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09205 sfqio: ディスクの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09206 sfrfb: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09207 sfsrd: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09208 sftcls: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが破損している可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09209 sftget: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09210 sftopn: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09211 sfwfb: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09212 sfwfbmt: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09213 slgfn: ファイル名の作成中にエラーが発生しました。

原因: ファイル名が長すぎる可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09214 sfdone: I/O エラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09215 sfqio: IOCompletionRoutine でエラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09216 sdnfy: 値 '*string*' が正しくありません (パラメータ *string*)。

原因: 示されたパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

処置: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリおよびファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-09217 sfsfs: ファイルのサイズ変更に失敗しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09218 sfrfs: ファイル・サイズのリフレッシュに失敗しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09240 smpalo: PGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09241 smsalo: SGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09242 smscre: SGA の作成中にエラーが発生しました。

原因: SGA の作成中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09243 smsget: SGA との連結中にエラーが発生しました。

原因: SGA が作成されていません (データベースが起動していません)。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09244 smpreset: メモリー保護の設定中にエラーが発生しました。

原因: メモリー保護の設定中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09245 smcstk: スタックの切換え中にエラーが発生しました。

原因: スタックの切換え中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09246 sfsmap: SGA をマップできません。

原因: SGA をマップできません。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09247 smsdes: SGA の破棄中にエラーが発生しました。

原因: SGA の破棄中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09260 sigpidu: プロセス ID の取得中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09261 spdcr: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス作成中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09262 spdde: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス終了中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09263 spini: プロセスの初期化中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09264 sptpa: プロセスのフラグ化中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09265 spwat: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09266 spawn: Oracle プロセス起動時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09270 szalloc: セキュリティ用のメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09271 szlon: ユーザー名検証中にエラーが発生しました。

原因: ユーザー名が長すぎる可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09272 リモート OS ログオンは許可されていません

原因: リモート OS ログオンしようとしたますが、これは許可されていません。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09273 szrfc: ロール名検証中にエラーが発生しました。

原因: ロール名の検証中に、オペレーティング・システム・エラーが戻されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09274 szrfc: ロール名のバッファ領域が不足しています。

原因: OS ロール名が長すぎます。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09275 CONNECT INTERNAL は有効な DBA 接続ではありません。

原因: CONNECT INTERNAL は、DBA 接続ではサポートされていません。

処置: AS SYSDBA または AS SYSOPER で接続してください。

ORA-09280 sllfcf: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09281 sllfop: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイルに無効なパス名が指定された可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09282 sllfrb: レコードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09283 sllfsk: レコードのスキップ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが破損しています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09284 sllfop: 読み込みバッファを割り当てることができません。

原因: MALLOC() システム・コールからエラーが戻されました。システムのヒープ領域が不足している可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。

ORA-09285 sllfop: 処理オプションが認識できません。書式が正しくありません

原因: 渡された処理オプションが不正確な書式になっています。

処置: 正しい書式の IUG を調べてください。

ORA-09290 sksaalo: アーカイブ用のメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09291 sksachk: アーカイブ先に指定されたデバイスが無効です。

原因: ディレクトリにアクセスできません。

処置: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-09292 sksablñ: アーカイブ・ファイル名を作成できません。

原因: 無効なディレクトリまたはフォーマットが指定されました。

処置: LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効なディレクトリおよび INIT.ORA の LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効なフォーマット文字列を指定してください。

ORA-09293 sksasmo: コンソールにメッセージを送信できません。

原因: コンソール・オペレータにメッセージを送信しているときに、エラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09300 osncon: 接続できません。DPMI を使用できません

原因: DPMI の存在を検出できません。

処置: Windows を再起動して、再試行してください。

ORA-09301 osncon: ローカル・カーネルは、標準モードでのみサポートされます。

原因: エンハンス・モードで、S: に接続しようとしてしました。

処置: Windows を標準モードで再起動してください。

ORA-09310 sclgt: ラッチの解放中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09311 slsleep: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09312 slspool: プリンタへのファイルのスプール中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09313 slsprom: ユーザーへのプロンプト表示でエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09314 sltln: 論理名変換中にエラーが発生しました。

原因: 内部バッファがオーバーフローした可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09315 sql2tt: ORACLE_EXECUTABLE 変換中に 2 タスク・エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09316 szrpc: ロールのパスワードは検証できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームでサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09317 szprv: 権限が不十分です。

原因: 指定されたパスワードが無効です。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09318 slkhst: オペレーティング・システムにホスト・アウトできません。

原因: コマンドに十分なメモリがないか、またはホスト・アウトがこのプラットフォームでサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09319 slgtd: 現在の日付および時間を取得できません

原因: システム時間の設定が不正な可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09320 szrfc: 有効な OS ロールのリストを取得できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームでサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09321 slzdtb: ゾーン 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09322 slpdtb: パック 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09330 Oracle または Oracle DBA により、内部的にセッションが終了しました。

原因：異常切断されたクライアント・ワークステーションが原因で、Oracle が約 1 分後にそのセッションを終了しました。SHUTDOWN ABORT が実施される場合は、このメッセージはトレース・ファイルにも表示されます。

処置：処置は必要ありません。

ORA-09331 scgcan: LK_SYNC_CANCEL リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。エラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09332 scggc: LK_CLOSE リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。エラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09333 scggc: LK_OPEN_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。エラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09334 scggc: LK_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。エラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09335 scgcm: 完了プロシージャのリターン・コードを処理できません。

原因: 無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置: UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。エラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09340 指定された ORACLE_SID が無効か、または長すぎます。

原因: ORACLE_SID は、アルファベット 4 文字以内である必要があります。

処置: 正しい形式で ORACLE_SID を指定してください。

ORA-09341 scumnt: データベースをマウントできません。

原因: 現在、別のインスタンスがデータベースをマウントしています。

処置: 後で再実行してください。

ORA-09342 SHUTDOWN ABORT の実行中に分離プロセスが Oracle によって終了されました。

原因: ユーザーが SHUTDOWN ABORT を実行しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-09344 spsig: スレッドの通知中にエラーが発生しました。

原因: この機能は実装されていない可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-09350 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09351 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09352 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは新規の Oracle タスクを起動できません

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09353 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはイベント・セマフォをオープンできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09354 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバ: Oracle タスクが予期せず終了しました

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09360 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09361 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域をロックできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09362 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域の割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09363 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのコンテキスト領域が無効です。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09364 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは非表示ウィンドウを作成できません

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09365 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは非表示ウィンドウを破棄できません

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09366 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09367 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーの割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09368 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは Oracle を起動できません

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09369 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのインスタンス・ハンドルは無効です

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09370 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバの Oracle タスクがタイム・アウトしました

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09700 sclin: 最大ラッチ数を超過しました

原因: Oracle が使用可能なラッチ数以上のラッチを使用しようとしています。

処置: 初期化パラメータ LATCH_PAGES を増加するか、または使用している共有メモリー量を削減してください。

ORA-09701 scnfy: 最大プロセス数を超過しました

原因: PROCESSES 初期化パラメータの値を超えています。

処置: PROCESSES パラメータを削減し、再起動してください。

ORA-09702 sem_acquire: ラッチ・セマフォの取得に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの取得に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09703 sem_release: ラッチ・セマフォの解放に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの解放に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09704 sstascre: テスト / 設定ページの作成中に FTOK が失敗しました

原因: FTOK() ライブラリ・コールが SSTASTCRE() で失敗しました。

処置: TASDEF@.DBF ファイルが存在するかどうかを確認してください。存在する場合は、システム障害の可能性があります。System V との互換性がない可能性があります。

ORA-09705 spcre: ラッチ・セマフォの初期化に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの初期化に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09706 slsget: get_process_stats がエラーを戻しました

原因: get_process_stats システム・コールがエラーを戻しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンスを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09708 soacon: ソケットのポートへのバインドに失敗しました。

原因: ソケットでバインド・システム・コールに失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09709 soacon: 接続のアクセプトに失敗しました。

原因: ソケットでアクセプト・システム・コールに失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09710 soarcv: バッファがオーバーフローしました。

原因: 内部バッファが大きいいため、読み込まれたメッセージを保持することができません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09711 orasrv: archmon はすでに接続されています。

原因: archmon から orasrv への接続はすでに確立されています。

処置: 接続の試行を停止してください。

ORA-09712 orasrv: ログ・アーカイブはすでに接続されています。

原因: ログ・アーカイブから orasrv への接続はすでに確立されています。

処置: 接続の試行を停止してください。

ORA-09713 グローバル・ハードウェア・クロックの障害により、インスタンスが終了しました。

原因: Oracle のシステム変更番号の生成に使用されているグローバル・ハードウェア・クロックが失敗しました。

処置: グローバル・ハードウェア・クロックを調べてください。

ORA-09714 2 タスク・インタフェース: puname の取得に失敗しました

原因: TXIPC ドライバが、PU の名前を取得できません。(オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。)

処置: PU に (一貫性のある) 名前が付いていることを確認してください。

ORA-09715 orasrv: puname の取得に失敗しました

原因: ORASRVPU が PU の名前を取得できません (オペレーティング・システム・エラーの可能性あります)。

処置: PU に (一貫性のある) 名前が付いていることを確認してください。

ORA-09716 kslcli: 流れ込み lampport ラッチの設定に失敗しました

原因: 1 つの Oracle プロセスが lampport ラッチを保持したまま停止しました。

処置: Oracle ユーザー・プロセスをすべて終了 (中断) してください。SHUTDOWN ABORT を実行し、Oracle RDBMS カーネルを再起動してください。

ORA-09717 osnsui: ユーザー割込みハンドラの最大数を超過しました。

原因: ユーザー割込みハンドラの内部制限数を超えました。

処置: 同時ログイン数を削減するか、またはユーザー割込みハンドラの数削減してください。

ORA-09718 osnsui: ユーザー割込みハンドラの設定に失敗しました

原因: MALLOC() が空白の割当てに失敗したので、ユーザー割込みハンドラを保持できません。

処置: メモリー・リソース不足の可能性あります。

ORA-09719 osncui: 処理が無効です。

原因: osncui に渡されたハンドルは有効な範囲外です。

処置: 有効なハンドルを使用してください。

ORA-09740 slsget: 仮想メモリー領域の統計情報を取得に失敗しました

原因: VM_REGION システム・コールが、仮想メモリー領域の統計情報の取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

ORA-09741 spwat: 転記待機中にエラーが発生しました。

原因: MSG_RECEIVE システム・コールでエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。ポート名は、sercose[0] に戻されます。

ORA-09742 sppst: 転記中にエラーが発生しました。

原因: MSG_SEND システム・コールからエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。ポート名は、sercose[0] に戻されます。

ORA-09743 smscre: 共有メモリーを連結できませんでした。

原因: MMAP または書き込みシステム・コールからエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09744 smsget: mmap からエラーが戻されました

原因: mmap システム・コールからエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09745 smscre: vm_allocate エラーが発生しました。共有メモリーを作成できません。

原因: システム・コール vm_allocate でのエラーです。SGA の単一の共有メモリー・セグメントとしての作成に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09746 smscre: 共有メモリーに付けられているアドレスが正しくありません。

原因: VM_ALLOCATE システム・コールが、SGA を不正な位置に連結しました。

処置: SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09747 pws_detachPorts: サーバーの pws_detach のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_detach のコールに失敗しました。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09748 pws_look_up: FORK に失敗しました。

原因: pws_look_up コールが (Oracle ヘルパー) プロセスを FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、使用可能なメモリーまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-09749 pws_look_up: ポートの参照に失敗しました。

原因: pws_look_up が (Oracle ヘルパー) へのポートを見つけられませんでした。

処置: (Oracle ヘルパー) サーバーが pws_look_up によって正しく起動されており、ネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを確認してください。

ORA-09750 pw_attachPorts: port_rename に失敗しました。

原因：port_rename システム・コールに失敗しました。内部エラーの可能性がります。

処置：SERCERRNO のリターン・コードを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09751 pw_attachPorts: サーバーの pws_attach のコールに失敗しました。

原因：(Oracle ヘルパー) への pws_attach のコールに失敗しました。

処置：サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に返されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09752 pw_attachPorts: port_allocate に失敗しました。

原因：port_allocate システム・コールに失敗しました。リソースを使い果たした可能性があります。

処置：SERCERRNO のリターン・コードを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09753 spwat: プロセス番号が無効です。

原因：ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置：追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。

ORA-09754 sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因：ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09755 osngpn: ポート割当てに失敗しました。

原因：PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。

処置：システム・リソースが不足している可能性があります。SERCERRNO のエラー・コードを調べてください。

ORA-09756 osnpns: ネーム・サーバーにポートが存在しません。

原因：osnpns が、ネーム・サーバーで指定された名前付きポートを検索できませんでした。

処置：SERCERRNO のエラー・コードを確認してください。シャドウ・プロセスおよびネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを確認してください。

ORA-09757 osniph: ポート割当てに失敗しました。

原因: PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。

処置: システム・リソースが不足している可能性があります。SERCERRNO のエラー・コードを調べてください。

ORA-09758 osniph: ネーム・サーバーのポートをチェックできませんでした。

原因: NETNAME_CHECK_IN コールが失敗しました。

処置: SERCERRNO のエラー・コードを確認してください。ネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを確認してください。

ORA-09759 osnsbt: 受信したメッセージが無効です。

原因: MSG_RECEIVE システム・コールに失敗したか、または不正なメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: SERCERRNO に戻されたエラー・コードを報告してください。

ORA-09760 osnpui: ブレーク・メッセージを送信できません

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09761 pw_destroyPorts: サーバーの pws_stop_instance のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_stop_instance のコールに失敗しました。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に返されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09762 sNeXT_instanceName: 変換エラーが発生しました。

原因: ORACLE_SID の値を変換している間に障害が発生しました。

処置: ORACLE_SID が定義されており、有効な長さであることを確認してください。

ORA-09763 osnmpx: Mach ポートの情報交換時に送受信エラーが発生しました。

原因: Mach ドライバが、接続の反対側とのポート情報の交換に失敗しました。MSG_SEND (sercose[0] == 1) または MSG_RECEIVE (sercose[0] == 2) のいずれかが失敗しました。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。両方の接続を確認してください。

ORA-09764 osnmop: Oracle 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました。

原因: Match ドライバが、Oracle 実行プログラムへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09765 osnmop: FORK に失敗しました。

原因: Match ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスへ FORK できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを確認してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、使用可能なメモリまたはスワップ領域の量が一時的に不足しています。

ORA-09766 osnmop: バッファ割当てに失敗しました。

原因: Mach ドライバが十分な仮想メモリ領域をその I/O バッファに割り当てるのに失敗しました。

処置: 2 タスク・ドライバ・ホスト文字列の BUFFER_SIZE パラメータの値を削減してください。

ORA-09767 osnmfs: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: Mach ドライバの送信バッファのフラッシュ中、msg_send システム・コールに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09768 osnmgetmsg: メッセージを読み込めませんでした

原因: Mach ドライバでメッセージを待機中、msg_receive システム・コールで失敗コードが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09769 osnmbr: ブレーク・メッセージを送信できません

原因: Mach ドライバが、Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09770 pws_look_up: 変換に失敗しました。

原因: pws_look_up ルーチンが (Oracle ヘルパー) 実行可能プログラム名の変換に失敗しました。

処置: ORACLE_SID および ORACLE_HOME が設定されており、正しいことを確認してください。追加情報では、変換エラー・コードが表示されます。

ORA-09771 osnmwrtbrkmsg: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: Mach ドライバ・ブレークの送信中、msg_send システム・コールに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09772 osnmetbrkmsg: ホストからのメッセージのメッセージ型が正しくありません

原因: Mach ドライバが認識不可能な型のメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09773 osnmgetdatmsg: ホストからのメッセージのメッセージ型が正しくありません

原因: Mach ドライバが認識不可能な型のメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09774 osnmui: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: Mach ドライバが、Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09775 osnmrs: リセット・プロトコル・エラーが発生しました

原因: Mach 2 タスク・ドライバが接続のリセットに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09776 pws_look_up: (Oracle ヘルパー) 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました

原因: pws_look_up コールが (Oracle ヘルパー) 実行プログラムにアクセスできませんでした。

処置: (Oracle ヘルパー) 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09777 osnpbr: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: パイプ・ドライバが、Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09778 snyfyport: 通知ポートの割当てに失敗しました。

原因: ルーチンがタスクの通知するポートの割当てまたは設定に失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09779 snyGetPort: ポート割当てに失敗しました。

原因: PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09786 sllfop: オープン・エラーが発生しました。ファイルをオープンできません。

原因: Open システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09787 sllfop: 処理オプションを認識できません。書式が正しくありません。

原因: 渡された処理オプションが不正確な書式になっています。

処置: 正しい書式の IUG を調べてください。

ORA-09788 sllfrb: ファイルを読み込めません。

原因: READ システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09789 sllfsk: ファイルを読み込めません。

原因: READ システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09790 sllfcf: ファイルをクローズできません。

原因: CLOSE システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09791 slembdf: 変換エラーが発生しました。エラー・ファイル名を変換できません。

原因: 追加情報に SLTLN から戻されたエラーが表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-09792 sllfop: 読み込みバッファを割り当てられません。

原因: MALLOC システム・コールからエラーが戻されました。システムのヒープ領域が不足している可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。

ORA-09793 szguns: ユーザー名の長さがバッファを超過しています

原因: 調べようとしたユーザーの名前の長さが、コールするルーチンから与えられたバッファのサイズより大きくなっています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09794 szrbuid: ロール名の長さがバッファを超過しています

原因: 調べようとしたロールの名前の長さが、コールするルーチンから与えられたバッファのサイズより大きくなっています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09795 szrbuid: ロール構造の malloc に失敗しました。

原因: ロール記述子を保持するために使用されている内部の構造体に対するメモリーの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。

ORA-09796 szrbuid: ロール名の malloc に失敗しました。

原因: ロールの名前を保持するために使用されている内部のバッファに対するメモリーの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。

ORA-09797 O/S の MAC 権限の取得に失敗しました。

原因: オペレーティング・システムはプロセスの権限を検索できません。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09798 ラベル比較に失敗しました。

原因: 2つのバイナリ・ラベルの比較が失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09799 ファイル・ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle が、ファイルへ付加されるラベルを取得できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09800 プロセス重要度ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle がプロセスの重要度ラベルの取得に失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09801 接続からユーザー ID を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザー ID 番号を取得できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09802 バイナリ・ラベルから文字列への変換に失敗しました。

原因: Oracle がバイナリ・ラベルを文字列へ変換できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09803 文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: ラベルが取得されるファイル名を保持するために使用されるバッファの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。Oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09804 バイナリから Oracle へのクラス変換に失敗しました。

原因: Oracle がクラス・コンポーネントのバイナリ形式から Oracle 形式への変換に失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09805 カテゴリ番号から文字列への変換に失敗しました。

原因: Oracle がカテゴリ番号を対応する文字列表現へ変換できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。カテゴリ番号は「追加情報」フィールドに含まれています。

ORA-09806 ラベル文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: ラベルを保持するために使用されている一時バッファを割り当てできませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。Oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09807 文字列からバイナリへのラベルの変換に失敗しました。

原因：Oracle がラベルの文字列表現をバイナリ形式へ変換できませんでした。

処置：有効なラベルを再入力してください。

ORA-09808 ユーザー許可を取得できませんでした。

原因：Oracle がユーザーの許可レベルを取得できませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09809 接続からユーザーのグループ ID を取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのグループ ID 番号を取得できませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09810 接続からプロセス ID を取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのプロセス ID 番号を取得できませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09811 パッケージを初期化できません。

原因：Oracle が、セキュリティ情報の取得のために使用されるライブラリを初期化できませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09812 接続からユーザー許可を取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのオペレーティング・システム・セッション許可を取得できませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09813 ディレクトリの状態を取得できません。

原因: Oracle が、ディレクトリが複数レベルになっているかどうかを判別できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09814 ファイル名を拡張できません。

原因: Oracle が複数レベルのディレクトリに常駐するファイル名を拡張できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09815 ファイル名バッファがオーバーフローしました。

原因: 拡張された名前の保持に Oracle が使用しているバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09816 有効な権限を設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09817 監査ファイルへの書き込みに失敗しました。

原因: Oracle が、監査証跡として使用されるファイルへのエントリの書き込みに失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09818 数値が大きすぎます。

原因: Oracle が、コンポーネント文字列を数値に変換できませんでした。数値が、整数に使用できる最大値を超えています。「追加情報」フィールドには、最大値が示されません。

処置: 文字列を修正し、変換しなおしてください。

ORA-09819 数値が最大値を超過しています

原因: コンポーネントに指定された数値が、このコンポーネントに使用できる最大値を超えています。

処置: コンポーネントの値を最大値より小さい値に変更し、変換しなおしてください。コンポーネントの最大値は、「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09820 クラス文字列から数値表現への変換に失敗しました。

原因：Oracle が、クラス文字列を数値に変換できませんでした。文字列内の文字に、数値以外のものが含まれています。

処置：文字列をすべて数値に変更するか、またはすべて数値以外の文字に変更して、変換しなおしてください。

ORA-09821 数値ラベルが無効です。

原因：Oracle 数値書式で指定されたラベルが有効ではありません。

処置：有効なラベルを再入力してください。システムのエンコーディングでコンポーネントに有効な数値を調べてください。

ORA-09822 監査ファイル名の変換に失敗しました。

原因：Oracle が AUDIT_TRAIL_DEST の初期化パラメータの値を変換できませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09823 デバイス名が長すぎます。

原因：デバイス名が長すぎるので、内部バッファに入りません。「追加情報」フィールドに、デバイス名の長さが示されます。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09824 allowmacaccess 権限を使用可能にできません。

原因：ラベルが比較されるので、Oracle は allowmacaccess 権限をオンにできませんでした。

処置：UNIX エラー番号を確認してください。Oracle に allowmacaccess 権限がない場合は、CHPRIV (1M) を使用して、\$ORACLE_HOME/bin/oracle にすでに存在する権限セットに allowmacaccess 権限を追加してください。実行ファイルにすでに allowmacaccess 権限がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09825 allowmacaccess 権限を使用不可にできません。

原因：ラベルが比較された後に、Oracle は allowmacaccess 権限をオフにできませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09826 SCLIN: アトミック・ラッチを初期化できません。

原因：システム・コール atomic_op() からエラーが戻されました。

処置：トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09827 SCLGT: アトミック・ラッチで不明なエラーが戻されました。

原因: システム・コール ATOMIC_OP() から予期しないエラーが戻されました。

処置: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09828 SCLFR: アトミック・ラッチでエラーが戻されました。

原因: システム・コール ATOMIC_OP() から予期しないエラーが戻されました。

処置: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09829 pw_createPorts: サーバーの pws_start_instance コールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_start_instance のコールに失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09830 snyAddPort: リモート・プロシージャ・コールの実行に失敗しました。

原因: MSG_RPC システム・コールでエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09831 snyStartThread: サーバー・ポート・セットの構築に失敗しました。

原因: ルーチンが、要求をリスニングするポート・セットの構築に失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09832 infoCallback: メッセージ書式が無効です。

原因: ルーチンが、書式が無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09833 addCallback: メッセージ書式が無効です。

原因: ルーチンが、書式が無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09834 snyGetPortSet: ポートの情報集めに失敗しました。

原因: PORT_STATUS システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09835 addCallback: セット内にすでにコールバック・ポートが存在します。

原因: コールバック・リストに追加されるポートは、すでにポート・セットに存在します。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09836 addCallback: コールバック・セットにポートをこれ以上追加できません。

原因: PORT_SET_ADD システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09837 addCallback: コールバック・リンクを追加割当てに失敗しました

原因: MALLOC ライブラリ・コールが、コールバック・リンクの空間を割り当てられませんでした。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09838 removeCallback: コールバック・ポートの削除に失敗しました。

原因: ポートの PORT_SET_REMOVE システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09839 removeCallback: コールバック・セットにはコールバック・ポートが存在しません。

原因: コールバック・リストから削除されるポートは、ポート・セットには存在しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09840 soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ を変換できませんでした。

処置: この ORATAB の ORACLE_SID に指定された ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09841 soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ を変換できませんでした。

処置: この ORATAB の ORACLE_SID に指定された ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09842 soacon: archmon は Named Pipe を作成できません。

原因: MKNOD() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ の作成に失敗しました。

処置: 現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの書き込み権限を持っていない可能性があります。指定されたインスタンスの DBA グループの USERID のみが、その ORACLE_SID に対する archmon を実行できます。ORACLE_HOME ディレクトリが ORATAB で正しいことを確認してください。

ORA-09843 soacon: archmon は Named Pipe を作成できません。

原因: MKNOD() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ の作成に失敗しました。

処置: 現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの書き込み権限を持っていない可能性があります。指定されたインスタンスの DBA グループの USERID のみが、その ORACLE_SID に対する archmon を実行できます。ORACLE_HOME ディレクトリが ORATAB で正しいことを確認してください。

ORA-09844 soacon: archmon は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ のオープンに失敗しました。

処置: Oracle の DBA のみが archmon を実行できます。現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの所有者またはグループ検索権限を持っているかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09845 soacon: archmon は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ のオープンに失敗しました。

処置: Oracle の DBA のみが archmon を実行できます。現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの所有者またはグループ検索権限を持っているかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09846 soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ のオープンに失敗しました。

処置: 現在データベースを実行しているオペレーティング・システムの USERID に、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索権限があるかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09847 soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ のオープンに失敗しました。

処置: 現在データベースを実行しているオペレーティング・システムの USERID に、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索権限があるかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09850 soacon: archmon は Named Pipe をロックできません。

原因: FCNTL() が ?/dbs/arch2mon_@ の書き込みロックの設定に失敗しました。

処置: archmon が、この ORACLE_SID の別の端末でアクティブでないことを確認してください。指定されたインスタンスに対して一度に許可されるのは、1 つの archmon セッションのみです。

ORA-09851 soacon: archmon は Named Pipe をロックできません。

原因: FCNTL() が ?/dbs/mon2arch_@ の読込みロックの設定に失敗しました。

処置: archmon が、この ORACLE_SID の別の端末でアクティブでないことを確認してください。指定されたインスタンスに対して一度に許可されるのは、1 つの archmon セッションのみです。

ORA-09853 snyRemovePort: 要求からのリターン・コードが無効です。

原因: コールバック・セットからポートを削除するように要求されましたが、障害コードが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09854 snyPortInfo: 要求からのリターン・コードが無効です。

原因: コールバック・セットからポート情報を収集するように要求されましたが、障害コードが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09855 removeCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: ルーチンが、フォーマットが無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09856 smpalo: PGA 割当て中に vm_allocate エラーが発生しました。

原因: vm_allocate システム・コールからエラーが戻りました。

処置: 戻されたエラーを確認してください。システム・リソースが不足している可能性があります。

ORA-09857 smprset: PGA のプロテクト中に vm_protect エラーが発生しました。

原因: vm_protect システム・コールからエラーが戻りました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09858 ~ ORA-12299

ORA-09870 spini: 最大数オープン・ファイルの初期化に失敗しました。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09871 TASDEF_NAME: ?/dbs/tasdef@.dbf の拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: テストおよび設定ページの作成中に、sltln (?/tasdef@.dbf) にエラーが発生しました。

処置: 詳細は、返される追加エラーを確認してください。

ORA-09872 TASDEF_CREATE: ?/dbs/tasdef@.dbf の作成中に作成エラーが発生しました。

原因: TASDEF ファイルを作成しようとしているときに CREATE() が失敗しました。

処置: \$(ORACLE_HOME)/dbs ディレクトリに対する許可を確認してください。

ORA-09873 TASDEF_OPEN: tasdef@.dbf ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: tasdef@.dbf ファイルをオープンできません。

処置: エラー番号を確認してください。アクセス権に問題がある可能性があります。tasdef@.dbf ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09874 TASDEF_READ: 読み込みエラーが発生しました。tasdef@.dbf ファイルを読み込めません。

原因: ?/dbs/tasdef@.dbf を読み込もうとしたときに、読み込みシステム・コールからエラーが返されました。

処置: 返されたエラー番号を確認してください。SGADEF ファイルは不正になっているか、Oracle バージョンとの互換性がない場合があります。

ORA-09875 TASDEF_WRITE: ?/dbs/tasdef@.dbf ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：書き込みコールに失敗しました。

処置：返されたエラー番号を確認してください。デバイス上の領域が不足している可能性があります。

ORA-09876 TASDEF_CLOSE: ?/dbs/tasdef@.dbf ファイルをクローズできません。

原因：CLOSE システム・コールからエラーが返されました。

処置：返されたエラー番号を確認してください。オペレーティング・システム・エラーの可能性もあります。

ORA-09877 sstascre: shmget エラーが発生しました。共有メモリー・セグメントを取得できません。

原因：shmget にエラーがあります。

処置：返されたエラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09878 sstascre/sstasat: shmat エラーが発生しました。tas 書き込みページを連結できません

原因：shmat にエラーがあります。

処置：返されたエラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09879 sstascre/sstasat: shmat エラーが発生しました。tas 読み込みページを連結できません

原因：shmat にエラーがあります。

処置：返されたエラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09880 sstasfre/sstasdel: shmdt エラーが発生しました。tas 書き込みページを連結解除できません

原因：shmdt にエラーがあります。

処置：返されたエラー番号を確認してください。

ORA-09881 sstasfre/sstasdel: shmdt エラーが発生しました。tas 読み込みページを連結解除できません

原因：shmdt にエラーがあります。

処置：返されたエラー番号を確認してください。

ORA-09882 sstasfre/sstasdel: shmctl エラーが発生しました。tas shm ページを削除できません

原因: shmctl にエラーがあります。

処置: 返されたエラー番号を確認してください。

ORA-09883 2 タスク・インタフェース: oratab ファイルが存在しません

原因: oratab ファイルが存在しません。

処置: oratab ファイルを使用する前に Oracle をインストールするか、oratab ファイルを再作成してください。

ORA-09884 2 タスク・インタフェース: SID が現在の PU と一致しません。

原因: Oracle が構成されていない別の PU で Oracle を起動しようとしているか、oratab ファイルに、この SID に対するエントリがありません。

処置: 指定された PU (oratab ファイルを参照) で、この SID を使用して Oracle を起動してください。または、この SID で新しいデータベースをインストールしてください。

ORA-09885 osnTXtt: TXIPC チャンネルを作成できません。

原因: TXIPC ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が一杯の可能性あります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-09886 osnTXtt: txipc@.trc の拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: デバッグ・チャンネルの作成中に sltln (txipc@.trc) が失敗しました。

処置: 詳細は、返される追加エラーを確認してください。

ORA-09887 osnTXtt: デバッグ・チャンネルの作成 / オープンに失敗しました。

ORA-09888 osnTXtt: txipc チャンネルの作成に失敗しました。

原因: TXIPC ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのチャンネルの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子またはシステム・ファイル表のオペレーティング・システム・エラー・コードが最大値を超えている可能性があります。システム管理者に連絡してください。

ORA-09889 osnTXtt: Oracle 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました

原因: TXIPC ドライバが、Oracle 実行プログラムへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09890 osnTXt: malloc に失敗しました。

原因: TXIPX ドライバが、十分なヒープ領域をそのコンテキスト領域バッファに割り当てるのに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09908 slkmnm: GETHOSTNAME がエラー・コードを返しました。

原因: システム・コール GETHOSTNAME からエラーが返されました。内部エラーの可能性もあります。

処置: GETHOSTNAME が別のコンテキストで正しく実行されるかどうかを確認してください。正しく実行された場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09909 スクラッチ・バッファの malloc に失敗しました。

原因: 一時バッファに必要なメモリーが割り当てられません。追加情報フィールドに、Oracle が割り当てようとしたバイト数が示されます。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。システムのメモリーが不足している可能性があります。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09910 ユーザーの Oracle パスワード・ファイル・エントリが見つかりません。

原因: Oracle パスワード・フィールドに、ユーザーのエントリがありません。

処置: データベース管理者に依頼して、ORAPASSWD を実行して、パスワード・エントリをインストールしてください。

ORA-09911 ユーザーのパスワードが正しくありません。

原因: ユーザーが入力したパスワードは無効です。

処置: 正しいパスワードを入力してください。

ORA-09912 名前バッファの malloc に失敗しました。

原因: Oracle は、DBA およびオペレータ・ユーザー名に使用する 1 つまたは両方のバッファ・メモリーが割り当てられませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。システムのメモリーが不足している可能性があります。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09913 ダミー名の malloc に失敗しました。

原因: Oracle は、ユーザー・パスワードの暗号化に使用するユーザー名のメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。システムのメモリーが不足している可能性があります。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09914 Oracle パスワード・ファイルをオープンできません。

原因: Oracle は、パスワード・ファイルをオープンして読み取ることができませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。エラー番号が、ファイルが存在しないことを示している場合は、データベース管理者に依頼し、ORAPASSWD を実行してファイルを作成してください。十分な許可がないことを示している場合は、データベース管理者に依頼して、許可を変更してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09915 パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: Oracle がパスワードを暗号化できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09916 必要なパスワードが指定されていません。

原因: ユーザーが internal で接続しようとしたましたが、パスワードが指定されていません。

処置: internal で再度接続し、パスワードを指定してください。

ORA-09918 SQL*Net からユーザー権限を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの権限セットを取り出すことができませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09919 専用サーバーのラベルを設定できません。

原因: Oracle が、サーバー専用のラベルに必要な値を設定できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、Oracle 実行プログラムの権限を確認してください。少なくとも ALLOWMACACCESS 権限が必要です。

ORA-09920 接続から重要度ラベルを取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの重要度ラベルを取り出すことができませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09921 接続から情報ラベルを取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの情報ラベルを取り出すことができませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09922 プロセスを起動できません - バックグラウンド・ログ・ディレクトリが正しく作成されていません

原因: バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置: 初期化パラメータ BACKGROUND_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次の条件をすべて満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。
2. その名前が、ファイルではなくディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09923 プロセスを起動できません - ユーザー・ログ・ディレクトリが正しく作成されていません

原因: 専用サーバー・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置: 初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次の条件をすべて満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。
2. その名前が、ファイルではなくディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09924 プロセスを起動できません - コア・ダンプ・ディレクトリが正しく作成されていません

原因: 例外イベントで Oracle プロセスによって生成されるコア・ダンプが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置: 初期化パラメータ CORE_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次の条件をすべて満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。
2. その名前が、ファイルではなくディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09925 監査証拠ファイルを作成できません。

原因: Oracle が、監査証拠レコードを格納するファイルを作成できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09926 サーバーの有効な権限を設定できません。

原因: 専用サーバーが、固有の権限セットを設定できませんでした。

処置: Oracle 実行可能プログラムに付与されている権限を確認してください。少なくとも ALLOWMACACCESS 権限が必要です。

ORA-09927 サーバーのラベルを設定できません。

原因: Oracle が、サーバーのラベルに新しい値を設定できませんでした。

処置: \$ORACLE_HOME/bin/oracle の権限を確認してください。
\$ORACLE_HOME/bin/oracle に ALLOWMACACCESS 権限が付与されているかどうかを確認してください。

ORA-09928 サーバーのラベルをリストアできません。

原因: Oracle が、サーバーのラベルをデータベースが拡張される前の値にリストアできませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09929 2 つのラベルに対する下限が無効です

原因: 2 つのラベルに対する下限操作の結果が無効になりました。

処置: 別の 2 つのラベルを使用して操作を再試行してください。システム・エンコーディング・ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09930 2つのラベルに対する上限が無効です

原因: 2つのラベルに対する上限操作の結果が無効になりました。

処置: 別の2つのラベルを使用して操作を再試行してください。システム・エンコーディング・ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09931 読み込みのための Oracle パスワード・ファイルをオープンできません

原因: パスワード・ファイルをオープンして読み取ろうとしましたが、失敗しました。

処置: Oracle ユーザーがオープンできないように、ファイルに対して権限が変更されていないかを確認してください。

ORA-09932 Oracle パスワード・ファイルのクローズに失敗しました。

原因: パスワード・ファイルがクローズできませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09933 古いパスワード・ファイルの削除に失敗しました。

原因: 古いパスワード・ファイルの削除に失敗しました。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09934 現行のパスワード・ファイルの旧版へのリンクに失敗しました。

原因: 古いパスワード・ファイルが保存されているため、Oracle はリンクを作成できませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09935 現行のパスワード・ファイルのリンク解除に失敗しました。

原因: Oracle が、現行のパスワード・ファイルの保存を完了できませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09936 書き込みのための Oracle パスワード・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: Oracle が、パスワード・ファイルを作成できませんでした。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09937 Oracle パスワード・ファイルのモード変更失敗しました

原因: Oracle が、パスワード・ファイルの読取り専用への変更に失敗しました。

処置: 詳細は、UNIX エラー番号を確認してください。

ORA-09938 シグナル・ハンドラの保存に失敗しました。

原因: Oracle は、選択されたシグナル・ハンドラの前の値を保存できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09939 シグナル・ハンドラのリストアに失敗しました。

原因: Oracle は、選択されたシグナル・ハンドルの前の値をリストアできませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09940 Oracle パスワード・ファイルのヘッダーが破損しています

原因: 1つのパスワード・ファイルのヘッダーが、Oracle の予期した書式になっていませんでした。

処置: 両方のファイルのヘッダーを確認してください。ヘッダーの書式は、「FILE VERSION: N.N.N.N.N EXECUTABLE VERSION: N.N.N.N.N」である必要があります。N は数値です。破損しているファイルを削除して、ORAPASSWD を再実行してください。

ORA-09941 Oracle パスワードまたはインストーラのバージョンがファイルより古いです。

原因: 実行中の ORAPASSWD またはインストーラのバージョンが、Oracle パスワード・ファイルのバージョンより古くなっています。ファイルのバージョンは、フォーマットを変更したときに変更されるので、このエラーは、実行可能プログラムが、ファイル作成時と異なるフォーマットを使用していることを意味しています。

処置: ファイルのバージョン以降のインストーラまたは ORAPASSWD を実行してください。

ORA-09942 Oracle パスワード・ファイルのヘッダーの書込みに失敗しました。

原因: Oracle パスワード・ファイルのヘッダーに書き込もうとしましたが、エラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのエラー番号を確認してください。ファイル・システムが一杯になっている可能性があります。

ORA-09943 パスワード・リスト・コンポーネントへのメモリー割当てに失敗しました。

原因: パスワード・ファイルのエントリ・リストの作成中に、Oracle が複数のコンポーネントにメモリーを割り当てました。割当ての1つが失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのエラー番号を確認してください。システムのメモリーが不足している可能性があります。

ORA-09944 パスワードのエントリが破損しています。

原因: Oracle パスワード・ファイルのエントリが、Oracle の予期した書式になっていませんでした。

処置: 破損しているファイルを削除して、ORAPASSWD を再実行してください。

ORA-09945 監査証跡ファイルの初期化ができません。

原因: Oracle が、監査証跡として使用されるファイルへのヘッダー情報の書込みに失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09946 バッファに対しファイル名が長すぎます。

原因: ファイル名を格納するバッファが、生成された名前には小さすぎると判別されました。トレース・ファイルまたは監査ファイルのいずれかの変換後の名前が、使用可能な最大値を超えている可能性があります。多くのポートでは、256 文字が最大値です。

処置: ファイル名を短くしてください。

ORA-09947 接続属性構造を割り当てられません

原因: Oracle が SQL*Net の接続から属性の保持に必要なメモリーを割り当てることができませんでした。「追加情報」フィールドに、Oracle が割り当てようとしたバイト数が示されます。

処置: UNIX エラー番号を確認してください。システムのメモリーが不足している可能性があります。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09948 プロセス情報ラベルの取出しに失敗しました。

原因: Oracle がプロセスの情報ラベルの取得に失敗しました。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09949 クライアント・オペレーティング・システム権限を取得できません

原因: Oracle がクライアント・プロセスのオペレーティング・システム権限を取得できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09950 サーバー・オペレーティング・システム権限を取得できません

原因: Oracle がオペレーティング・システムから権限を取得できませんでした。

処置: 通常、これは発生しないエラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09951 ファイルを作成できません。

原因: Oracle がファイルを作成できませんでした。

処置: UNIX エラー番号を確認して、オペレーティング・システム・エラーの可能性について確認してください。エラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09952 scgcmn: lk_open_convert から予期しない値が戻されました: オープンに失敗しました

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09953 scggc: ロック変換から予期しない値が戻されました

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: ロック・マネージャのエラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09954 scgcc: ロック・クローズのコールバックから予期しない値が戻されました

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: ロック・マネージャのエラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09955 scgcan: ロックの取消中に予期しない値が戻されました

原因: DLM システム・サービス x が、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09956 scgcm: 予期しないロック・ステータス条件が戻されました

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージがあれば確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09957 IMON に終了要求を送信できません。

原因: IMON への終了シグナルの送信に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09958 IMON: 同じ Oracle PID を持つ 2 つのプロセスがアクティブになっています。

原因: IMON プロセスが、サーバー・プロセスのエントリを追加できませんでした。別のアクティブなプロセスがスロットを占有しています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09959 IMON: プロセスの削除に失敗しました。

原因: IMON プロセスが、プロセス ID 配列からサーバー・プロセスを削除できませんでした。プロセスのエントリが見つかりません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09960 終了シグナルのシグナル・ハンドラを確立できません

原因: Oracle が、インスタンスの停止を通知するシグナル・ハンドラを設定できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09961 終了シグナル・ハンドラをリストアできません

原因: Oracle が、終了シグナル・ハンドラに前の値を設定できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09962 scggrc で lk_group_create エラーが発生しました。

ORA-09963 scggra で lk_group_attach エラーが発生しました。

ORA-09964 scggrd で lk_group_detach エラーが発生しました。

ORA-09966 scumnt: ?/dbs/lk の拡張中に変換エラーが起きました。

原因: SCUMNT 内の SLTLN の障害です。

処置: 詳細は、返された追加エラーを確認してください。

ORA-09967 scumnt: ファイルを作成またはオープンできません。

原因: Open システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09968 scumnt: ファイルをロックできません。

原因: ロック・ファイル・オペレーティング・システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09969 scurls: ロック・ファイルをクローズできません。

原因: CLOSE システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09974 skxfidini: SDI チャネルの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルが正しく初期化できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09975 kxfspini: SDI プロセスの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルが連結できませんでした。

処置: SDI プロセス固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09976 skxfqadini: ポートの作成でエラーが発生しました。

原因: 通信エンド・ポイントが作成できませんでした。

処置: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09977 skxfqhini: 接続でエラーが発生しました

原因: プロセスが他のエンド・ポイントと交信できませんでした。

処置: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09978 skxfqhdel: 別のエンドポイントからの切断でエラーが発生しました。

原因: 他のエンド・ポイントから正しく切断されませんでした。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09979 skxfqhsnd: 別のエンドポイントへのメッセージの送信でエラーが発生しました。

原因: 既存のエンド・ポイントにメッセージを送信できませんでした。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09980 skxfqdrvc: 別のエンドポイントからのメッセージの受信でエラーが発生しました。

原因: メッセージを受信しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09981 skxfqddreg: SDI バッファ・プールへのページの追加でエラーが発生しました。

原因: SDI バッファ・プールへページを追加できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09982 skxfqddrg: SDI バッファ・プールからのページの削除でエラーが発生しました

原因: SDI バッファ・プールへのページ指定を削除できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09983 skxfidsht: SDI チャネルの停止でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルを停止できませんでした。

処置: SDI ツールを使用して、SDI 永続リソースを調べてください。すべてのプロセスが正しく終了しているかどうか、インスタンスが安全に停止されているかどうかを調べてください。カレント・インスタンスに関連付けられている、残りの SDI チャネル ID を削除してください。

ORA-09984 SGA ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgadef\$ORACLE_SID.dbf は存在しません。

原因: ファイルが存在しないか、アクセスできません。

処置: インスタンスを再起動して、SGA 定義ファイルを作成してください。

ORA-09985 SGA 定義ファイルを読み取ることができませんでした

原因: UNIX の Read() 操作に失敗しました。

処置: エラー番号を確認して、適切な処置を行ってください。

ORA-09986 SGA 定義ファイルから読み取ったバイト数が正しくありません

原因: struct SKGMSDEF サイズが、SGA ファイルから読み取ったバイト数と異なりません。

処置: 2 つの struct 定義を比較して、これらのサイズと構造体が一致するように変更してください。

ORA-09987 READ-ONLY モードで SGA に連結できません

原因: インスタンスが起動していないか、SGA セグメントが読取り可能ではありません。

処置: インスタンスが起動しているかどうか、SGA セグメントに読取り権限が設定されているかどうかを確認してください。

ORA-09988 SGA の連結解除中にエラーが発生しました

原因: SKGMSDEF struct が破損しているか、セグメント・アドレスが修正されていません。

処置: インスタンスを安全に停止し、SGA セグメントを再度マウントしてください。

ORA-09989 無効な skgmsdef 構造体ポインタを使用しようとした

原因: SKGMSDEF struct へのポインタが妥当性検査されていません。

処置: SKGMSDEF struct ポインタに有効な値を割り当ててから、使用してください。

ORA-10560 block type '*string*'

原因: 他のエラーの詳細のためのブロック型をレポートします。

処置: 関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-10561 block type '*string*', data object# *string*

原因: 他のエラーの詳細のためのブロック型およびデータ・オブジェクト番号をレポートします。

処置: 関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-10562 Error occurred while applying redo to data block (file# *string*, block# *string*)

原因: エラー・スタック上の他のエラーを参照してください。

処置: エラーが発生した原因およびデータ・ブロックの重要度を調べてください。ユーザーがリカバリによるこのデータ・ブロックの破損を許可する場合、通常、メディア・リカバリおよびスタンバイ・データベース・リカバリは継続できます。

ORA-10563 Test recovery had to corrupt data block (file# *string*, block# *string*) in order to proceed

原因: テスト・リカバリが完了しました。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。テスト・リカバリの結果のサマリーは、エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10564 tablespace *string*

原因: 他のエラーの詳細のための表領域名をレポートします。

処置: 関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-10565 Another test recovery session is active

原因: アクティブにできるテスト・リカバリ・セッションは1つのみです。別のテスト・リカバリ・セッションがアクティブです。

処置: 別のテスト・リカバリ・セッションが完了するまで待機してください。

ORA-10566 Test recovery has used all the memory it can use

原因: テスト・リカバリがメモリー内の REDO をテストしています。使用可能なすべてのメモリーを消費したため、この処理は継続されません。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。テスト・リカバリの結果のサマリーは、エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10567 Redo is inconsistent with data block (file# *string*, block# *string*)

原因: このエラーの原因には、次の 2 つが考えられます。

1. Oracle によって発行された書込みが、基盤となるオペレーティング・システムまたは記憶域システムによって失われた。
2. Oracle の内部エラー。

処置: エラーが発生した原因およびデータ・ブロックの重要度を調べてください。ユーザーがリカバリによるこのデータ・ブロックの破損を許可する場合、通常、メディア・リカバリおよびスタンバイ・データベース・リカバリは継続できます。

ORA-10568 Failed to allocate recovery state object: out of SGA memory

原因: SGA メモリーが不足しています。

処置: インスタンスを再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-10570 Test recovery complete

原因: テスト・リカバリが完了しました。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。テスト・リカバリの結果のサマリーは、エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10571 Test recovery canceled

原因: ユーザーがテスト・リカバリを取り消しました。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。テスト・リカバリの結果のサマリーは、エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10572 Test recovery canceled due to errors

原因: エラー・スタック上の他のエラーを参照してください。

処置: エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。処置が必要ない場合もあります。テスト・リカバリの結果のサマリーは、エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10573 Test recovery tested redo from change *string* to *string*

原因: このメッセージは、テストされたテスト・リカバリの範囲を示します。

処置: 処置は必要ありません。エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10574 Test recovery did not corrupt any data block

原因: このメッセージは、テスト・リカバリの結果のサマリーです。

処置: 処置は必要ありません。エラー・スタック上の他のメッセージを参照してください。

ORA-10575 Give up restoring recovered datafiles to consistent state: out of memory

原因: 一貫性のある状態を維持するために、リカバリされたデータ・ファイルをリストアするためのメモリーが不足しています。

処置: これは警告メッセージです。このエラーが発生した直後は、リセットログのあるデータベースをオープンできない場合があります。ただし、メディア・リカバリおよびスタンバイ・リカバリは継続でき、それによってデータ・ファイルをリカバリし、再び一貫性のある状態にできます。

ORA-10576 Give up restoring recovered datafiles to consistent state: some error occurred

原因: 問題の原因は、アラート・ファイルまたはスタック上の他のエラーを参照してください。

処置: これは警告メッセージです。このエラーが発生した直後は、リセットログのあるデータベースをオープンできない場合があります。ただし、メディア・リカバリおよびスタンバイ・リカバリは継続でき、それによってデータ・ファイルをリカバリし、再び一貫性のある状態にできます。

ORA-10577 Can not invoke test recovery for managed standby database recovery

原因: 管理スタンバイ・データベース・リカバリにテスト・リカバリ・オプションが使用されています。

処置: テスト・リカバリ・オプションを削除するか、手動のテスト・スタンバイ・データベース・リカバリを起動してください。

ORA-10578 Can not allow corruption for managed standby database recovery

原因: 管理スタンバイ・データベース・リカバリに破損を許可するオプションが使用されています。

処置: 破損を許可するオプションを削除するか、手動のスタンバイ・データベース・リカバリを起動してください。

ORA-10579 Can not modify control file during test recovery

原因: リカバリを継続するために、テスト・リカバリは制御ファイルを変更する必要がありますが、テスト・リカバリによる制御ファイルの変更は許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。REDO ストリームに入れられるのは、この時点までです。

ORA-10580 Can not modify datafile header during test recovery

原因: リカバリを継続するために、テスト・リカバリはデータ・ファイルのヘッダーを変更する必要がありますが、テスト・リカバリによるデータ・ファイルのヘッダーの変更は許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。REDO ストリームに入れられるのは、この時点までです。

ORA-10581 Can not modify redo log header during test recovery

原因: リカバリを継続するために、テスト・リカバリは REDO ログのヘッダーを変更する必要がありますが、テスト・リカバリによる REDO ログのヘッダーの変更は許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。テスト・リカバリは正常終了しました。REDO ストリームに入れられるのは、この時点までです。

ORA-10582 The control file is not a backup control file

原因: ユーザーはバックアップ制御ファイルのテスト・リカバリを要求しましたが、指定した制御ファイルはバックアップ制御ファイルではありません。

処置: バックアップ制御ファイルを使用するか、USING BACKUP CONTROLFILE オプションを使用しないでください。

ORA-10583 Can not recover file *string* renamed as missing during test recovery

原因: リカバリされるファイルの 1 つの名前が変更されたため、見つかりません。

処置: 正しいファイル名に変更するか、オフラインにしてください。

ORA-10584 Can not invoke parallel recovery for test recovery

原因: テスト・リカバリとパラレル・リカバリの両方が要求されています。

処置: どちらか 1 つのリカバリ・オプションを削除してください。

ORA-10585 Test recovery can not apply redo that may modify control file

原因: テスト・リカバリで、制御ファイルを変更する可能性のある特別な REDO が見つかりました。

処置: 処置は必要ありません。開始点からリカバリ可能な点まで、テスト・リカバリは正常に実行されています。

ORA-10586 Test recovery had to corrupt 1 data block in order to proceed

原因: このメッセージは、テスト・リカバリの結果のサマリーです。テストされる REDO の範囲を適用するために、Oracle は 1 つのブロックを破損させる必要がある場合があります。

処置: 問題の詳細については、アラート・ログを参照してください。

ORA-10587 Invalid count for ALLOW n CORRUPTION option

原因: ALLOW n CORRUPTION オプションに指定された数値が大きすぎます。

処置: 小さい数値を使用してください。

ORA-10588 Can only allow 1 corruption for normal media/standby recovery

原因: ALLOW n CORRUPTION オプションに指定された数値が大きすぎます。

処置: 0 または 1 つの破損に変更してください。

ORA-10589 Test recovery had to corrupt *string* data blocks in order to proceed

原因: このメッセージは、テスト・リカバリの結果のサマリーです。テストされる REDO の範囲を適用するために、Oracle はメッセージで示される数のデータ・ブロックを破損させる必要がある場合があります。

処置: 問題の詳細については、アラート・ログを参照してください。

ORA-10614 Operation not allowed on this segment

原因: このプロシージャは、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域のセグメント上のみで使用できます。

処置: セグメント名および型を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10615 Invalid tablespace type for temporary tablespace

原因: AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域は、一時表領域として使用できません。

処置: 表領域名を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10616 Operation not allowed on this tablespace

原因: AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域上では、この操作を実行できません。

処置: 表領域名を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10617 Cannot create rollback segment in this tablespace

原因: ロールバック・セグメントは、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域で作成できません。

処置: 表領域名を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10618 Operation not allowed on this segment

原因: この DBMS_SPACE 操作は、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域のセグメント上では許可されていません。

処置: セグメント名および型を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10620 Operation not allowed on this segment

原因: セグメントの空きリスト記憶域パラメータは、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT を指定された表領域で変更できません。

処置: セグメント名を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-10621 data block does not belong to the segment

原因: データ・ブロックの指定されたファイル番号およびブロック番号は、セグメントに属していません。

処置: セグメント、ファイル番号およびブロック番号を再確認し、それから文を再発行してください。

ORA-12000 マテリアライズド・ビュー・ログはすでに表 'string' に存在します

原因: すでにマテリアライズド・ビュー・ログがある表に対して、マテリアライズド・ビュー・ログを作成しようとしてしました。各マスター表は、マテリアライズド・ビュー・ログを1つのみ持つことができます。

処置: 表に対するすべてのマテリアライズド・ビューは、その表に対する同一のマテリアライズド・ビューを使用できます。既存のログを変更する必要がある場合は、ALTER MATERIALIZED VIEW LOG コマンドを使用するか、またはマテリアライズド・ビュー・ログを削除してから再作成してください。

ORA-12001 ログを作成できません: 表 'string' にはすでにトリガーがあります

原因: マテリアライズド・ビュー・ログは、マスター表に対するトリガーで一杯です。トリガーは作成できません。

処置: マテリアライズド・ビュー・ログを作成するには、マスターにあるカレント・トリガーを削除してください。

ORA-12002 マテリアライズド・ビュー・ログは表 "string"."string" にありません。

原因: マスター表にマテリアライズド・ビュー・ログがありません。

処置: マスター表にマテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

ORA-12003 マテリアライズド・ビュー "string"."string" は存在しません。

原因: 指定された所有者・名前のマテリアライズド・ビューが存在しません。

処置: 入力を調べるか、マテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-12004 REFRESH FAST はマテリアライズド・ビュー "string"."string" に使用できません。

原因: マテリアライズド・ビュー・ログが存在しないか、使用できません。

処置: 表全体を再インスタンス化する REFRESH のみを使用してください。マテリアライズド・ビュー・ログが存在し、マテリアライズド・ビューがマテリアライズド・ビュー・ログを使用できる形式の場合、マテリアライズド・ビューが次回リフレッシュされるときから REFRESH FAST が使用できます。

ORA-12005 過去の時刻に自動リフレッシュをスケジュールできません。

原因: 過去の時刻に対して、自動マテリアライズド・ビュー・リフレッシュをスケジュールしようとした。

処置: 将来の時刻を選択してください。

ORA-12006 同じユーザー名のマテリアライズド・ビューがすでに存在します。

原因: 既存のマテリアライズド・ビューと同じ名前を持つマテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: 別の名前を使用してマテリアライズド・ビューを作成するか、または既存のマテリアライズド・ビューを削除してください。

ORA-12007 マテリアライズド・ビュー再利用パラメータは一貫性がありません。

原因: CREATE MATERIALIZED VIEW.. または CREATE MATERIALIZED VIEW LOG..REUSE コマンドの REUSE の直後に、矛盾したパラメータが指定されました。

処置: スタック上のその他のメッセージを参照して、問題を解決してください。

ORA-12008 マテリアライズド・ビューのリフレッシュ・パスでエラーが発生しました。

原因: 表 SNAP\$_mview_name がビュー MVIEW\$_mview_name から行を読み取りました。ビューは、マスター表のビューです（マスターはリモート・サイトにある可能性があります）。このパスになんらかのエラーがあると、リフレッシュ時にエラーが発生します。高速リフレッシュでは、表: master_owner.MLOG\$_master も参照されます。

処置: スタック上のその他のメッセージを参照して、問題を解決してください。
オブジェクト SNAP\$_mview_name、MVIEW\$_mview_name、mowner.master@dblink、mowner.MLOG\$_master@dblink が存在することを確認してください。

ORA-12009 マテリアライズド・ビューに LONG 列を含むことはできません

原因: LONG 列でマテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: LONG 列ではマテリアライズド・ビューを作成しないでください。

ORA-12010 SYS 所有の表にマテリアライズド・ビュー・ログは作成できません。

原因: SYS が所有している表に対してマテリアライズド・ビュー・ログを作成しようとした。CREATE MATERIALIZED VIEW LOG が表にトリガーを作成しようとしたが、トリガーは SYS 表には作成できません。

処置: SYS 表にマテリアライズド・ビュー・ログを作成しないでください。

ORA-12011 string ジョブの実行に失敗しました

原因: dbms_ijob.run で、実行する必要がある 1 つ以上のジョブからエラーが検出されました。

処置: ジョブが失敗した原因は、アラート・ログを参照してください。

ORA-12012 ジョブ *string* の自動実行エラーが発生しました

原因: ジョブの自動実行中になんらかのエラーが発生しました。

処置: 実行が失敗した理由の詳細は、付随するエラーを参照してください。

ORA-12013 更新可能なマテリアライズド・ビューは高速リフレッシュが可能なように単純である必要があります。

原因: 更新可能なマテリアライズド・ビュー問合せに、結合、副問合せ、UNION、CONNECT BY、ORDER BY または GROUP BY 句が含まれています。

処置: マテリアライズド・ビューをより単純にしてください。結合が必要な場合は、複数の単純マテリアライズド・ビューを作成して、それらに対するビューを作成してください。

ORA-12014 表 '*string*' に主キー制約がありません

原因: CREATE MATERIALIZED VIEW LOG コマンドが WITH PRIMARY KEY オプション付きで発行されましたが、マスター表には、主キー制約がないか使用不可です。

処置: WITH ROWID オプションのみを使用してコマンドを再発行してください。または、マスター表に主キー制約を作成してください。または、既存の主キー制約を使用可能にしてください。

ORA-12015 複合問合せから高速リフレッシュ・マテリアライズド・ビューを作成できません。

原因: 複合問合せでは、ROWID および主キー制約はサポートされていません。

処置: REFRESH FORCE または REFRESH COMPLETE オプションのみを使用してコマンドを再発行してください。または、単純マテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-12016 マテリアライズド・ビューはすべての主キー列を含むわけではありません。

原因: マテリアライズド・ビューをインスタンス化する問合せに、マスターの主キー制約の列全体が含まれていません。

処置: マテリアライズド・ビュー問合せに、マスターの主キー列全体を含むようにしてください。または、ROWID マテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-12017 主キーのマテリアライズド・ビュー '*string*' を ROWID のマテリアライズド・ビューに変更できません。

原因: 主キー・マテリアライズド・ビューを ROWID マテリアライズド・ビューに変換しようとした。

処置: 主キー・マテリアライズド・ビューの ROWID マテリアライズド・ビューへの変換はサポートされていません。ROWID を使用して新しいマテリアライズド・ビューを作成するか、または削除してから ROWID を使用してマテリアライズド・ビューを再作成してください。

ORA-12018 "string"."string" のコード生成中に次のエラーが発生しました。

原因: 示されたマテリアライズド・ビューのリフレッシュ操作は、エラーが原因で再生成されませんでした。

処置: 次のエラー・メッセージで示されている問題を修正し、操作を再試行してください。

ORA-12019 マスター表はリモート・オブジェクトに対するシノニムです

原因: リモート・シノニムに、マテリアライズド・ビューまたはマテリアライズド・ビュー・ログを作成することはサポートされていません。

処置: リモート・シノニムにマテリアライズド・ビューまたはマテリアライズド・ビュー・ログを作成しないでください。

ORA-12020 マテリアライズド・ビュー *string* は登録されていません。

原因: 登録されていないマテリアライズド・ビューを登録解除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12021 マテリアライズド・ビュー "string"."string" は破損しています。

原因: 示されたマテリアライズド・ビューは、有効ではありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12022 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログにはすでに ROWID があります。

原因: 示された表のマテリアライズド・ビュー・ログには、すでに ROWID 情報があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12023 マテリアライズド・ビュー "string"."string" に索引がありません。

原因: 指定された ROWID マテリアライズド・ビューには、基礎となる表の ROWID 列に必要な索引がありません。

処置: マテリアライズド・ビューを削除し、再作成してください。

ORA-12024 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログには主キー列がありません。

原因: 示された表のマテリアライズド・ビュー・ログには、主キー情報がありません。

処置: ALTER MATERIALIZED VIEW コマンドを使用して、マテリアライズド・ビュー・ログに主キーを追加してください。

ORA-12025 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログにはすでに主キーがあります。

原因: 示された表のマテリアライズド・ビュー・ログには、すでに主キー列があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12026 無効なフィルタ列が検出されました

原因: 指定されたフィルタ列のうち1つ以上が存在しないか、主キー列であるかまたはオブジェクト識別子に基づいた主キーでした。

処置: 指定されたすべてのフィルタ列がマスター表に存在することを確認してください。また、フィルタ列のリストの中に、主キー列またはオブジェクト識別子に基づいた主キーが含まれていないことを確認してください。

ORA-12027 フィルタ列が重複しています

原因: 指定されたフィルタ列のうち1つ以上が、すでにマテリアライズド・ビュー・ログに記録されています。

処置: マテリアライズド・ビュー・ログ表を記述し、すでにマテリアライズド・ビュー・ログに記録されているフィルタ列を使用して、SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12028 マテリアライズド・ビュー型はマスター・サイト *string* ではサポートされていません。

原因: Oracle8 より前のマスター・サイトでは、高速リフレッシュを実行可能な主キーまたは副問合せマテリアライズド・ビューをサポートできません。

処置: ROWID マテリアライズド・ビューを作成してください。または、Oracle8 サイトからマスター表を使用してください。

ORA-12029 LOB 列はフィルタ列として使用できません。

原因: LOB 列をフィルタ列として使用しようとしてしました。

処置: フィルタ列リストから LOB 列を削除して、コマンドを再試行してください。

ORA-12030 高速リフレッシュ・マテリアライズド・ビューを作成できません。

原因: マテリアライズド・ビュー・ログが存在しないか、または高速リフレッシュを実行するためにマテリアライズド・ビューが必要とする情報が記録されていません。

処置: マテリアライズド・ビュー・ログが存在し、必要な情報が記録されていることを確認してください。

- ROWID マテリアライズド・ビューでは、マスター表の ROWID が記録されている必要があります。
- 主キー・マテリアライズド・ビューでは、マスター表の主キー列が記録されている必要があります。
- 副問合せマテリアライズド・ビューでは、フィルタ列、主キーおよび ROWID の値がすべて記録されている必要があります。

ORA-12031 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログからは主キー列を使用できません。

原因：マテリアライズド・ビュー・ログに、記録された主キー列がないか、または主キー列に関連するタイムスタンプが、前回のリフレッシュ時刻より新しい時刻です。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。必要な場合は、マテリアライズド・ビュー・ログに主キー列を追加してください。

ORA-12032 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログからは ROWID 列を使用できません。

原因：マテリアライズド・ビュー・ログに、記録された ROWID 列がないか、または ROWID 列に関連するタイムスタンプが、前回のリフレッシュ時刻より新しい時刻です。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。必要な場合は、マテリアライズド・ビュー・ログに ROWID 列を追加してください。

ORA-12033 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログからはフィルタ列を使用できません。

原因：マテリアライズド・ビュー・ログに、記録されたフィルタ列がないか、またはフィルタ列に関連するタイムスタンプが、前回のリフレッシュ時刻より新しい時刻です。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。必要な場合は、マテリアライズド・ビュー・ログにフィルタ列を追加してください。

ORA-12034 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログは最新のリフレッシュよりも新しいものです。

原因：マテリアライズド・ビュー・ログは、前回のリフレッシュよりも新しいものです。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12035 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログを使用できませんでした。

原因：マテリアライズド・ビュー・ログが存在しなかったか、または使用できませんでした。

処置：表全体を再インスタンス化する REFRESH のみを使用してください。マテリアライズド・ビュー・ログが存在し、マテリアライズド・ビューがマテリアライズド・ビュー・ログを使用できる形式の場合、マテリアライズド・ビューが次回リフレッシュされるときから REFRESH FAST が使用できます。

ORA-12036 更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログが空ではありません。マテリアライズド・ビューをリフレッシュしてください。

原因: 更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログが、空ではありませんでした。更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューが主キー・マテリアライズド・ビューに変更される前に、更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログを空にする必要があります。

処置: マテリアライズド・ビューのリフレッシュによって、更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログが空になっていることを確認してから、更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューを主キー・マテリアライズド・ビューに変換してください。

ORA-12037 エクスポート書式が不明です

原因: 未知のエクスポート・バージョンによってエクスポートされたマテリアライズド・ビューをインポートしようとした（たとえば、インポートするサイトより新しいリリースでエクスポートした場合）。

処置: インポートするサイトが識別できるバージョンのエクスポートを使用して、ファイルを再エクスポートしてください。

ORA-12039 ローカル・ロールバック・セグメント "string" を使用できません。

原因: CREATE MATERIALIZED VIEW コマンドの中でローカル・ロールバック・セグメントが指定されましたが、自動リフレッシュ・パラメータが指定されませんでした。このため、マテリアライズド・ビューを自動的にリフレッシュするためのリフレッシュ・グループが作成されず、ローカル・ロールバック・セグメントを将来の使用のために登録できませんでした。

処置: 自動リフレッシュ・パラメータを指定して、リフレッシュ・グループを作成可能にするか、ローカル・ロールバック・セグメントを指定しないでください。

ORA-12040 マスター・ロールバック・セグメント・オプションがマスター・サイト *string* でサポートされていません

原因: 現在の操作で、マスター・ロールバック・セグメントを指定しようとした。カレント・マテリアライズド・ビューのマスター・サイトでは、マテリアライズド・ビュー操作で使用するロールバック・セグメントを指定できません。この機能は、Oracle8 以降のマスター・サイトでのみサポートされています。

処置: 今回の操作ではマスター・ロールバック・セグメントを指定しないか、または新しいマスター・サイトを選択してください。

ORA-12041 索引構成表 "string"."string" の ROWID を記録できません。

原因: 索引構成表に ROWID がありません。そのため、索引構成表の ROWID を記録するマテリアライズド・ビュー・ログが作成できません。

処置: CREATE MATERIALIZED VIEW コマンドを使用している場合は、WITH ROWID オプションを含めないでください。マスター表が索引構成表で、ALTER MATERIALIZED VIEW コマンドを使用する場合は、ADD ROWID オプションを含めないでください。

ORA-12042 シングル・プロセス・モードで job_queue_processes は変更できません。

原因：シングル・プロセス・モードで job_queue_processes を変更しようとしてしました。

処置：シングル・プロセス・モードでは、job_queue_processes を設定しないでください。

ORA-12043 CREATE MATERIALIZED VIEW オプションが無効です。

原因：無効なオプションが CREATE MATERIALIZED VIEW 文で使用されました。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12044 CREATE MATERIALIZED VIEW LOG オプションが無効です。

原因：無効なオプションが CREATE MATERIALIZED VIEW LOG 文で使用されました。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12045 ALTER MATERIALIZED VIEW LOG オプションが無効です。

原因：無効なオプションが ALTER MATERIALIZED VIEW LOG 文で使用されました。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12051 ON COMMIT 属性は他のオプションとの互換性がありません

原因：自動定期的リフレッシュなどのその他のリフレッシュ・オプションとは互換性がない、ON COMMIT リフレッシュ属性が指定されました。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12052 マテリアライズド・ビュー *string.string* を高速リフレッシュできません。

原因：特定の表の ROWID が定義内で欠落したか、または外部結合の内部表で、結合列に UNIQUE 制約がありません。

処置：FORCE または COMPLETE オプションを指定してください。作成中にこのエラーが発生した場合は、マテリアライズド・ビュー定義が変更された可能性があります。マテリアライズド・ビューのドキュメントを参照してください。

ORA-12053 これは有効なネストしたマテリアライズド・ビューではありません。

原因：このマテリアライズド・ビューの定義の FROM 句にあるオブジェクトのリスト間に、いくつかの依存関係があります。

処置：有効なネストの種類については、ドキュメントを参照してください。

ORA-12054 マテリアライズド・ビューに ON COMMIT リフレッシュ属性を設定できません。

原因：マテリアライズド・ビューがコミット時にリフレッシュの条件を満たしていません。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12055 マテリアライズド・ビュー定義には既存のマテリアライズド・ビューとの循環依存性が含まれています。

原因: マテリアライズド・ビューの間合せ定義に、既存のマテリアライズド・ビューとの循環依存性が含まれています。

処置: マテリアライズド・ビューの間合せ定義を変更してください。

ORA-12056 REFRESH メソッドが無効です。

原因: NEVER REFRESH オプションは、次の条件では使用できません。

- マテリアライズド・ビューが更新可能である。
- マテリアライズド・ビューが ON COMMIT をリフレッシュしている。
- 自動リフレッシュ・オプションが指定されている。

処置: 更新可能なマテリアライズド・ビューに対しては、REFRESH FORCE、REFRESH FAST または REFRESH COMPLETE を使用して SQL コマンドを再発行してください。読取り専用マテリアライズド・ビューに対しては、ON DEMAND を使用して SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12057 マテリアライズド・ビュー "*string*".*string*" は INVALID なので、完全リフレッシュを行う必要があります。

原因: マテリアライズド・ビューの状態が INVALID で、マテリアライズド・ビューを高速リフレッシュしようとした。

処置: マテリアライズド・ビューの完全リフレッシュを実行してください。
dba_mviews、all_mviews または user_mviews の STATUS 列を確認し、完全リフレッシュの後にマテリアライズド・ビューが VALID になっているかどうかを確認してください。

ORA-12058 マテリアライズド・ビューは事前作成表を使用できません。

原因: 事前作成表を使用しようとした。

処置: BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12059 事前作成表 "*string*".*string*" は存在しません。

原因: 指定した事前作成表は存在しませんでした。

処置: BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行するか、事前作成表が存在することを確認してください。

ORA-12060 事前作成表の形式が定義の間合せと一致しません

原因: 事前作成表の列の数、型または長さのセマンティックスが、マテリアライズド・ビューの定義の間合せと一致しません。

処置: BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行するか、事前作成表がマテリアライズド・ビューの定義の間合せと一致することを確認してください。

ORA-12061 ALTER MATERIALIZED VIEW オプションが無効です。

原因: 無効なオプションが ALTER MATERIALIZED VIEW 文で使用されました。

処置: 有効なオプションのみを指定してください。

ORA-12062 トランザクション *string* がサイト *string* から不正な順序を受け取りました。

原因: クライアント・サイトからのトランザクションが不正な順序を受け取りました。これは、1 つ以上のトランザクションが欠落していることを示します。

処置: クライアント・サイトのトランザクション・キューが有効で、破損していないことを確認してください。

ORA-12063 サイト *string* からはトランザクションを適用できません。

原因: クライアント・サイトからのカレント・トランザクションをマスター・サイトに適用できません。

処置: クライアント・サイトがまだ有効で、マスター・サイトから削除されていないことを確認してください。

ORA-12064 無効なリフレッシュ順序番号: *string*

原因: クライアント・サイトが無効なリフレッシュ順序でリフレッシュを実行しようとしました。

処置: 完全リフレッシュを実行し、リフレッシュ順序番号を同期化してください。

ORA-12065 リフレッシュ・グループ識別子 *string* が不明です

原因: 指定したリフレッシュ・グループがマスター・サイトに存在しません。

処置: クライアント・サイトがまだ有効で、マスター・サイトから削除されていないことを確認してください。

ORA-12066 CREATE MATERIALIZED VIEW コマンドが無効です。

原因：レプリケーション API は、次に示すマテリアライズド・ビューのオプションおよび型をサポートしません。

- ROWID マテリアライズド・ビュー
- REFRESH ON COMMIT
- ON PREBUILT TABLE
- BUILD DEFERRED
- NEVER REFRESH
- ENABLE QUERY REWRITE

処置：REFRESH WITH PRIMARY KEY を使用して PRIMARY KEY マテリアライズド・ビューを作成するか、無効なオプションを削除してください。または、その両方を行ってください。

ORA-12067 空のリフレッシュ・グループは使用できません

原因：インスタンス化されているリフレッシュ・グループに、マテリアライズド・ビューが含まれていません。

処置：テンプレートを変更して、1 つ以上のマテリアライズド・ビューを含めてください。

ORA-12068 マテリアライズド・ビュー "string"."string" の更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログは存在しません。

原因：更新可能なマテリアライズド・ビューに、更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログがありません。このマテリアライズド・ビュー・ログは、マテリアライズド・ビューの更新を調べるために必要です。

処置：更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

ORA-12069 オフライン・インスタンス化には、無効なオブジェクトです

原因：オフライン・インスタンス化できるのは、マテリアライズド・ビューのみです。オフライン・インスタンス化されているオブジェクトは、有効なマテリアライズド・ビューではありません。

処置：オブジェクトをテンプレートから削除するか、有効なマテリアライズド・ビューに置き換えてください。

ORA-12070 インスタンス化マテリアライズド・ビュー "*string*". "*string*" をオフラインできません。

原因：オフライン・インスタンス化は、次のオプションを使用するマテリアライズド・ビューをサポートしません。

- ON PREBUILT TABLE
- BUILD DEFERRED

処置：無効なオプションを削除してください。

ORA-12071 "*string*". "*string*" の定義問合せは、オフライン・インスタンス化には無効です

原因：オフライン・インスタンス化には、マテリアライズド・ビューの定義問合せが次の条件に従っていることを必要とします。

- マテリアライズド・ビュー・サイトがマスター・サイトへの接続に使用するデータベース・リンクが、問合せで参照されるマスター表ごとに組み込まれている必要があります。
- 参照されるマスター表は、すべてローカル・サイトに位置する必要があります。その他のサイトへは参照できません。

処置：マテリアライズド・ビューの定義問合せを変更してください。

ORA-12072 "*string*". "*string*" に対する更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログ・データを作成できません。

原因：更新可能なマテリアライズド・ビューに、更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログがありません。このマテリアライズド・ビュー・ログは、マテリアライズド・ビューの更新を調べるために必要です。

処置：更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

ORA-12073 要求を処理できません。

原因：誤った順序で要求され、要求を処理できません。

処置：有効な要求で再試行してください。

ORA-12074 メモリー・アドレスが無効です。

原因：無効なメモリー領域にアクセスしようとしてしました。

処置：再接続し、コマンドを再試行してください。

ORA-12075 オブジェクトまたはフィールドが無効です。

原因：Java 仮想メモリー内の無効なフィールドまたはオブジェクトにアクセスしようとしてしました。

処置：要求を再試行してください。

ORA-12076 しきい値が無効です。

原因: 結果セットのしきい値または LOB のしきい値はサポートされていません。

処置: しきい値を 64KB 未満に指定してください。

ORA-12077 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログがありません。

原因: 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログが作成されなかったか、または削除されました。

処置: 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログを再作成してください。

警告: これによって、マテリアライズド・ビューの完全リフレッシュが実行されます。

ORA-12078 リフレッシュ・グループ IDstring の高速リフレッシュに失敗しました。

原因: クライアント・メソッド REFRESH_REQ_RESULT を介して送信されたリフレッシュ結果セットが不明な値を返しました。

処置: リフレッシュ要求を再発行してください。

ORA-12079 マテリアライズド・ビュー・オプションでは COMPATIBLE パラメータが string 以上である必要があります。

原因: 次のマテリアライズド・ビューのオプションには、8.1 以上の互換性設定が必要です。

- ON COMMIT
- ON PREBUILT TABLE
- BUILD DEFERRED
- NEVER REFRESH
- ENABLE QUERY REWRITE

次のマテリアライズド・ビューのオプションには、9.0.1 以上の互換性設定が必要です。

- ユーザー定義型を使用したマテリアライズド・ビュー

処置: 停止してから適切な互換性設定で再起動してください。

ORA-12081 表 "string"."string" で更新操作は許可されません。

処置: 読取り専用のマテリアライズド・ビューを更新しようとした。読取り専用のマテリアライズド・ビューを更新できるのは、Oracle のみです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12082 "string"."string" は索引を編成できません。

原因：索引構成のマテリアライズド集約ビューまたは索引構成の更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューを作成しようとした。これはサポートされません。

処置：索引構成句なしでマテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-12083 "string"."string" の削除には、DROP MATERIALIZED VIEW を使用する必要があります。

原因：DROP MATERIALIZED VIEW 以外のコマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを削除しようとした。

処置：DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用してください。

ORA-12084 "string"."string" の変更には、ALTER MATERIALIZED VIEW を使用する必要があります。

原因：ALTER MATERIALIZED VIEW 以外のコマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを更新しようとした。

処置：ALTER MATERIALIZED VIEW コマンドを使用してください。

ORA-12085 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログにはすでにオブジェクト ID があります。

原因：示された表のマテリアライズド・ビュー・ログには、すでにオブジェクト ID 情報があります。

処置：処置は必要ありません。

ORA-12086 表 "string"."string" はオブジェクト表ではありません。

原因：CREATE MATERIALIZED VIEW LOG コマンドが WITH OBJECT ID オプション付きで発行されましたが、マスター表は、オブジェクト表ではありません。

処置：オブジェクト表名を指定するか、または WITH OBJECT ID 句を削除してください。

ORA-12087 "string" 所有の表ではオンラインの再定義はできません。

原因：所有者が SYS または SYSTEM である表を、オンライン再定義しようとした。

処置：所有者が SYS または SYSTEM である表は、オンライン再定義しないでください。

ORA-12088 サポートされていないデータ型を持つ表 "string"."string" のオンラインの再定義はできません。

原因：LONG 列、ADT 列または FILE 列を含む表を、オンライン再定義しようとした。

処置：LONG 列、ADT 列または FILE 列を含む表は、オンライン再定義しないでください。

ORA-12089 主キーを持たない表 "string"."string" のオンラインの再定義はできません。

原因: 主キーが定義されていない表を、オンライン再定義しようとしてしました。

処置: 主キーが定義されていない表は、オンライン再定義しないでください。

ORA-12090 表 "string"."string" のオンラインの再定義はできません。

原因: クラスタ化された表、AQ 表、一時表または索引構成表のオーバーフロー表を、オンライン再定義しようとしてしました。

処置: クラスタ化された表、AQ 表、一時表または索引構成表のオーバーフロー表は、オンライン再定義しないでください。

ORA-12091 マテリアライズド・ビューを持つ表 "string"."string" のオンラインの再定義はできません。

原因: マテリアライズド・ビューが定義されている表、マテリアライズド・ビュー・ログが定義されている表、またはマスターである表を、オンライン再定義しようとしてしました。

処置: すべてのマテリアライズド・ビューおよびマテリアライズド・ビュー・ログを削除してから、表をオンライン再定義してください。

ORA-12092 レプリケートされた表 "string"."string" のオンラインの再定義はできません。

原因: マテリアライズド・ビューまたはレプリケート表を、オンライン再定義しようとしてしました。

処置: マテリアライズド・ビューまたはレプリケート表は、オンライン再定義しないでください。

ORA-12093 暫定表 "string"."string" が無効です。

原因: この表は、オンライン再定義する表に対応した暫定表ではありません。

処置: 有効な暫定表を指定してください。

ORA-12094 オンラインの再定義中にエラーが発生しました。

原因: オンライン再定義の処理中に、エラーが発生しました。

処置: オンライン再定義処理を終了してください。

ORA-12096 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログでエラーが発生しました

原因: マテリアライズド・ビュー・ログでエラーが発生しました。スキーマの再定義がマスター表で発生したために、ログにある 1 つ以上の列の型が、対応するマスター列の型と異なっている可能性があります。または、基礎となるマテリアライズド・ビュー・ログ表へのアクセスに問題がある可能性があります。

処置: 原因の詳細は、このエラーとともに出力されたその他のエラー・メッセージを確認してください。スキーマが再定義された場合は、マテリアライズド・ビュー・ログを削除し、再作成してください。

ORA-12097 changes in the master tables during refresh, try refresh again

原因：マテリアライズド・ビューのリフレッシュ中に、マスター表にいくつかの変更（従来型 DML、ダイレクト・ロード、パーティション・メンテナンス操作）がありました。

処置：影響のあったマテリアライズド・ビューを再リフレッシュしてください。

ORA-12150 ～ ORA-12299

これらのメッセージについては、[第 25 章「Oracle Net メッセージ \(TNS\)」](#)のリストを参照してください（表示される接頭辞は ORA ですが、こちらの章で接頭辞 TNS のメッセージとしてリストしています）。

ORA-12300 ~ ORA-12399

ORA-12315 ALTER DATABASE 文には無効なデータベース・リンク型です

原因：ALTER DATABASE 文で指定されたデータベース・リンク名が ROM: link ではありません。ALTER DATABASE 文を使用して 2 次データベースをマウントまたはオープンするときは、ROM: link を指定する必要があります。

処置：マウントまたはオープンするデータベースに有効な ROM: link を使用して ALTER DATABASE 文を再発行してください。有効な ROM: link が存在しない場合は、CREATE DATABASE LINK 文を使用して ROM: link を作成してください。ROM: link 型を使用してデータベース・リンクを作成する詳細は、Oracle セキュリティ関連製品のドキュメントを参照してください。

ORA-12316 データベース・リンク接続文字列に構文エラーがあります

原因：CREATE DATABASE LINK 文の接続文字列に構文エラーがあります。

処置：データベース・リンクを削除し、有効な構文を使用してデータベース・リンクを再作成してください。CREATE DATABASE LINK 文の接続文字列部分の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-12317 データベース（リンク名 *string*）へのログオンが拒否されました。

原因：このエラーには、いくつかの原因があります。1 番目は、2 次データベースのユーザー名（オペレーティング・システム認証のかわりにデータベースを使用する場合はパスワードも）が 1 次データベースのユーザー名（およびパスワード）と同一でない場合です。2 番目は、2 次データベースのユーザー名が無効な（または作成されていない）場合です。3 番目は、データベース・リンク定義の接続文字列で指定されているユーザー名とパスワードの組合せが無効な（作成されていないまたは無効なパスワードが使用されている）場合です。

処置：1 番目の場合、1 次データベースで使用しているユーザー名と同一のユーザー名（データベース認証を使用する場合はパスワードも）を、2 次データベースが含むことを確認してください。2 番目の場合、2 次データベースのユーザー名が作成されていることを確認してください。3 番目の場合、接続文字列に指定されているユーザー名が、2 次データベースで作成されていることを確認してください。

ORA-12318 データベース（リンク名 *string*）はすでにマウントされています

原因：インスタンスですでにマウント済の 2 次データベースをマウントしようとしています。

処置：データベースはすでにマウントされているので、マウントする必要はありません。アクセスを確立するには、ALTER DATABASE *linkname* OPEN 文を使用してデータベースをオープンしてください。

ORA-12319 データベース（リンク名 *string*）はすでにオープンしています。

原因：すでにオープンしている 2 次データベースをオープンしようとしています。

処置：データベースはオープンしているのでアクセスを確立するためにこれ以上の処理は必要ありません。

ORA-12321 データベース（リンク名 *string*）はオープンしていません。

AUTO_MOUNTING=FALSE です。

原因：インスタンスがマウントしようとしている 2 次データベースがオープンしていないので、自動マウントは使用可能ではありません。

処置：OPEN オプションおよび MOUNT オプションとともに ALTER DATABASE *linkname* を使用して、2 次データベースを手動でマウントおよびオープンしてください。または、インスタンスが 2 次データベースを自動的にマウントおよびオープンできるように、パラメータ・ファイルの AUTO_MOUNTING パラメータを TRUE に設定してください。

ORA-12322 データベース（リンク名 *string*）をマウントできません。

原因：このメッセージは、問題の原因を示す追加エラー・メッセージとともに表示されます。

処置：ともに表示されるエラー・メッセージで説明されている手順に従って、問題を解決してください。

ORA-12323 データベース（リンク名 *string*）をオープンできません。

原因：このメッセージは、問題の原因を示す追加エラー・メッセージとともに表示されます。

処置：ともに表示されるエラー・メッセージで説明されている手順に従って、問題を解決してください。

ORA-12324 プライベート・データベース・リンクでは ROM: LINK 型を使用できません。

原因：プライベート・データベース・リンクではなく、パブリック・データベース・リンクのみに ROM: link 型を指定できます。

処置：2 次データベースへのパブリック・データベース・リンクが存在するかどうかを確認してください。存在しない場合、かつ 2 次データベースにパブリック・アクセスを確立する場合、CREATE DATABASE LINK コマンドを使用して 2 次データベースにパブリック・データベース・リンクを作成してください。

ORA-12326 データベース *string* はすぐにクローズされます: 操作できません

原因: アクセスしようとしたデータベースがクローズ処理中のため、この操作は終了しました。

処置: データベースが再オープンされるまで待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-12329 データベース *string* はクローズしています: 操作できません

原因: アクセスしようとしたデータベースがクローズしていたため、この操作は終了しました。

処置: データベースが再オープンされるまで待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-12333 データベース (リンク名 *string*) はマウントされていません。

原因: マウントされていないデータベースをオープンしようとしてしました。

処置: ALTER DATABASE *linkname* MOUNT 文でデータベースをマウントし、それからデータベースを再オープンしてください。

ORA-12334 データベース (リンク名 *string*) はオープンしています。

原因: まだオープンしているデータベースをディスマウントしようとしてしました。

処置: ALTER DATABASE *linkname* CLOSE 文でデータベースをクローズし、それからデータベースをディスマウントしてください。

ORA-12335 データベース (リンク名 *string*) はオープンしていません。

原因: オープンされていないデータベースをクローズしようとしてしました。

処置: データベースはクローズされています。そのデータベースをディスマウントできません。

ORA-12336 データベース (リンク名 *string*) にログインできません。

原因: 他のユーザーがマウントまたはディスマウントしているデータベースにログインしようとしてしました。

処置: データベースがマウント中またはオープン中かどうかを確認し、データベースが使用可能になれば、再度ログインしてください。

ORA-12341 最大オープン・マウント数を超過しました

原因: パラメータ・ファイルの OPEN_MOUNTS パラメータに指定されている数が最大数 (255) を超えました。

処置: 2 次データベースへのオープン・マウント数として可能な実際の数に、このパラメータの値を変更してください。値は 255 以下の必要があります。

ORA-12342 オープン・マウント数が OPEN_MOUNTS パラメータで指定された制限を超過しています

原因: 現在のオープン・マウント数が、OPEN_MOUNTS パラメータに指定されている値を超えています。

処置: 2 次データベースへのオープン・マウント数として可能な最大値を設定できるように、OPEN_MOUNTS パラメータの値を増加してください。

ORA-12345 ユーザー *string* にはデータベース・リンク（リンク名 *string*）内の CREATE SESSION 権限がありません。

原因: このメッセージには、いくつかの原因が考えられます。1 番目は、指定された 2 次データベースのユーザー名に、CREATE SESSION システム権限が付与されていない場合です。2 番目は、データベース・リンク定義の接続文字列に指定されているユーザー名に、CREATE SESSION システム権限が付与されていない場合です。

処置: それぞれの原因によって処置が異なります。1 番目の場合、2 次データベースのユーザー名に CREATE SESSION システム権限が付与されているかどうか確認してください。2 番目の場合、データベース・リンク定義の接続文字列に指定されているユーザー名に 2 次データベースの CREATE SESSION システム権限が付与されているかどうか確認してください。

ORA-12350 現在削除中のデータベース・リンクはまだマウントされています。

原因: まだマウントまたはオープン（あるいはその両方）されている ROM: database link を削除しようとしてしました。

処置: そのデータベースをクローズおよびディスクマウントし、それから削除文を再発行してください。

ORA-12351 リモート・オブジェクト参照のあるリモート・オブジェクトを使用するビューは作成できません。

原因: 他のデータベースのオブジェクトを参照するリモート・オブジェクトを参照するビューを作成しようとしてしました。作成しようとしたビューはリモート・オブジェクトを参照するので、そのオブジェクトは他のデータベースのオブジェクトを参照できません。

処置: 異なるオブジェクトを選択してビュー内を参照するか、または他のデータベースを参照ないようにリモート・オブジェクトを変更してください。

ORA-12352 オブジェクト *string.string@string* は無効です。

原因: 2 次データベースのオブジェクトを参照（コンパイル）しようとしてしましたが、そのオブジェクトは無効であり、2 次データベース内にあるので、システムがオブジェクトを確認または再コンパイルできません。

処置: 2 次データベース内の無効なオブジェクトを手動で再コンパイルしてください。

ORA-12353 2 次保存オブジェクトはリモート・オブジェクトを参照できません。

原因：他のデータベース上のオブジェクトを参照するリモート・ビューから選択しようとしたか、リモート・プロシージャを実行しようとした。リモート・ビューまたはリモート・プロシージャは 2 次データベースにあるので、他のデータベースの参照はできません。

処置：異なるオブジェクトを選択して参照するか、リモート・ビューまたはリモート・プロシージャを変更して他のデータベースを参照しないようにしてください。

ORA-12354 2 次オブジェクトは現在削除しています。

原因：削除中の 2 次データベースのオブジェクト（たとえば、表またはビュー）にアクセスしようとした。

処置：操作を最試行してください。このメッセージが再度表示される場合、2 次データベースからオブジェクトへアクセスを試行してください。内部エラーまたはトレース・ファイルを受信した場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12400 ~ ORA-12699

ORA-12400 機能エラー操作への引数が無効です。

原因：機能エラー操作関数への引数が最大値の制限を超えているか、無効な製品 / 機能を参照しています。

処置：有効な機能エラー操作パラメータ値を指定してください。

ORA-12401 ラベル文字列が無効です: *string*

原因：ポリシーは、ラベル文字列を有効な内部ラベルに変換できませんでした。

処置：ラベル文字列の構文を修正してください。

ORA-12402 フォーマット文字列が無効です: *string*

原因：フォーマット文字列は、このポリシーではサポートされていません。

処置：フォーマット文字列の構文を修正してください。

ORA-12403 内部ラベルが無効です。

原因：内部ラベルを、ポリシーに有効なラベルに変換できませんでした。

処置：エラー・スタック上の追加メッセージを分析して、ポリシーのドキュメントを調べてください。

ORA-12404 権限文字列が無効です: *string*

原因：ポリシーは、権限文字列を解釈できませんでした。

処置：このポリシーでサポートされている権限文字列を指定してください。

ORA-12405 ラベル・リストが無効です。

原因：ポリシーは、意図している使用方法にこのラベル・リストは無効であると判断しました。

処置：ラベル・リストのポリシー制約を確認してください。

ORA-12406 ポリシー *string* への権限のない SQL 文です。

原因: ポリシーは、このデータベース・セッションに、要求された SQL 文の実行を許可していません。

処置: ユーザーまたはプログラム・ユニットに、必要なポリシー権限または追加の権限を付与してください。

ORA-12407 ポリシー *string* への権限のない操作です。

原因: ポリシーは、このデータベース・セッションに、要求された操作の実行を許可していません。

処置: ユーザーまたはプログラム・ユニットに、必要なポリシー権限または追加の権限を付与してください。

ORA-12408 サポートされていない操作です: *string*

原因: 指定されたポリシーは、要求された操作をサポートしていません。

処置: ポリシーのドキュメントを調べて、サポートされているアクセス操作を確認してください。

ORA-12409 ポリシー *string* の起動に失敗しました。

原因: ポリシーの起動処理中にエラーが発生しました。ポリシーで保護されたデータへのアクセスは禁止されています。

処置: アラート・ログで追加情報を確認して、ポリシーのエラーを修正し、インスタンスを再起動してください。

ORA-12410 ポリシーの内部ポリシー・エラーです: *string* エラー: *string*

原因: ポリシーの施行で、内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ポリシーのドキュメントを調べてください。

ORA-12411 ラベルの値が無効です。

原因: 指定されたラベルが存在しません。

処置: ポリシーのデータ・ディクショナリ・ビューを確認して、有効なラベルを指定してください。

ORA-12412 ポリシー・パッケージ *string* がインストールされていません。

原因: ポリシー・パッケージがデータベースに存在しません。

処置: ポリシー・パッケージ名が正しいか、または必要なポリシー・パッケージがインストールされているかを確認してください。

ORA-12413 ラベルが同じポリシーに属していません。

原因: 比較されているラベルは、別のポリシーに属しています。

処置: 同じポリシーに属するラベルのみを比較してください。

ORA-12414 内部 LBAC エラー: *string* エラー: *string*

原因: 内部ラベル・ポリシー・フレームワーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12415 他のデータ型の列が指定された表に存在しています。

原因: 表内の列のデータ型が、ポリシー列のデータ型セットと異なります。

処置: 表内の列を削除するか、またはポリシー列のデータ型を変更してください。

ORA-12416 ポリシー *string* が見つかりません。

原因: 指定されたポリシーがデータベースに存在しません。

処置: 正しいポリシー名を入力するか、またはポリシーを作成してください。

ORA-12417 データベース・オブジェクト "*string*" が見つかりません。

原因: 指定されたオブジェクトがデータベースに存在しません。

処置: 正しいデータベース・オブジェクト名を入力してください。

ORA-12418 ユーザー *string* が見つかりません。

原因: 指定されたユーザーがデータベースに存在しません。

処置: ユーザー名を修正するか、またはユーザーを作成してください。

ORA-12419 バイナリ・ラベル値が NULL です

原因: バイナリ・ラベル操作で、NULL 値が指定されました。

処置: 有効なバイナリ・ラベルを指定してください。

ORA-12420 必要なプロシージャとファンクションが方針パッケージ "*string*" にありません

原因: ポリシー・パッケージに、ポリシーの施行に必要なプロシージャおよびファンクションの一部が含まれていません。

処置: ポリシー・パッケージに必要なプロシージャおよびファンクションについては、フレームワークのドキュメントを参照してください。

ORA-12421 バイナリ・ラベルのサイズが異なっています

原因: バイナリ・ラベル操作のラベル・サイズが等しくありません。

処置: 同じ長さでバイナリ・ラベルを指定してください。

ORA-12422 ポリシーの最大数を超過しました

原因: 新しいポリシーを作成しようとしたが、そのインスタンスにはすでに最大数のポリシーが作成されています。

処置: MAX_LABEL_POLICIES 初期化パラメータのサイズを増やして、サーバーを再起動してください。

ORA-12423 指定された位置が無効です。

原因: バイナリ・ラベル操作で指定された位置が無効です。

処置: ラベル・サイズの制限内で位置を指定してください。

ORA-12424 長さがバイナリ・ラベルのサイズを超過しました

原因: バイナリ・ラベル操作で指定された長さが、バイナリ・ラベルのサイズを超えました。

処置: ラベル・サイズの制限内でビット長またはバイト長を指定してください。

ORA-12425 システム・スキーマにポリシーを適用できないか、あるいは権限を設定できません。

原因: SYS、SYSTEM または LBACSYS スキーマにポリシーを適用しようとしたか、または SYS、SYSTEM または LBACSYS ユーザーにユーザー・ラベル / 権限を設定しようとした。

処置: ポリシーの適用および権限の設定は、システム・ユーザー以外にのみ行ってください。

ORA-12426 監査オプションが無効です。

原因: 指定されたオプションは、指定されたポリシーに対して有効な監査オプションではありません。

処置: 正しい監査オプションを入力してください。

ORA-12427 *string* パラメータへの入力値が無効です。

原因: 指定された入力パラメータに誤りがあります。

処置: パラメータ値を修正してください。

ORA-12429 ラベル・リストの範囲が超過しています。

原因: 指定された索引の値が 1 ～ 6 の間にありません。

処置: ラベル・リスト操作で索引の値を修正してください。

ORA-12430 権限番号が無効です。

原因: 指定された権限番号が 1 ～ 32 の間にありません。

処置: 権限番号を修正してください。

ORA-12431 監査アクションが無効です。

原因: 指定された監査アクションは、有効な監査アクションではありません。

処置: 監査アクション番号を修正してください。

ORA-12432 LBAC エラー: *string*

原因: LBAC の施行でエラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージで示された問題を修正してください。

ORA-12433 トリガーの作成に失敗しました。ポリシーは適用されていません。

原因: DML トリガーの作成中にエラーが発生したため、ポリシーを適用できませんでした。

処置: ラベル・ファンクションを指定する SQL 構文を修正してください。

ORA-12434 監査タイプ: *string* が無効です

原因: 監査タイプは、BY ACCESS または BY SESSION である必要があります。

処置: 監査タイプの値を修正してください。

ORA-12435 監査完了パラメータ: *string* が無効です

原因: 監査完了パラメータは、SUCCESSFUL または NOT SUCCESSFUL である必要があります。

処置: 監査完了パラメータの値を修正してください。

ORA-12436 ポリシーのオプションが指定されていません。

原因: オプション文字列に NULL が指定されましたが、デフォルトのスキーマまたはポリシー・オプションが見つかりません。

処置: 有効なオプション文字列を入力するか、スキーマまたはポリシーが有効なデフォルトのオプション文字列を持つように変更してください。

ORA-12437 ポリシー・オプション: *string* が無効です

原因: 無効なポリシー・オプションの値が入力されました。

処置: ポリシー・オプションの値を修正してください。

ORA-12438 ポリシー・オプション: *string* が繰り返されました

原因: ポリシー・オプションがオプション文字列内で 2 回以上入力されました。

処置: 重複するポリシー・オプションの値を削除してください。

ORA-12439 ポリシー・オプションの組合せが無効です。

原因: 矛盾するポリシー・オプションの組合せが入力されました。

処置: 互換性のあるポリシー・オプションの組合せを指定してください。

ORA-12440 SYSDBA パッケージの付与するには不十分です

原因: SYSDBA パッケージの使用には、LBAC_DBA ロールが必要です。

処置: データベース・ユーザーに LBAC_DBA ロールを付与してください。

ORA-12441 ポリシー *string* はすでに存在します

原因: 既存の名前と同じ名前で作成しようとしてしました。

処置: 異なる名前を使用するか、または既存のポリシーを削除してください。

ORA-12442 ポリシー列 "string" はすでに他のポリシーに使用されています。

原因: 既存のポリシーと同じポリシー列名でポリシーを作成しようとしてしました。

処置: ポリシー列に異なる名前を使用するか、または既存のポリシーを削除してください。

ORA-12443 スキーマの表のいくつかにはポリシーが適用されていません。

原因: スキーマにポリシーを適用しましたが、スキーマの表のいくつかにはすでにポリシーが適用されていました。

処置: 処置は必要ありません。ポリシーは、残りの表に適用されました。

ORA-12444 ポリシーはすでに表に適用されています。

原因: すでにポリシーによって保護されている表にポリシーを適用しようとしてしました。

処置: ポリシー・オプション、述語またはラベル・ファンクションを変更するには、表からポリシーを削除して、ポリシーを適用しなおしてください。

ORA-12445 列の HIDDEN プロパティは変更できません。

原因: 既存のポリシー列を持つ表に異なる HIDE オプションを指定しようとしてしました。

処置: 表からその列を削除して、新しい HIDE オプションでポリシーを適用しなおしてください。

ORA-12446 ポリシー *string* を管理するには認可が不十分です。

原因: ポリシーに管理機能を実行しようとしてしましたが、*policy_DBA* ロールが付与されていませんでした。

処置: ユーザーに、指定されたポリシーの *policy_DBA* ロールを付与してください。

ORA-12447 ポリシー *string* にはポリシー・ロールがすでに存在します

原因: *policy_DBA* という名前のポリシーがすでに存在します。

処置: ポリシー名を修正するか、または既存のポリシーを削除してください。

ORA-12448 ポリシー *string* はスキーマ *string* に適用されていません。

原因: ポリシーが適用されていないスキーマを変更しようとしてしました。

処置: ポリシー名またはスキーマ名を修正してください。

ORA-12449 ユーザー用に指定するラベルの型は USER にしてください。

原因: ユーザーにラベルを指定しようとしてしましたが、リスト内のラベルの一部が USER ラベルとして指定されていません。

処置: ラベルを USER ラベルに変更してください。

ORA-12450 LBAC 初期化ファイルで LOB データ型は使用できません。

原因：列または属性に LOB データ型を指定しようとしたましたが、LOB データ型は使用できません。

処置：LBAC 初期化ファイルを変更して、LOB の列および属性を作成できるようにしてください。

ORA-12451 ラベルが USER または DATA に指定されていません

原因：ラベルは、DATA ラベルと USER ラベルのいずれかか、または DATA および USER の両方です。

処置：少なくとも、DATA または USER のいずれかに TRUE を指定してください。

ORA-12452 ラベル・タグ *string* はすでに存在します

原因：入力されたラベル・タグ値は、すでに別のラベルに使用されています。

処置：ラベル・タグに別の値を入力してください。

ORA-12453 ラベル *string* はすでに存在します

原因：入力されたラベル値は、すでに存在します。

処置：処置は必要ありません。ラベル・タグまたはラベル・タイプを変更してください。

ORA-12454 ラベル *string* はポリシー *string* のためのものではありません。

原因：入力されたラベル・タグまたはラベル値は、このポリシーのためのラベルではありません。

処置：このポリシーが使用しているラベル・タグまたはラベル値を入力してください。

ORA-12461 ラベル *string* はポリシー *string* 用に定義されていません。

原因：指定されたラベルは、このポリシー用に定義されていません。

処置：ラベル識別子の値を修正してください。

ORA-12462 コンパートメント *string* はポリシー *string* 用に定義されていません。

原因：指定されたコンパートメントは、このポリシー用に定義されていません。

処置：コンパートメント識別子の値を修正してください。

ORA-12463 グループ *string* はポリシー *string* 用に定義されていません。

原因：指定されたグループは、このポリシー用に定義されていません。

処置：グループ識別子の値を修正してください。

ORA-12464 ラベル・コンポーネント *string* の文字が無効です。

原因：ラベル・コンポーネントに含めることができるのは、文字（英数字）、空白およびアンダースコアのみです。

処置：ラベル・コンポーネントの構文を修正してください。

ORA-12465 指定されたグループまたはコンパートメントに書き込み権限がありません。

原因: 書き込み権限のあるグループおよびコンパートメントのユーザー・リストにないグループまたはコンパートメントを指定しました。

処置: 書き込み権限のあるグループおよびコンパートメントのみを指定してください。

ORA-12466 デフォルトのレベルがユーザーの最大値を超過しています。

原因: デフォルトのレベルがユーザーの最大値を超えてはいけません。

処置: 許可されるレベルを入力してください。

ORA-12467 最小のラベルは 1 つのレベルのみを含みます。

原因: 最小のラベルにコンパートメントまたはグループを含めました。

処置: ラベルとして許可される最小のレベルのみを含めてください。

ORA-12468 最大の書き込みレベルは最大の読込みレベルと等しくありません。

原因: 最大の書き込みレベルは最大の読込みレベルと等しい必要があります。

処置: 最大の書き込みレベルと最大の読込みレベルを同じレベル・コンポーネントで指定してください。

ORA-12469 ユーザー *string* とポリシー *string* 用のユーザー・レベルが見つかりません。

原因: レベルがユーザーに指定されていません。

処置: ユーザーに最大レベルおよび最小レベルを指定してください。

ORA-12470 NULL または無効なユーザー・ラベルです: *string*

原因: 入力されたラベルが NULL か、またはユーザー認証に存在しません。

処置: このユーザーに許可されているラベルを入力してください。

ORA-12476 上限が最低のため、無効な OS ラベルになりました。

原因: このオペレーティング・システムでは無効な最小の上限ラベル (LUB) を生成しようとした。

処置: 無効なラベル生成については、OS のラベル管理のドキュメントを参照してください。

ORA-12477 下限が最高のため、無効な OS ラベルになりました。

原因: このオペレーティング・システムでは無効な最大の下限ラベル (GLB) を生成しようとした。

処置: 無効なラベル生成については、OS のラベル管理のドキュメントを参照してください。

ORA-12479 ファイル・ラベル *string* は DBHIGH*string* と等しい必要があります。

原因：データベース・ファイルの OS ラベルが、DBHIGH と一致しません。DBHIGH が変更されたか、または OS ファイルがラベル変更されました。

処置：ラベルが DBHIGH と一致するようにファイルをラベル変更するか、またはファイルのラベルに一致するように DBHIGH を変更してください。

ORA-12480 指定したクリアランス・ラベルは、有効なクリアランス範囲内にありません。

原因：許可されていないクリアランス範囲内のクリアランスを指定しました。クリアランス範囲内にあるクリアランスのみ指定できます。

処置：許可されているクリアランス範囲内にあるクリアランス・ラベルを指定してください。

ORA-12481 有効なラベルがプログラム単位のクリアランス範囲内にありません。

原因：プログラム単位の起動時に、有効なラベルがこのプログラム単位に許可されたクリアランス範囲内にありません

処置：このプログラム単位のクリアランス範囲を修正するか、または許可される有効なクリアランス範囲でセッションからプログラム単位を起動してください。

ORA-12482 内部 MLS エラー: *string* エラー: *string*

原因：内部 MLS ポリシー・エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12483 ラベルが OS システムの認可範囲内にありません。

原因：指定されたラベルが最大 OS ラベルより大きいか、または最小 OS ラベルより小さいです。

処置：ホスト OS の認可範囲内でラベルを指定してください。

ORA-12484 無効な OS ラベルです。

原因：指定されたラベルが、OS ホストのラベル定義ファイルに存在しません。

処置：OS ラベル管理ツールを使用して、ラベルを定義してください。

ORA-12485 新しい有効ラベルが有効クリアランス内にありません。

原因：有効なラベルに、有効な最小ラベルより小さいか、または有効な最大ラベルより大きい値を入力しようとしました。

処置：最小ラベルと最大ラベルの間の値を入力してください。

ORA-12486 有効な最大ラベルと最小ラベルは変更できません。

原因：有効な最大ラベルまたは最小ラベルに値を入力しようとしたますが、これらのラベルは変更できません。

処置：有効な最大ラベルおよび最小ラベルに、NULL 値を入力してください。

ORA-12487 クリアランス・ラベルが DBHIGH と DBLOW の間にありません。

原因：クリアランス・ラベルに、DBHIGH より大きいか、または DBLOW より小さい値を入力しようとした。

処置：クリアランス・ラベルに、DBHIGH と DBLOW の間の値を入力してください。

ORA-12488 最大ラベルは最小ラベルを上回ることができません

原因：クリアランス・ラベルに、最小ラベルと最大ラベルの間の上下関係を保たない値を入力しようとした。

処置：ラベルに、最小値と最大値の上下関係を保つ値を入力してください。

ORA-12489 デフォルト・ラベルがクリアランス範囲内にありません。

原因：デフォルト・ラベルに、最小クリアランスより小さいか、または最大クリアランスより大きい値を入力しようとした。

処置：デフォルト・ラベルに、クリアランス範囲内の値を入力してください。

ORA-12490 DBHIGH は低くできません。

原因：DBHIGH に、既存の DBHIGH より小さい値を入力しようとした。

処置：DBHIGH に、既存の値より大きい値を入力してください。

ORA-12491 DBHIGH 値は DBLOW を上回ることができません

原因：DBHIGH に、DBLOW より小さい値を入力しようとした。

処置：DBHIGH に、DBLOW より大きい値を入力してください。

ORA-12492 DBLOW は変更できません。

原因：DBLOW に初期値を設定した後で、これを変更しようとした。DBLOW は、初期データベース作成後に 1 度のみ設定できます。

処置：DBLOW を変更するには、新しいデータベースを作成し、DBLOW に新しい値を設定して、この新しいデータベースにデータをインポートしてください。

ORA-12493 MLS バイナリ・ラベルが無効です。

原因：MLS バイナリ・ラベルに無効な値が含まれているか、サイズが正しくないか、使用不可能なレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリが含まれています。

処置：無効な MLS ラベルについては、DBA_MLS_LABELS ビューを確認してください。

ORA-12494 レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを挿入または削除できません。

原因：レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリの定義を挿入または削除しようとした。

処置：ラベル定義が有効でなくなった場合は、それが無効であることを示す名前に変更してください。ラベルが文字列に変換されるときに、新しいラベル定義が使用されます。

ORA-12495 使用可能なレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを使用不可にできません

原因：これまで使用可能だったレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを使用不可にしようとした。使用可能なラベル定義は、いくつかのデータベース・ラベルに存在する可能性があるため、使用不可にできません。

処置：ラベル定義が有効でなくなった場合は、それが無効であることを示す名前に変更してください。ラベルが文字列に変換されるときに、新しいラベル定義が使用されます。

ORA-12496 既存のレベル、カテゴリまたはリリース番号を変更できません。

原因：レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリに割り当てた番号を変更しようとした。

処置：番号ではなく、文字列を変更してください。

ORA-12497 最大結合カテゴリが *string* を超過しました

原因：記述カテゴリとリリース・カテゴリの合計数が、MLS ポリシーがサポートする最大値を超えています。

処置：合計数が最大値を超えない値を指定してください。

ORA-12500 ～ ORA-12699

これらのメッセージについては、[第 25 章「Oracle Net メッセージ \(TNS\)」](#)のリストを参照してください（表示される接頭辞は ORA ですが、こちらの章で接頭辞 TNS のメッセージとしてリストしています）。

ORA-12700 ~ ORA-19399

ORA-12700 無効な NLS パラメータ値 (*string*) です

原因: 無効な NLS 初期化パラメータを指定しました。

処置: パラメータの構文および綴りを調べてください。初期化パラメータ・ファイルに正しいパラメータを入力してください。

ORA-12701 CREATE DATABASE で指定したキャラクタ・セットが不明です

原因: CREATE DATABASE コマンドに指定したキャラクタ・セットがシステムに存在しません。

処置: システムのキャラクタ・セットの詳細は、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。CREATE DATABASE コマンドに有効なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12702 無効な NLS パラメータ文字列が SQL ファンクションに使用されました

原因: SQL 関数の NLS パラメータ文字列に無効なパラメータまたは値を入力しました。

処置: 関数の構文およびパラメータを調べてください。正しい構文および有効な値を使用してコマンドを再入力してください。

ORA-12703 このキャラクタ・セット変換はサポートされません。

原因: 2つのキャラクタ・セット間の変換に CONVERT 関数を使用しようとしたのですが、いずれか一方のキャラクタ・セットまたは両方のキャラクタ・セットが使用可能でないために、要求した変換は実行できません。

処置: CONVERT 関数にはシステムで使用可能なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12704 キャラクタ・セットが一致しません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- 演算子または組込み関数の文字列オペランド (NLSPARAMS 引数以外) のキャラクタ・セットが同じではない。
- NLSPARAMS オペランドがデータベース・キャラクタ・セットと一致していない。
- データベース・キャラクタ・セット以外のキャラクタ・セットを含んだ文字列データが、その文字列データを予期していなかった組込み関数に渡された。
- CHR() または CSCONVERT() の 2 番目の引数が CHAR_CS または NCHAR_CS ではない。
- INSERT 文の VALUES 句または UPDATE 文の SET 句の文字列式に含まれたキャラクタ・セットは、値を挿入する列のキャラクタ・セットと同じではない。
- 表を作成するときに DEFAULT 句に指定された値のキャラクタ・セットは、列に対して宣言されたキャラクタ・セットと同じではない。
- PL/SQL 関数の引数は、対応するパラメータのキャラクタ・セット要求に適合しない。

処置: NCHAR または NCHAR VARYING で宣言されている文字列は、CHAR または VARCHAR2 で宣言されている文字列との相互運用性はありません。TRANSLATE() 関数を使用してどちらかのキャラクタ・セットに明示的に変換してください。

ORA-12705 無効または不明な NLS パラメータ値が指定されました。

原因: 考えられる原因は 2 つあります。無効な NLS パラメータまたは値を指定して ALTER SESSION 文を発行しようとしたか、環境変数 NLS_LANG に無効な言語、地域またはキャラクタ・セットが含まれています。

処置: ALTER SESSION 文および NLS パラメータの構文を確認し、構文を修正して文を再試行するか、または環境変数 NLS_LANG に正しい値を指定してください。ALTER SESSION 文の構文の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-12706 この CREATE DATABASE キャラクタ・セットは使用できません

原因: ASCII ベースのマシン上で EBCDIC ベースのキャラクタ・セット (またはその逆) を使用して、データベースを作成しようとした。これは許可されません。

処置: ハードウェアがサポートしている、ASCII ベースまたは EBCDIC ベースのどちらかのキャラクタ・セットを使用してデータベースを作成してください。サポートされているキャラクタ・セットのタイプの詳細は、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-12707 データベース作成中に NLS パラメータ *string* の取得でエラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12708 データベース作成中に NLS パラメータ *string* のロードでエラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12709 データベース作成中にキャラクタ・セットのロードでエラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12710 CREATE CONTROLFILE で指定したキャラクタ・セットが不明です

原因: 制御ファイルが作成されたときに指定されたキャラクタ・セットが不明です。

処置: 認識されているキャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12711 この CREATE CONTROLFILE で指定したキャラクタ・セットは使用できません

原因: システム固有な ASCII ベースのマシン上で EBCDIC ベースのキャラクタ・セット（またはその逆）を使用して制御ファイルを作成することは許可されていません。

処置: マシンおよびキャラクタ・セットに対して正しい制御ファイルを作成してください。

ORA-12712 新規キャラクタ・セットは旧キャラクタ・セットのスーパーセットにする必要があります

原因: ALTER DATABASE ... CHARACTER SET を実行する場合、新規キャラクタ・セットは旧キャラクタ・セットのスーパーセットにする必要があります。たとえば、WE8ISO8859P1 は WE8DEC のスーパーセットではありません。

処置: スーパーセットのキャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12713 NCHAR/CHAR 変換で文字データが損失しました

原因: CHAR と NCHAR の間でキャラクタ・セット変換が暗黙的または明示的に発生した場合、接続先のキャラクタ・セットにマッピングする文字がないため、いくつかの文字が損失します。

処置: すべての文字が接続先のキャラクタ・セットにマップされるようにするか、または NLS_NCHAR_CONV_EXCP に FALSE を設定してください。

ORA-12714 無効な各国語キャラクタ・セットが指定されました

原因: 各国語キャラクタ・セットとして使用できるのは、UTF8 および AL16UTF16 のみです。

処置: 有効な各国語キャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12715 無効なキャラクタ・セットが指定されました

原因: 指定されたキャラクタ・セットは、この操作では許可されていないか、または無効です。

処置: 有効な各国語キャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12716 CLOB データが存在するときには、データベース・キャラクタ・セットを変更できません

原因: CLOB データは、マルチバイト・キャラクタ・セットへの変換時、表現を Unicode に変更するので、移行が必要になります。

処置: アラート・ファイルにリストされる CLOB データを削除してください。CLOB データは、エクスポート / インポートなどの方法によって移行できます。

ORA-12717 NCLOB データが存在するときには、各国語データベース・キャラクタ・セットを変更できません

原因: NCLOB データは、マルチバイト・キャラクタ・セットへの変換時、表現を Unicode に変更するので、移行が必要になります。

処置: アラート・ファイルにリストされる NCLOB データを削除してください。NCLOB データは、エクスポート / インポートなどの方法によって移行できます。

ORA-12718 この操作には SYS としての接続が必要です

原因: このコマンドは、ユーザー SYS で接続している場合のみ実行できます。

処置: ユーザー SYS で接続して、このコマンドを実行してください。

ORA-12719 この操作にはデータベースが RESTRICTED モードである必要があります

原因: このコマンドは、データベースが RESTRICTED モードの場合のみ実行できます。

処置: システムが RESTRICTED モードであることを確認してください。

ORA-12720 この操作にはデータベースが EXCLUSIVE モードである必要があります

原因: このコマンドは、データベースが EXCLUSIVE モードの場合のみ実行できます。

処置: システムが EXCLUSIVE モードであることを確認してください。

ORA-12721 この操作は他のセッションがアクティブなときには実行できません

原因: このコマンドは、アクティブなセッションが他にない場合のみ実行できます。

処置: データベースへの接続が他にないことを確認してください。

ORA-12800 システムがビジーなためパラレル問合せを実行できません。

原因: システムのロードが高すぎて、パラレル問合せを実行できません。

処置: 順番に再実行するか、またはシステムのロードが軽減されるまで待ってください。

ORA-12801 パラレル問合せサーバー *string* にエラー・シグナルが発生しました

原因: パラレル問合せサーバーが例外状態に達しました。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認して、原因を調べてください。

ORA-12802 パラレル問合せサーバーはコーディネータとの接続を失いました

原因: パラレル問合せサーバーがフォアグラウンド（コーディネータ）・プロセス / スレッドとの接続を失いました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12803 パラレル問合せサーバーは他のサーバーとの接続を失いました

原因: パラレル問合せサーバーが他のサーバーとの接続を失いました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12804 パラレル問合せサーバーが停止したようです。

原因: パラレル問合せサーバー・スレッドに関するプロセス情報が見つかりません。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12805 パラレル問合せサーバーが突然停止しました。

原因: パラレル問合せサーバーが突然停止し、PMON がプロセスをクリアしました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、トレース・ファイルを参照してください。

ORA-12806 エンキューを保持するバックグラウンド・プロセスを取得できませんでした

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12807 処理待ち行列はパラレル問合せメッセージを受信できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12808 *string_INSTANCES* をインスタンス数 *string* より大きく設定できません。

原因: ALTER SYSTEM 文を使用して、使用可能なインスタンスの数より大きい値に SCAN_INSTANCES または CACHE_INSTANCES を設定しようとしてしました。

処置: 付随するメッセージを参照して現在許可されている最大値を確認するか、または SCAN_INSTANCES/CACHE_INSTANCES を ALL に設定してください。

ORA-12809 排他モードでマウントされた場合、*string_INSTANCES* は設定できません。

原因：データベースが排他モードでマウントされている間に、ALTER SYSTEM 文を使用して SCAN_INSTANCES または CACHE_INSTANCES を設定しようとしてしました。

処置：共有またはパラレル・モードでマウントしている Oracle Parallel Server が実行されている場合にのみ SCAN_INSTANCES/CACHE_INSTANCES を設定できます。

ORA-12810 PARALLEL_MAX_SERVERS は *string* 以下である必要があります

原因：システムで許可されている最大値より高い値に PARALLEL_MAX_SERVERS パラメータを設定しようとしてしました。

処置：PARALLEL_MAX_SERVERS を、付随するメッセージで指定されている最大値以下の値に設定し、再試行してください。

ORA-12811 PARALLEL_MIN_SERVERS は PARALLEL_MAX_SERVERS (*string*) 以下である必要があります

原因：PARALLEL_MAX_SERVERS より高い値に PARALLEL_MIN_SERVERS パラメータを設定しようとしてしました。

処置：PARALLEL_MIN_SERVERS を、PARALLEL_MAX_SERVER (付随するメッセージに示される) 以下の値に設定し、再試行してください。

ORA-12812 指定可能な PARALLEL または NOPARALLEL 句は 1 つのみです。

原因：PARALLEL が複数回指定されたか、NOPARALLEL が複数回指定されたか、または PARALLEL と NOPARALLEL の両方が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER または CREATE INDEX、あるいは ALTER TABLE 文か ALTER CLUSTER 文、あるいは RECOVER コマンドに指定されました。

処置：PARALLEL または NOPARALLEL 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-12813 PARALLEL または DEGREE の値は 0 より大きい必要があります

原因：PARALLEL 0 または DEGREE 0 が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER または CREATE INDEX、あるいは ALTER TABLE 文または ALTER CLUSTER 文に指定されました

処置：並列度を 1 以上に指定してください。または PARALLEL 句に DEGREE を設定しないか、PARALLEL 句内の DEGREE DEFAULT を使用してデフォルトの並列度を指定してください。

ORA-12814 指定可能な CACHE または NOCACHE 句は 1 つのみです。

原因：CACHE が複数回指定されたか、NOCACHE が複数回指定されたか、または CACHE と NOCACHE の両方が、CREATE TABLE または CREATE CLUSTER、あるいは ALTER TABLE 文か ALTER CLUSTER 文に指定されました。

処置：CACHE または NOCACHE 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-12815 INSTANCES 値は 0 より大きい必要があります

原因: インスタンスの番号を指定している PARALLEL パラメータは、正の整数または DEFAULT である必要があります。

処置: インスタンス全体に渡って並列性が必要な場合は、INSTANCES に対して正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12816 パラレル作成索引ファスト・パス操作が作成されました

原因: パラレル作成索引ファスト・パス操作が設定されました。

処置: このイベントは、Oracle 開発者の監視下でのみ設定してください。

ORA-12817 パラレル問合せオプションを使用可能にする必要があります

原因: パラレル問合せオプション機能が起動されましたが、このオプションは使用不可です。

処置: パラレル問合せオプションを使用可能にしてください。

ORA-12818 PARALLEL 句内に無効なオプションがあります

原因: 認識できないオプションを PARALLEL 句内で使用しました。

処置: PARALLEL 句内に DEGREE {*n*|DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {*n*|DEFAULT} の任意の組合せを指定してください。

ORA-12819 PARALLEL 句にオプションがありません

原因: PARALLEL 句を空にすることはできません。

処置: PARALLEL 句内に DEGREE {*n*|DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {*n*|DEFAULT} の任意の組合せを指定してください。

ORA-12820 DEGREE 値が無効です

原因: PARALLEL 句内で無効な DEGREE 値が指定されました。

処置: PARALLEL 句内の DEGREE オプションに対し、正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12821 INSTANCES 値が無効です

原因: PARALLEL 句内で無効な INSTANCES 値が指定されました。

処置: PARALLEL 句内の INSTANCES オプションに対し、正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12822 PRALLEL 句にオプションが重複しています。

原因: DEGREE または INSTANCE を 1 つの PARALLEL 句で複数回指定しました。

処置: 必要な PARALLEL 句オプションをそれぞれ 1 回のみ指定してください。

ORA-12823 デフォルトの並列度はここでは指定できません。

原因: PARALLEL キーワードが単独で使用されたか、または DEGREE DEFAULT が ALTER DATABASE RECOVER 文の PARALLEL 句で指定されました。

処置: 並列度を明示的に再指定してください。

ORA-12824 INSTANCES DEFAULT はここでは指定できません。

原因: INSTANCES DEFAULT が ALTER DATABASE RECOVER コマンドの PARALLEL 句で指定されました。

処置: INSTANCES 用に明示的に値を再指定するか、または単一のインスタンスをリカバリする場合は INSTANCES オプションを削除してください。

ORA-12825 ここでは明示的な並列度を指定する必要があります

原因: DEGREE オプションが ALTER DATABASE RECOVER コマンドに入っていないせん。

処置: 並列度を明示的に再指定してください。

ORA-12826 停止したパラレル問合せサーバーは強制終了しました

原因: パラレル問合せサーバーが停止し、その後に強制終了されました。

処置: 問合せを再実行してください。エラーが繰り返される場合は、トレース・ファイルに記録されている情報を確認のうえ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12827 使用可能なパラレル問合せスレーブが足りません。

原因: PARALLEL_MIN_PERCENT パラメータが指定され、最小限のスレーブを獲得できませんでした。

処置: より小さい PARALLEL_MIN_PERCENT を使用して問合せを再実行してください。または、いくつかの実行中の問合せが完了してスレーブが解放されるまで待ってください。

ORA-12828 リモート・サイトでパラレル・トランザクションは開始できません。

原因: 分散トランザクションのコーディネータ・サイトではないため、PDML トランザクションを起動できません。

処置: PDML をリモート・サイトで使用しないでください。

ORA-12829 デッドロック - ブロック *string* (ファイル *string*) で idl スロットが同一のパラレル・トランザクションにより占有されています

原因: カレント・ブロック内のすべての idl が同一のパラレル・トランザクションによって占有されているため、パラレル文を実行できませんでした。

処置: ブロックの MAXTRANS の値を増やすか、文に対する並列度を減らしてください。文を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、トレース・ファイルに記録されている情報を確認のうえ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12830 パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 実行後に COMMIT または ROLLBACK を発行する必要があります。

原因：パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

処置：COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12831 APPEND ヒントを持つ INSERT の実行後に COMMIT または ROLLBACK をする必要があります

原因：APPEND ヒントを持つ INSERT 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

処置：COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12832 指定されたインスタンスでスレーブを割り当てられなかったものがあります。

原因：グローバル v\$ 固定ビューの問合せを実行した後に、1 つ以上のインスタンスが問合せを処理するスレーブを割り当てられませんでした。

処置：ALTER SESSION SET ALLOW_PARTIAL_SN_RESULTS=TRUE 文を実行するか、各インスタンスのパラメータを確認して、正常に割り当てられたスレーブからの結果を戻してください。

ORA-12833 コーディネータのインスタンスが PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーではありません。

原因：コーディネータのインスタンスは、この操作を実行する PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーである必要があります。

処置：コーディネータのインスタンスをカレントの PARALLEL_INSTANCE_GROUP に追加するか、PARALLEL_INSTANCE_GROUP を変更してください。

ORA-12834 インスタンス・グループ名 '*string*' が長すぎます。*string* 文字未満にしてください

原因：インスタンス・グループ名が長すぎます。

処置：名前を短くするか、インスタンス・グループを削除してください。

ORA-12835 GLOBAL_VIEW_ADMIN_GROUP には有効なインスタンスがありません

原因：グローバル・ビューで問合せを実行するには、GLOBAL_VIEW_ADMIN_GROUP に 1 つ以上のインスタンスが存在する必要があります。

処置：GLOBAL_VIEW_ADMIN_GROUP の値を変更してください。

ORA-12838 オブジェクトは、パラレルで変更された後は読み込み/変更できません。

原因: 同一トランザクションの中で、読み込み文か変更文をパラレルまたはダイレクト・ロードで変更した後、表に追加しようとした。これは許可されません。

処置: トランザクションを書き換えるか、または2つのトランザクションに分割してください。1つには最初の変更を含め、もう1つにはパラレル変更操作を含めてください。

ORA-12839 オブジェクトは、変更された後はパラレルで変更できません。

原因: 同じトランザクションの中で、表が変更されてからパラレル変更操作を行おうとしました。これは許可されません。

処置: トランザクションを書き換えるか、または2つのトランザクションに分割してください。1つには最初の変更を含め、もう1つにはパラレル変更操作を含めてください。

ORA-12840 パラレル/挿入ダイレクト・ロード・トランザクションの後は、リモート表にアクセスできません

原因: トランザクションの中で、PDML または挿入ダイレクト文が発行された後に分散アクセスを行おうとしました。

処置: 先に PDML トランザクションをコミットまたはロールバックしてから、分散アクセスを実行してください。または、トランザクションの最初の PDML 文より前に分散アクセスを実行してください。

ORA-12841 トランザクション内で、セッションのパラレル DML 状態は変更できません。

原因: トランザクションが処理中です。

処置: トランザクションをコミットまたはロールバックして、再実行してください。

ORA-12842 パラレルで実行中にスキーマが変更されました。

原因: パラレルの処理解析フェーズ中にスキーマが変更されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12843 表の PDML ロックが適切に保持されていません。

原因: コーディネータがクラッシュしたか、またはスレーブが取得しようとしたパーティションのロックを解除しました。

処置: コーディネータまたは別のスレーブが異常終了したかどうかを確認してください。またはロックが破損していないことを確認してください。PDML を再発行してください。

ORA-12900 ローカル管理データベース用のデフォルトの一時表領域を指定する必要があります。

原因: ローカル管理データベースには、SYSTEM 表領域以外に一時表領域が必要です。

処置: ローカル管理データベースの作成時に、デフォルトの一時表領域を指定してください。

ORA-12901 デフォルトの一時表領域は TEMPORARY 型である必要があります。

原因：ローカル管理データベースでは、デフォルトの一時表領域は TEMPORARY 型である必要があります。

ORA-12902 デフォルトの一時表領域は SYSTEM であるか、TEMPORARY 型である必要があります。

原因：ディクショナリ管理データベースでは、デフォルトの一時表領域は SYSTEM または TEMPORARY 型である必要があります。

ORA-12903 デフォルトの一時表領域は ONLINE 表領域である必要があります。

ORA-12904 デフォルトの一時表領域は PERMANENT 型に変更できません。

ORA-12905 デフォルトの一時表領域は OFFLINE にできません。

ORA-12906 デフォルトの一時表領域は削除できません。

ORA-12907 表領域 *string* はすでにデフォルトの一時表領域です。

ORA-12908 データベースを作成するときに、SYSTEM をデフォルトの一時表領域として指定できません。

ORA-12909 TEMPORARY キーワードが必要です。

ORA-12910 一時表領域をデフォルトの表領域として指定できません

原因：ユーザーのデフォルト表領域に一時表領域を割り当てようとした。

処置：デフォルト表領域には、永続表領域を割り当ててください。

ORA-12911 永続表領域は一時表領域に指定できません

原因：ユーザーの一時表領域に永続表領域を割り当てようとした。

処置：ユーザーの一時表領域には、一時表領域を割り当ててください。

ORA-12980 SET UNUSED でチェックポイント・オプションは使用できません。

原因：SET UNUSED でチェックポイント・オプションを指定しようとした。

処置：チェックポイント・オプションを削除してください。

ORA-12981 オブジェクト型の表の列は削除できません。

原因：オブジェクト型の表の列を削除しようとした。

処置：これは許可されません。

ORA-12982 ネストした表の列は削除できません

原因：ネストした表の列を削除しようとした。

処置：これは許可されません。

ORA-12983 表の列をすべて削除することはできません。

原因: 表の列をすべて削除しようとしてしました。

処置: 列削除操作後、1 つ以上の列が表に残っていることを確認してください。

ORA-12984 パーティション化列は削除できません

原因: パーティション化キーとして使用された列を削除しようとしてしました。

処置: これは許可されません。

ORA-12985 表領域 '*string*' は読取り専用です。列は削除できません。

原因: 読取り専用の表領域のパーティション / サブパーティションの列を削除しようとしてしました。

処置: 表領域を読取り / 書込みに設定し、文を再実行してください。

ORA-12986 列が部分的に削除された状態です。ALTER TABLE DROP COLUMNS CONTINUE を実行してください。

原因: 列が部分的に削除された状態で表にアクセスしようとしてしました (列削除操作が割り込まれました)。

処置: ALTER TABLE DROP COLUMNS CONTINUE を実行して列削除操作を完了してから、表にアクセスしてください。

ORA-12987 列の削除は他の操作と組み合わせることはできません

原因: 列の削除を他の ALTER TABLE 操作と組み合わせようとしてしました。

処置: 列の削除が ALTER TABLE に指定された唯一の操作であることを確認してください。

ORA-12988 SYS が所有する表の列は削除できません。

原因: システム表の列を削除しようとしてしました。

処置: これは許可されません。

ORA-12989 チェックポイント間隔の値が正しくありません。

原因: 無効なチェックポイント間隔が文に指定されました。チェックポイント間隔は、0 から (2³¹-1) の間である必要があります。

処置: チェックポイント間隔を修正し、文を再実行してください。

ORA-12990 オプションの指定が重複しています。

原因: 文の中でオプションの指定が重複しています。

処置: 重複するオプションを削除して、文を再実行してください。

ORA-12991 列が複数列制約で参照されています。

原因：いくつかの制約に参照されている列を削除しようとしてしました。

処置：削除された列を参照している制約をすべて削除するか、または CASCADE CONSTRAINTS を文に指定してください。

ORA-12992 親キーの列は削除できません。

原因：親キーの列を削除しようとしてしました。

処置：親キーの列を参照している制約をすべて削除するか、または CASCADE CONSTRAINTS を文に指定してください。

ORA-12993 表領域 'string' はオフラインです。列は削除できません。

原因：オフラインの表領域のパーティション / サブパーティションの列を削除しようとしてしました。

処置：表領域をオンラインにして、文を再実行してください。

ORA-12994 列の削除オプションは1つの文で1回のみ使用できます

原因：列の削除オプションを1つの文で繰り返そうとしてしました。

処置：列の削除オプションを異なる文に分割して、文を再実行してください。

ORA-12995 部分的に削除された状態の列はありません。

原因：部分的に削除された列がないのに、DROP COLUMNS CONTINUE 文を実行しようとしてしました。

処置：この文を実行できません。

ORA-12996 システムで生成された仮想列は削除できません。

原因：システムで生成された仮想列を削除しようとしてしました。

処置：これは許可されません。

ORA-12997 索引構成表の主キー列は削除できません。

原因：索引構成表から主キーの列を削除しようとしてしました。

処置：これは許可されません。

ORA-13000 ディメンション数値が範囲外です。

原因：指定されたディメンション数値が1より小さいか HHCODE でコード化されたディメンション数値より大きくなっています。

処置：ディメンション数値が、1 から HHCODE でコード化されたディメンションの最大値の間であることを確認してください。

ORA-13001 ディメンション不一致エラーが発生しました

原因: バイナリ HHCODE 操作に関連する 2 つの HHCODE のディメンション数値が一致しません。

処置: 2 つの HHCODE のディメンション数値が一致していることを確認してください。

ORA-13002 指定されたレベルは範囲外です。

原因: 指定されたレベルが 1 より小さいか、または HHCODE でコード化された最大レベルより大きくなっています。

処置: すべてのレベルが 1 から HHCODE でコード化された最大レベル番号の間であることを確認してください。

ORA-13003 ディメンションに指定された範囲が無効です。

原因: ディメンションに指定された範囲が無効です。

処置: 下限 (lb) が上限 (ub) より低いことを確認してください。

ORA-13004 指定されたバッファ・サイズが無効です。

原因: ファンクションのバッファ・サイズが無効です。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13005 再帰的 HHCODE 関数エラー

原因: 再帰的にコールされる HHCODE 関数でエラーが発生しました。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13006 指定されたセル番号が無効です。

原因: セル識別子が 0 より小さいか、または $(2^{\text{ndim}} - 1)$ より大きくなっています。

処置: セル識別子が 0 から $(2^{\text{ndim}} - 1)$ の間であることを確認してください。

ORA-13007 無効な HEX 文字が検出されました。

原因: [0-9] または [A-Fa-f] の範囲にない文字が検出されました。

処置: 文字列のすべての文字が [0-9] または [A-Fa-f] の範囲内であることを確認してください。

ORA-13008 指定された日付書式に無効なコンポーネントが含まれています

原因: 指定された日付書式の一部が無効です。

処置: 日付書式が有効であることを確認してください。

ORA-13009 指定された日付文字列が無効です

原因: 指定された日付文字列に無効なコンポーネントがあるか、指定された書式文字列と一致しません。

処置: 日付文字列のコンポーネントが有効であり、日付文字列と書式文字列が一致することを確認してください。

ORA-13010 無効な引数の数が指定されました。

原因: SDO 関数に無効な引数の数が指定されました。

処置: ファンクション・コールの構文を確認してください。

ORA-13011 値が範囲外です。

原因: 指定されたディメンションの値が、そのディメンションに定義された範囲外です。

処置: コード化されるすべての値が、定義されたディメンションの範囲内にあることを確認してください。

ORA-13012 無効なウィンドウ型が指定されました。

原因: 無効なウィンドウ型が指定されました。

処置: 有効なウィンドウ型は、RANGE、PROXIMITY、POLYGON です。

ORA-13013 指定されたトポロジーは INTERIOR でも BOUNDARY でもありませんでした。

原因: 指定されたトポロジーが INTERIOR または BOUNDARY ではありませんでした。

処置: HHCODE のトポロジーの記述に INTERIOR または BOUNDARY が使用されていることを確認してください。

ORA-13014 1 から 8 の範囲以外のトポロジー識別子が指定されました

原因: 範囲 (1 ~ 8) 外のトポロジー識別子が指定されました。

処置: 範囲 (1 ~ 8) 内でトポロジーを指定してください。

ORA-13015 ウィンドウ定義が無効です。

原因: ウィンドウの定義に使用されている値の番号がウィンドウ型に対応していません。

処置: ウィンドウ定義に使用されている値の番号がウィンドウ型およびディメンション数に対して正しいことを確認してください。

ORA-13016 パーティション定義が無効です

原因: パーティションの共通コードが正しくデコードされていません。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13017 行パーティション形式が認識できません

原因: 2次元の行パーティションの形式が判別できませんでした。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13018 距離型が無効です

原因: 指定された距離型が無効です。

処置: サポートされている距離ファンクションは、EUCLID と MANHATTAN のみです。

ORA-13019 座標が有効範囲外です。

原因: 頂点の座標が、指定されたディメンションの有効範囲外にあります。

処置: 頂点の座標を、指定された範囲内に再定義してください。

ORA-13020 座標が NULL です。

原因: 頂点の座標が NULL 値になっています。

処置: 頂点の座標を非 NULL 値に再定義してください。

ORA-13021 要素が連続していません。

原因: ジオメトリ要素を定義している座標が接続されていません。

処置: ジオメトリ要素の座標を再定義してください。

ORA-13022 ポリゴンが自己交差しています

原因: ポリゴンのジオメトリ要素を定義している座標が、セグメントの交差を表しています。

処置: ポリゴンの座標を再定義してください。

ORA-13023 内部要素が外部要素に影響しています。

原因: ジオメトリ・オブジェクトの内部要素が、そのオブジェクトの外部要素に影響しています。

処置: ジオメトリ要素の座標を再定義してください。

ORA-13024 ポリゴンのセグメントが3未満です

原因: ポリゴンのジオメトリ要素を定義している座標が、セグメントが3未満であることを表しています。

処置: ポリゴンの座標を再定義してください。

ORA-13025 ポリゴンが閉じていません

原因: ポリゴンのジオメトリ要素を定義している座標が、開いたポリゴンを表しています。

処置: ポリゴンの座標を再定義してください。

ORA-13026 要素 *string.string.string* の要素タイプが不明です。

原因: *layer_SDOGEOM* 表の SDO_ETYPE 列が無効なジオメトリ要素タイプ値を含んでいます。

処置: サポートされている SDO_ETYPE 値の 1 つを使用して、指定したジオメトリ要素の、*layer_SDOGEOM* 表内のジオメトリ要素タイプを再定義してください。SDO_ETYPE および使用可能な値については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13027 *string* からディメンション定義を読み込みません。

原因: *layer_SDODIM* 表からディメンション定義を読み込むことに問題があります。

処置: *layer_SDODIM* 表が存在し、その表に適切な権限があることを確認してください。このメッセージとともに他のエラーが表示される場合は、それにも対処してください。

ORA-13028 SDO_GEOMETRY オブジェクトの Gtype が無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトに無効な SDO_GTYPE があります。

処置: ジオメトリに有効な Gtype があることを確認してください。

ORA-13029 SDO_GEOMETRY オブジェクトの SRID が無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトに無効な SDO_SRID があります。指定された SRID は、SRID の有効範囲外である可能性があります。

処置: ジオメトリに有効な SRID があることを確認してください。

ORA-13030 SDO_GEOMETRY オブジェクトのディメンションが無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_GTYPE のディメンションと SDO_GEOM_METADATA のディメンションの間に不一致があります。

処置: ジオメトリに有効なディメンションがあることを確認してください。

ORA-13031 ポイント・オブジェクト用の SDO_GEOMETRY オブジェクトの Gtype が無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトに無効な SDO_GTYPE があります。VARRAY が NULL であるのに、SDO_GTYPE が POINT 型ではありません。

処置: ジオメトリに有効な Gtype があることを確認してください。

ORA-13032 NULL の SDO_GEOMETRY オブジェクトが無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトに、無効なフィールド SDO_POINT_TYPE、SDO_ELEM_INFO_ARRAY または SDO_ORDINATE_ARRAY があります。

処置: ジオメトリに有効なフィールドがあることを確認してください。NULL のジオメトリを指定するには、それぞれのフィールドに NULL を指定するのではなく、SDO_GEOMETRY 全体を NULL として指定してください。

ORA-13033 SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_ELEM_INFO_ARRAY のデータが無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_ELEM_INFO_ARRAY フィールドに無効なデータがあります。このフィールドの 3 つの数値は、有効なジオメトリを構成しません。

処置: ジオメトリに有効なデータがあることを確認してください。

ORA-13034 SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_ORDINATE_ARRAY のデータが無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_ORDINATE_ARRAY フィールドに無効なデータがあります。このフィールドの座標は、有効なジオメトリを構成しません。X または Y (あるいはその両方) が NULL の可能性があります。

処置: ジオメトリに有効なデータがあることを確認してください。

ORA-13035 SDO_GEOMETRY オブジェクトのデータ (測地データのアーキ) が無効です。

原因: SDO_GEOMETRY オブジェクトの SDO_ELEM_INFO_ARRAY フィールドに無効なデータがあります。測地座標を持つジオメトリにアーキがあります。

処置: ジオメトリに有効なデータがあることを確認してください。

ORA-13036 操作 [string] はポイント・データ用にはサポートされていません。

原因: 指定されたジオメトリ関数は、ポイント・データ用にはサポートされていません。

処置: 指定されたジオメトリ関数が、ポイント・データに対してコールされないようにしてください。

ORA-13037 SRID は 2 つのジオメトリとは一致しません。

原因: 空間操作が 2 つのジオメトリでコールされました。一方のジオメトリには SRID があり、もう一方のジオメトリには SRID がありません。

処置: 空間操作が、互換性のある SRID を持つ 2 つのジオメトリの間でコールされるようにしてください。

ORA-13039 要素 *string.string.string* に対する空間索引の更新に失敗しました。

原因: 問題を示す別のエラーがこのメッセージに付随しています。

処置: 付随するエラーを修正してください。付随するエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13040 四角形の細分化に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 付随するエラーを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13041 要素 *string.string.string* と四角形の比較に失敗しました。

原因：生成された四角形と指定された要素の間の空間的な関係が決定されません。

処置：これは内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシージャを使用して、ジオメトリを確認してください。プロシージャがエラーを返さない場合、ORA-13041 に付随するエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13042 SDO_LEVEL と SDO_NUMTILES との組合せが無効です

原因：*layer_SDOLAYER* 表からの SDO_LEVEL の値および SDO_NUMTILES の値の無効な組合せが読み込まれました。列が NULL になっていることが、最もありうる原因です。

処置：SDO_LEVEL 列および SDO_NUMTILES 列の組合せが『Oracle Spatial User's Guide and Reference』に記述されているような有効な整数値を含んでいるかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13043 *layer_SDOLAYER* 表からのメタ・データの読み込みに失敗しました。

原因：*layer_SDOLAYER* 表を読み込むときにエラーが発生しました。

処置：このエラーは以前のエラーの結果であり、以前のエラーもレポートされています。以前のエラーを処理し、現在の操作を再試行してください。付随するエラーがレポートされていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13044 指定された四角形のサイズは最大解像度を超過しています

原因：固定サイズの四本木分割に指定された四角形のサイズがレイヤー・メタ・データから計算された最大解像度を超過しています。

処置：四角形のレベル、四角形のサイズおよび四角形の解像度については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。生成された四角形が常に解像度の最大レベルの四角形と同じかそれより大きくなるように四角形のパラメータを設定してください。これは、ジオメトリ・オブジェクトより少ない四角形を使用するか、現行の四角形より小さい四角形サイズを指定することによって実現されます。

ORA-13045 互換性フラグが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13046 引数の数が無効です。

原因：SDO_GEOM 関数に無効な数の引数が指定されました。

処置：SDO_GEOM 関数の構文と意味については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13047 *layer_SDOLAYER* 表の縦座標数を確認できません。

原因: SDO_GEOM 関数が、SDO レイヤー *layer* の縦座標数を確認できませんでした。

処置: *layer_SDOLAYER* 表に列 SDO_ORDCNT に対して有効な値があることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13048 再帰的 SQL フェッチ・エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13049 *layer_SDODIM* 表の許容度値を決定できません

原因: SDO_GEOM 関数が SDO レイヤー *layer* の許容度値を決定できませんでした。

処置: *layer_SDODIM* 表に列 SDO_TOLERANCE に対して有効な値があることを確認してください。

ORA-13050 空間オブジェクトを組み立てられません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13051 空間オブジェクトの初期化に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13052 ジオメトリ *string.string* のジオメトリ・タイプはサポートされていません

原因: *layer_SDOGEOM* 表の特定のインスタンスのジオメトリ・タイプが Oracle Spatial Cartridge でサポートされている一連のジオメトリ・タイプの中にありません。

処置: サポートされているジオメトリ・タイプのリスト、および SDO スキーマを持つ、サポートされていないジオメトリ・タイプの保存および検索の方法については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13053 引数リストにある幾何学図形要素が最大数を超過しました

原因: SDO_GEOM 関数の引数リストで指定できる幾何学図形要素が最大値を超えました。

処置: 『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照して SDO_GEOM の構文を確認し、引数を減らして幾何学図形を記述してください。または、SDO_WINDOW パッケージの記述を参照して、表の中にオブジェクトを保存し、それを SDO_GEOM 関数のコールの引数として使用する方法を確認してください。

ORA-13054 再帰的 SQL 解析エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13055 Oracle オブジェクト *string* が指定した表にありません。

原因: 要求したオブジェクトが指定した表に存在しません。

処置: このエラーをレポートした関数またはプロシージャの構文を確認し、オブジェクトが指定された表に実際に存在することを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13108 空間表 *string* が見つかりません。

原因: 指定された空間表が存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、表が登録されていることを確認してください。

ORA-13109 空間表 *string* が存在します。

原因: 指定された空間表が Spatial Data Option のデータ・ディクショナリに登録されています。

処置: 既存の表を Spatial Data Option のデータ・ディクショナリから削除するか、または別の名前を使用してください。

ORA-13110 空間表 *string* がパーティション化されていません

原因: 指定された空間表がパーティション化されていません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、最高水位標が設定されていることを確認してください。

ORA-13111 空間表 *string* にパーティション・キーが定義されていません

原因: 指定された空間表にパーティション・キーが定義されていません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、表がパーティション化されていることを確認してください。

ORA-13112 無効なカウント・モード *string* です

原因: 指定されたカウント・モードが無効です。

処置: カウント・モードを変更してください。有効なカウント・モードは、ESTIMATE または EXACT です。

ORA-13113 Oracle 表 *string* が存在しません。

原因: 指定された Oracle 表が存在しません。

処置: Oracle7 のデータ・ディクショナリを調べて、表が存在していることを確認してください。

ORA-13114 表領域 *string* が見つかりません。

原因: 指定された表領域が存在しません。

処置: Oracle7 のデータ・ディクショナリを調べて、指定された表領域が存在し、その表領域に領域割当て制限が定義されていることを確認してください。

ORA-13115 表領域 *string* はすでに割り当てられています

原因: 指定された表領域はすでに空間表に割り当てられています。

処置: 別の表領域名を表に割り当ててください。

ORA-13116 表領域 *string* は表 *string* に割り当てられていません

原因: 指定された表領域が、指定された空間表に割り当てられていません。

処置: 表領域を空間表に割り当ててください。

ORA-13117 パーティション *string* が見つかりません。

原因: 指定されたパーティションが存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、パーティション名を確認してください。

ORA-13119 ソース表領域とターゲット表領域が同一です。

原因: パーティションを移動しようとしたときに、同じソース表領域とターゲット表領域が指定されました。

処置: パーティションを移動する場合は、別々のソース表領域とターゲット表領域を指定してください。

ORA-13121 子パーティションの作成に失敗しました。

原因: 子パーティションの作成に失敗しました。

処置: このエラーに付随する他のエラーを調べて、先にそれを修正してください。

ORA-13122 子パーティション *string* が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13123 列 *string* はすでに定義されています

原因: 指定された列は空間表ですでに定義されています。

処置: 別の列名を使用してください。

ORA-13124 列 *string* の列 ID を判別できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13125 パーティション・キーはすでに設定されています

原因: 空間表にはパーティション・キーがすでに設定されています。

処置: パーティション・キーは空間表ごとに 1 つのみ指定できます。

ORA-13126 空間表 *string* のクラスを判別できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13127 ターゲット・パーティションの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13128 現行の四角形表示レベルはユーザー指定のレベルを超過しています

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13129 HHCODE 列 *string* が見つかりません。

原因: 指定された空間列が存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、指定された列が空間列であることを確認してください。

ORA-13135 空間表の変更に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13136 NULL 共通コードが生成されました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13137 表領域順序番号の生成に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13138 オブジェクト *string* の名前を判別できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13139 *string* の列定義を取得できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13140 無効なターゲット型です。

原因: 指定されたターゲット型が無効です。

処置: 有効なターゲット型に置き換えてください。有効なターゲット型は、TABLE または VIEW です。

ORA-13141 無効な RANGE ウィンドウ定義です。

原因: 指定された RANGE ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: RANGE ウィンドウは、1 組の値としてそれぞれの次元の下限と上限を指定して定義してください (例 :lower_bound1,upper_bound1,lower_bound2,upper_bound2,...)。値は偶数個にしてください。

ORA-13142 無効な PROXIMITY ウィンドウ定義です。

原因: 指定された PROXIMITY ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: PROXIMITY ウィンドウは、中心点と半径を指定して定義してください。中心点は、ND の値で定義してください。値は、ND+1 個にしてください。

ORA-13143 無効な POLYGON ウィンドウ定義です。

原因: 指定された POLYGON ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: POLYGON ウィンドウは、ポリゴンの頂点を表す N 組の値を指定して定義してください。値は偶数個にしてください。

ORA-13144 ターゲット表 *string* が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13145 範囲リストの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13146 表置換変数 *string* を検索できませんでした。

原因: パーティション名の置換変数 *string* が SQL フィルタで見つかりませんでした。

処置: パーティション名の位置を示すため、置換変数 *string* は SQL フィルタ内にある必要があります。

ORA-13147 MBR の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13148 SQL フィルタの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13149 空間表 *string* の次の順序番号の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13150 例外レコードの挿入に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの挿入操作に失敗しました。

処置: レポートされた他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13151 例外レコードの削除に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの挿入操作に失敗しました。

処置: レポートされた他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13152 無効な HHCODE 型です。

原因: 指定された HHCODE 型が無効です。

処置: 有効な HHCODE 型に置き換えてください。有効な HHCODE 型は、POINT および LINE です。

ORA-13153 無効な最高水位標指定です

原因: 最高水位標は 0（ゼロ）以上である必要があります。

処置: 最高水位標が 0（ゼロ）以上の整数であることを確認してください。

ORA-13154 無効な精度指定です

原因: 指定された精度が範囲外です。

処置: 0（ゼロ）以上の整数である必要があります。

ORA-13155 無効なディメンションの数指定です

原因: 指定されたディメンションの数が範囲外です。

処置: ディメンションの数は 1 ～ 32 の間で指定してください。

ORA-13156 登録する表 *string.string* が空ではありません。

原因: 指定された表に行があります。

処置: 登録する表が空であることを確認してください。

ORA-13157 Oracle エラー ORAstring が string 中に発生しました。

原因: 表示された Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを修正してください。

ORA-13158 Oracle オブジェクト string がありません。

原因: 指定されたオブジェクトは存在しません。

処置: 指定されたオブジェクトが存在していることを確認してください。

ORA-13159 Oracle 表 string はすでに存在しています。

原因: 指定された表はすでに存在しています。

処置: 指定された表を削除してください。

ORA-13181 列 string_SDOINDEX.SDO_CODE の長さを判別できません

原因: layer_SDOINDEX 表の SDO_CODE 列の長さを確認できません。

処置: layer_SDOINDEX 表が存在することを確認してください。適切な権限が表にあることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13182 要素 string.string.string の読み込みに失敗しました。

原因: 指定された要素を layer_SDOGEOM 表から読み込めません。

処置: 指定された要素が表に存在していることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-13183 ジオメトリ string.string のジオメトリ・タイプはサポートされていません。

原因: layer_SDOGEOM 表のジオメトリ・タイプがサポートされていません。

処置: ジオメトリ・タイプをサポートされているタイプに変更してください。

ORA-13184 四本木分割パッケージの初期化に失敗しました。

原因: 四本木分割パッケージの初期化に失敗しました。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13185 初期 HHCODE の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13186 固定サイズ四角形の四本木分割に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13187 細分化に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13188 セルのデコードに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13189 再帰的 SQL 解析に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13190 再帰的 SQL フェッチに失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13191 SDO_ORDCNT 値の読み込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13192 要素行の数の読み込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13193 ジオメトリに対する領域の割当てに失敗しました

原因: メモリー不足のため、データベースからジオメトリを読み込めません。

処置: ジオメトリを確認してください。返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13194 スーパーセルのデコードに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13195 四角形の上限の作成に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 返されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13196 要素 *string.string.string* 用スーパーセルの計算に失敗しました。

原因: 最小枠 HHCODE またはジオメトリのスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに付随する場合があります。付随するエラーを修正してください。また、ジオメトリが正確かどうかを確認してください。

ORA-13197 要素 *string.string.string* は有効範囲外です。

原因: 四本木分割はこの要素に四角形を生成しませんでした。このエラーは、ジオメトリ定義によって、ジオメトリが *layer_SDODIM* 表で定義されたドメイン外になると発生することがあります。

処置: ジオメトリが有効で、定義されたドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13198 Spatial Cartridge エラー: *string*

原因: Spatial Cartridge ストアド・プロシージャの内部エラーです。

処置: エラー・メッセージ・テキストに、エラーの原因が明確に特定されない場合は、このエラーに先行するプロシージャ・コールまたはイベントの順序を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13199 *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13200 空間索引付けで内部エラー [*string*] が発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13201 CREATE INDEX 文のパラメータが正しくありません。

原因: 空間 CREATE INDEX 文のパラメータ句を解析しようとして、エラーが発生しました。

処置: 空間索引作成に必要なパラメータの数値、構文および意味については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13202 SDO_INDEX_METADATA 表の作成またはデータ挿入に失敗しました

原因：SDO_INDEX_METADATA 表を作成中、またはその表にデータを挿入中にエラーが発生しました。

処置：現行のユーザーに CREATE TABLE 権限があり、デフォルトまたは指定された表領域にそのユーザーの十分な割当て領域があることを確認してください。

ORA-13203 USER_SDO_GEOM_METADATA 表の読み込みに失敗しました。

原因：USER_SDO_GEOM_METADATA 表を読み込み中にエラーが発生しました。

処置：USER_SDO_GEOM_METADATA に、カレント・ジオメトリ表のエントリがあることを確認してください。

ORA-13204 空間索引表の作成に失敗しました

原因：索引表を作成しようとして、エラーが発生しました。

処置：ユーザーがカレント・スキーマに表作成の権限を持ち、デフォルトまたは指定された表領域にそのユーザーの十分な割当て領域があることを確認してください。

ORA-13205 空間パラメータの解析中に内部エラーが発生しました

原因：空間パラメータの解析中に内部エラーが発生しました。

処置：パラメータ文字列で渡されたすべてのパラメータが有効であることを確認してください。

ORA-13206 空間索引の作成中に内部エラー [string] が発生しました。

原因：空間索引の作成中に内部エラーが発生しました。

処置：正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13207 [string] 演算子の使用方法が正しくありません。

原因：指定された演算子を評価中にエラーが発生しました。

処置：パラメータおよび指定された演算子の戻り型を確認してください。

ORA-13208 [string] 演算子の評価で内部エラーが発生しました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13209 SDO_INDEX_METADATA 表の読み込み中、内部エラーが発生しました。

原因：SDO_INDEX_METADATA 表を読み込み中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。このエラーおよび付随するエラーの番号を記録してください。

ORA-13210 索引表にデータを挿入中、エラーが発生しました。

原因: 索引表にデータを挿入中にエラーが発生しました。考えられる原因は次のとおりです。

- 現在の表領域に十分な割当てがない。
- ユーザーに適切な権限がない。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13211 ウィンドウ・オブジェクトの四本木分割に失敗しました

原因: ウィンドウ・オブジェクトの四本木分割に内部エラーが発生しました。

処置: VALIDATE_GEOMETRY プロシーダを使用して、ウィンドウ・オブジェクトのジオメトリ整合性を確認してください。

ORA-13212 四角形とウィンドウ・オブジェクトを比較できません。

原因: 生成された四角形と指定されたウィンドウ・オブジェクト間の空間的な関係が決定できません。

処置: これは内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシーダを使用して、ジオメトリを確認してください。プロシーダがエラーを返さない場合、これに付随するエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13213 ウィンドウ・オブジェクトへの空間索引の生成に失敗しました

原因: このエラーに付随して、この問題の根本的な原因を示す別のエラーが表示されません。

処置: 付随するエラーを修正してください。付随するエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13214 ウィンドウ・オブジェクトのスーパーセルの計算に失敗しました

原因: 最小枠四角形、またはジオメトリのスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに付随する場合があります。付随するエラーを修正してください。また、ジオメトリが正確かどうかを確認してください。

ORA-13215 ウィンドウ・オブジェクトが範囲外です。

原因: 四本木分割によってこのジオメトリには四角形が生成されませんでした。このエラーは、ジオメトリ定義によって、ジオメトリが USER_SDO_GEOM_METADATA ビューで定義されたドメイン外になると発生することがあります。

処置: ジオメトリが有効で、定義されたドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13216 空間索引の更新に失敗しました

原因: 問題を示す別のエラーがこのメッセージに付随して表示されます。

処置: 付随するエラーを修正してください。付随するエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13217 ALTER INDEX 文のパラメータが正しくありません。

原因: 空間 ALTER INDEX 文のパラメータ句を解析しようとして、エラーが発生しました。

処置: 空間 ALTER INDEX 文に必要なパラメータの数値、構文および意味については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13218 [*string*] 索引がサポートされる索引表の最大数に達しました。

原因: 既存の索引表がすでに最大数に達したときに、add_index パラメータが ALTER INDEX に渡されました。

処置: 索引表の 1 つを削除してから、別の索引表を追加してください。

ORA-13219 空間索引表 [*string*] の作成に失敗しました。

原因: 索引表を作成しようとして、エラーが発生しました。

処置: 索引のスキーマに指定された名前の表があります。索引作成はこの名前で索引表を作成しようとしています。この表の名前を変更するか、または索引の名前を変更してください。

ORA-13220 四角形とジオメトリを比較できません。

原因: 生成された四角形と指定されたジオメトリ間の空間的な関係が判断できません。

処置: これは内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシージャを使用して、ジオメトリを確認してください。プロシージャがエラーを返さない場合、ORA-13220 に付随するエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13221 ジオメトリ・オブジェクトのジオメトリ・タイプが正しくありません。

原因: ジオメトリ・オブジェクトの SDO_GTYPE 属性に無効な値があります。

処置: サポートされている SDO_GTYPE 値の 1 つを使用して、ジオメトリ表にジオメトリ・タイプを再定義してください。SDO_GTYPE および使用可能な値については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13222 *string* のジオメトリに対するスーパーセルの計算に失敗しました

原因: 最小枠四角形またはジオメトリのスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに付随する場合があります。付随するエラーを修正してください。また、ジオメトリが正確かどうかを確認してください。

ORA-13223 SDO_GEOM_METADATA 表の *string* に対するエントリが重複しています。

原因: SDO_GEOM_METADATA 表内の指定された表および列値の組合せに、エントリが重複しています。

処置: 指定された表およびジオメトリ列の名前が正しいことを確認してください。エントリは、表およびジオメトリ列の組合せに対して 1 つのみです。

ORA-13224 指定した索引名は空間索引に対して長すぎます。

原因: 指定された索引名が、空間索引名でサポートされている長さより長くなりました。

処置: 索引名でサポートされている長さを確認し、索引名の長さを短くしてください。

ORA-13225 指定した索引表名は空間索引に対して長すぎます。

原因: 指定された索引表名が、空間索引表名でサポートされている長さより長くなりました。

処置: 索引表名でサポートされている長さを確認し、索引表名の長さを短くしてください。

ORA-13226 空間索引がないとインタフェースはサポートされません。

原因: ジオメトリ表に空間索引がありません。

処置: 空間演算子で参照されているジオメトリ表に空間索引があることを確認してください。

ORA-13227 2つの索引表の SDO_LEVEL 値が一致しません。

原因: 空間結合演算子で使用されている2つの索引表の SDO_LEVEL 値が一致しません。

処置: 2つの互換性のある索引が、空間結合演算子で使用されていることを確認してください。索引に同じ SDO_LEVEL および SDO_NUMTILES 値がある場合、索引には互換性があります。

ORA-13228 型が無効なため、空間索引の作成に失敗しました。

原因: SDO_GEOMETRY 以外の型の列に空間索引を作成しようとしました。

処置: SDO_GEOMETRY 型の列に索引を作成してください。

ORA-13230 R-tree の作成で、一時表 [string] の作成に失敗しました。

原因: 指定された一時表はすでに存在するか、または表領域が不足しています。

処置: この表がすでに存在する場合は、削除してください。また、現行のユーザーに CREATE TABLE 権限があり、デフォルトまたは指定された表領域に十分な領域があることを確認してください。

ORA-13231 R-tree の作成で、索引表 [string] の作成に失敗しました。

原因: 指定された索引表はすでに存在するか、または表領域が不足しています。

処置: この表がすでに存在する場合は、削除してください。また、現行のユーザーに CREATE TABLE 権限があり、デフォルトまたは指定された表領域に十分な領域があることを確認してください。

ORA-13232 R-tree の作成で、メモリーの割当てに失敗しました。

原因：この機能には、バルク作成のために 64KB 以上のメモリーが必要です。

処置：データの小さいサブセットに索引を作成してください。その後、残りのデータにトランザクション挿入を使用してください。

ORA-13233 R-tree に対する順序番号 [string] の作成に失敗しました。

原因：指定された順序番号は存在します。

処置：順序オブジェクトを削除するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13234 R-tree 索引表 [string] のアクセスに失敗しました。

原因：索引表は削除されたか、または破損しています。

処置：索引を再作成するか、または付随するエラー・メッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13236 R-tree の処理で内部エラーが発生しました : [string]

原因：R-tree の処理で内部エラーが発生しました。

処置：メッセージ・テキストをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13237 R-tree の同時更新で内部エラーが発生しました : [string]

原因：直列可能な分離レベルを使用したことが原因で、同時更新中に非一貫性が発生しました。

処置：ALTER SESSION を使用して分離レベルを「コミット読み」に変更し、メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13239 n-d R-tree の作成で、sdo_dimensionality が未指定です。

原因：ディメンション・パラメータの読取りでエラーが発生しました。

処置：ディメンションの範囲が有効かどうかを確認し、ディメンションをパラメータとして指定してください。

ORA-13240 問合せメンバーのディメンションより大きいディメンションが指定されました。

原因：問合せメンバーの値が少なすぎるためにエラーが発生しました。

処置：ディメンションの指定を省略するか、問合せのディメンションを使用してください。

ORA-13241 データのディメンションに一致しないディメンションが指定されました。

原因：CREATE INDEX に指定されたディメンションが、データのディメンションと一致しないためにエラーが発生しました。

処置：データのディメンションに変更してください。

ORA-13242 n-d R-tree の許容値の読み込みに失敗しました。

原因: 指定された表および USER_SDO_GEOM_METADATA 表の列の情報を読み込む際にエラーが発生しました。

処置: 許容値を指定する行を挿入してください。

ORA-13243 指定した演算子は n-d R-tree に使用できません : [string]

原因: 現在、n-d R-tree でサポートされている演算子は sdo_filter のみです。

処置: ドキュメントで sdo_filter の問合せタイプ・パラメータを確認するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13249 string

原因: 拡張可能な空間索引のコンポーネントで内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、他のサーバー・コンポーネントから取得されました。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13250 メタデータ表エントリを変更する権限が不十分です

原因: この操作を要求したユーザーに、参照された表に対する適切な権限がありませんでした。

処置: 指定された機能およびジオメトリ表の名前が正しいことを確認し、現行のユーザーが少なくともこれらの表の SELECT 権限を持っていることを確認してください。

ORA-13251 メタデータ表のエントリ string が重複しています。

原因: 指定されたエントリがすでにメタデータ表に存在します。

処置: 指定された機能およびジオメトリ表の名前が正しいことを確認してください。機能とジオメトリ表の対応付けは 1 回のみ登録されます。

ORA-13260 レイヤー表 string が存在しません。

原因: データ移行ソース表 layer_SDOGEOM が存在しません。

処置: 指定されたレイヤー名が正しく、対応する空間レイヤー表がカレント・スキーマに存在することを確認してください。

ORA-13261 ジオメトリ表 string が存在しません。

原因: 指定されたジオメトリ表がカレント・スキーマに存在しません。

処置: GID 値の SDO_GEOMETRY 型の列および NUMBER 型の列を持つ表を作成してください。

ORA-13262 ジオメトリ列 string が表 string にありません。

原因: 指定された表に SDO_GEOMETRY 型の列がありません。

処置: 表を変更または再作成して、SDO_GEOMETRY 型の列および NUMBER 型の列が含まれるようにしてください。

ORA-13263 列 *string* (表 *string*) は SDO_GEOMETRY 型ではありません。

原因: ジオメトリを格納しようとした列は SDO_GEOMETRY 型ではありません。

処置: 列定義を変更して SDO_GEOMETRY 型にしてください。

ORA-13264 ジオメトリ ID 列 *string* が表 *string* にありません。

原因: 指定された表にジオメトリ ID 列がありません。

処置: ジオメトリ ID 列の名前が正しく指定され、指定された表に存在することを確認してください。

ORA-13265 ジオメトリ ID 列 *string* (表 *string*) は NUMBER 型ではありません。

原因: ジオメトリ ID 列は NUMBER 型ではありません。

処置: 表定義を変更して、ジオメトリ ID を含む列を NUMBER 型にしてください。

ORA-13266 表 *string* へのデータ挿入時にエラーが発生しました。

原因: OCI エラーが発生したか、現行の表領域でユーザーに十分な割当てがなかったか、またはロールバック・セグメントが小さすぎました。

処置: 付随するエラー・メッセージに、問題の原因が表示されます。適切な処置を行って示された問題を修正してください。

ORA-13267 レイヤー表 *string* のデータ読み込み時にエラーが発生しました。

原因: *layer*_SDOLAYER 表からジオメトリ・データを読み込むときにエラーが発生しました。

処置: *layer*_SDOGEOM および *layer*_SDODIM が存在することを確認してください。存在する場合は、指定されたレイヤーに VALIDATE_GEOMETRY を実行してください。

ORA-13268 USER_SDO_GEOM_METADATA からの変換の取得でエラーが発生しました。

原因: 指定されたジオメトリ表の USER_SDO_GEOM_METADATA にエントリがありませんでした。

処置: ソース *layer*_SDODIM 表から取得された変換情報とともに、移行先のジオメトリ表のエントリを挿入してください。

ORA-13269 ジオメトリ表の処理時に内部エラー [*string*] が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13270 OCI エラーが発生しました *string*

原因: レイヤーまたはジオメトリ表の処理中に OCI エラーが発生しました。

処置: 適切な手順で、OCI 固有のエラーを修正してください。

ORA-13271 ジオメトリ・オブジェクトのメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリーが不足しています。

処置: カレント・セッション / プロセスが使用できるメモリーを増やしてください。

ORA-13272 ジオメトリ・オブジェクト *string* (表 *:string*) が無効です

原因: 指定されたオブジェクトが、VALIDATE_GEOMETRY が実行するジオメトリ整合性チェックに失敗しました。

処置: VALIDATE_GEOMETRY が実行するジオメトリ整合性チェックについては、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照し、必要に応じてジオメトリ定義を修正してください。

ORA-13273 ディメンション・メタデータ表 *string* が存在しません。

原因: *layer_SDODIM* 表が存在しません。

処置: 指定されたレイヤー名が正しく、カレント・スキーマに *layer_SDODIM* が存在することを確認してください。

ORA-13274 演算子が非互換 SRID とともに起動されました。

原因: SRID があるウィンドウ・ジオメトリおよび SRID がないレイヤー、または SRID がないウィンドウおよび SRID があるレイヤーとともに、空間演算子が起動されました。

処置: レイヤーおよびウィンドウの両方に SRID があるか、両方に SRID がないことを確認してください。

ORA-13275 空間索引の作成がサポートされていない型のために失敗しました。

原因: 空間索引の作成が、SDO_GEOMETRY 型以外の列に対して行われました。

処置: 空間索引は、SDO_GEOMETRY 型の列のみで作成できます。索引付けされた列が SDO_GEOMETRY 型であることを確認してください。

ORA-13276 座標変換で内部エラー [*string*] が発生しました

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13278 SRID のシステム固有の形式への変換に失敗しました。

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13281 WKT を取り出す SQL 文の実行に失敗しました。

原因: OCI の内部エラーまたは SRID が表エントリと一致していません。

処置: 使用されている SRID が正しいかどうかを確認してください。

ORA-13282 座標変換の初期化に失敗しました

原因: 元の座標システム、宛先座標システム WKT、または非互換座標システムの解析エラーです。

処置: 表エントリに対する WKT の妥当性、および要求された変換の正当性を確認してください。

ORA-13283 位置の変換で新規ジオメトリ・オブジェクトの取得に失敗しました

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13284 位置の変換でジオメトリ・オブジェクトのコピーに失敗しました

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13285 ジオメトリの座標変換でエラーが発生しました

原因: 座標の組合せが変換 / 投影の有効範囲外です。

処置: 変換されるデータが、必要な変換 / 投影と一貫性があることを確認してください。

ORA-13287 不明なジオメトリ・タイプを変換できません

原因: ジオメトリ・タイプが 0 以下のジオメトリが変換対象に指定されました。許可されるジオメトリ・タイプは 1 以上です。

ORA-13288 座標点変換でエラーが発生しました

原因: 点の変換時に内部エラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13290 指定された単位はサポートされていません。

原因: 不明な単位で Spatial ファンクションがコールされました。

処置: Spatial でサポートされている単位を確認し、正しい UNIT パラメータで Spatial ファンクションをコールしてください。

ORA-13291 指定された単位と標準単位の間の変換エラーが発生しました。

原因: 指定された単位と標準単位の間での線形距離、角度または面積の変換に失敗しました。

処置: 単位指定を確認して、再指定してください。

ORA-13292 ARC_TOLERANCE の指定が正しくありません

原因: SDO_BUFFER または SDO_AGGR_BUFFER ファンクションが測地ジオメトリでコールされた場合、または SDO_ARC_DENSIFY がコールされた場合は、ARC_TOLERANCE がジオメトリに指定された許容度値以上に指定されている必要があります。

処置: ARC_TOLERANCE が正しく指定されていることを確認してください。

ORA-13293 地形参照された SRID なしではジオメトリの単位を指定できません。

原因: UNIT パラメータが指定された Spatial ファンクションが、地形参照された SRID なしのジオメトリに対してコールされました。

処置: UNIT パラメータが指定された Spatial ファンクションは、地形参照された SRID を持つジオメトリに対してのみコールしてください。

ORA-13294 円弧を含むジオメトリは変換できません。

原因: 歪みのない円弧の 3 点表現の変換はできません。

処置: ジオメトリに円弧が含まれていないことを確認してください。

ORA-13295 ジオメトリ・オブジェクトは異なる座標システム内にあります。

原因: 2 つの異なる SRID を持つ 2 つのジオメトリで、Spatial ファンクションがコールされています。

処置: 同じ座標システムに置かれるようにジオメトリ・オブジェクトを変換し、Spatial ファンクションをコールしてください。

ORA-13296 座標システムの指定が正しくありません

原因: 地球の半径の WKT の数値が不適切であるか、現行の SRID がフラット化しています。

処置: 地球の半径の CS_SRS 表にある WKT を確認し、フラット化を逆にしてください。

ORA-13300 単一の点の変換でエラーが発生しました。

原因: 低レベルの座標変換エラー・トラップです。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13303 表からのジオメトリ・オブジェクトの取出しに失敗しました。

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13304 変換済ジオメトリ・オブジェクトの表への挿入に失敗しました。

原因: OCI の内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13330 MASK が無効です。

原因：RELATE 関数に渡した MASK が無効です。

処置：MASK が NULL でないことを確認してください。サポートされている MASK のリストは、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13331 LRS セグメントが無効です。

原因：指定された LRS セグメントの線ストリングが有効ではありません。

処置：有効な LRS ジオメトリ・セグメントは、Oracle Spatial の線ストリング・ジオメトリです。線ストリング・ジオメトリは、線または円弧（あるいはその両方）で構成される単一または複合線ストリングです。ディメンション情報が、Oracle Spatial のメタデータの最後の要素としてメジャー・ディメンションを含んでいることを確認してください。LRS セグメントのディメンション数は、2 (x/y または緯度 / 経度にメジャーを足した値) より大きい値である必要があります。

ORA-13332 LRS ポイントが無効です。

原因：指定された LRS ポイントが、メジャー情報を持つ点ジオメトリではありません。

処置：指定された点ジオメトリを確認してください。有効な LRS 点は、追加メジャー・ディメンションを指定した Oracle Spatial の点ジオメトリです。

ORA-13333 LRS 測定が無効です。

原因：指定された線形参照のメジャーは範囲外です。

処置：メジャーを再定義してください。

ORA-13334 LRS セグメントが接続されていません。

原因：指定されたジオメトリ・セグメントが続いていません。

処置：指定されたジオメトリ・セグメントの開始点 / 終了点を確認してください。

ORA-13335 LRS 測定情報が定義されていません。

原因：指定されたジオメトリ・セグメントのメジャー情報が割り当てられていません (IS NULL)。

処置：メジャー情報を割り当ててください（または定義してください）。開始メジャーと終了メジャーに NULL 以外の値を割り当てた場合に、LRS ジオメトリ・セグメントが定義されます。

ORA-13336 標準の diminfo/geometry から LRS の dim/geom への変換に失敗しました。

原因：指定された diminfo にメジャー・ディメンションを含める空間がないか、または標準ジオメトリが点または線ストリングではありません。

処置：diminfo ディメンションが 2 以下であるか、指定されたジオメトリ・タイプが点または線ストリングであることを確認してください。

ORA-13337 LRS ポリゴンの連結に失敗しました

原因: LRS ポリゴンの連結はサポートされていません。

処置: ジオメトリおよび要素タイプを確認し、連結操作がポリゴン・タイプでコールされないようにしてください。

ORA-13338 LRS ポリゴン/コレクション・ジオメトリへの戻しに失敗しました

原因: この操作がポリゴン・ジオメトリ用に適切に定義されていない場合、LRS ポリゴン/コレクション・ジオメトリへの戻しは、無効なジオメトリを生成します。

処置: ジオメトリ・タイプを確認し、この操作がポリゴン・タイプ・ジオメトリ以外でコールされないようにしてください。

ORA-13339 LRS ポリゴンが複数リングにわたってクリップしています

原因: 複数リングにわたってポリゴンをクリップ (dynseg) しています。

処置: ポリゴンのクリップは、単一リングのみで許可されています。

ORA-13340 点ジオメトリに複数の座標があります

原因: 点として指定されたジオメトリに座標が複数定義されています。

処置: 点の座標は1つのみです。このジオメトリが点の集合、線またはポリゴンを表す場合は、適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 値を設定してください。1 点のオブジェクトの場合は、関係のない座標を定義から削除してください。

ORA-13341 線ジオメトリの座標は最低2つ定義してください。

原因: 線として指定されたジオメトリに定義されてる座標が1つのみです。

処置: 線は2つ以上の異なる座標で構成してください。ジオメトリ定義を修正するか、このジオメトリに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13342 円弧ジオメトリの座標は最低3つ定義してください。

原因: 円弧として指定されたジオメトリに定義されている座標が2つ以下です。

処置: 円弧は3つ以上の異なる座標で構成してください。ジオメトリ定義を修正するか、このジオメトリに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13343 ポリゴン・ジオメトリの座標は最低4つ定義してください。

原因: ポリゴンとして指定されたジオメトリに定義されている座標が3つ以下です。

処置: ポリゴンは4つ以上の異なる座標で構成してください。ジオメトリ定義を修正するか、このジオメトリに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13344 円弧ポリゴン・ジオメトリの座標は、最低5つ定義してください。

原因: 円弧ポリゴンとして指定されたジオメトリに定義されている座標が4つ以下です。

処置: 円弧ポリゴンは5つ以上の異なる座標で構成してください。円弧ポリゴンは順序付けられた円弧の連続で構成され、各円弧は3つの座標を使用して表示してください。円弧は連続しているので、最初の円弧の終了点は次の円弧の開始点になり、繰り返す必要はありません。ジオメトリ定義を修正するか、このジオメトリに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13345 複合ポリゴン・ジオメトリの座標は、最低5つ定義してください

原因: 複合ポリゴンとして指定されたジオメトリに定義されている座標が4つ以下です。

処置: 複合ポリゴンは5つ以上の異なる座標で構成してください。複合ポリゴンは1つ以上の円弧と1つの線で構成されます。各円弧は3つ以上の異なる座標、各線は2つ以上の異なる座標を使用して表示してください。ジオメトリ定義を修正するか、このジオメトリに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13346 円弧を定義する座標が同一線上にあります。

原因: 円弧の定義が無効です。円弧は同一直線上にない3つの座標を使用して定義されます。

処置: 定義または円弧を変更するか、SDO_ETYPE または SDO_GTYPE を線型に設定してください。

ORA-13347 円弧を定義する座標の中に同じ座標があります。

原因: 円弧を定義する3点の座標のうち、2点以上の座標が同じです。

処置: 円弧の定義を変更し、異なる3つの座標が使用されるようにしてください。

ORA-13348 ポリゴンの境界が閉じられていません。

原因: ポリゴンの境界が閉じられていません。

処置: 座標またはジオメトリの SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性の定義を変更してください。

ORA-13349 ポリゴンの境界が自己交差しています。

原因: ポリゴンの境界が自己交差しています。

処置: オブジェクトのジオメトリ定義を修正してください。

ORA-13350 複合ポリゴンの複数の輪に接点があります

原因: 複合ポリゴンの内部または外部の輪に接点があります。

処置: 複合ポリゴンの輪に接点があってははいけません。オブジェクトのジオメトリの記述を修正してください。

ORA-13351 複合ポリゴンの複数の輪が重なっています

原因: 複合ポリゴンの内部または外部の輪が重なっています。

処置: 複合ポリゴンの輪に接点があってはいけません。オブジェクトのジオメトリの記述を修正してください。

ORA-13352 この座標で円を描くことはできません。

原因: 円を描く座標集合が正しくありません。

処置: 座標集合が実際に円周上の点を表していることを確認してください。

ORA-13353 ELEM_INFO_ARRAY が 3 つにグループ化されていません。

原因: SDO_GEOMETRY の ELEM_INFO_ARRAY に、必要とされているより多いまたは少ない要素があります。

処置: ELEM_INFO_ARRAY の要素の数が 3 で割り切れることを確認してください。

ORA-13354 ELEM_INFO_ARRAY に不適切なオフセットがあります

原因: SDO_GEOMETRY の ELEM_INFO_ARRAY にあるオフセット・フィールドが、SDO_ORDINATE_ARRAY にある無効な配列添字を参照しています。

処置: オフセットが SDO_ORDINATE_ARRAY にある有効な配列添字であることを確認してください。

ORA-13355 SDO_ORDINATE_ARRAY が、指定されたディメンション数でグループ化されていません。

原因: SDO_ORDINATE_ARRAY の要素数が、ユーザーが指定したディメンション数の倍数になっていません。

処置: ディメンション数が SDO_ORDINATE_ARRAY のデータ表現と一貫性があることを確認してください。

ORA-13356 ジオメトリ内に重複した点があります。

原因: 連続した座標に重複した点があります。

処置: 重複した点を削除してください。

ORA-13357 エクステント型に点が 2 つありません。

原因: エクステント型は、点 2 つ（左下および右上）で表現する必要があります。

処置: エクステント型には、点が 2 つのみあることを確認してください。

ORA-13358 円型に点が 3 つありません。

原因: 円型は円周上の異なる 3 点で表現されます。

処置: 円型には、点が 3 つのみあることを確認してください。

ORA-13359 エクステンツに領域がありません。

原因: エクステンツを表現している 2 点が同一です。

処置: エクステンツ型を記述している 2 点が異なっていることを確認してください。

ORA-13360 複合型に無効なサブタイプがあります

原因: このサブタイプは、指定された ETYPE 内では許可されていません。

処置: タイプの定義については、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13361 複合 ETYPE に十分なサブエレメントがありません

原因: 複合型が、実際に定義されているより多いサブエレメントを宣言しました。

処置: サブエレメント数が複合型の宣言と一貫していることを確認してください。

ORA-13362 複合ポリゴンのサブエレメントを切り離してください

原因: 複合ポリゴンは閉じた領域を記述する必要があります。

処置: すべてのサブエレメントが接続されていることを確認してください。

ORA-13363 ジオメトリに有効な ETYPE がありません。

原因: ジオメトリの ETYPE はいずれもサポートされていません。

処置: 有効な ETYPE が 1 つ以上あることを確認してください。

ORA-13364 レイヤーのディメンションがジオメトリのディメンションと一致しません。

原因: 空間レイヤーに、レイヤーに指定されたディメンションと異なるディメンションが指定されているジオメトリがあります。

処置: レイヤーのすべてのジオメトリに同じディメンションが指定され、それらが、USER_SDO_GEOM_METADATA のレイヤーの SDO_DIM_ARRAY オブジェクトのディメンションと一致することを確認してください。

ORA-13365 レイヤーの SRID が形状 SRID と一致しません。

原因: 空間レイヤーに、レイヤーに指定された SRID と異なる SRID が指定されている形状があります。

処置: レイヤーのすべての形状に同じ SRID が指定され、それらが、レイヤーの USER_SDO_GEOM_METADATA の SRID と一致することを確認してください。

ORA-13366 内部 / 外部リングの組合せが無効です

原因: 空間ジオメトリでの内部リングおよび外部リングの使用に一貫性がありません。

処置: 外部リングに対応する内部リングが、縦座標配列の外部リングに従っていることを確認してください。

ORA-13367 内部 / 外部リングの方向が正しくありません

原因: 空間ジオメトリでの内部リングまたは外部リング（あるいはその両方）の方向が正しくありません。

処置: 外部リングの方向は反時計回り、内部リングの方向は時計回りである必要があります。

ORA-13368 単純ポリゴン型に複数の外部リングがあります

原因: ポリゴン型のジオメトリに複数の外部リングがあります。

処置: ジオメトリに複数の外部リングがある場合、型を複数ポリゴンに設定してください。

ORA-13369 4 桁書式の etype の値が無効です

原因: ポリゴン型以外の要素の 4 桁の etype が使用されているか、ポリゴンの内部 / 外部リングの方向が無効です。

ORA-13370 3D LRS 関数の適用に失敗しました

原因: 3D LRS パッケージでは、非測地 3D 線ストリング・ジオメトリ（行セグメントで構成される）のみがサポートされています。

処置: ジオメトリ、要素型および SRID を確認してください。

ORA-13371 測定ディメンションの位置が無効です

原因: LRS メジャー・ディメンションは、空間ディメンションの後ろにある必要があります。位置は、dim_info_array の 3 番目または 4 番目である必要があります。

処置: ジオメトリ gtype およびその dim_info_array を確認してください。

ORA-13372 空間索引がある表のメタデータの変更に失敗しました

原因: 索引作成後のメタデータの変更は、ジオメトリ gtype と diminfo 間の非一貫性の原因となります。

処置: sdo_geometry 列上に索引を作成する前に、メタデータを変更（または準備）してください。

ORA-13373 Extent 型の要素は測地データにはサポートされていません

原因: ポリゴン・ジオメトリの要素型 Extent は、測地データにはサポートされていません。

処置: Extent 型ポリゴンを標準の 5 点のポリゴンに変換し、適切な etype を設定してください。

ORA-13374 SDO_MBR は測地データにはサポートされていません

原因: SDO_MBR 機能は測地データにはサポートされていません。

処置: このコンテキストでかわりに使用できる機能を調べてください。

ORA-13375 レイヤーの型は [string] ですが挿入されたジオメトリの型は [string] です

原因: レイヤーが現行のジオメトリの型と異なるまたは一貫性のない型を持っています。

処置: レイヤー型に合わせてジオメトリ型を変更するか、ジオメトリに合わせてレイヤー型を変更してください。

ORA-13376 layer_gtype パラメータに指定された型名が無効です

原因: レイヤー gtype 制約に無効な型名が指定されました。

処置: レイヤー gtype 制約を定義する場合に使用できる有効なレイヤー gtype のリストは、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13400 Oracle 形状イメージ内部エラー、引数: [string], [string], [string], [string], [string]

原因: これは Oracle GeoImage の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13401 サポートされない GeoImage 形式です。

原因: この GeoImage 形式はサポートされていません。

処置: GeoImage 形式が有効で、サポートされていることを確認してください。

ORA-13402 移行先が NULL です。

原因: 移行先に指定したオブジェクトが NULL です。

処置: 移行先に指定したオブジェクトが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13403 ソース中のジオメトリが NULL です。

原因: ソース GeoImage が NULL ジオメトリです。

処置: ソース GeoImage のジオメトリが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13404 ローカル・ソースではありません。

原因: データベースに格納されていない GeoImage を変更しようとしてしました。

処置: 変更するには、GeoImage をインポートしてください。

ORA-13405 ソースで指定したオブジェクトが NULL です。

原因: ソースに指定したオブジェクトが NULL です。

処置: ソースに指定したオブジェクトが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13406 サポートされないイメージ処理コマンド [string] です。

原因: 指定されたイメージ処理コマンドは、GeoImage ではサポートされていません。

処置: Oracle GeoImage メソッドでサポートされたイメージ処理コマンドについては、『Oracle interMedia ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13407 認識できない領域型の修飾子 [*string*] です。

原因: GeoImage 領域型の修飾子が無効です。

処置: 有効な領域型の修飾子 (RASTER または MODEL) を使用してください。

ORA-13408 表名が NULL です。

原因: 表名パラメータが NULL です。

処置: 表名に使用されたパラメータが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13409 Oracle 表 "*string*" は存在しません。

原因: 指定した表が存在しません。

処置: 表名が有効で、表が存在していることを確認してください。

ORA-13410 列名が NULL です。

原因: 列名パラメータが NULL です。

処置: 列名に使用されたパラメータが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13411 Oracle 列 "*string*" は存在しません。

原因: 指定した列が存在しません。

処置: 列名が有効で、列が存在していることを確認してください。

ORA-13412 ROWID が無効です。

原因: ROWID の値が有効ではありません。

処置: ROWID の値が有効であることを確認してください。

ORA-13413 初期化する GeoImage を選択できませんでした

原因: 表の GeoImage が選択できません。

処置: GeoImage が表に存在し、指定されたパラメータが有効であることを確認してください。

ORA-13414 GeoImage を含んだ表を更新できませんでした

原因: GeoImage を含む表を更新できません。

処置: 表が存在し、有効であることを確認してください。

ORA-13415 ドメインが無効です

原因: 使用された SDO_DIMINFO の値が有効でないか、指定された SDO_GEOMETRY がドメインに定義されていません。

処置: SDO_DIMINFO の値が有効で、指定されたドメインの中に SDO_GEOMETRY が定義されていることを確認してください。

ORA-13416 形状、引数 [string] が無効です

原因：使用された SDO_GEOMETRY の値が有効ではありません。

処置：SDO_GEOMETRY の値が有効であることを確認してください。有効なジオメトリのリストは、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

ORA-13417 モデル領域変換へのラスタが未定義です。

原因：GeoImage に対応するモデル領域変換へのラスタが未定義です。

処置：GeoImage 形式が有効で、この形式用にサポートされた操作であることを確認してください。

ORA-13418 ラスタ領域変換へのモデルが未定義です。

原因：GeoImage に対応するラスタ領域変換へのモデルが未定義です。

処置：GeoImage 形式が有効で、この形式用にサポートされた操作であることを確認してください。

ORA-13419 緯度値が無効です

原因：有効な範囲 (-90 ～ 90) 外の緯度値が使用されました。

処置：GeoImage のジオメトリ定義がドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13420 ラスタ領域変換へのモデルが無効です。

原因：GeoImage に対応するラスタ領域変換へのモデルが有効でないか、計算に失敗しました。

処置：変換がサポートされていて、GeoImage 形式が有効であることを確認してください。

ORA-13421 モデル領域変換へのラスタが無効です。

原因：GeoImage に対応するモデル領域変換へのラスタが有効でないか、計算に失敗しました。

処置：変換がサポートされていて、GeoImage 形式が有効であることを確認してください。

ORA-13422 ソースが初期化されていません。

原因：ソースに使用されている LOB が初期化されていません。

処置：ソースが正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-13423 ソースが空です。

原因：ソースに使用されている LOB が空です。

処置：ソースが正しく初期化されていて、データがインポートされていることを確認してください。

ORA-13424 移行先が初期化されていません

原因: 移行先に使用されている LOB が初期化されていません。

処置: 移行先が正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-13425 移行先が空です

原因: 移行先に使用されている LOB が空です。

処置: 移行先が正しく初期化されていて、データがインポートされていることを確認してください。

ORA-13426 サポートされないラスタ始点です。

原因: 指定されたラスタ始点はサポートされていません。

処置: 指定された始点がサポートされていることを確認してください。

ORA-13427 ラスタ始点が不明です。

原因: ラスタ始点に指定された値が有効ではありません。

処置: ラスタ始点を指定した値が有効で、サポートされていることを確認してください。

ORA-13428 ソースがありません。

原因: ソースが存在しないか、アクセスできません。

処置: ソース指定が正しく、アクセス可能であることを確認してください。

ORA-13429 操作 "string" は GeoImage 型 "string" ではサポートされていません。

原因: 指定された操作はこの GeoImage 型ではサポートされていません。

処置: 操作がサポートされていることを確認してください。

ORA-13430 モデル座標システムはサポートされていません

原因: 座標システムの定義に指定されたモデルはサポートされていません。

処置: モデルの値が正しいことを確認してください。

ORA-13433 クロップのためのジオメトリが NULL です。

原因: GeoImage のクロップに使用されたジオメトリが NULL です。

処置: クロップ操作に使用されたジオメトリが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13442 無効なスケール・パラメータ [string] [string] です。

原因: スケール操作に使用されたパラメータが有効ではありません。

処置: スケールのパラメータが 1 以上であることを確認してください。

ORA-13443 認識できないスケール・モード [string] です。

原因: スケール操作に使用されたスケール・モードが有効ではありません。

処置: 有効なスケール・モード修飾子のリストは、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13451 サポートされない変換書式 [string] です

原因: 変換に指定された書式が有効でないか、サポートされていません。

処置: 変換書式が有効であることを確認してください。

ORA-13461 無効なタグ / キー [string] です。

原因: タグまたはキーが有効ではありません。

処置: 形式バージョンがサポートされていて、形式が有効であることを確認してください。

ORA-13462 無効なタイ・ポイントです。

原因: いずれかのタイ・ポイントが有効ではありません。

処置: 使用されたタイ・ポイントが有効であることを確認してください（たとえば、すべてのラスタ・タイ・ポイントが 0（ゼロ）以上であることなど）。

ORA-13463 サポートされていない GeoTIFF ジオメトリの定義です。

原因: GeoImage のジオメトリ・フットプリントの定義に使用されたキー / タグの組合せはサポートされていません。

処置: GeoTIFF 形式バージョンがサポートされていて、形式が有効であることを確認してください。

ORA-13464 サポートされない変換です。

原因: 変換に指定された形式がサポートされていません。GeoTIFF では、限られた数のタグ / キーの組合せのみが変換用にサポートされています。

処置: GeoTIFF 形式バージョンがサポートされていて、指定した形式への変換が可能であることを確認してください。

ORA-13465 無効な移行先ウィンドウです。

原因: コマンドで移行先として指定されたウィンドウが無効です。

処置: 移行先ウィンドウが正しいことを確認してください。

ORA-14000 LOCAL 句は 1 つのみ指定できます

原因: 2 つ以上の LOCAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

処置: LOCAL オプションは 1 つのみ指定してください。

ORA-14001 LOCAL 句は前に指定した GLOBAL 句と矛盾します。

原因：GLOBAL 句と LOCAL 句を含む CREATE INDEX 文が発行されました。

処置：LOCAL 句および GLOBAL 句の両方を同時に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

ORA-14002 GLOBAL 句は 1 つのみ指定できます

原因：2 つ以上の GLOBAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

処置：GLOBAL オプションは 1 つのみ指定してください。

ORA-14003 GLOBAL 句は前に指定した LOCAL 句と矛盾します。

原因：LOCAL 句と GLOBAL 句を含む CREATE INDEX 文が発行されました。

処置：GLOBAL 句および LOCAL 句の両方を同時に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

ORA-14004 PARTITION キーワードがありません。

原因：PARTITION キーワードが指定されていません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14005 RANGE キーワードがありません。

原因：RANGE キーワードが指定されていません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14006 パーティション名が無効です。

原因：想定される書式 *identifier* のパーティション名が存在しません。

処置：正しいパーティション名を指定してください。

ORA-14007 LESS キーワードがありません。

原因：LESS キーワードが指定されていません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14008 THAN キーワードがありません。

原因：THAN キーワードが指定されていません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14009 パーティション・バウンドは LOCAL 索引パーティションに指定できません。

原因：LOCAL パーティション索引を作成するために CREATE INDEX 文を解析しているときに、パーティションの中の *partition_description* に VALUES LESS THAN 句がありました。LOCAL 索引はパーティション・バウンドを実表から継承するため、VALUES LESS THAN 句は不正です。

処置：LOCAL 索引パーティションの記述から VALUES LESS THAN 句をすべて削除してください。

ORA-14010 この物理属性は索引パーティションに指定できません。

原因：索引パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションに対する有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE および PCTFREE です。ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定できます。

処置：索引パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14011 結果のパーティションに割り当てる名前は固有にする必要があります

原因：既存の表または索引パーティションの分割からできたパーティションの名前が固有ではありません。

処置：結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なる固有の名前にしてください。

ORA-14012 結果のパーティション名が既存のパーティション名と競合しています

原因：既存の表または索引パーティションの分割からできたパーティション名と、他の表または索引の既存パーティション名が同じです。

処置：結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なる固有の名前にしてください。

ORA-14013 パーティション名が重複しています。

原因：作成中の表または索引のパーティション名が一意ではありません。

処置：パーティションの名前を変更してください。パーティションの名前は、作成中の表または索引のパーティションの中で一意の名前にしてください。

ORA-14014 パーティション化列の最大数は 16 です。

原因：パーティション化列リストの中の列数が、許可された最大値 16 を超えています。

処置：16 列を超えないように、パーティション化列リストを修正してください。

ORA-14015 パーティション説明が多すぎます

原因：CREATE TABLE または CREATE INDEX のパーティションの記述が多すぎます。最大パーティション数は 65535 です。

処置：65535 を超えないようにパーティション数を減らしてください。

ORA-14016 LOCAL パーティション索引の基礎となる表はパーティション化されている必要があります

原因：非パーティション化表に対して LOCAL パーティション化索引を作成しようとしてしました。これは許可されていません。非パーティション化表を基礎にして作成できるのは、GLOBAL 索引（パーティション化およびそれ以外）のみです。

処置：文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14017 パーティション・バウンド・リストの要素が多すぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数より多くなっています。

処置: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。

ORA-14018 パーティション・バウンド・リストの要素が少なすぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数より少なくなっています。

処置: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。

ORA-14019 パーティション・バウンド要素は、文字列、日付時刻または間隔を示すリテラル、数値、または MAXVALUE の 1 つです。

原因: パーティション・バウンド・リストに無効なデータ型（数値、空でない文字列リテラル、日付時刻リテラル、間隔リテラル、MAXVALUE 以外）の要素が含まれています。

処置: パーティション・バウンド・リストのすべての要素が有効なデータ型であることを確認してください。

ORA-14020 この物理属性は表のパーティションに指定できません。

原因: 表パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションに対する有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE および PCTUSED です。ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定できます。

処置: 表パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14021 MAXVALUE はすべての列に指定する必要があります

原因: GLOBAL 索引の最大（最後の）パーティションの VALUES LESS THAN 句では、MAXVALUE をすべての列に指定する必要があります。

処置: GLOBAL 索引の最後のパーティションの VALUES LESS THAN 句で、MAXVALUE をすべての列に指定してください。

ORA-14022 LOCAL パーティション・クラスタ索引の作成はサポートされていません

原因: LOCAL パーティション・クラスタ索引を作成しようとしたのですが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

処置: LOCAL および *partition_description*（存在する場合）を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14023 GLOBAL パーティション・クラスタ索引の作成はサポートされていません

原因: GLOBAL パーティション・クラスタ索引を作成しようとしたが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

処置: PARTITION BY RANGE 句および *partition_description* を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14024 LOCAL 索引のパーティション数は基礎となる表のものと同じである必要があります

原因: 作成しようとした LOCAL パーティション索引のパーティション数が、基礎となる表のものと異なります。

処置: CREATE INDEX 文を修正し、正しいパーティション数を指定してください。

ORA-14025 PARTITION がマテリアライズド・ビューまたはマテリアライズド・ビュー・ログに指定されていない可能性があります。

原因: マテリアライズド・ビューまたはマテリアライズド・ビュー・ログ定義の解析時に、PARTITION オプションが検出されました。

処置: マテリアライズド・ビューの定義に無効なオプションがないことを確認してください。

ORA-14026 PARTITION 句と CLUSTER 句が両方含まれています。

原因: 表定義に PARTITION 句と CLUSTER 句の両方を定義することは許可されません。

処置: どちらか1つを削除してください。

ORA-14027 PARTITION 句は1つのみ指定できます

原因: 2つ以上の PARTITION 句が CREATE TABLE 文に含まれています。

処置: PARTITION オプションは1つのみ指定してください。

ORA-14028 AT または VALUES キーワードがありません。

原因: AT または VALUES キーワードが指定されていません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14029 GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引にする必要があります

原因: GLOBAL パーティション索引のパーティション化列に、索引のキー列の接頭辞が含まれていません。

処置: 作成中の GLOBAL パーティション索引に接頭辞があることを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-14030 CREATE TABLE 文にパーティション化列がありません

原因：CREATE TABLE 文に指定されたパーティション化列は、作成中の表のものではありません。

処置：パーティション化列リストのすべての列が、現在作成している表の列であることを確認してください。

ORA-14031 パーティション化列は LONG または LONG RAW 型にできません

原因：ユーザーが指定したパーティション化列が LONG または LONG RAW 型ですが、これは許可されていません。

処置：LONG または LONG RAW 型のパーティション化列がないことを確認してください。

ORA-14032 パーティション番号 *string* のパーティション・バウンドが高すぎます。

原因：このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは1から順に番号付けされる）のパーティションでは、上位バウンドが次のパーティションより高くなっています。これは許可されません。

処置：パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドより低いことを確認してください。

ORA-14036 列に対するパーティション・バウンド値が大きすぎます

原因：パーティション・バウンド値が、対応するパーティション化列より長くなっています。

処置：上位バウンド値の長さが、対応するパーティション化列の長さを超えていないことを確認してください。

ORA-14037 パーティション "*string*" のパーティション・バウンドが高すぎます。

原因：このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドが次のパーティションより高くなっています。これは許可されません。

処置：パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドより低いことを確認してください。

ORA-14038 GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引にする必要があります

原因：接頭辞がない GLOBAL パーティション索引を作成しようとしたますが、これは許可されません。

処置：接頭辞のない索引を作成する場合は、LOCAL として作成してください。そうでない場合は、キーまたはパーティション化列（あるいはその両方）のリストを修正し、索引に接頭辞を付けてください。操作を再試行してください。

ORA-14039 パーティション化列は UNIQUE 索引のキー列のサブセットを構成する必要があります

原因: 作成しようとした UNIQUE パーティション索引では、パーティション化列がキー列のサブセットを構成していません。これは許可されません。

処置: 索引のパーティション化列がキー列のサブセットを構成しない索引を作成する場合は、索引を非 UNIQUE として作成してください。そうでない場合は、索引のパーティション化列がキー列のサブセットを構成するように、キーまたはパーティション化列（あるいはその両方）のリストを修正してください。

ORA-14041 結果のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} SPLIT PARTITION 文の解析時に、結果のパーティションの *partition_description* で VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

処置: 既存の表または索引パーティションの分割からできたパーティション記述から、VALUES LESS THAN 句を削除してください。

ORA-14042 移動、変更または再構築中のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} MODIFY PARTITION 文または ALTER TABLE MOVE PARTITION 文、ALTER INDEX REBUILD PARTITION 文の解析時に、移動、変更、再構築中のパーティションの新しい物理属性記述で VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

処置: 移動、変更または再構築するパーティションの新しい属性記述から VALUES LESS THAN 句を削除してください。

ORA-14043 パーティションは 1 つのみ追加できます

原因: ALTER TABLE ADD PARTITION 文に、追加するパーティションの記述が 2 つ以上含まれています。

処置: 文中のパーティション定義が 1 つのみであること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14044 パーティションは 1 つのみ移動できます

原因: ALTER TABLE MOVE PARTITION 文に、移動するパーティションの記述が 2 つ以上含まれています。

処置: 移動するパーティションが文中に 1 つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14045 パーティションは 1 つのみ変更できます

原因: ALTER TABLE|INDEX MODIFY PARTITION 文に、変更するパーティションの記述が 2 つ以上含まれています。

処置: 変更するパーティションが文中に 1 つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14046 パーティションが正確に 2 つの新規パーティションに分割されます

原因: ALTER TABLE | INDEX SPLIT PARTITION 文に、既存の表または索引パーティションを正確に 2 つに分割する新規パーティションの記述が含まれていません。

処置: 既存のパーティションを分割した 2 つのパーティションについて、正確に文に記述してください。

ORA-14047 ALTER TABLE | INDEX RENAME は他の操作と結合できません

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で RENAME 操作を他の操作と結合しようとしたが、これは許可されません。

処置: RENAME 操作が ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。

ORA-14048 パーティション・メンテナンス操作は他の操作と結合できません

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でパーティション・メンテナンス操作（たとえば、MOVE PARTITION）を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）と結合しようとしたが、これは許可されません。

処置: パーティション・メンテナンス操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション化された表 / 索引のデフォルトの属性、または表名の変更（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14049 ALTER TABLE MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP、ALLOCATE EXTENT または DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが、レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションの ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文に指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14050 ALTER INDEX MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文に対して、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE または DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14051 ALTER MATERIALIZED VIEW のオプションが無効です。

原因: ALTER MATERIALIZED VIEW 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE または BACKUP 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみを指定してください。

ORA-14052 拡張パーティション表名の構文はこのコンテキストでは使用できません

原因: 拡張パーティション表名の構文を使用できないコンテキスト (FROM 句、INSERT 文、DELETE 文または UPDATE 文以外) で使用しようとしました。

処置: 前述以外のコンテキストでは、拡張パーティション表名を使用しないでください。

ORA-14053 string を変更しようとしました (string 文)。

原因: 特定のオブジェクト (たとえば、表) の属性は作成時に指定されますが、ALTER 文を使用して変更できません。ユーザーがこのような属性の 1 つを指定しました。

処置: ALTER 文が、オブジェクトの作成後に変更可能な属性に対してのみ新しい値を指定することを確認してください。

ORA-14054 ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION のオプションが無効です。

原因: 切り捨てられるパーティション名の後続に指定できるオプションは、DROP STORAGE または REUSE STORAGE です。

処置: ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION とともに DROP STORAGE または REUSE STORAGE 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14055 ALTER INDEX REBUILD のキーワード REBUILD は index_name のすぐ後に指定する必要があります

原因: ALTER INDEX 文のキーワード REBUILD が索引属性 (たとえば、INITRANS) の後に指定されています。

処置: 変更する索引名の直後にキーワード REBUILD が指定されていることを確認してください。

ORA-14056 パーティション番号 string: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超過しています。

原因: このパーティション番号 (パーティションは 1 から順に番号付けされる) のパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED または PCTFREE (あるいはその両方) 値が明示的に指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引のデフォルト値が使用されます。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値 (あるいはその両方) が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: パーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14057 パーティション"*string*": PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超過しています。

原因: このパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED または PCTFREE（あるいはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引のデフォルト値が使用されます。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: パーティションの PCTUSED および PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14058 パーティション番号 *string*: INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さい必要があります

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされる）のパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値より大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定した値、あるいはパーティション表またはパーティション索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値より大きくないことを確認してください。

ORA-14059 パーティション"*string*": INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さい必要があります

原因: このメッセージに表示されたパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値より大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定した値、あるいはパーティション表またはパーティション索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値より大きくないことを確認してください。

ORA-14060 表のパーティション化列のデータ型またはデータ長は変更できません

原因：ALTER TABLE 文で指定された表のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置：表のパーティション化列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14061 索引のパーティション化列のデータ型またはデータ長は変更できません

原因：ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、ALTER TABLE 文で指定された表について定義された索引のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しようとした。これは許可されていません。

処置：表のパーティション化列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14062 読取り専用の表領域に表のパーティションが1つ以上あります

原因：ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、読取り専用の表領域にパーティションが1つ以上ある表に対して、既存の VARCHAR2 型（または VARCHAR 型）の列を CHAR 型（または CHARACTER 型）の列に変更しようとしたか、既存の CHAR 型（または CHARACTER 型）の列の長さを増加しようとしたか、またはユーザー指定のデフォルトによって列を追加しようとした。これは許可されていません。

処置：読取り専用の表領域にパーティションが1つ以上あるパーティション表に対して前述の操作を行わないでください。

ORA-14063 使用できない索引が一意 / 主制約キーに存在します

原因：Index Unusable とマークされた索引を持つ表の列に対して、主キー / 一意制約を追加または使用可能にしようとした。

処置：既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD を使用して索引を再構築してください。

ORA-14064 使用できないパーティションのある索引が一意 / 主制約キーに存在します

原因：Index Unusual とマークされたパーティションが1つ以上ある索引を持つ表の列に対して、主キー / 一意制約を追加または使用可能にしようとした。

処置：既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD PARTITION で使用できないパーティションを再構築してください。

ORA-14065 ALLOCATE STORAGE はパーティション化表に指定できません

原因：ユーザーが、パーティション化表に対して発行された ALTER TABLE 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置：無効なオプションを削除してください。個々のパーティションに記憶域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14066 パーティション化されていない表に対しては無効なオプションです。

原因：パーティション化されていない表で CREATE TABLE または ALTER TABLE コマンドを発行しようとしたが、コマンドにパーティション化表でのみ有効なオプションがあります。そのようなオプションは、ENABLE ROW MOVEMENT および DISABLE ROW MOVEMENT です。

処置：コマンドから無効なオプションを削除してください。

ORA-14067 TABLESPACE_NUMBER の指定が重複しています。

原因：表、索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE_NUMBER 句が 2 つ以上指定されています。

処置：スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを修正してください。

ORA-14068 TABLESPACE と TABLESPACE_NUMBER の両方は指定できません。

原因：表、索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE 句および TABLESPACE_NUMBER 句の両方が指定されています。

処置：スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを修正してください。

ORA-14069 TABLESPACE_NUMBER の値が無効です。

原因：TABLESPACE_NUMBER の値が 0 ～ 0x7FFFFFFF までの整数ではありません。

処置：スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを修正してください。

ORA-14070 パーティション索引に対して、または REBUILD とともに指定できるオプションです

原因：パーティション索引に対してのみ、または非パーティション索引に対しては REBUILD とともに使用するときのみ有効なオプションを含む ALTER INDEX 文を発行しました。そのようなオプションは、PCTFREE、TABLESPACE、[NO]PARALLEL と INITIAL、FREELISTS、および STORAGE 句にある FREELIST GROUPS です。

処置：不正なオプションを削除してください。

ORA-14071 制約に使用される索引に対して無効なオプションです

原因：制約に使用される索引に対して、COMPRESS、NOCOMPRESS、PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、TABLESPACE、PARALLEL、NOPARALLEL、RECOVERABLE、UNRECOVERABLE、LOGGING、NOLOGGING、LOCAL または GLOBAL 以外のオプションが指定されました。

処置：有効な索引オプションの 1 つを選択してください。

ORA-14072 固定表は切り捨てられません。

原因：固定表を切り捨てようとした。これは許可されていません。

処置：切り捨てようとした表が固定表でないことを確認してください。

ORA-14073 ブートストラップ表またはクラスタは切り捨てられません。

原因：ブートストラップ表またはクラスタを切り捨てようとした。これは許可されていません。

処置：切り捨てられた表（またはクラスタ）がブートストラップ表（またはクラスタ）でないことを確認してください。

ORA-14074 パーティション・バウンドは最終のものより上位に設定する必要があります

原因：ALTER TABLE ADD PARTITION 文で指定されたパーティション・バウンドが、表の最終パーティションのものより上位に設定されていません。

処置：追加されたパーティションのパーティション・バウンドが表の最終パーティションのものより上位に設定されていることを確認してください。

ORA-14075 パーティション・メンテナンス操作はパーティション化された索引でのみ実行されます。

原因：ALTER INDEX パーティション・メンテナンス操作で指定された索引は、パーティション化されていません。したがって、パーティション・メンテナンス操作は無意味です。

処置：パーティション・メンテナンス操作を指定した ALTER INDEX 文に指定されている索引が、パーティション化された索引であることを確認してください。

ORA-14076 DROP/SPLIT PARTITION は LOCAL 索引パーティションには適用されません。

原因：LOCAL 索引パーティションを削除または分割しようとした。これは許可されていません。

処置：このような文で指定された索引が GLOBAL パーティション索引であることを確認してください。

ORA-14078 GLOBAL 索引の最高位パーティションは削除できません。

原因：GLOBAL 索引の最高位パーティションを削除しようとした。これは許可されていません。

処置：ALTER INDEX DROP PARTITION 文に指定されたパーティションが索引の最高位パーティションでないことを確認してください。

ORA-14079 Index Unusable とマークされたパーティションには無効なオプションです。

原因：Index Unusable とマークされた索引パーティションに対する ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文が、STORAGE 句または DEALLOCATE SPACE 句（あるいはその両方）を含んでいます。これは許可されていません。

処置：有効なオプションのみが指定されていることを確認してください。

ORA-14080 指定されたバウンドが高いためパーティションを分割できません。

原因：パーティションの分割に指定されたバウンドは、分割されるパーティションのバウンドより高いか、または分割の直前のパーティション・バウンドより低くなっています。

処置：パーティションを分割するバウンドは、分割されるパーティションのバウンドより低く、分割されるパーティションの直前のパーティションのパーティション・バウンドより高いことを確認してください。

ORA-14081 新規パーティション名は旧パーティション名と別にする必要があります

原因：ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定された *new_partition_name* は、名前が変更されるパーティション名と同一です。

処置：新規パーティション名は、指定された表または索引に存在するどのパーティション名（名前が変更されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14082 新規パーティション名は他のオブジェクトのパーティションと別にする必要があります

原因：ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定された *new_partition_name* は、オブジェクトの既存パーティションの名前と同一です。

処置：新規パーティション名は、指定された表または索引に存在するどのパーティション名（名前が変更されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14083 パーティション表の唯一のパーティションは削除できません

原因：表のパーティションが1つのみのときに、パーティションの削除コマンドを実行しました。

処置：1つ以上のパーティションがあることを確認してください。すべてのパーティションを削除する場合は、表を削除してください。

ORA-14084 TABLESPACE DEFAULT が指定できるのは LOCAL 索引のみです。

原因：LOCAL 索引以外のオブジェクトに対して TABLESPACE DEFAULT を指定しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：TABLESPACE DEFAULT 句なしで文を再実行してください。

ORA-14085 パーティション表に LONG データ型を持つ列は含められません

原因：パーティション表を LONG データ型で作成しようとしたか、または LONG データ型の列をパーティション表に追加しようとしてしました。

処置：パーティション表では、LONG データ型はサポートされません。LONG 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていない表に変更してください。列を追加する場合は、LONG データ型を使用しないでください。データ型を LONG に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表である必要があります。

ORA-14086 パーティション索引全体を再構築することはできません

原因：ALTER INDEX REBUILD 文を使用してパーティション索引を再構築しようとしました。これは許可されていません。

処置：(ALTER INDEX REBUILD PARTITION を使用して) 1 度に 1 パーティションずつ索引を再構築するか、または索引を一度削除してから索引全体を再構築してください。

ORA-14094 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION のオプションが無効です。

原因：EXCHANGE される表の名前の後には [(INCLUDING | EXCLUDING) INDEXES][(WITH | WITHOUT) VALIDATION] が必要です。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION とともに INCLUDING INDEXES または EXCLUDING INDEXES 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14095 ALTER TABLE EXCHANGE はパーティション化、クラスタ化されてない表を必要とします

原因：EXCHANGE 操作の表がクラスタ化またはパーティション化されています。

処置：パーティションが交換される表が、パーティション化またはクラスタ化されていないことを確認してください。

ORA-14096 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の列の数は同じにする必要があります

原因：EXCHANGE に指定された 2 つの表で、列の数が異なります。

処置：2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14097 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の列型またはサイズが一致していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定された表で、対応する列型またはサイズが異なります。

処置：2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14098 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の索引が一致していません。

原因：EXCHANGE で指定された 2 つの表の索引が等しくありません。

処置：2 つの表の各索引が次の規則に従っているかを確認してください。パーティション化されていない表のパーティション化されていない索引はすべて、パーティション表に同一の LOCAL 索引を持つ必要があります (その逆の場合も同様)。同一の索引とは、列の位置、型、サイズが同一の索引を意味します。

ORA-14099 表の中に指定されたパーティションに適さない列があります。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定されたパーティションに適さない行が、パーティション化されていない表の中で 1 つ以上あります。

処置：セグメント中のすべての行が、パーティションに適していることを確認してください。ALTER TABLE 操作を NO CHECKING オプション付きで実行してください。パーティションで ANALYZE table VALIDATE を実行して無効な行を検出し、削除してください。

ORA-14100 パーティション拡張表名はリモート・オブジェクトを参照できません。

原因：パーティション拡張表名の構文をリモート・オブジェクト名とともに使用しようとしました。これは許可されていません。

処置：文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14101 パーティション拡張表名はシノニムを参照できません。

原因：パーティション拡張表名の構文をシノニム名とともに使用しようとしました。これは許可されていません。

処置：文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14102 LOGGING または NOLOGGING 句は 1 つのみ指定できます

原因：LOGGING または NOLOGGING が複数回指定されました。または、LOGGING および NOLOGGING の両方が指定されました。

処置：LOGGING または NOLOGGING 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再実行してください。

ORA-14103 LOGGING/NOLOGGING は RECOVERABLE/UNRECOVERABLE と使用できません。

原因：文中に [NO]LOGGING 句と [UN]RECOVERABLE 句の両方が含まれていますが、これは許可されていません。

処置：無効な句を削除してください。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。今後、廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14104 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティション化された表 / 索引に指定できません。

原因：パーティション化された表 / 索引の作成に使用された CREATE TABLE/INDEX 文に RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句が含まれています。これは許可されていません。

処置：無効な句を削除してください。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。バージョン 9 では廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14105 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はこのコンテキストで指定できません。

原因：このコンテキストでは、RECOVERABLE/UNRECOVERABLE 句は無効です。

処置：無効な句を削除してください。RECOVERABLE/UNRECOVERABLE は、パーティション化されていない表または索引を記述した CREATE TABLE/INDEX 文および ALTER INDEX REBUILD 文でのみ指定できます。バージョン 8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。バージョン 9 では廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14106 LOGGING/NOLOGGING はクラスタ化された表に指定できません。

原因：クラスタ化された表が関与する CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文に LOGGING 句または NOLOGGING 句を指定しようとしてしました。

処置：無効な句を削除してください。

ORA-14107 パーティション・オブジェクトにはパーティションの指定が必要です。

原因：パーティション名を指定するパラメータが見つかりません。パーティション化されていないオブジェクトに対してこのパラメータの指定は任意ですが、パーティション化されたオブジェクトに対しては必須です。

処置：不足しているパラメータを指定してください。

ORA-14108 パーティション拡張表名の構文が無効です。

原因：アクセスするパーティションは、必ずパーティション名を使用して指定する必要があります。パーティション番号またはバインド変数を使用しようとしてしました。

処置：文を修正して、この名前を使用しているパーティションを参照してください。

ORA-14109 パーティション拡張オブジェクト名が使用できるのは表のみです。

原因：表でないオブジェクトに対してパーティション拡張オブジェクト名を使用しようとしてしました。

処置：表以外のオブジェクトでパーティション拡張名の構文を使用しないでください。

ORA-14110 パーティション化列は ROWID 型にはできません

原因: ユーザーが指定したパーティション化列が ROWID 型ですが、これは許可されていません。

処置: どのパーティション化列も ROWID 型でないことを確認してください。

ORA-14111 クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引の作成はサポートされていません。

原因: クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引を作成しようとしたますが、これは現在では許可されていません。

処置: PARTITION BY RANGE() 句および *partition_list* を削除し、GLOBAL 非パーティション索引をクラスタ化された表に作成してください。

ORA-14112 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティションまたはサブパーティションに指定できません。

原因: RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句を含んだパーティションまたはサブパーティションの記述が CREATE TABLE/INDEX 文で検出されました。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除してください。かわりに LOGGING または NOLOGGING を使用してください。

ORA-14113 パーティション表には LOB データ型を持つ列を含められません

原因: パーティション表を LOB データ型で作成しようとしたか、または LOB データ型の列をパーティション表に追加しようとした。

処置: パーティション表では LOB データ型はサポートされません。LOB 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていない表に変更してください。列を追加する場合は、LOB データ型を使用しないでください。データ型を LOB に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表である必要があります。

ORA-14114 パーティション表にはオブジェクト、REF、ネストした表、配列データ型を持つ列を含められません

原因: パーティション表をオブジェクト・データ型（オブジェクト、REF、ネストした表、配列）で作成しようとしたか、またはオブジェクト・データ型の列をパーティション表に追加しようとした。

処置: パーティション表ではオブジェクト・データ型はサポートされません。オブジェクトの列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていない表に変更してください。列を追加する場合は、オブジェクト・データ型を使用しないでください。データ型をオブジェクトに変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表である必要があります。

ORA-14115 パーティション番号 *string* のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされる）のパーティションでは、上位バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

処置: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14116 パーティション "*string*" のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

処置: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14117 パーティションはオフライン化された表領域にあります。

原因: オフライン化された表領域にあるパーティション内のデータにアクセスする必要がある操作を実行しようとした。この種の操作には、索引定義を持った表または制約によって参照された表の表領域の削除などがあります。

処置: 操作を実行する前に、表領域をオンラインにしてください。

ORA-14118 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の CHECK 制約が一致しません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の CHECK 制約が定義されています。

処置: 2 つの表のどの列にも CHECK 制約定義がないことを確認してください。

ORA-14119 指定されたパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: 追加する表パーティションの上位バウンド、または既存の表パーティションか索引パーティションを分割する上位バウンドのリニア・キー表現の長さが、有効な限界値（4K）を超えています。

処置: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14120 DATE 列に対するパーティション・バウンドの指定が不完全です。

原因: DATE 列に対するパーティション・バウンドとしての日付を、完全に（つまり日、月および年（世紀を含む））指定していない書式の日付表現を使用しようとした。この書式は、(TO_DATE() 関数を使用して) 明示的に指定されているか、または (NLS_DATE_FORMAT で) 暗黙的に指定されている可能性があります。

処置: DATE 列に対するパーティション・バウンドで使用される日付書式が完全な日付指定（たとえば日、月および年（世紀を含む））をサポートすることを確認してください。NLS_DATE_FORMAT が完全な（つまり世紀を含む）年の指定をサポートしていない場合は、TO_DATE()（たとえば TO_DATE('01-01-1999', 'MM-DD-YYYY')）を使用して、要求される日付を完全に表現してください。

ORA-14121 MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES は他の操作と組み合わせることはできません

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に組み合わせようとした。これは許可されていません。

処置：MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES 操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性、または表名の変更（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14122 REVERSE と NOREVERSE 句は同時に指定できません。

原因：REVERSE と NOREVERSE の両方が CREATE INDEX 文に指定されました。

処置：REVERSE または NOREVERSE 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-14123 NOREVERSE 句が重複しています

原因：NOREVERSE が ALTER INDEX 文に 2 回以上指定されました。

処置：NOREVERSE 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-14124 REVERSE 句が重複しています。

原因：REVERSE が ALTER INDEX または CREATE INDEX 文に 2 回以上指定されました。

処置：REVERSE 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-14125 REVERSE/NOREVERSE はこのコンテキストでは指定できません。

原因：このコンテキストでは、REVERSE/NOREVERSE 句は無効です。

処置：無効な句を削除してください。REVERSE は、CREATE INDEX 文と ALTER INDEX REBUILD の索引（パーティション索引を作成する場合は、個々のパーティションの索引ではない）の属性として指定される可能性があります。NOREVERSE は、ALTER INDEX REBUILD 文でのみ指定できます。

ORA-14126 パーティション結果の説明後に続けられるのは *parallel_clause* のみです。

原因：表の分割や索引パーティションの分割から発生したパーティションの記述の後に、オプションの平行句が続いている可能性があります。これは、文全体に適応されるので、他の句が続いてはいけません。

処置：ALTER TABLE/INDEX SPLIT PARTITION 文の、結果のパーティションの記述のカッコ付きリストの中に、すべてのパーティション属性があることを確認してください。

ORA-14128 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で FOREIGN KEY 制約が一致していません

原因：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の FOREIGN KEY 制約が異なっています。

処置：2つの表のどの列にも FOREIGN KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で FOREIGN KEY 制約を無効にしてください。操作を再試行してください。

ORA-14129 表で UNIQUE 制約が使用可能なときは INCLUDING INDEXES を指定してください。

原因：両方の表で一致する UNIQUE 制約は使用可能および有効ですが、INCLUDING INDEXES が ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION|SUBPARTITION コマンドに指定されていません。

処置：両方の表で一致する現在使用可能な UNIQUE 制約を使用不可にするか、または INCLUDING INDEXES オプションを使用していることを確認してください。

ORA-14130 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で UNIQUE 制約が一致していません

原因：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION コマンドで指定されている表の1つに UNIQUE 制約があり、一致する（キー列と相対する）制約が他の表で定義されていないか、または定義されています。ただし、これは使用可能または有効な（あるいはその両方）相対する最初の表で定義されているものとは異なります。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定されている表の1つで定義される各 UNIQUE 制約に対して、他の表で定義される一致する（キー列に相対した、および使用可能または有効な（あるいはその両方））制約があることを確認してください。UNIQUE 制約が使用可能な場合、パーティション表で定義されている UNIQUE 制約がローカル索引を使用することになります。

ORA-14131 UNIQUE 制約が有効になっている表が1つあります。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION|SUBPARTITION 文で参照されている表の1つが、その表で定義されている UNIQUE 制約を有効にしています。このため、EXCHANGE を続行できません。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION|SUBPARTITION 文で参照されている表で定義されている制約を無効にし、文を再実行してください。

ORA-14132 表は EXCHANGE で使用できません。

原因： ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION コマンドを発行しようとしたが、1 つ以上の次のような理由のため、パーティション化されていない表が EXCHANGE で使用できません。

- タイプ表である。
- ユーザー定義型列を含む。
- ネストした表の列を含む。
- REF 列を含む。
- 配列の列を含む。
- 索引構成表である。
- LOB 列を含む。
- ネストした表である。

処置： パーティション表が、前述の ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION コマンドに対する制限事項のどれにも違反していないことを確認してください。

ORA-14133 ALTER TABLE MOVE は他の操作と組み合わせることはできません

原因： ALTER TABLE MOVE 文を他の操作（たとえば、MODIFY）と組み合わせようとした。

処置： ALTER TABLE 文で指定されている操作は MOVE のみであることを確認してください。

ORA-14134 索引で DESC と REVERSE の両方は使用できません。

原因： DESC とマークされている索引列を使用して逆索引を作成しようとした。

処置： 逆索引で DESC を使用しないでください。ルールベースのオプティマイザは索引を逆方向にスキャンでき、標準逆索引に DESC とマークされている列のある逆索引をシミュレートさせます。

ORA-14135 LOB 列はパーティション化列として指定できません。

原因： BLOB または CLOB 型の列をパーティション化列またはサブパーティション化列として指定しようとした。

処置： BLOB または CLOB 型のパーティション化列またはサブパーティション化列がないことを確認してください。

ORA-14136 ALTER TABLE EXCHANGE restricted by fine-grained security

原因： 変換を実行するユーザーが、VPD ポリシーに基づく表への完全なアクセス権限を持っていません。

処置： exempt 権限をユーザーに付与してください。

ORA-14150 SUBPARTITION キーワードがありません

原因: キーワード SUBPARTITION がありません。

処置: 不足しているパラメータを指定してください。

ORA-14151 無効な表パーティション化メソッドです。

原因: 無効な表パーティション化メソッドが CREATE TABLE 文で指定されています。表は RANGE、HASH またはコンポジット・レンジ / ハッシュ (R+H) によってパーティション化されます。

処置: 有効なパーティション化メソッドの 1 つを指定してください。

ORA-14152 PARTITIONS 句で指定されたパーティション数が範囲外です。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX 文に含まれるパーティション数句が有効範囲 (1 ~ 65535) 外でパーティション数を指定しました。

処置: パーティション数句に 1 ~ 65535 の間の数を指定してください。

ORA-14153 STORE IN または *partition_description* 句は同時に使用できません。

原因: STORE IN および *partition_description* 句の両方が CREATE TABLE|INDEX コマンドで指定されています。

処置: 無効な句を削除してください。

ORA-14154 STORE IN または *subpartition_description* 句は同時に使用できません。

原因: STORE IN および *subpartition_description* 句の両方が、CREATE TABLE|INDEX コマンド、またはコンポジット・レンジ・パーティション・オブジェクトの、ALTER TABLE ADD|SPLIT PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS コマンドで指定されています。

処置: 無効な句を削除してください。

ORA-14155 PARTITION または SUBPARTITION キーワードがありません

原因: PARTITION または SUBPARTITION キーワードが必要ですが、両方とも指定されていません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14156 SUBPARTITIONS 句に指定されたサブパーティション数が範囲外です。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX 文に含まれるサブパーティション数句が有効範囲 (1 ~ 65535) 外でサブパーティション数を指定しました。

処置: サブパーティション数句に 1 ~ 65535 の間の数を指定してください。

ORA-14157 サブパーティション名が無効です

原因: 想定される書式 *identifier* のサブパーティション名が存在しません。

処置: 正しいサブパーティション名を指定してください。

ORA-14158 サブパーティション数が多すぎます

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX のサブパーティション記述が多すぎます。最大サブパーティション数は 65535 です。

処置: 65535 を超えないようにサブパーティション数を減らしてください。

ORA-14159 サブパーティション名が重複しています。

原因: 作成中の表または索引のサブパーティション名が一意ではありません。

処置: サブパーティションの名前を変更してください。サブパーティションの名前は、作成中の表または索引のサブパーティションの中で一意の名前にしてください。

ORA-14160 この物理属性は表のサブパーティションに指定できません。

原因: 表のサブパーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは TABLESPACE のみです。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14161 サブパーティション番号 *string*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超過しています

原因: このメッセージにサブパーティション番号（サブパーティションは 1 から順に番号付けされる）が表示されたサブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このサブパーティションの PCTUSED または PCTFREE（あるいはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されます。また、パーティション・レベルでの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: サブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14162 サブパーティション "*string*": PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超過しています

原因: このメッセージにサブパーティション名（ユーザーが明示的に指定）が表示されたサブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このサブパーティションの PCTUSED または PCTFREE（あるいはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されます。また、パーティション・レベルでの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: サブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14163 サブパーティション番号 *string*: INITRANS 値が MAXTRANS 値を超過しています

原因: このメッセージに表示されたサブパーティション番号（サブパーティションは 1 から順に番号付けされる）のサブパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値より大きくなっています。このサブパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されます。また、パーティション・レベルでの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定されたか、またはパーティション・レベル、表レベル、索引レベルでのデフォルト値から作成された）が、MAXTRANS 値より大きくないことを確認してください。

ORA-14164 サブパーティション "*tring*": INITRANS 値が MAXTRANS 値を超過しています

原因: このメッセージに表示されたサブパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のサブパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値より大きくなっています。このサブパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されます。また、パーティション・レベルでの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定されたか、またはパーティション・レベル、表レベル、索引レベルでのデフォルト値から作成された）が、MAXTRANS 値より大きくないことを確認してください。

ORA-14165 MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION は他の操作と組み合わせることはできません

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に組み合わせようとしたが、これは許可されません。

処置: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES 操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性、または表名の変更（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14166 INTO キーワードがありません。

原因: キーワード INTO がありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14167 移動できるサブパーティションは1つのみです。

原因: ALTER TABLE MOVE SUBPARTITION 文に、移動するサブパーティションの記述が2つ以上含まれています。

処置: 移動するサブパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14168 変更できるサブパーティションは1つのみです。

原因: ALTER TABLE|INDEX MODIFY SUBPARTITION 文に、変更するサブパーティションの記述が2つ以上含まれています。

処置: 変更するサブパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14169 ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION のオプションが無効です

原因: ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14170 CREATE TABLE|INDEX で *partition_description* 句は指定できません。

原因: *partition_description* 句が指定されたのと同時に、ユーザーがデフォルトのパーティション記述の生成 (PARTITIONS *number_of_partitions* を介して) を要求しました。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除してください。

ORA-14171 CREATE|ALTER TABLE で *subpartition_description* 句は指定できません。

原因: *subpartition_description* 句が指定されたのと同時に、ユーザーがデフォルトのサブパーティション記述の生成 (SUBPARTITIONS を介して) を要求しました。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除してください。

ORA-14172 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION のオプションが無効です

原因: EXCHANGE された表の名前の後には [(INCLUDING|EXCLUDING) INDEX][(WITH|WITHOUT) VALIDATION] が必要です。

処置: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION とともに INCLUDING INDEX または EXCLUDING INDEX 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14173 サブパーティション拡張表名の構文に誤りがあります。

原因: アクセスするサブパーティションは、必ずサブパーティション名を使用して指定する必要があります。パーティション番号またはバインド変数を使用しようとした。

処置: 文を修正して、この名前を使用しているサブパーティションを参照してください。

**ORA-14174 COALESCE PARTITION|SUBPARTITION に続けられるのは、
parallel_clause のみです。**

原因：ALTER TABLE COALESCE PARTITION|SUBPARTITION の後にオプションの
パラレル句が続いています。どのパーティション / サブパーティション属性も指定でき
ません。

処置：パーティション / サブパーティション属性が指定されていないことを確認してく
ださい。

**ORA-14175 サブパーティション・メンテナンス操作は他の操作と組み合わせることはできま
せん**

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でサブパーティション・メンテナンス操
作（たとえば、MOVE SUBPARTITION）を他の操作（たとえば、MODIFY
PARTITION ADD SUBPARTITION または PCTFREE）と組み合わせようとしたが、
これは許可されません。

処置：サブパーティション・メンテナンス操作は、ALTER TABLE 文または ALTER
INDEX 文に指定された唯一の操作であることを確認してください。サブパーティショ
ンの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性、または表名の変更（ALTER
TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14176 この属性はハッシュ・パーティションには指定できません。

原因：HASH メソッドを使用してパーティション化された表のパーティションの物理属
性の解析中に、無効なオプションが発生しました。このようなパーティションに対して
有効なのは、TABLESPACE オプションのみです。

処置：無効なオプションを削除してください。

**ORA-14177 STORE-IN（表領域リスト）はハッシュまたはコンポジット・パーティション
化された表の LOCAL 索引にのみ指定できます。**

原因：STORE-IN（表領域リスト）句が、レンジまたはリスト・パーティション化され
た表の LOCAL 索引を作成中に使用されました。

処置：レンジまたはリスト・パーティション化された表の LOCAL 索引を作成中に
STORE-IN（表領域リスト）を使用しないでください。

ORA-14183 TABLESPACE DEFAULT はコンポジット LOCAL 索引にのみ指定できます。

原因：レンジ / システム / ハッシュ・パーティション化 LOCAL 索引のオブジェクトの
パーティションに対して TABLESPACE DEFAULT を指定しようとした。これは許
可されていません。

処置：TABLESPACE DEFAULT を TABLESPACE *ts_name* に置き換えるか、または削除
してください。

ORA-14185 指定した物理属性はこの索引パーティションに対して正しくありません

原因: ローカル索引パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・コンポジット・レンジ・パーティションに対する有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED、LOGGING および TABLESPACE です。ただし、ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定でき、STORE IN() はコンポジット・レンジ・パーティション以外では許可されていません。

処置: 索引パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14186 LOCAL 索引のサブパーティション数は基礎となる表のものと等しい必要があります

原因: 作成しようとした LOCAL パーティション化索引のサブパーティション数が、基礎となる表のものと異なります。

処置: CREATE INDEX 文を修正し、正しいサブパーティション数を指定してください。

ORA-14187 LOCAL 索引のパーティション化メソッドが基礎となる表のメソッドと矛盾しています

原因: 基礎となる表と同一レベルでパーティション化されていない LOCAL パーティション化索引を作成しようとしてしました。パーティション化タイプが一致していません。

処置: CREATE INDEX 文を修正して、索引パーティション化メソッドが実表のメソッドと一貫していることを確認してください。

ORA-14188 サブパーティション化列は UNIQUE 索引のキー列のサブセットである必要があります

原因: 作成しようとした UNIQUE パーティション索引では、サブパーティション化列がキー列のサブセットを構成していません。これは許可されません。

処置: 索引のサブパーティション化列がキー列のサブセットを構成しない索引を作成したい場合は、索引を非 UNIQUE として作成する必要があります。そうでない場合は、索引のサブパーティション化列がキー列のサブセットを構成するように、キーまたはサブパーティション化列（あるいはその両方）のリストを修正してください。

ORA-14189 この物理属性は索引サブパーティションには指定できません。

原因: 索引サブパーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは TABLESPACE のみです。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14190 ENABLE/DISABLE ROW MOVEMENT 句は 1 回のみ指定できます

原因：原因は次のいずれかです。

- ENABLE ROW MOVEMENT が 2 回以上指定された。
- DISABLE ROW MOVEMENT が 2 回以上指定された。
- ENABLE ROW MOVEMENT および DISABLE ROW MOVEMENT の両方が指定された。

処置：ENABLE ROW MOVEMENT または DISABLE ROW MOVEMENT 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、コマンドを再発行してください。

ORA-14191 ALLOCATE STORAGE は、コンポジット・レンジ・パーティション化オブジェクトには指定できません。

原因：レンジ・パーティション化索引に対して発行した ALTER TABLE/ALTER INDEX 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置：無効なオプションを削除してください。個々のパーティションに記憶域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE/INDEX MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14192 ハッシュ索引パーティションの物理索引属性は変更できません。

原因：ハッシュ・パーティション化索引の索引パーティションの INITRANS/MAXTRANS/LOGGING/STORAGE 句の 1 つを修正しようとした。

処置：修正しようとした物理属性を削除してください。

ORA-14193 ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION オプションが無効です

原因：ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION 文に対して、UNUSABLE、ALLOCATE EXTENT、DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14194 再作成できるサブパーティションは 1 つのみです。

原因：ALTER INDEX REBUILD SUBPARTITION 文に、再作成するサブパーティションの記述が 2 つ以上含まれています。

処置：再作成するサブパーティションが文中に 1 つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14195 ALLOCATE STORAGE が RANGE または LIST パーティション・オブジェクトに指定されていない可能性があります。

原因：レンジ・パーティション化索引に対して発行した ALTER TABLE/ALTER INDEX 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置：無効なオプションを削除してください。個々のパーティションに記憶域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE/INDEX MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14251 指定したサブパーティションは存在しません。

原因: オブジェクトのサブパーティションが見つかりません。

処置: 正しいサブパーティション名を使用して再試行してください。

ORA-14252 ハッシュ・パーティションには ALTER TABLE MODIFY PARTITION オプションは無効です。

原因: ハッシュ・パーティションの ALTER TABLE MODIFY PARTITION では、ALLOCATE EXTENT および DEALLOCATE UNUSED のみが指定できます。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14253 表はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: サブパーティションのメンテナンス操作 (ALTER TABLE EXCHANGE/MODIFY/MOVE/TRUNCATE SUBPARTITION または ALTER TABLE MODIFY PARTITION ADD/COALESCE SUBPARTITION コマンド) はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されている必要があります。

処置: 表がコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14254 ALLOCATE STORAGE は、(コンポジット・) レンジまたはリスト・パーティション表に指定できません。

原因: レンジまたはコンポジット・レンジ・パーティション表に対して発行された ALTER TABLE 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 無効なオプションを削除してください。個々のパーティション / サブパーティションに記憶域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION/SUBPARTITION 文で指定できます。コンポジット・パーティションのすべてのサブパーティションに記憶域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14255 表はレンジ、コンポジット・レンジまたはリスト・メソッドによってパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE SPLIT/DROP PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS コマンドは、レンジ、リストまたはコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化された表でのみ有効です。

処置: 表がレンジ、リストまたはコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14256 結果のパーティション記述が正しくありません。

原因: ユーザーが ALTER TABLE SPLIT PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文のパーティション記述に STORE-IN 句、SUBPARTITIONS 句または *subpartition_description* 句（あるいはこれらすべて）を指定しましたが、メンテナンス操作の表がコンポジット・レンジ・メソッドではありません。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除するか、または表がコンポジット・レンジ・メソッドであることを確認してください。

ORA-14257 レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションは移動できません。

原因: レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションを移動しようとしました。これは許可されていません。

処置: MOVE PARTITION はレンジまたはハッシュ・パーティションに対してのみ指定してください。

ORA-14258 パーティション説明が無効です

原因: ユーザーが ALTER TABLE ADD PARTITION 文に STORE-IN 句、SUBPARTITIONS 句または *subpartition_description* 句（あるいはこれらすべて）を指定しましたが、メンテナンス操作の表がコンポジット・レンジ・メソッドではありません。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除するか、または表がコンポジット・レンジ / ハッシュ・メソッドであることを確認してください。

ORA-14259 表はハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE COALESCE PARTITION は、ハッシュ・メソッドでパーティション化された表に対してのみ有効です。

処置: 表に対して有効な ALTER TABLE オプションを指定するか、または表がハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14260 指定した物理属性はこのパーティションに対して正しくありません

原因: ユーザーが INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED または [NO]LOGGING オプション（あるいはこれらすべて）を ALTER TABLE ADD/MOVE PARTITION コマンドを介してハッシュ・パーティションに指定しました。これは許可されていません。TABLESPACE のみが指定できます。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14261 このハッシュ・パーティションの追加時にパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ハッシュ・パーティション化表にパーティションを追加 (ALTER TABLE ADD PARTITION を介して) 中に、ユーザーが VALUES LESS THAN 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 追加されたパーティションの記述から VALUES LESS THAN 句を削除してください。

ORA-14262 新規サブパーティション名が旧サブパーティション名と同じです。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME SUBPARTITION に指定された新規サブパーティション名が、名前が変更されたパーティションの名前と同一です。

処置: 新規サブパーティション名が、特定の表または索引に存在するどのサブパーティション名 (名前が変更されるサブパーティション名を含む) と同じでないことを確認してください。

ORA-14263 新規サブパーティション名がオブジェクトの他のサブパーティション名と同じです。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME SUBPARTITION 文に指定された新規サブパーティション名が、オブジェクトの既存サブパーティションの名前と同一です。

処置: 新規サブパーティション名が、特定の表または索引に存在するどのサブパーティション名 (名前が変更されるサブパーティション名を含む) と同じでないことを確認してください。

ORA-14264 表はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION 操作の表がコンポジット・メソッド以外のメソッドでパーティション化されています。

処置: 表がコンポジット・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14265 表のサブパーティション化列のデータ型または長さは変更できません

原因: ALTER TABLE 文で指定された表のサブパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長 (あるいはその両方) を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 表のサブパーティション化列のデータ型またはデータ長 (あるいはその両方) を変更しないでください。

ORA-14266 索引のサブパーティション化列のデータ型または長さは変更できません

原因: ALTER TABLE 文で指定された表で定義された索引のサブパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 索引のサブパーティション化列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14267 (コンポジット) レンジ・パーティションの追加時に PARALLEL 句は指定できません。

原因: ユーザーが、レンジまたはコンポジット・レンジ・パーティションの PARALLEL 句を使用して ALTER TABLE ADD PARTITION 文を発行しました。これは許可されていません。

処置: PARALLEL 句を削除してください。

ORA-14268 パーティションのサブパーティション 'string' がオフラインの表領域にあります。

原因: オフラインの表領域にあるサブパーティション内のデータにアクセスする必要がある操作を実行しようとした。この種の操作には、索引定義を持った表または制約によって参照された表の表領域の削除などがあります。

処置: 操作を実行する前に、表領域をオンラインにしてください。

ORA-14269 レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションは交換できません。

原因: ユーザーがパーティションをパーティション化されていない表と交換しようとしたが、このパーティションはレンジまたはハッシュ・パーティションではありません。これは許可されていません。

処置: EXCHANGE PARTITION は、レンジまたはハッシュ・パーティションに対してのみ指定してください。

ORA-14270 表はレンジ、ハッシュまたはリスト・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE MODIFY PARTITION {UNUSABLE LOCAL INDEXES | REBUILD UNUSABLE LOCAL INDEXES} 文にある表がレンジまたはハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。これは許可されていません。

処置: 表がレンジまたはハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14271 表はコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION {UNUSABLE LOCAL INDEXES | REBUILD UNUSABLE LOCAL INDEXES} 文にある表がコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。これは許可されていません。

処置: 表がコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14272 再利用できるのは上限パーティションのみです

原因: ユーザーが、ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文で下限パーティションを結果のパーティションとして再利用しようとした。これは許可されません。

処置: 上限パーティションを結果のパーティションとして使用するか、または新しいパーティション名を指定してください。

ORA-14273 下限パーティションを最初に指定してください。

原因: ユーザーが、ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文で下限パーティションの前に上限パーティションを指定しました。これは許可されません。

処置: 下限パーティションを指定してから、上限パーティションを指定してください。

ORA-14274 マージ対象のパーティションが隣接していません。

原因: ユーザーが、互いに隣接していない2つのパーティションをマージしようとした。これは許可されていません。

処置: 隣接している2つのパーティションを指定してください。

ORA-14275 下限パーティションは結果パーティションとして再利用できません

原因: ユーザーが、マージされているパーティションの下限パーティションを再利用しようとした。これは許可されていません。

処置: 新しい結果パーティションの名前を指定するか、または上限パーティションのみを再利用してください。

ORA-14276 EXCHANGE SUBPARTITION はパーティション化、クラスタ化されていない表でのみ操作できます

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 操作の表は、クラスタ化またはパーティション化されています。

処置: サブパーティションを交換する表がパーティション化またはクラスタ化されていない表であることを確認してください。

ORA-14277 EXCHANGE SUBPARTITION の2つの表の列数は同じである必要があります

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION に指定された2つの表で、列数が異なります。

処置: 2つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14278 EXCHANGE SUBPARTITION の列型またはサイズが異なっています

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定された表で、対応する列型またはサイズが異なります。

処置: 2つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14279 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION の2つの表の索引は異なっています

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定された2つの表の索引が等しくありません。

処置: 2つの表の各索引が次の規則に従っているかを確認してください。パーティション化されていない表のパーティション化されていない索引はすべて、パーティション表に同一の LOCAL 索引を持つ必要があります（その逆の場合も同様）。同一の索引とは、列の位置、型、サイズが同一の索引を意味します。

ORA-14280 指定されたサブパーティションに適さない列が表の中にあります

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定されたサブパーティションに適さない行が、パーティション化されていない表の中で1つ以上あります。

処置: セグメント中のすべての行が、サブパーティションに適していることを確認してください。ALTER TABLE 操作を NO CHECKING オプション付きで実行してください。パーティションで ANALYZE table VALIDATE を実行して無効な行を検出し、削除してください。

ORA-14281 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で CHECK 制約が一致しません

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定された表で、対応する列の CHECK 制約が定義されています。

処置: 2つの表のどの列にも CHECK 制約定義がないことを確認してください。

ORA-14282 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で FOREIGN KEY 制約が一致しません

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定された表で、対応する列の FOREIGN KEY 制約が異なっています。

処置: 2つの表のどの列にも FOREIGN KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で FOREIGN KEY 制約を無効にしてください。操作を再実行してください。

ORA-14283 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で UNIQUE 制約が一致しませ
ん

原因: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION コマンドで指定されている表の 1 つに UNIQUE 制約があり、一致する (キー列と相対する) 制約が他の表で定義されていないか、または定義されています。ただし、これは使用可能または有効な (またはその両方) 相対する最初の表で定義されているものとは異なります。

処置: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定されている表の 1 つで定義される各 UNIQUE 制約に対して、他の表で定義される一致する（キー列に相対した、および使用可能または有効な（あるいはその両方））制約があることを確認してください。UNIQUE 制約が使用可能な場合、パーティション表で定義されている UNIQUE 制約がローカル索引を使用することになります。

ORA-14284 読取り専用の表領域に表のサブパーティションが1つ以上あります

原因: ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、読取り専用の表領域にパーティションが 1 つ以上ある表に対して、既存の VARCHAR2 型 (または VARCHAR 型) の列を CHAR 型 (または CHARACTER 型) の列に変更しようとしたか、既存の CHAR 型 (または CHARACTER 型) の列の長さを増加しようとしたか、またはユーザー指定のデフォルトによって列を追加しようとした。これは許可されていません。

処置: 読取り専用の表領域にサブパーティションが1つ以上あるパーティション表に対して前述の操作を行わないでください。

ORA-14285 このパーティション表に1つのみのパーティションに COALESCE できません

原因: 表にパーティションが 1 つのみある場合に COALESCE PARTITION コマンドが発行されました。これは許可されていません。

処置: 1 つ以上のパーティションがあることを確認してください。すべてのパーティションを削除する場合は、表を削除してください。

ORA-14286 この表パーティションに 1 つのみのサブパーティションに COALESCE できません

原因: 表にサブパーティションが 1 つのみある場合に COALESCE SUBPARTITION コマンドが発行されました。これは許可されていません。

処置: 1 つ以上のサブパーティションがあることを確認してください。すべてのサブパーティションを削除する場合は、パーティションを削除してください。

ORA-14287 コンポジット・レンジ・パーティション化索引のパーティションを REBUILD
できません

原因: コンポジット・レンジ・パーティション化索引のパーティションを REBUILD しようとした。これは許可されていません。

処置: 索引パーティション、サブパーティションを同時に REBUILD してください。

ORA-14288 索引がコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません

原因: パーティションまたはサブパーティションのメンテナンス操作 (ALTER INDEX MODIFY [SUBPARTITION|DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION] または ALTER INDEX REBUILD SUBPARTITION コマンド) の索引は、コンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化される必要があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-14289 コンポジット・レンジ・パーティション表のローカル索引パーティションは使用不可にできません

原因: コンポジット・レンジ・パーティション化索引のパーティションを再作成しようとした。これは許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-14290 ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION で PRIMARY KEY 制約が一致しません

原因: ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で指定された表で、対応する列の PRIMARY KEY 制約が異なっています。

処置: 2つの表のどの列にも PRIMARY KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で PRIMARY KEY 制約を無効にしてください。操作を再試行してください。

ORA-14291 コンポジット・パーティションとパーティション化されていない表は EXCHANGE できません。

原因: コンポジット・パーティションは、パーティション化された表とのみ EXCHANGE できます。

処置: EXCHANGE される表がパーティション化されているか、または EXCHANGE されるパーティションがコンポジットでないことを確認してください。

ORA-14292 表のパーティション化型はコンポジット・パーティションのサブパーティション化型と一致している必要があります

原因: パーティション表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション化型はコンポジット・パーティションのサブパーティション化型と一致している必要があります。

処置: パーティション表のパーティション化型が、コンポジット・パーティションのサブパーティション化型と同じであることを確認してください。

ORA-14293 パーティション化列の数がサブパーティション化列の数と一致しません

原因: パーティション表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション化列の数はコンポジット・パーティションのサブパーティション化列の数と一致している必要があります。

処置: パーティション表のパーティション化列数が、コンポジット・パーティションのサブパーティション化列数と同じであることを確認してください。

ORA-14294 パーティションの数がサブパーティションの数と一致しません。

原因：パーティション表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティションの数はコンポジット・パーティションのサブパーティションの数と一致している必要があります。

処置：パーティション表のパーティション数が、コンポジット・パーティションのサブパーティション数と同じであることを確認してください。

ORA-14295 パーティション化列とサブパーティション化列で、列の型またはサイズが一致しません

原因：パーティション表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション化列の型およびサイズは、コンポジット・パーティションのサブパーティション化列の型およびサイズと一致している必要があります。

処置：パーティション表のパーティション化列の型およびサイズが、コンポジット・パーティションのサブパーティション化列の型およびサイズと同じであることを確認してください。

ORA-14296 表のブロック・サイズが ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 内で一致していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で指定された 2 つの表のブロック・サイズが異なります。索引構成表の場合、索引またはオーバーフロー（あるいはその両方）のブロック・サイズが一致しません。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文に含まれる表のブロック・サイズが同じであることを確認してください。索引構成表の場合、2 つの表の索引およびオーバーフローのブロック・サイズが一致することを確認してください。

ORA-14297 索引のブロック・サイズが ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 内で一致していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で交換される索引のペアのブロック・サイズが異なります。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で交換される必要がある索引の対応するペアのブロック・サイズが同じであることを確認してください。

ORA-14298 LOB 列のブロック・サイズが ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 内で一致していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で指定された 2 つの表の対応する LOB 列のペアのブロック・サイズが異なります。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文に含まれる表の対応するペアの LOB 列のブロック・サイズが同じであることを確認してください。

ORA-14301 表レベルの属性はパーティション・レベルの属性よりも前に指定する必要があります

原因：ALTER TABLE ADD COLUMN 文を処理中に、LOB 列の表レベルの属性が LOB 列のパーティション・レベルの属性の処理後に検出されたか、または CREATE TABLE 文を処理中に、LOB 列の表レベルの属性がパーティション記述の処理後に検出されました。

処置：SQL 文を修正して、パーティション・レベルの属性またはパーティション記述の前に表レベルの属性を指定してください。その後、文を再実行してください。

ORA-14302 文に指定できるリストは、added-LOB-storage-clauses の 1 つのみです。

原因：ALTER TABLE ADD COLUMN 文を解析中、added-LOB-storage-clauses の 1 つのリストが解析されましたが、added-LOB-storage-clauses の別のリストが見つかりました。added-LOB-storage-clauses リストが 1 つの文に 2 つ以上存在することはできません。added-LOB-storage-clauses はすべて 1 つのリストに結合させる必要があります。

処置：added-LOB-storage-clauses のリストをすべて 1 つのリストに結合させ、文を再実行してください。

ORA-14303 パーティションまたはサブパーティションの順序が正しくありません。

原因：ALTER TABLE ADD COLUMN 文でのパーティションまたはサブパーティション記述の順序が、パーティションまたはサブパーティションの DDL 順序と異なります。

処置：added-LOB-storage-clauses のパーティションまたはサブパーティションの順序をパーティションまたはサブパーティションの DDL 順序と同じになるように変更してください。その後、文を再実行してください。

ORA-14304 リスト・パーティション化メソッドには単一のパーティション化列が必要です。

原因：パーティション化列リストの中の列数が、リスト・パーティション化オブジェクトに許可された最大値 1 を超えています。

処置：1 列を超えないように、パーティション化列リストを修正してください。

ORA-14305 リストの値 'string' がパーティション 'string' で 2 回指定されました。

原因：リストの値は 2 回以上指定できません。

処置：値の指定の一方を削除してください。

ORA-14306 リストの値 'string' がパーティション 'string'、'string' で 2 回指定されました。

原因：リストの値は 2 回以上指定できません。

処置：値の指定の一方を削除してください。

ORA-14307 パーティションのリストの値が多すぎます。

原因：パーティション・リストに 65536 以上のリストの値が含まれます。

処置：65535 以下になるように値の数を減らしてください。

ORA-14308 パーティション・バウンド要素は文字列、日付時間または間隔リテラル、数値または NULL のうちの 1 つである必要があります。

原因: パーティション・バウンド・リストに無効なデータ型（数値、空でない文字列リテラル、日付時刻リテラル、間隔リテラル、NULL 以外）の要素が含まれています。

処置: パーティション・バウンド・リストのすべての要素が有効なデータ型であることを確認してください。

ORA-14309 リストの値の合計件数が最大許容数を超過しています。

原因: パーティション・オブジェクトに 65536 以上のリストの値が含まれます。

処置: 65535 以下になるように値の数を減らしてください。

ORA-14310 VALUES LESS THAN または AT 句はリスト・パーティション表とともに使用できません。

原因: VALUES LESS THAN または AT 句は、レンジ・パーティション表のみで 사용됩니다。

処置: リスト・パーティション表では、VALUES (< 値リスト >) 句を使用してください。

ORA-14311 VALUES LESS THAN または AT 句が必要です。

原因: VALUES (< 値リスト >) 句は、リスト・パーティション表のみで 사용됩니다。

処置: レンジ・パーティション表では、VALUES LESS THAN 句を使用してください。

ORA-14312 値 *string* はパーティション *string* にすでに存在しています。

原因: ADD PARTITION または ADD VALUES 文のリストの値の 1 つが他のパーティションにすでに存在しています。

処置: 文から重複する値を削除して、文を再実行してください。

ORA-14313 値 *string* はパーティション *string* に存在していません。

原因: SPLIT PARTITION または DROP VALUES 文のリストの値の 1 つがパーティションで存在していません。

処置: 文から値を削除して、文を再実行してください。

ORA-14314 結果のリスト・パーティションは少なくとも 1 つの値を含んでいる必要があります。

原因: リスト・パーティションの SPLIT/DROP VALUES 後に、各結果の（適用可能な）パーティションは 1 つ以上の値を含んでいる必要があります。

処置: 各結果のパーティションに 1 つ以上の値が含まれていることを確認してください。

ORA-14315 パーティションはそれ自体とマージできません。

原因: 同じパーティション名がマージ操作に 2 回指定されました。

処置: 2 つの個別のパーティション名で操作を再実行してください。

ORA-14316 表はリスト・メソッドでパーティション化されません。

原因: ALTER TABLE ADD|DROP VALUES はリスト・パーティション・オブジェクトのみで実行されます。

処置: リスト・パーティション・オブジェクトに対してコマンドを再発行してください。

ORA-14317 パーティションの最後の値を削除できません。

原因: ALTER TABLE DROP VALUES がパーティションの最後の値を削除しようとしてしました。

処置: パーティションに 2 つ以上の値が存在しない場合は、コマンドを実行しないでください。

ORA-14400 挿入されたパーティション・キーはどのパーティションにもマップされません。

原因: 最後のパーティションの連結パーティション・バウンド・リスト以上の連結パーティション・キーを使用して、レンジまたはコンポジット・レンジ・オブジェクトにレコードを挿入しようとしてしました。または、すべてのパーティションに指定されるリテラル値と一致しないパーティション・キーでリスト・オブジェクトにレコードを挿入しようとしてしました。

処置: キーを挿入しないでください。または、キーを使用できるようなパーティションを追加してください。または、キーと一致する値をパーティションの指定に追加してください。

ORA-14401 挿入されたパーティション・キーが指定されたパーティションの範囲外です。

原因: INSERT 文で指定されたパーティションは、2 つの連結パーティション・バウンド・リストによって許容範囲が定められています。挿入レコードの連結パーティション・キーは、定められた範囲外にあります。

処置: キーを挿入しないでください。または、別のパーティションにキーを挿入してください。

ORA-14402 パーティション・キー列を更新するとパーティションが変更されます。

原因: パーティション・キー列の値を UPDATE 文で更新しようとして、行が別のパーティションに移行されました。

処置: パーティション・キー列を UPDATE 文で更新しないか、または新規パーティション・キーが旧パーティション・キーを含む範囲内にあることを確認してください。

ORA-14403 DML パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。

原因: INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 文の実行時、パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-14404 パーティション表に異なる表領域のパーティションが含まれています

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれていないパーティションを持つ表が領域内に存在します。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションを持つ表を見つけてください。そのような表を削除するか、パーティションを別の表領域に移動してください。

ORA-14405 パーティション索引に異なる表領域のパーティションが含まれています

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれている表に対して定義された索引に、パーティションの一部が領域内に完全に含まれていないものがあります。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションを持つ索引を見つけてください。そのような索引を削除するか、索引のパーティションを別の表領域に移動するか、索引の定義された表を見つけて削除（または移動）してください。

ORA-14406 更新しようとしたパーティション・キーはパーティション・キーの許容量を超過しています。

原因: 最後のパーティションの連結パーティション・バウンド・リストの許容値を超えている連結パーティション・キーを使用してレコードを更新しようとした。

処置: キーを更新しないでください。または、キーを使用できるようなパーティションを追加してください。

ORA-14407 パーティション表に異なる表領域のサブパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれていないサブパーティションを持つ表が領域内に存在します。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったサブパーティションを持つ表を見つけてください。そのような表を削除するか、サブパーティションを別の表領域に移動してください。

ORA-14408 パーティション索引に異なる表領域のサブパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれている表に対して定義された索引には、サブパーティションが領域内に完全に含まれていないものがあります。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったサブパーティションを持つ索引を見つけてください。そのような索引を削除するか、索引のパーティションを別の表領域に移動するか、索引の定義された表を見つけて削除（または移動）してください。

ORA-14409 挿入されたパーティション・キーは、指定されたサブパーティションの範囲外です

原因：INSERT 文で指定されたサブパーティションは、2 つの連結サブパーティション・バウンド・リストによって許容範囲が定められています。挿入レコードの連結サブパーティション・キーは、定められた範囲外にあります。

処置：キーを挿入しないでください。または、別のサブパーティションに挿入してください。

ORA-14450 すでに使用されているトランザクション一時表にアクセスしようとしてしました。

原因：同じセッションの同時実行トランザクションによってすでに移入されているトランザクション一時表にアクセスしようとしてしました。

処置：同時実行トランザクションがコミットまたは中止されるまでは、トランザクション一時表のアクセスを試行しないでください。

ORA-14451 この機能は一時表ではサポートされていません。

原因：IOT を作成し、物理属性を指定して、パーティションまたはパラレル句を指定しようとしてしました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-14452 すでに使用されている一時表で索引を作成、変更または削除しようとしてしました

原因：すでに使用されている一時表で索引を作成、変更または削除しようとしてしました。

処置：セッション固有の一時表を使用しているセッションはすべて表を切り捨て、トランザクション固有の一時表を使用しているトランザクションはすべてトランザクションを終了してください。

ORA-14453 データがすでに削除された一時表の LOB を使用しようとしてしました

原因：表がトランザクション固有であるか、またはトランザクションがコミットまたは終了したためにデータが削除された一時表の LOB を使用しようとしてしました。表が切り捨てられたか、またはこの LOB を作成したセッションが終了しました。

処置：この LOB ロケータは無効であり、使用できません。

ORA-14454 参照整合性制約の一時表を参照しようとしてしました。

原因：参照整合性制約の一時表を参照しようとしてしました。これはサポートされません。

処置：トリガーを使用してください。

ORA-14455 一時表に参照整合性制約を作成しようとしてしました。

原因：一時表に参照整合性制約を作成しようとしてしました。これはサポートされません。

処置：トリガーを使用してください。

ORA-14456 一時表で索引は再作成できません。

原因: 一時表で索引を再作成しようとしました。

処置: 索引データがセッション / トランザクションの最後で消失しました。

ORA-14457 一時表では VARRAY とネストした表の列は作成できません

原因: 一時表で VARRAY またはネストした表列を作成しようとしました。これはサポートされません。

処置: 一時表にこれらのデータ型を指定しないでください。

ORA-14458 索引編成付きの一時表を作成しようとしました。

原因: 索引編成付きの一時表を作成しようとしました。これはサポートされません。

処置: HEAP 編成および主キーを使用して表を作成してください。

ORA-14459 GLOBAL キーワードがありません。

原因: 一時表を作成中にキーワード GLOBAL が見つかりません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14500 LOCAL オプションにはパーティション名が必要です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14501 オブジェクトがパーティション化されていません。

原因: 表または索引がパーティション化されていません。無効な構文です。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14503 パーティション名は1つのみ指定できます

原因: 2つ以上のパーティション名が分析用に指定されました。

処置: パーティション名を1つ指定してください。

ORA-14504 分析用の構文はサポートされていません。

原因: パーティション / サブパーティション番号またはバインド変数が使用されました。

処置: 有効なパーティション / サブパーティション名を指定してください。

ORA-14505 LOCAL オプションはパーティション化された索引にのみ有効です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14506 LOCAL オプションにはパーティション化された索引が必要です

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14507 パーティション不正です。パーティション・バウンド内にない列があります。

原因: 他のパーティション内に存在すべき行が、パーティション内に含まれています。
原因として、妥当性チェックなしのパーティションの交換が考えられます。

処置: パーティションの中の適切でない行を削除してください。

ORA-14508 指定された VALIDATE INTO 表が見つかりません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーに適切な権限がありません。

処置: 正しい表を指定してください。

ORA-14509 指定された VALIDATE INTO 表のフォームが正しくありません。

原因: 指定した表に、適切なフィールド定義がありません。

処置: 正しい表を指定してください。詳細は、UTLVALID.SQL を参照してください。

ORA-14510 VALIDATE INTO 句はパーティション化された表にのみ指定できます。

原因: パーティション化されていない表、クラスタまたは索引に対して、VALIDATE INTO が指定されました。

処置: 構文を正しく使用してください。

ORA-14511 この操作はパーティション・オブジェクトでは実行できません。

原因: パーティション表または索引で許可されていない操作を実行しようとしてしました。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14512 この操作はクラスタ・オブジェクトでは実行できません。

原因: クラスタ表または索引で許可されていない操作を実行しようとしてしました。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14513 指定したパーティション列はオブジェクト・データ型です。

原因: 指定したパーティション列はオブジェクト・データ型（オブジェクト、REF、ネストした表、配列）で、これは不正です。

処置: オブジェクト・データ型のパーティション列がないことを確認してください。

ORA-14514 サブパーティション名を指定しない LOCAL オプションは無効です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14515 指定できるサブパーティション名は1つのみです。

原因: 2 つ以上のサブパーティション名が分析用に指定されました。

処置: サブパーティション名を 1 つ指定してください。

ORA-14516 サブパーティション破損が発生しました。サブパーティション内にない列があります

原因: 他のサブパーティション内に存在すべき行が、サブパーティション内に含まれています。妥当性チェックなしでサブパーティションが交換された可能性があります。

処置: サブパーティションの中の適切でない行を削除してください。

ORA-14517 索引のサブパーティション '*string.string*' は、使用不可です。

原因: ダイレクト・ロードまたは DDL 操作によって使用不可とマークされた索引のサブパーティションにアクセスしようとしてしました。

処置: 使用不可の索引のサブパーティションを再作成してください。

ORA-14518 パーティションに、削除される値に対応する行が含まれています。

原因: 表パーティションに、削除される値に対応する行が含まれています。

処置: 削除される値に対する行をすべて削除して、文を再発行してください。

ORA-14519 *stringstring* の表領域のブロックサイズの競合: 表領域 *string* のブロックサイズ *string[string]* が事前に指定 / 暗示された *string* の *string[string]* と競合します。

原因: パーティション・オブジェクトが複数のブロックサイズの表領域にまたがるような方法で、パーティション・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: 示されたオブジェクトに対する DDL コマンドに指定されたすべての表領域が、作成されるオブジェクトのパーティションまたはサブパーティションに暗黙的に割り当てられるすべての表領域と同じブロックサイズであることを確認してください。

ORA-14520 表領域 *string* のブロックサイズ [*string*] が既存のオブジェクトのブロックサイズ [*string*] と一致しません

原因: 次のいずれかに割り当てられる指定されたパーティション・オブジェクトのブロックサイズとは異なるブロックサイズの表領域を要求する DLL 文が発行されました。

1. オブジェクトのデフォルト表領域（または、コンポジット・パーティションが使用されている場合はオブジェクトのパーティション・レベルのデフォルト表領域の 1 つ）
2. オブジェクトのパーティション / サブパーティションの 1 つ。

処置: パーティション・オブジェクトと同じブロックサイズの表領域を指定してください。

ORA-14521 デフォルトの表領域 *string* のブロックサイズ [*string*] (*stringstring* 用) が既存の *string* のブロックサイズ [*string*] と一致しません。

原因: 既存のパーティション・オブジェクトのオブジェクト・レベルのデフォルト表領域で、新規のパーティション / サブパーティションの作成を要求する DDL 文が発行されました。ただし、オブジェクト・レベルのデフォルト表領域のブロックサイズがパーティション・オブジェクトのブロックサイズと一致していません。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

1. パーティション・オブジェクトのデフォルト表領域をオブジェクトと同じブロックサイズの表領域に変更して、DDL 文を再試行してください。
2. 正しいブロックサイズの表領域が、作成されたすべての新規パーティション / サブパーティションに指定されていることを確認してください。

ORA-14522 パーティション・レベルのデフォルトの表領域 *string* のブロックサイズ [*string*] (*stringstring* 用) が既存の *string* のブロックサイズ [*string*] と一致しません。

原因: 既存のコンポジット・パーティション・オブジェクトのパーティション・レベルのデフォルト表領域の 1 つで、新規のサブパーティションの作成を要求する DDL 文が発行されました。ただし、パーティション・レベルのデフォルト表領域のブロックサイズがパーティション・オブジェクトのブロックサイズと一致していません。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

1. パーティション・オブジェクトの適切なパーティションのパーティション・レベルのデフォルト表領域をオブジェクトと同じブロックサイズの表領域に変更して、DDL 文を再試行してください。
2. 正しいブロックサイズの表領域が、作成されたすべての新規サブパーティションに指定されていることを確認してください。

ORA-14523 *string string* の [サブ] パーティションと表の [サブ] パーティションは共存できません。 *string* のブロック・サイズ [*string*] が表のブロックサイズ [*string*] と一致しません

原因: ローカル索引 / LOB 列のパーティション / サブパーティションが、実表の対応するパーティション / サブパーティションと共存するように要求する DDL 文が発行されました。ただし、これは表と LOB 列 / ローカル索引のブロック・サイズが異なるために許可されません。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

1. パーティション・ローカル索引 / LOB 列にオブジェクト・レベルのデフォルトの表領域（コンポジット・パーティションが使用される場合は、適切なパーティションにパーティション・レベルのデフォルト表領域）を指定して、DDL 文を再試行してください。
2. 正しいブロックサイズの表領域が、作成されたすべての新規パーティション / サブパーティションに指定されていることを確認してください。TABLESPACE DEFAULT および STORE IN（デフォルト）が実表のブロック・サイズと一致しないブロック・サイズのローカル索引に指定されていないことを確認してください。

ORA-14551 問合せの中で DML 操作を実行することはできません。

原因: DML 操作（挿入、更新、削除または更新選択）は問合せの中または PDML スレーブで実行できません。

処置: DML 操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せまたは PDML スレーブ内で DML 操作を実行してください。

ORA-14552 DDL、コミットまたはロールバックは問合せまたは DML 文中では実行できません。

原因: DDL 操作（表やビューなどの作成）およびトランザクション制御文（コミット / ロールバックなど）は、問合せまたは DML 文中で実行できません。

処置: 違反操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せ / DML 操作内でこの操作を実行してください。

ORA-14553 問合せの中で LOB 書込み操作を実行できません

原因: 問合せまたは PDML スレーブの中で LOB 書込み操作は実行できません。

処置: LOB 書込み操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せまたは PDML スレーブ内でこの操作を実行してください。

ORA-16000 データベースは読込み専用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは読込み専用アクセスでオープンされています。このエラーが発生する不適当な DML または DDL 文を使用するデータベース変更をしようとした。

処置: このデータベースを変更するためには、まずデータベースを停止してから読込み / 書込み両用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16001 データベースは別のインスタンスで読み専用アクセスでオープンされています。

原因：このデータベースは、別のインスタンスによって読み専用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを読み / 書き両用アクセスでオープンすることはできません。

処置：読み専用アクセスでオープンするか、他を停止してから読み / 書き両用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16002 データベースは別のインスタンスで読み / 書き両用アクセスでオープンされています

原因：このデータベースは別のインスタンスによって読み / 書き両用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを書込み専用アクセスでオープンすることはできません。

処置：このインスタンスを読み専用アクセスでオープンするか、または他のすべてのインスタンスを停止してから読み / 書き両用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16003 スタンバイ・データベースは読み専用アクセスに制限されています

原因：整合性を保つために、スタンバイ・データベースは読み専用アクセスでのみオープンできます。

処置：READ ONLY を指定して ALTER DATABASE OPEN を再発行してください。

ORA-16004 バックアップ・データベースをリカバリしてください。

原因：制御ファイルはリカバリが必要なバックアップ・データベース用なので、このインスタンスによって読み専用アクセスにオープンすることはできません。

処置：必要なリカバリを実行し、読み専用アクセスに再オープンしてください。

ORA-16005 データベースをリカバリしてください。

原因：データベースのリカバリが必要なため、このインスタンスによってデータベースを読み専用アクセスにオープンすることはできません。

処置：必要なリカバリを実行し、読み専用アクセスに再オープンしてください。

ORA-16006 audit_trail の指定がデータベース・オープン・モードと矛盾します。

原因：AUDIT_TRAIL 初期化パラメータが「DB」（または TRUE）に設定されましたが、これは読み専用アクセスにオープンしているデータベースと互換性がありません。

処置：データベースが読み専用アクセスにオープンしている場合、AUDIT_TRAIL 初期化パラメータは「OS」または「NONE」（FALSE）にのみ設定できます。

ORA-16007 バックアップ制御ファイルのチェックポイントが無効です。

原因: 読取り専用アクセスにオープンしているバックアップ制御ファイルに有効な制御ファイルのチェックポイントがありません。そのため、データベースが読取り専用アクセスにオープンできません。

処置: まずデータベースを読取り / 書込み両用アクセスにオープンし、制御ファイルのチェックポイントを有効にしてください。その後、このデータベースを読取り専用アクセスでオープンしてください。

ORA-16008 制御ファイルのチェックポイントが計算不能です

原因: 読取り専用アクセスでオープンしているデータベースの制御ファイルが CREATE CONTROLFILE から作成されました。そのため、制御ファイルのチェックポイントが計算不能でデータベースは読取り専用アクセスでオープンできません。

処置: まずデータベースを読取り / 書込み両用アクセスにオープンし、制御ファイルのチェックポイントを有効にしてください。その後、このデータベースを読取り専用アクセスでオープンしてください。

ORA-16009 リモート・アーカイブ・ログの宛先はスタンバイ・データベースである必要があります

原因: アーカイブ・ログの宛先のサービス名と関連のあるデータベースが、要求されたスタンバイ・データベース以外のものでした。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブが、非スタンバイ・データベース・インスタンスに許可されていません。

処置: ARCHIVE LOG 処理を再試行する前に、互換性のある必須のスタンバイ・データベースの作成に必要な対処処置を取ってください。

ORA-16010 リモート・アーカイブ・ログの宛先データベースは更新のためにオープンされています。

原因: アーカイブ・ログの宛先サービス名と関連のあるデータベースが更新アクセスのためにオープンしています。更新アクセス用にオープンしているスタンバイ・データベースに対する REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブは許可されていません。

処置: スタンバイ宛先インスタンスを終了して読取りアクセスに再オープンするか、または単にスタンバイ・インスタンスをマウントおよびオープンされないままにしておいてください。

ORA-16011 アーカイブ・ログのリモート・ファイル・サーバーがエラー状態です。

原因: 指定されたスタンバイ・データベース・サイトでのアーカイブ・ログのリモート・ファイル・サーバー (RFS) ・プロセスがリカバリ不能なエラー状態になり、アーカイブ・ログ・データをこれ以上受け取れません。

処置: スタンバイ・データベース・サイトでこの問題を修正してください。

ORA-16012 アーカイブ・ログのスタンバイ・データベース識別子が一致しません。

原因：プライマリ・データベースとスタンバイ・データベースのデータベース識別子が一致しません。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブが互換性のないスタンバイ・データベース・インスタンスに許可されていません。

処置：ARCHIVE LOG 処理を再試行する前に、互換性のある必須のスタンバイ・データベースの作成に必要な対処処置を取ってください。

ORA-16013 ログ *string*、順序番号 *string* はアーカイブ不要です。

原因：指定された名前のファイルを手動でアーカイブしようとしたますが、そのファイルはアーカイブ不要です。そのファイルはすでにアーカイブされています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-16014 ログ *string*、順序番号 *string* がアーカイブされていません。使用可能な宛先がありません。

原因：名前で指定されたログをアーカイブしようとしたますが、アーカイブが失敗しました。指定されたアーカイブ・ログの宛先がないか、またはすべての宛先がエラーになったため、アーカイブが失敗しました。

処置：アーカイブ・ログの宛先が指定されていることを確認するか、または発生したエラーの修正に必要な処置を行ってください（あるいはその両方を行ってください）。

ORA-16015 ログ *string*、順序番号 *string* がアーカイブされていません。メディアのリカバリが使用禁止です。

原因：名前で指定されたログをアーカイブしようとしたますが、アーカイブが失敗しました。スタンバイ・アーカイブ・ログの宛先が指定され、データベースがメディア・リカバリを使用できません。これは許可されていません。

処置：スタンバイ宛先を使用禁止にするか、またはメディア・リカバリを使用可能にして、再試行してください。

ORA-16016 スレッド *string*、順序番号 *string* のアーカイブ・ログが使用不可です。

原因：管理中のスタンバイ・データベースのリカバリ操作が要求されたアーカイブ・ログ・ファイルを待機中にタイムアウトになりました。

処置：プライマリ・データベースが REDO ログをスタンバイ・リカバリ・データベース・サイトにアーカイブ中であることを確認し、RECOVER STANDBY DATABASE WAIT コマンドを再発行してください。

ORA-16017 主アーカイブ先がないと LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST は使用できません。

原因：主アーカイブ先が明示的に NULL に設定されている場合に、パラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL でない値に設定されました。

処置：主アーカイブ先を有効な NULL 以外の値に設定してください。

ORA-16018 *string* は LOG_ARCHIVE_DEST_n と一緒に使用できません。

原因: 非互換性の原因は次のイベントのいずれかです。

- 初期化パラメータのフェッチ中に LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータを検出したときに、LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 初期化パラメータのフェッチ中に LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータを検出したときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効だった。
- ALTER SYSTEM コマンドが LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータ値の定義に使用されていたときに、LOG_ARCHIVE_DEST_n が使用されていた。

処置: 互換性のないパラメータ定義を削除してください。

ORA-16019 *string* は、LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST と一緒に使用できません。

原因: 非互換性の原因は次のイベントのいずれかです。

- 初期化パラメータのフェッチ中に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータを検出したときに、LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータ値を定義するために ALTER SYSTEM または ALTER SESSION コマンドを使用しようとしたときに、パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 初期化パラメータのフェッチ中に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータを検出したときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効だった。
- 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータ値を定義するために ALTER SYSTEM または ALTER SESSION コマンドを使用しようとしたときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効だった。

処置: 互換性のないパラメータ定義を削除してください。

ORA-16020 宛先が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST の指定を下回っています。

原因: 自動アーカイブが使用可能で、データベースで使用可能なアーカイブ・ログの宛先数が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータ値を下回っています。

処置: ログ・アーカイブの宛先の設定を修正するか、または LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST 値を低くしてください。

ORA-16021 セッション *string* の宛先は、セッション *string* と同じ宛先にはできません。

原因： ALTER SESSION を使用して、最初に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータが宛先値を持つように変更しようとしたが、この宛先値は、2 番目に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータのセッション・レベルの宛先の値と重複します。

処置： LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの 1 つに異なるセッションの宛先値を指定してください。

ORA-16022 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL ではないので、LOG_ARCHIVE_DEST は NULL にできません。

原因： LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL でないときに LOG_ARCHIVE_DEST パラメータを NULL に変更しようとした。

処置： パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST を NULL でない値に設定するか、またはパラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST を NULL に設定してください。

ORA-16023 システム *string* の宛先は、セッション *string* と同じ宛先にはできません。

原因： 最初に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータを変更しようとしたが、このパラメータは、2 番目に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータのセッション宛先値と重複する宛先を生成しました。このエラーは、ALTER SYSTEM コマンドを使用して NULL でない値に設定した場合に発生します。または、関連するシステムの宛先値が重複として表示されるため、ALTER SESSION コマンドを使用して NULL 値に設定した場合に発生します。

処置： 最初に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータに異なる宛先値を指定してください。

ORA-16024 パラメータ *string* を解析できません。

原因： 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータの値が解析できません。このエラーの一般的な原因は、等号の位置が誤っているか、オプションが認識できないか、またはオプションに要求されている値がないことです。

処置： LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16025 パラメータ *string* に、繰返しまたは競合するオプションが指定されています。

原因： 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータ値に、繰返しオプションまたは他のオプションと競合するオプションが指定されています。

処置： LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16026 パラメータ *string* には無効な数値の属性値が含まれています。

原因： 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータの値に無効な数値を使用して REOPEN オプションが指定されています。有効な範囲は 0 ～ 65535 です。

処置： LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16027 パラメータ *string* に、宛先オプションがありません。

原因: 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータの値が宛先オプションを含むことができません。有効な宛先オプションは、LOCATION または SERVICE です。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16028 新しい *string* 句が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST で必要な宛先を下回る原因です

原因: 自動アーカイブが使用可能な状態で、指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n または LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータ (n = 1...10) を LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST 値を下回るようにアーカイブ・ログの宛先数を少なくする値に変更しようとした。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n または LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータに対して異なるオプションを選択するか、またはパラメータの値を少なくしてください。

ORA-16029 LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST を変更できません。アーカイブ・ログの宛先がありません。

原因: アーカイブ・ログの宛先がないときに LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータを変更しようとした。

処置: パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST または LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) を使用して、1 つ以上のアーカイブ・ログの宛先を定義してください。その後、パラメータ LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST の値を変更してください。

ORA-16030 セッション固有の変更には、LOG_ARCHIVE_DEST_n の宛先が必要です。

原因: 非互換性の原因は次のイベントです。

- ALTER SESSION コマンドを使用して LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータを変更しようとしたときに、パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータを使用して、LOG_ARCHIVE_DEST および LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータを置き換えてください。

ORA-16031 パラメータ *string* の宛先文字列が、制限である *string* 文字を超過しています

原因: 指定されたパラメータ値に長すぎる宛先文字列が指定されました。

処置: このエラー・メッセージに示されている制限以下の長さの文字列を使用して、指定されたパラメータの宛先値を置き換えてください。

ORA-16032 パラメータ *string* の宛先文字列を変換できません。

原因: 指定されたパラメータ値に変換できない宛先文字列が指定されました。

処置: 指定されたパラメータで有効な宛先文字列を使用してください。

ORA-16033 パラメータ *string* の宛先は、パラメータ *string* と同じ宛先にはできません。

原因: 最初に示されたアーカイブ・ログ・パラメータが宛先値を持つように変更しようとしたが、この宛先値は、2 番目に示されたアーカイブ・ログ・パラメータのシステム・レベルの宛先の値と重複します。

処置: アーカイブ・ログ・パラメータのうち 1 つを異なる値に指定してください。

ORA-16034 MANAGED リカバリで FROM パラメータは使用できません。

原因: FROM 'location' パラメータの使用は、MANAGED リカバリが指定されているときは許可されません。

処置: 構文を修正して、コマンドを再試行してください。

ORA-16035 必須のキーワード *string* がありません。

原因: MANAGED リカバリが指定されているときに STANDBY DATABASE キーワードが要求されました。

処置: 構文を修正して、コマンドを再試行してください。

ORA-16036 MANAGED リカバリの CANCEL オプションは無効です。

原因: RECOVER MANAGED STANDBY DATABASE 文で CANCEL キーワードの後に IMMEDIATE 以外のモードが続いています。

処置: 何も指定しないか、または CANCEL の後に IMMEDIATE を指定してください。

ORA-16037 管理リカバリ操作の取消がユーザーから要求されました。

原因: 管理スタンバイ・データベースのリカバリ操作が各ユーザー要求で取り消されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16038 ログ *string*、順序番号 *string* をアーカイブできません。

原因: 指定された名前のファイルをアーカイブしようとしたが、そのファイルはアーカイブできません。続いて表示されるエラー・メッセージを確認して、そのエラーの原因を判別してください。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16039 RFS 要求のバージョンが一致しません。

原因: REDO ログをスタンバイ・サイトにアーカイブする要求が、リモート・ファイナル・サーバー (RFS) とスタンバイ・サイトで互換性がないために失敗しました。

処置: 互換性のある Oracle のバージョンがプライマリおよびすべてのスタンバイ・サイトで実行中であることを確認してください。

ORA-16040 スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・ファイルがロックされています。

原因: ターゲット・スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・ファイルがロックされています。これは、ファイルが別のリモート・ファイル・サーバー (RFS) プロセスによってアーカイブされていることを示しています。

処置: プライマリ・データベースに定義されている、重複するスタンバイ宛先のアーカイブ・ログのサービス名を確認し、削除してください。

ORA-16041 リモート・ファイル・サーバーに致命的なエラーが発生しました

原因: スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・サイトのリモート・ファイル・サーバー (RFS) プロセスが使用禁止になるエラーが発生し、使用できません。これ以上、スタンバイ・サイトにアーカイブすることはできません。

処置: このエラーに関する詳細は、スタンバイ・サイトにある適切な RFS トレース・ファイルを参照し、可能であれば対処措置を取ってください。

ORA-16042 管理リカバリ操作の即時取消がユーザーから要求されました。

原因: 管理スタンバイ・データベースのリカバリ操作が各ユーザー要求で即時取り消されました。カレント・アーカイブ・ログ・ファイルの処理が割り込みされたため、データベースが不安定な状態です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16043 維持リカバリ・セッションが取り消されました。

原因: 維持スタンバイ・データベースのリカバリ操作が各ユーザー要求または操作のタイムアウトで取り消されました。

処置: このメッセージに付随して詳細なメッセージが表示されます。

ORA-16044 宛先 *string* の属性はセッション・レベルで指定できません。

原因: アーカイブ・ログの宛先の属性をセッション・レベルで変更しようとしてしました。

処置: ALTER SYSTEM コマンドを使用して宛先の属性を変更してください。

ORA-16045 アーカイブ・ログの宛先が循環するようになっています

原因: アーカイブ・ログの宛先が、依存性を含む他のアーカイブ・ログの宛先に依存しています。

処置: 親アーカイブ・ログの宛先が別のアーカイブ・ログの宛先に依存しないようにしてください。ALTER SYSTEM コマンドを使用して、依存性のある属性の1つを削除してください。

ORA-16046 依存宛先の失敗のためにアーカイブ・ログの宛先が失敗しました

原因: アーカイブ・ログの宛先が、失敗した他の宛先に依存しています。そのため、この宛先も失敗します。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16047 依存アーカイブ・ログの宛先はスタンバイ・データベースになれません

原因: 親アーカイブ・ログの宛先はスタンバイ・データベースにはできません。ローカル・アーカイブ・ログ宛先である必要があります。

処置: 親アーカイブ・ログの宛先をスタンバイ・データベースの参照からローカル・アーカイブ・ログ・リポジトリの参照へ変更してください。

ORA-16048 アーカイブ・ログ書込みでシミュレーション・エラーを使用可能にします

原因: アーカイブ操作の書き込み中に I/O エラーが発生した場合には通知されます。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16049 アーカイブ・ログ書込みでシミュレーション・エラーが発生しました

原因: アーカイブ操作中のシミュレーション・アーカイブ障害で I/O エラーが発生しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16050 宛先が指定された割当てサイズを超過しました。

原因: 指定された最大割当てサイズで宛先にアーカイブ・ログを作成しようとした。このアーカイブ・ログの作成が、指定された割当てサイズを超過しました。そのため、この宛先は今後のアーカイブ操作でアクセス不可能になりました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16051 パラメータ *string* には無効な遅延時間が含まれています。

原因: 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータの値に、無効な数値の DELAY オプションが指定されています。有効な範囲は、0 ～ 5760 (分) です。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16052 ギャップ・シーケンスのフェッチで問題が発生しました。メディア・リカバリは取り消されました。

原因: 管理スタンバイ・リカバリの実行中に、スタンバイ・データベースでギャップ・シーケンスが検出されました。ギャップ・シーケンスのフェッチが失敗しました。失敗は、プライマリ・データベースのアラート・ログに記録されます。

処置: プライマリおよびスタンバイ・データベースのアラート・ログを確認してください。適切な処置を行って、再度ギャップ・シーケンスを使用可能にしてください。スタンバイ・データベースの管理スタンバイ・リカバリは、スタンバイ・データベースがギャップ・シーケンス REDO ログ・ファイルを取得できるようになるまで処理されません。

ORA-16053 FAL アーカイブが失敗しました。スレッド番号 *string*、順序番号 *string* がアーカイブできません。

原因: プライマリ・データベースの FAL サーバーで、スタンバイ・データベースが要求する REDO ログ・ファイルのアーカイブに問題が発生しました。この問題の原因は、アラート・ログ・ファイルに記録されます。

処置: プライマリ・データベースのアラート・ログを確認してください。適切な処置を行って、問題を解決してください。スタンバイ・データベースで管理スタンバイ・リカバリを再発行してください。

ORA-16054 自動 RFS ギャップ・シーケンス検出のためのイベント

原因: Oracle の内部イベント・コードです。この状態は、ARC 処理がギャップ・シーケンスを検出するリモート RFS を要求するときに転送されます。このイベントは、自動ギャップ・シーケンス検出のランタイム使用禁止化を許可するために使用されます。そのようなランタイム使用禁止機能を使用すると、ORATST によって、その他でギャップ・シーケンス・コード・パス `kcrrggs()` などを取得することをテストできます。

処置: 処置は必要ありません。Oracle の内部イベント・コードです。

ORA-16055 FAL 要求が拒否されました。

原因: FAL サーバーが FAS クライアントからの FAL 要求を拒否しました。このエラーには、様々な原因があります。

処置: プライマリ・データベースのアラート・ログを確認してください。適切な処置を行って問題を解決してください。

ORA-16056 バックアップ制御ファイルのアーカイブには正しい構文が必須です。

原因: バックアップ制御ファイルを使用してオンライン・ログ・ファイルのアーカイブを実行しようとしてしました。ただし、`USING BACKUP CONTROLFILE` 構文が指定されていません。

処置: バックアップ制御ファイルを使用するときのアーカイブ操作が正しいことを確認し、`USING BACKUP CONTROLFILE` 構文を指定してください。

ORA-16057 カレント制御ファイルのアーカイブには正しい構文が必須です。

原因: カレント制御ファイルを使用してオンライン・ログ・ファイルのアーカイブを実行しようとしてしました。ただし、`USING BACKUP CONTROLFILE` 構文が指定されています。

処置: カレント制御ファイルを使用するときのアーカイブ操作が正しいことを確認し、`USING BACKUP CONTROLFILE` 構文の指定を削除してください。

ORA-16058 スタンバイ・データベース・インスタンスはマウントされていません。

原因: スタンバイ・データベースの RFS プロセスが内部エラーを受信しました。

処置: 詳細は、スタンバイ・アラート・ログおよび RFS トレース・ファイルを確認してください。

ORA-16059 ログ・ファイルは次の使用可能なブロックでは空または無効です。

原因: 空または無効なログ・ファイルはアーカイブできません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16060 ログ・ファイルはカレントです。

原因: カレント・ログ・ファイルはそのファイル名ではアーカイブできません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16061 ログ・ファイルのステータスが変わりました。

原因: オンライン・ログ・ファイルがアーカイブ開始前またはアーカイブ中に新規のログ・ファイルとして再生された可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16062 ログはアーカイブされませんでした。

原因: カレント・ログ・ファイルはアーカイブできません。

処置: 詳細は、アラート・ログおよびアーカイブ・トレース・ファイルを確認してください。

ORA-16063 リモート・アーカイブが他のインスタンスによって使用可能になりました。

原因: データベース REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブは、他のインスタンスによって使用可能になったので、このインスタンスでは使用禁止にできません。

処置: REMOTE_ARCHIVE_ENABLE パラメータを TRUE に設定して、このインスタンスを再起動してください。

ORA-16064 リモート・アーカイブが他のインスタンスによって使用禁止になりました。

原因: データベース REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブは、他のインスタンスによって使用禁止になったので、このインスタンスでは使用可能にできません。

処置: REMOTE_ARCHIVE_ENABLE パラメータを FALSE に設定して、このインスタンスを再起動してください。

ORA-16065 リモート・アーカイブがスタンバイ宛先で使用禁止になりました。

原因: リモート・アーカイブ REDO ログ・ファイルの受信は、対応付けられたスタンバイ宛先のホスト・データベースで使用禁止になりました。

処置: 適切な場合、対応付けられたアーカイブ・ログ・パラメータを変更して、LOCATION キーワードでローカル宛先を指定するか、または対応付けられたアーカイブ・ログ宛先を遅延してください。または、可能な場合、スタンバイ REMOTE_ARCHIVE_ENABLE パラメータを TRUE に設定して、今後の REDO ログ・ファイルのアーカイブが発生する前にスタンバイ・データベース・インスタンスを再起動してください。

ORA-16066 リモート・アーカイブが使用禁止になりました。

原因: アーカイブ・ログ宛先パラメータが、SERVICE キーワードでリモート宛先を指定しました。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブがこのデータベースでは使用禁止になりました。対応付けられたアーカイブ・ログ宛先が使用禁止になりました。

処置: 適切な場合、アーカイブ・ログ・パラメータを変更して LOCATION キーワードでローカル宛先を指定するか、または REMOTE_ARCHIVE_ENABLE パラメータを TRUE に設定して、今後の REDO ログ・ファイル・アーカイブが発生する前にデータベース・インスタンスを再起動してください。

ORA-16067 活性化識別子がアーカイブ・ログ *string* で不一致です。

原因: アーカイブ・ログ・ファイル・ヘッダーに含まれる活性化識別子が、リカバリされるデータベースの活性化識別子と一致していません。示されたアーカイブ・ログは、データベースに適用されません。

処置: データベースに適切なアーカイブ・ログを指定してください。

ORA-16068 REDO ログ・ファイルの活性化識別子が不一致です。

原因: 指定した REDO ログ・ファイルの活性化識別子がデータベースの活性化識別子と一致していません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16069 アーカイブ・ログ・スタンバイ・データベースの活性化識別子が不一致です。

原因: プライマリ・データベースとスタンバイ・データベースの活性化識別子が一致していません。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブが互換性のないスタンバイ・データベース・インスタンスに許可されていません。これは、不適切なアーカイブ・ログをスタンバイ・データベースに適用しようとする場合、またはプライマリ・データベースと一致しないスタンバイ・データベースにアーカイブしようとする場合に発生します。

処置: ARCHIVE LOG 処理を再試行する前に、互換性のある必須のスタンバイ・データベースの作成に必要な対処処置を取ってください。

ORA-16070 パラメータ *string* には無効な REGISTER 属性値が含まれています。

原因: 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...10) パラメータの値に、無効なファイル名テンプレート文字列を指定する REGISTER 属性が指定されています。指定されている場合、REGISTER ファイル名テンプレート文字列は、スレッドおよびログ順序番号置換ディレクティブ (%t, %T, *string*, *string*) を含む O/S 固有のファイル・パス名を示す必要があります。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16071 依存性アーカイブ・ログ・ファイルが見つかりません。string

原因: 指定されたアーカイブ・ログ・ファイルが、示されたスタンバイ宛先にありません。

処置: 実際の依存アーカイブ・ログ・ファイルのスタンバイ宛先として指定された依存アーカイブ・ログ・ファイル名テンプレートが正しいことを確認してください。

ORA-16072 最低でも 1 つのスタンバイ・データベースの宛先が必須です。

原因: スタンバイ・データベースのアーカイブ・ログ宛先が 1 つも指定されていません。

処置: 初期化パラメータ・ファイルのスタンバイ・アーカイブ・ログ宛先を指定してください。

ORA-16073 アーカイブが使用可能である必要があります。

原因: オンライン・ログ・ファイル・アーカイブが使用禁止です。

処置: ログ・ファイル・アーカイブを使用可能にしてください。

ORA-16074 ARCH プロセスがアクティブである必要があります。

原因: アクティブな ARCH プロセスがありません。

処置: ARCH プロセスを 1 つ以上アクティブにしてください。

ORA-16075 スタンバイ・データベースの宛先が不一致です。

原因: 別のインスタンスでアクセスできないスタンバイ・データベース宛先が指定されました。

処置: すべてのデータベース・インスタンスが同じスタンバイ・データベースにアクセスするようにしてください。

ORA-16076 スタンバイ・データベースの宛先が不明です。

原因: 別のインスタンスでアクセスできないスタンバイ・データベース宛先が指定されました。

処置: すべてのデータベース・インスタンスが同じスタンバイ・データベースにアクセスするようにしてください。

ORA-16077 ネットワーク送信エラーをシミュレーションしてください。

原因: 内部テストに使用されます。使用しないでください。

処置: 設定した場合、値がエラーとして返されます。

ORA-16078 メディア・リカバリが使用禁止です

原因: データベースが ARCHIVELOG モードではありません。

処置: データベースを ARCHIVELOG モードにしてください。

ORA-16079 スタンバイ・アーカイブが使用可能ではありません。

原因: スタンバイ・データベースでアーカイブが使用可能ではありません。

処置: スタンバイ・データベースがスタンバイ・ログ・ファイルをアクセス可能にするには、ARCH プロセスを使用可能およびアクティブにしてください。

ORA-16080 APPLY のための LogMiner セッション *string* が無効です。

原因: 論理スタンバイ適用エンジンが、無効な LogMiner セッション識別子で起動されました。

処置: LogMiner セッションで問題を修正して、新しいセッションを作成してください。

ORA-16081 APPLY のためのプロセス数が不十分です。

原因: 論理スタンバイ適用エンジンが、必要なプロセスより少ないプロセスで起動されました。

処置: 初期化パラメータ PROCESSES および PARALLEL_MAX_SERVERS、または SYSTEM.LOGSTDBY\$PARAMETERS の MAX_SLAVES パラメータの値を増やしてください。

ORA-16082 論理スタンバイが正しく初期化されていません。

原因: 論理スタンバイ適用エンジンが起動されましたが、メタデータの一貫性がありません。

処置: 詳細は、トレース・ファイルを調べてください。

ORA-16083 LogMiner セッションが作成されていません。

原因: 論理スタンバイ適用エンジンが、LogMiner セッションを作成せずに起動されました。

処置: LogMiner セッションを作成して、適用エンジンを再起動してください。

ORA-16084 適用エンジンはすでに実行中です。

原因: 論理スタンバイ適用エンジンが、別のエンジンの作成中に実行しています。

処置: 前の適用エンジンを停止して、新しいエンジンを起動してください。

ORA-16086 スタンバイ・データベースには使用可能なスタンバイ・ログファイルはありません。

原因: プライマリ・データベースは非データ消失モードですが、スタンバイ・データベースにはスタンバイ・ログ・ファイルがありません。

処置: スタンバイ・データベースにスタンバイ・ログ・ファイルを1つ以上追加してください。これは、スタンバイ・データベースがマウントされているときに可能です。

ORA-16087 適切な切替えにはスタンバイまたはカレント制御ファイルが必要です

原因: バックアップまたはクローン制御ファイルを使用して適切な切替え操作を実行しようとした。

処置: バックアップ制御ファイルをカレント制御ファイルに変換して、適切な切替え操作を実行してください。クローン制御ファイルは、適切な切替え操作には使用できません。

ORA-16088 アーカイブ・ログが完全にアーカイブされていません

原因: 完全にアーカイブされていないアーカイブ・ログを登録しようとした。指定されたアーカイブ・ログはカレント・ログ・ファイルである可能性があります。

処置: 完全なアーカイブ・ログを指定してください。

ORA-16089 アーカイブ・ログはすでに登録されています

原因: スタンバイ・データベース制御ファイルに対応するスレッド番号および順序番号をすでに持つアーカイブ・ログを登録しようとした。重複する情報は許可されません。

処置: V\$ARCHIVED_LOG ビューを使用して、アーカイブ・ログ情報を確認してください。

ORA-16090 置換されるアーカイブ・ログが管理スタンバイ・プロセスで作成されませんでした

原因: 管理スタンバイ操作で作成されていないアーカイブ・ログを置換しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16091 依存アーカイブ・ログの宛先はすでにアーカイブされています

原因: アーカイブ・ログの宛先に、すでにアーカイブされた他のアーカイブ・ログの宛先への依存性が含まれます。

処置: 親アーカイブ・ログの宛先が別のアーカイブ・ログの宛先と依存しないようにしてください。ALTER SYSTEM 文を使用して、依存性のある属性の 1 つを削除してください。

ORA-16092 依存アーカイブ・ログの宛先が有効ではありません

原因: アーカイブ・ログの宛先に、アクティブではない他のアーカイブ・ログの宛先への依存性が含まれます。

処置: 子アーカイブ・ログの宛先が、別の無効なアーカイブ・ログの宛先に依存しないようにしてください。ALTER SYSTEM 文を使用して、依存性のある属性の 1 つを削除してください。

ORA-16093 依存アーカイブ・ログの宛先が LGWR 対応ではありません

原因: アーカイブ・ログの宛先に、LGWR プロセスに使用可能ではない他のアーカイブ・ログの宛先への依存性が含まれます。

処置: 子アーカイブ・ログの宛先が、LGWR によってアーカイブされていない別のアーカイブ・ログの宛先に依存しないようにしてください。親アーカイブ・ログを変更する ALTER SYSTEM 文を使用して、LGWR プロセスを指定してください。

ORA-16094 アーカイブ操作中にデータベースを停止しました

原因: オンライン・ログ・ファイル・アーカイブがアクティブであるときにデータベースを停止しました。

処置: 処置は必要ありません。ARCH プロセスが終了しました。

ORA-16095 無効化するための依存宛先削除

原因: 親アーカイブ・ログ宛先がアーカイブに不適格になったため、依存アーカイブ・ログ宛先が非アクティブにされました。これは、親宛先がアプリケーション・ユーザーによって手動で遅延されるために発生する可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16098 アクセス不可能なスタンバイ・データベースがプライマリを保護するために停止を強制実行しました。

原因: アクセス可能なスタンバイ・データベースのアーカイブ・ログ宛先がなく、プライマリ・データベースは保護された非データ消失モードです。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの代替スタンバイ・アーカイブ・ログ宛先を指定してください。

ORA-16099 内部エラー ORA-00600 がスタンバイ・データベースで発生しました。

原因: スタンバイ・データベースの RFS プロセスが内部エラーを受信しました。

処置: 詳細は、スタンバイ・アラート・ログおよび RFS トレース・ファイルを確認してください。

ORA-16100 有効な論理スタンバイ・データベースではありません。

原因: このデータベースは、論理スタンバイ・データベースとして完全に構成されていません。

処置: データベースが、目的の論理スタンバイ・データベースであることを確認してください。ALTER DATABASE START LOGICAL APPLY INITIAL 文で論理スタンバイ適用がすでに開始されたことを確認してください。文の構文の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-16101 有効な開始 SCN が見つかりませんでした。

原因：開始 SCN が見つかりませんでした。

処置：このデータベースが生成されたバックアップに続く最初のログ・ファイルを登録してください。データベースの登録には、ALTER DATABASE REGISTER LOGFILE 文を使用することをお勧めします。また、この文を使用して開始 SCN の値を指定できます。

ORA-16102 リモート情報は指定されたプライマリで使用不能です。

原因：新規のプライマリが、ログ・ストリームの消費を開始するためにスタンバイに必要な情報の生成を完了していません。

処置：指定されたデータベース・リンクが新規のプライマリになるシステムを参照することを確認してください。少し待機して、必要な情報を生成するときにプライマリを許可するコマンドを再試行してください。

ORA-16103 この操作を許可するには論理スタンバイ適用を停止する必要があります。

原因：論理スタンバイが現在変更を適用しています。この操作を許可するには、適用を完了するか、または停止する必要があります。

処置：ALTER DATABASE STOP LOGICAL STANDBY APPLY 文を実行して、操作を再入力または再指定してください。

ORA-16104 論理スタンバイ・オプションの要求が無効です。

原因：要求された操作が無効です。

処置：綴りを確認するか、または『Oracle9i SQL リファレンス』で正しい文の構文を参照して、要求を再入力してください。

ORA-16105 論理スタンバイはすでにバックグラウンドで実行中です。

原因：論理スタンバイ適用操作はすでに実行中です。

処置：処置は必要ありません。

ORA-16106 ネットスレーブ・テストを有効にするイベント

原因：Oracle の内部イベント・コードです。別のネットスレーブ・プロセスを使用してログ・ファイルを送信する LGWR または単一 ARCH をテストするために使用されます。

処置：処置は必要ありません。Oracle の内部イベント・コードです。

ORA-16107 プライマリからのすべてのログ・データが処理されました

原因：プライマリ・システムで、ログ・ストリームが ALTER DATABASE PREPARE TO SWITCHOVER TO LOGICAL STANDBY 文で終了しました。

処置：次のコマンドのいずれかを発行して、このスタンバイをプライマリにするか、または新規のプライマリからの変更の適用を再開してください。

```
ALTER DATABASE PREPARE TO SWITCHOVER TO LOGICAL PRIMARY;  
ALTER DATABASE START LOGICAL STANDBY APPLY NEW PRIMARY dblink;
```

ORA-16108 データベースはもうスタンバイ・データベースではありません

原因: カレント・データベースはすでにプライマリ・データベースになっています。

処置: 次のコマンドのいずれかを発行して、このプライマリをスタンバイにしてください。

```
ALTER DATABASE PREPARE TO SWITCHOVER TO LOGICAL STANDBY;  
ALTER DATABASE START LOGICAL STANDBY APPLY NEW PRIMARY dblink;
```

ORA-16109 以前のプライマリからのログ・データの適用に失敗しました

原因: 以前のプライマリからのログ・データが完全に適用されていません。

処置: 失敗に対する DBA_LOGSTDBY_EVENTS を確認して、対処措置を行ってください。その後、コマンドを再発行してください。

ORA-16110 論理的なスタンバイのユーザー手順処理に DDL が適用されます

原因: ユーザーが指定したストアド・プロシージャが、処理される前に DDL 文を検査するようにコールされました。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、文を処理する必要があるユーザーを記録するために提供されます。追加情報は、DBA_LOGSTDBY_EVENTS および DBA_LOGSTDBY_SKIP ビューにあります。

ORA-16111 ログのマイニングと設定の適用

原因: この論理スタンバイ・プロセスは、変更処理の開始を設定しています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断が目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16112 ログのマイニングと停止の適用

原因: この論理スタンバイ・プロセスは、論理スタンバイ適用をクリーンアップおよび停止しています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16113 表またはシーケンス・オブジェクト番号 *string* に変更を適用しています

原因: プロセスが、特定スキーマ・オブジェクトに変更を適用しています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16114 DDL トランザクションにコミット SCN *string* を適用しています

原因: プロセスが、指定された SCN でコミットされる DDL 変更を適用しています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16115 Log Miner ディクショナリ・データをロードしています

原因: プロセスが、REDO ストリームからディクショナリ情報をロードしています。このアクティビティには数分かかる場合があります。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16116 使用できる作業はありません

原因: プロセスは、使用可能になる追加変更を待機して、アイドル状態です。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16117 処理を継続します

原因: 経過待機時間が終了し、プロセスの主要機能が継続しています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16118 適用を待って読み込みが停止しています

原因: 追加ログ情報は、追加変更がデータベースに適用されるまではメモリーに読み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。このメッセージが頻繁に表示され、変更が即座に適用されない場合は、使用可能な SGA または適用プロセスの数を増やしてください。

ORA-16119 SCN *string* でトランザクションを作成しています

原因: 示された SCN でコミットされるトランザクションが、適用のために準備されています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16120 SCN *string* でトランザクションをスケジュールしています

原因: 示された SCN でコミットされるトランザクションが、適用のためにスケジュールされています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16121 コミット SCN *string* にトランザクションを適用しています

原因: 示された SCN でコミットされるトランザクションが適用されています。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16122 SCN *string* で大きな dml トランザクションを適用しています

原因: コミットが参照される前に、大きなトランザクションが適用されています。適用されるカレント REDO は、示された SCN で終了します。

処置: 処置は必要ありません。この情報文は、診断目的のイベントを記録するために提供されます。

ORA-16129 サポートされていない dml を検出しました

原因: SYS スキーマの表への DML は更新されていますが、DDL 操作の一部ではありません。これは、DBA アクティビティ、または論理スタンバイがサポートしていないカーネル PL/SQL 要求と対応付けられた DML のために発生する可能性があります。

処置: 処理される表の名前の DBA_LOGSTDBY_EVENTS 表を確認してください。Log Miner を使用してトランザクションを理解し、スタンバイ・システムに補正トランザクションを指定してください。一度完了し、対応付けられたトランザクション ID で DBMS_LOGSTDBY.SKIP_TRANSACTION をコールして、適用を再開してください。

ORA-16130 ログ・ストリームからの補足ログ情報がありません

原因: 補足ログがプライマリ・データベースで使用可能ではありません。

処置: 次のコマンドを発行して、補足ログを使用可能にしてください。

```
ALTER DATABASE ADD  
SUPPLEMENTAL LOG DATA (PRIMARY KEY, UNIQUE INDEX) COLUMNS;
```

ORA-16131 スタンバイのターミナル・リカバリ中にエラーが発生しました。

原因: スタンバイのターミナル・リカバリ中にエラーが発生しました。

処置: スタンバイ・アラート・ログで追加情報を確認してください。

ORA-16132 スタンバイの有効化中にエラーが発生しました。

原因: ターミナル・リカバリに続くスタンバイ・データベースの有効化中にエラーが発生しました。

処置: スタンバイ・アラート・ログで追加情報を確認してください。

ORA-16133 データファイル *string* に不適切なターミナル・リカバリ・スタンプがあります。

原因: ターミナル・リカバリ（カレント・ログを使用するスタンバイのリカバリ）に続くスタンバイ・データベースの有効化の後で、有効化前からのデータ・ファイルのリカバリは、破損を回避するために同じターミナル・リカバリを完了している必要があります。

処置: ターミナル・リカバリ後およびスタンバイの有効化前に取られたデータ・ファイルのバックアップをリカバリに使用してください。

ORA-16134 無効な MANAGED リカバリの FINISH オプションです

原因: RECOVER MANAGED STANDBY DATABASE 文で FINISH キーワードの後に NOWAIT 以外のモードが続いています。

処置: 何も指定しないか、または FINISH の後に NOWAIT を指定してください。

ORA-16135 ターミナル・リカバリでスレッド番号 *string*、順序番号 *string* のログが見つかりませんでした。

原因: (RECOVER MANAGED STANDBY FINISH 文で開始する) ターミナル・リカバリで、要求されたスレッドおよび順序のカレント・ログが見つかりませんでした。

処置: スタンバイ・カレント・ログが正しい場所にあることを確認してください。

ORA-16136 管理スタンバイ・リカバリが有効ではありません

原因: 管理リカバリ・セッションを取り消そうとしましたが、アクティブな管理リカバリ・セッションがありませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16137 ターミナル・リカバリは必要ありません

原因: すべてのアーカイブ・ログが適用され、適用するカレント・ログがありません。ターミナル・リカバリは必要ありません。

処置: 処置は必要ありません。スタンバイ・データベースが新規のプライマリとしてアクティブにされている可能性があります。または、スタンバイとして継続している可能性があります。

ORA-16138 プライマリからログ・ストリームの終わりを受け取っていません

原因: スタンバイ・システムがプライマリ・システムのログ・ストリームが終了したという旨の通知を受け取っていません。適切な切替えは使用できません。

処置: プライマリのログ・ストリームが終了したことを確認してください。スタンバイがプライマリ・システムから必要な REDO をすべて適用していることを確認して、適切な場合、適切な切替えコマンドを再発行してください。

ORA-16139 メディア・リカバリが必須です。

原因: データベースがログ・ストリームの終わりを使用してリカバリされません。適切な切替えは使用できません。

処置: ログ・ストリーム全体が適用されたことを確認してください。適切な場合、適切な切替えコマンドを再発行してください。

ORA-16140 スタンバイ・オンライン・ログがリカバリされていません

原因: スタンバイ・データベースにはリカバリされていない REDO を含むオンライン・ログがあります。スタンバイをアクティブにすると、オンライン・ログに含まれる REDO を失います。

処置: スタンバイ・オンライン・ログをリカバリするには、次のコマンドを発行してください。

```
ALTER DATABASE RECOVER MANAGED STANDBY DATABASE FINISH;
```

その後で、ALTER DATABASE ACTIVATE STANDBY DATABASE 文を再発行してください。オンライン・ログをリカバリせずにスタンバイをアクティブにするには、次のコマンドを発行してください。

```
ALTER DATABASE ACTIVATE STANDBY DATABASE SKIP STANDBY LOGFILE;
```

ORA-16141 アーカイブ・ログ・エラーのシミュレートを使用可能にします

原因: アーカイブ操作中に発生したエラーの原因を通知します。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16142 アーカイブ・ログ・エラーをシミュレートしました

原因: アーカイブ操作中のシミュレーション・アーカイブ障害でエラーが発生しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16143 ターミナル・リカバリ時または後には RFS 接続を使用できません

原因: RFS がターミナル・リカバリ時または後に、スタンバイ・オンライン・ログ・ファイルにアクセスしようとしてしました。

処置: プライマリは、ターミナル・リカバリ後にスタンバイをアクティブにする必要はありません。

ORA-16145 スレッド番号 *string*、順序番号 *string* のアーカイブが進行中です

原因: 指定されたアーカイブ・ログが、アクティブが進行中のためにリカバリに使用不可能です。

処置: 指定されたログ・ファイルのアーカイブが完了したことを確認して、RECOVER STANDBY DATABASE 文を再発行してください。

ORA-16146 スタンバイ宛先制御ファイルのエンキューを使用できません

原因: ターゲット・スタンバイ宛先制御ファイルは、リモート・ファイル・サーバー (RFS) のプロセスに現在使用不可です。これは、ターゲット宛先がプライマリ・データベース自体であることを示します。

処置: 問合せのスタンバイ宛先アーカイブ・ログ・パラメータを確認して、排除してください。

ORA-16147 スタンバイ・データベースは複数のアーカイブ・ログ宛先で参照されます

原因: 異なるサービス名を使用して、複数のアーカイブ・ログ先が同じスタンバイ・データベースを参照しています。これは許可されていません。

処置: 重複するアーカイブ・ログ先の 1 つを削除してください。

ORA-16148 管理リカバリ操作の期限切れがユーザーから要求されました

原因: 管理スタンバイ・データベースのリカバリ操作が、RECOVER MANAGED STANDBY DATABASE 文の各ユーザー指定の EXPIRE オプションで取り消されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16501 Data Guard ブローカ操作に失敗しました

原因: Data Guard ブローカ操作に失敗しました。

処置: 詳細は、他のメッセージを参照してください。

ORA-16502 Data Guard ブローカ操作は警告付きで成功しました

原因: Data Guard ブローカ操作は警告付きで成功しました。

処置: 詳細は、他のメッセージを参照してください。

ORA-16503 サイト ID の割当てに失敗しました

原因: Data Guard 構成のサイトの数が制限を超えています。

処置: 使用していないサイトを削除してください。

ORA-16504 Data Guard 構成はすでに存在します

原因: Data Guard 構成を作成する要求が既存の構成の一部であるサイトで行われました。

処置: 新規の構成を作成する場合は、既存の構成を削除してください。

ORA-16505 サイト ID が無効です。

原因: 要求に無効なサイト ID が含まれます。

処置: 有効なサイト ID で要求を作成してください。

ORA-16506 メモリーが不足しています。

原因: プロセスがプライベートまたは共有メモリー制限を超えています。

処置: メモリー・リークを確認し、システム・パラメータを増やして、再起動してください。

ORA-16507 要求識別子が認識されていません

原因: 指定した要求識別子が Data Guard ブローカによって認識されていません。

処置: 有効な要求識別子を使用して要求を再発行してください。

ORA-16508 チャネル・ハンドルが初期化されていません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16509 要求はタイムアウトになりました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16510 ksrwait を使用中にメッセージング・エラーが発生しました

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16511 ksrget を使用中にメッセージング・エラーが発生しました

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16512 パラメータが最大サイズ制限を超過しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16513 最大要求数を超過しました。

原因：非ブロック化コマンドが発行されましたが、要求が読み込まれないか、またはコマンドが実行を完了しませんでした。

処置：保留応答を読み込むか、または未処理の要求を削除して、再試行してください。

ORA-16514 要求が見つかりませんでした。

原因：応答を読み込もうとしましたが、一致する要求が見つかりませんでした。

処置：要求識別子が有効で、以前発行した要求を参照していることを確認してください。

ORA-16515 rcv チャネルがありません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16516 リソース状態が無効です。

原因：指定した状態がリソースに無効です。

処置：リソース状態を確認してください。

ORA-16517 オブジェクト・ハンドルが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16518 仮想インスタンス ID を割り当てられません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16519 リソース・ハンドルが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16520 リソース ID を割り当てられません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16521 汎用テンプレート ID を作成できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16522 汎用テンプレートが見つかりません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16523 プロパティ件数がすべて使用されました。

原因：リソースのプロパティの合計数が制限を超えました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-16524 サポートされていない操作です。

原因：コマンドまたはオプションがこのリソースではサポートされていません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16525 Data Guard ブローカはまだ使用できません

原因：Data Guard ブローカ処理がまだ開始されていないか、初期化中か、または開始に失敗しました。

処置：ブローカが開始されていない場合は、DRS_START を true に設定して、要求を作成する前にブローカが初期化を終了できるようにしてください。ブローカが開始に失敗した場合は、可能性のあるエラーについて Data Guard ログを確認してください。そうでない場合は、操作を再試行してください。

ORA-16526 タスク要素を割り当てられません。

原因：Data Guard ブローカが要求のメモリー割当てに失敗しました。

処置：SGA のサイズを増やしてください。

ORA-16527 SGA ヒープを割り当てられません。

原因：Data Guard ブローカが SGA 内のヒープ割当てに失敗しました。

処置：SGA メモリーを増やしてください。

ORA-16528 PGA ヒープを割り当てられません。

原因：PGA にヒープを割り当てる領域がありません。

処置：プロセス仮想メモリーを増やしてください。

ORA-16529 送信者 ID が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16530 バッファまたは長さが無効です。

原因：NULL のバッファまたは0（ゼロ）の長さが指定されています。

処置：コマンド・パラメータを修正して再試行してください。

ORA-16531 メッセージを転記できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16532 Data Guard 構成が存在しません

原因：Data Guard 構成が存在しません。

処置：他の要求を発行する前に DRC を作成してください。

ORA-16533 Data Guard ブローカの状態に一貫性がありません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16534 要求はこれ以上受け付けられません。

原因：Data Guard ブローカが、これ以上の要求を受け付けられません。フェイルオーバーまたは切替え操作が処理中であることが、この状況の最も一般的な原因です。

処置：操作が完了するまで待機して、要求を再発行してください。

ORA-16535 フェイルオーバー要求は拒否されました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16536 オブジェクト型が不明です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16537 子の件数が超過しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16538 要求された項目に一致するものがありません。

原因: Data Guard ブローカが指定したプロパティまたは状態名を認識できませんでした。

処置: コマンド・パラメータを確認して、要求を再発行してください。

ORA-16539 タスク要素が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16540 引数が無効です。

原因: 指定した要求の引数の1つが要求タイプに無効です。

処置: 引数を確認して、要求を再発行してください。

ORA-16541 サイトを使用できません

原因: 要求に指定されたサイトは使用可能ではありません。

処置: 使用可能なサイトを選択して、要求を再発行してください。

ORA-16542 操作を認識できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16543 ブローカに対して無効な要求が行われました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16544 要求を作成できません。

原因: Data Guard ブローカが要求のアクセプトに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16545 応答を取得できません。

原因: Data Guard ブローカが以前の要求の結果を戻せませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16546 ピースがないか無効です。

原因: 戻す要求のピースが指定されていないか、または無効です。

処置: 1 から始まる応答のピースを指定してください。

ORA-16547 要求を削除できません。

原因: Data Guard ブローカが、指定された要求の削除に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16548 リソースを使用できません

原因: 使用禁止の Data Guard リソースに対する変更または参照が行われました。

処置: リソースを使用可能にして、要求を再発行してください。

ORA-16549 文字列が無効です。

原因: 要求に無効または NULL 文字列値が含まれます。

処置: コマンド・パラメータを修正して再試行してください。

ORA-16550 結果が切り捨てられました。

原因: 文字列プロパティ値が不完全なバッファ・サイズのために切り捨てられました。

処置: 受信バッファを大きくしてください。

ORA-16551 短い文字列がコピーされました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16552 Data Guard ブローカ・プロセス (DMON) の開始に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16553 Data Guard ブローカ・プロセス (DMON) の停止に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16554 翻訳が有効ではありません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16555 Data Guard リソースがアクティブではありません

原因: 現在アクティブではない (パスがオフである) リソースで操作を実行しようとしてしました。

処置: リソースがアクティブであることを確認してください。

ORA-16556 エラー・メッセージはすでに XML にあります。

原因: これは内部エラーです。ユーザーには表示されません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16557 リソースはすでに使用されています

原因: 重複するリソースを作成しようとしてしました。

処置: 追加するリソースを確認して、重複がないことを確認してください。

ORA-16558 スイッチオーバーに指定されたサイトはスタンバイではありません。

原因: スタンバイ・サイトではないサイトへのスイッチオーバーを実行しようとしてしました。

処置: 使用可能なスタンバイ・サイトの位置を特定して、スイッチオーバーのターゲットとしてそのサイトを選択してください。

ORA-16559 *string* でメモリー不足です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16560 ドキュメントを変換できません。"*string*" で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16561 ONLINE の親の状態を使用する必要があります。"*string*" で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16562 *intended_state* はここでは使用されません。"*string*" で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16563 値を追加できません。"*string*" で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16564 参照が失敗しました。*string* で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16565 プロパティが重複しています。"string" で構文エラーです。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16566 ドキュメントのタイプがサポートされていません。

原因: 送信された XML 文書はサポートされていません。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16567 "string" で Data Guard ブローカの内部パーサー・エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16568 プロパティ *string* を設定できません。

原因: 指定されたプロパティは変更できません。プロパティが編集可能ではないか、または存在していない可能性があります。

処置: 有効なプロパティで操作を再試行してください。

ORA-16569 Data Guard 構成を使用できません

原因: 要求した操作を行うには、Data Guard 構成を使用可能にする必要があります。

処置: Data Guard 構成を使用可能にして、要求を再発行してください。

ORA-16571 Data Guard 構成データ・ファイルの作成に失敗しました

原因: Data Guard ブローカが永続記憶域での構成データの作成に失敗しました。

処置: ORACLE_HOME がブローカに使用可能であることを確認してください。

ORA-16572 Data Guard 構成データ・ファイルが見つかりません

原因: 構成データ・ファイルが使用不可か、または存在しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16576 Data Guard 構成データ・ファイルの更新に失敗しました

原因: 永続記憶域でブローカが構成データ・ファイルの更新中に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16577 Data Guard 構成データ・ファイルで破損が検出されました

原因: Data Guard ブローカが構成データ・ファイルをロード中にエラーを検出しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16578 Data Guard 構成データ・ファイルの読み込みに失敗しました

原因: 永続記憶域でブローカが構成データ・ファイルの読み込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16579 Data Guard で不正な NetSlave 状態が検出されました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16580 Data Guard の NetSlave ネットワーク・リンクが正しくありません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16581 Data Guard NetSlave から DRCX へのメッセージ送信に失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16582 Data Guard 接続処理で NetSlave からエラーを受信しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16583 Data Guard 接続処理の DRCX 状態が正しくありません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16584 スタンバイ・サイトでの操作が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16585 プライマリ・サイトでの操作が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16586 Data Guard ブローカでサイトの構成を更新できません

原因: Data Guard ブローカが特定のサイトの構成データ・ファイルの更新に失敗しました。

処置: Oracle Net 接続が Data Guard サイト間で操作できることを確認してください。

ORA-16587 あいまいなオブジェクト処理

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16588 内部バッファはこれ以上ありません

原因: トレース・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16589 Data Guard 接続処理でネットワーク転送エラーが検出されました

原因: トレース・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16590 Data Guard 構成でプライマリが確立されていません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16591 ドキュメントに不明なフィールド "*string*" があります。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16592 ドキュメントに欠落フィールド "*string*" があります。

原因: 指定されたトークンにエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16593 XML 変換が失敗しました。

原因: XML 要求文書内にエラーがあります。

処置: エラーを修正して要求を再発行してください。

ORA-16594 *string* プロセスは DMON プロセスが存在しないことを検出しました。

原因: Data Guard NetSlave (NSV*) プロセスが、Data Guard ブローカ・プロセス (DMON) が実行していないことを検出しました。

処置: Data Guard コンソール・ログおよび DMON プロセス・トレース・ファイルを確認して、DMON プロセスが存在しない理由を確認してください。

ORA-16595 NetSlave 処理で *string* の終了に失敗しました

原因: 指定した NetSlave プロセスが Data Guard ブローカの要求で終了しませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16596 Data Guard 構成メンバーのサイトではありません

原因: Data Guard 構成のメンバーではないサイトで要求が作成されました。

処置: 構成の一部であるサイトで要求を再発行してください。

ORA-16597 Data Guard ブローカで2つ以上のプライマリが検出されました

原因: Data Guard ブローカが構成で2つ以上のプライマリを検出し、継続できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16598 Data Guard ブローカで構成の不一致が検出されています

原因: このサイトの Data Guard ブローカが、構成の生成で不一致を検出しました。これは、プライマリ・サイトに失効構成があるときに発生します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16599 Data Guard ブローカで失効構成が検出されました

原因: Data Guard ブローカがこのサイトで初期化中に失効構成を検出しました。

処置: 一度プライマリ・サイトが初期化を完了すると、ブローカが自動的にこの状況を解決します。

ORA-16601 サイトの必須リソースが使用不可になっています

原因: 使用可能であるべきリソースを必要とする操作を実行する前に、Data Guard ブローカがそれらの必須リソースが使用不可になっていることを検出しました。

処置: 必須リソースをすべて使用可能にして、要求を再発行してください。

ORA-16602 この操作を実行するには、リソースを使用不可にする必要があります

原因: リソースが使用不可のときに変更のみできるリソースを変更しようとした。

処置: リソースを使用不可にして、要求を再発行してください。

ORA-16603 Data Guard ブローカで構成 ID の不一致が検出されました

原因: このサイトの Data Guard ブローカが、構成の一意 ID で不一致を検出しました。これは、このサイトがネットワークから切断されるとき、または同じサイトが2つの異なる構成に追加されるときに、元の構成が再作成される場合に発生します。

処置: サイトが1つの構成のみに属していることを確認してください。構成メタデータ・ファイルを削除して、サーバーを再起動してください。

ORA-16604 パッケージ "string" を使用してテンプレートを記述できません

原因: Data Guard ブローカが指定したパッケージの OnDescribe 関数の実行に失敗しました。

処置: 指定したパッケージがプライマリ・サイトでロードされることを確認してください。また、OnDescribe 関数がパッケージにあることも確認してください。

ORA-16605 テンプレートを削除できません。テンプレートは使用中です

原因: テンプレートが1つ以上のリソースで使用されているために、Data Guard ブローカがテンプレートの削除に失敗しました。

処置: テンプレートを使用しているリソースをすべて削除して、テンプレートを削除してください。データベース・テンプレートは削除できません。

ORA-16606 プロパティ "*string*" が見つかりません

原因: 指定されたプロパティがありません。

処置: 有効なプロパティ名を指定して、要求を再発行してください。

ORA-16607 1 つ以上のサイトで失敗しました

原因: Data Guard ブローカが 1 つ以上のサイトでエラーを検出しました。

処置: エラーがあるサイトの場所を特定して修正してください。

ORA-16608 1 つ以上のサイトで警告がありました

原因: Data Guard ブローカが 1 つ以上の警告ステータスを検出しました。

処置: 警告ステータスがあるサイトの場所を特定して修正してください。

ORA-16609 1 つ以上のリソースで失敗しました

原因: Data Guard ブローカがサイトの 1 つ以上のリソースでエラーを検出しました。

処置: エラーがあるリソースの場所を特定して修正してください。

ORA-16610 1 つ以上のサイトで警告がありました

原因: Data Guard ブローカがサイトの 1 つ以上のリソースで警告ステータスを検出しました。

処置: 警告ステータスがあるリソースの場所を特定して修正してください。

ORA-16611 ユーザー要求時に操作が異常終了しました

原因: Data Guard ブローカがユーザーの要求時に操作を異常終了しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16612 属性 "*string*" の文字列値が長すぎます

原因: 指定した属性の文字列が長すぎます。

処置: より短い文字列を使用してください。

ORA-16613 サイトの初期化が進行中です

原因: サイトが初期化状態を変更するディレクティブまたは初期化が完了する前の構成での変更を受信しました。

処置: 要求を発行する前にサイトが初期化を完了するまで待機して、ランタイム状態または構成を変更してください。

ORA-16614 オブジェクトに使用不可の上位オブジェクトが含まれています

原因: 使用不可の上位オブジェクトを含むオブジェクトを使用可能にする要求をサーバーが受信しました。Data Guard ブローカがオブジェクトをエクステンツに使用可能にしましたが、上位オブジェクトが使用可能になるまではオブジェクトを完全に使用可能にできません。

処置: 使用不可の上位オブジェクトを確認して、子オブジェクトを使用可能にする前にその上位オブジェクトを使用可能にしてください。

ORA-16617 要求で不明のオブジェクト識別子が指定されました

原因: 要求で指定したオブジェクト識別子が無効または不明な場合に、Data Guard ブローカがこのエラーを戻します。たとえば、無効または不明なサイト・オブジェクト識別子がサイト・オブジェクト識別子を必要とする要求で指定された場合にこのエラーが戻されます。

処置: 有効なオブジェクト識別子が要求に指定されていることを確認して、要求を再発行してください。

ORA-16618 サイズが "string" バイトの応答文書が大きすぎます

原因: 応答文書が、文書のサイズが大きすぎるために戻されません。これは、Data Guard コンソール・ログを表示するときに発生します。

処置: 指定したサイトのコンソール・ログを直接参照してください。

ORA-16619 健全性チェックがタイムアウトになりました

原因: このステータスは、ルーチン健全性チェック中に Data Guard ブローカがスタンバイ・サイトに到達できない場合に戻されます。

処置: 通常、これは、スタンバイ・サイトが事前定義タイム・フレーム内でプライマリへ応答できないネットワークの問題を示します。

ORA-16620 1 つ以上のサイトが削除操作で接続できません

原因: このステータスは、Data Guard ブローカがサイトの削除または構成の削除操作の 1 つ以上のスタンバイ・サイトに到達できない場合に戻されます。

処置: 通常、これは、スタンバイ・サイトがプライマリへ応答できないネットワークの問題を示します。この状況のイベントで、プライマリの Data Guard ブローカ・ログ・ファイルを検査して、到達できなかったスタンバイ・サイトを確認してください。到達されない各スタンバイ・サイトの場合、そのサイトに接続して、DRS_START 初期化パラメータを `false` に設定してブローカを停止してください。ブローカがスタンバイ・サイトで停止された後、スタンバイ・サイトの Oracle ホーム・ディレクトリの Data Guard ブローカ構成ファイルの位置を特定して、それらを削除してください。構成ファイルのネーミング規則については、Data Guard ブローカのマニュアルを参照してください。

ORA-16701 一般リソース・ガード要求に失敗しました

原因: リソースを変更または問い合わせる要求が失敗しました。

処置: 失敗の理由を Data Guard コンソール・ログで確認して、要求を再発行してください。

ORA-16702 汎用リソース・マネージャの警告

原因: リソースを変更または問い合わせる要求が警告となりました。

処置: 警告の理由をコンソール・ログで確認して、必要に応じて要求を再発行してください。

ORA-16703 要求のステータスが不明です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16704 前の設定状態の操作がペンディングです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16705 リソース・ガードで重大な内部エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16706 使用可能なリソース・ガードがありません

原因: 要求をサービスするために使用可能なリソース・ガードがありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16707 リソース・ガードに提供された値が無効です

原因: 要求に指定された値が無効です。

処置: 値を確認して、要求を再発行してください。

ORA-16708 リソース・ガードに提供された状態が無効です

原因: 指定した状態名がリソースに無効です。

処置: 状態名を確認して、要求を再発行してください。

ORA-16709 リソース・ガードは使用中で要求をサービスできません

原因: ガードが使用中のためにリソース・ガードへの要求が失敗しました。

処置: リソース・ガードが以前の要求を終了するまで待機して、要求を再発行してください。

ORA-16710 リソース・ガードはメモリー不足です

原因: 要求のサービス中にリソース・ガードがメモリー割当てに失敗しました。

処置: 構成を使用禁止にして、Oracle を停止し、SGA サイズを増やして、再起動してください。

ORA-16711 リソース・ガードの索引が境界外です

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16712 リソース・ハンドルが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16713 要求のサービス中にリソース・ガードがタイムアウトになりました

原因: 要求のサービス中にリソース・ガードがタイムアウトになりました。

処置: 操作がリソースに有効であることを確認して、要求を再発行してください。

ORA-16714 リソース・ガードの再試行制限を超えています

原因: 要求のサービス中にリソース・ガードが再試行制限を超えました。

処置: リソースが操作できることを確認して、要求を再発行してください。

ORA-16715 論理的スタンバイ・データベースにはインスタンス化が必要です

原因: 論理的スタンバイ・データベースにはインスタンス化が必要であるため、リソース・ガードが要求を実行できません。

処置: サイトの論理的スタンバイをインスタンス化して、要求を再発行してください。

ORA-16716 パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST の消去が失敗しました。

原因: LOG_ARCHIVE_DEST 初期化パラメータの消去が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16717 パラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST の消去が失敗しました。

原因: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST 初期化パラメータの消去が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16718 データベース・リソースの特定に失敗しました

原因: リソース・ガードが構成のデータベース・リソースの特定に失敗しました。

処置: データベース・リソースを追加して、要求を再発行してください。

ORA-16719 V\$ARCHIVE_DEST 固定ビューに問合せできません。

原因: V\$ARCHIVE_DEST を問い合わせる SQL コマンドが失敗しました。

処置: SQL*Plus を使用して、問題をテストおよび消去してください。

ORA-16720 使用可能な LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータがありません。

原因: すべての LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータが定義されています。

処置: いくつかの LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータを空の文字列に設定してください。

ORA-16721 LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータを設定できません。

原因: いくつかの LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの設定が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16722 LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータを設定できません。

原因: いくつかの LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータの設定が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16723 接続記述子が V\$ARCHIVE_DEST から欠落しています

原因: リソース・ガードが LOG_ARCHIVE_DEST_n 初期化パラメータの設定に失敗しました。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n 初期化パラメータの値を再設定して、要求を再発行してください。

ORA-16724 意図したリソースの状態が OFFLINE に設定されています。

原因: 意図したリソースの状態が OFFLINE に設定されています。

処置: リソースを管理する場合、意図した状態を ONLINE に変更してください。

ORA-16725 リソース・マネージャに提供されたフェーズが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16726 リソース・マネージャに提供された外部条件が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16727 リソース・ガードでデータベースをクローズできません

原因: リソース・ガードでデータベースをクローズできません。

処置: データベースへのアクティブなセッション接続があるかどうかを確認して、それらを終了して、要求を再発行してください。

ORA-16728 ログ・アーカイブの宛先が設定できませんでした。

原因: リソース・ガードでログ・アーカイブの宛先を設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16729 dbms_logstdby.log プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16730 dbms_logstdby.skip_txn プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16731 dbms_logstdby.unskip_txn プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16732 dbms_logstdby.skip プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16733 dbms_logstdby.unskip プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16734 dbms_logstdby.skip_error プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16735 dbms_logstdby.unskip_error プロシージャの実行中にエラーが発生しました

原因: 論理スタンバイ・パッケージがインストールされていない可能性があります。

処置: 論理スタンバイ・パッケージをインストールして、要求を再発行してください。

ORA-16736 スタンバイ・ログのアーカイブ宛先パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでスタンバイ・ログのアーカイブ宛先パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16737 ログ・アーカイブ・フォーマット・パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでログ・アーカイブ・フォーマット・パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16738 データベース・ファイル名変換パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでデータベース・ファイル名変換パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16739 ログ・ファイル名変換パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでログ・ファイル名変換パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16740 ログ・アーカイブ追跡パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでログ・アーカイブ追跡パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16741 制御ファイル・パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードで制御ファイル・パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16742 ロック名追跡パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードでロック名追跡パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16743 FAL クライアント・パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードで FAL クライアント・パラメータを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16744 FAL サーバー・パラメータが設定できませんでした

原因: リソース・ガードで FAL サーバーを設定できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16745 データベースのディスマウント中にリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードでデータベースをディスマウントできませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16746 データベースのマウント中にリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードでデータベースをマウントできませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16747 論理スタンバイ・ガードを開始できませんでした。

原因: リソース・ガードで論理スタンバイ・ガードを開始できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16748 データベースのオープン中にリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードでデータベースをオープンできませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16749 論理的プライマリへの切替え中にリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードで論理的プライマリへの切替えを準備できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16750 論理的プライマリをアクティブにするときにリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードで論理的プライマリをアクティブにできませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16751 プライマリへの切替え中にリソース・ガードでエラーが検出されました

原因: リソース・ガードでプライマリへの切替えを準備できませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16752 リソース・ガードでスタンバイのマウントができませんでした

原因: リソース・ガードでスタンバイをマウントできませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16753 リソース・ガードでスタンバイ・データベースのオープンができませんでした

原因: リソース・ガードでスタンバイ・データベースのオープンができませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16754 リソース・ガードでスタンバイのアクティブ化ができませんでした

原因: リソース・ガードでスタンバイのアクティブ化ができませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16755 リソース・ガードでスタンバイのディスマウントができませんでした

原因: リソース・ガードでスタンバイのディスマウントができませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16756 リソース・ガードで読取り専用スタンバイのオープンができませんでした

原因: リソース・ガードで読取り専用スタンバイのオープンができませんでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16757 リソース・ガードでプロパティを取得できませんでした

原因: リソース・ガードでプロパティの取得に失敗しました。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16758 リソース・ガードでプロパティを検証できませんでした

原因: リソース・ガードでプロパティの検証に失敗しました。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16759 リソース・ガードで初期 SCN を持つ論理的適用エンジンを起動できません

原因: リソース・ガードで初期 SCN を持つ論理的適用エンジンの起動に失敗しました。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16760 リソース・ガードで論理的適用エンジンを起動できませんでした

原因: リソース・ガードで論理的適用エンジンの起動に失敗しました。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16761 リソース・ガードで論理的適用エンジンを停止できませんでした

原因: リソース・ガードで論理的適用エンジンの停止に失敗しました。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16762 データベース状態が無効です。

原因: データベースが意図した状態にありません。

処置: 無効な状態の理由を確認して、状態取得要求を再発行してください。

ORA-16763 一部のサイトのログ転送サービスが予期せずにオンラインになりました

原因: 一部のサイトのログ転送サービスがオフラインである必要があるときにオンラインでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。必要に応じて、サイトのログ転送サービスを停止してください。

ORA-16764 一部のサイトのログ転送サービスが予期せずにオフラインになりました

原因: 一部のサイトのログ転送サービスがオンラインである必要があるときにオフラインでした。

処置: 詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。必要に応じて、ログ転送サービスを開始してください。

ORA-16765 物理的適用サービスが予期せずにオンラインになりました

原因：物理的適用サービスがオフラインである必要があるときにオンラインでした。

処置：必要に応じて、物理的適用サービスを停止してください。

ORA-16766 物理的適用サービスが予期せずにオフラインになりました

原因：物理的適用サービスがオンラインである必要があるときにオフラインでした。

処置：必要に応じて、物理的適用サービスを開始してください。

ORA-16767 論理的適用サービスが予期せずにオンラインになりました

原因：論理的適用サービスがオフラインである必要があるときにオンラインでした。

処置：必要に応じて、論理的適用サービスを停止してください。

ORA-16768 論理的適用サービスが予期せずにオフラインになりました

原因：論理的適用サービスがオンラインである必要があるときにオフラインでした。

処置：必要に応じて、論理的適用サービスを開始してください。

ORA-16769 apply_set プロシージャの実行エラー

原因：DBMS_LOGSTDBY\$APPLY_SET プロシージャの実行エラーです。

処置：プロパティの値を確認して、構成プロパティを再設定してください。

ORA-16770 apply_unset プロシージャの実行エラー

原因：DBMS_LOGSTDBY\$APPLY_UNSET プロシージャの実行エラーです。

処置：プロパティの値を確認して、構成セット・プロパティを再設定してください。

ORA-16771 ARCH プロセスの開始エラー

原因：アーカイブ・プロセスの開始エラーです。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16772 プライマリとスタンバイ・データベースの切替え中にエラーが発生しました

原因：プライマリ・データベースおよびスタンバイ・データベースの切替え中のエラーです。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16773 物理的適用サービス（MRP プロセス）の開始でエラーが発生しました

原因：物理的適用サービス（MRP プロセス）の起動時のエラーです。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16774 物理的適用サービス（MRP プロセス）の停止でエラーが発生しました

原因：物理的適用サービス（MRP プロセス）の停止時のエラーです。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16775 物理的適用サービスが早く終了しました

原因：エラーが発生し、物理的適用サービスが途中で終了しました。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16776 ログ転送サービスの健全性チェックに失敗しました

原因：一部の内部障害のために、データベース・リソース・ガードはログ転送サービスの健全性チェックを完了できません。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16777 V\$ARCHIVE_DEST でサイトの宛先エントリが見つかりません

原因：一部の宛先が手動で削除された可能性があります。または、Data Guard に使用可能なエントリがありません。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16778 一部のサイトのログ転送サービスにエラーがあります

原因：スタンバイ・サイトとの通信中の一部の問題がログ転送の失敗の原因です。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。LogXptStatus プロパティを問い合わせ、エラー・メッセージを参照してください。

ORA-16779 一部のサイトの宛先パラメータに誤った構文があります

原因：宛先が誤った構文で初期化パラメータ・ファイルに定義されています。また、Data Guard ブローカはログ転送を開始するときに宛先の更新に失敗します。

処置：Data Guard コンソール・ログを確認して、問題があるサイトを参照してください。初期化パラメータ・ファイル内の構文エラーを修正するか、またはエントリを削除してください。プロパティ LogArchiveDestOptions の構文が正しいかどうかを確認してください。

ORA-16780 一部のサイトが割当て制限を使い切りました

原因：一部のサイトがアーカイブ REDO ログを格納するための割当て制限を使い切りました。

処置：Data Guard コンソール・ログを確認して、問題があるサイトを参照してください。スタンバイ・サイトで一部のアーカイブ・ログを削除するか、または割当て制限を増やしてください。

ORA-16781 一部のサイトのログ転送サービスの状態が不明です

原因：一部のサイトのログ転送に不明な状態があります。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16782 取得できない重要な構成可能プロパティ値があります

原因：重要なプロパティ値が Data Guard メタデータから取り出せないために、ログ転送が開始されません。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログおよび Oracle アラート・ログを参照してください。

ORA-16783 設定されていない重要な構成可能プロパティがあります

原因：重要なプロパティが設定されていないために、ログ転送が開始されません。

処置：Data Guard コンソール・ログを確認し、設定されていないプロパティを参照して、適切に設定してください。

ORA-16784 ArchiveDestDependency に指定された名前のサイトが見つかりません

原因：プロパティ ArchiveDestDependency に誤った値があります。

処置：スタンバイが依存するサイトの正しい名前にプロパティ ArchiveDestDependency を設定してください。

ORA-16785 プライマリ・データベースは ARCHIVELOG モードではありません

原因：プライマリ・データベースが NOARCHIVELOG モードです。

処置：ALTER DATABASE ARCHIVELOG 文を発行して、プライマリ・データベースを ARCHIVELOG モードに設定してください。

ORA-16786 リソース・ガードで Data Guard メタデータにアクセスできません

原因：メタデータ・ファイルが存在しないか、または Data Guard 構成が作成されていません。

処置：詳細は、Data Guard コンソール・ログを参照してください。

ORA-16788 1 つ以上のデータベース構成プロパティ値を設定できません

原因: データベース・リソース・ガードが、構成プロパティを使用してデータベース初期化パラメータを設定しようとした場合に発生します。このエラーの原因には、次のことが考えられます。

- a. LogArchiveDestOptions の値に構文エラーがある。
- b. LogArchiveTrace の値が範囲外である。
- c. データベースの互換性が 9.0.0.0.0 以上に設定されていないため、データベース初期化パラメータ STANDBY_FILE_MANAGEMENT が AUTO に設定されていない。

処置: Data Guard コンソール・ログを確認して、問題のあるプロパティを再設定してください。

ORA-16900 クライアントを初期化できません。

原因: クライアントを初期化できませんでした。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16901 環境を初期化できません。

原因: データベース環境を割当ておよび初期化できませんでした。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16902 処理を割り当てられません。

原因: データベース・ハンドルを割り当てられませんでした。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16903 データベースに接続できません。

原因: 指定されたデータベースが存在しないか、または起動されていないために接続できませんでした。

処置: 要求を修正するか、またはデータベースを起動して、再試行してください。

ORA-16904 属性を設定できません。

原因: サーバー属性を設定できません。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-16905 失敗しました。

原因: 指定した操作に失敗しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-16906 コマンドを受け付けられませんでした: メモリーがありません。

原因: プログラムに使用可能なメモリーがありません。

処置: メモリーを増やして再試行してください。

ORA-16907 フィールドがありません。

原因: 必須フィールドがありません。

処置: 「help」を入力して構文を確認し、再試行してください。

ORA-16908 オプション: "string" が不明です

原因: 指定したオプションはサポートされていません。

処置: 適切なコマンドラインの構文を使用して再試行してください。

ORA-16909 致命的エラー。終了しています ...

原因: 致命的なエラーが発生しました。

処置: 追加エラー・メッセージを参照して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16910 サーバーにコマンドを発行できません。

原因: サーバーへのコマンドを発行できません。

処置: 追加エラー・メッセージを参照して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16911 警告:

原因: 操作が警告付きで成功しました。

処置: エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-16912 コマンド "string" が不明です。"help" を参照してください。

原因: 不明なコマンドが発行されました。

処置: 有効なコマンドを使用して再試行してください。

ORA-16914 接続文字列がありません。"help" を参照してください。

原因: データベースの接続文字列がありません。

処置: 有効な接続文字列でコマンドを再試行してください。

ORA-16916 サイトがありません。"help" を参照してください。

原因: サイト名がありません。

処置: 正しい構文を使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16917 XML ドキュメントがありません。"help" を参照してください。

原因: XML ドキュメントの引数がありません。

処置: 正しい構文を使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16939 "string" をプライマリとして起動できませんでした

原因: 指定したサイトがプライマリ・ロールで起動できませんでした。

処置: 追加メッセージを参照してください。

ORA-16940 "string" が新しいプライマリとして起動されました

原因: 指定したサイトが新しいプライマリ・サイトとして起動されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16942 "string" をスタンバイとして起動できませんでした

原因: 指定したサイトがスタンバイ・ロールで起動できませんでした。

処置: 追加メッセージを参照してください。

ORA-16943 "string" がスタンバイとして起動されました

原因: 指定したサイトが新しいプライマリ・サイトとして起動されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16944 フェイルオーバーに成功しました。新しいプライマリは "string" です

原因: フェイルオーバー操作が正しく完了しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16945 "string" の構文エラー

原因: 指定したトークンで構文エラーが発生したために、指定のコマンドが処理されませんでした。

処置: 有効な構文を使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16946 サイト "string" は見つかりませんでした

原因: 指定されたサイトが見つかりませんでした。

処置: 有効なサイトを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16947 "string" はプライマリ・ロールで実行されません

原因: 指定したリソースはプライマリ・ロールで実行されません。

処置: プライマリ・ロールで実行するリソースを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16948 "string" はスタンバイ・ロールで実行されません

原因: 指定したリソースはスタンバイ・ロールで実行されません。

処置: スタンバイ・ロールで実行するリソースを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16949 リソース "string" は見つかりませんでした

原因: 指定したリソースが見つかりません。

処置: 有効なリソースを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16950 編集する "string" を取り出せません

原因: 編集するオブジェクトが取り出せません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16951 マネージャ情報が見つかりません

原因: 共通のリソースの管理情報が取り出せませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16952 構成を記述できません

原因: 構成を記述できません。

処置: フレームワークにアクセスできません。DMON プロセスが実行中であることを調べてください。

ORA-16953 サイトまたはリソース "string" は存在しません

原因: 指定されたサイトまたはリソースがありません。

処置: 有効なサイトまたはリソースを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16954 この方法では複数のサイトでリソースを実行できません

原因: 複数のサイトに依存するリソースを作成しようとしてしました。これは、1つのコマンドでは不可能です。

処置: コマンドを2度発行してください。最初のサイトに1つ目のコマンド、2番目のサイトに2つ目のコマンドです。

ORA-16955 テンプレートが見つからないか作成できません

原因: テンプレートが見つかりませんでした。

処置: 追加エラー・メッセージを参照してください。

ORA-16956 テンプレート名が欠落しています

原因: テンプレート名がコマンドから省略されています。

処置: 有効なテンプレート名を使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16957 テンプレート "*string*" は見つかりませんでした

原因: 指定したテンプレートが見つかりませんでした。

処置: 有効なテンプレート名を使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-16958 ドキュメントを変換できません

原因: ドキュメントを変換できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-16959 フレームワークの NULL 回答

原因: フレームワークから回答が戻りません。

処置: フレームワークが使用可能ではありません。DMON プロセスが存在することを調べてください。

ORA-16960 ステータスは使用できません

原因: ステータスを取得できませんでした。

処置: フレームワークが使用可能ではありません。DMON プロセスが存在することを調べてください。

ORA-16991 あいまいなリソース名

原因: 指定したリソースが1つよりも多いサイトで存在します。

処置: 要求はより具体的である必要があります。ON SITE 句を使用して、コマンドを再発行してください。

ORA-17500 ODM エラー *:string*

原因: ODM ライブラリによってエラーが戻されました。

処置: エラー・メッセージを調べて適切な処置を行うか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-17501 論理ブロック・サイズ *string* が無効です

原因: Oracle ファイルの論理ブロック・サイズは物理ブロック・サイズの倍数であり、最大値より小さい必要があります。

処置: init.ora パラメータを確認してください。

ORA-17502 ksfdcre:*string* ファイル *string* の作成に失敗しました

原因: 不十分な OS 権限またはファイルがすでに存在しているためにファイルの作成に失敗しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-17503 ksfdopn:string ファイル *string* のオープンに失敗しました

原因: 不十分な OS 権限またはファイル名がファイル名の最大長を超えているためにファイルのオープンに失敗しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-17504 ksfdel: ファイル *string* の削除に失敗しました。

原因: 削除するファイルが使用中であるか、またはプロセスにファイルを削除する十分な権限がありません。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-17505 ksfdrsz:string ファイルをサイズ *string* ブロックへサイズ変更するのに失敗しました

原因: デバイスに残っている領域が不十分であるか、またはプロセスにファイルをサイズ変更する十分な権限がありません。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-17506 I/O エラーのシミュレーション

原因: I/O エラーのシミュレーション・イベントが開始されるために I/O 要求にエラーがマークされます。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-17507 I/O 要求サイズ *string* は論理ブロック・サイズの倍数ではありません

原因: I/O は論理ブロック・サイズの倍数で実行されます。

処置: 追加エラー・メッセージを調べてください。

ORA-17508 I/O 要求バッファの ptr が揃っていません。

原因: I/O 要求バッファは揃っている必要があります。バッファのポインタ値の情報を確認してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-17509 I/O がブロック 1 のオフセットを超えるようにしてみてください。

原因: ファイルが 0（ゼロ）の論理ブロック・サイズで識別される場合、ブロック 1 の I/O のみが許可されます。

処置: 追加エラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-17510 I/O がファイル・サイズを超えるようにしてみてください。

原因: I/O 要求でファイルの終わりを越えるブロックを指定しています。

処置: 追加エラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-17610 ファイル '*string*' が存在せず、サイズが指定されていません。

原因: 作成しようとしたファイルは存在せず、ファイル作成のためのサイズも指定されていません。

処置: ファイルにサイズを指定してください。

ORA-17611 ksfd: ファイル '*string*' にアクセスできません。グローバル・オープンがクローズしました

原因: オフライン / 識別されないファイルに書込みを実行しようとしたしました。

処置: スタック内の他のエラー番号をチェックしてください。

ORA-18000 アウトライン名が無効です。

原因: パーサーがアウトライン名を検出できないか、または無効なアウトライン名を検出しました。

処置: 有効なアウトライン名を指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-18001 ALTER OUTLINE にオプションが指定されていません。

原因: パーサーがコマンドに句が指定されていないことを検出しました。

処置: 有効な ALTER OUTLINE 句を指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-18002 指定したアウトラインは存在しません。

原因: 開始するアウトラインが存在しないか、またはタイミング・ウィンドウによって別のスレッドがアウトライン・ミッドストリームを削除または変更することが許可されました。

処置: アウトラインが存在することを確認し、再試行してください。

ORA-18003 この署名のアウトラインはすでに存在しています。

原因: 署名生成アルゴリズムが、長さ 16 バイトの署名を生成したため、どの署名も同一になる可能性はほとんどありません。通常、このメッセージは発生しません。

処置: 空白を追加してアウトラインを作成する文を再発行するか、または異なるカテゴリにアウトラインを作成してください。

ORA-18004 アウトラインはすでに存在しています。

原因: アウトラインは指定された名前ですでに存在しているか、または指定された SQL テキストに対してすでに存在しています。

処置: 別の名前で再試行してください。

ORA-18005 この操作には、アウトラインの作成権限が必要です。

原因: 実行しようとした操作には、CREATE ANY OUTLINE 権限が必要です。

処置: CREATE ANY OUTLINE 権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18006 この操作には、アウトラインの削除権限が必要です。

原因：実行しようとした操作には、DROP ANY OUTLINE 権限が必要です。

処置：DROP ANY OUTLINE 権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18007 この操作には、アウトラインの変更権限が必要です。

原因：実行しようとした操作には、ALTER ANY OUTLINE 権限が必要です。

処置：ALTER ANY OUTLINE 権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18008 OUTLN スキーマが見つかりません。

原因：このスキーマを作成するデータベース作成スクリプトが実行されていません。

処置：ログ・ファイルを再確認し、データベースの作成時に発生したことを調べてください。

ORA-18009 1 つ以上のアウトライン・システム表がありません。

原因：これらの表を作成するデータベース作成スクリプトが実行されていないか、またはユーザーが意図せずにこの表を削除しました。

処置：ログ・ファイルを再確認し、データベースの作成時に発生したことを調べてください。

ORA-18010 コマンドに必須の CATEGORY キーワードがありません

原因：CATEGORY キーワードの指定に失敗しました。

処置：CATEGORY キーワードを含むコマンドを再発行してください。

ORA-18011 FROM 句で指定されたアウトラインが存在しません。

ORA-18012 この操作には select_catalog_role ロールが必要です

ORA-18013 リソース *string* を待機している間にタイムアウトになりました。

ORA-18014 リソース *string* を待機している間にデッドロックが検出されました。

ORA-18015 invalid source outline signature

原因：ユーザーが、署名を更新せずに、8i アウトラインを 9i データベースにインポートしました。

処置：dbms_outln.update_signatures を実行してください。

ORA-19000 RELATIONAL キーワードがありません。

原因：XMLTYPE 記憶領域句の指定にワーク OBJECT RELATIONAL の RELATIONAL キーワードがありません。

処置：記憶領域句で RELATIONAL キーワードを指定してください。

ORA-19001 無効な格納オプションが指定されました。

原因: XMLType に無効な記憶領域オプションが指定されました。

処置: 有効な記憶領域オプションを指定してください。

ORA-19002 XMLSchema の URL がありません。

原因: 記憶領域オプションに、XMLSchema の URL を指定する必要があります。

処置: XMLSchema の URL を指定してください。

ORA-19003 XML ルート要素名がありません。

原因: XMLSchema が指定される場合は、XMLSchema のルート要素を指定する必要があります。

処置: XMLSchema のルート要素を指定してください。

ORA-19004 XMLType の OBJECT RELATIONAL 格納オプションが重複しています。

原因: XMLType 列に重複する記憶領域オプションが指定されました。

処置: XMLType 列に単一の記憶領域オプションを指定してください。

ORA-19005 XMLType の LOB 格納オプションが重複しています。

原因: XMLType 列に重複する記憶領域オプションが指定されました。

処置: XMLType 列に単一の記憶領域オプションを指定してください。

ORA-19006 XMLType の TYPE 格納オプションが格納タイプとして適切ではありません。

原因: TYPE オプションは、OBJECT RELATIONAL 記憶領域オプションの場合のみに使用できます。

処置: TYPE オプションを削除するか、または XMLType 列に OBJECT RELATIONAL 記憶領域オプションを指定してください。

ORA-19007 スキーマと要素が一致しません。

原因: 挿入されるデータに指定されたスキーマおよび要素が、列のスキーマおよび要素と一致しません。

処置: 特定のスキーマおよび要素に準拠する XML 文書のみを挿入 / 更新してください。

ORA-19008 XMLType のバージョンが無効です。

原因: XMLType の無効なバージョンが指定されました。

処置: これは、データの破損または内部エラーのために発生する可能性があります。または、新しいバージョンのデータベースに対して古いクライアントを実行しているために発生する可能性があります。クライアントのバージョンが、データベースの XMLType を理解できることを確認してください。

ORA-19009 XMLSchema キーワードがありません。

原因：XMLSchema キーワードがありません。

処置：XMLSchema の URL および要素名を指定してください。

ORA-19010 XML 断片部分を挿入できません。

原因：extractNode から取得された XML 断片部分は、データベースへ挿入できません。

処置：挿入前に断片部分を適切な XML 文書に変換してください。

ORA-19011 文字列バッファが小さすぎます。

原因：結果を要求する文字列が大きすぎて戻せません。

処置：かわりに、LOB を使用して結果を取得してください。

ORA-19012 XML 断片部分を要求したデータ型に変換できません

原因：実行できないデータ型への変換が要求されました。

処置：XMLType が、断片部分および適切なデータ型へ変換できない他の要素を含んでいる可能性があります。

ORA-19013 XMLType を含む VARRAY 列を作成できません

原因：XMLType を含む VARRAY 列を作成しようとしてしました。

処置：表に XMLType を含む VARRAY を格納できません。かわりに、ネストした表を使用してください。

ORA-19015 XML タグ識別子 (*string*) が無効です

原因：XML 生成中に無効な XML 識別子が検出されました。

処置：無効なタグを修正して、XML の指定で許可されていない文字または記号を含まないようにしてください。

ORA-19016 要素を指定した後で、属性を使用できません

原因：「@」識別子を使用して指定した属性は、XML 作成時に定義した要素の前のみに使用できます。

処置：型の順序を変更して、属性が最初から使用できるようにしてください。

ORA-19017 属性は単純なスカラー型のみです

原因：属性値は単純なカラー値のみです。

処置：属性値に単純なデータ型のみを使用してください。

ORA-19018 XML タグ '*string*' の文字が無効です

原因：XML 生成中に、タグ名に無効な XML 文字を見つけました。

処置：問合せを書きなおして、列名または別名に対応する生成された XML タグが有効な文字のみを含むようにしてください。

ORA-19019 DBMS_XMLGEN.GETXML に渡されたコンテキストが無効です

原因: GETXML に渡されたコンテキストの値が無効です。

処置: 問合せを書きなおして、GETXML に渡されるコンテキストの値を有効にしてください。

ORA-19200 列指定が無効です。

原因: すべての入力引数は有効な列である必要があります。

処置: 有効な列のリストを指定してください。

ORA-19201 データ型がサポートされていません。

原因: 特定のデータ型は XMLGEN 演算子にはサポートされていません。

処置: XMLGEN 演算子への引数としてサポートされているデータ型のみを指定してください。

ORA-19202 XML 処理 *string* 中にエラーが発生しました

原因: XML 関数の処理時にエラーが発生しました。

処置: 表示されたエラー・メッセージを確認して、問題を適切に修正してください。

ORA-19203 DBMS_XMLGEN 処理 *string* 中にエラーが発生しました

原因: DBMS_XMLGEN 関数の処理時にエラーが発生しました。

処置: 表示されたエラー・メッセージを確認して、問題を適切に修正してください。

ORA-19204 非スカラー値 '*string*' が XML 属性としてマークされています

原因: 「@」が接頭辞の XML 属性としてマークできるのは、スカラー値（オブジェクトまたはコレクション型ではない値）のみです。この場合、非スカラー値に「@」の接頭辞が付けられています。

処置: 「@」記号を削除するか、値をスカラーにしてください。

ORA-19205 属性 '*string*' で選択リストの非スカラー値を修飾します

原因: 選択リストまたは型定義のオブジェクトまたはコレクション型の値の直後には、属性が続きます。

処置: '@' 記号を削除するか、以前の値をスカラーにしてください。

ORA-19300 uri 処理 *string* 中にエラーが発生しました

原因: URL の処理時にエラーが発生しました。

処置: 表示されたエラー・メッセージを確認して、問題を適切に修正してください。

ORA-19320 HTTP URL でホスト名が指定されていません。

原因: ホスト名が HTTP URL で指定されていません。

処置: URL 文字列作成時に HTTP URL にホスト名を指定してください。

ORA-19321 ホスト (*string*) : ポート (*string*) への HTTP 接続をオープンできませんでした。

原因: ホストへの HTTP 接続をオープンできませんでした。

処置: 接続する有効なホスト名およびポートを指定してください。

ORA-19322 ホスト (*string*) : ポート (*string*) からの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: HTTP ホストからの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 読み込む有効なホスト名およびポートを指定してください。

ORA-19323 URL の文字列が無効です

原因: URL は、有効な URL 文字列である必要があります。

処置: 有効な URL 文字列を指定してください。

ORA-19330 タイプ '*string*'.'*string*' がインストールされていません。CREATE_DBURI 演算子を使用する前にインストールしてください。

原因: CREATE_DBURI 演算子に必要なタイプが正しくインストールされていません。

処置: インストレーション・ガイドを参照して、タイプを正しくインストールしてください。

ORA-19331 CREATE_DBURI 演算子の最後の引数は列である必要があります。

原因: CREATE_DBURI 演算子への最後の引数は、参照が作成される列である必要があります。

処置: 問合せに有効な列名を指定してください。

ORA-19332 CREATE_DBURI 演算子の列が無効です。

原因: CREATE_DBURI 演算子への引数は、列のみです。

処置: 演算子に有効な列名を指定してください。

ORA-19333 CREATE_DBURI 演算子のためのフラグが無効です。

原因: DBURI 演算子へのフラグ引数が無効です。

処置: DBURI 演算子に有効なフラグ値 (テキスト) を指定してください。

ORA-19334 CREATE_DBURI 演算子ための列指定が無効です。

原因: すべての列は有効で、同じ表またはビューを指定している必要があります。

処置: 同じ表またはビューからの有効な列のリストを指定してください。

ORA-19335 フォーマット・タイプ・オブジェクトが無効です

原因: XML 関数に指定したフォーマット・タイプ・オブジェクトが無効です。

処置: 有効なフォーマット・タイプ・オブジェクトを指定してください。

ORA-19336 XML ルート要素がありません

原因：生成された XML がルートの囲み要素を持ちません。

処置：生成された XML がルート要素を持つようにしてください。

ORA-19400 ～ ORA-24279

ORA-19400 オブジェクト SYS.*string* のシステム型が競合します

原因: システム型の 1 つと同じ名前のオブジェクトが存在します。システム型は正しく初期化されていません。

処置: 競合するオブジェクトを削除して、移行を再実行してください。

ORA-19500 デバイス・ブロック・サイズ *string* が無効です。

原因: シーケンシャル I/O OSD から返されたデバイス・ブロック・サイズが無効です。

処置: ブロック・サイズが Recovery Manager の ALLOCATE CHANNEL コマンドの PARMS オプションで設定されている場合、指定されたブロック・サイズは変更されています。PARMS オプションが ALLOCATE CHANNEL コマンドで指定されていなかった場合は、Oracle ヘレポートされる内部エラーです。

ORA-19501 ファイル "*string*" の読み込みエラーが発生しました。ブロック番号 *string* (ブロックサイズ=*string*)

原因: 入力ファイルの読み込みエラーです。

処置: ファイルを確認してください。

ORA-19502 ファイル "*string*" の書き込みエラーが発生しました。ブロック番号 *string* (ブロックサイズ=*string*)

原因: 入力ファイルの書き込みエラーです。

処置: ファイルを確認してください。

ORA-19503 デバイス情報を取得できません。デバイス名="*string*"、型="*string*"、パラメータ="*string*"

原因: デバイス情報を取得するコールからエラーが返されました。

処置: デバイス名、型およびパラメータを確認してください。

ORA-19504 ファイル "*string*" の作成に失敗しました。

原因: ファイルを作成するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージおよびアクセス権限を確認してください。

ORA-19505 ファイル "*string*" の識別に失敗しました。

原因: ファイルを識別するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージを確認し、ファイルが存在しているかを確認してください。

ORA-19506 シーケンシャル・ファイルの作成に失敗しました。ファイル名="*string*"、パラメータ="*string*"

原因: シーケンシャル・ファイルを作成するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージおよびアクセス権限を確認してください。

ORA-19507 シーケンシャル・ファイルの検索に失敗しました。ハンドル="*string*"、パラメータ="*string*"

原因: シーケンシャル・ファイルを検索するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージを確認し、ファイルが存在しているかを確認してください。

ORA-19508 ファイル "*string*" の削除に失敗しました。

原因: ファイルを削除するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19509 シーケンシャル・ファイルの削除に失敗しました。ハンドル="*string*"、パラメータ="*string*"

原因: シーケンシャル・ファイルを削除するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19510 *string* ブロックのサイズ設定に失敗しました (ファイル "*string*"、ブロックサイズ=*string*)。

原因: ファイルをサイズ変更するためのコールからエラーが返されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19511 メディア・マネージャ・レイヤーからのエラーを受け取りました。エラー・テキスト:*string*

原因: Recovery Manager と連携して、Oracle Server にリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアでエラーが発生しました。

処置: メッセージ本文の情報でエラーが解決できない場合は、メディア管理ソフトウェアのベンダーに連絡してください。

ORA-19550 ディスパッチャ使用中にバックアップ / リストア関数は使用できません。

原因: 共有サーバーでディスパッチャに接続中に、バックアップ / リストア関数を使用しようとしてしまいました。バックアップとリストアに使用されるデバイスは、シングル・プロセスに割り当てられている必要があるため、これは許可されません。

処置: インスタンスに直接接続してから、バックアップまたはリストア関数を再実行してください。

ORA-19551 デバイスが使用中です。デバイス型: *string*、デバイス名: *string*

原因: 示されたデバイスは別のセッションに割り当てられているため、またはデバイス名が指定されていないため、または要求された型のデバイスはすべて使用中のため、指定されたデバイスを割り当てられませんでした。

処置: 別のデバイスの割当てを試行するか、または必要なデバイスが使用中でなくなるまで待機してください。

ORA-19552 デバイス型 *string* が無効です

原因: 指定されたデバイス型が無効です。

処置: 正しいデバイス型を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19553 デバイス名 *string* が無効です。

原因: 指定されたデバイス名が無効です。

処置: 正しいデバイス名を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19554 デバイスの割当て中にエラーが発生しました。デバイス型: *string*、デバイス名: *string*

原因: 指定されたデバイスを割り当てられませんでした。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、割当てを再試行してください。

ORA-19555 LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータの値が無効です。

原因: パラメータ LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST の値が、有効な範囲で設定されていません。

処置: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータに正しい値を設定してください。アーカイブ・ログ・パラメータの LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用中の場合は、パラメータ LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST を 1 または 2 に設定してください。

ORA-19556 必須宛先である LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が、現在遅延しています。

原因: 使用可能にするように要求されたとき、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST のパラメータの宛先が遅延しました。LOG_ARCHIVE_DEST パラメータの ALTER SYSTEM コマンドが既存の LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの宛先と重複した宛先を定義したとき、宛先は自動的に遅延されます。

処置: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの遅延値を変更してください。

ORA-19557 デバイス・エラーが発生しました。デバイス型: *string*、デバイス名: *string*

原因: プラットフォーム固有のデバイス・コードでエラーが発生しました。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、割当てを再試行してください。

ORA-19558 デバイスの割当て解除でエラーが発生しました。

原因: 指定されたデバイスの割当てを解除できませんでした。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、割当てを再試行してください。

ORA-19559 デバイス・コマンド: *string* の送信中にエラーが発生しました

原因: 示されたコマンドをセッション・デバイスに送信中に、エラーが発生しました。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、割当てを再試行してください。

ORA-19560 デバイス制限 *string* は無効です。

原因: X\$DBMS_BACKUP_RESTORE.SETLIMIT へのコールで指定されたデバイス制限のタイプが無効です。

処置: 次の制限のうちの 1 つを使用してください。

- KBYTES
- READRATE
- PARALLEL

ORA-19561 *string* には DISK チャネルが必要です。

原因: 実行されたコマンドでは、DISK デバイス・チャネルをセッションに割り当ててする必要がありますが、DISK 以外のデバイスが検出されました。

処置: カレント・デバイスの割当てを解除し、DISK チャネルを割り当ててください。修正後、コマンドを再試行してください。

ORA-19562 ファイル *string* が空です。

原因: 示されたアーカイブ・ログ、制御ファイルまたはデータ・ファイルは、コピー、スキャンまたはバックアップ操作中に空であることが検出されました。

処置: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-19563 *string* ヘッダーの妥当性チェックでエラーが検出されました (ファイル *string*)。

原因: コピーまたはバックアップ・セットに入れるためにファイルをオープンしたとき、または増分リストアのターゲットとして使用されたときに、ファイルはカレント・データベースに属する示されたタイプ (データ・ファイル、アーカイブ・ログ、制御ファイル) の有効なファイル・ヘッダーを持たないことが検出されました。

処置: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-19564 *string* バイト (ブロック番号 *string*) 書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、コピー、バックアップまたはリストア操作を再試行してください。

ORA-19565 シーケンシャル・デバイスへのコピー時は BACKUP_TAPE_IO_SLAVES は使用できません。

原因: シーケンシャル・デバイスへコピーを指定しようとしたますが、BACKUP_TAPE_IO_SLAVES 初期化パラメータが使用できません。

処置: INIT.ORA ファイルに BACKUP_TAPE_IO_SLAVES=TRUE を指定するか、シーケンシャル・デバイスへコピーを指定しないでください。

ORA-19566 破損ブロックの制限 *string* を超過しています (ファイル *string*)

原因: データ・ファイルのコピーまたはバックアップ操作のために指定されたデータ・ファイルの読取り中に、ユーザー指定の許容破損ブロック制限を超えました。

処置: 処置は必要ありません。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。破損したブロックの詳細は、セッション・トレース・ファイル内にあります。

ORA-19567 バックアップまたはコピー中のため、ファイル *string* を縮小できません。

原因: ALTER 文で、示されたファイルの大きさを縮小しようとしたますが、そのファイルは現在バックアップ中またはコピー中です。

処置: バックアップまたはコピーが完了してから、サイズ変更を再試行してください。

ORA-19568 このセッションにはデバイスがすでに割り当てられています。

原因: デバイスが割り当てられている場合は、別のデバイスをセッションに割り当てすることはできません。

処置: カレント・デバイスの割当てを解除してください。

ORA-19569 このセッションにデバイスが割り当てられていません。

原因: 操作を実行するには、カレント・セッションにデバイスが割り当てられている必要がありますが、このセッションにはデバイスが割り当てられていません。

処置: デバイスを割り当てた後、操作を再試行してください。

ORA-19570 ファイル番号 *string* が 1 から *string* の有効範囲外です。

原因: コピー、バックアップまたはリストア操作に使用されたファイル番号は、カレント・データベースに対して有効ではありません。

処置: 有効なファイル番号を指定してください。

ORA-19571 *string*RECID*string* のスタンプ *string* が制御ファイルに見つかりません

原因: ファイルを記述したレコードが制御ファイルに見つからないため、コピーまたはバックアップ操作に指定された入力ファイルをオープンできませんでした。

処置: 正しい RECID/ スタンプを指定して、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19572 ファイルはサイズ変更中のため、ファイル *string* を処理できません。

原因: コピーまたはバックアップ操作に指定された入力ファイルは、現在サイズの変更中であるため、オープンできませんでした。

処置: サイズ変更が完了するまで待機し、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19573 *string* エンキュー (データ・ファイル *string*) を取得できません。

原因: バックアップ、コピーまたはリストア操作で指定されたファイルのファイル・アクセス・エンキューを取得できませんでした。エンキュー型が「共有」と示された場合、そのファイルはバックアップまたはコピー用の入力ファイルです。型が「排他的」の場合、そのファイルはデータ・ファイルのコピーまたはリストア用の出力ファイルであり、現在アクティブなファイル・バージョンを上書きしようとしています。後者の場合、ファイルはオフラインであるか、またはデータベースがクローズされています。型が読取り専用の場合、データベースが NOARCHIVELOG モードにある間、このファイルをバックアップまたはコピーしようとしています。

処置: 競合操作が完了するまで待機し、コピーまたはバックアップを再試行してください。データベースが NOARCHIVELOG モードにある場合、バックアップされているすべてのファイルを正常にクローズする必要があります。

ORA-19574 出力ファイル名を指定してください。

原因: 指定されたタイプのコピーまたはリストアには、出力ファイル名が必要です。

処置: 出力ファイル名を指定して、コピーを再試行してください。

ORA-19575 予想されるブロック数は *string* ですが (ファイル *string*)、検出されたブロック数は *string* です。

原因: バックアップ、リストア、コピーまたはスキャン操作中に、示されたファイルが指定された分のブロックをファイル・ヘッダーに含んでいませんでした。

処置: 入力コピーまたはバックアップ・ピースが破損している可能性があります。リストアしているファイルの他のバックアップまたはコピーが存在する場合は、破損ファイルをリカバリ・カタログから削除してから操作を再起動できます。

ORA-19576 データ・ファイル *string* が制御ファイルに定義されていません。

原因：指定されたファイル番号は、制御ファイルにありません。

処置：正しいファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19577 ファイル *string* がありません。

原因：copyDataFileCopy、restoreDataFileTo または proxyRestoreDataFile 関数にファイル番号が指定されていますが、出力ファイル名が指定されていません。これは、出力ファイル名を制御ファイルから取得するという指示を表しています。ただし、制御ファイルのエントリによると、このファイルはデータ・ディクショナリに存在したファイルに対して作成されたものですが、最新の CREATE CONTROLFILE 文の実行時にファイル名が指定されませんでした。このため、制御ファイルの中のファイル名を復旧に使用することはできません。

処置：出力ファイル名を指定するかまたは SQL RENAME コマンドを実行して、制御ファイルのこのファイルに有効な名前を入力してください。

**ORA-19578 シーケンシャル・ファイルへのコピー中にボリュームの終了が見つかりました。
バックアップ・ピースは完了していません**

原因：シーケンシャル・ファイルを多重化しているとき、ボリュームの終了 (EOV) 状態が検出されました。この状態は現在処理できません。

処置：バックアップの試行前に、バックアップ・ピースがこのボリュームに適していることを確認するか、多重化を使用禁止にしてください。

ORA-19579 *string* のアーカイブ・ログ・レコードが見つかりません

原因：入力ファイルに対応するアーカイブ・ログ・レコードが制御ファイル内に見つかりません。

処置：有効なアーカイブ・ログ・ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19580 *string* 会話がアクティブではありません。

原因：対話が始まる前にバックアップまたはリストア操作を実行しようとしてしました。

処置：対話を開始してから、操作を再試行してください。

ORA-19581 ファイル名が指定されていません。

原因：バックアップまたはリストア対話をファイル・ネーミング・フェーズからピース処理フェーズに進めようとしてしましたが、バックアップまたはリストア用のファイルが指定されていません。

処置：ファイルを指定してから、操作を再試行してください。

ORA-19582 *string* のアーカイブ・ログ・ファイル・ヘッダーの妥当性チェックに失敗しました

原因: アーカイブ・ログ・ファイル・ヘッダーが破損しているか、または検証されませんでした。

処置: 有効なアーカイブ・ログ・ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19583 エラーのため会話が終了しました。

原因: エラーが発生したため、カレント・バックアップまたはリストア対話が終了しました。

処置: 問題の原因の識別に役立つその他のエラー・メッセージが出力されます。エラーを修正して、新しい対話を開始してください。

ORA-19584 ファイル *string* はすでに使用されています。

原因: コピー、リストアまたは削除操作のターゲットとして指定されたファイルは、すでにデータベースによって使用中です。

処置: 別の名前を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19585 ピース *string* のボリューム・エンドが不完全です。

原因: 指定されたバックアップ・ピースの作成中、すべてのバックアップ・セット制御データがバックアップ・ピースに書き込まれる前にボリュームの終了 (EOV) 条件が検出されました。バックアップ・セットの制御データ量は、バックアップ・セットの全データ量に比べて非常に少ないので、メディア・エラーの可能性が高いです。

処置: より大きいピースの出力メディアでピースを再試行してください。

ORA-19586 制限 (*string*KB) が小さすぎるためピース・ディレクトリを保持できません。

原因: ユーザー指定の制限 (各バックアップ・ピースにつき KB) では、バックアップ・セット制御データの保持に不十分です。

処置: SETLIMIT プロシージャを使用して KB 制限を増加し、操作を再試行してください。

ORA-19587 *string* バイト (ブロック番号 *string*) 読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: エラー原因の特定に役立つ 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、コピー、バックアップまたはリストア操作を再試行してください。

ORA-19588 *string* RECID *string* のスタンプ *string* は無効になりました

原因: 指定されたレコードは削除済としてマークされています。これは、別のコピーまたはリストアによってファイルが上書きされたか、または switchToCopy 操作によってコピーが消滅したことを意味します。

処置: コピーしたいファイル名がわかっている場合は、ファイル名を調べてから新規 RECID を指定するコピーを再試行してください。

ORA-19589 *string* はスナップショットまたはバックアップ制御ファイルではありません。

原因: バックアップまたはコピー操作のソースになっている制御ファイルは、スナップショットまたはバックアップ制御ファイルではありません。

処置: スナップショットまたはバックアップ制御ファイルの名前を指定してください。

ORA-19590 会話はすでにアクティブです

原因: バックアップまたはリストア対話を開始しようとしたしましたが、このセッションではすでに別の対話がアクティブです。

処置: カレント対話を継続するか、または backupCancel か restoreCancel をコールしてカレント対話を終了してから新しい対話を開始してください。

ORA-19592 *string* 会話型が正しくありません

原因: バックアップまたはリストアするファイルの型を指定しようとしたが、そのファイルの型はカレント対話では処理できません。たとえば、アーカイブ・ログをデータ・ファイルのバックアップ・セットに入れることはできません。指定されたファイルは、バックアップまたはリストア操作に組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19593 データ・ファイル番号 *string* はすでに *string* として組み込まれています。

原因: このデータ・ファイルは、すでにバックアップまたはリストア対話への組込みが指定されています。バックアップまたはリストア対話では、データ・ファイルの 1 つのインスタンスしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19594 制御ファイルはすでに *string* として組み込まれています。

原因: この制御ファイルは、すでにバックアップまたはリストア対話への組込みが指定されています。バックアップまたはリストア対話では、データ・ファイルの 1 つのインスタンスしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19595 アーカイブ *string* はバックアップ会話にすでに組み込まれています

原因: 示されたアーカイブ・ログは、すでにこのバックアップ対話への組み込みが指定されています。

処置: 処置は必要ありません。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19596 スナップショット制御ファイルが作成されていません。

原因: スナップショット制御ファイルのバックアップ・セットへの組み込みを要求しようとしたが、このインスタンスのスナップショット制御ファイルが作成されていません。

処置: 別の制御ファイル名を指定するか、または `cfileMakeAndUseSnapshot` をコールしてスナップショット制御ファイルを作成してください。

ORA-19597 ファイル *string* のブロックサイズ *string* が設定されたブロックサイズ *string* と一致しません。

原因: バックアップ・セットに組み込むファイルが指定されましたが、指定されたファイルの論理ブロック・サイズがバックアップ・セットの残りのファイルのブロック・サイズと異なります。バックアップ・セットのすべてのファイルで、論理ブロック・サイズが同じである必要があります。

処置: バックアップ・セットの残りのファイルと同じブロック・サイズのファイルを指定してください。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19598 増分バックアップには起動 SCN が指定されている必要があります

原因: `backupDataFile` または `backupDataFileCopy` に対して、起動 SCN が指定されていません。カレント・バックアップ対話は増分バックアップ用であるため、すべてのデータ・ファイルに対して 0 (ゼロ) 以外の SCN を指定する必要があります。

処置: 対話はまだアクティブです。0 (ゼロ) 以外の SCN を持ったデータ・ファイルを再指定してください。

ORA-19599 ブロック番号 *string* が破損しています (*string string*)。

原因: バックアップまたはコピー用に読み込まれている制御ファイル、アーカイブ・ログまたはバックアップ・ピースで破損ブロックが検出されました。制御ファイル、アーカイブ・ログまたはバックアップ・ピースの破損は許可されません。

処置: 処置は必要ありません。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。バックアップ・セットの場合は、対話がまだアクティブであるため、ピースを再試行できます。

ORA-19600 入力ファイルは *stringstring* です (*string*)。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の入力ファイルを識別します。ファイル番号と（名前が判別された場合は）ファイル名の両方が表示されます。

- データ・ファイルの場合、ファイル番号は DBA_DATA_FILES ビューに表示されるデータ・ファイルの絶対ファイル番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューに表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューの RECID 列に表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- アーカイブ・ログの場合、ファイル番号は、V\$ARCHIVED_LOG ビューの RECID 列に表示されるログの制御ファイル・レコード番号を参照します。

処置: エラー原因および解決策を特定するために役立つその他のメッセージが表示されます。

ORA-19601 出力ファイルは *stringstring* です (*string*)。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の出力ファイルを識別します。フィールドの詳細は、メッセージ ORA-19600 を参照してください。新規データ・ファイルのコピーを作成している場合は、このメッセージの出力時に制御ファイルのレコード番号が判別できていないことがあります。その場合、レコード番号は 0（ゼロ）と表示されます。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19602 NOARCHIVELOG モードでアクティブ・ファイルのバックアップまたはコピーはできません。

原因: ファイルのコピーまたはバックアップが試行されましたが、そのファイルは正常にクローズされておらず、またデータベースは NOARCHIVELOG モードになっていました。リストアされたファイルが使用可能となるには REDO の適用が必要ですが、現在の REDO にはオンライン REDO ログの内容以上のものは保管されていないので、この操作は許可されません。

処置: 表領域をオフラインにして、データベースをクローズし、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19603 KEEP .. UNRECOVERABLE オプションでアクティブ・ファイルをバックアップまたはコピーできません。

原因: ユーザーが、KEEP .. UNRECOVERABLE オプションを使用して、正常にクローズされていないファイルのコピーまたはバックアップを実行しようとしていました。リストアされたファイルが使用可能となるには REDO の適用が必要ですが、KEEP .. UNRECOVERABLE オプションのために REDO が保管されていないため、この操作は許可されません。

処置: 表領域を確実にオフラインにするか、またはデータベースをクローズし、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19604 会話ファイルの名前設定フェーズが終了しました。

原因: 最初のバックアップ・ピースが処理された後に、バックアップまたはリストアするファイルを指定するコールが行われました。

処置: バックアップまたはリストアの対話中、最初のバックアップ・ピースが処理された後に、新しい処理ファイルを指定できません。ファイルを追加する必要がある場合は、新しい対話を開始する必要があります。

ORA-19605 入力ファイル名を指定してください。

原因: 制御ファイルのコピー操作に対して、入力ファイル名が指定されていません。

処置: 入力ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19606 スナップショット制御ファイルへのコピーまたはリストアはできません。

原因: 制御ファイルのコピーまたはリストア操作で、スナップショット制御ファイルの名前が出力ファイルとして指定されました。スナップショット制御ファイルをこの方法で上書することは許可されません。利用可能なその他の方法でスナップショット制御ファイルを作成してください。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。リストアの場合は、リストア対話がアクティブな状態なので、追加のファイルを指定できます。

ORA-19607 *string* はアクティブ制御ファイルです。

原因: 制御ファイルのコピー、リストアまたはバックアップで、INIT.ORA ファイルに指定された制御ファイル名を入力ファイルまたは出力ファイルとして指定しました。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。バックアップまたはリストア対話の場合は、対話がアクティブな状態なので、追加のファイルを指定できます。

ORA-19608 *string* はバックアップ・ピースではありません。

原因: 指定されたファイルは、DBMS_BACKUP_RESTORE パッケージによって作成されたバックアップ・ピースではありません。バックアップ・ピースの先頭ブロックが破損しているか、またはこのファイルはバックアップ・ピースではありません。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19609 *string* は異なるバックアップ・セットのものです: スタンブ *string*、件数 *string*

原因: 指定されたファイルは、現在処理中のバックアップ・セットのものではありません。このファイルは、異なるバックアップ・セットの部品です。このピースを含むセットは表示のとおりです。

処置: 正しいバックアップ・ピースを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19610 ディレクトリ・ブロック *string* が破損しています。

原因: 示されたディレクトリ・ブロックは、チェックサム妥当性チェックで失敗しました。このバックアップ・ピースは使用できません。

処置: 同じバックアップ・ピースの別のコピーを提供するか、リストア対話を終了してください。

ORA-19611 バックアップ・ピースが不正です。 *string* が予想されますが *string* が検出されました

原因: このバックアップ・ピースは、順序が不正です。

処置: 正しいバックアップ・ピースを指定してください。

ORA-19612 データ・ファイル *string* は *string* のためリストアされませんでした。

原因: 一部のデータ・ブロックがバックアップ・ピースに見つからなかったため、示されたファイルをリストアできませんでした。

処置: リストア対話は引続きアクティブであるため、カレント・ピースを再処理する必要があります。カレント・ピースの再処理によって障害が解決されない場合は、リストア対話をキャンセルしてください。

ORA-19613 データ・ファイル *string* がバックアップ・セットにありません。

原因: 示されたファイルがバックアップ・セットに存在しないため、ファイルをリストアできませんでした。ファイル番号が 0（ゼロ）の場合は、制御ファイルを示しています。

処置: このメッセージは、最初のバックアップ・ピースからディレクトリが読み取られ、リストアで指定された 1 つ以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。リストアの対話は引続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ・ピースを提供する必要があります。

ORA-19614 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* がバックアップ・セットにありません。

原因: 示されたアーカイブ・ログ・ファイルのリストアを明示的に指定しましたが、このバックアップ・セットには含まれていません。

処置: このメッセージは、最初のバックアップ・ピースからディレクトリが読み取られ、リストアで指定された 1 つ以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。リストアの対話は引続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ・ピースを提供する必要があります。

ORA-19615 一部のファイルがバックアップ・セットにありません。

原因: リストアで指定された一部のファイルが、バックアップ・セットのディレクトリに存在しません。存在しない各ファイルごとに、メッセージ ORA-19613 または ORA-19614 が発行されます。

処置: メッセージ ORA-19613 を参照してください。

ORA-19616 データベースがマウントされていないときは出力ファイル名を指定する必要があります。

原因: データ・ファイルのリストアに対してターゲット・ファイル名が指定されておらず、かつデータベースがマウントされていません。ターゲット・ファイル名が指定されていない場合は、データベースをマウントしてターゲット・ファイル名を制御ファイルから取得できるようにする必要があります。

処置: リストア対話がアクティブな状態です。ターゲット・ファイル名を指定せずにデータ・ファイルのリストアを実行する場合は、データベースをマウントしてから処理を続けてください。マウントせずに処理する場合は、データ・ファイルをリストアするすべてのコールでターゲット・ファイル名を指定する必要があります。

ORA-19617 ファイル *string* に異なるリセットログ・データがあります。

原因: 示されたファイルに入っているリセットログ・データは、すでにバックアップ・セットに組み込まれているアーカイブ・ログ・ファイルと異なります。バックアップ・セットのすべてのアーカイブ・ログ・ファイルは、同じリセットログ・データを持っている必要があります。

処置: リストア対話がアクティブな状態なので、バックアップ・セットに含まれるアーカイブ・ログ・ファイルの指定を継続できます。

ORA-19618 restoreValidate コール後にファイル名の指定はできません。

原因: バックアップ・セットからリストアするファイルを指定するコールが発行されましたが、以前に restoreValidate コールが発行されています。

処置: リストアするファイルを指定する場合は、対話を一度キャンセルしてから再開してください。

ORA-19619 ファイル名指定後に restoreValidate はコールできません。

原因: restoreValidate がコールされましたが、すでに一部のファイルのリストアが指定されています。

処置: restoreValidate をコールする場合は、対話を一度キャンセルしてから再開してください。

ORA-19621 アーカイブ・ログの範囲はすでに指定されています。

原因: ログの範囲は、すでに指定されています。SCN 範囲は、対話ごとに 1 つのみ指定できます。

処置: リストアの対話は引続きアクティブであるため、必要な場合はスレッドおよび順序番号によってログをさらに指定できます。

ORA-19622 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* は *string* のためリストアされませんでした。

原因: 一部のデータ・ブロックがバックアップ・ピースに見つからなかったため、示されたファイルをリストアできませんでした。

処置: リストア対話は引き続きアクティブであるため、カレント・ピースを再処理する必要があります。カレント・ピースの再処理によって障害が解決されない場合は、リストア対話をキャンセルしてください。

ORA-19623 ファイル *string* がオープンしています。

原因: SwitchToCopy 操作でデータ・ファイルのコピーが指定されましたが、そのデータ・ファイルの親ファイルがオープンしています。

処置: 所有する表領域をオフラインにするか、データベースをクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-19624 操作に失敗しました。再度実行してください

原因: バックアップ、リストアまたはイメージ・コピーの操作が、I/O エラーで失敗しました。I/O エラーの原因を修正できれば、操作を再試行できます。

処置: Recovery Manager はこのメッセージを使用して操作を再試行するかどうか決定します。

ORA-19625 ファイル *string* の識別中にエラーが発生しました。

原因: コピーまたはバックアップ操作の入力として、または増分リストアのターゲットとして指定されたファイルは、Oracle ファイルとしては識別されません。このエラーには、問題を特定するのに役立つオペレーティング・システム固有のエラーが付随します。

処置: 異なるファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19626 バックアップ・セット型が *string* です - この会話では処理できません

原因: バックアップ・セットのデータが、カレント対話と適合しません。

処置: カレント対話と一致したバックアップ・セットの最初のピースを提供するか、またはこのバックアップ・セットを処理できる新しいリストア対話を開始してください。

ORA-19627 制御ファイル・アプリケーション動作中はバックアップ・ピースを読み込めません

原因: この制御ファイルのリストアの対話では、データ・ファイルのチェックポイント・データを更新するために、1 つ以上の制御ファイルからオフラインの範囲情報を使用しています。この型の対話の実行中に、バックアップ・セットは使用されません。

処置: 対話はまだアクティブなので、制御ファイルをさらに適用できます。

ORA-19628 SCN の範囲が無効です。

原因: restoreRedoLogRange の開始 SCN が、終了 SCN より大きくなっています。

処置: 開始 SCN を終了 SCN 以下に指定してください。

ORA-19629 指定されたアーカイブ・ログの SCN 範囲にファイルがありません。

原因: このバックアップ・セットには、指定された範囲にファイルがありません。

処置: 正しい範囲にファイルが入っているバックアップ・セットを提供するか、または新規の対話を開始し、このバックアップ・セットからファイルが選択されるような範囲を指定してください。

ORA-19630 バックアップ・ピースをコピー中にボリューム・エンドになりました。

原因: バックアップ・ピースをオペレーティング・システム固有のファイル・システムから出力デバイスにコピー中に、出力デバイスがボリューム・エンドになりました。

処置: コピーは失敗します。これは、バックアップ・ピース全体を保持するために十分な大きさでないテープが使用された場合に発生します。

ORA-19631 アーカイブ・ログ・レコードにファイル名がありません。

原因: このアーカイブ・ログ・レコードは、以前の内容を保存せずにアクティブ・ログに切り替えられています。以前のログ・ファイルの内容は、失われています。

処置: ファイル名を含むアーカイブ・ログ・レコードの RECID を指定してください。固定ビュー V\$ARCHIVED_LOG を使用すると、アーカイブ・ログを検査できます。

ORA-19632 制御ファイルに指定されたファイル名が見つかりません

原因: getFno に転送されたファイル名が、制御ファイルで見つかりません。

処置: 有効なファイル名を指定してください。

ORA-19633 制御ファイル・レコード *string* がリカバリ・カタログと同期していません。

原因: deleteBackupPiece、deleteDataFilecopy、proxyDelete または deleteArchivedLog のコールで削除されるファイルを記述した制御ファイルのレコード記述が、Recovery Manager から提供されたデータと一致しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-19634 この関数にはファイル名が必要です

原因: deletePiece、deleteDataFileCopy、deleteRedoLog または proxyDelete に、fname またはハンドル・パラメータが指定されていません。

処置: これらの関数をコールするときは、fname パラメータまたはハンドル・パラメータを指定してください。

ORA-19635 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因: データ・ファイルのコピー操作に対して、指定された入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

処置: 入力ファイル名と異なる出力ファイル名を指定してください。

ORA-19636 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* はすでに組み込まれています。

原因: 示されたアーカイブ・ログは、すでにこのリストア対話への組み込みが指定されています。リストア対話では、アーカイブ・ログの1つのコピーしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。対話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19637 ディスク・デバイス使用時には、*backupPieceCreate* にファイル名が必要です

原因: 現在セッション・デバイスはディスクに割り当てられているため、ファイル名が必要です。

処置: ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19638 ファイル *string* が最新ではないためこの増分バックアップは適用できません。

原因: 増分バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、増分バックアップの起点より小さくなっています。このバックアップを適用した場合は、データ・ファイル・チェックポイントから増分バックアップの起点までのすべての変更が失われる可能性があります。

処置: 適用できるバックアップ・セットを提供してから操作を再試行してください。

ORA-19639 ファイル *string* はこの増分バックアップよりも新しいファイルです。

原因: 増分バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、増分バックアップ・セット中のファイルのチェックポイントと等しいか、より大きくなっています。このバックアップでは、ターゲット・ファイルのチェックポイントを進めることができないので、適用する意味がありません。

処置: 適用できるバックアップ・セットを提供してから操作を再試行してください。

ORA-19640 データ・ファイルのチェックポイントは *SCNstring*、タイム *string* です。

原因: このメッセージは、増分バックアップを取るには古すぎたデータ・ファイルのチェックポイント、または適用できなかった増分リストアのターゲットを示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19641 バックアップ・データ・ファイルのチェックポイントは *SCNstring*、タイム *string* です。

原因: このメッセージは、適用できなかった増分バックアップ・セット中のデータ・ファイルのチェックポイントを示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19642 増分起動 SCN は *string* です。

原因: このメッセージは、適用できなかった増分バックアップの起動 SCN を示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19643 データ・ファイル *string*: 増分起動 SCN が新しすぎます。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定された増分起動 SCN は、データ・ファイルのチェックポイント SCN より大きいので、数ブロックが欠如する可能性があります。

処置: 増分起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19644 データ・ファイル *string*: 増分起動 SCN がリセットログ SCN *string* 以前のもです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定された増分起動 SCN は、リセットログ SCN より小さくなっています。

処置: 増分起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19645 データ・ファイル *string*: 増分起動 SCN が作成 SCN *string* 以前のもです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定された増分起動 SCN は、データ・ファイル作成 SCN より小さくなっています。

処置: 増分起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19646 データ・ファイル *string* のサイズを *string* から *string* へ変更できません。

原因: 示されたファイルは、この増分バックアップを取る以前にサイズ変更されていますが、増分バックアップではファイルを新しいサイズに設定できませんでした。

処置: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19647 INCREMENTAL が FALSE のときは、0（ゼロ）以外の LEVEL は指定できません。

原因: INCREMENTAL が FALSE のとき、0（ゼロ）以外の BACKUP_LEVEL で BackupSetDataFile がコールされました。

処置: INCREMENTAL を TRUE に設定するか、または BACKUP_LEVEL を 0（ゼロ）に変更してください。

ORA-19648 データ・ファイル *string*: 増分起動 SCN がチェックポイント SCN と同じです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定された増分起動 SCN が、データ・ファイルのチェックポイント SCN と同じです。増分バックアップをデータ・ファイルに適用するには、データ・ファイルのチェックポイント SCN が、バックアップ・セットの増分起動 SCN（SCN 値を含む）からバックアップ・セットのチェックポイント SCN（SCN 値を含まない）までの間にある必要があります。このバックアップ・セットを適用できるデータ・ファイルは1つも存在しません。

処置: 増分起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19649 オフライン範囲レコードの RECIDstring、スタンプ string がファイル string に見つかりません。

原因：指定された制御ファイル内に存在しない RECID/ スタンプを使用して applyOfflineRange をコールしました。指定された制御ファイルは、Recovery Manager が認識している制御ファイルと同じでない可能性があります。

処置：制御ファイルのコピー内に存在するレコードの RECID/ スタンプを指定してください。

ORA-19650 オフライン範囲レコードの RECIDstring、スタンプ string (ファイル string) に SCNstring があります。

原因：このメッセージは、示されたファイル内の示されたオフライン範囲レコードにあるオフライン・クリーン SCN を識別します。

処置：他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19651 データ・ファイル string にオフライン範囲レコードを適用できません: SCN が不一致です

原因：データ・ファイルのチェックポイント SCN が、指定されたオフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN と正確に一致しないかぎり、applyOfflineRange によってオフライン範囲レコードをターゲット・データ・ファイルに適用することはできません。

処置：オフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN が、ターゲット・データ・ファイルのチェックポイントと一致するようにオフライン範囲レコードを指定してください。

ORA-19652 データ・ファイル string にオフライン範囲レコードを適用できません: ファイルがファジーです

原因：applyOfflineRange コールのターゲット・データ・ファイルがファジーです。

処置：クリーンにクローズされたターゲット・データ・ファイルを指定してください。

ORA-19653 古いファイルのインカネーションに切り換えられません

原因：この制御ファイルがバックアップされる以前に削除されたデータ・ファイルのコピーを使用して switchToCopy をコールしました。

処置：以前の制御ファイルをリストアして、マウントしてください。指定されたデータ・ファイルの作成以前にバックアップされた制御ファイルを使用することはできません。

ORA-19654 ファイルのインカネーションを切り換えるには、バックアップ制御ファイルを使用する必要があります

原因：switchToCopy 操作によってデータ・ファイルの表示内容を切り換えようとしたが、現在マウントされている制御ファイルはバックアップ制御ファイルではありません。

処置：バックアップ制御ファイルをリストアして、マウントしてください。

ORA-19655 異なるリセットログ・データのインカネーションに切り換えられません

原因: switchToCopy 操作によってデータ・ファイルへ切り換えようとしたが、そのデータ・ファイルのリセットログはデータベース・バージョンが異なります。

処置: ターゲット・データ・ファイルのコピーと同じデータベース・バージョンから取得されたバックアップ制御ファイルをリストアするか、または別のデータ・ファイル・コピーに対して切換えを行ってください。

ORA-19656 オンライン・ログ *string* をバックアップ、コピーまたは削除できません

原因: 示されたログ・ファイルは、アクティブ・ログです。バックアップ、コピーまたは削除できるのは、アーカイブ・ログのみです。

処置: 示されたログ・ファイルは処理できません。別のファイルを選択してください。

ORA-19657 カレント・データ・ファイル *string* を検査できません。

原因: 検査しているファイルは、マウントされたカレント・データベースの一部です。

処置: 処置は必要ありません。そのファイルは、すでにデータベースの一部になっています。

ORA-19658 *string* を検査できません - ファイルが異なるリセットログのもので

原因: 検査しているログ・ファイルのリセットログ・データは、マウントされたカレント制御ファイルのものと一致しません。

処置: 示されたファイルは処理できません。別のファイルを検査してください。

ORA-19659 増分リストアではファイル *string* の以前のリセットログを進めます。

原因: この増分バックアップは、指定したデータ・ファイルに適用できません。データ・ファイルは古い状態のデータベースのもので、そのチェックポイントも古いためカレント・データベースのインカネーションではリカバリ不可能です。

処置: この増分バックアップは、このデータ・ファイルに適用できません。データベースを RESETLOGS オプションでオープンできるよう、ファイルをリセットログ・システム変更番号 (SCN) にリカバリするには、増分リストアではなく REDO ログ・リカバリを使用してこのファイルのリカバリを継続してください。

ORA-19660 バックアップ設定のファイルに検証できないものがあります。

原因: バックアップ・セットのすべてのファイルを検証するリストア対話が行われました。メッセージ ORA-19661 または ORA-19662 に示されるファイルは、不正なブロックが見つかったため検証されませんでした。

処置: バックアップ・セットのダメージがリカバリできない場合、示されたファイルはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19661 データ・ファイル *string* は検証できませんでした

原因: 示されたデータ・ファイルのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ・セットにおいて不正です。

処置: バックアップ・セットのダメージがリカバリできない場合、示されたデータ・ファイルはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19662 アーカイブ・ログ・スレッド *string* (順序番号 *string*) は検証できませんでした

原因: 示されたアーカイブ・ログのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ・セットにおいて不正です。

処置: バックアップ・セットのダメージがリカバリできない場合、示されたアーカイブ・ログはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19663 現行のオフライン範囲をデータ・ファイル *string* に適用できません。

原因: 現行のオフライン範囲を指定されたデータ・ファイルに適用しようとしたが、データ・ファイルが、最新でないかオフライン範囲を適用する正しいシステム変更番号 (SCN) にありません。

処置: データ・ファイルは変更されないままです。

ORA-19664 ファイル型: *string*、ファイル名: *string*

原因: これはエラーの対象であるファイルを識別するメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。エラーの原因を説明するその他の Oracle メッセージが表示されます。

ORA-19665 ファイル・ヘッダーのサイズ *string* が実際のファイル・サイズ *string* と一致しません。

原因: 示されているファイル・ヘッダーのファイル・サイズが実際のファイル・サイズと一致しません。2つの異なるサイズが論理ブロックの単位で表示されています。

処置: このファイルは使用できません。切り捨てられた可能性があります。

ORA-19666 制御ファイルの増分リストアができません。

原因: 制御ファイルが増分リストア対話に含まれていました。

処置: 制御ファイルをリストアするには、制御ファイルを完全リストアする必要があります。

ORA-19667 データ・ファイル *string* の増分リストアができません。

原因: データ・ファイルのバックアップが全体バックアップです。

処置: データ・ファイルをリストアするには、データ・ファイルを完全リストアする必要があります。

ORA-19668 データ・ファイル *string* の全リストアができません。

原因: データ・ファイルのバックアップが増分バックアップです。

処置: データ・ファイルをリストアするには、データ・ファイルを増分リストアする必要があります。

ORA-19669 DISK チャンネルでプロキシ・コピー機能は実行できません。

原因: プロキシ・コピー・プロセスがコールされましたが、カレント・セッションのデバイスは DISK 型です。

処置: 非 DISK チャンネルを割り当てて、操作を再試行してください。プロキシ・コピーには、このバックアップ / リストア機能をサポートするサード・パーティのメディア管理ソフトウェア製品が必要です。

ORA-19670 ファイル *string* はすでにリストア中です。

原因: プロキシ・リストア・ファンクションが、すでにこのファイルをリストアの宛先として名前を付けました。

処置: 別の名前を使用してください。Recovery Manager のジョブ中にこのメッセージが発生する場合、これは Recovery Manager の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-19671 メディア管理ソフトウェアから無効なプロキシ・ハンドルが返されました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア中に、メディア管理ソフトウェアが無効なファイル・ハンドルを返しました。これは Oracle にリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアの内部エラーです。

処置: メディア管理ソフトウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-19672 メディア管理ソフトウェアから無効なファイル・ステータスが返されました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア中に、メディア管理ソフトウェアが無効なプロキシ・ステータスを返しました。これは Oracle にリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアの内部エラーです。

処置: メディア管理ソフトウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-19673 ファイル *string* のプロキシ・コピー中にエラーが発生しました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア処理において、このファイルをコピーしているときにエラーが発生しました。他のファイルは正常にコピーされた可能性があります。

処置: エラー・スタック上のその他のエラーで、このファイルが正常にコピーされなかった原因が説明されます。

ORA-19674 ファイル *string* はプロキシ・コピーですすでにバックアップ中です。

原因: Recovery Manager がプロキシ・コピーで指定のファイルをバックアップしようとしたが、そのファイルはすでに他の Recovery Manager によってバックアップ中です。

処置: このファイルの他の Recovery Manager バックアップが完了するまで待って、バックアップを再試行してください。

ORA-19675 ファイル *string* がプロキシ・コピー中に変更されました。

原因: ファイルがオンラインにされたか、またはプロキシ・バックアップが進行中に変更されたため、指定のファイルのプロキシ・バックアップに失敗しました。このファイルはオフラインであったか、またはバックアップ開始時に読取り専用であったため、ファイルはホット・バックアップ・モードへ変更されませんでした。したがって、バックアップ進行中のどの変更も許可されません。

処置: このファイルのバックアップを再度行ってください。

ORA-19676 プロキシ・バックアップまたはリストア中に 1 つ以上のファイルでエラーが発生しました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア処理において、いくつかのファイル进行处理しているときにこのエラーが発生しました。エラー・メッセージが示されていないファイルは成功しています。

処置: 特定のファイルに関するメッセージを確認して、そのエラーの原因を判断してください。

ORA-19677 RMAN 構成の名前が *string* の長さの最大値を超過しています。

原因: 構成の名前の文字列が最大長を超えています。

処置: 構成の正しい名前を指定し、ファンクションを再試行してください。

ORA-19678 RMAN 構成の値が *string* の長さの最大値を超過しています。

原因: 構成の値の文字列が最大長を超えています。

処置: 構成の正しい値を指定し、操作を再試行してください。

ORA-19679 RMAN 構成の番号 *string* が、1 から *string* までの有効範囲外です。

原因: RMAN 構成の無効な番号が指定されました。

処置: 正しいデータ・ファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19680 一部のブロックが回復していません。詳細はトレース・ファイルを参照してください

原因: ブロック・メディア・リカバリ中に一部のブロックが回復されませんでした。

処置: 問題の詳細は、トレース・ファイルを参照してください。

ORA-19681 制御ファイルでのブロック・メディア・リカバリは不可能です。

原因: ブロック・メディア・リカバリでファイル番号 0 が指定されました。

処置: ファイル番号を確認してください。

ORA-19683 ファイル *string* の実際のブロック・サイズとバックアップのブロック・サイズが異なります

原因: ブロック・サイズがバックアップと実際のファイルの間で変更されました。

処置: 正しいバックアップを使用してください。

ORA-19684 データベースが一時停止されているため、ブロック・メディア・リカバリに失敗しました

原因: ALTER SYSTEM SUSPEND 文によってデータベースが一時停止されています。

処置: ALTER SYSTEM RESUME を実行して、ブロック・メディア・リカバリを再試行してください。

ORA-19700 デバイス型が最大長 *string* を超過しています

原因: 指定されたデバイス型が無効です。

処置: 正しいデバイス型を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19701 デバイス名が最大長 *string* を超過しています

原因: 指定されたデバイス名が無効です。

処置: 正しいデバイス名を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19702 デバイス・パラメータが最大長 *string* を超過しています

原因: デバイス・パラメータがポート固有の最大長を超えています。

処置: パラメータを修正して、操作を再試行してください。

ORA-19703 デバイス・コマンド文字列が最大長 *string* を超過しています

原因: デバイス・コマンド文字列が最大長を超えています。

処置: コマンドを修正して、操作を再試行してください。

ORA-19704 ファイル名が最大長 *string* を超過しています

原因: コピー、バックアップまたはリストア操作のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-19705 タグ値が最大文字数 *string* を超過しています

原因: バックアップまたはコピー操作中に提供されたタグ値が長すぎるため、ファイル・ヘッダーに収容できません。

処置: タグを短くして、操作を再試行してください。

ORA-19706 SCN が無効です。

原因：入力された SCN が正の整数でないか、または大きすぎます。

処置：入力した SCN を確認し、有効な SCN であることを確認してください。

ORA-19707 無効なレコード・ブロック番号 - *string*

原因：入力された番号が負数であるか、または大きすぎます。

処置：入力したレコード・ブロック番号を確認し、CREATE DATABASE 文の有効な番号句であることを確認してください。

ORA-19708 ログの宛先が最大文字数 *string* を超過しています

原因：リストア対話の起動時に指定されたログ・リストアの宛先が、ポート固有の最大長を超えています。

処置：宛先を短くして操作を再試行してください。

ORA-19709 数値パラメータは負でない整数にする必要があります

原因：X\$DBMS_BACKUP_RESTORE プロシージャへの数値パラメータが負であるか、または小数が入っています。

処置：有効な数値パラメータを指定してください。

ORA-19710 サポートされないキャラクタ・セットです :*string*

原因：ターゲット・データベースがマウントされていない場合、RMAN はターゲット・データベース・キャラクタ・セットをユーザー環境に指定されている値に設定します。

処置：この環境に有効なキャラクタ・セットを指定してください。通常、これは、環境変数 NLS_LANG を使用して実行されます。

ORA-19711 データベースのオープン中は reNormalizeAllFileNames を使用できません。

原因：データベースのオープン中に制御ファイルのすべてのファイル名を再正規化しようとした。

処置：データベースをクローズしてから、reNormalizeAllFileNames プロシージャを使用してください。

ORA-19712 表名が *string* の長さの最大値を超過しています。

原因：表名の文字列が最大長を超えています。

処置：表名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-19713 コピー番号 : *string* が無効です

原因：コピー番号が有効な範囲ではないか、または制限値に達しました。

処置：このエラーとその他の情報をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-19714 生成されたピース名の長さが *string* よりも長くなっています。

原因: 指定された書式がピース名の最大長を超えています。

処置: 書式を変更して、短いピース名を作成してください。

ORA-19715 ピース名の形式が無効です。

原因: 制限付きの形式が誤って使用されました。

処置: 制限付きの形式を削除して形式を変更してください。

ORA-19720 OCI 番号を SCN に変換中、エラーが発生しました。

原因: これはおそらくエクスポート・ファイルなどの外部ファイルからの無効な SCN 番号によるものです。

処置: エラー・スタック上の他のエラーを参照して、問題の原因を調べてください。

ORA-19721 絶対ファイル番号 *string* (表領域 *string*) のデータ・ファイルが見つかりません。

原因: トランスポータブル・セットにあるべきデータ・ファイルの 1 つが見つかりません。

処置: データ・ファイルがインポート・コマンドライン・オプションまたはパラメータ・ファイルを介して指定されていることを確認してください。

ORA-19722 データ・ファイル *string* のバージョンが正しくありません。

原因: データ・ファイルのバージョンが正しくありません。希望するバージョンより多くのまたは少ない変更が含まれています。

処置: 正しいデータ・ファイルがトランスポートされているかどうかを確認してください。表領域が読取り専用である間にデータ・ファイルがコピーされていることを確認してください。

ORA-19723 読取り専用で差し込まれたデータ・ファイル *string* を再作成できません

原因: データ・ファイルは読取り専用で差し込まれています。再作成できません。

処置: かわりに、ALTER DATABASE RENAME FILE コマンドを使用してください。

ORA-19724 スナップショットが古すぎます: スナップショット時刻がファイル *string* の差込み時刻より前です

原因: スナップショット SCN は、参照されたデータ・ファイルがデータベースへ差し込まれる SCN の前にあります。

処置: 問合せを再試行してください。

ORA-19725 差込みエンキューを取得できません。

原因: 同時に発行された他の ALTER DATABASE RESET COMPATIBILITY コマンドがあり、この処理が差込みエンキューの取得を妨げている可能性があります。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-19726 データ [string] (レベル string) は互換レベル string で実行中のデータベースに差し込みません

原因: トランスポータブル・セットのデータの中のいくつかには、データベースによって現在許可されているものより高い互換レベルが必要です。大カッコの中の文字列は、データに関連付けられた互換型の名前です。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータの値を高くして、操作を再試行してください。

ORA-19727 データ [string] (レベル string) は Oraclestring で実行中のデータベースに差し込みません

原因: トランスポータブル・セットのデータの中のいくつかには、Oracle 実行可能ファイルのリリース・レベルより高い互換レベルが必要です。大カッコの中の文字列は、データに関連付けられた互換型の名前です。

処置: Oracle を更新して、操作を再試行してください。

ORA-19728 表 string とパーティション string (表 string) 間で、データ・オブジェクト番号が競合しています。

原因: 非パーティション表には、パーティション表のパーティションの1つと同じオブジェクト番号があります。この場合、パーティションのある表を交換できません。

処置: ALTER TABLE MOVE PARTITION コマンドで違反しているパーティションを移動し、そのパーティションが新しいデータ・オブジェクト番号を取得できるようにしてください。その後、操作を再試行してください。

ORA-19729 ファイル string はデータ・ファイルに差し込まれた初期バージョンではありません

原因: ファイルは、データ・ファイルに差し込まれた初期バージョンではありません。

処置: データ・ファイルに差し込まれた正しい初期バージョンを使用してください。

ORA-19730 オフラインの差込みデータ・ファイル string は変換できません。

原因: 表領域の読取り / 書込みを可能にするために、読取り専用で差し込まれるデータ・ファイルを変換する必要があります。ファイルがオンラインである必要があります。

処置: データ・ファイルをオンラインにして操作を再試行してください。

ORA-19731 未検証の差込みデータ・ファイル string への変更は適用できません

原因: リカバリは、制御ファイルの情報が参照するデータ・ファイルを検証できませんでした。このファイルの変更ベクトルを見つける前に、なんらかの理由でリカバリはファイルを検証するファイル変換 REDOを見つけることができませんでした。メディア・リカバリで使用する制御ファイルが破損したか、正しくない可能性があります。

処置: 正しい制御ファイルを使用して、リカバリを続けてください。

ORA-19732 表領域 *string* のデータ・ファイル番号が正しくありません。

原因: 参照された表領域のエクスポート・ファイルのデータ・ファイル番号が、予測されるものと異なります。多くの場合、ユーザーがそのエクスポート・ファイルを編集していることが原因です。

処置: 正しいエクスポート・ファイルを使用して、操作を再試行してください。

ORA-19733 COMPATIBLE パラメータは、*string* 以上が必要です。

原因: COMPATIBLE 初期化パラメータは、操作ができるほど高くありません。コマンドを許可すると、データベースは現在の COMPATIBLE パラメータで指定されたリリースとの互換性がなくなります。

処置: 停止し、互換性の高い設定値で再起動してください。

ORA-19734 SCN 作成エラー - 制御ファイルでは変換済の差込みデータ・ファイルが必要です

原因: 表領域をデータベースへ差し込むとき、表領域は始めは読取り専用です。表領域を最初に読取り / 書き込み可能にするとき、Oracle は差込みデータ・ファイル（新規作成の SCN を割り当てます）のヘッダーを変換します。このエラーは、ファイル・ヘッダーの SCN 作成が制御ファイルの SCN 作成と異なるときに発生します。差し込まれたデータ・ファイルの最初のバージョンである可能性があります。

処置: 変換されたデータ・ファイルをリストアするか、またはデータ・ファイルのリカバリを続けてください。

ORA-19735 SCN 作成エラー - 制御ファイルでは初期の差込みデータ・ファイルが必要です

原因: 表領域をデータベースへ差し込むとき、表領域は始めは読取り専用です。表領域を最初に読取り / 書き込み可能にするとき、Oracle は差込みデータ・ファイル（新規作成の SCN を割り当てます）のヘッダーを変換します。このエラーは、ファイル・ヘッダーの SCN 作成が制御ファイルの SCN 作成と異なるときに発生します。おそらく、変更されたデータ・ファイルであることが原因です。

処置: データ・ファイルに差し込まれた正しい初期バージョンをリストアするか、制御ファイルのリカバリを行うデータベース・リカバリを続けてください。

ORA-19736 異なる各国語キャラクタ・セットを使用してデータベースに表領域を作成できません

原因: 異なる各国語キャラクタ・セットを使用した表領域のデータベースへの差込みは、サポートされていません。

処置: インポート / エクスポートまたはアンロード / ロードを使用して、データを移動してください。

ORA-19999 SKIP_ROW プロシージャが呼び出されました

原因: SKIP_ROW プロシージャが呼び出され、このエラーが発生しました。

処置: SKIP_ROW は、トリガー内またはトリガーによって呼び出されたプロシージャ内でのみ呼び出してください。

ORA-20000 *string*

原因: このメッセージが発生する原因となったストアド・プロシージャ `RAISE_APPLICATION_ERROR` がコールされました。

処置: エラー・メッセージの記述どおりに問題を修正するか、詳細をアプリケーション管理者またはデータベース管理者に問い合せてください。

ORA-21000 *stringstring* の `RAISE_APPLICATION_ERROR` に対するエラー引数が範囲外です。

原因: 許可された範囲にない番号を指定しようとしてしました。

処置: -20000 ～ -20999（各値を含む）の範囲内のエラー番号を使用してください。

ORA-21001 *stringstring* の `RAISE_SYSTEM_ERROR` に対するエラー引数が範囲外です。

原因: 許可された範囲にない番号を指定しようとしてしました。

処置: -23300 ～ -24299 または -29300 ～ -29399（各値を含む）の範囲内のエラー番号を使用してください。

ORA-21300 オブジェクト・オプションがインストールされていません。

原因: このサイトでは、オブジェクト・オプションがインストールされていません。したがって、オブジェクト型およびその他のオブジェクト機能を使用することはできません。

処置: オブジェクト・オプションをインストールしてください。オブジェクト・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入する必要があります。オブジェクト・オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-21301 オブジェクト・モードで初期化されていません。

原因: この関数には、オブジェクト・モードで初期化された OCI プロセスが必要です。

処置: `OCIInitialize()` コールで `OCI_OBJECT` モードを指定してください。

ORA-21500 内部エラー・コード、引数:[*string*],[*string*],[*string*],[*string*],[*string*],[*string*],[*string*],[*string*]

原因: OCI 環境（クライアント・サイド）内部エラーの一括エラー番号です。OCI 環境で例外条件が検出されたことを示します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。

ORA-21501 プログラムでメモリーを割り当てることができませんでした

原因: オペレーティング・システムのメモリーが不足しています。

処置: メモリーの量を増やしてプログラムを使用できるようにしてください。

ORA-21503 致命的エラーによりプログラムが終了しました。

原因: プログラムはリカバリ不能なエラー状態にあります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-21520 データベース・サーバー・ドライバがインストールされていません。

原因: ユーザーが、オブジェクト・モードの OCI 環境でデータベース・サーバーにアクセスしようとしたが、データベース・サーバーのアクセスをサポートするために必要なドライバがインストールされていないか、リンクされていません。

処置: データベース・サーバーに対応したドライバがインストール / リンクされているか、またサーバー・ドライバ表に入力されているかを確認してください。

ORA-21521 OCI の最大接続数を超過しています (オブジェクト・モードのみ)

原因: ユーザーがオブジェクト・モードの OCI 環境でサポートできる最大接続数 (225) を超えています。

処置: 既存の接続と未使用の接続をいくつかクローズしてから、追加の接続をオープンしてください。

ORA-21522 OCI で無効な接続を使用しました (オブジェクト・モードのみ)。

原因: ユーザーが無効な接続または OCI 環境 (オブジェクト・モード) で終了された接続を使用したか、または終了した接続から取得した REF の参照を解除しようとした。

処置: 接続が存在し、かつ有効であることを確認してください。

ORA-21523 サーバーがサポートしていない機能です (オブジェクト・モードのみ)

原因: サーバーがサポートしていない機能を使用しようとした。

処置: サーバーをアップグレードしてください。

ORA-21524 オブジェクト型が一致しません。

原因: オブジェクトのオブジェクト型が指定されたものと異なります。

処置: オブジェクト型を確認し、修正してください。

ORA-21525 属性番号または (索引のコレクション要素) *string* が制約に違反しています。

原因: 属性番号またはコレクション要素の値が制約に違反しています。

処置: 属性値またはコレクション要素値を制約に合わせて変更してください。制約は、属性またはコレクション要素のスキーマ情報の一部として指定されます。

ORA-21526 初期化に失敗しました。

原因: 初期化に失敗しました。これは、NLS_DATE_FORMAT などの環境変数が無効な値に設定されている場合に発生することがあります。

処置: すべての NLS 環境変数が正しいことを確認してください。

ORA-21560 引数 *string* が NULL、無効または範囲外です

原因: 引数に予期される値は NULL 以外の有効な値ですが、転送された引数値は NULL、無効または範囲外です。このエラーは、たとえば、LOB/FILE の定位置引数またはサイズ引数の値が 1 から (4GB-1) までの範囲外であるときや、無効なオープン・モードでファイルをオープンしたときなどに発生します。

処置: プログラムを確認し、NULL、無効または範囲外の引数値を転送しないよう、ルーチンのコール側を修正してください。

ORA-21561 OID 生成に失敗しました

原因: 渡されたハンドルが有効でない可能性があります。

処置: env、svc ハンドルの妥当性を確認してください。

ORA-21600 パス式が長すぎます。

原因: 指定したパス式が長すぎます。パスは、オブジェクト内での属性の位置を指定するために使用されます。このエラーは、パスの中間要素の 1 つが組込み型の属性を参照するとき発生します。したがって、OCI 関数はパスの残りの要素の処理を進めることができません。

処置: 属性を位置づけるために、正しいパスを渡してください。

ORA-21601 属性がオブジェクトではありません。

原因: 操作（オブジェクトのみに有効な操作）を組込み型の属性に実行しようとしてしました。そのような不正な操作の例としては、NULL 構造体を動的に組込み型の属性に設定することがあげられます。

処置: 組込み型の属性にそのような操作を行わないでください。

ORA-21602 この操作で、指定された型コードがサポートされていません

原因: 実行しようとした操作では、指定された型コードがサポートされていません。

処置: この操作でサポートされた有効な型コード範囲を使用してください。

ORA-21603 プロパティ ID[*string*] は無効です。

原因: このプロパティ ID は無効です。

処置: 有効なプロパティ ID を指定してください。有効なプロパティ ID は、OCIObjectPropId で数え上げが可能です。

ORA-21604 プロパティ [*string*] は、一時または値のインスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトのみに適応するプロパティを取得しようとしてしました。

処置: 存続期間を確認し、このプロパティは永続オブジェクトに取得してください。

ORA-21605 プロパティ [string] は、値インスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトと一時オブジェクトのみに適応するプロパティを取得しようとしてしました。

処置: 存続期間を確認し、このプロパティは永続オブジェクトと一時オブジェクトに取得してください。

ORA-21606 このオブジェクトを解放できません。

原因: 永続および使用済のオブジェクトを解放しようとしてしましたが、OCI_OBJECTFREE_FORCE フラグが指定されていません。

処置: 永続オブジェクトをフラッシュするか、OCI_OBJECTFREE_FORCE フラグを設定してください。

ORA-21607 メモリー・カートリッジ・サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: ハンドルを初期化せずに使用しようとしてしました。

処置: メモリー・カートリッジ・サービス・ハンドルを初期化してください。

ORA-21608 この関数には無効な継続期間です。

原因: この関数で有効でない継続期間を使用しようとしてしました。

処置: 有効な期間（以前に作成した継続期間、あるいは OCI_DURATION_STATEMENT または OCI_DURATION_SESSION）を使用してください。継続期間または外部プロシージャ期間を設定するには、OCIExtProcAllocCallMemory を使用してください。

ORA-21609 最初にメモリーを割り当ててから、サイズを変更してください。

原因: メモリーを割り当てずにサイズを変更しようとしてしました。

処置: メモリーをまず割り当ててから、サイズを変更してください。

ORA-21610 サイズ [string] が無効です。

原因: 無効なサイズでサイズを変更しようとしてしました。

処置: 有効なサイズ（正の整数）で指定してください。

ORA-21611 キーの長さ [string] が無効です。

原因: 無効なキーの長さを使用しようとしてしました。

処置: キーの長さが無効です。有効な範囲は 0 ～ 64 です。

ORA-21612 キーはすでに使用されています。

原因: すでに使用されているキーを使用しようとしてしました。

処置: まだ使用されていない新しいキーを使用してください。

ORA-21613 キーが存在しません。

原因: 存在しないキーを使用しようとしてしました。

処置: すでに存在するキーを使用してください。

ORA-21614 属性値の制約違反です。string

原因: 属性の制約が違反しています。

処置: (属性) 値を修正して、制約を満たしてください。

ORA-21615 OTS (名前付きまたはシンプル) インスタンスのコピーに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: どの属性値も制約に違反していないことを確認してください。

ORA-21700 オブジェクトが存在しないか、削除マークが設定されています。

原因: 存在しないか削除マークが設定されたオブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしてしました。存在しないか削除マークが設定されたオブジェクトに対して、確保、削除、更新などの操作は実行できません。

処置: 存在するオブジェクトを参照するために参照を再初期化するか、オブジェクトのマークを外してください。

ORA-21701 異なるサーバーにオブジェクトをフラッシュしようとしてしました。

原因: 1 つの関数コールで異なるサーバーにオブジェクトをフラッシュしようとしてしました。それらのオブジェクトは、プログラムにより提供されるコールバック関数のコールによって取得されます。

処置: この操作は実行できません。

ORA-21702 オブジェクトがインスタンス化されていないか、またはキャッシュ内でインスタンス化解除されています

原因: オブジェクト・キャッシュにインスタンス化されていない一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしてしました。インスタンス化されていない一時オブジェクトに適用できない操作には、この種のオブジェクトの削除や確保などがあります。

処置: オブジェクトをインスタンス化しないで操作が行われているか、またはオブジェクトの割当ての期限が切れた後にそのような操作が行われているか、コードを確認してください。

ORA-21703 変更されていないオブジェクトはフラッシュできません。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

処置: オブジェクトをフラッシュしないでください。

ORA-21704 フラッシュを実行しないとキャッシュまたは接続を終了できません。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

処置: トランザクションをアボートまたはコミットしてから、キャッシュまたは接続を終了してください。

ORA-21705 サービス・コンテキストが無効です。

原因: 指定されたサービス・コンテキストが有効ではありません。

処置: サービス・コンテキストを確立してください。

ORA-21706 継続時間が存在しないか、または無効です

原因: 指定された継続時間が有効ではありません。

処置: 継続時間を設定するか、または正しい定義済継続時間を使用してください。

ORA-21707 確保継続時間は割当て時間を超過しています

原因: ユーザーが指定した確保継続時間は割当て時間を超過しています。これは、確保またはデフォルト・パラメータの設定などの操作に影響します。

処置: 確保継続時間を短くするか、NULL 継続時間を使用してください。

ORA-21708 一時オブジェクトで不適切な操作が行われました。

原因: 一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとしてしました。一時オブジェクトに適用できない操作には、フラッシュおよびロッキングなどがあります。

処置: 一時オブジェクトにそのような操作を実行しないでください。

ORA-21709 変更されたオブジェクトをリフレッシュできません。

原因: 削除、更新または挿入（新規）のマークが設定されたオブジェクトをリフレッシュしようとしてしました。

処置: オブジェクトのマークを外してから、リフレッシュしてください。

ORA-21710 引数にはオブジェクトの有効なメモリー・アドレスが必要です。

原因: ユーザーが指定したオブジェクト・メモリー・アドレスが有効ではありません。不正なメモリー・アドレスをオブジェクトの有効なメモリー・アドレスを予期している関数へ渡した可能性があります。

処置: オブジェクトの有効なメモリー・アドレスを関数へ渡してください。

ORA-21779 継続時間がアクティブではありません

原因:すでに終了した継続時間を使用しようとしてしました。

処置: そのような操作は実行できません。

ORA-22053 オーバーフロー・エラーが発生しました。

原因: この操作の結果が Oracle の上限値を超えています。

処置: 入力値を下げて、結果が有効範囲内になるようにしてください。

ORA-22054 アンダーフロー・エラーが発生しました

原因: この操作の結果は Oracle の下限値を下回っています。

処置: 入力値を上げて、結果が有効範囲内になるようにしてください。

ORA-22055 符号フラグ値 [string] が不明です。

原因：使用される符号フラグが OCI_NUMBER_SIGNED または OCI_NUMBER_UNSIGNED ではありません。

処置：OCI_NUMBER_SIGNED または OCI_NUMBER_UNSIGNED のいずれかを符号フラグとして使用してください。

ORA-22056 値 [string] が 0（ゼロ）で除算されています。

原因：示された値が 0（ゼロ）で除算されています。

処置：除数値を 0（ゼロ）以外に変更してください。

ORA-22057 整数の長さ [string] が無効です。

原因：Oracle 数値へ変換（またはその逆変換）される整数の長さ（バイト数）が無効です。

処置：1、2、4 または 8 バイト長の整数のみを使用してください。

ORA-22059 バッファ・サイズ [string] が小さすぎます - [string] が必要です

原因：結果テキスト文字列を保持するバッファが小さすぎます。

処置：必要なサイズのバッファを提供してください。

ORA-22060 引数 [string] が無効か、または初期化されていません。

原因：無効または初期化されていない数値が渡されました。

処置：有効な数値を使用してください。数値を初期化するには、OCINumberSetZero() をコールしてください。

ORA-22061 書式テキスト [string] が無効です。

原因：文字を Oracle 数値に変換（またはその逆変換）するときに使用された数値書式文字列が無効です。

処置：『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効な書式を使用してください。

ORA-22062 入力文字列 [string] が無効です。

原因：数値への変換に使用されたテキスト文字列が無効です。

処置：『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効な入力文字列を使用してください。

ORA-22063 負の値 [string] が符号なしで読み込まれました。

原因：負数を符号なし整数に変換しようとしました。

処置：符号付きの数値を変換するには、符号フラグ ORLTSB を使用してください。

ORA-22064 NLS パラメータ文字列 [*string*] が無効です。

原因: 文字を Oracle 数値に変換（またはその逆変換）するときに使用された NLS パラメータ文字列が無効です。

処置: 『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効な書式を使用してください。

ORA-22065 与えられた書式の数値をテキストに変換するときにオーバーフローが発生しました

原因: 与えられた文字列書式に丸めると、オーバーフローが発生します。

処置: オーバーフローが発生しないように文字列書式を変更してください。

ORA-22130 バッファ・サイズ [*string*] が必要サイズ [*string*] よりも小さいです。

原因: 16 進 REF 文字列が書き込まれるバッファが小さすぎます。

処置: 必要なサイズのバッファを提供してください。

ORA-22131 16 進文字列長が 0（ゼロ）です

原因: 指定される 16 進文字列が 0（ゼロ）より大きい必要があります。

処置: 0（ゼロ）より大きい長さを指定してください。

ORA-22132 16 進文字列が有効な REF に一致しません。

原因: 16 進文字列が無効です。

処置: OCIRefToHex() へのコールによって返された有効な 16 進文字列を指定してください。

ORA-22140 与えられたサイズ [*string*] は、0 から [*string*] の範囲である必要があります

原因: サイズ変更されたサイズは無効です。

処置: 与えられたサイズが要求された範囲内であることを確認してください。

ORA-22150 可変長配列が初期化されていません。

原因: 初期化されていない可変長配列に対して操作を行おうとしました。

処置: この関数をコールする前に、可変長配列を初期化してください。

ORA-22151 0（ゼロ）以外の可変長配列は、0（ゼロ）要素にサイズ変更できません。

原因: 0（ゼロ）以外の可変長配列を 0（ゼロ）要素にサイズ変更しようとしてしました。

処置: 0（ゼロ）以外のサイズを指定してください。

ORA-22152 接続先の可変長配列が初期化されていません。

原因: 割当ての右辺の可変長配列または結合の接続先配列が初期化されていません。

処置: この関数をコールする前に、接続先可変長配列を初期化してください。

ORA-22153 ソースの可変長配列が初期化されていません。

原因: 割当ての左辺の可変長配列または結合のソース配列が初期化されていません。

処置: この関数をコールする前に、宛先可変長配列を初期化してください。

ORA-22160 要素の索引 [string] が存在しません

原因: 与えられた索引でのコレクション要素が存在しません。

処置: 存在する要素の索引を指定してください。

ORA-22161 タイプ・コード [string] が無効です。

原因: 与えられたタイプ・コードが無効です。

処置: OCITypeCode で列挙されたタイプ・コードの 1 つを使用してください。

ORA-22162 要素の索引 [string] はすでに削除されています。

原因: 存在しないコレクション要素を削除しようとしてしました。

処置: この関数をコールする前に、要素が存在するかどうかを確認してください。

ORA-22163 左側と右側のコレクションが同一型ではありません

原因: 左側と右側のコレクションの型が異なります。

処置: この関数の左辺と右辺に同じコレクション型が転送されていることを確認してください。

ORA-22164 可変長配列に対して要素削除の操作はできません。

原因: 可変長配列の要素を削除しようとしてしました。

処置: この関数をコールする前に、コレクションの型が可変長配列でないことを確認してください。

ORA-22165 与えられた索引 [string] は、0 から [string] の範囲である必要があります

原因: 与えられた索引が必要な範囲内ではありません。

処置: 与えられた索引が必要な範囲内であることを確認してください。

ORA-22166 コレクションが空です。

原因: 指定されたコレクションが空です。

処置: コレクションが空であるかどうかをテストしてから、この関数を呼び出してください。

ORA-22167 与えられた切捨てサイズ [string] は、[string] 以下である必要があります

原因: 与えられた切捨てサイズがカレント・コレクション・サイズを超えています。

処置: 与えられたコレクション・サイズ以下であることを確認して、この関数を再試行してください。

ORA-22275 指定された LOB ロケータが無効です

原因: 原因は次のいずれかです。

1. LOB ロケータが初期化されていない。
2. ロケータは BFILE 用だが、ルーチンは BLOB/CLOB/NCLOB ロケータを要求している。
3. ロケータは BLOB/CLOB/NCLOB だが、ルーチンは BFILE ロケータを要求している。
4. トリガー本体で LOB を更新しようとしたが、トリガー本体での LOB は読取り専用である。

処置: 原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. 変数ロケータを選択するか、または LOB ロケータを空に設定することにより、LOB ロケータを初期化してください。
2. 正しいタイプのロケータをルーチンに移してください。
3. 2 と同じ処置を行ってください。
4. LOB 値を更新するトリガー本体コードを削除してください。

ORA-22276 LOB バッファリング用のロケータが無効です。

原因: 原因は次のいずれかです。

1. ロケータはバッファリングに対して使用可能になっていない。
2. 更新済ロケータではなく、書込み / フラッシュ操作のために使用されている。

処置: 原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. ロケータをバッファリングに対して使用可能にしてください。
2. 更新済ロケータのみが確実に LOB 更新操作に使用されるようにしてください。

ORA-22277 同一 LOB の変更に、2 つの異なるロケータは使用できません。

原因: LOB バッファリングが使用可能で、2 つの異なる LOB ロケータを使用して LOB を変更しようとしてしました。

処置: LOB バッファリングを使用するときは、1 つの LOB ロケータのみで LOB を変更してください。

ORA-22278 LOB は、その LOB バッファのみを使用して更新する必要があります。

原因：この LOB に対して LOB バッファリングが可能となり、バッファ・プールの中に、この LOB に対するバッファが存在します。したがって、LOB バッファ以外の方法で LOB を更新することはできません。

処置：LOB バッファリングが可能となったロケータを使用して、LOB バッファにより LOB を更新してください。この操作が必須の場合は、この LOB に関連したバッファは必要なものとしてフラッシュされるか、または、バッファリングが不可能となります。これが済んだら、コマンドを再実行してください。

ORA-22279 LOB バッファリングが使用可能な状態では、操作を実行できません

原因：LOB バッファリングが使用可能な状態では、操作できません。

処置：この操作が必須の場合は、LOB バッファリングを使用しないでください。この場合は、入力 LOB ロケータに関連したバッファを必要なものとしてフラッシュし、入力 LOB ロケータ上でのバッファリングを不可能にしたうえで、コマンドを再実行してください。

ORA-22280 操作に使用可能なバッファは、これ以上ありません

原因：原因は次のいずれかです。

1. バッファ・プールの中にあるバッファがすべて前の操作で使用された。
2. 前にバッファされた更新操作をせずに、LOB をフラッシュさせた。

処置：原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. LOB を更新するために使用されているロケータによって、LOB をフラッシュさせてください。
2. バッファをフラッシュさせる前に、バッファリング可能となったロケータによって、最初に LOB に書き込んでください。

ORA-22281 更新済ロケータでこの操作は実行できません。

原因：入力ロケータがバッファリングを可能にし、かつ LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を更新するために、その入力ロケータが使用されました。変更されたバッファは、書込みが入力ロケータにより実行されたため、フラッシュされていません。したがって、入力ロケータは更新済ロケータとみなされます。更新済ロケータはコピー操作のソースになることはできません。LOB ごとに 1 つのロケータのみが、LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を変更するために使用できます。

処置：入力ロケータによって LOB バッファリング・サブシステムに行われた変更がサーバーに書き込まれるかどうかによって、変更書込みのためにバッファをフラッシュさせるか、または変更を廃棄するためにロケータ上でのバッファリングを使用禁止にしてください。その後、コマンドを再実行してください。

ORA-22282 バッファリング使用可能な LOB に対する不連続な追加はできません

原因: バッファされた書込み操作は、LOB の終わりを過ぎた 1 バイトまたは 1 文字以上の入力オフセット値を保持しています。

処置: バッファされた書込み操作によって更新しようとしている LOB の長さより厳密に 1 文字または 1 バイト大きい入力オフセット値を指定してください。

ORA-22285 *string* 操作に対するディレクトリまたはファイルが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとしたか、またはアクセスしようとしたファイルのディレクトリが存在しません。

処置: 指定したディレクトリに対応するシステム・オブジェクトがデータベース・ディクショナリに存在することを確認してください。または、ディレクトリ名が正しいことを確認してください。

ORA-22286 *string* 操作を実行するにはファイルまたはディレクトリの権限が不十分です。

原因: 操作を実行するために必要なディレクトリ別名またはファイルへのアクセス権限がありません。

処置: ディレクトリ別名またはファイルに必要な権限の付与について、データベース / システム管理者に相談してください。

ORA-22287 *string* 操作は無効か、ディレクトリが修正されています

原因: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、カレント操作で使用されたディレクトリ別名が無効です。以前にアクセスしている場合は、データベース管理者によってこのディレクトリが変更されています。

処置: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、有効なディレクトリ名を指定してください。このエラーが発生する前に、このディレクトリ下でファイルのオープンに成功している場合は、一度ファイルをクローズしてから、データベース管理者によって変更された有効なディレクトリ別名で操作を再試行してください。Oracle ではディレクトリの変更を休止期間中にのみ行うことをお勧めします。

ORA-22288 ファイルまたは LOB の操作 *string* に失敗しました。 *string*

原因: ファイルまたは LOB に対して操作を実行できませんでした。

処置: 詳細は、エラー・スタックの次のエラー・メッセージを参照してください。また、ファイルまたは LOB が存在するかどうか、および指定された操作の実行のために必要な権限が設定されているかどうかを確認してください。エラーが繰り返される場合は、データベース管理者に連絡してください。

ORA-22289 ファイルまたは LOB がオープンしていないので *string* 操作を実行できません。

原因: ファイルまたは LOB がオープンしていないので、必要な操作を実行できません。

処置: 現在の操作の前に、ファイルまたは LOB の正常なオープン操作を行ってください。

ORA-22290 オープン状態のファイルまたは LOB が最大数を超過しました

原因: オープン・ファイルまたは LOB 数が最大限度に達しました。

処置: いくつかのオープン・ファイルまたは LOB をクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-22291 トランザクションのコミット時点でオープン状態の LOB が存在します。

原因: トランザクションのコミット時点でオープン LOB を持つトランザクションをコミットしようとしてしました。

処置: トランザクションをコミットする前に LOB をクローズしてください。

ORA-22292 LOB を読書きモードでオープンするにはトランザクションを開始してください。

原因: トランザクションを開始する前に、LOB を読書きモードでオープンしようとしてしました。

処置: LOB を読書きモードでオープンする前にトランザクションを開始してください。トランザクションを開始する方法には、SQL DML または SELECT FOR UPDATE コマンドの発行が含まれます。LOB を読取り専用モードでオープンするには、トランザクションは必要ありません。

ORA-22293 LOB が同じトランザクションでオープンしています

原因: このトランザクションですでにオープンしている LOB をオープンしようとしてしました。

処置: LOB をクローズしてから、再オープンしてください。

ORA-22294 読取り専用モードでオープンしている LOB を更新することはできません。

原因: 読取り専用モードでオープンしている LOB へ書込みしようとしたか、更新しようとしてしました。

処置: LOB をクローズして、それを読書きモードで再オープンしてから、LOB に書込みまたは更新してください。

ORA-22295 4000 バイトを超えるデータは、1 つの文で LOB および LONG 列にバインドできません。

原因: 同じ挿入または更新文で LOB および LONG 列の両方に 4000 バイトを超えるデータをバインドしようとしてしました。LONG 列または 1 つ以上の LOB 列には 4000 バイトを超えるデータをバインドできますが、両方の列にはできません。

処置: LONG 列または 1 つ以上の LOB 列に 4000 バイトを超えるデータをバインドしてください。ただし、両方の列にはできません。

ORA-22296 データ型を LONG から LOB に変換する ALTER TABLE オプションが無効です。

原因: LONG データ型を LOB へ変換中に、許可されない ALTER TABLE オプションを指定しようとしてしました。LONG データ型を LOB へ変換中に ALTER TABLE オプションが許可されるのは、LOB へ変更される列のデフォルト句および LOB 記憶域句のみです。

処置: 許可されないオプションを削除してください。

ORA-22297 警告: トランザクションのコミット時点でオープン状態の LOB が存在します

原因: トランザクションのコミット時点でオープン状態の LOB を持つトランザクションをコミットしようとしてしました。

処置: これは警告メッセージです。トランザクションは正常にコミットされましたが、オープン状態の LOB 上のドメイン索引またはファンクション索引は更新されません。必要に応じて、これらの索引を再構築してください。

ORA-22303 型 "string"."string" が見つかりません。

原因: 型の情報を取得しようとしてしましたが、その型が見つかりません。

処置: スキーマが正しくて、型が正しく作成されていることを確認してください。

ORA-22304 入力型がオブジェクト型ではありません

原因: オブジェクト型以外からスーパータイプの情報を取得しようとしてしました。

処置: オブジェクト型でのみ渡してください。

ORA-22305 属性 / メソッド / パラメータ "string" が見つかりません。

原因: 示された名前の型要素が型の中にありません。

処置: 型要素が存在するかどうかを確認してください。

ORA-22306 型 "string"."string" はすでに存在しています。

原因: すでに存在している型を作成しようとしてしました。

処置: この前に作成された型が存在するかどうかを確認してください。

ORA-22307 この操作はユーザー定義型でのみ実行できます

原因: ユーザー定義型でのみ許可されている操作を実行しようとしてしました。この型はユーザー定義型ではありません。

処置: ユーザー定義型のみが操作されていることを確認してください。

ORA-22308 発展型では操作はできません。

原因: 変更される属性定義の型を置換しようとしてしました。

処置: ALTER TYPE REPLACE のかわりに、ALTER TYPE ADD/DROP 文を送信してください。

ORA-22309 "string" という名前の属性はすでに存在しています。

原因：2つ以上の属性が同一の名前を持つオブジェクトを作成しようとしてしました。

処置：属性名がすべて一意であることを確認してください。

ORA-22310 ALTER TYPE エラー。表 "string"."string" を参照してください。

原因：無効な ALTER TYPE 文が送信されました。

処置：示された表にリストされたエラーを修正して、文を再発行してください。

ORA-22311 属性 "string" の型が存在しません。

原因：属性の型が存在しません。

処置：この DDL トランザクションでは、型が1つも作成 / 変更されていません。DDL トランザクションを再実行して、属性型の作成を DDL トランザクションに追加してください。

ORA-22312 CASCADE または INVALIDATE オプションを指定する必要があります。

原因：CASCADE または INVALIDATE オプションを指定せずに、依存型または表を持つ型を変更しようとしてしました。

処置：CASCADE または INVALIDATE オプションを使用して文を再発行してください。依存型および表への型の変更をカスケードする場合は CASCADE を指定してください。そうでない場合は、INVALIDATE を指定してすべての依存を無効にしてください。

ORA-22313 同一の型 "string" の2つのバージョンは使用できません。

原因：この型のバージョンが、アプリケーションとリンクされた別のライブラリで使用されている同一型のバージョンと一致しません。アプリケーションで利用できるのは、1つの型につき1バージョンのみです。

処置：このアプリケーションとリンクされているライブラリを確認して、同一型のバージョンを使用していることを確認してください。

ORA-22314 メソッド情報が ALTER TYPE 内で一致しません。

原因：メソッド数またはメソッドの署名が、オリジナルの型宣言のものと一致しません。これはサポートされません。

処置：メソッド署名が、前に宣言されたメソッドに対するものと同一のままであるかを確認してください。既存メソッドを削除しないでください。

ORA-22315 型 "string" にはマップまたは順序関数がありません。

原因：入力した型にはマップまたは順序関数が含まれていないので、値を返せません。

処置：型にマップ関数または順序関数を挿入するか、このエラーを受け取ってください。

ORA-22316 入力型がコレクション型ではありません。

原因: 名前のないコレクション型でコレクション型の情報を取得しようとしてしました。

処置: 名前の付いたコレクション型を関数に使用してください。

ORA-22317 型コード *number* は数値型として有効ではありません

原因: 使用しようとした数値の型コードが無効です。

処置: OCI_TYPECODE_SMALLINT、OCI_TYPECODE_INTEGER、OCI_TYPECODE_REAL、OCI_TYPECODE_DOUBLE、OCI_TYPECODE_FLOAT、OCI_TYPECODE_NUMBER または OCI_TYPECODE_DECIMAL のみを使用してください。

ORA-22318 入力型が配列型ではありません。

原因: 配列型以外から要素数を取得しようとしてしました。

処置: 配列である、名前の付いたコレクション型のみを転送してください。

ORA-22319 ALTER TYPE で型属性情報が変更されました

原因: 型属性情報は、型変更時のオリジナルの型宣言の型属性情報と一致しません。ALTER TYPE 中は、属性を変更できません。新しいメソッドのみを追加できます。

処置: すべての型の変更が正しいことを確認してください。

ORA-22320 ユーザー・バージョン文字列がありません。

原因: VERSION オプションがユーザー・バージョン文字列なしで指定されています。

処置: VERSION キーワードに続くバージョン文字列を持つ文を再発行してください。

ORA-22321 メソッドは結果を戻しません。

原因: メソッドに対して OCITypeResult() コールが行われましたが、メソッドから結果が戻されません。

処置: 正しいメソッド記述子が転送されているか、またはメソッドの作成が正しく行われているかを確認してください。

ORA-22322 エラーの表 "string"."string" は不適切な構造です。

原因: 指定したエラーの表に、予期される表構造がありません。

処置: DBMS_UTILITY.CREATE_ALTER_TYPE_ERROR_TABLE プロシージャを実行してエラーの表を作成し、その新しいエラーの表を使用して文を再発行してください。

ORA-22323 エラーの表 "string"."string" は存在しません。

原因: そのエラーの表は存在しません。

処置: 正しいエラーの表名を指定して文を再発行してください。

ORA-22324 変更された型にコンパイル・エラーがあります。

原因: ALTER TYPE 文の使用によって、コンパイル・エラーが発生しました。

処置: レポートされたエラーを修正して、文を再発行してください。

ORA-22326 サブタイプを含む場合は、型を FINAL に変更できません

原因: サブタイプを持つ型を FINAL に変更しようとした。

処置: ターゲット型のサブタイプをすべて削除して、FINAL に変更してください。

ORA-22327 依存表がある場合は、型を NOT INSTANTIABLE に変更できません。

原因: 依存表を持つ型を NOT INSTANTIABLE に変更しようとした。

処置: ターゲット型の依存表をすべて削除して、文を再発行してください。

ORA-22328 オブジェクト "*string*".*string*" にエラーがあります。 *string*

原因: ターゲット型の変更によって、依存オブジェクトでエラーが発生しました。

処置: 依存オブジェクト内の問題を修正して、文を再発行してください。

ORA-22329 非オブジェクト型を変更できません。

原因: 非オブジェクト型で ALTER TYPE を実行しようとした。

処置: 最初に非オブジェクト型を削除し、それからオブジェクト型としてそれを再作成してください。

ORA-22330 有効ではない型を変更できません。

原因: 無効な型で ALTER TYPE を実行しようとした。

処置: CREATE OR REPLACE TYPE コマンドを使用して型を変更してください。

ORA-22331 不完全な型を変更できません。

原因: 不完全な型で ALTER TYPE を実行しようとした。

処置: CREATE TYPE を使用して元の型を完全に定義して、ALTER TYPE を実行してください。

ORA-22332 スキーマ "*string*" の依存オブジェクトにエラーがあります。 *string*

原因: ターゲット型の変更によって、依存オブジェクトでエラーが発生しました。

処置: 依存オブジェクト内の問題を修正して、文を再発行してください。

ORA-22333 依存性の型と表が無効であるため、型 "*string*".*string*" をリセットできません

原因: 無効な依存性の型および表を持つ型のバージョンをリセットしようとした。

処置: ALTER TYPE COMPILE 文を使用して無効な依存性の表をすべてコンパイルし、ALTER TABLE UPGRADE INCLUDING DATA 文を使用して依存性の表をすべてアップグレードしてから、文を再発行してください。

ORA-22334 型 "string"."string" をリセットできません。依存性の表は、最新バージョンにアップグレードする必要があります

原因: 依存性の表内のデータが最新バージョンの型にアップグレードされていないときに、型のバージョンをリセットしようとしてしました。

処置: ALTER TABLE UPGRADE INCLUDING DATA 文を使用して依存性の表内のデータをアップグレードして、文を再発行してください。

ORA-22335 クライアントは変更された型を処理することができません。

原因: 9.0.0 より前のクライアントがサーバーで変更された型を要求しました。

処置: 9.0.0 以上のクライアントのみが変更された型にアクセスできます。

ORA-22336 8.0 のイメージ・フォーマットを含む表では、INCLUDING DATA を指定する必要があります

原因: 原因は次のいずれかです。

1. 8.0 のイメージ・フォーマット内の依存性の表を使用して型を変更しようとしてしました。また、NOT INCLUDING TABLE DATA オプションが指定されました。
2. 指定された NOT INCLUDING DATA オプションを使用して、8.0 のイメージ・フォーマット内の表をアップグレードしようとしてしました。

処置: INCLUDING DATA オプションを使用して文を再発行してください。

ORA-22337 アクセスしたオブジェクトの型が展開されています

原因: アクセスしたオブジェクトの型が変更されました。また、クライアントのオブジェクトは以前の型定義に基づいています。

処置: アプリケーションを終了し、アプリケーションを変更して、型の変更を保存してください。SQL*Plus から再接続して、文を再発行してください。

ORA-22338 最終プロパティを変更する場合は、CASCADE INCLUDING DATA を指定する必要があります

原因: CASCADE INCLUDING DATA オプションを指定せずに、依存性の表を持つ型の最終プロパティを変更しようとしてしました。

処置: CASCADE INCLUDING DATA オプションを使用して文を再発行してください。

ORA-22339 属性列が置換可能であるため、非最終に変更できません

原因: 埋込み属性がいくつかの表で置換可能で定義されているときに、型を非最終に変更しようとしてしました。これは、リリース 9.0 での制限事項です。型が非最終に変更されるとき、その型の列がすべてのレベルで置換可能ではないと設定されているからです。したがって、埋込み属性の列の 1 つがすでに置換可能と設定されている場合にエラーが発生します。

処置: 表を再作成して、非最終型のすべての列に NOT SUBSTITUTABLE AT ALL LEVELS を指定してください。その後、ALTER TYPE 文を再発行してください。

ORA-22340 型 "string"."string" を string できません。依存性の表は、最新バージョンにアップグレードする必要があります

原因：依存性の表内のデータが最新バージョンの型にアップグレードされていないときに、バージョンをリセットしようとしたか、型を削除または変更しようとした。

処置：ALTER TABLE UPGRADE INCLUDING DATA 文を使用して依存性の表内のデータをアップグレードしてから、文を再発行してください。

ORA-22341 スーパータイプ・インスタンスをサブタイプに割り当てられません

原因：1つのサブタイプ・インスタンスのみを保持できるコンテナ（接続先）に、スーパータイプ・インスタンスを割当てまたはコピーしようとした。

処置：割当てまたはコピーするソースのランタイム型が、接続先と同じ型または接続先の型のサブタイプであることを確認してください。

ORA-22369 string メソッドに無効なパラメータがあります。

原因：無効なパラメータが SYS.AnyType、SYS.AnyData または SYS.AnyDataSet のこのメソッドに渡されています。

処置：このメソッドに渡されているパラメータを確認し、パラメータが許可されていることを確認してください。

ORA-22370 string メソッドの使用方法が正しくありません。

原因：SYS.AnyType、SYS.AnyData または SYS.AnyDataSet のこのメソッドが不適切に使用されています。

処置：修正方法については、ドキュメントを参照してください。

ORA-22371 存在しない型 string.string、バージョン string のデータが表に含まれています

原因：1つ以上の参照された型が削除されたためにいくつかの古いバージョンの型が削除されました。

処置：これらのデータは、ユーザー定義型全体として読み込まれません。別々のスカラー属性レベルでデータを読み込んでください。

ORA-22600 処理できない 8.0.2（ベータ） VARRAY データが見つかりました。

原因：Oracle8（リリース 8.0.3 以上）が、Oracle8 リリース 8.0.2（ベータ 2）によって作成および保存された VARRAY データを見つけました。Oracle8 は、そのような VARRAY データを理解または処理できません。

処置：表を削除するか、行を削除するか、または VARRAY 列を取り消すことによって、表から VARRAY データを削除してください。その後、VARRAY データを再挿入してください。この変換の自動操作に役立つスクリプトまたは Tool は提供されていません。

ORA-22601 pickler TDS コンテキスト [string] が初期化されていません。

原因：pickler TDS コンテキストを初期化しないで使用しようとした。

処置：OCIPicklerTdsCtxInit を使用して、コンテキストを初期化してください。

ORA-22602 pickler TDS ハンドル [*string*] が正しく形成されていません。

原因: pickler TDS ハンドルを初期化または形成しないで使用しようとしました。

処置: 形成する前に、OCIPicklerTdsInit を使用してハンドルを初期化してください。また、OCIPicklerTdsGenerate を使用して、TDS を形成してから属性をアクセス可能にしてください。

ORA-22603 生成済の TDS ハンドルに属性は追加できません。

原因: 生成済の TDS に属性を追加しようとしました。

処置: まだ生成されていない初期化済 TDS ハンドルを使用してください。

ORA-22604 TDS ハンドルはすでに生成されています。

原因: すでに生成されている TDS ハンドルを生成しようとしました。

処置: まだ生成されていない初期化済 TDS ハンドルを使用してください。

ORA-22605 FDO ハンドル [*string*] が初期化されていません。

原因: 初期化されていない FDO ハンドルを使用しようとしました。

処置: OCIPicklerFdoInit を使用して、FDO ハンドルを初期化してください。

ORA-22606 pickler イメージ・ハンドル [*string*] が正しく構成されていません

原因: イメージ・ハンドルを初期化または構成しないで使用しようとしました。

処置: 構成する前に、OCIPicklerTdsInit を使用してハンドルを初期化してください。また、OCIPicklerImageGenerate を使用して、イメージを構成してから属性をアクセス可能にしてください。

ORA-22607 イメージ・ハンドルはすでに生成されています。

原因: すでに生成されているイメージ・ハンドルを生成しようとしました。

処置: まだ生成されていない初期化済イメージ・ハンドルを使用してください。

ORA-22608 生成済のイメージ・ハンドルに属性は追加できません。

原因: 生成済のイメージに属性を追加しようとしました。

処置: まだ生成されていない初期化済イメージ・ハンドルを使用してください。

ORA-22609 FDO の初期化中にエラー *string* が発生しました。

原因: FDO の初期化中にエラーが発生しました。

処置: 指定エラーに基づいた処置を行ってください。

ORA-22610 イメージ・ハンドルにスカラーを追加中にエラーが発生しました。

原因: イメージ・ハンドルにスカラー属性を追加中にエラーが発生しました。

処置: スカラーを追加する前にイメージ・ハンドルが初期化されていることを確認してください。

ORA-22611 TDS のバージョンが認識できません

原因: 無効な TDS ハンドルが渡されました。

処置: イメージ・ハンドルが、有効な TDS を使用して初期化されていることを確認してください。

ORA-22612 TDS にコレクション TDS の記述がありません。

原因: コレクション構成 / アクセス・ルーチンがイメージにあります、TDS にコレクション TDS の記述がありません。

処置: イメージ・ハンドルでコレクション・ルーチンを起動する前に、コレクション TDS が使用されていることを確認してください。

ORA-22613 buflen がスカラーのサイズと一致しません。

原因: BUFLLEN が正しくありません。

処置: BUFLLEN が正しく、スカラーのサイズと一致していることを確認してください。

ORA-22614 イメージのコレクションを作成中にエラーが発生しました。

原因: コレクションを作成中にエラーが発生しました。

処置: イメージ・ハンドルが初期化されていて、OCIPicklerImageCollBegin がコールされてコレクションが開始されていることを確認してください。

ORA-22615 属性がコレクションではありません。

原因: コレクションでない属性でコレクション・ルーチンが起動されました。

処置: 属性がコレクションであることを確認してください。

ORA-22616 イメージが Oracle 8.1 の形式ではありません。

原因: 起動された関数は Oracle 8.1 のイメージにのみ適応します。

処置: イメージが Oracle 8.1 の形式であることを確認してください。

ORA-22617 イメージ・ハンドル・コレクションにアクセス中、エラーが発生しました。

原因: イメージ・ハンドル・コレクションにアクセス中、エラーが発生しました

処置: イメージが正しく初期化されていて、コレクションが正しい構造になっていることを確認してください。

ORA-22618 イメージ・ハンドルで属性が BAD NULL です。

原因: 問題の属性は NULL 埋込みイメージの属性の可能性があります。

処置: 属性番号が有効、NULL または NOT NULL であることを確認してください。

ORA-22619 すべてのコレクション要素はすでにアクセスされました。

原因: すべてのコレクション要素がすでにアクセスされた後に、コレクション要素にアクセスしようとしました。

処置: この関数を起動しないでください。

ORA-22620 値を保持するにはバッファ・サイズが小さすぎます。

原因: 値を保持するにはバッファ・サイズが小さすぎます。キャラクタ・セット変換中に発生する可能性が高いです。より大きなバッファが必要です。

処置: より大きなバッファに値を渡してください。クライアント・キャラクタ・セットのフォーマットがサーバーのフォーマットとは異なる場合、変換が 4X 拡張になる可能性があります。

ORA-22621 エージェントからオブジェクトを転送中、エラーが発生しました。

原因: エージェント側の pickler ルーチンからエラーが返されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-22625 OCIAnyData が正しく構成されていません。

原因: OCIAnyData をその構成を初期化せずに使用しようとしてしました。

処置: 属性を追加する前に、OCIAnyDataBeginConstruct を使用してハンドルを初期化してください。OCIAnyDataEndConstruct または OCIAnyDataConvert を使用して構成を完了してください。属性にアクセスする前に、適切に構成されていることを確認してください。

ORA-22626 OCIAnyData の構成またはアクセス中に型の不一致が発生しました。

原因: 提供された型が AnyData の型と一致していません。ピース・ワイズ構成またはアクセスを実行しようとした場合は、提供された型が現在の属性の型と一致しません。

処置: 提供された型が構成またはアクセスするオブジェクトの型と一致することを確認してください。

ORA-22627 tc [string] は OBJECT/VARRAY/NESTED TABLE である必要があります。

原因: タイプ・コードが OBJECT/VARRAY/NESTED TABLE ではありません。

処置: タイプ・コードが OCI_TYPECODE_OBJECT、OCI_TYPECODE_VARRAY または OCI_TYPECODE_TABLE であることを確認してください。

ORA-22628 OCIAnyData はすでに構成されています。

原因: すでに構成されている OCIAnyData に属性を追加しようとしてしました。

処置: まだ構成されていない初期化済 OCIAnyData を使用してください。

ORA-22629 OCIAnyData が NULL です。

原因: NULL の OCIAnyData で有効でない操作を実行しようとしてしました。

処置: OCIAnyData が NULL でないことを確認してください。

ORA-22630 属性 [string] が NULL か、正しく構成されていません。

原因: NULL または正しく構成されていない属性が渡されました。

処置: 属性が NULL でないか、または正しく構成されていることを確認してください。

ORA-22631 属性 [string] が正しく構成されていないか、型と一致しません。

原因：正しく構成されていない属性が渡されたか、または入力型と一致しません。

処置：属性が正しく構成され、指定した型と一致することを確認してください。

ORA-22632 AnyDataSet パラメータは現行の操作には有効ではありません。

原因：AnyDataSet パラメータが NULL か、または現行の操作には無効です。

処置：現行の操作については、ドキュメントを参照してください。

ORA-22633 AnyDataSet の解除でエラーが発生しました。

原因：渡された AnyDataSet が有効でない可能性があります。

処置：すべての AnyDataSet パラメータを確認してください。

ORA-22634 AnyDataSet への新規インスタンスの追加でエラーが発生しました。

原因：AnyDataSet の現行インスタンスが完全に構成されていません。

処置：新規インスタンスを追加する前に、現行インスタンスが完全に構成されていることを確認してください。

ORA-22800 ユーザー定義型が無効です

原因：不完全な型をコンストラクタとして使用しようとしてしました。

処置：問合せで使用する前に型定義を完了してください。

ORA-22801 オブジェクト行変数が無効です。

原因：指定されたオブジェクト行変数が、名前解決の有効範囲内にありません。

処置：オブジェクト行変数の指定が正しいことを検証するか、有効範囲で参照できるオブジェクト行変数を使用してください。

ORA-22803 オブジェクト型に属性が含まれていません。

原因：属性のないオブジェクト型の列またはコンストラクタを作成または指定しようとしてしました。このコンテキストでは、1 つ以上の属性を持つオブジェクト型のみを使用できます。

処置：有効なオブジェクト型を指定してください。

ORA-22804 オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されません。

原因：オブジェクト型がオブジェクト、REF、ネストした表または VARRAY のうちのいずれかであるリモート・オブジェクト表またはリモート表の列に対して、問合せまたは DML 操作を実行しようとしてしました。

処置：文中のリモート表の参照を削除してください。

ORA-22805 オブジェクト表またはネストした表に NULL オブジェクトは挿入できません

原因: オブジェクト表またはネストした表に NULL オブジェクトを挿入しようとした。

処置: NULL でないオブジェクトを表に挿入するか、または属性値 NULL のオブジェクトを挿入することを確認してください。

ORA-22806 オブジェクト型または REF 型ではありません。

原因: オブジェクトでも REF でもない項目から属性を取り出そうとしました。

処置: オブジェクト型または REF 型の項目を使用して、操作を再試行してください。

ORA-22807 スカラー型かコレクション型か解決できません

原因: 非スカラー（たとえば、オブジェクト型）項目の使用が無効です。

処置: 項目のデータ型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-22808 REF 参照解除は使用できません

原因: REF 項目の参照解除によって型の属性にアクセスしようとした。

処置: その項目を、オブジェクト型の REF 項目のかわりにオブジェクト型にしてください。

ORA-22809 属性が存在しません。

原因: オブジェクト型の属性にアクセスしようとしたが、属性が存在しません。

処置: 属性の参照が有効であるかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22810 REF 参照解除でオブジェクト属性は変更できません

原因: UPDATE 文で、REF 列の参照解除によってオブジェクトの属性を変更しようとした。

処置: REF の参照オブジェクトを含んだ表を更新するか、または REF 列をオブジェクト型の列に変更してください。

ORA-22811 SQL のパックされた ADT の属性にアクセスできません。

原因: パックされた ADT 列 / 表の属性にアクセスしようとした。

処置: パックされていない ADT 列を使用するか、または ADT 全体を取り出してください。

ORA-22812 ネストした表の列の記憶表は参照できません

原因: ネストした表の列の記憶表へのアクセスは、このコンテキストでは許可されません。

処置: ネストした表の列を含んだ親表に対して文を発行してください。

ORA-22813 オペランド値がシステム制限値を超過しています

原因：オブジェクトまたはコレクション値が大きすぎます。ソート・コンテキストで値のサイズが 30K を超えているか、または使用可能メモリーに対してサイズが大きすぎます。

処置：別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22814 属性または要素の値が型で指定された値を超えています

原因：オブジェクト型の属性またはコレクション要素の値が、タイプ宣言で指定されたサイズを超えています。

処置：別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22816 RETURNING 句ではサポートされていない機能です。

原因：現在、RETURNING 句は、オブジェクト型列、LONG 列、リモート表、副問合せでの INSERT および RETURNING 句の中の参照解除ではサポートされていません。

処置：値を取得するために個別の SELECT 文を使用してください。

ORA-22817 DEFAULT 句で副問合せは使用できません。

原因：列の DEFAULT 句式に副問合せを使用しようとしてしました。

処置：副問合せを DEFAULT 句から削除してください。

ORA-22818 副問合せ式はここでは使用できません

原因：副問合せがサポートされていない場所で使用されました。

処置：副問合せのない文に書きなおしてください。

ORA-22819 入力値の有効範囲がターゲットの有効範囲に対応していません。

原因：予期した表と異なる表への有効範囲内の REF 値を操作しようとしてしました。

処置：予期した表の有効範囲にある REF を使用し、操作を再試行してください。

ORA-22826 非インスタンス・タイプのインスタンスを構成できません。

原因：コンストラクタとして、非インスタンス・タイプを使用しようとしてしました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-22828 入力パターンまたは置換パラメータが 32K サイズの制限を超えています

原因：LOB SQL 関数の VARCHAR2 または CLOB の書式内のパターンまたは置換文字列に提供された値が 32K サイズ制限を超えました。

処置：短いパターンを使用するか、または複数のパスで長いパターン文字列を処理してください。

ORA-22850 LOB 記憶域オプションの指定が重複しています

原因：LOB 記憶域オプション（CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX）が2度以上指定されています。

処置：LOB 記憶域オプションはすべて1度のみ指定してください。

ORA-22851 CHUNK LOB 記憶域オプションの値が無効です

原因：CHUNK LOB 記憶域オプションの値は整数である必要があります。

処置：適切な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22852 PCTVERSION LOB 記憶域オプションの値が無効です

原因：PCTVERSION LOB 記憶域オプションの値は整数である必要があります。

処置：適切な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22853 LOB 記憶域オプションの指定が無効です

原因：LOB 記憶域オプションが指定されていません。

処置：LOB 記憶域句の一部として、CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX のうちの1つを指定してください。

ORA-22854 LOB 記憶域索引のオプションが無効です

原因：有効な LOB 記憶域索引のオプションが指定されていません。

処置：LOB 記憶域索引の一部として、INITTRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE のうちの1つを指定してください。

ORA-22855 LOB 記憶域セグメントのオプション名が正しく指定されていません

原因：列リストで、LOB 記憶域セグメントのオプション名が複数列で指定されました。

処置：各列の LOB 記憶域をオプション名のみで指定してください。

ORA-22856 オブジェクト表に列を追加できません。

原因：オブジェクト表に列を追加しようとしてしました。オブジェクト表の定義はオブジェクト型に基づいているため、列の追加によってオブジェクト表を変更できません。

処置：その他の属性で新規の型を作成し、その新規の型を使用してオブジェクト表を作成してください。新規オブジェクト表には、必要な列が含まれます。

ORA-22857 オブジェクト表の列を変更できません。

原因：既存の列を変更してオブジェクト表を変更しようとしてしました。オブジェクト表の定義はオブジェクト型に基づいているため、既存の列の変更によってオブジェクト表を変更できません。表定義は、対応する型と同期化されている必要があります。

処置：必要な属性で新規の型を作成し、その新規の型を使用してオブジェクト表を作成してください。新規オブジェクト表には、必要な列が含まれます。

ORA-22858 データ型の変更が無効です。

原因：列型をオブジェクト、REF、ネストした表、VARRAY または LOB 型に変更しようとした。

処置：必要な型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用してカレント列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22859 列の変更が無効です。

原因：オブジェクト、REF、VARRAY、ネストした表または LOB の列型を変更しようとした。

処置：必要な型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用してカレント列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22860 オブジェクト型が必要です。

原因：非オブジェクト型を使用してオブジェクト表を作成しようとしたか、または非オブジェクト型への REF である列を作成しようとした。

処置：表定義または列定義で有効なオブジェクト型を使用してください。

ORA-22861 ユーザー定義型が無効です

原因：存在しない型で列またはオブジェクト表を作成しようとした。

処置：表定義または列定義で有効な型を指定してください。

ORA-22862 指定されたオブジェクト識別子が既存のオブジェクト識別子と一致しません。

原因：型のオブジェクト識別子を指定しようとしたが、同名の不完全な型の既存識別子と一致しません。

処置：正しいオブジェクト識別子を指定するか、または識別子を文から削除してください。

ORA-22863 データ型 *string.string* にシノニムは指定できません。

原因：データ型へのシノニムの指定はサポートされていません。

処置：データ型にシノニムを指定しないでください。

ORA-22864 LOB 索引は変更または削除できません。

原因：LOB 索引を変更または削除しようとした。

処置：システム定義の LOB 索引に直接操作を行わないでください。対応する LOB 列に操作を実行してください。

ORA-22865 列が複数指定されています。

原因：複数の列を指定しようとしたが、指定できるのは 1 つのみです。

処置：単一の列を指定し、操作を再試行してください。

ORA-22866 デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

原因: キャラクタ LOB が定義されましたが、デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

処置: キャラクタ LOB を定義する前に、キャラクタ・セットの幅が固定されていることを確認してください。

ORA-22868 LOB 列のセグメントはありますが、表セグメントは異なる表領域にあります。

原因: 削除しようとした表領域には、表の LOB 列のセグメントはありますが、表セグメントがありません。

処置: この表領域内に、表でないセグメントを持つ LOB 列で表を検索してください。それらの表を削除してから、表領域の削除を再実行してください。

ORA-22869 型依存階層の深さが制限値を超過しています

原因: 深さが 1024 を超える型依存階層が作成されました。

処置: 型依存階層の深さを減らして、再作成してください。

ORA-22870 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようとしています。

原因: 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようとしてしました。

処置: 最初に非オブジェクト型を削除し、それからオブジェクト型としてそれを再作成してください。

ORA-22871 不完全な型で ALTER TYPE with REPLACE オプションは使用できません。

原因: 不完全な型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようとしてしました。

処置: 元の型を完全に定義してから、ALTER TYPE with REPLACE オプションを使用してください。

ORA-22872 主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つ表では OID INDEX 句を使用できません

原因: 主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つ表で OID INDEX を作成しようとしてしました。

処置: OID INDEX 句を削除してください。

ORA-22873 主キー・ベースのオブジェクト表に主キーが指定されていません。

原因: 主キーを指定しないで主キー・ベースのオブジェクト表を作成しようとしてしました。

処置: 主キーを指定し、操作を再試行してください。

ORA-22874 属性 "string" は型 "string" の一部ではありません。

原因：USER_DEFINED 句で指定された属性は REF 型の属性ではありません。

処置：USER_DEFINED 句で指定された名前が、REF 型の有効な属性の名前であることを確認してください。

ORA-22875 主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つオブジェクト表の主キーは削除できません。

原因：主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つオブジェクト表の主キーを削除しようとした。

処置：DROP PRIMARY KEY 句を削除してください。

ORA-22876 このユーザー定義型は許可されないか、またはこのコンテキストでは使用できません。

原因：許可されていないユーザー定義型を作成しようとしたか、表列を作成しようとしたか、またはサポートされていない型のデフォルト・コンストラクタを使用しようとした。

処置：このコンテキストで許可されている型であることを確認してください。

ORA-22877 LOB 列の HASH パーティションまたはサブパーティションに無効なオプションが指定されました。

原因：LOB パーティションまたはサブパーティションの物理属性の解析中に、1 つ以上の無効なオプションが見つかりました。LOB パーティションが HASH メソッドを使用してパーティション化された表にあるか、または LOB サブパーティションが HASH メソッドを使用してサブパーティション化された表にあります。HASH パーティションまたはサブパーティションに対して有効なオプションは、TABLESPACE のみです。

処置：無効なオプションを削除してください。

ORA-22878 重複する LOB パーティションまたはサブパーティションが指定されました。

原因：LOB 列にすでに指定されたパーティションまたはサブパーティションを指定しようとした。

処置：重複する指定を削除してください。

ORA-22879 パーティション表には LOB INDEX 句を使用できません。

原因：パーティション表の CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文に LOB INDEX 句を指定しようとした。

処置：LOB INDEX 句を削除してください。

ORA-22880 REF が無効です。

原因：アクセスした REF が無効です。

処置：REF を変更してから操作を再試行してください。

ORA-22881 REF の参照先がありません

原因: REF に対応するオブジェクトにアクセスしましたが、対応するオブジェクトは存在しません。

処置: REF 値が参照しているオブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-22882 オブジェクトの作成に失敗しました。

原因: データベースでオブジェクトを作成できません。

処置: オブジェクト表が存在し、オブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22883 オブジェクトの削除に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースから削除できませんでした。

処置: オブジェクト表が存在するかどうかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22884 オブジェクトの変更に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースで変更できませんでした。

処置: オブジェクト表が存在し、オブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22885 非永続オブジェクトに対して REF は取得できません

原因: オブジェクト表の中のオブジェクト以外の何かに対して、REF を取得しようとしました。REF を取得できるのは、オブジェクト表の中のオブジェクトのみです。

処置: オブジェクト表から REF 値を取得するために問合せを書きなおしてください。

ORA-22886 有効範囲表 "string" (スキーマ "string") はオブジェクト表ではありません

原因: REF 列に対して指定された有効範囲表は、オブジェクト表ではありません。

処置: 有効範囲表がオブジェクト表であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22887 REF 列の型が有効範囲表の列の型と一致しません

原因: REF 列に指定された型と、有効範囲表に指定された型が異なっています。

処置: REF 列の型と有効範囲表の型が同一であることを確認してください。

ORA-22888 REF 列に対する SCOPE 句の指定が重複しています。

原因: 1 つの REF 列に対して複数の SCOPE 句が指定されました。

処置: 重複した SCOPE 句を削除して操作を再試行してください。

ORA-22889 REF 値が有効範囲表を示していません

原因: 有効範囲表を参照しない REF 値を挿入しようとしました。

処置: REF 値が有効範囲表を参照していることを確認してください。

ORA-22890 REF 列の制約に対して制約名は指定できません。

原因: REF 列の制約に対して制約名を指定しようとしました。

処置: 制約名を削除して操作を再試行してください。

ORA-22891 REF 制約に列は複数指定できません。

原因: 1 つの REF 制約で複数の列を指定しようとしました。

処置: 各列に対して別個の制約を指定して、操作を再試行してください。

ORA-22892 有効範囲表 "string" がスキーマ "string" に存在しません

原因: REF 列に対して指定された有効範囲表が存在しません。

処置: 有効範囲表が存在することを確認して、操作を再試行してください。

ORA-22893 制約は REF 列にのみ指定できます

原因: 指定された制約は、REF 以外の列に適用できません。

処置: 制約を削除して操作を再試行してください。

ORA-22894 制約は、空ではない表の既存の有効範囲外の REF 列には追加できません

原因: 1 つ以上の行を含む表で既存の有効範囲外の REF 列に対して、制約を追加しようとしました。

処置: 制約指定を削除するか、または表を空にしてから制約を追加してください。

ORA-22895 参照表 "string" (スキーマ "string") はオブジェクト表ではありません。

原因: REF 列に対して指定された参照表は、オブジェクト表ではありません。

処置: 参照表がオブジェクト表であることを確認してください。操作を再試行してください。

ORA-22896 REF 列 "string" に有効範囲制約と参照制約は同時に設定できません。

原因: REF 列に参照制約と有効範囲制約があります。参照制約は、有効範囲制約を示しています。

処置: 参照制約または有効範囲制約のいずれかを削除して、操作を再試行してください。

ORA-22897 ユーザー定義の REF 列 "string" に有効範囲句が指定されていません

原因: ユーザー定義の REF 列に有効範囲制約がありません。

処置: 有効範囲制約をユーザー定義の REF 列に指定して、操作を再試行してください。

ORA-22898 "string" の既存の有効範囲句が参照制約に記載された表以外の表を指定しています。

原因：参照整合性制約に記載された表が、REF 列の有効範囲表と異なります。

処置：参照整合性制約の REF 列の有効範囲表を指定し、操作を再試行してください。

ORA-22899 参照列に有効範囲と ROWID 制約の両方は指定できません

原因：REF 列に有効範囲および ROWID 制約の両方を指定しようとした。

処置：ROWID または有効範囲制約のいずれかを削除して、操作を再試行してください。

ORA-22900 副問合せの SELECT リスト項目がコレクション型ではありません。

原因：THE 副問合せは、ネストした表または VARRAY 項目を SELECT する必要があります。

処置：副問合せを変更して、ネストした表または VARRAY 項目を SELECT してください。

ORA-22901 ネストした表、VARRAY、LOB 属性のいずれかとオブジェクト型の比較はできません

原因：MAP または ORDER メソッドがないときに、ネストした表、VARRAY、LOB 属性のいずれかとオブジェクト型を比較しようとした。

処置：オブジェクト型に MAP または ORDER メソッドを定義してください。

ORA-22902 CURSOR の式は使用できません。

原因：副問合せの CURSOR が許可されるのは、問合せのトップレベル SELECT リストでのみです。

処置：CURSOR 式を削除し、操作を再試行してください。

ORA-22903 MULTISSET の式は使用できません。

原因：MULTISSET の式は、ネストした表または VARRAY 型への CAST の内部でのみ使用できます。

処置：MULTISSET (副問合せ) 式をネストした表または VARRAY 型への CAST の内部に入れてください。

ORA-22904 ネストした表の列の参照は無効です

原因：ネストした表の列に対する参照が無効です。

処置：ネストした表の列の無効な参照を削除し、操作を再試行してください。

ORA-22905 ネストしていない表項目の行にはアクセスできません

原因：項目の行にアクセスしようとしたが、その項目の型は解析時に不明であるか、またはネストした表項目ではありません。

処置：CAST を使用して、ネストした表型に項目をキャストしてください。

ORA-22906 式またはネストした表のビュー列で DML は実行できません

原因：式またはネストした表のビュー列で DML を実行しようとしたますが、そのビュー列では実表のネストした表の列が必要です。

処置：DML で許可されているのは実表のネストした表の列のみです。

ORA-22907 ネストした表または VARRAY ではない型に対する CAST は無効です

原因：ネストした表または VARRAY ではない型に対して CAST しようとした。

処置：ネストした表または VARRAY 型に対して CAST を再指定してください。

ORA-22908 NULL の表値を参照しています。

原因：THE 副問合せまたはネストした表の列の評価結果が NULL 値になりましたが、これは NULL 表インスタンスを示します。THE 副問合せまたはネストした表の列は、NULL でない 1 つの表インスタンスを示す必要があります。

処置：THE 副問合せまたはネストした表の列の評価結果が、NULL でない 1 つの表インスタンスになることを確認してください。THE 副問合せを挿入のターゲットにした INSERT 文のコンテキストで発生する場合は、空のネストした表のコンストラクタを指定した親表の行のネストした表の列を更新することで空のネストした表のインスタンスが作成されていることを確認してください。

ORA-22909 最大 VARRAY 制限を超過しました

原因：VARRAY の作成に使用された要素数の合計が、指定された VARRAY 制限を超えています。

処置：指定された制限値を超える要素数を VARRAY の作成に使用しないでください。

ORA-22910 ネストした表にスキーマ名は指定できません

原因：ネストした表の列（または属性）の記憶域句で、表名の修飾にスキーマ名が使用されています。

処置：スキーマ名の修飾子を削除して、ネストした表の項目の記憶域句を再指定してください。デフォルトでは、ネストした表の項目に対する記憶表は、ネストした表を含む表と同じスキーマで作成されます。

ORA-22911 ネストした表の項目に対する記憶域の指定が重複しています

原因：ネストした表の列に対する記憶域句が 2 度以上指定されています。

処置：重複した記憶域指定を削除してください。

ORA-22912 指定された列または属性がネストした表の型ではありません

原因：列または属性の記憶域句が指定されていますが、ネストした表の列または属性ではありません。

処置：有効なネストした表の列または属性を指定してください。

ORA-22913 ネストした表の列または属性には表名を指定する必要があります

原因: ネストした表の列または属性に記憶域句が指定されていません。

処置: ネストした表の列または属性にネストした表の記憶域句を指定してください。

ORA-22914 ネストした表の DROP はサポートされていません

原因: ネストした表を削除しようとしてしました。

処置: ネストした表は明示的に削除できません。ネストした表は、その表を含んでいる親表を削除することでのみ削除できます。

ORA-22915 ネストした表は ADD/MODIFY 列に変更できません

原因: ネストした表の列を追加または変更しようとしてしました。ネストした表で、列を追加または変更することはできません。

処置: ネストした表の列を追加または変更するには、親表のネストした表の列を変更してください。

ORA-22916 ネストしたカーソルを持つ問合せで正確な FETCH ができません

原因: 問合せからカーソルが返される場合は、指定された問合せで正確な FETCH はできません。

処置: 正確な FETCH を使用しないでください。

ORA-22917 この列または属性に対する記憶域句の指定には VARRAY を使用します。

原因: VARRAY 列または属性に対する記憶域句の指定に VARRAY が使用されていません。

処置: 列の記憶域句の前に VARRAY を指定して、文を再実行してください。

ORA-22918 指定した列または属性が VARRAY 型ではありません。

原因: VARRAY 型ではない列または属性に VARRAY 記憶域句を定義しようとしてしました。

処置: VARRAY 列または属性に VARRAY 記憶域句を指定してください。

ORA-22919 参照先がない REF エラーが発生したか、または待機なしの要求に対するオブジェクトのロックに失敗しました

原因: このエラーの原因は、次のいずれかの可能性があります。REF に対応するオブジェクトが存在しないか、またはオブジェクトが別のユーザーによってロックされていて待機なし要求を持つそのロックが失敗しました。

処置: REF 値が既存のオブジェクトを参照しているか、または待機なしオプションを持つロック要求が発行されていることを確認してください。

ORA-22920 LOB 値を含む行がロックされていません。

原因: LOB 値を含む行は、LOB 値を更新する前にロックされている必要があります。

処置: LOB 値を更新する前に、LOB 値を含む行をロックしてください。

ORA-22921 入力バッファの長さが要求された量よりも小さいです。

原因：バッファ長が不十分なため、要求されたデータを保持できません。

処置：入力パラメータで指定したバイト数 / 文字数が、入力バッファ長パラメータで指定したバイト数より大きくなっていないことを確認してください。必要に応じて、入力バッファに追加の領域を割り当ててください。

ORA-22922 LOB 値が存在しません。

原因：入力ロケータに関連付けられた LOB 値が存在しません。ロケータの情報が、既存の LOB を参照していません。

処置：SELECT 文を発行することによりロケータを再配置し、操作を再試行してください。

ORA-22923 ストリーム式 LOB 書込みで指定されたデータ量が 0（ゼロ）です。

原因：ストリーミング・メカニズム（無制限の書込み）によって LOB 値を書き込もうとしましたが、ストリームに対する入力データ量が 0（ゼロ）として指定されていました。これは、ユーザーが 0（ゼロ）バイトを LOB 値に書き込もうとしていることを意味しています。

処置：0（ゼロ）バイトより大きい値を LOB 値に書き込んでください。

ORA-22924 スナップショットが古すぎます。

原因：一貫した読込みを行うのに必要であった LOB 値のバージョンが、すでに別の書込み機能によって上書きされていました。

処置：バージョン・プールを拡大してください。

ORA-22925 LOB 値の最大許容サイズを超過しました

原因：LOB 値に書き込もうとしているデータ量が多すぎます。LOB サイズは、4GB までに制限されています。

処置：さらに小さい LOB オフセットで書込みを開始するか、またはデータ量を少なくして LOB 値に書き込んでください。

ORA-22926 指定された切捨ての長さが現行の LOB 値の長さを超えています。

原因：LOB 値を切り捨てるための入力の長さが、現行の LOB 値の長さを超えています。

処置：指定された切捨ての長さより LOB 値の方が短いので、LOB 値を切り捨てる必要がない場合もあります。または、実際に LOB 値の切捨てが必要な場合は、切り捨てる長さを短くしてください。

ORA-22927 指定した LOB ロケータは無効です。

原因: 原因は次のいずれかです。

1. LOB ロケータが初期化されていない。
2. ロケータは BFILE 用だが、ルーチンは BLOB/CLOB/NCLOB ロケータを要求している。
3. ロケータは BLOB/CLOB/NCLOB だが、ルーチンは BFILE ロケータを要求している。
4. トリガー本体で LOB を更新しようとしたが、トリガー本体での LOB は読み取り専用である。

処置: 原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. 変数ロケータを選択するか、または LOB ロケータを空に設定することにより、LOB ロケータを初期化してください。
2. 正しいタイプのロケータをルーチンに移してください。
3. 2 と同じ処置を行ってください。
4. LOB 値を更新するトリガー本体コードを削除してください。

ORA-22928 ディレクトリにおける権限が無効です。

原因: ディレクトリに対して無効な権限を許可または取り消そうとしました。

処置: ディレクトリで付与または取消しができる権限は、CREATE、DELETE、READ および WRITE 権限のみです。その他の権限の付与または取消しは行わないでください。

ORA-22929 ディレクトリが無効か、または存在しません。

原因: 要求されたディレクトリ名は無効であるか、または存在しません。

処置: 有効な名前を指定してください。

ORA-22930 ディレクトリが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとしてしました。

処置: 名前が正しいかどうかを確認してください。

ORA-22950 MAP または ORDER メソッドのないオブジェクトは順序付けできません。

原因: 等式および不等式を除いたすべての比較演算に対して、オブジェクト型では MAP または ORDER メソッドが定義されている必要があります。

処置: オブジェクト型に MAP または ORDER メソッドを定義してください。

ORA-22951 ORDER メソッドから NULL が戻されました。

原因: 2 つのオブジェクト値の比較に使用された ORDER メソッドから NULL が戻されました。これは許可されていません。

処置: NULL を戻さないように ORDER メソッドを再定義してください。

ORA-22970 名前がオブジェクト・ビューと一致しません。

原因：式がビュー名でないか、または指定された名前がオブジェクト・ビューに対応していません。

処置：式をオブジェクト・ビュー名に置き換えてください。

ORA-22971 PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子に対するデータ型が無効です。

原因：オブジェクト・ビューの作成時に、PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子に対して許可されないデータ型が WITH OBJECT OID 句の式で指定されました。

処置：式を適切なスカラー・データ型の 1 つと置き換えてください。

ORA-22972 PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子で NULL 値は使用できません。

原因：PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子の構成値が NULL でした。

処置：MAKE_REF システム関数の式またはオブジェクト・ビューの WITH OBJECT OID 句の属性における式が NULL を評価しないことを確認してください。

ORA-22973 オブジェクト識別子のサイズが最大値を超過しています

原因：オブジェクト・ビューの PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子のサイズが、最大値の 65535 バイトを超えています。

処置：オブジェクト・ビューの作成時、WITH OBJECT OID 句に指定する PRIMARY KEY 属性を減らすかまたは小さくしてください。

ORA-22974 WITH OBJECT OID 句がありません。

原因：オブジェクト・ビューの作成時に、WITH OBJECT OID 句が指定されませんでした。

処置：WITH OBJECT OID 句を指定してください。

ORA-22975 このオブジェクト・ビューに対して PRIMARY KEY に基づいた REF は作成できません。

原因：MAKE_REF 関数で指定されたオブジェクト・ビューに、PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子がありません。このようなビューでは、PRIMARY KEY に基づいた REF を作成できません。

処置：MAKE_REF 関数の PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子を保持するオブジェクト・ビューを指定してください。

ORA-22976 MAKE_REF に対する引数の数が正しくありません。

原因：MAKE_REF に対する引数の数が、オブジェクト・ビューの PRIMARY KEY 属性の数と異なります。

処置：MAKE_REF に対して必要なすべての引数を指定してください。

ORA-22977 属性がないか、または無効です。

原因: WITH OBJECT OID 句の属性名がないか、または無効です。

処置: オブジェクト・ビューのオブジェクト型の有効な属性を指定してください。

ORA-22978 WITH OBJECT OID 句で使用できるのは、単純な属性名のみです。

原因: WITH OBJECT OID 句でネストされた属性を指定しようとしてしました。

処置: オブジェクト・ビューのオブジェクト型のトップレベル属性を指定してください。

ORA-22979 オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF を挿入できません。

原因: オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF を、REF 値を生成するシステムを格納する REF 列に挿入しようとしてしました。

処置: 挿入しようとした REF が、オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF でないことを確認してください。

ORA-22980 WITH OBJECT OID 句に一連の属性を指定してください。

原因: WITH OBJECT OID DEFAULT 句が使用されましたが、基礎となるビューまたは表に OID がありません。

処置: WITH OBJECT OID 句の属性を指定して、オブジェクト・ビューに対する主キー・ベースのオブジェクト識別子を作成してください。

ORA-22981 システム生成の OID を持つ表 / ビューを指定する必要があります。

原因: スーパービューがシステム生成の OID を持つ表 / ビューに基づいています。また、サブビューも同様の表 / ビューに基づいている必要があります。

処置: システム生成の OID を持つ表 / ビューを指定して、操作を再試行してください。

ORA-22982 このビューの下にサブビューを作成できません。

原因: ビューは、OID に基づく主キーを持つ表 / ビューから OID を導出します。また、サブビューはそのようなビューの下では作成できません。

処置: システム生成の OID を持つビューまたは WITH OBJECT ID 句に属性を指定して作成されたビューを指定して、操作を再試行してください。

ORA-22983 ユーザー定義の REF ではありません

原因: ユーザー定義の REF 値が使用される必要があるシステム生成の REF 値を使用しようとしてしました。

処置: REF 値がユーザー定義であることを確認してください。

ORA-22984 view query cannot contain references to a super view

原因: ビューを定義する問合せが、作成されるビューのスーパービューへの参照を含みます。

処置: ビューの問合せがスーパービューを参照しないことを確認してください。

ORA-22990 LOB ロケータは複数のトランザクションにまたがることはできません。

原因：あるトランザクションですでに選択されている LOB ロケータを別のトランザクションで使用できません。

処置：LOB ロケータを再選択して、操作を再試行してください。

ORA-22991 引数 *string* に割り当てられた領域が不足しています。

原因：引数に割り当てられた領域より大きいデータが引数に返されます。

処置：引数に割り当てる領域を増やしてください。

ORA-22992 リモート表から選択された LOB ロケータは使用できません。

原因：リモート LOB 列の参照はできません。

処置：リモート表での LOB への参照を削除してください。

ORA-22993 指定された入力量は実際のソース量を超えています。

原因：原因は次のいずれかです。

1. LOB 書込みについて、受け取ったデータ量が送付表示された予想データ量と異なる。
2. LOB のコピーおよびファイルからのロードについて、明記された入力量がコピー / ロードされる以前に、ソースの終わりの LOB/FILE 値に到達した。

処置：原因に応じて、次の処置を行ってください。

1. OCI の一定量方式メカニズムをポーリングまたはコールバック関数と一緒に使用した場合に発生します。明記された量を送るため、またはどのようなデータ量でも送ることができるよう入力量として 0 (ゼロ) をパスさせるために、コードを変更してください。
2. 開始ソース・オフセットに与えられたソース LOB/FILE に対し、明記された入力量が大きすぎる場合に発生します。開始ソース・オフセットを減少させるか、またはコピー / ロードする量を減少させてください。

ORA-22994 ソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

原因：LOB COPY または LOB LOADFROMFILE のソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

処置：LOB の長さを確認し、ソース・オフセットを調整してください。

ORA-22995 TABLESPACE DEFAULT オプションはこのコンテキストで無効です。

原因：TABLESPACE DEFAULT オプションは、次のコンテキストの LOB 列にのみ指定できます。

- パーティション表の表レベル。
- コンポジット・パーティションのパーティション・レベル。

前述以外のコンテキストで TABLESPACE DEFAULT オプションを使用しようとしてしました。

処置：TABLESPACE DEFAULT オプションを削除してください。

ORA-22996 NEXT エクステント・サイズが LOB チャンク・サイズよりも小さいです

原因：NEXT エクステント・サイズが LOB チャンク・サイズより小さくなるように LOB セグメントを作成または変更しようとしてしました。

処置：LOB チャンク・サイズと同じまたはそれ以上のサイズの NEXT エクステント・サイズを指定してください。

ORA-22997 LOB として格納された VARRAY が表レベルで指定されていません。

原因：パーティション・メンテナンスまたは MOVE TABLE 文で、VARRAY 列をパーティション / サブパーティション・レベルで LOB として格納されるように指定しようとしてしました。ただし、この VARRAY 列は表の作成時に表レベルで LOB として格納されるように指定されていません。

処置：表の作成時に、VARRAY 列を表レベルで LOB として格納されるように指定してください。表の作成時に表レベルで指定しない場合は、VARRAY 列をパーティション / サブパーティション・レベルで LOB として格納されるように指定しないでください。

ORA-22998 マルチバイトのキャラクタ・セットの CLOB または NCLOB はサポートされていません

原因：固定幅または可変幅マルチバイト・キャラクタ・セットの CLOB または NCLOB が、マルチバイト LOB データをサポートしない SQL 文字関数に渡されました。

処置：DBMS_LOB.INSTR() および DBMS_LOB.SUBSTR() のような DBMS_LOB 関数を使用するか、または PLSQL DBMS_LOB.READ/WRITE を使用して LOB データにアクセスしてください。

ORA-23300 string

原因：このエラーが発生する原因となったストアド・プロシージャ RAISE_SYSTEM_ERROR がコールされました。

処置：エラー・メッセージの記述どおりに問題を修正するか、詳細をアプリケーション管理者またはデータベース管理者に問い合わせてください。

ORA-23301 遅延 RPC 接続先モードの複合使用です。

原因：レプリケーション・カタログが決定した遅延 RPC の接続先が、同一トランザクションの他のメカニズムで決定された接続先と混在していました。

処置：同一トランザクション内で接続先タイプを混在させないでください。

ORA-23302 遅延 RPC 時、アプリケーションに通信障害が発生しました。

原因：遅延 RPC 時、アプリケーションに通信障害が発生しました。

処置：通信がリストアされたら、アプリケーションを再試行してください。

ORA-23303 遅延 RPC 時、アプリケーションに一般例外が発生しました。

原因：遅延 RPC 時、アプリケーションに一般例外が発生しました。

処置：アプリケーションによって判断してください。

ORA-23304 無効な遅延 RPC です (引数 *string*、*string*、コール *string*、*tidstring* 内)。

原因：カウント・パラメータ DBMS_DEFER.CALL によって決定された正しい数の引数を使用しないで、遅延 RPC が発行されました。

処置：引数の数がカウントと必ず一致するようにしてください。

ORA-23305 遅延 RPC 内部エラー: *string*

原因：遅延 RPC で内部エラーが発生しました。

処置：このエラーとその他の情報をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23306 スキーマ *string* が存在しません。

原因：スキーマ名が NULL であるか、綴りが誤っているか、またはスキーマがローカルに存在していません。

処置：スキーマを正しく指定するか、または CREATE USER を使用してスキーマを作成してください。

ORA-23307 レプリケートされたスキーマ *string* がすでに存在します

原因：指定したデータベースは、指定したスキーマをすでにレプリケートしています。

処置：別のスキーマまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23308 オブジェクト *string.string* が存在しないか、無効です。

原因：指定した名前が NULL であるか、綴りが誤っているか、指定した型が誤っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケーション・オブジェクトとして存在していません。

処置：オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOSITORY 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23309 オブジェクト *string.string* (型 *string*) が存在します

原因: 同一のネームスペースにオブジェクトが存在し、それが別の型または形である可能性があります。または、同じオブジェクトが別のオブジェクト・グループに REPOBJECT としてすでに登録されています。

処置: 違反しているオブジェクトを SQL DROP コマンドを使用して削除するか、違反しているオブジェクトの登録を DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT() を使用して削除してください。または、RETRY や USE_EXISTING_OBJECT などのパラメータ boolean に TRUE を使用して要求を再度呼び出してください。

ORA-23310 オブジェクト・グループ "*string*". "*string*" は停止していません。

原因: 要求した操作を行うには、オブジェクト・グループを中断する必要があります。

処置: REPGROUP の MASTERDEF で SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を呼び出して、状態が quiesced に変わるまで待ち、元の要求を再試行してください。

ORA-23312 *string* によれば masterdef ではありません。

原因: グループ名が NULL であるか、綴りが誤っています。あるいは、起動したデータベースまたは指定されたデータベースが MASTERDEF ではないか、マスターのいずれかが起動データベースを MASTERDEF として認識していません。

処置: 指定したグループ名および MASTERDEF が両方とも正しい場合は、MASTERDEF に接続して要求を再試行するか、または RELOCATE_MASTERDEF を使用して（問題の）データベースに MASTERDEF を再配置してください。

ORA-23313 オブジェクト・グループ "*string*". "*string*" は、*string* でマスター化されていません。

原因: グループ名が NULL であるか、または綴りが誤っています。または、起動したデータベースがマスターではないか、または起動データベースが指定されたデータベースをマスターとして認識していません。

処置: 指定したグループ名が正しい場合は、カレント・マスターに接続して要求を再試行し、ADD_MASTER_DATABASE を使用して起動データベースをマスターにしてください。または、起動データベースがマテリアライズド・ビュー・サイトの場合は、SWITCH_MVIEW_MASTER を使用してください。

ORA-23314 データベースは "*string*". "*string*" のマテリアライズド・ビュー・サイトではありません。

原因: 起動データベースが、指定されたオブジェクト・グループのマテリアライズド・ビュー・データベースではありません。

処置: 必要なマテリアライズド・ビュー・データベースに接続して要求を再試行するか、または CREATE_MVIEW_REPSHEMA や CREATE_MVIEW_REPGROUP を使用して、起動データベースをマテリアライズド・ビュー・サイトにしてください。

ORA-23315 repcatlog のバージョンまたは要求 *string* はバージョン *string* でサポートされていません。

原因: 互換性のない REPCAT バージョンが使用されているか、または REPCATLOG レコードが破損しています。

処置: 互換性のある REPCAT バージョンにマスターを変換するか、または要求を再試行してください。

ORA-23316 masterdef は *string* です。

原因: 要求された操作は masterdef サイトで許可されていません。

処置: masterdef を別のマスターに再配置して、操作を再試行してください。

ORA-23317 通信障害が発生しました

原因: リモート・データベースがアクセス不能です。

処置: リモート・データベースが動作していること、通信ネットワークが機能していること、該当するデータベース・リンクが存在することを確認してください。

ORA-23318 DDL 障害が発生しました

原因: ユーザーが提供した DDL またはシステムが生成した DDL が正しく実行されませんでした。

処置: DDL、データベースの状態、REPCATLOG、ALL_ERRORS を調べて、障害が発生した原因を判断してください。

ORA-23319 パラメータ値 *string* が無効です

原因: 指定したパラメータ値が NULL であるか、綴りが誤っているか、またはサポートされていません。

処置: ドキュメントを参照して、状況に適したパラメータ値を使用してください。

ORA-23320 この要求は値 *string* および *string* のため失敗しました。

原因: REPCATLOG レコードの DDL レコードが欠落しているか、または REPCAT ビューに一貫性がありません。

処置: 要求を再試行するか、またはビューに一貫性を持たせてください。

ORA-23321 パイプ名は NULL にできません

原因: NULL のパイプ名を使用して DBMS_PIPE をコールしました。

処置: パイプ名を調べて、NULL でないパイプ名を使用して関数をコールしてください。

ORA-23322 パイプ・アクセスの権限エラーが発生しました。

原因: 他のユーザーに属している既存のパイプを作成しようとしたか、または使用権限がないパイプを削除しようとしたか。あるいは、権限のないパイプからメッセージを取得しようとしたか、または権限のないパイプにメッセージを入れようとしたか。

処置: 異なるパイプ名を使用してください。

ORA-23323 パラメータ長が遅延 RPC 制限を超過しています

原因: 遅延 RPC パラメータが、遅延 RPC の制限より長くなりました。この制限は、char/varchar2 パラメータの場合は 4000 バイトで、raw パラメータの場合は 2000 バイトです。

処置: より小さいパラメータを使用してください。

ORA-23324 エラー string が発生しました。"string" (エラー string を持つ) で DEFERROR エントリを作成中のエラーです

原因: メッセージに表示されているエラー・コードおよびデータベースに対して DEFERROR 項目を作成しようとして、エラーが検出されました。

処置: エラーの原因を修正してください。

ORA-23325 パラメータ型が string ではありません。

原因: 競合解消機能が、優先順位グループに指定された型とは異なる型に指定されたか、または優先順位グループに指定された型または関数がありません。または、DBMS_DEFER_SYS_QUERY がコールされて遅延 RPC パラメータを遅延 RPC キューから取り出しましたが、パラメータ型が関数の戻り型と一致していません。

処置: パラメータ型に対応する関数を使用してください。

ORA-23326 オブジェクト・グループ "string"."string" は停止中です。

原因: オブジェクト・グループが通常の操作を再開する前に SUSPEND_MASTER_ACTIVITY がコールされたか、またはオブジェクト・グループが停止中に (遅延) RPC 操作を行おうとしました。

処置: SUSPEND_MASTER_ACTIVITY がコールされ RESUME_MASTER_ACTIVITY 要求が保留状態の場合は、完了するまで待つってから、SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を再度呼び出してください。それ以外の場合は、RESUME_MASTER_ACTIVITY コールを使用して、データベース・アクティビティを再開してください。

ORA-23327 インポートされた遅延 RPC データがインポートするデータベース string と一致しません。

原因: 遅延 RPC の待ち行列が、インポートするデータベースとは異なるグローバル名またはオペレーティング・システムを持つデータベースからインポートされました。

処置: 遅延 RPC データのインポート先は、同一のグローバル名、ハードウェア、オペレーティング・システムを持つデータベースにしてください。

ORA-23328 マテリアライズド・ビューの実表 "string"."string" はマスター表 "string"."string" とは異なります。

原因：REPCAT によるマテリアライズド・ビューの作成時に、マテリアライズド・ビューの実表名がマスターのレプリケート表名と一致していませんでした。

処置：マテリアライズド・ビューの DDL を変更して、マスターのレプリケート表名と同じ実表を使用してください。

ORA-23329 ユーザー提供の DDL は正常終了しましたが、マテリアライズド・ビュー "string"."string" がありません。

原因：マテリアライズド・ビューを作成するためにユーザーが提供した DDL は正常に実行されましたが、マテリアライズド・ビューが存在しません。

処置：手動で DDL のバックアップをとり、DDL とマテリアライズド・ビューを一致させて再登録してください。

ORA-23330 列グループ string はすでに存在します

原因：列グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置：レプリケート・オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23331 列グループ string は存在しません。

原因：指定した列グループが NULL であるか、綴りが誤っているか、または登録されていません。

処置：登録されている列グループを使用してください。

ORA-23332 グループ string は使用中です: 削除できません

原因：指定した列グループまたは優先順位グループが、競合を回避するために使用されています。

処置：削除する前に、DBMS_REPCAT プロシージャ DROP_UPDATE_RESOLUTION、DROP_DELETE_RESOLUTION、DROP_UNIQUE_RESOLUTION をコールして、その列グループまたは優先順位グループが使用されていない状態にしてください。

ORA-23333 列 string はすでに列グループの一部です。

原因：その列がすでに列グループのメンバーであるのに、列グループに追加しようとしてしました。

処置：列を別の列グループに追加する前に、既存の列グループからその列を削除してください。

ORA-23334 列 string は表または列グループに存在しません。

原因：指定した列が NULL であるか、綴りが誤っているか、指定した表または列グループの一部ではありません。

処置：表または列グループのメンバーである列を使用してください。

ORA-23335 優先順位グループ *string* がすでに存在します

原因: 優先順位グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置: オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23336 優先順位グループ *string* が存在しません。

原因: 優先順位グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置: オブジェクト・グループにまだ登録されていない優先順位グループ名を使用してください。

ORA-23337 優先順位または値が優先順位グループ *string* にありません。

原因: 指定した値または優先順位が、優先順位グループの一部として登録されていません。

処置: 優先順位グループの一部である別の値または優先順位を指定するか、または優先順位グループにその値を追加してください。

ORA-23338 優先順位または値がすでに優先順位グループ *string* 内に存在します

原因: 指定した値または優先順位が、すでに優先順位グループの一部として登録されています。

処置: 優先順位グループの一部でない別の値または優先順位を指定するか、または優先順位グループのその値を削除してください。

ORA-23339 競合解消情報が重複しています。

原因: 指定した列グループ、順序、競合タイプまたはパラメータ表名（あるいはその両方）、パラメータ列名、パラメータ順序番号の組合せは、すでに登録されています。

処置: その他の解決情報を追加する必要があるか確認して、新規の順序番号を指定してください。既存の情報を変更する場合は、最初にその既存の情報を削除する必要があります。

ORA-23340 解消方法 *string* が正しくありません

原因: 競合の解消方法が USER FUNCTION でない場合、または指定した解消方法が事前定義済の方法でない場合に、ユーザー関数が指定されています。

処置: 競合の解消方法が USER FUNCTION でないのにユーザー関数が指定されている場合は、USER FUNCTION として関数を再登録するか、または NULL のユーザー関数を指定してください。それ以外の場合は、ドキュメントに記載のあるサポートされた競合解消方法を指定してください。

ORA-23341 ユーザー関数が必要です。

原因: USER FUNCTION の方法として、NULL のユーザー関数が指定されました。

処置: ドキュメントに記載のあるユーザー関数指定に一致するユーザー関数名（たとえば、スキーマ.パッケージ.関数）を指定するか、またはドキュメントに記載のあるサポートされた競合解消方法を指定してください。

ORA-23342 パラメータの列 *string* が無効です。

原因: パラメータ列名が NULL であるか、綴りが誤っているか、起動データベースがマスターでないか、または指定した競合解消方法のタイプが誤っています。

処置: 競合解消方法のタイプが正しい、指定された列グループのパラメータ列を指定してください。

ORA-23343 指定された競合解消情報が一致しません

原因: 列グループ、順序、競合タイプの指定された組合せは、登録されていません (たとえば、コメントを追加するため)。

処置: 登録されている列グループ、順序、競合タイプの組合せを指定してください。

ORA-23344 制約 (*string.string*) が存在しません。

原因: 一意性の競合の登録時に、指定された制約が NULL か、綴りが誤っているか、または存在していません。

処置: 指定の表に指定した制約を登録してください。

ORA-23345 表 "*string*".*string*" が統計表示収集用に登録されていません。

原因: 統計表示収集用に登録されなかった表に対して、競合解消統計収集を処理するプロシージャがコールされました。

処置: DBMS_REPCAT.REGISTER_STATISTICS をコールして、表を登録してください。

ORA-23346 プライマリ・キーまたはオブジェクト ID が表またはマテリアライズド・ビュー *string* に対して未定義です

原因: (制約または DBMS_REPCAT.SET_COLUMNS によって定義されている) プライマリ・キーのない表またはマテリアライズド・ビューに対して、レプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: 表に対しては、主キー制約を追加するか、または DBMS_REPCAT.SET_COLUMNS を使用してプライマリ・キーを定義してください。ROWID マテリアライズド・ビューに対しては、`min_communication` を `false` に設定するか、プライマリ・キー・マテリアライズド・ビューを使用してください。

ORA-23347 データ型 *string* (列 *string* 表 *string*) がサポートされていません。

原因: その表には REPCAT がサポートしていないデータ型の列があります。

処置: 表から列を削除するか、またはサポートされているデータ型を持つように列を変更してください。

ORA-23348 プロシージャ *string* をレプリケートできません: IN パラメータのみサポートされます

原因: OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを持つプロシージャがあるパッケージに対して、レプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: パッケージからプロシージャを削除するか、プロシージャから OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを削除してください。

ORA-23349 各関数にレプリケーション・サポートを生成できません。

原因: パブリック関数のあるパッケージ、またはスタンドアロン関数に対して、レプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: パッケージからパブリック関数を削除するか、または関数がプロシージャになるように変更してください。

ORA-23350 最大再帰コール数を超過しました

原因: 同じ行への同時更新によって競合が発生するため、表内の競合を解消しようとすると、通常このエラーが発生します。

処置: DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE_ERROR を使用して、DefError から遅延トランザクションを再実行してください。

ORA-23351 パラメータのデータ型 *string* (プロシージャ *string*) はサポートされていません

原因: プロシージャに REPCAT がサポートしていないデータ型のパラメータがあります。

処置: プロシージャからパラメータを削除するか、またはサポートされているデータ型を持つようにパラメータを変更してください。

ORA-23352 遅延トランザクションの宛先が重複しています

原因: DBMS_DEFER.CALL コール、前の DBMS_DEFER.TRANSACTION コール、または DBMS_DEFER_SYS.ADD_DEFAULT_DEST コールのいずれかの遅延トランザクションに対して、重複する宛先が指定されました。

処置: 重複するエントリを削除してください。

ORA-23353 遅延 RPC キューには、オブジェクト・グループ "*string*". "*string*" のエントリがあります。

原因: 要求したアクションは、指定したオブジェクト・グループに対してキューが空になるまで実行できません。

処置: DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE または DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

ORA-23354 遅延 RPC の実行は "*string*" ("*string*") には使用禁止です。

原因: 伝播が使用禁止のため、指定されたキャッチアップ値を持つ宛先で遅延 RPC を実行できません。

処置: DBMS_DEFER_SYS.SET_DISABLED コールを使用して、遅延 RPC を実行可能にしてください。

ORA-23355 オブジェクト *string.string* はマスター・サイトにおいて存在しないか無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが誤っているか、指定したタイプが誤っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケート・オブジェクトとして存在していません。

処置: オブジェクトがマスター・データベース内で有効であること、ユーザーが参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23356 masterdef は masterdef を認識しないマスターを認識します。

原因: DROP_MASTER_REPGROUP がマスター・サイトで実行されましたが、そのマスターに対するマスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES が実行されていない可能性があります。

処置: マスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES を実行して、適切なマスターを削除してください（関連エラー・メッセージを参照してください）。

ORA-23357 プロパゲータが存在しません。

原因: そのプロパゲータは存在しません。

処置: 新しいプロパゲータを登録してください。

ORA-23358 リモート・ユーザー名が無効です。

原因: ローカル・ユーザーが、データベース・リンクを介して接続されているリモート・ユーザーと一致しません。

処置: 識別されたデータベース・リンクの所有者と同じ接続先ユーザーへのデータベース・リンクを削除し、再作成してください。

ORA-23359 repcatlog レコードの DDL レコード作成中にエラーが発生しました。

原因: repcatlog レコード内の USERID が、接続されたユーザーの USERID と一致しません。

処置: 別のユーザーを指定して操作を再試行してください。

ORA-23360 マスター表 "*string*" のマテリアライズド・ビューは 1 つのみ作成できます。

原因: 同じレプリケーション・グループ内のマスター表に 2 つ以上のマテリアライズド・ビューを作成しようとしてしました。

処置: これらのマテリアライズド・ビューは別のサイトの異なるレプリケーション・グループで作成してください。

ORA-23361 マテリアライズド・ビュー "*string*" はマスター・サイトに存在しません。

原因: マテリアライズド・ビューのオフライン・インスタンスエーション用のマスター・サイトにマテリアライズド・ビューが存在しません。

処置: 正しい手順でマスター・サイトの別のスキーマにマテリアライズド・ビューを作成してから、マテリアライズド・ビューのオフライン・インスタンスエーションの手順に従ってください。

ORA-23362 ユーザー名が無効です。

原因: 指定されたユーザーは存在しません。

処置: 有効なユーザー名を入力し、操作を再試行してください。

ORA-23363 マスター・サイトとマテリアライズド・ビュー・サイトでマテリアライズド・ビューの実表 "*string*" の不一致が発生しました。

原因: マスター・サイトのマテリアライズド・ビューの実表の名前が、マテリアライズド・ビュー・サイトの実表の名前と異なります。このエラーは、マテリアライズド・ビューのオフライン・インスタンスエーション中に発生します。

処置: 24 バイト未満のマテリアライズド・ビュー名を使用して、オフライン・インスタンスエーションを再試行してください。

ORA-23364 機能は使用できません: アドバンスト・レプリケーション

原因: このサイトでは、アドバンスト・レプリケーション機能が使用可能になっていません。したがって、更新できるマテリアライズド・ビュー、遅延 RPC などのレプリケーション機能は使用できません。

処置: この機能は使用しないでください。アドバンスト・レプリケーション機能を購入しても使用できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23365 サイト *string* は存在しません。

原因: DIFFERENCES() ルーチンまたは RECTIFY() ルーチンのコール時に、引数 REFERENCE_SITE または引数 COMPARISON_SITE に指定されたサイトに、存在しているサイトの名前が指定されていません。

処置: 指定されたデータベース・サイトが実際に存在することを確認し、ルーチンを再実行してください。

ORA-23366 整数値 *string* は 1 未満です

原因: ルーチン DIFFERENCES() に対する引数 MAX_MISSING の値は、1 以上である必要があります。ルーチン DIFFERENCES() とルーチン RECTIFY() に対する引数 COMMIT_ROWS の値は 1 以上である必要があります。

処置: これらの引数が 1 以上になるように整数値を選択してください。

ORA-23367 表 *string* には主キーが欠落しています。

原因：DIFFERENCES() ルーチンのコール時に引数 oname1 または oname2 に指定された表に、主キーまたは仮想主キー（対称型レプリケーションで DBMS_REPCAT パッケージを使用して定義される）がありません。

処置：指定した表に主キーが定義されていることを確認してください。

ORA-23368 名前 *string* は NULL にも空文字列にもできません

原因：DIFFERENCES() または RECTIFY() に対する引数 SNAME1、SNAME2、ONAME1、ONAME2、MISSING_ROWS_SNAME、MISSING_ROWS_ONAME1、MISSING_ROWS_ONAME2 は、NULL または "（空の文字列）" にできません。

処置：引数を NULL 以外または空の文字列以外に変更してください。

ORA-23369 "*string*" 引数の値は NULL にできません

原因：DIFFERENCES() ルーチンに対する引数 MAX_MISSING は NULL にできません。

処置：MAX_MISSING に対して有効な値は 1 以上の整数です。

ORA-23370 表 *string* および表 *string* は形状が等価 (*string*) ではありません。

原因：指定された表の形状が等価ではありません。つまり、列数、名前、データ型およびデータ長が同じではない可能性があります。具体的には、問題はカッコに関するものであり、次のいずれかが原因です。列数が同じではない場合、異なる表にある同じ名前の列のデータ型が異なる場合、varchar2 列と char 列の長さが同じではない場合、数値データ型の精度と桁が同じではない場合。

処置：比較している 2 つの表の列数、列名およびデータ型が同じであることを確認してください。

ORA-23371 列 *string* は表 *string* 内では不明な列です。

原因：DIFFERENCES() ルーチンに対する ARRAY_COLUMNS 引数（または COLUMN_LIST 引数）の列の中に指定された表の列に対応しないものがあります。

処置：ARRAY_COLUMNS または COLUMN_LIST のいずれかにおけるすべての列が、指定された表の中にあることを確認してください。

ORA-23372 型 *string* (表 *string* 内) はサポートされません。

原因：表比較ユーティリティ内にサポートされていない型があります。

処置：比較対象の表における列の型が対称型レプリケーションでサポートされている型であることを確認してください。

ORA-23373 オブジェクト・グループ "*string*".*string*" は存在しません。

原因：グループ名が NULL であるか、綴りが誤っているか、またはグループがローカルに存在していません。

処置：グループを正確に指定するか、または DBMS_REPCAT.CREATE_MASTER_REPGROUP() を使用してグループを作成してください。

ORA-23374 オブジェクト・グループ "string"."string" はすでに存在しています。

原因: 指定したデータベースは、指定したオブジェクト・グループをすでにレプリケートしています。指定したサイトには同じ名前のマスター・グループがすでに存在するため、マテリアライズド・ビュー・グループは作成できません。

処置: 別のファイル・グループまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23375 機能はデータベース・バージョン *string* と互換性がありません。

原因: 指定されたデータベースと互換性のない機能を使用されています。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータの値を設定するか、または値を大きくして必要な互換性レベルに合わせてください。

ORA-23376 ノード *string* はレプリケーション・バージョン "string" と互換性がありません。

原因: リモート・データベースと互換性のない機能を使用されています。

処置: リモート・データベースをアップグレードしてから操作を再試行してください。

ORA-23377 missing_rows_ename1 引数の名前 *string* が不正です。

原因: missing_rows_ename1 引数の名前として参照サイト表の名前を使用しようとしてしました。

処置: missing_rows_ename1 引数とは異なる名前で別個に作成した表を指定してください。別個に作成された表には、比較されている表の間の相違情報が入ります。

ORA-23378 接続修飾子 "string" は、オブジェクト・グループ "string"."string" に対して無効です。

原因: 指定されたオブジェクト・グループのデータベース・リンクで使用される接続修飾子が、CREATE_MASTER_REPGROUP のグループに指定された修飾子と一致しません。

処置: 正しい接続修飾子を含むデータベース・リンクを使用または作成してください。

ORA-23379 接続修飾子 "string" が長すぎます。

原因: 接続修飾子を含むデータベース・リンクの最大長は 128 バイトです。

処置: 短い接続修飾子を使用するか、またはデータベース・リンクの名前を短くしてください。

ORA-23380 伝播モード "string" が無効です。

原因: 指定された伝播は綴りが誤っているか、またはサポートされていません。マテリアライズド・ビュー・サイトでは、同じマスター・オブジェクト・グループで同じマテリアライズド・ビュー・サイトにあるマテリアライズド・ビュー・オブジェクト・グループは、すべて同じ伝播方法である必要があります。

処置: 有効な伝播モードについては、『Oracle9i レプリケーション』を参照してください。また、マテリアライズド・ビュー・サイトでは、同じマスター・オブジェクト・グループのマテリアライズド・ビュー・オブジェクト・グループがすべて同じ伝播モードであることを確認してください。

ORA-23381 ベース・オブジェクト *string.string@string* 用の生成オブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたベース・オブジェクト用にシステムが生成したオブジェクトが、指定されたサイトに存在しません。現在の操作では、ベース・オブジェクトには生成されたレプリケーション・サポートが必要です。

処置: ベース・オブジェクト用に生成されたレプリケーション・オブジェクトが存在し、指定されたサイトで有効であることを確認してください。生成されたオブジェクトが存在しない場合、DBMS_REPCAT.GENERATE_REPLICATION_SUPPORT() プロシージャをベース・オブジェクトのマスター定義サイト (missing_rows_onsame1 引数) からコールする必要があります。別個に作成された表には、比較されている表の間の相違情報が入ります。

ORA-23382 マテリアライズド・ビューの repgroup"*string*". "*string*" はサイト *string* に登録されていません。

原因: マテリアライズド・ビュー REPGROUP は現在マスターに登録されていないので、登録を取り消すことはできません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-23383 マテリアライズド・ビュー repgroup"*string*". "*string*" の登録がサイト *string* で失敗しました。

原因: ローカル REPSchema 表への追加に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-23384 レプリケーション・パラレル・プッシュ引数 *string* が有効範囲外です。

原因: DBMS_DEFER_SYS.PUSH に対して指定された数値引数が無効です。

処置: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23385 レプリケーション・パラレル・プッシュ引数 *string* が無効です。

原因: DBMS_DEFER_SYS.PUSH に対して指定された文字列引数が無効です。

処置: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23386 レプリケーション・パラレル・プッシュでスレーブ処理を作成できません。

原因: パラレル・プッシュのスレーブ・プロセスを作成中にエラーが発生しました。

処置: PARALLEL_MAX_SERVERS 初期化パラメータが 0 (ゼロ) の場合は、パラメータを再構成して 0 (ゼロ) より大きくなるようにしてください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23387 レプリケーション・パラレル・プッシュでデキュー・エラーが発生しました。

原因: 新しいキュー・バッチ番号を割り当てようとしたときに、遅延トランザクションのデキューに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23388 レプリケーション・パラレル・プッシュ水位標でエラーが発生しました。

原因: SYSTEM.DEF\$_DESTINATION の最高水位標を更新しようとしたときに、パラレル・プッシュでエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23389 廃止されたプロシージャ。オブジェクトを削除して新規マスターを使って再作成してください。

原因: DBMS_REPCAT.SWITCH_MVIEW_MASTER はサポートされなくなりました。

処置: オブジェクト・グループ内のオブジェクトを削除し、新しいマスターを使用してそれらを再作成してください。

ORA-23392 "string"."string" に対応付けられるマテリアライズド・ビューを見つけられませんでした。

原因: マスター・サイトから取得したトリガーまたは索引に対応付けられているマテリアライズド・ビューが見つかりません。

処置: マテリアライズド・ビューまたはマスター、マスター索引、トリガーがレプリケート・オブジェクトとして登録されていることを確認してください。

ORA-23393 ユーザーはすでにプロパゲータです。

原因: 指定されたユーザーはすでにカレント・プロパゲータです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-23394 プロパゲータが重複しています。

原因: 有効なプロパゲータが複数存在します。

処置: 重複しているプロパゲータのいずれかを登録抹消してください。

ORA-23395 オブジェクト "string"."string" (型 "string") が存在していないか、または無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが誤っているか、指定した型が誤っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケーション・オブジェクトとして存在していません。

処置: オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23396 データベース・リンク "string" が存在していないか、スケジュールされていません。

原因: データベース・リンクがレプリケーション・プロパゲータのスキーマに存在しないか、またはスケジュールされていません。

処置: データベース・リンクがデータベースに存在すること、およびアクセス可能なこと、実行がスケジュールされていることを確認してください。

ORA-23397 グローバル名 "string" がデータベース・リンク名 "string" と一致しません。

原因: データベース・リンクがアクセスするデータベースのグローバル名が、ローカル・ノードのデータベース・リンク名と一致しません。

処置: グローバル名が TRUE に設定されていること、およびデータベース・リンク名がグローバル名と一致していることを確認してください。

ORA-23398 ユーザー名 "string" (データベース・リンク "string") がローカル・ユーザー名 "string" と一致しません。

原因: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー名と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー名が異なります。対称型レプリケーションでは、2つのユーザーが同じであることが必要です。

処置: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー ID と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー ID が同じであることを確認してください。

ORA-23399 "string"."string" に対するレプリケーション・サポートの生成が完了していません。

原因: 指定されたオブジェクトのレプリケーション・サポートが生成されていないか、生成プロセスが完了していません。

処置: そのオブジェクトに対してレプリケーション・サポートが生成されたことを確認してください。DBMS_REPCAT.GENERATE_REPLICATION_SUPPORT() を使用してオブジェクトのレプリケーション・サポートを生成してください。

ORA-23400 マテリアライズド・ビュー名 "string" が無効です。

原因: DBMS_MVIEW.REFRESH に指定されたマテリアライズド・ビューが、NULL か、綴りが誤っているか、書式が誤っています。

処置: DBMS_MVIEW.REFRESH に有効なマテリアライズド・ビュー名を指定してください。

ORA-23401 マテリアライズド・ビュー "string"."string" が存在しません。

原因: SYS.SNAP\$, またはその関連のビュー内に存在しないマテリアライズド・ビュー名が DBMS_MVIEW.REFRESH に指定されました。

処置: SYS.SNAP\$, ALL_MVIEWS または USER_MVIEWS に存在するマテリアライズド・ビュー名を指定してください。

ORA-23402 遅延トランザクションにより発生した競合のためリフレッシュが異常終了しました。

原因: マテリアライズド・ビューのマスターの DefError 表に、未解決の競合がログインされています。

処置: マスター DefError 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。または、REFRESH_AFTER_ERRORS を TRUE に設定してリフレッシュしてください。これによって、マスターの DefError 表で競合があってもリフレッシュを続行できます。競合が発生しているにもかかわらず続行すると、(競合の解消後にリフレッシュが成功するまで) 更新可能なマテリアライズド・ビューの変更が、一時的に失われているように見える場合があります。

ORA-23403 リフレッシュ・グループ "string"."string" がすでに存在します

原因: 同一名のグループがすでに SYS.RGROUP\$ にある場合は、別のリフレッシュ・グループを作成してください。

処置: 別のリフレッシュ・グループ名を選択してください。

ORA-23404 リフレッシュ・グループ "string"."string" が存在しません。

原因: SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ名が指定されました。

処置: SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ名を指定してください。

ORA-23405 リフレッシュ・グループ番号 *string* が存在しません。

原因: SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ番号が指定されました。

処置: SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ番号を指定してください。

ORA-23406 ユーザー "string" に対する権限が不十分です。

原因: コール側がマテリアライズド・ビューの所有者ではなく、ALTER ANY MATERIALIZED VIEW 権限を持っていません。

処置: マテリアライズド・ビューの所有者として、または ALTER ANY MATERIALIZED VIEW 権限を持つユーザーとして操作を実行してください。

ORA-23407 オブジェクト名 *string* は "スキーマ"."オブジェクト" または "オブジェクト" のような形式にする必要があります

原因: オブジェクト名 (ロールバック・セグメント、マテリアライズド・ビュー名、リフレッシュ・グループなど) が正しく指定されませんでした。

処置: オブジェクト名を正しく指定して (たとえば、"スキーマ"."オブジェクト" または "オブジェクト") 操作を再試行してください。

ORA-23408 このレプリケーション操作は複合構成でサポートされていません。

原因: オブジェクト・グループが V8 より前のノードでレプリケートされている場合、この操作はサポートされていません。

処置: レプリケート・オブジェクト・グループのすべてのノードが V8 であることを確認してください。

ORA-23409 未使用リフレッシュ・グループ番号を検索できませんでした。

原因: RGROUPEQ 番号で定義されている 1000 の連続リフレッシュ・グループ番号が、SYS.RGROUPE\$ の行によってすでに使用されていました。

処置: 有効な未使用範囲内に入るように順序番号を変更して、不要なリフレッシュ・グループを破棄してください。

ORA-23410 マテリアライズド・ビュー "string"."string" はすでにリフレッシュ・グループの中にあります。

原因: 同一名のマテリアライズド・ビューが、リフレッシュ・グループにすでに存在しています。

処置: カレント・リフレッシュ・グループからマテリアライズド・ビューを除去して、それを新しいリフレッシュ・グループに追加するか、またはこの 2 つのリフレッシュ・グループを結合して、1 つのリフレッシュ・グループにしてください。

ORA-23411 マテリアライズド・ビュー "string"."string" はリフレッシュ・グループ "string"."string" 中にありません。

原因: 指定したマテリアライズド・ビューは、指定したリフレッシュ・グループに存在しません。

処置: 正しいマテリアライズド・ビュー名とリフレッシュ・グループ名を使用して、再実行してください。

ORA-23412 マスター表の主キー列が変更されました。

原因: 主キー・マテリアライズド・ビューが作成された後に、マスター表の主キー制約が変更されました。

処置: 主キー・マテリアライズド・ビューを削除してから再作成してください。

ORA-23413 表 "string"."string" にはマテリアライズド・ビュー・ログはありません。

原因: マスター表にマテリアライズド・ビュー・ログが格納されていないので、高速リフレッシュを実行できません。

処置: CREATE MATERIALIZED VIEW LOG コマンドを使用してマスター表にマテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

ORA-23414 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログは ROWID の値を記録しません。

原因: ROWID マテリアライズド・ビューが高速リフレッシュされていますが、マテリアライズド・ビュー・ログは ROWID 情報を記録していません。

処置: CREATE MATERIALIZED VIEW LOG...ADD ROWID コマンドを使用して、マテリアライズド・ビュー・ログへの ROWID 情報の記録を開始してください。

ORA-23415 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログは主キーを記録しません。

原因: 主キー・マテリアライズド・ビューが高速リフレッシュされていますが、マテリアライズド・ビュー・ログは主キー情報を記録していません。

処置: CREATE MATERIALIZED VIEW LOG...ADD PRIMARY KEY コマンドを使用して、マテリアライズド・ビュー・ログへの主キー情報の記録を開始してください。

ORA-23416 表 "string"."string" に主キー制約がありません。

原因: マスター表に主キー制約がありません。または、主キー制約が使用禁止になっていました。

処置: マスター表に主キー制約を作成するか、既存の制約を使用可能にしてください。

ORA-23417 マテリアライズド・ビューの型 :string が不明です。

原因: 不明な型またはサポートされていない型のマテリアライズド・ビューに対して高速リフレッシュが実行されました。

処置: ALL_MVIEWS を確認し、リフレッシュされたマテリアライズド・ビューが有効なマテリアライズド・ビューであることを確認してください。

ORA-23418 現在使用しているプロパゲータの登録は取り消せません

原因: プロパゲータは、現在レプリケーション RPC の伝播に使用されています。

処置: レプリケーション RPC の伝播でアクティブなトランザクションがなくなってから、再試行してください。

ORA-23419 レプリケーション・サポート再生成後にマスター・アクティビティを再開してください。

原因: レプリケーション・サポートの再生成を必要とする表が、オブジェクト・グループ内にあります。

処置: ALL_REPOBJECT ビューの GENERATION_STATUS 列を確認してください。オブジェクト・グループ内で「NEEDSGEN」ステータスになっているすべての表についてレプリケーション・サポートを再生成してください。マスター・アクティビティを再開してください。

ORA-23420 間隔は未来の時刻を評価する必要があります

原因: パラメータ INTERVAL は、SYSDATE より前の時刻の数値を求めています。

処置: SYSDATE より後の時刻の数値を求める式を選択してください。

ORA-23421 ジョブ番号 *string* はジョブ・キュー内のジョブではありません

原因: 指定したジョブ番号でコール側が参照できるジョブはありません。

処置: コール側が参照できるジョブの番号を選択してください。

ORA-23422 Oracle Server は未使用ジョブ番号を生成できませんでした。

原因: 別のジョブを認識するために使用されなかったジョブ番号を、Oracle Server が生成できませんでした。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-23423 ジョブ番号 *string* が正数ではありません。

原因: 指定したジョブ番号は1未満です。

処置: 正の整数を選択してください。

ORA-23424 マテリアライズド・ビュー "*string*". "*string*" (*string*) は登録されていません。

原因: 指定したマテリアライズド・ビューは、このサイトに正常に登録されていません。

処置: マスター・サイトまたはマテリアライズド・ビュー・サイトに、マテリアライズド・ビューを手動で登録してください。

ORA-23425 マテリアライズド・ビュー識別子 *string* が無効です。

原因: DBMS_MVIEW.PURGE_MVIEW_FROM_LOG に指定された引数が無効なマテリアライズド・ビュー識別子であるか、この引数が Oracle8 の高速リフレッシュ可能マテリアライズド・ビューを認識しないか、マテリアライズド・ビューがすでに削除されているかのいずれかです。

処置: マテリアライズド・ビューが Oracle8 の高速リフレッシュ可能マテリアライズド・ビューである場合、有効なマテリアライズド・ビュー識別子を使用して PURGE_MVIEW_FROM_LOG を指定してください。

ORA-23426 遅延 RPC キューには *string* のエントリがあります

原因: 要求したアクションは、指定したサイト / データベース・リンクに対してキューが空になるまで実行できません。

処置: DBMS_DEFER_SYS.PUSH、DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE または DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

ORA-23427 遅延ページ・キュー引数 *string* は有効範囲にありません。

原因: DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE に対して指定された数値引数が無効です。

処置: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23428 インスタンス番号 *string* に関連するジョブは実行されていません。

原因: ジョブが、実行中でないインスタンスに関連しています。

処置: ジョブ親和性に対する実行中のインスタンスを選択するか、またはパラメータを TRUE に設定してください。

ORA-23430 引数 "*string*" は NULL または空文字列にできません

原因: 値を NULL または空の文字列の指定できない引数をコール側が指定しました。

処置: 指定された VARCHAR2 の値が NULL または空の文字列でないことを確認し、コールを再試行してください。

ORA-23431 無効な状態: *string*

原因: レプリケーション・オブジェクト・グループに対してルーチンが実行されましたが、このグループの状態が正しくありません。

処置: レプリケーション・オブジェクト・グループがエラー・メッセージに示されている状態にあるかどうかを確認してください。

ORA-23432 マスター・サイト *string* はすでに存在します

原因: すでにオブジェクト・グループの一部であるマスター・サイトのレプリケート・オブジェクト・グループをインスタンス化しようとした。

処置: このサイトを追加しようとする場合、サイトはすでに存在しているので実行しないでください。そうでない場合、別のサイト名を選択し、ルーチンを再実行してください。

ORA-23433 誤ったマスター・サイト *string* に対して実行しています。

原因: ルーチンの引数で指定されているサイトと異なるサイトでルーチンを実行しようとした。

処置: ルーチンの実行対象のサイトを正しく示すルーチンに対して、引数を指定してください。

ORA-23434 マスター・サイト *string* はオブジェクト・グループでは不明なマスター・サイトです。

原因: ルーチンの引数として指定されたサイト名は、まだレプリケーション・オブジェクト・グループに認識されていません。

処置: DBMS_OFFLINE_OG.BEGIN_INSTANTIATION() ルーチンを実行して、レプリケーション・オブジェクト・グループに新しいサイトを追加してください。

ORA-23435 LOB 列を持った更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューを作成できません。

原因: マテリアライズド・ビュー・サイトからマスター・サイトに LOB データを伝播するには、レプリケートされた表に主キーが必要です。したがって、LOB 列を含む更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューはサポートされません。

処置: ROWID マテリアライズド・ビューではなく、主キー・マテリアライズド・ビューを作成してください。マテリアライズド・ビューがすでにある場合は、ALTER MATERIALIZED VIEW DDL コマンドで主キー・マテリアライズド・ビューに変換できます。

ORA-23436 対象ユーザーにこのテンプレートは認可されていません。

原因: 指定したテンプレート認可は存在しません。

処置: ユーザー名の値を確認し、テンプレート名をリフレッシュして、DBA_REPCAT_USER_AUTHORIZATIONS ビューに有効な行が存在することを確認してください。

ORA-23437 対象ユーザーにこのテンプレートはすでに認可されています。

原因: 対象ユーザーは、指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートの使用をすでに認可されています。

処置: ユーザー名およびリフレッシュ・テンプレート名の値を確認するか、または DBA_REPCAT_USER_AUTHORIZATIONS ビューに問い合せて、正しい値がパラメータとして渡されたかを確認してください。

ORA-23438 リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しません。

原因: 指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しません。

処置: DBA_REPCAT_REFRESH_TEMPLATES に問い合せて、リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しないことを確認してください。

ORA-23439 リフレッシュ・グループ・テンプレートはすでに存在しています。

原因: 指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートはすでに存在します。

処置: DBA_REPCAT_REFRESH_TEMPLATES に問い合せて、リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在することを確認してください。

ORA-23440 パブリック・テンプレートの値が正しくありません。

原因: パブリック・テンプレートのパラメータが Y、N または NULL ではありません。

処置: パブリック・テンプレートのパラメータの値を修正してください。Y、N または NULL である必要があります。

ORA-23441 指定オブジェクトはリフレッシュ・グループ・テンプレートに存在しません。

原因: 指定されたオブジェクトが、リフレッシュ・グループ・テンプレートに存在しません。

処置: オブジェクト名およびオブジェクト型のパラメータを修正してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_OBJECTS ビューに問い合せて、正しい名前およびオブジェクト型を確認してください。

ORA-23442 指定オブジェクトはリフレッシュ・グループ・テンプレートにすでに存在しています。

原因: 指定されたオブジェクトが、リフレッシュ・グループ・テンプレートにすでに存在しています。

処置: オブジェクト名およびオブジェクト型のパラメータを変更してください。
DBA_REPCAT_REMPLATE_OBJECTS ビューに問い合せて、正しい名前およびオブジェクト型を確認してください。

ORA-23443 テンプレート・パラメータが存在しません。

原因: 指定したテンプレート・パラメータは存在しません。

処置: テンプレート・パラメータ値を修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_PARMS ビューを使用して、リフレッシュ・グループ・テンプレート名およびパラメータ名を確認してください。

ORA-23444 テンプレート・パラメータが重複しています。

原因: テンプレート・パラメータが、指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレート用にすでに存在しています。

処置: テンプレート・パラメータ値を修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_PARMS ビューを使用して、リフレッシュ・グループ・テンプレート名およびパラメータ名を確認してください。

ORA-23445 テンプレート・サイトが存在しません。

原因: サイト名、ユーザー名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたテンプレート・サイトが存在しません。

処置: 無効なパラメータを修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_SITES ビューを使用して、既存のテンプレート・サイトを問い合せてください。

ORA-23446 テンプレート・サイトが重複しています。

原因: サイト名、ユーザー名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたテンプレート・サイトがすでに存在します。

処置: 無効なパラメータを修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_SITES ビューを使用して、既存のテンプレート・サイトを問い合せてください。

ORA-23447 ユーザー・パラメータ値が存在しません。

原因: ユーザー名、パラメータ名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたユーザー・パラメータ値が存在しません。

処置: 無効なパラメータを修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_USER_PARM_VALUES ビューを使用して、既存のユーザー・パラメータを問い合わせてください。

ORA-23448 ユーザー・パラメータ値が重複しています。

原因: ユーザー名、パラメータ名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたユーザー・パラメータ値がすでに存在しています。

処置: 無効なパラメータを修正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_USER_PARM_VALUES ビューを使用して、既存のユーザー・パラメータを問い合わせてください。

ORA-23449 ユーザー名がデータベースに存在していません。

原因: ユーザー名のパラメータで指定されたユーザーが、データベースに存在しません。

処置: 無効なユーザー名を修正するか、またはマスター・データベースにユーザーを作成してください。DBA_USERS ビューを使用して、有効なデータベース・ユーザーを選択してください。

ORA-23450 フレーバにはオブジェクト "*string*". "*string*" がすでに含まれています。

原因: フレーバには指定されたオブジェクトがすでに含まれています。

処置: 指定されたオブジェクトが正しいことを確認してください。表オブジェクトのすべての列を追加するには、フレーバからオブジェクトを削除してから再度追加してください。

ORA-23451 フレーバ *string* はオブジェクト・グループ "*string*". "*string*" にすでに定義されています。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（未公開の）定義をすでに含んでいます。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。必要とされる名前の公開されていないフレーバを確認してください。

ORA-23452 フレーバ *string*（オブジェクト・グループ "*string*". "*string*"）はすでに公開されています。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（公開済の）定義をすでに含んでいます。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。

ORA-23453 要求した操作は最上位フレーバでサポートされていません。

原因: 最上位フレーバに NULL 名があり、そのフレーバは直接定義されていないか、または削除されていない可能性があります。

処置: 最上位フレーバ以外のフレーバの名前を指定するか、または DBMS_REPCAT ルーチンを使用して、暗黙的に最上位フレーバを変更してください。

ORA-23454 フレーバ *string* がオブジェクト・グループ "*string*".*string*" に定義されていません。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（公開済の）定義を含んでいません。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。フレーバが、オブジェクト・グループに対して定義されている（および公開済である）ことを確認してください。

ORA-23455 フレーバ *string* にはオブジェクト "*string*" が含まれています。

原因: 指定されたフレーバが、削除されるべきオブジェクトを含んでいます。

処置: フレーバを削除するか、または別のオブジェクトを選択して削除してください。

ORA-23456 フレーバ *string* に "*string*" は含まれていません。

原因: フレーバが、示されたオブジェクト、列または属性を含んでいません。

処置: フレーバを削除するか、あるいは別のオブジェクト、列または属性を選択してください。

ORA-23457 無効なフレーバ ID *string*

原因: 指定されたフレーバ ID が無効です。

処置: このフレーバがインスタンス化されたかどうかを確認してください。フレーバ ID が (-2147483647 ~ 2147483647 の) 範囲外である場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23458 フレーバ *string* は *string* で操作を妨げています。

原因: 指定されたデータベースのフレーバが、正常な操作を妨げています。

処置: データベース・フレーバを変更するか、または別の操作を選択してください。

ORA-23459 フレーバ *string* には "*string*" が含まれている必要があります

原因: フレーバが、示されたオブジェクト、列または属性を含んでいる必要があります。

処置: 別のデータベース・フレーバを選択するか、あるいはオブジェクト、列または属性が使用可能であることを確認してください。

ORA-23460 列 *string* (解決方法 "*string*". "*string*". "*string*". "*string*") の値がありません。

原因: 競合を解決する前に、解決に必要な値が使用不可能です。つまり競合を解決した後に、SQL の再試行に必要な値が使用不可能です。

処置: 適切なフレーバを定義して、競合解決のために、USER FLAVOR FUNCTION の使用可能ベクトルを介して、必要な値を提供してください。

ORA-23461 "*string*". "*string*". "*string*" に対する競合の解決に失敗しました。

ORA-23462 フレーバ *string* はサイト *string* で使用中です。

原因: 示されたフレーバが示されたサイトで使用中のために、そのフレーバを削除できませんでした。

処置: サイトのフレーバを変更するか、またはマテリアライズド・ビュー・サイトの場合、登録を抹消してください。

ORA-23463 フレーバがオブジェクト "*string*". "*string*" と競合しています。

原因: 既存のフレーバが、競合する型のオブジェクトを含んでいます。

処置: オブジェクトの型を変更するか、または使用中でない場合、フレーバを削除してください。

ORA-23464 フレーバの列 *string* ("*string*". "*string*") が足りません。

原因: フレーバがオブジェクト・グループの列を含んでいますが、必要な列すべてではありません。

処置: フレーバ定義を変更して、必要な列をすべて入れてください。

ORA-23465 フレーバには列 *string* ("*string*". "*string*") がすでにあります。

原因: フレーバには、これから追加されるはずの列が存在しています。

処置: 指定された列が正しいことを確認してください。

ORA-23466 フレーバに不足しているオブジェクト "*string*". "*string*" が必要です

原因: フレーバに、存在しないオブジェクトが含まれています。

処置: 指定されたオブジェクト名が正しいかを確認して、必要に応じて、オブジェクトを作成してください。

ORA-23467 フレーバにオブジェクト "*string*". "*string*" が足りません。

原因: フレーバには、削除中の指定のオブジェクトが含まれていません。

処置: 指定されたオブジェクトが正しいことを確認してください。

ORA-23468 *stringstring* がありません。

原因: テンプレートには、指定されたキーを持つオブジェクトがありません。

処置: オブジェクトをテンプレートに追加してください。

ORA-23469 *string* はテンプレート間で異なります。

原因: 指定された列の値が、同じキー値に対する各テンプレートで異なります。

処置: 列の値を修正して、テンプレートを同一にしてください。

ORA-23470 ステータスが無効です。

原因: ステータスは、DELETED、INSTALLING または INSTALLED である必要があります。それ以外のステータスは無効です。

処置: 指定されたステータス値が正しいことを確認してください。

ORA-23471 テンプレートのユーザーへの権限が与えられていません

原因: リフレッシュ・テンプレートがプライベートで、ユーザーにはテンプレートをインスタンス化する権限がありません。

処置: ユーザーにテンプレートを使用する権限を与えてください。

ORA-23472 マテリアライズド・ビュー "*string*". "*string*" は自動的に リフレッシュされる必要があります。

原因: 非自動的リフレッシュは、指定されたマテリアライズド・ビューではサポートされていません。

処置: 使用中のリフレッシュ・プロシージャで、ATOMIC パラメータの値を FALSE に設定するか、または指定したマテリアライズド・ビューをリフレッシュされるマテリアライズド・ビューの設定から削除してください。

ORA-23473 "*string*". "*string*" のレプリケーション RPC 処理は使用不可です

原因: このオブジェクトを含むオブジェクト・グループのレプリケーション RPC の処理は使用不可です。これは、エラー・キューの RPC を含んでいます。

処置: オブジェクト・グループがオフラインでインスタンス化されているとき、レプリケーション RPC の処理は使用不可です。オフライン・インスタンス化が完了するまで待機してください。

ORA-23474 レプリケーション・サポートの生成で、"*string*". "*string*" の定義が変更されました。

原因: 指定された表にあるカレント列およびその列型が、レプリケーション・サポートが最後に生成されたときの列および列型と一致しません。

処置: 影響のあった表のレプリケーション・サポートを再作成してください。指定された表を持つすべてのフレーバの妥当性を確認してください。UDT 列の型の妥当性も確認してください。

ORA-23475 キー列 *string* を送って比較する必要があります。

原因: 指定された列がキー列であり、レプリケーション伝播中に送信および比較を必要とします。

処置: すべてのキー列が送信および比較されたことを確認してください。

ORA-23476 *string* から *string* にインポートできません。

原因: このオブジェクトは、異なるグローバル名を持つデータベースからインポートされました。

処置: 同一のグローバル名を持つデータベースのみに、このオブジェクトをインポートしてください。

ORA-23477 オブジェクト・グループ "*string*". "*string*" の伝播モードを変更できません。

原因: マテリアライズド・ビュー・オブジェクト・グループの伝播方法は、同じマスター・オブジェクト・グループの他のオブジェクト・グループとマテリアライズド・ビュー・サイトを共有していない場合にのみ変更できます。

処置: ローカル・サイトに、同じマスター・オブジェクト・グループの他のマテリアライズド・ビュー・オブジェクト・グループがないことを確認してください。

ORA-23374 オブジェクト・グループ "*string*". "*string*" はすでに存在しています。

原因: ローカル・サイトに、グループ名は同じでマスター・サイトは異なるマテリアライズド・ビュー・グループが1つ以上あります。

処置: ローカル・サイトの同じグループ名のマテリアライズド・ビュー repgroup が同じマスターを持つことを確認してください。

ORA-23480 列 *string* は "*string*". "*string*" のトップレベルの列ではありません。

原因: 列が、トップレベルの列ではないか、または表またはマテリアライズド・ビューに存在しません。

処置: 有効なトップレベルの列のみが使用されていることを確認してください。

ORA-23482 列 *string* ("*string*". "*string*") : オブジェクト型は許可されていません。

原因: 列がオブジェクト型です。

処置: すべての列がオブジェクト型ではないことを確認してください。

ORA-23483 オブジェクト "*string*". "*string*" はこの操作では許可されていません。

原因: 指定された操作は、要求されたオブジェクトをサポートしていません。

処置: このオブジェクトに操作を起動しないでください。

ORA-23484 インターネット・アプリケーション・サーバーの内部エラーです :*string*

原因: インターネット・アプリケーション・サーバーで内部エラーが発生しました。

処置: このエラーとその他の情報をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23485 列グループ "*string*" は単一の数値列のみで構成される必要があります。

原因: 列グループに含まれる数値列が1つのみではありません。

処置: 単一の数値列を含む列グループを使用してください。

ORA-23487 オブジェクト・グループ "string"."string" と "string"."string" には同じ接続修飾子がありません。

原因: 指定した 2 つのオブジェクト・グループに同じ接続修飾子がありません。

処置: このオブジェクト・グループで操作を起動しないでください。または、同じ接続修飾子を持つことを確認してください。

ORA-23488 伝播モード "string" ("string") はこの操作では許可されていません。

原因: この操作は、示された伝播モードでは指定したデータベース・リンクをサポートしていません。

処置: このデータベース・リンクの操作を起動しないでください。または、このデータベース・リンクの伝播モードを変更してください。

ORA-23489 エントリ "string" が重複しています。

原因: 指定した値はパラメータ・リストで重複しています。

処置: パラメータ・リスト内の重複するエントリを削除してください。

ORA-23490 拡張要求 "string" (ステータス "string") はこの操作では許可されていません。

原因: 指定した操作では、指定したステータスで拡張要求は許可されていません。

処置: この操作を再試行する前に、拡張要求が適切なステータスを持つことを確認してください。

ORA-23491 "string" で有効な拡張要求がありません。

原因: 指定されたデータベースが有効な拡張要求を持っていません。

処置: この操作を再試行する前に、DBA_REPEXTENSIONS ビューで有効な拡張要求があることを確認してください。

ORA-23492 拡張要求 "string" のための新規サイトはありません。

原因: 指定した拡張要求を持つ新規サイトがありません。

処置: この操作を再試行する前に、この要求に対して DBA_REPSITES_NEW ビューで新規サイトが 1 つ以上あることを確認してください。

ORA-23493 "string" は拡張要求 "string" のための新規サイトではありません。

原因: 指定された拡張要求が新規サイトとして指定されたサイトを含みません。

処置: この操作を再試行する前に、指定されたサイトがこの拡張要求の新規サイトであることを確認してください。

ORA-23494 宛先 "string" の行が多すぎます。

原因: 指定された宛先が system.def\$_destination 表で持つ行が多すぎます。

処置: この操作を再試行する前に、指定された宛先が有効な行を 2 つ程度持つことを確認してください。

ORA-23495 シリアル伝播は "string" には使用できません。

原因: 必要なサイトは、停止していない状態で新規サイトの追加処理中である可能性があります。

処置: この宛先の def\$destination 表を確認して、パラレル伝播を試行してください。

ORA-23496 "string" および "string" の使用禁止状態を変更できません

原因: 停止していない新規マスターを追加する場合、このサイトの使用禁止状態は内部的に同期に設定されます。

処置: 停止していない新規マスターを追加する処理が、このプロシージャを起動する前に終了したことを確認してください。

ORA-23500 複数層マテリアライズド・ビューの repgroup "string"."string" 用にマスターを切り替えられません。

原因: 親 repgroup がマテリアライズド・ビューの repgroup であるときに、マテリアライズド・ビューのマスターを切り替えようとした。これは許可されていません。

処置: 適切な親 repgroup に基づくマテリアライズド・ビュー repgroup を削除して、再作成してください。

ORA-23501 リフレッシュ・テンプレートは 8.0 以下と互換のデータベースにインスタンス化できません。

原因: リフレッシュ・テンプレートのインスタンス化は、8.0 以下と互換のデータベースにはサポートされていません。

処置: データベースの互換が 8.1 以上であることを確認してください。

ORA-23502 オフライン・インスタンス化に対して、有効なディレクトリが指定されていません。

原因: 指定されていないかまたは NULL のディレクトリをオフライン・インスタンス化しようとした。

処置: ディレクトリを指定するには、次の 2 つの方法があります。

- API への OFFLINE_DIRPATH パラメータとして指定する。
- UTL_FILE_DIR 初期化パラメータとして指定する。

オフライン・ファイルが作成される適切なディレクトリを指定していることを確認してください。

ORA-23503 IAS インスタンス化中にエラーが発生しました。

原因: IAS サイトをインスタンス化しようとした。IAS インスタンス化中にエラーが発生しました。

処置: エラー・スタック上の他のエラーを参照して、問題の原因を調べてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23504 表に追加される列が追加される列のリストと一致しません。

原因: パラメータとして渡される列のリストが表に追加される列と一致しません。

処置: DDL 文字列または列のリストを修正して、再実行してください。

ORA-23505 オブジェクト "*string*".*string*" がありません。

原因: 指定されたオブジェクトは存在しません。

処置: 指定されたオブジェクトが正しいことを確認してください。

ORA-23514 引数の数が無効または不適切です。

原因: オンライン再定義 API へ渡される引数が無効またはありません。

処置: 正しい数の有効な引数でオンライン再定義 API をコールしてください。

ORA-23515 マテリアライズド・ビューまたはその索引、あるいはその両方が表領域に存在します

原因: マテリアライズド・ビューまたは索引（あるいはその両方）を含む表領域を削除しようとしてしました。

処置: この表領域のすべてのマテリアライズド・ビューを削除してください。また、この表領域のマテリアライズド・ビューに属する索引を見つけ、それらを削除してください。その後、表領域を削除してください。

ORA-23531 サイト所有者がテンプレートにすでに存在します。

原因: テンプレートのサイト所有者がすでに存在します。

処置: このテンプレートに複数のサイト所有者を作成しないでください。

ORA-23532 異なる同期メカニズムの表が同じグループ内にあります

原因: 同じレプリケーション・グループに属する表が、異なる同期メカニズムでキャッシュされるように指定されています。

処置: 同じレプリケーション・グループに属する表のキャッシュ中に、異なる同期メカニズムを指定しないでください。

ORA-23533 オブジェクト "*string*".*string*" をキャッシュできません

原因: サポートされていないオブジェクトをキャッシュしようとしてしました。

処置: サポートされていないオブジェクトをキャッシュしないでください。

ORA-23534 マテリアライズド・ビュー・コンテナ表 "*string*".*string*" に列がありません

原因: インポート後に、マテリアライズド・ビュー・コンテナ表に列がありません。

処置: マテリアライズド・ビュー・コンテナ表が正しくインポートされたかどうかを確認してください。

ORA-23535 instantiating templates from multiple back ends is not allowed

処置: iAS サイト用に NULL でない新しいバック・エンド・データベースを設定しようとしてしました。

処置: NULL であるデータベース・リンクを使用した
dbms_ias_configure.set_back_end_db プロシージャをコールした後、NULL でない新しいデータベース・リンクを使用した同じプロシージャをコールしてください。

ORA-23536 the object "*string*".*string*" is not cached at the middle tier as expected.

原因: dbms_ias_inst.start_ias_inst の実行後に、オブジェクトが削除または名前を変更されました。

処置: バック・エンドでのオブジェクトの妥当性をチェックし、インスタンス化を再試行してください。

ORA-23537 function or procedure *string* is not allowed to be invoked from this site.

原因: このファンクションまたはプロシージャは、バック・エンドまたは中間層サイトでは制限されています。

処置: このファンクションまたはプロシージャをコールする前に、適切なサイトに接続してください。

ORA-24000 値 *string* が無効です。 *string* の形式は、[SCHEMA.]NAME にする必要があります

原因: パラメータに無効な値が指定されました。

処置: フォーム [SCHEMA.]NAME の文字列を指定してください。

ORA-24001 QUEUE_TABLE を作成できません。 *string* がすでに存在しています。

原因: このキュー表はすでにキューイング・システムに存在しています。

処置: DROP_QUEUE_TABLE() コマンドを使用して最初に表を削除するか、または別の表を指定してください。

ORA-24002 QUEUE_TABLE *string* は存在しません。

原因: QUEUE_TABLE は存在しません。

処置: ユーザー・ビュー USER_QUEUE_TABLES を問い合せて、既存のキュー表を確認してください。

ORA-24003 キュー表の索引 *string* が、キュー表 *string* と互換性がありません

原因: キュー表の索引が正常にインポートされていません。

処置: キュー表を使用する前に、キュー表の索引をインポートしてください。インポートが失敗した場合は、問題を修正して、キュー表の索引のインポートを再試行してください。

ORA-24004 SORT_LIST の列名 *string* は無効です。ENQ_TIME または PRIORITY を指定してください。

原因: SORT_LIST に無効な列名が指定されました。

処置: 有効な列名は ENQ_TIME および PRIORITY です。

ORA-24005 キュー表を削除するには DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE を使用する必要があります

原因: キュー表に SQL の DROP TABLE コマンド使用しようとしたましたが、DROP TABLE はキュー表ではサポートされていません。

処置: DROP TABLE コマンドのかわりに、DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE プロシージャを使用してください。

ORA-24006 QUEUE*string* はすでに存在しています。作成できません。

原因: 作成が要求されたこのキューはすでに存在しています。

処置: 別のキュー名を指定してください。ユーザーのスキーマに存在するすべてのキューを USER_QUEUES に問い合わせてください。

ORA-24007 値 *string* が無効です。MAX_RETRIES には負数ではない整数が必要です。

原因: MAX_RETRIES に無効な値が指定されました。

処置: 負数ではない整数を指定してください。

ORA-24008 キュー表 *string.string* を最初に削除する必要があります

原因: クラスタ、表領域およびスキーマでキュー表を削除中に、エラーが検出されました

処置: DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、指定されたキュー表をまず削除してから操作を再試行してください。

ORA-24009 値 *string* が無効です。QUEUE_TYPE には NORMAL_QUEUE または EXCEPTION_QUEUE が必要です

原因: QUEUE_TYPE パラメータが無効です。

処置: 標準キューに対する有効値は NORMAL_QUEUE で、例外キューに対する有効値は EXCEPTION_QUEUE です。

ORA-24010 キュー *string* は存在しません

原因: 指定したキューは存在しません。

処置: 有効なキューを指定してください。USER_QUEUES にすべての有効なキューを問い合わせてください。

ORA-24011 キューを削除できません。最初に *string* を停止する必要があります

原因: キューが停止していません。エンキューまたはデキューがまだ使用可能です。

処置: STOP_QUEUE コマンドを使用してキューを停止してから、エンキューおよびデキューを使用禁止にしてください。

ORA-24012 QUEUE_TABLE を削除できません。*string* 内のキューの一部が削除されていません。

原因: キュー表に削除されていないキューが存在します。すべてのキューを削除する必要があります。

処置: DROP_QUEUE() コマンドを使用して、このキュー表に属するキューをすべて削除してください。削除する前にキューを適切に停止してください。または、DROP_QUEUE_TABLE の FORCE オプションを使用してください。

ORA-24013 値 *string* が無効です。RETRY_DELAY には負数ではない値が必要です。

原因: RETRY_DELAY に負の値が指定されました。

処置: RETRY_DELAY に負以外の値を指定してください。

ORA-24014 値 *string* が無効です。RETENTION_TIME には FOREVER または負数ではない値が必要です

原因: キュー保持時間が指定されましたが、RETENTION_TIME が 0 (ゼロ) 未満に指定されています。

処置: RETENTION_TIME には、負以外の値または FOREVER を指定してください。または、保持時間を指定しないでください。

ORA-24015 QUEUE_TABLE を作成できません。QUEUE_PAYLOAD_TYPE *string.string* が存在しません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内に指定された QUEUE_PAYLOAD_TYPE が無効です。

処置: QUEUE_PAYLOAD_TYPE には、RAW またはデータベースにすでに存在するオブジェクト型が必要です。

ORA-24016 QUEUE_TABLE を作成できません。ユーザー *string* には QUEUE_PAYLOAD_TYPE *string.string* の実行権限がありません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内の QUEUE_PAYLOAD_TYPE に指定したオブジェクト型が無効です。

処置: キューに指定したオブジェクト型に対し、実行権限を所有していることを確認してください。

ORA-24017 キューのエンキューを使用可能にできません。*string* は例外キューです

原因: 例外キューに対してエンキューを使用可能にしようとしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24018 *string* の STOP_QUEUE に失敗しました。未解決のトランザクションが見つかりました。

原因: キューに未解決のトランザクションがあり、WAIT が FALSE に設定されていたため、キューの停止時に STOP_QUEUE が失敗しました。

処置: WAIT を TRUE に設定し、STOP_QUEUE を再試行してください。未解決のトランザクションがすべて完了するまで停止してください。

ORA-24019 *string* の識別子が長すぎます。*string* 文字以下にしてください。

原因: 指定された識別子が長すぎます。

処置: より短い識別子で再試行してください。

ORA-24020 DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL で内部エラーです。*string*

原因: DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL パッケージで内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24021 キュー表の定義が *string.string* にインポートされていません。

原因: キュー表が正しくインポートされなかったため、キュー定義が更新されていません。

処置: キュー表を再度インポートしてください。

ORA-24022 指定されたパラメータはキューに使用できません。

原因: このパラメータの組合せではキューが開始または停止しません。

処置: 処置は必要ありません。これは警告メッセージです。

ORA-24023 DBMS_AQ_EXP_INTERNAL.*string* [*string*] [*string*] で内部エラーが発生しました

原因: DBMS_AQ_EXP_INTERNAL パッケージで内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24024 DBMS_AQ_IMP_INTERNAL.*string* [*string*] [*string*] で内部エラーが発生しました

原因: DBMS_AQ_IMP_INTERNAL パッケージで内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24025 値 *string* が無効です。QUEUE_PAYLOAD_TYPE には RAW またはオブジェクト型が必要です。

原因: QUEUE_PAYLOAD_TYPE パラメータの値が無効です。

処置: 有効なオブジェクト型または RAW を指定してください。

ORA-24026 操作に失敗しました。キュー *string.string* にエラーがあります

原因: エラーがあるキューをエンキュー、デキューまたは管理しようとしました。

処置: 強制実行オプションが **true** に設定されているキュー表を削除してください。

ORA-24027 AQ HTTP 伝播でエラーが検出されました。状態コードは *string*、*string* です

原因: 指定されたアドレスでの伝播サブプレットへの AQ 伝播の HTTP 要求でエラーが検出されました。

処置: 伝播の宛先データベース・リンクの接続文字列に有効なアドレスを指定してください。データベース・リンク・ユーザーは正しい権限を持ち、AQ 伝播サブプレットが正しくインストールされていることを確認してください。

ORA-24028 受信者非拒否シングル・コンシューマ・キューを作成できません。

原因: 受信者非拒否シングル・コンシューマ・キューを作成しようとしました。

処置: この機能はサポートされません。

ORA-24031 値が無効です。 *string* には NULL でない値が必要です。

原因: パラメータが NULL です。

処置: パラメータに NULL 以外の値を指定してください。

ORA-24032 オブジェクト *string* が存在します。キュー表 *string* の索引は作成できませんでした

原因: Oracle AQ で、エラー・メッセージに示された名前を使用して索引を作成しようとしました。同じ名前のオブジェクトが存在するため、示されたキュー表に対し、索引を作成できませんでした。

処置: エラー・メッセージに示されたオブジェクトを削除し、コマンドを再試行してください。別の名前のキュー表を選択することもできます。

ORA-24033 メッセージの受信者がいません。

原因: 複数のデキュー側に対して設定されているキューに対しエンキューが実行されましたが、コールに指定されている明示的な受信者も、このメッセージに対して受信者と判断されたキューのサブスクライバもどちらも存在しませんでした。

処置: エンキュー・コールの受信者のリストを渡すか、またはこのメッセージを受信するためにサブスクライバをキューに追加してください。

ORA-24034 アプリケーション *string* はすでにキュー *string* のサブスクライバです

原因: すでにキューのサブスクライバであるアプリケーション名を DBMS_AQ.SUBSCRIBE コールに指定しました。

処置: 別のアプリケーション名を選択し、コールを再試行してください。

ORA-24035 AQ エージェント *string* はキュー *string* へのサブスクリイバではありません

原因: キューのサブスクリイバではない AQ エージェントが指定されました。

処置: エージェントの名前またはアドレス（あるいはその両方）を確認し、コールを再試行してください。

ORA-24036 キュー表に対して指定された SORT_ORDER 列 *string* が無効です。

原因: CREATE QUEUE TABLE コマンドが、TRANSACTIONAL に設定された MESSAGE_GROUPING および優先順位でないソート順序列を使用して発行されました。トランザクション別にグループ化されたキュー表では、優先順位列のみがソート順序に指定できます。

処置: CREATE QUEUE TABLE コマンドのソート順序リストを変更して、コールを再試行してください。

ORA-24037 QUEUE_NAME のスキーマ *string* は QUEUE_TABLE のスキーマ *string* と同じではありません。

原因: CREATE_QUEUE の QUEUE_NAME パラメータに指定したスキーマが、QUEUE_TABLE パラメータに指定したスキーマと同じ名前ではありません。

処置: QUEUE_NAME パラメータおよび QUEUE_TABLE パラメータに対して同じスキーマ名を使用し、コマンドを再試行してください。

ORA-24038 RETRY_DELAY と MAX_RETRIES は、8.0 互換の複数コンシューマのキューに使用できません。

原因: CREATE_QUEUE コマンドまたは ALTER_QUEUE コマンドが、0（ゼロ）でない RETRY_DELAY および複数のコンシューマに対して作成された QUEUE_TABLE、および 8.0 に設定された COMPATIBLE パラメータを使用して発行されました。

処置: RETRY_DELAY を 0（ゼロ）に指定するか、または DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、キュー表を 8.1 互換にアップグレードしてください。

ORA-24039 複数コンシューマ用のキュー表にキュー *string* が作成されませんでした

原因: ADD_SUBSCRIBER、REMOVE_SUBSCRIBER または REMOVE_SUBSCRIBER プロシージャ、または空でない受信者リストの ENQUEUE が、複数のコンシューマに対して作成されていないキューに対し発行されました。

処置: 複数のコンシューマに対して作成されたキュー表にキューを作成し、コールを再試行してください。

ORA-24041 キュー *string* と宛先 *string* には伝播スケジュールがあります

原因: SCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、すでに伝播スケジュールのある宛先ペアに発行されました。

処置: UNSCHEDULE_PROPAGATION を発行し、既存のスケジュールを取り消し、SCHEDULE_PROPAGATION コールを再発行してください。

ORA-24042 キュー *string* と宛先 *string* には伝播スケジュールがありません

原因: UNSCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、伝播スケジュールのない宛先ペアに発行されました。

処置: 指定した QUEUE と DESTINATION の綴りを確認し、正しい綴りでコールを再発行してください。

ORA-24043 宛先 *string* には確保された名前が使用されています。AQ\$_ 接頭辞付きの名前は無効です。

原因: 確保されている名前を宛先に指定しようとした。

処置: 別の値か NULL をローカル宛先に入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24044 ソース *string* と宛先 *string* のオブジェクト型が一致しません。

原因: メッセージの受信者のキューは、送信者のキューと違うオブジェクト構造になっています。メッセージを伝播できません。

処置: 受信者を送信者のキューのサブスクリバ・リストから外すか、またはソース・キューのオブジェクト型に一致するオブジェクト型の宛先キューを作成してください。

ORA-24045 無効なエージェント・アドレス *string* です。エージェント・アドレスの書式は、[SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] にしてください

原因: エージェント・アドレス・パラメータに無効な値が指定されました。

処置: [SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] 書式の文字列を指定してください。

ORA-24046 プロトコル属性は今後使用する目的で確保されています

原因: AQ エージェント・オブジェクト型のプロトコル属性は、今後使用する目的で確保されています。

処置: エージェント・オブジェクト型の中でプロトコル属性を指定しないでください。

ORA-24047 無効なエージェント名 *string* です。エージェント名の書式は、NAME にしてください

原因: エージェント名パラメータに無効な値が指定されました。

処置: NAME 書式の文字列を指定してください。操作を再試行してください。

ORA-24048 QUEUE_TABLE を作成できません。AQ オブジェクト型へのアクセス権がありません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE コマンドを発行しようとしたが、そのコマンドを発行したユーザーには、内部 AQ オブジェクト型へのアクセス権がありません。

処置: DBMS_AQADM.GRANT_TYPE_ACCESS プロシージャを使用して、ユーザーに AQ オブジェクト型へのアクセス権を与えてください。

ORA-24049 エージェント名 *string* は無効です。接頭辞 AQ\$_ のある名前は無効です

原因: エージェント名に確保されている接頭辞を使用しようとしてしました。

処置: エージェント名に別の値を入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24050 例外キュー *string* ではサブスクライバはサポートされません

原因: ADD_SUBSCRIBER、ALTER_SUBSCRIBER または REMOVE_SUBSCRIBER プロシージャが、EXCEPTION_QUEUE として作成されたキューで発行されました。

処置: プロシージャに NORMAL_QUEUE を指定してください。

ORA-24051 REF または BFILE 属性を持つオブジェクト型ペイロードは伝播できません

原因: エージェント型の NULL でないアドレス・フィールドで、ADD_SUBSCRIBER または ENQUEUE プロシージャが、REF または BFILE 属性を持つペイロードのキューで発行されました。REF または BFILE 属性を持つオブジェクト型ペイロードの伝播は、現在サポートされていません。

処置: エージェントが同一のキューからデキューできるように、NULL アドレス・フィールドでエージェントを指定してください。あるいは、オブジェクト型定義を、REF または BFILE 属性を使用しないものと変更してください。

ORA-24052 LOB 属性を持つオブジェクト型ペイロードはリリース 8.0 に伝播できません

原因: LOB 属性を持つメッセージの受信者が、Oracle リリース 8.0 を使用していました。LOB 属性の伝播は、Oracle 8.1 以上のリリースでのみサポートされています。

処置: ターゲット・リリースを Oracle 8.1 にアップグレードして、再試行してください。または、オブジェクト型定義を、LOB 属性を使用しないものに變更してください。

ORA-24053 PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE に負数は指定できません。

原因: PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE のうちの 1 つが、負数です。

処置: PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE に、負数でない整数を指定してください。

ORA-24054 Oracle 8.0.3 リリース以前の宛先には伝播できません。

原因: メッセージの受信者が、Oracle 8.0.3 以前のリリースを使用していました。伝播は、Oracle 8.0.4 以上のリリースでのみサポートされています。

処置: ターゲット・リリースを Oracle 8.0.4 以上のリリースにアップグレードして、再試行してください。

ORA-24055 準備状態の伝播状態行は削除できません。

原因: 内部管理プロシージャを使用して、SYS.AQ\$_PROPAGATION_STATUS 表から準備状態の状態行を削除しようとしてしました。

処置: 伝播の正常な完了を待って、操作を再試行してください。

ORA-24056 キュー *string* と宛先 *string* に内部矛盾があります。

原因：SYS.AQ\$_PROPAGATION_STATUS 表で使用されている順序番号が、指定されたキューおよび宛先に矛盾しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24057 キュー *string* に対してルール付きのサブスクライバは定義できません。

原因：ルール付きの ADD_SUBSCRIBER または ALTER_SUBSCRIBER プロシージャが、ルールベースのサブスクライバをサポートしていないキューで発行されました。ルールベースのサブスクライバは、Oracle 8.1 以上のリリースの互換性のあるキュー表を使用して作成された、NORMAL（常設）の複数のコンシューマ・キューに対してのみ現在サポートされています。

処置：Oracle 8.1 以上のリリースの互換性のあるキュー表に、NORMAL の複数コンシューマ・キューを作成してください。または、キューが NORMAL（常設）の複数コンシューマ・キューの場合、そのキュー表を Oracle 8.1 以上のリリースの互換性のあるキュー表に変換して、再試行してください。

ORA-24058 準備状態の伝播があるため、QUEUE_TABLE はダウングレードできません。

原因：準備状態の伝播メッセージがあるときに、キュー表をダウングレードしようとしてしました。

処置：伝播の完了を待って、操作を再試行してください。

ORA-24059 DBMS_AQADM.*string* で無効な COMPATIBLE パラメータ設定 *string* が指定されました。

原因：DBMS_AQADM プロシージャで、無効な COMPATIBLE パラメータが指定されました。パラメータ設定は 8.x.y または 9.x.y（x はリリース番号、y は更新番号）という書式である必要があります。

処置：有効な COMPATIBLE パラメータ設定を指定して、操作を再試行してください。

ORA-24060 QUEUE_TABLE を変換できません。string はリリース *string* とすでに互換性があります。

原因：DBMS_AQADM プロシージャのソース・キュー表は、指定された COMPATIBLE パラメータ設定と互換性があります。

処置：別の COMPATIBLE パラメータ設定を選択して、キュー表を要求された互換性のあるキュー表に変換してください。

ORA-24061 PRIMARY_INSTANCE が 0 のときは、SECONDARY_INSTANCE に 0 以外は指定できません。

原因：PRIMARY_INSTANCE が 0 のとき、SECONDARY_INSTANCE に 0 以外の値が指定されました。

処置：0 以外の PRIMARY_INSTANCE を指定してから、0 以外の SECONDARY_INSTANCE を指定してください。

ORA-24062 サブスクリバ表 *string* がキュー表 *string* と矛盾しています。

原因: サブスクリバ表が正常にインポートされていません。

処置: キュー表を使用する前に、サブスクリバ表をインポートしてください。インポートが失敗した場合は、問題を修正して、サブスクリバ表のインポートを再試行してください。

ORA-24063 ルールベースのサブスクリバ付きのキューを持つ QUEUE_TABLE はダウングレードできません

原因: ルールベースのサブスクリバを定義しているキューが存在するとき、キュー表をダウングレードしようとしました。

処置: このキュー表にあるすべてのキューのルールベース・サブスクリバを削除して、再試行してください。

ORA-24064 キュー *string*、宛先 *string* の伝播はすでに使用可能です。

原因: ENABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドが、伝播スケジュールがすでに使用可能なキューおよび宛先のペアに対して発行されました。

処置: ENABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドを発行するとき、QUEUE および DESTINATION が正しいことを確認してください。

ORA-24065 キュー *string*、宛先 *string* の伝播はすでに使用禁止です。

原因: DISABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドが、伝播スケジュールがすでに使用禁止のキューおよび宛先のペアに対して発行されました。

処置: DISABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドを発行するとき、QUEUE および DESTINATION が正しいことを確認してください。

ORA-24066 無効な権限が指定されました。

原因: 無効な権限が、権限付与および権限取消しに指定されています。

処置: 有効な権限を指定してください。

ORA-24067 キュー *string* で最大サブスクリバ数を超過しました。

原因: 新規のサブスクリバを指定されたキューに追加しようとしたますが、このキューでサブスクリバの数が、キュー 1 つに対して許可されているサブスクリバの最大数 (1024) を超えました。

処置: 既存のサブスクリバを削除してから、新規のサブスクリバを追加してください。

ORA-24068 キュー *string* を開始できません。キュー表 *string* は移行中です。

原因: 移行中のキュー表でキューを開始しようとしました。

処置: キュー表の移行を完了して、操作を再試行してください。

ORA-24069 アップグレード中のキュー表 *string* はダウングレードできません。

原因: キュー表をダウングレードしようとしたが、先に実行されたキュー表をアップグレードするコマンドが、正常に終了していません。

処置: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを再実行して、キュー表のアップグレードを完了してください。それから、キュー表をダウングレードしてください。

ORA-24070 ダウングレード中のキュー表 *string* はアップグレードできません。

原因: キュー表をアップグレードしようとしたが、先に実行されたキュー表をダウングレードするコマンドが、正常に終了していません。

処置: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを再実行して、キュー表のダウングレードを完了してください。それから、キュー表をアップグレードしてください。

ORA-24071 操作 *string* は実行できません。キュー表 *string* が移行中です。

原因: 移行中のキュー表で操作を実行しようとした。

処置: キュー表の移行を完了して、操作を再試行してください。

ORA-24072 MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを実行することができません: 所有キュー表が必要です

原因: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用してキュー表をアップグレードまたはダウングレードしようとしたが、そのプロシージャを実行するユーザーは、キューを所有していません。

処置: キュー表の所有者として再接続して、DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを実行してください。

ORA-24073 例外キュー *string.string* で、RETENTION_TIME は指定できません。

原因: 0 以外の RETENTION_TIME を指定して、例外キューを作成または変更しようとした。

処置: 例外キューに RETENTION_TIME パラメータのデフォルト値を使用してください。

ORA-24074 RETRY_DELAY と MAX_RETRIES は、例外キュー *%string* に使用できません。

原因: CREATE_QUEUE または ALTER_QUEUE コマンドが、0 以外の RETRY_DELAY および例外キューを使用して発行されました

処置: 例外キューに RETRY_DELAY または MAX_RETRIES を指定しないでください。

ORA-24075 NULL のアドレスと NULL でないプロトコルでは、エージェントを指定できません。

原因: NULL のアドレスと NULL でないプロトコルを持つエージェントを使用して、ADD_SUBSCRIBER またはエンキューを、実行しようとした。

処置: NULL 以外のアドレスを指定するか、またはプロトコルを NULL に設定してください。

ORA-24076 操作 *string* (NON_PERSISTENT キュー *string.string* に対する) を実行できません。

原因: SCHEDULE_PROPAGATION、ALTER_QUEUE、LISTEN、DEQUEUE の操作のうち 1 つが、NON_PERSISTENT キューに発行されました。

処置: これらの操作に、NON_PERSISTENT キューを指定しないでください。

ORA-24077 EXCEPTION キュー *string.string* の伝播スケジュールを作成できません。

原因: EXCEPTION キューに SCHEDULE_PROPAGATION が発行されました。伝播スケジュールは、NORMAL キュー用にのみ作成できます。

処置: キューからのメッセージを伝播するには、キュー・タイプを NORMAL に指定してください。

ORA-24078 PRIMARY_INSTANCE が NULL の場合、NULL でない SECONDARY_INSTANCE は指定できません。

原因: PRIMARY_INSTANCE が NULL のとき、SECONDARY_INSTANCE に NULL 以外の値が指定されました。

処置: NULL 以外の PRIMARY_INSTANCE を指定してから、NULL 以外の SECONDARY_INSTANCE を指定してください。

ORA-24079 名前 *string* は無効です。 *string* に AQ\$_ 接頭辞付きの名前は使用できません。

原因: オブジェクト名に対して確保されている接頭辞を使用しようとした。

処置: このオブジェクトに別の名前を入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24080 unschedule_propagation は、キュー *string* と宛先 *string* に対して保留されています

原因: 伝播がスケジュールされていないキューおよび宛先のペアに対して、伝播管理コマンドが発行されています。

処置: 保留中のスケジュールされていない要求がある伝播スケジュールに、伝播管理コマンドを発行しないでください。

ORA-24081 互換性があるパラメータは *string* 以上です

原因: COMPATIBLE パラメータの値が十分に高くないため、操作が実行できませんでした。

処置: 停止し、互換性の設定値を高くして再起動してください。

ORA-24082 キュー *string* および宛先 *string* に対するスケジュールで、依然として伝播が続いている可能性があります。

原因：伝播スケジュールを実行しているスナップショット・プロセスが、伝播を使用不可にするコマンドに応答しませんでした。

処置：伝播スケジュールのジョブが終了していることを確認してください。

ORA-24083 *string*、キュー *string* のリモート・サブスクライバを指定できません

原因：NULL でないアドレス・フィールドを指定した ADD_SUBSCRIBER コールが、リモート・サブスクライバをサポートしていないキューで発行されました。

NON_PERSISTENT キューでは、リモート・サブスクライバはサポートされていません。

処置：NULL のアドレス・フィールドを指定して、コールを再試行してください。

ORA-24084 エージェント *string* のアドレス・フィールドにある DBLINK 名は、最初の 24 バイトが一意ではありません。

原因：アドバンスド・キューイングでは、エージェントの DBLINK 名の最初の 24 バイトは一意である必要があります (8.0 互換キュー表の場合)。

処置：DBLINK 名の最初の 24 バイトが一意になるように指定するか、またはこの制約のない 8.1 互換キュー表に移行してください。

ORA-24085 操作に失敗しました。キュー *string* は無効です

原因：無効なキューをエンキュー、デキューまたは管理しようとしました。キューのキュー表のペイロード・タイプが削除されているためにこのエラーが発生する可能性があります。

処置：強制実行オプションが true に設定されているキュー表を削除してください。

ORA-24086 8.0 互換の非拒否キューを作成できません。

原因：8.0 互換の非拒否キューを作成しようとしました。

処置：この機能はサポートされません。

ORA-24087 無効なデータベース・ユーザー *string*

原因：指定されたデータベース・ユーザー名が無効です。

処置：有効なデータベース・ユーザーを指定してください。

ORA-24088 ユーザー *string* は AQ インターネット接続に登録されていません。

原因：このユーザー名は AQ インターネット接続に登録されていません。

処置：有効な AQ インターネット・ユーザーを指定してください。有効な AQ インターネット・ユーザーのリストについては、AQ\$INTERNET_USERS ビューを確認してください。

ORA-24089 ユーザー *string* は AQ インターネット接続にすでに登録されています。

原因: このユーザー名は HTTP/SMTP 要求にすでに登録されています。

処置: 他のユーザー名を指定するか、または ALTER API を使用してユーザー情報を変更してください。

ORA-24090 少なくとも 1 つのプロトコルを使用可能にする必要があります

原因: AQ エージェントに使用可能なプロトコルがありません。

処置: 使用可能なパラメータの 1 つを true に設定して、プロトコルの 1 つを使用可能にしてください。

ORA-24093 AQ インターネット・ユーザー *string* はデータベース・ユーザー *string* の権限を付与されていません。

原因: 指定された AQ インターネット・ユーザーには、指定されたデータベース・ユーザーの権限が付与されていません。

処置: AQ インターネット・ユーザーおよびデータベース・ユーザーの有効な組合せを指定してください。

ORA-24094 変換が無効です。ターゲット・タイプがキューと一致しません。

原因: 指定された変換のターゲット・タイプがキューのタイプとは異なります。

処置: キュー・タイプと同じターゲット・タイプの有効な変換を指定してください。

ORA-24095 変換が無効です。ソース・タイプがキューと一致しません。

原因: 指定された変換のソース・タイプがキューのタイプとは異なります。

処置: キュー・タイプと同じソース・タイプの有効な変換を指定してください。

ORA-24096 無効なメッセージ状態が指定されました。

原因: メッセージ状態に無効な値が指定されました。

処置: ドキュメントに指定されているように、有効なメッセージ状態を指定してください。

ORA-24097 値 *string* が無効です。 *string* は負ではない値にしてください。

原因: 負の値または NULL がパラメータに指定されました。

処置: 負ではない整数を指定してください。

ORA-24098 値 *string* (*string*) が無効です。

原因: 無効な値または NULL がパラメータに指定されました。

処置: 有効な値については、ドキュメントを参照してください。

ORA-24099 操作は 8.0 互換キューには許可されていません。

原因: 指定された操作は 8.1 以上と互換性のあるキューにのみサポートされています。

処置: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE を使用して 8.0 互換キューをリリース 8.1 にアップグレードするか、または 8.1 以上と互換性のあるキューを指定してください。

ORA-24100 ktz テスト・レイヤーでエラーが発生しました。

原因: トランザクション・レイヤー・テスト ICD にエラーがあります。

ORA-24120 無効な *string* パラメータが DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 指定された DBMS_REPAIR プロシージャに無効なパラメータが渡されました。

処置: 有効なパラメータ値を指定するか、またはパラメータのデフォルトを使用してください。

ORA-24121 カスケードとブロック範囲の両方が DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT プロシージャに渡されました。

原因: カスケードとブロック範囲の両方が DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT のコールで指定されました。

処置: カスケードまたはブロック範囲のいずれかを使用するか、またはいずれも使用しないでください。

ORA-24122 ブロック範囲指定が無効です

原因: 無効なブロック範囲が指定されました。

処置: BLOCK_START パラメータおよび BLOCK_END パラメータに正しい値を指定してください。

ORA-24123 機能 *string* はまだ実装されていません。

原因: 指定された機能を使用しようとしたが、機能はまだ実装されていません。

処置: この機能は使用しないでください。

ORA-24124 無効な ACTION パラメータが DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 無効な ACTION パラメータを指定しました。

処置: CREATE_ACTION、PURGE_ACTION または DROP_ACTION を ACTION パラメータに指定してください。

ORA-24125 オブジェクト *string.string* が変更されました。

原因: DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT が実行されていたために削除または切り捨てられたオブジェクトの破損ブロックを修正しようとした。

処置: DBMS_REPAIR.ADMIN_TABLES を使用して、修復された表を削除し、DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT を実行して、修正すべき破損ブロックがあるかどうかを判断してください。

ORA-24126 無効な CASCADE_FLAG が DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 表ではないオブジェクトに CASCADE_FLAG が指定されました。

処置: CASCADE_FLAG は表に対してのみ使用してください。

ORA-24127 TABLESPACE パラメータが CREATE_ACTION 以外のアクションとともに指定されました。

原因: TABLESPACE パラメータは CREATE_ACTION とともにのみ使用できます。

処置: CREATE_ACTION 以外のアクションを実行している場合は、TABLESPACE を指定しないでください。

ORA-24128 パーティション化されていないオブジェクトにパーティション名が指定されました。

原因: パーティション化されていないオブジェクトにパーティション名が指定されました。

処置: オブジェクトがパーティション化されている場合のみ、パーティション名を指定してください。

ORA-24129 表名 *string* が接頭辞 *string* で始まっていません。

原因: 接頭辞を指定せずに表名パラメータを渡そうとしました。

処置: 有効な表名パラメータを渡してください。

ORA-24130 表 *string* が存在しません。

原因: 存在しないマップ表、修復表または同期表を指定しようとした。

処置: 有効な表名パラメータを指定してください。

ORA-24131 表 *string* に不適切な列があります

原因: 正しい定義を持たないマップ表、修復表または同期表を指定しようとした。

処置: 正しく作成された表を参照している表名を指定してください。

ORA-24132 表名 *string* が長すぎます。

原因: 30 文字を超える表名を指定しようとした。

処置: 有効な表名パラメータを指定してください。

ORA-24141 指定したルールセットは存在しません。

原因: ルールセットにアクセスまたは変更しようとしたが、ルールセットは存在しないため失敗しました。

処置: 存在するルールセットのみにアクセスまたは変更してください。

ORA-24142 ルールセット名が無効です。

原因: 無効な名前のルールセットを作成しようとした。ルールセット名は、NULL および 27 文字以上にすることはできません。RULES_TABLE_NAME が指定されている場合は、ルールセット名は最大 30 文字にすることができます。

処置: 有効なルールセット名でルールセットを再作成してください。

ORA-24143 表名が無効です。

原因: 無効な表名でルールセットを作成しようとした。DATA_TABLE 名は、NULL および 31 文字以上にすることはできません。指定された名前の表が存在する必要があります。

処置: 有効な表名でルールセットを再作成してください。

ORA-24144 ルール・エンジンの内部エラーが発生しました。引数: [string], [string]

原因: ルール・エンジンで内部エラーが発生しました。このエラーは、ルール・エンジンが例外条件を検出したことを示しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。最初の引数はエラーで、2 番目の引数はパッケージです。

ORA-24180 変換式が無効です。この変換式はターゲット・タイプ / 属性への評価を行いません。

原因: 変換式がターゲット・タイプまたはターゲット・タイプの指定された属性への評価を行いません。

処置: ターゲット・タイプまたはターゲット・タイプの指定された属性への評価を行う有効な変換式を指定してください。

ORA-24181 型 *string* は存在しません

原因: 変換のソースまたは宛先タイプが存在しません。

処置: 型を作成するか、または存在する型を指定してください。

ORA-24182 指定された属性の数値は存在しません。

原因: 変換のターゲット・タイプは、ADD_ATTRIBUTE_TRANSFORMATION コマンドで指定された属性の数値を持ちません。

処置: ターゲット・タイプの定義を確認して、有効な属性の数値を指定してください。

ORA-24183 変換が無効です。

原因: 指定された変換は、ソースまたはターゲット・タイプが削除 / 変更されているために無効です。

処置: 変換を削除して、再作成してください。

ORA-24184 変換 *string.string* は、すでに存在します。

原因: 指定された名前の変換がすでに存在します。

処置: 作成する変換に別の名前を指定してください。

ORA-24185 変換 *string.string* が存在しません。

原因: 指定した変換が存在しません。

処置: 変換を作成してから使用するか、または既存の変換を指定してください。

ORA-24186 オブジェクト型が正しくありません。メッセージを変換できません

原因: 変換するメッセージのオブジェクト型が、指定された変換のソース・タイプと一致しません。

処置: 別の変換を指定するか、または正しい型のメッセージを指定してください。

ORA-24270 *string* 表にこれらのパラメータに対する行がすでに存在しています。

原因: 指定された表内に新しい行を作成するコールが実行されました。その表には、指定された値を持つ行がすでに存在します。

処置: 適切な API を使用して既存の行を削除するか、または行の作成に使用するパラメータを確認してください。

ORA-24271 変換タイプは T、S または M のいずれかである必要があります

原因: 変換タイプ・パラメータが T、S、M のいずれでもありません。T、S または M 以外の値が指定されました。

処置: 変換タイプを修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24272 初期化の値は F または T である必要があります

原因: 初期化の値は F または T である必要があります。F または T 以外の値が指定されました。

処置: 初期化値を修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24273 変換タイプが T または S のときは変換テキストが必要です。

原因: 変換タイプに T または S が指定されている場合は、変換テキストを指定する必要があります。

処置: 変換テキストを指定し、API コールを再実行してください。

ORA-24274 *string* 表にこれらのパラメータに対する行が存在しません。

原因：存在しない行を更新するコールが実行されました。または、表を作成するために指定された外部キー値が存在しません。

処置：適切な API を使用して行を作成するか、または新しい行の作成に使用するパラメータを確認して、指定されたすべての値が存在することを確認してください。

ORA-24275 関数 '*string*' パラメータ '*string*' が欠落しているか無効です。

原因：NULL、長さ 0、または無効な値を持つパラメータ *parmname* を使用して、関数 *pkgname.funcname* がコールされました。

処置：ドキュメントに指定されているデータ型および制限に準拠した値を提供するように、パラメータを修正してください。

ORA-24276 関数 '*string*' の出力 '*string*' が最大値を超過しました

原因：関数 *pkgname.funcname* が、許容される最大値を超える出力 *parmname* の値を算出しました。それぞれ有効な複数の入力パラメータを結果として無効となる組合せで指定すると、このエラーが発生することがあります。たとえば、長さパラメータにコピー・パラメータを掛けたものが出力データ型の最大値を超える合計長になる場合などです。

処置：入力値を修正して、ドキュメントに指定された制限に準拠する結果を生成してください。

ORA-24280 ~ ORA-29249

ORA-24280 パラメータ *string* の入力値が無効です。

原因：パラメータの入力値に負の数、範囲外または NULL が指定されました。

処置：ドキュメントの記述に従って、入力値を有効かつ範囲内で修正してください。

ORA-24281 LOB パラメータ *string* の最大サイズを超えるアクセスは無効です。

原因：位置パラメータまたはサイズ・パラメータの値が、LOB で許可されている最大サイズの 4GB を超えています。

処置：合計が 4GB 以下になるように、量およびオフセットの入力値を修正してください。読み込みまたは書き込みループでエラーが発生する場合は、ループ条件またはオフセット増分値（あるいはその両方）を確認してください。

ORA-24300 モードに対して無効な値です

原因：未定義のモード値が指定されました。

処置：正しいモードが選択され、モードに対して有効な値が指定されていることを確認してください。

ORA-24301 NULL ホストがスレッド・セーフ・ログオン内に指定されました

原因：スレッド・セーフ環境で実行していましたが、HDA がログオン・コールで指定されませんでした。

処置：ログオン・ルーチンをコールするときに、HDA が NULL ではないことを確認してください。

ORA-24302 ホスト接続は別のスレッドで使用中です。

原因：別のスレッドで使用中のホスト接続を使用しようとしてしました。

処置：他のスレッドが完了するまで待ってからこの接続を使用してください。

ORA-24303 非遅延リンケージではサポートされないコールです。

原因: 遅延モード・リンクで排他的にサポートされているコールの 1 つが、クライアントが非遅延でリンクされるときに呼び出されました。

処置: 遅延モードのリンクでこのコールを使用してください。

ORA-24304 このコールでは許可されないデータ型です

原因: このデータ型のデータは、分割して送信したりフェッチすることはできません。

処置: 他のバインドを使用するか、またはこのデータ型にコールを定義してください。

ORA-24305 不正なバインドまたは定義コンテキストです。

原因: カーソルに対してコールが実行されましたが、これは無効です。

処置: このコールがこのカーソルに対して有効であることを確認してください。たとえば、適切なバインドおよび定義がこのカーソルに対して実行されている場合、GET PIECE INFORMATION および SET PIECE INFORMATION は有効です。

ORA-24306 ピースには不正なバッファです

原因: 長さが 0 (ゼロ) または NULL のバッファ・ポインタが指定されました。

処置: バッファがこのピースを指しているか、またはバッファの長さが 0 (ゼロ) でないことを確認してください。ピースが最後に挿入されるもので、その列に他にデータがない場合は、次のピース用のバッファ・ポインタまたはその長さを 0 (ゼロ) にできません。

ORA-24307 ピースには無効な長さです

原因: ピースの長さが最大サイズを超えています。

処置: このピースの長さ、その前のすべてのピースの長さの累積が、アプリケーションの要求値を超えていないことを確認してください。

ORA-24308 位置の定義が正しくありません。

原因: 属性を変更するコールが、存在しない位置に対して行われました。

処置: この位置に対する設定が行われているかを確認してください。

ORA-24309 すでにサーバーに接続されています。

原因: 指定されたサーバー・ハンドルは、すでにサーバーに接続されています。

処置: サーバーから切断して、接続を確立するコールを再試行してください。

ORA-24310 NULL の接続文字列に長さが指定されました。

原因: 接続文字列は NULL ですが、それに対して長さが指定されました。

処置: 接続文字列が NULL の場合は、長さを 0 (ゼロ) に設定してください。

ORA-24311 メモリーの初期化に失敗しました。

原因: ユーザー・メモリーは初期化できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24312 ユーザー・メモリーの割当て用に指定されたパラメータが正しくありません。

原因: ユーザー・メモリーに無効なサイズまたは NULL ポインタが指定されました。

処置: ユーザー・メモリーに適切なサイズおよび有効なポインタを指定してください。

ORA-24313 ユーザーはすでに認証を取得しています。

原因: ユーザーは、このサービス・ハンドルですでに認証を取得しています。

処置: 別のユーザー用に使用する前に、サービス・コンテキストを終了してください。

ORA-24314 サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: サーバー・コンテキストが存在しません。

処置: サービス・コンテキストにサーバー・コンテキストを構築してください。

ORA-24315 属性タイプが正しくありません。

原因: ハンドルに指定された属性タイプが正しくありません。

処置: 『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、このハンドルに対して正しい属性を指定してください。

ORA-24316 ハンドル・タイプが正しくありません。

原因: 指定されたハンドル・タイプが正しくありません。

処置: 『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、有効なハンドル・タイプを指定してください。

ORA-24317 ハンドルを使用する位置が異なって定義されています。

原因: 既存のハンドルが異なる位置で定義されました。

処置: 再定義するときには前回と同じ位置を指定してください。

ORA-24318 スカラー・データ型には使用できないコールです。

原因: このコールはオブジェクト型のみで使用できます。

処置: この変数のデータ型がオブジェクト型であることを確認してください。

ORA-24319 メモリーを割り当てられません。

原因: 診断プログラムを格納するためのメモリーを、プロセスが割り当てられませんでした。

処置: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

ORA-24320 mutex を初期化できません。

原因: mutex の初期化に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24321 渡されたパラメータが矛盾しています。

原因: 3 つのメモリー・ファンクション・ポインタの 1 つが、NULL または NULL 以外です。

処置: すべてのメモリー・ファンクションが、NULL または NULL 以外で統一されていることを確認してください。

ORA-24322 初期化された mutex は削除できません。

原因: 初期化された mutex の削除に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24323 値が許可されていません。

原因: NULL または無効な値が必須パラメータに渡されました。

処置: すべての必須パラメータが、正しく初期設定されていることを確認してください。

ORA-24324 サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: 不適切なサービス・コンテキスト・ハンドルを使用しようとしてしました。

処置: サービス・コンテキスト・ハンドルのすべてのパラメータが初期化され、このコール用に設定されていることを確認してください。

ORA-24325 この OCI 操作は現在使用できません。

原因: 有効範囲外でコンテキスト・ハンドルを使用しようとしてしました。

処置: このコンテキスト・ハンドルが、他の OCI コール用のログイン・データ領域に変換されたサービス・コンテキスト・ハンドルに設定されていることを確認してください。ログイン・データ領域を使用するには、そのログイン・データ領域をサービス・コンテキストに再変換する必要があります。

ORA-24326 渡されたハンドルはすでに初期化されています。

原因: 初期化されたハンドルが渡されようとしてしました。

処置: ハンドルを取り出すために渡されたパラメータが、まだハンドルを指していないことを確認してください。

ORA-24327 ユーザーに認証を与える前に明示的に連結する必要があります。

原因: セッションを作成する前にサーバー・コンテキストを初期化する必要があります。

処置: サーバー・ハンドルを作成および初期化してください。

ORA-24328 属性値が正しくありません。

原因：渡された属性値が正しくありません。

処置：『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、ハンドルに正しい属性値を指定してください。

ORA-24329 キャラクタ・セットの識別子が無効です。

原因：指定されたキャラクタ・セットの識別子は無効です。

処置：OCI コールで有効なキャラクタ・セットの識別子を指定してください。

ORA-24330 内部 OCI エラーが発生しました。

原因：内部 OCI エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24331 ユーザー・バッファが小さすぎます。

原因：出力データを格納するユーザー・バッファが小さすぎます。

処置：より大きなバッファを指定してください。

ORA-24332 オブジェクト型が無効です。

原因：記述コールで無効なオブジェクト型が要求されました。

処置：記述コールで有効なオブジェクト型を指定してください。

ORA-24333 繰返し件数が 0（ゼロ）です

原因：文の繰返し件数が 0（ゼロ）に指定されています。

処置：この文を実行する回数を指定してください。

ORA-24334 この位置に対する記述子はありません。

原因：アプリケーションが、ハンドルから不正な位置の記述子を取得しようとした。

処置：位置番号を確認してください。

ORA-24335 1000 列以上はサポートされていません。

原因：列数がサポートされている最大数を超過しました。

処置：1000 未満の列数を指定してください。

ORA-24336 結果セット記述子が無効です

原因：結果セット記述子は、有効なデータをフェッチしてからでないと文ハンドルに変換することはできません。

処置：記述子を文ハンドルに変換する前に、有効なデータをその記述子にフェッチしてください。

ORA-24337 文の処理が準備されません。

原因: 要求を準備する前に文を実行することはできません。

処置: 文を準備してからその文を実行してください。

ORA-24338 文の処理が実行されません。

原因: 文ハンドルを実行する前に、フェッチまたは記述が実行されようとしてしました。

処置: 文を実行してからデータをフェッチまたは記述してください。

ORA-24339 サーバーへの接続後にサーバー・グループ名を設定することはできません。

原因: サーバーへの接続後に、サーバー・ハンドルのサーバー・グループを設定しようとしてしました。一度サーバーへの接続が確立されると、サーバー・グループ名は設定できません。

処置: サーバー・ハンドルのサーバー・グループ名を設定してから、サーバーに接続してください。

ORA-24340 255 列以上はサポートされていません。

原因: 列数がサーバーでサポートされている最大数を超過しました。

処置: 操作を 255 列未満に制限してください。

ORA-24341 指定されたモードが無効です。

原因: スレッドが作成されていないクライアントに、OCI_ENV_NO_MUTEX モードが指定されました。

処置: OCI_ENV_NO_MUTEX は、プロセスの初期設定時に OCI_THREADED が指定された場合に指定してください。

ORA-24342 mutex を破棄できません。

原因: mutex の破棄に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24343 ユーザー定義コールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義コールバック関数の有効な戻り値は、OCI_CONTINUE のみです。他の値が戻されると、このエラーが発生します。

処置: ユーザー定義コールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるようにしてください。

ORA-24344 正常に終了しましたが、コンパイル・エラーがあります。

原因: SQL または PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。

処置: エラー・コードとともに OCI_SUCCESS_WITH_INFO を戻してください。

ORA-24345 切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

原因：切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

処置：バッファ・サイズを、戻りデータが格納できる大きさにしてください。

ORA-24346 バインド変数がないと実行できません

原因：バインドされている SQL 文のバインド変数がありません。

処置：すべての変数をバインドしてから、実行してください。

ORA-24347 警告：グループ関数に NULL 列があります

原因：集計関数が NULL 列を処理しました。

処置：OCI_SUCCESS_WITH_INFO が戻されます。

ORA-24348 UPDATE または DELETE 文に WHERE 句がありません

原因：WHERE 句を指定せずに UPDATE または DELETE が実行されました。

処置：OCI_SUCCESS_WITH_INFO が戻されます。

ORA-24350 OCI コールは使用できません。

原因：使用している OCI は外部プロシージャから許可されていません。

処置：使用制限については、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

ORA-24351 無効な日付が OCI コールに渡されました。

原因：OCI コールの 1 つに無効な日付が渡されました。

処置：日付バインド値を確認して、それらを修正してください。

ORA-24352 無効な COBOL 表示型が OCI コールに渡されました

原因：無効な COBOL 表示型が OCI コールの 1 つに渡されました。

処置：COBOL 表示型バインド値を確認し、それらを修正してください。

ORA-24353 ユーザー・バッファが小さすぎて COBOL 表示型を格納できません。

原因：COBOL 表示型にユーザーが提供したバッファが小さすぎるため、フェッチされた数値を格納できません。

処置：COBOL 表示型バッファの割当てを増やしてください。

ORA-24354 フェッチされた数値が大きすぎて COBOL 表示型バッファに格納できません。

原因：フェッチされた数値が表示できる範囲を超えています。

処置：データベース内の数値を確認してください。

ORA-24355 符号なしの表示型に負数を保存しようとしてしました。

原因: 負数を符号なしの表示型に変換しようとしてしました。

処置: データベース内の数値を確認するか、定義されているデータ型を変更してください。

ORA-24356 COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24357 OCIDate への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: OCIDate 型への変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24358 オブジェクト型または参照に対する OCIBindObject が起動していません

原因: OCIBindObject が起動していなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

処置: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIBindObject コールを起動してください。

ORA-24359 オブジェクト型または参照に対する OCIDefineObject が起動していません

原因: OCIDefineObject が起動していなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

処置: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIDefineObject コールを起動してください。

ORA-24360 オブジェクトのバインド/定義に対する型記述子オブジェクトが指定されていません。

原因: 型記述子オブジェクトは、オブジェクト型バインドおよび定義にとって必須パラメータです。

処置: 有効な型記述子オブジェクトとともに、OCIBindObject() または OCIDefineObject() コールを起動してください。

ORA-24361 拡張バインド・コールを起動する前に基本バインド・コールが起動されていません

原因: 拡張バインド・コールを起動する前に、このバインド・ハンドルで、基本バインド・コールの1つが起動されていませんでした。

処置: 基本バインド・コールを起動した後にのみ、このバインド・ハンドルで、拡張バインド・コールを起動してください。

ORA-24362 文字件数フラグの使用方法が適切ではありません。

原因：文字件数フラグを設定するときは、サーバー内のバッファの最大サイズを 0（ゼロ）以外に指定する必要があります。

処置：サーバー内のバッファの最大サイズに、0（ゼロ）以外の値を使用してください。

ORA-24363 文字数の計算が不当です。

原因：サーバーまたはクライアントのいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合、バイト数ではなく文字数での計算は不当です。

処置：クライアントまたはサーバーのいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合は、バインド・ハンドルに対して、OCI_ATTR_CHAR_COUNT 属性を使用しないでください。そのかわりに、OCI_ATTR_MAXDATA_SIZE を使用してください。

ORA-24364 空白の埋込中に内部エラーが発生しました。

原因：文字列データの空白に埋込みをしようとしているときに、内部エラーが発生しました。通常、このエラーは発生しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24365 文字変換中にエラーが発生しました。

原因：ソース・データが、マルチバイト文字の中央で異常終了している場合、マルチバイト文字データの変換中、通常このエラーが発生します。

処置：すべてのマルチバイト文字データが、適切に終了していることを確認してください。

ORA-24366 移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されています。

原因：これはユーザー認証中に発生します。移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されています。

処置：サービス・ハンドルが、別のユーザーの認証に使用されているときは、移行可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定しないでください。

ORA-24367 ユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されていません。

原因：これは移行可能なユーザーの認証中に発生します。移行不可能なユーザー・ハンドルにサービス・ハンドルが設定されていません。

処置：サービス・ハンドルが、移行可能なユーザーの認証に使用されているときは、移行不可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定してください。

ORA-24368 ハンドルの解放時に OCI mutex カウンタがゼロになっていません。

原因：内部 OCI エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24369 1 つ以上のバインド・ハンドルに、必要なコールバックが登録されていません。

原因: RETURNING 句の一部である 1 つ以上のバインド・ハンドルに対して、コールバックが登録されていません。

処置: RETURNING 句を持つ DML 文のデータを受け取るバインド・ハンドルのモードを DATA_AT_EXEC に設定し、OCIBindDynamic を使用して、これらのバインド・ハンドルにコールバック関数を登録してください。

ORA-24370 無効なピース単位操作が試行されました

原因: ピース単位操作をサポートしないデータ型のデータが、ピース単位で送信またはフェッチされています。

処置: ピース単位操作をサポートしないデータ型の OCI_ONE_PIECE に、ピース単位値を設定してください。

ORA-24371 データが大きすぎるためカレント・プリフェッチ・バッファに格納できません。

原因: 内部 OCI エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24372 記述対象のオブジェクトが無効です。

原因: 記述されるオブジェクトが無効です。それは、コンパイル・エラーまたは認可エラーのいずれかです。

処置: 記述されるオブジェクトを有効にしてください。

ORA-24373 文に無効な長さが指定されました

原因: 文に対して指定された長さが、0（ゼロ）または大きすぎます。

処置: 文に有効な長さを指定してください。

ORA-24374 フェッチまたは実行してフェッチする前に、定義されていません

原因: アプリケーションがフェッチ・コールを発行する前、または実行コール内に 0（ゼロ）以外の行カウントを指定してフェッチを呼び出す前に、フェッチされたデータの出力変数を定義していません。

処置: OCI 定義コールをフェッチする列に発行してください。

ORA-24375 V8 のサーバーにアクセスするときは、V6 の構文は使用できません。

原因: バージョン 6 構文はバージョン 8 サーバーではサポートされなくなりました。

処置: 構文をバージョン 7 以上の構文に変更してください。

ORA-24376 環境ハンドル以外のハンドルに対してユーザー・コールバックは登録 / 取得できません。

原因: 環境ハンドル以外のハンドルでユーザー・コールバックが登録または取得されようとした。

処置: ユーザー・コールバックを登録 / 取得するには、環境ハンドルを渡してください。

ORA-24377 OCI 関数コードが正しくありません。

原因: ユーザー・コールバックを登録または取得するために無効な関数コードが使用されました。

処置: 有効な OCI 関数コードを指定してください。

ORA-24378 このコールにユーザー・コールバックは許可されていません。

原因: ユーザー・コールバックの登録を許可されていない OCI コールにユーザー・コールバックを登録しようとした。

処置: この OCI コールにユーザー・コールバックを登録しないでください。

ORA-24379 ユーザー・コールバックの型が正しくありません。

原因: 無効なユーザー・コールバックの型が指定されました。

処置: 有効なユーザー・コールバックの型を指定してください。

ORA-24380 モード指定が無効です

原因: OCIU* コールのモード・パラメータが無効です。

処置: 有効なモード・パラメータのみを使用してください。

ORA-24381 DML 配列にエラーがあります。

原因: 1 つ以上の行が DML 配列で失敗しました。

処置: エラー・ハンドルのエラー・スタックを参照してください。

ORA-24382 文ハンドルは既に実行または記述されています。

原因: 文ハンドルがすでに正常に実行または記述されています。

処置: OCI_PARSE_ONLY の前に OCISmtPrepare を再実行してください。

ORA-24383 IOT のオーバーフロー・セグメントは記述できません。

原因: OCIDescribeAny コールで指定されている名前が、IOT のオーバーフロー・セグメントを参照しました。

処置: OCIDescribeAny は、文書化されたオブジェクトのみを記述する場合に使用してください。

ORA-24384 アプリケーション・コンテキスト・サイズが初期化されていません。

原因: アプリケーション・コンテキストのサイズは、各コンテキスト要素を移入する前に初期化する必要があります。

処置: OCI_ATTR_CTX_SIZE とともに OCIAttrSet を発行し、コンテキスト・サイズを初期化してください。

ORA-24385 アプリケーション・コンテキスト・サイズまたは索引が無効です。

原因: アプリケーション・コンテキストのサイズまたは索引は、0（ゼロ）以外で、負の数以外にする必要があります。

処置: サイズに適切な値を指定してください。

ORA-24386 解放時に、文 / サーバー・ハンドルは使用されています。

原因: 内部 OCI エラーです。

処置: ハンドルを解放する前に、文ハンドルの使用中のフラグをリセットしてください。

ORA-24387 無効な連結ドライバです。

原因: 誤ったドライバを使用して連結しようとしてしました。

処置: 正しいモードでアプリケーションを再リンクしてください。

ORA-24388 ファスト・パス・モードではサポートされていない機能です

原因: この機能は、ファスト・パス・モードではサポートされていません。

処置: この機能は、このモードで使用しないでください。

ORA-24389 無効なスクロール・フェッチ・パラメータです。

原因: このフェッチで要求されたすべての行を受け取ることはできませんでした。

処置: フェッチ方向、スクロール・オフセット、OCI_ATTR_CURRENT_POSITION、OCIStmtFetch2 コールの行数を確認してください。必要に応じて、前述のパラメータをいくつか変更して、再度フェッチを行ってください。

ORA-24390 サポートされていないスクロール・カーソル操作です。

原因: スクロール・カーソル実行またはフェッチが失敗しました。

処置: スクロール・カーソル使用時にサポートされている操作およびその他の制限事項をドキュメントで確認してください。

ORA-24391 フェッチ操作が無効です。

原因: 非スクロール・カーソルでスクロール・カーソル操作を要求しました。

処置: この文が、スクロール・モードで実行されたかどうかを確認してください。唯一の受入れ可能な方向は、スクロール・オフセット・パラメータを無視する OCI_FETCH_NEXT です。

ORA-24392 サーバー・ハンドルを対応付ける接続プールがありません

原因: OCIServerAttach が OCI_POOL モードでコールされましたが、サーバー・ハンドルを対応付ける接続プールがありません。

処置: 次の処置を行ってください。

1. OCIServerAttach をコールする前に OCIConnectionPoolCreate がコールされていることを確認してください。
2. OCIServerAttach で指定されたデータベース・リンクが、接続プール・データベース・リンクと一致することを確認してください。

ORA-24393 接続プール作成が無効なモードです

原因: OCIConnectionPoolCreate で指定されたモードが無効です。

処置: 有効なモードを使用してください。

ORA-24394 接続プール破棄が無効なモードです

原因: OCIConnectionPoolDestroy で指定されたモードが無効です。

処置: 有効なモードを使用してください。

ORA-24395 存在しないプールは再初期化できません

原因: OCIConnectionPoolCreate が、このプール・ハンドルの OCI_DEFAULT モードでコールされませんでした。

処置: 接続プールを作成してから再初期化してください。

ORA-24396 サーバーハンドルに無効な属性がセットされました

原因: 属性 OCI_ATTR_NONBLOCKING_MODE が、サーバー・ハンドルにセットされ、OCI_POOL モードで連結されました。接続プールは、非ブロック化モードをサポートしていません。

処置: OCI_POOL モードで連結する場合は、サーバー・ハンドルに OCI_ATTR_NONBLOCKING_MODE 属性をセットしないでください。

ORA-24397 接続の解放の試行中にエラーが発生しました

原因: 接続の解放の試行中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24398 接続プールがすでに存在します

原因: 接続プールは、指定されたプール・ハンドルですでに作成されています。

処置: 次の処置を行ってください。

1. 別のプール・ハンドルを指定して、新しい接続プールを作成してください。
2. プール・パラメータを変更する場合は、OCI_CPOOL_REINITIALIZE モードで OCIConnectionPoolCreate をコールしてください。

ORA-24399 指定した接続数は無効です

原因: OCIConnectionPoolCreate コールで指定した接続数の最小値、最大値および増分値の組合せが無効です。

処置: 有効な組合せでパラメータを指定してください。

ORA-24400 プールに接続を作成中にエラーが発生しました

原因: OCIConnectionPoolCreate に指定されたデータベース・リンクが無効です。

処置: 有効なデータベース・リンクを指定してください。

ORA-24401 これ以上の接続は開けません

原因: コールを実行するための十分な接続数が不足しています。

OCIConnectionPoolCreate に指定された connMax パラメータに達したため、新しい接続をオープンできません。

処置: OCI_CPOOL_REINITIALIZE モードで OCIConnectionPoolCreate をコールして、connMax パラメータの値を増やしてください。

ORA-24402 プールに接続を作成中にエラーが発生しました

原因: OCIConnectionPoolCreate に指定されたユーザー名およびパスワードが無効です。

処置: 有効なユーザー名およびパスワードを指定してください。

ORA-24403 接続プールの破棄の試行中にエラーが発生しました

原因: 接続プールを破棄しようとしたますが、プール内のいくつかの接続がビジーでした。

処置: 使用されていない接続がプール内にあることを確認してください。

ORA-24404 接続プールは存在しません

原因: 接続プールを作成する前に、それを使用しようとした。

処置: 接続プールを作成してください。

ORA-24405 プールに接続を作成中にエラーが発生しました

原因: プールに接続を作成中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24406 コールの進行中は API モードの切替えができません。

原因: コールバックで、OCI8 から OCI7 へモードを切り替えようとした。

処置: API モードの切替えは、上位コールが開始される前か、メイン・コールが完了した後に行ってください。

ORA-24407 接続プールがすでに存在します

原因: 接続プールは、指定されたプール名ですでに作成されています。

処置: 別のプール名を指定して、新しい接続プールを作成してください。

ORA-24408 一意のサーバー・グループ名を生成できませんでした

原因: 一意のサーバー・グループ名を生成中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24409 クライアントでオブジェクトを理解できません

原因: クライアントが、オブジェクト内の新機能をすべて処理できませんでした。

処置: クライアントをアップグレードして、継承などの機能および SQLJ オブジェクトを使用できるようにしてください。

ORA-24410 スクロール・カーソルが最大サイズを超えています

原因: 結果セットのサイズが最大サイズを超えています。

処置: スクロール・カーソルの結果セットの最大サイズをドキュメントで確認してください。より小さい結果セット・サイズで再実行するか、カーソルを非スクロールにしてください。

ORA-24500 UTF16 モードが無効です

原因: UTF16 モードは、ハンドル作成時のみ有効です。

処置: OCIEnvCreate() 以外の関数では、UTF16 モードを削除してください。

ORA-24501 渡された UTF16 文字列が無効です

原因: UTF16 文字列が想定される場合に、UTF16 以外の文字列が渡されました。

処置: パラメータで実際の文字列を確認してください。

ORA-24502 コードポイントの長さがオーバーフローしています。

原因: 返されたバッファに、許可される長さより長いコードポイントがあります。

処置: 格納できる十分な大きさに OCI_MAXCHAR_SIZE を設定してください。

ORA-24503 コードポイントの長さがピース単位操作に対してオーバーフローしています。

原因: 未処理のコードポイントの長さが、許可されるコードポイントの長さを超えています。

処置: 格納できる十分な大きさに OCI_MAXCHAR_SIZE を設定してください。

ORA-24504 予想より長いデータ長です

原因: 受信データが受信バッファより長いです。

処置: OCI_MAXDATA および OCI_MAXCHAR_SIZE を適切に設定するか、またはこの設定を削除してください。

ORA-24505 ハンドルではキャラクタ・セット ID を変更できません

原因: 環境ハンドル以外でキャラクタ・セット ID を変更しようとした。

処置: 環境ハンドルでのみキャラクタ・セット ID を変更してください。

ORA-24506 env ハンドルでのキャラクタ・セット ID 変更の試行は無効です

原因: env ハンドルから他のハンドルが割り当てられた後に、キャラクタ・セット ID を変更しようとした。

処置: キャラクタ・セット ID の変更は、環境ハンドルを作成した後で、かつ環境ハンドルから他のハンドルが割り当てられる前に行ってください。

ORA-24750 属性のサイズが正しくありません。

原因: トランザクション ID の属性のサイズが正しくありません。

処置: サイズ・パラメータが正しいことを確認してください。

ORA-24752 ローカル・トランザクションに OCI_TRANS_NEW フラグを指定する必要があります

原因: アプリケーションが、OCI_TRANS_NEW を使用せずにローカル・トランザクションを開始しようとした。

処置: ローカル・トランザクションを開始するときには、OCI_TRANS_NEW を使用してください。

ORA-24753 ローカル・トランザクションは連結解除できません。

原因: ローカル・トランザクションを連結解除しようとした。

処置: ローカル・トランザクションでは、コミットまたはロールバックのみ行ってください。

ORA-24754 アクティブ・トランザクションと一緒に新規トランザクションを開始できません。

原因: アクティブ・トランザクションがあるときに新規トランザクションを開始しようとした。

処置: 新規トランザクションを開始する前に、既存のトランザクションをコミット、ロールバックまたは連結解除してください。

ORA-24755 OCI_TRANS_NOMIGRATE、OCI_TRANS_JOIN オプションはサポートされていません。

原因: これらのフラグは現在サポートされていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24756 トランザクションが存在しません。

原因: 無効なトランザクション識別子またはコンテキストが使用されました。または、トランザクションは完了しています。

処置: トランザクションが完了していない場合は、有効な識別子を指定してコールを再試行してください。

ORA-24757 トランザクション識別子が重複しています。

原因: 既存のトランザクションですでに使用されている識別子で、新規トランザクションを開始しようとした。

処置: 識別子が使用中でないことを確認してください。

ORA-24758 要求されたトランザクションには連結していません。

原因: カレント・トランザクション以外のトランザクションを連結解除または完了しようとした。

処置: トランザクション・コンテキストが、カレント・トランザクションを参照していることを確認してください。

ORA-24759 トランザクション起動フラグが無効です。

原因: 無効なトランザクション起動フラグが渡されました。

処置: OCI_TRANS_NEW、OCI_TRANS_JOIN、OCI_TRANS_RESUME のいずれかの値が指定されていることを確認してください。

ORA-24760 分離レベル・フラグが無効です。

原因: 無効な分離レベル・フラグが渡されました。

処置: OCI_TRANS_READONLY、OCI_TRANS_READWRITE、OCI_TRANS_SERIALIZABLE の値のいずれか 1 つのみが使用されていることを確認してください。

ORA-24761 トランザクションがロールバックされました。

原因: アプリケーションがトランザクションをコミットしようとし、サーバーがそれをロールバックしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24762 予期せぬエラーのためサーバーに障害が発生しました。

原因: サーバー・コミット・プロトコルで内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24763 トランザクション操作を完了できません。

原因: セッションを指定されたトランザクションに切り替えられないので、今はコミットまたはロールバックを実行できません。

処置: 時間をおいてから操作を再試行してください。

ORA-24764 トランザクション・ブランチは偶発的にコミットされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24765 トランザクション・ブランチは偶発的にロール・バックされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24766 トランザクション・ブランチは部分的にコミットされ、異常終了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24767 トランザクションは読取り専用で、コミットされています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24768 サーバーでコミット・プロトコル・エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24769 アクティブ・トランザクションは放棄できません。

原因: トランザクション識別子がアクティブ・トランザクションを参照しています。

処置: アクティブ・トランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24770 準備完了状態のトランザクションは放棄できません

原因: トランザクション識別子が準備完了状態のトランザクションを参照しています。

処置: 準備完了状態のトランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24771 ローカル・トランザクションは連結解除、準備または放棄できません

原因: サービス・ハンドルにローカル・トランザクション・コンテキストが含まれています。

処置: トランザクション・コンテキストがローカル・トランザクションを参照していないことを確認してください。

ORA-24772 密結合と疎結合のブランチは一緒に処理できません。

原因: アプリケーションが、グローバル・トランザクション識別子および誤ったオプションでトランザクションを開始しようとしてしました。

処置: グローバル・トランザクションのすべてのブランチが、OCI_TRANS_TIGHT オプションまたは OCI_TRANS_LOOSE オプションで開始されていることを確認してください。アプリケーションが正しく、分散更新を使用している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24773 トランザクション型のフラグが無効です

原因: OCI_TRANS_TIGHT モードまたは OCI_TRANS_LOOSE モードが指定されませんでした。

処置: 正しいパラメータが使用されていることを確認してください。

ORA-24774 指定されたトランザクションに切り換えられません。

原因: コールで指定されたトランザクションが、別のユーザーによって作成されたトランザクションを参照しています。

処置: 切換え可能にするために、トランザクションを同じ認証で作成してください。

ORA-24775 0（ゼロ）以外のロック値を持つトランザクションは準備またはコミットできません

原因: 0（ゼロ）以外のロック値を持つトランザクションを連結解除しようとしてしました。

処置: ロック値を 0（ゼロ）に設定してトランザクションを連結解除し、その後でトランザクションの準備またはコミットを試行してください。

ORA-24776 新規トランザクションを開始できません。

原因: セッションがすでに既存のトランザクションに連結されているときに、新規トランザクションを開始しようとしてしました。

処置: カレント・トランザクションを終了してから新規トランザクションを作成してください。

ORA-24777 移行できないデータベース・リンクは使用できません

原因: セッション間で移行可能である必要のあるトランザクションが、非マルチスレッド・サーバー・プロセスからリモート・データベースにアクセスしようとしてしました。

処置: ローカル・データベースで作業を実行するか、クライアントからリモート・データベースへの接続をオープンしてください。マルチスレッド・サーバー・オプションがインストールされている場合は、ディスパッチャを介して Oracle インスタンスに接続してください。

ORA-24778 接続をオープンできません。

原因: セッション自体がリモート・データベースへの接続をオープンしているときに、移行可能なトランザクションがリモート・データベースにアクセスしようとした。

処置: セッション内の接続をクローズした後で、移行可能なトランザクションからリモート・データベースへのアクセスを試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24779 リモート・カーソルがオープンしている状態では連結解除できません。

原因: リモート・カーソルがオープンしている状態で、移行可能なトランザクションがカレント・セッションから連結解除しようとした。

処置: 連結解除の前にすべてのリモート・カーソルをクローズしてください。

ORA-24780 既存のトランザクション中にトランザクションはリカバリできません。

原因: 別のトランザクション中に、あるトランザクションをコミットまたはロールバックしようとした。また、処置が必要なそのトランザクションはリカバリ状態です（これは、そのトランザクションが長時間アイドル状態の場合に発生します）。

処置: カレント・トランザクションを連結解除し、操作を再試行してください。

ORA-24781 ブランチが同一のグローバル・トランザクションに属していません。

原因: kptoxmp() に渡された xid のリストに同一の gtrid がありません。

ORA-24782 移行不可能のトランザクションからは連結解除できません。

原因: 移行不可能なトランザクションから連結解除しようとした。

処置: トランザクションをコミットまたはロールバックしてください。

ORA-24783 移行不可能のトランザクションは切替えできません。

原因: カレントとは異なる txn を準備またはコミットしようとした。

ORA-24784 トランザクションが存在します。

原因: トランザクションを開始しようとしたが、移行不可能なトランザクションに連結されています。

ORA-24785 移行不可能のトランザクションは再開できません。

原因: 移行不可能なトランザクションを再開しようとした。

ORA-24786 分離されたトランザクションが完了しました

原因: カレント・トランザクションが、別のプロセスによって完了しました。

処置: 新規トランザクションを開始してください。

ORA-24787 コールを完了する前にリモート・カーソルをクローズしなければなりません

原因: 前の操作が、オープンしていたすべてのリモート・カーソルをクローズしていません。分離されたトランザクションが使用可能なので、これは許可されません。

処置: 各コールですべてのリモート・カーソルをクローズするか、または通常の（分離されていない）トランザクションを開始してください。

ORA-24788 指定されたトランザクションに切り替えられません（サーバー・タイプ）

原因: 指定されたトランザクションが共有サーバーで作成されたのに対して要求側が専用サーバーであるか、またはトランザクションが専用サーバーで作成されたのに対して要求側が共有サーバーです。

処置: このアプリケーション全体を専用または共有として接続してください。

ORA-24789 Cannot use java client library on server side

原因: サーバー側で Java クライアント・ライブラリを使用しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24801 OCI LOB 関数のパラメータ値が無効です。

原因: OCI LOB 関数内のパラメータ値の 1 つが無効です。

処置: OCI LOB 関数コールのすべてのパラメータを確認し、それらが正しいことを確認してください。オフセットは、1 以上である必要があります。

ORA-24802 ユーザー定義 LOB 読み込みコールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義 LOB 読み込みコールバック関数で有効な戻り値は、OCI_CONTINUE のみです。他の値が戻されると、このエラーが発生します。

処置: ユーザー定義 LOB 読み込みコールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるかどうかを確認してください。

ORA-24803 LOB 読み込み関数のパラメータ値が無効です

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24804 LOB 書き込み関数のパラメータ値が無効です

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24805 LOB の型が一致しません

原因: LOB ロケータをコピーまたは追加するときは、コピー元または追加元とコピー先または追加先の LOB ロケータが同じ型である必要があります。

処置: コピーまたは追加するときは、同じ型の LOB ロケータを渡してください。

ORA-24806 LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB に対して読込みまたは書込みを行うときは、ユーザー・バッファのキャラクタ・セット・フォームが LOB のキャラクタ・セット・フォームと同じである必要があります。

処置: 読込みまたは書込みに使用するバッファが LOB のバッファと同じフォームであることを確認してください。

ORA-24807 LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB をコピーまたは追加するときは、コピー元または追加元およびコピー先または追加先の LOB ロケータが同じキャラクタ・セット・フォームである必要があります。

処置: LOB をコピーまたは追加するときは、同じキャラクタ・セット・フォームのロケータを渡してください。

ORA-24808 LOB バッファリング使用時に、LOB データをストリーム転送できません。

原因: LOB バッファリングが、入力 LOB ロケータに対して使用可能なとき、ポーリング・モードまたはコールバックを介して、LOB データをストリーム転送しようとした。

処置: 少量の LOB データの読込みまたは書込みを行うとき、ストリーム転送は不要なので、LOB バッファリングが役に立ちます。ストリーム転送を使用しないように、OCILobRead/OCILobWrite コールを修正してください。データのストリーム転送が必要な場合、LOB バッファリングは使用すべきではありません。この場合、必要に応じて入力 LOB ロケータに関連するバッファをフラッシュし、入力 LOB ロケータのバッファリングを使用不可にし、OCILobRead/OCILobWrite コールを再発行してください。

ORA-24809 指定された量が多すぎるため LOB バッファに格納できません。

原因: バッファリングを使用するため、入力 LOB ロケータに LOB バッファリングが有効になっています。ただし、読込みまたは書込み用の LOB データの量は、LOB バッファが保持できるデータ量より多くなります。

処置: 入力 LOB ロケータのバッファリングを使用禁止にして、コマンドを再発行するか、少ない量を渡してください。

ORA-24810 指定された量よりも多くのデータを書き込もうとしています。

原因: LOB に書き込んでいる間、指定された以上のデータが与えられました。

処置: データを複数のピースに書き込んでいる場合は、指定した以上のデータをそのピースに（累積的に）与えていないかどうかを確認してください。

ORA-24811 指定された量よりも少ない書込みデータが与えられています

原因: LOB に書き込んでいる間、指定より少ないデータが与えられました。

処置: データを単一ピースに書き込んでいる場合は、指定されたバッファ長が十分に大きく、与えられたデータを格納できることを確認してください。データを複数のピースに書き込んでいる場合は、すべてのデータが OCI_LAST_PIECE を指定する前に与えられていることを確認してください。

ORA-24812 UCS2 とのキャラクタ・セット変換に失敗しました。

原因: データベース・キャラクタ・セットが可変幅の場合、CLOB および NCLOB 値は暗黙的に UCS2 へまたは UCS2 から変換されます。この暗黙の変換が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24813 サポートされない LOB を送信または受信することはできません。

原因: ネットワークを介して LOB を送信しようとしたますが、クライアントが送信した LOB をサーバーがサポートしていないか、サーバーが送信した LOB をクライアントがサポートしていません。通常、このエラーは、クライアントおよびサーバーが異なるバージョンの Oracle を起動しているときに発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの両方で、LOB をサポートする Oracle のバージョンを使用してください。

ORA-24850 共有サブシステムの起動に失敗しました。

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、共有サブシステムの起動で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24851 共有サブシステムへの接続に失敗しました。

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、プロセスの共有サブシステムへの接続で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24852 文の実行中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: 文の実行中に、サーバーから記述データを受信している間に、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24853 共有サブシステムへのスレッドの接続に失敗しました

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、スレッドの共有サブシステムへの接続で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24900 コールで渡されたパラメータが無効か、またはサポートされていません

原因: OCI クライアント通知コールに渡されたモード・パラメータが正しくありません。

処置: OCI に渡されたモード・パラメータを修正してください。

ORA-24901 異なる環境に属するハンドルが OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたハンドルは、同じ環境に属する必要があります。このエラーを戻したコールに、異なる環境に属するハンドルが渡されました。

処置: コールのハンドル・パラメータが同じ OCI 環境に属することを確認してください。

ORA-24902 サブスクリプション名またはサブスクリプション・ハンドルの名前の長さが無効です

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに適切な名前または名前の長さ属性がありません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、その名前および名前の長さ属性を設定してください。

ORA-24903 無効なネームスペース属性が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに適切なネームスペース属性がありません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、ネームスペース属性を設定してください。

ORA-24904 無効なコールバック属性が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに適切なコールバック属性がありません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、コールバック属性を設定してください。

ORA-24905 無効な受信者プロトコル属性が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに、適切な受信者プロトコル属性がありません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、受信者プロトコル属性を設定してください。

ORA-24906 無効な受信者属性が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに、適切な受信者属性がありません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、受信者属性を設定してください。

ORA-24907 コールバックと受信者のプロトコル属性のペアが無効です。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに、指定されたコールバックと OCI_SUBSCR_PROTO_OCI 以外の受信者プロトコルを同時に設定することはできません。

処置: OCIAAttrSet() コールを使用して、適切なコールバックおよび受信者プロトコル属性を設定してください。

ORA-24908 受信者提示属性が無効です。

原因: OCI コールに渡されたサブスクリプション・ハンドルに、有効な受信者提示属性がありません。

処置: OCIAttrSet() コールを使用して、受信者提示属性を設定してください。

ORA-24950 登録解除が失敗しました。登録が見つかりません。

原因: 登録解除を要求された登録が見つかりません。

処置: 登録解除コールに指定したコールバック・ファンクション名およびサブスクリプション名を確認してください。

ORA-25000 トリガーの WHEN 句内のバインド変数の使用が無効です。

原因: トリガーの WHEN 句でバインド変数が使用されました。

処置: バインド変数を削除してください。表の列にアクセスするには (new/old).column_name を使用してください。

ORA-25001 このトリガー型はビューでは作成できません。

原因: ビューで作成できるのは INSTEAD OF トリガーのみです。

処置: トリガー型を INSTEAD OF に変更してください。

ORA-25002 INSTEAD OF トリガーは表では作成できません。

原因: 表で作成できるのは BEFORE または AFTER トリガーのみです。

処置: トリガー型を BEFORE または AFTER に変更してください。

ORA-25003 トリガーのこの列型の NEW 値は変更できません。

原因: オブジェクト、REF、ネストした表、VARRAY またはサポートされていない LOB データ型の NEW トリガー変数を変更しようとしてしました。

処置: トリガー本体では NEW トリガー変数を変更しないでください。

ORA-25004 INSTEAD OF トリガーに WHEN 句は使用できません。

原因: INSTEAD OF トリガーに WHEN 句が指定されています。

処置: INSTEAD OF トリガーを作成するときは、WHEN 句を削除してください。

ORA-25005 INSTEAD OF トリガーは読取り専用ビューには作成できません

原因: 読取り専用オプションを使用して作成したビューに、INSTEAD OF トリガーを作成しようとしてしました。ビューは、INSTEAD OF トリガーを使用して更新できません。

処置: トリガーを作成しないでください。

ORA-25006 UPDATE OF 句にこの列は指定できません。

原因: UPDATE OF 句では許可されない LOB やネストした表などのデータ型を持つ列に、トリガーを作成しようとしてしました。

処置: UPDATE OF 句を削除してください。

ORA-25007 WHEN 句に関数またはメソッドは使用できません。

原因：トリガーを作成するときに、WHEN 句には PL/SQL ファンクション・コールまたはメソッド呼出しを指定できません。

処置：WHEN 句からファンクション・コールまたはメソッド呼出しを削除してください。

ORA-25008 INSTEAD OF トリガーの LOB データ型が明示的に変換されていません

原因：INSTEAD OF トリガーを使用してビューに対して挿入または更新を行うとき、LOB ビュー列の新しい値が別のデータ型です。

処置：LOB ビュー列の新しい値として LOB 値を指定してください。

ORA-25009 ネストした表の句は、INSTEAD OF トリガーのみに使用できます

原因：ネストした表のトリガーは、INSTEAD OF トリガーを使用しているビュー列のみで作成されます。

処置：ネストした表のトリガーを定義するには、ネストした表のビュー列を使用してください。

ORA-25010 ネストした表の句にネストした表の列名は無効です

原因：INSTEAD OF トリガーのネストした表の句で指定されている列名が、ネストした表の列に対応しません。

処置：トリガーが定義されるネストした表の列を指定してください。

ORA-25012 PARENT と NEW の値は同一にできません。

原因：参照句が PARENT および OLD に対して同一の値を指定しています。

処置：PARENT または NEW の参照句を再指定してください。

ORA-25013 OLD と PARENT の値は同一にできません。

原因：参照句が OLD および PARENT に対して同一の値を指定しています。

処置：OLD または PARENT の参照句を再指定してください。

ORA-25014 PARENT 参照変数の値は変更できません。

原因：PARENT 値は、読取り専用であるため変更できません。

処置：PARENT 変数を変更しないでください。

ORA-25015 このネストした表のビュー列では DML を実行できません

原因：INSTEAD OF トリガーを使用しない場合、DML はネストした表のビュー列に対して実行できません。

処置：ネストした表のビュー列に INSTEAD OF トリガーを作成し、DML を実行してください。

ORA-25016 ネストした表のビュー列に挿入する列リストを指定できません

原因: ネストした表のビュー列に挿入する列リストを指定できません。

処置: ネストした表に挿入するには、すべての列を指定してください。

ORA-25017 トリガーの前にある移動可能な行の NEW ROWID は参照できません。

原因: 索引構成表または行が移動可能なパーティション表に定義されている BEFORE 行トリガーで、NEW ROWID が参照されています。BEFORE 行更新トリガーで ROWID は、行の実際の値に依存するため計算できません。

処置: トリガー定義から NEW ROWID への参照を削除してください。

ORA-25018 競合しているトリガー *string* はすでに存在します。

原因: 競合している DDL 文の INSTEAD OF トリガーが、すでにスキーマ / データベースに存在します。

処置: 古いトリガーを削除してください。

ORA-25019 同時実行が多すぎます。

原因: 同時実行が多すぎるため、データベース / スキーマを確保できません。

処置: しばらく待ってから操作してください。

ORA-25020 システム・トリガの改名はできません

原因: システム・トリガーの名前の変更は許可されていません。

処置: トリガーを削除し、新しいトリガーを作成してください。

ORA-25100 TABLESPACE オプションは、ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しない ALTER INDEX に対して TABLESPACE オプションが使用されました。

処置: INDEX REBUILD TABLESPACE 表領域名を使用してください。

ORA-25101 REBUILD オプション指定が重複しています。

原因: ALTER INDEX に対して REBUILD オプションが 2 回以上指定されています。

処置: オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-25102 PARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して PARALLEL オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25103 NOPARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して NOPARALLEL オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25104 UNRECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して UNRECOVERABLE オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25105 RECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して RECOVERABLE オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25106 PARALLEL または NOPARALLEL 句のどちらか1つのみを指定できます

原因: PARALLEL または NOPARALLEL が 2 回以上指定されました。または、PARALLEL および NOPARALLEL の両方が ALTER INDEX REBUILD 文に指定されました。

処置: PARALLEL 句および NOPARALLEL 句のいずれかを残して、他をすべて削除してください。

ORA-25107 TABLESPACE オプション指定が重複しています。

原因: ALTER INDEX REBUILD 文に対して TABLESPACE が 2 回以上指定されました。

処置: TABLESPACE 句を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25108 スタンバイ・ロック名領域が制限文字数 *string* を超過しています

原因: スタンバイ・データベースのロックのネームスペースの指定が最大文字列長を超えています。

処置: 初期化パラメータ LOCK_NAME_SPACE の文字列を、指定された文字数未満になるように変更してください。

ORA-25109 スタンバイ・ロック名領域に不正文字 '*string*' があります

原因: スタンバイ・データベースに指定したロック名領域が無効です。スタンバイ・データベースのロック名領域に使用できる文字は、A ～ Z、0 ～ 9、「_」、「#」、「\$」、「.」および「@」のみです。

処置: 初期化パラメータ LOCK_NAME_SPACE を有効な文字列に変更してください。

ORA-25110 NOSORT はビットマップ索引では使用できません。

原因：NOSORT オプションを使用してビットマップ索引を作成しようとしてしました。

処置：CREATE BITMAP INDEX 文から NOSORT を削除してください。

ORA-25111 BITMAP クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因：クラスタ索引を BITMAP 属性で作成しようとしてしました。

処置：CREATE INDEX 文から BITMAP を削除してください。

ORA-25112 BITMAP 索引列の最大数は 30 です。

原因：索引に指定された列が多すぎます。

処置：より少ない数の列で索引を作成してください。

ORA-25113 GLOBAL はビットマップ索引では使用できません。

原因：GLOBAL オプションを使用してビットマップ索引を作成しようとしてしました。

処置：GLOBAL を CREATE BITMAP INDEX 文から削除するか、または表がパーティション化されている場合は LOCAL パーティション記述子を追加してください。あるいはこの両方を行ってください。

ORA-25114 DUMP DATAFILE/TEMPFILE コマンドで指定したファイル番号は無効です。

原因：データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのダンプで使用されているファイル番号が無効です。

処置：有効なファイル番号を指定してください。

ORA-25115 BLOCK オプション指定が重複しています。

原因：DUMP DATAFILE または DUMP TEMPFILE コマンドで BLOCK (MIN または MAX) が 2 回以上指定されています。

処置：BLOCK オプションを 1 つのみ指定してください。

ORA-25116 DUMP DATAFILE/TEMPFILE コマンドで指定したブロック番号は無効です。

原因：データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのダンプで使用されているブロック番号が無効です。

処置：有効なブロック番号を指定してください。

ORA-25117 MIN/MAX/ ブロック番号のいずれかが必要です

原因：MIN、MAX、ブロック番号以外の値が DUMP DATAFILE または DUMP TEMPFILE コマンドに入力されています。

処置：構文を修正してください。

ORA-25118 DUMP DATAFILE/TEMPFILE オプションは無効です。

原因: DUMP DATAFILE または DUMP TEMPFILE コマンドに無効なオプションが指定されています。

処置: 構文を修正してください。

ORA-25119 LOGGING/NOLOGGING オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に、LOGGING または NOLOGGING (あるいはその両方の) オプションが 2 回以上指定されました。

処置: ロギング指定を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25120 MINIMUM EXTENT オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションが 2 回以上指定されました。

処置: MINIMUM EXTENT 指定を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25121 MINIMUM EXTENT 値が最大エクステント・サイズを超えています

原因: CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションに指定された値が MAXIMUM EXTENT サイズを超えました。

処置: MINIMUM EXTENT オプションに指定されている値を減らしてください。

ORA-25122 パーティション化された表に使用できるのはローカル・ビットマップ索引のみです。

原因: パーティション表にグローバル・ビットマップ索引を作成しようとした。

処置: かわりにローカル・ビットマップ索引を作成してください。

ORA-25123 名前に指定したコンポーネントが多すぎます。

原因: 名前に対して、可能な数以上のコンポーネントが指定されています。

処置: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25124 データベース・リンク名は指定できません。

原因: 許可されていないときにデータベース・リンク名が指定されました。

処置: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25125 BUFFER_POOL 記憶域オプションは指定できません

原因: BUFFER_POOL 記憶域オプションを指定しようとした。このオプションを指定できるのは、CREATE/ALTER TABLE/CLUSTER/INDEX 間のみです。

処置: このオプションを削除して、文を再実行してください。

ORA-25126 BUFFER_POOL に指定された名前が正しくありません。

原因：ユーザーが指定したバッファ・プール名が無効です。有効な名前は、KEEP、RECYCLE および DEFAULT のみです。

処置：有効な名前を使用するか、または BUFFER_POOL 句を削除してください。

ORA-25127 NOT NULL 制約で RELY は指定できません。

原因：NOT NULL 制約に RELY を設定しようとしてしました。

処置：NOT NULL 制約には NORELY のみを指定してください。

ORA-25128 制約 (*string.string*) が使用禁止および検査対象の表で挿入 / 更新 / 削除はできません。

原因：使用禁止かつ有効な制約のある表に対して挿入、更新または削除しようとしてしました。

処置：制約の状態を変更してください。

ORA-25129 制約 (*string*) は変更できません - 指定した制約は存在しません

原因：この表には指定された制約がありません。

処置：この表にある制約を使用して再実行してください。

ORA-25130 主キーは変更できません - 表に主キーが定義されていません

原因：表に定義されていない主キーを変更しようとしてしました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-25131 一意キー (*string*) は変更できません - 表に一意キーが定義されていません

原因：表に定義されていない一意キーを変更しようとしてしました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-25132 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で UNIQUE 制約 (*string.string*) が使用禁止および検査対象です。

原因：パーティションおよび表に使用禁止かつ有効な UNIQUE 制約があり、パーティションの一意キーが表の他の内容と相互排他でない場合、ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION を実行できません。

処置：制約の状態を変更してください。

ORA-25133 SINGLE TABLE オプションの指定が重複しています。

原因：SINGLE TABLE オプションが 2 回以上指定されました。

処置：SINGLE TABLE オプションを 1 回のみ指定してください。

ORA-25134 キーワード TABLE が必要です。

原因：SINGLE TABLE オプションにキーワード TABLE がありません。

処置：コマンドのキーワード SINGLE の後にキーワード TABLE を指定してください。

ORA-25135 SINGLE TABLE オプションは使用できません。

原因：SINGLE TABLE オプションはハッシュ・クラスタに対してのみ有効です。

処置：SINGLE TABLE オプションを指定しないでください。

ORA-25136 このクラスタに格納できる表は1つのみです。

原因：SINGLE TABLE オプションを使用して作成したクラスタに2つ以上の表を格納しようとした。

処置：クラスタに2つ以上の表を格納しないでください。

ORA-25137 データ値が範囲外です。

原因：キャスト元からの値がキャスト先のサイズより大きくなっています。

処置：キャスト先のサイズを大きくしてください。

ORA-25138 *string* 初期化パラメータは廃止されています。

原因：廃止された初期化パラメータが指定されています。

処置：システムは起動しますが、パラメータを調べてください。

ORA-25139 CREATE TEMPORARY TABLESPACE には無効なオプションです。

原因：無効なオプションが指定されています。

処置：有効なオプション（TEMPFILE、EXTENT MANAGEMENT LOCAL、UNIFORM）を1つ指定してください。

ORA-25140 *string* スペース・ポリシーを *string* のエクステンツ管理には指定できません。

原因：無効なオプションが指定されています。

処置：LOCAL エクステンツ管理に UNIFORM または AUTOALLOCATE が指定されていて、DICTIONARY エクステンツ管理に UNIFORM または AUTOALLOCATE が指定されていないことを確認してください。

ORA-25141 EXTENT MANAGEMENT 句が無効です。

原因：EXTENT MANAGEMENT 句に無効なオプションが指定されました。

処置：有効なオプション（UNIFORM SIZE または AUTOALLOCATE）を指定してください。

ORA-25142 デフォルト記憶域句が2度指定されました。

原因：デフォルト記憶域句が表領域作成に2度指定されました。

処置：1度のみ指定してください。

ORA-25143 デフォルト記憶域句が割当てポリシーと互換性がありません

原因：デフォルト記憶域句が、AUTOALLOCATE または UNIFORM ポリシーを使用した表領域に指定されました。

処置：記憶域句を指定しないでください。

ORA-25144 CREATE TABLESPACE に TEMPORARY は無効なオプションです。

原因：無効なオプションが指定されています。

処置：有効なオプション（EXTENT MANAGEMENT DICTIONARY、USER）を 1 つ指定してください。

ORA-25145 割当てポリシーはすでに指定されています

原因：CREATE TABLESPACE で、割当てポリシーが 2 回以上（たとえば、AUTOALLOCATE および UNIFORM）指定されています。

処置：割当てポリシーを 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25146 EXTENT MANAGEMENT オプションはすでに指定されています

原因：CREATE TABLESPACE で、EXTENT MANAGEMENT オプションが 2 回以上指定されました。

処置：EXTENT MANAGEMENT 指定を 1 つのみ残して他をすべて削除してください。

ORA-25147 UNIFORM SIZE 値が最大エクステント・サイズを超えています。

原因：CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE で、UNIFORM SIZE オプションに指定された値が最大エクステント・サイズを超えました。

処置：UNIFORM SIZE オプションの値を減らしてください。

ORA-25148 ONLINE オプションは許可されません。

原因：索引構成表でない表に対する ALTER TABLE MOVE で、ONLINE を指定しようとしてしました。現在、ONLINE オプションは索引構成表にのみサポートされています。

処置：コマンドから ONLINE オプションを削除してください。

ORA-25149 UROWID 型の列は索引付けできません。

原因：UROWID 型の列に索引を作成しようとしてしました。

処置：この列を索引列リストから削除してください。

ORA-25150 エクステント・パラメータを ALTERING することは許可されていません。

原因：自動割当てまたは均一エクステント割当てポリシーを持つ、表領域のセグメントのエクステント・パラメータを変更しようとしてしました。

処置：コマンドから適切なエクステント・パラメータを削除してください。

ORA-25151 ロールバック・セグメントはこの表領域で作成できません。

原因：自動割当てエクステントの割当てポリシーを持つ表領域で、ロールバック・セグメントを作成しようとしてしました。

処置：ロールバック・セグメントに異なる表領域を指定してください。

ORA-25152 現在 TEMPFILE を削除することはできません

原因: オンライン・ユーザーが使用している TEMPFILE を削除しようとした。

処置: TEMPFILE がオフラインになった後で再実行してください。

ORA-25153 一時表領域が空です。

原因: ファイルのない一時表領域の領域を使用しようとした。

処置: ADD TEMPFILE コマンドを使用して表領域にファイルを追加してください。

ORA-25154 USING 句の列の部分には修飾子を持てません。

原因: 指定された結合 (NATURAL 結合または USING 句を使用した結合のいずれか) に対して使用される列には、明示的な修飾子を持てません。

処置: 修飾子を削除してください。

ORA-25155 NATURAL 結合で使用される列は修飾子を持てません。

原因: 指定された結合 (NATURAL 結合または USING 句を使用した結合のいずれか) に対して使用される列には、明示的な修飾子を持てません。

処置: 修飾子を削除してください。

ORA-25156 古いスタイルの外部結合 (+) は ANSI 結合と一緒に使用できません。

原因: 問合せブロックで ANSI スタイルの結合を使用する場合、外部結合を指定するための古い表記法 (+) は使用できません。

処置: 外部結合の指定にも、ANSI スタイルを使用してください。

ORA-25157 指定されたブロック・サイズ *string* は有効ではありません。

原因: サポートされていないブロック・サイズで表領域を作成しようとした。

処置: 標準ブロック・サイズ、またはプラットフォームでサポートされている最大または最小ブロック・サイズ (2KB、4KB、8KB、16KB、32KB) のいずれかを指定してください。

ORA-25175 PRIMARY KEY 制約が見つかりません。

原因: この編成の表には PRIMARY KEY 制約を定義する必要があります。

処置: PRIMARY KEY を定義してください。

ORA-25176 主キーに記憶域の指定はできません

原因: この編成の表では、主キー制約に記憶域パラメータを定義できません。

処置: 主キーの記憶域指定を削除してください。

ORA-25177 UNRECOVERABLE オプションは指定できません。

原因: この編成の表では、主キーに UNRECOVERABLE オプションを指定できません。

処置: 主キーの UNRECOVERABLE オプションを削除してください。

ORA-25178 PCTTHRESHOLD 記憶域オプションの指定が重複しています

原因：記憶域オプション PCTTHRESHOLD が 2 回以上指定されています。

処置：記憶域オプションは、1 回のみ指定してください。

ORA-25179 PCTTHRESHOLD 記憶域オプションの値が無効です

原因：指定する値は、正の整数である必要があります。

処置：適切な値を指定してください。

ORA-25180 PCTTHRESHOLD は特定の表編成にのみ有効です。

原因：PCTTHRESHOLD は、特定の編成を持つ表のみで指定できます。

処置：PCTTHRESHOLD オプションを削除してください。

ORA-25181 NESTED INDEX に ON キーワードがありません。

原因：NESTED INDEX 列のネストを指定するには、ON キーワードが必要です。

処置：ON キーワードを追加してください。

ORA-25182 機能は索引構成表に対して現在使用不可能です

原因：索引構成表で現在サポートされていない次の機能のうち、1 つ以上を使用しようとしてしました。

- LOB/BFILE/VARRAY 列付きの CREATE TABLE
- パーティション化 /PARALLEL/CREATE TABLE AS SELECT オプション
- ADD/MODIFY 列オプション付きの ALTER TABLE
- CREATE INDEX

処置：このリリースで使用禁止の機能は使用しないでください。

ORA-25183 索引構成表の最上位索引セグメントは異なる表領域にあります。

原因：索引のみの表のオーバーフロー・セグメントのみを含み、最上位索引セグメントを含まない表領域を削除しようとしてしました。

処置：削除される表領域と他の表領域にまたがる索引構成表を検索し、これらの表を削除してください。

ORA-25184 列名を指定してください。

原因：索引構成表の索引セグメントに含める最後の列を指定する CREATE TABLE で、要求された列名が存在しません。

処置：構文で必須の列名を指定してください。

ORA-25185 最終列以外の索引列は INCLUDE 句に指定できません。

原因：最終列以外の索引列名が INCLUDE 句の列として指定されました。

処置：INCLUDE 句には、索引構成表の主キー索引の一部でない列名、または主キーの最終キー列を指定してください。

ORA-25186 索引構成表に対して INCLUDING 句が OVERFLOW なしで指定されました。

原因：CREATE TABLE の INCLUDING 句は、(作成時に) OVERFLOW 句を持つ索引構成表、または OVERFLOW セグメントがすでに (更新時に) 存在する場合のみに有効なオプションです。

処置：索引構成表に OVERFLOW 句を指定してください。ALTER TABLE では、ADD OVERFLOW を最初に実行してください。

ORA-25187 指定された例外表のフォームが正しくありません。

原因：指定した表に、適切なフィールド定義がありません。

処置：正しい表を指定してください。

ORA-25188 索引構成表に対する PRIMARY KEY 制約を削除 / 使用禁止 / 延期できません

原因：索引構成表に対する PRIMARY KEY 制約を削除、使用禁止または延期しようとしました。これは許可されていません。

処置：索引のみの表で PRIMARY KEY 制約を削除、使用禁止または延期しないでください。

ORA-25189 索引構成表に対する ALTER TABLE オプションが無効です

原因：索引構成表の ALTER TABLE で、TABLESPACE、ALLOCATE/DEALLOCATE EXTENT、PCTFREE/PCTUSED オプションの 1 つまたは複数を索引構成表の最上位索引セグメントに入力しようとしました。

処置：不正なオプションを削除してください。

ORA-25190 索引構成表のメンテナンス操作は他の操作と組み合わせることができません

原因：ALTER TABLE 文が、索引構成表のメンテナンス操作 (たとえば物理属性の変更) を他の操作 (たとえば ADD 制約) と組み合わせようとしました。これは無効です。

処置：索引構成表のメンテナンス操作は、ALTER TABLE 文で指定する唯一の操作としてください。

ORA-25191 索引構成表のオーバーフロー表を参照できません

原因：索引構成表のオーバーフロー表に、直接アクセスしようとしました。

処置：指定したオーバーフロー表を含んだ親索引構成表に対して文を発行してください。

ORA-25192 索引構成表に対するオプションが無効です

原因: [NO]CACHE、NO LOGGING、CLUSTER オプションのうち、1 つ以上を索引構成表に指定しようとした。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-25193 単一列のキーに COMPRESS オプションは使用できません。

原因: 単一列のキーに COMPRESS オプションを使用しようとした。

処置: COMPRESS オプションを削除してください。

ORA-25194 COMPRESS 接頭辞の長さの値が無効です

原因: 指定する値は、キー列の数より小さい正の整数である必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-25195 索引構成表の索引には無効なオプションです。

原因: BITMAP、REVERSE、PCTUSED オプションのうち、1 つ以上を索引構成表の索引に指定しようとした。

処置: 適切なオプションを指定してください。

ORA-25196 ALTER TABLE MOVE のキーワード MOVE は *table name* の直後に指定してください。

原因: MOVE を 1 つ以上の ALTER オプションの後に指定しました。

処置: オプションの順序を変更してください。MOVE を最初に指定するか、または不正なオプションを削除してください。

ORA-25197 索引構成表にオーバーフロー・セグメントがすでに存在しています。

原因: オーバーフロー・セグメントがすでに存在する索引構成表に、オーバーフロー・セグメントを追加しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-25198 範囲およびハッシュ・パーティション化のみが索引構成表でサポートされます。

原因: システムまたはコンポジット・パーティション化方法はサポートされていません。

処置: 異なるパーティション方法を選択してください。

ORA-25199 索引構成表のパーティション化キーは主キーのサブセットである必要があります

原因: 索引構成表の主キーのサブセットでないパーティション化キーを指定しようとした。

処置: 異なるパーティション化キーを指定してください。

ORA-25200 値 *string* は無効です。QUEUE_NAME は [SCHEMA.]NAME にする必要があります

原因: NULL パラメータが QUEUE_NAME に指定されました。

処置: NULL 以外のキュー名を指定してください。

ORA-25201 無効な値です。VISIBILITY は ON_COMMIT または IMMEDIATE にする必要があります

原因: 無効な値がパラメータ VISIBILITY に指定されました。

処置: ON_COMMIT または IMMEDIATE を指定してください。

ORA-25202 NULL は無効です。 *string* には NULL 以外の値を指定してください。

原因: パラメータに対して NULL 値が指定されました。

処置: NULL 以外の値を指定してください。

ORA-25203 値 *string* は無効です。DELAY は負ではない整数にする必要があります

原因: 負の値または NULL が DELAY に指定されました。

処置: 負ではない整数を DELAY に指定してください。

ORA-25204 無効な値です。SEQUENCE_DEVIATION は BEFORE または TOP にする必要があります

原因: 無効な SEQUENCE_DEVIATION が指定されました。

処置: オプションの BEFORE または TOP を指定してください。

ORA-25205 キュー *string.string* が存在しません

原因: 指定したキューは存在しません。

処置: キューを作成してから、エンキューまたはデキューを指定してください。

ORA-25206 エンキューに失敗しました。例外キュー *string.string* へのエンキューはできません。

原因: 例外キューに対してエンキューを実行しようとしてしました。

処置: 別のキューに対してエンキューを試行してください。

ORA-25207 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* にエンキューできません。

原因: エンキューがさらに実行されないようにするために、キューが停止しています。

処置: 管理操作によって最初にキューを使用可能にしてください。

ORA-25208 SEQUENCE_DEVIATION が BEFORE のときは RELATIVE_MSGID を指定してください。

原因：SEQUENCE_DEVIATION が BEFORE と指定されている場合は、相対メッセージ識別子を指定する必要があります。

処置：既存の相対メッセージ識別子を指定するか、または SEQUENCE_DEVIATION を BEFORE に指定しないでください。

ORA-25209 値 *string* が無効です。EXPIRATION には負以外の整数または NEVER が必要です。

原因：EXPIRATION が 0（ゼロ）未満か NULL です。

処置：EXPIRE_AFTER に有効な値（0（ゼロ）以上または NEVER）を指定してください。

ORA-25210 RELATIVE_MSGID の値が無効です。この MSGID のメッセージがキューにありません。

原因：指定された RELATIVE_MSGID と等しい MSGID を持つキューにメッセージがありません。

処置：有効な RELATIVE_MSGID で再試行してください。

ORA-25211 SEQUENCE_DEVIATION オプション使用時に無効な DELAY が指定されました。

原因：エンキューで指定された DELAY が、任意の相対メッセージ ID を持つメッセージの遅延より大きくなっています。

処置：任意の相対メッセージ ID を持つメッセージの遅延以下になるように DELAY を設定してください。TOP オプションが使用される場合、DELAY はキューの中のすべてのメッセージの遅延以下である必要があります。

ORA-25212 SEQUENCE_DEVIATION を使用中に無効な PRIORITY が指定されました。

原因：エンキューで指定された PRIORITY が、任意の相対メッセージ ID を持つメッセージの優先順位より小さくなっています。

処置：任意の相対メッセージ ID を持つメッセージの優先順位以上になるように PRIORITY を設定してください。TOP オプションが使用される場合、優先順位はキューの中のすべてのメッセージの優先順位より大きいまたは同じである必要があります。

ORA-25213 RELATIVE_MSGID で指定されたメッセージはデキューされました。

原因：SEQUENCE_DEVIATION の BEFORE オプションで、RELATIVE_MSGID フィールドによって指定されたメッセージは、デキューされました。

処置：処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-25215 ユーザー・データ型とキューの型が一致しません。

原因: 異なる型のオブジェクトに対して作成されたキューに、オブジェクトをエンキューしようとした。

処置: 正しい型のオブジェクトを使用して、エンキューを再試行してください。

ORA-25216 受信者が無効です。NAME または ADDRESS のいずれかを指定する必要があります

原因: 受信者リストにある受信者の 1 つに対し、属性 NAME および ADDRESS の両方に NULL が指定されました。

処置: 受信者に対し、NULL 以外の NAME または ADDRESS を指定してください。

ORA-25217 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の可視性は IMMEDIATE にする必要があります

原因: 可視性に IMMEDIATE を設定せずに、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: 可視性に IMMEDIATE を設定してください。

ORA-25218 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の遅延はゼロにする必要があります

原因: 0 秒を超える遅延で、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: 遅延を 0 (ゼロ) に設定してください。

ORA-25219 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の SEQUENCE_DEVIATION は許可されません。

原因: SEQUENCE_DEVIATION が指定された状態で、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: SEQUENCE_DEVIATION を指定しないでください。

ORA-25220 エンキューが失敗しました。署名が非拒否キューに指定されていません。

原因: 署名を指定しないで、非拒否キューにエンキューしようとした。

処置: 署名を指定してください。

ORA-25221 エンキューが失敗しました。署名が指定されたキューは非拒否をサポートしていません。

原因: 非拒否をサポートしていない署名が指定されたキューに、エンキューしようとした。

処置: 署名を削除してください。

ORA-25222 エンキューが失敗しました。非拒否をサポートしているキューに完全な送信者情報が提供されていません。

原因: 非拒否をサポートしているキューに対して完全な送信者情報（名）を指定しないで、キューにエンキューしようとした。

処置: 送信者情報を指定してください。

ORA-25223 使用する user_data タイプはサポートされていません

原因: サポートされている RAW またはオブジェクト・タイプ以外のタイプのデータを、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: RAW またはオブジェクト・タイプのデータを使用して、メッセージを再度エンキューしてください。

ORA-25225 値 *string* は無効です。DEQUEUE_MODE は REMOVE、BROWSE、LOCKED のいずれかにする必要があります

原因: DEQUEUE_MODE に無効なパラメータが指定されました。

処置: REMOVE、BROWSE または LOCKED を指定してください。

ORA-25226 デキューに失敗しました。キュー *string.string* はデキューに使用できません。

原因: キューでデキューが使用可能にされていません。

処置: START_QUEUE を使用してキューを使用可能にしてください。

ORA-25228 *string.string* からメッセージをデキュー中に、タイムアウトまたはフェッチ終了になりました。

原因: ユーザー指定のデキュー待機時間が経過したか、またはキューが最後まで到達したのにメッセージが取り出されませんでした。

処置: 適切な WAIT_TIME または FIRST_MESSAGE オプションを使用して、デキューを再試行してください。

ORA-25230 値 *string* は無効です。WAIT は負ではない整数にする必要があります

原因: 負の値が WAIT に指定されました。

処置: 負ではない整数または FOREVER を指定してください。

ORA-25231 CONSUMER_NAME が未指定のためデキューできません。

原因: 複数のユーザーに対して作成されたキューからデキューしようとしたが、CONSUMER_NAME がデキュー・オプションで未指定です。

処置: デキュー・オプションで CONSUMER_NAME を指定してください。

ORA-25232 メッセージに指定された受信者が重複しています。

原因: 受信者パラメータにある重複するキュー・エージェントを使用して、エンキューが実行されました。

処置: 重複するキュー・エージェントを削除して、コールを再試行してください。

ORA-25233 NAVIGATION に指定されたパラメータが正しくありません。

原因: NAVIGATION に無効なパラメータが指定されました。

処置: FIRST_MESSAGE、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のいずれか 1 つを指定してください。基準を満たす最初のメッセージのデキューに FIRST_MESSAGE を、基準を満たす次のメッセージのデキューに NEXT_MESSAGE を、そして別のトランザクションによってエンキューされた一連のメッセージへの移動に NEXT_TRANSACTION を使用してください。

ORA-25234 NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションはキュー表 *string.string* には無効です。

原因: NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションが、トランザクションのグループ化用に作成されたのではないキュー表のキューから、デキューに使用されました。

処置: FIRST_MESSAGE か NEXT_MESSAGE のいずれかを、ナビゲーション・オプションに指定してください。トランザクションのグループ化を使用してメッセージをデキューする場合は、トランザクションのグループ化が使用可能なキュー表に、キューを新規作成してください。

ORA-25235 カレント・トランザクションの全メッセージが取り出されました

原因: 同じトランザクションに属するメッセージがないデキューで、NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションが使用されました。

処置: NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションを使用して、次に移動してください。FIRST_MESSAGE オプションを使用して、キューの先頭から再開することもできます。

ORA-25236 ユーザー・データ用のバッファが小さすぎます。

原因: Out パラメータ *payload* に使用される変数またはバッファが、デキューされるユーザー・データに対して小さすぎます。

処置: バッファのサイズまたは変数のサイズを大きくしてください。最大サイズは 32KB です。

ORA-25237 ナビゲーション・オプションの指定順序が正しくありません。

原因: すべてのメッセージをデキューした後に、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションが指定されました。

処置: FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置を再指定し、次に NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションを指定してください。

ORA-25238 メッセージの宛先 *string* に指定した受信者が多すぎます。

原因: 指定された宛先（アドレス）の 32 より多い受信者に対してエンキューが実行されました。

処置: 受信者数を 32 以下に減らすか、コールを再試行してください。

ORA-25239 例外キュー *string.string* からデキューするときのメッセージ ID が指定されていません。

原因: デキュー・オプションにメッセージ ID を含めないで、リリース 8.0 互換の例外キューからデキューしようとしてしました。

処置: アプリケーションを確認し、キュー名が正しく指定されていることを確認してください。キュー名が正しい場合は、リリース 8.0 互換の例外キューからデキューするときにメッセージ ID を指定してください。それ以外の場合は、DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、キューを含む QUEUE_TABLE をリリース 8.1 互換にアップグレードしてください。

ORA-25240 メッセージ ID とデキュー条件 / 関連 ID がデキュー・オプションに指定されませんでした。

原因: デキュー・オプションに、メッセージ ID およびデキュー条件 / 関連 ID の両方を含めてデキューしようとしてしました。デキュー・オプションでは、メッセージ ID とデキュー条件 / 関連 ID のどちらか一方のみを指定するか、またはどちらも指定しないかのいずれかです。

処置: デキュー・メッセージでは、デキュー・オプションにメッセージ ID かデキュー条件 / 関連 ID の一方のみを指定し、両方は指定しないでください。キューのソート順序でデキューする場合は、デキュー・オプションの中でメッセージ ID とデキュー条件 / 関連 ID をどちらも指定しないでください。

ORA-25241 FIRST_MESSAGE オプションなしに関連識別子を *string* から *string* に変更できません

原因: デキューの NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションの使用中に、関連識別子を変更しようとしてしました。

処置: 前のデキュー・コールとは異なる関連識別子を使用するには、FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置を再設定してください。

ORA-25242 FIRST_MESSAGE オプションなしにサブスクライバ名を *string* から *string* に変更できません

原因: デキューの NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションの使用中に、サブスクライバ名を変更しようとしてしました。

処置: 前のデキュー・コールとは異なるサブスクライバ名を使用するには、FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置を再指定してください。

ORA-25243 例外キュー *string.string* からデキューする場合、CONSUMER_NAME は指定できません。

原因: デキュー・オプションの CONSUMER_NAME を指定して、例外キューからデキューしようとした。CONSUMER_NAME は、複数のコンシューマに対して作成された標準キューからデキューするときのみ指定できます。

処置: 例外キューからメッセージをデキューするには、デキュー・オプションのメッセージ ID のみを指定してください。

ORA-25244 デキューの索引キーが見つかりません。(QUEUEstring、ROWIDstring)

原因: 内部エラーが発生しました。キュー表の索引に不一致がある可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。トレース・ファイルおよびエラーの再現性についての情報が必要です。

ORA-25245 アドレスが単一コンシューマ・キューまたは例外キューの場合、エージェント名は指定できません。

原因: エージェント・アドレスが単一コンシューマ・キューまたは例外キューのときに、LISTEN コールのエージェントのエージェント名が指定されました。

処置: エージェント名を指定しないでください。

ORA-25246 リスニングに失敗しました。アドレス *string* は、8.0 形式の例外キューです。

原因: LISTEN コールのエージェント・リストに 8.0 形式の例外キューが指定されました。

処置: エージェント・リストで 8.0 形式の標準キューまたは 8.1 形式のキューを指定してください。

ORA-25247 *string* は指定したメッセージの受信者ではありません。

原因: デキュー・オプションで指定されたコンシューマ名が、メッセージ ID が指定したメッセージの受信者ではありません。

処置: コンシューマ名が指定したエージェントが、メッセージ ID が指定したメッセージの受信者であることを確認してください。

ORA-25248 エージェント・リストに重複するエージェントが指定されました。

原因: LISTEN コールのエージェント・リストでエージェントが 2 回以上指定されました。

処置: 重複するエージェント指定を削除し、コールを再実行してください。

ORA-25249 デキューに失敗しました。キュー *string.string* のデキューは許可されません。

原因: 非永続キューからデキューしようとした。

処置: 別のキューからデキューしてください。

ORA-25250 そのメッセージに対してリモート受信者は指定できません。

原因: 非永続キューにエンキューされたメッセージの受信者が、ローカルでないアドレスを持っています。

処置: アドレス・フィールドを指定しないか、またはエンキューのターゲットのキューを指定してください。

ORA-25251 メッセージに対する最大受信者数を超過しました。

原因: メッセージ当たりの最大受信者数 (1024) を超えた ENQUEUE コールを発行しようとした。

処置: 受信者数を 1024 以下に減らすか、コールを再試行してください。

ORA-25252 リスニングに失敗しました。アドレス *string* は非永続キューです。

原因: LISTEN コールのエージェントのアドレスに非永続キューが指定されました。

処置: エージェントのアドレスに標準キューを指定して、LISTEN コールを再実行してください。

ORA-25253 リスニングに失敗しました。キュー *string.string* はデキューに使用できません。

原因: LISTEN コールのデキューに使用できないキューを指定しようとした。

処置: START_QUEUE を使用してデキューを使用可能にし、LISTEN コールを再実行してください。

ORA-25254 メッセージ待ちの間に LISTEN コールがタイムアウトになりました。

原因: 指定された待機時間が経過し、エージェント・リストのどのエージェントにもメッセージがありませんでした。

処置: 適切なタイムアウトを使用して LISTEN コールを実行してください。

ORA-25255 不適切なサブスクリプション文字列 *string* です

原因: 不適切なサブスクリプション文字列が OCI 登録で指定されました

処置: [CONSUMER:]SCHEMA.QUEUE 書式を使用してサブスクリプション文字列を指定してください。

ORA-25256 単一コンシューマ・キューまたは例外キューにコンシューマを指定できません。

原因: 単一コンシューマ・キューまたは例外キューのメッセージを登録中に、サブスクリプション文字列のコンシューマを指定しようとした。

処置: サブスクリプション文字列のコンシューマを指定しないでください。

ORA-25257 コンシューマを複数コンシューマ・キューに指定する必要があります。

原因: サブスクリプション文字列のコンシューマを指定しないで複数コンシューマ・キューに登録しようとした。

処置: サブスクリプション文字列のコンシューマを指定してください。

ORA-25258 8.0 形式の例外キューに通知を登録できません。

原因: OCI 登録のサブスクリプション文字列の 8.0 形式の例外キューを指定しようとした。

処置: 標準キューまたは非永続キューを指定してください。

ORA-25259 エージェントのプロトコルを指定できません。

原因: ユーザーがエージェント・リストにあるエージェントにプロトコル属性を指定しました。

処置: エージェント・オブジェクト型のプロトコル属性を指定しないでください。

ORA-25261 JOB_QUEUE_PROCESSES は少なくとも 2 つ AQ 伝播に必要となります

原因: AQ 伝播に対して不十分な JOB_QUEUE_PROCESSES の設定です。

処置: AQ 伝播に対し、JOB_QUEUE_PROCESSES の数を 2 以上に設定してください。

ORA-25262 アドレスが複数コンシューマ・キューである場合、エージェント名を NULL にすることはできません。

原因: エージェント・アドレスが複数コンシューマ・キューのときに、LISTEN コールのエージェント名が指定されませんでした。

処置: エージェントに NULL 以外の名前を指定してください。

ORA-25263 キュー *string.string* にメッセージ ID *string* を持つメッセージはありません

原因: 特定のメッセージ ID を使用してメッセージをデキューしようとしたが、キューにこのようなメッセージは存在しません。

処置: 有効なメッセージ ID を使用してデキューを再実行してください。

ORA-25264 このキューに署名を取得できません。

原因: 受信者非拒否ではないキューから、署名をデキューしようとした。

処置: 署名取得オプションなしで、デキューを再試行してください。

ORA-25265 受信者非拒否をサポートしないキューに署名が指定されました。

原因: 受信者非拒否をサポートしないキューからメッセージをデキューしようとしたが、確認に署名が指定されました。

処置: 署名を指定しないで、デキューを再試行してください。

ORA-25266 署名付きのメッセージ ID. によってデキューしようとしませんでした。

原因: キューに対して署名が指定されましたが、メッセージ ID を使用してデキューされませんでした。

処置: メッセージ ID を使用して、デキューを再試行してください。

ORA-25267 受信者非拒否キューに署名を指定しませんでした。

原因: 受信者非拒否キューに署名を指定しませんでした。

処置: 署名を指定して、デキューを再試行してください。

ORA-25268 ブラウズ・モードでの署名取得オプションでデキューしませんでした。

原因: デキューが、ブラウズ・モードでの署名取得オプションで実行されませんでした。

処置: ブラウズ・モードで、デキューを再実行してください。

ORA-25269 署名取得オプションで署名を指定できません。

原因: 署名取得オプションを持つデキューには、署名は不要です。

処置: デキュー・オプションに署名を指定しないで、デキューを再試行してください。

ORA-25270 送信者情報がメッセージの実際の送信者と一致しません。

原因: 送信者情報とメッセージ ID が一致しません。

処置: 正しい送信者情報を指定するか、またはデキュー・オプションに署名を指定しないで、デキューを再試行してください。

ORA-25271 指定されたキューのキュー表が見つかりません。

原因: 指定されたキューのキュー表が存在しません。

処置: 正しいキュー名を指定してください。

ORA-25272 指定された受信者とメッセージ ID. の署名が存在しません。

原因: 指定された受信者とメッセージ ID の署名が存在しません。

処置: メッセージ ID および受信者情報を確認してください。

ORA-25276 指定した表はキュー表ではありません。

原因: 無効なキュー表の名前が指定されました。

処置: 表がキュー表かどうか、ディクショナリ・ビューを確認してください。

ORA-25277 リリース 8.0 互換キューでオブジェクト権限を付与または取消しできません

原因: リリース 8.0 形式のキューのオブジェクト権限を付与または取り消そうとしました。

処置: オブジェクト権限を付与または取り消す前に、
DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE を使用してリリース 8.0 互換キュー表をリリース 8.1 互換に変換してください。

ORA-25278 権限受領者名は NULL にできません。

原因: 権限受領者パラメータを NULL に指定しようとしてしました。

処置: 有効な権限受領者パラメータを指定してください。

ORA-25279 選択したデキューは 8.2 未満ではサポートされていません。

原因: 選択条件を指定したデキューは、8.2 以下ではサポートされていません。

処置: 選択条件を指定したデキューは使用しないでください。

ORA-25280 完全な送信者情報が非拒否送信者に提供されていません。

原因: 完全な送信者情報が非拒否送信者に提供されていません。

処置: 完全な送信者情報を提供してください。

ORA-25281 完全な受信者情報が非拒否受信者に提供されていません。

原因: 完全な受信者情報が非拒否受信者に提供されていません。

処置: 完全な受信者情報を提供してください。

ORA-25282 非拒否のためのメッセージ ID. が提供されていません。

原因: メッセージ ID が提供されていません。

処置: メッセージ ID を提供してください。

ORA-25283 エージェントの名前かアドレスが非拒否に必要です。

原因: エージェント名およびアドレスのいずれも、非拒否に指定されていません。

処置: エージェント情報を指定してください。

ORA-25284 値 *string* (*string*) が無効です。

原因: パラメータに、無効な値または NULL が指定されました。

処置: 有効な値については、ドキュメントを確認してください。

ORA-25285 array_mode の値 *string* が無効です。

原因: array_mode に、無効な値または NULL が指定されました。

処置: 有効な値については、ドキュメントを確認してください。

ORA-25286 メッセージ・プロパティ配列の要素数が無効です。

原因: メッセージ・プロパティ配列の要素数が、ペイロード配列の要素数に一致していません。

処置: (ペイロード配列のすべての要素に適用する) 1 つの要素でメッセージ・プロパティ配列を作成するか、またはペイロード配列の要素と同数の要素でメッセージ・プロパティ配列を作成してください。

ORA-25287 値 *string* が無効です。 *string* は負ではない値にしてください。

原因: パラメータに、無効な値または NULL が指定されました。

処置: 負数ではない整数を指定してください。

ORA-25288 AQ HTTP 伝播でエラーが検出されました。状態コードは *number*、*string* です

原因: 指定したアドレスの伝播サブレットに対する AQ 伝播の HTTP 要求で、エラーが発生しました。

処置: 伝播宛先データベース・リンクの接続文字列に、有効なアドレスを指定して、そのデータベース・リンク・ユーザーに必要な権限があることを確認し、AQ 伝播サブレットが正しくインストールされているかどうかを確認してください。

ORA-25350 最大同時実行トランザクション・ブランチ数を超過しました

原因: 同時実行トランザクション・ブランチ数の制限を超えました。

処置: 初期化パラメータ TRANSACTIONS を増やして、システムを再起動してください。

ORA-25351 トランザクションは現在使用中です。

原因: このトランザクションは、現在別のセッションが使用しています。

処置: 他のセッションに連結されているトランザクションには切り替えないでください。

ORA-25352 カレント・トランザクションはありません

原因: ユーザー・セッションはどのトランザクションにも連結されていません。

処置: カレント・トランザクションがないときは、連結解除しないでください。

ORA-25353 ブランチに削除マークが設定されています。

原因: 指定されたブランチに削除マークが設定されていますが、このブランチは別のセッションで使用されているため、すぐには削除できません。割込みできない現在の操作が終わり次第削除されます。

処置: 削除するブランチに処置は必要ありません。

ORA-25400 フェッチを再実行してください。

原因: この文で最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、文を元の状態に戻してフェッチを継続することができました。

処置: これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25401 フェッチを継続できません。

原因: この文で最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、文を元の状態に戻してフェッチを継続することができませんでした。

処置: 文を再実行して、最初からフェッチを始めてください。

ORA-25402 トランザクションをロールバックしてください。

原因: この接続でトランザクションがアクティブだったときに障害が発生しました。

処置: クライアントでロールバックを行ってください。

ORA-25403 再接続できませんでした

原因: データベースへの接続が失われ、再接続に失敗しました。

処置: 手動で再接続してください。

ORA-25404 インスタンスを失いました。

原因: プライマリ・インスタンスを失いました。

処置: これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25405 トランザクションのステータスが不明です。

原因: トランザクションをコミットしようとしたときに、障害が発生しました。フェイルオーバーはインスタンスのステータスを自動的に判断できませんでした。

処置: トランザクションのステータスを手動で判断してください。

ORA-25406 接続アドレスを生成できませんでした

原因: フェイルオーバーがバックアップ・インスタンスのアドレスを生成できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-25407 切断されました。

原因: フェッチの実行中に接続が切断されました。

処置: これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25408 安全にコールを再実行することはできません。

原因: このコールを実行中に接続が切断されました。フェイルオーバー後に再実行するのは安全ではありません。

処置: コールの結果が行われたかどうかを確認し、必要な場合はそれを再実行してください。

ORA-25425 ロールバック中に接続が切断されました。

原因: ロールバックを発行中に接続が切断されました。

処置: トランザクションが外部的に調整されていない場合は、Oracle は暗黙のうちにロールバックを行うため、処置は必要ありません。それ以外の場合は、ROLLBACK FORCE が必要かどうかを判断するために、PENDING_TRANS\$ を調べてください。

ORA-25426 リモート・インスタンスでは共有データベース・リンクはサポートされていません。

原因: バージョンが古いため共有データベース・リンク機能をサポートしていないリモート・インスタンスへの接続に、この機能が使用されました。

処置: このインスタンスに接続する必要がある場合は、標準のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-25436 指定したルールセットは存在しません。

原因: ルールセットにアクセスしようとしたが、参照されたルールセットは存在しません。

処置: USER_RULESETS にあるルールセットの正しい名前を調べてください。

ORA-25437 ルール *string* が存在しません。

原因: ルールにアクセスしようとしたが、参照されたルールは存在しないため失敗しました。

処置: USER_RULESETS にあるルール記憶表のルールを調べてください。

ORA-25438 指定した表は存在しません。

原因: 表のルールセットを定義しようとしたが、参照されたルールは存在しないため失敗しました。

処置: 既存の表のルールセットのみを定義してください。

ORA-25440 ルールセットが重複しています。

原因: ルールセットを定義しようとしたが、同じスキーマに同じ名前のルールセットが存在するため失敗しました。

処置: 別の名前でルールセットを定義してください。

ORA-25441 ルール *string* が重複しています。

原因: ルールを定義しようとしたが、同じルールセットに同じ名前のルールがすでに存在するため失敗しました。

処置: 別の名前でルールを定義してください。

ORA-25500 データベースがオープンしていません。

原因: ALTER SYSTEM QUIESCE RESTRICTED コマンドを実行するには、データベースをオープンする必要があります。

処置: データベースをオープンして、コマンドを再試行してください。

ORA-25501 ALTER SYSTEM QUIESCE RESTRICTED コマンドが失敗しました。

原因: データベース・リソース・マネージャが、計画の変更に失敗しました。

処置: アラート・ログで、エラーの詳細な説明を確認してください。

ORA-25502 同時実行の ALTER SYSTEM QUIESCE/UNQUIESCE コマンドが実行中です。

原因：同時実行の ALTER SYSTEM QUIESCE RESTRICTED コマンドまたは ALTER SYSTEM UNQUIESCE コマンドが、システムで実行中です。

処置：同時実行コマンドを管理するデータベース管理者に連絡してください。

ORA-25503 データベースが停止中のため、データベースをオープンできません。

原因：システムが停止中であるか、または停止していたため、データベースをオープンできません。

処置：システムを稼働させてから、データベースをオープンしてください。

ORA-25504 システムはすでに停止状態です。

原因：すでに停止状態のため、システムを停止できません。

ORA-25505 システムは停止状態ではありません。

原因：停止状態ではないため、システムを再開できません。

ORA-25506 リソース・マネージャがいくつかのインスタンスで連続的に作動していません。

原因：リソース・マネージャが、起動してからどのインスタンスでも連続的に作動していないため、システムを停止できません。

ORA-25507 リソース・マネージャが連続的に作動していません。

原因：リソース・マネージャが、起動してから連続的に作動していないため、システムを停止できません。

ORA-25508 データベースがマウントされていません。

原因：ALTER SYSTEM UNQUIESCE コマンドを実行するには、データベースをマウントする必要があります。

処置：データベースをマウントして、コマンドを再試行してください。

ORA-25509 "string"."string".string での操作は許可されていません

原因：列がレプリケート表に追加されましたが、レプリケーション・サポート処理は、完了していません。

処置：レプリケーション・サポート処理が完了するまで待つってから、列を更新してください。

ORA-25950 結合索引指定の WHERE 句が欠落しています

原因：結合索引を作成しようとしたが、有効な WHERE 句が見つからないため、作成できませんでした。

処置：CREATE INDEX 文で、WHERE 句とともに有効な結合条件が指定されていることを確認してください。

ORA-25951 結合索引の WHERE 句に OR 条件を組み込むことができません

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、WHERE 句に OR ブランチがあるため、作成できませんでした。

処置：OR を使用しないで、WHERE 句を再作成してください。

ORA-25952 結合索引は内部等価結合のみで構成する必要があります

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、内部等価結合ではない述語が含まれているため、作成できませんでした。

処置：不適切な述語を削除してください。

ORA-25953 結合索引は機能索引にできません

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、(タイムゾーンを使用した列の索引付けの場合などで) ファンクション索引が要求されたか、または必要なため、作成できませんでした。

処置：ファンクション索引付けする列を削除してください。

ORA-25954 ディメンションのプライマリ・キーまたは一意の制約が欠落しています

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、1つ以上のディメンションで、結合条件に一致する適切な制約がないため、作成できませんでした。

処置：WHERE 句が正しい(すべての制約列を含んでいる)こと、施行済の制約が各ディメンション表にあることを確認してください。

ORA-25955 すべての表は WHERE 句で結合する必要があります

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、FROM 句で指定された表の1つが、WHERE 句に指定されていないため、作成できませんでした。

処置：FROM 句に指定されたすべての表が、WHERE 句に含まれていることを確認してください。

ORA-25956 結合索引が SYS 所有の表に作成できません

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、表の1つが SYS によって所有されているため、作成できませんでした。

処置：SYS 所有の表に関連する結合索引がないことを確認してください。

ORA-25957 結合索引の WHERE 句にはサイクルを含めることができません

原因：結合索引を作成しようとしたましたが、WHERE 句にサイクルが含まれているため、作成できませんでした。

処置：WHERE 句が、スター・スキーマまたはスノーフレーク・スキーマの構成にあることを確認してください。

ORA-25958 結合索引の WHERE 句の述語は列参照のみで構成する必要があります

原因: 結合索引を作成しようとしたが、WHERE 句の述語に、列以外のものが含まれているため、作成できませんでした。

処置: WHERE 句に含まれているものが、列のみであることを確認してください。

ORA-25959 結合索引はビットマップ・タイプにする必要があります

原因: 結合索引を作成しようとしたが、ビットマップ・キーワードが使用されていないため、作成できませんでした。

処置: 索引をビットマップ索引にしてください。

ORA-25960 結合索引は一時表を使用できません

原因: 結合索引を作成しようとしたが、表の 1 つが一時表のため、作成できませんでした。

処置: 基礎となる表に、一時表がないことを確認してください。

ORA-25961 結合索引により dml カスケード制約の操作が妨げられます

原因: DML を実行しようとしたが、カスケード制約があるため、他の表で DML を実行する必要が発生しました。結合索引がある場合、1 度に変更できるのは、基礎となる表のうち 1 つのみです。

処置: 結合索引を削除するか、制約を削除してください。

ORA-25962 結合索引によりマルチ表の挿入またはマージが妨げられます

原因: ビットマップ結合索引の作成に使用された表で、マルチ表の挿入またはマージを実行しようとした。ビットマップ結合索引に使用された表では、マルチ表の挿入またはマージはサポートされていません。

処置: 結合索引を削除してください。

ORA-26000 パーティション・ロードが指定されましたが、表 *string* がパーティション化されていません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルには PARTITION 句が含まれていますが、ロードされた表はパーティション化されていません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルからパーティション指定を削除し、ロードを再試行してください。

ORA-26001 SORTED INDEXES に指定された索引 *string* が表 *string* に存在しません。

原因: SORTED INDEXES 句に存在しない索引が指定されました。

処置: SORTED INDEX に指定しないでください。

ORA-26002 表 *string* に索引が定義されています。

原因: 索引が定義されている表にパラレル・ロードが指定されました。

処置: 表に定義されている索引を削除するか、パラレル・ロードを使用しないか、または SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションを使用してください。

ORA-26003 パラレル・ロードは索引構成表 *string* をサポートしません。

原因: 索引構成表に対して、パラレル・ロードはサポートされていません。

処置: PARALLEL オプションを使用せずに、索引構成表をロードしてください。

ORA-26004 ダイレクト・パスを使用してロードされた表はクラスタ化できません

原因: クラスタ化表をダイレクト・パスを使用してロードしようとした。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26005 ダイレクト・パス・ロードのハンドルが無効です。

原因: ダイレクト・パス・ロードで、渡されたハンドルが、リストされている型に一致しません。

処置: ハンドルと型が正しいことを確認してください。

ORA-26006 列 *string* の SQL 式にあるバインド変数が正しくありません - *string*

原因: ダイレクト・パス・ロードで、SQL の式にリストされているバインド変数が、入力引数の列名に一致しません。

処置: すべての入力引数が、バインド変数として式にリストされ、すべてのバインド変数が、式に対する入力引数としてリストされていることを確認してください。または、バインド変数リストの取得時、OCI 文の実行でエラーが発生していないことを確認してください。

ORA-26007 INSERT オプションに対する表は空である必要があります。表 *string* でエラーです

原因: 空でない表の INSERT オプションを使用しようとした。

処置: SQL*Plus から表を空にするか、REPLACE オプションを使用してください。

ORA-26008 NOT NULL 列 *string* に NULLIF 句があります

原因: データベース内の NOT NULL 列に SQL*Loader の NULLIF 句が指定されています。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の NULLIF 句を削除してください。

ORA-26009 NOT NULL 列 *string* に NULL に評価される DEFAULTIF 句があります。

原因: データベース内の NOT NULL 列に、NULL に評価される SQL*Loader の DEFAULTIF 句があります。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の DEFAULTIF 句を削除してください。

ORA-26010 列 *string* (表 *string*) が NOT NULL なのでロードされていません。

原因: データベース内の NOT NULL 列がロードされていないため、すべての行が拒否されます。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の INTO TABLE 句に NOT NULL 列を指定することにより、列をロードしてください。

ORA-26011 型 *string* を列 *string* (表 *string* 内) にロードできません

原因: 列には、その列に対して宣言された型のデータのみ格納でき、代替列には、その列に対して宣言されたスーパータイプで、有効なサブタイプのデータのみ格納できます。

処置: 指定された型またはサブタイプが、その列に対して有効であることを確認してください。

ORA-26012 SQL 文 *string* を列 *string* に対して実行しましたがデータが見つかりませんでした - 次の入力をチェックしてください: *string*

原因: データ・ディクショナリ表に対する SQL 文の実行で、「ORA-01403 データが見つかりません。」が返されました。

処置: データ・ディクショナリ表に対する選択で、データが検索されない場合の多くは、ユーザーの入力エラーが原因です。入力結果が正しいことを確認してください。

ORA-26013 割り当てられたリストの大きさが不十分な可能性があります

原因: ダイレクト・パス API によって割り当てられたリストまたはバッファのサイズが、必要なサイズではない可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26014 OCI_ATTR_DIRPATH_SUBST_OBJ_TBL が非最終タイプのオブジェクト表 *string* に設定されています

原因: クライアントで、非オブジェクト表または最終タイプのオブジェクト表のいずれかに OCI_ATTR_DIRPATH_SUBST_OBJ_TBL が設定されています。この属性は、非最終タイプのオブジェクト表のみに設定する必要があります。

処置: ロードする表のタイプを確認してください。表が非最終タイプのオブジェクト表でない場合、この属性を設定しないでください。

ORA-26015 配列の列 *string* (表 *string* 内) はダイレクト・パスではサポートされていません

原因: 配列の列を、ダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26016 レコード *string*: 拒否されました - 表 *string*、パーティション *string* でエラーが発生しました

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。違反している列は不明です。

ORA-26017 グローバル索引はダイレクト・パス・パーティションのロード (表 *string*) で使用できません

原因: ダイレクト・パスが表の単一のパーティションをロードするときに、表に対してグローバル索引が定義されています。

処置: 示された表からグローバル索引を削除し、操作を再試行してください。

ORA-26018 列 *string* (表 *string*) が存在しません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルに指定された列が存在しません。

処置: 列が存在し、それに対する権限が付与されていることを確認してください。SQL*Loader 制御ファイルに誤りがある場合は修正してください。

ORA-26019 列 *string* (表 *string*、型 *string*) はダイレクト・パスでサポートされていません

原因: 指定された SQL 型の列 *string* は、ダイレクト・パス・ロードではサポートされていません。

処置: 列が NULL 値可能の場合は、その列を制御ファイルの記述から削除してください。それから、NULL としてロードしてください。

ORA-26020 索引 *string.string* に *string* キーが正常にロードされました。

原因: 非パーティション索引情報がローダー・ログ・ファイルに出力されました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26021 索引 *string.string*、パーティション *string* に *string* キーが正常にロードされました。

原因: パーティション索引情報がローダー・ログ・ファイルに出力されました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26022 索引 *string.string* は次のエラーのため使用できません:

原因: このエラーの次に表示されるエラーのため、非パーティション索引で索引が使用不可になりました。

処置: エラーに応じて、索引を再構築するか、または削除してから再作成してください。

ORA-26023 索引 *string.string*、パーティション *string* は次のエラーのため使用できません：

原因：このエラーの次に表示されるエラーのため、パーティション索引のパーティションで索引が使用不可になりました。

処置：エラーに応じて、索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26024 SKIP_UNUSABLE_INDEXES が要求されたので、索引セグメントは最初は使用できません。

原因：SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションを要求しましたが、ロードの開始前に索引セグメントが使用できない状態にありました。

処置：これは情報メッセージです。索引または索引パーティションを再構築するか、または索引を再作成してください。

ORA-26025 SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションが要求されました。

原因：ダイレクト・パス・ロードで索引メンテナンスのスキップが要求されました。

処置：ユーザーが索引メンテナンスのスキップを要求したため、リストされた索引は Index Unusable 状態になりました。索引または索引パーティションを再構築するか、または索引を削除または再作成してください。

ORA-26026 一意索引 *string.string* は初期状態では使用不可です。

原因：一意索引が IU 状態にあります（一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES を使用して索引メンテナンスをスキップできません）。

処置：索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください。

ORA-26027 一意索引 *string.string*、パーティション *string* は初期状態では使用不可です。

原因：一意索引のパーティションが IU 状態にあります（一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES を使用して索引メンテナンスをスキップできません）。

処置：索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください。

ORA-26028 索引 *string.string* は初期状態では使用不可です。

原因：ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引が IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

処置：索引を再構築または再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください（SQL*Loader の場合のみ）。

ORA-26029 索引 *string.string*、パーティション *string* は初期状態では使用不可です。

原因: ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引のパーティションが IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

処置: 索引パーティションを再構築または再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください (SQL*Loader の場合のみ)。

ORA-26030 索引 *string.string* に次のエラーによって *string* パーティションが使用不可になりました:

原因: 1 つ以上の索引パーティションに影響するパーティション索引で、このメッセージの次に表示される論理索引エラーが発生しました。

処置: 影響を受ける索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26031 索引メンテナンス・エラーが発生しました。ロードを継続できません

原因: ダイレクト・パス・ロードの索引メンテナンス・フェーズ中に索引エラーが発生しました。ロードを継続できません。このメッセージの次に表示されるエラー・メッセージを参照してください。

処置: このメッセージの次に表示されるエラー・メッセージに対する処置を参照してください。

ORA-26032 索引 *string.string* のロードが *string* キーの後で異常終了しました。

原因: 索引構成表のダイレクト・ロード中に索引エラーが発生しました。ロードが異常終了しました。行はロードされませんでした。

処置: 示されたキーのすぐ後に続くキーを確認してください。このキーが、メッセージに記述されている索引問題の原因です。

ORA-26033 索引 *string.string*、行 *string* の評価中に次によりエラーが発生しました:

原因: ファンクション索引の式を評価中にエラーが発生しました。

処置: 入力データがファンクション索引に対して有効であることを確認してください。

ORA-26034 可変長フィールドの長さの読み込み中に論理レコードの終わりを検出しました。

原因: 可変長フィールドの長さの読み込み中に、論理レコードの終わりに達しました。

処置: データが制御ファイルに正しく記述されていて、データ・ファイルのデータが制御ファイルの記述と一致しているかを確認してください。

ORA-26035 レコード *string*: 拒否されました - 表 *string*、サブパーティション *string* でエラーが発生しました

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。違反している列は不明です。

ORA-26036 サブパーティションのロードが指定されましたが、表 *string* がサブパーティション化されていません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルには PARTITION 句が含まれていますが、ロードされた表はサブパーティション化されていません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルからサブパーティション指定を削除し、ロードを再試行してください。

ORA-26037 レコード *string*: 拒否されました - 表 *string*、サブパーティション *string* でエラーが発生しました

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを修正してください。違反している列は不明です。

ORA-26038 文字長変換フィールドの数値への変換でエラーが発生しました

原因: VARCHARC または VARRAWC フィールドのカウント部分を含む文字の変換中に、エラーが発生しました。

処置: フィールドのカウント部分が正しい値であることを確認してください。

ORA-26039 表 *string* に定義されたドメイン索引があります。

原因: ドメイン索引が定義されている表にダイレクト・パス・ロードが指定されました。

処置: 表に定義されたドメイン索引を削除するか、または従来型パスを使用してください。

ORA-26040 データ・ブロックが NOLOGGING オプションを使用してロードされました。

原因: REDO 生成なしに NOLOGGING/UNRECOVERABLE オプションを使用してロードされたブロックのデータにアクセスしようとしてしました。

処置: ブロックを含んでいるオブジェクトを削除してください。

ORA-26041 DATETIME/INTERVAL データ型の変換エラーが発生しました

原因: 列を DATETIME データ型から内部 DATETIME/INTERVAL データ型に変換することはできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26042 フォーマット文字列を内部フォームに変換できません

原因: DATETIME 書式文字列を DATETIME データ型処理用に内部書式に変換しようとしてしましたが、失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26043 DATETIME/INTERVAL 処理のタイム・ゾーンを変換できません。

原因：環境変数 ORA_STDZ で指定したタイム・ゾーンを内部書式に変換しようとしたが、失敗しました。

処置：ORA_STDZ の設定が正しいかどうかを確認してください。

ORA-26044 DATETIME/INTERVAL 参照日を取得できません。

原因：DATETIME/INTERVAL データ型のシステム参照日を取り出そうとしたことが、失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26045 REF 列 *string* で予想される引数は *string* ですが、*string* が検出されました。

原因：REF 列に対する引数の数が誤っています。

処置：REF 列に対して正しい数の入力引数を指定してください。

1. 有効範囲なしのシステム生成 REF には、1 つまたは 2 つの入力引数が指定可能です。
2. 固定表名が OCI_DIRPATH_EXPR_REF_TBLNAME で指定されている場合は、1 つ (OID 値用) の入力引数が指定可能です。
3. 固定表名が OCI_DIRPATH_EXPR_REF_TBLNAME で指定されていない場合は、2 つ (表名に 1 つと、OID 値に 1 つ) の入力引数が指定可能です。
4. 有効範囲付きのシステム生成 REF には、1 つまたは 2 つの入力引数が指定可能です。

表名の引数は、有効範囲付き REF に必要ではないため、1 つの引数 (OID 値用) のみ必要です。ただし、表名の引数が指定されている場合、その指定はそのまま使用されます。

5. 主キー OID に N 個の列がある有効範囲付きの主キー REF には、N 個または N+1 個の入力引数が指定可能です。

表名の引数は、有効範囲付き REF に必要ではないため、N 個の引数 (OID 値用) のみ必要です。ただし、表名の引数が指定されている場合、その指定はそのまま使用されます。

ORA-26046 REF 列 *string* で予想される有効範囲表の名前は *string* ですが、ユーザーは *string* を渡しました。

原因：スキーマ内の名前と一致しない有効範囲表名が渡されました。

処置：有効範囲付き REF 列に、正しい表名を指定してください。

ORA-26047 REF 列にシステムで生成した oid の無効な値が含まれています

原因：システム生成 oid に渡された値が、有効な 16 進数で構成されていません。

処置：REF 列に、有効な oid を指定してください。

ORA-26048 有効範囲 REF 列の表名が正しくありません。

原因: スキーマ内の名前と一致しない有効範囲表名が渡されました。

処置: 有効範囲 REF 列に、正しい表名を指定してください。

ORA-26049 存在しない表の名前が有効範囲外の REF 列に含まれています。

原因: 渡された表名が、スキーマに存在しません。

処置: 有効範囲外の REF 列に、有効な表名を指定してください。

ORA-26050 ドメイン索引のダイレクト・パス・ロードがこの列型でサポートされていません。

原因: この列型のドメイン索引は、ダイレクト・パスでロードできません。

処置: 索引を削除して再試行するか、または従来型パスを使用してロードしてください。

ORA-26051 パック 10 進フォーマット文字列の解析中に内部エラーが発生しました

原因: 0（ゼロ）でないスケール要素があるパック 10 進フィールドが、文字列にマップされました。データ型変換を実行するためには、入力フィールドの精度およびスケール指定に基づいて、数値フォーマット文字列が作成される必要があります。このフォーマット文字列の作成中に、ダイレクト・パス・ローダーでエラーが発生しました。

処置: パック 10 進フィールドの精度およびスケール指定を確認し、有効な値が含まれていることを確認してください。

ORA-26076 ダイレクト・パス列の配列が初期化された後は、値を設定できません

原因: クライアントが、列配列がすでに割り当てられ、初期化された後で、ダイレクト・パス・コンテキストの列配列の行数を設定または再設定しようとしました。

処置: ダイレクト・パス・コンテキストの列配列の行数を設定するには、OCI_ATTR_NUM_ROWS で OCIAttrSet をコールしてから、OCIHandleAlloc をコールして列配列を割り当ててください。

ORA-26077 ダイレクト・パス列の配列が初期化されていません

原因: クライアントが、表レベルのダイレクト・パス・コンテキストに列配列を割り当てる前に、ダイレクト・パス関数のコンテキストに列配列を割り当てようとしてしました。

処置: OCIHandleAlloc を使用して、表レベルのダイレクト・パス・コンテキストの列配列を割り当ててから、ダイレクト・パス関数のコンテキストに列配列を割り当ててください。

ORA-26078 ファイル "string" はロードしているデータベースの一部ではありません。

原因: データベースの一部ではないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。

処置: ファイル名およびパス名を修正してください。

ORA-26079 ファイル "string" は表 *string.string* の一部ではありません。

原因: ロードしている表の表領域内にないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。

処置: 指定したパラレル・ロード・ファイルが、ロードされている表の表領域にあることを確認してください。

ORA-26080 ファイル "string" は表 *string.string*、パーティション *string* の一部ではありません。

原因: ロードしている表（パーティション、サブパーティション）の表領域内にないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。パーティション表がロードされている場合、ファイルはすべてのパーティションまたはサブパーティションの表領域にある必要があります（各（サブ）パーティションは同一の表領域にある必要があります）。

処置: 異なるパラレル・ロード・ファイルを指定するか、ファイルを1つも指定しないでください。

ORA-26081 ロード・ストリームの同期エラーが発生しました

原因: 行ヘッダー・フラグ・バイトには、予期しない値が含まれています。これは、クライアントからサーバーへのロード・ストリームの生成または送信時にエラーが発生したことを示します。

処置: エラー処理時のアプリケーション・プログラミング・エラー、またはストリーム状況をリセットしてください。

ORA-26082 表 *string.string* でのオーバーラップ・セグメントはロードできません

原因: クライアント・アプリケーションが同一表に複数のダイレクト・パス・ロード処理を実行しようとしています、セグメントがオーバーラップしています。

処置: ロードしているパーティション名（ダイレクト・パス・コンテキストのサブネーム属性）を確認してください。表および同一表のパーティションをロードしていないことを確認してください。パーティション、および同一パーティション内のサブパーティションをロードしていないことを確認してください。

ORA-26084 ダイレクト・パス・コンテキストはすでに終了しました

原因: OCIDirPathFinish がコールされた後に、OCIDirPathLoadStream 操作が実行されようとしていました。ダイレクト・パス処理が終了した後、データをロードすることはできません。

処置: プログラム・ロジックを確認し、OCIDirPathFinish の後で OCIDirPathLoadStream がコールされないことを確認してください。

ORA-26085 **ダイレクト・パス**の操作では、それ自体のトランザクションを開始する必要があります。

原因:すでに開始したトランザクション中に、ダイレクト・パス処理が行われようとしてしました。

処置:トランザクションをコミットし、ダイレクト・パス処理を再実行する準備をしてください。

ORA-26086 **ダイレクト・パス**ではトリガーがサポートされません。

原因:使用可能なトリガーがある表でダイレクト・パス処理が行われようとしてしました。

処置:その表のトリガーを使用不可にして、再実行してください。

ORA-26087 **ダイレクト・パス**では参照制約をサポートしません

原因:参照整合性制約がある表で、ダイレクト・パス処理をしようとしてしました。

処置:表の参照整合性制約を無効にして、再実行してください。

ORA-26088 スカラー列 **"string"** は、LOB 列の前に指定する必要があります

原因:すべてのスカラー列 (LOB 列でも LONG 列でもない列) は、LOB 列を指定する前にダイレクト・パス API のクライアントによって指定される必要があります。

処置:LOB 列を指定する前にすべてのスカラー列を指定してください。

ORA-26089 LONG 列 **"string"** 最後に指定する必要があります

原因:ダイレクト・パス API のクライアントが、ロードする LONG 列を指定しましたが、LONG 列の指定位置が最後ではありませんでした。

処置:LONG 列を最後に指定してください。

ORA-26090 行が部分状態になっています。

原因:ダイレクト・パス処理が終了するか、データ保存要求が行われましたが、その要求が行われる表に部分状態の行があります。セグメントの最高水位標が移動される前に、行を終了する必要があります。

処置:行を終了するか、またはダイレクト・パス処理を強制終了してください。

ORA-26091 要求されたダイレクト・パス操作はサポートされていません。

原因:サポートされていないダイレクト・パス処理が要求されました。

処置:この操作を使用しないでください。現在、UNLOAD はサポートされていません。

ORA-26092 LONG 型または LOB 型のみが部分となることができます。

原因:LONG または LOB でない列に OCI_DIRPATH_COL_PARTIAL フラグが対応付けられています。LONG 型または LOB 型の列のみがピース単位でロードできます

処置:列に OCI_DIRPATH_COL_PARTIAL フラグを使用しないでください。

ORA-26093 ストリーム・オフセットは列配列にマップしません。

原因: ROW_COUNT 属性がダイレクト・パス・ストリーム・ハンドルから読み込まれ、最後に処理された列のストリーム・オフセットが列配列オフセットにマップしていませんでした。

処置: ストリームが列配列から発生していることを確認してください。

ORA-26094 ストリーム書式エラー: 入力列がオーバーフローしました

原因: 入力ストリームが、ダイレクト・パス API のクライアントが指定した入力列より多い入力列のデータを含んでいました。

処置: ロードされているストリームが正しい表のものかを確認してください。初期化シーケンスを調べてください。

ORA-26095 処理されていないストリーム・データが存在します

原因: サーバーが既存のストリーム・データを完全に処理する前に、より多くのストリーム・データを提供する OCIDirPathLoadStream がコールされたか、またはサーバーがストリーム・データを処理するときに OCIDirPathLoadStream がコールされました。

処置: 一般的な原因として、ダイレクト・パス API のアプリケーション誤使用が考えられます。前のストリーム・データが処理される前にストリームが誤ってリセットされていないか、または OCIDirPathFinish が途中でコールされていないことを確認してください (Finish がコールされる前に、ストリームが送信され、エラーが発生し、そして LoadStream が残りのストリームを処理するためにコールされないことを確認してください)。

ORA-26096 転送サイズが行データに対して小さすぎます (number バイト必要)。

原因: 指定されている転送バッファ・サイズまたはデフォルトの転送バッファ・サイズ (サイズを指定していない場合) が、変換された行データの単一行を保持するには小さすぎます。

処置: ダイレクト・パス・コンテキストの転送バッファ・サイズ属性を大きく設定してください。

ORA-26097 列 *string* で型 *number* から型 *number* への変換はサポートされていません

原因: ダイレクト・パス API は要求された変換をサポートしていません。

処置: 型が正しいかどうかを確認してください。

ORA-26098 ダイレクト・パス・コンテキストがまだ準備されていません。

原因: まだ準備されていないダイレクト・パス・コンテキストを使用して、ダイレクト・パス API 関数がコールされました。

処置: ダイレクト・パス・コンテキストに必要な属性がすべて設定され、ダイレクト・パス・コンテキストが OCIDirPathPrepare を使用して準備されていることを確認してください。

ORA-26099 ダイレクト・パス・コンテキストはすでに準備されています。

原因: すでに準備されているコンテキストで OCIDirPathPrepare がコールされました。

処置: ダイレクト・パス・コンテキストを解除し、必要な属性を設定してから、OCIDirPathPrepare をコールしてください。

ORA-26100 未定義のエラーです。

原因: このエラーは未定義です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-26101 ファイル・ヘッダーの表領域番号は *string* で、*string* (ファイル *string*) ではありません。

原因: ファイル・ヘッダー内の表領域番号が、制御ファイル内の表領域番号と一致していません。

処置: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26102 ファイル・ヘッダーの相対ファイル番号は *string* で、*string* (ファイル *string*) ではありません。

原因: ファイル・ヘッダー内の相対ファイル番号が、制御ファイル内の相対ファイル番号と一致していません。

処置: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26103 V6 または V7 のデータ・ファイルが制御ファイルの作成に使用されました。

原因: 参照ファイルのファイル・ヘッダーが V6 または V7 のフォーマットです。

処置: CREATE CONTROL FILE コマンドからファイルを削除するか、またはなんらかの方法でファイル・ヘッダーを V8 のフォーマットに移行してください。

ORA-26500 "*string*". "*string*" のキャッシュ中にエラーが発生しました。

原因: オブジェクトのカタログで使用できないレプリケーション情報をキャッシュしようとした。

処置: DBMS_REPUTIL.SYNC_UP_REP を使用してアプリケーション・カタログの妥当性を検査するか、または DBMS_REPUTIL.MAKE_INTERNAL_PKG を使用して内部パッケージの妥当性を検査してください。

ORA-26501 RepAPI 操作が失敗しました。

原因: 外部 RepAPI 操作が失敗しました。

処置: 詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26502 エラー再表示

原因: 内部サービスが失敗し、エラーが表示されました。

処置: 詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26503 内部 RepAPI 操作がオブジェクト *string.string* で失敗しました。

原因: 予期しない内部 RepAPI の失敗が検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26504 操作が実装されません。

原因: コール側が、実装されていない RepAPI 操作を要求しました。

処置: このコールは発行しないでください。

ORA-26505 予期せぬ内部的な NULL です。

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

処置: RepAPI が使用できるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26506 グローバル・コンテキストが NULL です。

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

処置: RepAPI が使用できるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26507 マスター接続が NULL です。

原因: マスター接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

処置: マスター接続が有効であることを確認してください。

ORA-26508 マテリアライズド・ビュー接続が NULL です。

原因: クライアント接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

処置: クライアント接続が有効であることを確認してください。

ORA-26509 マテリアライズド・ビュー制御構造体が NULL です。

原因: 内部マテリアライズド・ビュー制御構造体を取得できませんでした。

処置: 指定された所有者とユーザーが正しいことを確認してください。

ORA-26510 マテリアライズド・ビュー名: '*string*' が最大を超えています。長さは *string* バイトまでです。

原因: 指定されたマテリアライズド・ビュー名が長すぎます。

処置: マテリアライズド・ビュー名を短くしてください。

ORA-26511 マスター表 '*string.string*' が見つかりませんでした

原因: 存在しないマスター表または無効なマスター表に対して RepAPI 操作を実行しようとした。

処置: マスター表オブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-26512 トランザクションを def\$error へ送信するときにエラーが発生しました

原因: マスター・サイトに DEF\$ERROR RPC を送信するときに予期しないエラーが発生しました。

処置: DBMS_DEFER パッケージが有効であり、RepAPI クライアントから実行可能であることを確認してください。必要に応じて、ローカル・サイトまたはマスター・サイトの管理者に連絡してください。

ORA-26513 送信エラー: マスター PROC.*string*\$RP.*string* が失敗しました (trans:*string* seq:*string*)

原因: \$RP.rep_insert()、rep_update() または rep_delete() 関数の実行中にマスター・サイトで競合またはエラーが発生し、それがマスターの競合解消ロジックで処理されませんでした。

処置: マスター・サイトのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-26514 オブジェクト '*string.string*' が見つかりませんでした

原因: 指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。

処置: 指定されたオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。

ORA-26515 '*string.string*' で使用可能なマスター・ログがありません。

原因: 指定されたマスター・ログが見つかりません。または、指定された表で使用可能ではありません。

処置: マスター・サイトでマスター・ログを作成するか、ログに問題がある場合はそれを修正してください。

ORA-26516 送信トランザクションの通知がありません

原因: RepAPI は、最後の送信トランザクションがマスター・サイトによって正常にコミットされたことを確認できませんでした。

処置: ローカル・サイトとマスター・サイト間の通信リンクがまだ有効であることを確認してください。トランザクションがマスターでコミットされていない場合は、トランザクションを再送信してください。

ORA-26517 'string.string' のマテリアライズド・ビュー制御エントリが見つかりませんでした。

原因：指定されたマテリアライズド・ビュー・カタログ制御レコードが見つかりませんでした。

処置：ローカル・マテリアライズド・ビュー・カタログが有効であり、ローカル・マテリアライズド・ビューが正しく定義されていることを確認してください。

ORA-26518 送信キューの同期エラーを検出しました

原因：クライアントは、すでにマスター・サイトでコミットされているトランザクションを再送信しようとしていました。この問題は、一般にローカル・サイト・トランザクション順序機構の初期化または更新時にローカル・サイトでエラーが発生したことが原因です。

処置：RepAPI がマスター・サイトへ再送信しようとしているトランザクション・データがマスター表に存在し、有効であり、ローカル・サイトと一貫性のあることを確認してください。このエラーが発生する場合は、重複して識別されたトランザクションは無視され、ローカルの更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログから削除されます。ローカル・サイトで新しいトランザクション識別子が正しく割り当てられ、一意でない値が意図せず生成されていないことを確認してください。

ORA-26519 割当て可能なメモリーがありません。

原因：RepAPI プロセスで利用できるメモリーが残されていません。このエラーは、RepAPI が新しい表バッファ領域を割り当てようとするときに発生することがあります。

処置：ヒープ・メモリーを解放するため、1 つまたは複数のローカル・アプリケーションを停止して、RepAPI を再試行してください。

ORA-26520 内部メモリー障害が発生しました

原因：内部メモリー障害が検出されました。

処置：その他のエラーが発生しているかどうかを確認してください。または、ローカル・アプリケーションがメモリー・サブシステムを破損させていないかどうかを判断してください。

ORA-26521 RPC 初期化エラーが発生しました

原因：PL/SQL RPC の初期化中にエラーが発生しました。

処置：呼び出されるプロシージャが存在し、それがマスター・サイトで有効であり、RepAPI ユーザーから実行可能であることを確認してください。

ORA-26522 RPC 実行エラーが発生しました

原因：PL/SQL RPC の実行中にエラーが発生しました。

処置：リモート・プロシージャからのエラー・メッセージを確認し、呼び出された RPC の実行を妨害している可能性のあるリモート・サイトの問題を修正してください。

ORA-26523 RPC 終了エラーが発生しました

原因: PL/SQL RPC の終了中にエラーが発生しました。通常は、オープンされているカーソルをマスター・サイトがクローズできないこと、または RepAPI が内部メモリーの割当てを解除できないことが原因です。

処置: 最初にサーバー側の問題を解決し、RepAPI のメモリー・サブシステムが破損していないかどうかを判断してください。

ORA-26524 NLS サブシステムの初期化に失敗しました : product=string、facility=string

原因: NLS product/facility エラー・メッセージ・ファイルが見つからないか、または正しく初期設定されていませんでした。

処置: エラー・メッセージのディレクトリとファイルが正しくインストールされていることを確認してください。

ORA-26525 string (@string) のセッション接続に失敗しました

原因: 指定された接続文字列を使用して、指定されたデータベースへの接続を確立できませんでした。

処置: ユーザー、パスワード、接続文字列、ネーム・サービス、ネットワーク、およびリモート・サイトのリスナー・プロセスが正しくインストールされ、動作していることを確認してください。

ORA-26526 マテリアライズド・ビュー SQL DDL の解析 / 拡張が string.string で失敗しました

原因: マスターの Oracle サイトがクライアントの SQL マテリアライズド・ビュー定義問合せを正しく解析できませんでした。

処置: マテリアライズド・ビュー DDL SQL が、現在接続されている Oracle のバージョンと互換性があり、RepAPI SQL の制約または制限に違反していないことを確認してください。

ORA-26527 'string.string' に対するローカルの格納コールバックが INIT フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、示されたオブジェクトに対する INIT フェーズ中に失敗しました。

処置: クライアント・コールバックが参照しているオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26528 'string.string' に対するローカルの格納コールバックが PROC フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、示されたオブジェクトに対する PROC フェーズ中に失敗しました。

処置: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26529 'string.string' に対するローカルの格納コールバックが TERM フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、示されたオブジェクトに対する TERM フェーズ中に失敗しました。

処置: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26530 マテリアライズド・ビュー・リフレッシュ制御リストを作成できません。

原因: マテリアライズド・ビュー制御リストを作成できません。通常、これは、ローカル・マテリアライズド・ビュー・カタログへのアクセス中にエラーが発生したことが原因です。

処置: 指定されたマテリアライズド・ビューが正しく定義され、有効であることを確認してください。

ORA-26532 レプリケーション・パラレル・プッシュでサイトの障害をシュミレートしました。

原因: ネットワークまたは接続先サイトの障害のシミュレーションを行うために、イベント 26531 を使用可能にしてパラレル・プッシュを実行すると、このエラーが発生します。

処置: 通常の操作では、このイベントを使用可能にしないでください。

ORA-26534 衝突: トランザクション IDnumber は無視されて除去されました。

原因: 送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

処置: E_QUEUESYNC (26518) の処置の項を参照してください。

ORA-26535 number バイトの行キャッシュは、ROWSIZE=number の表には不十分です

原因: 送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

処置: RepAPI 行バッファのサイズを増やすか、レプリケート表の幅を削減してください。

ORA-26536 遅延トランザクションによって発生した競合のためにリフレッシュが異常終了しました。

原因: マテリアライズド・ビューのマスター・サイトの DEFERROR 表に、未解決の競合がロギングされています。

処置: マスター DEFERROR 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。または、マスター・サイトの DEFERROR 表に競合がある場合でも、REFRESH_AFTER_ERRORS でリフレッシュしてください。競合が発生しているにもかかわらず続行すると、競合の解消後にリフレッシュが成功するまで、更新可能なマテリアライズド・ビューの変更が一時的に失われているように見える場合があります。

ORA-26563 この表の名前は変更できません。

原因: レプリケート表、更新可能なマテリアライズド・ビュー表、またはマテリアライズド・ビュー・ログが作成されたマテリアライズド・ビューのマスター表の名前を変更しようとした。

処置: 必要に応じて、DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT を使用してレプリケート表の登録を抹消するか、推奨プロシージャを使用してマテリアライズド・ビューのマスター表の名前を変更してください。

ORA-26564 string 引数が指定された型ではありません。

原因: 示された引数にユーザーが渡した型が、格納されている引数内の引数の型と一致しません。

処置: 正しい型 (GET_XXX_ARG) のプロシージャを起動してください。

ORA-26565 型 DBMS_DEFER.CALL の呼出し前に type_ARG が呼び出されました。

原因: 遅延コールを開始する前に type_ARG プロシージャをユーザーが起動しました。

処置: 正しい順序でいくつかのプロシージャを起動してください。

ORA-26566 string への接続をオープンできません。

原因: 指定されたデータベース・リンクを使用して接続をオープンできませんでした。

処置: データベース・リンクが有効であり、リモート・マシンが稼働していることを確認してください。

ORA-26571 string.string.string: 引数の数 (string) がレプリケーション・カタログと一致しません。

原因: 引数の数がレプリケーション・カタログと一致していません。

処置: RPC コールの引数の合計数を調べてください。

ORA-26572 string.string.string: 引数 string がレプリケーション・カタログと一致しません。

原因: (RPC) コールが不正です。

処置: RPC コールの引数の合計数と各引数を調べてください。

ORA-26575 リモート・データベースはレプリケーション・パラレル伝播をサポートしません。

原因: リモート・データベースに Oracle 8.0 より前のバージョンが存在し、レプリケーション・パラレル伝播を認識しませんでした。

処置: シリアル伝播を使用するか、またはリモート・データベースを Oracle 8.0 以上にアップグレードしてください。

ORA-27000 skgfsbi: 記憶域サブシステム (SBT) レイヤーの初期化に失敗しました。

原因: sbtinit からエラーが返されました。追加情報にエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27001 デバイス・タイプがサポートされていません。

原因: 指定されたデバイス・タイプがこのプラットフォームでサポートされていません。

処置: サポートされているデバイス・タイプを V\$BACKUP_DEVICE で確認してください。

ORA-27002 無効なデバイス構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーが発生しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27003 NOIO オプションとともに割り当てられたデバイスのファイルをオープンできません

原因: 内部エラーが発生しました。ファイルが NOIO オプションで割り当てられたデバイス上で作成中または検索中です。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27004 指定されたブロックサイズが無効です。

原因: 内部エラーが発生しました。指定されたブロック・サイズがファイルを作成するデバイスに対して正しくありません。追加情報に、指定されたブロック・サイズ、およびエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27005 非同期がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルはオープンできません。

原因: 内部エラーが発生しました。非同期 I/O がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルをオープンしようとしています。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27006 sbtremove からエラーが返されました

原因: 追加情報に SBTREMOVE から返されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27007 ファイルのオープンに失敗しました。

原因: SBTOPEN からエラーが返されました。追加情報に SBTOPEN から返されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27008 無効なファイル構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーが発生しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27009 skgfwrt: 読み用にオープンしたファイルに書き込みはできません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27010 skgfwrt: ファイルの書き込みに失敗しました。

原因: SBTWRITE からエラーが返されました。追加情報に SBTWRITE から返されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27011 skgfrd: 書き込み用にオープンしたファイルから読み込みはできません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27012 skgfrd: ファイルの読み込みに失敗しました。

原因: SBTREAD からエラーが返されました。追加情報に SBTREAD から返されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27013 skgfdel: オープンしているファイルは削除できません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27014 skgfpini: SS_UDMPDIR 拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: SKGFPINI 内の SLTLN の障害です。

処置: 詳細は、返される追加エラーを確認してください。

ORA-27015 skgfcfs: ファイルのクローズに失敗しました。

原因: SBTCLOSE からエラーが返されました。追加情報に SBTCLOSE から返されたエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27016 skgfcfs: sbtinfo からエラーが戻されました。

原因: 追加情報に SBTINFO から返されたエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27017 skgfcfs: sbtinfo から戻されたメディア・ハンドルが最大長 (SSTMXQMH) を超過しています。

原因: メディア・ハンドル文字列の長さが SSTMXQMH を超えています。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作しており、プラットフォーム制限 (SSTMXQMH) が最低 64 (SBTINFO に指定されている制限) であることを確認してください。追加情報に SBTINFO から返されたメディア・ハンドル文字列の長さと制限 (SSTMXQMH) が表示されます。

ORA-27018 BLKSIZE が最小物理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: ユーザーが定義した BLKSIZE (ブロック要素) が、このプラットフォームで許可されている最小ブロック・サイズの倍数ではありません。

処置: ユーザーが指定したブロック要素、および最小物理ブロック・サイズを示す ADDITIONAL INFORMATION メッセージが 2 回表示されます。最小ブロック・サイズの整数の倍数で BLKSIZE を指定してください。

ORA-27019 テープ・ファイル名の長さが制限 (SBTOPMXF) を超過しています

原因: 順次 I/O 関数に指定されたテープ・ファイル名の長さが長すぎます。

処置: 追加情報に表示されるエラーが発生した関数、指定されたファイル名の長さ、ファイル名の制限を確認してください。

ORA-27020 名前付きデバイスはサポートされていません。

原因: プラットフォームまたは指定されたデバイス・タイプでは、指定されたデバイスがサポートされていません。

処置: デバイスの名前を指定しないでください。または指定されるデバイスをサポートするデバイス・タイプを使用してください。V\$BACKUP_DEVICE ビューを使用して、使用可能なデバイス・タイプと名前（ある場合）を調べてください。

ORA-27021 シーケンシャル・ファイル・ハンドルを指定してください。

原因: SBTOPEX へ渡されるファイル名が未指定でした。

処置: ファイル名を指定して続行してください。バックアップの設定を Recovery Manager から作成する場合は、「書式」オプションを使用してバックアップ対象のハンドル名を指定してください。

ORA-27022 skgfsbi: メディア・マネージャにメモリーを割り当てられませんでした

原因: Oracle にリンクしてバックアップおよびリストア・サービスを提供する、メディア管理ソフトウェアが要求するメモリーを割り当てられませんでした。

処置: Oracle プロセスに使用可能なメモリーの量を増やして、バックアップまたはリストアを再試行してください。

ORA-27023 skgfsbi: メディア・マネージャのプロトコル・エラーが発生しました

原因: Oracle にリンクしてバックアップおよびリストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアの関数ポインタ構造が、Oracle で使用できませんでした。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27024 skgfsbi: sbtinit2 からエラーが返されました。

原因: sbtinit2 からエラーが返されました。これは、バックアップまたはリストア操作中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27025 skgfsbi: メディア・マネージャのコンテキスト領域サイズが無効です。

原因: メディア管理製品ソフトウェアには、許可される最大サイズより大きなコンテキスト領域サイズが必要です。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27026 skgfrls: sbtend からエラーが返されました。

原因：sbtend からエラーが返されました。これは、バックアップまたはリストア操作中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27027 sbtremove2 からエラーが返されました

原因：sbtremove2 からエラーが返されました。これはバックアップ・ファイルを削除中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27028 skgfcrcr: sbtbackup からエラーが返されました。

原因：sbtbackup からエラーが返されました。バックアップ操作中にバックアップ・ファイルを作成すると、このエラーが発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27029 skgfrtrv: sbtrestore からエラーが返されました。

原因：sbtrestore からエラーが返されました。リストア操作中にバックアップ・ファイルを取り出すと、このエラーが発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27030 skgfwrt: sbtwrite2 からエラーが返されました。

原因：sbtwrite2 からエラーが返されました。バックアップ操作中にバックアップ・ファイルを書込みすると、このエラーが発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27031 ミラー復元ファンクションはサポートされていません

原因：内部エラーが発生しました。

処置：トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27032 skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: GETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27033 skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27034 skgfrcre: ORACLE_SID の最大長を超過しました

原因: ORACLE_SID 文字列の文字が多すぎます。

処置: ORACLE_SID の名前を変更して、システムに指定された最大文字数以内の文字列にしてください。

ORA-27035 論理ブロック・サイズが無効です。

原因: Oracle ファイルの論理ブロック・サイズは物理ブロック・サイズの倍数であり、最大値より小さい必要があります。

処置: 指定されたブロック・サイズが、追加情報として返されます。初期化パラメータを確認してください。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます。

ORA-27036 変換エラーが発生しました。ファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報に SLTLN/SLNRM エラーが表示され、エラーが発生した関数も表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-27037 ファイル・ステータスを取得できません。

原因: STAT システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27038 skgfrcre: ファイルが存在しています。

原因: データベース・ファイルを作成しようとしたますが、同じ名前のファイルがすでに存在します。

処置: 名前が正しいことを確認し、必要に応じて reuse を指定してください。

ORA-27039 ファイルの作成に失敗しました。ファイル・サイズが制限に達しています。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとした。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます。

処置: ファイル・サイズ制限を上げてください。

ORA-27040 skgfrcre: 作成エラーが発生しました。ファイルを作成できません。

原因: create システム・コールからエラーが返され、ファイルを作成できません。

処置: ファイル名およびアクセス権を確認してください。

ORA-27041 ファイルをオープンできません。

原因: open システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27042 要求を実行するには、ロー・パーティションが小さすぎます

原因: これは内部エラーです。ファイルがロー・パーティションに対して大きすぎます。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27043 ファイルの先頭を検索できません

原因: seek システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27044 ファイルのヘッダー・ブロックを書き込めません。

原因: write システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27045 ファイルをクローズできません。

原因: close システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27046 ファイル・サイズが論理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: STAT が示したファイル・サイズが正しくありません。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます

処置: ファイルが上書きまたは切り捨てられていないことを確認してください。

ORA-27047 ファイルのヘッダー・ブロックを読み込めません。

原因: read システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27048 skgfifi: ファイルのヘッダー情報が無効です。

原因: データベース・ファイルでないものをデータベース・ファイルとして使用しようとしている可能性があります。

処置: ファイルがデータベース・ファイルであることを確認してください。

ORA-27049 最終ブロックの検索および読み込みができません

原因: ファイルの最終ブロックの検索および読み込みをしようとした。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27050 無効な FIB/IOV 構造で関数が呼び出されました。

原因: これは内部エラーです。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27052 ファイル・データをフラッシュできません。

原因: FSYNC システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27053 skgfifi: ファイル・ヘッダーのブロックサイズが論理ブロック・サイズの倍数ではありません

原因: 論理ブロック・サイズが無効です。追加情報に論理ブロック・サイズおよびファイル・ヘッダーのブロック・サイズが表示されます。

処置: 異なるブロック・サイズを使用するか、またはファイルを再使用しないでください。

ORA-27056 skgfrdel: ファイルを削除できませんでした。

原因: unlink システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27057 skgfask: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。非同期 I/O がサポートされていないファイルでは、非同期ベクトル I/O についての問合せが発生しています。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27058 skgfask: 問合せパラメータが無効です。

原因: これは内部エラーです。無効な問合せが発生しています。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27059 skgfrsz: ファイル・サイズを縮小できませんでした

原因: FTRUNCATE システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27060 skgfofi: ファイルに close-on-exec ビットを設定できませんでした

原因: FCNTL システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27061 skgfospo: 非同期 I/O の待機に失敗しました。

原因: AIOWAIT 関数からエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27062 skgfospo: 一時停止中の非同期 I/O が見つかりませんでした

原因: システムには、複数の非同期 I/O が存在するはずですが、ブロックしている AIOWAIT は、I/O が存在しないことを示しています。Oracle のバグ、ベンダー OS のバグまたは NFS サーバーが応答していない可能性があります。

処置: Oracle トレース・ファイル、OS メッセージを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27063 skgfospo: 読み込み / 書き込みのバイト数が正しくありません。

原因: AIOWAIT から返された読み込み / 書き込みのバイト数が元の数と一致しません。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27064 skgfdisp: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。IOV に非同期 I/O をファイルで実行できないことが示されているときに、非同期 I/O を実行するように要求しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27065 skgfdisp: ファイルに対して非同期ベクトル I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。IOV に非同期ベクトル I/O をファイルで実行できないことが示されているときに、非同期ベクトル I/O を実行するように要求しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27066 skgfdisp: ベクトル I/O のバッファ数が最大値を超過しています

原因: これは内部エラーです。ベクトル I/O のバッファ数が OSD が実現する最大値を超えています。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27067 skgfdisp: バッファのサイズが無効です。

原因: これは内部エラーです。バッファ・サイズが 0 (ゼロ) か、SSTIOMAX より大きいまたは論理ブロック・サイズの倍数以外のいずれかです。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・サイズが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27068 skgfdisp: バッファが正しく位置揃えされていません。

原因: これは内部エラーです。バッファが SSIOALIGN 境界に正しく位置揃えされていません。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・ポインタが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27069 skgfdisp: ファイルの範囲外で I/O 処理を試みました。

原因: これは内部エラーです。読み込みまたは書き込みを行っているブロックの範囲がファイルの範囲外です。追加情報に、開始ブロック番号、I/O 内のブロック数、およびファイル内の最後の有効なブロックが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27070 skgfdisp: 非同期の読み込み / 書き込みに失敗しました。

原因: AIOREAD/AIOWRITE システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27071 skgfdisp: ファイルの要求位置を検索できません

原因: LSEEK システム・コールからエラーが返されました。追加情報に検索しようとしたファイルのブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27072 skgfdisp: I/O エラーが発生しました。

原因: READ/WRITE/READV/WRITEV システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27073 skgfcfi: 非同期 I/O がこのファイルのデキュー用に残されています。

原因: これは内部エラーです。ファイルがクローズされます。ただし、ファイルへの非同期 I/O がすべてデキューされたわけではありません。追加情報にファイルの未処理の I/O の数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27074 skgfrofl: オープン・ファイルの制限を判断できません

原因: GETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27075 skgfrofl: SSTMOFRC 定数が大きすぎます。

原因: これは内部エラーです。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27076 skgfrofl: オープン・ファイル数の制限を設定できません。

原因: SETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27077 skgfofi: オープンされているファイルが多すぎます。

原因: これは内部エラーです。SKGFOFI によってオープンされているファイルの数値が制限値に達しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27080 skgfrdup: オープンされているファイルが多すぎます。

原因: オープンされているファイル数が、システムの制限に達しました。

処置: エラーを確認し、システム構成値を設定してください。

ORA-27084 skgfqio: ファイル・ステータス・フラグを取得 / 設定できません。

原因: F_GETFL/F_SETFL フラグを持つシステム・コール FCNTL からエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27086 skgfglk: ファイルをロックできません - すでに使用されています

原因: ファイルが別のプロセスにロックされています。このファイルは、データベース・インスタンスによって現在使用されています。

処置: どのデータベース・インスタンスが本来このファイルを所有しているかを確認してください。

ORA-27087 skgfglk: 共有ロックを取得できません - ファイルが読み込み可能ではありません

原因: 読み込みアクセス用にオープンされていないファイルに対して共有ロックが要求されました。

処置: 共有ロックを取得するには、ファイルを読み取り専用または書き込み専用でオープンしてください。

ORA-27088 skgfglk: ファイル・ステータスを取得できません

原因: ファイルがオープンされていないかまたはファイル記述子が無効です。

処置: ファイルがオープンされていて記述子が有効なことを確認してください。

ORA-27089 skgfrlk: アドバイザ・ロックをリリースできません

原因: ファイル・ロックのリリースが失敗しました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27091 skgfqio: I/O をキューできません。

原因: read/write/readv/writev システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27092 skgfofi: ファイルのサイズがプロセスのファイル・サイズ制限を超過しています。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限 (ulimit) を超えるファイルをオープンしようとしてしました。追加情報に、現在の制限 (論理ブロック) およびファイルのサイズ (論理ブロック) も表示されます。

処置: プロセスのファイル制限 (ulimit) を増やし、再試行してください。

ORA-27100 共有メモリー領域はすでに存在します

原因: 重複しているインスタンスを起動しようとしたか、正しく停止されていないインスタンスを再起動しようとしてしました。

処置: 別のインスタンス名を使用するか、失敗したインスタンスの SGA をクリーンアップしてください。

ORA-27101 共有メモリー領域は存在しません

原因: 共有メモリー領域を確認できませんでした。

処置: 領域がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-27102 メモリー不足です。

原因: メモリー不足です。

処置: トレース・ファイルで詳細を確認してください。

ORA-27103 内部エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27120 共有メモリー・セグメントを削除できません

原因: SHMCTL() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27121 共有メモリー・セグメントのサイズを判断できません

原因: SHMCTL() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27122 メモリーを保護できません。

原因: MPROTECT() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27123 共有メモリー・セグメントに連結できません。

原因: SHMAT() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27124 共有メモリー・セグメントから連結解除できません。

原因: SHMDT() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27125 共有メモリー・セグメントを作成できません。

原因: SHMGET() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27126 コアにある共有メモリー・セグメントをロックできません。

原因: コア内で共有メモリー・セグメントをロックする権限が不十分です。

処置: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27127 共有メモリー・セグメントをロック解除できません。

原因: 共有メモリー・セグメントをロック解除する権限が不十分です。

処置: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27128 ページ・サイズを判断できません

原因: SYSCONF() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27141 ID 処理が無効です。

原因: 無効なプロセス ID を使用してプロセス操作をしようとした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27142 新規処理を作成できませんでした。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認してください。可能な場合、プロセス数を増やしてください。

ORA-27143 OS システム・コールに障害が発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27144 処理の削除に失敗しました

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27145 要求された処理数に対するリソースが不十分です。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27146 通知 / 待機の初期化に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27147 通知 / 待機のリセットに失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27148 起動待機エラーが発生しました

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27149 割当てが有効範囲にありません。

原因: これは内部エラーです。型に対して大きすぎる変換が要求されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27150 保留中の ORADEBUG コール処理の通知に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27151 ID 文字列の処理を保持するにはバッファ・サイズが不十分です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27152 処理の通知に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27153 待機操作に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27154 通知 / 待機の作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。複数の通知 / 待機の作成を同時に実行しようとした。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27155 ファイルを実行できませんでした

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27156 情報の処理要求に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27157 OS の通知 / 待機機能は削除されました

原因: コール・プロセスがアクションを待機する通知 / 待機機能が、システムから削除されました。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27190 skgfrd: sbtread2 からエラーが返されました。

原因: sbtread2 からエラーが返されました。リストア操作中にバックアップ・ファイルを読み込むと、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27191 sbtinfo2 からエラーが返されました。

原因: sbtinfo2 からエラーが返されました。メディア・マネージャ・カタログからバックアップ・ファイルの情報を取出し中に、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27192 skgfcsl: sbtclose2 からエラーが返されました - ファイルのクローズに失敗しました

原因: sbtclose2 からエラーが返されました。バックアップまたはリストア操作中にバックアップ・ファイルをクローズすると、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27193 sbtinfo2 からボリューム・ラベルが返されませんでした

原因: 作成されなかったバックアップ・ファイルのボリューム・ラベル情報が、sbtinfo2 から返されませんでした。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27194 skgfdvcm: sbtcommand からエラーが返されました。

原因: sbtcommand からエラーが返されました。これは RMAN SEND コマンドを発行した場合に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27195 プロキシ・コピーはサポートされません。

原因: プロキシのバックアップまたはリストアをしようとしたますが、Oracle にインストールされているメディア管理ソフトウェアはプロキシ・コピーをサポートしていません。

処置: 非プロキシ・モードでバックアップを再実行するか、またはソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートする場合は、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27196 skgfpbk: sbtpcbbackup からエラーが返されました。

原因：sbtpcbbackup からエラーが返されました。これはプロキシのバックアップを開始したときに発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27197 skgfprrs: sbtpcrestore からエラーが返されました。

原因：sbtpcrestore からエラーが返されました。これはプロキシのリストアを開始したときに発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27198 skgfpvl: sbtpcvalidate からエラーが返されました。

原因：sbtpcvalidate からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27199 skgfpst: sbtpcstatus からエラーが返されました。

原因：sbtpcstatus からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27200 skgfpgo: sbtpcstart からエラーが返されました。

原因：sbtpcstart からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27201 skgfpcm: sbtpccommit からエラーが返されました。

原因：sbtpccommit からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27202 skgfpn: sbtpcend からエラーが返されました。

原因: sbtpcend からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にありません。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27203 skgfpqb: sbtpcquerybackup からエラーが返されました。

原因: sbtpcquerybackup からエラーが返されました。これはプロキシのバックアップ中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にありません。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27204 skgfpqr: sbtpcqueryrestore からエラーが返されました。

原因: sbtpcqueryrestore からエラーが返されました。これは、プロキシのリストア中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にありません。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27205 skgfpcn: sbtpccancel からエラーが返されました。

原因: sbtpccancel からエラーが返されました。これは、プロキシのリストア中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にありません。通常、このエラーについては、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27206 要求されたファイルがメディア管理カタログにありません。

原因: Recovery Manager カatalogのメンテナンス・コマンドで使用されているバックアップ・ファイルがメディア管理カタログで見つかりませんでした。

処置: 別のファイル名を使用してコマンドを再試行してください。

ORA-27207 PARMS デバイスの構文エラー - カッコの組合せが不適当か、またはカッコがありません。

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置: 正しい構文 ENV=(.) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27208 PARMS デバイスの構文エラー - 環境変数の値がありません。

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置: 正しい構文 ENV=(var1=val1,var2=val2,..) でコマンドを再試行してください。

ORA-27209 PARMS デバイスの構文エラー - 不明なキーワードか、または「=」がありません。

原因：ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。サーバーが ENV または BLKSIZE を検索しようとしたが、不明なキーワードが検出されました。

処置：正しい構文 ENV=(.) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27210 PARMS デバイスの構文エラーが発生しました

原因：ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置：正しい構文 ENV=(.) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27211 メディア管理ライブラリのロードに失敗しました

原因：ユーザーが指定した SBT_LIBRARY または libobk.so をロードできませんでした。メディア・ライブラリに対する dlopen のコールがエラーを戻しました。エラー・コードの追加情報を参照してください。

処置：適切なメディア・ライブラリを使用したコマンドを再試行するか、Oracle 用のメディア管理モジュールを再インストールしてください。

ORA-27212 メディア管理ライブラリのエントリ・ポイントの一部がありません

原因：メディア・ライブラリが、sbtinfo、sbtread、sbtwrite、sbtremove、sbtopen、sbtclose、sbtinit のいずれかのエントリ・ポイントを持っていません。

処置：適切なメディア・ライブラリを使用したコマンドを再試行してください。

ORA-27213 メディア管理ライブラリのアンロードに失敗しました

原因：メディア・ライブラリに対する dlclose のコールがエラーを戻しました。エラー・コードの追加情報を参照してください。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27300 OS システム依存操作 :string がステータス :string で失敗しました。

原因：オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27301 OS 障害が発生しました。メッセージ: string

原因：オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27302 障害が発生しました。場所: string

原因：オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27303 追加情報: *string*

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27500 内部インスタンスの IPC エラーが発生しました

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーの可能性が高いです。

処置: 追加情報を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27501 ポートの作成中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27502 シグナル・ハンドラの設定中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27504 ポートのネットワーク・アドレス問合せ中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27505 ポートの破棄中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27506 ポートへの接続中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27507 ポートの切断中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27508 メッセージの送信中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27509 メッセージの受信中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27510 要求完了待機中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27512 処理の転記中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: 返されたエラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27528 通信バッファのサイズに 0（ゼロ）を割り当てることはできません。

原因: クライアントが長さ 0（ゼロ）のメッセージを割り当てようとしています。

処置: KGXPVALO() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27529 0（ゼロ）サイズの通信バッファを割り当てることはできません

原因: クライアントが長さ 0（ゼロ）のメッセージを割り当てようとしています。

処置: KGXPVALO() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27530 NULL メモリーへのポインタの割当てを解除できません。

原因: クライアントが割当て解除で NULL ポインタを渡しています。

処置: KGXPVFRE() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27531 無効なポートを破棄できません。

原因: ポートが無効です。

処置: ポートを再作成してください。

ORA-27532 IPC グローバル・ネーム・サービスはサポートされていません。

原因: KGXP で使用されたグローバル・ネーム・サービスがサポートされていません。

処置: 別のネーム・サービスを使用するか、または現行のプロセス / スレッドを強制終了してください。

ORA-27533 無効な接続識別子を破棄しようとしてしました。

原因: 渡された接続識別子が無効です。

処置: 接続識別子を確認するか、またはプロセス / スレッドを強制終了してください。

ORA-27534 位置揃えされていないメッセージは送信できません。

原因: 送信されているメッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

処置: KGXPALSZ() マクロを使用してメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27535 最大ベクトル・メッセージ・サイズを超過しました

原因: 最大ベクトル・サイズを超えるベクトル・メッセージを送信しようとしてしました。

処置: より小さいベクトル・サイズを使用してください。

ORA-27536 マルチキャスト・メッセージが正しい境界に位置揃えされていません

原因: マルチキャスト・メッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

処置: メッセージを正しく位置揃えしてください。

ORA-27537 位置揃えされていないバッファにメッセージを受信できません。

原因: 受信のために転記されたメッセージが必要な境界で位置揃えされていません

処置: KGXPALSZ() マクロを使用してメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27538 フリー・プールに対する受入れハンドルの追加に失敗しました。

原因: フリー・プールに受入れハンドルを追加できませんでした。

処置: プロセスを終了してください。

ORA-27539 受入れハンドルのフリー・プールが空です。新規接続を受け入れられません。

原因: 受入れハンドルのフリー・プールが空です。

処置: 受入れハンドルをフリー・プールに追加してください。

ORA-27540 プロセス / スレッドにこれ以上通信チャネルを作成できません。すでに最大値です。

原因: 最大通信チャネルが、すでにこのプロセス / スレッドで使用されています。

処置: 不要な接続を破棄してください。

ORA-27541 リモート・ポートへの接続中に致命的なエラーが発生しました。

原因: リモート・アドレスが有効でないか、またはプロセスで障害が発生しました。

処置: すべての接続を破棄し、それらを再確立してください。

ORA-27542 受入れハンドルの待ち行列処理に失敗しました。

原因: OSD では、新しい着信接続要求を受け入れるために必要な記憶域の待ち行列処理を KGXP が行うことはできません。

処置: パラメータを確認し、正しい場合はプロセスを強制終了してください。

ORA-27543 未処理の要求は取り消せません。

原因: OSD は、未処理の要求を即時に取り消すことはできません。

処置: すべての接続を停止し、プロセスを強制終了してください。

ORA-27544 メモリー・マップ通信はサポートされていません。

原因: プラットフォームがメモリー通信をサポートしていません。

処置: デフォルトの送受信を使用してください。

ORA-27546 Oracle は IPC インタフェース・バージョン *string.string* に対して基盤バージョン *string.string* をコンパイルしました。

原因: 構成の誤り、またはインストール時のエラーです。

処置: この Oracle バージョン用の IPC ライブラリをインストールしてください。

ORA-27547 IPC OSD 属性 *string* を問合せできません。

原因: OS 依存 IPC エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27548 IPC バッファを準備解除できません。

原因: OS 依存 IPC エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27549 リモート更新のために準備されたバッファの更新が失敗しました。

原因: OS 依存 IPC エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27550 互換性のないリモート IPC の実装で *string string string string* が検出されました

原因: 構成の誤り、またはインストール時のエラーです。

処置: IPC ライブラリのバージョンがすべてのインスタンスで一貫していることを確認してください。

ORA-28000 アカウントがロックされています。

原因: 誤ったパスワードをプロファイル・パラメータ FAILED_LOGIN_ATTEMPTS で指定されている最大回数を超えて入力したか、またはデータベース管理者がアカウントをロックしました。

処置: PASSWORD_LOCK_TIME で指定された時間待機するか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-28001 パスワードが期限切れです。

原因: ユーザーのアカウントが期限切れであり、パスワードを変更する必要があります。

処置: パスワードを変更するか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-28002 パスワードは、*string* 日以内に期限切れになります。

原因: ユーザーのアカウントの期限切れが近いいため、パスワードを変更する必要があります。

処置: パスワードを変更するか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-28003 指定されたパスワードのパスワード照合に失敗しました。

原因: 新規パスワードが、要求される複雑度で指定されていないため、PASSWORD_VERIFY_FUNCTION が失敗しました。

処置: 別のパスワードを入力してください。新規パスワードの選択の規則をデータベース管理者に問い合わせてください。

ORA-28004 PASSWORD_VERIFY_FUNCTION*string* に指定された関数の引数が無効です。

原因: パスワード照合関数に、必要な入出力引数の数値と型または戻り引数（あるいはその両方）がありません。

処置: 『Oracle9i セキュリティ概要』を確認し、パスワード照合関数の書式を検索してください。

ORA-28005 ログオン・フラグが無効です。

原因: コールの発行でフラグが正しく設定されていないか、または競合フラグが設定されています。

処置: 適切なフラグを設定して関数をコールしてください。

ORA-28006 パラメータ *string* と *string* の値が矛盾します。

原因: パラメータ PASSWORD_REUSE_TIME と PASSWORD_REUSE_MAX の両方は設定できません。一方のパラメータが設定されているときは、もう一方のパラメータは無制限とする必要があります。

処置: 1 つの値を明示的に UNLIMITED に設定してください。

ORA-28007 パスワードは再利用できません。

原因: 指定された日数、または指定された回数だけ変更したパスワードは、再利用できません。

処置: 指定された日数、または指定されたパスワード変更回数だけ使用されていないパスワードを試行してください。CREATE PROFILE 文のパスワード・パラメータを参照してください。

ORA-28008 旧パスワードが正しくありません。

原因：指定された旧パスワードが誤りです。そのため、旧パスワードを使用してユーザーを認証できません。

処置：認証に対して正しい旧パスワードを指定してください。

ORA-28009 SYS への接続は SYSDBA または SYSOPER で行う必要があります

原因：connect sys/*password* は有効な構文ではなくなりました。

処置：connect sys/*password* as sysdba または connect sys/*password* as sysoper を試行してください。

ORA-28010 外部またはグローバル・アカウントを失効させることができません。

原因：ユーザー・アカウントが IDENTIFIED EXTERNALLY または IDENTIFIED GLOBALLY として作成されている場合は、このアカウントを失効させることはできません。

処置：データベース・パスワードを持つユーザーのパスワードを失効させてみてください。

ORA-28011 アカウントはまもなく期限切れです：ここでパスワードを変更してください

原因：ユーザーのアカウントがまもなく期限切れです。期限切れの期間は無制限です。

処置：パスワードを変更するか、DBA に連絡してください。

ORA-28020 IDENTIFIED GLOBALLY がすでに指定されています。

原因：IDENTIFIED GLOBALLY 句が 2 回指定されました。

処置：IDENTIFIED GLOBALLY 句は 1 つのみ使用してください。

ORA-28021 グローバル・ロールは付与できません。

原因：付与されたロールが IDENTIFIED GLOBALLY でした。グローバル・ロールは、ドメインの中央の認証局を介してのみ付与できます。

処置：ALTER ROLE を使用してロールのタイプを変更（IDENTIFIED GLOBALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ）するか、中央の認証局を介してグローバル・ユーザーに割り当ててください。

ORA-28022 グローバル・ユーザーまたはロールに外部ロールは付与できません。

原因：付与されたロールが IDENTIFIED EXTERNALLY でした。外部ロールは、グローバル・ユーザーまたはグローバル・ロールに付与できません。

処置：ALTER ROLE を使用して付与されたロールのタイプを変更（IDENTIFIED EXTERNALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ）するか、ALTER ROLE または ALTER USER を使用して、権限受領者であるユーザーまたはロールのタイプを変更してください。

ORA-28023 先に他のユーザーへのこのロールの付与を取り消してください。

原因：IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたロールが、1つ以上の他のユーザーまたはロール（あるいはその両方）に付与されています。グローバル・ロールは、他のユーザーまたはロールに付与できません。

処置：REVOKE を使用して、他のユーザーまたはロールからそのロールを取り消してください。

ORA-28024 このロール/ユーザーへの外部ロールの付与を取り消してください。

原因：IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたユーザーまたはロールに外部ロールが直接付与されています。外部ロールをグローバルのユーザーまたはロールに付与できないので、これらを取り消す必要があります。

処置：REVOKE を使用して、変更されるユーザーまたはロールから外部ロールを取り消してください。

ORA-28025 外部名がないか、または NULL です。

原因：IDENTIFIED EXTERNALLY AS または IDENTIFIED GLOBALLY AS 句が有効な外部名で指定されました。

処置：有効な外部名を指定してください。

ORA-28026 同じ外部名のユーザーがすでに存在します

原因：作成または変更されるユーザーに指定された外部名が、すでに他のユーザー用に存在します。

処置：外部名は他のユーザーと重複してはいけません。別の外部名を指定してください。

ORA-28027 権限データベース・リンクはグローバル・ユーザーが使用できます。

原因：グローバル・ユーザーのみが権限データベース・リンクを使用できます。

処置：ユーザーをグローバル・ユーザーに変更するか、または別のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-28028 リモート・サーバーを認証できませんでした

原因：権限データベース・リンクのオープン中に、ネットワーク・セキュリティ・サービスを使用してリモート・サーバーが安全に確認されませんでした。追加エラーが続きます。

処置：リモート・サーバーを正常に構成する方法は、ネットワーク・セキュリティ・サービスのドキュメントを参照してください。

ORA-28029 ユーザー *string* はリモート・サーバーを使用できませんでした

原因: 権限データベース・リンクのオープン中に、現行のグローバル・ユーザーとして接続するために必要な認証を持たないリモート・サーバーが見つかりました。サーバーがネットワーク・セキュリティ・サービスによって認証されていない可能性があります。または、ローカル・サーバーが DBMS_SECURITY_DOMAINS_ADMIN パッケージを使用してリモート・サーバーによるアクセスを制限している可能性があります。

処置: リモート・サーバーに正しい認証を付与して、特定のグローバル・ユーザーとして接続してください。そしてローカル・サーバーがアクセスを制限しないことを確認してください。

ORA-28030 LDAP ディレクトリ・サービスへアクセス中にサーバーに問題が発生しました。

原因: LDAP ディレクトリ・サービスにアクセスできません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-28035 認証用のセッション・キーを取得できません。

原因: クライアントおよびサーバーがログイン中に共有シークレットをネゴシエートできません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-28100 ポリシー関数スキーマ *string* が無効です。

原因: この関数に関連するポリシーがオブジェクトに追加された後、スキーマが削除されました。

処置: ポリシーを削除し、有効なユーザーが所有しているポリシー関数を使用してポリシーを再作成してください。またはユーザーを再作成し、新しいユーザーの下でポリシー関数を再作成してください。

ORA-28101 ポリシーがすでに存在します

原因: 同じオブジェクトの同じ名前のポリシーがすでに存在します。

処置: ポリシーがすでに追加されているかを確認するか、または異なるポリシーを使用してください。

ORA-28102 ポリシーが存在しません。

原因: 存在しないポリシーを削除、使用可能またはリフレッシュしようとしてしました。

処置: ポリシー名の引数を修正してください。

ORA-28103 SYS が所有するオブジェクトにポリシーは追加できません。

原因: ポリシーを SYS が所有する表またはビューに追加しようとしてしました。

処置: この操作を実行しないでください。

ORA-28104 ポリシー関数またはパッケージが無効です

原因: ポリシーを実装している関数またはパッケージが存在しないか、またはエラーを伴って作成されました。

処置: 関数またはパッケージを修正してください。

ORA-28106 引数番号 *string* の入力値が無効です

原因: 引数番号の入力値がないかまたは無効です。

処置: 入力値を修正してください。

ORA-28107 ポリシーは使用禁止です。

原因: 使用禁止のポリシーをフラッシュしようとしてしました。

処置: ポリシーが実行されることになっている場合は、使用可能にしてください。

ORA-28108 循環セキュリティ・ポリシーが検出されました。

原因: 同じオブジェクトのポリシーが互いに参照しています。

処置: ポリシーを削除してください。

ORA-28109 関連ポリシーの数が制限値 16 を超過しました

原因: 同じオブジェクトに関連するポリシーが多すぎます。

処置: 1 つ以上のポリシーを削除してください。またはポリシーのいくつかを 1 つに結合してください。

ORA-28110 ポリシー関数またはパッケージ *string.string* にエラーがあります。

原因: ポリシー関数が削除されたか、または無効です。

処置: 関数の定義を調べて、引数を修正してください。または、有効な関数を使用してポリシーを再作成してください。

ORA-28111 権限が不十分であるため、ポリシー述語を評価できません。

原因: 述語に、ポリシー関数の所有者がアクセスする権限がないオブジェクトを含む副問合せがあります。

処置: ポリシー関数所有者に適切な権限を付与してください。

ORA-28112 ポリシー関数の実行に失敗しました

原因: 実行中、ポリシー関数に 1 つ以上エラーがありました。

処置: トレース・ファイルを確認し、エラーを修正してください。

ORA-28113 ポリシー述語にエラーがあります。

原因: ポリシー関数が無効な述語を生成しました。

処置: 詳細なエラー情報はトレース・ファイルを調べてください。

ORA-28115 チェック・オプションを持つポリシーの違反です

原因: ポリシー述語が更新された値で FALSE になりました。

処置: トレース・ファイルを確認し、エラーを修正してください。

ORA-28116 ダイレクト・パス・アクセスを行うには権限が不十分です。

原因: 権限が不十分なユーザーがファイングレイン・アクセス・コントロール・ポリシーを使用して表のダイレクト・パス・アクセスを行おうとしています。

処置: この操作の実施をデータベース管理者に依頼してください。エクスポート、インポートまたはロード時にポリシーを一時的に削除または使用不可にするために、ユーザーがセキュリティ管理者とともに作業できます。ただし、セキュリティと密接に関係するので、データベースのアクセスは十分注意して制御してください。

ORA-28117 整合性制約で違反がありました - 親レコードが見つかりません

原因: 子レコードを新しい外部キー値で更新 / 挿入しようとしたが、親のファイングレイン・セキュリティのために、対応する親である行が参照できません。

処置: 更新された外部キー値が、親で参照できることを確認してください。

ORA-28118 ポリシー・グループはすでに存在します。

原因: すでに存在するポリシー・グループを作成しようとした。

ORA-28119 ポリシー・グループが存在しません。

原因: 存在しないポリシー・グループを削除しようとした。

ORA-28120 駆動コンテキストはすでに存在します。

原因: すでに存在する駆動コンテキストを作成しようとした。

ORA-28121 駆動コンテキストが存在しません。

原因: 存在しない駆動コンテキストを削除しようとした。

ORA-28132 MERGE INTO 構文ではセキュリティ・ポリシーをサポートしていません

原因: MERGE INTO 構文は、現在、宛先表のセキュリティ・ポリシーをサポートしていません。

処置: セキュリティ・ポリシーが定義されている表で、DML 文 INSERT/UPDATE を使用してください。

ORA-28133 full table access is restricted by fine-grained security

原因: ユーザーが SYS ではなく、VPD ポリシーに基づく表への完全なアクセス権限を持っていません。このエラーは、内部 DML または DDL に基づく問合せのみで発生します。

処置: 適切な権限を付与してください。この制限が過剰である場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28150 プロキシではクライアントとしての接続は許可されません。

原因: プロキシ・ユーザーがクライアントとして接続しようとしたが、プロキシに、クライアント・プロキシとして動作する権限がありません。

処置: ALTER USER...GRANT CONNECT コマンドを使用して、クライアントのプロキシとして動作する権限を付与してください。

ORA-28151 コマンドに複数のユーザー名が指定されました。

原因: 2 つ以上のユーザー名が ALTER USER コマンドに指定されました。

処置: 1 つのみのユーザー名でコマンドを再実行してください。

ORA-28152 プロキシ・ユーザー '*string*' は初期ロール '*string*' をクライアント '*string*' のために指定できません。

原因: プロキシ・ユーザーが初期ロールをクライアントに指定しようとしたが、クライアントにはロールがありません。

処置: ロールを指定ないようにプロキシ・ユーザーを変更するか、またはロールをクライアントに付与してください。

ORA-28153 無効なクライアント初期ロールが指定されました: '*string*'

原因: クライアントのプロキシとして接続するときに有効となる初期ロールとしてプロキシ・ユーザーが指定したロールは無効です。

処置: 有効なロールを指定するクライアントとして再接続してください。

ORA-28154 プロキシ・ユーザーはクライアント '*string*' として動作できません。

原因: プロキシ・ユーザーが持つことのできる権限を制限するために、プロキシ・ユーザーが権限のあるユーザーを認証することはできません。

処置: 文を再実行し、権限のあるユーザー以外のクライアントを指定してください。

ORA-28155 プロキシとして指定されたユーザー '*string*' は、実際はロールです。

原因: AUDIT *operation* BY *proxy* ON BEHALF OF *client* によって指定されたユーザーは、実際はロールです。

処置: 有効なプロキシ・ユーザーを使用して文を再実行してください。

ORA-28156 プロキシ・ユーザー '*string*' は、ロール '*string*' の設定ができません (クライアント '*string*')

原因: プロキシ・ユーザーにはクライアントのプロキシとしてロールを使用する権利は許可されていません。

処置: ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH PROXY コマンドを実行して、必要なロールを付与してください。

ORA-28157 プロキシ・ユーザー '*string*' は、ロール '*string*' の設定を禁止されています (クライアント '*string*')

原因: プロキシ・ユーザーは、ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH *proxy* WITH ALL ROLES EXCEPT *role* コマンドによってクライアントのプロキシとしてロールを使用することは禁止されています。

処置: ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH PROXY コマンドを実行して、必要なロールを付与してください。

ORA-28158 ALL キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28159 BEHALF キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28160 EXCEPT キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28161 ROLES キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28162 THROUGH キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28163 GRANT はすでに指定されています

原因: GRANT 句が 2 回指定されました。

処置: GRAND 句を 1 回のみ使用してください。

ORA-28164 REVOKE はすでに指定されています

原因: REVOKE 句が 2 回指定されました。

処置: REVOKE 句を 1 回のみ使用してください。

ORA-28165 プロキシ'*string*' は、パスワードで保護されたロール'*string*'を指定できません (クライアント'*string*').

原因: プロキシ・ユーザーが、関連するパスワードを持つクライアントのためのロールをアクティブにしようとした。プロキシはパスワードを持たないので、ロールをアクティブにできません。

処置: 異なるロールをアクティブにするか、またはパスワードが必要ないようにロールを管理上の問題がないように変更してください。

ORA-28166 リストのロール名が重複しています

原因: ロール名がリストに 2 回以上指定されました。

処置: ロール名を 1 回のみ指定してコマンドを再実行してください。

ORA-28168 パスワードで保護されているロールに権限を付与しようとした。

原因: ALTER USER ...GRANT CONNECT コマンドが、パスワードで保護されているロールを、プロキシがクライアントのために実行するロールとして指定しようとした。

処置: パスワードを持たないロールを指定するか、またはパスワードが必要ないようにロールを変更してください。

ORA-28169 認証の型がサポートされていません。

原因: サーバーがクライアントの資格証明を抽出するための認証の型が、サポートされていません。

処置: サポートされている型を指定してください。

ORA-28170 認証のバージョンがサポートされていません。

原因: サーバーがクライアントの資格証明を抽出するための認証のバージョンが、サポートされていません。

処置: サポートされているバージョンを指定してください。

ORA-28171 Kerberos のバージョンがサポートされていません。

原因: サーバーがクライアントの認証を検証するために使用する Kerberos チケットのバージョンが、サポートされていません。

処置: サポートされているバージョンを指定してください。

ORA-28172 識別名がプロキシから提供されませんでした

原因: クライアント・ユーザーは、識別名を使用して識別されますが、プロキシ・ユーザーから何も指定されませんでした。

処置: 識別名を指定してください。

ORA-28173 認証がプロキシから提供されませんでした

原因: クライアント・ユーザーは、認証を使用して識別されますが、プロキシ・ユーザーから何も指定されませんでした。

処置: 認証を指定してください。

ORA-28174 Kerberos チケットがプロキシから提供されませんでした

原因: クライアント・ユーザーは、Kerberos チケットを使用して認証されますが、プロキシ・ユーザーから何も指定されませんでした。

処置: Kerberos チケットを指定してください。

ORA-28175 認証タイプが正しくありません

原因: クライアント・ユーザーの識別のために、プロキシ・ユーザーから指定された証明書のタイプが、必要なタイプと一致しません。

処置: 正しいタイプの証明書を指定してください。

ORA-28176 認証バージョンが正しくありません

原因: クライアント・ユーザーの識別のために、プロキシ・ユーザーから指定された証明書のバージョンが、必要なバージョンと一致しません。

処置: 正しいバージョンの証明書を指定してください。

ORA-28177 Kerberos チケット・バージョンが正しくありません

原因: クライアント・ユーザーの認証のために、プロキシ・ユーザーから指定された Kerberos チケットのバージョンが、必要なバージョンと一致しません。

処置: 正しいバージョンの Kerberos チケットを指定してください。

ORA-28178 パスワードがプロキシから提供されませんでした

原因: クライアント・ユーザーは、データベース・パスワードを使用して認証されますが、プロキシ・ユーザーから何も指定されませんでした。

処置: パスワードを指定してください。

ORA-28179 クライアント・ユーザー名がプロキシから提供されませんでした

原因: プロキシ・ユーザーから、クライアント・ユーザーのユーザー名が指定されませんでした。

処置: クライアントのデータベース・ユーザー名、識別名または X.509 認証のいずれかを指定してください。

ORA-28180 複数の認証メソッドがプロキシから提供されました

原因: プロキシ・ユーザーからクライアント・ユーザーに対して、1 つ以上の認証メソッドが指定されました。

処置: 次のいずれか 1 つを指定してください。

- クライアントのデータベース・ユーザー名
- 識別名
- X.509 認証

ORA-28200 IDENTIFIED USING がすでに指定されています。

原因: IDENTIFIED USING 句が 2 回指定されました。

処置: IDENTIFIED USING 句を 1 回のみ使用してください。

ORA-28201 アプリケーション・ロール '*string*' を使用可能にするための十分な権限がありません。

原因: 指定されたパッケージの有効範囲外で、アプリケーション・ロールを使用可能にしようとしてしました。

処置: 直接、ロールを使用可能にするか、または指定されたパッケージを使用して間接的にロールを使用可能にしてください。

ORA-28231 dbms_obfuscation_toolkit にデータが渡されていません

原因: ファンクションまたはプロシージャに、NULL 値が渡されました。

処置: 渡されたデータが空ではないことを確認してください。

ORA-28232 dbms_obfuscation_toolkit にデータが渡されていません

原因: 暗号化または復号化のために発行されたデータの長さが、8 バイトの倍数ではありません。

処置: 暗号化または復号化されるデータの長さが、8 バイトの倍数であることを確認してください。

ORA-28233 二重暗号化はサポートされません。

原因: dbms_obfuscation_toolkit は、すでに暗号化されたデータの暗号化をサポートしていません。

処置:すでに暗号化されたデータを暗号化しないでください。

ORA-28234 キーの長さが短すぎます。

原因: 指定されたキーが、アルゴリズムに対して短すぎます。DES には、8 バイト以上のキーが必要です。三重 DES では、2 キー・モードで 16 バイト以上、3 キー・モードで 24 バイト以上のキーが必要です。

処置: より長いキーを指定してください。

ORA-28235 アルゴリズムが使用不可能です

原因：必要な暗号化アルゴリズムが使用不可能です。

処置：インストーラを実行し、Oracle Advanced Security に必要なアルゴリズムをインストールしてください。

ORA-28236 三重 DES モードが無効です。

原因：三重 DES 暗号化を実行するモードに対して、不明な値が指定されました。

処置：有効な値を指定してください。有効な値のリストについては、パッケージ宣言を参照してください。

ORA-28237 シード長が短すぎます

原因：キー生成ルーチンで指定されたシードは、80 文字以上である必要があります。

処置：より長いシードを指定してください。

ORA-28238 シードが提供されませんでした

原因：キー生成で使用するシードに、NULL 値が渡されました。

処置：シードに、NULL でない値を指定してください。

ORA-28239 キーが提供されませんでした

原因：暗号化または復号化キーに、NULL 値が渡されました。

処置：キーに、NULL でない値を指定してください。

ORA-28261 CURRENT_USER は PLSQL 定義者権限のプロシージャを使用できません。

原因：SYS_CONTEXT PLSQL インタフェースを使用して、CURRENT_USER を検索しようとした。

処置：SQL 文を使用して、DR プロシージャ内の CURRENT_USER を問い合わせてください。

ORA-28262 global_context_pool_size には無効な値. があります。

原因：初期化パラメータ GLOBAL_CONTEXT_POOL_SIZE が、必要な最小値（10KB）未満です。

処置：初期化パラメータ GLOBAL_CONTEXT_POOL_SIZE に 10KB 以上の値を指定してください。

ORA-28263 グローバル・コンテキスト・プールのメモリーが足りません

原因: グローバル・コンテキスト・ヒープに対する割当てが、初期化パラメータに設定された値を超えました。

処置: GLOBAL_CONTEXT_POOL_SIZE 初期化パラメータの値を増やすか、または、使用されていないグローバル・コンテキストを消去してください。

ORA-28264 クライアント識別子が長すぎます。

原因: クライアント識別子の長さが、64 を超えています。

処置: クライアント識別子に、64 未満の長さを設定してください。

ORA-28265 'sys_' で始まるネームスペースは使用できません

原因: 'sys_' で始まるネームスペースは、使用できません。

処置: 'sys_' で始まるネームスペースを使用しないでください。

ORA-28270 不完全な形式のユーザー・ニックネームのパスワードでグローバル・ユーザーが認証されました。

原因: 不完全な形式のユーザー・ニックネームで、パスワード認証のグローバル・ユーザーとしてログインしようとした。

処置: ニックネームが有効であることを確認し、再度ログインしてください。

ORA-28271 LDAP ディレクトリ・サービスのユーザー・エントリを読み込む権限がありません。

原因: Oracle Server は、ユーザー・ニックネーム X.500 のユーザー・エントリに対する読み取り権限がありません。

処置: Oracle Server が、正しい SSL 資格証明を使用して LDAP ディレクトリ・サービスに接続していることを確認してください。LDAP ユーザー・エントリに対する権限が正しいことを確認してください。

ORA-28272 ドメイン・ポリシーがパスワード・ベースの GLOBAL ユーザー認証を制限します。

原因: ドメイン・ポリシーは、パスワード認証の GLOBAL ユーザーを許可していません。

処置: Oracle Server が、正しい SSL 資格証明を使用して LDAP ディレクトリ・サービスに接続していることを確認してください。Oracle エンタープライズ・ドメイン・オブジェクトの orclDBAuthTypes 属性に、PWD または ALL が設定されていることを確認してください。

ORA-28273 LDAP 識別名へのユーザー・ニックネームのマッピングが存在しません。

原因: Oracle Server は、指定されたユーザー・ニックネームを、LDAP 識別名にマップできません。

処置: LDAP のユーザー・エントリに、正しいユーザー・ニックネーム属性値が、適切に設定されていることを確認してください。

ORA-28274 ユーザー・ニックネームに対応する ORACLE パスワード属性が存在しません。

原因: ユーザー・ニックネームに対応する LDAP ユーザー・エントリに、Oracle パスワード属性がないか、または属性が初期化されていません。

処置: LDAP のユーザー・エントリに、正しい Oracle パスワード属性値が、適切に設定されていることを確認してください。

ORA-28275 LDAP 識別名へのユーザー・ニックネームのマッピングが複数存在します。

原因: 指定されたユーザー・ニックネームが、2 つ以上の LDAP 識別名にマップされています。

処置: エンタープライズ内のユーザー・ニックネームが一意であることを確認してください。

ORA-28276 ORACLE パスワード属性が無効です。

原因: ユーザー・エントリの ORACLE パスワード属性のフォーマットが無効です。

処置: ORACLE パスワード属性値が RFC-2307 準拠であることを確認してください。

ORA-28277 グローバル・ユーザーのパスワードでの認証中に、LDAP 検索が失敗しました。

原因: 適切なユーザー・エントリおよび ORACLE パスワードの LDAP 検索が失敗しました。

処置: LDAP ディレクトリ・サービスが起動し、実行されていることを確認してください。

ORA-28278 パスワード・ベースの GLOBAL ユーザーのためのドメイン・ポリシーが登録されていません。

原因: パスワード認証の GLOBAL ユーザーのためのポリシーが登録されていません。

処置: データベース・サーバーのエンタープライズ・ドメインに、orclDBAuthTypes 属性を追加してください。

ORA-28279 INIT.ORA の rdbms_server_dn パラメータの読み込みでエラーが発生しました。

原因: 初期化パラメータ RDBMS_SERVER_DN が、正しく指定されていません（正規化できません）。

処置: RDBMS_SERVER_DN 初期化パラメータに正しい値が設定されていることを確認してください。

ORA-28280 ORACLE データベース・パスワードに複数のエントリが存在します。

原因: ユーザー・エントリの ORACLE パスワード属性に、複数の ORACLE データベース・パスワードのエントリがあります。

処置: ORACLE パスワード属性値に、ORACLE データベース・パスワードが 1 つのみエントリされていることを確認してください。

ORA-28500 Oracle から非 Oracle システムへの接続で次のメッセージが返されました:

原因: 原因は次のメッセージで説明されます。

処置: 次のメッセージについては、非 Oracle システムのドキュメントを参照してください。

ORA-28501 異機種間データベース・リンクで通信エラーが発生しました。

原因: 予期しない通信障害が、非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクで発生しました。このメッセージの後に、接続された非 Oracle システムで生成された 2 番目のメッセージが続きます。

処置: 2 番目のエラー・メッセージの説明は、非 Oracle システムのドキュメントを参照してください。

ORA-28502 異機種間データベース・リンクで内部通信エラーが発生しました。

原因: Oracle の異機種間サービスへの内部通信エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28503 バインド値を非 Oracle システム用の SQL テキストに変換できません

原因: SQL 文が非 Oracle システムへの異機種間サービス・データベース・リンクのバインド変数を使用しましたが、非 Oracle システムはバインド変数をサポートしていません。

処置: バインド変数を使用しないように、SQL 文を変更してください。

ORA-28504 異機種間データベース・リンクの ROWID キャッシュで ROWID が見つかりません。

原因: 異機種間サービスの ROWID キャッシュが指定された ROWID に対応する項目を 1 つも保持していません。ROWID キャッシュの ROWID に対する項目が上書きされた可能性があります。

処置: サーバー・データ・ディクショナリの初期化パラメータ ROWID_CACHE_SIZE の値を PL/SQL パッケージ DBMS_HS を使用して増やし、異機種間サービスの ROWID キャッシュ・サイズを大きくしてください。

ORA-28505 *string* から非 Oracle システムの機能を取得できません

原因: Oracle は、異機種間データベース・リンクを介して接続された非 Oracle システムの機能情報を取り出すことができませんでした。この機能情報は、HS_CLASS_CAPS または HS_INST_CAPS データ・ディクショナリ・ビューで表示できるデータ・ディクショナリ表に格納されているはずです。

処置: データベース管理者に連絡して、エラー・メッセージで表示されたサーバー・データ・ディクショナリ表を確認してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を開始すれば十分です。

ORA-28506 *string* (*string* に保存) に対するデータ・ディクショナリの変換で解析エラーが発生しました。

原因: Oracle データ・ディクショナリ表への参照または非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクのビュー名が変換できませんでした。ビュー HS_CLASS_DD を使用して表示される Oracle データ・ディクショナリ表にデータ・ディクショナリ変換に対して無効な SQL があります。

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28507 データ・ディクショナリ・ビュー *string* でエラーが発生しました。

原因: 異機種間サービスの初期化パラメータ表が使用不可能か、またはその構造体 (列数または列型) が正しくありません。

処置: 異機種間サービスの初期化パラメータのビューのインストールが正しいことを確認してください。これらのビューが使用可能でない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内のスクリプト CATHS.SQL を実行したことを確認してください。

ORA-28508 無効な値 *string* が異機種間サービス初期化パラメータ *string* に指定されています。

原因: 非 Oracle システムへ接続しようとしたときに、指定された異機種間サービス初期化パラメータに無効な値がありました。

処置: 異機種間サービスのドキュメントを確認して有効な値を判別し、DBMS_HS パッケージ内の PL/SQL プロシージャを使用して HS_INST_INIT 内のパラメータを更新してください。

ORA-28509 非 Oracle システムへの接続を確立できません。

原因：非 Oracle システムへのデータベース・リンクの初期化で、この非 Oracle システムの異機種間サービス・エージェント・プロセスへの接続が失敗しました。

処置：次の箇所ですべて Oracle Net サービス名定義を確認してください。

- CREATE DATABASE LINK 文の USING 句
- TNSNAMES.ORA ファイル
- Oracle Names Server

サービス名の不一致の理由として次のことが考えられます。

- CREATE DATABASE LINK 文の USING 句は、TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server で定義されるサービス名と一致している必要がある。
- サービス名定義のプロトコル固有の情報は、応答するリスナーのプロトコル固有定義と一致している必要がある。
- サービス名定義（TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server にある）の SID= 名前が、応答するリスナーの LISTENER.ORA ファイルの値と一致している必要がある。

ORA-28510 異機種間データベース・リンクの初期化に失敗しました。

原因：非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクの初期化が、この非 Oracle システムのエージェントによって識別されたエラーにより失敗しました。

処置：非 Oracle システムが稼働しており、エージェントの環境および初期化の値すべてが正常に設定されていることを確認してください。

ORA-28511 SID=*string* を使用する異機種間リモート・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因：次の 1 つで致命的エラーが発生しました。

- Oracle Server とエージェント間の接続
- 異機種間サービスのリモート・エージェント自体
- 非 Oracle システムへの接続

このエラーは通信が正常に確立した後発生しました。

処置：ネットワークの問題とリモート・ホストのクラッシュを確認してください。問題は、エージェントのソフトウェアにある可能性があります。エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28512 *string* からデータ・ディクショナリ変換を取得できません。

原因: Oracle は、異機種間データベース・リンクを介して接続された非 Oracle システムのデータ・ディクショナリ変換情報を取り出すことができませんでした。このデータ・ディクショナリ変換情報は、HS_CLASS_DD または HS_INST_DD データ・ディクショナリ・ビューで表示できるデータ・ディクショナリ表に格納されています。

処置: エラー・メッセージで表示されたサーバー・データ・ディクショナリ表の確認をデータベース管理者に依頼してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を開始すれば十分です。

ORA-28513 異機種間リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

原因: 異機種間データベース・リンクをサポートしている Oracle リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

処置: エラーがどのように生成されたかを記録し、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28514 異機種間データベース・リンクの初期化でシステム日付を変換できませんでした。

原因: システム日付を取得できませんでした。

処置: Oracle Server のホスト・マシンおよびオペレーティング・システムが操作可能であることを確認してください。低レベルのシステム関数が失敗しなければ、このエラーは発生しません。

ORA-28515 *string* から外部オブジェクト定義を取得できません。

原因: Oracle は、分散外部プロシージャまたは非 Oracle システムのインスタンスに登録されたリモート・ライブラリの定義を取り出すことができませんでした。おそらく基本データ・ディクショナリ表が存在しないか、変形しているためです。

処置: Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-28518 データ・ディクショナリ変換に不正な変換タイプがあります。

原因: Oracle Server のデータ・ディクショナリまたは異機種間サービス・エージェントからアップロードされたデータ・ディクショナリの内容での、データ・ディクショナリ変換定義が不正な変換タイプ・コードを指定しました。有効な値は、'T' または 't' が '変換' のため、'M' または 'm' が '模擬' のためです。エラー元の正確なデータ・ディクショナリ変換に関する情報は、Oracle インスタンスのトレース (.TRC) ファイルおよび Oracle インスタンスのアラート・ログに書き込まれています。このエラーは、異機種間サービス・エージェントがデータ・ディクショナリの内容を、サーバーからエージェントへの最初の接続で Oracle Server へアップロードしているときに発生します。

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28519 使用可能な異機種間データ・ディクショナリ変換がありません。

原因: Oracle Server のデータ・ディクショナリが、接続された非 Oracle システムのデータ・ディクショナリ変換を定義していません。また、自動自己登録 (データ・ディクショナリ・アップロード) が使用可能ではありません。

処置: この問題の解決は、データベース管理者に依頼してください。一番簡単に解決するには、Oracle Server の HS_AUTO_REGISTER 初期化パラメータを TRUE に設定して自動自己登録を使用可能にしてください。もう 1 つの解決方法は、エージェント・ベンダーが提供する SQL スクリプトを実行して異機種間サービスのデータ・ディクショナリを非 Oracle システム固有の情報にロードすることです。スクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28520 異機種間データ・ディクショナリ変換の初期化中にエラーが発生しました

原因: Oracle が、非 Oracle システムのインスタンスに対してデータ・ディクショナリ変換を取り出すことができませんでした。基礎となるデータ・ディクショナリ表が存在しないか、正しい形式でない可能性があります。

処置: Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。FDS_CLASS_NAME で指定されている接続されたエージェントが Oracle Server のカスタム・インストール・スクリプトを必要とする場合は、スクリプトが実行されていることを確認してください。両方のスクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28521 使用可能な異機種間機能情報がありません。

原因：Oracle Server のデータ・ディクショナリに、接続された非 Oracle システムの機能定義がありません。また、自動自己登録（データ・ディクショナリ・アップロード）が使用可能ではありません。

処置：この問題の解決は、データベース管理者に依頼してください。一番簡単に解決するには、Oracle Server の HS_AUTO_REGISTER 初期化パラメータを TRUE に設定して自動自己登録を使用可能にしてください。もう 1 つの解決方法は、エージェント・ベンダーが提供する SQL スクリプトを実行して異機種間サービスのデータ・ディクショナリを非 Oracle システム固有の情報にロードすることです。スクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28522 異機種間機能の初期化中にエラーが発生しました

原因：Oracle が、非 Oracle システムのインスタンスに対して機能定義を取り出すことができませんでした。基礎となるデータ・ディクショナリ表が存在しないか、正しい形式でない可能性があります。

処置：Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。FDS_CLASS_NAME で指定されている接続されたエージェントが Oracle Server のカスタム・インストール・スクリプトを必要とする場合は、スクリプトが実行されていることを確認してください。両方のスクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28523 Oracle と異機種間エージェントのバージョンに互換性がありません。

原因：データベース・リンクでの操作が非 Oracle システムに接続しようとしたが、非 Oracle システムの Oracle インスタンスとエージェント・プロセスに互換性がありません。

処置：データベース管理者に、Oracle インスタンスとエージェントの両方の構成を確認してもらってください。バージョンの非互換性の詳細は、Oracle インスタンスとエージェントのトレース (*.TRC) ファイルおよび Oracle インスタンスのアラート・ログにロギングされています。Oracle Server のどのリリースがサポートされているかをエージェントのドキュメントで確認してください。

ORA-28525 異機種間サービスのエラー・メッセージ・テキストを作成できません。

原因：不正な引数がエラー・メッセージ作成ルーチンに渡されました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28526 無効な記述情報が異機種間サービスに返されました

原因: 異機種間サービスが、異機種間サービス・エージェントから SELECT リスト、結合リストまたは格納プロシージャに対して無効な記述情報を受け取りました。これは、異機種間サービスの非 Oracle システム・エージェントに問題があることを示しています。

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28527 異機種間サービス・データ型のマップ中にエラーが発生しました。

原因: Oracle データ型を、非 Oracle データ型上でマップすることができなかったか、または非 Oracle データ型を、Oracle データ型にマップできませんでした。これらのマッピングは、Oracle Server のデータ・ディクショナリの機能定義として定義されています。

処置: Oracle Server のデータ・ディクショナリが、接続された FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の正しい機能定義を使用して初期化されていることを確認してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を開始すれば十分です。エラーが繰り返される場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28528 異機種間サービス・データ型の変換中にエラーが発生しました。

原因: Oracle データ型を非 Oracle データ型に変換できなかったか、または非 Oracle データ型を Oracle データ型に変換できませんでした。変換の失敗の理由として次のことが考えられます

- オーバーフロー問題 (数値の場合)
- 長さ制限 (文字列の場合)
- 変換ルーチンに渡された無効な値

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。問題が Oracle と非 Oracle システム間のサイズの相違によるものである場合は、値の変換ができない可能性があります。

ORA-28529 Net8 サービス名定義のパラメータがないか、または無効です。

原因: TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server のいずれかに格納されている Net8 サービス名定義内の異機種間サービス・パラメータが無効か、またはパラメータがありません。

処置: データベース管理者に依頼して、Net8 サービス定義が正しく完全であることを確認してください。Net8 サービス定義に組み込まれる正しい情報は、エージェントのドキュメントに記載されています。

ORA-28530 NLS 言語 ID で異機種間サービス初期化エラーが発生しました。

原因：異機種間サービスは、NLS 言語 ID を初期化できません。Oracle Server および接続された非 Oracle システムの異機種間サービス・エージェントの両方に言語 ID がある必要があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28533 異機種間サービスの強制ハンドル・エラーが発生しました

原因：異機種間サービスの強制ハンドルでエラーが発生しました。エージェントの機能によっては、異機種間サービスは暗黙的な強制を含む SQL 文や、TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE などの強制関数を含む SQL 文について追加の処理を行う場合があります。この機能は、強制に関する機能が制御しています。これらの機能定義の 1 つでエラーが発生した場合に、異機種間サービスのロジックがこのエラーをレポートします。

処置：機能表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、データベース管理者が変更します。データベース管理者とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28534 異機種間サービスの前処理エラーが発生しました

原因：異機種間サービスが実行できる機能の 1 つとして、暗黙的な強制を含む SQL 文の一部、または TO_CHAR、TO_NUMBER や TO_DATE のような明示的な強制関数をコールする SQL 文の一部を前処理する機能があります。たとえば、TO_DATE へのコールをバインド変数に変換したり、TO_DATE 関数コールを前評価して、結果の値をバインド値として Oracle 以外のシステムに渡すことができます。この動作は強制に関係のある機能が制御しています。機能の設定が誤っていた場合、前処理を行おうとすると異機種間サービスはエラーが発生します。その場合、エラーが通知されます。

処置：機能表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、データベース管理者が変更します。データベース管理者とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28535 異機種間サービス・コンテキストが無効です

原因：異機種間サービス・エージェントのドライバ・モジュールが、無効な異機種間サービス・コンテキスト値を使用して異機種間サービス・ルーチンをコールしました。これはドライバの論理エラーである可能性があります。

処置：エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28536 異機種間サービス初期化パラメータの処理時にエラーが発生しました。

原因：後続のエラー・メッセージが示すエラーのため、Oracle Server のデータ・ディクショナリからの異機種間サービス初期化パラメータの処理に失敗しました。

処置：サーバー・データ・ディクショナリ・ビュー HS_CLASS_INIT、HS_INST_INIT および HS_ALL_INITS を確認してください。後述のエラー・メッセージで示されるエラーが発生した状態を調べてください。

ORA-28538 結果セットが見つかりません

原因: クライアント・プログラムが、オープンされていない結果セットからフェッチしようとした。ストアド・プロシージャの実行では、多数のゲートウェイが、以前実行したストアド・プロシージャから返されたすべての結果セットを自動的にクローズします。

処置: 使用しているゲートウェイについてドキュメントを確認し、ストアド・プロシージャが実行されるたびに、現在オープンしている結果セットが自動的にクローズされる場合について調べてください。その後、クライアント・プログラムがこのルールに違反していないかどうかを確認してください。プログラムが違反している場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28539 ゲートウェイでは結果セットをサポートしません

原因: クライアント・プログラムが、結果セットをサポートしていないゲートウェイを介して、1 つ以上の結果セットを返すストアド・プロシージャを実行しようとした。

処置: 使用しているゲートウェイについてドキュメントを確認し、ストアド・プロシージャから返される結果セットをサポートしているかどうかを調べてください。サポートしていない場合、そのストアド・プロシージャにアクセスするには、ゲートウェイのバージョンを、結果セットをサポートしているバージョン（存在する場合）にアップグレードしてください。結果セットをサポートしているゲートウェイで、このエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28541 HS init ファイルの行 *number* のエラー。

原因: ゲートウェイの初期化ファイルで、構文エラーが発生しました。

処置: ゲートウェイの初期化ファイルを確認し、構文エラーを修正してください。詳細は、ゲートウェイのトレース・ファイルにあるエラー・メッセージを確認してください。

ORA-28542 HS init ファイルの読み込みに関するエラー

原因: ゲートウェイの初期化ファイルの読み込みで、エラーが発生しました。

処置: ゲートウェイの初期化ファイル名を確認し、ゲートウェイの初期化ファイルが実際に存在しているかどうかを調べてください。初期化ファイルのパラメータを確認し、ファイルの正しい位置を指しているかどうかを調べてください。

ORA-28550 パススルー SQL: カーソルが見つかりません。

原因: パススルー SQL 関数に渡された値またはカーソルとしてのプロシージャ・コールが、現在のオープン・カーソルを認識できませんでした。

処置: パススルー SQL OPEN_CURSOR コールで戻されたカーソル番号を使用してください。

ORA-28551 パススルー SQL: SQL 解析エラーが発生しました。

原因: 非 Oracle システムがパススルー SQL 文として指定されたテキストを拒否しました。

処置: パススルー SQL 解析コールに指定された SQL が、非 Oracle システムに受け入れられていることを確認してください。

ORA-28552 パススルー SQL: コール・フロー・エラーが発生しました。

原因: パススルー SQL 関数が無効な順序でコールされました。

処置: API コールの順序を変更して、マニュアルに記載されているフローと一致するようにプログラムを修正してください。

ORA-28553 パススルー SQL: バインド変数の位置が正しくありません。

原因: 現行の解析 SQL 文のバインド変数の位置を参照しているパススルー SQL 関数が、無効なバインド変数の位置を指定しました。有効な値は 1 ～ n です。この場合、n は SQL テキストでバインド変数のプレース・ホルダーの数です。

処置: バインド変数の位置パラメータが、SQL テキストのプレース・ホルダーを表す正しい範囲にあることを確認してください。SQL テキストが、非 Oracle システムが必要とするバインド変数のプレース・ホルダーの正しい構文を使用していることを確認してください。

ORA-28554 パススルー SQL: カーソル数が範囲外です。

原因: オープン・カーソルの最大数を超過しました。

処置: パススルー SQL CLOSE_CURSOR 関数を使用してオープン・カーソルをクローズしてください。

ORA-28555 パススルー SQL: 必須パラメータがないか、または NULL です。

原因: NULL でないパラメータへ NULL 値が渡されようとしていました。

処置: パラメータに NULL でない値を使用してください。

ORA-28556 認証が不十分で表にアクセスできません。

原因: 問合せが、権限または権限列を持つ非 Oracle システムの表にアクセスしようとしていました。

処置: 非 Oracle システムのデータベース管理者に連絡してください。データベース管理者は、権限表または列へのアクセス権限を付与することができます。

ORA-28557 非 Oracle システムへのデータベース・リンクで *string* が不明です

原因: 異機種間サービス・データベース・リンクを介して非 Oracle システムへ接続しようとしたとき、この非 Oracle システムをサポートしているエージェントから FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) が戻りませんでした。Oracle では、これらの名前で異機種間データベース・リンクが構成される必要があります。

処置: データベース管理者に連絡して、接続の設定と異機種間サービスのエージェントを確認してください。

ORA-28558 非 Oracle システムに対する HS_FDS_CONNECT_STRING が未定義です

原因: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクには、Oracle Server のデータ・ディクショナリ内に異機種間サービスに対する HS_FDS_CONNECT_STRING 初期化パラメータが必要です。このパラメータがないため、接続は完了できませんでした。

処置: データベース管理者に連絡して、Oracle の異機種間サービス・データ・ディクショナリにある HS_FDS_CONNECT_STRING エントリの正確な設定を確認してください (『Oracle9i データベース・リファレンス』の HS_INST_INITS ビューを参照してください)。SYS.DBMS_HS パッケージの PL/SQL プロシージャを使用して、FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の接続のためのエントリを作成または置換する必要がある場合があります。

ORA-28559 FDS_CLASS_NAME は *string*、FDS_INST_NAME は *string* です。

原因: 関連するエラーが別のメッセージで表示されます。また、このメッセージには補足情報が提供され、別のメッセージでレポートされたエラーの診断に役立ちます。FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME を使用して、Oracle データ・ディクショナリの表やビューの情報にアクセスし、データベース・リンク上の異機種間サービスの操作を非 Oracle データ・ストアに指示してください。

処置: FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の値を使用して、Oracle データ・ディクショナリの内容を確認し、対応付けられたエラーの原因を診断してください。

ORA-28560 エージェント・プロセスの構成でエラーが発生しました。

原因: Oracle Server が、接続されたエージェント (異機種間サービスまたは内部プロシージャ) がサポートしていない関数を起動しました。その原因として、Oracle Net の設定が正しくなかったために不正なエージェントを使用した可能性があります。

処置: Oracle Net 管理を次の方法で確認してください。

- TNSNAMES.ORA または Oracle Names Server を使用しているとき、Oracle Server からの接続が正しい SID を使用していることを確認してください。
- エージェントのホスト・マシン上の LISTENER.ORA を調べて、この SID がその (PROGRAM=...) 句で実行可能な正しいエージェントを参照していることを確認してください。

ORA-28561 非 Oracle システムに日付書式を設定できません

原因: 接続している非 Oracle システムで使用する日付書式を設定するために、異機種間サービス接続が初期化されました。

処置: Oracle データ・ディクショナリによって HS_NLS_DATE_FORMAT パラメータの値が適用される場合は、この値が非 Oracle システムの規則に従って正しくフォーマットされているかを確認してください。また、異機種間サービス・エージェントによって生成されるログまたはトレース・ファイルのその他の情報も確認してください。

ORA-28575 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続をオープンできません。

原因: 外部プロシージャ・エージェントへのネットワーク接続の初期化に失敗しました。ネットワークの問題、不正なリスナー構成、または不正な転送コードが原因の可能性あります。

処置: LISTENER.ORA および TNSNAMES.ORA のリスナー構成、または Oracle Names Server を確認してください。

ORA-28576 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因: 通信が正常に確立された後で、RPC ネットワーク接続、外部プロシージャ・エージェント、または起動された 3GL で致命的エラーが発生しました。

処置: 最初に、起動する 3GL コードを確認してください。このエラーは、起動していた C ルーチンの異常終了の可能性が高いです。そうでない場合は、ネットワークの問題を確認してください。問題が見つかったら修正してください。すべてのコンポーネントが正しいように見え、問題が解決しない場合は、転送コードの内部論理エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28577 引数 *string* (外部プロシージャ *string*) はデータ型 *string* をサポートしていません。

原因: エージェントへの外部プロシージャ引数の転送時に、サポートされていないデータ型が検出されました。

処置: 外部プロシージャ引数としてサポートされているデータ型をドキュメントで確認してください。

ORA-28578 外部プロシージャからのコールバック中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28579 外部プロシージャ・エージェントからのコールバック中にネットワーク・エラーが発生しました

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部ネットワーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28580 再帰的外部プロシージャはサポートされていません。

原因: ユーザーの 3GL ルーチン内のコールアウトによって、別の外部プロシージャがコールされました。

処置: コールバックで実行された SQL コードが、別の外部プロシージャを直接にコールしていないことを確認してください。または、外部プロシージャをコールするトリガーや、外部プロシージャをコールする PL/SQL プロシージャなど、別の外部プロシージャを間接的にコールしていないことを確認してください。

ORA-28581 再帰的外部プロシージャの実行中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: 別の外部プロシージャのコールバックの結果として外部プロシージャが実行されようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28582 このエージェントへの直接接続は許可されていません。

原因: ユーザーまたはツールが、外部プロシージャ・エージェントまたは異機種間サービス・エージェントへの直接接続を確立しようとした。たとえば、「SVRMGR> CONNECT SCOTT/TIGER@NETWORK_ALIAS」です。このタイプの接続は許可されていません。

処置: CONNECT 文を実行する場合、データベース・リンクまたはネットワークの別名が異機種間サービス・オプションまたは外部プロシージャ・エージェントを指していないことを確認してください。

ORA-28590 エージェント制御ユーティリティ: 無効または不正な形式のコマンドです。

原因: ユーザーが、認識できないかまたは構文上不正なコマンドを発行しました。

処置: ドキュメントを参照し、コマンドの構文を修正してください。

ORA-28591 エージェント制御ユーティリティ: パラメータ・ファイルにアクセスできません。

原因: エージェント制御ユーティリティがパラメータ・ファイルにアクセスできませんでした。これは、ADMIN ディレクトリを見つけれなかったためか、ディレクトリの権限が正しく設定されていなかったためです。

処置: エージェント制御ユーティリティが、環境変数 AGTCTL_ADMIN または環境変数 TNS_ADMIN が指しているディレクトリにパラメータ・ファイルを置きます。これらの環境変数のうちの 1 つ以上が設定されていて、その変数がエージェントがアクセスしたディレクトリを指していることを確認してください。

ORA-28592 エージェント制御ユーティリティ: エージェント SID が設定されていません。

原因: エージェントは、コマンドを処理する前に AGENT_SID パラメータの値を認識する必要があります。AGENT_SID の値がない場合、すべてのコマンドが失敗します。

処置: コマンド SET AGENT_SID *value* を発行し、その後、失敗したコマンドを再実行してください。

ORA-28593 エージェント制御ユーティリティ: コマンドがエラーで終了しました。

原因: コマンドの処理中にエラーが発生しました。いくつかの原因があります。エージェントが起動した後、SET または UNSET コマンドが発行されました。これは不正です。2つのエージェントを同じSID 値で起動しようとしたか、または起動していないエージェントを停止しようとしたか。

処置: SET または UNSET コマンドを発行するには、まず SHUTDOWN コマンドを発行してエージェントが停止していることを確認してください。

ORA-28594 エージェント制御ユーティリティ: パラメータ名が無効です。

原因: ユーザーが無効なエージェント・パラメータを設定しようとしたか、または設定を解除しようとしたか。

処置: ドキュメントを参照してパラメータ名を修正してください。

ORA-28601 [NO]MINIMIZE オプションが無効です

原因: ALTER TABLE *table_name* MINIMIZE RECORDS_PER_BLOCK または ALTER TABLE *table_name* NOMINIMIZE RECORDS_PER_BLOCK を入力しませんでした。

処置: 正しい SQL コマンドを再入力してください。

ORA-28602 ビットマップ索引を含む表でこの文は使用できません。

原因: 表がビットマップ索引を含み、ユーザーが RECORDS_PER_BLOCK を最小化しているかまたは指定しています。

処置: RECORDS_PER_BLOCK を変更する前に、ビットマップ索引をすべて削除してください。

ORA-28603 空の表でこの文は使用できません。

原因: 表が空です。空の表では文が機能しません。

処置: データをロードした後に文を実行してください。

**ORA-28604 ビットマップ索引を作成するには表の断片部分が多すぎます
(*string,string,string*)**

原因: 表に、ビットマップ索引作成時に想定される最大行数を超えるブロックが1つ以上あります。これは、多くの場合、行の削除が原因です。メッセージには、データブロック・アドレス、検出されたスロット番号、使用可能な最大スロット数が表示されます。

処置: 表またはブロックを最適化してください。メッセージに示された値を使用して、影響を受ける1番目のブロック（他のブロックも）を判断してください。

ORA-28605 逆ビットマップ索引にはできません。

原因: 逆ビットマップ索引を作成しようとしたか。これはサポートされていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-28611 ビットマップ索引が破損しています - トレース・ファイルを参照して診断してください

原因: VALIDATE INDEX の引数で指定された索引の中にビットマップ破損が検出されました。

処置: このビットマップ索引を削除し、新しいビットマップ索引を作成してください。

ORA-28650 IOT の主索引は再構築できません。

原因: IOT-TOP で再構築される ALTER INDEX を発行しようとしてしました。

処置: ALTER TABLE MOVE を使用して、索引構成表を再構成してください。

ORA-28651 IOT の主索引に使用不可のマークは設定できません。

原因: ALTER INDEX を使用して、IOT-TOP に使用不可のマークを設定しようとしてしました。

処置: UNUSABLE オプション指定を削除してください。

ORA-28652 オーバーフロー・セグメント属性を指定できません

原因: IOT の ALTER MOVE ONLINE の途中で、オプション OVERFLOW、PCTTHRESHOLD、INCLUDING のうち 1 つ以上を入力しようとしてしました。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-28653 表は両方ともに索引構成表にする必要があります

原因: 非索引構成表 / パーティションを、それぞれパーティション / 表と交換しようとしてしました。

処置: 非パーティション表およびパーティション表はともに索引構成にしてください。

ORA-28654 表とパーティションの桁溢れが一致しません。

原因: パーティション表 / 非パーティション表の一方にはオーバーフローのデータ・セグメントがあり、もう一方にはありません。

処置: 非パーティション表およびパーティション表の両方にオーバーフローのデータ・セグメントがあるか、またはいずれにもないことを確認してください。

ORA-28655 ALTER TABLE ADD OVERFLOW 文に構文エラーがあります。

原因: 構文エラーです。

処置: 構文を確認してください。

ORA-28656 不完全な属性指定です

原因: 属性指定がすべてのパーティションで行われていません。

処置: 領域属性をすべてのパーティションに指定するか、またはいずれにも指定しないでください。

ORA-28658 この操作は、索引構成表のみでサポートされます。

原因：非索引構成表でいくつかの索引構成表固有の操作を実行しようとした。これはサポートされません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-28659 COMPRESS は最初にオブジェクト・レベルで指定する必要があります

原因：COMPRESS を表レベルで指定せずに、パーティション・レベルで指定しようとした。

処置：COMPRESS を表レベルで指定してください。ALTER TABLE xxx MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES COMPRESS ... を使用してください。

ORA-28660 パーティション化索引構成表の全体を MOVE することはできません。

原因：パーティション化索引構成表の全体を MOVE しようとした。これはサポートされません。

処置：パーティション化索引構成表の全体を MOVE しないでください。

ORA-28661 オブジェクトには COMPRESS 句がすでに指定されています。

原因：すでに COMPRESS 句がある索引構成表 / 索引に COMPRESS を指定しようとした。この属性は作成時にのみ指定できます。

処置：すでに COMPRESS 句がある索引構成表 / 索引に COMPRESS を指定しないでください。

ORA-28662 IOT 索引とオーバフロー・セグメントは、同じ LOGGING 属性を共有する必要があります。

原因：一方のセグメントに LOGGING を指定し、もう一方のセグメントに NOLOGGING を指定しようとした。

処置：両方のセグメントに同じ属性値を指定してください。

ORA-28663 ALTER TABLE ADD OVERFLOW 文に LOGGING/NOLOGGING 属性は指定できません。

原因：ALTER TABLE ADD OVERFLOW 文に LOGGING を指定しようとした。

処置：このコンテキストに LOGGING を指定しないでください。

ORA-28664 パーティション表は1つに結合できません。

原因：ユーザーが ALTER TABLE COALESCE 文を使用して、パーティション化された索引構成表を結合しようとした。これは許可されていません。

処置：(ALTER TABLE MODIFY PARTITION COALESCE を使用して) 表を一度にパーティションに結合してください。

ORA-28665 表とパーティションは同じ圧縮属性を持つ必要があります。

原因：圧縮が使用可能なパーティションを圧縮が使用不可の表（またはその逆）に EXCHANGE しようとした。または、圧縮された列の # が、表とパーティションで異なります。

処置：圧縮属性が一致していることを確認してください。一致していない場合は、ALTER TABLE MOVE [PARTITION] COMPRESS を使用して、一致させてください。

ORA-28666 UROWID 列の索引へのオプションは許可されていません。

原因：REVERSE、COMPRESSED または GLOBAL パーティション索引を UROWID 列に作成しようとした。

処置：これらのオプションを使用しないで、索引を作成してください。

ORA-28667 IOT の主キーでは USING INDEX オプションは使用できません。

原因：索引構成表の主キー索引に対して、USING INDEX 句を使用して、記憶域属性を定義しようとした。主キー索引には、索引構成表に定義されるすべての記憶域属性が適用されるため、個別の USING INDEX 句は必要ありません。

処置：USING INDEX 句を削除し、すべての属性を表に対して直接指定してください。

ORA-28668 索引構成表のマッピング表が参照できません。

原因：索引構成表のマッピング表に、直接アクセスしようとしています。

処置：指定したマッピング表を含んだ親索引構成表に対して文を発行してください。

ORA-28669 ビットマップ索引はマッピング表なしで IOT に作成できません。

原因：索引構成表に、マッピング表なしでビットマップ索引を作成しようとした。

処置：ALTER TABLE ... MOVE MAPPING TABLE を使用してマッピング表を作成し、ビットマップ索引を索引構成表で使用可能にしてください。

ORA-28670 ビットマップ索引が存在するためマッピング表は削除できません。

原因：索引構成表に 1 つ以上のビットマップ索引があるときに、NOMAPPING オプションを使用して、マッピング表を削除しようとした。

処置：ビットマップ索引を削除してから、マッピング表を削除してください。

ORA-28671 UPDATE BLOCK REFERENCES はパーティション索引では使用されない場合があります。

原因：ALTER INDEX UPDATE BLOCK REFERENCES 文を使用したパーティション索引で、UPDATE BLOCK REFERENCES を実行しようとしたが、これは不正です。

処置：パーティション・レベルの操作は、ALTER INDEX ... PARTITION ... UPDATE BLOCK REFERENCES を使用して発行してください。

ORA-28672 UPDATE BLOCK REFERENCES はグローバル索引では使用されない場合があります。

原因：グローバル・パーティション索引またはパーティション化されていない索引で、UPDATE BLOCK REFERENCES を実行しようとした。この機能は、パーティション索引構成表のパーティション化されていない索引またはグローバル・パーティション索引、あるいはパーティション化されていない索引構成表のグローバル・パーティション索引に対してサポートされていません。

処置：ONLINE INDEX [PARTITION] REBUILD を使用して、ブロック参照を修正してください。

ORA-28673 索引構成表ではマージ操作が許可されていません

原因：索引構成表でマージ操作を実行しようとした。索引構成表では、マージ操作はサポートされていません。

処置：索引構成表では、UPDATE または INSERT を使用してください。

ORA-29250 ~ ORA-32767

ORA-29250 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで指定された索引が無効です。

原因：DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで無効な索引が指定されました。索引が NULL または不適切な値である可能性があります。

処置：PL/SQL プログラムを変更して索引値を修正し、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29251 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで索引 1 が索引 2 の値を超過しています

原因：BIND_ARRAY の呼出しで、索引 1 の値が索引 2 の値を超えています。結合される表の要素は索引 1 以上かつ索引 2 以下の索引を持つので、これは正しくありません。

処置：2 つの索引の値を修正して、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29252 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで、索引位置の要素がコレクションに含まれません。

原因：DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで、結合表が両方の索引位置に要素を含んでいません。これは不正です。両方の索引位置が要素を含んでいる必要があります。つまり、tab.exists(index1) と tab.exists(index2) は、どちらも TRUE を戻す必要があります。

処置：2 つの索引か表の目次のどちらかを変更して、呼出しを再試行してください。

ORA-29253 プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された COUNT 引数が無効です。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された COUNT 引数の値が無効です。無効な値は負数および NULL です。引数は正整数である必要があります。

処置：有効な引数のみが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29254 プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された LOWER_BOUND 引数が無効です。

原因: プロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された LOWER_BOUND 引数の値が無効です。有効な値は、0（ゼロ）を含むすべての整数値（正および負）です。NULL 値は無効です。

処置: 有効な引数のみが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29255 カーソルに許可されないバインド配列および定義配列が含まれています

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY および BIND_ARRAY の両方がコールされました。これは不正です。1つのカーソルがバインド配列および定義配列の両方を含むことはできません。この設定方法は無意味です。定義配列は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使用し、バインド配列は PL/SQL 表を非選択問合せに結合するために使用します。

処置: 手元のカーソルの種類によって、2つの関数のうち1つのみに呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29256 カーソルに不正な標準定義および配列定義があります。

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY および DEFINE_COLUMN の両方がコールされました。これは不正です。1つのカーソルが標準定義および配列定義の両方を含むことはできません。この設定方法は無意味です。配列定義は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使用し、標準定義は選択問合せから PL/SQL 変数にデータを移動するために使用します。

処置: 手元の状況によって、2つの関数のうち1つのみに呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29257 ホスト *string* が不明です。

原因: 指定したホスト名は不明です。

処置: ホスト名の綴りまたは IP アドレスを確認してください。ホスト名または IP アドレスが有効であることを確認してください。

ORA-29258 バッファが小さすぎます。

原因: この操作には入力または出力バッファが小さすぎます。

処置: バッファのサイズを増やし、操作を再試行してください。

ORA-29259 入力終了に達しました。

原因: 入力終了に達しました。

処置: 入力終了に達するのが早すぎる場合は、入力ソースの終了が早すぎないかどうかを確認してください。それ以外の場合は、入力への接続をクローズしてください。

ORA-29260 ネットワーク・エラー :string

原因: ネットワーク・エラーが発生しました。

処置: ネットワーク・エラーを修正し、操作を再試行してください。

ORA-29261 引数が間違っています。

原因: 誤った引数が PL/SQL API に渡されました。

処置: PL/SQL API へ渡された引数を確認し、コールを再試行してください。

ORA-29262 URL が間違っています。

原因: 不適切な書式の URL が PL/SQL API に渡されました。

処置: URL を確認し、コールを再試行してください。

ORA-29263 HTTP プロトコル・エラーです。

原因: HTTP 操作中に、HTTP プロトコルのエラーが発生しました。

処置: HTTP 操作を実行した HTTP サーバーを確認し、HTTP プロトコル標準に従っていることを確認してください。

ORA-29264 URL スキームが不明またはサポートされていません。

原因: URL スキームが不明またはサポートされていません。

処置: URL を確認し、スキームが有効およびサポートされていることを確認してください。

ORA-29265 HTTP ヘッダーが見つかりません。

原因: 要求された HTTP ヘッダーが見つかりません。

処置: 要求された HTTP ヘッダーが存在することを確認してください。

ORA-29266 本体終了に達しました。

原因: HTTP 応答の本体終了に達しました。

処置: HTTP 応答の本体終了に達するのが早すぎる場合は、HTTP 応答の終了が早すぎないかどうかを確認してください。それ以外の場合は、HTTP 応答を終了してください。

ORA-29267 無効なコールです。

原因: PL/SQL API へのコールは、現在のステージでの操作に誤りがありました。

処置: 操作の異なるステージでコールを再試行してください。

ORA-29268 HTTP クライアント・エラー string

原因: HTTP 応答に、HTTP クライアント・エラーの発生が示されています。

処置: HTTP クライアント・エラーを修正し、HTTP 要求を再試行してください。

ORA-29269 HTTP サーバー・エラー *string*

原因: HTTP 応答に、HTTP サーバー・エラーの発生が示されています。

処置: HTTP サーバー・エラーを修正し、HTTP 要求を再試行してください。必要に応じて、HTTP サーバーの管理者に連絡してください。

ORA-29270 オープンされた HTTP 要求が多すぎます。

原因: オープンされた HTTP 要求が多すぎます。

処置: いくつかの HTTP 要求を終了し、HTTP 要求を再試行してください。

ORA-29271 接続されていません。

原因: ネットワーク操作をしようとしたますが、ネットワーク接続が行われていませんでした。

処置: ネットワーク接続が正常に行われた後で、ネットワーク操作を再試行してください。

ORA-29272 初期化に失敗しました

原因: UTL_HTTP パッケージの初期化に失敗しました。

処置: 一部のメモリーまたはその他のシステム・リソースを解放してから、操作を再試行してください。

ORA-29273 HTTP 要求に失敗しました

原因: UTL_HTTP パッケージが HTTP 要求の実行に失敗しました。

処置: `get_detailed_sqlerrm` を使用して、詳細なエラー・メッセージを確認してください。エラーを修正し、HTTP 要求を再試行してください。

ORA-29274 固定幅のマルチバイト・キャラクタ・セットは URL に使用できません

原因: URL のエンコーディングとして使用されるキャラクタ・セットは、固定幅のマルチバイト・キャラクタ・セットなので、URL に使用できません。

処置: URL には、対応する可変幅のマルチバイト・キャラクタ・セットを使用してください。

ORA-29275 不完全なマルチバイト文字です

原因: 入力の最後に不完全なマルチバイト文字が見つかったため、要求された読取り操作を完了できません。

処置: リモート・サーバーから完全なマルチバイト文字が送信されていることを確認し、操作を再試行してください。または、不完全なマルチバイト文字を **RAW** として読み取ってください。

ORA-29276 転送がタイムアウトしました

原因：ネットワーク接続に対する読取り中または書込み中にタイムアウトが発生しました。

処置：リモート・サーバーまたはネットワークが、タイムアウト制限内に応答することを確認してください。または、タイムアウト値を増やしてください。

ORA-29277 無効な SMTP 操作です

原因：SMTP トランザクションの現行のステージでは、SMTP 操作は無効です。

処置：SMTP トランザクションの適切なステージで SMTP 操作を再試行してください。

ORA-29278 SMTP の一時エラー: *string*

原因：SMTP の一時エラーが発生しました。

処置：エラーを修正して、SMTP 操作を再試行してください。

ORA-29279 SMTP の永続エラー: *string*

原因：SMTP の永続エラーが発生しました。

処置：エラーを修正して、SMTP 操作を再試行してください。

ORA-29300 表領域の Point-in-Time リカバリで Oracle エラーが発生しました。

原因：DBMS_PITR パッケージで Oracle エラーが発生しました。

処置：エラーの説明は、エラー・メッセージのテキストを参照してください。

ORA-29301 DBMS_PITR パッケージ関数 / プロシージャの順序が正しくありません。

原因：DBMS_PITR パッケージ関数 / プロシージャが不正な順序でコールされました。

処置：正しい順序で表領域の Point-in-Time リカバリを再試行してください。

ORA-29302 データベースがクローン・データベースとしてオープンされていません。

原因：データベースがクローン・データベースとしてオープンされていませんでした。

処置：データベース・クローンをマウントし、データベースをオープンしてください。

ORA-29303 ユーザーが SYS でログインしていません。

原因：クローン・データベースで表領域の Point-in-Time リカバリを実行するために SYS ユーザーとしてログインしませんでした。

処置：SYS ユーザーでログインし、表領域の Point-in-Time リカバリを再試行してください。

ORA-29304 表領域 '*string*' は存在しません

原因：選択された表領域がデータベースに存在しません。

処置：V\$TABLESPACE で表領域のリストを確認し、有効な表領域を指定してください。

ORA-29305 表領域 '*string*' を Point-in-Time リカバリできません。

原因: 表領域を読み取り専用に変更しようとした。

処置: 表領域が SYSTEM であるか、またはオンライン・ロールバック・セグメントを持つかを確認してください。

ORA-29306 データ・ファイル *string* がオンラインではありません。

原因: 選択されたデータ・ファイルがオンラインではありません。

処置: データ・ファイルをオンラインにし、必要に応じて名前を変更してください。

ORA-29307 データ・ファイル *string* で *string* エラーが発生しました。

原因: データ・ファイルが表領域の Point-in-Time リカバリ用に準備されていません。

処置: 表領域の正しい Point-in-Time リカバリ手順を確認してください。

ORA-29308 ビュー TS_PITR_CHECK で障害が発生しました。

原因: リカバリ・セットの境界を越える一部のオブジェクトが、表領域の Point-in-Time リカバリで許可されていませんでした。

処置: TS_PITR_CHECK を問い合せて、境界を越えるオブジェクトを解決してください。

ORA-29309 エクスポート・ダンプ・ファイルが異なるバージョンの DBMS_PITR パッケージで生成されました

原因: DBMS_PITR のバージョンが、クローン・データベースのバージョンと異なります。

処置: クローン・データベースのバージョンと一致するバージョンの DBMS_PITR をロードしてください。

ORA-29310 データベースがオープンしていないか、またはクローンでオープンされています。

原因: データベースがオープンされていないか、またはクローン・データベースとしてオープンされていました。

処置: かわりに本番データベースをオープンしてください。

**ORA-29311 エクスポート・ダンプ・ファイルはこのデータベースで生成されていません。
string が不一致です。**

原因: エクスポート・ダンプ・ファイルが不正なデータベースにインポートされました。

処置: 正しい本番データベースをオープンし、インポートを再試行してください。

ORA-29312 データベースに互換性がありません (*stringstring*)。

原因: リカバリを実行するために Point-in-Time 表領域が選択されましたが、現行のデータベースは、Point-in-Time 表領域の作成に使用されたデータベースと互換性がありません。

処置: 別の Point-in-Time を選択し、操作を再試行してください。

ORA-29313 表領域 '*string*' は 2 回インポートできません

原因: これは内部エラーです。

処置: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29314 表領域 '*string*' は OFFLINE FOR RECOVER、READ ONLY のどちらでもありません。

原因: 表領域消去 SCN が 0 (ゼロ) または無効です。

処置: 表領域 OFFLINE FOR RECOVER を変更してください。

ORA-29315 表領域 '*string*' は再作成されています

原因: 表領域を再作成する前に、Point-in-Time リカバリを実行しようとしてしました。

処置: 異なるリカバリの時点を指定してください。

ORA-29316 データ・ファイル *string* が 2 回インポートされました。

原因: これは内部エラーです。

処置: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29317 データ・ファイル *string* が存在しません。

原因: 指定されたデータ・ファイルが本番データベース内にありません。

処置: クローン・データベースからデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29318 データ・ファイル *string* がオンラインです。

原因: データ・ファイルがオンラインです。

処置: データ・ファイルをオフラインにしてください。

ORA-29319 データ・ファイル *string* が正しくありません。

原因: 正しくないデータ・ファイルが本番データベースにコピーされています。エクスポート・ダンプ・ファイル内のデータ・ファイル情報が、本番データベースのデータ・ファイル内の情報と異なります。

処置: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29320 データ・ファイル・ヘッダーの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: データ・ファイル・ヘッダーの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーし、操作を再試行してください。

ORA-29321 Point-in-Time から追加されたデータ・ファイルが多すぎます

原因: Point-in-Time 以降にリカバリ・セットに追加されたデータ・ファイルが多すぎます。

処置: リカバリ・セットをより小さなサブセットに分割し、再試行してください。

ORA-29322 SCN 文字列サイズが長すぎます -- 最大サイズは 58 バイト / 文字です

原因: SCN 文字列に指定した文字が多すぎます。

処置: すべての必要のない文字は削除してください。48 ビット SCN の 16 進数および 10 進数表現の両方に必要な文字は、15 文字です。

ORA-29323 SET COMPATIBILITY コマンドは、8.0.0 以前のリリースでは使用できません。

原因: ローリング・リリース機能が最初に実現されたのは 8.0.3 です。

処置: 8.0.3 以上を指定してください。

ORA-29324 SET COMPATIBILITY Release 文の構文が正しくありません。

原因: 8.x.x という書式である必要があります。

処置: 正しい書式を使用してください。

ORA-29325 SET COMPATIBILITY Release 文の値が互換リリース番号と一致しません。

原因: 8.0.3 では、互換リリース番号と一致している必要があります。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータと一致するように指定してください。この場合、8.0.0 より前のリリース番号は使用できないので注意してください。

ORA-29326 SET COMPATIBILITY Release でリリース番号は

***string.string.string.string.string* に変更されました。**

原因: 1 つまたはそれ以上のインスタンスが古いリリース番号を持っていました。

処置: 指定した番号にリリースをロールするには、すべてのインスタンスを同じリリース番号か、それ以上のリリース番号に移行してください。

ORA-29327 サーバーとの対話時にサポートされないクライアント互換モードが使用されました。

原因: クライアント互換モードが、サーバーのバージョンを超えています。

処置: SET COMPATIBILITY コマンドを使用して、サーバーと同じリリース番号を指定してください。

ORA-29328 この表領域 '*string*' にはデータ・ファイルが多すぎます

原因: このビットマップ表領域内にはデータ・ファイルが多すぎます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29335 表領域 '*string*' は読取り専用ではありません。

原因: 表領域は読取り専用ではありません。

処置: 表領域を読取り専用にして、操作を再試行してください。

ORA-29336 DBMS_PLUGTS からの内部エラー [*string*] [*string*] が発生しました

原因: パッケージ DBMS_PLUGTS から内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29337 表領域 '*string*' のブロック・サイズ (*string*) が非標準です。

原因: 表領域には非標準のブロック・サイズがあり、そのような表領域を読取り / 書込みにすることは許可されません。

処置: 他のいくつかのメカニズムを使用してデータをインポートしてください。

ORA-29338 データ・ファイル *string* は、要求された状態ではありません (*string*、*string*)

原因: 参照されたデータ・ファイルが、表領域のコピー操作に準備された状態にありません。たとえば、データ・ファイルがオフラインである可能性があります。データ・ファイルは ONLINE で、READ ONLY または READ WRITE である必要があります。

処置: データ・ファイルを要求された状態に置いてください。

ORA-29339 表領域のブロック・サイズ *string* が構成ブロック・サイズと一致しません。

原因: プラグ・インまたは作成された表領域のブロック・サイズが、データベースを構成しているブロック・サイズと一致していません。

処置: 各種パラメータ (db_2k_cache_size、db_4k_cache_size、db_8k_cache_size、db_16k_cache_size、db_32K_cache_size) の 1 つを使用して、この表領域のブロック・サイズに適切なキャッシュを構成してください。

ORA-29340 エクスポート・ファイルが破損しているようです: [*string*] [*string*] [*string*]

原因: これは、破損したエクスポート・ファイルか、Oracle の内部エラーが原因です。

処置: トランスポートابل表領域に使用するエクスポート・ファイルが破損していないことを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29341 トランスポートابل設定は自己完結型ではありません

原因: 選択された表領域セットにあるオブジェクトの設定が、自己完結型ではありません。

処置: 別のエクスポート・オプションを使用するか、違反を発生させたポインタを削除するか、別の表領域セットを指定してください。

ORA-29342 ユーザー *string* はデータベースに存在しません。

原因: 参照されたユーザーは、トランSPORTABLE・セットのデータの所有者の1人です。このユーザーは、データベースに存在しません。

処置: データベースにユーザーを作成するか、ユーザーを FROM_USER および TO_USER インポート・オプションを使用して別のユーザーにマップしてください。

ORA-29343 ユーザー *string* (ユーザー *string* からマップされた) はデータベースに存在しません。

原因: 参照されたユーザーは、トランSPORTABLE・セットのデータの所有者の1人です。このユーザーは、データベースに存在しません。

処置: ユーザーを作成するか、元のユーザーを別のユーザーにマップしてください。

ORA-29344 所有者の妥当性チェックに失敗しました - 所有者 '*string*' が一致しません

原因: システムで参照された所有者の一致に失敗しました。これには、次の2つの原因があります。

- このユーザーはトランSPORTABLE・セットにデータを所有していますが、TTS_OWNERS が指定されていると仮定して、インポート・コマンドライン・オプションの TTS_OWNERS リストに指定されていません。
- このユーザーは TTS_OWNER リストに指定されていますが、トランSPORTABLE・セットにどのデータも所有していません。

処置: 別の OWNER リストでインポートを再試行してください。

ORA-29345 異なるキャラクタ・セットを使用するとデータベースに表領域を差し込みません

原因: 異なるキャラクタ・セットを使用してデータベースに表領域を差し込むことは、サポートされていません。

処置: インポート / エクスポートまたはアンロード / ロードを使用して、データを移動してください。

ORA-29346 表領域リストが無効です。

原因: 表領域リストが DBMS_TTS.TRANSPORT_SET_CHECK に指定されています。PL/SQL ルーチンが誤ったフォーマットです。

処置: 『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照して、正しいフォーマットを使用してください。

ORA-29347 表領域名の妥当性チェックに失敗しました - 表領域 '*string*' が一致しません

原因: システムが、参照された表領域の一致に失敗しました。これには、次の 2 つの原因があります。

- この表領域はトランスポータブル・セットにありますが、TABLESPACES が指定されていても、インポート・コマンドライン・オプションの TABLESPACES リストに指定されていません。
- この表領域は TABLESPACES リストにありますが、トランスポータブル・セットにはありません。

処置: 正しい TABLESPACES リストで操作を再試行してください。

ORA-29348 プラグインするデータ・ファイルを指定する必要があります

原因: プラグインするデータ・ファイルが指定されていません。

処置: インポート DATAFILES コマンドライン・オプション経由で、データ・ファイルを指定してください。

ORA-29349 表領域 '*string*' はすでに存在します

原因: すでに存在している表領域をプラグインしようとしてしました。

処置: 可能であれば、問題のある表領域を削除してください。または、別の方法（たとえば、インポート / エクスポート）でデータを移動してください。

ORA-29350 サーバー・バージョン *string* は、パッケージ *string*、バージョン *string* と互換性がありません。

ORA-29351 システムまたは一時表領域 '*string*' をトランスポートできません。

原因: 参照された表領域が、システム表領域または一時表領域のいずれかです。

処置: この表領域をトランスポータブル・セットに含めないでください。

ORA-29355 NULL または無効な *string* 引数が指定されました。

原因: 名前付き引数が無効か、NULL として指定されました。

処置: NULL でない有効な引数を指定してください。

ORA-29356 これらのパラメータはコンシューマ・グループを参照するディレクティブにのみ指定できます。

原因: GROUP_OR_SUBPLAN 引数がリソース・プランであるパッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE または UPDATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として、次のパラメータが指定されました。

ACTIVE_SESS_POOL_P1、QUEUEING_P1、PARALLEL_DEGREE_LIMIT_P1、
SWITCH_P1、SWITCH_P2、SWITCH_P3、MAX_EST_EXEC_TIME、
UNDO_POOL

処置: コンシューマ・グループ・ディレクティブに対して、これらのパラメータのみを指定してください。

ORA-29357 オブジェクト *string* はすでに存在します

原因: パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN または CREATE_CONSUMER_GROUP への引数として指定された名前が、すでに使用中です。

処置: 未使用の名前を指定してください。

ORA-29358 リソース・プラン *string* が存在しません

原因: 無効なプラン名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ UPDATE_PLAN への引数として指定されました。

処置: 既存のプラン名を指定してください。

ORA-29359 無効なメソッド名 *string* がリソース・プラン *string* に指定されました。

原因: 無効なメソッドが、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN または UPDATE_PLAN への引数として指定されました。

処置: 有効なメソッド名を指定してください。

ORA-29360 再試行してください。同時に行われている作業が多すぎます。

原因: ユーザーから、最初のコンシューマ・グループに対してのスイッチ・コンシューマ・グループ権限を取り消そうとしましたが、別のセッションで他のユーザーがこのユーザーを変更しています。

処置: 時間をおいてから操作を再試行してください。

ORA-29361 パーセント *string* が有効範囲である 0 から 100 の範囲外です。

原因: 無効なパーセント値が指定されました。

処置: パーセント値を 0 ～ 100 の間で指定してください。

ORA-29362 プラン・ディレクティブ *string*、*string* が存在しません。

原因：存在しないプラン・ディレクティブが、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ UPDATE_PLAN_DIRECTIVE に対して指定されました。

処置：既存のプラン・ディレクティブを指定してください。

ORA-29363 プラン・ディレクティブ *string*、*string* は必須であり、変更または削除できません。

原因：必須のプラン・ディレクティブを変更しようとしてしました。

処置：必須のプラン・ディレクティブはリソース・マネージャから要求されて変更できないため、必須のプラン・ディレクティブを変更しないでください。

ORA-29364 プラン・ディレクティブ *string*、*string* はすでに存在します

原因：すでに存在するプラン・ディレクティブを作成しようとしてしました。

処置：別の値を使用して作成操作を再試行してください。

ORA-29365 NULL または無効な GROUP_OR_SUBPLAN 引数が指定されました。

原因：NULL または無効な GROUP_OR_SUBPLAN が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE または UPDATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として指定されました。

処置：NULL でない有効な引数を指定してください。

ORA-29366 無効な CONSUMER_GROUP 引数が指定されました。

原因：無効なコンシューマ・グループ名が指定されました。

処置：NULL でない有効なコンシューマ・グループ名を指定してください。

ORA-29367 オブジェクト *string* は存在しません。

原因：存在しないオブジェクト名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として指定されました。

処置：有効なプランまたはコンシューマ・グループ名を指定してください。

ORA-29368 コンシューマ・グループ *string* が存在しません。

原因：存在しないコンシューマ・グループ名が指定されました。

処置：既存のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29369 無効なメソッド名 *string* がコンシューマ・グループ *string* に指定されました。

原因：無効なメソッド名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_CONSUMER_GROUP または UPDATE_CONSUMER_GROUP への引数として指定されました。

処置：有効なメソッド名を指定してください。

ORA-29370 ペンディング・エリアはすでにアクティブです

原因: すでにアクティブなペンディング・エリアをアクティブにしようとした。

処置: ペンディング・エリアがアクティブでなくなるまで待ってから、操作を再試行してください。

ORA-29371 ペンディング・エリアがアクティブではありません

原因: ペンディング・エリアを作成しないで変更しようとした。

処置: 変更する前に、プロシージャ CREATE_PENDING_AREA を起動してください。

ORA-29372 識別子 *string* が長すぎます: *string* 文字未満にする必要があります

原因: 30 文字より長い識別子を指定しようとした。

処置: 長さ 30 文字以下の識別子を使用してください。

ORA-29373 リソース・マネージャがオンになっていません。

原因: リソース・マネージャがオフの状態では、実行できない操作を実行しようとした。

処置: リソース・マネージャをオンにして、再実行してください。

ORA-29374 リソース・プラン *string* (トップレベルのプラン *string*) にプラン・ディレクティブがありません

原因: プランが、孤立したペンディング・エリアまたはスタンドアロンのペンディング・エリアに作成されました。

処置: 必要に応じて、プラン・ディレクティブを作成してください。それ以外の場合は、プランを削除してください。

ORA-29375 パーセント合計 *string* (レベル *string*)、計画 *string* が *string* を超過しています

原因: 指定された計画、レベルのパーセント合計が 100 を超過しています。

処置: レベルのパーセントを変更して、レベル合計を 100 にしてください。

ORA-29376 コンシューマ・グループ数 *string* (トップレベルのプラン *string*) が *string* を超過しています

原因: 指定されたトップレベルのプランのコンシューマ・グループ数が 32 を超過しています。

処置: トップレベルのプランを変更して、コンシューマ・グループ数を 32 以下にしてください。

ORA-29377 コンシューマ・グループ *string* はトップレベルのプラン *string* の一部ではありません

原因: OTHER_GROUPS が指定されたトップレベルのプランの一部として含まれていませんでした。トップレベルのプランのそれぞれには、組込みコンシューマ・グループ OTHER_GROUPS が必要です。

処置: 引数 GROUP_OR_SUBPLAN がトップレベルのプランのどこかで OTHER_GROUPS である状態で、プラン・ディレクティブを作成してください。

ORA-29379 リソース・プラン *string* はトップレベルのプラン *string* のループに関与しています

原因: トップレベルのプランを検査中にループが発見されました。

処置: 指定されたプランを GROUP_OR_SUBPLAN として持つプランを確認し、ループを発生させるプラン・ディレクティブを削除してください。

ORA-29380 リソース・プラン *string* は現在アクティブであり削除できません

原因: ペンディング・エリアのアクティブなプランを削除しようとしてしました。アクティブなプランは変更できません。

処置: 使用中でないときにプランを削除してください。

ORA-29381 計画 / コンシューマ・グループ *string* は、別の計画で参照されているので削除できません。

原因: 他のプランが参照しているプランまたはコンシューマ・グループを削除しようとしてしました。

処置: プランまたはコンシューマ・グループを GROUP_OR_SUBPLAN として持つすべてのプラン・ディレクティブを削除し、このプランまたはコンシューマ・グループを削除してください。

ORA-29382 ペンディング・エリアの妥当性チェックに失敗しました

原因: ペンディング・エリアで無効な変更を行おうとしてしました。

処置: ドキュメントおよびこのエラーに続くエラー・メッセージを参照してください。

ORA-29383 トップレベルのプラン *string* 以外はすべてコンシューマ・グループである必要があります

原因: 指定されたトップレベルのプランを作成または変更しようとしてしましたが、いくつかのプランがリーフとしてありました。

処置: 変更する必要があるプランまたはプラン・ディレクティブ（あるいはその両方）を識別するには、プラン・ディレクティブがないすべてのプランを参照してください。その後、すべてのリーフがコンシューマ・グループになるように、トップレベルのプランを変更してください。

ORA-29384 計画 *string* の子の数が *string* を超過しています。

原因: 指定されたプランを作成または変更しようとしたが、プランに 32 を超える子ノードがあります。

処置: 指定されたプランが、32 以下の異なるノードを参照するかどうかを確認してください。

ORA-29385 *string* から *string* へのプラン・ディレクティブは作成できません。

原因: プランからそれ自体にプラン・ディレクティブを作成しようとした。

処置: パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE への引数 PLAN および GROUP_OR_SUBPLAN が異なっていることを確認してください。

ORA-29386 計画またはコンシューマ・グループ *string* は必須であり、削除または変更できません。

原因: 指定された必須のプランまたはコンシューマ・グループを削除または変更しようとした。

処置: 必須のプランまたはコンシューマ・グループを削除または変更しないでください。

ORA-29387 ペンディング・エリアでトップレベルのプランが見つかりません

原因: VALIDATE_PENDING_AREA プロシージャが、意図したトップレベルのプランがグループに関連しているか、トップレベルのプランがないかのいずれかを発見しました。

処置: サブプランから意図したトップレベルのプランまでのすべてを確認してください。トップレベルのプランに、それを参照しているプランがないことを確認してください。

ORA-29388 計画 / コンシューマ・グループ *string* は複数の最上位計画の一部です。

原因: プロシージャ DELETE_PLAN_CASCADE またはパッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER の一部として、複数のトップレベルのプランの一部であるプランまたはコンシューマ・グループを含むサブツリーを削除しようとした。このようなプランまたはコンシューマ・グループ名は削除できません。

処置: プランまたはコンシューマ・グループの上位のユーザーを確認して、単に削除されているサブツリーを含むトップレベルのプランの一部であることを確認してください。

ORA-29389 妥当性チェック中に発生したエラーが多すぎます。

原因: 妥当性チェック中に検出されたエラー数が多すぎます。

処置: 必要な処置を行っていくつかのエラーを取り除き、妥当性チェックを再試行してください。

ORA-29390 一部のリソース・プランはトップレベルのプランの一部ではありません

原因: トップレベルのプランの一部でないペンディング・エリアにあるプランを作成または変更しようとした。

処置: これらのプランを削除して、妥当性チェックを再試行してください。

ORA-29391 *string* と *string* が、必須プラン・ディレクティブを作成するために必要です。

原因: PLAN または GROUP_OR_SUBPLAN (あるいはその両方) が必須でない必須プラン・ディレクティブを作成しようとした。

処置: これらのオブジェクトを必須として再作成し、プラン・ディレクティブを作成してください。

ORA-29393 ユーザー *string* は存在しないか、またはログオンされていません。

原因: 無効なユーザー名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ SET_INITIAL_CONSUMER_GROUP またはパッケージ DBMS_SYSTEM の SWITCH_CONSUMER_GROUP_FOR_USER への引数として指定されたか、指定されたユーザーがログオンしていませんでした。

処置: 有効なユーザー名を指定してください。

ORA-29394 セッション ID *string* とシリアル番号 *string* が存在しません。

原因: 無効なセッション ID およびシリアル番号が、パッケージ DBMS_SYSTEM のプロシージャ SWITCH_CONSUMER_GROUP_FOR_SESS への引数として指定されました。

処置: ビュー V\$SESSION から有効な値を指定してください。

ORA-29395 初期のコンシューマ・グループを *string* に設定できません。

原因: ユーザーの最初のコンシューマ・グループを OTHER_GROUPS に設定しようとした。

処置: OTHER_GROUPS は、リソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29396 グループを *string* に切り替えられません

原因: ユーザーまたはセッションのコンシューマ・グループを OTHER_GROUPS に切り替えようとした。

処置: OTHER_GROUPS は、リソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29397 *string* の切替え権限を付与 / 取消しできません

原因: OTHER_GROUPS の切替え権限を付与または取消しようとした。

処置: OTHER_GROUPS は、リソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29398 無効な権限名が指定されました。

原因: 無効な権限名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER_PRIVS のプロシージャ GRANT_SYSTEM_PRIVILEGE または REVOKE_SYSTEM_PRIVILEGE への引数として指定されました。

処置: 有効な権限名を指定してください。

ORA-29399 ユーザー *string* には、コンシューマ・グループ *string* に切り替える権限がありません。

原因: 指定されたユーザーの最初のコンシューマ・グループを設定しようとしたが、ユーザーにはそのグループに切り替える権限がありません。

処置: コンシューマ・グループに切り替える権限をユーザーに付与して、最初のグループを設定してください。

ORA-29400 データ・カートリッジ・エラーが発生しました *string*

原因: データ・カートリッジ外部プロシージャでエラーが発生しました。このメッセージの後に、データ・カートリッジ・エラーの詳細を示した 2 番目のメッセージが続きます。

処置: 2 番目のエラー・メッセージの説明については、『Oracle9i データ・カートリッジ開発者ガイド』を参照してください。

ORA-29500 CREATE JAVA CLASS で NAMED キーワードは無効です

原因: NAMED キーワードが CREATE JAVA CLASS 文内に指定されました。NAMED キーワードは CREATE JAVA SOURCE または RESOURCE 文内のみで有効です。

処置: CREATE JAVA CLASS 文から NAMED キーワードを削除してください。

ORA-29501 Java ソース、クラスまたはリソース名が無効か、または未指定です

原因: Java ソース、クラスまたはリソースの要求された名前が無効または不明です。

処置: 有効な名前を指定してください。

ORA-29502 CREATE JAVA RESOURCE には NAMED キーワードが必要です。

原因: Java リソースの名前が指定されていません。名前は NAMED キーワードとともに指定する必要があります。

処置: 有効な名前を NAMED キーワードとともに指定してください。

ORA-29503 SCHEMA キーワードは NAMED キーワードと同時に使用できません。

原因: SCHEMA キーワードおよび NAMED キーワードは、同じ CREATE JAVA コマンドで同時に使用されましたが、CREATE JAVA コマンドで使用するのは、1 つのみです。

処置: NAMED または SCHEMA キーワードのいずれかを削除してください。

ORA-29504 スキーマ名が無効または指定されていません。

原因: 要求されたスキーマ名が無効か、存在しません。

処置: 有効なスキーマ名を指定してください。

ORA-29505 CREATE JAVA CLASS または RESOURCE で AS キーワードは無効です

原因: CREATE JAVA CLASS または RESOURCE で AS キーワードが使用されました。AS キーワードは CREATE JAVA SOURCE のみで有効です。

処置: CREATE JAVA CLASS または RESOURCE では USING キーワードを使用してください。

ORA-29506 USING 句から作成された問合せが無効です。

原因: USING 句が有効な問合せを作成しませんでした。

処置: USING 句を修正してください。

ORA-29507 USING 句から作成された問合せが 0 または複数行あります

原因: USING 句は、どの値も戻さなかった問合せまたは複数の値を戻した問合せのいずれかを定義しました。

処置: USING 句を修正してください。

ORA-29508 USING 句から作成された問合せで型 *string* の値を選択できませんでした。

原因: USING 句は、USING キーワードに続く項目によって指定された型の値を選択する問合せを作成しませんでした。

処置: USING 句を修正してください。

ORA-29509 Java バイナリ・クラス定義の形式が正しくありません

原因: バイナリ (Java クラス) 形式であると想定されるデータを使用する Java クラスを作成しようとしてしました。データがこの形式ではないか、正しい形式ではありません。

処置: 定義データを修正してください。

ORA-29510 名前 *string.string* は既存のオブジェクトですでに使用されています。

原因: CREATE JAVA コマンドがすでに使用中の名前を使用して、ソース、クラスまたはリソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: 要求された名前を使用している既存のオブジェクトを削除するか、新しいオブジェクトに別の名前を使用してください。

ORA-29511 Java クラスを解決できませんでした

原因: CREATE AND RESOLVE NOFORCE JAVA CLASS コマンドが解決できない定義データを指定したか、参照されたクラスの解決に失敗しました。

処置: NOFORCE オプションを削除するか、解決に対する障害を削除してください。

ORA-29512 ネーム・リゾルバの指定が正しくありません

原因: ネーム・リゾルバが要求された形式 (*(name_pattern , schema_name) ...*) で指定されませんでした。

処置: 指定を修正してください。

ORA-29513 参照クラス名が長すぎます。

原因: *number* を超える長さのクラス名を含む .class ファイルをインポートしようとした。参照クラス名が長すぎたため、.class ファイルはインポートできませんでした。

処置: .class ファイルの参照クラス名を短くしてください。

ORA-29514 クラス名に不正な文字が含まれています。

原因: サーバー・キャラクタ・セットに変換できない文字を含む .class ファイルをインポートしようとした。不正な文字があるため、.class ファイルはインポートできませんでした。

処置: .class ファイルの不正な文字を修正してください。

ORA-29515 ステータス *string* で Java コードから終了がコールされました。

原因: Java コードに `java.lang.Runtime.exitInternal` へのコールが含まれていました。

処置: 非ローカル終了が要求されないかぎり、このコールを含めないでください。

ORA-29516 Aurora アサーションでエラーが発生しました : *string*

原因: Aurora モジュール内で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29517 参照クラスの再帰的解決に失敗しました。

原因: 参照クラスの解決に失敗しました。

処置: 参照クラスのエラーを参照して、必要な処置を行ってエラーを修正してください。

ORA-29518 名前 *string* が Java クラスではないスキーマ *string* のオブジェクトに解決されました。

原因: 参照名が Java クラスでないオブジェクトに解決されました。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29519 名前 *string* がスキーマ *string* のシノニムを介して別の名前のクラスに解決されました。

原因: 参照名が、名前が参照名と一致しないクラスに変換したシノニムに解決されました。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29520 名前 *string* がアクセス不可のスキーマ *string* のクラスに解決されました。

原因: 参照クラスのアクセスに失敗しました。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29521 参照名 *string* が見つかりません。

原因: ネーム・リゾルバが、示された名前のオブジェクトを見つけられませんでした。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29522 参照名 *string.string* に対する認可エラーが発生しました

原因: 示された参照クラスの使用が認可されていないクラスを解決しようとしてしました。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29523 不明な参照名で認可エラーが発生しました

原因: 参照クラスの使用が認可されていないクラスを解決しようとしてしました。参照クラスの名前を判断できませんでした。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29524 '*string*' のコールで引数の型が正しくありません。

原因: メソッドが互換性のない型の引数でコールされました。

処置: コール側を調整してください。

ORA-29525 参照名が長すぎます: '*string*'

原因: 4000 文字を超える名前を参照するクラスを作成しようとしてしました。名前が長すぎるため、クラスが作成できませんでした。

処置: 定義を調整してください。

ORA-29526 Java クラス *string"string"* を作成しました。

原因: 情報メッセージです。エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29527 Java ソース *string"string"* を作成しました。

原因: 情報メッセージです。エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29528 トリガー *string* の Java コールが無効です

原因: トリガーに指定された Java メソッドが存在しないか、使用中としてコールできません。

処置: トリガー定義を調整してください。

ORA-29529 関数またはメソッド・コール *string* (トリガー *string*) が無効です

原因: Java トリガー・コール式に指定された関数またはメソッドが解決できません。

処置: トリガー定義を調整してください。

ORA-29530 *string* の短縮名を作成できませんでした

原因: 短縮名変換表への挿入に失敗しました。

処置: 挿入を再試行してください。

ORA-29531 メソッド *string* はクラス *string* にはありません。

原因: Java クラスに存在しないメソッドを実行しようとしてしました。

処置: コールを調整するか、指定されたメソッドを作成してください。

ORA-29532 不明な Java 例外で Java コールが終了しました: *string*

原因: Java 例外またはエラーが通知され、Java コードによって解決できませんでした。

処置: この動作を意図していない場合、Java コードを変更してください。

ORA-29533 クラスまたはリソース *string* を上書きしようとしてしました (*string.string* の定義またはコンパイル中)。

原因: SQLJ ソースで定義されたクラスまたはリソースが、既存のオブジェクトと競合しています。

処置: 既存のオブジェクトを削除するか、SQLJ ソースを変更してください。

ORA-29534 参照したオブジェクト *string.string* を解決できませんでした

原因: ネーム・リゾルバが、示されたオブジェクトは参照されたが、解決できなかったと判断しました。

処置: 参照クラスのネーム・リゾルバまたはアドレス解決問題を修正するか、そのソースのコンパイル問題を修正してください。

ORA-29535 ソースを再度コンパイルする必要があります

原因: 現行のクラス・オブジェクトが無効だった理由は、コンパイル側のソース・オブジェクトとともに記録されます。

処置: ソース・オブジェクトでエラーを検査し、必要な対処措置を行ってください。

ORA-29536 ソースの形式が正しくありません: *string*

原因: 定義されたクラスを判断するための解析を、適切に行えなかったテキストがある Java ソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: ソースのエラーを修正してください。

ORA-29537 クラスまたはリソースは直接作成または削除できません。

原因: 既存の Java ソース・オブジェクトのコンパイルからの結果で確認されている Java クラスまたはリソースを、作成または削除しようとしてしました。

処置: ソースを処理してクラスまたはリソースを処理するか、ソースを変更して、クラスまたはリソースを定義しないようにしてください。

ORA-29538 Java がインストールされていません。

原因: Java がインストールされていないときに、Java コマンドを使用しようとしてしました。

処置: Java をインストールするか、このコマンドを使用しないでください。

ORA-29539 Java システム・クラスはすでにインストールされています。

原因: Java システム・クラスがすでにインストールされているデータベースの CREATE JAVA SYSTEM コマンドを使用しようとしてしました。

処置: CREATE OR REPLACE JAVA SYSTEM を使用してください。

ORA-29540 クラス *string* が存在しません。

原因: Java メソッド実行プログラムが、示された名前のクラスを見つけられませんでした。

処置: 名前を修正するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29541 クラス *string.string* を解決できませんでした

原因: 以前および現在も正常にコンパイルまたは解決できない Java クラスのメソッドを実行しようとしてしました。

処置: コールを調整するか、クラスを解決可能にしてください。

ORA-29542 クラス *string* はソース *string* ですでに定義されています。

原因: 別の Java ソース・オブジェクトによってすでに定義されたクラスを定義する Java ソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: 古いソースを削除するか、新しいソースを変更してください。

ORA-29543 Java コマンド *string* は実装されていません。

原因: まだ実装されていない Java コマンドを使用しようとしてしました。

処置: このコマンドは使用しないでください。

ORA-29544 型が無効です。

原因: Java エクスポートまたはインポートへのコールの型引数に、認識された値がありませんでした。

処置: 値を修正してください。

ORA-29545 クラスの形式が正しくありません: *string*

原因: Java ベリファイアによって拒否されたバイトコードがある Java クラスを作成しようとしてしました。

処置: 破損したクラス・ファイルから Java クラスを作成しようとした可能性があります。この場合、CREATE を正しいクラス・ファイルで再試行してください。また、このメッセージはリゾルバにおいて「-」を使用した結果であるため、ベリファイアがいくつかのコードが正確かどうかを確認できなかった可能性があります。この場合、クラスをネーム・リゾルバで作成してください。

ORA-29546 リソースの形式が正しくありません: *string*

原因: Java ベリファイアによって拒否されたデータがある Java リソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: データを修正してください。

ORA-29547 Java システム・クラスが使用できません: *string*

原因: まだ存在していないか、無効な Java システム・クラスを要求するコマンドを使用しようとしてしました。

処置: システム・クラスをロードするか、このコマンドを使用しないでください。

ORA-29548 Java システム・クラスからのレポート: *string*

原因: Java システム・クラスを使用するコマンドが Java システム・クラスによってレポートされたエラーのために異常終了しました。

処置: レポートされたエラーを修正してください。

ORA-29549 クラス *string.string* が変更されました。Java のセッション状態は消去されました。

原因: 現行のセッションによって使用中のクラスが再定義または削除され、現行の Java セッション状態を無効にし、それを消去するように要求されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29550 Java のセッション状態は消去されました。

原因: 現行のセッションの Java 状態は一貫性がなくなり、消去されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29551 *string* を Unicode に変換できませんでした

原因: データベース・キャラクタ・セットで書かれた文字列は、Java で使用を要求されたときに、Unicode に変換できませんでした。

処置: 文字列を修正してください。

ORA-29552 検証の警告: *string*

原因: Java ベリファイアに警告を出させたバイトコードがある Java クラス・オブジェクトを作成しようとした。

処置: 破損したクラス・ファイルから Java クラスを作成した可能性があります。この場合、CREATE を正しいクラス・ファイルで再試行してください。また、このメッセージはリゾルバにおいて「-」を使用した結果であるため、ベリファイアがいくつかのコードが正確かどうかを確認できなかった可能性もあります。この場合、クラスをネーム・リゾルバで作成してください。

ORA-29553 使用中のクラス: *string.string*

原因: 現行のコールで使用中の Java クラスを変更しようとした。

処置: このコールで使用中のコードを修正してください。

ORA-29554 メモリー不足状態で Java が未処理です。

原因: このセッションで、リカバリできない Java のメモリー不足状態が発生しました。Java セッション状態は消去されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29555 ここでは Java のソース、クラスまたはリソースを使用できません。

原因: Java のソース、クラスまたはリソースが文中の不適切な位置に指定されています。

処置: 名前が正しいことを確認するか、または削除してください。

ORA-29556 オブジェクト型が変更されました

原因: Java のソース、クラスまたはリソースを指定したデータベース・オブジェクト名は、異なる型のオブジェクト名です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29557 Java システム・クラス *string* は変更できません

原因: Java システム・クラスを変更するコマンドを実行しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29655 USING 句はそのスーパータイプと非互換です。

原因: USING 句の型は、そのスーパータイプと同じか、または互換性がある必要があります。

処置: USING 句がそのスーパータイプと互換性があることを確認してください。

ORA-29656 USING 用のオプションが無効です。

原因: クラスが、USING 用のオプションの値に必要なインタフェースを実装している必要があります。

処置: USING 句がサポートされていることを確認してください。

ORA-29657 EXTERNAL NAME 句で定義したクラスが別のサブタイプで使用されています

原因: スーパータイプが、EXTERNAL NAME と同じ値を持つ既存の型を持っています。

処置: EXTERNAL NAME 句がサブタイプで一意であることを確認してください。

ORA-29658 EXTERNAL NAME 句はそのスーパータイプとの互換性がありません

原因: 型の EXTERNAL NAME 句が、そのスーパータイプの EXTERNAL NAME のサブクラスではありません。

処置: 型の EXTERNAL NAME 句が、そのスーパータイプの EXTERNAL NAME のサブクラスであることを確認してください。

ORA-29659 SQLJ オブジェクト型の検証でデフォルト接続の取得に失敗しました

原因: JDBC デフォルト接続を使用して接続できません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29660 EXTERNAL NAME 句で定義したクラスが見つかりません

原因: データベース内にクラスがロードされていません。

処置: EXTERNAL NAME がデータベースにロードされたクラスに対応することを確認してください。

ORA-29661 EXTERNAL NAME で定義したスーパークラスが見つかりません

原因: データベース内にスーパークラスがロードされていません。

処置: EXTERNAL NAME のスーパークラスがデータベースにロードされていることを確認してください。

ORA-29662 1 つ以上の属性と一致するフィールドが見つかりません

原因: 1 つ以上の属性の EXTERNAL NAME オプションが、定義されたクラスのフィールドに一致しません。

処置: 各属性の EXTERNAL NAME オプションが、定義されたクラスのフィールドに一致することを確認してください。

ORA-29663 1 つ以上の関数と一致するメソッドが見つかりません

原因: 1 つ以上の関数の EXTERNAL NAME オプションが、定義されたクラスのメソッドに一致しません。

処置: 各関数の EXTERNAL NAME オプションが、定義されたクラスのメソッドに一致することを確認してください。

ORA-29664 定義済みタイプのヘルパー・クラスを生成できません

原因: サポートする SQLJ Object Type に使用されるヘルパー・クラスが生成されません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29701 Cluster Manager に接続できません。

原因：Cluster Manager (CM) への接続に失敗したか、または、時間切れです。

処置：CM が起動されていることを確認してください。CM が起動されていない場合は、起動してからデータベースを再起動してください。CM が停止しているか応答がない場合は、Oracle および CM トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29702 Cluster Group Service 操作でエラーが発生しました。

原因：CGS 操作を実行中に予期せぬエラーが発生しました。

処置：LMON プロセスがアクティブであることを確認してください。また、Oracle LMON トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29703 グローバル・エンキュー・サービス操作でエラーが発生しました。

原因：グローバル・エンキュー・サービス操作を実行中に予期せぬエラーが発生しました。

処置：Oracle トレース・ファイルでエラーを確認してください。

ORA-29704 8.1.5 以前のリリースに ACTIVE_INSTANCE_COUNT は指定できません。

原因：クラスタ内のインスタンスの 1 つが Oracle 8.1.5 以前のリリースで実行中に、ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータが指定されました。

処置：ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータを指定せずに、インスタンスを再起動してください。または、すべてのインスタンスを Oracle 8.1.6 以上にアップグレードした後、パラメータを指定してください。

ORA-29705 ACTIVE_INSTANCE_COUNT は *string* で、他のインスタンスの値と互換性がありません。

原因：ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータの値は、クラスタ・データベースのすべての Oracle インスタンスで同一である必要があります。

処置：すべてのインスタンスの初期化パラメータ・ファイルを確認し、ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータの値が同じであることを確認してください。その後、インスタンスを再起動してください。

ORA-29706 パラメータ ACTIVE_INSTANCE_COUNT の値 *string* が正しくありません

原因：ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータは、2 ノードのクラスタ・データベース構成では 1 に設定するか、またはセカンダリ・インスタンスが必要でない場合は未定義である必要があります。

処置：初期化パラメータ・ファイルを確認し、ACTIVE_INSTANCE_COUNT 初期化パラメータの値を修正してください。2 ノードのプライマリ / セカンダリのクラスタ・データベース構成にする場合、この値には 1 を設定してください。それ以外の場合、このパラメータには値を指定しないでください。

ORA-29740 メンバー *number*、グループ・インカネーション *number* により除去されます

原因: このメンバーは、クラスタ・データベースの他のメンバーによってグループから除去されます。その理由は、クラスタ内に通信エラーが含まれる、制御ファイルへのハートビートの発行に失敗したなどです。

処置: クラスタ・グループ内の他のアクティブ・インスタンスのトレース・ファイルで、再構成の原因となるエラーの表示があるかどうかを確認してください。

ORA-29741 IMR はクラスタの全メンバーではなく一部のメンバーに対して有効です

原因: IMR 機能は、このインスタンスではアクティブではありませんが、クラスタ・データベースの他のインスタンスではアクティブです。

処置: すべてのインスタンスの `_imr_active` 初期化パラメータが同じ値であることを確認してください。

ORA-29800 演算子の名前が無効です

原因: 演算子に指定された名前が正しくありません。

処置: 演算子に正しい名前を指定してください。

ORA-29801 RETURN キーワードがありません

原因: RETURN キーワードが指定されていません。

処置: RETURN キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29802 CONTEXT キーワードがありません

原因: CONTEXT キーワードが指定されていません。

処置: CONTEXT キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29803 ANCILLARY キーワードがありません

原因: ANCILLARY キーワードが指定されていません。

処置: ANCILLARY キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29804 DATA キーワードがありません

原因: DATA キーワードが指定されていません。

処置: DATA キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29805 COLUMN キーワードがありません。

原因: COLUMN キーワードが必要です。

処置: COLUMN キーワードを指定するか、別のオプションを指定してください。

ORA-29806 指定したバインドが存在しません

原因: 指定された演算子バインドが存在しません。

処置: 指定された演算子バインドが存在することを確認してください。

ORA-29807 指定した演算子が存在しません

原因: 指定された演算子が存在しません。

処置: 指定された演算子が存在することを確認してください。

ORA-29808 指定した主要演算子バインディングが存在しません

原因: 主要演算子に対して指定したバインディングが存在しません。

処置: 主要演算子に対して指定したバインディングが存在することを確認してください。

ORA-29809 依存するオブジェクトがある演算子は削除できません

原因: 削除しようとする演算子には、依存するオブジェクトがあります。

処置: まず依存するオブジェクトを削除してから DROP OPERATOR コマンドを発行するか、DROP OPERATOR のある FORCE オプションを指定してください。

ORA-29810 演算子の権限が不十分です

原因: ユーザーには、演算子に指定された操作を実行する適切な権限がありません。

処置: 適切な権限をユーザーに付与し、文を再発行してください。

ORA-29811 STATISTICS キーワードがありません

原因: これは、ASSOCIATE コマンドがある有効なオプションではありません。

処置: ASSOCIATE コマンドの後に STATISTICS キーワードを指定してください。

ORA-29812 無効なオブジェクト名が指定されました。

原因: 指定した名前が無効です。

処置: 対応付けの定義が必要なオブジェクトの正しい名前を指定してください。

ORA-29813 関連文でサポートされていないオブジェクト型です。

原因: 指定したオブジェクト型は、関連統計文でサポートされていません。

処置: 関連コマンドがある有効なオブジェクト型を使用してください。

ORA-29814 USING または DEFAULT キーワードを指定してください。

原因: USING または DEFAULT キーワードが必要です。

処置: USING または DEFAULT キーワードを指定してください。

ORA-29815 対応付けられているオブジェクトがありません。

原因: 対応付けが定義されているオブジェクトがありません。

処置: 対応付けが定義されているオブジェクトがすべてあることを確認してください。

ORA-29816 対応付けを解除されているオブジェクトがありません。

原因: 対応付けを解除されているオブジェクトがありません。

処置: 対応付けの解除が必要なオブジェクトがあることを確認してください。

ORA-29817 非関連文でサポートされていないオプションです。

原因: 指定したオブジェクト型は非関連統計文でサポートされていません。

処置: 非関連コマンドでサポートされているオブジェクト型を使用してください。

ORA-29818 列名が正しく指定されていません

原因: 列名には表および列名が含まれる必要があります。

処置: 有効な列名を指定してください。

ORA-29819 デフォルト値は列に関連付けできません。

原因: DEFAULT 値を有効なオプションではない列に関連付けようとした。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-29820 統計型が存在しません。

原因: オブジェクトに対応付けされている統計型が存在しません。

処置: 統計関数を含む型が存在することを確認してください。

ORA-29821 指定した主演算子が存在しません

原因: 指定した主演算子が存在しません。

処置: 主演算子および指定した署名を確認してください。

ORA-29822 オブジェクト型に選択性は指定できません。

原因: 選択性を許可されていない索引または索引型と関連付けようとした。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-29823 分析対象のオブジェクトは表ではありません。

原因: 分析対象のオブジェクトは表ではなく、サポートされていません。

処置: サポートされているオプションのみを指定してください。

ORA-29824 演算子が無効です

原因: この演算子は無効です。

処置: 演算子を削除して再作成してください。

ORA-29825 索引タイプの名前が無効です

原因: 索引タイプ名または索引タイプ・スキーマ名に無効な文字があります。

処置: 名前に有効な文字があり、それが予約語でないことを確認してください。

ORA-29826 FOR キーワードがありません

原因: FOR キーワードを CREATE INDEXTYPE 文に指定する必要があります。

処置: FOR キーワードを使用して、関連する演算子情報を指定してください。

ORA-29827 USING キーワードがありません

原因: USING キーワードおよび対応する実装の詳細を指定する必要があります。

処置: USING キーワードおよび CREATE INDEXTYPE 文に関連する実装の詳細を指定してください。

ORA-29828 実装タイプの名前が無効です

原因: 実装タイプまたは実装スキーマ名が無効です。

処置: 名前に有効な文字があり、それが予約語でないことを確認してください。

ORA-29829 実装タイプが存在しません。

原因: USING 句で指定した実装タイプが見つかりませんでした。

処置: タイプが存在し、ユーザーにこのタイプに対する EXECUTE 権限があることを確認してください。

ORA-29830 演算子が存在しません

原因: 演算子が見つかりませんでした。

処置: 演算子が存在し、ユーザーにこの演算子に対する EXECUTE 権限があることを確認してください。

ORA-29831 演算子バインディングが見つかりません

原因: 演算子に対して指定したバインディングが演算子スキーマ・オブジェクトから見つかりません。

処置: 指定したバインディングがある演算子が存在していることを確認してください。

ORA-29832 依存している索引がある索引型は削除または置換できません。

原因: 1 つ以上の索引が索引タイプに依存しています。

処置: 索引タイプ自体を削除する前に、索引タイプに依存する索引をすべて削除してください。

ORA-29833 索引型が存在しません。

原因: 指定した名前の索引タイプがありません。

処置: 索引タイプに対するパブリック・ビューを使用して、指定した名前の索引タイプが作成されたかどうかを確認してください。

ORA-29834 REF データ型は演算子ではサポートされません

原因: REF データ型を CREATE OPERATOR 文で使用することはできません。

処置: REF データ型のない CREATE OPERATOR 文を再発行してください。

ORA-29835 ODCIGETINTERFACES ルーチンから必要なインタフェースが戻されませんでした

原因: ODCIGetInterfaces ルーチンによって戻された ODCIObjectList には、現行の使用に必要なインタフェースが含まれていません。

処置: ODCIGetInterfaces ルーチンから必要なインタフェースの名前が戻ることを確認してください。

ORA-29836 参照演算子の検証に失敗しました

原因: 参照された演算子の 1 つが、コンパイルできません。

処置: この索引タイプが参照する演算子を再コンパイルしてください。
USER_INDEXTYPE_OPERATORS ビューを使用して、参照された演算子を確認してください。

ORA-29837 実装タイプを実行するには権限が不十分です。

原因: ユーザーには、実装タイプを実行する権限がありません。

処置: 実装タイプの所有者は、適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29838 演算子を実行するには権限が不十分です

原因: ユーザーには、演算子の 1 つを実行する権限がありません。

処置: 演算子の所有者は、適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29839 実装タイプの検証に失敗しました。

原因: 実装タイプをコンパイルできません。

処置: 実装タイプをコンパイルしてください。

ORA-29840 索引型と実装タイプは同じスキーマにはありません。

原因: 索引タイプと実装タイプは別のスキーマにあります。

処置: 索引タイプと実装タイプを同じスキーマに置いてください。

ORA-29841 ALTER INDEXTYPE のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEXTYPE コマンドで無効なオプションを指定しました。

処置: ALTER INDEXTYPE コマンドで有効なオプションを指定してください。

ORA-29842 索引タイプ・インタフェースのバージョン *string* ではオプションはサポートされていません。

原因: 指定した索引タイプ・インタフェースのバージョンでサポートされていないオプションを指定しました。

処置: このオプションを要求しないか、または索引タイプ・インタフェースの正しいバージョンを実装する実装タイプを指定してください。

ORA-29843 索引タイプは少なくとも 1 つの演算子をサポートする必要があります

原因: 索引タイプからすべての演算子を削除しようとしました。

処置: 索引タイプからすべての演算子を削除しないでください。

ORA-29844 指定された演算子名が重複しています

原因: 索引タイプがすでにサポートしている索引タイプに演算子名を追加しようとしました。

処置: 重複している演算子を削除して、コマンドを再試行してください。

ORA-29845 索引タイプは、*string* パーティション表のローカル・ドメイン索引をサポートしません。

原因: 特定のメソッドでパーティション化した表のローカル・ドメイン索引をサポートしていない索引タイプを使用して、CREATE LOCAL DOMAIN INDEX 文を指定しました。

処置: 異なる索引タイプを使用するか、またはグローバル・ドメイン索引を作成してください。

ORA-29846 *string* パーティション表にローカル・ドメイン索引を作成できません。

原因: ドメイン索引がサポートしていないメソッドを使用してパーティション化した表に CREATE LOCAL DOMAIN INDEX 文を指定しました。

処置: パーティション表にグローバル・ドメイン索引を作成してください。

ORA-29847 パーティション索引構成表にローカル・ドメイン索引を作成できません。

原因: パーティション索引構成表に CREATE LOCAL DOMAIN INDEX 文を指定しました。

処置: パーティション索引構成表にグローバル・ドメイン索引を作成してください。

ORA-29848 ODCIINDEXMERGEPARTITION ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexMergePartition ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29849 ODCIINDEXSPLITPARTITION ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexSplitPartition ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29850 ドメイン索引の作成では無効なオプションです

原因: ユーザーが ASC、DESC、SORT、パラレル句、パーティション句、物理属性句などの無効なオプションを指定しました。

処置: ドメイン索引の作成に有効な句を 1 つ指定してください。

ORA-29851 ドメイン索引を複数の列で作成することはできません。

原因：ユーザーが複数の列でドメイン索引を作成しようとしました。

処置：単数の列のみにドメイン索引を作成してください。

ORA-29852 IS キーワードがありません

原因：IS キーワードは、ドメイン索引の索引作成文で指定する必要があります。

処置：IS キーワードを使用して、索引型名を指定してください。

ORA-29853 ドメイン索引の作成に UNIQUE キーワードは使用できません。

原因：ドメイン索引を UNIQUE 属性で作成しようとしました。

処置：CREATE INDEX 文から UNIQUE を削除してください。

ORA-29854 ドメイン索引の作成に BITMAP キーワードは使用できません。

原因：ドメイン索引を BITMAP 属性で作成しようとしました。

処置：CREATE INDEX 文から BITMAP を削除してください。

ORA-29855 ODCIINDEXCREATE ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexCreate ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29856 ODCIINDEXDROP ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexDrop ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29857 ドメイン索引および/または 2 次オブジェクトが表領域に存在します。

原因：2 次オブジェクトまたはドメイン索引（あるいはその両方）を含む表領域を削除しようとしました。

処置：表領域中のすべてのドメイン索引を削除してください。また、この表領域に 2 次オブジェクトを作成したドメイン索引を見つけ、それらを削除してください。その後、表領域を削除してください。

ORA-29858 ODCIINDEXALTER ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexAlter ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29859 ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexTruncate ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29860 ドメイン索引に LOADING のマークが設定されている表は切捨てできません。

原因：表に LOADING のマークが設定されているドメイン索引があります。

処置：進行中の索引 DDL が終了し、索引状態が LOADING 状態から変化することを確認するために待機してください。または、LOADING のマークが設定されているドメイン索引を FORCE オプションで削除してください。

ORA-29861 ドメイン索引には LOADING/FAILED/UNUSABLE のマークが設定されていません。

原因：作成中のドメイン索引、失敗した DLL によって FAILED のマークが設定されたドメイン索引または DDL 操作によって UNUSABLE のマークが設定されたドメイン索引へアクセスしようとしてしました。

処置：指定されたドメイン索引に LOADING のマークが設定された場合は、待機してください。FAILED のマークが設定された場合は、その索引を削除してください。UNUSABLE のマークが設定された場合は、再作成してください。

ORA-29862 非ドメイン索引の削除で FORCE オプションは指定できません。

原因：DROP INDEX FORCE が非ドメイン索引に対して発行されました。

処置：FORCE オプションなしでコマンドを再発行してください。

ORA-29863 ODCIINDEXCREATE ルーチンから警告が戻されました。

原因：警告が ODCIIndexCreate ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定のログ表を参照してください。

ORA-29864 LOADING/FAILED のマークが設定されているドメイン索引の分析はサポートされていません

原因：LOADING または FAILED のマークが設定されているドメイン索引を分析しようとしてしました。

処置：索引に LOADING のマークが設定されている場合は、分析を再試行する前に有効のマークが設定されるまで待機してください。索引に FAILED のマークが設定されている場合は、それを削除するか、再作成して、分析を再試行してください。

ORA-29865 索引タイプが無効です

原因：索引タイプが無効です。

処置：索引タイプを削除して再作成してください。

ORA-29866 索引構成表の列にドメイン索引は作成できません。

原因：索引構成表の列にドメイン索引を作成しようとしてしました。

処置：索引構成表の列にドメイン索引を作成しないでください。

ORA-29867 LONG 列にドメイン索引は作成できません。

原因：LONG データ型の列にドメイン索引を作成しようとした。

処置：LONG 列にドメイン索引を作成しないでください。

ORA-29868 LOADING のマークが設定されたドメイン索引で DDL は発行できません。

原因：LOADING 状態のドメイン索引に DROP/ALTER/TRUNCATE を発行しようとした。

処置：索引操作が終了するまで待つか、DROP INDEX FORCE を発行して索引を削除してください。

ORA-29869 ALTER は FAILED のマークが設定されたドメイン索引の REBUILD なしには発行できません。

原因：FAILED 状態のドメイン索引に DROP/ALTER を発行しようとした。

処置：表を切り捨てて索引に有効のマークを設定するか、または ALTER INDEX REBUILD を実行して索引を再作成してください。

ORA-29870 指定したオプションはドメイン索引の変更時のみ有効です。

原因：非ドメイン索引で ONLINE または PARAMETERS 句が指定されました。

処置：変更に対して正しい構文がある文を再発行してください。

ORA-29871 ドメイン索引に対する変更オプションが無効です。

原因：ドメイン索引の変更に対して無効なオプションを指定しました。

処置：有効なオプションで変更文を再発行してください。

ORA-29872 PARAMETERS 句を指定したオプションと組み合わせることはできません

原因：ユーザーがその他の変更索引オプションと PARAMETERS 句を組み合わせました。

処置：変更に対して正しい構文がある文を再発行してください。

ORA-29873 ODCIINDEXDROP ルーチンから警告が戻されました

原因：警告が ODCIINDEXDROP ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定の警告のログ表を参照してください。

ORA-29874 ODCIINDEXALTER ルーチンから警告が戻されました

原因：警告が ODCIINDEXALTER ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定の警告のログ表を参照してください。

ORA-29875 ODCIINDEXINSERT ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXINSERT ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29876 ODCIINDEXDELETE ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXDELETE ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29877 ODCIINDEXUPDATE ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXUPDATE ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29878 ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンから警告が戻されました

原因：警告が ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー定義の警告のログ表を参照してください。

ORA-29879 同じ索引タイプを使用して、列リスト上に複数のドメイン索引を作成できません

原因：同一の索引タイプを使用して、同じ列リストに複数のドメイン索引を定義しようとしました。

処置：別の索引タイプが使用できるか、または他の列リストに索引を定義できるかどうかを確認してください。

ORA-29880 その列リストは、別のドメイン索引と索引タイプを使用してすでに索引付けされています

原因：分割演算子のない索引タイプを使用して、列リストに複数のドメイン索引を作成しようとしました。

処置：索引タイプの演算子セットを非接続にできるかどうかを確認してください。

ORA-29881 索引タイプの検証に失敗しました

原因：索引タイプをコンパイルできません。

処置：ドメイン索引が参照する索引タイプをコンパイルしてください。

ORA-29882 索引タイプを実行するには権限が不十分です

原因：ユーザーには索引タイプを実行する権限がありません。

処置：索引タイプの所有者は適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29883 列の式にドメイン索引は作成できません。

原因：ユーザーが列リストの式を指定しました。

処置：ドメイン索引には、列リストの単純列のみ指定してください。

ORA-29884 削除される列にドメイン索引が定義されました。

原因: ドメイン索引が存在する列に ALTER TABLE DROP COLUMN が発行されました。

処置: 列を削除する前に、ドメイン索引を削除してください。

ORA-29885 変更される列にドメイン索引が定義されました。

原因: ドメイン索引が存在する列に ALTER TABLE MODIFY COLUMN が発行されました。

処置: 列を変更する前に、ドメイン索引を削除してください。

ORA-29886 ドメイン索引ではサポートされない機能です。

原因: ドメイン索引ではサポートされない機能です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29887 ドメイン索引が表に定義されている場合、行の移動はサポートできません。

原因: ドメイン索引が定義された表に、ALTER TABLE ENABLE ROW MOVEMENT が発行されました。

処置: 行を移動可能にする場合は、ドメイン索引を削除してコマンドを再発行してください。

ORA-29888 行移動が可能な表にドメイン索引は作成できません。

原因: 行移動が可能な表に CREATE DOMAIN INDEX 文が発行されました。

処置: 表での行移動を不可にし、CREATE DOMAIN INDEX 文を再発行してください。

ORA-29900 演算子バインディングが存在しません

原因: 演算子の現行の使用には、バインディングが存在しません。

処置: 演算子の引数を変更して、既存のバインディングのいずれかを一致させるか、新しいバインディングを演算子に追加してください。

ORA-29901 演算子バインディングの基礎となる関数が存在しません

原因: 演算子バインディングの基礎となる関数が存在しません。

処置: 演算子の起動に対応する関数が存在することを確認してください。

ORA-29902 ODCIIndexStart() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexStart ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置: 索引タイプ・コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29903 ODCIIndexFetch() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexFetch ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置：索引タイプ・コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29904 ODCIIndexClose() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexClose ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置：索引タイプ・コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29905 メソッド *string* が型 *string.string* にありません。

原因：要求されたシグネチャがある必要なメソッドには指定した型がありません。

処置：必要なメソッドを型に追加してください。

ORA-29906 索引型 *string.string* が存在しません。

原因：索引型タイプが存在しません。

処置：索引型を作成してください。

ORA-29907 主起動で重複ラベルが見つかりました。

原因：ラベルと同じ番号の演算子の主起動が複数あります。

処置：主起動に固有ラベルを使用してください。

ORA-29908 副演算子に対する主起動がありません

原因：副演算子に対応する主起動がありません。

処置：副演算子と同じラベルがある主起動を追加してください。

ORA-29909 副演算子のラベルがリテラル数値ではありません

原因：副演算子の起動に使用されるラベルがリテラル数値ではありません。

処置：ラベルとしてリテラル数値を使用してください。

ORA-29910 無効なコールバック操作です。

原因：無効なコールバック操作を見つけました。

処置：コールアウトから実行されたすべてのコールバックが、文コンテキストで有効であることを確認してください。

ORA-29911 ODCIIndexStart() ルーチンから NULL のスキャン・コンテキストが返されました

原因：ODCIIndexStart() ルーチンから NULL のスキャン・コンテキストが返されました。

処置：ODCIIndexStart() ルーチンから非 NULL のスキャン・コンテキストが返されることを確認してください。

ORA-29913 *string* コールアウトの実行中にエラーが発生しました。

原因: 指定したコールアウトの実行によってエラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-29914 ODCIGETINTERFACES ルーチンが必須のストリーム・バージョンを戻しません。

原因: ODCIGetInterfaces ルーチンによって戻された ODCIObjectList には、外部表に必須のストリーム・バージョンが含まれていません。

処置: ODCIGetInterfaces ルーチンから必須のストリーム・バージョンが戻ることを確認してください。

ORA-29915 コレクション・オペランドから FOR UPDATE を選択できません

原因: コレクション・オペランドは更新できません。

処置: FOR UPDATE 句を削除してください。

ORA-29925 *string* を実行できません。

原因: 指定された関数が存在しないか、適切なシグネチャがありません。

処置: 適切なシグネチャがある関数を実装してください。

ORA-29926 オブジェクトには関連付けがすでに定義されています。

原因: 関連付けが定義されているオブジェクトには、それに関連付けられている統計型がすでにあります。

処置: オブジェクトの関連付けを解除して、オブジェクトを関連付けてください。

ORA-29927 ODCIStatsCollect / ODCIStatsDelete ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIStatsCollect/ODCIStatsDelete 関数によってエラーが発生しました。

処置: ODCIStatsCollect/ODCIStatsDelete 関数を確認してください。

ORA-29928 DEFAULT SELECTIVITY の指定が重複しています

原因: キーワード DEFAULT SELECTIVITY を指定できるのは1度のみです。

処置: 重複するキーワードを削除してください。

ORA-29929 SCAN キーワードがありません。

原因: スキャン・コンテキストが指定されていません。

処置: SCAN キーワードを指定してください。

ORA-29930 INDEX CONTEXT 句のない COMPUTE ANCILLARY DATA が指定されました。

原因： WITH INDEX CONTEXT 句のない COMPUTE ANCILLARY DATA オプションが指定されました。

処置： WITH INDEX CONTEXT オプションを指定してください。

ORA-29931 指定した関連付けは存在しません

原因： 関連付けの解除を指定された 1 つ以上のオブジェクトには、定義された関連付けが存在しません。

処置： 定義された関連付けがあるオブジェクトを確認して、関連付け解除コマンドを再発行してください。

ORA-29932 削除されている型は統計型です。

原因： いくつかのオブジェクトが削除されている型の統計メソッドを定義しました。

処置： DISASSOCIATE コマンドを使用して関連する対応付けを削除してから、DROP コマンドを再試行するか、DROP TYPE コマンドで FORCE オプションを使用してください。

ORA-29933 対応付けを解除しているオブジェクトに、保存されたユーザー定義統計があります。

原因： 対応付けを解除しているオブジェクトに、収集されたいくつかのユーザー定義統計があります。

処置： ユーザー定義統計を削除してから、DISASSOCIATE コマンドを再発行するか、DISASSOCIATE で FORCE オプションを指定してください。

ORA-29934 対応付けに指定した索引はドメイン索引ではありません。

原因： ドメイン索引でない索引で ASSOCIATE STATISTICS コマンドを発行しました。

処置： ドメイン索引のみで ASSOCIATE STATISTICS WITH INDEXES コマンド発行してください。

ORA-29935 FROM キーワードがありません。

原因： FROM キーワードがありません。

処置： FROM キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29936 NULL 結合は列または索引とのみ許可されます。

原因： 列または索引以外のスキーマ・オブジェクトに対して NULL 句を指定しました。

処置： 列または索引の場合にのみ NULL 句を指定してください。

ORA-29950 ODCIINDEXMERGEPARTITION ルーチンの実行中に警告が発生しました。

原因: ODCIIndexMergePartition ルーチンから警告が戻されました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定のログ表を参照してください。

ORA-29951 ODCIINDEXSPLITPARTITION ルーチンの実行中に警告が発生しました。

原因: ODCIIndexSplitPartition ルーチンから警告が戻されました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定のログ表を参照してください。

ORA-29952 LOADING とマークされたドメイン索引パーティションに DDL を発行できません。

原因: LOADING 状態のドメイン索引に DROP/ALTER/TRUNCATE を発行しようとしてしました。

処置: 索引パーティション操作が終了するまで待つか、DROP INDEX FORCE を発行して索引を削除するか、または ALTER TABLE DROP PARTITION を発行してパーティションを削除してください。

ORA-29953 FAILED とマークされたドメイン索引パーティションで DDL を発行できません

原因: FAILED 状態のドメイン索引パーティションに DROP/ALTER を発行しようとしてしました。

処置: ALTER INDEX REBUILD PARTITION を実行して索引パーティションを再作成するか、または ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION を実行して索引パーティションを VALID とマークします。

ORA-29954 ドメイン索引パーティションは LOADING/FAILED/UNUSABLE とマークされます。

原因: 作成中のドメイン索引、失敗した DLL によって FAILED のマークが設定されたドメイン索引、または DDL 操作によって UNUSABLE のマークが設定されたドメイン索引へアクセスしようとしてしました。

処置: 指定した索引パーティションが LOADING とマークされるかどうかを待機してください。FAILED または UNUSABLE とマークされる場合は、指定した索引パーティションを再作成してください。

ORA-29955 ODCIINDEXEXCHANGEPARTITION ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexExchangePartition ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29956 ODCIINDEXEXCHANGEPARTITION ルーチンの実行中に警告が発生しました。

原因: ODCIIndexExchangePartition ルーチンから警告が戻されました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定のログ表を参照してください。

ORA-29957 *string* 表に機能ベースのドメイン索引を作成できません

原因: サポートされていない CREATE FUNCTION-BASED DOMAIN INDEX 文を指定しました。

処置: サポートされているタイプの表にのみ CREATE FUNCTION-BASED DOMAIN INDEX 文を発行してください。

ORA-29958 ODCIINDEXCREATE ルーチンの実行中に致命的なエラーが発生しました

原因: ODCIIndexCreate ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコーディングされていることを確認してください。

ORA-29959 1 つ以上の索引パーティションに対する *string* ルーチンの実行中にエラーが発生しました

原因: 1 つ以上の索引パーティションに対するルーチンの実行中にエラーが発生しました。

処置: *_IND_PARTITIONS ビューを確認して、FAILED とマークされているパーティションを参照してください。その FAILED な索引パーティションを再作成するか、切り捨ててください。

ORA-29960 行 *string*、*string*

原因: ODCIIndex DLL ルーチンが、表 SYS.ODCI_WARNINGS\$ に警告メッセージを出力しました。

処置: 警告メッセージを確認してください。

ORA-29961 ODCIIndex DDL ルーチンの実行中に発生した警告が多すぎます

原因: ODCIIndex DLL ルーチンの実行中に発生した警告の数が多すぎます。

処置: 表 SYS.ODCI_WARNINGS\$ を問い合せて、さらに警告メッセージを取得してください。

ORA-30000 TRIM で切捨て指定または文字式のどちらもありません

原因: FROM が TRIM 関数で指定されているため、切捨て指定 (TRAILING、HEADING、BOTH) または切捨て文字のいずれか (あるいはその両方) を指定する必要があります。

処置: 切捨て指定 (TRAILING、HEADING、BOTH) または切捨て文字のいずれか (あるいはその両方) を追加してください。

ORA-30001 切捨てセットの文字は1つにする必要があります

原因: 切捨てセットに1文字より多いか、または少ない文字が含まれています。これは、TRIM 関数では許可されていません。

処置: 切捨てセットの文字を1つにしてください。

ORA-30002 ここでは SYS_CONNECT_BY_PATH 関数を使用できません

原因: SYS_CONNECT_BY_PATH 関数が、SELECT リスト以外の場所でコールされています。

処置: SELECT リスト以外の場所の SYS_CONNECT_BY_PATH 関数へのコールを削除してください。

ORA-30003 SYS_CONNECT_BY_PATH 関数のパラメータが正しくありません

処置: 第2引数として空白以外の定数文字列を使用し、操作を再試行してください。

ORA-30004 SYS_CONNECT_BY_PATH 関数を使用する場合は、セパレータを列値の一部として使用できません

処置: 列値で使用されていない他のセパレータを使用して、再試行してください。

ORA-30005 WAIT 間隔がないか無効です。

原因: WAIT キーワードの後の WAIT 間隔（秒単位）に、0（ゼロ）でない整数を指定する必要があります。

処置: 構文を修正して、再試行してください。

ORA-30006 リソース・ビジー;期限切れの WAIT タイムアウトで取得してください。

原因: 要求したリソースはビジーです。

処置: 時間をおいてから操作を再試行してください。

ORA-30012 取消表領域 '*string*' は存在しないか間違ったタイプです。

原因: 指定した UNDO 表領域が存在しないか、または誤ったタイプです。

処置: 表領域名を修正してから、文を再発行してください。

ORA-30013 取消表領域 '*string*' は使用中です

原因: 指定した UNDO 表領域は、現在別のインスタンスによって使用されています。

処置: UNDO 表領域が使用可能になるまで待つか、別の名前に変更し、文を再発行してください。

ORA-30014 Automatic Undo Management モードでの操作のみがサポートされています

原因: 操作は、Automatic Undo モードでのみサポートされています。

処置: Automatic Undo Management モードでインスタンスを再起動してから、操作を再試行してください。

ORA-30015 以前にオフラインにされた取消表領域 '*string*' がまだペンディングです。

原因：現在の操作は、アクティブ・トランザクションを含む UNDO 表領域が以前の SWITCH UNDO 操作からペンディングであるために許可されていません。操作は、以前の UNDO 表領域のすべてのトランザクションがコミットされた後に許可されます。

処置：以前のすべてのトランザクションがコミットされるまで待つてから、現在の文を再発行してください。

ORA-30016 取消表領域 '*string*' はすでにこのインスタンスで使用されています

原因：指定した UNDO 表領域は、現在このインスタンスによって使用されています。操作は失敗しました。

処置：指定した UNDO 表領域名が不適切な場合は、適切な名前で文を再発行してください。

ORA-30017 セグメント '*string*' は *string* Undo Management モードではサポートされていません

原因：指定した UNDO セグメントのタイプは、インスタンスの現行の Undo Management モードとは互換性がありません。

処置：UNDO セグメント名および Undo Management モードを確認して、必要に応じて、文を再発行してください。

ORA-30018 CREATE ROLLBACK SEGMENT が失敗しました。USN*string* が範囲外です。

原因：システムが UNDO セグメント番号をすべて使用しました。UNDO セグメントが多すぎます。

処置：いくつかの未使用の UNDO セグメントを削除してから、操作を再試行してください。

ORA-30019 Automatic Undo モードのロールバック・セグメント操作は無効です

原因：この操作は、Manual Undo モードでのみ許可されます。

処置：Manual Undo_Management モードでインスタンスを再起動して、操作を再試行してください。

ORA-30020 UNDO_MANAGEMENT=AUTO には互換性 *string* 以上が必要です

原因：Auto Undo Management モードは、指定した互換リリースでは許可されません。

処置：現行の互換リリースでインスタンスを再起動してください。

ORA-30021 取消表領域では操作はできません。

原因：この操作は、UNDO 表領域では使用できません。

処置：表領域名を確認し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

ORA-30022 取消表領域にはセグメントを作成できません。

原因: UNDO 表領域中にはセグメントを作成できません。

処置: 表領域名を確認して、コマンドを再発行してください。

ORA-30023 取消表領域の指定が重複しています。

原因: データベース作成中に 1 つ以上の UNDO 表領域を作成できません。

処置: コマンドを修正して、UNDO 表領域を 1 つのみ指定してください。

ORA-30024 CREATE UNDO TABLESPACE の指定が無効です。

原因: CREATE UNDO TABLESPACE で使用するべきではない句を指定しました。

処置: コマンドから句を削除して、再発行してください。

ORA-30025 DROP セグメント '*string*' (取消表領域) は使用できません

原因: 明示的な DROP 操作は、UNDO 表領域セグメントでは使用できません。

処置: UNDO セグメント名を確認し、必要に応じて文を再発行してください。

ORA-30026 取消表領域 '*string*' に期限切れになっていない取消しがあります。残り *string* (秒)、UNDO_RETENTION=*string* (秒)

原因: 期限切れの UNDO 情報を含む表領域を削除しようとしてしました。

処置: UNDO_RETENTION の設定を低くするか、または少し待ってから、UNDO 表領域を削除するコマンドを再発行してください。

ORA-30027 取消割当て違反 - *string* (バイト) の取得に失敗しました

原因: このセッションのコンシューマ・グループに割り当てられた UNDO の量を超えました。

処置: データベース管理者に依頼して UNDO 割当て量を増やしてもらうか、または他のトランザクションがコミットされるまで待ってください。

ORA-30029 アクティブ取消表領域がインスタンスに割り当てられていません。

原因: 現行のインスタンスでは、トランザクションを実行するためにアクティブ UNDO 表領域が割り当てられていません。

処置: データベース管理者に依頼して UNDO 表領域を作成してもらい、UNDO 表領域をオンラインにして、操作を再試行してください。

ORA-30031 一時停止された (再開可能) 文が異常終了しました

原因: データベース管理者またはユーザーが、再開可能セッションで一時停止された文の実行を異常終了しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30032 一時停止された（再開可能）文がタイムアウトになりました

原因：修正可能なエラーが再開可能セッションに通知され、そのエラーがタイムアウト間隔内で消去されませんでした。

処置：タイムアウト内で修正可能なエラーを修正してください。デフォルトは2時間です。または、（再開可能）タイムアウトを増やしてください。

ORA-30033 取消表領域はデフォルトのユーザー表領域として指定できません。

原因：デフォルト・ユーザー表領域としての UNDO 表領域の指定は不適切です。

処置：表領域名を確認して、コマンドを再発行してください。

ORA-30034 取消表領域は一時表領域として指定できません。

原因：UNDO 表領域は、ユーザーのデフォルト一時表領域として指定できません。

処置：表領域名を確認して、コマンドを再発行してください。

ORA-30035 取消表領域はデフォルトの一時表領域として指定できません。

原因：UNDO 表領域は、データベースのデフォルト一時表領域として指定できません。

処置：表領域名を確認して、コマンドを再発行してください。

ORA-30036 *string*（取消表領域 '*string*' 内）でセグメントを拡張できません

原因：指定した UNDO 表領域には、使用可能な領域がこれ以上ありません。

処置：UNDO 表領域に領域を追加して、操作を再試行してください。または、アクティブ・トランザクションがコミットされるまで待機してください。

ORA-30037 オブジェクトでは、前の DML の後に並行 DML を実行できません

原因：同じトランザクション内の同じオブジェクトで、別の DML の後にパラレル DML を実行しようとしてしました。

処置：ビットマップ・セグメントを使用して、同じオブジェクトで複数の（パラレル）DML 操作を実行してください。または、コミットしてから DML を実行してください。

ORA-30038 非パーティション・オブジェクトでは、並行挿入を実行できません

原因：同じトランザクション内のオブジェクトで、前の DML の後に非パーティション・オブジェクトにパラレル INSERT を実行しようとしてしました。

処置：コミットしてから INSERT を実行してください。

ORA-30039 取消表領域を削除できません

原因：使用中の UNDO 表領域は削除できません。

処置：異なる UNDO 表領域に切り替えてから、削除してください。

ORA-30040 取消表領域はオフラインです

原因：オフラインの UNDO 表領域では操作できません。

処置：UNDO 表領域をオンラインにして、操作を再試行してください。

ORA-30041 表領域に割当て制限を付与できません

原因: UNDO 表領域に割当て制限を付与しようとした。

処置: 表領域名を確認して、コマンドを再発行してください。

ORA-30042 取消表領域をオフラインにできません

原因: 使用中の UNDO 表領域はオフラインにできません。

処置: 異なる UNDO 表領域に切り替えてから、オフラインにしてください。

ORA-30043 無効な値 '*string*' がパラメータ 'Undo_Management' に指定されました

原因: 指定した Undo Management モードは無効です。

処置: 初期化パラメータ・ファイルのパラメータ値を修正して、操作を再試行してください。

ORA-30071 日時 / 間隔と文字列の間の変換は失敗します。

原因: 次のいずれかの原因によって、datetime/interval と文字列データ型の間の変換中にエラーが発生しました。

- バッファが小さすぎて、結果を保持できない。
- フォーマット文字列が正しくない。

処置: 問題を修正して再試行してください。

ORA-30072 タイム・ゾーンの値が無効です

原因: ALTER SESSION 文、環境変数 ORA_SDTZ または datetime 係数で使用するタイム・ゾーン文字列に指定した値が有効ではありません。

処置: 有効なタイム・ゾーン値を指定してください。

ORA-30073 無効な設定値です

原因: 値が、ADJUST、NO_ADJUST、ANSI_DATE、ADJUST_WITH_ANSI_DATE のいずれでもありません。デフォルトは、NO_ADJUST です。

処置: 4 つのうちのいずれかを設定してください。

ORA-30074 TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での GLOBAL パーティション索引は許可されません

原因: TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での索引に GLOBAL パーティション化が行われようとした。

処置: TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での索引に GLOBAL パーティション化を行わないでください。

ORA-30075 TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE リテラルは CHECK 制約での指定が必要です。

原因: タイム・ゾーンを明示的に指定していないタイム・ゾーン列の有無に関係なく、タイムまたはタイムスタンプに制約が作成されようとなりました。

処置: タイム・ゾーン・リテラルのみを指定したタイムまたはタイム・スタンプを使用してください。

ORA-30076 抽出ソースの抽出フィールドが無効です

原因: 抽出ソースに指定した抽出フィールドが含まれていません。

処置: 抽出ソースに有効な抽出フィールドを指定してください。

ORA-30077 指定した日時型の間の計算が正しくありません。

原因: 指定した `datetime` 型間の型変換ができません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30078 パーティション・バウンドには TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE リテラルが必要です

原因: 書式に `TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE` 列のタイム・ゾーンが明示的に指定されていないタイム / タイムスタンプ式が使用されようとなりました。

処置: `TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE` リテラルを明示的に使用してください。

ORA-30081 datetime/interval の計算を行うにはデータ型が正しくありません。

原因: オペランドのデータ型は `datetime/interval` の算術に有効ではありません。

処置: `datetime/interval` の算術に有効なデータ型を指定してください。

ORA-30082 秒数または先行フィールドの精度を下げるには、変更する datetime/inteval 列が空である必要があります

原因: 既存のデータを持つ日付 `datetime/interval` の列が、秒数または先行フィールドの精度が下がるように変更されています。

処置: このような列でできるのは、精度を上げることのみです。

ORA-30083 interval 値の式に構文エラーがあります。

原因: `interval` 値の式を解析中に構文エラーがありました。

処置: 構文を修正してください。

ORA-30084 タイム・ゾーン修飾子を持つ datetime 主キーのデータ型は無効です

原因: タイム・ゾーン修飾子を指定するときは、`datetime primary` のデータ型は `TIME`、`TIME WITH TIME ZONE`、`TIMESTAMP`、`TIMESTAMP WITH TIME ZONE` のうちの 1 つである必要があります。

処置: 有効なデータ型を指定してください。

ORA-30085 オーバーラップ述語中に構文エラーが見つかりました

原因: オーバーラップ述語を解析中に構文エラーがありました。

処置: 構文を修正してください。

ORA-30086 datetime の減算の結果として年月間隔を使用することはできません。

原因: datetime の減算の結果として INTERVAL YEAR TO MONTH を指定しようとしてしました。

処置: この interval 型の SQL 標準の仕様が不明瞭なため、これは現在許可されていません。interval 型を INTERVAL DAY TO SECOND に変更して、文を再発行してください。

ORA-30087 2 つの datetime 値を加算することはできません。

原因: 2 つの datetime 値を加算しようとしてしました。

処置: この加算を行わないでください。

ORA-30088 datetime/interval の精度が範囲外です

原因: 指定した datetime/interval の精度が 0 ～ 9 の間の値ではありませんでした。

処置: datetime/interval の精度には 0 ～ 9 の間の値を使用してください。

ORA-30089 datetime field が無効か、または指定されていません。

原因: 存在するはずの datetime フィールド (YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND) が見つからないか、interval 修飾子の終了フィールドに指定された datetime フィールドは、その開始フィールドより重要です。

処置: 有効な datetime フィールドを指定してください。

ORA-30100 内部エラー [number]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

ORA-30101 不明なパラメータ名です。'string'

原因: パラメータ名の綴りが誤っています。

処置: パラメータ名の綴りを修正してください。

ORA-30102 string' は 'string' に対して有効範囲外にあります

原因: パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置: このパラメータの有効値については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30103 string' は 'string' に対して無効な整数基数です。

原因: 無効な整数基数の指定が見つかりました。

処置: 整数基数の指定は、d、h、D および H のみで行ってください。

ORA-30104 'string' は 'string' に対して無効な整数です。

原因: 値が有効な整数ではありません。

処置: このパラメータに有効な整数のみを指定してください。

ORA-30105 string は 'string' に対して無効なブールです

原因: 値が有効なブール値ではありません。

処置: 有効なブール値については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30106 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは今後のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30107 パラメータ名の略称 'string' が一意ではありません。

原因: 指定された略称が一意ではありませんでした。

処置: より長い略称を使用して、パラメータ名を一意にしてください。

ORA-30108 位置パラメータ値 string が無効です。

原因: 無効な位置パラメータが入力されています。

処置: 無効な位置パラメータを削除してください。

ORA-30109 パラメータ・ファイル 'string' をオープンできませんでした

原因: パラメータ・ファイルが存在しません。

処置: 適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

ORA-30110 'string' で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30111 値 'string' の右引用符がありません。

原因: 引用符付き文字列が開始されましたが、終了されていません。

処置: 正しい位置に右引用符を記述してください。

ORA-30112 パラメータ 'string' に複数の値を指定できません

原因: 1つの値のみをとるパラメータに複数の値を指定しようとしました。

処置: このパラメータには複数の値を指定しないでください。

ORA-30113 ファイル 'string' の処理中にエラーが発生しました

原因: このファイルの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30114 コマンドラインの処理中にエラーが発生しました。

原因: コマンド・ファイルの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30115 環境変数の処理中にエラーが発生しました。

原因: 環境変数の処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30116 *string* ('*string*' に続く) で構文エラーが発生しました

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30117 入力の開始で '*string*' に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30118 入力の終わりで '*string*' に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30119 '*string*' に対する有効な値が取得できません。

原因: このパラメータに有効な値が取得できませんでした。

処置: アプリケーションを再実行し、有効な値を入力してください。

ORA-30120 *string* は '*string*' に対して無効な Oracle 番号です

原因: この値は、有効な Oracle number ではありません。

処置: 有効な Oracle number の値については、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30121 '*string*' は '*string*' の値に使用できません。

原因: パラメータの値が有効ではありません。

処置: 有効な値については、ドキュメントを参照してください。

ORA-30122 値 '*string*' ('*string*' の) は必ず '*number*' から '*number*' の間にする必要があります

原因: パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置: 有効範囲内の値を指定してください。

ORA-30129 関数に無効な引数が渡されました。

原因：関数に無効な引数が渡されました。

処置：関数コールを確認して、正しい引数が渡されるようにしてください。

ORA-30130 関数に無効なパラメータ・キー型が渡されました。

原因：関数に無効なパラメータ・キー型が渡されました。

処置：関数コールのパラメータ・キー型を確認してください。

ORA-30131 設定しているキーの数が割当てを超過しています

原因：設定しているパラメータ・キーの数が割当て数を超えています。

処置：設定しているキーの数を減らすか、割当て数を増やしてください。

ORA-30132 無効なキー索引が指定されました。

原因：指定したキー索引がバウンド内にありませんでした。

処置：キー索引を変更して、バウンド内に入るようにしてください。

ORA-30135 OCI スレッド操作に失敗しました

原因：OCI スレッド関数コールに失敗しました。

処置：関数コールを確認し、確実に正しいパラメータを渡して適切な処理をしてください。

ORA-30150 OCIFile 関数に無効な引数が渡されました。

原因：OCIFile 関数に無効な引数が渡されました。最も一般的な原因は、非 NULL ポインタが渡されるべきところに NULL ポインタが渡されたことです。

処置：引数として渡された値が有効かどうかを確認してください。NULL ポインタを確認してください。

ORA-30151 ファイルがすでに存在します

原因：OCI_FILE_EXCL フラグでファイルを開こうとしましたが、そのファイルはすでに存在しています。

処置：この場合、OCIFile がこの例外を投げたと考えられます。

ORA-30152 ファイルが存在しません

原因：OCIFile 関数にはファイルが必要ですが、ファイルが存在しません。

処置：ファイルが存在するかを確認してください。

ORA-30153 無効なファイル・オブジェクトが OCIFile 関数に渡されました。

原因：OCIFile 関数に無効なファイル・オブジェクトが渡されました。

処置：ファイル・オブジェクトが有効なものであることを確認してください。必要に応じて、OCIFileOpen をコールして、新しいファイル・オブジェクトを作成してください。

ORA-30154 OCIFileRead/Write のバッファとして指定されたメモリー・アドレスが無効です。

原因: 無効なメモリー・アドレスがバッファ・ポインタとして OCIFileRead/Write に渡されました。

処置: 必要なメモリーが割り当てられているかどうかを確認して、有効なメモリー・アドレスをバッファ・ポインタとして渡してください。

ORA-30155 OCIFile 関数コール中に I/O エラーが発生しました。

原因: システム・レベルで I/O エラーが発生しました。

処置: これはシステム・エラーで、処理はエラーによって異なります。

ORA-30156 ディスク領域不足です。

原因: 使用しているファイル・システムのディスクが一杯です。

処置: ディスク領域を増加してください。

ORA-30157 無効な引数がオペレーティング・システム・コールに渡されました。

原因: オペレーティング・システム・コールが無効な引数でコールされました。

処置: 渡された値を確認してください。問題が解決できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30158 OCIFileWrite でファイルが最大許容サイズを超過しました

原因: ファイルに書き込む領域がありません。サイズが最大限度に達しました。

処置: 可能な場合、ファイルの最大サイズを上げてください。

ORA-30159 OCIFileOpen: ファイルを作成できないか、要求されたモードでオープンできません。

原因: ファイルが作成される OCIFileOpen で作成フラグが指定されましたが、作成できません。または、ファイルがすでに存在しているが、その権限が要求されたオープン・モードでのファイルのオープンを許可しません。

処置: ユーザーに指定されたファイルを作成する権限があるか、またファイルが存在する場合、その権限が要求されたオープン・モードを許可しているかを確認してください。

ORA-30160 ファイルにアクセスできません。

原因: この関数は、既存のファイルにアクセスできませんでした。

処置: ユーザーにファイルに要求される権限があることを確認してください。

ORA-30161 OCIFile 関数コール中にシステム・エラーが発生しました。

原因: OCIFile 関数実行中にシステム・エラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージを調べ、解決してください。

ORA-30162 OCIFile コンテキストが初期化されていません。

原因：OCIFile 関数をコールする前に、関数 OCIFileInit をコールして、OCIFile コンテキストを初期化する必要があります。

処置：その他の OCIFile 関数をコールする前に、関数 OCIFileInit をコールしてください。

ORA-30163 スレッド・セーフティの初期化に失敗しました。

原因：SlgInit へのコールが OCIFileInit で失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30175 引数に無効な型があります。

原因：引数リストに無効な型の引数があります。

処置：引数に正しい型ラッパーを使用してください。

ORA-30176 文字列のフォーマットに無効な書式コードがあります。

原因：文字列のフォーマットに無効な書式コードがあります。

処置：無効な書式コードを有効な書式コードに置き換えてください。

ORA-30177 フォーマット指定に無効なフラグがあります

原因：フォーマット指定に無効なフラグがあります。

処置：無効なフラグを有効なフラグに置き換えてください。

ORA-30178 フォーマット指定に重複しているフラグがあります

原因：フォーマット指定に重複しているフラグがあります。

処置：重複するフラグを削除してください。

ORA-30179 書式コードに無効な引数索引があります。

原因：ゼロ (0)、または負の引数索引または索引が (の前にあります。

処置：無効な引数を有効な引数に置き換えてください。

ORA-30180 引数索引が大きすぎます

原因：引数の索引が、指定された引数の実際の数を超えています。

処置：書式文字列を修正して、追加の引数を渡してください。

ORA-30181 引数索引の整数の直後に右括弧 ')' がありません

原因：引数の索引に閉じカッコがありません。

処置：書式指定を修正してください。

ORA-30182 精度指定子が無効です。

原因：有効な書式が後に続かないピリオドが書式指定にあります

処置：無効な精度指定子を有効な精度指定子に置き換えてください。

ORA-30183 フィールド幅指定子が無効です。

原因：無効なフィールド幅指定が指定されました。

処置：無効なフィールド幅を有効なフィールド幅に置き換えてください。

ORA-30184 引数型が書式コードと矛盾します。

原因：書式コードに不正な引数の型が指定されました。

処置：書式および引数を互換性があるようにしてください。

ORA-30185 出力が大きすぎるためバッファに格納できません。

原因：バッファが出力文字列全体を保持できるほど大きくありません。

処置：渡されたバッファのサイズおよび長さを修正してください。

ORA-30186 '\ ' の次には 16 進文字 4 つか、または '\ ' がもう 1 つ続く必要があります。

原因：SQL 関数 UNISTR の引数では、'\ ' の次には 16 進数文字 4 つか、または '\ ' がもう 1 つ続く必要があります。

処置：文字列フォーマットを修正してください。

ORA-30187 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30188 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30189 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30190 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30191 引数リストが見つかりません。

原因：引数リストが指定されていません。

処置：引数リストを変更して、少なくともそれに OCIFormatEnd があるようにしてください。

ORA-30192 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30193 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30194 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30195 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30196 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30197 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30198 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30199 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは今後のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30200 無効な NLS 項目が OCINlsGetInfo() に渡されました。

原因：この項目は NLS 項目にサポートされていません。

処置：OCINlsGetInfo() に渡される項目番号を修正してください。

ORA-30201 NLS データ・オブジェクトをロードできません。

原因：このエラーは、無効な NLS 環境設定により発生することがあります。

処置：ORA_NLS33 などの NLS 環境設定を確認してください。

ORA-30202 OCIMsg 関数に OCIMsgh への NULL ポインタが渡されました。

原因：NULL ポインタが渡されました。

処置：OCIMsgh ポインタの値を確認してください。

ORA-30203 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因：メッセージがシステムに存在していない可能性があります。

処置：指定された製品および機能を確認してください。

ORA-30331 サマリーが存在しません。

原因：存在しないサマリー名が指定されました。

処置：サマリー名の綴りを確認してください。

ORA-30332 コンテナ表は別のサマリーですすでに使用されています。

原因：別のサマリーがこの表をコンテナ表として使用しています。

処置：このサマリーに別の表またはマテリアライズド・ビューをコンテナ表として指定してください。

ORA-30333 ディメンションが存在しません。

原因：ディメンション DDL 文で指定されたディメンションが存在しません。

処置：ディメンション名の綴りを確認してください。

ORA-30334 ディメンション・レベル名が無効です。

原因：ディメンション DDL 文のレベル名が SQL 識別子のルールに準拠していません。

処置：英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下のレベル名を使用してください。

ORA-30335 JOIN KEY 句はこの階層以外のレベルを参照します。

原因：ディメンション DDL 文の JOIN KEY 句の REFERENCES 部分で指定したレベル名は、JOIN KEY 句を含む階層のレベルを参照しません。

処置：レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30336 指定した JOIN KEY に子はありません。

原因：ディメンション DDL 文の JOIN KEY 句の REFERENCES 部分に指定したレベルには、子レベルがありません。

処置：JOIN KEY 句で参照されたレベル名の綴りを確認してください。参照するレベルが階層の最初のレベルである場合、JOIN KEY 句を指定してはいけません。

ORA-30337 同じ親レベルに対して複数の JOIN KEY 句が指定されました。

原因: ディメンション階層に指定された親レベルに、複数の JOIN KEY が指定されました。

処置: 各 JOIN KEY 句を階層で参照されたレベルと一致させてください。重複している JOIN KEY 句を排除してください。

ORA-30338 ディメンション階層名が無効です。

原因: 無効なディメンション階層名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: ディメンション階層名が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下であることを確認してください。ディメンション階層名を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30339 ディメンション属性名が無効です。

原因: 無効なディメンション属性名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: ディメンション属性名が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下であることを確認してください。ディメンション属性名を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30340 ディメンション名が無効です。

原因: 無効なディメンション名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: ディメンション名が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下であることを確認してください。ディメンション名を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30341 削除されたレベルに参照があります。

原因: レベルへの参照がディメンションに存在するにもかかわらず、ディメンションのデフォルトまたは RESTRICT オプションを使用して、レベルを削除しようとして、参照がディメンション内の階層および属性で発生する可能性があります。

処置: レベルを削除する前にレベルへの参照をすべて削除するか、CASCADE オプションを DROP LEVEL 句で指定してください。

ORA-30342 このディメンションには参照レベルが定義されていません。

原因: ディメンション内に定義されなかったレベルへの参照が見つかりました。

処置: レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30343 レベル名がこのディメンション内で一意ではありません。

原因: 2 つ以上のレベルを同じ名前前で定義しました。

処置: レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30344 子の列数が親レベルの列数と異なります。

原因: JOIN KEY 句で指定した子の列数が、指定した親レベルの列数と異なります。

処置: 子の列および参照される親レベルの定義の列を確認して、矛盾を修正してください。

ORA-30345 循環的ディメンション階層です

原因: 循環がディメンション階層に見つかりました。

処置: 複数発生するレベル名の階層を確認してください。

ORA-30346 階層名はディメンション内で一意である必要があります

原因: 同じ名前がディメンションの複数の階層に使用されました。

処置: 階層名の綴りを確認してください。

ORA-30347 列指定を修飾するには表名が必要です

原因: 列が表名によって修飾される必要がある列指定で、表名が省略されました。

処置: 列を表名で修飾してください。

ORA-30348 ADD と DROP の両方は指定できません。

原因: 1 つ以上の DROP 句がある同じ ALTER DIMENSION 文に、1 つ以上の ADD 句が発見されました。

処置: ADD 操作を 1 つの ALTER DIMENSION 文に、DROP 操作を別の文に分けてください。

ORA-30349 指定したディメンション階層が存在しません。

原因: ディメンション内に定義されていない階層名が見つかりました。

処置: 階層名の綴りを確認してください。

ORA-30350 指定したディメンション属性が存在しません。

原因: ディメンション内に定義されていない属性名が見つかりました。

処置: 属性名の綴りを確認してください。

ORA-30351 問合せのリライトは、現在この式をサポートしていません

原因: クエリー・リライトに現在サポートされていない複雑な式が指定されました。

処置: 式をより単純にしてください。

ORA-30352 数値精度または文字列の長さに一貫性がありません

原因: SELECT 式は、対応するコンテナ列と異なる数値精度または文字列の長さです。このため、クエリー・リライトは、リライトしないクエリーで取得した結果と同じ結果を保証できません。

処置: 精度または文字列の長さの違いを修正するか、WITH REDUCED PRECISION オプションを指定するか、またはマテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用不可にしてください。

ORA-30353 式は問合せのリライトでサポートされていません

原因: 選択句が UID、USER、ROWNUM、SYSDATE、CURRENT_TIMESTAMP、MAXVALUE、順序番号、バインド変数、相関変数、セット結果、トリガー戻り変数、パラレル表キュー列、コレクション・イテレータなどを参照しました。

処置: 無効な式を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用不可にしてください。

ORA-30354 問合せのリライトは SYS リレーションではできません

原因: SYS リレーションが、クエリー・リライトがあるマテリアライズド・ビューの選択句で参照されました。

処置: 選択句から SYS リレーションへの参照を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用不可にしてください。

ORA-30355 マテリアライズド・ビュー・コンテナが存在しません。

原因: DROP TABLE コマンドが、マテリアライズド・ビュー・コンテナ表に対して直接発行されました。

処置: DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用して、マテリアライズド・ビューの残されたメタデータをクリーンアップしてください。次に、CREATE MATERIALIZED VIEW 文を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。その後、DROP TABLE コマンドではなく DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを削除してください。

ORA-30356 指定したリフレッシュ・メソッドは、このコンテキストではサポートされていません。

原因: 指定されたリフレッシュ・メソッドが現在サポートされていません。

処置: 別のリフレッシュ・メソッドを指定するか、コンテキストを変更して、選択するリフレッシュ・メソッドをサポート可能にしてください。

ORA-30357 この PL/SQL ファンクションは、問合せのリライトでサポートできません

原因: 文が、DETERMINISTIC のマークが設定されていないファンクションを参照しました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- PL/SQL ファンクションの使用を削除する。
- PL/SQL ファンクションに DETERMINISTIC のマークを設定する。
- マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用不可にする。

入力引数値の指定されたセットの同じ結果値を常に戻す場合のみ、ファンクションに DETERMINISTIC とマークしてください。意味のある副次効果がある場合、ファンクションに DETERMINISTIC とマークしないでください。

ORA-30358 サマリー・ビューとマテリアライズド・ビューが同一のスキーマにありません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30359 問合せのリライトは、SYS マテリアライズド・ビューでサポートされていません

原因: SYS スキーマのマテリアライズド・ビューで、REWRITE オプションを使用可能にしようとしてしました。

処置: 別のスキーマにマテリアライズド・ビューを作成するか、REWRITE オプションを使用不可にしてください。

ORA-30360 REF は、問合せのリライトでサポートされていません

原因: この文は REF 演算子を含んでいました。リピータブルな動作は REF 演算子で保証できません。このため、クエリー・リライトは REF 演算子をサポートできません。

処置: REF 演算子への参照を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用不可にしてください。

ORA-30361 文字列型を認識できません

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30362 ディメンション列は連続にできません。

原因: ディメンション文が、連続する列を参照しました。

処置: 連続への参照を削除してください。

ORA-30363 ディメンション列リスト内の列は同一リレーション内ある必要があります

原因: ディメンション文に、すべての列が同一のリレーションからでない列リストが含まれました。

処置: 単一リレーションからの列のみを使用して列のリストを指定してください。

ORA-30364 このレベルには、別のレベルと同一の列セットがあります。

原因: レベル定義には、別のレベルと同一の列セットがあります。

処置: 重複しているレベル定義を排除してください。

ORA-30365 JOIN KEY 句左側のリレーションは右側と同じにはできません。

原因: JOIN KEY 句左側の子列のリレーションが、右側の親レベルのものと同じでした。

処置: JOIN KEY 句を削除してください。子と親が同じリレーションにある場合、要求または許可されません。

ORA-30366 子の JOIN KEY 列が子のレベルと同じリレーション内にありません。

原因: JOIN KEY 句左側の子列のリレーションが、子レベルのものと異なりました。

処置: JOIN KEY 句に正しい子列を指定してください。

ORA-30367 JOIN KEY 句が必要です。

原因: JOIN KEY 句がディメンション文で省略されました。子レベルと親レベルが同じリレーションにない場合、JOIN KEY 句が必要です。

処置: JOIN KEY 句を指定して、子レベルのリレーションと親レベルのリレーションの結合方法を指定してください。

ORA-30368 ATTRIBUTE は別のリレーションにある列を判断できません。

原因: ディメンション文の ATTRIBUTE 句が、左側のレベルのものと異なるリレーションである右側の判断された列を指定しました。

処置: 同じリレーション内にあるその他の列を機能的に判断するディメンション・レベルのみの属性を指定してください。

ORA-30369 列の最大数は 32 です。

原因: 列のリストが、32 を超える列を使用して指定されました。

処置: 32 以下の列を使用してリストを指定してください。

ORA-30370 演算子の設定はこのコンテキストではサポートされていません

原因: UNION、UNION ALL、INTERSECT または MINUS などのセット演算子が、マテリアライズド・ビュー定義などのサポートされていないコンテキストで発見されました。

処置: セット演算子を使用しないように、式を指定しなおしてください。

ORA-30371 同じ列で2 ディメンション以上のレベルを定義することはできません。

原因: 別のディメンションでレベルを定義するためにすでに使用された後、列がレベルの定義に使用されました。

処置: ディメンション・レベルおよび階層を単一ディメンションに再編成して、列が別のディメンションでのレベルの定義に使用されないようにしてください。ディメンションに置けるレベルまたは階層の数に制限がありません。すべてのレベルが同じディメンションにあり、2つのレベルに列の同一のセットが含まれない場合、列を使用していくつでもレベルを定義できます。

ORA-30372 ファイン・グレイン・アクセス・ポリシーがマテリアライズド・ビューと競合します

原因: ファイン・グレイン・アクセス・コントロール・プロシージャが、NULL でないルールをマテリアライズド・ビューの問合せに適用しました。

処置: マテリアライズド・ビューを正しく動作させるには、問合せに有効なファイン・グレイン・アクセス・コントロール・プロシージャがマテリアライズド・ビューを作成またはリフレッシュしている間に、NULL ルールを戻してください。これは、マテリアライズド・ビューに対するリフレッシュ・プロシージャの作成者、所有者および実行者のユーザー名が、ユーザー書込みファイン・グレイン・アクセス・コントロール・プロシージャによってすべての NULL ルールを受け取ることによって可能になります。

ORA-30373 このコンテキストでは、オブジェクト・データ型はサポートされません。

原因: オブジェクト・データ型が、サポートしていないコンテキスト内で見つかりました。

処置: オブジェクトを使用しないように、式を指定しなおしてください。

ORA-30374 マテリアライズド・ビューはすでにリフレッシュ済です。

原因: マテリアライズド・ビューがリフレッシュ済の場合、Oracle は ALTER MATERIALIZED VIEW <mv> RELY FRESH コマンドを無視して、このエラー・メッセージを発行します。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30375 リフレッシュ済みのマテリアライズド・ビューとはみなせません

原因: マテリアライズド・ビューが無効または使用禁止の場合、ALTER MATERIALIZED VIEW <mv> CONSIDER FRESH コマンドでリフレッシュ済とはみなされません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30376 説明リライト・セッションの解析問合せの共有を防止してください。

原因: 説明リライトは、ユーザー問合せの解析後に共有カーソルを生成します。このエラーが発生すると、カーソルの共有が防止されます。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30377 MV_CAPABILITIES_TABLE が見つかりません。

原因：MV_CAPABILITIES_TABLE を定義する前に、DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用しました。

処置：目的のスキーマに接続した後に ORACLE_HOME/rdbms/admin/utlxmv.sql スクリプトを起動してください。

ORA-30378 MV_CAPABILITIES_TABLE は Oracle バージョンと互換ではありません。

原因：MV_CAPABILITIES_TABLE 内の 1 つ以上の列定義が存在しないか、または現行の Oracle バージョンと互換性がありません。

処置：DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を実行する前に、適切なスキーマに接続して、DROP TABLE MV_CAPABILITIES_TABLE を実行し、ORACLE_HOME/rdbms/admin/utlxmv.sql スクリプトを実行して、MV_CAPABILITIES_TABLE を再作成してください。

ORA-30379 問合せテキストが指定されていません

原因：空の問合せテキスト引数で DBMS_MVIEW.EXPLAIN_REWRITE() を使用しようとしてしました。

処置：有効な SQL 問合せを入力してください。

ORA-30380 REWRITE_TABLE が存在しません。

原因：REWRITE_TABLE を作成する前に、DBMS_MVIEW.EXPLAIN_REWRITE() API を使用しました。

処置：目的のスキーマに接続した後に ORACLE_HOME/rdbms/admin/utlxrw.sql スクリプトを使用して REWRITE_TABLE を作成してください。

ORA-30381 REWRITE_TABLE は Oracle バージョンと互換性がありません

原因：REWRITE_TABLE 内の 1 つ以上の列定義が存在しないか、または現行の Oracle バージョンと互換性がありません。

処置：DBMS_MVIEW.EXPLAIN_REWRITE() API を実行する前に、適切なスキーマに接続して、DROP TABLE REWRITE_TABLE を実行し、ORACLE_HOME/rdbms/admin/utlxrw.sql スクリプトを実行して、REWRITE_TABLE を再作成してください。

ORA-30430 リストに有効なサマリーが含まれていません。

原因：リストが空か、既存のサマリーの名前が含まれていません。

処置：リフレッシュに渡された名前リストに、既存のサマリー・オブジェクトの名前が 1 つ以上含まれていることを確認してください。

ORA-30431 リフレッシュ・メソッドには ANY、INCREMENTAL または FORCE_FULL を指定します。string ではありません。

原因: 無効なリフレッシュ・メソッドが指定されました。

処置: リフレッシュ・メソッドが ANY、INCREMENTAL または FORCE_FULL のいずれかであることを確認してください。

ORA-30432 サマリー 'string.string' は無効な状態です。

原因: サマリーが無効な状態で、リフレッシュできません。

ORA-30433 'string.string' はサマリーではありません。

原因: そのようなサマリーがないため、リフレッシュできません。

処置: サマリーの正しい名前を確認してください。

ORA-30434 リフレッシュ・メソッドは 'string' ではなく、FC?AN の 1 つである必要があります

原因: 無効なリフレッシュ・メソッドが指定されました。

処置: リフレッシュ・メソッドが FC?AN の 1 つであることを確認してください。

ORA-30435 サマリーをリフレッシュするには、job_queue_processes がゼロ以外である必要があります

原因: JOB_QUEUE_PROCESSES パラメータを 1 以上に設定してサーバーを起動する必要があります。

処置: JOB_QUEUE_PROCESSES の値を修正して、サーバー・インスタンスを再起動してください。

ORA-30436 名前付きパイプ 'string' をオープンできません。

原因: システム・リソースが不十分なため、リフレッシュ・プロセスがジョブ・キュー・プロセスへの名前付きパイプをオープンできませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30437 すべてのジョブ・キュー・プロセスの実行が停止しました。

原因: リフレッシュによって使用されるすべてのジョブ・キュー・プロセスの実行が、なんらかの理由で停止しました。1 つ以上のジョブ・キュー・プロセスが、サマリーをリフレッシュするために実行している必要があります。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30438 名前付きパイプ '*string*' にアクセスできません。

原因: リフレッシュ・プロセスは、パイプを正常にオープンした後に、ジョブ・キュー・プロセスへの名前付きパイプにアクセスできませんでした。通常、これは内部エラーまたはオペレーティング・システム・エラーの可能性があり、これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30439 *string.string*' のリフレッシュに *string* のため失敗しました

原因: リフレッシュ・ジョブ・キュー・プロセスでエラーが見つかり、レポートしています。メッセージに付随するテキストは、エラーの原因を示しています。

処置: レポートされた原因によって異なります。

ORA-30440 高速リフレッシュできません。完全にリフレッシュするか、または部分リフレッシュ用にイベント 30441 を設定してください。

原因: DML およびダイレクト・ロードは、ディテール表に対して実行されます。高速リフレッシュは、ダイレクト・ロード・インサートのみを処理できます。

処置: 完全にリフレッシュするか、または event 30441 を設定してダイレクト・ロード・インサートのみで部分リフレッシュを可能にしてください。

ORA-30442 フィルタ *string* の定義を見つけられません。

原因: 指定した FILTERID パラメータでは、対応するフィルタ定義がアドバイザ・リポジトリにありません。

処置: create_filter 関数で生成される有効な FILTERED を使用してください。

ORA-30443 フィルタ *string* の項目 *string* の定義が無効です。

原因: 指定したフィルタが無効です。無効なフィルタ項目が 1 つ以上含まれています。フィルタ項目が文字列リストを持つ場合は、文字列リストが正常に解析されないときに無効になります。また、フィルタ項目が範囲定義を含み、範囲の下限が上限より大きい場合、項目は無効になります。

処置: purge_filter サブプログラムで無効なフィルタを削除して、正しいフィルタを再定義してください。

ORA-30445 ワークロード問合せが見つかりません。

原因: アドバイザ・リポジトリに、指定したフィルタを満たすワークロード問合せがありません。

処置: 新しいフィルタを再定義するか、指定したフィルタを満たす追加のワークロード問合せをロードしてください。

ORA-30446 有効なワークロード問合せが見つかりません。

原因: 指定した問合せは正常に解析できません。このエラーは、多くのソースから発生する場合があります。SQL 構文エラーまたは `load_workload()` サブプログラムで指定した所有者は、SQL 文を生成する実ユーザーと一致しません。

処置: 有効な SQL 文のみをアドバイザ・リポジトリにロードしてください。
`load_workload()` サブプログラムの所有者パラメータで指定したとおりの所有者の権限で文が解析されることを確認してください。

ORA-30447 実行番号 *string* の内部データに一貫性がありません。

原因: ユーザーは、サマリー・アドバイザの内部表を明示的に修正する必要はありません。そのような修正は、内部表で非一貫性の原因およびこのエラーが発生する原因になる場合があります。

処置: `DBMS_OLAP.PURGE_RESULTS` サブプログラムをコールして、サマリー・アドバイザの内部表から一貫性のないデータを削除することができます。

ORA-30449 パラメータ *string* に構文エラーがあります。

原因: 指定したパラメータの構文が正しくありません。

処置: 正しい構文の詳細は、Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-30450 refresh_after_errors は TRUE でした: 次の MV はリフレッシュできませんでした: *string*

原因: 複数のサマリーのリフレッシュ中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

処置: `NUMBER_OF_FAILURES` パラメータが、障害の発生した数を戻します。各リフレッシュ操作のトレース・ログを参照してください。

ORA-30451 内部エラーが発生しました。

原因: 内部エラーがサマリー・リフレッシュ・サブシステムによって検出され、リフレッシュ操作を強制終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30452 COUNT(X) または SUM(X) がないと、AVG(X)、VARIANCE(X) または STDDEV(X) を計算できません。

原因: サマリーの増分リフレッシュには、段階的に `AVG(X)` をリフレッシュするために、`COUNT(X)` 列が必要です。STDDEV(X) または `VARIANCE(X)` をリフレッシュするには、`SUM(X)` と `COUNT(X)` 列の両方が必要です。

処置: 増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30453 サマリーに対応する COUNT がない AVG が含まれています。

原因：AVG(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) 列が必要です。

処置：増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30454 サマリーに対応する SUM と COUNT がない STDDEV が含まれています。

原因：STDDEV(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) および SUM(X) 列が必要です。

処置：増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30455 サマリーに対応する SUM と COUNT がない VARIANCE が含まれています。

原因：VARIANCE(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) および SUM(X) 列が必要です。

処置：増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30456 権限が不十分なため、'*string.string*' をリフレッシュできません。

原因：ユーザーにはサマリーをリフレッシュするために必要な権限が、1 つ以上不足しています。

処置：ユーザーに必要なすべての権限が付与されていることを確認してください。

ORA-30457 コンテナ内の管理されていない NOT NULL 列があるために、'*string.string*' をリフレッシュできません

原因：サマリーのコンテナ・オブジェクトに、NULL を許可せず、列にデフォルト値を指定しない非管理状態の列が 1 つ以上含まれています。

処置：デフォルト値が、サマリー定義の一部ではないすべての NOT NULL 列に指定されていることを確認してください。

ORA-30458 '*string.string*' をリフレッシュできません、リフレッシュ・マスクは *string* となっています。

原因：段階的にリフレッシュできないサマリーを段階的にリフレッシュしようとした。

処置：サマリーを段階的にリフレッシュするかわりに、完全リフレッシュを使用してください。

ORA-30459 リフレッシュ・メソッドが NONE のため、'*string.string*' をリフレッシュできません。

原因：リフレッシュ・メソッドが NONE であるサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：リフレッシュ・サマリーが NONE (NEVER REFRESH) であるサマリーは、リフレッシュできません。サマリーを変更して、デフォルト・リフレッシュ・メソッドを NONE からその他の値に変更してください。

ORA-30460 UNUSABLE にマーク設定されているので、'*string.string*' をリフレッシュできません。

原因：UNUSABLE であるサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーが UNUSABLE である原因を判断し、再び使用可能にして、リフレッシュを再試行してください。

ORA-30461 DISABLED にマーク設定されているので、'*string.string*' をリフレッシュできません

原因：DISABLED にマーク設定されているサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーが DISABLED にマーク設定されている原因を判断し、再び使用可能にして、リフレッシュを再試行してください。

ORA-30462 サポートされていない演算子: *string*

原因：サポートされていない演算子を含むサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーのすべての列が、リフレッシュ可能な式を含んでいることを確認してください。

ORA-30463 *string* はサマリーのディテール表ではありません

原因：REFRESH_DEPENDENT に渡された表のリストに、無効な表が 1 つ以上含まれています。この表はサマリーのディテール表でないため、REFRESH_DEPENDENT への無効な入力です。

処置：リストにあるすべての表の名前が正しいことを確認してください。

ORA-30464 サマリーはありません。

原因：REFRESH_ALL_MVIEWS へコールされましたが、サマリーがありません。REFRESH_ALL_MVIEWS をコールする前に、1 つ以上のサマリーが必要です。

処置：1 つ以上のサマリーを作成してください。

ORA-30465 指定した run_id は無効です: *string*

原因: 考えられる原因は3つあります。

- 指定した run_id が存在しない。
- run_id が現行のユーザー以外の別のユーザーで作成された。
- run_id がすでに使用されている。

処置: DBMS_OLAP.CREATE_ID をコールして新しい ID を作成してください。

ORA-30466 指定したワークロード *string* が見つかりません

原因: 指定した workload_id は有効ではありません。

処置: 有効な workload_id または DBMS_OLAP.WORKLOAD_ALL を指定してください。

ORA-30475 機能は使用できません: *string*

原因: 指定された機能は使用できません。

処置: この機能は使用しないでください。

ORA-30476 PLAN_TABLE はユーザーのスキーマには存在しません。

原因: Estimate_Summary_Size は Oracle SQL の EXPLAIN PLAN コマンドを使用して、指定した選択句のカーディナリティを推定します。これには、ユーザーのスキーマに PLAN_TABLE という表が必要です。詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

処置: EXPLAIN PLAN に記述されているように、PLAN_TABLE を作成してください。ほとんどのシステムでは、スクリプト UTLXPLAN.SQL がこの表を作成します。

ORA-30477 SELECT_CLAUSE の指定が正しくありません。

原因: Estimate_Summary_Size への入力選択句が正しく指定されず、コンパイルできません。

処置: 選択句の構文を調べてください。

ORA-30478 指定されたディメンションは存在しません。

原因: 検証するために指定したディメンションは存在しません。

処置: ディメンション名の綴りを確認してください。

ORA-30479 サマリー・アドバイザ・エラーが発生しました *string*

原因: サマリー・アドバイザ・パッケージでエラーが発生しました。このメッセージの後に、エラーの詳細を示した2番目のメッセージが続きます。

処置: 2番目のエラー・メッセージの説明については、サマリー・アドバイザのドキュメントを参照してください。

ORA-30480 DISTINCT オプションは、GROUP BY CUBE または ROLLUP と一緒に使用できません。

ORA-30481 GROUPING 機能は、GROUP BY CUBE または ROLLUP を伴う場合のみサポートされます。

ORA-30483 ここでウィンドウ・ファンクションは使用できません。

原因：ウィンドウ・ファンクションを使用できるのは、問合せの SELECT リストでのみです。ウィンドウ・ファンクションは、グループ・ファンクションにできません。

ORA-30484 このファンクションのウィンドウ指定が欠落しています

原因：すべてのウィンドウ・ファンクションの後には、
<ファンクション> (<引数リスト>) OVER (<ウィンドウ指定>) のようなウィンドウ指定が必要です。

ORA-30485 ウィンドウ指定で ORDER BY 式が欠落しています

原因：このファンクションに必須の ORDER BY 式がないか、または ORDER BY 式がない集合グループがあります。

ORA-30486 ウィンドウ指定のウィンドウ集合グループが無効です

原因：ウィンドウ指定が RANGE オプションを使用して指定され、複数の ORDER BY 式がある場合、集合グループに式を含めることはできません（集合グループに含めることができるのは、CURRENT ROW、UNBOUNDED PRECEDING または UNBOUNDED FOLLOWING のみです）。最初のエンド・ポイント（バウンド）は、UNBOUNDED FOLLOWING にはできません。2 つ目のエンド・ポイントは、UNBOUNDED PRECEDING にはできません。最初のエンド・ポイントが CURRENT ROW の場合、2 つ目のエンド・ポイントは CURRENT ROW または <expr> /UNBOUNDED FOLLOWING にのみできます。最初のエンド・ポイントが <expr> FOLLOWING の場合、2 つ目のエンド・ポイントは <expr> /UNBOUNDED FOLLOWING にのみできます。

ORA-30487 ここで ORDER BY は使用できません。

原因：DISTINCT ファンクションおよび RATIO_TO_REPORT は、ORDER BY 句を使用できません。

ORA-30488 引数は PARTITION BY の式のファンクションである必要があります。

原因：ウィンドウ・ファンクションの引数は、パーティションの定数である必要があります。

ORA-30489 ROLLUP/CUBE の式リストは複数保持できません。

原因：GROUP BY 句に 2 つ以上の ROLLUP/CUBE の式リストがあります。

処置：各サブ問合せが 1 つの ROLLUP/CUBE 式のみを保持するように、問合せを修正してください。

ORA-30490 GROUP BY ROLLUP または CUBE リストにあいまいな式があります。

原因：GROUP BY ROLLUP または CUBE リストにある式が、汎用の GROUP BY 式リストにある式と一致しています。

処置：汎用の GROUP BY 式リスト、または ROLLUP または CUBE 式リストから、その式を削除してください。

ORA-30493 百分位数の値は 0 から 1 までの間の数値である必要があります。

原因：PERCENTILE_CONT または PERCENTILE_DISC ファンクションに指定された百分位数の値が範囲外です。

処置：[0,1] から値を指定してください。

ORA-30500 データベース・オープン・トリガーとサーバー・エラー・トリガーに、BEFORE 型は使用できません。

原因：データベースがオープンする前、またはサーバーにエラーが発生する前に起動するトリガーを作成しようとしたが、この型のトリガーはサポートされていません。

処置：データベースがオープンする前、またはサーバーにエラーが発生する前に起動するトリガーを作成しようとししないでください。

ORA-30501 インスタンス・停止・トリガーに AFTER 型は使用できません。

原因：インスタンスの停止後に起動するトリガーを作成しようとしたが、この型のトリガーはサポートされていません。

処置：インスタンスの停止後に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30502 システム・トリガーに、実行タイミング・イベントとして INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。

原因：INSERT、UPDATE または DELETE 実行タイミング・イベントでシステム・トリガーを作成しようとしたが、システム・トリガーには実表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置：INSERT、UPDATE または DELETE 実行タイミング・イベントでシステム・トリガーを作成しないでください。

ORA-30503 システム・トリガーに REFERENCING 句は使用できません。

原因：システム・トリガーで REFERENCING 句を使用しようとしたが、システム・トリガーには実表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置：システム・トリガーで REFERENCING 句を使用しないでください。

ORA-30504 システム・トリガーに FOR EACH ROW 句は使用できません。

原因：システム・トリガーで FOR EACH ROW 句を使用しようとしたが、システム・トリガーには実表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置：システム・トリガーで FOR EACH ROW 句を使用しないでください。

ORA-30505 システム・トリガーに、WHEN 句の列を参照しないでください

原因: システム・トリガーで列を参照するために WHEN 句を使用しようとしたが、システム・トリガーには実表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: WHEN 句を適切な句に変更してください。

ORA-30506 システム・トリガーは表またはビューをベースにできません。

原因: 表またはビューでシステム・トリガーをベースにしようとした。

処置: この型のトリガーがベース・オブジェクトと互換性があることを確認してください。

ORA-30507 標準トリガーはスキーマまたはデータベースをベースにできません。

原因: スキーマまたはデータベースで標準トリガーをベースにしようとしたが、標準トリガーは表またはビューのみでベースにされます。

処置: この型のトリガーがベース・オブジェクトと互換性があることを確認してください。

ORA-30508 クライアント・ログオン・トリガーに BEFORE 型は使用できません。

原因: ログオンする前に起動するトリガーを作成しようとした。この型のトリガーは、サポートされていません。

処置: ログオンする前に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30509 クライアント・ログオフ・トリガーに AFTER 型は使用できません。

原因: ログオフした後に起動するトリガーを作成しようとした。この型のトリガーは、サポートされていません。

処置: ログオフした後に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30510 システム・トリガーは SYS ユーザーのスキーマで定義できません。

原因: SYS ユーザーのスキーマでシステム・トリガーを定義しようとした。現在、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: SYS ユーザーのスキーマでシステム・トリガーを作成しないでください。

ORA-30511 システム・トリガーで無効な DDL 操作です

原因: システム・トリガーで無効な DDL 操作を実行しようとした。ほとんどの DDL 操作は、システム・トリガーでは現在サポートされていません。現在サポートされている DDL 操作は、表操作および ALTER TRIGGER COMPILE 操作のみです。

処置: システム・トリガーの無効な DDL 操作を削除してください。

ORA-30512 同一トランザクション内で *string.string* を 2 回以上変更することはできません。

原因: 同一トランザクション内でオブジェクトを 2 回以上変更しようとしてしました。通常、このエラーは同じオブジェクトの変更を試行するシステム・トリガーを起動する DDL 文によって発生します。また、操作間のコミットを発行しないで、同一トランザクション内のキュー表で 2 つ以上の DDL 操作を実行しようとするときも発生します。

処置: すでに変更されているオブジェクトを変更する可能性のあるシステム・トリガーを作成しないでください。また、同一トランザクション内のキュー表で 2 つ以上の DDL 操作を指定しないでください。

ORA-30513 INSTEAD OF 型のシステム・トリガーを作成できません。

原因: システム・イベントで作成できるのは、BEFORE または AFTER トリガーのみです。

処置: トリガー型を BEFORE または AFTER に変更してください。

ORA-30514 システム・トリガーでは読取り専用で作成された表領域を変更できません。

原因: DDL 処理の一部として読取り専用で作成された表領域を BEFORE トリガーが変更しようとしています。

処置: 読取り専用として作成された表領域と同じ表領域にあるオブジェクトへの変更を行わないようにトリガーを修正するか、または、自律型トランザクションを使用して変更をコミットしてください。

ORA-30515 一時停止トリガーは BEFORE 型を持てません。

原因: 実行が一時停止される前に起動するトリガーを作成しようとしてしました。この型のトリガーは、サポートされていません。

処置: 実行が一時停止される前に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30550 索引が無効なパッケージ / ファンクション / 本体に依存しています。

原因: ファンクション索引が、無効または存在しないパッケージ / ファンクション / 本体に依存しています。

処置: 索引が依存するすべてのパッケージ / ファンクションが存在し、有効であることを確認してください。

ORA-30551 この索引は存在しないパッケージ / 型の本体に依存しています。

原因: このファンクション索引は、存在しないパッケージ / タイプの本体に依存しています。

処置: パッケージ / タイプの本体を作成してください。

ORA-30552 パッケージ / プロシージャ / ファンクションは変更できません。

原因: パッケージ / プロシージャ / ファンクションは DETERMINISTIC で、いくつかのオブジェクトはそれに依存しています。

処置: 変更しようとしているパッケージ / ファンクション / プロシージャに依存している他のオブジェクトを削除してください。

ORA-30553 関数が DETERMINISTIC ではありません。

原因: 索引が定義されているファンクションは DETERMINISTIC なものではありません。

処置: 関数に DETERMINISTIC のマークを設定してください。

ORA-30554 ファンクション索引 *string.string* は使用できません。

原因: 索引が依存しているファンクションが変更されたため、使用不可のマークが設定されたファンクション索引にアクセスしようとした。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- DROP INDEX コマンドを使用して、指定した索引を削除する。
- ALTER INDEX REBUILD コマンドを使用して、指定した索引を再構築する。
- ALTER INDEX ENABLE コマンドを使用して、指定した索引を使用可能にする。
- ALTER INDEX UNUSABLE コマンドを使用して、指定した索引を使用可能にする。

ORA-30555 グローバル索引パーティション化キーが式になっています。

原因: 索引パーティション化キーとして式を使用しようとした。

処置: 索引パーティション化キーとして式を使用しないでください。

ORA-30556 ファンクション索引が変更を行う列に定義されています。

原因: ファンクション索引が存在する列に ALTER TABLE MODIFY COLUMN が発行されました。

処置: 列を変更する前に、ファンクション索引を削除してください。

ORA-30557 ファンクション索引が正しく保持できませんでした

原因: 正常に更新されなかったファンクション索引が存在する列を更新しようとした。

処置: 索引更新時のエラーを確認して、問題を修正してください。

ORA-30558 ファンクション索引で内部エラー [*string*] が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30560 SAMPLE オプションは索引構成表には使用できません。

ORA-30561 SAMPLE オプションは複数の表参照がある文には使用できません。

ORA-30562 SAMPLE パーセンテージは必ず範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

ORA-30563 選択リストで外部結合演算子 (+) は許可されていません。

原因: 選択リストの中で (+) を参照しようとしてしました。

処置: 選択リストでこの演算子を使用しないでください。

ORA-30564 索引メンテナンス句は RANGE パーティション表へのパーティションの ADD には許可されません。

原因: INVALIDED または UPDATE GLOBAL INDEXES 句は、HASH パーティション表へのパーティションの ADD またはコンポジット・パーティション表へのサブパーティションの ADD のみに許可されています。

処置: 句を削除して操作を再試行してください。

ORA-30565 INVALIDATE 句または UPDATE GLOBAL INDEXES 句を 1 つのみ指定できません。

原因: INVALIDATE または UPDATE GLOBAL INDEXES 句を 2 回以上指定しました。

処置: INVALIDATE または UPDATE GLOBAL INDEXES 句を 1 つのみ残して不要な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-30566 索引メンテナンス句はこのコマンドには許可されていません。

原因: INVALIDATE または UPDATE GLOBAL INDEXES 句は、このコマンドには許可されていません。

処置: 句を削除して操作を再試行してください。

ORA-30567 名前は既存のログ・グループですすでに使用されています。

原因: 指定されたログ・グループ名は一意である必要があります。

処置: ログ・グループに対して一意の名前を指定してください。名前は、他のログ・グループ、制約またはクラスタのハッシュ式と同じにはできません。

ORA-30568 ログ・グループを削除できません - ログ・グループが存在しません。

原因: ALTER TABLE DROP LOG GROUP で指定した <log_group_name> が無効または存在しません。

処置: 正しいログ・グループ名を使用して文を再入力してください。

ORA-30569 指定された列のデータ型はログ・グループでサポートされていません。

原因: サポートされていないデータ型 (LONG、VARRAY、ネストした表、オブジェクト、LOB、FILE または REF) の列をログ・グループ内に含めようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、ログ・グループを削除してください。操作を再試行してください。

ORA-30570 SEGMENT SPACE MANAGEMENT オプションはすでに指定されています

原因: CREATE TABLESPACE で、SEGMENT SPACE MANAGEMENT オプションが 2 回以上指定されました。

処置: SEGMENT SPACE MANAGEMENT 指定を 1 つのみ残して他をすべて削除してください。

ORA-30571 無効な SEGMENT SPACE MANAGEMENT 句

原因: SEGMENT SPACE MANAGEMENT 句に無効なオプションが指定されました。

処置: 次のいずれかの有効なオプションを指定してください。

- AUTO
- MANUAL

ORA-30572 AUTO セグメント領域管理は、DICTIONARY エクステンツ管理と同時に使用できません

原因: CREATE TABLESPACE で、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT が DICTIONARY エクステンツ管理句と同時に使用されました。

処置: LOCAL エクステンツ管理を指定するか、または AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMNET 指定を削除してください。

ORA-30573 AUTO セグメント領域管理はこの表領域の型には無効です

原因: CREATE TABLESPACE で、AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT が UNDO または TEMPORARY 表領域の作成中に使用されました。

処置: AUTO SEGMENT SPACE MANAGEMENT 句を削除してください。

ORA-30574 AUTO セグメント領域管理で表領域のロールバック・セグメントを作成できません

原因: ロールバック・セグメントが AUTO セグメント領域管理で作成された表領域で作成されています。

処置: 異なる表領域でロールバック・セグメントを作成してください。

ORA-30575 ConText オプションがインストールされていません。

原因: Oracle 実行可能プログラムには、リンクされている ConText オプションがありません。

処置: Oracle の正しいバージョンを入手してください。

ORA-30576 ConText オプションのディクショナリ・ロード・エラーが発生しました

原因: ConText ディクショナリ表が破損している可能性があります。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30625 NULL SELF 引数のメソッド・ディスパッチは使用できません

原因: 型のメンバー・ファンクションは、NULL SELF 引数で起動されています。

処置: メソッド起動を変更して、有効な自己引数を渡してください。

ORA-30645 範囲外制限を拒否してください。

原因: 拒否の制限は、表のスキャンが終了する前に拒否されるレコードの数を指定します。範囲は、1 ～ 100000 の間または制限がない場合は UNLIMITED です。

処置: 拒否の制限を示すトークンを 0 ～ 100000 の範囲の数またはキーワード UNLIMITED に変更してください。

ORA-30646 外部表タイプのスキーマは SYS である必要があります。

原因: SYS 以外のスキーマが TYPE に指定してください。

処置: Oracle Server のこのバージョンでは、スキーマ名に SYS を使用してください。

ORA-30647 外部表 *string.string* のアクセス・パラメータの取得でエラーが発生しました。

原因: 指定された外部表のアクセス・パラメータのフェッチで、エラーが発生しました。

処置: アクセス・パラメータが CLOB を戻す問合せの場合、EXTERNAL_TAB\$ を調べて問合せが正しいことを確認してください。

ORA-30649 DIRECTORY キーワードがありません。

原因: DEFAULT DIRECTORY 句がないか、または不適切です。

処置: DEFAULT DIRECTORY を指定してください。

ORA-30653 拒否の制限に到達しました

原因: 拒否の制限に到達しました。

処置: データをクリーンアップするか、または拒否の制限を増やしてください。

ORA-30654 DEFAULT キーワードがありません

原因: DEFAULT DIRECTORY 句が指定されていないか、または無効です。

処置: DEFAULT DIRECTORY を指定してください。

ORA-30655 外部構成表から FOR UPDATE を選択できません

原因: 外部表で FOR UPDATE を選択しようとしてしました。

処置: 外部表で FOR UPDATE を選択しないでください。

ORA-30656 外部構成表で列型がサポートされていません

原因: 型が LONG、LOB、BFILE、ADT または VARRAY の列を持つ外部構成表を作成しようとしてしました。

処置: これらの列型はサポートされていません。DLL を変更してください。

ORA-30657 外部構成表で操作がサポートされていません

原因: サポートされていない外部表での操作を行おうとしました。

処置: 操作は行わないでください。

ORA-30658 外部編成付きの一時表を作成しようとしてしました

原因: 外部編成付きの一時表を作成しようとしてしました。これはサポートされません。

処置: 外部編成付きの一時表を作成しないでください。

ORA-30676 ソケット読み込みまたは書き込みが失敗しました。

原因: 予期したデータ量のソケット読み込みまたは書き込みが失敗しました。より具体的な情報はありません。

処置: 接続を再確立してください。失敗したもう一方のソケットでプログラムを再起動する必要がある場合があります。ネットワーク上のいくつかの問題を修正する必要がある場合があります。

ORA-30677 セッションはすでにデバッグに接続されています。

原因: セッションがすでにいくつかのデバッグに接続されているために、セッションをデバッグに接続できません。

処置: オプションを使用して接続を強制実行するか、または既存のデバッグからセッションを切断してください。

ORA-30678 オープンされている接続が多すぎます。

原因: このセッションでオープンされている接続が多すぎるため、接続のオープンに失敗しました。許可される接続数は、同じプールを共有する他のコンポーネントでの接続数によって変わります。

処置: 他のいくつかの接続をクローズして、再試行してください。サポートされる接続数は、現在、調整できません。

ORA-30679 JDWP ベースのデバッグはこの構成ではサポートされていません

原因: このサーバー構成は必須の非同期ソケット通信量の検出をサポートできないため、デバッグ接続のオープンに失敗しました。

処置: この機能は、このサーバー構成では機能しません。この機能はこのプラットフォームではサポートされていないか、または共有サーバー構成の `protocol=tcp` ディスパッチャを使用してのみ使用可能です。プラットフォーム固有のドキュメントまたは README を参照してください。

ORA-30680 デバッグ接続ハンドシェイクが失敗しました。

原因: デバッグ接続の確立中に問題が発生しました。デバッグの位置として指定したポートが、実際には他の種類のアプリケーションで使用されています。

処置: ホストまたはポートの指定に誤りがある場合は、それを修正して、デバッグが接続を正しく待機していることを確認してください。

ORA-30681 引数 EXTENSIONS_CMD_SET の値が適切ではありません。

原因：不適切なパラメータ値が dbms_debug_jdwp.connect_tcp へのコールに指定されました。

処置：指定されたパラメータ値を修正して再試行してください。

ORA-30682 引数 OPTION_FLAGS の値が適切ではありません。

原因：不適切なパラメータ値が dbms_debug_jdwp.connect_tcp へのコールに指定されました。

処置：指定されたパラメータ値を修正して再試行してください。

ORA-30683 デバッガへの接続の確立で障害が発生しました。

原因：デバッガ接続の確立中にエラーが発生しました。通常、TNS エラーは、問題を説明するこのメッセージとともに表示されます。ただし、エラーをトラップするように選択すると、この TNS エラーは表示されません。

処置：示されたパラメータ値を修正して再試行してください。

ORA-30684 指定されたロールを使用可能にできませんでした。

原因：デバッガが使用するように指定されたロールを使用可能にできません。ロールが存在しないか、またはこのユーザーに権限を付与されていない場合があります。指定したパスワードが正しくない場合があります。または、ロールの認証ルーチンが現在アクティブになっていません。

処置：デバッガ接続要求のロールまたはパスワードの引数を修正または削除してください。

ORA-30685 DBMS_DEBUG_JDWP と Oracle のバージョンに一貫性がありません。

原因：インストールした dbms_debug_jdwp パッケージのバージョンが、使用されている Oracle RDBMS のバージョンに対して正しいバージョンではありません。

処置：正しいバージョンの dbms_debug_jdwp パッケージをインストールしてください。

ORA-30686 ディスパッチャが TCP/IP 接続要求を受け付けませんでした。

原因：ディスパッチャではありません。このエラーが発生するときは、ソケットがクローズされるまではソケットを所有するセッションがプロセスを解放できないため、共有サーバーの利点が減少します。protocol=tcp と構成されるディスパッチャがないことが、最もありうる原因です。

処置：構成のスケラビリティを改善するには、ディスパッチャを protocol=tcp と構成してください。ディスパッチャの固有の設定でこれらの特定の接続を転送するには、presentation=kgas を指定してください。ただし、これを行わない場合は、任意の protocol=tcp ディスパッチャが使用されます。

ORA-30687 セッションがデバッガによって終了されました。

原因: プログラムの実行がデバッガによって停止されました。このエラーは、デバッガが送信した明示的な要求、または切断後にプログラムを実行し続けるように Oracle に通知せずに切断されたデバッガが原因で発生します。プログラムを完全に停止するには、Oracle はプロセスを完全に終了する必要があります。

処置: これは、デバッガ要求への応答です。エラーではありません。処置は必要ありません。

ORA-30688 プログラム・コールの深さの最大が超過しました。

原因: プログラムに、処理するには深すぎる連続したコールが含まれています。この制限に到達するまで、異なる実行エンジン (SQL、PL/SQL および Java) 間のトランザクションのみがカウントされます。同じエンジン内のコールはカウントされません。

処置: 深いコールを必要としないプログラムを再作成してください。いくつかの再帰は、反復と置換できる可能性があります。

ORA-30689 ORA_DEBUG_JDWP の値が不適切です

原因: デバッガ接続の確立中に不適切な値が ORA_DEBUG_JDWP に使用されました。値が、ORA_DEBUG_JDWP の書式に従っていないか、または長すぎます。

処置: ORA_DEBUG_JDWP のエラーを修正して再試行してください。

ORA-30725 JDWP ベースのデバッグはまだ使用可能ではありません。

原因: この機能は、まだ使用可能ではありません。

処置: 今後のリリースまでお待ちください。

ORA-30726 参照する列のリストはここに指定できません。

原因: REF 列が関係する参照制約の参照する列リストを指定しようとした。

処置: 参照する列リスト指定を削除してください。

ORA-30727 REF 列の参照制約が重複しています。

原因: 複数の参照制約が、単一の REF 列に対して指定されました。

処置: 重複した参照制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30728 最大列数を超過しました

原因: REF 列に参照制約を追加するには、追加の列を作成する必要があります。

処置: いくつかの列を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30729 最大列数を超過しました

原因: REF 列に有効範囲または参照制約を追加するには、ターゲット表のオブジェクト識別子が主キー・ベースの場合、追加の列を作成する必要があります。

処置: いくつかの列を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30730 ネストした表の列には参照制約を使用できません

原因: ネストした表の列に参照制約を定義しようとしました。

処置: ネストした表の列には参照制約を指定しないでください。

ORA-30731 ネストした表の作成時には、ネストした表の列に有効範囲制約を使用できません。

原因: ネストした表の作成中に、ネストした表の列に有効範囲制約を定義しようとしました。

処置: ネストした表の作成中は、ネストした表の列に有効範囲制約を指定しないでください。そのかわりに、ALTER TABLE 文を使用して指定してください。

ORA-30732 表にユーザーが表示できる列がありません。

原因: ユーザーが表示できる列がないシステム表を問い合わせようとしました。

処置: ユーザーが表示できる列がないシステム表を問い合わせないでください。

ORA-30733 有効範囲内の参照列に ROWID 制約は指定できません。

原因: 有効範囲内の REF 列に ROWID 制約を指定しようとしました。

処置: ROWID 制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30734 ROWID 付きの参照列に有効範囲制約は指定できません。

原因: ROWID 制約のある REF 列の有効範囲制約を指定しようとしました。

処置: 有効範囲制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30735 スーパー表の下に同じタイプの複数のサブ表を作成できません。

原因: スーパー表（スーパービュー）の下に他の既存のサブ表（サブビュー）と同じタイプのサブ表（サブビュー）を作成しようとしました。

処置: 既存のサブ表（サブビュー）を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30736 表またはビューの階層内のオブジェクトは同じスキーマにある必要があります。

原因: 別のスキーマがあるスーパー表（スーパービュー）の下にサブ表（サブビュー）を作成しようとしました。

処置: スーパーオブジェクトのスキーマ所有者で接続して、操作を再試行してください。

ORA-30737 スーパー表のタイプのサブタイプではないタイプのサブ表は作成できません。

原因: スーパーオブジェクトのタイプのサブタイプではないタイプのサブ表（サブビュー）を作成しようとしました。

処置: スーパーオブジェクトのタイプのサブタイプになるサブ表のタイプを変更して、操作を再試行してください。

ORA-30738 オブジェクト "string" はスキーマ "string" に存在しません。

原因: 指定されたオブジェクトは存在しません。

処置: 指定されたオブジェクトが存在することを確認して、操作を再試行してください。

ORA-30739 サブ表を持った表は削除できません。

原因: サブ表が定義された表を削除しようとしてしました。

処置: すべてのサブ表を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30740 UNDER 権限をこのオブジェクトに付与できません。

原因: 非最終オブジェクト・タイプ、非最終タイプのオブジェクト表、非最終タイプのオブジェクト・ビュー以外のオブジェクトに、UNDER 権限を付与しようとしてしました。

処置: UNDER 権限が、有効なオブジェクトに付与されていることを確認してください。

ORA-30741 WITH HIERARCHY OPTION は SELECT 権限にのみ指定できます。

原因: SELECT 権限以外の権限に WITH HIERARCHY OPTION を指定しようとしてしました。

処置: HIERARCHY OPTION が SELECT 権限でのみ指定されていることを確認してください。

ORA-30742 SELECT 権限 WITH HIERARCHY OPTION をこのオブジェクトに付与できません。

原因: 非最終タイプのオブジェクト表または非最終タイプのオブジェクト・ビュー以外のオブジェクトに、SELECT 権限 WITH HIERARCHY OPTION を付与しようとしてしました。

処置: SELECT 権限 WITH HIERARCHY OPTION が、有効なオブジェクトに付与されていることを確認してください。

ORA-30743 "string" はオブジェクト・ビューではありません。

原因: 指定されたオブジェクトがオブジェクト・ビューではありません。

処置: オブジェクト・ビューを指定して、操作を再試行してください。

ORA-30744 "string" はオブジェクト表ではありません。

原因: 指定されたオブジェクトがオブジェクト表ではありません。

処置: オブジェクト表を指定して、操作を再試行してください。

ORA-30745 列 "string" を表 "string" に追加しようとしている間にエラーが発生しました。

原因: スーパータイプに依存する表を変更しようとするサブタイプを追加しようとしてしました。

処置: 表がこのサブタイプの追加時に列制限を超えないことを確認してください。

ORA-30746 列 "string" (表 "string") を削除しようとしている間にエラーが発生しました。

原因: 状態表内のタイプのストアド・インスタンスを確認しようとした `VALIDATE` オプションでサブタイプを削除しようとした。

処置: このサブタイプのすべてのインスタンスを削除してから、このタイプを削除してください。

ORA-30747 非最終タイプ `string.string` の置換可能な表または列が作成できません

原因: 置換可能な表または非最終タイプの列を作成しようとした。この操作は現在サポートされません。

処置: 文を変更して、置換できない表または列を指定してください。

ORA-30748 列 `string` はすでにタイプ `string.string` のオブジェクトを格納できる状態です

原因: すでに使用可能なタイプのインスタンスを格納する列を使用可能にしようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30749 列 `string` にタイプ `string.string` のオブジェクトを格納できません

原因: すでに使用可能なタイプのインスタンスを格納する列を使用不可にしようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30750 列 `string` へのタイプ `string.string` のオブジェクト格納を可能にできません

原因: サブタイプのインスタンスを格納する列を使用可能にしようとした。次のいずれかの理由でエラーが発生します。

処置: エラーの原因を修正し、操作を再試行してください。

ORA-30751 列 `string` へのタイプ `string.string` のオブジェクト格納を不可にできません

原因: 置換可能な列または表に格納されているタイプを削除しようとした。次のいずれかの理由でこのエラーが発生します。

- その列に、削除されるタイプのサブタイプのインスタンスを格納できる。
- その列に、1つのタイプのみのインスタンスを格納できる。

処置: エラーの原因を修正し、操作を再試行してください。

ORA-30752 列または表 `string` は置換できません

原因: 置換できない列または表に許可されない操作を実行しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30753 列または表 `string` は置換可能です

原因: 置換可能な列または表に許可されない操作を実行しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30754 列または表 *string* は 1 種類のオブジェクトを格納します

原因: 単一タイプのインスタンスを格納できるオブジェクト列または表で許可されない操作を実行しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30755 ビューの階層を展開中にエラーが発生しました

原因: ビューの階層を拡張中にエラーが発生しました。無効なサブビュー（または、エラーのあるサブビュー）の可能性があります。

処置: すべてのサブビューを有効にしてください。たとえば、ALTER VIEW ... COMPILE を実行して、操作を再試行してください。

ORA-30756 スーパータイプ属性を含む型の列または表を作成できません

原因: スーパータイプ属性を含むオブジェクト型の列または表を作成しようとした。現行の記憶域モデルの再帰を無限にするために、これはサポートされません。型の列の作成が、すべてのサブタイプ属性に対応する列を作成することを暗示していることに注意してください。

処置: 型の定義を変更して、スーパータイプのオブジェクト属性のかわりにスーパータイプの REF 属性を含めてください。

ORA-30757 型情報にアクセスできません

原因: サブタイプが作成され、セッションの処理中にこの新しい型で操作が実行されたか、または型情報がオブジェクト・キャッシュから確保解除されました。

処置: 必要な変更をコミットし、ユーザー・セッションを終了し、再接続してからオブジェクト操作を再試行してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30765 適用範囲ではない REF 列の適用範囲を変更できません。

原因: 適用範囲ではない REF 列の適用範囲を変更しようとした。

処置: かわりに、ALTER TABLE ADD SCOPE FOR コマンドを使用してください。

ORA-30766 REFERENCES 制約を持った REF 列の適用範囲を変更できません。

原因: REFERENCES 制約のある REF 列の適用範囲を変更しようとした。

処置: REFERENCES 制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30767 OID のタイプが不一致です。

原因: オブジェクト識別子のタイプが元の有効範囲表のタイプとは異なる表への REF 列の有効範囲を変更しようとした。

ORA-30768 パイプライン関数を評価できません

原因: パイプライン関数は、FROM 句の TABLE 式でのみ使用できます。

処置: かわりに、非パイプライン関数を使用してください。

ORA-30770 固定サイズの不透明型に対して記憶域オプションを指定できません

原因: 固定サイズの不透明型に対して表作成中に記憶域句が指定されました。

処置: 記憶域オプション句を指定しないでください。

ORA-30771 REF 列 "string" に複数の参照制約を追加できません

原因: 複数の参照制約が、単一の REF 列に対して指定されました。

処置: 不要な参照制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30926 ソース表の安定したセット行を取得できません

原因: 安定した一連の行は、DML アクティビティが大量であるか、WHERE 句が指定されていないために取得できません。

処置: WHERE 句が指定されていない文は削除して、DML を再発行してください。

ORA-30927 一時表の変換での障害のために実行を完了できません。

原因: メモリー上に作成した一時表が、共有プールが古くなったために再取得できません。

処置: 多くの共有プール領域を使用するアクティビティを減らすか、または少し待機して、再試行してください。

ORA-30928 フィルタによる接続フェーズで一時表領域がすべて使用されました。

原因: データにループがあることが原因である可能性があります。

処置: NO_FILTERING ヒントで問合せを再試行してください。同じエラーが発生する場合は、一時表領域を増やしてください。

ORA-30929 ORDER SIBLINGS BY 句はここでは使用できません。

原因: ORDER SIBLINGS BY 句が、CONNECT BY 句を持たない問合せに指定されました。

処置: ORDER SIBLINGS BY 句を削除するか、または CONNECT BY 句を追加してください。

ORA-31000 string への未解決の参照がプロパティ宣言 :string にあります。

原因: 型定義ファイルが存在しない宣言に refers_to タグを含めました。または参照が必要なのに、refers_to タグがありません。

処置: 示されたプロパティを確認して、refers_to タグが有効な宣言を参照していること、または含まれるプロパティをリストしていることを確認してください。

ORA-31001 リソース・ハンドルまたはパス名 string が無効です

原因: 無効なリソース・ハンドルまたはパス名が XDB 階層リゾルバに渡されました。

処置: 有効なリソース・ハンドルまたはパス名を階層リゾルバに渡してください。

ORA-31002 パス名 *string* はコンテナではありません

原因: XDB には、コンテナを示すパス名が必要です。

処置: コンテナを示すパス名またはリソース・ハンドルを渡してください。

ORA-31003 親の *string* にはすでに子エントリ *string* が含まれています

原因: XDB 階層リゾルバに重複する子を挿入しようとした。

処置: コンテナに一意の名前を挿入してください。

ORA-31004 初期化パラメータ *db_block_size* は少なくとも 2K である必要があります

原因: 2K 未満の *db_block_size* の値で XDB 階層リゾルバを使用しようとした。

処置: *db_block_size* の値は 2K 以上に設定してください。

ORA-31005 パス名の長さ *string* が最大長 *string* を超えています

原因: XDB 階層リゾルバに渡すパス名の長さが最大長を超えました。

処置: 短いパス名を指定してください。

ORA-31006 パス名セグメントの長さ *string* が最大長 *string* を超えています

原因: XDB 階層リゾルバに渡すパス名セグメントの長さが、パス名セグメントの最大長を超えました。

処置: 短いパス名セグメントを指定してください。

ORA-31007 空ではないコンテナ *string/string* の削除が試行されました

原因: XDB 階層リゾルバの空ではないコンテナを削除しようとした。

処置: 再帰的な削除を実行するか、またはコンテナの内容を削除してください。

ORA-31008 XDB のストリーム・エラー、エラー・コード [*string*]、ストリーム・タイプ [*string*]

原因: XDB でストリーム・エラーが発生しました。

ORA-31010 順序番号が最大値に達しました

原因: *xob* で許可されるエレメントが最大数に達しました。

処置: 現在、非スキーマ・ベースの *xob* に許可されるのは、1K の子エレメントのみです。

ORA-31011 XML 解析に失敗しました

原因: 文書を解析しようとして、XML Parser がエラーを戻しました。

処置: 解析される文書が有効であるかどうかを確認してください。

ORA-31012 指定された XPATH 式はサポートされていません

原因: 関数に渡される XPATH 式は、現在、サポートされていません。

処置: XPATH 式を確認して、サポートされている式を使用するように変更してください。

ORA-31013 無効な XPATH 式です

原因: 関数に渡される XPATH 式が無効です。

処置: XPATH 式に構文エラーがないかを確認してください。

ORA-31201 DBMS_LDAP: 一般エラー :string

原因: DBMS_LDAP パッケージでエラーが発生しました。

処置: エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31202 DBMS_LDAP: LDAP クライアント / サーバー・エラー :string

原因: LDAP サーバーまたはクライアントに問題があります。

処置: このエラーを LDAP サーバー管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-31203 DBMS_LDAP: PL/SQL - 初期化に失敗しました。

原因: DBMS_LDAP 初期化操作でエラーが発生しました。

処置: ホスト名およびポート番号を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31204 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP セッションです。

原因: DBMS_LDAP バインド操作でエラーが発生しました。

処置: バインドに使用するセッション・ハンドラを確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31205 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP 承認メソッドです。

原因: DBMS_LDAP バインド操作にエラーが発生しました。

処置: バインドに使用する認証資格証明を確認してください。または、エラー番号および説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31206 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP 検索範囲です。

原因: DBMS_LDAP 検索操作でエラーが発生しました。

処置: 検索に使用する検索範囲を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31207 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP 検索時間値です。

原因: DBMS_LDAP 検索操作でエラーが発生しました。

処置: 検索に使用する検索時間値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31208 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP メッセージです。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP メッセージを確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31209 DBMS_LDAP: PL/SQL - LDAP count_entry のエラーです。

原因: DBMS_LDAP count_entry 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP count_operation を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31210 DBMS_LDAP: PL/SQL - LDAP get_dn のエラーです。

原因: DBMS_LDAP get_dn 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP get_dn を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31211 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP エントリのドメイン名です。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用するエントリのドメイン名を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31212 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP mod_array です。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP mod_array を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31213 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP モード・オプションです。

原因: DBMS_LDAP populate_mod_array 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP populate_mod_array 操作に使用する LDAP モード・オプションを確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31214 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP モード・タイプです。

原因: DBMS_LDAP populate_mod_array 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP populate_mod_array 操作に使用する LDAP モード・タイプを確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31215 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP モード値です。

原因: DBMS_LDAP populate_mod_array 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP populate_mod_array 操作に使用する LDAP モード値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31216 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP RDN です。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP RDN を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31217 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP newparent です。

原因: DBMS_LDAP rename_s 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP rename_s 操作に使用する LDAP newparent 値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31218 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP deleteoldrdn です。

原因: DBMS_LDAP rename_s 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP rename_s 操作に使用する LDAP deleteoldrdn 値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31219 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP notypes です。

原因: DBMS_LDAP explode_dn または explode_rdn 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP explode_dn または explode_rdn 操作に使用する LDAP notypes 値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31220 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP SSL wallet location です。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP sslwrl 値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31221 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP SSL wallet passwd です。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP sslpasswd 値を確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31222 DBMS_LDAP: PL/SQL - 無効な LDAP SSL 認証モードです。

原因: DBMS_LDAP 操作でエラーが発生しました。

処置: LDAP 操作に使用する LDAP sslauthを確認してください。または、エラー番号と説明をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31398 DBMS_LDAP: 共有サーバーはサポートされていません。

原因: DBMS_LDAP パッケージから関数を実行するセッションは、データベースの共有サーバーで処理されます。

処置: 専用データベース・セッションを使用して、DBMS_LDAP パッケージの関数を実行してください。

ORA-31399 LDAP サーバー :string (ポート :number) に接触できません

原因: 指定された LDAP サーバーに接触できません。このエラーは、サーバーが停止しているか、またはアクセスできない場合に発生します。

処置: LDAP サーバーの管理者に連絡してください。

ORA-31401 変更ソース string は既存の非同期変更ソースではありません。

原因: コール側が、既存の非同期変更ソースの名前を使用しませんでした。指定した名前は、既存の非同期変更ソースの名前と一致しません。

処置: 変更ソース名の綴りを確認してください。既存の変更ソースを選択してください。

ORA-31402 パラメータ string を認識できません。

原因: 認識できないパラメータが検出されました。

処置: コールにパラメータが多すぎないかどうかを確認してください。

ORA-31403 変更表 string にはすでに列 string が含まれています。

原因: 追加操作で ALTER_CHANGE_TABLE が発行されましたが、この名前の列はすでに指定した表に存在します。

処置: 名前を確認して、プロシージャを再コールしてください。

ORA-31404 入力パラメータがすべて NULL です。

原因: 入力パラメータがすべて NULL です。1 つ以上のプロパティを変更する必要があります。

処置: 必要なパラメータがすべて指定されていることを確認して、プロシージャを再コールしてください。1 つ以上のパラメータが NULL でないことを確認してください。このプロシージャをコールする正しいメソッドについては、ドキュメントを参照してください。

ORA-31405 変更セット *string* の拡張中は変更できません。

原因: 変更セットは、現在、拡張中です。拡張中の変更セットに関連する変更ソースは、変更できません。拡張中の変更セットに関連する変更表は、作成、変更または削除できません。変更セットのパラメータのいくつかまたはすべては、変更セットの拡張中には変更できません。

処置: 変更セットが拡張を終了するまで待機して、コマンドを再発行してください。変更セットを変更する場合、拡張中に `advance_enable` パラメータのみを変更できます。

ORA-31406 変更ソース *string* は変更セットによって参照されます。

原因: この変更ソースが 1 つ以上の変更セットによって参照されているため、操作を完了できません。

処置: 変更セットを削除して、コマンドを再発行してください。変更セットが削除される前にいくつかの変更表を削除する必要がある場合があります。

ORA-31407 END_DATE は BEGIN_DATE より大きい必要があります。

原因: 変更セットの終了日付が開始日付より早いです。開始日付と終了日付の間の時間は正の時間であるため、終了日付は開始日付より遅い時間である必要があります。

処置: 開始日付または終了日付（あるいはその両方）を変更して、終了日付を開始日付より遅くしてください。

ORA-31408 BEGIN_SCN または END_SCN に無効な値が指定されました。

原因: BEGIN_SCN が 0（ゼロ）以下です。END_SCN が 0（ゼロ）未満です。END_SCN が BEGIN_SCN より小さいです。

処置: BEGIN_SCN および END_SCN の値を確認してください。これらの値が、SCN の有効範囲内になるように修正してください。END_SCN 値が 0（ゼロ）の場合は、SCN の無限範囲になります。

ORA-31409 入力パラメータの 1 つ以上の値が不適切です。

原因: プロシージャへ入力した 1 つ以上の値が不正です。

処置: 不正なパラメータを識別して、プロシージャに正しい値を入力してください。

ORA-31410 変更セット *string* は非同期変更セットではありません。

原因: この名前では非同期変更セットを検出できません。

処置: 変更セット名の綴りを確認してください。正しい変更セット名を渡して、プロシージャを再コールしてください。

ORA-31411 変更セット *string* は変更表によって参照されます。

原因: 変更セットには 1 つ以上の変更表が含まれているため、操作を実行できません。

処置: 変更表を削除して、操作を再試行してください。

ORA-31412 変更セット *string* は使用禁止にされ、拡張できません。

原因: 指定された変更セットは使用禁止です。変更セットは、この操作に対して正常に使用できるようにする必要があります。

処置: 変更セットが使用禁止である原因を判断し、その状態を修正してください。
advance_enable を「y」に指定して変更セットを変更してから、操作を再試行してください。

ORA-31413 変更セット *string* は現在拡張されています。

原因: この変更セットに対して、拡張操作が実行中です。この操作が許可されるのは、1 度に 1 人のみです。

処置: 変更セットが現在拡張されているため、拡張が終了するまで待機することをお勧めします。1 度に 1 人のコール側のみが変更セットを拡張できます。拡張操作が長時間実行されている原因を確認してください。

ORA-31414 変更表の拡張中にエラーが発生しました。

原因: 拡張操作中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

処置: 根本的なエラーの詳細な情報は、ログ・ファイルを確認してください。

ORA-31415 変更セット *string* が存在しません。

原因: 指定された変更セットが存在しないか、またはユーザーにその変更セットの発行へのアクセス権限がありません。指定された名前が、既存の変更セットの名前と一致しません。変更セット内の発行にアクセスするには、特定の権限が必要です。

処置: 名前を確認し、既存の変更セットの名前でプロシージャを再コールしてください。変更セット内の発行にアクセスするためにユーザー権限が必要な場合は、発行者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-31416 SOURCE_COLMAP の値が無効です。

原因: 非同期の場合、source_colmap 値に「y」を指定できません。

処置: source_colmap オプションに「n」を指定して、プロシージャを再コールしてください。

ORA-31417 列リストに制御列 *string* が含まれています。

原因: 予約済の列名が、列リストまたは列型のパラメータに指定されました。

処置: 制御列は、別々のパラメータで選択されます。制御列が必要でない場合、予約済の列名と競合しないように、指定した列の名前を変更してください。

ORA-31418 ソース・スキーマ *string* が存在しません。

原因: 同期変更表を作成しようとしてしました。また、ソース・スキーマがデータベース内の既存のスキーマ名と一致しません。

処置: 既存のスキーマの名前を指定してください。

ORA-31419 ソース表 *string* が存在しません。

原因: 同期変更表の作成時は、プロシージャがコールされるときに基礎となるソース表が存在する必要があります。この場合、ソース表が存在しません。

処置: 既存の表の名前を指定してください。

ORA-31420 パージ・ジョブを送れません。

原因: 最初の変更表の作成時に、パージ・ジョブがジョブ・キューに発行されました。このパージ・ジョブの発行は失敗しました。

処置: ジョブ・キュー・プロセスが使用可能で、現在、実行していることを確認してください。問題が解決されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31421 変更表が存在しません。

原因: 指定した変更表は存在しません。

処置: 名前を再度確認し、既存の変更表を使用してプロシージャを再コールしてください。

ORA-31422 所有者スキーマ *string* が存在しません。

原因: 所有者のパラメータに指定された値が、データベースの既存のスキーマ名を含みません。

処置: 名前を再度確認し、既存のスキーマ名を使用してプロシージャを再コールしてください。

ORA-31423 変更表 *string* には列 *string* が含まれていません。

原因: 削除操作で発行された ALTER_CHANGE_TABLE および指定された列が変更表に存在しません。

処置: 名前を再度確認して、プロシージャを再コールしてください。

ORA-31424 変更表はアクティブ・サブスクリプションを持っています。

原因: 変更表がサブスクライブされ、削除できません。

処置: アクティブ・サブスクライバがある間に変更表を削除しないでください。緊急の場合は、FORCE パラメータを使用してください。これは、すべてのサブスクライバから変更表を強制的に削除します。

ORA-31425 サブスクリプション・ハンドルが存在しません。

原因: サブスクリプション・ハンドルが存在しないか、またはこのユーザーに属しません。

処置: 有効なサブスクリプション・ハンドルを使用して、関数を再コールしてください。

ORA-31426 アクティブ・サブスクリプションを変更できません。

原因: サブスクリプション・ハンドルがアクティブにされました。サブスクライブへの追加コールは禁止されます。

処置: サブスクリプションをアクティブにする前に、目的のすべての表および列にサブスクライブしてください。正しいサブスクリプション・ハンドルが指定されたことを確認してください。

ORA-31427 ソース表 *string* はすでにサブスクライブされています。

原因: サブスクリプション・ハンドルによって示されるサブスクリプションには、すでに `source_schema.source_table` が含まれています。

処置: `subscription_handle`、`source_schema` および `source_table` の値を確認してください。同じサブスクリプション・ハンドルを使用して同じ表へ2回以上サブスクライブしないでください。

ORA-31428 指定された列をすべて含んでいる発行はありません。

原因: 指定された1つ以上の列が単一発行で見つかりません。

処置: サブスクリプション要求を変更して、同じ発行内にある列のみを選択してください。現行の発行を参照するには、`USER_PUBLISHED_COLUMNS` ビューを調べてください。

ORA-31429 サブスクリプション・ハンドルがアクティブにされていません。

原因: コールされたプロシージャには、アクティブなサブスクリプションが必要です。

処置: サブスクリプション・ハンドルを確認して、必要に応じて修正してください。このサブスクリプション・ハンドルに `ACTIVATE_SUBSCRIPTION` プロシージャをコールして、元のコマンドを再発行してください。

ORA-31430 変更ビューが存在します。

原因: 変更ビューが、このコールを実行する前に削除されていません。

処置: `DROP_SUBSCRIBER_VIEW` プロシージャをコールして、元のコマンドを再試行してください。

ORA-31431 ソース表はすべて同期変更セットに属している必要があります。

原因: 同期変更セットに属していないソース表があります。

処置: ソース表の綴りを確認してください。すべてのソース表が同期変更セットに属していることを確認してください。

ORA-31432 ソース表が無効です。

原因: `schema_name.source_table` が存在しないか、またはこのサブスクリプションに属しません。

処置: `schema_name` および `source_table` の綴りを確認してください。指定された表が指定されたスキーマに存在し、サブスクリプション・ハンドルによってサブスクライブされていることを確認してください。

ORA-31433 変更ビューが存在しません。

原因: 不適切な変更ビューが指定されました。または、ビューがすでに削除されています。

処置: 名前を再度確認し、既存の変更ビューの名前を指定してください。

ORA-31434 削除が現在実行中です。

原因: 削除ジョブの実行中に PURGE プロシージャがコールされました。

処置: 削除の完了を待って、コマンドを再発行してください。

ORA-31435 削除操作中にエラーが発生しました。

原因: 削除操作中にエラーが発生しました。

処置: 根本的なエラーの詳細な情報は、ログ・ファイルを確認してください。

ORA-31436 変更ソース *string* が重複しています。

原因: 指定された名前の変更ソースがすでに存在します。

処置: 一意の名前で変更ソースを再作成してください。

ORA-31437 変更セット *string* が重複しています。

原因: 指定された名前の変更セットがすでに存在します。

処置: 一意の名前で変更セットを再作成してください。

ORA-31438 変更表 *string* が重複しています。

原因: 指定された名前の変更表がすでに存在します。

処置: 一意の名前で変更表を再作成してください。

ORA-31439 サブスクリプションはすでにアクティブです。

原因: サブスクリプションはすでにアクティブです。

処置: 名前を確認し、再試行してください。

ORA-31440 変更セット *string* が空で拡張できません。

原因: 変更表を含まない変更セットを拡張しようとしました。変更表がない場合、変更セットは拡張できません。

処置: 変更セット内に変更表を作成して、拡張を再試行してください。

ORA-31441 表は変更表ではありません。

原因: 変更表ではない表で DROP_CHANGE_TABLE プロシージャを実行しようとした。このエラーは、変更表オブジェクトが孤立しているときに発生する場合もあります。変更表は、CREATE_CHANGE_TABLE の失敗または不完全な DROP_CHANGE_TABLE の後で孤立する場合があります。

処置: 綴りを確認してください。不適切な名前によるエラーの場合は、適切な名前を使用してプロシージャを再試行してください。変更表ではない表または孤立した変更表を削除するには、かわりに、DROP TABLE DDL コマンドを使用してください。

ORA-31442 *string* のロックを取得中に操作がタイムアウトになりました。

原因: CDC がリソースのロックを取得しようとしたましたが、操作がタイムアウトになりました。

処置: 時間をおいてから操作を再試行してください。

ORA-31443 *string* のロックを取得中にデッドロックが検出されました。

原因: CDC がリソースのロックを取得しようとしたましたが、デッドロックが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31444 *string* のロックを取得中にパラメータ・エラーが発生しました。

原因: CDC がリソースのロックを取得しようとしたましたが、パラメータをロック・マネージャに渡す問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31445 *string* のロックを取得中にロック・ハンドルが無効になりました。

原因: CDC がリソースのロックを取得しようとしたましたが、既存のハンドルと対応しない無効なロック・ハンドルが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31447 SYS スキーマに変更表を作成できません。

原因: SYS スキーマに変更表を作成しようとした。これは許可されていません。

処置: 別の既存のスキーマを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-31448 CHANGE_SOURCE の値が無効です。

原因: 指定された値は、変更ソースに対して無効な名前です。

処置: 有効な名前を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31449 SET_NAME の値が無効です。

原因: 指定された値は、変更セットに対して無効な名前です。

処置: 有効な名前を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31450 CHANGE_TABLE_NAME の値が無効です。

原因：指定された値は、変更表に対して無効な名前です。

処置：有効な名前を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31451 CAPTURE_VALUES の値 *string* が無効です。値は OLD、NEW または BOTH です。

原因：指定された値は、CAPTURE_VALUES に対して有効なオプションではありません。

処置：有効なオプションを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31452 パラメータの値 *string* が無効です。値は Y または N です。

原因：指定された値が Y または N ではありません。

処置：パラメータに Y または N を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31453 パラメータの値 *string* が無効です。値は Y、N または NULL です。

原因：指定された値が Y、N または NULL ではありません。

処置：パラメータに Y、N または NULL を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31454 操作パラメータの値 *string* が無効です。値は ADD または DROP です。

原因：指定された値が ADD または DROP ではありません。

処置：ADD または DROP を指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-31455 ALTER の対象がありません。

原因：指定された列リストが NULL で、オプションの制御列すべてが「N」です。

処置：ALTER に 1 つ以上の列を指定してください。

ORA-31456 DBMS_CDC_UTILITY パッケージのプロシージャの実行でエラーが発生しました。

原因：DBMS_CDC_UTILITY パッケージのプロシージャの実行に失敗しました。

処置：詳細は、トレース・ログを確認してください。パッケージが正常にインストールされていることを確認してください。パッケージで SQL から DESCRIBE コマンドを発行してください。これに失敗した場合は、パッケージを再インストールしてください。成功した場合は、SQL からプロシージャを 1 つ実行してください。

ORA-31457 説明フィールドの最大の長さが超過しました。

原因：説明フィールドで許可される文字の最大数を超過しています。

処置：説明フィールドの最大長は 30 文字です。長さがこの値を超えないことを確認して、コマンドを再試行してください。

ORA-31459 DBMS_CDC_PUBLISH パッケージのシステム・トリガーがインストールされていません。

原因: 必要なシステム・トリガーが 1 つ以上インストールされていません。これらのトリガーには、Change Data Capture の適切な操作が必要です。変更表での操作が継続できません。

処置: トリガーをインストールまたは再度使用可能にするか、パッケージを再インストールしてください。

ORA-31460 ログファイルの場所 *string* は既存のディレクトリではありません。

原因: 変更ソースのログ・ファイルの場所に対するディレクトリ指定が既存のディレクトリと対応していないか、またはディレクトリがアクセス可能ではありません。

処置: 存在しない場合は、ディレクトリを作成してください。ディレクトリが存在する場合は、ディレクトリにアクセスできるようにファイルのシステム権限を変更してください。または、ALTER CHANGE SOURCE を実行して、logfile_location がログ・ファイルを含む既存のディレクトリになるように変更してください。

ORA-31461 ログファイルの場所 *string* にはパターン *string* に一致するファイルがありません。

原因: 変更ソースのログ・ファイルの場所に対するディレクトリ指定が、logfile_suffix とパターンが一致する名前のファイルを含みません。

処置: ログ・ファイルの場所に変更セットの logfile_suffix パターンが一致する名前のログ・ファイルを含むことを確認してください。または、ALTER CHANGE SOURCE を実行して、ディレクトリ内の既存のログ・ファイルの名前と一致するように logfile_suffix を変更してください。

ORA-31462 メタデータへのアクセス中に内部エラーが発生しました。

原因: CDC が内部メタデータにアクセス中に予期しない内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31463 ログファイルの場所 *string* は空のディレクトリです。

原因: 変更ソースのログ・ファイルの場所に対するディレクトリ指定が空のディレクトリです。

処置: ログ・ファイルの場所が正しいことを確認してください。正しい場合は、ディレクトリにログ・ファイルが含まれることを確認してください。または、ALTER CHANGE SOURCE を実行して、logfile_location がログ・ファイルを含む既存のディレクトリになるように変更してください。

ORA-31464 変更表のターゲット表はすでに存在していません。

原因: 変更表を削除しようとしたましたが、基礎となる記憶表（変更データを含む）が削除されています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31465 サブスクリプション・ハンドルでロックを取得できません。

原因: サブスクリプション・ハンドルでロックしようとしているときにタイムアウトが発生しました。別のセッションがすでにサブスクリプション・ハンドルでロックを取得しました。

処置: サブスクリプション・ハンドルが正しいことを確認して、必要に応じて修正してください。正しい場合は、ロックを保持しているセッションを解放した後で操作を再試行してください。

ORA-31466 発行が見つかりません。

原因: 入力パラメータと一致する発行が見つかりません。または、指定された発行へのアクセス権限がユーザーにありません。

処置: SUBSCRIBE へのコールで入力パラメータを確認してください。指定されたソース表が、そのソース表に対する USER_PUBLICATIONS ビューを確認して発行されたことを検証してください。その発行にアクセスするためにユーザー権限が必要な場合は、発行者に連絡してください。正しいセキュリティまたは発行情報でコマンドを再試行してください。

ORA-31467 ソース表に列が見つかりません。

原因: OBJECT_ID フラグが CREATE_CHANGE_TABLE へのコールで「Y」に設定されていて、変更表が同期変更表に属しています。対応するオブジェクト列が、ソース表で検出されませんでした。

処置: OBJECT_ID フラグを「N」に設定して変更表を作成してください。または、オブジェクト列がソース表にない理由を調べ、ソース表に追加してください。

ORA-31470 非同期変更表は RSID\$ 列を含んでいる必要があります。

原因: 非同期変更表の作成時、RSID が「N」に設定されました。「DROP」の操作パラメータを使用した非同期変更表の変更時、RSID が「Y」に設定されました。

処置: 非同期変更表の作成時は、RSID パラメータに「Y」を指定してください。非同期変更表の変更時は、RSID パラメータに「N」を指定してください。

ORA-31471 OBJECT_ID の値が無効です。

原因: 非同期変更表では、OBJECT_ID の値に「y」を指定できません。

処置: OBJECT_ID オプションに「n」を指定して、プロシージャを再コールしてください。

ORA-31472 インポートしている Change Data Capture バージョン *string.string* は新しすぎます

原因: ターゲット・インスタンスより新しいバージョンの Oracle でエクスポートしたファイルをインポートしようとしてしました。

処置: 可能な場合、インポートするターゲットと一致するバージョンのエクスポートを使用して、ファイルを再エクスポートしてください。オブジェクトは、そのオブジェクトをサポートしない前のバージョンの Oracle へはインポートされません。

ORA-31475 REDO ログ・カタログにはソース表のメタデータを含みません。

原因: 変更セットの拡張中に、CDC が、ソース表から列を取得する LogMiner ディレクトリ・システム表を問い合わせようとしていました。この問合せが行を戻しませんでした。これは、カタログを含む REDO ログがないことが原因である場合があります。または、内部エラーの可能性もあります。

処置: まず、ソース・システムにソース表が含まれることを確認してください。
dbms_logmnr_d.build プロシージャを実行して、LogMiner ディクショナリ情報を持つ REDO ログを移入してください。これを実行しても問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-31476 表データ変更列がソース表から欠落しています。

原因: 変更セットの拡張中に、CDC が、変更表内の 1 つ以上のデータ列がソース表のすべての列の名前と一致しないと判断しました。ソース表の列リストは、ディクショナリ表 SYSTEM.LOGMNR_OBJ\$ に格納されます。

処置: 変更表のすべてのデータ列がソース表の対応する列と同じ名前を持つこと、およびすべての列がソース表に存在することを確認してください。

ORA-31495 "string"."string" の同期変更表でエラーが発生しました

原因: この同期変更表からエラーが発生しました。スキーマの再定義がソース表で発生したため、変更表の 1 つ以上の列が対応するソース列とは異なる型になったことが原因である可能性があります。同期変更表のアクセスに問題があることが原因である可能性もあります。

処置: 原因の詳細は、スタックのエラー・メッセージを確認してください。スキーマの再定義があった場合は、同期変更表を削除および再作成してください。

ORA-31600 入力値 *string* (パラメータ *string*、ファンクション *string*) が無効です。

原因: パラメータに対して NULL または無効な値が指定されました。

処置: 入力値を修正して、コールを再試行してください。

ORA-31601 フェッチが開始されているためファンクション *string* をコールできません。

原因: ファンクションが FETCH_xxx への最初のコール後にコールされました。

処置: プログラムを修正してください。

ORA-31602 パラメータ *string*、値 "string" (ファンクション *string*) と *string* との一貫性がありません。

原因: パラメータ値が、プログラムが指定した別の値と一貫性がありません。OPEN コンテキストと対応付けられたオブジェクト型と一貫性がない場合があります。または、無効なデータ型（テキスト文字列ではなくブールまたはその逆）である場合があります。

処置: プログラムを修正してください。

ORA-31603 オブジェクト "*string*" (タイプ *string*) がスキーマ "*string*" で見つかりません。

原因: 指定されたオブジェクトがデータベースで見つかりません。

処置: オブジェクト指定を修正して、コールを再試行してください。

ORA-31604 *string* パラメータ "*string*" (オブジェクト型 *string*、ファンクション *string*) が無効です。

原因: 指定されたパラメータ値がこのオブジェクト型では有効ではありません。

処置: パラメータを修正して、コールを再試行してください。

ORA-31605 次のものは *string* (ルーチン *string*) から戻されました :LPX-number.*string*

原因: LPX ルーチン (XML/XSL 処理) が、パッケージ UTL_XML の実装を提供する KUX 機能の PL/SQL ラッパー・ルーチンに内部エラー番号を戻しました。

処置: LPX エラー番号を調べて、対処措置に従ってください。

ORA-31606 XML コンテキスト *number* は以前に割り当てられたどのコンテキストとも一致しません。

原因: パッケージ UTL_XML のメソッドが、無効な XML コンテキスト・ハンドルでコールされました。すべてのハンドルは、UTL_XML.XMLINIT で以前に割り当てられている必要があります。

処置: パッケージ UTL_XML の他のメソッドの前に XMLINIT をコールしてください。

ORA-31607 関数 *string* は変換と矛盾しています。

原因: 「DDL」変換が指定されたときに FETCH_XML がコールされたか、または「DDL」変換が省略されたときに FETCH_DLL がコールされました。

処置: プログラムを修正してください。

ORA-32001 SPFILE への書込みが要求されましたが、起動時に SPFILE が指定されていません。

原因: ALTER SYSTEM コマンドまたは内部自己チューニング・メカニズムが SPFILE に書込みを要求しましたが、このインスタンスの起動に使用される SPFILE がありませんでした。

処置: SPFILE を作成し、その SPFILE を使用してインスタンスを再起動してください。

ORA-32002 すでにインスタンスによって使用されている SPFILE は作成できません。

原因: CREATE SPFILE コマンドが、インスタンスの起動に使用される SPFILE へ書き込もうとしています。

処置: 異なる SPFILE 名を指定してください。

ORA-32004 廃止または使用不可、あるいはその両方のパラメータが指定されました。

原因: 1 つ以上の廃止されたパラメータが SPFILE またはサーバー側の PFILE で指定されました。

処置: 廃止されたまたは使用不可であるパラメータのリストのアラート・ログを参照してください。それらのパラメータを SPFILE またはサーバー側 PFILE から削除してください。

ORA-32005 サイズ指定 [string] の解析中にエラーが発生しました

原因: サイズ・パラメータの変更操作に指定した値が無効です。

処置: 値を修正して、操作を再試行してください。

ORA-32006 string 初期化パラメータは使用不可になっています。

原因: 使用不可なパラメータが起動時に指定されました。

処置: かわりに使用する新しいパラメータを、Oracle マニュアルで調べてください。

ORA-32008 インスタンス string でのパラメータ更新処理中にエラーが発生しました。

原因: リモート・インスタンスでパラメータの処理中にエラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-32009 インスタンス string のメモリー値をインスタンス string からリセットできません

原因: メモリーのリセットはローカル・パラメータのみに許可されています。

処置: 必要に応じて、ローカル・インスタンスの間合せを再試行してください。

ORA-32010 SPFILE には削除するエントリが見つかりません

原因: SPFILE には、sid.parameter エントリが含まれません。

処置: sid または parameter (あるいはその両方) を変更してください。

ORA-32031 WITH 句の間合せ名の参照が無効です。

原因: WITH 句の間合せ名の前方参照または再帰的参照は許可されません。

処置: 間合せ文を修正して、再試行してください。

ORA-32032 空きの一時オブジェクト番号が使用不能です。

原因: すべての一時オブジェクト番号を使用して実行している、一時表変換を使用する間合せが多すぎます。

処置: 一時表変換をオフにするか、またはしばらく待ってから、再試行してください。

ORA-32033 列のエイリアシングはサポートされていません。

原因: WITH 句の列のエイリアシングはサポートされていません。

処置: 定義の副間合せでエイリアシングを指定して、再試行してください。

ORA-32034 WITH 句の使用はサポートされていません。

原因：次のいずれかの理由で WITH 句の使用が不適切になりました。

1. WITH 句内の WITH 句のネストがサポートされていない。
2. セット問合せの場合、WITH 句がブランチに指定できない。
3. WITH 句はカッコ内で指定できない。

処置：問合せを修正して、再試行してください。

ORA-32035 WITH 句に参照されないクエリー名が定義されました

原因：参照されない WITH 句のクエリー名が 1 つ以上あります。

処置：参照されないクエリー名を削除して、再試行してください。

ORA-32036 クエリー名を WITH 句にインラインする場合はサポートされないケースです

原因：定義の問合せが単純すぎ、別のクエリー名を参照しているために、2 回以上インラインにするクエリー名が 1 つ以上あります。現在、これはサポートされません。

処置：そのようなクエリー名を削除して、再試行してください。

ORA-32100 一時オブジェクトでの操作は無効です。

原因：永続オブジェクトでのみ有効な操作を一時オブジェクトで実行しようとしてしました。

処置：オブジェクトが永続であることを確認してください。

ORA-32101 OCI 環境を作成できません。

原因：OCI 環境を OCCI に作成できませんでした。

処置：creatEnvironment メソッドのパラメータが有効であることを確認してください。

ORA-32105 移行メソッドへ渡された接続が無効です。

原因：Session::migrate メソッドに無効な Connection が渡されました。

処置：移行メソッドに有効な Connection を渡してください。

ORA-32106 すべての列に setBuffer がない場合、配列フェッチは使用できません

原因：setBuffer メソッドがすべての列の位置に対してコールされず、その次のメソッドが行を 2 つ以上フェッチするようにコールされました。

処置：次のコールが 2 つ以上の行をフェッチするようにコールされる場合、すべての列の位置に setBuffer メソッドをコールしてください。

ORA-32107 内部 OCI メモリー割当て障害が発生しました

原因：メモリーが OCI ヒープから割り当てられませんでした。

処置：プロセス・メモリー・サイズを増やしてください。

ORA-32108 列またはパラメータの最大サイズが指定されていません。

原因: 列またはパラメータの最大サイズが指定されていません。

処置: setMaxColumnSize または setMaxParamSize を使用して最大サイズを指定してください。

ORA-32109 列またはパラメータの位置が無効です。

原因: 無効な列またはパラメータの位置を指定しました。

処置: 有効な列または位置番号を指定してください。

ORA-32110 接続が指定されていません

原因: NULL の接続が渡されました。

処置: 有効な NULL でない接続を渡してください。

ORA-32111 ベクトルのサイズが VARRAY のサイズと一致しません。

原因: setVector メソッドに渡されたベクトルの数値エレメントが VARRAY のサイズと等しくありませんでした。

処置: VARRAY のサイズと等しいのサイズのベクトルを渡してください。

ORA-32112 属性がフェッチされるまではコールは適用可能ではありません。

原因: 属性が wasLastAttrNull() へのコール後にフェッチされました。

処置: 属性値をフェッチしてから、このコールを行ってください。

ORA-32113 NULL のオブジェクトが渡されました。

原因: NULL のオブジェクトが渡されました。

処置: NULL でないオブジェクトを渡してください。

ORA-32114 NULL の LOB では操作は実行できません。

原因: 操作を実行しようとした LOB インスタンスが NULL です。

処置: 有効な NULL でない LOB インスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32115 LOB はどの接続にも属していません

原因: 比較されている LOB のどちらも接続情報に対応付けられていませんでした。

処置: 比較されている LOB の 1 つ以上を、有効な接続と対応付けてください。

ORA-32116 指定された値より少ないバッファ・サイズです。

原因: LOB の読み込みまたは書き込み操作に指定されたバッファ・サイズが、読み込まれるまたは書き込まれる値より少ないです。

処置: バッファ・サイズを、LOB から読み込まれる値または LOB に書き込む値以上にしてください。

ORA-32117 ソース LOB が NULL です。

原因: 操作を実行しようとしたソース LOB インスタンスが NULL です。

処置: この操作に対して有効な NULL でないソース LOB インスタンスを使用してください。

ORA-32118 NULL の FILE では操作は実行できません。

原因: 操作を実行しようとした FILE インスタンスが NULL です。

処置: 有効な NULL でない FILE インスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32119 FILE はどの接続にも属していません

原因: 比較されている FILE のどちらも接続情報に対応付けられていませんでした。

処置: 比較されている FILE の 1 つ以上を、有効な接続と対応付けてください。

ORA-32120 指定された値より少ないバッファ・サイズです。

原因: FILE の読み込みまたは書き込み操作に指定されたバッファ・サイズが、読み込まれるまたは書き込まれる値より少ないです。

処置: バッファ・サイズを、FILE から読み込まれる値または LOB に書き込む値以上にしてください。

ORA-32121 ソース FILE が NULL です。

原因: 操作を実行しようとしたソース FILE インスタンスが NULL です。

処置: この操作に対して有効な NULL でないソース FILE インスタンスを使用してください。

ORA-32122 文が無効です。メタデータを取得できません。

原因: 終了した文にメタデータを取得しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-32123 属性の数値が範囲外です。

原因: 渡された属性の数値が、記述されたオブジェクトの属性の合計数より大きいです。

処置: 許容範囲内の属性の数値を渡してください。

ORA-32124 無効な属性が渡されました。

原因: 渡された属性は、記述されたオブジェクトには適用可能ではありません。

処置: 有効な属性を渡してください。

ORA-32125 属性の型が適切ではありません。

原因: get メソッドの戻り型が、渡されている属性の型と一致しません。

処置: 適切な get メソッドをコールしてください。

ORA-32126 NULL の REF では操作は実行できません。

原因: 操作を実行しようとした REF インスタンスが NULL です。

処置: 有効な NULL でない REF インスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32127 REF はどの接続にも属していません

原因: 比較されている REF のどちらも接続情報に対応付けられていませんでした。

処置: 比較されている REF の 1 つ以上を、有効な接続と対応付けてください。

ORA-32128 フェッチを開始した後で setDataBuffer がコールされました

原因: 結果セットからのフェッチがすでに開始し、setDataBuffer コールが作成されました。

処置: setDataBuffer メソッドをコールしてから、next() メソッドをコールしてください。

ORA-32129 この列に関する情報を取得できません

原因: setDataBuffer メソッドが、この列の情報を取得するためにコールされました。したがって、現行のメソッドはコールされません。

処置: setDataBuffer コールに指定したバッファからの情報を使用してください。

ORA-32130 無効なオフセット / 索引がバイトで参照されました

原因: オフセット / 索引が Bytes オフセットの有効なデータ位置の範囲を超えています。

処置: オフセットまたは索引が Bytes オブジェクトの範囲内であることを確認してください。

ORA-32131 bind データ型は変更できません

原因: setXXX メソッドが、元に指定されたものとは異なるデータ型で再コールされます。または、setXXX メソッドが、最初の反復前にコールされずに後続の反復にコールされます。

処置: 最初の反復前に実行した同じデータ型で setXXX メソッドをコールしてください。このパラメータにコールされた setXXX メソッドがない場合は、最初の反復を位置付け、最初の addIteration メソッドがコールされる前に setXXX メソッドがコールされることを確認してください。

ORA-32132 最大反復数は変更できません

原因: setMaxIteration が、setXXX メソッドがコールされた後でコールされました。

処置: setMaxIteration メソッドをコールしてから、setXXX メソッドをコールしてください。

ORA-32133 LOB/FILE からストリームを取得できません

原因: 操作を実行しようとした LOB/FILE にオープン・ストリームが存在します。

処置: ストリームをクローズしてから、別のストリームを取得してください。

ORA-32134 LOB を割り当てることができません

原因: ターゲット LOB にオープン・ストリームが存在します。

処置: ターゲット LOB のストリームをクローズしてから、LOB を割り当ててください。

ORA-32135 FILE を割り当てることができません

原因: ターゲット FILE にオープン・ストリームが存在します。

処置: ターゲット FILE のストリームをクローズしてから、FILE を割り当ててください。

ORA-32136 無効なストリームでは処理を実行できません

原因: ストリームが取得された LOB/FILE が NULL 化されているか、または破棄されています。

処置: 有効なストリームを使用してください。

ORA-32137 ストリーム上で読み込み / 書き込み処理を実行できません

原因: readBuffer() または writeBuffer() メソッドが、UTF16 キャラクタ・セットのストリームでコールされました。

処置: readUBuffer() または UBuffer() メソッドを使用してください。

ORA-32138 ストリーム上で読み込み / 書き込み処理を実行できません

原因: readUBuffer() または writeUBuffer() メソッドが、UTF16 キャラクタ・セットではないストリームでコールされました。

処置: readBuffer() または writeBuffer() メソッドを使用してください。

ORA-32139 ストリームに書き込みできません

原因: 書き込みが、最後のバッファが書き込まれた後で実行されました。

処置: このストリームをクローズし、新しいストリームを取得して、書き込みを実行してください。

ORA-32140 ストリームでこの操作を実行できません

原因: 書き込みモードでストリームから読み込みを実行しようとしています。または、読み込みモードでストリームに書き込みを実行しようとしています。

処置: ストリームの状態を確認して、実行できる有効な操作を判断してください。

ORA-32141 get メソッドがパラメータの型と一致しません

原因: Statement オブジェクトでコールされる getXXX メソッドが、バインド・パラメータの型と一致しません。

処置: パラメータの型と同じ getXXX メソッドをコールしてください。

ORA-32142 繰返しの最大数を超えました

原因: addIteration が、setMaxIteration メソッドが設定した繰返しの最大数を超過しています。

処置: 許可される繰返しの最大数を増やしてください。

ORA-32143 環境が指定されていません

原因: NULL の環境が渡されました。

処置: 有効な NULL でない環境を渡してください。

ORA-32144 NULL 間隔では処理を実行できません

原因: この操作が実行される間隔が NULL です。

処置: 有効な NULL でない間隔のインスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32145 環境が指定されていません

原因: 操作を実行しようとした間隔が NULL で、指定された環境がありません。

処置: NULL でない環境を指定するか、または NULL でないインスタンスで操作を実行してください。

ORA-32146 NULL 日では処理を実行できません

原因: この操作が実行される日付が NULL です。

処置: 有効な NULL でない日付のインスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32147 環境が指定されていません

原因: 操作を実行しようとした日付が NULL で、指定された環境がありません。

処置: NULL でない環境を指定するか、または NULL でないインスタンスで操作を実行してください。

ORA-32148 NULL 時間では処理を実行できません

原因: この操作が実行される時間が NULL です。

処置: 有効な NULL でない時間のインスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32149 環境が指定されていません

原因: 操作を実行しようとした時間が NULL で、指定された環境がありません。

処置: NULL でない環境を指定するか、または NULL でないインスタンスで操作を実行してください。

ORA-32150 NULL タイムスタンプでは処理を実行できません

原因: この操作が実行されるタイムスタンプが NULL です。

処置: 有効な NULL でないタイムスタンプのインスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32151 環境が指定されていません

原因: 操作を実行しようとしたタイムスタンプが NULL で、指定された環境がありません。

処置: NULL でない環境を指定するか、または NULL でないインスタンスで操作を実行してください。

ORA-32152 NULL 番号では処理を実行できません

原因: この操作が実行される番号が NULL です。

処置: 有効な NULL でない番号のインスタンスを使用して、この操作を実行してください。

ORA-32153 環境が指定されていません

原因: 操作を実行しようとした番号が NULL で、指定された環境がありません。

処置: NULL でない環境を指定するか、または NULL でないインスタンスで操作を実行してください。

ORA-32154 Anydata コンテキストが指定されていません

原因: NULL の Anydata コンテキストが渡されました。

処置: 有効な NULL でない Anydata コンテキストを渡してください。

ORA-32155 Anydata が指定されていません

原因: NULL の Anydata が渡されました。

処置: 有効な NULL でない Anydata を渡してください。

ORA-32156 ストリームで処理を実行できません

原因: この操作は LOB から取得されたストリームには適用可能ではありません。

ORA-32158 無効な型が渡されました

原因: このコールに適用不可能な型が渡されました。

処置: 適用可能な型を渡してください。

ORA-32159 NULL 型にプリフェッチ・オプションを設定できません

原因: NULL の型名が渡されました。

処置: NULL でない型名を渡してください。

ORA-32160 引数が範囲外です

原因: 0 (ゼロ) または負の値が渡されました。

処置: 正の値を渡してください。

ORA-32161 ピース単位フェッチを実行できません

原因: 0 (ゼロ) が渡され、バッファ・サイズが LOB のサイズより小さいです。

処置: 大きいバッファを指定するか、または Stream を使用してください。

ORA-32162 読み込み / 書き込み SQL メソッドが登録されていません

原因: 読み込み / 書き込み SQL メソッドが NULL か、登録されていません。

処置: Map の put メソッドをコールして、読み込み / 書き込み SQL を登録してください。

ORA-32300 セカンダリ・マテリアライズド・ビュー "string"."string" を削除できません。

原因: ネストした表の列の記憶表のマテリアライズド・ビューを削除しようとした。

処置: ネストした表の列を含むマテリアライズド・ビューを削除してください。これは、すべてのマテリアライズド・ビューを暗黙的に削除します。

ORA-32301 オブジェクト・リレーショナル・マテリアライズド・ビューは主キー・ベースである必要があります。

原因: 主キー・ベースではないオブジェクト・リレーショナル・マテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: PRIMARY KEY キーワードを使用して、マテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-32302 オブジェクト・マテリアライズド・ビューはオブジェクト ID ベースである必要があります。

原因: オブジェクト ID ベースではないオブジェクト・マテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: OF 句を使用して、マテリアライズド・ビューを作成してください。ただし、ROWID または PRIMARY KEY 句は省略してください。

ORA-32303 ユーザー定義型を持ったマテリアライズド・ビューは複数のマスター・サイトを参照できません。

原因：ユーザー定義型を持ったマテリアライズド・ビューでは、定義の間合せは、異なるマスター・サイトの表を参照できません。

処置：複数のマスター・サイトを参照するユーザー定義型を持つマテリアライズド・ビューを作成しないでください。

ORA-32304 ユーザー定義型を持ったマテリアライズド・ビューはビルトインの表を使用できません。

原因：マテリアライズド・ビューを ON PREBUILT TABLE オプションで作成しようとしました。

処置：ON PREBUILT TABLE オプションを使用して、マテリアライズド・ビューを作成しないでください。

ORA-32305 ユーザー定義型を持った RepAPI マテリアライズド・ビューはサポートされていません。

原因：RepAPI マテリアライズド・ビューをユーザー定義型で作成しようとしました。

処置：RepAPI マテリアライズド・ビューをユーザー定義型で作成しないでください。

ORA-32306 ユーザー定義型を持った更新可能なマテリアライズド・ビューは SELECT * を使用する必要があります。

原因：定義の間合せが最上位レベルで SELECT * を使用しないユーザー定義型を持つ更新可能なマテリアライズド・ビューを作成しようとしました。

処置：SELECT * が最上位レベルで使用されるように定義の間合せを修正してください。

ORA-32307 オブジェクト表を参照する場合は FROM ONLY 句を使用する必要があります。

原因：定義の間合せが FROM ONLY 句のないオブジェクト表を参照するマテリアライズド・ビューを作成しようとしました。

処置：定義の間合せを修正して、間合せのすべてのオブジェクト表に FROM ONLY 句を使用してください。

ORA-32308 オブジェクト・マテリアライズド・ビューは SELECT * を使用する必要があります。

原因：定義の間合せが最上位レベルで SELECT * を使用しないオブジェクト・マテリアライズド・ビューを作成しようとしました。

処置：SELECT * が最上位レベルで使用されるように定義の間合せを修正してください。

ORA-32309 オブジェクト・マテリアライズド・ビューの型 "string"."string" はマスター表の型と一致しません。

原因: マスター・オブジェクト表の型と一致しない型のオブジェクト・マテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: マスター・オブジェクト表の型と一致するように型を再定義してください。

ORA-32310 オブジェクト・マテリアライズド・ビューはオブジェクト表から選択する必要があります。

原因: 定義の間合せがオブジェクト表から選択されないオブジェクト・マテリアライズド・ビューを作成しようとした。

処置: オブジェクト表から選択するように定義の間合せを修正してください。

ORA-32311 マテリアライズド・ビュー定義の間合せはサポートされていないユーザー定義型を選択します。

原因: 定義の間合せで、ユーザー定義型を戻す埋込みユーザー定義ファンクション、または引数がユーザー定義型であるファンクションを選択しようとした。

処置: 定義の間合せを修正して、これらのサポートされていないユーザー定義型を削除してください。

ORA-32312 セカンダリ・マテリアライズド・ビュー "string"."string" をリフレッシュできません。

原因: ネストした表の列の記憶表のマテリアライズド・ビューをリフレッシュしようとした。

処置: ネストした表の列を含むマテリアライズド・ビューをリフレッシュしてください。これは、すべてのセカンダリ・マテリアライズド・ビューを暗黙的にリフレッシュします。

ORA-32313 "string"."string" の REFRESH FAST は PMOP の後ではサポートされていません。

原因: パーティション・メンテナンス操作 (PMOP) がディテール表で実行されました。また、指定されたマテリアライズド・ビューは PMOP の後の高速リフレッシュをサポートしていません。

処置: REFRESH COMPLETE を使用してください。DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、指定されたマテリアライズド・ビューが PMOP の後に高速リフレッシュをサポートしない理由を確認してください。

ORA-32314 "string"."string" の REFRESH FAST は削除 / 更新の後ではサポートされていません。

原因：1 つ以上の削除または更新が、指定されたマテリアライズド・ビューによって参照される 1 つ以上のディテール表で実行されました。このマテリアライズド・ビューは、削除または更新の後では高速リフレッシュをサポートしていません。

処置：REFRESH COMPLETE を使用してください。DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、指定されたマテリアライズド・ビューが削除または更新の後に高速リフレッシュをサポートしない理由を確認してください。

ORA-32315 "string"."string" の REFRESH FAST は複合 DML とダイレクト・ロードの後ではサポートされていません

原因：指定されたマテリアライズド・ビューが参照するディテール表の 1 つ以上のマテリアライズド・ビュー・ログが順序番号オプションを省略します。そのようなログは、削除または更新、およびダイレクト・パスの挿入の後でマテリアライズド・ビューをリフレッシュするためには使用できません。

処置：REFRESH COMPLETE を使用してください。DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、順序番号オプションを省略するマテリアライズド・ビュー・ログを判別してください。

ORA-32316 "string"."string" の REFRESH FAST は複合 DML の後ではサポートされていません。

原因：指定されたマテリアライズド・ビューが参照するディテール表の 1 つ以上のマテリアライズド・ビュー・ログが順序番号オプションを省略します。そのようなログは、削除または更新が複数のディテール表で実行された後でマテリアライズド・ビューをリフレッシュするためには使用できません。

処置：REFRESH COMPLETE を使用してください。DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、順序番号オプションを省略するマテリアライズド・ビュー・ログを判別してください。

ORA-32317 あるジョブから他のジョブの実行はできません

原因：あるジョブから他のジョブを実行しようとしてしました。

処置：他のジョブを実行するジョブを送らないでください。

ORA-32318 マテリアライズド・ビューは改名できません

原因：マテリアライズド・ビューまたはその実表の名前の変更はサポートされていません。

処置：マテリアライズド・ビューの実表の名前は変更しないでください。

ORA-32319 FAST REFRESH マテリアライズド・ビュー "string"."string" にダイレクト・ローダー・ログを使用できません

原因：ダイレクト・ローダー・ログが削除されています。

処置：完全リフレッシュを実行する必要があります。

ORA-32320 "string"."string" の REFRESH FAST はコンテナ表 PMOP の後ではサポートされていません

原因: パーティション・メンテナンス操作 (PMOP) がマテリアライズド・ビューで実行されました。また、マテリアライズド・ビューはコンテナ表 PMOP の後の高速リフレッシュをサポートしていません。

処置: REFRESH COMPLETE を使用してください。

注意: DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、マテリアライズド・ビューが PMOP の後に高速リフレッシュをサポートしない理由を確認してください。

ORA-32321 "string"."string" の REFRESH FAST は詳細表 TRUNCATE の後ではサポートされていません

原因: 詳細表が切り捨てられました。また、マテリアライズド・ビューはディテール表が切り捨てられた後の高速リフレッシュをサポートしていません。

処置: REFRESH COMPLETE を使用してください。

注意: DBMS_MVIEW.EXPLAIN_MV() API を使用して、マテリアライズド・ビューが TRUNCATE の後に高速リフレッシュをサポートしない理由を確認してください。

ORA-32330 オンライン再定義暫定表 "string"."string" での操作は無効です

原因: 無効な操作が表のオンライン再定義に使用されている暫定表で実行されました。

処置: 暫定表でサポートされていない操作を実行しないでください。

ORA-32331 型 "string"."string" はマスター・サイトとの互換性がありません

原因: マテリアライズド・ビューが使用する型がマスター・サイトの対応する型と互換性がありません。型がマスター・サイトに存在しないか、またはマテリアライズド・ビュー・サイトの型と異なるバージョンにバージョン・アップしたためです。

処置: マテリアライズド・ビューが使用する型がマテリアライズド・ビューおよびマスター・サイトで同じ型であることを確認してください。

ORA-32332 型が進化したため、マテリアライズド・ビュー "string"."string" をリフレッシュできません

原因: マテリアライズド・ビューまたはマスター表が使用する型がバージョン・アップしています。

処置: マテリアライズド・ビューが使用する型がマスターおよびマテリアライズド・サイトで同じバージョンであることを確認してください。マテリアライズド・ビューをリフレッシュする前に、ALTER MATERIALIZED VIEW を使用してマテリアライズド・ビューをバージョン・アップさせてください。

ORA-32333 マテリアライズド・ビューの表 scn の更新を無効にします

原因：イベントは、デッドロック状況を防ぐために表 scn の更新を使用禁止に設定されています。

処置：マテリアライズド・ビューに対して NULL リフレッシュまたは実表 scn（あるいはその両方）の更新を使用禁止にしてください。

ORA-32334 MV ですでに参照されている表ではビルトイン・マテリアライズド・ビューを作成できません

原因：マテリアライズド・ビューがビルトインとして作成された表は、マテリアライズド・ビューですでに参照されています。

処置：異なる表でマテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-32335 ディメンションには少なくとも 1 つのレベルが必要です

原因：レベルがないディメンションは許可されていません。

処置：ディメンションのレベルのみを削除しないでください。

ORA-32336 USING NO INDEX を使用してマテリアライズド・ビュー "string"."string" を作成できません

原因：USING NO INDEX オプションが、更新可能な主キー・ベースのマテリアライズド・ビュー、索引構成のマテリアライズド・ビューまたはオブジェクト ID マテリアライズド・ビューを作成するように指定されています。

処置：更新可能な主キー・ベースのマテリアライズド・ビュー、索引構成のマテリアライズド・ビューまたはオブジェクト ID マテリアライズド・ビューを作成するために、USING NO INDEX オプションを使用しないでください。

ORA-32337 コミット時にリフレッシュ変更を保留してマテリアライズド・ビューを変更できません

原因：ディテール表に保留の変更があります。

処置：マテリアライズド・ビューとディテール表間で同期をとるために、必要に応じて、マテリアライズド・ビューにリフレッシュを実行し、ALTER MATERIALIZED VIEW 文を実行してください。

ORA-32400 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログのオブジェクト ID 列を使用できません

原因：マテリアライズド・ビュー・ログに記録されたオブジェクト ID 列がありません。または、オブジェクト ID 列に関連するタイムスタンプが前回のリフレッシュ時刻より最近です。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。必要に応じて、オブジェクト ID 列をマテリアライズド・ビュー・ログに追加してください。

ORA-32401 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログには新規の値がありません。

原因: 示された表のマテリアライズド・ビュー・ログには、新規の値の情報がありません。

処置: ALTER MATERIALIZED VIEW LOG コマンドを使用して、新規の値をマテリアライズド・ビュー・ログに追加してください。

ORA-32403 "string"."string" のマテリアライズド・ビュー・ログからの新規の値を使用できません。

原因: マテリアライズド・ビュー・ログに記録された新規の値がありません。または、新規の値に関連するタイムスタンプが前回のリフレッシュ時刻より最近です。

処置: 次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行してください。

ORA-32404 スナップショット・ログではこのデータベースに使用できない Change Data Capture を使用します

原因: Change Data Capture を使用するスナップショット・ログが Change Data Capture が使用できないデータベースにインポートされています。

処置: データベースで Change Data Capture を使用可能にして、インポートを再試行してください。

ORA-32500 Dir 名 'string' は 'number' 文字を超過できません。

原因: パス名が長すぎます。

処置: Dir 名には、指定した最大長より短いパス名を使用してください。

ORA-32501 ファイルへの SGA の書き込みが失敗しました。

原因: 基礎となる OSD でエラーが発生しました。

処置: エラー番号を含む追加情報 slercerno を調べてください。

ORA-32502 コマンドを実行できません。Flash Freeze は有効ではありません。

原因: このコマンドは、Flash Freeze の後のみに発行できます。

処置: Flash Freeze および Oracle Diagnostics の指示を参照してください。

ORA-32503 ファイルからの SGA のマッピングが失敗しました。

原因: 基礎となる OSD でエラーが発生しました。

処置: エラー番号を含む追加情報 slercerno を調べてください。

ORA-32575 明示的な列デフォルトがビューの変更に対してサポートされていません

原因: デフォルト・キーワードがビューを変更するために使用されました。

処置: 暗黙的なデフォルト（列値の対を省略する）を使用してください。

ORA-32576 TYPE キーワードがありません

原因: TYPE キーワードがありません。

処置: TYPE キーワードを使用してください。

第 III 部

Oracle データベース・サーバー・ ユーティリティ・メッセージ

第III部には、次の章があります。

- 第 15 章「Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)」
- 第 16 章「エクスポート・メッセージ (EXP)」
- 第 17 章「インポート・メッセージ (IMP)」
- 第 18 章「パラメータ・メッセージ (LRM)」
- 第 19 章「パラメータ・メッセージ (LCD)」
- 第 20 章「BFILE 関連のメッセージ (LFI)」
- 第 21 章「PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)」
- 第 22 章「サマリー・アドバイザ、EXPLAIN リライトおよび EXPLAIN マテリアライズド・ビュー・メッセージ (QSM)」
- 第 23 章「Recovery Manager メッセージ (RMAN)」
- 第 24 章「SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)」

Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)

この章では、CLI、サービス、フォーマッタおよびレポータを含む Oracle Trace Collection Services メッセージのエラーを記載します。

Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡

Oracle Trace に関してオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する場合、次の情報を用意してください。

- ご使用の Oracle Trace のバージョン。
- データベース・コレクションのエラーが発生した場合、そのデータベースのバージョン。
- Oracle Intelligent Agent のバージョン。
- ご使用のオペレーティング・システムおよびバージョン（クライアントとサーバーの両方）。
- エラー発生時に実行していた操作（エラー再生の手順）。
- EPC_ERROR.LOG に記録した場合に発生したエラーの詳細および Oracle Trace Manager のロギング・ウィンドウの情報。
- 構成情報（たとえば、1 つ以上の ORACLE_HOME が存在するか、1 つ以上のデータベースが存在するかなど）。
- .cdf および .dat ファイルのコレクションは作成されたか。作成された場合、そのサイズ。

EPC-00000 ～ EPC-00358

EPC-00001 無効なイベント・フラグが渡されました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。エラーが返された場合、いくつかの下位のルーチンが、Oracle Trace コードに処理されなかった 1 の状態を返した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00002 無効な製品 ID が渡されました。

原因: 無効な製品 ID が渡されました。

処置: 1 ～ 999999 の間で有効な製品 ID を指定してください。

EPC-00003 無効な製品バージョンが渡されました。

原因: 無効な製品バージョン番号が渡されました。

処置: 製品バージョン番号の長さを 11 バイト以下で指定してください。

EPC-00004 無効な製品登録 ID が渡されました。

原因: 無効な製品登録 ID が渡されました。

処置: 製品登録 ID の長さを 256 バイト以下で指定してください。

EPC-00006 コレクションは使用禁止です。

原因: 環境変数 EPC_DISABLED の使用によって、Oracle Trace データのコレクションは使用禁止にされています。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00007 製品バージョンが必要です。

原因: 製品バージョン番号が指定されていません。

処置: 製品バージョン番号を指定してください。

EPC-00008 この製品に対して epc_init ルーチンが 2 回コールされました。

原因: 製品に対して epc_init ルーチンがすでにコールされています。

処置: コードを調べて、epc_init ルーチンが 2 回以上コールされていないか、epc_init ルーチンが正しい位置でコールされているかどうかを確認してください。

EPC-00014 製品番号が未指定です。

原因: 製品番号の引数が Oracle Trace API ルーチン（たとえば、epc_event ルーチンなど）に指定されませんでした。

処置: 製品番号を指定してください。

EPC-00015 メモリーが不十分です。

原因：メモリーの割当てに失敗しました。システムの使用可能なメモリーが不十分です。

処置：実行しているプロセスを減らして、同様の Oracle Trace コレクションを実行してください。システムのメモリーが不十分である可能性があります。

EPC-00020 Oracle Trace がメモリーにアクセスできません。

原因：マップされたメモリー管理 .dat ファイルの 1 つが一杯になったときに、Oracle Trace は、そのファイルのサイズを拡張できませんでした。これは、Windows NT の場合のみに表示されます。その他のプラットフォームでは、必要に応じてファイルが拡張されるため、ユーザーの処置は必要ありません。

処置：現在実行している Oracle Trace コレクションの終了後、*.dat ファイル上の領域を解放してください。Oracle Trace コレクションが実行されていない（および Oracle データベース・プロセスがファイルに接続されていない）場合、otrcrcf イメージを実行して、空の .dat ファイルを新しく作成してください。otrcrcf の実行時に、必要に応じて、より大きいファイル・サイズを指定してください。たとえば、otrcrcf -f200 -c32 -r400 などです。

EPC-00023 製品はデータ・コレクションをしていません。

原因：コレクションはアクティブですが、指定されたインストルメント製品はコレクションの一部ではありません。

処置：コレクションに正しい製品バージョンが指定されたかを確認してください。

EPC-00030 コレクションが見つかりません。

原因：Oracle Trace の操作（たとえば、取消しなど）を実行するコレクションが、現在 Oracle Trace Collection Services に認識されていません。

処置：存在するコレクションの名前を指定してください。

EPC-00035 レコード長が無効です。

原因：epc_event コールで無効のレコード長が見つかりました。

処置：epc_event コールで有効なレコード長については、『Oracle Trace User's Guide』を参照してください。

EPC-00036 無効なイベントが渡されました。

原因：無効なイベント番号が渡されました。

処置：有効なイベント番号を指定してください。

EPC-00037 イベント番号が無効です。

原因：イベント番号に 0 が指定されました。

処置：有効なイベント番号を指定してください。

EPC-00038 ハンドルが未指定です。

原因: NULL のハンドル引数が、start_event または end_event コールで指定されました。

処置: コールのハンドル・アドレスを指定してください。

EPC-00039 指定されたイベントではデータ・コレクションをしていません。

原因: 製品はデータ・コレクションをしていますが、イベントはデータ・コレクションをしていません。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00040 データ・コレクション・ファイルへの書き込みでエラーが発生しました

原因: データをデータ・コレクション・ファイルに書き込めません。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00043 データ・ファイル・ロックの取得でエラーが発生しました。

原因: コレクション・データ・ファイルの更新で競合したため、ファイルでの書き込みロックの取得が妨げられました。

処置: コレクションのプロセスが少ないときに、再試行してください。

EPC-00046 一般エラー・メッセージです。

原因: 通常、このエラーは基礎となるエラーの値がハンドルされた値の範囲外るとき、Oracle Trace Manager によって返されます。異常な条件下では、原因不明のエラーのレポートにも使用されます。

処置: epc_error.log ファイルにエラーがある場合は、詳細を調べて、原因および処置の説明を参照してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00047 無効なコンテキスト値が渡されました。

原因: 無効なコンテキスト値が、Oracle Trace API ルーチン（たとえば、epc_event など）に渡されました。

処置: API ルーチン・コールに有効なコンテキスト値を指定してください。

EPC-00048 コンテキストが渡されませんでした。1 つは渡されるはずですが。

原因: Oracle Trace API ルーチンにコンテキストが渡されませんでした。1 つは渡されるはずですが。

処置: コンテキストを渡してください。

EPC-00049 thread_id が現行のスレッドではありません。

原因：現行のスレッドにコンテキストが設定されていません。

処置：現行のスレッドにコンテキストを設定してください。

EPC-00053 登録 ID はすでに存在しています。

原因：EPC_INIT コールで指定されたオプションの登録文字列が重複しています。

処置：インストールメント・コードを修正してください。

EPC-00054 製品の制限を超えています。

原因：コレクションごとに 5 つの製品という制限を超えています。

処置：処置は必要ありません。ただし、最も古いコレクションへの接続を失います。

EPC-00055 データ・コレクション・ファイルのオープンでエラーが発生しました

原因：データ・コレクション・ファイル (.dcf) をオープンしようとしているときに、Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置：コレクション・ファイルの存在を検証し、ファイルの保護を確認してください。それでも解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00056 コレクション定義ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因：コレクション定義ファイル (.cdf) をオープンしようとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置：コレクションのコレクション定義ファイル (.cdf) の存在を検証し、ファイルの保護を確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00057 製品間項目番号が無効です。

原因：コール（たとえば、epc_cf_value コールなど）で無効な製品間項目番号が指定されました。

処置：1 ～ 14 までの製品間番号を指定してください。

EPC-00058 epc_init コールが必要です。

原因：epc_init コールが必要ですが、見つかりませんでした。

処置：コードを調べて、epc_init が正しい位置でコールされているかどうかを確認してください。

EPC-00060 データ・コレクション・ファイルが必要です。

原因: データ・コレクション・ファイルが、たとえば `epc_collect` コールに、指定されませんでした。

処置: インストルメント・コードを確認してください。

EPC-00061 製品定義ファイルが必要です。

原因: 製品定義ファイル（.fdt）が、たとえば `epc_collect` コールに、指定されませんでした。

処置: インストルメント・コードを確認してください。

EPC-00062 コレクションはすでにアクティブです。

原因: 指定されたコレクションは、すでにアクティブです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00063 製品定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: 指定された製品定義ファイル（.fdf）を読み込もうとしているときに、たとえば `epc_collect` コールで、エラーが発生しました。

処置: 製品定義ファイルの存在を検証し、ファイルの保護を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00064 データ・コレクション・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション・ファイル（.dcf）を作成しようとしているときに、エラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理 /cdf ディレクトリ上の保護設定を確認してください。また、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00065 コレクション定義ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイル（.cdf）を作成しようとしているときに、エラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理 /cdf ディレクトリ上の保護設定を確認してください。また、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00066 コレクション定義ファイルの書込みでエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイル (.cdf) に書き込もうとしているときに、エラーが発生しました。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00067 製品定義ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: 製品定義ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: 製品定義ファイル (.fdf) の存在を検証し、存在する場合は、ファイルの保護を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00068 コレクション定義ファイル内にシーク・エラーがあります。

原因: コレクション定義ファイル (.cdf) でシーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00069 OS 名やバージョンなどのプラットフォーム / システム情報の取得でエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムを確認できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00070 ホスト名の取得でエラーが発生しました。ホストを識別できません。

原因: ホスト名を識別できませんでした。プラットフォーム固有のコールが、ホスト名の取得に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00071 無効な最大イベントが指定されました。

原因: 指定された最大イベントが無効です。

処置: 1 ~ 127 の間で最大イベントを指定してください。

EPC-00072 returned_eflags パラメータが必要です。

原因: returned_eflags パラメータが必要でしたが、epc_init コールで見つかりませんでした。

処置: epc_init コールに必要な情報を指定してください。

EPC-00073 無効なオフセット値が指定されました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00075 ファイル名が必要です。

原因: ファイル名が必要でしたが、見つかりませんでした。たとえば、.fdf ファイル名はコレクションを起動するために必要です。

処置: ファイル名を指定してください。

EPC-00076 epc_init コールには predefined_eventflags パラメータが必要です。

原因: predefined_eventflags パラメータが必要でしたが、NULL ポインタが epc_init コールで渡されました。

処置: epc_init コールに必要な情報を指定してください。

EPC-00077 epc_init コールに無効なイベント・キー・オプション値が指定されました。

原因: epc_init コールで指定されたイベント・キー・オプションが無効です。

処置: epc_init コールで有効なイベント・キー・オプション値を指定してください。

EPC-00078 機能はまだ実装されていません。

原因: この機能は、まだ実装されていません。

処置: この機能は、使用しないでください。処置は必要ありません。

EPC-00080 ファイルの追加シークに失敗しました。

原因: ファイル I/O シークが、追加操作中にファイルの起動（または終了）に失敗しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00081 追加書込みに失敗しました。

原因: ファイルの追加操作中（たとえば、コレクション定義ファイル (.cdf) の作成中など）に、使用できるディスク領域を超えました。

処置: ディスク領域を増やしてください。

EPC-00082 追加読込みに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00083 製品定義ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00084 ファイルのメモリー・マッピングに失敗しました。

原因: Oracle Trace Collection Services とその他のコンポーネント（たとえば、データベース・サーバー・バージョンなど）との間に不整合がある場合、このメッセージが表示されます。ファイルがローカルでマウントされたディスク・デバイスに位置していない場合、Oracle Trace 管理 .dat ファイルのメモリー・マッピングはエラーを生成することもあります。

処置: Oracle Trace のドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00085 メモリーのマッピング解除に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00086 メモリー・アンマッピングの前には、メモリー・マッピングが必要です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00087 CLI ジョブを開始しています。

原因: この条件は、Oracle Trace にかわって Oracle Intelligent Agent が実行した Oracle Trace CLI ジョブの開始を通知するために使用されます。これはエラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。Oracle サーバー・リリース 7.3.3 では、エラー・メッセージ「PRO ファイルにプロセス・レコードを割り当てられません。」が読み込まれます。通常、これは EPC-00084 と同時に発生します。

EPC-00088 文字列の書式設定パッケージに対するコールに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00089 event_id の値が epc_init の max_event を超えています。

原因: epc_event コールで指定された event_id パラメータの値が、epc_init コールで事前に指定された最大値より大きいです。

処置: 有効な event_id を指定してください。

EPC-00090 バージョン・レコード書込みでエラーが発生しました。

原因: システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置: ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00094 システム・タイムスタンプ・コールが失敗しました。

原因: Oracle Trace はシステム・タイムスタンプを取得できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00095 登録 ID レコードの新規追加でエラーが発生しました。

原因: システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置: ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00096 登録 ID ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00097 登録 ID ファイルの新規作成でエラーが発生しました。

原因：ユーザーに、Oracle Trace 管理 .dat ファイルがあるディレクトリ（たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin など）に対する書き込みアクセス権がないか、有効なディスク領域が不足している可能性があります。

処置：ディレクトリに対するアクセス権を付与するか、空きディスク領域を追加してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00098 登録 ID レコードの削除でエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00099 登録 ID 詳細レコードの削除でエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00100 新規登録 ID 詳細レコードに対する空きスロットの検索でエラーが発生しました。

原因：システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置：ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00101 指定プロセスに対する主要登録 ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因：Oracle Trace が管理 regid.dat ファイルのオープンに失敗しました。

処置：ファイルが Oracle Trace 管理ディレクトリに存在するか、ファイルの保護がアクセスを許可しているかを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00103 登録 ID コンテキストが無効です。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00104 登録 ID データが無効か、または整合性がとれていません。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00105 登録 ID 文字列が無効です (長すぎるなど)。

原因: 指定された登録 ID 文字列が無効です (長すぎるなど)。

処置: 有効な登録 ID 文字列を指定してください。

EPC-00106 次の登録 ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00107 次の登録 ID 詳細レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00108 登録 ID ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace が管理 regid.dat ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ファイルが Oracle Trace 管理ディレクトリに存在するか、ファイルの保護がアクセスを許可しているかを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00109 登録 ID レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00110 登録 ID ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00112 ファイルの extend_count パラメータの設定でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00113 新規コレクション・レコードを追加中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00114 コレクション・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00116 コレクションは collect.dat ファイル内にすでに存在しています。

原因: コレクション名は Oracle Trace 管理 collect.dat ファイルに存在し、すでに使用されています。コレクションが非アクティブの場合、このレコードは廃棄されます。

処置: すべてのプロセスが Oracle Trace 管理 .dat ファイルから分離したときに新しいコレクション名を指定するか、otrcrcf イメージを実行して、Oracle Trace 管理 .dat ファイルを強制的にクリーンアップしてください。

EPC-00117 collect.dat ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: ユーザーに、Oracle Trace 管理 .dat ファイルがあるディレクトリ（たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin など）に対する書込みアクセス権がないか、有効なディスク領域が不足しているか、またはインストールメント・プロセスが .dat ファイルにアクセスしたままになっている可能性があります。

処置: ディレクトリに対するアクセス権を付与するか、空きディスク領域を追加してください。Oracle Trace .dat ファイル（たとえば、データベースなど）を現在使用しているプロセスがないことを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00118 collect.dat レコードの削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00119 指定された collect.dat レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00120 collect.dat コンテキストが無効か、または未定義です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00121 コレクション名が無効か、または未定義です。

原因: 「コレクションの起動」などの Oracle Trace 操作で必要なユーザー指定のコレクション名が指定されていません。

処置: コレクション名が指定されているかどうかを確認してください。コレクション名が指定されている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00122 次の collect.dat レコードの取得でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00123 collect.dat ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace Collection Services が、所定の位置 (\$ORACLE_HOME/admin) の管理 collect.dat ファイルにアクセスできません。

処置: Oracle Trace 管理 collect.dat ファイルの存在を検証し、ファイルの保護の問題を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00124 collect.dat レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00125 collect.dat ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00126 collect.dat の extend_count の設定でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00133 CLI ジョブを完了しました。

原因: この状況は、Oracle Trace にかわって Oracle Intelligent Agent が実行した Oracle Trace CLI ジョブの完了を通知するために使用されます。これはエラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00146

原因: Oracle Trace のコマンドライン・インタプリタ (CLI) に使用されました。通常の Oracle Trace ジョブの出力の一部が正常に実行されました。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00147 ジョブ ID が指定されていません。

原因: CLI の開始および停止コレクションのユーザー指定のジョブ ID が指定されていません。または、Oracle Trace 内部エラーが発生しています。

処置: Oracle Trace CLI がジョブ ID 値なしで実行された場合は、正しいコマンドライン・パラメータで再操作してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00148 コレクション状態: アクティブ

原因: これは、指定されたコレクションが存在し、アクティブであると想定した、Oracle Trace CLI の「チェック・コレクション」操作が成功したことを示します。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00149 コレクション状態: アクティブでない

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00150 コレクション状態: 未定義

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00151 コレクション定義ファイルとデータ・コレクション・ファイルが削除されました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00153 指定された CLI コマンドが無効か、または確定できません。

原因: Oracle Trace CLI に無効または不完全なコマンド動詞が指定されたか、コマンドが使用されていません。

処置: 完全な CLI コマンド動詞、たとえば、「start」（およびその他の必要なコマンドライン・パラメータ）を指定し、コレクションを起動してください。

EPC-00155 制限の最大数を超過しています。

原因: CLI ユーザーが最大数（現在は 5）を超えた制限レコードを入力しました。

処置: CLI パラメータに渡される入力制限を減らしてください。

EPC-00156 ORACLE_HOME パラメータが指定されていません。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が定義されていないままで、Oracle Trace CLI から要求されました。

処置: ORACLE_HOME を定義して、CLI 関数を返してください。

EPC-00157 コレクションを開始しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00158 コレクションが完了しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00159 ユーザー名またはパスワード（またはサービス名）が指定されていません。

原因: Oracle Trace データのフォーマットなど、Oracle データベースにアクセスする場合は、ユーザーは、有効なデータベース・アカウントのユーザー名、パスワードおよびデータベース・サービス名を指定して、完全な Oracle データベース接続文字列を作成する必要があります。

処置: 欠落している接続文字列コンポーネントを指定してください。

EPC-00160 コレクションの活動化でエラーが発生しました。

原因: regid.dat ファイルがコレクション起動でアクセス不可の場合、Oracle Trace はコレクションを起動できません。これは内部エラーです。

処置: regid.dat ファイルがアクセス可能かを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00163 ORACLE_HOME の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

処置: ORACLE_HOME の定義および otrace/admin ディレクトリが存在し、アクセス可能かを確認してください。解決しない場合は、データベース管理者 (DBA) に連絡してください。

EPC-00164 プロダクト管理ディレクトリ名変換でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace 管理ディレクトリへのパスを判断中に、エラーが発生しました。

処置: ORACLE_HOME の定義および otrace/admin ディレクトリが存在し、アクセス可能かを確認してください。解決しない場合は、データベース管理者 (DBA) に連絡してください。

EPC-00166 コレクションの取消しでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00167 コレクション・ファイルは限界に達しました。

原因: コレクションが開始されたときに指定された最大ファイル・サイズを超えました。

処置: 処置は必要ありません。今後のコレクションのために、最大ファイル・サイズを増やしてください。

EPC-00169 コレクション定義ファイルの削除でエラーが発生しました。

原因: コレクションの .cdf ファイルの削除でエラーが発生した場合、Oracle Trace CLI がこのエラーを通知します。ほとんどの場合、ファイルが存在しない (すでに削除されている) か、ファイルの保護か、または Oracle Trace コレクションに関係する 1 つ以上のプロセス (データベース・プロセス) がファイルを保持したままになっていることが原因です。

処置: ファイルの存在を確認し、必要であれば、保護を修正してください。オープンしたままのファイルがデータベース・プロセスにある場合、次のデータベースの処理で、プロセスがファイルを解放するまで待ってください。

EPC-00170 コレクション・データ・ファイルの削除でエラーが発生しました。

原因: コレクションの .dat ファイルの削除でエラーが発生した場合、Oracle Trace CLI がこのエラーを通知します。ほとんどの場合、ファイルが存在しない（すでに削除されている）か、ファイルの保護か、または Oracle Trace コレクションに関係する 1 つ以上のプロセス（データベース・プロセス）がファイルを保持したままになっていることが原因です。

処置: ファイルの存在を確認し、必要であれば、保護を修正してください。オープンしたままのファイルがデータベース・プロセスにある場合、次のデータベースの処理で、プロセスがファイルを解放するまで待ってください。

EPC-00172 パラメータの解析エラーです。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00173 コマンドライン引数リストの解析に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00174 入力パラメータ・ファイルの解析に失敗しました。

原因: Oracle Trace CLI に不正な入力パラメータを指定した場合、このエラーが発生します。それ以外の場合は、Oracle Trace の内部エラーです。

処置: CLI 入力パラメータを修正してください。解決されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00175 Oracle Trace の CLI otrccol イメージが見つからないか、または実行可能ではありません。

原因: Oracle Trace の CLI イメージ otrccol が ORACLE_HOME/bin にないか、アクセスが拒否されました。

処置: イメージが存在する場合は、保護を設定して実行可能にしてください。存在しない場合は、システムの Oracle インストールの責任者に確認してください。複数の ORACLE_HOME 定義がある場合、正しい ORACLE_HOME が使用されているかを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00176 フォーマットを完了しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00177 フォーマットを開始しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00179 ユーザー・アクションまたは最大ファイル・サイズ（またはエラー）により、コレクションが停止しました。

原因: このメッセージは、コレクションの完了予定前にユーザーが明示的にコレクションを停止したか、指定したファイル・サイズが最大に達したため（またはディスクが一杯になったため）コレクションが終了したか、またはその他のエラー条件が強制的にコレクションを停止したことを示します。

処置: ユーザーがコレクションを停止していない場合は、ディスクの使用状態を確認してください。INIT.ORA または Oracle Trace Manager の最大ファイル・サイズを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00180 フォーマットしたデータの削除を開始しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00181 フォーマットしたデータの削除を完了しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00182 OCI データベース・アクセスのエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace の CLI データベース・アクセス中にエラーが発生しました。

処置: 追加の障害情報およびエラー・メッセージについては、EPC_ERROR.LOG ファイルを参照してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00183 epcfctx パラメータが無効です。

原因: 無効な機能コンテキスト引数が、Oracle Trace API ルーチン（たとえば、EPC_EVENT）に渡されました。

処置: 機能コンテキスト引数を指定してください。

EPC-00184 コレクション定義ファイルのポインタが無効です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00185 ファイルのバージョンが現行の Oracle Trace バージョンではありません。

原因: Oracle Trace の非互換バージョンが作成したコレクション・ファイルにアクセスしようとした。

処置: Oracle Trace の正しいバージョンを使用して、コレクション・ファイルにアクセスしてください。

EPC-00186 コレクションの開始でエラーが発生しました。

原因: collect.dat ファイルで、コレクション状態をアクティブに設定中にエラーが発生しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00189 アクティブ・コレクションの制限を超えています。

原因: この製品に対するコレクションの最大数を超えています。コレクションの現在の最大数は 5 です。

処置: 時間をおいてからコレクションを再実行してください。

EPC-00190 facility.dat ファイルのコンテキストが無効です。内部エラーです。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00191 製品レコードを facility.dat ファイルに追加中、エラーが発生しました。

原因: このインストールメント製品のレコードを facility.dat ファイルに追加中、エラーが発生しました。

処置: facility.dat ファイルの存在およびアクセス可能かどうかを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00192 facility.dat ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: otrccref イメージを使用して facility.dat ファイルを作成中に、エラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理ディレクトリが存在するか、アクセス可能か、または facility.dat ファイルが現在使用されていないかを確認してください。

EPC-00193 ファイル・エクステントを facility.dat ファイルに設定中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00194 facility.dat ファイルの製品レコードを更新中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00195 facility.dat ファイル内で次の製品レコードを検索中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00196 facility.dat ファイルからヘッダー・レコードを読み込み中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00197 facility.dat ファイルからの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00198 facility.dat ファイルから製品レコードを削除中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00199 facility.dat ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00200 facility.dat ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: facility.dat ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: facility.dat ファイルがアクセス可能かを確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00220 項目が見つかりません。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。.cdf および .dat ファイルを使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00224 レポート・ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace が、レポート出力ファイル（たとえば、col_name*.txt）へのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00226 localtime() エラー

原因: Oracle Trace レポーターが、日付のローカル表示に必要なサイズの判断に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00227 最初の製品登録 ID の検索で、シーク・エラーが発生しました。

原因: 最初の製品登録 ID の検索中に、Oracle Trace レポータでシーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00228 一致する製品が見つかりません。

原因: Oracle Trace レポータが指定された製品の検索に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00229 イベント・レコードの前にイベント項目レコードがあります。

原因: Oracle Trace レポータが、イベント・レコードの前のイベント項目レコードを検出しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00230 イベント・レコードが見つかりません。

原因: Oracle Trace レポータがイベント・レコードの検索に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00233 string を string 内に割り当て中、エラーが発生しました。

原因: メモリー割当てエラーが発生しました。

処置: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00234 メモリーを割当てできません。

原因: メモリー割当てエラー (calloc) が発生しました。

処置: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00235 データ・コレクション・ファイル *string.dat* が見つかりません。

原因: データ・コレクション・ファイルが見つかりません。削除されて、存在していない可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00236 コレクション定義ファイル *string* が見つかりません。

原因: コレクション定義ファイル (.cdf) が見つかりません。または、ファイルの保護のため、アクセスできません。

処置: .cdf ファイルが存在しない場合、処置は必要ありません。 .cdf ファイルが存在する場合は、ファイルの保護を確認してください。

EPC-00237 コレクション定義ファイル内に不明なレコードがあります。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00238 コレクション定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00239 *string*

原因: これはエラーではありません。この情報は、任意のテキスト文字列の出力に使用されます。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00240 挿入フィールド内の文字間調整が無効です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00241 挿入フィールド内に整合性のエラーがあります。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00256 ファイル状況のチェックでエラーが発生しました。

原因: ファイル・サイズの判断に失敗しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。 .cdf および .dat ファイルを使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00257 読み込みエラーです。

原因: ファイルを読み込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護は正しいが、エラーが繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00258 string 内で書込みエラーが発生しました。

原因: ファイルを書き込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護は正しいが、エラーが繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00259 string 内でシーク・エラーが発生しました。

原因: ファイルを読み込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護は正しいが、エラーが繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00260 ファイルの拡張でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace は、ファイルを拡張できませんでした。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00261 *string* 内でマップ読み込みエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00297 データ・コレクション・ファイル *string* への書き込みでエラーが発生しました。

原因: データ・ファイルの保護に問題があるか、データ・コレクション・ファイルが一杯です。

処置: 必要に応じて、保護問題を修正してください。エラーが発生する場合は、Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00306 ファイル *string* には報告するデータがありません。

原因: これは、Oracle Trace レポータのエラーです。.dat ファイルに保護問題があるか、データを収集する処理が実行されていません。

処置: .dat ファイルの保護を確認してください。それ以外は、処置は必要ありません。

EPC-00307 Oracle のコミットでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00308 Oracle 文の実行でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00309 *string* の解析でエラーが発生しました。

原因: 通常、これは、Oracle Trace データをデータベースにフォーマットするときに発生するエラーです。このエラーは、フォーマット表がデータベースに存在しないか、現行のフォーマット表の定義がフォーマット操作を実行する Oracle Trace イメージと同期していないことを示します。Oracle Trace のリリース 7.3.4 以上は、フォーマット表を自動的に記述するメタデータの作成および更新ができます。ただし、古いバージョンではできません。

処置: 必要に応じて、Oracle Trace フォーマッタの SQL スクリプトを実行して、ターゲット・データベースにある Oracle Trace のフォーマット表の定義を更新してください。ただし、Oracle Trace の新しいバージョンが、すでにデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウントにデータをフォーマットしている場合、フォーマットされたデータに対して、異なるデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウント（あるいはその両方）を使用する必要がある場合があります。互換性のない古い Oracle Trace のバージョンは、フォーマット表が異なるため、これと同じデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウントにはフォーマットできません。otrcfmt イメージの説明は、『Oracle Trace User's Guide』を参照してください。

EPC-00310 メッセージ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: このエラーは、メッセージ・ファイル（たとえば、EPCUS.MSB ファイルなど）に保護の問題があることを示します。

処置: メッセージ・ファイルの保護が正しいことを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00314 データ・コレクション・ファイル本体の読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00319 必要なスケジュール・コレクションのユーザー情報がありません。

原因: コマンドラインから Oracle Trace の CLI を実行してコレクションを起動する場合、このエラーは、必要な情報が CLI 入力パラメータ・ファイルに指定されていないことを示します。それ以外は、Oracle Trace の内部エラーです。通常は、このエラーは発生しません。

処置: コマンドライン・モードで CLI を実行している場合は、CLI 入力パラメータ・ファイルを修正してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00322 プロセス・レポート・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これは、プロセス・レポートが作成されないことを示します。ディスク領域または保護の問題の可能性があります。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace に関するオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)」を参照してください。

EPC-00337 使用方法: `string [-w[wid]] [-l[len]] -P -p[pid] -h -a -d] input_file [output_dir]`

原因: Oracle Trace Report コマンドが不正に使用されています。

処置: 正しいパラメータを正しい順序で指定して、コマンドを再発行してください。

EPC-00342 データベースでコレクション `string` の ID が見つかりません。-f オプションで再実行してください。

原因: Oracle Formatter は、データファイルで指定されたコレクション ID を検索できませんでした。

処置: -f オプションを指定してフォーマットを再実行し、データファイル全体をフォーマットしてください。

EPC-00343 使用方法: `string [-f] [-p] [-c#] cdf_file [username [password [service]]]`

原因: これは無効なフォーマット・コマンドです。

処置: フォーマット・コマンドを再入力してください。

EPC-00344 フォーマットする新規データはありません。終了します。

原因: 新しいデータを含まないデータファイルをフォーマットしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00350 `collection_id number` のフォーマットを強制終了しています。データベースから削除して、再フォーマットしてください。

原因: このメッセージには、いくつかの原因が考えられます。ユーザーがフォーマット操作を取り消した場合、このメッセージはエラー・メッセージではなく、単なる情報メッセージである場合があります。

処置: その他の基礎となるエラー・メッセージ（たとえば、フォーマットに指定したデータベース・サービス名の解決失敗など）に対する EPC_ERROR.LOG を確認してください（これは、フォーマット・コードが実行しているローカル・ノードの TNSNAMES.ORA ファイルには、指定されたフォーマット・データベースに対するエントリがないことを示します）。エラー・メッセージに指定されたコレクション ID が 0 未満の場合、フォーマット・データベースをアクセスしないかぎり、フォーマット・プロセスを実行できません。フォーマット・コマンドを再実行し、-f パラメータ（部分的ではなく完全フォーマット）を指定して、異常終了する前に、フォーマットしたデータを再フォーマットしてください。

EPC-00351 ユーザーがフォーマットを取り消しました。

原因: Oracle Trace のフォーマット操作は停止されました。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00352 このファイルはすでに存在しています。別の名前を選択してください。

原因: 指定されたファイル名はすでに存在します。

処置: 新しいファイル名（コレクション名）を指定してください。

EPC-00357 同じ製品間項目に対して重複するコールバック・ルーチンを追加しようとした。

原因: 同じ製品間項目に対して重複するコールバック・ルーチンを追加しようとした。

処置: コードを修正してください。

EPC-00358 存在しない製品間コールバック・ルーチンを削除しようとした。

原因: 存在しない製品間コールバック・ルーチンを削除しようとした。

処置: コードを修正してください。

エクスポート・メッセージ (EXP)

この章では、エクスポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle9i データベース・ユーティリティ』を参照してください。

EXP-00000 エラーが発生したためエクスポートを終了します。

原因: エクスポート・ユーティリティで Oracle エラーを検出しました。

処置: 付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00001 データ・フィールドを切り捨てました - 列の長さ =number、バッファ・サイズ =number、実際のサイズ =number

原因: エクスポートは、列をデータ・バッファ内に収めることができませんでした。

処置: 表示されたサイズ・パラメータと付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。(表の一部はすでにエクスポートされています。次の表からエクスポートが続行されます。)

EXP-00002 エクスポート・ファイルへ書き込み中にエラーが発生しました

原因: デバイス・エラーが発生したため、エクスポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルに書き込めなかった可能性があります。通常、このメッセージの次に、オペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

処置: 適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

EXP-00003 セグメントに対する記憶域定義がありません (number,number)

原因: エクスポート・ユーティリティは、クラスタ、索引または表の領域定義を見つけられませんでした。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00004 ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

処置: 有効なユーザー名またはパスワードを指定して再試行してください。

EXP-00005 ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログオンしようとしてしました。

処置: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名またはパスワードを指定してから再起動し、再試行してください。

EXP-00006 内部矛盾エラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティのデータ構造が破損しています。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00007 ディクショナリには *string.string* に対する列がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データ・ディクショナリから適切に列の情報を収集できませんでした。表が削除されている可能性があります。

処置: エクスポート処理を再実行してください。このエラーが繰り返される場合は、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00008 Oracle エラー *number* が発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、示された Oracle エラーを検出しました。

処置: この Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00009 *string* の表 *string* をエクスポートする権限がありません。

原因: 別のユーザーの表をエクスポートしようとしてしました。別のユーザーの表をエクスポートできるのは、データベース管理者のみです。

処置: エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00010 *string* は無効なユーザー名です

原因: 指定されたユーザー名が無効です。

処置: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名を指定してから再起動し、再試行してください。

EXP-00011 *string.string* は存在しません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、指定された表を見つけられませんでした。

処置: 正しい表名を指定して再試行してください。

EXP-00012 *string* は有効なエクスポート・モードではありません

原因: 無効なエクスポート・モードが指定されました。

処置: 有効なエクスポート・モードを指定して再試行してください。

EXP-00013 Yes','No',[Enter] のいずれかで応答してください ('' で終了します。)

原因: 無効な応答が入力されました。

処置: メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

EXP-00014 行 *number* (表 *string*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、行のフェッチ中に、Oracle エラーを検出しました。

処置: 付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00015 行 *number* (表 *string*, 列 *string*, データ型 *number*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、列のフェッチ中または書込み中に、Oracle エラーを検出しました。詳細は、付随する Oracle メッセージを参照してください。

処置: Oracle エラーを修正して再試行してください。

EXP-00016 デフォルト監査オプションの読み込み中に Oracle エラーが発生しました

原因: エクスポート・ユーティリティは、デフォルト監査オプション（更新用オプション、削除用オプションなど）の読み込み中に、Oracle エラーを検出しました。

処置: 付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00017 機能 "*string*" が必要ですが、データベースにありません。

原因: 入力したコマンドは、機能を指定する必要があります。機能がインストールされていないか、機能を記述する行が表 V\$OPTION にありません。

処置: メッセージに指定されている機能を含む Oracle を再インストールしてください。

EXP-00018 データ型 *number* (列 *string*, 表 *string.string*) はサポートされていません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、示されたデータ型をサポートしていません。

処置: 条件に合うデータ型（CHAR、NUMBER、DATE、LONG または RAW）を使用して、再試行してください。

EXP-00019 パラメータ処理に失敗しました。ヘルプを表示するには 'EXP HELP=Y' を入力してください

原因: 無効なコマンドライン・パラメータが指定されました。

処置: オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、再試行してください。

EXP-00020 サイズ *number* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、必要なメモリーを適切に割り当てられませんでした。

処置: メモリーを消費しないようにエクスポート・バッファ・サイズを減らすか、またはエクスポート・ユーティリティ用に実行時のメモリー・サイズを増やしてください。

EXP-00021 全データベース・モードでのみ増分エクスポートは実行可能です。

原因: 増分エクスポートを実行するときに、USER モードまたは TABLE モードが指定されました。

処置: 全データベース・モード (FULL=Y) を指定し、再試行してください。

EXP-00022 増分エクスポートを行うには SYS または SYSTEM である必要があります

原因: 増分エクスポートの実行に必要な権限がありません。増分エクスポートを実行できるのは、データベース管理者のみです。

処置: 増分エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00023 全データベースまたは表領域のエクスポートを行うには DBA である必要があります。

原因: 全データベース・エクスポートの実行に必要な権限がありません。全データベース・エクスポートを実行できるのは、データベース管理者のみです。

処置: 全データベース・エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00024 エクスポート・ビューがインストールされていません。DBA に連絡してください。

原因: 必要なエクスポート・ビューがインストールされていません。

処置: データベース管理者に、必要なエクスポート・ビューをインストールするように依頼してください。

EXP-00025 ディクショナリに制約 *string.number* に対する列がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、示された制約に関する列の情報を、データ・ディクショナリから適切に収集できませんでした。この制約は、変更された可能性があります。

処置: エクスポート処理を再実行してください。このエラーが繰り返される場合は、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00026 競合するエクスポート・モードが指定されました。

原因: 競合するエクスポート・モードが指定されました。

処置: パラメータを 1 つのみ指定し、再試行してください。

EXP-00027 Oracle ブロック・サイズの計算に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、Oracle ブロック・サイズを適切に計算することができませんでした。

処置: エクスポートの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00028 書込み用の *string* のオープンに失敗しました

原因: エクスポート・ユーティリティは、書込み用のエクスポート・ファイルを適切にオープンできませんでした。通常、このメッセージに続いてオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが表示されます。

処置: 適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

EXP-00029 増分モードと一貫性モードの両方を指定するとはできません。

原因: 一貫性と増分の両方が指定されました。

処置: 処置は必要ありません。一貫性モードがオフになります。

EXP-00030 入力データの読込み中に予期しない End-Of-File が見つかりました

原因: ユーザー入力を読込み中に End-Of-File (EOF) を検出しました。

処置: エクスポートする入力をリダイレクトするときに、ファイルにエラーがないかどうかを確認してください。

EXP-00031 配列サイズが有効範囲外です。使用している配列サイズ = *number*

原因: 指定した配列サイズの値が有効な範囲に入っていません。

処置: 処置は必要ありません。

EXP-00032 DBA 以外は他のユーザー・オブジェクトをエクスポートできません。

原因: 他のユーザーへエクスポートできるのは、データベース管理者 (DBA) のみです。データベース管理者以外が、そのユーザー以外のユーザーを OWNER に指定しようとした。

処置: この操作の実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00033 キャラクタ・セットが見つかりません。

原因: キャラクタ・セットの環境変数が設定されていないか、設定が誤っています。

処置: キャラクタ・セットの環境変数が正確に指定され、存在することを確認してください。

EXP-00034 ROWID でエラーが発生しました: ファイル番号 *number* ブロック番号 *number* スロット番号 *number*

原因: エラーが発生した ROWID を識別しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

EXP-00035 QUERY パラメータは表モードのエクスポートにのみ有効です

原因: エクスポート・コマンド内で QUERY パラメータを指定しましたが、表モード・エクスポートを実行していません。QUERY パラメータは、ユーザー・モード・エクスポート、全エクスポート、Point-in-Time リカバリ・エクスポートでは使用できません。

処置: 表に行のサブセットを選択する場合は、表を表モード・エクスポートで別にエクスポートする必要があります。エクスポート中に実行する表の名前および問合せを指定する表モード・エクスポート・コマンドを実行してください。

EXP-00036 オブジェクト *number* はディクショナリに存在していません。

原因: 指定されたオブジェクトがディクショナリ内にありません。オブジェクトは、エクスポート中に削除された可能性があります。

処置: オブジェクトは存在しないため、処置は必要ありません。

EXP-00037 エクスポート・ビューはデータベースのバージョンと互換性がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データベース・バージョンより高いバージョンになるため、互換性がありません。

処置: データベースと同じエクスポート・ユーティリティのバージョンを使用してください。

EXP-00038 clu\$ のハッシュ・クラスタ ID が無効です。

原因: clu\$ のファンクション ID は無効な数値です。clu\$ は破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00039 エクスポート・ファイル *string* はディスク上にある必要があります

原因: プラットフォームによっては、エクスポートによってテープからファイルを読み取ることができます。エクスポート・ファイルの最初のファイルがディスクに設定され、2 番目以降のファイルにテープ・デバイスが設定されている場合、このメッセージが表示されます。

処置: エクスポート・ファイルに正しいファイル名が指定されていることを確認してください。すべてのエクスポート・ファイルはディスク上またはテープ上のいずれかにありますが、両方に同時にないようにしてください。

EXP-00040 ダンプ・ファイルとログ・ファイルは異なっている必要があります

原因: ダンプ・ファイルとログ・ファイルを同一ファイルにすることはできません。

処置: ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なるファイル名を指定して、操作を再試行してください。

EXP-00042 props\$ に NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因: NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値が props\$ 表に入力されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00043 列 "string" が "string" (表 string) である行に、無効なデータ・ディクショナリ情報が入っています

原因: エクスポート・ユーティリティは、データ・ディクショナリから無効なデータを検索しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00044 Point-in-Time リカバリまたはトランスポートابل表領域のインポートを行うには、'AS SYSDBA' での接続が必要です

原因: トランスポートابل表領域のインポートまたは Point-in-Time リカバリのインポートを行う場合、ユーザーは「as SYSDBA」でログインする必要があります。

処置: トランスポートابل表領域のインポートまたは表領域の Point-in-Time リカバリのインポートを実行するように、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00045 Point-in-Time リカバリやトランスポートابل表領域に対する SYSTEM 表領域はエクスポートできません。

原因: SYSTEM 表領域は、リカバリ・セットまたはトランスポートابل表領域セットの一部にできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00046 string という名前の表領域は存在しません。

原因: 指定された表領域がディクショナリに存在しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00047 表領域名がありません。

原因: 表領域名が入力されていません。

処置: 表領域名を指定してください。

EXP-00049 string オプションには、Point-in-Time リカバリやトランスポートابل表領域のエクスポートとの互換性はありません。

原因: 示されたオプションには、Point-in-Time リカバリやトランスポートابل表領域のエクスポートとの互換性はありません。

処置: 示されたオプションなしで、エクスポートを再試行してください。

EXP-00050 パーティション・エクスポート "string" は非パーティション表 "string" では実行できません

原因: パーティション・エクスポートで指定された表は、パーティション表ではありません。

処置: 表モードを使用するか、非パーティション表を指定してください。

EXP-00051 "string" - 指定されたパーティションまたはサブパーティション名は、"string" 表にありません

原因: 指定したパーティションまたはサブパーティション名が、指定した表にありません。

処置: 正しい表、パーティションまたはサブパーティション名を指定したかを確認してください。

EXP-00052 行 *number* (パーティション *string*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、行のフェッチ中に、示された Oracle エラーを検出しました。

処置: この Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00053 表 *string* は、内部にネストした表があるため QUERY を指定することはできません

原因: 1 つまたは複数のネストした表を内部に持つ表で QUERY パラメータを指定しました。QUERY パラメータは、内部にネストした表を持つ表で指定することはできません。

処置: QUERY パラメータを指定せずに、表全体をエクスポートしてください。

EXP-00054 行 *number* (サブパーティション *string*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、行のフェッチ中に、示された Oracle エラーを検出しました。

処置: この Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00055 *string.string* はエクスポート不可とマークされています。

原因: オブジェクトは、NOEXP\$ 表でエクスポート不可とマークされています。

処置: データベース管理者に連絡してください。

EXP-00057 パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

処置: エラー・メッセージを記録して、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00058 *string* プロファイルのパスワード検証機能がありません。

原因: プロファイル用の機能が見つかりません。

処置: プロファイルが正しく作成されているかどうかを確認してください。

EXP-00059 オブジェクト型識別子を文字に変換中にエラーが発生しました

原因: オブジェクト型識別子が無効な長さであるため変換できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00060 オブジェクト型に複数の TYPE BODY があります

原因: 1 個のオブジェクト型に対して複数の TYPE BODY が検出されました。

処置: TYPE BODY を削除してください。削除できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00061 ネストした表の外部の表の名前が見つかりません

原因: 内部のネストした表のビット・マップ索引、または使用可能後アクションのエクスポート中に、NTAB\$ 表を使用して外部の表の名前を見つけることができませんでした。

処置: 表が適切に定義されていることを確認してください。

EXP-00062 オブジェクト型には無効なソースです

原因: オブジェクト型の SOURCE\$ の文で TYPE が見つかりませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00063 言語ハンドルの変更中にエラーが発生しました

原因: 言語ハンドルを変更できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00064 *string* は内部にネストされている表であるためエクスポートできません。

原因: 内部のネストされている表を、親表なしでエクスポートしようとしてしました。

処置: 内部のネストされている表の親表をエクスポートしてください。

EXP-00065 ダンプ・ファイルに LOB を書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 現行の LOB は、ダンプ・ファイルに書き込めません。

処置: 書き込み失敗の原因を特定し、修正してください。

EXP-00066 オブジェクト表 *string* にオブジェクト識別子の索引がありません

原因: すべてのオブジェクト表にはオブジェクト識別子の索引がある必要がありますが、指定された表は、オブジェクト識別子列に索引がありません。

処置: 型表を再作成し、操作を再試行してください。

EXP-00068 表領域 *string* はオフラインです。

原因: エクスポート・ユーティリティは、表領域のエクスポートに失敗しました（表領域はオフライン）。

処置: 表領域をオンラインにして再エクスポートしてください。

EXP-00070 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00071 QUERY パラメータはダイレクト・パス・エクスポートと互換性がありません

原因: ダイレクト・パスのエクスポートの QUERY パラメータに値を指定しました。QUERY パラメータはダイレクト・パスのエクスポートとともに使用することはできません。

処置: DIRECT=N を持つエクスポート・コマンドを再実行するか、コマンドラインから DIRECT パラメータを削除してください。

EXP-00072 エクスポート・ファイル *string* のクローズ中にエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ファイルをクローズしようとしてエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00073 ダンプ・ファイルのサイズが小さすぎます。

原因: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータを指定しました。(プラットフォームが VOLSIZE パラメータをサポートしている場合)。ただし、パラメータの値が小さすぎるため、エクスポート・ファイルのヘッダー情報とデータを保持できません。

処置: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータの値を増やしてください。

EXP-00074 VOLSIZE の値を切り下げました。新しい値は *string* です。

原因: VOLSIZE パラメータは、RECORDLENGTH の倍数である必要があります。ただし、VOLSIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。VOLSIZE の値が端数を切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使用される RECORDLENGTH の倍数になりました。

処置: 処置は必要ありません。VOLSIZE パラメータまたは RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを表示しないようにすることができます。このファイルをインポートするときは、このメッセージが通知する VOLSIZE 値を指定してください。

EXP-00075 FILESIZE の値を切り下げました。新しい値は *string* です。

原因: FILESIZE パラメータは、RECORDLENGTH の倍数である必要があります。ただし、FILESIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。FILESIZE の値が端数を切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使用される RECORDLENGTH の倍数になりました。

処置: 処置は必要ありません。FILESIZE パラメータまたは RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを表示しないようにすることができます。このファイルをインポートするときは、このメッセージが通知する FILESIZE 値を指定してください。

EXP-00076 テープ出力用のデバイスが複数指定されました。

原因: テープ・デバイスへのエクスポートを実行するときに、複数のファイル名が指定されました。EXPORT は同じデバイスを使用して、必要なテープ・ボリュームの数のすべてのファイルを書き込みます。このため、エクスポート・ユーティリティは、テープに書き込むとき、FILE パラメータの値を 1 つのみ指定します。

処置: EXPORT コマンドを再入力し、FILE パラメータにテープ・デバイスを 1 つのみ指定してください。

EXP-00077 無制限のエクスポート・ファイル用の出力ファイルが複数指定されました。

原因: エクスポートを実行するときに複数のファイル名が指定され、FILESIZE パラメータに 0 の値も指定されました。FILESIZE がコマンドラインに指定されていない場合、0 の値が使用されることに注意してください。FILESIZE を 0 としたときは、1 つのファイルのみが書き込まれ、そのファイルにはサイズ制限がないことを意味しており、FILE パラメータに指定したその他のファイルは使用できません。

処置: 複数のファイルを書き込む場合は、FILESIZE を使用して EXPORT が各ファイルに書き込む最大バイト数を指定してください。サイズに制限のないファイル 1 つのみに書き込む場合は、EXPORT コマンドを再実行し、FILE パラメータにファイル名を 1 つのみ指定してください。

EXP-00078 索引 *string* に対するメタデータのエクスポート中にエラーが発生しました。索引の作成はスキップされます。

原因: ドメイン索引は、CREATE INDEX 文の前に、無名 PL/SQL ブロックを使用してプライベート・メタデータをエクスポートします。索引に関連した実装タイプの ODCIIndexGetMetadata メソッドをコールして、エクスポートを実施します。このルーチン内で問題が発生しました。メタデータは索引の統合部分とみなされているため、CREATE INDEX 文がダンプ・ファイルに書き込まれませんでした。

処置: 索引の実装タイプについては、開発者に連絡してください。Oracle 提供の索引 (データ・カートリッジを使用した) の場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00079 表 "*string*" のデータは保護されています。従来型パスでは表の一部のみエクスポートできます。

原因: アクセス制御パッケージである DBMS_RLS に対して実行権限のないユーザーが、アクセス制御のある表をエクスポートしようとしていました。表の所有者もアクセス制御を受けているため、すべての行をエクスポートできるわけではなく、参照できる行のみをエクスポートできます。また、表の統合を保つために、表をエクスポートするユーザーが、インポート時にセキュリティ・ポリシーで表を再作成するために必要な権限を持つ必要があります。このため、データベース管理者がこの表のエクスポートを操作することをお勧めします。表の所有者に実行権限を付与しても、このセキュリティ・チェックを満たしますが、その他の暗黙のセキュリティがある可能性があります。表にオブジェクトがない場合は、ダイレクト・モードを使用できます。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00080 表 "string" のデータは保護されています。従来型モードを使用しています。

原因: アクセス制御パッケージである DBMS_RLS に対して実行権限のないユーザーが、アクセス制御可能な表を直接エクスポートしようとしていました。かわりに従来型エクスポート・モードを使用しています。アクセス制御のために、一部の表のみがエクスポートされることに注意してください。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00081 表 / ビュー "string" に対するアクセス制御を非 DBA としてエクスポートしています。

原因: 非 DBA ユーザーが、表とビューおよび関連するファイングレイン・アクセス・コントロール・ポリシーをエクスポートしようとしています。ユーザーは、表およびビューをインポートするときに、アクセス・コントロール・ポリシーを再作成するための十分な権限を持っていない可能性があります。このようなイベントによって、表またはビューのセキュリティ・モデルに不一致が発生する可能性があります。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00082 無効な関数名がプロシージャ型オブジェクト・サポートに渡されました : string

原因: 矛盾した内部エラーです。リストされた関数は、エクスポートの手続き型オブジェクト・インタフェース指定に対するメソッドではありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00083 string.string.string をコール中に前の問題が発生しました。

原因: リストされたパッケージは、手続き型操作に対するエクスポートおよびインポートをサポートします。前に表示されたエラーが、指定されたファンクションのコール中に発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ほとんどのパッケージは、Oracle 内部カートリッジまたはサーバー開発グループによって提供されています。パッケージ名は、オラクル社カスタマ・サポート・センターが、問題のある所有者を確認するのに役立ちます。

EXP-00084 予期しない DbmsJava エラー number がステップ number で発生しました。

原因: エラーが、DbmsJava プロシージャ・コールから返されました。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00085 *string.string.string* (オブジェクト *number*) をコール中に前の問題が発生しました。

原因: リストされたパッケージは、手続き型オブジェクト (DDL がストアド・プロシージャによって提供されるものなど) に対するエクスポートおよびインポートをサポートします。前に表示されたエラーが、指定されたファンクションのコール中に発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ほとんどのパッケージは、Oracle 内部カートリッジまたはサーバー開発グループによって提供されています。パッケージ名は、オラクル社カスタマ・サポート・センターが、問題がある所有者を確認するのに役立ちます。

EXP-00086 表 "*string*" の主キー参照はインポート時に無効になる可能性があります

原因: 指定された表には、インポート・データベースでは無効になる可能性のある主キー REF が含まれます。

処置: エクスポートおよびインポートを使用して、異なるキャラクタ・セットを持つデータベース間で主キー REF を移動させないでください。

EXP-00087 スキーマ / 表名の内部ハッシュ表で問題が発生しました。

原因: ハッシュ表エントリに対するメモリーの割当てで、問題が発生している可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00089 FILE_FORMAT 指定が無効です。

原因: FILE_FORMAT 指定に、"*string*" のインスタンスが含まれていませんでした。ワイルド・カード文字列は必須です。

処置: エラーを修正して、EXPORT コマンドを再入力してください。

EXP-00090 タイプ "*string*". "*string*" を確保できません。

原因: エクスポートは、示されたタイプをオブジェクト・キャッシュに確保できませんでした。通常、これは、タイプを有効にできなかった場合に発生します。たとえば、サブタイプへのアクセスでの認可違反などです。

処置: タイプが正常にコンパイルされるまで、無効なタイプを修正してください。

EXP-00091 不審な統計をエクスポートしています。

原因: エクスポートは、統計をエクスポートできましたが、その統計は使用できない可能性があります。エクスポート中に、行エラーが発生したか、クライアント・キャラクタ・セットまたは NCHARSET がサーバーと一致しなかったか、問合せ句がエクスポートに指定されたか、特定のパーティションまたはサブパーティションのみがエクスポートされたか、または表の処理中に致命的エラーが発生したため、この統計は不審です。

処置: 正常な統計をエクスポートするには、クライアント・キャラクタ・セットまたは NCHARSET をサーバーと一致させるか、問合せ句なしでエクスポートするか、または完全な表をエクスポートしてください。必要に応じて、インポート・パラメータを使用して、正常な統計のみをインポートし、不審な統計を再計算してください。

EXP-00092 NLS_NUMERIC_CHARACTERS を必須のデフォルトにセットできません。

原因: エクスポートは、NLS_NUMERIC_CHARACTERS を ',' に設定できませんでした。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00093 サーバーのキャラクタ・セットのハンドルに変換できませんでした

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00094 サーバーの各国キャラクタ・セットのハンドルに変換できませんでした

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00095 Flashback_time と Flashback_scn には互換性がありません

原因: flashback_time パラメータと flashback_scn パラメータの両方が指定されました。

処置: flashback パラメータを 1 つのみ指定して、コマンドを再発行してください。

EXP-00096 指定したテンプレート名が見つかりません。

原因: 指定したテンプレート名は存在しません。

処置: ビュー %_ias_template を検索して、テンプレート名を確認してください。

EXP-00097 オブジェクト型 "string"."string" が有効な状態ではありません。型はエクスポートされません

原因: オブジェクト型の状態が有効ではありません。変更を波及させずに、依存型を変更（または削除）した可能性があります。

処置: ALTER TYPE COMPILE を使用して、型を再コンパイルしてください。

EXP-00098 表のデータがアップグレードされていません。表はエクスポートされません

原因：エクスポートが、拡張された型を参照する表を処理しようとした。エクスポートに正常に表を処理させるには、各表のすべてのデータを各参照型の最新の状態に更新する必要があります。

処置：ALTER TABLE UPGRADE DATA を使用して、表を更新してください。

EXP-00099 表 "string"."string" が有効な状態ではありません。表はエクスポートされません

原因：表または表内の依存型が、変更を波及されずに、変更されています。このため、表は無効な状態です。

処置：ALTER TABLE UPDATE を使用して、表を更新してください。

EXP-00100 オブジェクト型のハッシュコードを文字に変換中にエラーが発生しました

原因：オブジェクト型識別子が無効な長さであるため変換できません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00101 バージョン 1 の拡張可能索引 "string"."string" はトランスポートابل表領域のエクスポートでは使用できません

原因：トランスポートابل表領域の拡張可能索引は、バージョン 2 以上である必要があります。

処置：拡張可能索引の実装をバージョン 2 の仕様にアップグレードしてください。

インポート・メッセージ (IMP)

この章では、インポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle9i データベース・ユーティリティ』を参照してください。

IMP-00000 エラーが発生したためインポートを終了します。

原因：インポート・ユーティリティは、Oracle エラーを検出しました。

処置：付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00001 終了するには *string*,*string*,RETURN または '!' のいずれかを入力してください

原因：無効な応答が入力されました。

処置：メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

IMP-00002 読み込み用の *string* のオープンに失敗しました。

原因：インポート・ユーティリティは、読み込み用のエクスポート・ファイルのオープンに失敗しました。通常、このメッセージの次に、オペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

処置：適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

IMP-00003 Oracle エラー *number* が発生しました。

原因：インポート・ユーティリティは、示された Oracle エラーを検出しました。

処置：この Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00004 ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因：無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

処置：有効なユーザー名またはパスワードを指定して再試行してください。

IMP-00005 ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログオンしようとしてしました。

処置: 有効なユーザー名またはパスワードを指定して再試行してください。

IMP-00006 サイズ *number* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、必要なメモリーの割当てに失敗しました。

処置: メモリーを消費しないようにインポート・バッファ・サイズを減らすか、またはインポート用の実行時のメモリー・サイズを増やしてください。

IMP-00007 別のユーザーのアカウントにオブジェクトのインポートを行うには DBA である必要があります

原因: 別のユーザーのアカウントにオブジェクトをインポートするために必要な権限がありません。別のユーザー・アカウントにインポートできるのは、データベース管理者のみです。

処置: インポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00008 エクスポート・ファイルで不明な文が見つかりました。 *string*

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文を認識できませんでした。エクスポート・ファイルが破損したか、インポート内部エラーが発生した可能性があります。

処置: エクスポート・ファイルが不正な場合、新規のエクスポート・ファイルで再試行してください。そうでない場合は、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00009 エクスポート・ファイルの終わりが異常です

原因: このエクスポート・ファイルは、異常終了したエクスポート・セッションで作成された可能性があります。

処置: その場合は、エクスポートおよびインポートを再実行してください。そうでない場合は、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エラーの原因となったエクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00010 有効なエクスポート・ファイルではありません。ヘッダーは検証に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティによって生成されたファイルではないか、またはファイルが破損したかのいずれかです。

処置: ファイルが実際にエクスポート・ユーティリティによって生成されたものである場合は、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00011 フォーマットされた表データは現在サポートされていません。

原因: フォーマットされた表データを含むエクスポート・ファイルをインポート処理しようとした。インポート・ユーティリティは、バイナリ表データを含むエクスポート・ファイルのみをサポートしています。

処置: バイナリ表データのみを含むエクスポート・ファイルを使用して、再試行してください。

IMP-00012 ヘッダーでのエクスポート・モード (*string*) が無効です

原因: エクスポート・ファイル・ヘッダーにあるエクスポート・モードが無効です。

処置: エクスポート・ファイルが破損しているかどうかを確認してください。破損していない場合は、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00013 DBA のみ別の DBA がエクスポートしたファイルをインポートできます。

原因: データベース管理者によって生成されたエクスポート・ファイルをインポートするために必要な権限がありません。そうしたファイルをインポートできるのは、データベース管理者のみです。

処置: データベース管理者にインポートの実行を依頼してください。

IMP-00014 オプション "*string*" が必要ですが、データベースにありません。

原因: 入力したコマンドには、指定されたオプションが必要です。オプションがインストールされていないか、またはオプションを記述する表 V\$OPTION にありません。

処置: メッセージで指定されたオプションとともに Oracle を再インストールしてください。

IMP-00015 オブジェクトがすでに存在するため次の文は失敗しました:

原因: オブジェクトがすでに存在しているため、インポート・ユーティリティはオブジェクトを作成できませんでした。

処置:すでに表が存在しているため表が作成されない場合でも、このようなエラーを無視して行をインポートするには、IGNORE=Y を指定してください。

IMP-00016 要求されたキャラクタ・セットの変換 (*number* から *number*) はサポートされていません。

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文字形式をシステム固有の文字形式に変換できませんでした。

処置: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットと突き合わせるため、環境変数 NLS_LANG を設定することによって、ユーザーのキャラクタ・セットを変更してください。

IMP-00017 次の文は、Oracle エラー *number* で失敗しました：

原因：Oracle エラーが発生したために、インポート・ユーティリティはエクスポート・ファイルの文の実行に失敗しました。

処置：付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00018 表のインポートが部分的に完了しました：*number* 行インポートされました

原因：Oracle エラーが発生したために、表は一部のみインポートされました。

処置：付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00019 Oracle エラー *number* により、行のインポートは拒否されました

原因：インポート・ユーティリティは、ある行をインポートしようとして、示された Oracle エラーを検出しました。

処置：付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00020 LONG 列は列バッファ・サイズ (*number*) に対して大きすぎます。

原因：列のバッファが小さすぎます。通常、このエラーは LONG データをインポートするときに発生します。

処置：入力バッファ・サイズを一度に 10,000 バイト増やしてください（これは一例です）。バッファ・サイズが大きすぎると、同じような問題が発生する可能性があるため、この段階的な方法を行ってください。

IMP-00022 パラメータ処理に失敗しました。ヘルプを表示するには 'IMP HELP=Y' を入力してください

原因：無効なコマンドライン・パラメータが指定されました。

処置：オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、再実行してください。

IMP-00023 インポート・ビューがインストールされていません。DBA に連絡してください。

原因：必要なインポート・ビューがインストールされていません。

処置：データベース管理者に、必要なインポート・ビューをインストールするように依頼してください。

IMP-00024 モードは 1 つのみ (TABLES、FROMUSER または FULL) 指定できます。

原因：インポート指定の FULL=Y と矛盾するパラメータが指定されました。

処置：FULL=Y を指定しないで、再試行してください。

IMP-00025 DBA のエクスポート・ファイルには、FROMUSER を TOUSER オプションとともに指定する必要があります

原因: データベース管理者のエクスポート・ファイルをインポートするときに、TOUSER パラメータのみを指定して、FROMUSER パラメータを指定しませんでした。

処置: どのユーザーのオブジェクトをインポートするかをインポート・ユーティリティが認識できるように、FROMUSER パラメータを指定してください。

IMP-00027 部分的にインポートされた表のロールバックに失敗しました

原因: インポート・ユーティリティは、部分インポートをロールバックしようとして、Oracle エラーを検出しました。

処置: 付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。次に Oracle にログインして、部分インポートがコミットされなかったことを確認してください。

IMP-00028 表のインポート部分がロールバックされました: *number* 行ロールバックされました

原因: インポート・ユーティリティは、表をインポートしようとして、Oracle エラーを検出しました。

処置: 付随する Oracle メッセージを、このドキュメントの ORA メッセージの章で調べ、適切な処置を行ってください。必要に応じて、表を再インポートしてください。

IMP-00029 所有者 (*string*) から表名を特定できません。FROMUSER パラメータを使用してください

原因: 次の例に示すように、表名が所有者名で修飾されました。

```
IMP SYSTEM/MANAGER TABLES=(SCOTT.EMP)
```

これは許可されていません。

処置: 次の例に示すように、FROMUSER パラメータを使用して表の所有者を指定してください。

```
IMP SYSTEM/MANAGER FROMUSER=SCOTT TABLES=(EMP, DEPT)
```

IMP-00030 書込み用のファイル *string* の作成に失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、指定した書込み可能なファイルを作成できませんでした。

処置: ファイル名とファイル・システムを確認して、エラーの原因を探してください。

IMP-00031 FULL=Y を指定するか、引数 FROMUSER/TOUSER または TABLE を指定する必要があります

原因: データベース管理者は、全インポートか部分インポートかを指定しませんでした。

処置: データベース管理者は、全インポートでない場合は、FROMUSER/TOUSER または TABLE 引数を指定してください。

IMP-00032 SQL 文がバッファ長を超過しました

原因: バッファが、読み込まれる SQL 文に対して小さすぎます。

処置: バッファを大きくして再実行してください。また、インポート・データ・ファイルが破損している可能性もあります。

IMP-00033 警告: 表 "string" がエクスポート・ファイルにありません

原因: 指定された表の名前がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置: 表の指定を修正してください。

IMP-00034 警告: FROMUSER"string" がエクスポート・ファイルにありません

原因: 指定された FROMUSER 名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置: FROMUSER 指定を修正してください。

IMP-00035 入力ファイル string はディスク上にある必要があります

原因: プラットフォームによっては、インポートによってテープからファイルを読み取ることができます。エクスポート・ファイルの最初のファイルがディスクに設定され、2 番目以降のファイルにテープ・デバイスが設定されている場合、このメッセージが表示されます。

処置: インポート・ファイルに正しいファイル名が指定されていることを確認してください。すべてのインポート・ファイルはディスク上またはテープ上のいずれかにありますが、両方に同時にないようにしてください。

IMP-00036 キャラクタ・セットが見つかりません

原因: インポート・ユーティリティが認識しないキャラクタ・セットが環境変数に指定されました。

処置: コマンドライン・パラメータ CHARSET (バージョン 6 の場合のみ) または環境変数 NLS_LANG に指定されたキャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00037 キャラクタ・セット・マーカが不明です。

原因: エクスポート・ファイルが破損しています。

処置: エクスポート・ファイルの破損していないバージョンを入手してください。エクスポート・ファイルが破損していない場合、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00038 キャラクタ・セットのハンドルに変換できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00039 VOLSIZE がエクスポート: *string* で使用されている値と一致しません。

原因: VOLSIZE に指定された値が、エクスポート・ファイルの作成中に指定された値と一致しません。

処置: 指定した VOLSIZE 値が正しい場合は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していても、値が正しいかどうか不明な場合は、インポート・コマンドを再実行してください。その場合、VOLSIZE=0 を指定してください。

IMP-00040 FILESIZE がエクスポート: *string* で使用されている値と一致しません。

原因: FILESIZE に指定された値が、エクスポート・ファイルの作成中に指定された値と一致しません。

処置: 指定した FILESIZE 値が正しい場合は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していても、値が正しいかどうか不明な場合は、インポート・コマンドを再実行してください。その場合、FILESIZE=0 を指定してください。

IMP-00041 警告: オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。

原因: このエラーが発生する SQL 文のオブジェクトは、コンパイル・エラーを伴って作成されました。ビューに対してこのエラーが発生した場合は、ビューの実表が欠落していた可能性があります。

処置: これは警告メッセージです。そのオブジェクトは、使用前に再コンパイルしてください。

IMP-00042 CHARSET を使用しましたが、エクスポート・ファイルにはすでに特定のキャラクタ・セットがあります

原因: ユーザーは、特定のキャラクタ・セットが、特定の埋込みキャラクタ・セット ID を持つエクスポート・ファイルの処理に使用されることを要求しました。正確なエクスポート・ファイルの ID を使用する必要があります。

処置: コマンドラインから CHARSET キーワードを削除してください。

IMP-00043 エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットが矛盾しています

原因: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットと環境変数のキャラクタ・セット (または CHARSET キーワードで指定されるキャラクタ・セット) が矛盾しています。たとえば、一方のキャラクタ・セットが ASCII ベースであり、他方は EBCDIC ベースである場合です。

処置: CHARSET キーワードで正しいキャラクタ・セットを指定してください。

IMP-00044 文に十分なメモリーを割り当てられません。

原因: インポート・ユーティリティは、指定された文を読み込んで実行するために十分なメモリーの割当てができませんでした。

処置: バッファ・オプションの値をより大きく設定して、インポート・コマンドを再実行してください。

IMP-00045 VOLSIZ の値はエクスポート・ファイル *string* から使用します。

原因: IMPORT コマンド内で VOLSIZ パラメータが指定されていないか、または VOLSIZ=0 を指定し、0 以外の値の VOLSIZ でエクスポートが作成されました。インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルで指定された値を使用します。

処置: 処置は必要ありません。

IMP-00046 FILESIZE の値はエクスポート・ファイル *string* から使用します。

原因: IMPORT コマンドで FILESIZE パラメータが指定されていないか、または FILESIZE=0 を指定し、エクスポート・ファイルは 0 以外の値の FILESIZE で作成されました。インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルで指定された値を使用します。

処置: 処置は必要ありません。

IMP-00047 予期しないファイル順序番号です。 *number* であるべきですが *number* を検出しました

原因: エクスポート・ファイル内のヘッダーが、複数のエクスポート・ファイルが書かれている順番を追跡するために使用されている順序番号を含んでいます。最初のエクスポート・ファイルは 1 番の順序番号、2 番目のファイルは 2 番というように割り当てられています。このメッセージは、予期されない番号がファイル・ヘッダーに見つかったときに表示されます。

処置: インポート・コマンドを再実行してください。ただし、エクスポート・ユーティリティがファイルを書いた順にファイルを指定してください。

IMP-00048 ファイル・ヘッダーが不一致です。

原因: 複数ファイル・エクスポートで、2 番目以降のファイルを確認する間に、インポートが最初のファイルの値に一致しないヘッダー・フィールドを見つけました。

処置: エクスポート・ユーティリティが作成したファイル名を確認し、そのファイルを正しくインポート操作に指定したかどうかを確認してください。

IMP-00049 CHARSET に指定された言語が不明です。

原因: CHARSET オプションに示された言語が不明です。

処置: 認識可能なキャラクタ・セットを使用してください。

IMP-00050 ダンプ・ファイルとログ・ファイルを同一のものにできません。

原因：同一の名前がダンプ・ファイルとログ・ファイルに指定されました。

処置：ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なる名前を指定して、操作を再試行してください。

IMP-00051 ダンプ・ファイルをエクスポートしたダイレクト・パスには無効な列長が入っています。

原因：列のピースの処理中に無効な列長が見つかりました。

処置：エクスポート・ファイルが破損していないことを確認してください。または、インポートまたはエクスポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00052 警告：サーバーとの空きリスト通信にイベントを設定できません。

原因：カレント・セッションにイベントを設定できません。

処置：インポートに失敗した場合、インポートするユーザーに ALTER SESSION 権限を付与し、操作を再試行してください。

IMP-00053 インポート・モードがエクスポート・ダンプ・ファイルと互換性がありません。

原因：指定されたインポート・オプションは、Point-in-Time リカバリのダンプ・ファイルと互換性がありません。

処置：適切なダンプ・ファイルを生成するか、Point-in-Time リカバリのインポート・モードを使用してください。

IMP-00054 Point-in-Time リカバリまたはトランスポータブル表領域のインポートを実行するには、'AS SYSDBA' での接続が必要です

原因：トランスポータブル表領域のインポートまたは Point-in-Time リカバリのインポートを行う場合、ユーザーは「as SYSDBA」でログインする必要があります。

処置：トランスポータブル表領域のインポートまたは表領域の Point-in-Time リカバリのインポートを実行するように、データベース管理者に依頼してください。

IMP-00055 警告：エクスポート・ファイルでパーティションまたはサブパーティション "string"."string" が見つかりません。

原因：指定されたパーティションまたはサブパーティション名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置：パーティション名およびサブパーティション名が表に属していることを確認してください。

IMP-00056 テープ入力用のデバイスが複数指定されました。

原因: テープ・デバイスからのインポートを実行中に、複数のファイル名が指定されました。インポート・ユーティリティは、要求されたテープ・ボリュームの番号に関係なく、すべてのテープを読み込むのに同じデバイスを使用します。このため、エクスポート・ユーティリティは、テープに書き込むとき、FILE パラメータの値を 1 つのみ受け入れます。

処置: インポート・コマンドを再入力してください。ただし、FILE パラメータにテープ・デバイスを 1 つのみ指定してください。

IMP-00057 警告: ダンプ・ファイルに表の全パーティション・データが含まれない可能性があります

原因: この表モード・インポートに使用されたダンプ・ファイルは、エクスポートされた表に属するすべてのデータを含まない可能性があります。

処置: すべての必要なデータがエクスポートされたことを確認するか、パーティション・インポートを試行してください。

IMP-00059 パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00060 警告: 表 "string"."string" をスキップしています。オブジェクト型 "string"."string" が存在しない、または識別子が違っています

原因: 表が必要とするオブジェクト型がターゲット・システムに存在していないか、または存在していても異なるオブジェクト識別子を持っています。

処置: ターゲット・システムに有効な識別子を持つオブジェクト型を作成してください。

IMP-00061 警告: オブジェクト型 "string"."string" は、別の識別子ですすでに存在します

原因: オブジェクト型はすでにターゲット・システムに存在しますが、異なる識別子を持つため作成できません。

処置: ターゲット・システムからこのオブジェクト型を削除して、操作を再試行してください。

IMP-00062 警告: オブジェクト型 "string"."string" のダンプ・ファイルの識別子が無効です

原因: オブジェクト型の識別子を表す文字列をオブジェクト識別子に変換できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00063 警告: 表 "string"."string" をスキップしています。オブジェクト型 "string"."string" が作成不可または識別子が違っています

原因: 表で使用しているオブジェクト型の作成中にエラーが発生しました。

処置: インポート・ログを確認して、オブジェクト型が作成できない理由を判断してください。オブジェクト型が異なるオブジェクト識別子ですでに存在している場合、このオブジェクト型を削除してインポートを再試行してください。

IMP-00064 エクスポートにより、LOB の定義が切り捨てられました

原因: ダンプ・ファイルの作成でエクスポート・ユーティリティが LOB のすべての内容を書き込むことができませんでした。そのため、インポート・ユーティリティは LOB の内容を再構成できません。現行の表のインポートの残りはスキップされます。

処置: エクスポートしたデータベースで無効な行を削除し、操作を再試行してください。

IMP-00065 インポートしたオブジェクト内の LOB の再生成はできません

原因: インポートしたオブジェクト内の LOB の再作成でエラーが発生しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00066 PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET がありません。

原因: PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET の値がありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00067 サーバーのキャラクタ・セットのハンドルに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00068 各国語キャラクタ・セットが見つかりません

原因: インポート・ユーティリティが認識しない各国語キャラクタ・セットが環境変数に指定されました。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR で指定された各国語キャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00069 各国語キャラクタ・セットのハンドルに変換できません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00070 ダンプ・ファイル内の LOB の定義がデータベースと矛盾しています。

原因: ダンプ・ファイルの 1 行当たりの LOB の数が、挿入先の表の 1 行当たりの LOB の数と異なります。

処置: インポートする表をエクスポートした表の列の属性レイアウトと一致するように修正してください。

IMP-00071 インポートされた表と既存の表のオブジェクト識別子が一致しません。

原因: エクスポートしたオブジェクト表で使用されているオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子で再作成された表にデータをインポートしようとした。この状況では、ダンプ・ファイルに含まれているこの表に対する REF も無効となります。

処置: インポートの前に問題のオブジェクト表を削除してください。

IMP-00072 警告: オブジェクト表のオブジェクト識別子が無効です。

原因: 表のオブジェクト識別子を表す文字列を内部オブジェクト識別子に変換できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00073 FILE ロケータ "string" "string" はサーバーのキャラクタ・セットで "string" "string" に切り捨てられます

原因: エクスポート・サーバーのキャラクタ・セットからインポート・サーバーのキャラクタ・セットへの変換で、ファイルの属性または列に対して指定されたディレクトリと名前の文字列が FILE 記述子内で許可されている最大文字列長を超えています。文字列はサポートされている最大長に切り捨てられます。

処置: ディレクトリの別名と外部ファイル名を、指定された FILE 列または属性の切り捨てられた名前と一致するように変更してください。

IMP-00074 ALL_CONSTRAINTS.BAD による制約フラグは西暦 2000 年にブレイクします

原因: 制約がデータベースに存在し、年を完全に指定せずに日付値を指定しています。こうした制約は西暦 2000 年にブレイクします。

処置: ALL_CONSTRAINTS に問い合わせ、不正とマークされた制約を修正してください。

IMP-00075 警告: ネストされた表に行の一部または重複する行が含まれている可能性があります。

原因: データの外部または外部のネストされた表への挿入中にエラーが発生しました。エラーが外部表で発生した場合、行はまだ内部表に挿入されたままです。エラーが外部表で発生した場合、データはまだ外部表および内部表に挿入されたままです。この結果、重複した内部表または部分的論理行が発生する可能性があります。

処置: 表のデータを調べてください。不正な行または表全体を削除し、インポートを再実行してください。

IMP-00076 PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因：PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値がありません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00077 サーバーの各国語キャラクタ・セットのハンドルに変換できません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00078 FILE ロケータをサーバーのキャラクタ・セットにある "string" "string" に変換できません

原因：原因は次のいずれかです。

1. 現行のエクスポート・ダンプ・ファイルが、Oracle 8.0 の Beta-2 を使用して生成された。
2. 表の列内に ADT の属性として表示されるファイルがある。
3. エクスポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットが、インポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットと異なる。
4. ファイルのファイル名または別名がインポート・サーバーのキャラクタ・セットに変換されたとき、サイズが増えた。

これらの条件をすべて満たす場合に、文字列を変換すると、列のデータが破損する可能性があります。インポートは変換を進めずに、文字列を古いキャラクタ・セットでファイルに残します。

処置：インポートの完了後、ディレクトリの別名と外部ファイル名を、ターゲット・データベースの実名と一致するように変更してください。

IMP-00079 警告：この表にある各国語キャラクタ・セットのデータは不適切な場合があります

原因：8.0.2 エクスポート・ユーティリティでの問題のため、NCHAR および NVARCHAR2 列の各国文字データがエクスポート・サーバーのデータベース・キャラクタ・セットにあると不正に仮定され、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットに変換されました。この変換が正しいのは、エクスポート・サーバーのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・サーバーの各国語キャラクタ・セットと同じで、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・クライアントの各国語キャラクタ・セットと同じ場合です。これ以外のすべての組合せは不正です。このエクスポート・ダンプ・ファイルは 8.0.2 エクスポート・ユーティリティにより生成されたので、サーバー・キャラクタ・セットはその基準に一致しません。

処置：各国文字データを調べてください。不正な場合、正しいデータでデータを更新してください。

IMP-00080 LONG 列または LONG コマンドの文字変換中にエラーが発生しました。

原因: LONG 列または LONG コマンドでのデータの個別文字変換中に、致命的な変換エラーが発生しました。文字の切捨てが発生したか、または無効なキャラクタ・セット・ハンドルが使用されました。

処置: 異なるキャラクタ・セットでインポートを再試行してください。

IMP-00081 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00082 ROWID を文字列形式から内部形式に変換中にエラーが発生しました。

原因: ROWID をエクスポート・ダンプ・ファイルから内部形式に変更しているときに、エラーが発生しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00083 ダンプ・ファイルに増分エクスポートは含まれていません。

原因: 増分インポートが要求され、インポート・コマンドに指定されたダンプ・ファイルがユーザーか、表エクスポートのどちらかです。

処置: インポート・コマンドを再実行してください。その場合、増分エクスポートを含んだダンプ・ファイル名を指定してください。

IMP-00084 増分インポートをユーザーまたは表のインポートと混在しようとしてしました。

原因: 増分インポートが FROMUSER、TOUSER または TABLE 修飾子で要求されました。増分インポートは、別の修飾子が同時に指定されていると実行できません。

処置: 実行するインポートが、増分インポートか、全インポートか、ユーザー・インポートか、または表インポートかを判断し、適切な修飾子でインポート・コマンドを再作成してください。

IMP-00085 無制限のエクスポート・ファイル用の入力ファイルが複数指定されました。

原因: インポート中に、FILE パラメータに対して複数のファイル名が指定されましたが、エクスポート・ファイルのヘッダーは、エクスポート操作がファイルを 1 つのみ作成できたことを示しています。ユーザーが FILESIZE パラメータを 0（ゼロ）以外の値に指定したエクスポート操作で、エクスポート・ファイルが作成された場合のみ、インポート操作で複数のファイル名の指定が有効です。

処置: エクスポートが複数のファイルを含んでいると思われる場合、正しいファイルを指定しているかを確認してください。エクスポートが 1 つのファイルのみにあると思われる場合、インポート操作を再試行してください。ただし、FILE パラメータには値を 1 つのみ指定してください。

IMP-00086 TOID "string" がエクスポート・ファイルに見つかりません。

原因：インポート・ユーティリティは、TOID_NOVALIDATE パラメータで指定された型識別子を見つけられませんでした。指定された型識別子は、エクスポート・ファイルに存在しません。

処置：TOID_NOVALIDATE パラメータを修正するか、または指定しないでください。

IMP-00087 スキーマ / 表名の内部ハッシュ表で問題が発生しました。

原因：ハッシュ表エントリに対するメモリーの割当てで、問題が発生している可能性があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00088 索引 string に対するメタデータのインポート中に問題が発生しました。索引の作成はスキップされます。

原因：ドメイン索引は、CREATE INDEX 文の前に無名 PL/SQL ブロックを介してプライベート・メタデータをインポートします。この PL/SQL ブロックのうち 1 つが実行に失敗しました。メタデータは索引の整数部分と考えられるため、後続の CREATE INDEX 文はスキップされました。

処置：索引の実装タイプについては、開発者に連絡してください。Oracle 提供の索引（データ・カートリッジを使用した）の場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00089 ファイングレイン・ポリシー "string" が表 / ビュー "string" に再作成されていません

原因：インポートしているユーザーが、インポート中の表またはビューのファイングレイン・ポリシーの再作成に失敗しました。そのポリシーを再作成するには、インポートを実行するユーザーが、アクセス・ポリシーに対しては DBMS_RLS パッケージ、監査ポリシーに対しては DBMS_FGA パッケージの実行権限を持っている必要があります。

処置：この表およびビューのエクスポートおよびインポートの実行は、データベース管理者に依頼してください。

IMP-00090 予期しない DbmsJava エラー number がステップ number (string の作成中) で発生しました。

原因：エラーが、DbmsJava プロシージャ・コールから返されました。

処置：付随するメッセージを記録し、インポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00091 次のファンクションおよびオブジェクトでエラーが発生しました: *string*。オブジェクトの残りの PL/SQL ブロックはスキップされます。

原因: 示されたファンクションおよびプロシージャのオブジェクトに対して、DDL を実装する PL/SQL ブロックを実行中にエラーが発生しました。プロシージャのオブジェクトとは、その DDL が標準の SQL 文としてではなく、ストアド・プロシージャとして実装されるオブジェクトです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。エラーのあったパッケージ担当の開発グループが判断できる可能性があります。

IMP-00092 Java オブジェクト "*string*".*string*" はすでに存在するため、作成できません

原因: インポート・ユーティリティは、Java のソース、クラスまたはリソース・オブジェクトがすでに存在しているため、それらの作成に失敗しました。

処置: ターゲット・システムからこのオブジェクト型を削除して、操作を再試行してください。

IMP-00093 行 ("*string*") を持つ表のダンプ・ファイル制約の定義間の非一貫性。

原因: インポートは、ダンプ・ファイルで定義されている制約の実表の格納に失敗し、統計がインポートされませんでした。

処置: 表および制約が存在するかどうかを確認してください。表および制約が存在する場合は、インポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00094 警告: オブジェクト型 "*string*".*string*" のダンプ・ファイルの識別子が無効です。

原因: オブジェクト型の識別子を表す文字列を変換できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

パラメータ・メッセージ (LRM)

LRM-00100 内部エラー [number]

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

LRM-00101 不明なパラメータ名です。'string'

原因：パラメータ名の綴りが誤っています。

処置：パラメータ名の綴りを修正してください。

LRM-00102 'string' は 'string' に対して有効な範囲内にありません。

原因：パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置：このパラメータの有効値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00103 'string' は 'string' に対して不正な整数基数です。

原因：無効な整数基数の指定が見つかりました。

処置：整数基数の指定は、d、h、D および H のみで行ってください。

LRM-00104 'string' は 'string' に対して無効な整数です。

原因：値が有効な整数ではありません。

処置：このパラメータに有効な整数のみを指定してください。

LRM-00105 'string' は 'string' に対して無効なブール値です。

原因：値が有効なブール値ではありません。

処置：有効なブール値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00106 メモリー不足です。

原因：オペレーティング・システムのメモリーが不足しています。

処置：メモリーの量を増やしてプログラムが使用できるようにしてください。

LRM-00107 パラメータ名の略称 '*string*' が一意ではありません。

原因: 指定された略称が一意ではありませんでした。

処置: より長い略称を使用して、パラメータ名を一意にしてください。

LRM-00108 位置パラメータ値 '*string*' が無効です。

原因: 無効な位置パラメータが入力されています。

処置: 無効な位置パラメータを削除してください。

LRM-00109 パラメータ・ファイル '*string*' をオープンできません。

原因: パラメータ・ファイルが存在しません。

処置: 適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

LRM-00110 '*string*' で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00111 値 '*string*' の右引用符がありません。

原因: 引用符付き文字列が開始されましたが、終了されていません。

処置: 正しい位置にクローズ引用符を置いてください。

LRM-00112 パラメータ '*string*' に複数の値を指定できません。

原因: 1つの値のみをとるパラメータに複数の値を指定しようとしてしました。

処置: このパラメータには複数の値を指定しないでください。

LRM-00113 ファイル '*string*' の処理中にエラーが発生しました。

原因: このファイルの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00114 コマンドラインの処理中にエラーが発生しました。

原因: コマンドラインの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00115 環境変数の処理中にエラーが発生しました。

原因: 環境変数の処理中に問題が発生しました。

処置: 追加エラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00116 '*string*' に続く '*string*' で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00117 入力の開始で '*string*' に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00118 入力の終わりで '*string*' に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00119 '*string*' に対する有効な値が取得できません。

原因: このパラメータに有効な値が取得できませんでした。

処置: アプリケーションを再実行し、有効な値を入力してください。

LRM-00120 '*string*' は '*string*' に対して有効な OracleNUMBER 型ではありません。

原因: 値が有効な Oracle 番号ではありません。

処置: 有効な Oracle 番号の値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00121 '*string*' は '*string*' の値に使用できません。

原因: パラメータの値が無効です。

処置: 有効な値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00122 値 '*string*' ('*string*' の) は必ず '*number*' から '*number*' の間です。

原因: パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置: 有効範囲内の値を指定してください。

パラメータ・メッセージ (LCD)

LCD-00100 内部エラー、引数 [*number*]

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LCD-00111 値が有効範囲外です [*string*]

原因：パラメータの値が有効な範囲内にありません。

処置：有効な範囲を確認した後、新しい値を使用して再試行してください。

LCD-00112 整数の位取り指定 [*string*] が正しくありません

原因：指定された文字が無効です。

処置：d、h、D および H のみを指定してください。

LCD-00113 整数変換エラーまたは負の整数です [*string*]

原因：整数以外の数または負の整数が、整数パラメータに割り当てられました。

処置：有効な整数値を使用して再試行してください。

LCD-00114 ブールの応答が正しくありません [*string*]

原因：TRUE または FALSE 以外の値をブール・パラメータに割り当てようとしてしました。

処置：ブール・パラメータには TRUE または FALSE のみを使用してください。

LCD-00122 認識できないキーワードです [*string*]

原因：パラメータ名の綴りが誤っています。

処置：パラメータ名の綴りを修正してください。

LCD-00128 位置パラメータの値 [*string*] が無効です

原因：無効な位置パラメータが入力されています。

処置：無効な位置パラメータを削除してください。

LCD-00161 Oracle エラー（構文エラーの可能性があります）パラメータ [string]

原因：構文エラーの可能性があります。追加メッセージが表示されます。

処置：エラーに表示されるパラメータを修正してください。

LCD-00201 指定されたファイル [string] をオープンできません。

原因：指定したファイルが存在しません。

処置：適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

LCD-00203 キーワード [string] が不足しています。

原因：指定したキーワードを検索しましたが見つかりません。

処置：等号 (=) およびパラメータ値が後に続くキーワードを追加してください。

LCD-00204 左カッコのみで、パラメータが指定されていません [string]

原因：パラメータ・リストが開始されましたが、パラメータが指定されていませんでした。

処置：適切な値リストを追加して、パラメータ・リストをクローズしてください。

LCD-00205 カッコの指定が正しくありません [string]

原因：一方が足りないか、不要で半端なカッコが見つかりました。

処置：正しい数のカッコを指定した文を再試行してください。

LCD-00206 キーワード [string] の後に位置パラメータが入力されました。

原因：等号 (=) が不足しています。

処置：すべてのキーワードの後には等号 (=) を続けてください。

LCD-00207 ネストしたカッコがあります [string]

原因：カッコは1組のみ使用できます。

処置：ネストしたカッコを削除してください。

LCD-00208 値リストに予期しないキーワードが指定されています [string]

原因：値のかわりにキーワードがあります。

処置：指定されたパラメータに適切な値を挿入してください。

LCD-00209 文字列の最後にキーワードが不足しています [string]

原因：値を指定せずにキーワードを指定しました。

処置：キーワードに有効な値を指定してください。

LCD-00210 演算子 [string] の割当てが正しくありません

原因：等号 (=) 以外の符号がキーワード値の割当てに使用されました。

処置：等号 (=) のみを使用してください。

LCD-00211 デリミタ [string] が正しくありません

原因: 値の間に無効なデリミタが見つかりました。

処置: 有効なデリミタ（カンマまたは空白）を指定してください。

LCD-00212 [string] の右側の引用符がありません。

原因: パラメータの値の左側には引用符がありますが、右側にはありません。

処置: パラメータの値の両側に引用符を指定してください。

LCD-00215 パラメータ・ファイルのネスト・レベルが深すぎます。[string]

原因: パラメータ・ファイルのネスト・レベルが深すぎます。最大値は 3 です。

処置: ネスト・レベルを 3 以下にしてください。

LCD-00217 ファイル・パラメータ [string] の処理中にエラーが発生しました。

原因: 指定されたファイル・パラメータの処理中にエラーが発生しました。

処置: その他のメッセージに表示される詳細を確認してください。

LCD-00218 ファイル [string] でエラーが発生しました。

原因: 特定のファイルにエラーが発生しました。

処置: 固有のエラーについては、その他のメッセージを参照してください。

LCD-00219 ネストしたインクルード・ファイル [string] が大きすぎます。

原因: パラメータ・ファイルのサイズに制限があり、それを超えています。サイズ制限は 8192 バイトです。

処置: ファイルから文字を削除して、ファイルのサイズを小さくするか、ネストのレベルを変更してください。

BFILE 関連のメッセージ (LFI)

LFI-00000 Normal, successful completion.

原因: 操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

LFI-00001 File IO Internal Error *#number*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-00002 メモリー不足です。 *string*

原因: ファイル I/O パッケージは、メモリーを動的に割り当てようとして失敗しました。関数名は追加コメントに使用され、どこで、いつ、どうしてエラーが発生したのかを示します。

処置: 実行しているプログラムで、より多くのメモリーを使用可能にするために必要な処置を行ってください。

LFI-00003 内部例外コード。 *icode* = [*string*], [*string*]

原因: メッセージのパラメータによって示されます。最初の *string* は内部例外コードを示し、2 番目の文字列はその他の追加コメントを示します。

処置: 適切な開発グループに連絡してください。

LFI-00004 *string* の呼出しができません。

原因: 関数の呼出しに失敗しました。このエラーは一般的なメッセージで、例外が特定の関数名で発生したことを示しています。これによって、クライアントは例外スタックを調べてトレース・ランタイム・コールの順序を知ることができます。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00005 *string* で一部メモリーの解放に失敗しました。

原因：関数名での一部メモリーの解放の呼出しに失敗しました。

処置：詳細は、付随するエラー・メッセージを参照し、ただちにオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-00006 関数 *string* のパラメータが無効です。

原因：無効なパラメータで関数が呼び出されました。

処置：関数の呼出しを確認し、確実に正しいパラメータを渡してください。

LFI-00007 NLSRTL のコールに失敗しました。 *string*

原因：LX コールが失敗しています。

処置：パラメータが正しいかどうかを確認してください。パラメータが有効な場合、適切なグループにすぐに連絡してください。

LFI-00008 SLTS の初期化 / 終了が、*string* で失敗しました。

原因：SLTS の呼出しが、関数 *string* で失敗しています。

処置：適切な開発グループに連絡してください。

LFI-00100 操作を実行できません。ファイルが *string* でオープンされていません。

原因：操作が行われたときに、ファイルが正常にオープンされていませんでした。

処置：読み込み用ファイルが存在しているか、またはプログラムがファイルへの書き込みアクセス権を持っているかどうかを確認してください。ファイルが単にオープンされなかった可能性もあります。

LFI-00101 書き込みに失敗しました、ファイルを書き込めません。

原因：バッファの書き込み操作に失敗しました。無効なパラメータを渡した可能性があります。

処置：詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00102 順次アクセス・ファイルではシークできません。

原因：順次ファイル操作のために、ファイルがフラグ LFILFA_SEQ でオープンされました。ランダム・アクセス用に LFILFA_RANDOM フラグでオープンされたファイルのみで、シークを使用してください。

処置：ファイルがどのようにオープンされ、アクセスされたのかを調べ、2つの操作に一貫性があるように（両方の操作を順次またはランダムのいずれかに）してください。

LFI-00103 シーク操作が失敗しました。

原因：バッファのシーク操作に失敗しました。不正なパラメータまたはフラグが原因である可能性があります。

処置：シーク・コマンドの構文を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00104 読み込み操作が失敗しました。

原因: バッファの読み込み操作に失敗しました。不正なパラメータまたはフラグが原因である可能性があります。

処置: 読み込みコマンドの構文を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00105 パスが追加できません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- 現行のパスが正しい形式ではない。
- ディレクトリが正しい形式ではない。
- 名前オブジェクトが正しく初期化されていない。

処置: 現行のパスと新規ディレクトリの形式を確認してください。名前オブジェクトが正しく初期化されたことを確認してください。

LFI-00106 1 つのパス・オブジェクトが複数のパスを指しています。

原因: LFIPPTH() に渡されたパス・オブジェクトが、複数のパスを保持しています。

処置: LFIPPTH() で使用されるパス・オブジェクトが、パスを 1 つのみ保持することを確認してください。

LFI-00107 オープン操作で、ファイル [string][string] は存在しないことになっています。

原因: オープンに指定されたフラグは、ファイルが存在しないことを示しています。ただし、ファイルは存在します。

処置: ファイルに指定されたオプションが正しいこと、またファイルの存在を想定していないことを確認してください。その場合は、ファイルが存在する理由を検索してください。

LFI-00108 オープン操作で、ファイル [string][string] が存在することになっています。

原因: オープンに指定されたフラグは、ファイルが存在することを示します。ただし、ファイルは存在しません。

処置: ファイルに指定されたオプションが正しいこと、またファイルの存在を想定していることを確認してください。その場合は、ファイルが存在しない理由を検索してください。

LFI-00109 ファイル [string][string] をオープンできません。string。

原因: 原因は次のいずれかです。

- プロセスに、ファイルのオープンに必要で適切なアクセス権がない。
- ファイルはすでにオープンされている。

処置: 適切なアクセス権が割り当てられていることを確認してください。この条件が満たされているにもかかわらず、ファイルがオープンできない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-00110 Buffer Manager を初期化できません。

原因: Buffer Manager の初期化ルーチンに失敗しました。メモリーを使い果たした可能性があります。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00111 その他のフラグは固定長フォーマットでは使用できません。

原因: その他のオプションが固定長フォーマットで指定されています。

処置: その他のオプションをフラグから消去してください。

LFI-00112 Invalid Standard File ID Descriptor.

原因: 関数 LFIGFO() が、無効なファイル ID 記述子で呼び出されました。有効なファイル ID 記述子は LFISTDIN、LFISTDOUT および LFISTDERR です。

処置: LFIGFO() の呼出しを確認し、それが正しいことを確認してください。

LFI-00113 標準ファイル・オブジェクト *string* を初期化できません。

原因: 標準ファイル・オブジェクトをオープンする呼出しに失敗しました。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00114 *string* での追加はできません。

原因: あるオプションを使用して追加しようとしてしました。

処置: フラグ・オプションを確認して、使用方法を検証してください。

LFI-00115 バッファを解放できません。

原因: バッファのフラッシュに失敗しました。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00116 操作 *string* ではファイルをクローズできません。

原因: ファイルのクローズ操作に失敗しました。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00117 ファイルを改名できません。

原因: 名前の変更操作に失敗しました。テンポラリ・ファイルでの操作によってファイルが保護される場合、名前の変更が呼び出されます。

処置: プロセスが名前の変更を実行するための正しいアクセス権を持っていることを確認してください。

LFI-00118 タイプを「不明」に変更できません。

原因: ファイルの拡張子を LFIEXUNK (不明) に変更するために、関数 LFICHTY() が呼び出されました。これは有効な操作ではありません。

処置: この操作を行う理由を確認してください。拡張子がすでに不明の場合は、必要ありません。拡張子を必要としない場合、拡張子型 LFIEXNONE を使用してください。

LFI-00119 未保護のファイルを強制終了できません。

原因: 保護ファイルとしてオープンされなかったファイルに、強制終了関数 LFIABT() が呼び出されました。このような強制終了は有効ではありません。

処置: 保護ファイルとしてファイルをオープンしようとしたのかを確認してください。

LFI-00120 ルート・ファイル名 *string* を解析できません。

原因: LFIMKNAM() に指定されたルート・ファイル名は、このプラットフォームが認識する形式ではありません。

処置: ファイル名の形式を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00121 オープン・タイプとして指定できるのは、REPLACE, PROT のいずれかです。

原因: オープン・タイプ・オプション LFILOPTY_REPLACE または LFILOPTY_PROT の両方が LFIINI() 関数に指定されました。

処置: オプションを1つのみ渡すように、いずれかのオプションを削除してください。

LFI-00122 削除できるのは、作成したファイルのみです。

原因: 削除ファイル・フラグが、このファイル操作で作成されていないファイルに指定されました。ファイルを削除する機能には移植性がありません。このパッケージで実行可能な削除は、Oracle がファイルを作成したときに削除することを認識している場合のみです。

処置: 作成したファイルのみを削除することができます。作成していないファイルを削除する必要がある場合、他の方法を見つけてください。

LFI-00123 順次アクセスとランダム・アクセスの両方は実行できません。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILFA_SEQ (順次) および LFILFA_RANDOM (ランダム) フラグが指定されました。これは許可されていません。これらのうち1つのみを指定できます。

処置: どのようにファイルにアクセスするかを選択してください。ランダムを選択しても、再配置関数を使用せずに順次にアクセスできます。

LFI-00124 アクセス方法が指定されていません。デフォルトは順次アクセスです。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILFA_SEQ (順次) も LFILFA_RANDOM (ランダム) も指定されませんでした。

処置: デフォルトは順次ですが、これを明示的に設定してください。

LFI-00125 ランダム・アクセスは固定長レコードのファイルで行えません。

原因: 固定長レコードに編成されていないファイルで、LFILFA_RANDOM フラグが指定されました。ランダム・アクセスは、固定長ファイルのみで可能です。

処置: データの編成が可変長レコードにあり、ファイルにランダム・アクセスする必要があるかどうかを判断してください。両方の条件に該当する場合は、ファイル全体または十分な量をバッファして、ランダム・アクセスのニーズを削除する必要があります。別のオプションとして、ファイルをクローズおよび再スキャンすることもできますが、これは最適な解決策ではありません。

LFI-00126 レコード形式は「固定」または「可変」のいずれかです。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILRF_FIXED (固定) および LFILRF_VAR (可変) が指定されました。所定のファイルには、これらのうち 1 つのみが指定できます。

処置: ファイルの編成方法を決定し、一致するオプションを選択してください。

LFI-00127 レコードの形式が指定されていません。デフォルトは可変です。

原因: レコード形式に、LFILRF_FIXED (固定) も LFILRF_VAR (可変) も指定されませんでした。それぞれのファイルには、どちらか一方を指定する必要があります。

処置: デフォルトは LFILRF_VAR ですが、ファイル・オブジェクト作成中に、これを明示的に設定してください。

LFI-00128 キャリッジ制御が有効なのは、標準ファイル・オブジェクトのみです。

原因: キャリッジ制御オプションが有効なのは、標準ファイル・オブジェクト (LFISTDIN、LFISTDOUT、LFISTDERR) のみです。このオプションをその他のタイプのファイルに指定することはできません。

処置: レコード形式に、LFILRF_FIXED または LFILRF_VAR のいずれかを指定してください。

LFI-00129 入力専用ファイルで無効なオプション *string* が指定されました。

原因: ファイルは入力専用としてオープンされましたが、出力モード・オプション LFILRF_WR_ASIS または削除オプション LFLOPTY_DELETE が指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00130 出力専用ファイルで入力オプションが指定されました。

原因: ファイルは出力専用としてオープンされましたが、入力モード・オプション LFILRF_READ_NL または LFILRF_FORCE_NL が指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00131 オープン・タイプが指定されていません。

原因: ファイル・オブジェクトが、オープン・タイプ (LFILOPTY_INPUT、LFILOPTY_OUTPUT など) を指定せずに作成されました。

処置: ファイルへのアクセス方法を決定し、オープン・タイプのうち 1 つを指定してください。

LFI-00132 レコード長 *string* が *string* の最大長を超えています。

原因: ファイルに指定されたレコード長が、このプラットフォームでサポートされる最大長を超えています。

処置: レコード長を短くしてください。

LFI-00133 作成するファイル *string* はすでに存在しています。

原因: ファイル・オブジェクトが、LFILOPTY_REPLACE を使用せずに LFILOPTY_OUTPUT で初期化されましたが、この名前のファイルはすでに存在しています。

処置: 適切なファイルを作成していることを確認してください。存在するファイルを上書きする場合、ファイル・オブジェクトを初期化するときに置換オプション LFILOPTY_REPLACE を指定してください。

LFI-00134 追加操作に関してはファイル保護はできません。

原因: LFILOPTY_APPEND オプションおよび LFILOPTY_PROT オプションの両方がファイルに指定されました。これは、オープン時にファイル全体をコピーするため、現在許可されていません。

処置: 追加操作に対してファイルの保護が必要かどうかを決定してください。必要であれば、追加する前にコピーを作成することを考えてください。

LFI-00135 テンポラリ・ファイルを削除できません。

原因: ファイルを保護するためにテンポラリ・ファイルが作成されています。テンポラリ・ファイルが必要でなくなったとき、LFI がそのファイルを削除しようとしたましたが削除できませんでした。

処置: 権限とテンポラリ・ファイルが作成されている場所を確認してください。

LFI-00136 オープンしたファイルのタイプは変更できません。

原因: オープンしたファイルに関数 LFICHTY() が呼び出されました。

処置: これはクライアント・コードのエラーです。この場合 LFICHTY() は使用しないでください。

LFI-00137 *string* は、*string* であるファイル・オブジェクトで実行できません。

原因: ある理由のため、ファイル・オブジェクトで LFI 操作を実行できません。

処置: 適切な対処法を取ってください。たとえば、操作の実行前にファイルをオープンする必要がある場合は、クライアント・コードがファイルを最初にオープンする必要があります。

LFI-00138 *string* は、*string* である名前オブジェクトで実行できません。

原因: ある理由のため、名前オブジェクトで LFI 操作を実行できません。

処置: 適切な対処法を取ってください。

LFI-00139 オプション *string* は、オプション *string* と同時に、*string* のコールで使用できません。

原因: このような関数コールでは、最初のオプションと 2 番目のオプションは、同時に使用できません。

処置: コードを再確認して、必要なオプションを決定してください。

LFI-00140 入出力ファイルに無効なオプション *string* が指定されています。

原因: ファイルが入出力用としてオープンされ、モード・オプション (LFIOPTY_DELETE または non-LFIOPTY_RANDOM) のいずれかが指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00141 操作 *string* でファイルを強制終了できません。

原因: 強制終了に失敗しました。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00142 既存のファイル [*string*][*string*] は Oracle が所有者ではないため削除できません。

原因: そのファイルは、Oracle によって作成されていません。

処置: 所有者を Oracle に変更するか、Oracle にそのファイルを削除するアクセス権を付与してください。

LFI-00143 削除対象のファイル *string* が存在しません。

原因: 削除するファイルが存在しません。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00144 ファイル [*string*][*string*] が存在しません。

原因: 指定したファイルが存在しません。

処置: ファイルの存在を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00145 ユーザー・バッファが小さすぎます。

原因: 渡されたバッファが十分な大きさではありません。

処置: より大きいバッファを割り当てて、操作を再試行してください。

LFI-00146 コピー操作でファイル *string.string* は存在しません。

原因: 宛先ファイルが存在しないと想定されていますが、存在します。

処置: そのファイルが存在する理由を調べてください。

LFI-00147 ファイル *string.string* が存在しません。

原因：指定したファイルが存在しません。

処置：ファイルの存在を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00148 *string* は、バイト・モードでオープンしたファイルに対してのみコールできます。

原因：バイト・モードのファイルのみに使用するルーチンが、レコード・モードでオープンされたファイルにコールされました。

処置：この関数を使用するには、そのファイルをバイト・モードでオープンしてください。

LFI-00149 関数 *string* でハッシュ表を破棄するときにエラーが発生しました。

原因：キャッシュ・パス・オブジェクトが想定されていますが、存在しません。

処置：この関数を使用するには、パス・オブジェクトをキャッシュ・パス・オブジェクトにしてください。

LFI-00150 関数 *string* でハッシュ表を作成するときにエラーが発生しました。

原因：ルーチンがパス・オブジェクト・ハッシュ表の作成に失敗しました。

処置：STARTSIZE 値が LHTQMAXSLOTS 値以下であることを確認してください。

LFI-00151 関数 *string* でハッシュ表へ挿入するときにエラーが発生しました。

原因：ルーチンがハッシュ表への挿入に失敗しました。

処置：メモリーの割当てが十分にあり、ハッシュ表が存在することを確認してください。

LFI-00152 読み込み操作（バイト・モード）が失敗しました。

原因：バイト・モードの読み込み操作が失敗しました。不適切なパラメータまたはフラグに原因があるか、あるいはファイルの終わりを超えて読み込もうとしている可能性があります。

処置：読み込みコマンドの構文およびファイルのサイズを確認してください。

LFI-01000 ファイルに行を書き込めません。

原因：書き込み先のファイルがオープンされていないか、ファイルの終わりに達しています。

処置：詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01001 ファイルに *string* バイトを書き込めません。

原因：書き込み先のファイルがオープンされていないか、ファイルの終わりに達しています。

処置：詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01002 ファイルから行を読み込みません。

原因: 読み込み元のファイルが、オープンしていない可能性があります。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01003 ファイルから *string* バイトを読み込みません。

原因: 読み込み元のファイルが、オープンしていない可能性があります。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-01004 バッファを空にできません。

原因: バッファ・マネージャが、元のファイルへ書き込めない可能性があります。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01005 バッファの埋込みができません。

原因: バッファ・マネージャが、元のファイルから読み込めない可能性があります。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-01006 *string* で、ファイルが文字の途中で終了しています。

原因: 行が文字の途中で終了しています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01007 関数 *string* で長すぎる行が見つかりました。

原因: 行の長さが最大長を超えています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01500 OSD 関数 *string* の呼出しでエラー状態が発生しました。

原因: OSD 関数の呼出しで、エラー状態が発生しました。malloc または free 関数の呼出しに失敗したとき、このメッセージが表示されます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01501 tmpnam() でテンポラリ・ファイル名を生成できません。

原因: オペレーティング・システムがテンポラリ・ファイル名を作成できませんでした。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01502 ベースとなるファイル名が存在しません。

原因: 解析されたファイル名にベースとなるファイルがありません。すべてパスであるか、または拡張子であるかのいずれかです。

処置: 渡されるファイル名が正しいかどうかを確認してください。

LFI-01503 ファイル名の生成で、最大ファイル名サイズを超えました。

原因：ファイル名の生成中に、新規ファイル名を保持するために割り当てられたバッファを超えました。

処置：開発会社に連絡してください。

LFI-01504 fseek() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因：関数 fseek() でエラー条件が戻されました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01505 fclose() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因：関数 fclose() でエラー条件が戻されました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01506 fflush() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因：関数 fflush() でエラー条件が戻されました。

処置：開発会社に連絡してください。

LFI-01507 fwrite() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因：ファイル・ポインタが NULL であるか、または書込み用にオープンされていません。

処置：開発会社に連絡してください。

LFI-01508 access() が失敗しました。

原因：access() の呼出しに失敗しました。

処置：開発会社に連絡してください。

LFI-01509 fopen() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因：fopen() の呼出しに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01510 fread() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因：fread() の呼出しに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01511 unlink() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因：unlink() の呼出しに失敗しました。

処置：開発会社に連絡してください。

LFI-01512 stat() が失敗しました。

原因: stat() の呼出しに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01514 ftell() が *string* で失敗しました。

原因: 関数 ftell() でエラーが戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01515 truncate() が失敗しました。

原因: 関数 truncate() でエラー条件が戻されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01516 read() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: read() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01517 open() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因: open() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01518 write() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: write() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01519 llseek() が (OSD 戻り値 = *string*)、*string* で失敗しました。

原因: 関数 llseek() でエラーが戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01520 close() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 close() でエラー条件が戻されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01521 fsync() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 fsync() でエラー条件が戻されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01522 opendir() が失敗しました。

原因: 関数 opendir() でエラー条件が戻されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01523 rename() に失敗しました。

原因：関数 rename() でエラー条件が戻されました。

処置：開発会社に連絡してください。

PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)

この章では、PL/SQL で出力されるメッセージを記載しています。PL/SQL の詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

PLS-00102 ネストが深すぎるため、解析機能スタックがオーバーフローしました。

原因：PL/SQL 文の構文を調べる解析機能は、スタックと呼ばれるデータ構造を使用します。PL/SQL ブロック内のネストのレベル数が、スタックの容量を超えました。

処置：ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00103 *string*

原因：解析機能が発行するエラー・メッセージです。現在のコンテキストでは不適切なトークン（言語要素）が見つかりました。

処置：エラー・メッセージに示されたトークンと前のトークンを調べてください。エラー・メッセージに記された行および列の番号は、誤りを含んでいる言語構造の末尾を示しています。

PLS-00104 プロシージャ *string* のコールでは、空の引数リストは省略してください。

原因：サブプログラム・コールで、サブプログラム名の後に空のパラメータ・リストがあります。たとえば、プロシージャ P が P() として呼び出されていました。これは許可されていません。

処置：空のパラメータ・リストを削除してください。前述の例では、プロシージャ・コールを P に変更してください。

PLS-00105 型 *string* の先送り宣言は 1 つしか許可されていません。

原因：複数の先送り宣言は不要です。

処置：先送り宣言を 1 つ残して、他をすべて削除してください。

PLS-00108 宣言単位は、単一の変数宣言でなければなりません。

原因: 宣言単位 (BEGIN...END を伴わないトップレベルの宣言ブロック) の確認中に、PL/SQL はある項目が複数宣言されているか、変数の宣言として認められない項目を検出しました。1 つの表ではユニット・レベルで共通の変数宣言が許可されます。TABLE を定義するために、DECLARE コンパイル・ユニットをコンパイルします。ただし、実行できるのは 1 度に 1 回のみです。

処置: 別々の宣言単位に変数を宣言してください。

PLS-00109 PRAGMA EXCEPTION_INIT に不明な例外名 *string* があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマで参照される例外名の宣言が、プラグマの有効範囲内にありません。

処置: 例外宣言の後にプラグマが続いていることと、同じ有効範囲内にあることを確認してください。

PLS-00110 バインド変数 *string* はこのコンテキストでは使用できません。

原因: 接頭辞としてコロンの付いた識別子であるバインド変数が、不適切なコンテキストで見つかりました。

処置: コロンを削除するか、バインド変数を適当なオブジェクトで置き換えてください。

PLS-00111 コメントの中にファイルの終わり (EOF) があります。

原因: コメント開始文字 (/*) でコメントが始まりましたが、コメント終了文字 (*/) を見つける前に EOF に達しました。

処置: コメント開始文字を削除するか、コメント終了文字を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、コメント開始文字の前の最後の有効なトークンの先頭を指しています。

PLS-00112 引用された識別子の中に行の終わり (EOL) があります。

原因: 二重引用符で囲まれた識別子に始めの二重引用符 (") はありますが、終わりを示す二重引用符 (") を見つける前に EOF に達しました。

処置: 初めの二重引用符を削除するか、終わりを示す二重引用符を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、引用符で囲まれた識別子の先頭を示しています。

PLS-00113 END 識別子 *string* は、*string* (行 *string*、列 *string*) と一致しなければなりません。

原因：いくつかの言語構造 (ループ、ブロック、ファンクション、プロシージャなど) の終わりを示すキーワード END の後には、オプションとして構文の名前を指定できます。たとえば、ループ L の定義の末尾には、END L と指定できます。このエラーは、オプションの名前が言語構造に与えられた名前と一致しないときに発生します。通常は、識別子の綴りに誤りがあるか、ブロック構造が不完全なときに発生します。

処置：END 識別子の綴りが言語構造に指定された名前と一致し、ブロック構造が正しいかどうかを確認してください。

PLS-00114 識別子 *string* が長すぎます。

原因：PL/SQL 変数の名前が 30 文字を超えています。正しい識別子 (引用された識別子を含む) の長さは、最大で 30 文字です。文字列リテラルが、誤って、引用符ではなく二重引用符で囲まれている可能性があります。その場合、PL/SQL では引用された識別子とみなされます。

処置：識別子を短くしてください。

PLS-00115 この PRAGMA は '*string*' の宣言の後に続かなければなりません。

原因：プラグマが未宣言の PL/SQL オブジェクトを参照しています。または、プラグマが参照の有効範囲の中にありません。識別子をプラグマの中で使用するには、その識別子を宣言する必要があります。前方参照は許可されません。

処置：識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00116 表の式で where 句が重複しています。

原因：DELETE 文、SELECT 文または UPDATE 文の中で、複数の WHERE 句が見つかりました。WHERE 句は、表の中の行が処理される条件を指定します。条件には、AND または OR で結合した複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる WHERE 句は 1 つのみです。

処置：WHERE 句の 1 つを削除し、必要に応じて、AND または OR で論理式を結合してください。

PLS-00117 表の式で connect-by 句が重複しています。

原因：SELECT 文に複数の CONNECT BY 句が見つかりました。CONNECT BY 句は、行を階層的な順序で返すために使用される関係を定義します。関係には、関係演算子 (= や != など) で区切られた 2 つの式を入れることができますが、文が含むことのできる CONNECT BY 句は 1 つのみです。

処置：CONNECT BY 句の 1 つを削除し、必要に応じて、関係演算子で式を分けてください。

PLS-00118 表の式で group-by 句が重複しています。

原因：SELECT 文に複数の GROUP BY 句が見つかりました。GROUP BY 句は、選択された行の各グループの集計行を作成するために使用される列の式のリストを与えます。このリストには、カンマで区切られた複数の列式を入れることができますが、文が含むことのできる GROUP BY 句は 1 つのみです。

処置：GROUP BY 句の 1 つを削除し、必要に応じて、列の式をカンマで分けてください。

PLS-00119 表の式で having 句が重複しています。

原因：SELECT 文に複数の HAVING 句が見つかりました。HAVING 句は、(GROUP BY 句で作成された) 行のグループを結果に入れるときの条件を指定します。条件には、AND または OR で結合された複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる HAVING 句は 1 つのみです。

処置：HAVING 句の 1 つを削除し、必要に応じて、AND または OR で論理式を結合してください。

PLS-00120 OPEN 文に不適当な引数があります。

原因：OPEN 文の CURSOR_NAME パラメータの綴りに誤りがあるか、パラメータが正しく宣言されたカーソルを参照していません。

処置：CURSOR_NAME パラメータの綴りを確認してください。また、カーソルが正しく宣言されていることを確認してください。

PLS-00121 only the set function COUNT may take * as an argument

原因：COUNT 以外の SQL グループ関数の引数リストで、アスタリスク (*) オプションが使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
SELECT SUM(*) INTO emp_count FROM emp; -- should be COUNT(*)
```

表内の行数を戻すアスタリスク・オプションは、COUNT でのみ使用できます。

処置：引数リストからアスタリスク・オプションを削除し、1 つ以上のデータベース列を参照する式と置き換えてください。

PLS-00122 セパレータ string は、特定の組込み関数でのみ使用できます。

原因：一部の組込み関数は、引数のセパレータとして、(カンマのかわりに) キーワードを使用します。それ以外の関数が、セパレータとして、キーワードを使用しています。

処置：引数リストを修正するか、関数名を変更してください。

PLS-00123 プログラムが大きすぎます。

原因：PL/SQL は安定したトランザクション処理を実現することを重視して設計されています。こうした特殊な目的で設計された結果、PL/SQL コンパイラはブロック・サイズに制限を設けています。制限は、PL/SQL ブロックの中の文の構成に依存します。この制限を超えるブロックがあると、エラーが発生します。

処置：最適な解決方法は、定義するサブプログラムごとにプログラムをモジュール化し、Oracle データベースに格納する方法です。もう 1 つの解決方法は、プログラムを 2 つのサブブロックに分割することです。最初のブロックで、2 番目のブロックが必要としているデータを一時データベース表に INSERT します。2 番目のブロックで、その表からデータを SELECT してください。

PLS-00124 exception_init PRAGMA の第 1 引数は例外名でなければなりません。

原因：EXCEPTION_INIT プラグマに渡される第 1 引数が例外名ではありませんでした。この第 1 引数は正しく宣言された例外名である必要があります。

処置：第 1 引数を正しく宣言された例外名にしてください。

PLS-00125 型名が必要です。

原因：定数または変数を宣言するときに、データ型を指定しませんでした。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
pi CONSTANT := 3.14159; -- should be CONSTANT REAL := 3.14159
```

すべての定数および変数にはデータ型がある必要があります、データ型が記憶形式、制約および値の有効範囲を指定します。

処置：型名を指定してください。

PLS-00126 Selector ALL は使用できません。

原因：システム権限または文オプションを指定するための ALL が SQL 文で使用されました。PL/SQL は、ALL ショートカットをサポートしません。

処置：SQL 文から ALL ショートカットを削除してください。

PLS-00127 PRAGMAstring はサポートされていません。

原因：示されたプラグマ（コンパイラ・ディレクティブ）は、PL/SQL でサポートしているものの中にはありません。プラグマ名の綴りまたはプラグマの構文に誤りがある可能性があります。

処置：プラグマの綴りを確認し、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00128 PRAGMAstring の引数の数が正しくありません。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡される引数 (実際のパラメータ) の数が誤っています。必要な引数が引数リストに入っていないか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2つのパラメータ間のカンマが欠落しています)。

処置: 必要な引数を指定するか、構文エラーを修正してください。

PLS-00129 PRAGMA INTERFACE では、第 1 引数は C でなければなりません。

原因: プラグマ INTERFACE に渡された最初の引数に C 以外のホスト言語が指定されました。現在、ホスト言語としてサポートされているのは C 言語のみです。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。最初のパラメータは C にしてください。

PLS-00130 PRAGMAstring の第 1 引数にはプロシージャ / 関数 / パッケージ / カーソルが必要。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるサブプログラム、パッケージまたはカーソルの名前ではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00131 PRAGMAstring の第 2 引数はプロシージャでなければなりません。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるプロシージャの名前ではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00132 PRAGMA RESTRICT_REFERENCES では :string はサポートされていません。

原因: プラグマ RESTRICT_REFERENCES に渡されたパラメータの 1 つは、必要とされる WNDS、WNPS、RNDs または RNPS のいずれかではありませんでした。パラメータの綴りに誤りがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: すべてのパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00133 PRAGMAstring の第 1 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00134 PRAGMAstring の第 2 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00135 PRAGMAstring の第 3 引数には、識別子または文字列、リテラルが必要です。

原因: 示されたプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 3 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 3 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00138 バイナリ型の精度は、8、16、32 のいずれかでなければなりません。

原因: 符号付きまたは符号なしのバイナリ型に対して無効な精度が指定されました。

処置: 8、16 または 32 のいずれかの精度を指定してください。

PLS-00139 サブプログラム式で外部 NAME 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 NAME 指定が 2 つ見つかりました。

処置: 外部 NAME 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00140 サブプログラム式で外部 LIBRARY 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 LIBRARY 指定が 2 つ見つかりました。

処置: 外部 LIBRARY 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00141 サブプログラム式で外部 PARAMETER STYLE 指定が重複しています。

原因: サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

処置: 外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00142 サブプログラム式で外部 PARAMETER リスト指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00143 サブプログラム式で外部 LANGUAGE 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 LANGUAGE 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 LANGUAGE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00144 サブプログラム式で外部 CALLING STANDARD 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 CALLING STANDARD 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 CALLING STANDARD 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00145 サブプログラム式で外部 WITH CONTEXT 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 WITH CONTEXT 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 WITH CONTEXT 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00146 サブプログラム式で外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00147 LIBRARY ファイル指定の文字列が空です。

原因：LIBRARY ファイル指定に長さが 0 の文字列が見つかりました。

処置：LIBRARY ファイル指定に長さが 0 以外の文字列を指定してください。

PLS-00148 この型の PRAGMA はサブプログラムごとに 1 つしか使用できません。

原因：サブプログラムに pragマ RESTRIC_T_REFERENCES 指定が 2 つ見つかりました。

処置：pragマ RESTRIC_T_REFERENCES の 1 つを削除してください。

PLS-00150 INTEGER のはずですが、*string* となっています。

原因：このエラーは、PL/SQL 外部型 [SIGNED | UNSIGNED] BINARY INTEGER (*precision*) を作成するときに発生します。これを参照できるのは、CREATE TYPE 文の中のみです。このような型は問合せ不能です。INTEGER 以外の型が指定されています。

処置：別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00151 式または変数が PL/SQL に対して不正です *:string*

原因：PL/SQL に属していない型が使用されました。この型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。

処置：別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00152 POINTER 型でできるのは、オブジェクト型の参照のみです。

原因：PL/SQL に属していない POINTER 型で参照できるのは、オブジェクト型のみです。この型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。

処置：別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00153 string 型が使用できるのは、オブジェクト型属性としてのみです。

原因：POINTER または [SIGNED/UNSIGNED] BINARY INTEGER は、オブジェクト型の属性としてのみ使用できます。これらの型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。これらの外部 PL/SQL 型のいずれかが、オブジェクト型ではありません。

処置：別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00154 オブジェクト型に対しては MAP メソッド 1 つまたは ORDER メソッド 1 つのいずれかです。

原因：複数の MAP または ORDER ファンクションが宣言されました。1 つのオブジェクト型に対して 1 つの MAP ファンクションまたは 1 つの ORDER ファンクションを指定できますが、両方を指定することはできません。

処置：型の MAP または ORDER ファンクションを 1 つのみにしてください。

PLS-00155 MAP または ORDER メソッドとして指定できるのは、関数のみです。

原因：MAP または ORDER メソッドのいずれかとしてメンバー・プロシージャが宣言されました。MAP または ORDER メソッドとなり得るのは、メンバー・ファンクションのみです。

処置：プロシージャをファンクションに変更してください。

PLS-00156 オブジェクト属性に対する NULL 制約はサポートされていません。

原因：オブジェクトの属性に NULL 制約が指定されました。これはサポートされません。

処置：制約を削除してください。

PLS-00157 AUTHID はスキーマ・レベルのプログラムでのみ許可されます。

原因：AUTHID 句がパッケージ内または型内のサブプログラムに指定されました。これらの句は、最上位のストアド・プロシージャ、パッケージおよび型でのみサポートされています。

処置：句を削除してください。

PLS-00160 AUTHID では CURRENT_USER または DEFINER を指定する必要があります。

原因：AUTHID に使用できるオプションは、CURRENT_USER および DEFINER の 2 つのみです。

処置：AUTHID 句が CURRENT_USER または DEFINER を指定するように修正してください。

PLS-00161 PRAGMAstring の第 3 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因: プラグマに 4 番目の引数があるときに、示されたプラグマ（コンパイラ・ディレクティブ）に渡された 3 番目の引数（実際のパラメータ）は、識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります（たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています）。

処置: 3 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00162 PRAGMAstring の第 4 引数には正の整数リテラルが必要です。

原因: 示されたプラグマ（コンパイラ・ディレクティブ）に渡された 4 番目の引数（実際のパラメータ）は、必要とされる数値リテラルではありませんでした。パラメータの綴りまたはプラグマの構文に誤りがあります（たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています）。

処置: 4 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00164 このリリースではカーソルの副問合せはサポートされていません。

原因: この機能は、まだ実装されていません。

処置: 処置は必要ありません。

PLS-00165 PL/SQL ではコール文はサポートされていません。

原因: PL/SQL ソース内でコール文が検出されました。

処置: 通常の PL/SQL ファンクションまたはプロシージャのコールを使用してください。

PLS-00166 日付、時刻またはタイムスタンプ・リテラルの書式が正しくありません。

原因: 日付、時刻またはタイムスタンプ・リテラルが、正しい書式 'yyyy-mm-dd hh24:mi:ssxftzh:tzm' と一致していません。

処置: 日時リテラルの正しい書式を使用してください。

PLS-00167 キーワード BULK が間違ったコンテキストで使用されています。

原因: キーワード BULK の使用方法が正しくありません。たとえば、INTO 句を指定せずに、BULK が使用されています。

処置: BULK キーワードを削除してください。

PLS-00168 修飾子の指定 'string' が重複しています。

原因: メソッドまたはオブジェクト型修飾子が 2 つ以上指定されています。

処置: 重複した修飾子を 1 つ残して、他をすべて削除してください。

PLS-00169 修飾子 'string' が前の 'string' 指定と競合しています。

原因：指定したメソッドまたはオブジェクト型修飾子が、以前に指定した修飾子と競合しています。たとえば、FINAL 修飾子と NOT FINAL 修飾子を組み合わせることはできません。

処置：いずれかを削除してください。

PLS-00170 OPEN 文または FOR ループ内の SQL 文は SELECT である必要があります。

原因：OPEN カーソル文またはカーソル FOR ループは、SELECT 文をコールできますが、UPDATE 文、INSERT 文または DELETE 文はコールできません。

処置：OPEN またはカーソル FOR ループでは、SELECT 文のみを使用してください。

PLS-00171 サブプログラム式の専用の AGENT 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに専用の AGENT 指定が 2 つ見つかりました。

処置：いずれかを削除してください。

PLS-00201 識別子 *string* を宣言してください。

原因：未宣言の変数、例外、プロシージャまたはその他の項目、あるいは権限が付与されていない項目またはロールを使用してのみ権限が付与されている項目を参照しようとしてしました。

処置：次の処置を行ってください。

1. 参照される名前の綴りと宣言を確認してください。
2. 参照項目に対する宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。
3. 参照項目が宣言されていても、その項目を参照する権限がない場合は、セキュリティ上の理由によって、その項目が宣言されていないことのみが通知されます。
4. 参照項目が宣言されていて、その項目を参照する権限が付与されていると思われる場合は、権限を確認してください。ロールを使用してのみ権限が付与されている場合は、これは予測され、文書化されているとおりの動作です。

ストアド・オブジェクト（パッケージ、プロシージャ、ファンクション、トリガー、ビューなど）はオブジェクト所有者のセキュリティ・ドメイン内で実行され、PUBLIC 以外のロールは有効化されません。この場合も、項目が宣言されなかったことのみが通知されます。

PLS-00202 型 *string* を宣言してください。

原因：未定義の型を参照しようとしてしました。型指定子を宣言しなかったか、または型指定子が参照の有効範囲内にありませんでした。

処置：型指定子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00203 関数 DECODE のコールには最低 3 つの非ブール引数が必要です。

原因：組込み関数 DECODE に渡された引数が 3 つ未満でした。DECODE は（ブール以外の）引数の変数値をとりますが、DECODE には 3 つ以上の引数を渡す必要があります。

処置：3 つ以上の引数を指定して、DECODE をコールしてください。

PLS-00204 関数または疑似列 *string* は SQL 文の中でしか使用できません。

原因：プロシージャ文で疑似列または禁止された関数が使用されています。SQL 疑似列（CURRVAL、LEVEL、NEXTVAL、ROWID および ROWNUM）は、SQL 文のみで使用できます。同様に、DECODE、DUMP、VSIZE などの関数、および SQL グループ関数（AVG、MIN、MAX、COUNT、SUM、STDDEV および VARIANCE）も SQL 文のみで使用できます。

処置：プロシージャ文から疑似列参照または関数コールを削除してください。または、プロシージャ文を SELECT INTO 文に置き換えてください。次に例を示します。

```
bonus := DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...);
```

この文を次のように書き換えます。

```
SELECT DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...) INTO bonus FROM dual;
```

PLS-00205 ここでは集合体は使用できません。

原因：集合体、すなわち (7788, 'SCOTT', 20) のようなカッコで囲んだ値のリストが、不適切なコンテキストで見つかりました。

処置：集合体を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00206 %TYPE は変数または列、フィールド、属性に適用され、"*string*" には適用されません。

原因：%TYPE データ型属性を使用して宣言されたオブジェクトが、適切なクラスではありません。これは変数、列、レコード構成要素、サブプログラムの仮パラメータまたは値が代入できるその他のオブジェクトである必要があります。

処置：適切なクラスのオブジェクトを宣言するか、別の方法（たとえば、%ROWTYPE）でデータ型を定義してください。

PLS-00207 暗黙カーソル SQL に適用された識別子 *string* は正当なカーソルの属性ではありません。

原因：カーソル属性ではない識別子が識別子 SQL に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りに誤りがある場合に発生します。

処置：カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00208 識別子 *string* は正当なカーソルの属性ではありません。

原因：カーソル属性として宣言されていない識別子が、カーソルとして宣言されている識別子に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りに誤りがある場合に発生します。

処置：カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00209 表 *string* が FROM 句にありません。

原因：問合せで、SELECT リストで参照されている表の名前が、FROM 句の中で指定されていません。

処置：表名の綴りを確認し、SELECT リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00210 この CASE 文には OTHERS 句が必要です。

原因：CASE 文の句で選択した式の型のすべての値が指定されていない場合は、CASE 文の最後の句として OTHERS 句を指定する必要があります。INTEGER（または NUMBER）型のすべての値を指定することはできません。したがって、キーワード CASE の後にある式が INTEGER（または NUMBER）型の場合は、必ず OTHERS 句が必要です。

処置：CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00211 CASE ラベルまたは範囲は、異なる WHEN 句で重複しないようにしてください。

原因：この CASE 文の複数の WHEN 句で同じ値が指定されました。CASE 文では 1 つの値を 1 つの WHEN 句のみで使用できます。

処置：CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00212 CASE 文のコンパイルに必要なメモリーを確保できません。

原因：CASE 文が大きすぎます。コンパイラの記憶域が足りないため、この文は処理できません。

処置：CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00213 パッケージ STANDARD にアクセスできません。

原因：PL/SQL コンパイラは、現行の Oracle データベースで STANDARD パッケージを見つけられませんでした。プログラムをコンパイルするには、このパッケージが必要です。

処置：現行の Oracle データベースでパッケージ STANDARD が使用可能かどうかを確認し、操作を再試行してください。

PLS-00214 BEGIN...END ブロックのネストが深すぎます。

原因: PL/SQL ブロックのネストのレベル数が多すぎます。メモリーなどのシステム・リソースの可用性に応じて、ブロックは最大 255 レベルまでネストできます。

処置: ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00215 文字列の長さは制約範囲内 (1..32767) でなければなりません。

原因: 文字変数を宣言するときに、有効な範囲外の長さを指定しました。たとえば、次の宣言は不正です。

```
flag CHAR(0);           -- illegal; zero length
name VARCHAR2(-10);    -- illegal; negative length
```

処置: 1 ～ 32767 の範囲内になるように、長さ制約を変更してください。

PLS-00216 NUMBER 精度は制約範囲内 (1..38) でなければなりません。

原因: 有効な範囲外の精度で NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER(800) や N NUMBER(123,10) などの宣言は、サポートされません。

処置: 1 ～ 38 の範囲内になるように、不正な NUMBER 精度制約を変更してください。

PLS-00217 NUMBER スケールは制約範囲内 (-84..127) でなければなりません。

原因: 有効な範囲外の精度で NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER(10,345) や N NUMBER(10,-100) などの宣言は、サポートされません。

処置: -84 ～ 127 の範囲内になるように、不正な NUMBER スケール制約を変更してください。

PLS-00218 NOT NULL で宣言した変数には初期割当てが必要です。

原因: 一般に、宣言の中に初期化句がない変数は、自動的に NULL に初期化されます。NOT NULL 制約の付いた変数でこれが発生すると非論理的なので、初期化句が必要です。

処置: 初期化の句を変数宣言に追加してください。構文的に複雑すぎて初期化が指定できない場合は、ファンクション・コールを追加できます (今後のリリース)。

PLS-00219 ラベル *string* の参照が有効範囲外です。

原因: ブロックまたはループのラベルを使用して、宣言されていない変数またはラベルの有効範囲外の変数 (`outer_block.date` など) を修飾しようとしました。変数名の綴りまたは宣言に誤りがある、あるいは宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置: 変数名の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00220 このコンテキストでは単純名を使用してください。

原因: A.B、A.B.C などの修飾名は、ここでは使用できません。

処置: A などの単純名を使用してください。

PLS-00221 'string' がプロシージャではないか、または未定義です。

原因: プロシージャとして参照されている識別子が宣言されていないか、または識別子が実際には別のオブジェクトを表しています（たとえば、ファンクションとして宣言されている）。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00222 この有効範囲内に、名前 *string* の関数は存在しません。

原因: 関数として参照されている識別子が宣言されていないか、または識別子が実際には別のオブジェクトを表しています（たとえば、プロシージャとして宣言されている）。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00223 パラメータのないプロシージャ *string* が関数として使用されています。

原因: パラメータなしの関数として参照されている識別子は、実際にはプロシージャを表しています。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。必要に応じて、識別子の宣言を変更するか、参照を変更して戻り値を不要にしてください。

PLS-00224 ここでは、オブジェクト *string* は関数または配列でなければなりません。

原因: 関数または配列として参照されている識別子が、この方法では参照できないオブジェクト（たとえば数値や日付）を実際には表しています。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00225 サブプログラムまたはカーソル *string* の参照が有効範囲外です。

原因: サブプログラムまたはカーソルが、宣言されていない変数か、サブプログラムまたはカーソルの有効範囲にない変数を参照しています。変数名の綴りまたは宣言に誤りがある、あるいは宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置: 変数名の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00226 パッケージ *string* が変数の参照として使用されています。

原因: パッケージが式の中で変数またはファンクションとして参照されました。変数またはファンクションの名前の綴りに誤りがあるか、参照が完全に修飾されていません。たとえば、パッケージ `my_package` に格納されているファンクション `my_function` を呼び出すには、次のようにドット表記法を使用する必要があります。

```
... my_package.my_function ...
```

処置: 変数またはファンクション名の綴りを修正するか、ドット表記法でパッケージ化された変数またはファンクションを参照してください。

PLS-00227 サブプログラムの仮パラメータ *string* はまだ参照できません。

原因: サブプログラムの仮パラメータを宣言したときに、1つのパラメータを使用して別のパラメータを初期化しようとした。

```
PROCEDURE my_proc (j NUMBER, k NUMBER := j) IS ...
```

1番目のパラメータは実行時まで値を持たないので、他のパラメータの初期化には使用できません。

処置: 不正な仮パラメータ参照を削除してください。

PLS-00228 LONG 型の変数は宣言できません。

原因: LONG 型の変数が宣言されました。LONG 型で宣言できるのは列のみです。

処置: 無効な変数定義を削除してください。

PLS-00229 SQL 式の中に属性の式があります。

原因: SQL 文で `SQL%NOTFOUND` などの属性式が使用されましたが、属性式はプロシージャ文のみで使用できます。

処置: このような制限では、属性式を変数に代入して、SQL 文においてその変数を使用してください。次に例を示します。

```
INSERT INTO audits VALUES (c1%ROWCOUNT, ...);
```

前述のような文は、次のような文に置き換えてください。

```
row_count := c1%ROWCOUNT;  
INSERT INTO audits VALUES (row_count, ...);
```

PLS-00230 OUT および IN OUT 仮パラメータにデフォルトの式がありません。

原因：プロシージャの仮パラメータを宣言したときに、OUT または IN OUT パラメータがデフォルト値に初期設定されました。

```
PROCEDURE calc_bonus (bonus OUT REAL := 00000, ...) IS ...
```

ただし、初期化できるのは IN パラメータのみです。

処置：不正なデフォルト式を削除してください。

PLS-00231 関数 *string* は SQL では使用できません。

原因：禁止されている関数が SQL 文で使用されました。SQLCODE や SQLERRM など、関数のうちいくつかは、プロシージャ文のみで使用できます。

処置：SQL 文から関数コールを削除してください。または、関数コールをローカル変数に置き換えてください。たとえば、次の文は無効です。

```
INSERT INTO errors VALUES (SQLCODE, SQLERRM);
```

ただし、SQLCODE および SQLERRM の値をローカル変数に割り当てて、その変数を SQL 文で次のように使用できます。

```
err_num := SQLCODE;
err_msg := SQLERRM;
INSERT INTO errors VALUES (err_num, err_msg);
```

PLS-00232 パッケージはネストできません。

原因：あるパッケージが別のパッケージ内で宣言されましたが、パッケージの宣言は、トップレベルのみで許可されます。つまり、パッケージはネストできません。

処置：パッケージの外側にパッケージ宣言を移動してください。

PLS-00233 when 句で、関数名が例外名として使用されています。

原因：例外ハンドラ中の WHEN 句で、例外名のかわりに関数コールが含まれています。例外ハンドラを適切に指定するには、例外とこの例外が呼び出されたときに実行される一連の文を WHEN 句の後に指定する必要があります。

処置：WHEN 句の識別子の綴りを確認し、関数を例外名に変更してください。

PLS-00234 PARAMETER STYLE SQL を PARAMATERS リストとともに指定できません。

原因：PARAMETER STYLE SQL と明示的な PARAMETERS リストの両方をサブプログラムで指定することはできません。デフォルトの PARAMETERS リスト型を指定するには、PARAMETER STYLE GENERAL を使用してください。

処置：サブプログラムの指定を変更してください。

PLS-00235 このパラメータに対しては、指定した外部型は不適当です。

原因: パラメータを指定された外部パラメータ型に変換しようとして失敗しました。

処置: 別の外部型またはパラメータ型を指定してください。

PLS-00236 *string* に対する外部型の指定が無効です。

原因: 指定した外部型が、INDICATOR、LENGTH、MAXLEN、TDO、DURATION、CHARSETID または CHARSETFORM に対して無効です。

処置: 『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』で確認し、適切な外部型を指定してください。

PLS-00237 BY VALUE による標識または長さの指定が無効です。

原因: OUT または IN OUT モードで渡されるインジケータまたは長さパラメータを持つ BY VALUE が指定されました。値によって渡すことができるのは IN モード・パラメータのみです。

処置: BY VALUE 指定を削除するか、IN モードに変更してください。

PLS-00238 外部パラメータ名 *string* は仮パラメータ・リストにありません。

原因: 仮パラメータ・リスト内の名前と一致しない外部パラメータ名が指定されました。

処置: 外部パラメータ名を修正してください。

PLS-00239 SQLCODE に対する外部型の指定が無効です。

原因: SQLCODE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置: SQLCODE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00240 RETURN 標識または長さ、tdo、時間に対して型指定が無効です。

原因: RETURN インジケータ、長さ、TDO または時間に対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置: RETURN パラメータの指定を修正してください。

PLS-00241 SQLSTATE に対する外部型の指定が無効です。

原因: SQLSTATE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置: SQLSTATE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00242 CONTEXT に対する外部型の指定が無効です。

原因: CONTEXT パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置: CONTEXT パラメータの指定を修正してください。

PLS-00243 SQLNAME に対する外部型の指定が無効です。

原因：SQLNAME パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置：SQLNAME パラメータの指定を修正してください。

PLS-00244 外部関数の仮パラメータ・リストでの宣言が重複しています。

原因：FORMAL、INDICATOR、LENGTH、MAXLENGTH または CONTEXT のいずれかが、複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で各仮パラメータに対して前述のいずれか 1 つのみ宣言できます。

処置：PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00245 「パラメータ」句での「仮」の使用は 1 度だけに限られます。

原因：PARAMETERS 句で仮パラメータが複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で仮パラメータは 1 回のみ宣言できます。

処置：PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00246 PARAMETER STYLE はサポートされていません。

原因：外部サブプログラム本体の中に PARAMETER STYLE 句があります。

処置：PARAMETER STYLE 句を削除してください。

PLS-00247 LIBRARY 名を指定してください。

原因：LIBRARY 名が外部サブプログラム本体から欠落しています。

処置：外部サブプログラム本体に LIBRARY 名を指定してください。

PLS-00248 Library 構文が無効です。

原因：入力された LIBRARY の構文が誤っています。

処置：LIBRARY の構文を修正して再コンパイルしてください。

PLS-00249 WITH CONTEXT 構文が無効です。

原因：WITH CONTEXT 句または PARAMETERS 句で CONTEXT が使用されました。これは無効です。

処置：PARAMETERS 句に CONTEXT を指定せずに WITH CONTEXT を使用しているどうかを確認してください。PARAMETERS 句は完全にする必要があります。WITH CONTEXT を指定する場合は、PARAMETERS 句（ある場合）で CONTEXT を参照する必要があります。

PLS-00250 パラメータ句での *string* の使用方法が正しくありません。

原因：PARAMETERS 句で MAXLEN、LENGTH、CHARSETID などのキーワードが不適切に使用されています。

処置：PL/SQL 仮パラメータや仮パラメータのモードで、MAXLEN、LENGTH、TDO、DURATION、CHARSETID、CHARSETFORM などのキーワードが使用できないと、このエラーが発生します。たとえば、MAXLEN は、PL/SQL 変数 CHAR または VARCHAR2 に対してのみ宣言でき、OUT または INOUT PL/SQL 変数に対してのみ使用できます。また、RETURN が PL/SQL PROCEDURE 用の PARAMETERS 句内で指定されました。次に例を示します。

```
CREATE PROCEDURE proc IS EXTERNAL NAME ... LIBRARY ... PARAMETERS (RETURN
INDICATOR SHORT, RETURN);
```

PLS-00251 実関数の戻りを指定する RETURN は、パラメータ句の最後になければなりません。

原因：実関数の戻りを指定する RETURN は、PARAMETERS 句の最後にある必要があります。次に例を示します。次の例では、実関数の戻りを指定する RETURN がパラメータ句の最後にならないため、エラーになっています。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
var2 BINARY_INTEGER)
RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
RETURN INT, RETURN INDICATOR SHORT);
```

正しい構文は、次のとおりです。実関数の戻りを指定する RETURN は、PARAMETERS 句の最後にある必要があります。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
var2 BINARY_INTEGER)
RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
RETURN INDICATOR SHORT, RETURN INT);
```

処置：PARAMETERS 句の RETURN を修正してください。

PLS-00252 不正なパッケージ STANDARD のコピーが参照されました。

原因：データベースがオープンしているときに修正されたパッケージ・バージョンの STANDARD が参照されたか、データベースがクローズしているときにディスク内のバージョンが参照されました。SYS.X\$ パッケージ名を明示的に使用すると、このようなエラーになります。データベースをクローズしてコンパイルを始めても、コンパイルが完了する前に別のセッションがオープンすると、このようなエラーが発生します。別の原因として、ALTER DATABASE CLOSE の実行中に SVRMGRL を介して SET SERVEROUTPUT ON が行われた可能性があります。

処置：データベースがオープンしているときには、ディスク内のパッケージ・バージョンを使用し、データベースがクローズしているときには、修正済（プリロード）のパッケージ・バージョンを使用してください。適切なセットを使用してください。SYS.X\$ パッケージ名を明示的に指定する場合を除いて、誤ったセットを参照することはできません。また、ALTER DATABASE CLOSE を実行する前に必ず SET SERVEROUTPUT OFF を実行してください。

PLS-00253 仮パラメータ *string* はパラメータの句にありません。

原因：PARAMETERS 句に、仮パラメータ・リスト内に指定されたパラメータに一致するパラメータがありません。

処置：すべての仮パラメータに対して、一致するパラメータを PARAMETERS 句に指定してください。

PLS-00254 このコンテキストでは OUT および IN/OUT モードは使用できません。

原因：実際のパラメータ・モード（OUT または IN/OUT）が、USING 句で正しく使用されていません。OPEN 文の USING 句では、IN モードのみ使用できます。

処置：USING 句のパラメータ・モードを適切なモードに変更してください。

PLS-00255 CALL 仕様部のパラメータにはデフォルト値を指定できません。

原因：CALL 仕様部の仮パラメータにはデフォルト値を指定できません。

処置：仮パラメータ・リスト（仕様部または本体）のデフォルト値を削除し、再コンパイルしてください。

PLS-00256 *string* は有効な外部ライブラリではありません。

原因：EXTERNAL 句に指定された外部ライブラリ名が、有効な別名ライブラリではありません。

処置：事前に宣言された有効な別名ライブラリの名前を指定してください。

PLS-00257 TYPE または PACKAGE 仕様部で EXTERNAL 句の使用方法が不正です。

原因：TYPE または PACKAGE 仕様部で、EXTERNAL 句が検出されました。

処置：EXTERNAL 句を削除し、新しい CALL 仕様構文を使用してください。

PLS-00258 CALL 仕様部で制約されたデータ型は使用できません。

原因: C または Java の CALL 仕様部では、PL/SQL の仮パラメータ型に制約を指定できません。制約がある PL/SQL 型には、NATURAL、NATURALN、POSITIVE、POSITIVEN、SIGNTYPE、INTEGER、INT、SMALLINT、DECIMAL、NUMERIC および DEC があります。これには、POSITIVEN および NATURALN からの NOT NULL 制約も含まれます。

処置: PL/SQL の仮宣言には無制約型 (NUMBER、BINARY_INTEGER または PLS_INTEGER) を使用してください。

PLS-00259 権限モデル (AUTHID) の指定が必要です。

原因: PL/SQL の PROCEDURE、FUNCTION、PACKAGE OR TYPE HAS CALL 仕様部の場合は、権限モデルの指定は必須です。

処置: 権限モデルを示す AUTHID 句を追加してください。

PLS-00260 日時 / 間隔の制約は範囲内 (0..9) である必要があります。

原因: 日時 / 間隔変数または属性が有効範囲内にない制約で宣言されました。

処置: 無効な制約を変更してください。

PLS-00261 Java CALL 仕様部は、まだオブジェクト型のメソッドとして使用できません。

原因: Java での実装を宣言する CALL 仕様部が、オブジェクト型または不透明型のメソッドとして使用されています。この使用法はまだサポートされていません。

処置: Java 以外の言語を使用するメソッドを実装してください。PL/SQL メソッドの実装は、スキーマ・レベルのプロシージャとして、またはパッケージ内で提供される CALL 仕様部を使用して Java をコールできます。ただし、このような CALL 仕様部のターゲットは Java のスタティック・メソッドのみです。

PLS-00302 コンポーネント *string* を宣言してください。

原因: コンポーネントへの参照で、コンポーネントが宣言されていません (たとえば、名前 A.B では B が A の構成要素です)。コンポーネントの綴りまたは宣言に誤りがある、あるいは宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

処置: コンポーネントの綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00303 修飾子 *string* を宣言してください。

原因: A.B というような名前では、A が修飾子で、B が修飾子の構成要素です。このエラーは、修飾子の宣言が見つからないときに発生します。修飾子の綴りがまたは宣言に誤りがある、あるいは宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

処置: 修飾子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00304 コンパイル済みの仕様がいないため *string* の本体をコンパイルできません。

原因: パッケージ本体をコンパイルするために必要なコンパイル済のパッケージ仕様部が見つけれませんでした。次のような原因が考えられます。

- パッケージ名の綴りに誤りがある
- パッケージ仕様部が1度もコンパイルされていない
- コンパイル済のパッケージの仕様部にアクセスできない

パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージ仕様部をコンパイルする必要があります。また、コンパイラがコンパイル済の仕様部にアクセスする必要があります。

処置: パッケージ名の綴りを確認してください。パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージの仕様部をコンパイルしてください。また、コンパイラがコンパイル済の仕様部にアクセスできることを確認してください。

PLS-00305 '*string*' (行 *string*) の以前の使用方法が、この使用方法と競合します。

原因: カーソル、プロシージャ、ファンクションまたはパッケージの以前の宣言を検索しているときに、コンパイラが同じ有効範囲で同じ名前を持つ別のオブジェクトを見つけました。または、パッケージ仕様部と本体のサブプログラムのヘッダーが完全に一致していません。

処置: カーソル、プロシージャ、ファンクション、またはパッケージの名前の綴りを確認してください。また、同じ有効範囲の中で宣言されているすべての定数、変数、パラメータ、および例外の名前を確認してください。次に、重複する名前を持つオブジェクトを削除するか名前を変更してください。またはパッケージ・サブプログラムのヘッダーを変更して、完全に一致させてください。

PLS-00306 '*string*' の呼出しで、引数の数または型が正しくありません。

原因: このエラーは、表示されたサブプログラムの呼出しが、そのサブプログラム名の宣言と一致しないときに発生します。サブプログラム名の綴りに誤りがある、パラメータのデータ型が異なっている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で不適切な位置に置かれているなどの可能性があります。たとえば、組込みの平方根関数 SQRT を不適切な名前呼び出ししたり、不適切なデータ型のパラメータを付けて呼び出した場合、このエラーが発生します。

処置: サブプログラムの綴りと宣言を確認してください。また、コールが正しいこと、パラメータのデータ型が正しいこと、それが組込み関数でない場合は、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00307 このコールに一致する 'string' が複数宣言されています。

原因: 宣言とコールが完全に一致せず、パラメータのデータ型の暗黙の変換が使用されると、複数の宣言がコールと一致するため、サブプログラム名またはカーソル名の宣言が不明確になります。サブプログラム名またはカーソル名の綴りに誤りがある、宣言に誤りがある、宣言がブロック構造の中で不適切な位置に置かれているなどの可能性があります。

処置: サブプログラム名またはカーソル名の綴りおよび宣言を確認してください。また、コールが正しいか、パラメータのデータ型が正しいか、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれている（組込み関数でない場合）かどうかを確認してください。

PLS-00308 この構成は代入元としては使用できません。

原因: 構成または式が、変数に代入できるような値を表していません。たとえば、データ型名 NUMBER は、X:=NUMBER のように代入文の右辺では使用できません。

処置: 無効な代入文を修正してください。

PLS-00309 %LAST 属性を適用する場合 'string' は数え上げ可能な型の変数でなければなりません。

原因: %LAST 属性は、数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）の変数として宣言された識別子に適用する必要があります。そのように宣言されていない識別子の後に %LAST が付けられていると、このエラーが発生します。

処置: %LAST 属性が数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）の後で使用されていることを確認してください。

PLS-00310 %ROWTYPE 属性の場合、string は表、カーソル、カーソル変数でなければなりません。

原因: %ROWTYPE 属性は、カーソル、カーソル変数またはデータベース表として宣言された識別子に適用する必要があります。そのように宣言されていないなんらかの識別子の後に %ROWTYPE が付けられていると、このエラーが発生します。

処置: 宣言を変更するか、識別子に %ROWTYPE 属性を適用しないでください。

PLS-00311 "string" の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因: この識別子は、型が正しく定義されていないためにコンパイルできません。

処置: 不正なデータ型の宣言を修正してください。

PLS-00312 定位置パラメータ対応が名前指定対応に準じていません。

原因: パラメータのリストがサブプログラムまたはカーソルに渡されるときに、位置指定対応と名前指定対応の両方を使用する場合は、宣言された順序で、すべての位置指定対応を、すべての名前指定対応（順序は任意）の前に置く必要があります。

処置: この条件を満たすようにパラメータ・リストの順序を変えるか、名前指定対応のみを使用してください。

PLS-00313 この有効範囲内で 'string' が宣言されていません。

原因：参照の有効範囲の中には、この識別子の宣言がありません。識別子の綴りが誤っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置：識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00314 TABLE 宣言は PL/SQL ローカル変数として使用できません。

原因：プリコンパイルされたプログラムで、誤って埋込み PL/SQL ブロック内に DECLARE TABLE 文を使用しました。埋込み PL/SQL ブロックが、まだ存在しないデータベース表を参照した場合、プリコンパイラにその表がどのようなものであるかを知らせるために DECLARE TABLE 文を使用します。ただし、DECLARE TABLE 文はホスト・プログラムのみで使用が許可されています。

処置：埋込み PL/SQL ブロックの外側に DECLARE TABLE 文を移動してください。データベース表から選択されたデータの行全体、またはカーソルやカーソル変数から取り出されたデータの行全体を格納できる変数が必要な場合は、%ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00315 現在 PL/SQL の TABLE 宣言には、binary_integer 索引を使用しなければなりません。

原因：PL/SQL の TABLE 宣言の INDEX BY 句で、BINARY_INTEGER 以外のデータ型が指定されています。PL/SQL 表は、1 つの列と 1 つの主キーを持つことができます。列はスカラー型であればどのデータ型でもかまいませんが、主キーは BINARY_INTEGER にする必要があります。

処置：データ型指定子を BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00316 現在 PL/SQL の TABLE には、単一 binary_integer 索引を使用しなければなりません。

原因：PL/SQL の TABLE 宣言の INDEX BY 句で、コンポジット主キーが指定されました。PL/SQL 表の主キーは、単一で名前なしの BINARY_INTEGER 型である必要があります。

処置：無効な句を INDEX BY BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00317 不完全な型 "string" が宣言リージョン内で完了していません。

原因：不完全な型宣言が、宣言リージョン内で完了していません。

処置：型を適切に完了させた後、操作を再試行してください。

PLS-00318 型 "string" の形式が誤っています。それは相互再帰的な非 REF 型です。

原因：次のような型宣言

```
-- non-REF recursive type
type t is record (a t);
```

または

```
-- non-REF mutually dependent types
type t1;
type t2 is record (a t1);
type t1 is record (a t2);
```

が入力されました。

処置：別の型を使用して、再帰を削除してください。

PLS-00319 IN または NOT IN 句の副問合せの列は 1 つでなければなりません。

原因：X IN (SELECT A,B ...) のような無効な式が使用されました。副問合せで [NOT]IN 句を使用するときは、集合のメンバーであるかどうかは調べられません。[NOT]IN 句内の式の数と副問合せの SELECT リスト内の式の数は一致する必要があります。したがって、前述の例では、副問合せで 1 つの列のみを指定する必要があります。

処置：複数の列を選択しないように、副問合せを変更してください。

PLS-00320 この式の型の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因：宣言の中で、変数またはカーソルの名前の綴りに誤りがあるか、宣言が前方参照を行っています。PL/SQL では前方参照ができません。変数またはカーソルは、他の文（他の宣言文も含む）で参照する前に宣言しておく必要があります。たとえば、次に示す dept_rec の宣言は、未宣言のカーソルを参照しているために例外を呼び出します。

```
DECLARE
dept_rec dept_cur%ROWTYPE;
CURSOR dept_cur IS SELECT ...
...
```

処置：宣言内のすべての識別子の綴りを確認してください。必要な場合は、前方参照が発生しないように宣言を移動してください。

PLS-00321 式 string は、代入文の左側の式としては不適切です。

原因：この式は、値を代入できるような変数を表していません。たとえば、関数 SYSDATE は、次のように代入文の左辺では使用できません。

```
SYSDATE := '01-JAN-1990';
```

処置：無効な代入文を修正してください。

PLS-00322 定数 *string* の宣言には、初期割当てが必要です。

原因: 定数宣言に初期値の代入がありません。たとえば、次の宣言「:= 3.14159」は初期化の句です。

```
"pi constant number := 3.14159;"
```

処置: 必要な初期化割当てを指定して、定数の宣言を修正してください。

PLS-00323 パッケージ仕様部で未定義のサブプログラムまたはカーソル *string* が宣言されています。

原因: パッケージ仕様部にサブプログラム仕様部が置かれていますが、対応するサブプログラム本体がパッケージ本体に置かれていません。パッケージ本体は、パッケージ仕様部を実装します。したがって、パッケージ仕様部で宣言されているすべてのサブプログラムの宣言がパッケージ本体に含まれている必要があります。

処置: サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体をパッケージ本体に追加してください。

PLS-00324 カーソル属性は、非カーソル *string* には適用されません。

原因: カーソルの属性（%FOUND、%NOTFOUND、%ROWS、%IS_OPEN など）がカーソルまたはカーソル変数として宣言されていない識別子の後にあると、このエラーが発生します。たとえば、my_cur%FOUND の変数名 my_cur がカーソルとして正しく宣言されていなかった場合や、変数宣言がブロック構造の中で正しい位置に置かれていなかった場合に発生します。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00325 このコンテキストでは、非正数リテラル *string* は使用できません。

原因: 整数（小数点以下がない数値）が必要なコンテキストで、整数ではない数値リテラルが使用されました。

処置: 不適切なリテラルを整数リテラルに置き換えてください。

PLS-00326 IN 句には副問合せとして同じ数の式が必要です。

原因: IN 句の中の式の数が、対応する副問合せの SELECT リストの中の式の数と一致しません。たとえば、次の文は IN 句に式が 2 つ含まれますが、副問合せの SELECT リストに含まれる式が 1 つのみであるため、不正な文になります。

```
... WHERE (ename, sal) IN (SELECT sal FROM emp);
```

処置: 各セットの式の数を確認し、数が一致するように式を修正してください。

PLS-00327 "string" は、この SQL 有効範囲にありません。

原因: SQL 文で、有効範囲外のデータベース・オブジェクトに対して参照が行われました。参照されたオブジェクトの綴りに誤りがある、または次の例に示すように参照が混在している可能性があります。

```
CURSOR c1 IS SELECT dept.dname FROM emp;
```

処置: SQL 文のデータベース・オブジェクトの綴りがすべて正しいかどうか、すべての参照がカーソルの有効範囲内のオブジェクトに対して行われているかどうかを確認してください。

PLS-00328 サブプログラム本体が、string の先送り宣言に対して定義されなければなりません。

原因: サブプログラム仕様部が宣言されましたが、対応するサブプログラム本体が定義されていません。サブプログラム仕様部と本体を 1 つの単位として記述してください。もう 1 つの解決方法は、仕様部を本体から分離することです。これは相互に再帰的なサブプログラムを定義したり、サブプログラムを 1 つのパッケージにグループ化する場合に必要です。

処置: サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体を指定してください。

PLS-00329 スキーマ・レベル型に、string に対する不正な参照が含まれています。

原因: スキーマ・レベルの型からそれ以外の型を参照しようとした。

処置: 無効な参照を置き換えて、操作を再試行してください。

PLS-00330 タイプ名またはサブタイプ名の使用方法に誤りがあります。

原因: 定数、変数、式のかわりに、誤ってデータ型またはサブタイプ指定子を使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF emp_count > number THEN ... -- illegal; NUMBER is a datatype specifier
```

処置: データ型またはサブタイプ指定子を有効な定数、変数または式で置き換えてください。

PLS-00331 string に対する参照が正しくありません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- ユーザー SYS のオブジェクトを不正な方法で使用するためのそのオブジェクトに対する無効な参照
- リモート・オブジェクト型に対する無効な参照

処置: 参照を削除してください。

PLS-00332 "string" は、修飾名に対する有効な接頭辞ではありません。

原因：接頭辞が無効なため、修飾名に誤りがあります。

処置：参照を削除または変更してください。

PLS-00333 "string" は、このコンテキストにあるオブジェクト表の別名と一致しなければなりません。

原因：REF または VALUE コンテキストで現れる名前が、オブジェクト表の別名の参照を解決していません。

処置：次のいずれかの処置を行ってください。

1. 有効範囲内にオブジェクト表がない場合は、REF または VALUE を削除してください。そうでない場合は、必要なオブジェクト表参照を指定してください。
2. 有効範囲内にオブジェクト表があり、その表を参照していない場合は、参照を追加してください。

PLS-00334 "string" が別名のない表またはビューと一致しています。

原因：別名のない表またはビューの名前が参照されました。

処置：参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00335 パッケージ名が既存のオブジェクトと競合します。

原因：CREATE PACKAGE 文で、パッケージ（論理的に関連付けられている PL/SQL タイプ、オブジェクトおよびサブプログラムをグループ化するデータベース・オブジェクト）に、既存のデータベース・オブジェクトと同じ名前が指定されました。

処置：パッケージに固有の名前を付けてください。

PLS-00336 このコンテキストでは、オブジェクトのない表 "string" は不正です。

原因：オブジェクト表以外に、REF または VALUE 修飾子が指定されました。このコンテキストでは使用できません。

処置：参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00337 "string" と一致するオブジェクト表の別名が多すぎます。

原因：オブジェクト表の別名に対する参照があいまいです。同じ有効範囲内に、オブジェクト表の別名が複数存在します。

処置：参照を 1 つのみ残して他をすべて削除するか、残りの別名を変更してください。

PLS-00338 "string" は、列または行の式として解決できません。

原因: 列または行式として解決できない名前が参照されました。これは、オブジェクト表を含む UPDATE または INSERT 文で発生します。

処置: UPDATE 文を列参照としてコーディングする場合は、そのように修正してください。行式としてコーディングする場合は、オブジェクト表の別名を参照するように変更してください。

PLS-00339 "string" が、REF または VALUE 修飾子のないオブジェクト表と一致しています。

原因: REF または VALUE 修飾子を指定せずにオブジェクト表名が指定されました。

処置: REF または VALUE 修飾子を付けてコーディングする場合は、修飾子を追加してください。列参照としてコーディングする場合は、適切に参照を変更してください。それ以外の場合は、参照を削除してください。

PLS-00341 カーソル *string* の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因: カーソル宣言に誤りがあるか、またはカーソル宣言の中で参照されている識別子が正しく宣言されていません。既存のデータベース表または以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照しない戻り型が指定されている可能性があります。たとえば、次のカーソル宣言は c1 が完全に定義されていないため無効となります。

```
CURSOR c1 RETURN c1%ROWTYPE IS SELECT ... -- illegal
```

この場合、戻り型は暗黙に決定されるので、指定する必要はありません。

処置: カーソル名およびカーソル宣言で参照している識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。戻り型を指定する場合は、既存のデータベース表、以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照することを確認してください。

PLS-00351 データベース *string* にログ・オンしていません。

原因: ログ・オンしないで Oracle データベースにアクセスしようとしてしました。不正なユーザー名またはパスワードが入力された可能性があります。

処置: データベースにアクセスするには、綴りの正しいユーザー名およびパスワードを入力して、Oracle にログ・オンしてください。

PLS-00352 別のデータベース *string* にアクセスできません。

原因: 現行のローカルまたはリモート Oracle データベース以外のデータベース内のオブジェクトを参照しようとしてしました。

処置: 参照を修正し、現行の Oracle データベース内のオブジェクトを参照するようにしてください。

PLS-00353 'string' はデータベースでユーザーを指定しなければなりません。

原因：ユーザー名の綴りに誤りがある場合、またはユーザーがデータベースに存在しない場合に、このエラーが発生します。

処置：ユーザー名の綴りを確認し、そのユーザーが存在していることを確かめてください。

PLS-00354 ユーザー名は単純識別子でなければなりません。

原因：scott.accts などのように修飾されたユーザー名は、このコンテキストでは使用できません。

処置：scott などのような単純ユーザー名を指定してください。

PLS-00355 PL/SQL 表はこのコンテキストでは使用できません。

原因：不適切なコンテキストで PL/SQL 表が参照されました（たとえば、リモート・リンクを使用）。

処置：PL/SQL 表の参照を削除するか、またはコンテキストを変更してください。

PLS-00356 'string' は、ユーザーがアクセスしている表名でなければなりません。

原因：ユーザーは示された表にアクセスできません。このエラーは、表の名前またはユーザー名の綴りに誤りがある場合、表やユーザーがデータベースに存在しない場合、ユーザーが必要な権限を与えられていない場合、表の名前がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複している場合に発生します。

処置：表の名前とユーザー名の綴りを確認してください。また、表とユーザーが存在すること、ユーザーが必要な権限を持っていること、表名がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複していないことも確認してください。

PLS-00357 表またはビュー、シーケンス参照 *string* は、このコンテキストでは使用できません。

原因：表、ビューおよびシーケンスへの参照が不適切なコンテキストで見つかりました。表参照は、SQL 文または変数宣言の中で %TYPE 属性、%ROWTYPE 属性と組み合せてのみ使用できます。次にいくつかの正しい例を示します。

```
SELECT ename, emp.deptno, dname INTO my_ename, my_deptno, my_dept
FROM emp, dept WHERE emp.deptno = dept.deptno;
DECLARE
last_name emp.ename%TYPE;
dept_rec dept%ROWTYPE;
```

処置：無効な参照を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00358 列 *string* が複数の表にあります。修飾子を使用してください。

原因: その文は、同じ列名を持つ2つ以上の表を指定しているため、不明確です。たとえば、次の文は deptno が両方の表の列であるためにあいまいです。

```
SELECT deptno, loc INTO my_deptno, my_loc FROM emp, dept;
```

処置: 列参照があいまいにならないように、列名の前に表名（たとえば emp.deptno）を付けてください。

PLS-00359 '*string*' の割当てターゲットにはコンポーネントが必要です。

原因: 割当てターゲットの宣言で、代入された値を格納するために必要なコンポーネントが欠落しています。たとえば、列値の行をレコードではなく変数に代入すると、このエラーが発生します。次に例を示します。

```
DECLARE
dept_rec  dept%ROWTYPE;
my_deptno dept.deptno%TYPE;
...      BEGIN SELECT deptno, dname, loc INTO my_deptno -- invalid
FROM dept WHERE ...
```

処置: 割当てターゲットとそのすべてのコンポーネントの綴りを確認してください。割当てターゲットが必要なコンポーネントとともに宣言されていることと、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00360 本体のないカーソル宣言には戻り型が必要です。

原因: カーソル宣言に、本体（SELECT 文）がないか、戻り型がないかのいずれかです。カーソルの指定を本体から切り離す場合、次のように戻り型の入力が必要です。

```
CURSOR c1 RETURN emp%ROWTYPE;
```

処置: SELECT 文または戻り型をカーソル宣言に追加してください。

PLS-00361 IN カーソル '*string*' を OPEN できません。

原因: IN モードのカーソル・パラメータは変更できないので、オープンできません。

処置: カーソル・パラメータを IN OUT または OUT に変更してください。

PLS-00362 カーソルの戻り型が無効です。'string' はレコード型でなければなりません。

原因：カーソルの指定または REF CURSOR 型の定義で、NUMBER、TABLE などの非レコード型が戻り型として指定されました。これは許可されていません。次の戻り値のみが許可されています。

- `record_type_name`
- `record_name%TYPE`
- `table_name%ROWTYPE`
- `cursor_name%ROWTYPE`
- `cursor_variable_name%ROWTYPE`

処置：前述の戻り型を指定するように、カーソルの指定または REF CURSOR 型定義を修正してください。

PLS-00363 式 *string* は割当てターゲットとして使用できません。

原因：リテラル、定数、IN パラメータ、ループ・カウンタまたはファンクション・コールが、誤って割当てターゲットとして使用されました。たとえば、次の文は、割当てターゲットの 30 が定数なので不正な文です。

```
SELECT deptno INTO 30 FROM dept WHERE ... -- illegal
```

処置：正しい割当てターゲットを使用して、誤りのある文を修正してください。

PLS-00364 ループ索引変数 *string* の使用方法に誤りがあります。

原因：不適切なコンテキストでループ・カウンタへの参照が見つかりました。たとえば、次の文は、ループ・カウンタがそれ自身の範囲式の中で終了値として使用されているため、無効です。

```
FOR j IN 1 .. j LOOP ... -- illegal
```

処置：ループ・カウンタを参照しないように、ループの範囲式を変更してください。範囲式の中で、ループ・カウンタと同じ名前を持つ別の変数を参照する場合は、名前を変更するか、変数名をラベルで修飾してください。

PLS-00365 'string' は OUT パラメータです。読み込みはできません。

原因: OUT パラメータの値を別のパラメータまたは変数に割り当てようとしてしました。プロシージャ内では、OUT パラメータは未初期化変数のように動作するため、その値を読み込めません。たとえば、次の割当て宣言は不正です。

```
PROCEDURE calc_bonus (bonus OUT REAL, ...) IS
    rating REAL;
    wages REAL;
BEGIN
    ...
    IF rating > 90 THEN
        bonus := bonus * 2; -- illegal
        SELECT sal + bonus INTO wages FROM emp ... -- illegal
        ...
    END IF;
    ...
END calc_bonus;
```

処置: OUT パラメータのかわりに IN OUT パラメータを使用してください。プロシージャ内では、IN OUT パラメータは初期化変数のように動作するため、その値を読み込むことができます。

PLS-00366 NOT NULL タイプのサブタイプは、同様に NOT NULL でなければなりません。

原因: サブタイプを NOT NULL として定義した後、NULL として定義されている別のサブタイプのベース型として使用しました。これは許可されていません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
DECLARE
SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
SUBTYPE Weekend IS Weekday NULL; -- illegal
```

正しくは次のとおりです。

```
DECLARE
SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
SUBTYPE Weekend IS Weekday;
```

処置: サブタイプ定義を修正して、矛盾をなくしてください。

PLS-00367 例外名のない RAISE 文は、例外ハンドラの内部になければなりません。

原因: 例外ハンドラの外で、例外名が後に付いていない RAISE 文が見つかりました。

処置: RAISE 文を削除するか、例外ハンドラに移すか、または例外名を追加してください。

PLS-00368 RAISE 文で、'string' は例外名でなければなりません。

原因：RAISE 文の中の識別子が正しい例外名ではありません。

処置：RAISE 文の中の識別子が例外として宣言されていることと、ブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。PL/SQL 事前定義済例外の名前を使用している場合は、その名前の綴りを確認してください。

PLS-00369 例外ハンドラで、OTHERS は単独で使用されなければなりません。

原因：次の形式の要素

```
WHEN excep1 OR OTHERS =>
```

が例外ハンドラの定義内で検出されました。OTHERS ハンドラは、ブロック内の最後の例外ハンドラとして単独で置く必要があります。

処置：OTHERS で表される識別子を削除するか、その識別子に別の例外ハンドラを作成してください。

PLS-00370 OTHERS ハンドラは、例外ハンドラのブロックの中で最後になければなりません。

原因：OTHERS ハンドラの後に、1 つ以上のハンドラがあります。ただし、OTHERS ハンドラは、名前が具体的に指定されているすべての例外用のハンドラとして機能するため、ブロックまたはサブプログラム内の一番最後に置く必要があります。

処置：特定の例外ハンドラに続くように、OTHERS ハンドラを移動してください。

PLS-00371 宣言セクションでは、'string' の宣言は 1 回でなければなりません。

原因：ブロック、プロシージャまたはファンクションの宣言部分に矛盾する宣言があるため、識別子の参照が不明確です。識別子の宣言は、1 つの宣言部分で 1 度のみ行えます。

処置：識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、識別子の宣言を 1 つ残して、他をすべて削除してください。

PLS-00372 プロシージャでは、RETURN 文に式を入れることはできません。

原因：プロシージャ中の RETURN 文で式が使用されていますが、これは許可されません。その値がファンクション識別子に代入されるため、ファンクションの RETURN 文に式を含む必要があります。ただし、プロシージャ内では RETURN 文を使用してプロシージャの最後に処理が到達する前にその処理を終了させることができます。

処置：RETURN 文から式を削除するか、ファンクションとしてプロシージャを再定義してください。

PLS-00373 EXIT ラベル *string* は LOOP 文のラベルでなければなりません。

原因: EXIT 文内のラベルが、LOOP 文を参照していません。EXIT 文ではラベルの指定は不要です。ただし、ラベルが指定されている (EXIT my_label など) 場合は、そのラベルは、LOOP 文を参照する必要があります。

処置: ラベル名の綴りが正しいかどうか、ラベル名が LOOP 文を参照しているかどうかを確認してください。

PLS-00374 無効な EXIT 文です。EXIT 文はラベル '*string*' のループ内になければなりません。

原因: EXIT 文ではラベルの指定は不要です。ラベルが指定されている場合 (EXIT my_label など)、そのラベルによって指定されるループ内に EXIT 文がある必要があります。

処置: ラベル名の綴りが正しいかどうかを確認してください。必要であれば、ラベルが参照するループの内側に EXIT 文を移動してください。

PLS-00375 無効な GOTO 文です。この GOTO はラベル *string* に分岐できません。

原因: エラー・メッセージに記された行と列の番号は、一連の文を含む構成 (ループや例外ハンドラなど) の外側から、一連の文の内側のラベルに分岐している GOTO 文を示しています。このような分岐は許可されません。

処置: 文の順序内に GOTO 文を移動するか、ラベル付きの文を文の順序の外側に移動してください。

PLS-00376 無効な EXIT 文です。EXIT 文はループの内部になければなりません。

原因: ループ構文の外側に EXIT 文があります。EXIT 文はループを途中で終了するために使用されるので、必ずループの内側にある必要があります。

処置: EXIT 文を削除するか、ループの内側に入れてください。

PLS-00377 内部型 PLS_INTEGER は現行のリリースの PL/SQL には使用できません。

原因: 型名 INTEGER が宣言で使用されました。

処置: 使用しないでください。

PLS-00378 渡されたコンパイル・ユニットは、現行のリリースの PL/SQL では無効です。

原因: コンパイル・ユニットとは、コンパイラに渡される PL/SQL ソース・コードが入ったファイルのことです。コンパイル・ユニットは、ブロック、宣言、文およびサブプログラムのみを含むことができます。このエラーは、これ以外の言語構造がコンパイラに渡されたときに発生します。

処置: コンパイル・ユニットにブロック、宣言、文、サブプログラム以外のものがあるかどうかを調べてください。

PLS-00379 CASE 文は現行のリリースの PL/SQL では使用できません。

原因: コンパイル・ユニットに CASE 文が含まれています。ただし、現行のリリースの PL/SQL は、CASE 文をサポートしていません。

処置: コンパイル・ユニットから CASE 文を削除してください。

PLS-00380 関数およびプロシージャは現行のリリースの PL/SQL では使用できません。

原因: コンパイル中のプログラムに FUNCTION または PROCEDURE の宣言が含まれています。

処置: 使用しないでください。

PLS-00381 列と、副問合せまたは INSERT 文の変数で、'string' の型が一致していません。

原因: 列と変数のデータ型が一致しません。この変数は、副問合せまたは INSERT 文の中にあります。

処置: 列のデータ型に合うように、変数のデータ型を変更してください。

PLS-00382 式の型が正しくありません。

原因: 式のデータ型が、その式が検出されたコンテキストには正しくありません。

処置: 式のデータ型を変更してください。データ型変換ファンクションも使用できません。

PLS-00383 IN または NOT IN 句で、'string' の型が一致していません。

原因: X NOT IN (SELECT Y ...) などの集合のメンバーシップの検査で、式 X と Y のデータ型が一致しないため、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: データ型が一致するように式を変更してください。SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00384 UPDATE の SET 句で、'string' の型が一致していません。

原因: UPDATE 文の SET 句の等号の左側にある列が、等号の右側にある列、式または副問合せとデータ型が一致しません。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: データ型が一致するように式を変更してください。SET 句でデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00385 SELECT...INTO 文で、'string' の型が一致していません。

原因: SELECT...INTO 文の INTO 句の左右にある式のデータ型が一致しません。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: データ型が一致するように式を変更してください。SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00386 FETCH カーソルと INTO 変数で、'string' の型が一致していません。

原因：FETCH 文の INTO リスト内の割当てターゲットが、カーソル宣言の SELECT リスト内の対応する列とデータ型が一致しません。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：カーソル宣言を変更するか、代入先のデータ型を変更してください。カーソルに関連付けられている問合せの SELECT リストでデータ型変換ファンクションを使用することもできます。

PLS-00387 INTO 変数はデータベース・オブジェクトにできません。

原因：FETCH 文または SELECT 文の INTO リストに含まれる項目がデータベース・オブジェクトでした。INTO は、出力値を代入するユーザー定義の変数のリストを与えます。このため、INTO リストではデータベース・オブジェクトが指定できません。

処置：INTO リスト項目の綴りを確認してください。必要に応じて、INTO リストから項目を削除するか、ユーザー定義の出力変数に置き換えてください。

PLS-00388 副問合せの列 *string* が未定義です。

原因：副問合せに、指定された表に対して定義されていない列名が含まれています。

処置：式を変更して、定義された列を指定してください。

PLS-00389 このコンテキストでは、表またはビュー、別名の "*string*" は不適当です。

原因：通常（オブジェクト以外）の表に対応する表、ビューまたは別名 *name* が、不適切なコンテキストにあります。

処置：参照を削除するか、列参照としてコーディングする場合はそのように修正してください。

PLS-00390 INSERT 文の列 *string* が未定義です。

原因：INSERT 文に、定義されていない列名が含まれています。

処置：列名の綴りを確認し、定義済列のみを参照するように式を変更してください。

PLS-00391 UPDATE 文の列 *string* が未定義です。

原因：UPDATE 文が、更新される表またはビューで定義されていない列を参照しています。

処置：列名の綴りを確認し、定義済列のみを参照するように文を修正してください。

PLS-00392 BETWEEN 〜渡す引数の型が一致していません。

原因：X BETWEEN Y AND Z などの比較で、式 X、Y および Z のデータ型が一致しません。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：データ型が一致するように式を変更してください。データ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00393 SELECT...INTO 文の列の数が正しくありません。

原因：SELECT...INTO 文で選択された列数が、INTO 句の変数の数と一致しません。

処置：SELECT リストの中の列の数または INTO 句の中の変数の数を変更して、それらの数が一致するようにしてください。

PLS-00394 FETCH 文の INTO リストの値の数が正しくありません。

原因：FETCH 文の INTO 句に含まれる変数の数が、カーソル宣言の列の数と一致しません。

処置：INTO 句の変数または数かカーソル宣言の列の数を変更して、それらの数が一致するようにしてください。

PLS-00395 INSERT 文の VALUES 句の値の数が正しくありません。

原因：INSERT 文の列の数が、VALUES 句の値の数と一致しません。たとえば、次の文は、値 20 に対して列が指定されていないので不正です。

```
INSERT INTO emp (empno, ename) VALUES (7788, 'SCOTT', 20);
```

処置：列リストの項目の数または VALUES リストの項目の数を変更して、それらの数が一致するようにしてください。

PLS-00396 INSERT 文の副問合せの列の数が正しくありません。

原因：INSERT 文の列の数が、副問合せの SELECT リストの列の数と一致しません。たとえば、次の文は col3 に対応する列が指定されていないので不正です。

```
INSERT INTO emp (ename, empno)
SELECT col1, col2, col3
FROM ...
```

処置：INSERT 文の列リストの項目数または SELECT リストの項目の数を変更して、それらの数が一致するようにしてください。

PLS-00397 IN へ渡す引数の型が一致しません。

原因：X IN (Y,Z) などの集合のメンバーシップの検査で、式 X、Y および Z のデータ型が一致しません。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：データ型が一致するように式を変更してください。データ型変換関クションも使用できます。

PLS-00398 UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の数が正しくありません。

原因： UNION 式、INTERSECT 式または MINUS 式の左右の SELECT 句で選択されている列の数が違います。たとえば、次の文は SELECT リストの含む項目数が等しくないもので不正です。

```
CURSOR my_cur IS SELECT ename FROM emp
INTERSECT SELECT ename, empno FROM emp;
```

処置： 項目数が一致するように、SELECT リストを変更してください。

PLS-00399 UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の型が一致していません。

原因： UNION 式、INTERSECT 式または MINUS 式の左右の SELECT リストで、データ型が一致しない列が 1 つ以上選択されています。たとえば、次の文は定数 3 のデータ型が NUMBER であるのに対して、SYSDATE のデータ型は DATE なので不正です。

```
CURSOR my_cur IS SELECT 3 FROM emp
INTERSECT SELECT SYSDATE FROM emp;
```

処置： データ型に一致するように、SELECT リストを変更してください。1 つ以上の問合せの SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00400 カーソル SELECT 文と戻り値との列数が異なります。

原因： カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値の数が選択リストの項目の数と一致しません。

処置： カーソルの戻り型または SELECT リストを変更して、それらの数が一致するようにしてください。

PLS-00401 カーソル SELECT 文と 'string' にある戻り値との間で列の型が異っています。

原因： カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値のデータ型が、対応する SELECT リストの項目のデータ型と異なっています。

処置： カーソルの戻り型または SELECT リストを変更して、それらの型が一致するようにしてください。

PLS-00402 列名の重複を避けるためにはカーソルの SELECT リストに別名が必要です。

原因： 重複する列名を含む SELECT 文で SQL カーソルが宣言されています。この参照は、不明確です。

処置： SELECT リストで重複している列名を別名で置き換えてください。

PLS-00403 式 'string' は、SELECT/FETCH 文の INTO 部には記述できません。

原因：FETCH 文で、代入先が正しい形式の宣言された変数ではないために、INTO リストに含まれる代入先に値を代入できません。たとえば、'Jones' は文字列で、変数ではないため、次の代入は不正です。

```
FETCH my_cur INTO 'Jones';
```

処置：代入先の綴りと宣言を確認してください。変数名の作成規則に従っていることを確認してください。

PLS-00404 CURRENT OF で使用するにはカーソル 'string' を FOR UPDATE で宣言する必要があります。

原因：CURRENT OF cursor_name 句の使用は、cursor_name が FOR UPDATE 句で宣言された場合のみに有効です。

処置：カーソルの定義に FOR UPDATE 句を追加するか、CURRENT OF cursor_name 句を使用しないようにしてください。

PLS-00405 このコンテキストで副問合せはできません。

原因：不適切なコンテキストで副問合せが使用されました。次に例を示します。

```
if (SELECT deptno FROM emp WHERE ... ) = 20 then ...
```

副問合せは、SQL 文のみで使用できます。

処置：次のように、一時変数を使用してください。同じ結果が得られます。

```
SELECT deptno INTO temp_var FROM emp WHERE ...;  
IF temp_var = 20 THEN ...
```

PLS-00406 副問合せの SELECT リストの長さは割当てターゲット数と一致しなければなりません。

原因：問合せの SELECT リストの長さが、戻された値を受け取る代入先のリストの長さと一致しません。たとえば、次の文は副問合せが 2 つの値を戻すのに対して、代入先が 1 つであるため不正です。

```
UPDATE emp SET ename =  
(SELECT ename, empno FROM emp WHERE ename = 'SMITH') ...
```

処置：項目数が一致するように、リストの 1 つを変更してください。

PLS-00407 ここで '*' は使用できません。列リストが必要です。

原因：列名のリストの省略形としてアスタリスク (*) が使用されました。ただし、このコンテキストでは列名は明示的な指定が必要です。

処置：アスタリスクを列名のリストで置き換えてください。

PLS-00408 INSERT または UPDATE で、重複する列 '*string*' は許可されません。

原因: UPDATE 文または INSERT 文に、重複する列名がある列リストが含まれています。

処置: 列名の綴りを確認し、重複がないようにしてください。

PLS-00409 INTO リスト内で重複する変数 '*string*' は許可されません。

原因: SELECT 文または FETCH 文では、INTO リストで同じ変数を 2 度指定できません。

処置: 変数のいずれかを INTO リストから削除してください。

PLS-00410 RECORD または TABLE、引数リスト内で重複するフィールドは許可されません。

原因: ユーザー定義レコードを宣言するときに、2 つのフィールドに同じ名前を指定しました。データベース表の列名と同様、ユーザー定義レコードのフィールド名は一意である必要があります。

処置: フィールド名の綴りを確認し、重複しているものがあれば削除してください。

PLS-00411 集合と副問合せの値数が一致しません。

原因: 「集合＝副問合せ」形式の文で、集合の値の数と副問合せの値の数が一致していません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
... WHERE (10,20,30) = (SELECT empno,deptno FROM emp WHERE...);
```

処置: 値の数が一致するように、集合と副問合せを変更してください。

PLS-00412 値のリストは、この関数またはプロシージャへの引数にはできません。

原因: カンマで区切ってカッコで囲んだ値リスト（集合）が不適切なコンテキストで使用されました。たとえば、次の使用方法是不正です。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

ただし、等号は、左側と右側の引数として、それぞれ値のリストと副問合せをとることができます。したがって、次の使用方法是有効です。

```
WHERE (col1, col2) = (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

処置: 式を修正してください。次に例を示します。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

前述の句は、次のように書きなおすことができます。

```
WHERE col1 > (SELECT col3 FROM my_table ...) AND  
col2 > (SELECT col4 FROM my_table ...)
```

PLS-00413 CURRENT OF 句の識別子はカーソル名ではありません。

原因：CURRENT OF 句の識別子がカーソル以外のオブジェクトの名前です。

処置：識別子の綴りを確認してください。それが DELETE 文または UPDATE 文のカーソルの名前であることと、FOR ループ変数の名前ではなく、カーソル自体の名前であることを確認してください。

PLS-00414 表に列 'string' がありません。

原因：列の参照を修飾するために表の名前または別名が使用されましたが、表の中に列がありません。列が定義されていなかったか、列名の綴りに誤りがあります。

処置：列が定義されているかどうかを確認し、列名の綴りが正しいかどうかを調べてください。

PLS-00415 'string' は OUT パラメータなので関数では使用できません。

原因：関数の指定で OUT または IN OUT 仮パラメータが使用されました。

処置：パラメータを IN パラメータに変更してください。

PLS-00416 DECODE の第 3 引数は NULL にできません。

原因：DECODE の 3 番目の引数が NULL になっています。

処置：適切な型および値を指定した引数を入力してください。

PLS-00417 "string" は列として判別できません。

原因：SQL 文に指定されたデータベース表、ビューまたは列が存在しないか、表またはビューへのアクセスに必要な権限が付与されていません。

処置：表（またはビュー）および列の名前の綴りを確認してください。また、その表および列が存在していることを確認してください。必要に応じて、その表のアクセス権限をデータベース管理者に付与してもらってください。

PLS-00418 配列バインドの型は、PL/SQL 表の行の型と一致しなければなりません。

原因：ホスト配列は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、PL/SQL 表パラメータにバインドするため、PL/SQL サブプログラムに渡されました。ただし、配列要素のデータ型と PL/SQL 表の行に互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

処置：データ型に互換性があるように、配列要素または PL/SQL 表の行のデータ型を変更してください。

PLS-00419 リモート属性への参照は許可されません。

原因：リモート・カーソル属性を参照しようとしたますが、これは許可されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF SQL%NOTFOUND@newyork THEN ...
```

処置：リモート・カーソル属性は、参照しないでください。

PLS-00420 リモートでビルトイン・ルーチンをコールできません。

原因：ビルトイン PL/SQL ファンクションをリモートでコールしようとしたが、これは許可されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_sqlerrm := SQLERRM@newyork;
```

または

```
INSERT INTO emp VALUES (my_empno, STANDARD.RTRIM@newyork(my_ename), ...);
```

処置：ビルトイン・ファンクションは常にローカルでコールし、データベース・リンクは指定しないでください。

PLS-00421 シノニム定義のネストが深すぎます。シノニム内でループする可能性があります。

原因：直接的または間接的に、シノニムがそれ自体によって定義され、循環定義を作成しました。または、PL/SQL コンパイラが処理するには長すぎるシノニムの連鎖が定義されました。

処置：シノニムを再定義し、循環定義を削除してください。必要に応じて、シノニムの連鎖を短くしてください。

PLS-00422 このバインド変数にはバインド型用の PL/SQL 翻訳がありません。

原因：ホスト変数は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、バインドのため、PL/SQL に渡されました。ただし、そのデータ型は PL/SQL のデータ型と互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

処置：PL/SQL データ型と互換性があるように、ホスト変数のデータ型を変更してください。

PLS-00423 ORDER BY 項目は、SELECT リスト式の数でなければなりません。

原因：UNION、INTERSECT または MINUS 集合演算子を使用する SELECT 文の ORDER BY 句で、列の別名が使用されました。これは許可されていません。このような場合、ORDER BY 句の中の式は、SELECT リスト項目の元の位置を示す符号なし整数である必要があります。

処置：ORDER BY 句の別名を、問題のある SELECT リストの起点になる符号なし整数に変更してください。

PLS-00424 デフォルトの RPC にはパッケージ状態を組み込みません。

原因：デフォルトのパラメータが、パッケージ状態に依存するリモート・サブプログラムをコールしようとしたが、これは許可されません。リモート・サブプログラムをコールするには、たとえ対応する仮パラメータがパッケージ状態に依存する場合であっても、実パラメータを明示的に渡す必要があります。

処置：それぞれの実パラメータを明示的に渡して、リモート・サブプログラムをコールしてください。

PLS-00425 SQL では、関数の引数と戻りの型は SQL の型でなければなりません。

原因：ストアド関数が SQL 文からコールされたときに、誤った型のパラメータが渡されました。SQL 文からコールできるようにするには、ストアド関数がいくつかの要件を満たしている必要があります。そのうちの 1 つは、引数が SQL のデータ型（たとえば、CHAR、DATE、NUMBER など）を持っていることです。どの引数も、SQL 以外の型（たとえば、BOOLEAN、TABLE、RECORD など）を持つことはできません。

処置：関数コールの引数が、すべて SQL データ型かどうかを調べてください。

PLS-00426 cursor variable OUT parameter 'string' cannot be FETCH'ed or CLOSE'd

原因：カーソル変数を FETCH または CLOSE（あるいはその両方）するサブプログラム上の仮パラメータとしてそのカーソル変数が宣言されたときに、OUT パラメータ・モードが指定されました。これは許可されていません。このような場合、IN または IN OUT モードを指定する必要があります。

処置：パラメータ・モードを OUT から IN または IN OUT に変更してください。

PLS-00427 STANDARD のバージョンが異なる場合、RPC デフォルトはビルトインを使用できません。

原因：デフォルトのパラメータ値がビルトインを使用して計算されるリモート・サブプログラムをコールしようとしてしました。コール側のシステムが、コールされる側のシステムと異なるバージョンの STANDARD パッケージを使用している場合、デフォルトの式は、単純な数値リテラルか文字列リテラル、NULL、またはユーザー定義ファンクションへのダイレクト・コールである必要があります。

処置：それぞれの実パラメータ値を明示的に渡して、リモート・サブプログラムをコールしてください。

PLS-00428 INTO 句はこの SELECT 文に入ります。

原因：SELECT INTO 文の INTO 句が省略されました。たとえば、コードが次のようになっている可能性があります。

```
SELECT deptno, dname, loc FROM dept WHERE ...
```

正しくは次のとおりです。

```
SELECT deptno, dname, loc INTO dept_rec FROM dept WHERE ...
```

PL/SQL では副問合せのみが INTO 句なしで書かれます。

処置：必要な INTO 句を追加してください。

PLS-00429 RETURNING 句ではサポートされていない機能です。

原因: 原因は次のいずれかです。

- INTO 句と RETURNING 句は 1 つの文の中で併用することはできない。
- 現在、RETURNING 句は、オブジェクト型列、LONG 列、レコード、%rowtype、リモート表、および副問合せでの INSERT ではサポートされていない。

これは、ORA-28815 と同じです。

処置: 値を得るために異なる SELECT 文を使用してください。

PLS-00430 このコンテキストで FORALL 反復変数 *string* は使用できません。

原因: FORALL 反復変数は、サブスクリプトとしてのみ使用できます。式に直接または式の一部として使用できません。

処置: FORALL 反復変数は、コレクション・サブスクリプトとしてのみ使用してください。

PLS-00431 バルク SQL 属性では単一の索引を使用しなければなりません。

原因: 複数の索引がバルク SQL 属性へのアクセスに指定されました。

処置: 整数データ型の単一の索引を使用してください。

PLS-00432 実装上の制約 SELECT 文では FORALL と BULK COLLECT INTO を一緒に使用できません。

原因: SELECT 文に FORALL および BULK COLLECT INTO 句の両方が含まれてます。

処置: SELECT 文では FORALL および BULK COLLECT INTO を一緒に使用しないでください。

PLS-00433 パッケージ STANDARD が整合していません。

原因: PL/SQL コンパイラは、パッケージ STANDARD に存在するはずのエントリ（型宣言など）を見つけることができませんでした。

処置: 現行の Oracle データベースで正しいバージョンのパッケージ STANDARD が使用可能かどうかを確認し、再コンパイルしてください。

PLS-00434 レコード・フィールドにサポートされない型があります: "string"

原因: レコード・フィールドに対してサポートされていない型を使用しようとした。今回のリリースでは、レコード・フィールド内での SQL92 の日時型（時刻、タイムスタンプ、タイムゾーン付きの時刻、タイムゾーン付きのタイムスタンプ、月への間隔年および秒への間隔日）の使用はサポートされていません。

処置: レコード・フィールドにはサポートされた型のみを使用してください。

PLS-00435 BULK In-BIND のない DML 文は、FORALL 内で使用できません。

原因：FORALL 文内の DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) に、BULK IN-BIND 変数が含まれていません。

処置：FORALL 文内の DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) に、BULK IN-BIND 変数を指定してください。

PLS-00436 実装上の制約：BULK In-BIND 表でレコードのフィールドは参照できません。

原因：現在、table(bulk_index).field は、サポートされません。

処置：かわりに、FORALL DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) で、FOR ループを使用してください。

PLS-00437 FORALL バルク索引は *string* 句に使用できません。

原因：RETURNING 表 (bulk_index) は、サポートされません。

処置：かわりに、RETURNING BULK COLLECT を使用してください。

PLS-00438 LIMIT 句の値: '*string*' の使用は無効です。

原因：BULK FETCH の LIMIT 句の評価値が、不適切なコンテキストで見つかりました。たとえば、BULK FETCH の LIMIT 句は数値を想定しているので、次の文は無効です。

処置：評価結果が数値と互換性があるように、LIMIT 句の式を変更してください。

PLS-00439 LIMIT 句は必ず BULK FETCH 内で使用してください。

原因：BULK FETCH 以外で、LIMIT 句が使用されました。

処置：LIMIT 句は、BULK FETCH 以外で使わないでください。

PLS-00450 このプライベート型の変数は、ここで宣言できません。

原因：他のコンパイル・ユニットで PRIVATE として宣言されている型が、変数宣言で使用されています。

処置：この型を PRIVATE 変数宣言で使わないでください。

PLS-00451 リモート型は使用できません。

原因：定数または変数が宣言されたときに、リモート・ライブラリ・ユニットに定義されているデータ型が指定されました。これは許可されていません。

処置：ローカルで定義していないデータ型は、指定しないでください。

PLS-00452 サブプログラム '*string*' が対応付けられたプラグマに違反しています。

原因: パッケージ仕様部に RESTRICT_REFERENCES プラグマをコーディングして純粋度を宣言しないかぎり、SQL 文からパッケージ・ファンクションをコールすることはできません。副作用を制御するために使用されるプラグマは、データベース表またはパブリック・パッケージ変数（あるいはその両方）へのパッケージ・ファンクションの読み込み / 書き込みアクセスを拒否するように PL/SQL コンパイラに指示します。プラグマに違反している SQL 文をコーディングすると、コンパイル・エラーが発生します。

処置: ファンクションの純粋度を高めるか、プラグマの制約を少なくしてください。

PLS-00453 オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されません。

原因: リモート・オブジェクト表またはユーザー定義型の列への参照が見つかりました。

処置: 参照しないでください。

PLS-00454 句に復帰する場合、表の式はリモートまたは副問合せにはできません。

原因: リモート表や副問合せへの参照が RETURNING INTO 句を持つ SQL 文で見つかりました。

処置: それへ参照しないか、後続の SELECT 文を使用してください。

PLS-00455 動的 SQL OPEN 文ではカーソル '*string*' は使用できません。

原因: RETURN 型を持つ REF CURSOR が動的にオープンされました。ただし、埋込み動的 OPEN 文でオープンできるのは、RETURN 型を持たない REF CURSOR のみです。

処置: RETURN 型を持たない REF CURSOR を定義し、この文で使用してください。

PLS-00456 項目 '*string*' はカーソルではありません。

原因: 指定された変数はカーソルではないため、OPEN または FETCH できません。

処置: 指定された変数の綴りと宣言を確認してください。

PLS-00457 式は必ず SQL 型にしてください。

原因: USING 句または動的 RETURNING 句にある式の型が誤っています。USING 句または動的 RETURNING 句では、式の型が BOOLEAN、INDEX TABLE、RECORD などの SQL 以外の型であってははいけません。

処置: 式の型を SQL 型に変更してください。

PLS-00458 サブプログラム '*string*' は REPEATABLE サブプログラムからコールできません。

原因: サブプログラムが REPEATABLE ではなく、REPEATABLE サブプログラムからコールできません。

処置: コールまたは REPEATABLE を削除してください。

PLS-00459 この機能は REPEATABLE サブプログラムでは使用できません。

原因：動的 SQL 文または自律型トランザクションの機能の 1 つが、REPEATABLE サブプログラムで指定されました。

処置：文または REPEATABLE を削除してください。

PLS-00460 REPEATABLE サブプログラム 'string' は RNDS、WNDS、RNPS および WNPS でなければなりません。

原因：REPEATABLE サブプログラムは、データベース状態の読み込み (RNDS)、データベース状態の書き込み (WNDS)、パッケージ状態の読み込み (RNPS) またはパッケージ状態の書き込み (WNPS) のいずれも実行できません。

処置：サブプログラムを RNDS、WNDS、RNPS および WNPS にするか、または REPEATABLE を削除してください。

PLS-00461 'string' の仕様部と本体の間で REPEATABLE 情報が一致していません。

原因：REPEATABLE がサブプログラムの仕様部で宣言されましたが、本体では宣言されていません。または、その逆です。

処置：仕様部と本体の両方が REPEATABLE で宣言されていることを確認してください。

PLS-00462 ネストされたサブプログラム 'string' は REPEATABLE でなければなりません。

原因：REPEATABLE サブプログラムのネストされたサブプログラムが、REPEATABLE として宣言されていません。サブプログラムが REPEATABLE の場合、このネストされたすべてのサブプログラムは REPEATABLE として宣言する必要があります。

処置：ネストされたサブプログラムを REPEATABLE として宣言してください。

PLS-00483 例外 'string' は、このブロックの例外ハンドラで 1 度しか発生しない可能性があります。

原因：PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの例外処理部で、同じ例外が 2 つの WHEN 句 (つまり 2 つの異なる例外ハンドラ) で指定されています。

処置：例外への参照のうちのいずれかを削除してください。

PLS-00484 不要な例外 'string' と 'string' が同一の例外ハンドラで発生する可能性があります。

原因：EXCEPTION_INIT プラグマが使用され、異なる例外が同じ Oracle エラー番号に初期化されています。その後、同一の例外処理部内の別の例外ハンドラで参照されました。このような参照は競合します。

処置：例外の 1 つを削除するか、例外を別の Oracle エラー番号に初期化してください。

PLS-00485 例外ハンドラでは、'string' は例外名でなければなりません。

原因：例外ハンドラの WHEN 句に、例外として宣言されていない識別子が指定されています。WHEN 句では例外の名前のみを使用できます。

処置：例外名の綴りを確認し、例外が正しく宣言されているかどうかを確認してください。

PLS-00486 選択リストはカッコで囲えません。

原因：SELECT 文で、SELECT リストが次のようにカッコで囲まれています。

```
SELECT (deptno, dname, loc) FROM dept INTO ...
```

これは SQL の構文規則に反しています。キーワード SELECT と FROM は SELECT リストの範囲を定めるので、カッコは必要ありません。

処置：SELECT リストを囲んでいるカッコを削除してください。

PLS-00487 変数 'string' への参照が無効です。

原因：変数への参照がデータ型と矛盾しています。たとえば、次のようにスカラー変数を誤ってレコードとして参照した可能性があります。

```
DECLARE
CURSOR emp_cur IS SELECT empno, ename, sal FROM emp;
emp_rec emp_cur%ROWTYPE;
my_sal  NUMBER(7,2);
BEGIN   ...   total_sal := total_sal + my_sal.sal;  -- invalid ...
```

処置：変数名の綴りを確認してください。変数が正しく宣言されたことと、宣言と参照のデータ型に矛盾がないことを確認してください。

PLS-00488 変数宣言が無効です。オブジェクト 'string' は型またはサブタイプでなければなりません。

原因：変数宣言の中の型指定子が正しい型またはサブタイプを示していません。たとえば、次のように、%TYPE 属性が宣言に追加されていない可能性があります。

```
DECLARE
my_sal  emp.sal%TYPE;
my_ename emp.ename;   -- missing %TYPE ...
```

定数または変数を宣言するときに、列のデータ型を自動的に与えるためには %TYPE 属性を使用してください。同様に、レコードの宣言で、行のデータ型を自動的に与えるときにも、%ROWTYPE 属性を使用してください。

処置：データ型指定子が正しい型を示していることを確認してください。必要に応じて、%TYPE 属性と %ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00489 表参照が無効です。'string' はこの式にある列でなければなりません。

原因：問合せで SELECT リスト項目が FROM 句の表を参照しましたが、データベース列ではありませんでした。

処置：列名の綴りおよび SELECT リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00490 文が不適切です。

原因：文が想定されている箇所に、定数、変数、ファンクション・コール、不完全な文が使用されました。たとえば、式からファンクションをコールするかわりに、ファンクションが（プロシージャのように）文としてコールされた可能性があります。

処置：コマンド、識別子、演算子、デリミタ、終了記号が、完全で有効な PL/SQL 文を構成しているかどうか、文を調べてください。

PLS-00491 数値リテラルが必要です。

原因：数値リテラルが必要な箇所に、定数または変数が使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_ename VARCHAR2(max_len);
```

正しくは次のとおりです。

```
my_ename VARCHAR2(15);
```

VARCHAR2 の変数の最大長を指定するときには、整数リテラルを使用する必要があります。

処置：識別子を数値リテラルで置き換えてください。

PLS-00492 変数または定数の初期化が、同一パッケージ内に宣言した関数で参照されない可能性があります。

原因：パッケージ仕様部 p で関数 f が宣言されている場合、同一パッケージ仕様部の変数宣言でその関数は使用できません。これは循環インスタンスーションの問題によるものです。パッケージ仕様部を完全にインスタンスーションするために、変数を初期化する必要があります。変数を初期化するには、パッケージ本体中の関数本体のコードを実行する必要があります。そのためには、パッケージ本体をインスタンスーションする必要があります。ただし、パッケージ仕様部が完全にインスタンスーションされないとパッケージ本体はインスタンスーションできません。

処置：変数の初期化から関数に対する参照を削除してください。一般的に有効な方法は、パッケージ仕様部の変数宣言からパッケージ本体の初期化ブロックに変数の初期化を移動する方法です。

PLS-00493 ローカル・コンテキスト内のサーバー側オブジェクトまたは機能への参照が無効です。

原因: PL/SQL オブジェクトのみが存在できるコンテキストで（ローカル関数のパラメータ・リスト内や、（ローカル） PL/SQL 表の索引としてなど）、サーバー側オブジェクトに対する参照（たとえば、表列）または関数（SUM、AVG、MIN、MAX などのグループ関数）が見つかりました。

処置: 違反している文を書きなおすか、または（ローカル関数コールが問題のコンテキストである場合は）関数を非ローカルにしてください（パッケージ化されたまたはトップレベルの状態）。

PLS-00494 複数レコード・ターゲットへの強制はサポートされません。

原因: SELECT または FETCH の INTO リストで複数のレコード型ターゲットが指定されており、列型を INTO リストに一致させるためにレコードへの強制が必要です。これは型チェックでは正しいですが、まだサポートされていません。

処置: 列型がすべて入る新しいレコード型を作成するか、各ソース列に INTO ターゲットのある SELECT をコーディングしてください。

PLS-00495 レコード・ターゲットを切離し後の SELECT...INTO 文で列数が多すぎます。

原因: 型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードは、フィールド内にバーストされます。各列に対してレコード内のフィールドが足りません。

処置: INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00496 レコード・ターゲットを切離し後の SELECT...INTO 文で列数が少なすぎます。

原因: 型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードは、フィールド内にバーストされます。レコード内のすべてのフィールドを格納できるだけの列がありません。

処置: INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00497 INTO リスト内で単一行と複数行（BULK）は混在できません。

原因: 原因は次のいずれかです。

- BULK 構文（たとえば、BULK COLLECT INTO）を使用してデータを取り出す場合、INTO リスト内のすべての変数の型は、対応する列の型のコレクションである必要がある。
- BULK を使用しない場合、INTO リストのすべての変数の型は、対応する列と互換性がある必要がある。

処置: すべての変数のデータ型が正しくなるように、INTO リストを変更してください。

PLS-00498 宣言する前の型の使用方法が無効です。

原因：コンパイル・ユニットの後の方で宣言される型の変数または定数が宣言されたか、またはコンパイル・ユニットの後の方で宣言される型を親とする型またはサブタイプが宣言されました。

処置：型の宣言が、変数 / 定数 / 型宣言の使用に先立って行われていることを確認してください。

PLS-00499 コレクション・レコードへの強制はサポートされません。

原因：SELECT または FETCH で、列リストをレコードのコレクションである変数に強制する指定をしています。これは型チェックでは正しいですが、暗黙的なレイアウト変更が必要であるため、まだサポートされていません。

処置：列の周囲にオブジェクト・コンストラクタのある SELECT を使用するか、INTO 変数としてオブジェクトのコレクションを使用してください。または、1 度に 1 行ずつ各行をレコードに強制し、そのレコードが要素となるコレクションを作成します。または、コレクション・レコードを使用します。

PLS-00500 オペレータ・バインディングが無効です。

原因：オペレータ・バインディング関数が、指定した有効範囲内で見つかりません。

処置：オペレータ・バインディング関数に、正しい数および型のパラメータを指定してください。または、オペレータ・バインディング関数を含むスキーマ、パッケージまたは型に正しい名前を指定してください。

PLS-00503 この関数からの復帰には RETURN *value* 文が必要です。

原因：関数本体で、式が含まれていない RETURN 文が使用されました。プロシージャ内の RETURN 文は制御を呼出し元へ戻すのみであるため、この文には式は含まれません。ただし、関数内の RETURN 文は式を含んでいる必要があります。これは、その値が関数識別子に代入されるためです。

処置：RETURN 文に式を追加してください。

PLS-00504 *string_BASE* 型は、STANDARD パッケージ外では使用されない可能性があります。

原因：宣言で、誤って、たとえば NUMBER_BASE データ型が指定されました。CHAR_BASE、DATE_BASE、MLSLABEL_BASE および NUMBER_BASE のデータ型は内部のみで使用されます。

処置：たとえば、NUMBER_BASE 型のかわりに NUMBER 型を指定してください。

PLS-00505 ユーザー定義型は、PL/SQL の表またはレコードとしてのみ定義されている可能性があります。

原因: TABLE または RECORD 以外の型を定義しようとしたが、PL/SQL の今回のリリースでは、ユーザー定義型のみが許可されています。たとえば、次の型定義は無効です。

```
TYPE Byte IS INTEGER(2); -- illegal
```

処置: 型定義を削除するか、TABLE または RECORD 型を指定するように型定義を修正してください。

PLS-00506 サブタイプ制約のあるユーザー定義は使用できません。

原因: 制約サブタイプを定義しようとしたが、PL/SQL の今回のリリースで許可されるのは、無制約サブタイプのみです。たとえば、次の型定義は無効です。

```
SUBTYPE Acronym IS VARCHAR2(5); -- illegal
```

処置: 無効な型制約を削除してください。

PLS-00507 PL/SQL 表には、コンポジット・フィールドを使用する表またはレコードを組み込めません。

原因: TABLE 型の定義で、ネストしたレコード型が要素型として指定されました。これは許可されていません。レコード内のすべてのフィールドは、スカラーである必要があります。

処置: TABLE 型定義を削除するか、ネストしたレコード型を単純なレコード型に置き換えてください。

PLS-00508 RETURN 文の式は型にできません。

原因: 次の例に示すように、ユーザー定義関クションの RETURN 文で、式ではなくデータ型指定子が使用されました。RETURN 文と RETURN 句を混同しないでください。RETURN 文は、結果値にファンクション識別子を設定し、RETURN 句は結果値のデータ型を指定します。

```
FUNCTION credit-rating (acct_no NUMBER) RETURN BOOLEAN IS
BEGIN ... RETURN NUMBER; -- should be an expression
END;
```

処置: RETURN 文のデータ型指定子を適切な式で置き換えてください。

PLS-00509 実装上の制約: フィールドの選択前に戻しレコードを一時識別子に渡してください。

原因: 1つのレコードまたは複数のレコードの PL/SQL 表を戻すパラメータなしの関クションのコールで、誤った構文が使用されました。パラメータが必要で、レコードを戻す関クションのコールでは、次の構文を使用してレコード内のフィールドを参照します。

```
function_name(parameters).field_name
```

ただし、PL/SQL では空のパラメータ・リストを使用できないため、前述の構文を使用してパラメータなしの関クションをコールできません。つまり、次のような構文は無効です。

```
function_name().field_name -- illegal; empty parameter list
```

次のような構文も無効になるため、空のパラメータ・リストは削除できません。

```
function_name.field_name -- illegal; no parameter list
```

処置: ローカル・レコードまたは関クションの結果を割り当てるレコードの PL/SQL 表を宣言して、そのフィールドを直接参照してください。

PLS-00510 浮動小数点が位取りできません。

原因: 次の例で示されているように、FLOAT 変数を宣言するときに、その精度と有効範囲が指定されました。

```
DECLARE
Salary FLOAT(7,2);
```

ただし、次のように、FLOAT 変数の有効範囲は指定できません。指定できるのは、精度のみです。

```
salary FLOAT(7);
```

処置: 宣言から有効範囲指定子を削除するか、NUMBER 変数を宣言してください。

PLS-00511 レコードを PL/SQL 表に組み込めません。

原因: RECORD 定義で、1つのフィールドが複数のレコードの PL/SQL 表として宣言されました。これは許可されていません。あるレコードが別のレコードの構成要素になる（レコードをネストする）ことはできますが、複数のレコードの PL/SQL 表が1つのレコードの構成要素になることはできません。

処置: フィールド宣言を削除するか、単純なレコード型を指定して宣言を修正してください。

PLS-00512 実装上の制限: 'string': リモート・パッケージ変数またはカーソルには直接アクセスできません。

原因: リモート・パッケージ変数またはカーソルを参照しようとしていました。これは許可されていません。そのかわりに、リモート・パッケージ変数またはカーソルの値を戻すファンクションをリモート・パッケージに追加してください。

処置: 無効な参照を削除してください。

PLS-00513 SQL からコールされた PL/SQL 関数には、有効な SQL 型の戻り値が必要です。

原因: SQL 文で、SQL で処理できない戻り型を持つ PL/SQL 関数がコールされました。たとえば、BOOLEAN 型、レコード、および索引付き表は SQL ではサポートされていないので、このような値を戻す関数は、SQL からコールできません。

処置: 戻された型を変更し、操作を再試行してください。

PLS-00514 REF INTO 句を使用する INSERT 文には特定の型の表が必要です。

原因: INSERT 文に REF INTO 句が指定されています。これは、INTO 句に指定されている表がオブジェクト型である場合のみ有効です。

処置: REF INTO 句を削除して、操作を再試行してください。

PLS-00515 REF INTO 変数 'string' の型は、表の型への REF でなければなりません。

原因: REF INTO 句を指定した INSERT 文では、データ項目の型は、INTO 句で使用される表の型の REF である必要があります。

処置: 適切な型の変数または列を使用してください。

PLS-00516 オブジェクト表と INSERT 文の変数 'string' の型が不一致です。

原因: 一定の型の表（オブジェクトの表）を操作する INSERT 文で、非集合値の型が表のオブジェクト型と一致していません。

処置: 適切な型の値を指定してください。

PLS-00517 選択リスト要素 'string' と副問合せの INSERT 文にある対応する表の列との間で型が不一致です。

原因: 副問合せを指定した INSERT 文で、SELECT リストの 1 つ以上の要素が、INTO 句の対応する表の列と型の互換性がありません。このエラーは、副問合せをターゲット表の構造と一致するように書きなおす必要があることを示しています。

処置: SELECT リストの要素に互換性のある型を指定してください。

PLS-00518 この INSERT 文には、カッコで囲んだ LOV を含む VALUES 句が必要です。

原因: カッコで囲んだ SQL データ項目のリストを指定しないで VALUES 句が入力されました。明示的な列リストを指定したすべての INSERT 文では、VALUES 句の中にカッコで囲んだ SQL データ項目のリストを含める必要があります。次に例を示します。

```
INSERT INTO my_tab (a,b,c) VALUES (1,2,my_variable);
```

処置: 文を書きなおして SQL データ項目のリストをカッコで囲んでください。

PLS-00519 この INSERT 文には、LOV ではなくオブジェクト型の式を含む VALUES 句が必要です。

原因：一定の型の表を指定した INSERT 文で、オブジェクト型の項目が必要な箇所に集計が使用されています。

処置：集計をオブジェクト・コンストラクタまたはその他のオブジェクト型の式に置き換えてください。

PLS-00520 MAP メソッドは、(オプションの) SELF 以外はパラメータなしの宣言でなければなりません。

原因：パラメータを指定して MAP メンバー・ファンクションが宣言されました。MAP メンバー・ファンクションで指定できるのは、デフォルトの SELF パラメータのみです。MAP メソッドを宣言する場合は、パラメータはいっさい指定できません。コンパイラによって SELF パラメータが追加されます。

処置：MAP メンバー・ファンクションからパラメータを削除してください。

PLS-00521 ORDER メソッドは、(オプションの) SELF に加え、1 つ以上のパラメータを使用して宣言する必要があります。

原因：ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには 2 つのパラメータがあります。1 つはデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。もう 1 つのパラメータはユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型で ORDER メソッドを宣言する必要があります。

処置：パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00522 MAP メソッドはスカラー型で戻る必要があります。

原因：MAP メンバー・ファンクションが、スカラー型以外の型を戻すように書かれています。

処置：スカラー型を戻すように MAP ファンクションを書きなおしてください。

PLS-00523 ORDER メソッドは INTEGER で戻る必要があります。

原因：ORDER メンバー・ファンクションが整数型以外の型を戻すように書かれています。

処置：整数型を戻すように ORDER メソッドを書きなおしてください。

PLS-00524 ORDER メソッドのパラメータの型は、オブジェクト型に組み込まれている必要があります。

原因：ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには 2 つのパラメータがあります。1 つはデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。もう 1 つのパラメータはユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型で ORDER メソッドを宣言する必要があります。

処置：パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00525 SQL 文では、オブジェクトをマップまたは順序の関数を使用せずに等価比較のみできます。

原因: 関係比較用の MAP または ORDER 関数が指定されていません。MAP または ORDER 関数を指定しない場合、使用できるのは等値比較のみです。

処置: オブジェクトに MAP または ORDER 関数を指定してください。そうしない場合は、等値比較のみを使用するようにプログラムを変更してください。

PLS-00526 PL/SQL で MAP または ORDER 関数には比較オブジェクトが必要です。

原因: スタンドアロンの PL/SQL 内部で、MAP または ORDER 関数を指定せずにオブジェクトを比較しようとした。

処置: MAP または ORDER 関数を指定して操作を再試行してください。

PLS-00527 MAP または ORDER 関数には、WNDS または WNPS、RNPS、RNDS を指定する PRAGMA RESTRICT_REFERENCES が必要です。

原因: プラグマ RESTRICT_REFERENCES を指定していないか、または WNDS、WNPS、RNPS、RNDS のいずれか 1 つを指定していません。

処置: プラグマを追加または修正して、操作を再試行してください。

PLS-00528 ORDER 関数へのパラメータは、IN モードでなければなりません。

原因: ORDER 関数のパラメータを、OUT または IN OUT モードとして宣言しました。

処置: IN モードのみを使用するようにパラメータを修正してください。

PLS-00529 INSERT 文に不正な列名 'string' があります (識別子でなければなりません)。

原因: INSERT 文で、識別子ではない列名を使用しようとした。明示的な列リストを指定した INSERT 文では、列名は単純な識別子である必要があります。

処置: 列名に単純な識別子を使用して、INSERT 文を書きなおしてください。

PLS-00530 オブジェクト型の属性に無効な型が使用されています: 'string'。

原因: オブジェクトの型属性に、無効な型が使用されました。

処置: オブジェクト型属性に対してサポートされている型のみを使用してください。

PLS-00531 VARRAY または TABLE 型でサポートされない型です: 'string'。

原因: VARRAY または TABLE 型にサポートされていない型が使用されました。

処置: VARRAY または TABLE 型でサポートされている型のみを使用してください。

PLS-00532 REF のターゲットは、完全または不完全なオブジェクト型でなければなりません。

原因: REF のターゲットは、完全または不完全なオブジェクト型のみです。

処置: REF を使用する場合は、型を変更してください。そうでない場合は、REF を削除してください。

PLS-00533 non_queryable 型の表はサポートされません。

原因：問合せ不能な型の表が作成されました。このような型の表はサポートされません。

処置：問合せ不能な型を含むオブジェクト型を作成してください。次に、そのオブジェクト型で構成されている表を作成してください。

PLS-00534 表の型には、NESTED TABLE の型または VARRAY は組み込みません。

原因：ネストしたコレクション型を含む表型を定義しようとしたか、または（おそらくネストした）別の表型または VARRAY 型を持つオブジェクト表を定義しようとした。

処置：表定義に NESTED TABLE または VARRAY が含まれていないことを確認してください。

PLS-00535 VARRAY 型には、NESTED TABLE または VARRAY、LOB は組み込みません。

原因：ネストしたコレクション型または LOB を含む VARRAY 型を定義しようとしたか、または、NESTED TABLE、VARRAY または LOB 型のいずれかのネストした属性を持つオブジェクト型の VARRAY 型を定義しようとした。

処置：VARRAY 定義にネストしたコレクション型、LOB またはネストした属性を含んでいないことを確認してください。

PLS-00536 REF 変数によるナビゲーションは、PL/SQL でサポートされません。

原因：REFVAR.FIELD 形式の式が入力されました。これは、このバージョンの PL/SQL ではサポートされません。

処置：このナビゲーションは、データベース・オブジェクトの場合のみサポートされません。REF 変数を使用すると、同じ型のデータベース列に挿入したり、そこから選択できます。ただし、REF 変数を使用してナビゲーションはできません。ナビゲーションを削除してください。

PLS-00537 VARRAY には正数の制限が必要です。

原因：VARRAY 型が正数以外の制限で宣言されました。たとえば、VARRAY(0)。

処置：正数の制限を指定して VARRAY を宣言し、操作を再試行してください。

PLS-00538 サブプログラムまたはカーソル 'string' は、オブジェクト型指定で宣言されており、オブジェクト型本体での定義が必要です。

原因：指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の仕様部で宣言されていますが、オブジェクト型本体で定義されていません。

処置：オブジェクト型本体にサブプログラムを定義するか、仕様部から宣言を削除してください。

PLS-00539 サブプログラム 'string' はオブジェクト型本体で宣言されており、オブジェクト型指定での定義が必要です。

原因: 指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の本体で宣言されましたが、オブジェクト型の仕様部で定義されていません。カーソル本体は仕様部がなくても存在できることに注意してください。

処置: オブジェクト型の仕様部にサブプログラムを宣言するか、本体から宣言を削除してください。

PLS-00540 オブジェクトはこのコンテキストでサポートされません。

原因: ローカル有効範囲（ファンクション、プロシージャまたは無名ブロック）の内側またはパッケージ有効範囲内でオブジェクトが宣言されましたが、これはサポートされていません。

処置: グローバルまたはデータベースの有効範囲内で型を宣言してください。

PLS-00541 指定したサイズまたは長さが大きすぎます。

原因: データ項目に指定されたサイズまたは長さが大きすぎます。

処置: 指定する値を小さくして、操作を再試行してください。

PLS-00542 CLOB および NCLOB は、サーバーの可変幅キャラクタ・セットを使用できません。

原因: 可変幅のキャラクタ・セットが使用される埋込み CLOB または NCLOB 属性でサーバー型が作成されました。

処置: CLOB ではなく VARCHAR2 を使用するか、固定幅のキャラクタ・セットを使用してください。

PLS-00543 PL/SQL 表には、NESTED TABLE の型または VARRAY を組み込みません。

原因: NESTED TABLE の型または VARRAY を含む PL/SQL 表を定義しようとしてしました。ネストしたコレクション型は、サポートされていません。

処置: 表から NESTED TABLE の型または VARRAY を削除して、操作を再試行してください。

PLS-00546 SELF は REF パラメータとして宣言できません。

原因: メンバー・ファンクションまたはプロシージャに対し、SELF が REF パラメータとして宣言されました。SELF は REF としてサポートされていません。

処置: 値パラメータとして SELF を再度宣言してください。

PLS-00548 オペレータの使用方法が無効です。

原因: オペレータ名が修飾子として使用されているか、SQL コンテキストの外側にあります。

処置: オペレータ名を修飾子として使用しないか、SQL 句内に入れてください。

PLS-00550 キャラクタ・セット仕様部は、この型にできません。

原因: 必要のない型でキャラクタ・セット仕様部が作成されました。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、型を変更してください。

PLS-00551 キャラクタ・セット ANY_CS は、サブプログラム・パラメータのみで使用できません。

原因: キャラクタ・セット ANY_CS が指定されましたが、これは無効です。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00552 フレキシブル・キャラクタ・セットは、コンポーネント要素で使用できません。

原因: ANY_CS または %CHARSET が ANY_CS パラメータへの参照に使用されましたが、このパラメータは、CHAR、VARCHAR2 または CLOB 型ではありません。ANY_CS または %CHARSET は、レコードのフィールド、オブジェクト、コレクションの要素などには使用できません。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00553 キャラクタ・セット名が認識されません。

原因: キャラクタ・セット仕様部に、認識できない名前があります。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00554 キャラクタ・セットはすでに判別されています。

原因: 冗長なキャラクタ・セットまたは矛盾しているキャラクタ・セットが指定されました。

処置: CHARACTER SET の仕様部を削除するか、指定されたキャラクタ・セットを変更してください。

PLS-00555 SQL オペレータではデフォルトの式は使用できません。

原因: デフォルトの式が SQL オペレータに指定されています。

処置: オペレータからデフォルトの式を削除してください。

PLS-00560 キャラクタ・セットが一致しません。

原因: このコンテキストに不適切なキャラクタ・セットを含む式が使用されました。

処置: TRANSLATE(... USING ...) を使用するか、またはロジックを再度考えて式を調整してください。

PLS-00561 パラメータ 'string' の値でキャラクタ・セットが一致しません。

原因: 不適切なキャラクタ・セットを含む式が使用されました。実際の引数でキャラクタ・セットが矛盾しています。デフォルトの引数値が使用される場合、同じキャラクタ・セットを指定する必要がある実際の引数が矛盾している可能性があります。

処置: TRANSLATE(... USING ...) を使用するか、またはキャラクタ・セットを変更して式を調整してください。

PLS-00562 関数は型を戻さなければなりません。

原因: 現在の関数は、データ型以外のものを戻すように定義されています。

処置: 関数がデータ型を戻すように修正してください。

PLS-00563 CAST 式の使用方法が正しくありません。

原因: CAST (PL/SQL 内の) が DML 有効範囲の外側で使用されました。

処置: DML 文の外側で CAST を使用しないでください。

PLS-00564 LOB 引数はリモート・サーバーへのコールでは許可されていません。

原因: リモート・サーバーへのコールで、LOB 引数を使用しました。

処置: リモート・サーバーへのコールで、LOB 引数を使用しないでください。

PLS-00565 *string* は、潜在的な REF ターゲット (オブジェクト型) として完了する必要があります。

原因: REF 依存性の潜在的なターゲットになる不完全なライブラリ・ユニットは、REF 依存性のターゲットの候補になるように、完成する必要があります (このライブラリ・ユニットで REF 依存性を持つライブラリ・ユニットになるため)。REF ターゲットの候補には、完全なオブジェクト型と不完全なオブジェクト型があります。このエラーは、REF ターゲットの候補以外のものとして REF ターゲットの候補を完成させようとすると、発生します。

処置: このライブラリ・ユニットに別の名前を使用するか、元の不完全なライブラリ・ユニットを削除してください。

PLS-00566 型名 "*string*" は制約付きにできません。

原因: LOB、DATE、BOOLEAN、ROWID または MLSLABEL 型が長さで制約を受けました。次に例を示します。

```
X BLOB (5);
```

処置: 制約を削除してください。

PLS-00567 NOT NULL 制約付きの仮パラメータに NULL は渡せません。

原因: NULL を NOT NULL 制約付きのパラメータに渡そうとしました。

処置: かわりに NOT NULL 式を渡してください。

PLS-00568 ネストされていない表項目の行にはアクセスできません。

原因: ネストされていない表から TABLE 式を使用しようとしてしました。

処置: 正しいパラメータを渡してください。

PLS-00569 数値のオーバーフローまたはアンダーフローです。

原因: 定数リテラルが大きすぎるかまたは小さすぎて、Oracle 番号を格納できません。

処置: リテラルの値を変更してください。

PLS-00570 MULTISSET 式と CAST 式の列数が異なります。

原因：MULTISSET で戻されたコレクション内の列数が CAST 型の列数と一致しません。次に例を示します。

```
create type tab_obj as object (n number);  
create type tab1 as table of tab_obj;  
create table tab2 (col1 number, col2 number);  
select CAST(MULTISSET(select col1, col2 from tab2) as tab1) from tab2;
```

処置：列数が一致していることを確認してください。

PLS-00571 クライアント側でデータベース・リンク経由のアクセス方法がまだサポートされていません。

原因：クライアント側でリモート・リンクが使用されています。

処置：サーバー側でシンボリック・リンクをコールするダミー関数を作成するか、またはクライアント側でのリモート・リンクが実装されるまで待ってください。

PLS-00572 不適切な制約フォームが使用されています。

原因：番号型には範囲を指定できません。ユーザー定義の集計型および整数型には位取りまたは精度を指定できません。たとえば、「x number(5,3)」は有効ですが、「x number range 1..10」は無効です。

処置：制約を削除してください。

PLS-00573 アンカー型宣言のスケールまたは精度、範囲は制約できません。

原因：%TYPE または %ROWTYPE で宣言された変数には、位取り、精度または範囲の制約を指定できません。たとえば、x y%TYPE(10) は無効です。「NOT NULL」または矛盾していない CHARACTER SET 制約は、アンカー型宣言に追加できます。

処置：制約を削除するか、アンカー型のかわりに型名を使用してください。

PLS-00580 スーパータイプはオブジェクト型でなければなりません。

原因：オブジェクト型を宣言してスーパータイプを指定しようとしたましたが、指定したスーパータイプ自体がオブジェクト型ではありませんでした。オブジェクト型はその他のオブジェクト型からのみ継承できます。

処置：スーパータイプの指定を削除するか、オブジェクト型を参照するように変更してください。宣言が正しい場合は、スーパータイプが正しくコンパイルされたかどうかを確認してください。

PLS-00581 不透明型に対して継承はサポートされていません。

原因：スーパータイプで不透明型を宣言しようとした。

処置：スーパータイプの指定を削除してください。

PLS-00582 不透明型では属性の宣言はできません。

原因: 不透明型で属性を宣言しようとしてしました。

処置: 属性の宣言を削除してください。

PLS-00583 不透明型が固定長の場合、サイズを指定しなければなりません。

原因: 明示的なサイズを指定しないで、固定長の不透明型を宣言しようとしてしました。

処置: 明示的なサイズを指定するか、宣言を可変長に変更してください。

PLS-00584 不透明型のサイズは 1 から 4000 バイトの間でなければなりません。

原因: 不透明型の明示的なサイズを指定しようとしてしましたが、指定したサイズは有効な範囲外でした。

処置: 明示的なサイズを 1 ～ 4000 バイトの範囲内の値に変更するか、宣言を明示的なサイズを指定しない可変長に変更してください。

PLS-00585 不透明型に対して宣言されたサポート・ライブラリはライブラリではありません。

原因: 不透明型のサポート・ライブラリに名前を付けようとしてしましたが、ライブラリではないオブジェクトを参照する名前でした。

処置: 宣言を変更して有効なライブラリの名前を付けてください。

PLS-00586 静的メソッドでは SELF と名づけられたパラメータは宣言できません。

原因: 静的メソッドを宣言した場合にパラメータに SELF と名前を付けようとしてしました。SELF はメソッド内のパラメータ名として予約されており、メソッドが適用されるオブジェクト・インスタンスを保持します。静的メソッドは特定のオブジェクト・インスタンスには適用されないため、SELF という名前のパラメータは静的メソッドでは許可されません。

処置: 宣言でのパラメータ名を変更してください。

PLS-00587 インスタンス値では静的メソッドを起動できません。

原因: メソッド起動の名前の修飾子として、型名ではなくオブジェクト・インスタンス値を使用しようとしてしましたが、静的メソッドをコールする場合に修飾子として使用できるのは型名のみです。

処置: メソッドが静的な場合にメソッド名を修飾するには、オブジェクト・インスタンス値ではなく型名を使用してください。

PLS-00588 未修飾のインスタンス属性参照はメンバー・メソッドのみで使用可能です。

原因: オブジェクト・インスタンス属性の名前を、静的メソッドの本体または別の属性の初期化デフォルト値で使用しようとしてしました。インスタンス属性が、値を指定する特定のオブジェクト・インスタンスで修飾されていない場合、インスタンス属性がメンバー・メソッド内部にあるときのみインスタンス属性に名前を付けることができます。

処置: 属性参照をオブジェクト値の名前で修飾するか、メソッドを静的メソッドではなくメンバー・メソッドに変更してください。

PLS-00589 オブジェクト型 "string" に属性がありません。

原因：ユーザー定義型でない表が定義されています。

処置：表の型にユーザー定義型のみを定義してください。

PLS-00590 サブタイプを FINAL 型に作成しようとしています。

原因：FINAL 型にサブタイプ UNDER を作成しようとしています。

処置：FINAL 型からサブタイプを導出ししないでください。

PLS-00591 この機能はクライアント側のプログラムではサポートされていません。

原因：次のいずれかの機能が不適切なコンテキストで使用されました。

- プラグマ AUTONOMOUS_TRANS
- 動的 SQL 文（たとえば、EXECUTE IMMEDIATE）
- バルク・バインド

前述の機能はサーバー側のプログラム内のみで使用できます。クライアント側のプログラムでは使用できません。

処置：これを削除するか、またはこの機能を実行するサブプログラムをサーバー側に定義して、クライアントからそのサブプログラムをコールしてください。

PLS-00592 オブジェクト表の型はオブジェクト型でなければなりません。

原因：非オブジェクト型の一定の型の表が定義されました。

処置：非オブジェクト型をオブジェクト型に置き換えてください。

PLS-00593 本体のパラメータ "string" のデフォルト値は spec のデフォルト値と一致しなければなりません。

原因：パッケージ本体に含まれるサブプログラム本体のパラメータのデフォルト値が、対応するパッケージ仕様部にある関連するサブプログラム仕様部のデフォルト値と一致しません。

処置：本体にあるパラメータのデフォルト値を仕様部のデフォルト値と一致するように変更してください。

PLS-00594 SELF パラメータは、IN または IN OUT でなければ宣言できません。

原因：SELF パラメータが OUT パラメータとして宣言されました。

処置：SELF パラメータを IN または IN OUT パラメータのいずれかで宣言してください。

PLS-00595 このコンテキストで TABLE 演算子は使用できません。

原因：TABLE 演算子が SELECT または CAST 文の引数として使用されました。

処置：SELECT リスト項目または CAST 演算子の引数から TABLE 演算子を削除してください。TABLE 演算子が FROM 句内のみで指定されていることを確認してください。

PLS-00597 INTO リスト内の式 '*string*' の型が正しくありません。

原因: この例外は、次のエラーが原因で発生します。

- OPEN または RETURNING 文の INTO 句内の式は、有効な SQL データ型および PL/SQL の RECORD データ型のいずれでもない。
- レコードのコレクションが、OPEN または RETURNING 文の INTO 句で使用されている。
- レコードまたはレコードのコレクションが、BULK COLLECT INTO で使用されている。

処置: INTO 句では正確なデータ型の式を使用してください。

PLS-00598 NULL を含むオブジェクトは "*string*" を使用して比較できません。

原因: オブジェクトは、関係演算子を使用して NULL と比較されます。

処置: IS NULL 比較演算子を使用してください。

PLS-00599 SAMPLE パーセンテージは必ず範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

原因: パーセンテージの数値が範囲内 (0.000001 ~ 100) にありません。

処置: パーセンテージの数値を、範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

PLS-00600 SAMPLE はリモート・オブジェクトに適用できません。

原因: リモート・オブジェクトへ適用する SAMPLE は、サポートされていません。

処置: リモート・オブジェクトに SAMPLE は使用しないでください。

PLS-00601 パーティション拡張オブジェクト名は、必ず表とともに使用されます。

原因: 表でないオブジェクトに対してパーティション拡張オブジェクト名を使用しようとしました。

処置: 表以外のオブジェクトでパーティション拡張名の構文を使用しないでください。

PLS-00602 CUBE と ROLLUP は、GROUP BY 句にのみ使用します。

原因: GROUP BY 句の外側で、キーワード CUBE または ROLLUP を使用しようとしました。

処置: キーワード CUBE および ROLLUP を GROUP BY 句の外側で使用しないでください。

PLS-00603 GROUPING 関数は GROUP BY CUBE または ROLLUP を伴う場合のみサポートされます。

原因: GROUP BY CUBE または GROUP BY ROLLUP を指定せずに、GROUPING 関数を使用しようとしました。

処置: GROUP BY CUBE または GROUP BY ROLLUP を指定して、GROUPING 関数を使用してください。

PLS-00604 ここで集計関数は使用できません。

原因: WHERE 句または GROUP BY 句で、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などの関数が使用されました。

処置: WHERE 句または GROUP BY 句からグループ関数を削除してください。副問合せまたは HAVING 句に関数を指定することによって、希望する結果が得られます。

PLS-00605 設定演算子は MULTiset 演算子への引数として使用できません。

原因: 副問合せで、MULTiset 演算子への引数として設定演算子が使用されました。

処置: 副問合せで、MULTiset 演算子への引数として設定演算子を使用しないように、SQL 文を修正してください。

PLS-00606 クライアント側のカーソル副問合せはこのリリースではサポートされていません。

原因: カーソル副問合せを含む問合せが、クライアント側で使用されました。

処置: この機能は、サーバー側のみで使用してください。

PLS-00607 SQLJ オブジェクト型にはスーパータイプまたはサブタイプとして SQLJ 型のみを含むことができます

原因: 非 SQLJ オブジェクト型の下に、SQLJ オブジェクト型を作成しようとしてしました。

処置: SQLJ オブジェクト型として、オブジェクト型を再作成してください。

PLS-00608 USING 句の値はスーパータイプの値と一致している必要があります

原因: サブタイプで指定した USING 句と異なる USING 句の値で、SQLJ オブジェクト型を作成しようとしてしました。

処置: スーパータイプの USING 句と一致するように、USING 句の値を変更してください。

PLS-00609 OVERRIDING 句は SQLJ オブジェクト型に対しては無効です

原因: 継承されたメソッドで、SQLJ オブジェクト型メソッドを上書きしようとしてしました。

処置: OVERRIDING メソッドを削除して、SQLJ オブジェクト型の定義を変更してください。

PLS-00610 ROW は UPDATE 文の SET 句で 1 回のみ使用できます。

原因: UPDATE 文で、ROW を複数回使用しました。

処置: UPDATE 文の SET 句から、余分な ROW を削除してください。

PLS-00611 右側にはレコード型の変数のみが入ります。

原因: LHS の ROW では、PL/SQL レコードまたは %ROWTYPE 変数のみが右側に入ります。

処置: 右側にレコードまたは %ROWTYPE の変数のみが入るようにしてください。

PLS-00612 属性の数が SET 句の中で合致しません。

原因：列数が、RHS のレコード型の属性の数と合致しません。

処置：列数が、RHS のレコード型の属性の数と合致しているかを確認してください。

PLS-00613 レコード型の変数を使用する場合は、1 項目のみ許可されます。

原因：レコード型の変数が含まれているときに、VALUES 句または RETURNING INTO 句に複数の項目が使用されています。

処置：レコード型の変数を 1 つのみ指定するか、レコード型の変数を使用しないでください。

PLS-00614 FINAL NOT INSTANTIABLE 型を作成しています。

原因：FINAL NOT INSTANTIABLE 型を作成しようとしています。この型では、必要な操作は行われません。

処置：型を作成するときに、キーワード FINAL と NOT INSTANTIABLE を同時に使用しないでください。

PLS-00615 CASE オペランドと WHEN オペランドの間の 'string' で型の不一致が見つかりました。

原因：単純な CASE 文または式で、CASE オペランドおよび WHEN オペランドのデータ型が一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：データ型が一致するように CASE オペランドおよび WHEN オペランドを変更してください。CASE オペランドまたは WHEN オペランドのいずれかでのデータ型変換ファンクションの使用について、考慮してください。

PLS-00616 CASE 式の結果式間の 'string' で型の不一致が見つかりました。

原因：CASE 文または式で、結果式のデータ型が一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：データ型が一致するように結果式を変更してください。結果式でのデータ型変換ファンクションの使用について、考慮してください。

PLS-00617 CASE 式の少なくとも 1 つの結果は NULL ではない必要があります。

原因：CASE 式の結果がすべてリテラルの NULL でした。

処置：CASE 式の結果の 1 つ以上が NULL 以外になるように修正してください。

PLS-00618 NULLIF 式のオペランドの間の 'string' で型の不一致が見つかりました。

原因：NULLIF 式で、2 つのオペランドのデータ型が一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置：データ型が一致するようにオペランドを変更してください。オペランドでのデータ型変換ファンクションの使用について、考慮してください。

PLS-00619 NULLIF 式の最初オペランドは NULL ではありません。

原因: NULLIF 式で、最初オペランドがリテラルの NULL でした。

処置: NULLIF 式の最初オペランドを NULL 以外に変更してください。

PLS-00620 COALESCE 式オペランド間の 'string' で型の不一致が見つかりました。

原因: COALESCE 式で、オペランドのデータ型が一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: データ型が一致するようにオペランドを変更してください。オペランドでのデータ型変換関数の使用について、考慮してください。

PLS-00621 COALESCE 式の少なくとも 1 つのオペランドは NULL ではありません。

原因: COALESCE 式のすべてのオペランドがリテラルの NULL でした。

処置: COALESCE 式のオペランドの 1 つ以上が NULL 以外になるように修正してください。

PLS-00622 範囲の制約は -2147483647 と 2147483647 の間である必要があります。

原因: pls_integer または binary_integer の宣言で指定された範囲の制約が、-2147483647 ~ 2147483647 の範囲外でした。

処置: -2147483647 ~ 2147483647 の範囲で指定してください。

PLS-00623 FLOAT 精度の制約は 1 と 126 の間である必要があります。

原因: FLOAT、REAL または DOUBLE PRECISION で指定した精度が 1 ~ 126 の範囲外でした。

処置: 1 ~ 126 の間で指定してください。

PLS-00624 USING 句は集計関数またはパイプライン関数とともに使用する必要があります。

原因: USING 句は、AGGREGATE または PIPELINED プロパティで宣言されていない関数とともに使用できません。

処置: PL/SQL またはその他の言語（外部コールアウト・コール仕様部を使用して）の関数本体で定義してください。

PLS-00625 PARTITION/CLUSTER/ORDER-BY 句を使用するには IN パラメータが必要です。

原因: PARTITION/CLUSTER/ORDER-BY 句が OUT または IN OUT REF カーソル・パラメータとともに使用されました。

処置: パラメータ・モードを IN に変更するか、PARTITION/CLUSTER/ORDER-BY 句に別のパラメータを使用してください。

PLS-00626 partitioned/clustering/ordered パラメータは関数の引数である必要があります。

原因：partitioning/clustering/ordering 仕様部が、関数の引数ではない引数に指定されています。

処置：関数の REF カーソル形式の引数に基づいた partitioning/clustering/ordering を指定してください。

PLS-00627 'string' は厳密な型指定の REF カーソルである必要があります。

原因：partitioning/clustering/ordering 仕様部が、厳密な型指定の REF カーソルではない引数に指定されています。

処置：関数の REF カーソル形式の引数に基づいた partitioning/clustering/ordering を指定してください。

PLS-00628 'string' は有効なレコード属性である必要があります。

原因：partitioning/clustering/ordering 仕様部は、有効なレコード属性を使用する必要があります。

処置：有効なレコード属性に基づく partitioning/clustering/ordering を指定してください。

PLS-00629 PIPE 文は非パイプライン関数では使用できません。

原因：PIPE 文が、非パイプライン関数で使用されています。

処置：PIPE 文は、パイプライン関数のみで使用してください。

PLS-00630 パイプライン関数はコレクション戻り型を持つ必要があります。

原因：パイプライン関数が、非コレクション戻り型で指定されました。

処置：パイプライン関数の戻り型には、コレクション型を指定してください。

PLS-00631 PARTITION-BY および CLUSTER/ORDER-BY 句は同じ関数の引数とともに使用する必要があります。

原因：PARTITION-BY および CLUSTER/ORDER-BY 句が、異なる関数の引数とともに指定されました。

処置：PARTITION-BY および CLUSTER/ORDER-BY の両方に、同じ引数を使用してください。

PLS-00632 NOT INSTANTIABLE メソッドは本体を持つことができません。

原因：NOT INSTANTIABLE メソッドに、本体が指定されました。

処置：NOT INSTANTIABLE の本体を削除してください。

PLS-00633 パイプライン関数の RETURN 文は式を含むことができません。

原因: パイプライン関数の RETURN 文に、式が含まれています。パイプライン関数は、PIPE 文を使用して、コール側に値を戻す必要があります。

処置: RETURN 文から式を削除し、PIPE 文を使用して値を戻してください。または、パイプライン関数を非パイプライン関数に変換してください。

PLS-00634 NOT INSTANTIABLE メソッドを持つ型は NOT INSTANTIABLE を宣言される必要があります。

原因: 作成された型は、宣言または継承された NOT INSTANTIABLE メソッドを含みます。型は、明示的に NOT INSTANTIABLE を宣言される必要があります。

処置: NOT INSTANTIABLE キーワードを明示的に指定するか、すべての NOT INSTANTIABLE メソッドを実装してください。

PLS-00635 メソッドは上書きしません。

原因: メソッドの仕様部に OVERRIDING キーワードが含まれていますが、メソッドは、祖先クラス型を上書きしません。

処置: メソッドの仕様部を確認してください。

PLS-00636 上書きするメソッドには OVERRIDING キーワードが必要です。

原因: メソッドの仕様部を上書きしようとしています、OVERRIDING キーワードが指定されていません。

処置: メソッドの仕様部を修正し、OVERRIDING キーワードを指定してください。

PLS-00637 FINAL メソッドは上書きまたは非表示できません。

原因: FINAL MEMBER メソッドを上書きまたは FINAL STATIC メソッドを非表示にしようしました。

処置: FINAL MEMBER メソッドを上書きまたは FINAL STATIC メソッドを非表示にしないでください。

PLS-00638 MAP メソッドをオーバーロードできません。

原因: MAP メソッドが継承されたメソッドを上書きします。

処置: 仕様部を一致させてください。

PLS-00639 NCHAR/NVARCHAR2 はバイト長セマンティクスにできません。

原因: NCHAR/NVARCHAR2 は、コードポイント長セマンティクスのみです。BYTE 修飾子は、NCHAR とは使用できません。

```
nc NCHAR(7 BYTE);  
name NVARCHAR2(10 byte);
```

処置: BYTE 修飾子を削除し、コードポイント長セマンティクスにしてください。

PLS-00640 パイプライン関数は PL/SQL のコンテキストからコールできません。

原因: PL/SQL から、パイプライン関数をコールしています。

処置: SQL 問合せの FROM 句で、パイプライン関数を使用してください。

PLS-00641 この SELECT 文では INTO 句は使用できません

原因: カーソル定義の SELECT 文、OPEN 文またはカーソル FOR ループの INTO 句にエラーがあります。

処置: INTO 句を削除してください。

PLS-00642 SQL 文ではローカル・コレクション型は使用できません

原因: SQL 文で、ローカルで定義された（スキーマ・レベルではない）コレクション型が使用されています。SQL で使用するためには、スキーマで型を定義する必要があります。

処置: PL/SQL サブプログラムではなく、スキーマでコレクション型を定義してください。

PLS-00643 SQL 文ではブール、索引表、レコードおよびカーソルは使用できません

原因: ブール型の項目、binary_integer の foo 索引表、レコードおよび統計カーソルは、SQL 文で使用できません。

処置: このような式を SQL 文から削除してください。

PLS-00644 CASE 式の結果式内の 'string' でキャラクタ・セットの不一致が見つかりました

原因: CASE 文または式で、結果式のキャラクタ・セットが一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: キャラクタ・セットが一致するように結果式を変更してください。

PLS-00645 COALESCE 式のオペランド内の 'string' でキャラクタ・セットの不一致が見つかりました

原因: COALESCE 式で、オペランドのキャラクタ・セットが一致しませんでした。また、この不一致の修正に必要な暗黙変換が不明です。

処置: キャラクタ・セットが一致するようにオペランドを変更してください。

PLS-00646 MAP または ORDER メソッドをサブタイプ階層のルートに定義する必要があります

原因: サブタイプで、MAP または ORDER メソッドを定義しようとしていました。

処置: MAP または ORDER メソッドは、サブタイプ階層のルートで定義してください。サブタイプの MAP メソッドは、上書きできます。

PLS-00647 "string" という名前の属性は同じ名前のメソッドと競合します

原因: サブタイプの作成時に、属性名とメソッド名が競合しています。

処置: 作成するタイプの属性名とメソッド名は異なる名前にしてください。

PLS-00648 サブタイプ属性 "string" のタイプは、このリリースのサブタイプまたはサブタイプへの参照にできません

原因: タイプ Tsub を別のタイプ Tsuper のサブタイプにしようとしてしました。Tsuper には、タイプ Tsub または Tsub への REF タイプ属性が含まれます。これは、実装制限です。

処置: サブタイプ属性のタイプまたはサブタイプへの REF を使用しないように、コード設計を変更してください。

PLS-00649 メソッド "string" は、オブジェクト型ごとに 1 回のみ上書きできます

原因: 同じサブタイプでメソッドを複数回上書きしようとしてしました。

処置: メソッドのシグネチャが異なる OVERRIDING キーワードを削除してください。または、引数型について考慮してください。

PLS-00700 PRAGMA EXCEPTION_INIT string は、同一の宣言部分でその例外宣言の後に続く必要があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマがその例外として同じブロックに宣言されていません。この 2 つは同じブロック内に正しい順序で宣言されている必要があります、プラグマ宣言が例外宣言の後になくてもなりません。

処置: プラグマが参照する例外宣言の直後に、EXCEPTION_INIT プラグマを置いてください。

PLS-00701 PRAGMA EXCEPTION_INIT の無効な ORACLE エラー番号 string です。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡されたエラー番号が範囲内にありません。エラー番号は、Oracle エラーの場合は -9999 ~ -1 の間である必要があります。ただし -100 は除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 ~ -20999 の範囲である必要があります。

処置: 正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00702 PRAGMA EXCEPTION_INIT への第 2 引数は数値リテラルでなければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマの 2 番目の引数が数値リテラルではありません (たとえば、変数)。2 番目の引数は数値リテラルで、Oracle エラーの場合は -9999 ~ -1 の範囲である必要があります。ただし -100 は除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 ~ -20999 の範囲である必要があります。

処置: 2 番目の引数に正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00703 リストに名前付き引数のインスタンスが複数あります。

原因: サブプログラム・コールで2つ以上の実パラメータが同じ仮パラメータを参照しています。

処置: 重複している実パラメータを削除してください。

PLS-00704 'string' は例外として宣言する必要があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡された EXCEPTION_NAME パラメータの綴りに誤りがあるか、正しく宣言された例外を参照していません。または、プラグマの位置に誤りがあります。例外宣言の後の同一宣言節に置く必要があります。

処置: EXCEPTION_NAME パラメータの綴りを確かめてください。次に例外宣言を確認し、例外名とキーワード EXCEPTION が正しい綴りになっていることを確認してください。また、例外宣言の後の同一宣言節にプラグマが置かれていることも確認してください。

PLS-00705 例外 'string' は戻り型を必要とする式で使用されます。

原因: 式で例外が参照されています。例外には名前がありますが、値はありません。したがって、式に対して値を与えることはありません。たとえば、次の RETURN 文は無効です。

```
FUNCTION credit_limit (cust_no INTEGER) RETURN NUMBER IS
limit          NUMBER;
over_limit     EXCEPTION;
...            BEGIN
...
RETURN over_limit; -- illegal
END;
```

処置: 式の識別子の綴りを調べて、例外を参照しないように式を書き換えてください。

PLS-00706 例外 'string' は、選択したコンポーネントの接頭辞として使用できません。

原因: コンポーネントへの参照を修飾するために、例外名が誤って使用されました。たとえば、レコード内のフィールドを指定するためにドット表記法が使用された場合、レコード名ではなく例外名がコーディングされた可能性があります。

処置: 有効な接頭辞（たとえば、パッケージ、レコード、スキーマなどの名前）を使用して、コンポーネント参照を書き換えてください。

PLS-00707 サポートされない構成または内部エラー [string] です。

原因: 実行時では、これは内部エラーです。コンパイル時に発生した場合は、次のいずれかの問題を示します。

- パラメータ型を持つリモート・サブプログラムまたはコール側のサイトでサポートしていないデフォルトの式に対してコールが行われました。
- プロシージャを格納しているデータベースに対して不完全なアップグレードまたはダウングレードが行われました。STANDARD.SQL のような誤ったバージョンのシステム・パッケージがインストールされたことが考えられます。
- コンパイラのエラーが検出されました。このような場合は、有効な PL/SQL 構文がコンパイルできません。

処置: 内部エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡するか、問題に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- パラメータ型を使用するためのアプリケーションのロジックと、ローカル・サイトおよびリモート・サイトの両方でサポートされているデフォルトの式を修正してください。
- インストールするシステム・パッケージのバージョンがすべて正しいものであるかを確認して、アップグレードまたはダウングレードを正しく完了してください。
- 構文エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。エラー・メッセージとともに行番号や列番号が表示されている場合、手掛りを見つけるのに役立つことがあります。たとえば、エラーを避けるために、エラーのある行を記録するようにします。

PLS-00708 プラグマ 'string' はパッケージ仕様部で宣言する必要があります。

原因: 指定されたプラグマがパッケージ仕様部で宣言されていません。たとえば、プラグマ RESTRICT_REFERENCES はパッケージ仕様部で宣言されている必要があります。

処置: 位置の異なるプラグマを削除するか、または位置を変更してください。

PLS-00709 プラグマ 'string' はパッケージ仕様部および本体で宣言する必要があります。

原因: 指定されたプラグマは、パッケージ仕様部で宣言されていますが、パッケージ本体では宣言されていません。またはその逆です。

処置: プラグマのないパッケージ宣言部分にプラグマを追加してください。

PLS-00710 ここでは PRAGMA AUTONOMOUS_TRANSACTION の宣言はできません。

原因: プラグマが不適切なコンテキストで宣言されました。このプラグマはプロシージャ、ファンクションまたは最上位の無名ブロックの宣言節で宣言する必要があります。

処置: 位置の異なるプラグマを削除するか、または位置を変更してください。

PLS-00711 PRAGMA AUTONOMOUS_TRANSACTION は、2 度宣言できません。

原因: 同じブロックでプラグマが 2 度宣言されました。

処置: 重複したプラグマ宣言を削除してください。

PLS-00712 サブプログラム *string* のオプションが無効です。

原因: オプション DETERMINISTIC または PARALLEL_ENABLE を使用できるのは、PACKAGE または TYPE 仕様部の最上位のサブプログラムまたはサブプログラム宣言のみです。たとえば、PACKAGE または TYPE 本体でこれらのオプションが使用されると、このエラーが発生します。

処置: オプションを削除してください。

PLS-00713 NOT INSTANTIABLE の型をインスタンス化しようとしています。

原因: NOT INSTANTIABLE が定義されている型をインスタンス化しようとしています。

処置: NOT INSTANTIABLE 型の変数をインスタンス化しないでください。この変数から INSTANTIABLE サブタイプを導出し、サブタイプの変数をインスタンス化してください。

PLS-00714 スーパータイプの AUTHID は DEFINER ですが、スーパータイプとサブタイプは同じスキーマにはありません。

原因: スーパータイプの AUTHID は DEFINER ですが、スーパータイプおよびサブタイプは同じスキーマに定義されていません。動的にディスパッチされたメソッドで実行される SQL 文は、2 つのスキーマのデータベース表から異なる値を取り出すことができます。

処置: 同じスキーマにスーパータイプとしてサブタイプを作成してください。

PLS-00715 '*string*' という名前の属性またはメソッドは存在しません。

原因: 変更された型から、存在しないメソッドまたは属性を削除しようとしてしました。

処置: 属性名またはメソッド名の綴りを確認してください。また、その型にローカルで定義されていて、継承されていないことを確認してください。

PLS-00716 属性 / メソッド '*string*' は、ALTER TYPE 文で 1 回のみ使用できます

原因: 1 つの ALTER TYPE 文の属性で ADD、DROP または MODIFY が複数使用されました。1 つの ALTER TYPE 文のメソッドで ADD または DROP が複数使用されました。

処置: 1 つの ALTER TYPE 文の属性では、ADD、DROP または MODIFY は 1 つのみ使用してください。1 つの ALTER TYPE 文のメソッドでは、ADD または DROP は 1 つのみ使用してください。

PLS-00717 メソッド '*string*' は既存のメソッドの中に一致するシグネチャがありません。

原因: 削除するメソッドは、存在するメソッド名と一致していますが、シグネチャが一致していません。

処置: 削除するメソッドのシグネチャが一致しているかを確認してください。

PLS-00718 属性 '*string*' の型では属性の変更はできません。

原因: 変更する属性の型が VARCHAR2、NUMBER または RAW ではありません。

処置: VARCHAR2、NUMBER または RAW 型の属性のみを変更してください。

PLS-00719 属性 '*string*' の制約の拡張のみができます。

原因: 属性の変更で、制約を拡張しなかったか、属性の型を変更しようとした。NUMBER 型の属性では、小数点の前後の桁数を増やすことによって位取りおよび精度を変更できます。VARCHAR2 および RAW 型の属性では、サイズを増やせます。その他の型の属性は変更できません。属性の型の変更もできません。

処置: 制約仕様部を変更して、既存の制約を拡張してください。制約を減らしたり、属性の型を変更する場合は、属性を削除して、新しい制約または型を指定した属性を追加してください。このとき、必要に応じて、型に基づく既存のデータを適切な手順で保持する必要があります。通常は、データのバックアップをとり、それを ALTER TYPE の後でリストアします。

PLS-00720 型 '*string*' は展開されています。

原因: 型が展開されています。コンパイルされたコードで使用する型のバージョンが、最新のバージョンと異なります。

処置: 型の最新のバージョンを使用するために、コードを再コンパイルしてください。

PLS-00721 '*string*' により非 REF 相互依存サイクル ('*string*') が生成されました

原因: コンパイルされたライブラリ単位が、他のライブラリ単位と非 REF の相互依存サイクルを形成しているため、コンパイルが異常終了しました。このエラーは、この型を伴うサイクルに加わる他の型の属性を持つ型とコンパイルしようとするが発生します。

```
create type t1;  
create type t2 (a t1);  
create type t1 (a t2);
```

処置: (REF を追加するか、または別の型を使用して) サイクルを中断してください。

PLS-00722 スーパータイプの AUTHID がサブタイプの AUTHID と異なります

原因: サブタイプの AUTHID は、スーパータイプの AUTHID と同じである必要があります。

処置: スーパータイプと同じ AUTHID を持つサブタイプを作成するか、AUTHID を指定しないでください。

PLS-00723 spec が非ネイティブでコンパイルされた場合、パッケージ本体をネイティブ・コンパイルできません

原因: 対応するパッケージ仕様部がインタプリタ・バイトコードにコンパイルされていますが、パッケージ本体がネイティブ・コードにコンパイルされています。

処置: パッケージ本体をパッケージ仕様部と同じコード（ネイティブまたはインタプリタ・バイトコード）にコンパイルしてください。

PLS-00724 spec がネイティブ・コンパイルされた場合、パッケージ本体をバイトコードにコンパイルできません

原因: 対応するパッケージ仕様部がネイティブ・コードにコンパイルされていますが、パッケージ本体がインタプリタ・バイトコードにコンパイルされています。

処置: パッケージ本体をパッケージ仕様部と同じコード（ネイティブまたはインタプリタ・バイトコード）にコンパイルしてください。

PLS-00751 PACKAGE SYS_STUB_FOR_PURITY_ANALYSIS が見つかりません。

原因: システム・パッケージ SYS_STUB_FOR_PURITY_ANALYSIS が Oracle データベース内にない場合、最上位のサブプログラム（ファンクションまたはプロシージャ）は作成できません。

処置: データベースにパッケージがあることを確認し、再作成してください。

PLS-00801 内部エラー [string]

原因: これは、コンパイルまたは実行時に発生する内部エラーの総称です。最初のパラメータは、内部エラー番号です。

処置: このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PLS-00900 単位 'string' の本体が見つかりません。

原因: 実行時に、プログラム単位の本体が見つかりませんでした。次の 2 つの理由が考えられます。

- 単位 **a** がモジュール **b** をコールした場合に、**b** の仕様部が存在し、本体が存在しなかったことが考えられます。この場合は、仕様部が存在するのでコンパイル時にエラーは発生しません。
- SQL 文などの適切なコンテキストの外側でシーケンスを参照している場合、このエラーが発生する可能性があります。この場合、順序参照の仕様部は見つかりますが、次のように SQL 文の外側の順序を参照するコードを実際に行うことは有効ではありません。

```
i := seq.nextval;
```

処置: 最初の理由でエラーが発生している場合は、参照されているオブジェクトの本体を作成してください。2 番目の理由によってこのエラーが発生している場合は、シーケンスを SQL 文の中に移動してください。たとえば、`i := seq.nextval;` は次のように置き換えることができます。

```
select seq.nextval into temp from dual; i := temp;
```

PLS-00901 列 '*string*' (表 '*string*') のデータ型はサポートされません。

原因: データベースの表の列が、現在のリリースの PL/SQL ではサポートされていないデータ型になっています。

処置: 問題のある列を表から削除するか、必要な列を別の表にコピーしてください。

PLS-00902 READ-ONLY バインド変数が OUT または IN-OUT コンテキストで使用されています。

原因: 更新できないホスト変数が、更新が可能なコンテキストで使用されました。

処置: コンテキストを調べて、ホスト変数の使用を変更するか、ホスト変数の値を PL/SQL ローカル変数に割り当ててローカル変数を使用してください。

PLS-00904 オブジェクト '*string*' にアクセスするには権限が不十分です。

原因: 必要な権限を持っていないデータベース・オブジェクトを操作しようとしてしました。たとえば、SELECT 権限のみが付与されている表を UPDATE しようとした場合に、このエラーは発生します。

処置: データベース管理者に依頼して操作を実行するか、必要な権限を取得してください。

PLS-00905 オブジェクト '*string*' が無効です。

原因: 無効なパッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムが参照されました。パッケージ仕様部やストアド・サブプログラムは、それらが最後にコンパイルされた後に、ソース・コードやそれらが参照しているデータベース・オブジェクトが変更、削除されると無効になってしまいます。

処置: パッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムを無効にしている原因を探し、Oracle がエラーなしで再コンパイルできるようにしてください。

PLS-00906 コンパイルは不可能です。

原因: 稼働環境に問題があるため、PL/SQL コンパイラが正しく機能しません。たとえば、そのエラー・メッセージ・ファイルがアクセス不能である可能性があります。

処置: PL/SQL の稼働環境を調べ、コンパイラが必要なすべてのファイルにアクセスできるようにしてください。

PLS-00907 ライブラリ単位 '*string*' (参照先 '*string*') をロードできません。

原因: PL/SQL は、以前に使用可能であったライブラリ単位を見つけてロードすることができませんでした。このエラーは、存在しないまたは無効な別のライブラリ単位を参照する単位をロードしようとした場合に発生します。

処置: 必要なライブラリ単位を用意してください。

PLS-00908 格納された形式 *string* は、このリリースでサポートされません。

原因: PL/SQL は、格納されている形式のライブラリ・ユニットを認識できませんでした。今回のバージョンでは認識できない新しい PL/SQL または古い PL/SQL のバージョンを使用して、コンパイルまたはシュリンク・ラップされています。

処置: 今回のバージョンの PL/SQL に合わせて、ライブラリ・ユニットを再コンパイルしてください。

PLS-00909 オブジェクト *string* が未宣言か、またはオブジェクト *string* にアクセスする権限が不十分です。

原因: 演算子宣言からのオブジェクトが宣言されていないか、または宣言されたオブジェクトにアクセスする権限が不十分です。

処置: オブジェクトを宣言するか、データベース管理者に依頼して、オブジェクトにアクセスするための権限を付与してもらってください。

PLS-00910 型 *string* から継承するには権限が不十分です

原因: UNDER 権限なしで、型から継承しようとしてしました。

PLS-00920 パラメータ `plsql_native_library_dir` が設定されていません

原因: PL/SQL プログラムがネイティブにコンパイルされていますが、ネイティブ共有オブジェクト (DLL) を格納するディレクトリを指定するコンパイラ・パラメータ `plsql_native_library_dir` が設定されていません。

処置: データベース管理者は、このパラメータを設定してください。

PLS-00921 パラメータ `plsql_native_make_utility` が設定されていません

原因: PL/SQL プログラムがネイティブにコンパイルされていますが、ネイティブ共有オブジェクト (DLL) を作成する `make` ユーティリティのフルパス名を指定するコンパイラ・パラメータ `plsql_native_make_utility` が設定されていません。

処置: データベース管理者は、このパラメータを設定してください。

PLS-00922 パラメータ `plsql_native_make_file_name` が設定されていません

原因: PL/SQL プログラムがネイティブにコンパイルされていますが、ネイティブ共有オブジェクト (DLL) を作成する `make` ファイルのフルパス名を指定するコンパイラ・パラメータ `plsql_native_make_file_name` が設定されていません。

処置: データベース管理者は、このパラメータを設定してください。

PLS-00923 ネイティブ・コンパイルに失敗しました: *string*

原因: ネイティブ共有オブジェクト (DLL) が正常に作成されなかったため、PL/SQL プログラムのネイティブ・コンパイルが失敗しました。

処置: データベース管理者は、`plssql_native_c_compiler` および `plssql_native_linker` パラメータが正しく設定されているかを確認してください。

PLS-00924 ネイティブ・コンパイルはこのプラットフォームでサポートされていません

原因: PL/SQL のネイティブ・コンパイルは、このプラットフォームでサポートされていません。

処置: `PLSQL_COMPILER_FLAGS` 初期化パラメータを `INTERPRETED` に設定して、PL/SQL プログラムをバイトコードにコンパイルしてください。

PLS-00950 このバージョンでは、この SQL 文で PL/SQL 表を使用できません。

原因: `FINAL` 型にサブタイプ `UNDER` を作成しようとした。

```
SELECT ename_tab.COUNT INTO name_count WHERE ...
```

処置: 不適切な参照を SQL 文から削除してください。

PLS-00951 機能 *string* は、このリリースでサポートされません

原因: インポートされたライブラリ・ユニットの中に、PL/SQL が認識できないユニットがありました。そのユニットは、このバージョンでは認識できない新しい機能または古い機能を使用しています。

処置: インポートされたライブラリ・ユニットをこのバージョンの PL/SQL で再コンパイルし、サポートされていない機能を探してください。

PLS-00960 このリリースで RPC は、スキーマ・レベルを使うユーザー定義型の変数を使用できません。

原因: スキーマ・レベルのユーザー定義型か、またはこのような型を再帰的に使用する型は、RPC では使用できません。次に例を示します。

```
create type foo as object (...)  
create package my_pack is  
  type my_tab is table of foo;  
  -- on a remote server:  
  x my_pack.my_tab@rpc; -- illegal attempt to use type my_tab
```

処置: RPC コールには PL/SQL 定義型のみを使用してください。このようなデータを RPC を通して転送するためには、エレメント・ワイズ・コピー・トップレベル・タイプをローカル・タイプヘコードを追加する必要がある場合があります。

PLS-00970 メソッドのクラス名は型ヘッダーの EXTERNAL NAME 句のクラス名と一致する必要があります。

原因: メソッドのシグネチャの一部として定義されたクラス名が、EXTERNAL NAME 句の型のヘッダーで定義されたクラス名と一致していません。

```
create type foo as object EXTERNAL NAME 'foo' LANGUAGE JAVA (...  
MEMBER FUNCTION my (number) return number  
EXTERNAL NAME 'bar.func(oracle.sql.NUMBER) return oracle.sql.NUMBER',  
...);
```

処置: メソッドのシグネチャからクラス名を削除するか、型のヘッダーで定義したクラス名を使用してください。

PLS-00989 レコードまたはオブジェクト、コレクションのカーソル変数は、このリリースでサポートされません。

原因: レコード、オブジェクトまたはコレクションで、カーソル変数が入力されました。これは、今回のバージョンの PL/SQL ではサポートされていません。

処置: スタンドアロンのカーソル変数またはパラメータ（あるいはその両方）を使用して、アプリケーションを書き換えるか、レコードで使用する場合は、PL/SQL 2.3 を使用してください。

PLS-00990 カーソル変数の索引表は許可されていません。

原因: カーソル変数を使用して PL/SQL 索引表を作成しようとしてしました。

処置: スタンドアロンのカーソル変数またはプロシージャ・パラメータ、レコードおよびループの PL/SQL 索引表を使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00992 カーソル変数を FETCH できません。

原因: カーソル変数から FETCH を実行しようとしてしました。

処置: PL/SQL 2.3 にアップグレードしてください。このリリースでは、このような制約はありません。または、OCI または FETCH 用のプリコンパイラを使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00993 カーソル変数を RPC 引数または結果として渡せません。

原因: リモート・サブプログラムとの間でカーソル変数の受渡しが行われましたが、これは許可されていません。たとえば、カーソル変数のオープンにリモート・プロシージャを使用することはできません。リモート・サブプログラムは、カーソル変数の値を返せないためです。

処置: ローカル・データベースを参照するように、サブプログラムのコールを変更してください。

PLS-00994 カーソル変数をパッケージの一部として宣言できません。

原因：パッケージ仕様部でカーソル変数が宣言されましたが、これは許可されていません。REF CURSOR 型は PL/SQL ブロック、サブプログラム、パッケージで定義できますが、カーソル変数を宣言できるのは、ブロックまたはサブプログラム内のみです。

処置：カーソル変数の宣言を PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの中に移動してください。

PLS-00995 未処理例外番号 *string*

原因：ハンドラが見つからないため、例外が発生しました。発生した例外を処理するハンドラが見つからない場合は、PL/SQL はホスト環境に未処理例外を返します。メッセージに埋め込まれている数値は Oracle のエラー・コードで、このマニュアルに記載されています。

処置：例外が発生した条件を修正し、適切な例外ハンドラを作成するか、別のハンドラを使用してください。カレント・ブロックに適切なハンドラがある場合は、宣言または例外ハンドラで例外が発生し、囲みブロックに即座に伝播しました。

PLS-00996 メモリー不足

原因：メモリー不足で、PL/SQL からの要求が処理できません。

処置：PL/SQL 表の正しい行を参照しているかどうか、プログラムの再帰度が深すぎないかどうかを調べてください。

PLS-00997 このベータ・バージョンでは、カーソル戻り型は使用できません。

原因：今回のバージョンでは使用できません。

処置：使用しないでください。

PLS-01400 '||' トークンの使用

原因：ANSI の文法では、式で || トークンを使用できません。これは、`plsql.y` の「CAT_」への「binary_add_op」変換に相当します。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01401 長さ 18 文字を超える識別子

原因：ANSI の文法では、長さ 18 文字を超える識別子は使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01402 引用された識別子の使用

原因：引用された識別子の使用は PL/SQL の拡張機能で、ANSI の文法では使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01403 コメント・デリミタ /* */

原因: C スタイルのコメント (/ および * 文字で始まる) は ANSI の文法ではありません。ANSI に準拠するには、コメントの前に ANSI のコメント導入部 -- が必要です。また、コメントには改行を含むことができません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01404 ANSI 識別子は、文字および数字、アンダースコア文字だけで構成できます。

原因: ANSI 識別子は、文字、数字およびアンダースコア文字のみで構成できます。PL/SQL では識別子に「#」および「\$」を使用できますが、これらは ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01405 ANSI 文法では、指数表記で示す数値データには大文字の E を使用する必要があります。

原因: ANSI の文法では、指数を表す数値データは、大文字の E で表現する必要があります。たとえば、3.45E-6 は ANSI ですが、3.45e-6 は ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01406 ANSI 文法のキーワード (PL/SQL ではキーワードでない) と思われる識別子が見つかりました。

原因: ANSI 文法のキーワード (PL/SQL ではキーワードでない) と思われる識別子が見つかりました。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01407 識別子 CHAR または CHARACTER、INTEGER の 1 つがプログラマにより再定義されました。

原因: 識別子 CHAR、CHARACTER または INTEGER (すべて ANSI キーワード) の 1 つがプログラマによって再定義されました。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01408 '&' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で & トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01409 'PRIOR_' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で PRIOR_ トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01410 'MOD' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で MOD トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01411 'REM' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で REM トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01412 'EXP' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で EXP トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01413 NULL の式の使用

原因: ANSI の文法では、NULL の式は使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01414 修飾した式をここで使用

原因: ANSI の文法では、修飾した式をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01415 集合体値をここで使用

原因: ANSI の文法では、集合値をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01416 *id (value...)* をここで使用

原因: ANSI の文法では、*id (value...)* をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01417 %attribute の使用

原因: ANSI の文法では、%attribute 値をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01418 副問合せは ANSI 文法の集合演算子に組み込めません。

原因: 副問合せは ANSI 文法の集合演算子に組み込めません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01419 副問合せには、その選択リストに '*' または正確にカラムが 1 つが必要です。

原因：ANSI の文法では、副問合せには、その選択リストに * または正確にカラムが 1 つが必要です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01420 INTERSECT および MINUS 集合演算子は ANSI ではありません。

原因：INTERSECT および MINUS 集合演算子は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01421 FOR UPDATE 句

原因：ANSI の文法では、FOR UPDATE 句を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01422 別名

原因：ANSI の文法では、別名を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01423 集合句右側の副問合せ

原因：ANSI の文法では、集合句の右側で副問合せを使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01424 句が ANSI の順序ではありません。

原因：ANSI では、表の式の句に対して順序が指定されています。PL/SQL では指定されていません。ANSI の順序では、次のようになります。

1. FROM 句
2. WHERE 句
3. GROUP-BY 句
4. PL/SQL では、FROM 句を最初に指定する必要がありますが、その後の句は（非 ANSI の CONNECT-BY 句を含めて）任意の順序で指定することができます。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01425 Connect-by 句

原因：ANSI では、Connect-by 句を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01450 この *value expression* には標準化されていないデータ型が含まれています。

原因: この値式には標準化されていないデータ型が含まれています。X3H2 の 4.2 項「Data types」では、「A non-null value is either a character string or a number.」と示されています。STANDARD にある多くの組込み関数は、プラグマの方法によってこの警告とともにフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01451 これら *value expressions* のデータ型は、比較可能でなければなりません。

原因: これら値式のデータ型は、比較可能である必要があります。X3H2 の 4.2 項「Data types」では、「A character string and a number are not comparable values.」と示されています。STANDARD にある多くの組込み関数は、プラグマの方法によってこの警告とともにフラグ化されます。この警告は、データ型の強制関数に対して発行されます。たとえば、非準拠のデータ型を組合せ可能にするために Oracle SQL に挿入された `TO_CHAR(number)` などです。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01452 この関数は ANSI 標準の部分ではありません。

原因: この関数は ANSI 標準の部分ではありません。この警告によって、ANSI 仕様に記述されていない POWER などの関数がフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01453 このプロシージャは ANSI 標準の部分ではありません。

原因: このプロシージャは ANSI 標準の部分ではありません。この警告によって、ANSI 仕様に記述されていない STOP などのプロシージャがフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01454 CHAR データ型の値を使用する演算子がありません。

原因: CHAR データ型の値を使用する演算子がありません。X3H2 の 5.9 項「value_expression」の syntax rule 3 では、「If the data type of a *primary* is character string, then the *value_expression* shall not include any operators.」と示されています。この警告は、CHAR 引数を取る STDBASE にある多くの関数に対して発生します。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01455 IS NULL と IS NOT NULL 述語は、列指定だけに定義されます。

原因: IS NULL および IS NOT NULL 述語は、列指定のみに定義され、その他の式には定義されません。5.15 項「null_predicate」には、述語「x IS NULL」の x は列である必要があり、その他の種類の式であってはならないことが示されています。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01456 名前の長さは3より大きくできません。

原因：名前の長さは3より大きくできません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01458 UPDATE 文の集合句には、長さ1の列名が必要です。

原因：UPDATE 文の集合句には、長さ1の列名が必要です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01460 リモート・ホストのオブジェクトにはアクセスできません。

原因：リモート・ホストのオブジェクトにはアクセスできません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01463 STDDEV は規格セットの関数ではありません。

原因：STDDEV は規格セットの関数ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01464 VARIANCE は規格セットの関数ではありません。

原因：VARIANCE は規格セットの関数ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01466 NULL 文字列は使用できません。

原因：NULL 文字列は使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01467 副問合せでない場合、IN 述語の値リストには value_specifications のみを組み込む必要があります。

原因：副問合せでない場合、IN 述語の値リストには value_specifications のみ（リテラル、および PL/SQL または埋込み変数）を組み込む必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01468 like 述語の第1引数は、文字列型の列でなければなりません。

原因：like 述語の第1引数は、文字列型の列である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01469 ANSI 標準ではレコードを許可しません。

原因：ANSI 標準ではレコードを許可しません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01470 like 述語のエスケープ文字は、リテラルまたは CHAR 型の変数でなければなりません。

原因: like 述語のエスケープ文字は、リテラルまたは CHAR 型の変数である必要があります。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01471 DISTINCT キーワードは COUNT(DISTINCT sim_expr) で記述しなければなりません。

原因: DISTINCT キーワードは COUNT(DISTINCT sim_expr) で記述する必要があります。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01472 集合関数指定に DISTINCT がある場合、式は column_specification でなければなりません。

原因: 集合関数指定に DISTINCT がある場合、式は column_specification である必要があります。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01473 != または ~= に代わる <> の使用

原因: != または ~= ではなく <> を使用してください。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01474 ANY の使用は ANSI ではありません。

原因: comparison_predicate および quantified_predicate の結合によって、sim_expr = ANY_sim_expr などが指定されている可能性があります。これは、カーネルによって受け入れられます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01500 ビューの定義に共用体は使用できません。

原因: ビューの定義に共用体は使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01501 CREATE TABLE 文のオプションは ANSI ではありません。

原因: CREATE TABLE は、表の構造の定義のみ行えます。SPACE_name、PCTFREE_numeric_literal または cluster は、いずれも ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01502 制約名と制約状態は ANSI ではありません。

原因: 制約名および制約状態は、ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01503 SET 句の式に set 関数は挿入できません。

原因：SET 句の式に set 関数は挿入できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01504 CREATE TABLE 文の AS フェーズの使用は ANSI ではありません。

原因：CREATE TABLE は、表の構造の定義のみ行えます。CREATE TABLE 文の AS フェーズの使用は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01505 ALTER は ANSI ではありません。

原因：ALTER は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01506 CREATE INDEX は ANSI ではありません。

原因：CREATE INDEX は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01507 DROP は ANSI ではありません。

原因：DROP は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01701 ROLLBACK WORK 文の構文が正しくありません。

原因：ROLLBACK WORK 文の構文が正しくありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01702 COMMIT WORK 文の構文が正しくありません。

原因：COMMIT WORK 文の構文が正しくありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01703 CLOSE 文のカーソル名は長さ 1 でなければなりません。

原因：CLOSE 文のカーソル名は長さ 1 である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01704 ソート句の式は、ASC または DESC オプションを使用する列指定または符号なしの整数でなければなりません。

原因：ソート句の式は、ASC または DESC オプションが後に続く、列指定または符号なしの整数のみです。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01705 カーソル仕様部に UNION または ORDER_BY がある場合、カーソルで指定される表は更新不可能です。

原因：カーソル仕様部に UNION または ORDER_BY がある場合、カーソルで指定される表は更新不可能です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01707 位置付け DELETE または UPDATE 文では、表はカーソル仕様部で定義しなければなりません。

原因：位置付け DELETE または UPDATE 文では、削除または更新された表はカーソル仕様部で定義する必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01708 検索 DELETE または UPDATE、INSERT では、検索条件の副問合せの FROM 句に表は使用されません。

原因：検索 DELETE、UPDATE または INSERT 文では、検索条件の副問合せのいずれにも FROM 句に変更対象となる表は使用されません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01709 INSERT 文の値リストが副問合せでなく値リストで指定された場合は、値指定でなければなりません。

原因：INSERT 文では、INSERT 文の値リストが副問合せでなく値リストで指定された場合は、値指定である必要があります。つまり、複合式または列参照であってはけません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01710 位置付け DELETE または UPDATE 文では、カーソル名の長さは 1 でなければなりません。

原因：位置付け DELETE または UPDATE 文では、カーソル名の長さは 1 である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01711 SELECT 文に ORDER_BY または HAVING、GROUP_BY 句を挿入できません。

原因：SELECT 文に ORDER_BY、HAVING または GROUP_BY 句を挿入できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01712 ANSI では INDICATORS として変数をバインドできません。

原因：ANSI では INDICATORS として変数をバインドできません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01713 型の制約が一致しません。

原因：型の制約が一致しません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01714 ANSI では、ここにリテラルでない列名が入ります。

原因：ANSI では、ここにリテラルでない列名が入ります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01715 ANSI では SAVEPOINT をアクセプトしません。

原因：ANSI では SAVEPOINT をアクセプトしません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01900：文字から数値への変換エラー。

原因：文字列の数値への変換に失敗しました。

処置：数値の変数に割り当てられたすべての文字列に、有効な数値解釈値が指定されていることを確認してください。

PLS-01901：ホスト・バインド配列が小さ過ぎます。

原因：配列が小さすぎるため、PL/SQL はデータをホスト配列に転送できませんでした。

処置：ホスト配列のサイズを大きくしてください。

PLS-01902：16 進から RAW への変換エラー。

原因：16 進文字列から RAW への変換に失敗しました。

処置：変換する 16 進変数が有効な 16 進値を含んでいることを確認してください。

PLS-01903：整数以外の数値はエラーです。

原因：SQLERRM() が整数以外の値でコールされました。

処置：SQLERRM() が整数値でコールされることを確認してください。

PLS-01904：索引表のキー値が NULL です。

原因：NULL キー値で索引表に PL/SQL 索引を作成しようとしてしました。

処置：索引表への PL/SQL 索引の作成に使用されるキー値が NULL でないことを確認してください。

PLS-01905: 文字列バッファが小さすぎます。

原因: 文字列をソースから宛先へ移動中にエラーが発生しました。このエラーは、たとえば 10 文字の文字列を 1 文字のバッファへ移動しようとするが発生します。このエラーの原因は、常に自明であるとはかぎりません。たとえば、次のような場合にエラーが発生します。

```
a varchar2(1);  
b number;  
b := 10;  
a := b;
```

数値の 10 が文字列の 10 に暗黙に変換され、これが変数 a に割り当てられた 1 文字分のバッファに格納できないため、エラーが発生します。

処置: まず、バッファ・サイズが一致しない文字列の代入文を探してください。見つからなかった場合、次に前述の例のような暗黙変換のケースを考えてください。

PLS-01906: RAW 変数の長さが長すぎます。

原因: コピーまたは代入する RAW 変数の長さが長すぎるため、宛先に格納できませんでした。

処置: RAW 変数の長さが正しいことを確認してください。

PLS-01907: 数値の精度が大きすぎます。

原因: コピーまたは代入する数値の小数点の左側にある桁が多すぎて、宛先に格納できません。つまり、数値の精度が一致していません。たとえば、次のように文字列を数値に代入しようとするときにも、このエラーが発生します。

```
a varchar2(4);  
b number(1,1);  
a := '10.1';  
b := a;
```

処置: まず、明示的な数値の精度値の不一致を調べてください。見つからなかった場合、バインド中の変換を含めて、その他の型の数値への暗黙変換を考えてください。

PLS-01908: RETURNING INTO バッファが小さすぎます。

原因: PL/SQL によって、RETURNING INTO 句のあるサーバー側の DML が、返されるデータを保持するために十分な大きさのバッファを使用していないことが判断されました。

処置: RETURNING INTO 句のバッファのサイズを増やしてください。

サマリー・アドバイザ、EXPLAIN リライト および EXPLAIN マテリアライズド・ビュー・ メッセージ (QSM)

QSM-00501 サマリー・アドバイザ環境の初期化できません。

原因：サマリー・アドバイザの外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00502 OCI エラー

原因：OCI コールバック・ルーチンでエラーがレポートされました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00503 メモリー不足です。

原因：サマリー・アドバイザは、必要なメモリーの割当てに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00504 内部エラー

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00505 構文エラー

原因：構文エラーが発生しました。

処置：構文エラーを修正するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00506 ファクト表が見つかりません

原因: ファクト・フィルタが指定されていません。また、ウェアハウスにファクト表がありません。ファクト表は、データ・ウェアハウスの1つ以上のディメンション表に対する外部キー制約を持つ表です。

処置: 次のことを確認してください。

- ファクト・フィルタが正しく指定されている。
- 適切な制約が存在している。
- ユーザーが表へのアクセス権限を持っている。

QSM-00507 ディメンションが見つかりません。

原因: データベースにディメンションがありません。

処置: 現行のウェアハウスにディメンションを作成してください。

QSM-00508 統計表示がテーブル/列にありません。

原因: システム・メタデータが、1つ以上のテーブルまたは列に統計を含んでいません。アドバイザには、すべてのファクト表のカーディナリティおよびデータ・ウェアハウスにあるすべてのディメンションのレベル・キーのカーディナリティが必要です。

処置: ウェアハウスにあるテーブルおよびサマリーで ANALYZE を実行し、統計を収集してください。

QSM-00509 無効なパラメータ

原因: 指定されたパラメータの値が無効です。

処置: 適切な範囲内の値を指定してください。

QSM-00510 統計表示がサマリーにありません。

原因: システム・メタデータが、1つ以上のサマリーに統計を含んでいません。アドバイザには、データ・ウェアハウスにあるすべてのサマリーのカーディナリティが必要です。

処置: ウェアハウスにあるテーブルおよびサマリーで ANALYZE を実行し、統計を収集してください。

QSM-00511 無効なファクト表がファクト・フィルタで指定されています

原因: ファクト・フィルタに指定された表は有効なファクト表ではありません。ファクト表には、データ・ウェアハウスの1つ以上のディメンション表に対する外部キー制約が必要です。

処置: 次のことを確認してください。

- ファクト・フィルタが正しく指定されている。
- 適切な制約が存在している。
- ユーザーが表へのアクセス権限を持っている。

QSM-00512 無効なサマリーがリテンション・リストに指定されています。

原因: リテンション・リストに指定されたサマリーが無効です。

処置: 次のことを確認してください。

- サマリー名の綴り
- サマリー名が有効であるか
- ユーザーにサマリー名へのアクセス権限があるか

QSM-00513 ワークロード表が1つ以上不足しています

原因: ワークロード表の一方または両方が不足しています。ユーザー・スキーマに存在すべき2つのワークロード表は、V_192216243_F_5_E_14_8_1 および V_192216243_F_5_E_15_8_1 です。前者は WORK\$_IDEAL_MVIEW にマップされ、後者は WORK\$_MVIEW_USAGE にマップされます。データ・コレクション・ファイル (ORACLESM.DAT) がユーザーによってフォーマットされる場合に、ワークロード表は Oracle Trace Formatter によって作成されます。

処置: Formatter が正常にデータ・コレクションを書式化したかどうかを確認してください。他の表が作成されても、V_192216243_F_5_E_14_8_1 (WORK\$_IDEAL_MVIEW) は作成されない場合があります。多くの場合 MVIEW リライトを起動するために必要な初期化パラメータが有効でない可能性があります。MVIEW リライトに対して設定する必要があるすべての初期化パラメータのドキュメントを確認してください。その他の要因として、GROUP BY 問合せがデータの収集中に発行されなかった可能性があります。その場合、Trace コレクションを長時間実行し、データ・ウェアハウスで発行される問合せの代理オブジェクト・サンプルを取得してください。

QSM-00514 保持必須なサマリーのサイズが指定した領域制限を超過しています

原因: 指定した領域制限が、保持必須なサマリーのサイズを超えています。

処置: 保持必須なサマリー数を減らすか、領域制限を増やしてください。

QSM-00515 操作はユーザーによって取り消されました。

原因: ユーザーによって、操作が取り消されました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-00516 実行について無効なステータスが検出されました。

原因: 実行について、mview\$_adv_log 表のステータス・フィールドで無効な値が検出されました。内部エラーまたはアプリケーション・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00517 サマリー・アドバイザーには8.1.0.0以上のCOMPATIBLE設定が必要です

原因: 現行データベースの互換性の設定が、サポートされるサーバーのバージョンより前です。

処置: COMPATIBLE インスタンス・パラメータを8.1.0.0以上に調整してください。

QSM-00518 Java は使用できません。INITJVM.SQL および INITQSMA.SQL を実行してください

原因：現行データベースが、Java ストアド・プロシージャをサポートするように作成またはアップグレードされていません。サマリー・アドバイザには、Java ストアド・プロシージャが必要です。

処置：SYSDBA 権限を持つユーザーで、データベースに接続してください。
ORACLE_HOME/javavm/install/initjvm.sql スクリプトを実行してください。次に、
ORACLE_HOME/rdbms/admin/initqsma.sql スクリプトを実行してください。

QSM-00519 サマリー・アドバイザがインストールされていません。INITQSMA.SQL を実行してください。

原因：現行データベースが、サマリー・アドバイザをサポートするように作成またはアップグレードされていません。サマリー・アドバイザには、いくつかの Java ストアド・プロシージャが必要です。

処置：SYSDBA 権限を持つユーザーで、データベースに接続してください。
ORACLE_HOME/rdbms/admin/initqsma.sql スクリプトを実行してください。

QSM-01001 問合せのリライトは使用可能ではありません。

原因：クエリー・リライトが使用禁止の場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：ALTER SESSION SET QUERY_REWRITE ENABLE コマンドで、クエリー・リライトを使用可能にしてください。

QSM-01002 OPTIMIZER_GOAL がルール・ベースの場合、問合せのリライトはありません。

原因：ルールベースに OPTIMIZER_GOAL が設定されている場合、クエリー・リライトは発生しません。

処置：ALTER SESSION SET OPTIMIZER_GOAL = "goal" コマンドで、オブティマイザの対象を変更してください。goal には、「CHOOSE」、「FIRST_ROWS」または「ALL_ROWS」のいずれかが入ります。

QSM-01003 DDL 問合せで問合せのリライトはありません。

原因：問合せがデータ定義操作を含む場合、クエリー・リライトは行われません。DDL 式の一部である SELECT 文には、リライト可能なものがあります。これには、CREATE AS SELECT および CREATE OUTLINE 文が含まれます。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01007 問合せに NOREWRITE ヒントがあります。

原因：問合せに NOREWRITE ヒントが含まれる場合、問合せブロックに対するクエリー・リライトは行われません。

処置：NOREWRITE ヒントを問合せから削除してください。

QSM-01008 更新問合せについて問合せのリライトはありません。

原因: 問合せが SELECT FOR UPDATE 操作を含む場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01009 マテリアライズド・ビュー *string* が問合せテキストと一致しました。

原因: マテリアライズド・ビュー・テキストが問合せテキストと一致したため、マテリアライズド・ビューを使用して問合せがリライトされました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01010 マテリアライズド・ビュー *string* に問合せの表が見つかりません。

原因: マテリアライズド・ビューが、問合せに含まれる実表を参照していないか、クエリー・リライトに不適切であることが判明しました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01011 発見のリライトが設定されていない場合、リライト・ヒントが必須です。

原因: ストアド・アウトラインを使用する場合、クエリー・リライトにはリライト・ヒントが必須です。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01012 FROM 内に SAMPLE 句があります。

原因: 問合せが SAMPLE 句を含む場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01013 ネストされた集計または CONNECT BY/START WITH 句があります。

原因: 問合せが、ネストされた集計、CONNECT BY 句または START WITH 句を含む場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01014 問合せの WHERE 句でのトップレベルの演算子は OR です。

原因: WHERE 句のトップレベルの演算子が OR で、FROM リストに 1 つ以上の表がある場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01015 GROUP BY 句には列ではないものがあります。

原因: GROUP BY 句に有効な列がない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01016 問合せのリライトでは集計 *string* をサポートしていません

原因: 問合せが COUNT、MIN または MAX 以外の DISTINCT 集計を含む場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01018 単一表のマテリアライズド結合ビューのリライトは必須ではありません。

原因: REWRITE ヒントが使用されているか、コストベース・リライトが ON である場合を除いて、単一の実表は、さらに大きくなるマテリアライズド結合ビューと置き換えられません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01019 この問合せをリライトするための適切なマテリアライズド・ビューが見つかりません。

原因: このクエリー・リライトに使用できるマテリアライズド・ビューが存在しません。

処置: 新しいマテリアライズド・ビューを作成することを考慮してください。

QSM-01020 マテリアライズド・ビュー *string* は適切ではありません。

原因: マテリアライズド・ビューが使用禁止または失効しています。

処置: マテリアライズド・ビューのリフレッシュまたは使用可能化について考慮してください。

QSM-01021 マテリアライズド・ビュー *string* がヒント・リストの中に見つかりません。

原因: 問合せで指定されたリライト・ヒント・リストはありますが、このマテリアライズド・ビューはヒント・リストに含まれていません。

処置: このマテリアライズド・ビューをリライト・ヒント・リストに追加してください。

QSM-01022 *string* よりも最適なマテリアライズド・ビューがリライトに使用されました。

原因: クエリー・リライトは、常に、特定のパラメータに基づく最適なマテリアライズド・ビューを選択します。たとえば、マテリアライズド・ビューのカーディナリティ、結合数などです。指定されたマテリアライズド・ビューは、最適ではありません。

処置: マテリアライズド・ビューを強制的に使用するには、リライト・ヒントの使用について考慮してください。

QSM-01025 マテリアライズド・ビュー *string* が見つかりません。

原因: 指定されたマテリアライズド・ビューがデータベースに存在しません。

処置: 綴りを確認するか、新しいマテリアライズド・ビューを作成してください。

QSM-01026 *string* について問合せのリライトが使用禁止になっています。

原因：このマテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトが使用禁止であるため、使用できません。

処置：ALTER MATERIALIZED VIEW "mv" ENABLE QUERY REWRITE コマンドで、このマテリアライズド・ビューに対してクエリー・リライトを使用可能にしてください。「mv」には、マテリアライズド・ビュー名が入ります。

QSM-01028 マテリアライズド・ビュー *string* は現在リフレッシュされています。

原因：リフレッシュ中のマテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトで使用できません。

処置：リフレッシュ処理の終了後、問合せを再実行してください。

QSM-01029 マテリアライズド・ビュー *string* は ENFORCED 整合性モードで失効しています。

原因：クエリー・リライトの整合性モードが ENFORCED に設定されている場合、失効したマテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトで使用できません。

処置：マテリアライズド・ビューをリフレッシュするか、ALTER SESSION QUERY_REWRITE_INTEGRITY = STALE TOLERATED コマンドで、リライトの整合性モードを変更してください。

QSM-01030 マテリアライズド・ビュー *string* には ENFORCED 整合性モードで PL/SQL ファンクションがあります。

原因：問合せの整合性が ENFORCED に設定されている場合、定義に PL/SQL ファンクションを使用したマテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトで使用できません。

処置：STALE TOLERATED モードで、問合せを実行することを考慮してください。

QSM-01031 マテリアライズド・ビュー *string* は TRUSTED 整合性モードで失効しています。

原因：クエリー・リライトの整合性モードが TRUSTED に設定されている場合、失効したマテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトで使用できません。

処置：マテリアライズド・ビューをリフレッシュするか、ALTER SESSION QUERY_REWRITE_INTEGRITY = STALE TOLERATED コマンドで、リライトの整合性モードを変更してください。

QSM-01032 マテリアライズド・ビュー *string* が見つかりません。

原因：マテリアライズド・ビューに関連するメタデータがありません。

処置：綴りを確認するか、問合せを再実行してください。

QSM-01033 マテリアライズド・ビュー *string* で問合せがリライトされました。

原因: 指定されたマテリアライズド・ビューを使用して、問合せがリライトされました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01034 マテリアライズド・ビュー *string* には表 *string* を結合させるためのディメンション・レベルが必要です。

原因: 表に 1 つ以上の階層関係が構築されませんでした。

処置: ディメンションのレベルを追加して、内部の表の関係を構築することを考慮してください。

QSM-01039 外部結合の右側に選択が提示されています。

原因: 外部結合の右側に選択を含む述語がある場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01040 マテリアライズド・ビュー (*string*) と問合せ図形結合との間の一致が失敗しました。

原因: 問合せの結合とマテリアライズド・ビューが一致しない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01041 マテリアライズド・ビュー *string* が問合せ内の基準と一致しません。

原因: 問合せ内の基準 (SUM、AVERAGE など) がマテリアライズド・ビューと一致しない、またはマテリアライズド・ビューから算出できなかった場合、リライトでは使用されません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01042 *string* についてアンカーと一致結合アーク・チェックが失敗しました。

原因: 問合せに存在しないマテリアライズド・ビューに非可逆式結合が含まれる場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01043 *string* のセミジョインまたは逆結合の RHS への後戻り結合が表で試みられました。

原因: セミジョインまたは逆結合の右側の表に後戻り結合が必要な場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01044 後戻り結合が *string* のビューで試みられました。

原因：不足した列の検出に表への後戻り結合が必要な場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01046 関連列での複合の後戻り結合はできません (*string*)。

原因：副問合せで参照される列で後戻り結合が必要な場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01047 非 MAV リライトでの複合の後戻り結合はできません (*string*)。

原因：複合の後戻り結合によってクエリー・リライトを行えるのは、MAV リライト中のみです。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01048 後戻り結合レベルがありません (*string*)。

原因：クエリー・リライトには、不足した情報を検出するために、ディメンションのレベルで後戻り結合が必要です。

処置：ディメンションを作成することを考慮してください。

QSM-01050 マテリアライズド・ビュー *string* に対するロールアップ・チェックに失敗しました

原因：問合せに含まれる列が、マテリアライズド・ビューから算出できません。

処置：不足した情報を提供するディメンションの作成を考慮してください。

QSM-01051 列にウィンドウ機能が提示されているとき、ロールアップのサポートはありません。

原因：基準を算出するロールアップを必要とする列にウィンドウ機能がある場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01052 ENFORCED 整合性モードでは、表 *string* の参照整合性制約は VALID ではありません。

原因：マテリアライズド・ビュー内の結合には、クエリー・リライトの ENFORCED 整合性モードに有効な主キーまたは外部キー制約が必要です。

処置：制約を検証するか、ALTER SESSION SET QUERY_REWRITE_INTEGRITY = STALE_TOLERATED コマンドで、整合性モードを変更してください。

QSM-01053 TRUSTED/STALE TOLERATED 整合性モードでの表 *string* の NORELY 参照整合性制約

原因: マテリアライズド・ビュー内の結合には、主キーまたは外部キー制約に RELY モードを設定する必要があります。

処置: ALTER TABLE <table> MODIFY CONSTRAINT <constraint> RELY コマンドで、RELY モードを設定してください。また、ALTER TABLE <table> VALIDATE CONSTRAINT <constraint> で、制約を検証してください。

QSM-01055 問合せのリライトが必要なマテリアライズド・ビュー図形結合の割当てに失敗しました。

原因: 認識できないオペランドがあったため、図形結合の割当ておよび初期化に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01056 この DDL 式に問合せのリライトはありません。

原因: DDL 式の一部である SELECT 文には、リライト可能なものがあります。これには、CREATE AS SELECT および CREATE OUTLINE 文が含まれます。指定された問合せ式は、このカテゴリに入らない DDL 式です。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01057 この DML 式に問合せのリライトはありません。

原因: この DML は、更新可能なビューを使用して実行されたため、リライトはできません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01058 MV、*string* には後戻り結合に対する列 *string* がありません

原因: 問合せに含まれる GROUP BY 列は、マテリアライズド・ビューの GROUP BY 句にありません。通常、3 番目の表への後戻り結合が必要になります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01059 問合せブロックの HAVING 句は形式に合っていません。

原因: 不適切な HAVING 句が問合せに指定されています。

処置: 問合せ構文を修正し、問合せを再実行してください。

QSM-01060 HAVING 句の中の副問合せが無効です。

原因: HAVING 句に副問合せがある場合、外部問合せで参照できる表は、GROUP BY 句の表のみになります。

処置: 構文エラーを修正し、問合せを再実行してください。

QSM-01061 問合せ式が無効です。

原因：指定した問合せが無効です。次の基準のいずれかを満たしていません。

- a. 問合せに含まれるすべて（定数、集計を除く）の SELECT 式がグループ式で構成されている。
- b. HAVING 句に含まれるすべての列参照が、GROUP BY 式で指定されている。
- c. ORDER BY 句が含まれる場合、すべての列参照が、GROUP BY または SELECT 句で指定されている（問合せが DISTINCT を含むかどうかによる）。

処置：構文エラーを修正し、問合せを再実行してください。

QSM-01062 問合せは 1 つ以上の手動パーティションを持っています。

原因：問合せが手動パーティションを含む場合、クエリー・リライトは行えません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01063 問合せはディクショナリ表またはディクショナリ・ビューを持っています。

原因：問合せがディクショナリ表またはディクショナリ・ビューを参照する場合、クエリー・リライトは行えません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01064 問合せは固定表または固定ビューを持っています。

原因：問合せが固定表または固定ビューを参照する場合、クエリー・リライトは行えません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01065 マテリアライズド・ビュー *string* は、問合せで約数 *string* を計算できません。

原因：定義で基準を使用する問合せで、マテリアライズド・ビューが基準を算出できない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01066 マテリアライズド・ビュー *string* には問合せからの列 *string* がありません

原因：マテリアライズド・ビューが問合せに含まれるすべての列を参照できない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01067 マテリアライズド・ビュー *string* は問合せ基準 *string* をサポートできません。

原因：基準を変換する問合せで指定した式を使用して、グループ関数を送信しようとした。この変換に失敗すると、クエリー・リライトは行われません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01068 ディメンションがありません。

原因: ディメンションをロードしようとしたが、ディメンションがありませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01069 *string* のサマリー結合グラフには表 *string* がありません

原因: 結合の一部であるオブジェクトの検出に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01071 マテリアライズド・ビュー *string* の表 *string* からの非可逆式結合は問合せで見つかりません

原因: マテリアライズド・ビューのすべての非可逆式結合が問合せにない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01072 マテリアライズド・ビュー *string* と問合せは表 *string* の間で異なる結合を持っています。

原因: マテリアライズド・ビューのアンカーと問合せが一致しますが、これらのアンカーの結合と問合せが一致しません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01073 マテリアライズド・ビュー *string* には問合せで見つからなかった結合があります

原因: マテリアライズド・ビューに問合せにない結合がある場合、クエリー・リライトが行われない場合があります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01074 マテリアライズド・ビュー *string* と問合せは表 *string* の間で異なる数の結合を持っています。

原因: マテリアライズド・ビューにない表との結合が問合せに含まれる場合、クエリー・リライトが行われない場合があります。

QSM-01075 マテリアライズド・ビュー *string* は集計関数 *string* をサポートしません。

原因: 指定された集計関数がマテリアライズド・ビューにありません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01077 マテリアライズド・ビュー *string* は問合せよりも高いレベルでグループ化しています。

原因: マテリアライズド・ビューにない問合せ列が、マテリアライズド・ビューのロールアップによって取得された場合、マテリアライズド・ビューより高いレベルでグループ化される必要があります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01079 マテリアライズド・ビュー *string* が参照する表で DML 操作が発生しました。

原因: マテリアライズド・ビューの依存表で DML 操作が発生した場合、クエリー・リライトは、セッションのクエリー・リライトの整合性モードによって制限される場合があります。この場合、リライトの整合性モードが STALE_TOLERATED である場合のみ、クエリー・リライトが行われます。

処置: リライトの整合性モードを STALE_TOLERATED に変更してマテリアライズド・ビューをリフレッシュすることについて考慮してください。

QSM-01080 ディメンション *string* が無効です。

原因: このディメンション表には、認可またはコンパイルの問題があります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01081 表、*string* (MV、*string*) の主キーまたは ROWID が見つかりません。

原因: 不足した列を取得するために、マテリアライズド・ビューをこの表と後戻り結合する必要がありますが、表に主キーまたは ROWID がありません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01082 マテリアライズド・ビュー *string* と表 *string* の結合は不可能です。

原因: 問合せの列がサマリーにありません。列を取得するには、主キー、外部キーまたは表の ROWID を使用して、マテリアライズド・ビューをこの表に後戻り結合する必要があります。指定されたマテリアライズド・ビューは、結合処理を行う主キー、外部キーまたは表の ROWID を持っていません。

処置: 不足した情報を含むディメンション表の構築について考慮してください。

QSM-01083 問合せテキストは使用不能です - 可能なインライン・ビュー

原因: クエリー・リライトの変換中に、元の問合せがインライン・ビューに変換されました。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01084 マテリアライズド・ビュー *string* には問合せで見つからなかったアンカー *string* があります

原因: 別の表と結合されていない場合、または別の表と結合されているが、それぞれの結合が子側の表の非可逆式または可逆式のいずれかである場合、マテリアライズド・ビューの表はアンカーです。マテリアライズド・ビューのアンカーが問合せで見つからない場合、クエリー・リライトは行われません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01085 マテリアライズド・ビュー *string* は表 *string* の間で非可逆式結合を持っています。

原因: これらの表の間で、主キー制約または外部キー制約がありません。問合せに、表間の非可逆式結合があれば、クエリー・リライトを行うことができます。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01086 ディメンションが ENFORCED 整合性モードにないか使用されていません。

原因: クエリー・リライトは、クエリー・リライトの整合性モードが ENFORCED のディメンションは使用しません。適切なディメンションがあれば、ALTER SESSION SET QUERY_REWRITE_INTEGRITY コマンドで、現行の整合性モードを TRUSTED または STALE_TOLERATED に変更することを考慮してください。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01087 マテリアライズド・ビュー *string* から導出できない列での問合せのグループ化

原因: 認識できない列で、問合せがグループ化されています。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01091 コスト・ベースのオプティマイザが、問合せのリライトはより高価であることを見つけました。

原因: コストベースのオプティマイザが ON である場合、クエリー・リライトを使用せずにリライトされたカーソルのコストと生成されたカーソルのコストが比較され、コストの小さい方が実行されます。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01092 マテリアライズド結合ビューがセミジョインをリライトしようとします。主キーまたは ROWID がありません。

原因: マテリアライズド結合ビューがセミジョイン (IN 副問合せ) をリライトしようとしたが、セミジョインの左側の表の主キーまたは ROWID がマテリアライズド結合ビューにありません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01093 逆結合マーカーがマテリアライズド結合ビューの中に見つかりません。

原因: 問合せが内部結合を含んでいますが、マテリアライズド結合ビューが外部結合を持ちます。正常にリライトするためには、マテリアライズド・ビューが、外部結合の右側の表の ROWID や主キーなどの逆結合マーカーを持つ必要があります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01094 外部結合フィルタがマテリアライズド結合ビューの中に見つかりません。

原因: 問合せが内部結合を含んでいますが、マテリアライズド結合ビューが外部結合を持ちます。正常にリライトするためには、マテリアライズド・ビューが、外部結合の右側の表の ROWID や主キーなどの逆結合マーカーを持つ必要があります。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01095 適切な grouping_id がグループ化設定を持つマテリアライズド・ビューの中に見つかりません。

原因：マテリアライズド集計ビューがグループ化設定を含む場合、grouping_id() ファンクションを含む必要があります。このファンクションには、MV GROUP BY にあるすべての列を含める必要があります。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01096 グループ化設定を持つマテリアライズド・ビューはコピーを含んでいます。

原因：グループ化設定を持つマテリアライズド・ビューには、コピーが含まれ、リライトはサポートされていません。たとえば、GROUP BY GROUPING SET ((a), (a)) のリライトはサポートされていません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01097 グループ化設定を持つマテリアライズド・ビューがロング・キーを持っています。

原因：グループ化設定を持つマテリアライズド・ビューの GROUP BY に、65 以上の異なるキーが含まれています。リライトはサポートされていません。

処置：処置は必要ありません。

QSM-01098 マテリアライズド・ビュー string 句は問合せ string 句よりも制限します。

原因：要求の問合せ文の選択条件より、マテリアライズド・ビューに含まれる WHERE 句または HAVING 句の選択条件は制限されます。

処置：要求の問合せの選択基準をマテリアライズド・ビューの基準と同じ制限に変更するか、マテリアライズド・ビューを削除して、制限の少ない選択基準のマテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-01099 表 string のマテリアライズド・ビューの失効部分への非許容参照

原因：マテリアライズド・ビューが部分的に失効しています。1 つ以上のディテール表の 1 つ以上のパーティションについて、失効しています。要求の問合せは、このようなディテール・パーティションを 1 つ以上参照しています。

処置：ALTER [SYSTEM|SESSION] QUERY_REWRITE_INTEGRITY = STALE_TOLERATED で、要求の選択基準を、マテリアライズド・ビューのリフレッシュ済の部分のみに変更してください。または、マテリアライズド・ビューをリフレッシュしてください。

QSM-01100 mv string の包含チェックに失敗しました

原因：要求の問合せ文の選択条件より、マテリアライズド・ビューに含まれる WHERE 句または HAVING 句の選択条件は制限されます。

処置：要求の問合せの選択基準をマテリアライズド・ビューの基準と同じ制限に変更するか、マテリアライズド・ビューを削除して、制限の少ない選択基準のマテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-01101 mv string でロールアップが実行されました

原因: 問合せの GROUP BY がマテリアライズド・ビューの高いレベルの列を含む場合、正しい結果を算出するために、マテリアライズド・ビューの低いレベルの列はロールアップされます。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01102 マテリアライズド・ビュー string には表 string (列 string) への後戻り結合が必要です

原因: 問合せに含まれる列がマテリアライズド・ビューにありません。クエリー・リライトは、列を含むマテリアライズド・ビューを後戻り結合して、実表からこの列を取得します。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-01103 問合せで参照されるリモート表 string があります

原因: クエリー・リライトは、リモート表を含む問合せはサポートしていません。

処置: 処置は必要ありません。

QSM-02001 クラスタ化マテリアライズド・ビューのコンテナ表

原因: 問合せの機能は、クラスタ化コンテナ表を含むマテリアライズド・ビューではサポートされていません。

処置: 従来のコンテナ表を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-02002 DISTINCT は SELECT リストの中の約数を集計します。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数に DISTINCT 修飾子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: DISTINCT 修飾子を削除してください。

QSM-02003 式の中にネストされる集計関数

原因: マテリアライズド・ビューが、別の式でネストされる集計関数の起動を含む場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 集計関数の起動がネストされないように、式を書きなおしてください。

QSM-02004 SELECT リストから無視されたグループ化列

原因: マテリアライズド・ビューが、出力選択式のリストにない GROUP BY 句の列または式を含む場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 出力選択リストにすべての GROUP BY を含めてください。

QSM-02005 FROM リストの名前付きビュー

原因: FROM リストの名前付きビューにおいて、問合せの機能はサポートされていません。

処置: FROM リストから名前付きビューを削除してください。

QSM-02006 FROM リストの副問合せ

原因: FROM リストの副問合せにおいて、問合せの機能はサポートされていません。

処置: FROM リストから副問合せを削除してください。

QSM-02007 同じ表またはビューの複数インスタンス

原因: FROM リストの同じ表またはビューについて、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 同じ表の複数インスタンスがないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02008 WHERE または HAVING 句の非結合フィルタ条件

原因: マテリアライズド・ビューが、WHERE 句または HAVING 句で選択条件（結合されていない式）を指定する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択フィルタ式を削除してください。

QSM-02009 非内部結合

原因: 問合せの機能は、内部結合のみでサポートされています。

処置: 内部結合を使用した問合せに書きなおしてください。その他の外部結合を削除してください。

QSM-02010 等号 (=) 以外の演算子を含む述語結合

原因: マテリアライズド・ビューが、WHERE 句の結合で等号 (=) 以外の関係演算子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。これは、非等価結合といいます。

処置: 非等価結合がないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02011 HAVING 句があります。

原因: マテリアライズド・ビューでは、HAVING を使用する問合せの機能はサポートされていません。

処置: HAVING 句を削除してください。

QSM-02012 CONNECT BY 句があります。

原因: マテリアライズド・ビューでは、CONNECT BY 句を使用する問合せの機能はサポートされていません。

処置: CONNECT BY 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02013 SELECT リストは RAW データ型の式を含みます。

原因：式に RAW データ型を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：RAW 型の式への参照を削除してください。

QSM-02014 列以外の GROUP BY 式

原因：マテリアライズド・ビューが、GROUP BY 句で 1 つの列の参照以外の式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：GROUP BY 句で列の式を 1 つのみ使用するように問合せを書きなおしてください。

QSM-02015 FROM リストの索引構成表 (IOT)

原因：マテリアライズド・ビューが、FROM リストの索引構成表を参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：索引構成表への参照を削除してください。

QSM-02016 FROM リストのクラスタ化表

原因：マテリアライズド・ビューが、FROM リストのクラスタ化表を参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：FROM リストのクラスタ化された表への参照を削除してください。

QSM-02017 HAVING 句の副問合せ

原因：マテリアライズド・ビューが、HAVING 句で副問合せを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：副問合せで HAVING 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02018 WHERE 句の副問合せ

原因：マテリアライズド・ビューが、WHERE 句で副問合せを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：副問合せで WHERE 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02019 マテリアライズド・ビューが FROM 句の別のマテリアライズド・ビューを参照します。

原因：マテリアライズド・ビューがネストされている (FROM で別のマテリアライズド・ビューを参照している) 場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：別のマテリアライズド・ビューへの参照がないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02020 NOT NULL 制約を持つ SELECT リストにないコンテナ列

原因：マテリアライズド・ビューのコンテナ表が、選択リストの出力式に対応付けられていない列を含み、その列に NOT NULL 制約が指定されている場合の問合せの機能は、サポートされていません。この場合、マテリアライズド・ビューに挿入された新しい行の列が NULL に設定されるため、リフレッシュ中に問題が発生します。

処置：NOT NULL 制約を使用禁止にするか、削除してください。

QSM-02021 マテリアライズド・ビューで見つかった集合演算子

原因：マテリアライズド・ビューが、UNION、UNION ALL、MINUS などの集合演算子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：集合演算子を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02022 一括選択

原因：マテリアライズド・ビューが、HAVING 句で集計の式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：HAVING 句で集計を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02023 ネストされたカーソル

原因：マテリアライズド・ビューが、ネストされたカーソルの式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：ネストされたカーソルの式を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02024 GROUP BY 句はありません。

原因：マテリアライズド・ビューが、GROUP BY 句で集計の式を使用しない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：GROUP BY 句を使用するように、パスワードを書きなおしてください。

QSM-02025 集計関数はありません。

原因：マテリアライズド・ビューが集計関数を使用しない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：集計関数を使用するように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02026 WHERE 句の非 AND 論理積

原因：マテリアライズド・ビューが、WHERE で AND 以外（OR など）の論理積を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：非 AND 論理積を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02027 ROLLUP 別グループ

原因: マテリアライズド・ビューが、GROUP BY 句で ROLLUP 演算子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: ROLLUP 演算子を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02028 CUBE 別グループ

原因: マテリアライズド・ビューが、GROUP BY 句で CUBE 演算子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: CUBE 演算子を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02029 PL/SQL ファンクション起動

原因: PL/SQL ファンクションを起動するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: PL/SQL ファンクションを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02030 低下した精度がビルトイン・マテリアライズド・ビューに指定されました。

原因: WITH REDUCED PRECISION 句を指定して作成されたマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: マテリアライズド・ビューを削除し、WITH REDUCED PRECISION 句を使用せずに再作成してください。

QSM-02031 マテリアライズド・ビューはどのタイプの問合せのリライトもサポートできません。

原因: マテリアライズド・ビューは、クエリー・リライトで使用できません。

処置: 別のエラー・メッセージおよびドキュメントを確認して、そのエラーの原因を判別してください。

QSM-02032 WHERE 句には結合はありません。

原因: マテリアライズド・ビューが、WHERE 句で結合条件を含まない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 結合を含むように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02033 WHERE 句にはフィルタ条件はありません。

原因: マテリアライズド・ビューが、WHERE 句でフィルタ選択条件を含まない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: フィルタ条件を追加してください。

QSM-02034 HAVING 句には結合はありません。

原因: マテリアライズド・ビューが、HAVING 句で結合条件を含まない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 結合を含むように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02035 HAVING 句にはフィルタ条件はありません。

原因：マテリアライズド・ビューが、HAVING 句でフィルタ条件を含まない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：結合を含むように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02036 マテリアライズド・ビューにある IN リスト

原因：マテリアライズド・ビューが IN リストを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：IN リストを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02037 コンパイル時に定数式を評価できません。

原因：マテリアライズド・ビューが、WHERE 句または HAVING 句のフィルタ条件で、コンパイル時非定数式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。たとえば、WHERE X=1 は、フィルタ条件でコンパイル時定数式を使用しています。WHERE X=MY_PLSQL_FUNCTION() は、フィルタ条件でコンパイル時非定数式を使用しています。

処置：フィルタ条件でコンパイル時非定数式を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02038 パーティション変更のトラッキング (PCT) が使用可能です

原因：このマテリアライズド・ビューでは、パーティション変更のトラッキング (PCT) 機能がサポートされています。

処置：処置は必要ありません。

QSM-02039 トップレベルのマテリアライズド・ビュー問合せはグループ化設定を使用します。

原因：グループ化設定を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：グループ化設定を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02040 トップレベルの問合せに GSets が含まれており、キーが長すぎてリライトできません

原因：キーが長すぎるグループ化設定を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：グループ化設定キーの数を減らしてください。

QSM-02041 ネストされた集計関数

原因：マテリアライズド・ビューが、別の集計関数の引数として集計関数の起動をネストする場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：集計関数の起動をネストしないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02042 from リストのビューまたは副問合せ

原因: マテリアライズド・ビューが、FROM リストのビューまたは副問合せを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: FROM に、ビューまたは副問合せを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02044 マテリアライズド・ビューの ORDER BY 句

原因: ORDER BY を含むマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: ORDER BY 句を削除してください。

QSM-02045 マテリアライズド・ビューの START WITH 句

原因: START WITH 句を含むマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: START WITH 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02047 マテリアライズド・ビューのウィンドウ機能

原因: ウィンドウ機能を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: ウィンドウ機能を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02048 マテリアライズド・ビューの外部結合

原因: 外部結合を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 外部結合を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02049 マテリアライズド・ビューの ANY 句を使用した副問合せ

原因: マテリアライズド・ビューが、副問合せで ANY 句を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: ANY 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02050 マテリアライズド・ビューの ALL 句を使用した副問合せ

原因: マテリアライズド・ビューが、副問合せで ALL 句を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: ALL 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02051 マテリアライズド・ビューの NOT EXISTS 句を使用した副問合せ

原因: マテリアライズド・ビューが、副問合せで NOT EXISTS 句を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: NOT EXISTS 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02052 マテリアライズド・ビューの選択リストを使用した副問合せ

原因: 選択リストを使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 選択リストを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02053 マテリアライズド・ビューのコレクション副問合せ

原因: コレクション副問合せを使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: コレクション副問合せを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02054 マテリアライズド・ビューの選択リストの DISTINCT 句

原因: マテリアライズド・ビューが、選択リストで DISTINCT 句を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: DISTINCT 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02055 マテリアライズド・ビューは圧縮されたオブジェクト表またはビューを参照します。

原因: マテリアライズド・ビューが、圧縮されたオブジェクト表またはビューを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 圧縮されたオブジェクト表またはビューを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02056 マテリアライズド・ビューの相関変数と外部結合

原因: 相関変数および外部結合を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 相関変数または外部結合を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02057 マテリアライズド・ビューで参照された ROWNUM

原因: マテリアライズド・ビューが、ROWNUM ファンクションを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: ROWNUM ファンクションを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02058 mv の演算子を設定します。互換性モードは 9.0 未満です

原因: マテリアライズド・ビューが、集合演算子および 9.0 未満の互換性モードを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 集合演算子を使用しない問合せまたは互換性モードが 9.0 以上の問合せに書きなおしてください。

QSM-02059 結合はマテリアライズド・ビューに重複行を作成する場合があります。

原因: マテリアライズド・ビューが、マテリアライズド・ビューに重複行を作成する結合条件を含む場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: マテリアライズド・ビューに重複行が作成されないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02061 マテリアライズド・ビューにある 1 つ以上の結合

原因: 結合を含むマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 結合を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02062 マテリアライズド・ビューの GROUP BY 句

原因: GROUP BY を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: GROUP BY 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02063 マテリアライズド・ビューの集計関数

原因: 集計関数を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 集計関数を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02064 マテリアライズド・ビューの副問合せ

原因: 副問合せを使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 副問合せを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02066 Oracle エラー: 詳細は RELATED_NUM および RELATED_TEXT を参照してください

原因: マテリアライズド・ビューを作成しようとするエラーが発生するので、問合せの機能はサポートされていません。

処置: RELATED_NUM 列の関連する Oracle エラー・コードおよび RELATED_TEXT 列の Oracle エラー・テキストを確認して、問題を解決してください。

QSM-02067 選択リストにパーティション・キーまたは PMARKER がありません。

原因: マテリアライズド・ビューの選択リスト (GROUP BY 句がある場合は、group by リストも) に、問合せの表のパーティション・キー、または問合せの表への PMARKER ファンクション参照のいずれも含まれない場合、問合せ機能はサポートされません。

処置: 選択リスト (ある場合は GROUP BY 句も) に、パーティション・キーまたは PMARKER ファンクション参照を追加してください。

QSM-02068 リレーションはパーティション表ではありません。

原因：問合せのリレーションがパーティション表でない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：パーティション表を参照するように、問合せを修正してください。

QSM-02069 PCT では複数列からなるパーティション・キーをサポートしていません

原因：問合せの表が、複数列で構成されるキーでパーティション化されている場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：1 つの列で構成されるキーでパーティション化された表を参照するように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02070 PCT ではこのタイプのパーティション化をサポートしていません

原因：問合せの表が、このタイプのパーティション化を使用する問合せの機能は、サポートされていません。

処置：この機能でサポートされているタイプのパーティション化を使用する表を参照するように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02071 内部エラー：PCT 障害コードが定義されていません

原因：Oracle の内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-02072 ネストされたマテリアライズド・ビューの高速リフレッシュのための要件は満たされていません。

原因：この機能の 1 つ以上の要件が満たされていないため、問合せの機能はサポートされません。

処置：『Oracle9i データ・ウェアハウス・ガイド』でネストされたマテリアライズド・ビューに関連する記述を調べて、問題を解決してください。

QSM-02073 主キーでない RepAPI マテリアライズド・ビューは高速リフレッシュできません。

原因：RepAPI マテリアライズド・ビューの高速リフレッシュは、主キーであるマテリアライズド・ビューのみでサポートされています。

処置：マテリアライズド・ビューが主キーであるマテリアライズド・ビューになるように、再設計してください。

QSM-02074 異機種間サービスのリンクにまたがるマテリアライズド・ビュー

原因：異機種間リンクを使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：異機種間リンクを使用しないように、マテリアライズド・ビューを再設計してください。

QSM-02075 シノニムのマテリアライズド・ビュー

原因: シノニムを参照するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: シノニムを使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02077 マテリアライズド・ビュー・ログは最新の全体リフレッシュよりも新しいです。

原因: マテリアライズド・ビューの作成または最新の完全リフレッシュ後に、関連するマテリアライズド・ビュー・ログが作成された場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: マテリアライズド・ビューの完全リフレッシュを実行してください。

QSM-02078 マテリアライズド・ビュー・ログは新しい値を持つ必要があります。

原因: 関連するマテリアライズド・ビュー・ログが新しい値を持たない場合、問合せの機能はサポートされません。

処置: NEW VALUES 句を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-02079 マテリアライズド・ビュー・ログは ROWID を持つ必要があります。

原因: 関連するマテリアライズド・ビュー・ログが ROWID を持たない場合、問合せの機能はサポートされません。

処置: ROWID 句を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-02080 マテリアライズド・ビュー・ログは主キーを持つ必要があります。

原因: 関連するマテリアライズド・ビュー・ログが主キーを持たない場合、問合せの機能はサポートされません。

処置: PRIMARY KEY 句を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。

QSM-02081 マテリアライズド・ビュー・ログは必要な列をすべて持っているわけではありません。

原因: 関連するマテリアライズド・ビュー・ログが、マテリアライズド・ビューの選択リストで参照する列を持たない場合、問合せの機能はサポートされません。

処置: マテリアライズド・ビュー・ログを再作成し、選択リストで参照するすべての列を含めてください。

QSM-02082 マテリアライズド・ビュー・ログの問題

原因: マテリアライズド・ビュー・ログに問題があるため、問合せの機能はサポートされません。

処置: 『Oracle9i データ・ウェアハウス・ガイド』でマテリアライズド・ビュー・ログおよび高速リフレッシュに関連する記述を調べて、問題を解決してください。

QSM-02083 マテリアライズド・ビューは状態をメンテナンスする PL/SQL ファンクションを参照します。

原因：状態をメンテナンスし、起動するたびに同じ行が同じ値を返すとはかぎらない PL/SQL ファンクションをマテリアライズド・ビューが参照する場合、問合せの機能はサポートされません。

処置：このような PL/SQL ファンクションを使用しないように、問合せを書きなおしてください。または、状態のメンテナンスをしないように PL/SQL ファンクションを修正し、それに従って、宣言を変更してください。

QSM-02084 重複を識別する集計関数の DISTINCT 句

原因：マテリアライズド・ビューが、このコンテキストで DISTINCT 句を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：DISTINCT 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02086 マテリアライズド・ビューは MIN または MAX 集計関数を使用します。

原因：MIN または MAX 関数を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：MIN または MAX 関数を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02088 マテリアライズド・ビューは選択リストから少なくとも 1 つのグループ化キーを無視します。

原因：マテリアライズド・ビューが、選択リストのグループ化の式を無視する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：選択リストにすべての GROUP BY を含めてください。

QSM-02090 SELECT は単なる列ではない式を含みます。

原因：マテリアライズド・ビューが、単純な列参照ではない選択リストの式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：単純な列参照ではない式を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02091 マテリアライズド・ビューは非リピータブルまたはセッションを識別する式を参照します。

原因：マテリアライズド・ビューが、起動するたびに同じ行に対して同じ値を返すとはかぎらない式、または返す値がセッション・パラメータによって異なる式を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置：このような式を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02092 マテリアライズド・ビューは順序番号を参照します。

原因：順序番号を参照するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置：順序番号を参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02093 マテリアライズド・ビューはオブジェクト REF 句を使用します。

原因: オブジェクト REF 句を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: オブジェクト REF 句を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02096 マテリアライズド・ビューは名前付きビューを参照します。

原因: ビューを参照するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: ビューを参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02099 マテリアライズド・ビューは FROM リストのリモート表またはビューを参照します。

原因: マテリアライズド・ビューが、FROM リストのリモート表またはビューを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: リモート表またはビューを参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02101 マテリアライズド・ビューは FROM リストのシノニムを参照します。

原因: マテリアライズド・ビューが、FROM リストのシノニムを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: シノニムを参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02102 マテリアライズド・ビューの FROM リストは SYS スキーマのオブジェクトを参照します。

原因: マテリアライズド・ビューが、SYS スキーマのオブジェクトを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: SYS スキーマを参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02104 HAVING 句のフィルタ条件の集計関数

原因: マテリアライズド・ビューが、HAVING 句のフィルタ条件で集計関数を参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: HAVING 句のフィルタ条件で集計関数を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02106 マテリアライズド・ビューは WHERE または HAVING 句のフィルタ条件を使用します。

原因: マテリアライズド・ビューが、HAVING 句または WHERE 句にフィルタ条件を含む場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: HAVING 句または WHERE 句でフィルタ条件を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02112 トップレベルの間合せは LEFT OUTER、RIGHT OUTER または FULL OUTER 結合を持っています。

原因: これらの種類の結合を使用するマテリアライズド・ビューでは、間合せの機能はサポートされていません。

処置: これらの種類の結合を使用しないように、間合せを書きなおしてください。

QSM-02113 選択リストの式は複数の表またはビューを参照します。

原因: マテリアライズド・ビューが、複数の表またはビューを参照する選択リストの式を使用する場合の間合せの機能はサポートされていません。

処置: このような式を使用しないように、間合せを書きなおしてください。

QSM-02114 GROUP BY 句、集計がありません。9.0 以上の互換性ではありません

原因: マテリアライズド・ビューに、GROUP BY 句、集計がなく、互換性モードが 8.1 以下の場合の間合せの機能はサポートされていません。

処置: GROUP BY 句または集計関数を含むように、間合せを書き直すか、互換性モードを 9.0 以上に設定してください。

QSM-02115 マテリアライズド・ビューはリモート・オブジェクトを参照し、ON COMMIT でリフレッシュされます。

原因: マテリアライズド・ビューが、リモート・オブジェクトを参照し、ON COMMIT でリフレッシュされる場合の間合せの機能は、サポートされていません。

処置: リモート・オブジェクトを参照しないように、間合せを書きなおすか、マテリアライズド・ビューが ON DEMAND でリフレッシュされるようにしてください。

QSM-02116 複数のマスター・サイト

原因: マテリアライズド・ビューが、異なるリモート・インスタンスにある複数のリモート・オブジェクトを参照する場合の間合せの機能は、サポートされていません。

処置: 複数のマスター・サイトを使用しないように、間合せを書きなおしてください。

QSM-02117 GROUP BY 列に GROUPING_ID または GROUPING ファンクションがありません。

原因: マテリアライズド・ビューが、グループ化設定を使用するが、適切な GROUPING_ID または GROUPING ファンクションを指定していない場合の間合せの機能は、サポートされていません。

処置: 適切な GROUPING_ID または GROUPING ファンクションを含むように、間合せを書きなおしてください。

QSM-02118 重複したグループ化設定

原因: マテリアライズド・ビューが、グループ化設定を重複して参照する場合の間合せの機能は、サポートされていません。

処置: グループ化設定を重複して使用しないように、間合せを書きなおしてください。

QSM-02119 必須のサポート集計の分析中に内部エラーが発生しました。

原因: Oracle の内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-02120 互換性モードは 9.0 以上である必要があります

原因: 互換性モードが 8.1 以下の問合せはサポートされていません。

処置: 互換性モードを 9.0 以上に設定してください。

QSM-02121 コンテキストの集合演算子が高速リフレッシュのためにサポートされていません。

原因: マテリアライズド・ビューが、このコンテキストで集合演算子を使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 集合演算子を使用しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02122 互換性モードは 8.1 以上である必要があります。

原因: 互換性モードが 8.0 以下の問合せはサポートされていません。

処置: 互換性モードを 8.1 以上に設定してください。

QSM-02123 副問合せおよび UNION マテリアライズド・ビューは主キー・マテリアライズド・ビューである必要があります。

原因: マテリアライズド・ビューが、主キー・マテリアライズド・ビューでなく、副問合せまたは UNION 演算子をコンテキストで使用する場合の問合せはサポートされていません。

処置: マテリアライズド・ビューが主キー・マテリアライズド・ビューになるように、再設計してください。

QSM-02124 WHERE 句のオブジェクト型

原因: マテリアライズド・ビューが、WHERE 句のオブジェクト型を参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: オブジェクト型を参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02125 副問合せ結合条件は機能の要件を満たしません。

原因: マテリアライズド・ビューが、このような結合で副問合せを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 副問合せマテリアライズド・ビューに関連するレプリケーション・ドキュメントを調べて、問題を解決してください。

QSM-02126 マスター・サイトに ROWID がありません。

原因: マテリアライズド・ビューが、ROWID をサポートしないリモート・サイトを参照する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: リモート・サイトを参照しないように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02127 マスター・サイトの Oracle バージョンにおいて、このタイプ、マテリアライズド・ビューに対してサポートされていません

原因: マテリアライズド・ビューが、特定の構造体を使用し、古いバージョンのリモート Oracle インスタンスを使用する場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 構造体を使用しないように問合せを書きなおすか、リモート Oracle インスタンスをアップグレードしてください。

QSM-02128 主キー・マテリアライズド・ビューの要件を満たしません。

原因: マテリアライズド・ビューが、主キー・マテリアライズド・ビューの要件を満たさなかった場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 適切な主キー・マテリアライズド・ビューのレプリケーション・ドキュメントを調べて、問題を解決してください。

QSM-02129 結合またはフィルタ条件が複合しています。

原因: 複合している結合およびフィルタ条件を使用するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 結合またはフィルタ条件が単一になるように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02130 式が高速リフレッシュのためにサポートされていません。

原因: 特定の複合式を参照するマテリアライズド・ビューでは、問合せの機能はサポートされていません。

処置: 単純な式を使用するように、問合せを書きなおしてください。

QSM-02131 集計 (式) は対応する SUM (式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で SUM 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに SUM 関数を追加してください。

QSM-02132 集計 (式) は対応する COUNT (式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で COUNT 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに COUNT 関数を追加してください。

QSM-02133 集計 (式) は対応する MIN (式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で MIN 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに MIN 関数を追加してください。

QSM-02134 集計 (式) は対応する MAX(式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で MAX 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに MAX 関数を追加してください。

QSM-02135 集計 (式) は対応する AVG(式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で AVG 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに AVG 関数を追加してください。

QSM-02136 集計 (式) は対応する VARIANCE(式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で VARIANCE 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに VARIANCE 関数を追加してください。

QSM-02137 集計 (式) は対応する STDDEV(式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数で STDDEV 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに STDDEV 関数を追加してください。

QSM-02138 集計 (式) は対応する集計 (式 * 式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数の 2 乗で同じ集計関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 同じ引数の 2 乗 (引数 * 引数) で同じ集計関数の起動を追加してください。

QSM-02139 集計 (式) は対応する集計 (式 + 式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数を足した引数で同じ集計関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 選択リストに指定した集計関数を追加してください。

QSM-02140 集計 (式) は対応する SUM(式 * 式) 関数を必要とします。

原因: マテリアライズド・ビューが、集計関数を使用しているが、同じ引数の 2 乗 (引数 * 引数) で SUM 関数を起動していない場合の問合せの機能は、サポートされていません。

処置: 引数の 2 乗で SUM 関数を追加してください。

QSM-02141 機能が無効化された理由は分析からはずれました。

原因: EXPLAIN_MV 分析エンジンが、指定された機能が無効化された理由の獲得に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-02142 COUNT(*) は選択リストにありません。

原因：マテリアライズド・ビューの間合せの選択リストに COUNT(*) がありません。

処置：選択リストに COUNT(*) を追加してください。

QSM-02143 COUNT(式) のない SUM(式)

原因：選択リストに、対応する COUNT(式) のない SUM(式) があります。

処置：選択リストに COUNT(式) を追加してください。

QSM-02144 集計関数が GROUP BY 句なしで提示されています。

原因：選択リストに 1 つ以上の集計関数がありますが、GROUP BY 句が使用されていません。

処置：GROUP BY 句を追加してください。

QSM-02145 GROUP BY 句が提示されていますが、集計関数を使用されていません。

原因：GROUP BY 句が使用されていますが、選択リストに集計関数がありません。

処置：選択リストに集計関数を追加してください。

QSM-02146 REFRESH_FAST_AFTER_INSERT を使用できない理由を参照してください

原因：REFRESH_FAST_AFTER_INSERT が使用できないのと同じ理由で、REFRESH_FAST_AFTER_ONETAB_DML が使用できません。

処置：REFRESH_FAST_AFTER_INSERT を修正してください。

QSM-02147 デフォルトの日付書式はセッションの設定によります。

原因：デフォルトの書式または不完全な書式を使用した日付変換操作が指定されました。デフォルトの日付書式または不完全な書式は、セッションの設定に依存します。このため、異なる環境で再現できません。

処置：完全な日付書式文字列を指定してください。

QSM-02148 多対多副問合せ結合には 9.0 以上の互換性が必要です

原因：8.1 以下の互換性モードで実行中に、多対多副問合せ結合がマテリアライズド・ビューに指定されました。

処置：互換性モードを 9.0 以上に設定するか、マテリアライズド・ビューの間合せを再作成してください。

QSM-02149 この MV を使用する ON COMMIT には 9.0 以上の互換性が必要です

原因: 8.1 以下の互換性モードで実行中に、次のいくつかの組合せと REFRESH ON COMMIT オプションを組み合わせて使用するマテリアライズド・ビューが指定されました。

- 結合
- 集計
- WHERE 句のフィルタ条件
- FROM リストのリモート・リレーション
- COUNT(x) 関数と対応付けられていない SUM(x) 関数
- COUNT(*) を指定していない集計関数
- MIN() または MAX() 集計関数

処置: 互換性モードを 9.0 以上に設定するか、マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02150 選択リストは UNION 演算子を超えて同一である必要があります

原因: UNION 演算子を使用するマテリアライズド・ビューが指定され、UNION 演算子の両側の問合せがそれぞれ異なる選択リストを持っています。RELATED_NAME 列に、最初の異なる選択リスト項目の別名が示されます。RELATED_NUM 列に、SELECT キーワードから選択リスト項目の始めまでのオフセットが示されます。

処置: UNION 演算子の両側に、それぞれ同じ選択リストを持つように、マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02151 FROM リストの副問合せまたは名前付きビュー、9.0 未満の互換性です

原因: 9.0 未満の互換性モードで実行中に、トップレベルの FROM リストで、副問合せまたは名前付きビューを参照するマテリアライズド・ビューが指定されました。

処置: 互換性モードを 9.0 以上に設定するか、マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02152 ビューのマージ直後の FROM リストの副問合せまたは名前付きビュー

原因: ビューのマージ中に、マージできないトップレベルの FROM リストで、副問合せまたは名前付きビューを参照するマテリアライズド・ビューが指定されました。

処置: マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02153 FROM リストのビューまたは副問合せはこのタイプのマテリアライズド・ビューのためにサポートされません。

原因: 集計を含まないトップレベルの FROM リストで、ビューまたは副問合せを参照するマテリアライズド・ビューが指定されました。指定された機能は、このタイプのマテリアライズド・ビューではサポートされていません。

処置: マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02154 マテリアライズド・ビューに結合または集計（操作）はありません。

原因：結合または集計を使用しないマテリアライズド・ビューが指定されました。指定された機能は、このようなマテリアライズド・ビューではサポートされていません。

処置：マテリアライズド・ビューの問合せを再作成してください。

QSM-02161 REFRESH_FAST_AFTER_ONETAB_DML を使用できない理由を参照してください

原因：REFRESH_FAST_AFTER_ONETAB_DML が使用できないのと同じ理由で、REFRESH_FAST_AFTER_ANY_DML が使用できません。

処置：REFRESH_FAST_AFTER_ONETAB_DML を修正してください。

QSM-02162 詳細表にはマテリアライズド・ビュー・ログがありません

原因：マスター表にマテリアライズド・ビュー・ログがないので、高速リフレッシュを実行できません。

処置：CREATE MATERIALIZED VIEW LOG 文を使用して、マスター表にマテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

QSM-02163 マテリアライズド・ビュー・ログからのオブジェクト ID 列を使用できません

原因：マテリアライズド・ビュー・ログに記録されたオブジェクト ID 列がないか、オブジェクト ID 列に関連付けられたタイムスタンプが前回のリフレッシュ時刻より最近です。

処置：次の高速リフレッシュの前に、完全リフレッシュを実行する必要があります。必要に応じて、マテリアライズド・ビュー・ログにオブジェクト ID 列を追加してください。

Recovery Manager メッセージ (RMAN)

Recovery Manager の詳細は、『Oracle9i Recovery Manager ユーザーズ・ガイド』および『Oracle9i ユーザー管理バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

RMAN-00550 パーサー・パッケージがロードに失敗しました

原因: LPMLOADPKG() でエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00551 パーサー・パッケージの初期化が失敗しました

原因: パーサー・パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00552 コマンドライン引数に構文エラーがあります。

原因: RMAN に入力された引数が解析できないか、または引数が入力されていません。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00553 内部 Recovery Manager パッケージのロードに失敗しました。

原因: LPMLOADPKG() でエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00554 内部 Recovery Manager パッケージの初期化に失敗しました。

原因: 内部パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00555 ターゲット・データベース接続文字列を指定する必要があります。

原因: TARGET パラメータが指定されていません。

処置: 必要なパラメータを入力してください。

RMAN-00556 CMDFILE "string" をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、ファイルが存在していること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの読取り権限があることを確認してください。

RMAN-00557 MSGLOG "string" をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、ファイルが存在していること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの書き込み権限があることを確認してください。

RMAN-00558 入力コマンド解析中にエラーが見つかりました。

原因: パーサーが構文エラーを見つけました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-00562 ユーザー名が長すぎます。

原因: 指定されたユーザー名が、ユーザー名に許可される最大長を超えています。

処置: ユーザー名を修正してください。

RMAN-00563 パスワードが長すぎます。

原因: 指定されたパスワードが、パスワードに許可される最大長を超えています。

処置: パスワードを修正してください。

RMAN-00564 ホスト・データが長すぎます。

原因: Oracle Net ホストの接続文字列が、許可される最大長を超えています。

処置: ホストの文字列を修正してください。

RMAN-00565 入力ファイルが読み込めません。

原因: STDIN または CMDFILE から読み込もうとして、エラーが発生しました。

処置: CMDFILE が読み込み可能であることを確認してください。CMDFILE は、1 レコードにつき 1 行のテキスト・ファイルである必要があります。

RMAN-00566 TRACE "string" をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの書き込み権限があることを確認してください。

RMAN-00567 Recovery Manager で印刷できなかったエラー・メッセージがあります

原因: エラー・メッセージ・スタックを印刷しようとして、エラーが発生しました。

処置: 関連するエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00568 ユーザーによる割込みを受け取りました。

原因: Control-C (^C) または ATTN がユーザーにより入力されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-00569 ===== ERROR MESSAGE STACK FOLLOWS =====

原因: このメッセージはエラー・メッセージ・スタックに先行します。

処置: エラーは最後から順に出力されます。正しく解釈するには、一番下から上に向かって読んでください。

RMAN-00570 ** ファイル終り **

原因: インライン CMDFILE の終わりに達しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-00571 =====

RMAN-00572 dbms_pipe 入力を待機しています。

原因: このメッセージは、PIPE オプションが指定されたときのみ表示されます。

処置: パイプに RMAN 入力をエンキューしてください。

RMAN-00573 dbms_pipe.next_item_time から不明なタイプのコードが戻りました : *number*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00574 dbms_pipe の読取り / 書込みエラーのため、RMAN を中止します

原因: DBMS_PIPE へ送信中の入出力とともに RMAN が実行されました。パイプからの読込みまたはパイプへの書込み中に、エラーが発生しました。エラーの詳細の説明の後に、このエラーが表示されます。

処置: RMAN が終了します。先行して発生したエラーの原因 / 処置を参照してください。

RMAN-00575 dbms_pipe へ書込み試行中にタイムアウトになりました

原因: RMAN が DBMS_PIPE モードで実行されています。

DBMS_PIPE.SEND_MESSAGE をコール中に、タイムアウトが発生しました。これは、パイプが一杯のとき、およびメッセージをデキューするプロセスがないときに発生します。通常、これは RMAN と交信していたプロセスの終了で発生します。

処置: RMAN が異常終了します。

RMAN-00576 PIPE は CMDFILE と一緒には使用できません。

原因: PIPE オプションと CMDFILE オプションは、一緒に使用できません。PIPE オプションを使用する場合、RMAN は、入力パイプから入力を受け取る必要があります。

処置: PIPE オプションまたは CMDFILE オプションのいずれかを削除してください。

RMAN-00577 PIPE を使用するには TARGET がコマンドラインに指定されている必要があります。

原因: PIPE オプションは、ターゲット・データベースの Oracle データベース・パイプから入力を取得し、出力を書き込みます。このため、RMAN がターゲット・データベースに接続して、パイプから入力を受け取ることができるように、コマンドラインでターゲット・データベース接続が指定されている必要があります。

処置: RMAN コマンドラインで TARGET オプションを指定してください。

RMAN-00578 パイプ *string* はプライベートではなく、SYS に所有されています。

原因: RMAN が入出力に必要とするパイプは、パブリック・パイプまたは SYS に所有されていないプライベート・パイプのいずれかです。SYS ユーザー以外のユーザーが RMAN にコマンドを発行したり、RMAN の出力を取り出すことができるため、これは潜在的なセキュリティの問題です。

処置: RMAN の起動前に RMAN 入力パイプにデータを入力し、起動直後にデータを処理させる場合は、SYS で接続し、`dbms_pipe.create_pipe` ファンクションを使用してプライベート・パイプとしてパイプを明示的に作成する必要があります。

RMAN-00579 *string* で次のエラーが発生しました

原因: このメッセージは、エラー発生時にエラー・メッセージ・スタックに表示されます。

処置: エラーは最後から順に出力されます。正しく解釈するには、一番下から上に向かって読んでください。

RMAN-00600 internal error, arguments [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*]

原因: Recovery Manager で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00601 fatal error in recovery manager

原因: 致命的なエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-01006 解析中にエラー信号が出されました。

原因: 解析中にエラー信号が出されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

RMAN-01007 行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*

原因: これは構文エラーが検出された行と列を示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-01008 不良識別子は次のとおりでした: *string*

原因: これは構文エラーの原因となった識別子トークンを示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-02000 メッセージ・ファイルのバージョンが正しくありません (メッセージ *number* が見つかりません)

原因: RMANXX.MSB ファイルは正しいバージョンではありません。

処置: インストールが正しく行われていることを確認してください。RMAN バイナリ (使用しているオペレーティング・システムで呼び方は異なりますが、実行可能なロード・モジュールのこと) および RMANXX.MSB ファイルは、必ず同じバージョン、リリース、パッチ・レベルである必要があります。

RMAN-02001 句読点記号 "*string*" が認識できません

原因: 不当な句読点記号が見つかりました。

処置: 無効な文字を削除してください。

RMAN-02002 入力ファイルの終了部分が不正です。

原因: 引用符付き文字列の右引用符が入力されていないことが原因である可能性があります。

処置: 入力を修正してください。

RMAN-02003 文字: *string* が認識できません。

原因: 英字、数字、句読点以外の入力文字が見つかりました。

処置: 該当の文字を削除してください。

RMAN-02004 引用符付き文字列が長すぎます。

原因: 2000 バイトより長い引用符付き文字列が見つかりました。

処置: このエラーは、右引用符の欠落により発生することがあります。その場合は欠落している引用符を追加し、そうでない場合は文字列を短くしてください。

RMAN-02005 トークンが長すぎます。

原因: 1000 バイトより長いトークンが見つかりました。

処置: トークンは空白または句読点で分ける必要があります。欠落している空白または句読点を追加するか、またはトークンを短くしてください。

RMAN-02006 スクリプト行が長すぎます。

原因: 500 バイトより長い行が見つかりました。

処置: その行を短い行に分けてください。

RMAN-02007 整数値オーバーフロー

原因: パーサーが、入力文字列の整数への変換に失敗しました。

処置: 整数値は、0 ～ 2147483648 です。有効な整数値を使用して、コマンドを再試行してください。

RMAN-03000 Recovery Manager のコンパイラ・コンポーネントの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03001 Recovery Manager のコマンド・シーケンサ・コンポーネントの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03002 コマンドのコンパイル中に障害が発生しました。

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03003 コマンドはまだ実装されていません: *string*

原因: コマンドは、現在のリリースに実装されていません。

処置: このコマンドを使用しないでください。

RMAN-03004 コマンドの実行中に致命的エラーが発生しました

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03006 コマンド: *string* の実行中に再試行不可能なエラーが発生しました

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03007 コマンド: *string* の実行中に再試行可能なエラーが発生しました

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。エラーが修正できる場合は、RETRY コマンドを使用して障害が発生した操作を再試行できます。

RMAN-03008 リカバリ・カタログの自動再同期を実行中にエラーが発生しました。

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03010 ライブラリ・キャッシュの事前ロード中に致命的エラーが発生しました

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03012 コマンドのコンパイル中に致命的エラーが発生しました

原因: コマンドのコンパイル中に致命的エラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随して、障害の原因を説明するその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-03013 コマンド・タイプ: *string*

原因: RMAN-03012 とともに表示される情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03014 リカバリ・カタログの暗黙的再同期に失敗しました

原因: このメッセージに付随して、障害の原因を説明するその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03015 ストアド・スクリプト *string* にエラーが発生しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03017 ストアド・スクリプト *string* に再帰が検出されました

原因: ストアド・スクリプトが自身をコールしています。または、それ自身をコールしている別のスクリプトをコールしています。

処置: 再帰を削除してください。

RMAN-03018 非同期 RPC は正常に作動しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03019 非同期 RPC が作動していません

原因: RPCTEST コマンドは、RPC が非同期に実行していないと判断しました。かわりに、RPC はブロックしています。これは、非ブロック化 UPI をサポートしない Oracle Net ドライバを使用することにより発生します。

処置: 異なる Oracle Net ドライバを使用して再試行してください。

RMAN-03020 非同期 RPC テストには 1 分かかります

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03021 実行スクリプト: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03023 実行コマンド: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03027 ストアド・スクリプト: *string* を印刷しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03028 致命的エラー・コード: *number*

原因: これは情報メッセージです。RMAN-03012 に先行します。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03029 エコー・オン

原因: SET ECHO ON コマンドが発行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03030 エコー・オフ

原因: SET ECHO OFF コマンドが発行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03031 set コマンドのこのオプションは実行ブロックの内部で使用する必要があります。

原因: set コマンドのこのオプションは、実行ブロックの外部では使用できません。

処置: set コマンドを変更するか、実行ブロックの内部に移動してください。

RMAN-03032 set コマンドのこのオプションは実行ブロックの外部で使用する必要があります。

原因: set コマンドのこのオプションは、実行ブロックの内部では使用できません。

処置: set コマンドを変更するか、実行ブロックの外部に移動してください。

RMAN-03033 現在のログがアーカイブされました。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG CURRENT コマンドが正常に実行されました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-03034 LEVEL *number* は無効です。LEVEL は *string* から *string* の間で設定する必要があります

原因: 無効な DEBUG LEVEL が使用されました。

処置: DEBUG LEVEL の引数を修正してください。

RMAN-03099 ユーザー要求でジョブが取り消されました。

原因: ユーザーが現行のジョブに割り込みました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03999 日付の変換中に Oracle エラーが発生しました : ORA-*nnnnn*: *string*

原因: 日付の変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04000 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: メモリーの割当て要求を満たすことができません。

処置: RMAN に使用可能なメモリー量を増やしてください。

RMAN-04001 ヒープの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-04002 OCIPI に失敗しました。ORA-*string*

原因: OCI プロセス・レベルの初期化に失敗しました。

処置: 通常、このエラーは発生しません。

RMAN-04003 OCIEInit に失敗しました。

原因: OCIEEnvInit へのコールは失敗しました。

処置: 通常、このエラーは発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04004 リカバリ・カタログ・データベースのエラー: *string*

原因: リカバリ・カタログ・データベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04005 ターゲット・データベースのエラー: *string*

原因: ターゲット・データベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04006 補助データベースのエラー: *string*

原因: クローン・データベースまたは複製データベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04007 リカバリ・カタログ・データベースの警告: *string*

原因: リカバリ・カタログ・データベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04008 ターゲット・データベースの警告: *string*

原因: ターゲット・データベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04009 補助データベースの警告: *string*

原因: クローン・データベースまたは重複しているデータベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04010 ターゲット・データベースのパスワード:

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-04011 リカバリ・カタログ・データベースのパスワード:

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-04012 補助データベースのパスワード:

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-04013 起動前に接続する必要があります。

原因: 起動前に接続する必要があります。

処置: 接続して、コマンドを再実行してください。

RMAN-04014 起動に失敗しました: *string*

原因: データベースの起動に障害があります。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、STARTUP コマンドを再実行してください。

RMAN-04015 *string* へのターゲット・データベース・キャラクタ・セットの設定でエラーが発生しました。

原因: ターゲット・データベースのセッション・キャラクタ・セットの設定で、エラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04016 OCI エラー・ハンドルを取得できませんでした。

原因: OCI レイヤーの初期化中に、エラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04020 ターゲット・データベース名 "*string*" がチャネルの名前: "*string*" と一致しません

原因: ALLOCATE コマンドの CONNECT 句によって、ターゲット・データベースの接続に使用されたデータベースと異なるデータベースに接続されました。

処置: CONNECT 文字列が、CONNECT コマンドの TARGET 接続で指定したデータベースと同じデータベースを指定しているかを確認してください。

RMAN-04021 ターゲット・データベース DBID *string* がチャンネルの DBID *string* と一致しません

原因: ALLOCATE コマンドの CONNECT 句によって、ターゲット・データベースの接続に使用されたデータベースと異なるデータベースに接続されました。

処置: CONNECT 文字列が、CONNECT コマンドの TARGET 接続で指定したデータベースと同じデータベースを指定しているかを確認してください。

RMAN-04022 ターゲット・データベースのマウント ID*string* がチャンネルのマウント ID*string* と一致しません

原因: ALLOCATE コマンドの CONNECT 句によって、ターゲット・データベースの接続に使用されたデータベースと異なるデータベースに接続されました。

処置: CONNECT 文字列が、CONNECT コマンドの TARGET 接続で指定したデータベースと同じデータベースを指定しているかを確認してください。

RMAN-05000 データ・ファイル *string* には CONFIGURE AUXNAME が必要です

原因: 原因は次のいずれかです。

- 補助データベースにマウントされた制御ファイルが、このデータ・ファイルのエントリを持っていないため、ファイル名変換ができません。
- COPY DATAFILE TO AUXNAME コマンドが発行されましたが、このデータ・ファイルには補助名が設定されていません。

処置: CONFIGURE AUXNAME コマンドを使用して、ファイル名を指定してください。そのファイル名は、リストア先として補助データベースを使用できるものです。

RMAN-05001 補助ファイル名 *string* がターゲット・データベースで使用されるファイルと競合します

原因: RMAN が、指定されたファイル名を補助データベースでリストア先として使用しようとしています。この名前はターゲット・データベースにすでに存在します。

処置: SET AUXNAME コマンドを使用して、ターゲット・データベースに使用されているファイル名と競合しない名前をデータ・ファイルに指定してください。

RMAN-05002 Point-in-Time 表領域リカバリを中止します

原因: 前に検出されたエラーは、対処措置が必要です。

処置: エラーを解消し、RECOVER コマンドを再発行してください。

RMAN-05003 表領域 *string* に対する Point-in-Time リカバリは許可されません

原因: SYSTEM 表領域またはロールバック・セグメントを含む表領域は、Point-in-Time リカバリで許可されていません。

処置: 指定された表領域をリカバリ・セットから削除し、操作を再試行してください。

RMAN-05004 ターゲット・データベースのログ・モードは NOARCHIVELOG です。

原因: TSPITR を NOARCHIVELOG モードのデータベースに適用しようとしました。

処置: 必要なすべてのアーカイブ・ログ・ファイルが TSPITR で使用可能な場合、ターゲット・データベース・ログ・モードを ARCHIVELOG に変更し、TSPITR 操作を再試行してください。そうでない場合、TSPITR はこのデータベースに適用できません。

RMAN-05005 再作成した表領域 *string* に対する Point-in-Time リカバリは許可されません

原因: 要求された表領域は再作成されており、Point-in-Time リカバリでは許可されません。

処置: 指定された表領域をリカバリ・セットから削除し、操作を再試行してください。

RMAN-05006 クローン・スタンバイ・シングル表領域をリカバリできません。

原因: スタンバイ・リカバリは、データベース全体に対してのみ行えます。

処置: 表領域リストをデータベース指定に変更してください。

RMAN-05007 チャンネルが割り当てられていません。

原因: チャンネルを要求するコマンドが入力されていますが、チャンネルは割り当てられていません。

処置: コマンドを使用する前に、ALLOCATE CHANNEL を使用してください。

RMAN-05008 SET NEWNAME TO NEW は使用できません (データファイル *string*)

原因: SET NEWNAME ... TO NEW は TSPITR では使用できません。

処置: 固有のファイル名に新しい名前を設定し、再試行してください。

RMAN-05009 ブロック・メディア・リカバリには Enterprise Edition が必要です

原因: BLOCKRECOVER が指定されています。

処置: BLOCKRECOVER コマンドを削除してください。

RMAN-05500 DUPLICATE コマンド発行時には、補助データベースがアンマウントされている必要があります

原因: DUPLICATE コマンドが発行されましたが、補助データベースがマウントされています。

処置: 補助データベースをアンマウントしてください。

RMAN-05501 ターゲット・データベースのコピーを中止します

原因: 前に検出されたエラーは、対処措置が必要です。

処置: エラーを解消し、DUPLICATE TARGET DATABASE コマンドを再発行してください

RMAN-05502 DUPLICATE コマンド発行時には、ターゲット・データベースがマウントされている必要があります

原因: DUPLICATE コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または SQL*Plus を使用して ALTER DATABASE MOUNT を発行し、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-05503 このコマンドの実行には、少なくとも 1 つの補助チャネルを割り当てる必要があります

原因: 補助チャネルが割り当てられていません。

処置: 補助チャネルを割り当ててください。

RMAN-05504 少なくとも 2 つの REDO ログ・ファイルまたはグループをこのコマンドに指定する必要があります

原因: 指定されている REDO ログ・ファイルまたはグループが 1 つのみです。

処置: 1 つ以上の REDO ログ・ファイルまたはグループを追加指定してください。

RMAN-05505 'string' の補助ファイル名の変換で、string の最大長を超過しています。

原因: 指定されたファイル名を補助データベースで使用される名前に変換するとき、変換された名前がファイル名の許容最大長を超えています。

処置: 初期化パラメータ DB_FILE_NAME_CONVERT を変更して、有効なファイル名に変換してください。

RMAN-05506 再帰的実行中にエラーが発生しました

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-05507 スタンバイ制御ファイル・チェックポイント (string) は、重複 Point-in-Time (string) より新しいものです。

原因: DUPLICATE FOR STANDBY コマンドが発行されましたが、制御ファイルのチェックポイントが最新のアーカイブ・ログまたは示された Point-in-Time より新しいものです。

処置: 明示的な Point-in-Time が指定されている場合は、制御ファイルのチェックポイント以前に変更してください。それ以外の場合は、現行のログをアーカイブ（およびバックアップ / コピー）してください。

RMAN-05508 SET NEWNAME TO NEW は使用できません (データファイル string)

原因: SET NEWNAME ... TO NEW は、DUPLICATE コマンドでは使用できません。

処置: 固有のファイル名に新しい名前を設定し、再試行してください。

RMAN-05510 コピーが完了しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06000 Recovery Manager ライブラリ・ファイル: *string* をオープンできませんでした

原因: RECOVER.BSQ ファイルをオープンできません。

処置: ファイルが正しくインストールされていること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの読み込み権限があることを確認してください。

RMAN-06001 ジョブ・ステップ・ライブラリの解析中にエラーが発生しました。

原因: RECOVER.BSQ の解析中に構文エラーが見つかりました。

処置: 正しいバージョンのファイルがインストールされていること、およびそのファイルが変更されていないことを確認してください。

RMAN-06002 リカバリ・カタログに接続されていない場合、コマンドは使用できません。

原因: リカバリ・カタログ接続文字列が入力されている場合のみに許可されているコマンドを使用しようとしてしました。

処置: コマンドを使用しないか、または RMAN を再起動して、RCVCAT パラメータでリカバリ・カタログ接続文字列を入力してください。

RMAN-06003 ターゲット・データベースでの Oracle エラー: *string*

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06004 リカバリ・カタログ・データベースでの Oracle エラー: *string*

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06005 ターゲット・データベース: *string* (データベース ID=*string*) に接続されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06006 ターゲット・データベース: *string* に接続されました (マウントされています)

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06007 ターゲット・データベースがマウントされず、db_name が init.ora に設定されていません

原因: ターゲット・データベースは制御ファイルをマウントしておらず、その INIT.ORA ファイルに DB_NAME パラメータが指定されていません。

処置: ターゲット・データベースをマウントするか、またはその INIT.ORA ファイルに DB_NAME パラメータを追加してインスタンスを再起動してください。

RMAN-06008 リカバリ・カタログ・データベースに接続されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06009 リカバリ・カタログのかわりにターゲット・データベース制御ファイルを使用しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06010 データ・ファイル: *string* を検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルで、このデータ・ファイルを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。データ・ファイルを最近追加した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06011 無効なレベルが指定されました: *number*

原因: 無効な増分バックアップ・レベルが指定されました。

処置: 増分バックアップ・レベルは 0 ～ 8 の間で指定してください。

RMAN-06012 チャネル: *string* は割り当てられていません

原因: まだ割り当てられていないチャネル識別子に、RELEASE または SETLIMIT コマンドが見つかりました。

処置: チャネル識別子を修正するか、または ALLOCATE CHANNEL コマンドを追加してください。

RMAN-06013 チャネル識別子が重複しています: *string*

原因: チャネルをリリースする前に、チャネル識別子が再利用されました。

処置: RELEASE CHANNEL コマンドを追加してください。

RMAN-06014 コマンドはまだ実装されていません: *string*

原因: ベータ・リリースにはコマンドが実装されていません。

処置: このコマンドを使用しないでください。

RMAN-06015 データ・ファイル・コピー名: *string* を検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのデータ・ファイル・コピー名を検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不可能なときにデータ・ファイルのコピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06016 バックアップ・オペランドが重複指定されています: *string*

原因: 指定されたオペランドは、同じバックアップ指定子またはバックアップ・コマンドで複数指定されています。

処置: 重複したオペランドを削除してください。

RMAN-06017 パーサーの初期化が失敗しました

原因: パーサー・パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06018 バックアップ指定でオペランドが重複指定されています: *string*

原因: 1 つのバックアップ指定に、複数のバックアップ指定オペランドが指定されています。

処置: 重複したオペランドを削除してください。

RMAN-06019 表領域名 "*string*" を変換できませんでした

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルで、この表領域名を検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。表領域が正しく入力されていることを確認してください。表領域を最近追加した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06020 補助データベースに接続されました (開始されていません)

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06021 FROM DATAFILECOPY/BACKUPSET はアーカイブ・ログについては指定できません

原因: FROM DATAFILECOPY/BACKUPSET オプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアのみに適用されます。

処置: このオプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアにのみ使用してください。

RMAN-06023 データ・ファイル *number* をリストアするためのバックアップまたはコピーが見つかりません

原因: このファイルのバックアップまたはコピーが見つからないため、データ・ファイル、表領域、またはデータベースをリストアできません。このファイルのバックアップまたはコピーは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことも考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06024 制御ファイルをリストアするためのバックアップまたはコピーが見つかりません。

原因: 制御ファイルのバックアップまたはコピーが見つからないため、制御ファイルをリストアできません。このファイルのバックアップまたはコピーは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことも考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06025 ログ・スレッド: *number*、seq: *number*、scn: *string* をリストアするためのバックアップが見つかりません。

原因: このアーカイブ・ログのバックアップが見つからないため、アーカイブ・ログをリストアできません。このファイルのバックアップは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことも考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06026 見つからないターゲットがあります - リストアを中止します

原因: リストアに指定されたファイルで見つからないものがあります。どのファイルが見つからないかを示すために、メッセージ RMAN-06023、RMAN-06024 または RMAN-06025 が発行されます。ファイルをリストアできない一般的な理由として、Recovery Manager で確認されているファイルのバックアップまたはコピーがない、RESTORE コマンドで指定されている基準を満たすバックアップまたはコピーがない、作成されているがカタログ化されていないデータ・ファイルのコピーがあるなどが考えられます。

処置: Recovery Manager の LIST コマンドを使用して Recovery Manager で確認されているバックアップおよびコピーを表示できます。そのリストからリストアするファイルを指定してください。

RMAN-06027 指定に一致するアーカイブ・ログが見つかりません

原因: アーカイブ・ログのレコード指定子が、リカバリ・カタログのどのアーカイブ・ログとも一致しません。

処置: 異なるアーカイブ・ログのレコード指定子でコマンドを再発行してください。
RMAN の LIST コマンドを使用して Recovery Manager で確認されているアーカイブ・ログをすべて表示できます。

RMAN-06028 リストア指定でオペランドが重複指定されています: *string*

原因: CHANNEL、TAG、FROM、PARMS、VALIDATE または CHECK READONLY オプションが、リストア・コマンドで、あるいはリストア指定の 1 つで、複数回指定されています。

処置: コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06029 制御ファイルを組み込むのは、データ・ファイル・バックアップ・セット内のみです

原因: INCLUDE CURRENT/STANDBY CONTROLFILE オプションが、アーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06030 DELETE [ALL] INPUT オプションはデータ・ファイル・バックアップ・セットでは使用できません

原因: 現行の制御ファイルまたはデータ・ファイルを含むバックアップに対して、DELETE INPUT オプションが指定されました。

処置: オプションを削除してコマンドを再発行してください。

RMAN-06031 データベース・キーワードを変換できませんでした。

原因: DBMS_RCVMAN のコール時にエラーを受け取りました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06032 COPY コマンドの実行には、少なくとも 1 つの TYPE DISK のチャネルを割り当てる必要があります

原因: TYPE DISK のチャネルが割り当てられていません。

処置: TYPE DISK のチャネルを割り当てて、コマンドを再発行してください。

RMAN-06033 チャネル *string* は割り当てられていません。

原因: RMAN コマンドは特定のチャネルを要求しますが、その要求されたチャネルは割り当てられていません。

処置: チャネルを割り当てるか、またはチャネル識別子を修正してください。

RMAN-06034 このコマンドの実行には少なくとも 1 つのチャンネルを割り当てる必要があります

原因: チャンネルが割り当てられていません。

処置: チャンネルを割り当ててください。

RMAN-06035 `recover.bsq` のバージョンが間違っています。正しくは *string* ですが、*string* を認識しました

原因: RECOVER.BSQ ファイルは、RMAN 実行可能ファイルと互換性がありません。

処置: 正しいバージョンの RECOVER.BSQ をインストールしてください。

RMAN-06036 データ・ファイル *number* はすでにファイル *string* にリストアされています

原因: SET NEWNAME コマンドが発行されて、元のデータ・ファイル以外の位置にデータ・ファイルがリストアされました。Recovery Manager でファイルのリストアに最適な候補は同じ名前のデータ・ファイル・コピーであると判断されました。そのため、ファイルはすでにリストア済で、処置は必要ありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06037 増分バックアップ機能が実装されていません。

原因: データ・ファイル・コピーの増分バックアップが要求されました。

処置: 増分レベルを 0 に変更するか、全体バックアップを要求してください。

RMAN-06038 リカバリ・カタログ・パッケージでエラーが検出されました。

原因: DBMS_RCVMAN のコールでエラーが返されました。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06039 データ・ファイル *number* への SET NEWNAME コマンドが発行されていません

原因: SWITCH コマンドがデータ・ファイルに指定されましたが、切替え先が指定されておらず、そのデータ・ファイルに対して事前に SET NEWNAME コマンドも発行されていません。SET NEWNAME コマンドが発行されていない場合は、切替え先のファイルを明示的に指定する必要があります。

処置: SWITCH コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06040 制御ファイルはすでにファイル *string* にリストアされています

原因: リストアに最適な候補である制御ファイルは、RESTORE (制御ファイル) コマンドで名前を付けられたものであるため、処置は必要ありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06041 ファイル *number* からファイル *number* のコピーへの切替えができません

原因: データ・ファイルを、異なるデータ・ファイルのコピーに切り替えようとした。

処置: SWITCH コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06042 PLUS ARCHIVELOG オプションは非データ・ファイル・バックアップとともにサポートされていません。

原因: PLUS ARCHIVELOG オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: PLUS ARCHIVELOG オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06043 TAG オプションがアーカイブ・ログに対してサポートされていないか、またはカレント/スタンバイ制御ファイルのコピーです

原因: TAG オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: TAG オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06044 コピー指定でオペランドが重複指定されています: *string*

原因: 同じコピー指定で複数のオペランドを指定しています。

処置: 重複したオペランドを削除してください。

RMAN-06045 LEVEL オプションがアーカイブ・ログに対してサポートされていないか、またはカレント/スタンバイ制御ファイルのコピーです

原因: LEVEL オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: LEVEL オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06046 アーカイブ・ログ名: *string*

原因: アーカイブ・ログ名をそのリカバリ・カタログ RECID/ タイムスタンプに変換する際に、エラーが発生しました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06047 コピーからのリストアで、データ・ファイル *number* が重複して指定されました

原因: このデータ・ファイルは、同じリストア・コマンドで複数回指定されています。

処置: RESTORE コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06048 コピーからのリストアで、制御ファイルが重複して指定されました

原因: 制御ファイルが、同じ RESTORE コマンドで複数回指定されています。

処置: RESTORE コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06049 CHECK LOGICAL オプションはアーカイブ・ログまたはカレント/スタンバイ制御ファイルのコピーに対してサポートされていません

原因: CHECK LOGICAL オプションが指定されましたが、このタイプのコピーには適用されません。

処置: CHECK LOGICAL オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06050 アーカイブ・ログ・スレッド: *number*、順序: *number* は、ファイル: *string* としてディスクに存在します

原因: リストアするように（明示的に、または範囲指定を使用して）要求されたアーカイブ・ログは、すでにディスクに存在しているため、リストアする必要がありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06051 DELETE INPUT オプションはまだ実装されていません。

原因: このオプションはバックアップ指定で指定されました。

処置: DELETE INPUT オプションを削除してください。

RMAN-06052 データ・ファイル *number* の親バックアップまたはコピーが見つかりません

原因: レベル 1 以上での増分バックアップで、このデータ・ファイルの親バックアップまたはコピーが見つかりませんでした。レベル 0 のデータ・ファイルのバックアップは、自動的に行われます。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-06053 ログが見つからないためメディア・リカバリが実行できません

原因: このメッセージには欠落ログを識別する別のメッセージが付随します。メディア・リカバリの実行にはログが必要ですが、ログがディスクになく、そのログを含むバックアップが使用不可です。

処置: そのログを含むバックアップが使用可能かどうかを判断してください。可能な場合は、CHANGE コマンドを使用してバックアップ・セットを使用可能にし、コマンドを再実行してください。そうでない場合は、欠落ログまでの Point-in-Time リカバリを行ってください。

RMAN-06054 メディア・リカバリが不明なログを要求しています: スレッド *string* *scn*

原因: リカバリ・カタログまたは制御ファイルに存在が記録されていないログが、メディア・リカバリで要求されています。

処置: ログのコピーが使用可能な場合は、それを CATALOG コマンドでリカバリ・カタログまたは制御ファイル（あるいはその両方）に追加し、RECOVER コマンドを再実行してください。そうでない場合は、欠落ログまでの Point-in-Time リカバリを行ってください。

RMAN-06055 ログ順序 *string*、スレッド *string* が見つかりませんでした

原因: メディア・リカバリの開始時にディスクにあったログ、またはバックアップ・セットからリストアされているはずのログが見つかりません。

処置: Recovery Manager のメッセージ・ログを確認し、ログが前のジョブ・ステップでリストアされたことを確認してください。リストアされていれば、V\$ARCHIVED_LOG ビューを確認し、ログが制御ファイルにリストアされていることを確認してください。また、ログがディスクに存在し、読み込み可能なことを確認してください。ログがリストアされていないか、またはリストアされているがログのレコードが V\$ARCHIVED_LOG に存在していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-06056 データ・ファイル *number* にアクセスできませんでした

原因: データ・ファイルが読み込めないか、またはヘッダーが無効であるため、バックアップは処理できません。

処置: データ・ファイルをアクセス可能にするか、またはスキップしてください。

RMAN-06057 スタンバイ制御ファイルをカレント制御ファイルとともに挿入することはできません。

原因: カレント制御ファイルが、スタンバイ制御ファイルとともに指定されました。

処置: バックアップの指定から、カレント制御ファイルまたはスタンバイ制御ファイルを削除してください。

RMAN-06058 カレント制御ファイルをスタンバイ制御ファイルとともに挿入することはできません。

原因: スタンバイ制御ファイルが、カレント制御ファイルとともに指定されました。

処置: バックアップの指定から、スタンバイ制御ファイルまたはカレント制御ファイルを削除してください。

RMAN-06066 RECOVER コマンド発行時には、ターゲット・データベースがマウントされている必要があります

原因: RECOVER コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または SQL*Plus を使用して ALTER DATABASE MOUNT を発行し、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06067 バックアップまたは作成された制御ファイルには、RECOVER DATABASE が必要です

原因: 制御ファイルがバックアップからリストアされたか、または ALTER DATABASE CREATE CONTROLFILE で作成されました。

処置: RECOVER DATABASE コマンドを使用してリカバリを実行してください。

RMAN-06068 データファイルが見つからないため、リカバリが異常終了しました。

原因: このエラーに付随して、メッセージ RMAN-06094 が 1 つ以上表示されます。

処置: メッセージ RMAN-06094 を参照してください。

RMAN-06069 制御ファイルにデータファイル *string* のファイル名がありません。

原因: バックアップ制御ファイル・メディアのリカバリは、このデータ・ファイルを制御ファイルに追加しましたが、安全でないためにファイル名は設定していません。

処置: データ・ファイルがディスクにある場合は、ALTER DATABASE RENAME を発行して制御ファイルを修正してください。そうでない場合は、RESTORE でデータ・ファイルをリストアし、SWITCH を使用してそれを制御ファイルに対して識別してください。このデータ・ファイルを含む表領域が削除される場合は、SKIP 句を指定した RECOVER コマンドを再発行し、この表領域のリカバリをスキップしてください。

RMAN-06070 DBWR でデータファイル *string* を識別できませんでした。

原因: DBWR が指定されたデータ・ファイルを見つけることができません。

処置: データ・ファイルの場所を確認してください。

RMAN-06071 データ・ファイル *string* をオープンできませんでした

原因: このデータ・ファイルをオープンしようとしてエラーが見つかりました。

処置: データ・ファイルが存在し、かつアクセス可能であることを確認してください。

RMAN-06072 データ・ファイル *string* のファイル・ヘッダーを読み込み中に I/O エラーが発生しました

原因: I/O エラーが発生しました。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行して、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06073 データ・ファイル *string* のファイル・ヘッダーが破損しています

原因: Oracle がファイル・ヘッダーで破損を検出しました。メディア障害が発生している可能性があります。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行して、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06074 ファイル *string* は Oracle データ・ファイルではありません

原因: ファイル・ヘッダーは、このファイルがデータ・ファイルでないことを示しています。ファイルは上書きされたか破損している可能性があります。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行して、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06075 データ・ファイル *string* はこのデータベースには属していません

原因: ファイル・ヘッダーは、このファイルが他の Oracle データベースに属していることを示しています。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行して、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06076 データ・ファイル *string* に不正なデータ・ファイルが含まれています

原因: データ・ファイル・ヘッダーは、ファイルが異なるデータ・ファイル番号を含むことを示しています。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルをリストアし、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06077 データ・ファイル *string* のバージョンが制御ファイルと異なります

原因: このデータ・ファイルへの制御ファイル入力で、このデータ・ファイルの別のバージョンが指定されています。表領域の削除時に、データ・ファイルの異なるバージョンが存在可能で、同じデータ・ファイル番号を再利用する新規の表領域が作成されます。

処置: データ・ファイルが正しい場合、SWITCH コマンドを使用して制御ファイルを修正してください。そうでない場合は、RESTORE コマンドでこのデータ・ファイルの正しいバージョンをリストアし、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06078 制御ファイルがデータ・ファイル *string* より古いバージョンです

原因: 制御ファイルは、指定されたデータ・ファイルより古いようですが、バックアップ制御ファイルとしてマークされていません。これは制御ファイルが旧バージョンと置換されていることを示しています。このエラーは、Recovery Manager または ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドで作成されたバックアップ制御ファイルがリストアされるときには発生しません。このような制御ファイルは、バックアップとしてマークされているためです。

処置: 制御ファイルをリストアし、RECOVER DATABASE を実行してください。

RMAN-06079 リカバリを実行するには、データベースがマウントされている必要があります

原因: RECOVER コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがマウントされていません。

処置: ALTER DATABASE MOUNT を発行してください。

RMAN-06080 データ・ファイル *string* に SWITCH が必要です

原因: このデータ・ファイルの制御ファイル・レコードは、古いデータ・ファイルのインカンネーションです。

処置: RECOVER を実行する前に、SWITCH コマンドを発行して、制御ファイルを更新してください。

RMAN-06081 データ・ファイル *string*、コード *string* のデータ・ファイル・ヘッダーを読み中にエラーが発生しました

原因: このデータ・ファイルについて問い合わせたときに、X\$KCVFH は HXERR 列にこのコードを返しました。

処置: データ・ファイルが存在し、読み込み可能であることを確認してください。Recovery Manager の最新リリースでは、より重要なエラー・メッセージが返されます。Recovery Manager の新しいバージョンがない場合、オラクル社カスタム・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-06082 データ・ファイル・コピー・タグ *string* が不明瞭です

原因: このタグは、異なるデータ・ファイルに属する複数のデータ・ファイル・コピーを参照しています。

処置: タグではなく、ファイル名でデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-06083 ストアド・スクリプト *string* をロード中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログ・データベースによってエラーが返されました。このエラーは問題の原因を説明しています。

処置: 問題を修正して、再試行してください。

RMAN-06084 REPLICATE 発行時にはターゲット・データベースはマウントできません

原因: REPLICATE コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがすでにマウントされています。

処置: Enterprise Manager または SQL*Plus を使用して ALTER DATABASE CLOSE および ALTER DATABASE DISMOUNT を発行し、ターゲット・データベースの制御ファイルをディスマウントしてください。

RMAN-06085 データ・ファイル *string* のリストアには、SET NEWNAME コマンドを使用する必要があります

原因: このデータ・ファイルに対する RESTORE コマンドで、このデータ・ファイルに対する宛先名が見つかりませんでした。

処置: RESTORE コマンドの前に SET NEWNAME コマンドを追加して、このファイルのリストア先を指定してください。

RMAN-06086 オフライン・ファイルはデータ・ファイル・バックアップ・セット内でのみスキップされます

原因: SKIP OFFLINE オプションが、アーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06087 読取り専用ファイルはデータ・ファイル・バックアップ・セット内でのみスキップされます

原因: SKIP READONLY オプションが、アーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06088 データ・ファイル・コピー *string* が見つからない、またはカタログと同期していません

原因: 指示ファイルが見つからないか、または見つかったもリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されていない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作を再試行してください。

RMAN-06089 アーカイブ・ログ *string* が見つからない、またはカタログと同期していません

原因: 指示ファイルが見つからないか、または見つかったもリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されていない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作を再試行してください。

RMAN-06090 制御ファイル・コピー *string* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルで、この制御ファイル・コピーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不可のときに制御ファイルのコピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新する必要があります。

RMAN-06091 (適切なタイプの) メンテナンスのチャンネルが割り当てられていません。

原因: メンテナンス・チャンネルを要求するコマンドが入力されていますが、メンテナンス・チャンネルが割り当てられていないか、適切なメンテナンス・チャンネルではありません。

処置: バックアップ・ピースを削除する前、あるいは CROSSCHECK コマンドまたは DELETE EXPIRED コマンドを使用する前に、ALLOCATE CHANNEL FOR MAINTENANCE を使用してください。プロキシ・コピーには、非 DISK チャンネルが必要です。

RMAN-06092 バックアップ・ピースを検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルで、このバックアップ・ピースを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。名前またはキーが正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不可のときにバックアップ・ピースを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新する必要があります。

RMAN-06093 リカバリ・カタログに旧バージョンのデータ・ファイル *string* が含まれています

原因: このデータ・ファイル番号が削除され、再利用されました。ターゲット・データベースでマウントされた制御ファイルには、データ・ファイルの新しいバージョンが含まれていますが、リカバリ・カタログは古いバージョンについての情報のみを含んでいます。

処置: RESYNC コマンドを発行してリカバリ・カタログを更新し、失敗したコマンドを再発行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-06094 データ・ファイル *string* をリストアする必要があります

原因: RECOVER コマンドが発行され、リカバリ・カタログはこのデータ・ファイルがリカバリの一部と示していますが、このデータ・ファイルは制御ファイルにリストされておらず、ディスクにも見つかりません。

処置: RECOVER コマンド（あれば）に指定された同じ UNTIL 句を使用して、このデータ・ファイルに RESTORE コマンドを発行し、RECOVER を再発行してください。

RMAN-06095 データ・ファイル *string* のリカバリにはバックアップ制御ファイルのリストアが必要です

原因: ターゲット・データベースによって現在マウントされている制御ファイルは、リカバリする Point-in-Time に適しているとリカバリ・カタログで示されているデータ・ファイルより、新しいデータ・ファイルを含んでいます。

処置: 失敗した RECOVER コマンドで指定された同じ UNTIL 句を使用して、制御ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。制御ファイルがリストアできない場合は、CREATE CONTROLFILE コマンドを発行してください。

RMAN-06096 データ・ファイル *string* の新規名を有効にするためには SWITCH コマンドが必要です

原因: SET NEWNAME がこのデータ・ファイルに発行されましたが、RECOVER コマンドの前に SWITCH コマンドが発行されていません。

処置: SWITCH コマンドを発行して、RECOVER を実行する前に新規名を有効にしてください。

RMAN-06097 障害の発生した SQL 文のテキスト: *string*

原因: これは、メッセージ RMAN-06003 またはメッセージ RMAN-06004 に付随して表示される情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06098 BACKUP コマンド発行時には、ターゲット・データベースがマウントされている必要があります

原因: BACKUP コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または SQL*Plus を使用して ALTER DATABASE MOUNT を発行し、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06099 ソース・ファイル: *string*、行: *number* でエラーが発生しました

原因: 付随するエラー・メッセージを参照してください。

処置: 付随するエラー・メッセージを参照してください。

RMAN-06100 データ・ファイル *number* のバックアップまたはコピーをリストアするためのチャンネルがありません

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、データ・ファイル、表領域、またはデータベースをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06101 制御ファイルのバックアップまたはコピーをリストアするためのチャンネルがありません

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、制御ファイルをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06102 スレッド: *number*、SEQ: *number*、SCN: *string* のログをバックアップまたはコピーをリストアするためのチャンネルがありません

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、アーカイブ・ログをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ RMAN-06026 を参照してください。

RMAN-06103 REPORT コマンド: *string* で修飾子が重複しています。

原因: REPORT 修飾子リストに、この修飾子が複数回指定されています。

処置: 重複した修飾子を削除してください。

RMAN-06104 auxiliary name for datafile number unset

原因: このメッセージは、SET AUXNAME FOR *datafile* TO NULL コマンドに応答して発行されます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06105 LIST コマンド: *string* で修飾子が重複しています。

原因: LIST 修飾子リストに、この修飾子が複数回指定されています。

処置: 重複した修飾子を削除してください。

RMAN-06106 このコマンドには、ターゲット・データベースのマウントが必要です。

原因: ターゲット・データベースのマウントを必要とするコマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または SQL*Plus を使用して ALTER DATABASE MOUNT を発行し、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06107 警告 - 制御ファイルが REPORT NEED BACKUP DAYS に対してカレントではありません

原因: REPORT NEED BACKUP DAYS コマンドで、実際は必要でなくても、ファイルのバックアップが必要であると報告される場合があります。これは、現行の制御ファイルがマウントされないかぎり、ファイルの現行のオンライン・ステータスを確認できないためです。

処置: 処置は必要ありませんが、可能であれば現行の制御ファイルをマウントし、最も正確な REPORT 出力を入手してください。

RMAN-06108 データ・ファイル・コピーが使用不可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06109 アーカイブ・ログが使用不可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06110 制御ファイル・コピーが使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06111 バックアップ・ピースが使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06112 データ・ファイル・コピーが使用可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06113 アーカイブ・ログが使用可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06114 制御ファイル・コピーが使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06115 バックアップ・ピースが使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06116 使用不可能なオブジェクトをクロスチェックできません。

原因: CHANGE DATAFILECOPY AVAILABLE コマンドは発行されましたが、データ・ファイル・コピーがディスクにありません。クロスチェックしようとしたオブジェクトが使用不可能でした。

処置: ホストからデータ・ファイル・コピーを含む領域が削除された場合、その領域をリストアしてコマンドを再実行してください。データ・ファイル・コピーが永久に削除される場合、このデータ・ファイルに対して CHANGE DATAFILECOPY DELETE コマンドを発行してください。オブジェクトを使用可能にして再実行するか、クロスチェックを使用しないでください。

RMAN-06117 期限切れではないオブジェクトで DELETE EXPIRED はできません。

原因: CHANGE ARCHIVELOG AVAILABLE コマンドは発行されましたが、アーカイブ・ログがディスクにありません。期限切れでないオブジェクトは DELETE EXPIRED できません。

処置: ホストからアーカイブ・ログを含む領域が削除された場合、その領域をリストアしてコマンドを再実行してください。アーカイブ・ログが永久に削除される場合、このアーカイブ・ログに対して CHANGE ARCHIVELOG DELETE コマンドを発行してください。EXPIRED キーワードまたはクロスチェック・オブジェクトを取り除くか、オブジェクトを DELETE しないでください。

RMAN-06119 データ・ファイル・コピーがカタログ除去されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06120 アーカイブ・ログがカタログ除去されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06121 制御ファイル・コピーがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06122 BACKUPSET/BACKUPPIECE に CHANGE .. UNCATALOG は使用できません。

原因: CHANGE BACKUPPIECE/BACKUPSET .. UNCATALOG コマンドが入力されました。バックアップ・ピースで UNCATALOG 演算子はサポートされていません。

処置: かわりに、CHANGE BACKUPPIECE/BACKUPSET .. DELETE を使用してください。

RMAN-06123 リカバリ・カタログまたはマウントされた制御ファイルなしでは操作はサポートされません。

原因: リカバリ・カタログ・データベースへの接続を要求するコマンドが使用されました。バックアップ・リポジトリが有効でない場合、コマンドは使用できません。

処置: リカバリ・カタログ・データベースが使用可能な場合、リカバリ・カタログに接続し、コマンドを再実行してください。そうでない場合、別のコマンドを入力してください。

RMAN-06124 データ・ファイル・コピー・キー: *number* を検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログでこのデータ・ファイル・コピー・キーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06125 アーカイブ・ログ・キー: *number* を検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログでこのアーカイブ・ログ・キーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06126 オフライン・ファイル *string* をスキップします

原因: このファイルは、オフラインの状態です。SKIP OFFLINE オプションが指定されたために、バックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06127 読取り専用ファイル *string* をスキップします

原因: このファイルは、読取り専用で SKIP READONLY オプションが指定されたために、バックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06128 アクセス不可ファイル *string* をスキップします

原因: このファイルは読み込み不可で SKIP INACCESSIBLE オプションが指定されたために、バックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06129 確保されているチャンネル ID: *string* が無効です。

原因: このチャンネル ID は無効です。DELETE および DEFAULT は確保されているチャンネル名であり、ユーザーが指定できない場合があります。

処置: 異なるチャンネル ID を指定してください。

RMAN-06130 スナップショット制御ファイル名は *string* に設定されています。

原因: スナップショット制御ファイル名が設定されていないため、RMAN ではこれをデフォルト値に設定しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06131 SKIP OFFLINE/READONLY はカレント制御ファイルにのみ使用できます

原因: SKIP OFFLINE および SKIP READONLY オプションは、ターゲット・データベース制御ファイルがカレントである場合にのみ許可されています。ターゲット制御ファイルがカレントでない場合は、データ・ファイルのオフライン / 読取り専用ステータスは取得できません。

処置: SKIP オプションを削除するか、またはターゲット・データベースにカレントの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06132 データ・ファイル *string* は制御ファイルに記述されていないためバックアップできません

原因: このデータ・ファイルを含むバックアップ・コマンドが発行されましたが、データ・ファイルが制御ファイルにリストされていません。制御ファイルがカレントではありません（バックアップまたは作成済の制御ファイルです）。

処置: 制御ファイルをリカバリしてカレントにし、バックアップ・コマンドを再試行してください。

RMAN-06133 リカバリ・カタログにデータ・ファイル *string* の古いデータが含まれている可能性があります

原因: RESTORE UNTIL が発行されましたが、リカバリ・カタログが、制御ファイルにリストされているデータ・ファイルより古いインカネーションを選択しました。

処置: リカバリ・カタログがデータ・ファイルに正しいデータを持っている場合は、同じ UNTIL 句を使用してバックアップ制御ファイルをリストアし、データ・ファイルのリストアを再試行してください。そうでない場合は、制御ファイルにリストされたデータ・ファイルのバックアップをリストアしてください。

RMAN-06134 ホスト・コマンドが完了しました。

原因: オペレーティング・システム・コマンドが完了しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06135 ホスト・コマンド: *string* の実行中にエラーが発生しました

原因: ホスト・コマンドで、0 以外のリターン・コードが返されました。

処置: 無効なコマンドを修正してください。

RMAN-06136 補助データベース: *string* からの Oracle エラーです。

原因: このメッセージの後に付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06137 REPORT SCHEMA AT TIME にはリカバリ・カタログが必要です。

原因: REPORT SCHEMA *at_clause* コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースがありません。

処置: リカバリ・カタログを使用していない場合、*at_clause* のない REPORT SCHEMA コマンドを発行してください。

RMAN-06138 制御ファイルがマウントされません - REPORT コマンドに AT 句の指定が必要です。

原因: *at_clause* のない REPORT SCHEMA が発行されましたが、リカバリ・カタログがありません。制御ファイルがターゲット・データベースでマウントされていないため、データベースを構成しているファイルのカレント・リストの情報を取得する場所がありません。

処置: リカバリ・カタログを使用するか、ターゲット・データベースで制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06139 警告 - 制御ファイルが REPORT SCHEMA に対してカレントではありません

原因: *at_clause* のない REPORT SCHEMA が発行されましたが、リカバリ・カタログがありません。ターゲット・データベースでマウントされた制御ファイルがカレントでないため、データ・ファイルのカレント・リストの情報はカレントでない可能性があります。

処置: リカバリ・カタログを使用するか、カレントの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06140 LIST INCARNATION で TAG オプションは指定できません。

原因: TAG オプションが LIST INCARNATION で指定されました。データベース・インカーネーションと関連する TAG がないため、これは許可されません。

処置: TAG オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06142 DEVICE TYPE はこのコマンドでは指定できません

原因: DEVICE TYPE オプションは、このコマンドでは指定できません。

処置: DEVICE TYPE オプションを削除して、コマンドを再実行してください。

RMAN-06143 LIKE を指定できるのは、LIST COPY のみです。

原因: LIKE オプションが、リスト BACKUP または INCARNATION コマンドで指定されました。LIKE オペランドでテストされる可能性があるのは、データ・ファイルまたはアーカイブ・ログのコピーのみであるため、これは許可されません。

処置: LIKE オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06144 FROM または UNTIL は、LIST INCARNATION には指定できません。

原因: FROM または UNTIL オプションが LIST INCARNATION で指定されました。データベース・インカーネーションと関連する時間がないため、これは許可されません。

処置: FROM または UNTIL オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06145 制御ファイルがカレントではありません - 古いファイル・リストは不完全です

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、不要な削除される可能性のあるバックアップのリストを計算する必要があります。マウントされている制御ファイルがカレントでない場合は、最後の OPEN RESETLOGS 以降オフラインになっているファイルに、問題のないバックアップが存在するかどうかを判断するのが不可能な場合があります。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。廃棄されたバックアップの完全なレポートを確実にするために、カレント制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06146 ファイル *number* に対する変更がオフライン SCN を超えて見つかりました

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、不要な削除される可能性のあるバックアップのリストを計算する必要があります。ターゲット・データベース制御ファイルでオフラインで表示されているファイルに、バックアップが見つかりませんでした。ただし、ファイルがオフラインになったとき、バックアップは SCN を超えた変更を含みます。ターゲット・データベース制御ファイルが実際にはカレントでなく、古い制御ファイルのリストアされたコピーであるため、この可能性は十分あります。

処置: カレントの制御ファイルまたはバックアップ制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06147 古いバックアップはありません。

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、指定された廃棄基準を満たすファイルを見つけられませんでした。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06148 冗長件数は 0（ゼロ）より大きくする必要があります

原因: CHANGE または REPORT OBSOLETE コマンドに指定された REDUNDANCY オペラントが 0 でした。

処置: REDUNDANCY オペラントの値を 1 以上に指定してください。

RMAN-06149 must have recovery catalog for SET AUXNAME

原因: SET AUXNAME コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースがありません。

処置: リカバリ・カタログが存在する場合、Recovery Manager の起動時に RCVCAT オプションを指定してください。そうでない場合は、SET AUXNAME コマンドが使用されない可能性があります。

RMAN-06150 データ・ファイル *number* の補助名が設定されました : *string*

原因: このメッセージは、SET AUXNAME コマンドに応答して発行されます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06151 データ・ファイル *string* の作成 (scn: *string*)

原因: これは情報メッセージです。これは別のメッセージに付随して表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06152 CHANGE VALIDATE not supported for backup pieces or backup sets

原因: CHANGE VALIDATE コマンドがバックアップ・ピースで実行されない可能性があります。

処置: CHANGE VALIDATE コマンドは、データ・ファイル・コピーおよびアーカイブ・ログのみで実行される可能性があります。バックアップ・セットの内容を確認するには、VALIDATE BACKUPSET コマンドを使用してください。ただし、RMAN RUN コマンドの内部で使用してください。

RMAN-06153 データ・ファイルのコピーで妥当性チェックに失敗しました。

原因: CHANGE DATAFILE COPY VALIDATE コマンドが、データ・ファイル・コピーが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06154 データ・ファイルのコピーで妥当性チェックが正常終了しました

原因: CHANGE DATAFILE COPY VALIDATE コマンドが、データ・ファイル・コピーがリカバリ・カタログのデータと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06155 制御ファイルのコピーで妥当性チェックに失敗しました。

原因: CHANGE CONTROLFILECOPYCOPY VALIDATE コマンドが、制御ファイル・コピーが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06156 制御ファイルのコピーで妥当性チェックが正常終了しました

原因: CHANGE CONTROLFILECOPY VALIDATE コマンドが、制御ファイル・コピーがリカバリ・カタログと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06157 アーカイブ・ログの妥当性チェックに失敗しました

原因: CHANGE ARCHIVELOG VALIDATE コマンドが、アーカイブ・ログが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06158 アーカイブ・ログの妥当性チェックが正常終了しました

原因: CHANGE ARCHIVED LOG VALIDATE コマンドが、アーカイブ・ログがリカバリ・カタログと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06159 バックアップ・セットを検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのバックアップ・セットを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。確実に、キーを正しく入力してください。リカバリ・カタログが使用禁止であるときにバックアップ・セットを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06160 バックアップ・セット・キー: *number* に対するバックアップ・ピースがありません

原因: 要求されたバックアップ・セットに対するバックアップ・ピースが、リカバリ・カタログ、またはターゲット・データベース制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 既存のバックアップ・セットを指定してください。

RMAN-06161 補助ファイル名: *string* の検査中にエラーが発生しました。

原因: このエラーに付随して、原因を説明するその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 補助ファイル名が SET AUXNAME コマンド経由で無効な場合、修正してください。

RMAN-06162 SQL 文: *string*

原因: SQL コマンドに実行されようとしている SQL 文です。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06163 リカバリできないデータ・ファイルがあるため、RECOVER コマンドを中止します

原因: このメッセージに付随して、RMAN-06162 または RMAN-06164 メッセージが 1 つ以上表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを参照してください。

RMAN-06164 データ・ファイル *number* のリカバリに必要なタイプのチャネルが割り当てられていません

原因: 増分バックアップ・セットまたはアーカイブ・ログ・セットが割り当てられていないデバイス・タイプに存在するので、RECOVER コマンドを処理できません。

処置: LIST コマンドを使用して、どのデバイス・タイプが必要かを判断し、そのタイプのチャネルを割り当ててください。

RMAN-06165 データ・ファイル *string* はリカバリには古すぎます。より新しいコピーをリストアしてください

原因: データ・ファイルのリカバリに必要なアーカイブ・ログまたは増分バックアップ・セット（あるいはその両方）がありませんが、データ・ファイルの最新のバックアップがあるので、リカバリは可能です。

処置: データ・ファイルの RESTORE コマンドを発行して、RECOVER コマンドを再発行してください。

RMAN-06166 データ・ファイル *string* をリカバリできません

原因: データ・ファイルのリカバリに必要な増分バックアップまたはアーカイブ REDO ログが見つかりません。リカバリ可能な全体バックアップまたはデータ・ファイルのコピーも存在しません。

処置: LIST コマンドを使用して、使用可能にできるバックアップ・セットまたはデータ・ファイル・コピーがあるかどうか調べてください。これらのファイルやコピーがない場合は、データ・ファイルはリカバリできません。全体またはデータ・ファイルのコピーがある場合は、Point-in-Time リカバリを行うことができます。

RMAN-06167 すでに接続されています。

原因: CONNECT コマンドが発行されましたが、指定されたデータベースにはすでに RMAN が接続しています。

処置: RMAN には DISCONNECT コマンドがありません。別のインスタンスに接続するには、RMAN を終了して、再起動してください。

RMAN-06168 このタグのバックアップ・ピースが見つかりません: *string*

原因: バックアップ・リストの一部を指定するためにタグが使用されていますが、このタグのバックアップ・ピースが見つかりません。

処置: タグの指定が正しいかどうかを確認してください。

RMAN-06169 データファイル *string* のファイル・ヘッダーを読み込めません。エラー理由:
string

原因: 指定されたデータ・ファイルにアクセスできません。理由コードは、次のとおりです。

- 1 - 制御ファイルにファイル名がない。
- 2 - ファイルがオフラインである。
- 3 - ファイルが検証されていない。
- 4 - DBWR がファイルを見つけられない。
- 5 - ファイルがオープンできない。
- 6 - 読取り時の I/O エラー。
- 7 - ファイル・ヘッダーが破損している。
- 8 - ファイルがデータ・ファイルでない。
- 9 - ファイルがこのデータベースに属していない。
- 10 - ファイル番号が正しくない。
- 12 - ファイルのバージョンが正しくない。
- 15 - 制御ファイルが現行のものでない。

処置: エラーが修正できる場合は、修正して操作を再試行してください。バックアップ時にこのエラーを無視する場合には、SKIP オプションを使用してください。

RMAN-06170 レコード ID*string*、スタンプ *string*、データ・ファイル *string* のオフライン範囲で制御ファイルのコピーが見つかりません

原因: 指定されたデータ・ファイルのリカバリにはこのオフライン範囲が必要ですが、オフライン範囲レコードが現行の制御ファイルより古く、レコードの制御ファイルのコピーにアクセスできません。オフライン範囲を含む 1 つ以上のコントロール・ファイルのコピーが、リカバリ・カタログにあり、使用可能な状態です。

処置: 制御ファイルのコピーの名前すべてに対して RC_CONTROLFILE_COPY ビューを問い合わせ、CHANGE CONTROLFILECOPY... VALIDATE; コマンドを発行してください。その後で、RECOVER コマンドを再実行してください。

RMAN-06171 ターゲット・データベースに接続されていません

原因: コマンドが実行されましたが、ターゲット・データベースとの接続が確立されていませんでした。

処置: CONNECT TARGET コマンドを実行して、ターゲットのデータベースに接続してください。

RMAN-06173 補助リストア時に、データ・ファイル *string* に対する SET NEWNAME コマンドが発行されていません

原因: 制御ファイルに補助型が指定されましたが、データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドが発行されていません。

処置: リカバリ・セットの各データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドを発行してください。

RMAN-06174 補助データベースに接続されていません。

原因: 補助コマンドが実行されましたが、補助データベースとの接続が確立されていませんでした。

処置: CONNECT AUXILIARY コマンドを実行して、補助データベースに接続してください。

RMAN-06175 スクリプト: *string* は削除されました。

原因: DELETE SCRIPT コマンドが実行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06176 リカバリは不要です。全ファイルが読取り専用またはオフラインです

原因: すべてのリカバリするファイルがオフラインまたは読取り専用なので、RECOVER DATABASE コマンドはどのファイルもリカバリする必要ありません。これは、SKIP 句がシステムの表領域を含むときのみ発生します。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06177 リストアが実行されませんでした。全ファイルが読取り専用、オフライン、またはすでにリストア済です

原因: すべてのリストアされているファイルがオフラインであるか、読取り専用であるか、またはすでに正しい位置にリストアされているので、RESTORE コマンドはどのファイルもリストアする必要がありません。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06178 ファイルがオフラインのため、データ・ファイル *number* は処理されません

原因: 要求された Point-in-Time ではオフライン・クリーンなので、RESTORE DATABASE または RECOVER DATABASE コマンドは、指定されたデータ・ファイルの処理を省略しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06179 ファイルが読取り専用のため、データ・ファイル *number* は処理されません

原因: 要求された Point-in-Time ではオフライン・クリーンなので、RESTORE DATABASE または RECOVER DATABASE コマンドは指定されたデータ・ファイルの処理を省略しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06180 増分バックアップには Enterprise Edition が必要です

原因: INCREMENTAL LEVEL > 0 で BACKUP コマンドが指定されました。

処置: FULL または INCREMENTAL LEVEL = 0 を使用してください。

RMAN-06181 多重チャンネルには Enterprise Edition が必要です

原因: ジョブに 2 つ以上のチャンネルを割り当てようとしています。

処置: ALLOCATE CHANNEL コマンドを 1 つ残して、他をすべて削除してください。

RMAN-06182 アーカイブ・ログが SETSIZE を超えています: スレッド *string seq string string*

原因: BACKUP ARCHIVELOG コマンドが設定した SETSIZE オペランドが小さすぎます。指定したアーカイブ・ログのサイズは、SETSIZE が許可するサイズを超えています。

処置: SETSIZE の制限を増やしてください。

RMAN-06183 データ・ファイルまたはデータ・ファイル・コピーが SETSIZE を超えています: ファイル番号 *string string*

原因: 指定した BACKUP DATAFILE (コピー) コマンドが設定した SETSIZE オペランドが小さすぎます。指定したデータ・ファイルのサイズは、SETSIZE が許可するサイズを超えています。

処置: SETSIZE の制限を増やしてください。

RMAN-06184 バックアップ指定子内のオブジェクトが重複しています。: *string string*

原因: BACKUP コマンドが、同じデータ・ファイルまたはデータ・ファイル・コピーを複数回指定しています。

処置: 重複を排除してください。

RMAN-06185 Recovery Manager が *string* データベースと非互換です: RMAN *number.number.number* ~ *number.number.number* が必要です

原因: このバージョンの Recovery Manager が、このデータベースまたはこのデータベースにインストールされている DBMS_BACKUP_RESTORE パッケージと非互換です。

処置: データベースが前のバージョンからアップグレードされた場合、CATXXXX.SQL スクリプトが正常に実行されることを確認してください。必要に応じて、DBMSBKRS.SQL および PRVTBKRS.PLB を再インストールしてください。そうでない場合、エラー・メッセージで指定された範囲内で、RMAN のバージョンを使用してください。

RMAN-06186 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) が古すぎます

原因: 指定された PL/SQL パッケージのバージョンは古すぎて、このバージョンの Recovery Manager (RMAN) とは動作できません。

処置: このデータベースが RCVCAT の場合、UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、リカバリ・カタログを最新のバージョンにアップグレードできます。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、このデータベースをアップグレードするか、または RMAN の古いバージョンを使用してください。

RMAN-06187 制御ファイルのコピー *string* が見つからない、またはカタログと同期していません

原因: 示されたファイルが見つからないか、または見つかったもリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されてない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作を再試行してください。

RMAN-06188 ターゲット・データベースに接続中はコマンドは使用できません

原因: ターゲット・データベースに接続がないときのみ使用できるコマンドが、実行されようとしています。

処置: そのコマンドの使用を避けるか、または RMAN を再起動して、ターゲット・データベースに接続する前にコマンドを使用してください。

RMAN-06189 現行の DBID *number* はマウントしたターゲット・データベース (*number*) と一致しません。

原因: SET DBID が使用され、RMAN が接続しているデータベースの DBID と一致しない DBID を設定しました。

処置: 現行の操作がデータベースをコピーするリストアの場合、データベースをマウントしないでください。そうでない場合、SET DBID コマンドを使用しないか、または RMAN を再起動してください。

RMAN-06190 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) が現行のものではありません

原因: RMAN は、指定されたパッケージの古いバージョンを検出しました。RMAN は下位互換モードで実行します。

処置: 処置は必要ありませんが、下位互換モードで実行する特定の機能、およびエラー修正が使用できない場合があります。データベースが RCVCAT の場合、UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、リカバリ・カタログを最新のバージョンにアップグレードできます。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、このデータベースをアップグレードするか、または RMAN の古いバージョンを使用してください。ターゲット・データベースまたは補助データベースをアップグレードするために実行する必要のあるファイルは、DBMSRMAN.SQL および PRVTRMAN.PLB です。

RMAN-06191 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) が新しすぎます

原因: RMAN は、指定されたパッケージで互換性のないバージョンを検出しました。

処置: Recovery Manager の新しいバージョンを使用してください。メッセージ RMAN-06439 で最低限必要な Recovery Manager のバージョンが表示されます。

RMAN-06192 ピース・サイズまたはセット・サイズの最大値は 1KB から 2048GB の間で設定する必要があります

原因: 入力したピース・サイズまたはセット・サイズの最大値が有効範囲外です。

処置: 有効なサイズの値を指定して、コマンドを再試行してください。

RMAN-06193 ターゲット・データベースに接続しました (起動していません)。

原因: 他の RMAN コマンドを実行する前に、データベースを起動する必要があります。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06194 ターゲット・データベースのインスタンスが起動していません。

原因: ターゲット・データベースのインスタンスの起動を要求するコマンドが実行されました。

処置: STARTUP コマンドを実行して、そのインスタンスを起動してください。

RMAN-06195 補助データベースが起動していません

原因: 補助データベースのインスタンスの起動を要求するコマンドが発行されました。

処置: STARTUP AUXILIARY コマンドを実行してください。

RMAN-06196 Oracle インスタンスが起動しました

原因: 正常に STARTUP コマンドの実行を完了しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06200 アーカイブ・ログ・コピーのリスト

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06201 Key Thrd Seq S Completion time Name

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06202 -----

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06203 *string-7s string-4s string-7s string1s string-15s strings*

原因: このメッセージは、LIST COPY OF ARCHIVELOG コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドが各アーカイブ・ログに表示されます。

- **Key:** リカバリ・カタログでこのアーカイブ・ログを識別している一意キー。この値は、CHANGE コマンドで使用でき、ログの状態を変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは 0 (ゼロ) です。

- **Thrd:** ログのスレッド番号。

- **Seq:** ログのスレッド内での順序番号。

- **S:** ファイルの状態。使用される値は次のとおりです。

- * A - 使用可能 (Available)

- * U - 使用不可能 (Unavailable)

- * D - 削除 (Deleted Status)

ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、U は使用されません。

- **Completion time:** ログがアーカイブまたはコピーされた日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付書式で印刷されます。

- **Name:** ログのファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06210 データ・ファイルのコピー・リスト

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06211 Key File S Completion time Ckp SCN Ckp time Name

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06212 -----

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06213 string-7s string-4s string1s string-15s string-10s string-15s strings

原因: このメッセージは、LIST COPY OF DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドは、各データ・ファイル・コピーに表示されます。

- **Key:** リカバリ・カタログでこのデータ・ファイル・コピーを識別している一意キー。この値は、CHANGE コマンドで使用でき、コピーの状態を変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、このフィールドは、制御ファイルでこのコピーを一意に識別します。
- **File:** このファイルのコピー元のファイル番号。
- **S:** ファイルの状態。使用される値は次のとおりです。
 - * A - 使用可能 (Available)
 - * U - 使用不可能 (Unavailable)
 - * D - 削除 (Deleted Status)ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、U は使用されません。
- **Completion time:** データ・ファイル・コピーが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付書式で印刷されます。
- **Ckp SCN:** データ・ファイル・コピーのチェックポイント SCN。ファイルは、この SCN を過ぎる前に行われたすべての変更を含みます。
- **Ckp time:** 最後にチェックポイントを通過したファイルの時刻。
- **Name:** データ・ファイル・コピーのファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06220 アーカイブ・ログ挿入リスト

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06221 Thrd Seq Low SCN Next SCN Low Time Next Time

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06222 -----

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06223 string-4s string-7s string-10s string-10s string-15s strings

原因: このメッセージは、LIST BACKUP OF ARCHIVELOG コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。レポートに含まれるには、バックアップ・セットの完全なコピーが 1 つ以上は必要になります。DEVICE TYPE オプションがレポート・コマンドに指定されている場合、リストはその指定デバイスにあるバックアップ・セットのみを含みます。そうでない場合、リストは使用可能なすべてのバックアップ・セットを含みます。次のフィールドは、バックアップ・セットにある各アーカイブ・ログに表示されます。

- **Key:** リカバリ・カタログでこのバックアップ・セットを識別している一意キー。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは、ターゲット・データベースの制御ファイルでこのバックアップ・セットを識別する一意の識別子です。
- **Thrd:** ログのスレッド番号。
- **Seq:** ログのスレッド内での順序番号。
- **Completion time:** バックアップ・セットが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付書式で印刷されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06230 バックアップ・セット・リスト

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06231 Key Recid Stamp LV Set Stamp Set Count Completion Time

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06232 -----

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06233 string-7s string-10s string-10s string-2s string-10s string-10s strings

原因: このメッセージは、LIST BACKUP OF DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。レポートに含まれるには、バックアップ・セットの完全なコピーが 1 つ以上は必要になります。DEVICE TYPE オプションがレポート・コマンドに指定されている場合、リストはその指定デバイスにあるバックアップ・セットのみを含みます。そうでない場合、リストは使用可能なすべてのバックアップ・セットを含みます。次のフィールドは、バックアップ・セットにある各データ・ファイルに表示されます。

- **Key:** リカバリ・カタログでこのバックアップ・セットを識別している一意キー。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは、ターゲット・データベースの制御ファイルでこのバックアップ・セットを識別する一意の識別子です。
- **File:** バックアップされたファイルのファイル番号。
- **Type:** バックアップの型。使用される値は次のとおりです。
 - * Full: 全体（または増分レベルが 0（ゼロ）の）バックアップ
 - * Incremental: 増分バックアップ
 - * Cumulative: 累積増分バックアップ
- **LV:** 増分バックアップ・レベル。
- **Completion time:** バックアップ・セットが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付書式で印刷されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06234 バックアップ・ピース・リスト

| RMAN-06235 | Key | Pc# | Cp# | Status | Completion Time | Piece Name |
|------------|-----|-----|-----|--------|-----------------|------------|
|------------|-----|-----|-----|--------|-----------------|------------|

| | | | | | | |
|------------|-------|-----|-----|-------|-------|-------|
| RMAN-06236 | ----- | --- | --- | ----- | ----- | ----- |
|------------|-------|-----|-----|-------|-------|-------|

| | | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|---------|
| RMAN-06237 | string-7s | string-3s | string-3s | string-11s | string-22s | strings |
|------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|---------|

RMAN-06238 データファイル挿入リスト

| RMAN-06239 | File Name | LV Type | Ckp SCN | Ckp Time |
|------------|-----------|---------|---------|----------|
|------------|-----------|---------|---------|----------|

| | | | | |
|------------|------|-------|-----|-------|
| RMAN-06240 | ---- | ----- | --- | ----- |
|------------|------|-------|-----|-------|

| | | | | | | |
|------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|---------|
| RMAN-06241 | string-4s | string-37s | string-2s | string-4s | string-10s | strings |
|------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|---------|

RMAN-06242 制御ファイル挿入リスト

| RMAN-06243 | Ckp SCN | Ckp time |
|------------|---------|----------|
|------------|---------|----------|

| | | |
|------------|-------|-------|
| RMAN-06244 | ----- | ----- |
|------------|-------|-------|

| | | |
|------------|--------|--------|
| RMAN-06245 | string | string |
|------------|--------|--------|

RMAN-06246 データベース・インカネーション・リスト

原因：RMAN-06249 を参照してください。

処置：処置は必要ありません。

| RMAN-06247 | DB Key | Inc Key | DB Name | DB ID | CUR Reset SCN | Reset Time |
|------------|--------|---------|---------|-------|---------------|------------|
|------------|--------|---------|---------|-------|---------------|------------|

原因：RMAN-06249 を参照してください。

処置：処置は必要ありません。

| | | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| RMAN-06248 | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

原因：RMAN-06249 を参照してください。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-06249 string string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST INCARNATION OF DATABASE コマンドに応答して発行されます。次のフィールドは、リカバリ・カタログで登録した各データベースに表示されます。

- **DB Key:** リカバリ・カタログでこのデータベースを識別している一意キー。
- **Inc Key:** リカバリ・カタログでこのデータベースのインカネーションを識別している一意キー。
- **DB Name:** データベースの名前。
- **DB ID:** データベースの ID。これは、たとえデータベース名が変更されても、データベースの存続期間中は変更されない番号です。
- **CUR:** これがこのデータベースのインカネーションである場合は YES で、そうでない場合は NO です。
- **Reset SCN:** 最新リセットログ操作の SCN。
- **Reset Time:** 最新リセットログ操作の時刻。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06250 リカバリ不能な操作のためバックアップの必要なファイルのレポート

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06251 File Type of Backup Required Name

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06252 -----

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06253 string string string

原因: このファイルに、記録されない (create table unrecoverable のような) 変更が発生しました。ファイルの最新バックアップは、その変更を含んでいません。

処置: このファイルのバックアップを行ってください。バックアップする前にこのファイルが消失した場合、記録されていない変更も消失します。このメッセージは、全体バックアップが必要かどうか、または増分バックアップが十分であるかどうかを示しています。

RMAN-06260 リカバリ時に *number* より多い増分を要するファイルのレポート

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06261 File Incrementals Name

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06262 -----

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06263 *string string string*

原因: このメッセージは、リカバリ時に指定より多い数の増分バックアップを使用するファイルのために、REPORT NEED BACKUP INCREMENTAL コマンドに応答して発行されます。

処置: このデータ・ファイルのリカバリ時に使用される増分バックアップの数を減らすため、このファイルの全体バックアップをここで新しく行ってください。

RMAN-06270 リカバリに *number* より多い日数のアーカイブ・ログが必要なファイルのレポート

原因: RMAN-06273 を参照してください。

処置: RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06271 File Days Name

原因: RMAN-06273 を参照してください。

処置: RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06272 -----

原因: RMAN-06273 を参照してください。

処置: RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06273 *string string string*

原因: このメッセージは、リカバリ時に指定より多い日数のアーカイブ・ログを必要とするファイルのために、REPORT NEED BACKUP DAYS コマンドに応答して発行されます。

処置: このデータ・ファイルのリカバリに必要なログ・ファイルの数を減らすために、全体バックアップまたは増分バックアップをここで新しく行ってください。

RMAN-06280 古いバックアップおよびコピーのレポート

原因: RMAN-06285 を参照してください。

処置: RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06281 Type Key Completion Time Filename/Handle

原因: RMAN-06285 を参照してください。

処置: RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06282 -----

原因: RMAN-06285 を参照してください。

処置: RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06283 データ・ファイル・コピー *string string string*

原因: RMAN-06285 を参照してください。

処置: RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06284 バックアップ・セット *string string*

原因: RMAN-06285 を参照してください。

処置: RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06285 バックアップ・ピース *string string string*

原因: このメッセージは、REPORT OBSOLETE コマンドに応答して発行されます。REPORT コマンドで指定された冗長レベルを超えているので、リストされた各ファイルは廃棄されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06290 データベース・スキーマのレポート

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06291 File K-bytes Tablespace RB segs Datafile Name

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06292 ----

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06293 *string string string string string*

原因: このメッセージは、REPORT SCHEMA コマンドに応答して発行されます。レポートには、指示された時刻のデータベースの物理スキーマが表示されます。次のフィールドは、各データ・ファイルに表示されます。

- **File:** ファイル番号。
- **K-Bytes:** ファイルのサイズ。
- **Tablespace:** このファイルに含まれる表領域の名前。
- **RB segs:** このファイルがロールバック・セグメントを含む表領域の一部である場合 YES で、そうでない場合は NO です。
- **Datafile Name:** ファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06300 *number* より小さい冗長バックアップを持つファイルのレポート

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06301 *File #bkps Name*

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06302 -----

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06303 *string string string*

原因: このメッセージは、リカバリに使用されるバックアップが指定数より少ないファイルに対して REPORT NEED BACKUP REDUNDANCY コマンドが使用されるときに実行されます。

処置: リストされたファイルの別のバックアップを行ってください。

RMAN-06310 *List of Proxy Copies*

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06311 *Key File S Completion time Ckp SCN Ckp time Handle*

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06312 -----

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06313 *string-7s string-4s string1s string-15s string-10s string-15s strings*

原因: このメッセージは、PROXY オプションでいくつかのバックアップが行われたときに、LIST BACKUP DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して、発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドは、各プロキシ・データ・ファイル・バックアップに表示されます。

- **Key:** リカバリ・カタログでこのプロキシ・バックアップを識別している一意キー。この値は CHANGE コマンドで使用され、そのステータスを変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、このフィールドは、制御ファイルでこのコピーを一意に識別します。
- **File:** このファイルのコピー元のファイル番号。
- **S:** ファイルの状態。使用される値は次のとおりです。
 - * A - 使用可能 (Available)
 - * U - 使用不可能 (Unavailable)
 - * D - 削除 (Deleted)
 - * X - 無効 (Expired)ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、ステータス U は使用されません。
- **Completion time:** バックアップが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付書式で印刷されます。
- **Ckp SCN:** バックアップのチェックポイント SCN。ファイルは、この SCN を過ぎる前に行われたすべての変更を含みます。
- **Ckp time:** 最後にチェックポイントを通過したファイルの時刻。
- **Handle:** プロキシ・バックアップのメディア・マネージャ・ハンドル。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06400 データベースがオープンしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06401 データベースはすでに起動しています

原因: FORCE オプションを使用せずに STARTUP コマンドが実行されましたが、ターゲット・データベースはすでに起動しています。

処置: データベースを再起動する場合、FORCE オプションを使用してください。

RMAN-06402 Oracle インスタンスが停止しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06403 完全に認可されたセッションを取得できません

原因: このエラーの最も可能性の高い原因として、RMAN が以前に接続していたデータベースの 1 つが起動していないか、停止しています。他のエラー・メッセージは、どのデータベースに問題があるのかを確実に識別します。

処置: 問題のあるデータベースを起動してください。

RMAN-06404 データベースがディスマウントされました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06405 データベースがクローズしました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06406 アーカイブ・ログを削除しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06408 リカバリ・カタログがバージョン *string* にアップグレードしました

原因: これは UPGRADE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。アップグレードされたリカバリ・カタログ・スキーマのバージョンを示しています。リカバリ・カタログ・スキーマは Oracle の各リリースとともに変更されないために、このバージョン番号は、ご使用の RMAN 実行ファイルまたはターゲット・データベースの番号を表していない可能性があることに注意してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06409 LIST BACKUP OF ARCHIVELOG で LIKE 句はサポートされません。

原因: サポートされない LIST BACKUP OF ARCHIVELOG LIKE が使用されました。

処置: コマンドから LIKE 句を削除してください。

RMAN-06410 チャンネルが割り当てられているときは、コマンドを使用できません

原因: チャンネルが割り当てられないときのみ使用できるコマンドが、実行されようとしています。

処置: そのコマンドを使用しないか、またはチャンネルの割当てを解除して、チャンネルが割り当てられないときにそのコマンドを使用してください。

RMAN-06411 バックアップ・コピーの設定が範囲 (1 ~ 4) から外れています: *number*

原因: 無効な値に二重設定しようとしています。

処置: 指定された範囲内の値を使用してください。

RMAN-06412 プロキシ・コピー・チャンネルが見つかりません。

原因: プロキシ・コピーが起動されましたが、割り当てられたチャンネルはプロキシ・コピーをサポートしていません。これは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートしないか、またはすべての割当てチャンネルが DISK 型で、プロキシ・コピーをサポートしないことが原因である可能性があります。

処置: これがバックアップの場合、DISK 型でないチャンネルを割り当てるか、または PROXY オプションを使用しないでください。これがリストアの場合、プロキシ・バックアップを作成するのと同じ型のチャンネルが割り当てられましたが、現在はプロキシ・コピーをサポートしません。プロキシ・コピーがターゲット・データベースのメディア管理ソフトウェアでサポートされなくなった場合、バックアップがこれ以降のリストアで使用されないように、CROSSCHECK または CHANGE コマンドを実行してください。

RMAN-06413 チャンネル *string* は、プロキシ・コピーをサポートしません。

原因: このバックアップまたはリストアに指定されたチャンネルは、プロキシ・コピーをサポートしません。これは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートしないか、またはチャンネルが DISK 型で、プロキシ・コピーをサポートしないことが原因である可能性があります。

処置: これがバックアップの場合、DISK 型でないチャンネルを割り当てるか、または PROXY オプションを使用しないでください。これがリストアの場合、プロキシ・バックアップを作成するのと同じ型のチャンネルが割り当てられましたが、現在はプロキシ・コピーをサポートしません。プロキシ・コピーがターゲット・データベースのメディア管理ソフトウェアでサポートされなくなった場合、バックアップがこれ以降のリストアで使用されないように、CROSSCHECK コマンドを使用してください。

RMAN-06414 ターゲット・データベース COMPATIBLE オプションは、プロキシ・コピーをサポートしません。

原因: PROXY が指定され、ターゲット・データベースがプロキシ・コピーをサポートするメディア・マネージャを使用していますが、プロキシ・バックアップを作成するにはターゲット・データベースの COMPATIBLE 初期化パラメータは 8.1.0 以上である必要があります。データベースが COMPATIBLE パラメータで指定された以前のリリースにダウングレードされる場合、そのデータベースはプロキシ・バックアップをリストアできなくなります。

処置: プロキシでないバックアップを行うか、またはターゲット・データベースの COMPATIBLE パラメータを変更してください。

RMAN-06415 ファイル *string* は、プロキシ・バックアップができません。

原因: PROXY オプションが指定されましたが、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアは、プロキシ・コピーを使用している指定されたファイルをバックアップできません。PROXY ONLY が指定された場合、バックアップは強制終了されます。PROXY が指定された場合、このファイルはプロキシでないバックアップ・セットに置かれます。

処置: ONLY オプションを削除してファイルを標準のバックアップ・セットに置くか、またはメディア管理ソフトウェアがこのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06416 PROXY ONLY が指定されたため、プロキシ・コピーのできないファイルがあります

原因: PROXY ONLY が指定され、バックアップすべきいくつかのファイルは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアでバックアップできません。メッセージ RMAN-06415 がプロキシ・コピーできない各ファイルに表示されます。

処置: ONLY オプションを削除してファイルを標準のバックアップ・セットに置くか、またはメディア管理ソフトウェアがこのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06417 アーカイブ・ログのプロキシ・バックアップはサポートされていません。

原因: BACKUP PROXY ARCHIVELOG コマンドが入力されました。アーカイブ・ログのプロキシ・バックアップはまだサポートされていません。

処置: 別のコマンドを入力してください。

RMAN-06418 プロキシの増分バックアップでレベル > 0 はサポートされていません。

原因: レベルが 0 (ゼロ) でない増分バックアップに PROXY が指定されました。プロキシ・バックアップは完全またはレベルが 0 (ゼロ) のバックアップである必要があります。

処置: いずれか 1 つを削除してください。

RMAN-06419 ファイル *string* は、ハンドル *string* からプロキシをリストアできません

原因: ターゲット・データベースで使用するメディア管理ソフトウェアは、このファイルを指定されたバックアップ・ハンドルからリストアできないことを示しています。

処置: メディア管理ソフトウェアのドキュメントを参照して、この制限事項が存在する理由を見つけるか、またはメディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06420 プロキシ・リストアができないファイルがあります - リストアを中止します

原因: リストアされるべきファイルのいくつかは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアではリストアできません。メッセージ RMAN-06419 がリストアできない各ファイルに表示されます。

処置: メディア管理ソフトウェアがこれらのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。
RESTORE コマンドがこれらのプロキシ・バックアップからのリストアを試行しないようにするには、CROSSCHECK または CHANGE コマンドを使用して、カタログからプロキシ・コピーを削除してください。

RMAN-06421 コマンドをチャネル: *string* へ送信しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06422 SEND コマンドのチャネルが見つかりません。

原因: 指定された名前またはデバイス型で、チャネルが見つかりませんでした。チャネルの識別子が指定されない場合、チャネルは割り当てられません。

処置: 別のチャネル型を指定するか、または要求にあった型のチャネルを割り当ててください。

RMAN-06423 要求された制限 *number* は、ベンダー制限 *number* を超過しています

原因: バックアップ・ピースのサイズを設定するために SETLIMIT CHANNEL コマンドが使用されましたが、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアは、その大きさのバックアップ・ピースを作成できません。

処置: バックアップ・ピースの制限を小さく指定してください。

RMAN-06424 プロキシ・コピーを検索中にエラーが発生しました

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのプロキシ・コピーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーに付随して、障害の理由を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。名前またはキーが正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用禁止のときにプロキシ・コピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06425 データ・ファイルのパス名は利用できません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06426 RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールをユーザー *string* に付与する必要があります。

原因: CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドが使用されましたが、RCVCAT の接続文字列にあるユーザー ID は、DEFAULT ロールとして付与された RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールを所持できません。

処置: RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールをリカバリ・カタログの所有者に付与してください。

RMAN-06427 リカバリ・カタログはすでに存在します

原因: リカバリ・カタログがすでに存在する場合、CREATE CATALOG コマンドは使用できません。

処置: UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、既存のバックアップ・データを失うことなく、ご使用のリカバリ・カタログを最新リリースにアップグレードしてください。既存のリカバリ・カタログを削除するには、DROP CATALOG コマンドを使用してください。

RMAN-06428 リカバリ・カタログがインストールされていません。

原因: リカバリ・カタログ・データベースへの接続が行われましたが、リカバリ・カタログの表およびビューはまだインストールされていません。

処置: リカバリ・カタログ所有者のユーザー ID を正しく入力しなかった場合、不適切なユーザー ID を修正し、リカバリ・カタログに再接続してください。このリカバリ・カタログの所有者のユーザー ID で Recovery Manager に初めて署名した場合、CREATE CATALOG コマンドを使用してリカバリ・カタログ・スキーマを作成してください。

RMAN-06429 *string* データベースはこの RMAN バージョンとの互換性がありません。

原因: 指定されたデータベースは、Recovery Manager (RMAN) のこのバージョンとの互換性がありません。エラーの原因の詳細を記した他のメッセージも表示されます。

処置: 他のメッセージを参照してください。データベースが RCVCAT の場合、問題を修正するために、CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドを使用できる可能性があります。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、ターゲット・データベースをアップグレードするか、または RMAN 実行ファイルの新しいバージョンを使用してください。

RMAN-06430 リカバリ・カタログのユーザー ID を SYS にすることはできません。

原因: リカバリ・カタログが SYS というユーザー ID に接続されました。リカバリ・カタログを SYS 以外のユーザー ID で作成する必要があります。

処置: RCVCAT の接続文字列に別のユーザー ID を指定してください。

RMAN-06431 リカバリ・カタログが作成されました。

原因: これは CREATE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06432 リカバリ・カタログが削除されました。

原因: これは DROP CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06433 リカバリ・カタログのインストール中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログ・データベースでインストール中にエラーが発生しました。別のエラー・メッセージがサーバーのエラー・メッセージを示します。

処置: リカバリ・カタログのインストールで発生する障害の最も一般的な理由は、次のとおりです。

- リカバリ・カタログ・データベースの領域不足 : さらに領域を割り当て、DROP CATALOG コマンドを使用して部分的にインストールされたリカバリ・カタログを削除し、コマンドを再実行してください。
- オブジェクトがすでに存在している : これはリカバリ・カタログの部分的インストールによるものです。DROP CATALOG コマンドを使用して部分的にインストールされたリカバリ・カタログを削除し、コマンドを再実行してください。

RMAN-06434 リカバリ・カタログの削除中になんらかのエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログを削除中に、リカバリ・カタログからなんらかのエラーが発生しました。

処置: エラーを修正して、コマンドを再実行してください。Recovery Manager が一般的なエラーを阻止および無視することに注意してください。そのエラーとは、「オブジェクトが見つかりません」のような、部分的にインストールされたリカバリ・カタログを削除中に発生する可能性のあるエラーです。リカバリ・カタログを削除中には、深刻なエラーのみが表示されます。

RMAN-06435 リカバリ・カタログの所有者は *string* です。

原因: これは、UPGRADE CATALOG および DROP CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06436 DROP CATALOG コマンドを再入力して、カタログの削除を確認してください。

原因: DROP CATALOG コマンドは、データベースのバックアップすべてを使用不可能にしてリカバリ・カタログを削除するので、十分注意が必要です。これが本当に実行したい動作なのかを確認するために、コマンドを2回入力する必要があります。

処置: リカバリ・カタログを削除する場合は、DROP CATALOG コマンドを再入力してください。

RMAN-06437 カatalogを削除できません - RMAN よりもカatalogの方が最新です。

原因: DROP CATALOG コマンドは入力されましたが、リカバリ・カatalogは Recovery Manager (RMAN) の最新バージョンで作成されました。RMAN のこのバージョンは全体のリカバリ・カatalogを削除できない可能性があります。

処置: リカバリ・カatalogを最近作成またはアップグレードした RMAN のバージョンを使用してください。

RMAN-06438 string データベースのパッケージ DBMS_RCVMAN を実行中にエラーが発生しました。

原因: Recovery Manager は、このデータベースの SYS スキーマのパッケージ DBMS_RCVMAN を必要としています。通常、このパッケージは、データベース作成中にインストールされます。

処置: パッケージを再作成するには、DBMSRMAN.SQL および PRVTRMNS.PLB ファイルを実行してください。

RMAN-06439 このパッケージで作業するには、RMAN をバージョン string にアップグレードする必要があります。

原因: このメッセージは、メッセージ RMAN-06191 に指定されたパッケージを使用するよう要求された Recovery Manager の最低限必要なバージョンを表示しています。

処置: このパッケージでは、RMAN の最新バージョンを使用してください。

RMAN-06441 カatalogをアップグレードできません - カatalogはすでに RMAN よりも最新です

原因: リカバリ・カatalogは、すでに Recovery Manager のこのバージョンより大きいバージョン・レベルです。UPGRADE CATALOG コマンドは必要ありません。

処置: さらに新しい Recovery Manager にアップグレードするか、または現行のバージョンをそのまま使用してください。リカバリ・カatalogが新しすぎて Recovery Manager のこのバージョンで作業できない場合、メッセージ RMAN-06191 が発行されます。

RMAN-06442 UPGRADE CATALOG コマンドを再入力して、カタログのアップグレードを確認してください

原因: UPGRADE CATALOG コマンドはリカバリ・カタログ・スキーマを変更します。リカバリ・カタログは、Recovery Manager (RMAN) の古いバージョンと互換性があるように設計されていますが、アップグレードをすることによって RMAN の古いバージョンのサポートを削除する可能性があります。

処置: リカバリ・カタログをアップグレードする場合、UPGRADE CATALOG コマンドを再入力してください。このリカバリ・カタログで RMAN の古いバージョンを使用しない場合、互換性の問題はありません。リカバリ・カタログで RMAN の古いバージョンをそのまま使用する予定がある場合、アップグレードする前に、『Oracle9i データベース移行ガイド』または現行の Oracle リリースの移行ガイドを参照して、リカバリ・カタログの現行バージョンのアップグレードが、古いバージョンのサポートを削除するかを判断してください。

RMAN-06443 リカバリ・カタログのアップグレード中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログをアップグレード中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正して、コマンドを再実行してください。Recovery Manager は一般的なエラーを阻止および無視することに注意してください。そのエラーとは、「列はすでに存在します」のような、リカバリ・カタログがすでに部分的にアップグレードされた場合に発生する可能性のあるエラーです。リカバリ・カタログをアップグレード中には、深刻なエラーのみが表示されます。

RMAN-06444 string の作成でコンパイル・エラーが発生しました。

原因: CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドを発行中に、PL/SQL のコンパイル・エラーのため、指定された PL/SQL のパッケージ仕様部または本体を作成できませんでした。

処置: リカバリ・カタログに使用される PL/SQL パッケージは、RECOVER.BSQ ライブラリにあり、変更すべきではありません。RECOVER.BSQ ファイルが変更または破損していないことを確認して、このエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。リカバリ・カタログの所有者に連絡し、USER_ERRORS ビューを問い合せて、コンパイル・エラーの詳細を検索してください。

RMAN-06445 NOCATALOG が使用された後はリカバリ・カタログに接続できません。

原因: ユーザーが NOCATALOG オプションをすでに指定した後で、CONNECT CATALOG コマンドが使用されました。

処置: リカバリ・カタログを使用する場合、RMAN を再起動させてください。

RMAN-06446 プロキシ・コピーが使用不可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06447 プロキシ・コピーが使用可に変更されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06448 プロキシ・コピーがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06449 プロキシ・コピーが削除されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06450 プロキシ・コピーがクロスチェックされました:'string' が検出されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06451 プロキシ・コピー・ハンドル=*string* レコード ID=*string* スタンプ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06452 *string* パッケージはバージョン *string* にアップグレードされました

原因: これは UPGRADE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。このメッセージは、指定されたパッケージのアップグレード先のバージョンを示しています。リカバリ・カタログ・パッケージは Oracle の各リリースとともに変更されないために、このバージョン番号は、ご使用の RMAN 実行ファイルまたはターゲット・データベースの番号を表さない可能性があることに注意してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06453 RECOVERABLE はデータ・ファイル・オブジェクトのみで使用できます

原因: RECOVERABLE を OF CONTROLFILE または OF ARCHIVELOG と一緒に使用しようとしました。

処置: RECOVERABLE キーワードを削除して、文を再実行してください。

RMAN-06454 二重バックアップには Enterprise Edition が必要です

原因: SET DUPLEX コマンドが指定されました。

処置: SET DUPLEX コマンドを削除してください。

RMAN-07000 execution layer initialization failed

原因: このメッセージの後に付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

RMAN-07001 could not open channel *string*

原因: ALLOCATE CHANNEL コマンドを処理できません。

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-07003 unrecoverable error during command execution

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

RMAN-07004 unhandled exception during command execution on channel *string*

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

RMAN-07005 error during channel cleanup

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

RMAN-07006 unhandled exception during cleanup on channel *string*

原因: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するメッセージを参照してください。

RMAN-07007 cannot allocate more than *number* channels

原因: RMAN チャンネルの最大数を超過しました。チャンネルが 1 つ RMAN に確保されていることに注意してください。

処置: 割り当てるチャンネル数を削減してください。1 つのジョブに多くのチャンネルを持つ必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-07008 could not locate backup piece *string*

原因: AUTOLOCATE が有効になっており、割り当てられているチャンネルからはアクセスできないバックアップ・セットが 1 つ以上ありました。

処置: クラスターの別のノードに、追加チャンネルを割り当ててください。

RMAN-07009 restore aborted because some backup piece(s) could not be located

原因: AUTOLOCATE が有効になっており、割り当てられているチャンネルからはアクセスできないバックアップ・セットが 1 つ以上ありました。

処置: クラスタの別のノードに、追加チャンネルを割り当ててください。

RMAN-07010 automatic channel allocation initialization failed

処置: このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-07011 multiple records for default device type found in catalog

原因: デフォルト・デバイス型の構成に一貫性がありません。

処置: CONFIGURE DEFAULT DEVICE TYPE コマンドを再実行して、デバイス型を設定してください。

RMAN-07012 multiple records for *string* parallelism found in catalog

原因: デバイス・パラレル化の構成に一貫性がありません。

処置: デバイスに CONFIGURE PARALLELISM コマンドを再実行して、パラレル化を設定してください。

RMAN-07013 multiple records for *string* channel number found in catalog

原因: チャンネルの構成に一貫性がありません。

処置: CONFIGURE CHANNEL コマンドを再実行して、チャンネルを構成してください。

RMAN-07014 multiple records for default channel configuration for *string* found in catalog

原因: チャンネルの構成に一貫性がありません。

処置: CONFIGURE CHANNEL コマンドを再実行して、チャンネルを構成してください。

RMAN-07015 configuration for *string* channel number is ignored

原因: これは情報メッセージです。デバイスのパラレル化が、対応付けられたチャンネル番号よりも小さいです。

処置: この構成を使用する場合は、デバイスのパラレル化を増やしてください。この構成を消去する場合は、CONFIGURE CHANNEL... CLEAR コマンドを使用してください。

RMAN-08000 チャンネル *string*: データ・ファイル *string* をコピーしました

原因: データ・ファイルのコピー操作は正常に完了しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-08001 リストアが未完了です

原因: バックアップ・ピースはすべて正常に適用されましたが、X\$DBMS_BACKUP_RESTORE がリストアの対話が完了していないことを示しています。通常、これはバックアップ・セットが破損データを含むことを意味します。

処置: 可能であれば、ファイルを異なるバックアップ・セットからリストアしてください。Recovery Manager の CHANGE BACKUPPIECE UNAVAILABLE を使用して、Recovery Manager が破損バックアップ・ピースからのリストアを試みることを防ぐことができます。

RMAN-08002 リカバリ・カタログの完全再同期を開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08004 完全再同期が完了しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08006 データベースがリカバリ・カタログに登録されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08007 チャンネル *string*: データ・ファイル *string* のデータ・ファイル・コピーをコピーしました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08008 チャンネル *string*: *string* データ・ファイル・バックアップ・セットを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08009 チャンネル *string*: アーカイブ・ログ・バックアップ・セットを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08010 チャンネル *string*: バックアップ・セットにデータ・ファイルを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08011 カレント制御ファイルをバックアップ・セットに挿入しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08012 バックアップ・セットに制御ファイル・コピーを挿入しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08014 チャンネル *string*: バックアップ・セットにアーカイブ・ログを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08015 データ・ファイル *string* はデータ・ファイル・コピーに切り替えられました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08016 チャンネル *string*: データ・ファイル・バックアップ・セットのリストアを開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08017 チャンネル *string*: デフォルトの宛先へのアーカイブ・ログのリストアを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08018 チャンネル *string*: ユーザー指定の宛先へのアーカイブ・ログのリストアを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08019 チャンネル *string*: データ・ファイル *string* をリストアしています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08021 チャンネル *string*: 制御ファイルをリストアしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08022 チャンネル *string*: アーカイブ・ログをリストアしています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08023 チャンネル *string*: バックアップ・ピース *string* がリストアされました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08024 チャンネル *string*: リストアが完了しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08025 チャンネル *string*: 制御ファイル・コピーをコピーしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08026 チャンネル *string*: アーカイブ・ログをコピーしました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08027 チャンネル *string*: カレント制御ファイルをコピーしました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08028 チャンネル *string*: カレント制御ファイルのコピーに失敗しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08029 スナップショット制御ファイル名はデフォルト値: *string* に設定されています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08030 チャンネル: *string* が割り当てられました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08031 チャンネル: *string* がリリースされました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08032 チャネル *string*: レコード ID *string*、スタンプ *string* がリカバリ・カタログに一致していません

原因: コピーまたはバックアップ・データベース用のソース・ファイルを識別するレコードには、リカバリ・カタログに格納されているものと同じデータは含まれていません。

処置: 完全再同期を実行して、操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-08033 チャネル *string*: データ・ファイル *string* のコピーをバックアップ・セットに挿入しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08034 完全再同期をスキップしました。ターゲット・データベースがマウントされていません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08035 部分再同期をスキップしました。ターゲット・データベースがマウントされていません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08036 チャネル *string*: *string string* に対する制御ファイル・レコードを作成できませんでした。

原因: このファイルを識別するレコードはすでにターゲット・データベース制御ファイルになく、レコード作成時にファイル検査を何度も試みましたが失敗しました。これは、このファイル型についての情報を保持する制御ファイルの循環再利用セクションが小さすぎ、使用可能となる前にレコードを上書きしてしまうその他のデータベース・アクティビティがあるために発生します。

処置: このファイル型（エラー・メッセージで示されたデータ・ファイル・コピーまたはアーカイブ・ログ）の制御ファイルの環境再利用セクションのサイズ、または CONTROL_FILE_RECORD_KEEP_TIME 初期化パラメータを増すことをお勧めします。これらの処置がいずれも効果がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

RMAN-08037 チャネル *string*: 予期せぬ妥当性チェック・リターン・コード *string* です

原因: 通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-08039 チャンネル *string*: 増分データ・ファイル・バックアップ・セットのリストア開始

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08040 完全再同期をスキップしました。制御ファイルがカレント/バックアップではありません

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08041 部分再同期をスキップしました。制御ファイルがカレント/バックアップではありません

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08050 データ・ファイル・コピーがカタログに入りました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08051 アーカイブ・ログがカタログに入りました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08052 制御ファイル・コピーがカタログに入りました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08054 メディア・リカバリを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08055 メディア・リカバリが完了しました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08056 データ・ファイル *string* は、変更がないためスキップします

原因: このデータ・ファイルのチェックポイントは、前のバックアップ以降進んでいません。そのため、新しい増分バックアップは不要です。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-08057 チャンネル *string*: 全ファイルがスキップされたため、バックアップは取り消されました

原因: この増分バックアップ・セットに対する全データ・ファイルがスキップされたため、バックアップ・セットは作成されません。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-08058 制御ファイルをレプリケートしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08059 メディア・リカバリに失敗しました

RMAN-08060 アーカイブ・ログが見つかりません

RMAN-08066 データベースがリカバリ・カタログ・インカネーション *string* にリセットされました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08070 データ・ファイル・コピーが削除されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08071 チャンネル *string*: アーカイブ・ログを削除しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08072 制御ファイル・コピーが削除されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08073 バックアップ・ピースが削除されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08074 バックアップ・ピースがクロスチェックされました: '*string*' が検出されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08085 スクリプト *string* が作成されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08086 スクリプト *string* が置換されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08087 チャネル *string*: バックアップ・セットの妥当性チェックを開始しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08088 データ・ファイル *string* にオフライン範囲が適用されました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08089 チャネル *string*: バックアップ・セットからリストアするデータ・ファイルを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08090 チャネル *string*: プロキシ・データ・ファイルのリストアを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08091 チャネル *string*: プロキシ・バックアップのためのデータ・ファイルを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08092 チャネル *string*: プロキシ・バックアップのためのデータ・ファイル *string* のデータ・ファイル・コピーを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08093 プロキシ・バックアップのためにカレント制御ファイルを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08094 チャネル *string*: プロキシ・リストアのためのデータ・ファイルを指定しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08096 チャネル *string*: データ・ファイル・バックアップ・セットの妥当性チェックを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08097 チャネル *string*: アーカイブ・ログ・バックアップ・セットの妥当性チェックを開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08098 チャネル *string*: 妥当性チェックが完了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08100 チャネル *string*: プロキシの妥当性チェックを開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08101 チャネル *string*: プロキシの妥当性チェックが完了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08102 チャネル *string*: バックアップ・ピース: *string* が見つかりました

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08103 チャネル *string*: バックアップ・ピース: *string* が見つかりませんでした

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08111 一部のブロックがリカバリできませんでした。詳細はトレース・ファイルを参照してください

原因: エラーが発生したため、一部のブロックがリカバリできませんでした。

処置: エラーの詳細は、トレース・ファイルを参照してください。

RMAN-08500 チャンネル *string*: sid=*string* devtype=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08501 出力ファイル名 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08502 set_count=*string* set_stamp=*string* creation_time=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08503 ピース・ハンドル *=string* コメント *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08504 入力アーカイブ・ログ・スレッド *=string* 順序 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08505 出力ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08506 入力ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08507 入力データ・ファイル・コピー・レコード ID=*string* スタンプ *=string* ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08508 アーカイブ・ログ先 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08509 データ・ファイル *string* のリストア先: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08510 アーカイブ・ログ・スレッド=*string* 順序=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08511 ピース・ハンドル=*string* タグ=*string* パラメータ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08512 スナップショット制御ファイル・エンキューを待っています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08513 データ・ファイル・コピー・ファイル名=*string* レコード ID=*string* スタンプ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08514 アーカイブ・ログ・ファイル名=*string* レコード ID=*string* スタンプ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08515 アーカイブ・ログ・ファイル名=*string* スレッド=*string* 順序=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08516 制御ファイル・コピー・ファイル名=*string* レコード ID=*string* スタンプ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08517 バックアップ・ピース・ハンドル=*string* レコード ID=*string* スタンプ=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08518 チャンネル *string*: 制御ファイル・コピー: *string* をスキャンしています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08519 チャンネル *string*: データ・ファイル・コピー: *string* をスキャンしています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08520 チャンネル *string*: アーカイブ・ログ: *string* をスキャンしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08521 オフライン範囲レコード ID =*string* スタンプ =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08522 入力データ・ファイル fno=*string* 名前 =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08523 データ・ファイル *string* を *string* ヘリストア

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08524 入力制御ファイル・コピー名 =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08526 チャンネル *string*: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08527 チャンネル *string*: *string* プロキシ・データ・ファイルのバックアップを *string* で開始しています

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08528 チャンネル *string*: プロキシ・コピーが完了しました。経過時間: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08529 プロキシ・ファイル・ハンドル =string

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08531 チャンネル string: プロキシ・コピー string はメディア管理カタログで string です

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-10000 ターゲット・データベース接続文字列 "string" の解析中にエラーが発生しました

原因: 無効なターゲット接続文字列が入力されました。

処置: 有効な接続文字列を指定してジョブを再実行してください。

RMAN-10001 リカバリ・カタログ接続文字列 "string" の解析中にエラーが発生しました

原因: 無効なリカバリ・カタログ接続文字列が入力されました。

処置: 有効な接続文字列を指定してジョブを再実行してください。

RMAN-10002 Oracle エラー : string

原因: この Oracle エラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-10003 接続文字列 "string" でターゲット・データベースに接続できません

原因: Recovery Manager でターゲット・データベースへ接続できません。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: ターゲット・データベースが開始済で、接続文字列が有効なことを確認してください。

RMAN-10004 接続文字列 : string でリカバリ・カタログに接続できません

原因: Recovery Manager でリカバリ・カタログへ接続できません。

処置: リカバリ・カタログが開始済で、接続文字列が有効なことを確認してください。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-10005 カーソルのオープン時にエラーが発生しました。

原因: カーソルのオープン時にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10006 SQL 文: *string* の実行時にエラーが発生しました

原因: 表示されている SQL 文の実行中にエラー・メッセージを受け取りました。

処置: 関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10007 カーソルのクローズ時にエラーが発生しました。

原因: カーソルのクローズ時にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10008 チャネル・コンテキストを作成できませんでした。

原因: チャネル・コンテキストの作成時にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10009 Oracle からのログオフ時にエラーが発生しました。

原因: Oracle からの切断中にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-10010 RPC の完了チェック中にエラーが発生しました

原因: リモート・プロシージャ・コール完了の確認中に Recovery Manager のチャネル・コンテキストにエラーが発生しました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10011 RPC *number* のポーリング中に同期化エラーが発生しました。処置 =*string*

原因: Recovery Manager でリモート・プロシージャ・コールとの適切な同期化ができません。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10012 KGU エラー: *string*

原因: KGU サブシステムの初期化中にエラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10013 PL/SQL の初期化中にエラーが発生しました。

原因：PL/SQL サブシステムの初期化中にエラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10014 PL/SQL エラー *number* が行 *number*、列 *number* で発生しました : *string*

原因：PL/SQL エラーです。

処置：このメッセージのテキストは PL/SQL サブシステムによって発行されます。

RMAN-10015 PL/SQL プログラムのコンパイル中にエラーが発生しました。

原因：PL/SQL プログラムのコンパイル中にエラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10016 PL/SQL のランタイム・コンテキストの作成時にエラーが発生しました。

原因：PL/SQL のランタイム・コンテキストの作成中にエラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10017 チャネル・コンテキストの初期化中にエラーが発生しました。

原因：チャネル・コンテキストの初期化中にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置：その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10018 チャネル・コンテキストのクリーン・アップ中にエラーが発生しました。

原因：チャネル・コンテキストのステップ間クリーンアップ中にエラーを受け取りました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10020 Recovery Manager の実行レイヤーを初期化中にエラーが発生しました。

原因：ジョブ実行の準備で、Recovery Manager 実行レイヤーの初期化中にエラーを受け取りました。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置：その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10022 システム依存の休眠ルーチンでエラーが発生しました。

原因：リモート RPC の完了待ちでエラーを受け取りました。このエラーはシステム依存の休眠ルーチンで発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10023 認識できないパッケージに対して、RPC が行われました。

原因: Recovery Manager の内部 RPC ルーターで認識できないパッケージ名を受け取りました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10024 RPC ポーリングをセットアップ中にエラーが発生しました。

原因: Recovery Manager で RPC 完了のテストに必要な RPC ポーリング・コンテキストを作成できません。このメッセージに付随して、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10025 イベントに対して接続がすでに登録されています。

原因: Recovery Manager では RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続を使用可能にできません。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10026 ネットワーク・エラー *number-number* が接続登録中に発生しました。

原因: RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続の登録中にネットワーク・エラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: メッセージ番号は Net Services レイヤーによって発行されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10027 ネットワーク・レイヤー・コンテキストの位置を特定できませんでした

原因: RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続の登録中に、Recovery Manager は必要なコンテキスト領域を検出できませんでした。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10028 リモート RPC 中にネットワーク・エラー *number-number* が発生しました。

原因: リモート RPC の完了待ちでネットワーク・エラーが発生しました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: メッセージ番号は、Net Services レイヤーによって発行されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10029 PL/SQL の実行で予期せぬリターン・コード *number* が返されました

原因: あるチャネル・プログラムの実行中に、PL/SQL によって予期しないリターン・コードが返されました。通常、これは発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10030 RPC コールの起動がチャネル *string* で失敗しました。

原因: ターゲット・データベース・インスタンスへの RPC が発行されましたが、タイムアウト 5 回以内の起動は確認されませんでした。

処置: このエラーに付随して、障害の明確な原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-10031 ORA-number が *string.string* へのコール中に発生しました

原因: ターゲット・データベースまたはリカバリ・カタログ・データベースに対する RPC でエラーが検出されました。

処置: このエラーに付随して、エラーが発生したサーバーからのエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-10032 ジョブ・ステップ *number* の実行中に未処理例外が発生しました : *string*

原因: ジョブ・ステップ中に未処理の PL/SQL 例外が発生しました。

処置: このエラーに付随して、例外を記述したエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-10033 ジョブ・ステップ *number* のコンパイル中にエラーが発生しました : *string*

原因: PL/SQL は、ジョブ・ステップのコンパイル中に問題を検出しました。

処置: このエラーに付随して、例外を記述したエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-10034 ジョブ・ステップ *number* の実行中に未処理例外が発生しました。エラー内容は不明です

原因: PL/SQL でジョブ・ステップの実行中に未処理例外が検出されましたが、この詳細は入手できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10035 RPC で例外が発生しました : *string*

原因: リモート・パッケージのコールで例外が発生しました。

処置: 例外に問題の原因が示されています。

RMAN-10036 RPC コールはチャネル *string* で OK です。

原因: これは情報メッセージです。メッセージ RMAN-10030 の後に表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-10037 チャネル *string* で異常な RPC が検出されました。upinblt=*number*

原因: これはデバッグ・メッセージであり、無視できます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-10038 チャンネル *string* に対するデータベース・セッションが予期せず終了しました。

原因: このチャンネルのデータベース接続は、存在しなくなっています。外部的な手段によってセッションが終了されたか、内部エラーによってチャンネルが終了しました。

処置: セッションが終了した理由の詳細を、Oracle トレース・ファイルで確認してください。

RMAN-10039 チャンネル *string* で、RPC 完了のポーリング中にエラーが発生しました。

原因: このエラーに付随して、ポーリング・エラーの原因となる他のエラーが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-11000 Recovery Manager メッセージ・ファイルにメッセージ番号 *number* が見つかりません

原因: Recovery Manager メッセージ・ファイルが現行のものではありません。

処置: Recovery Manager エラー・メッセージ・ファイルが現行のもので、正しい位置にインストールされていることを確認してください。

RMAN-11001 Oracle エラー: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11002 ターゲット・データベースに対してカーソルをオープンできませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11003 SQL 文: *string* の解析 / 実行中に障害が発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11004 多重化するときは、書式に *%string* が必要です

原因: SET_DUPLEX=ON が指定されましたが、*%string* は書式の一部ではありませんでした。

処置: *%string* を書式に入れるか、または %U を使用してください。

RMAN-20000 ジョブ・ステップが異常終了しました。

原因: ジョブ・ステップでエラーが見つかり、リカバリできません。

処置: このエラーに付随して、問題の原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-20001 リカバリ・カタログにターゲット・データベースが見つかりません。

原因: リカバリ・カタログにターゲット・データベースが見つかりません。

処置: ターゲット・データベースがリカバリ・カタログに登録済であることを確認してください。

RMAN-20002 ターゲット・データベースはリカバリ・カタログにすでに登録されています。

原因: ターゲット・データベースがリカバリ・カタログにすでに登録されています。

処置: ターゲット・データベースが実際に登録されている場合は、それを再度登録する必要はありません。リカバリ・カタログでは、全データベースが他と重複しない DBID を持つことが必須であることに注意してください。既存のデータベースからファイルをコピーすることで、新しいデータベースを作成する場合は、元のデータベースと同じ DBID を持つことになるため、同じリカバリ・カタログには登録できません。

RMAN-20003 リカバリ・カタログにターゲット・データベース・インカネーションが見つかりませんでした。

原因: ターゲット・データベースの RESETLOGS CHANGE 番号または時刻（あるいはその両方）が、リカバリ・カタログのどのデータベース・インカネーションとも一致しません。

処置: resetlogs オプションを指定してターゲット・データベースをオープンした場合は、RESET DATABASE を使用して新しいインカネーションに登録してください。

RMAN-20004 ターゲット・データベース名がリカバリ・カタログの名前と一致しません。

原因: ターゲット・データベースの名前がリカバリ・カタログに格納されたものと一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20005 ターゲット・データベース名が不明瞭です

原因: リカバリ・カタログの 2 つ以上のデータベースが、インスタンスの DB_NAME 初期化パラメータと一致しますが、ターゲット・データベースがマウントされていません。そのため RMAN はその DBID を入手できません。

処置: ターゲット・データベースをマウントしてから操作を再試行してください。

RMAN-20006 ターゲット・データベース名が見つかりません。

原因: ターゲット・データベース・インスタンスが開始されていない、または DB_NAME 初期化パラメータの値が設定されていません。

処置: インスタンスを開始して、DB_NAME 初期化パラメータの値が設定されていることを確認してください。

RMAN-20007 ターゲット・データベース ID が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20008 データベース・インカネーション・キーが見つかりません。

原因: データベース・インカネーション・キーが指定されていません。

処置: 有効なデータベース・インカネーション・キーを指定してください。

RMAN-20009 データベース・インカネーションはすでに登録されています。

原因: このデータベースのインカネーションは、すでにリカバリ・カタログに登録されています。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-20010 データベース・インカネーションが見つかりません。

原因: データベース・インカネーションが、リカバリ・カタログのどのデータベース・インカネーションとも一致しません。

処置: 有効なデータベース・インカネーション・キーを指定してください。

RMAN-20011 ターゲット・データベース・インカネーションがリカバリ・カタログ内の現行のものではありません

原因: RESETLOGS CHANGE 番号およびマウントされたターゲット・データベース制御ファイルの時刻と一致するデータベース・インカネーションは、そのデータベースの現行のインカネーションではありません。

処置: RESET DATABASE TO INCARNATION キーを使用して古いインカネーションを現行のものにした場合は、バックアップからそのインカネーションと一致したターゲット・データベースをリストアし、マウントしてください。RMAN を使用して制御ファイルをリストアする前に、STARTUP NOMOUNT の実行が必要となります。そうでない場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION キーを使用して、リカバリ・カタログで意図したインカネーションを現行にしてください。

RMAN-20020 データベース・インカネーションが設定されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20021 データベースが設定されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20029 スナップショット制御ファイルを作成できません。

原因: スナップショット制御ファイルを必要とする別の操作が進行中です。

処置: 必要に応じて、再試行してください。

RMAN-20030 再同期中です

原因: 再同期中は、このプロシージャをコールしません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20031 再同期が開始されていません。

原因: このプロシージャは、再同期のみでコールされます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20032 チェックポイントの変更番号が小さすぎます。

原因: チェックポイントの変更番号が前の再同期より小さいか、またはチェックポイントの番号が NULL です。

処置: 正しい制御ファイルが使用されていることを確認してください。

RMAN-20033 制御ファイル順序番号が小さすぎます。

原因: 制御ファイルの順序番号が前の再同期より小さいです。

処置: 正しい制御ファイルが使用されていることを確認してください。

RMAN-20034 再同期は必要ありません。

原因: 制御ファイルが前の再同期から変更されていません。

処置: リカバリ・カタログが同期されているので、処置は必要ありません。

RMAN-20035 高レコード ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20036 レコード順序が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20037 最終レコード ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20038 断片サイズよりも大きい制御ファイル自動バックアップです。制御ファイル自動バックアップは異常終了しました

原因: 制御ファイル自動バックアップは、複数の断片にまたがることはできません。

処置: 制御ファイル自動バックアップが 1 つになるように、断片サイズの上限を上げてください。

RMAN-20039 多重化時にはフォーマットに *string* が必要です

原因: SET_DUPLEX=ON が指定されましたが、*string* はフォーマットの一部ではありませんでした。

処置: *string* をフォーマットに含めるか、*number* を使用してください。

RMAN-20040 表領域の再同期が開始されていません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20041 表領域の再同期が完了していません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20042 表領域作成の変更番号が無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20043 表領域の作成時刻が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20044 表領域名が無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20050 データ・ファイル再同期が開始されていません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20051 データ・ファイル再同期が完了していません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20052 データ・ファイル作成 SCN が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20053 データ・ファイル作成時刻が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20054 データ・ファイル ts# が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20061 スレッドの再同期が開始されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20070 ログ履歴の順序番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20071 ログ履歴の低 SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20080 アーカイブ・ログ名が無効です

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20085 オフライン範囲ファイル番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20086 オフライン範囲 offline_scn が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20087 オフライン範囲 online_scn が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20090 バックアップ・セット・タイプが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20091 バックアップ・セット・レベルが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20092 バックアップ・セットの終了時刻が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20093 バックアップ・ピース番号が無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20094 バックアップ・セットが見つかりません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20095 バックアップ/コピー制御ファイルのチェックポイント SCN が無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20096 バックアップ/コピー・データ・ファイルのファイル番号が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20097 バックアップ/コピー・データ・ファイルの作成 SCN が無効です

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20098 バックアップ REDO ログの低 SCN が無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20100 ステータスが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20101 データ・ファイル・コピーが見つかりません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20102 アーカイブ・ログが見つかりません

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20103 制御ファイル・コピーが見つかりません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20104 バックアップ・ピースが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20105 データ・ファイルが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20106 プロキシ・コピーが見つかりません

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20200 リストア・ソースが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20201 データ・ファイルがリカバリ・カタログに見つかりません

原因: リカバリ・カタログにこのデータ・ファイルが見つかりません。

処置: データ・ファイル名が正しく、リカバリ・カタログは最新であることを確認してください。

RMAN-20202 表領域がリカバリ・カタログに見つかりません

原因: リカバリ・カタログに、この表領域が見つかりません。

処置: 表領域名が正しく、リカバリ・カタログは最新であることを確認してください。

RMAN-20203 変換中です。

原因: 名前変換中は、このプロシージャをコールできません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20204 変換が開始されていません。

原因: getDatafile プロシージャは、translateTablespace の前にコールされます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20205 UNTIL 句が不完全です。

原因: 順序番号が NULL です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20206 ログ順序がリカバリ・カタログに見つかりません

原因: このログ順序は、現行のデータベース・インカネーションのログ履歴には存在しません。

処置: THREAD と LOGSEQ を確認してください。現行のデータベース・インカネーション前のログ順序番号に、データベースをリカバリする必要がある場合は、最初に RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを実行してください。

RMAN-20207 UNTIL TIME または RECOVERY WINDOW が RESETLOGS 時刻より前になっています

原因: UNTIL TIME または RECOVERY WINDOW は、データベース作成時刻または RESETLOGS 時刻より後である必要があります。

処置: UNTIL TIME または RECOVERY WINDOW を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを実行してください。

RMAN-20208 UNTIL CHANGE が RESETLOGS 変更より前になっています。

原因: UNTIL CHANGE は、データベース RESETLOGS 変更より後である必要があります。

処置: UNTIL CHANGE を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを実行してください。

RMAN-20209 データ・ファイル名が重複しています

原因: 2 つのデータ・ファイルが同じ名前を持っています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20210 アーカイブ・ログ範囲が無効です。スレッド番号が NULL です

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20211 FROM TIME が RESETLOGS 時刻より前になっています。

原因: FROM TIME は、データベース作成時刻または RESETLOGS 時刻より後である必要があります。

処置: FROM TIME を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを実行してください。

RMAN-20212 プロキシコピーが不明瞭です

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20215 バックアップ・セットが見つかりません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20216 バックアップ・ピースが見つかりません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20217 データ・ファイルがデータベースに所属していません

原因：データ・ファイルが存在しないか、または UNTIL TIME/SCN で存在しませんでした。これは、リストア・データベースまたは表領域の内部エラーです。

処置：データ・ファイルの名前または番号を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20218 データ・ファイルがリカバリ・カタログにありません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20220 制御ファイル・コピーがリカバリ・カタログにありません。

原因：この制御ファイルがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置：ファイル名を確認してください。

RMAN-20221 制御ファイル・コピー名が不明瞭です

原因：リカバリ・カタログの複数の制御ファイル・コピーが、この名前と一致していません。

処置：制御ファイル・コピーのキーを使用して、一意にデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-20222 データ・ファイル名がリカバリ・カタログに見つからない、または不明瞭です

原因：指定されたデータ・ファイル名が、現行のターゲット・データベースに含まれているデータ・ファイルの名前でないか、または UNTIL 句が指定され、そのファイル名が、現行のデータ・ファイルとは異なるデータ・ファイルの名前でした。

処置：データ・ファイル番号を使用して、必要なデータ・ファイルを RESTORE または RECOVER に指定してください。

RMAN-20230 データ・ファイル・コピーがリカバリ・カタログに見つかりません

原因：このデータ・ファイルがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置：データ・ファイル・コピーの名前またはキーを確認してください。

RMAN-20231 データ・ファイル・コピー名が不明瞭です

原因: リカバリ・カタログの複数の制御ファイル・コピーが、この名前と一致していません。

処置: データ・ファイル・コピーのキーを使用して、一意にデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-20232 タグがリカバリ・カタログのどのデータ・ファイル・コピーとも一致しません

原因: このタグは、リカバリ・カタログのどのデータ・ファイル・コピーとも一致しません。

処置: タグを確認してください。

RMAN-20240 アーカイブ・ログがリカバリ・カタログに見つかりません

原因: このアーカイブ・ログがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: アーカイブ・ログの名前またはキーを確認してください。

RMAN-20241 アーカイブ・ログ名が不明瞭です

原因: リカバリ・カタログの複数のアーカイブ・ログが、この名前と一致しています。

処置: アーカイブ・ログ・キーを使用してアーカイブ・ログを一意に指定してください。

RMAN-20242 指定がリカバリ・カタログのどのアーカイブ・ログとも一致しません

原因: このアーカイブ・ログ範囲にアーカイブ・ログが見つかりません。

処置: アーカイブ・ログの指定子を確認してください。

RMAN-20250 オフライン範囲がリカバリ・カタログに見つかりません。

原因: このオフラインが、リカバリ・カタログに見つかりません。

処置: リカバリ・カタログが、現行のものであることを確認してください。

RMAN-20260 バックアップ・ピースがリカバリ・カタログに見つかりません。

原因: このバックアップ・ピースがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: バックアップ・ピースのハンドルまたはキーを確認してください。

RMAN-20261 バックアップ・ピース・ハンドルが不明瞭です

原因: リカバリ・カタログの複数のバックアップ・ピースが、このハンドルと一致しています。

処置: バックアップ・ピース・キーを使用して、バックアップ・ピースを一意に指定してください。

RMAN-20270 増分バックアップ・レベルが無効です。

原因：無効な増分バックアップ・レベルが要求されました。

処置：有効な増分バックアップ・レベルは、1～4です。有効なレベルを指定してください。

RMAN-20271 増分累積オプションが無効です。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20272 増分バックアップに対する親バックアップが見つかりません。

原因：増分バックアップの親として使用できるバックアップまたはコピーが、リカバリ・カタログに見つかりません。

処置：最初に、データ・ファイルのレベル0のバックアップまたはコピーを実行してください。

RMAN-20280 デバイス・タイプが多すぎます

原因：9つ以上のデバイス・タイプが割り当てられました。

処置：ジョブが異なるデバイス・タイプを9つ以上割り当てていないことを確認してください。

RMAN-20298 DBMS_RCVCAT パッケージにリカバリ・カタログとの互換性がありません。

原因：リカバリ・カタログ表のバージョンは、DBMS_RCVCAT パッケージのこのバージョンと動作しません。

処置：リカバリ・カタログのパッケージおよびスキーマが、正しくインストールされていることを確認してください。リカバリ・カタログ表およびパッケージを最新バージョンにアップグレードするために、UPGRADE CATALOG コマンドを使用できます。

RMAN-20299 DBMS_RCVMAN パッケージにリカバリ・カタログとの互換性がありません。

原因：リカバリ・カタログ表のバージョンは、DBMS_RCVMAN パッケージのこのバージョンと動作しません。

処置：リカバリ・カタログのパッケージおよびスキーマが、正しくインストールされていることを確認してください。リカバリ・カタログ表およびパッケージを最新バージョンにアップグレードするために、UPGRADE CATALOG コマンドを使用できます。

RMAN-20300 CHANGE AVAILABLE/UNAVAILABLE/UNCATALOG はリカバリ・カタログなしの操作はサポートされていません。

原因：リカバリ・カタログを必要とする操作が要求されましたが、リカバリ・カタログが使用されていません。

処置：リカバリ・カタログが使用可能な場合は RMAN を再起動し、RCVCAT パラメータを使用してリカバリ・カタログ・データベースに対する接続文字列を指定してください。

RMAN-20310 リカバリ・カタログにプロキシ・コピーが見つかりません。

原因：このプロキシ・コピーがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置：データ・ファイル・コピーのハンドルまたはキーを確認してください。

RMAN-20311 プロキシ・コピー・ハンドルが不明瞭です

原因：リカバリ・カタログの複数のプロキシ・コピーが、このハンドルと一致していません。

処置：プロキシ・コピーのキーを使用して、一意にプロキシ・コピーを指定してください。

RMAN-20400 ストアド・スクリプトが見つかりません

原因：見つからないスクリプト名が、CREATE SCRIPT または DELETE SCRIPT で指定されました。

処置：スクリプト名を確認してください。

RMAN-20401 スクリプトはすでに存在します

原因：CREATE SCRIPT が発行されましたが、この名前のスクリプトはすでに存在しています。

処置：別の名前を使用するか、または REPLACE SCRIPT を使用してください。

RMAN-20500 メディア・リカバリが異常終了しました

RMAN-20501 親データベース・インカネーションの REDO ログは適用できません

原因：データ・ファイルの RESTORE または RECOVER が要求されましたが、データ・ファイルのリカバリには、最新の OPEN RESETLOGS より前に生成された REDO ログを適用する必要があります。

処置：現行のデータベース・インカネーションからの全体バックアップまたはデータ・ファイル・コピーが存在する場合は、AVAILABLE とマークされており、正しいデバイス・タイプのチャネルが割り当てられていることを確認してください。指定されている場合は、FROM BACKUPSET、FROM DATAFILECOPY または FROM TAG オペランドを削除する必要がある場合があります。

SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)

この章では、SQL*Loader ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle9i データベース・ユーティリティ』を参照してください。

SQL*Loader-00100 コマンドラインの構文エラーが発生しました。

原因：このエラーの考えられる原因には、位置引数がキーワード引数の後にある、キーワードの綴りが正しくない、カッコや引用符が正しく対応していない、演算子 = と引数の間に空白があるなどがあります。

処置：コマンドの構文と綴りを調べて、再実行してください。

SQL*Loader-00101 ユーザー名 / パスワードの引数が無効です。

原因：コマンドラインで指定したユーザー名 / パスワード引数が認識されませんでした。ユーザー名 / パスワードが想定されている位置に別の引数（キーワードによって識別されない）がある可能性があります。このエラーは、綴りの誤りが原因で発生することもあります。パスワードがある場合は、パスワードをスラッシュ (/) で区切る必要があります。スラッシュとユーザー名またはパスワードとの間に空白を入れることはできません。空白を入れると、SQL*Loader はその空白を複数の引数とみなします。

処置：引数がキーワードなしで指定されている場合は、コマンドラインの最初の引数である、ユーザー名 / パスワード引数の形式を調べてください。

SQL*Loader-00102 コマンドラインで指定した制御ファイル名が無効です。

原因：コマンドラインで指定した制御ファイル名が認識されませんでした。綴りに誤りがあったか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。原因の 1 つとして、ユーザー名とパスワードとの間に空白があった可能性があります。前述のエラー SQL*Loader-00101 を参照してください。

処置：コマンドラインの引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00103 コマンドラインで指定したログ・ファイル名が無効です。

原因：コマンドラインで指定したログ・ファイル名が認識されませんでした。綴りに誤りがあったか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンドラインの引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00104 コマンドラインで指定した不良ファイル名が無効です。

原因：コマンドラインで指定した不良ファイル名が認識されませんでした。綴りに誤りがあったか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：誤りを修正してください。

SQL*Loader-00105 コマンドラインで指定したデータ・ファイル名が無効です。

原因：コマンドラインで指定したデータ・ファイル名が認識されませんでした。綴りに誤りがあったか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンドラインの引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00106 コマンドラインで指定した廃棄ファイル名が無効です。

原因：コマンドラインで指定した廃棄ファイル名が認識されませんでした。綴りに誤りがあったか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンドラインの引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00107 最大廃棄件数が無効です

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00108 ロードする論理レコード数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00109 スキップされる論理レコード数が無効です

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00110 最大エラー件数が無効です

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00111 バインド配列またはデータ保管の行数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00112 最大バインド配列サイズが無効です

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00113 SILENT キーワードのオプションが無効です

原因：SILENT コマンドライン引数とともに指定したオプションが正しくありません。正しいオプションは、ALL、ERROR、FEEDBACK、HEADER のいずれかです。引数の綴りに誤りがあるか、別の引数（キーワードによって認識されない）がこの場所にある可能性があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00114 OPTIONS 句で構文エラーが発生しました

原因：OPTIONS 句を使用して SQL*Loader 制御ファイルに指定したコマンドライン・オプションが誤っていることが判明しました。

処置：SQL*Loader 制御ファイルの OPTION 句の書式を確認してください。

SQL*Loader-00115 DIRECT キーワードのオプションが無効です

原因：コマンドライン引数 DIRECT には TRUE または FALSE のみが許可されます。引数の綴りに誤りがあるか、別の引数（キーワードによって認識されない）がこの場所にある可能性があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00116 パスワードの入力時にエラーが発生しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00118 無効なパラレル・ロード・オプションです

原因：パラレル・ロードに使用されたコマンドラインの引数が誤っています。

処置：TRUE または FALSE のみをパラレル・ロード・オプションの値として使用してください。

SQL*Loader-00119 コマンドラインの平行ル・ファイル（データ・ファイル）名が無効です

原因： 平行ル・ファイルに入力されたコマンドライン引数が誤っています。

処置： コマンドライン引数を確認して、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00121 無効な skip_unusable_indexes オプションです

原因： SKIP_UNUSABLE_INDEXES のコマンドライン引数が誤っています。

処置： TRUE または FALSE のみを SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションの値として使用してください。

SQL*Loader-00122 無効な skip_index_maintenance オプションです

原因： SKIP_INDEX_MAINTENANCE のコマンドライン引数が誤っています。

処置： TRUE または FALSE のみを SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションの値として使用してください。（注意：ダイレクト・ロードのときのみ）。

SQL*Loader-00123 bindsize (number) に指定した値が readsize (number) よりも小さくなっています

原因： BINDSIZE に指定されたコマンドライン引数が、READSIZE の値未満でした。

処置： 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に BINDSIZE の値を READSIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00124 readsize (number) に指定した値が bindsize (number) よりも小さくなっています

原因： READSIZE に指定されたコマンドライン引数が、BINDSIZE の値未満でした。

処置： 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に READSIZE の値を BINDSIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00125 READSIZE に指定された値 (number) が MAX_RECORD_SIZE (number) 以下です

原因： 読取りサイズに指定されたコマンドライン引数が、MAX_RECORD_SIZE の値以下でした。

処置： 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に読込みサイズの値を MAX_RECORD_SIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00126 読込みサイズが無効です

原因： 引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置： 入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00127 最大レコード・サイズが無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00128 セッションを開始できません

原因：データベースでセッションを開始しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置：エラーの原因については、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00129 ダイレクト・パス列の配列の行数が無効です

原因：引数の値が不適切です。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00130 ダイレクト・パス・ストリームのサイズが無効です

原因：引数の値が不適切です。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00131 マルチスレッド・オプションが無効です

原因：コマンドライン引数 MULTITHREADING には TRUE または FALSE のみが許可されます。引数の綴りに誤りがあるか、別の引数（キーワードによって認識されない）がこの場所にある可能性があります。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00132 外部表オプションの引数が無効です

原因：外部表に指定したコマンドライン引数が、TRUE または FALSE ではありません。

処置：入力を変更して、ロードを再度行ってください。

SQL*Loader-00133 ダイレクト・パスと外部表の両方を指定できません

原因：ダイレクト・パスおよび外部表の両方のオプションが指定されました。1 度に指定できるのは、片方のみです。

処置：片方のみを使用するように、パラメータを変更してください。

SQL*Loader-00134 EXTERNAL_TABLE パラメータに指定されたオプションが無効です

原因：EXTERNAL_TABLE パラメータに無効な値が指定されました。

処置：次の値のいずれかの処置を行ってください。

- NOT_USED を指定して、外部表を使用禁止にする。
- GENERATE_ONLY を指定して、データのロードに外部表を使用する SQL 文を生成する。
- EXECUTE を指定して、SQL 文を生成し、それを実行する。

SQL*Loader-00200 FORMAT 句は指定できません - フラット・データ・ファイルのみです

原因: SQL*Loader は、SQL/DS FORMAT 句をサポートしていません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルから FORMAT コマンドを削除して、それをコメントアウトにしてください。

SQL*Loader-00250 SQL*Loader はワーク・データ・セットを使用できません

原因: SQL*Loader 制御ファイルに WRKDDN 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00251 SQL*Loader はソート・デバイスを使用できません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルに SORTDEVT 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00252 SQL*Loader はソート・データ・セットを使用できません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルに SORTDEVT 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00253 DB2 パーティション番号は無視されました

原因: SQL*Loader 制御ファイルに PART 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00254 複数のデータ・ファイルに対して DISCARDFILE を指定することはできません

原因: 制御ファイルに複数の INFILE 文が含まれていて、DISCARDFILE 文が RESUME 句の下にありました。

処置: DISCARDFILE 文を RESUME 句の上に移動させて、DISCARDFILE 文が INFILE 文の 1 つと隣接するようにしてください。

SQL*Loader-00255 SQL*Loader はエラー・リカバリ用のログ・ファイルを使用できません

原因: SQL*Loader 制御ファイルに LOG 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00256 SORTED INDEXES オプションはダイレクト・パスでのみ使用できます

原因: SQL*Loader 制御ファイルに SORTED_INDEXES 文が含まれていますが、ダイレクト・パス・ロードが使用されていませんでした。

処置: コマンドラインに DIRECT=TRUE でダイレクト・パス・ロードを指定して、SQL*Loader 制御ファイルからその文を削除するか、またはそれをコメントアウトしてください。

SQL*Loader-00257 TERMINATED BY EOF オプションは ENCLOSED BY オプションと同時に使用できません

原因: SQL*Loader 制御ファイルのフィールドの説明には、TERMINATED BY EOF および ENCLOSED BY オプションがあります。これらのオプションは相互に排他的です。

処置: これらの句の一方または両方を削除してください。

SQL*Loader-00258 SORTED INDEXES の最大数 (number) を超過しました (表 string)

原因: SORTED INDEX 句で指定された索引が多すぎます。メッセージ中の数値は、許可される索引の最大数を示します。

処置: SORTED INDEX 句に指定する索引数を少なくするか、ダイレクト・パス・ロードではなく、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00259 表 string で DDL 共有ロックを排他ロックに拡張できません

原因: このエラーは、他のユーザーによって表に解析ロックがかけられている状態で発生します。たとえば、他のユーザーが表に対して SELECT 文を実行しているときなどです。解析ロックはすぐに解除されます。

処置: 解析ロックが解除されてから再試行するか、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00260 TERMINATED BY EOF オプションは、LOBFILE オプションがある場合のみ使用できます

原因: TERMINATED BY EOF オプションは、データを説明するデータが LOBFILE からロードされたときのみ使用できます。それを表レベルで指定することはできません。また、標準データ・ファイルのデータに対して指定できません。

処置: TERMINATED BY に正しいオプションが指定されたか、TERMINATED BY オプションが正しいフィールドに指定されたかを確認してください。

SQL*Loader-00261 RAW フィールドに TERMINATED BY は使用できません。

原因: TERMINATED BY オプションは、データ・ファイルの RAW 型データのロードには使用できません。ただし、LOBFILE から RAW データをロードするときは例外です。その場合は、TERMINATED BY EOF オプションの指定ができます。

処置: SQL*Loader 制御ファイルの RAW フィールドから TERMINATED BY オプションを削除してください。

SQL*Loader-00262 PIECED キーワード (列 *string*) はダイレクト・パスでのみ使用できません

原因: PIECED キーワードは、従来型パス・ロードでは使用できません。

処置: PIECED キーワードを削除するか、ダイレクト・パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00263 PIECED 列 *string* は、表 *string* の列で最後に指定される必要があります

原因: 最後の列ではない列が PIECED として指定されました。

処置: PIECED キーワードを削除するか、またはその列を最後に配置してください。

SQL*Loader-00264 ファイル・モード・トークン *string* が解析されましたが無視されました。

原因: 古いファイル・モード・トークンが SQL*Loader 制御ファイルで使用されました。SQL*Loader のリリース 1.1 では、ファイル処理オプション文字列は、STREAM、RECORD、FIXED、VARIABLE などのキーワードの制御ではなく、ファイル処理の制御に使用されます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。キーワードを削除すると、データ・ファイルの処理方法を変更しなくても、このメッセージは表示されなくなります。

SQL*Loader-00265 デフォルトのキャラクタ・セット名を取得できません。

原因: SQL*Loader がその環境用のデフォルトのキャラクタ・セット名を取得できませんでした。

処置: CHARACTERSET キーワードを持つキャラクタ・セット名を指定してください。

SQL*Loader-00266 *string* に対するキャラクタ・セット・ハンドルが見つかりません。

原因: SQL*Loader が、指定されたキャラクタ・セットに対してキャラクタ・セット・ハンドルを見つけられませんでした。

処置: キャラクタ・セット名を修正してください。

SQL*Loader-00267 制御ファイルは最初のデータ・ファイルでなければなりません。

原因: INFILE "*" 句を使用するデータが含まれていると SQL*Loader 制御ファイルが指定されますが、他のデータ・ファイルが最初に指定されました。

処置: INFILE "*" 句を移動し、SQL*Loader 制御ファイル中のデータが先頭に指定されるように変更してください。

SQL*Loader-00268 UNRECOVERABLE キーワードはダイレクト・パスでのみ使用できません。

原因: UNRECOVERABLE キーワードは、ダイレクト・パス・ロードのみで指定できません。

処置: ダイレクト・パス・ロードを使用するか、キーワードを削除してください（従来型パス・ロードは常にリカバリ可能です）。

SQL*Loader-00269 NULL 文字列とテキスト句との比較はできません。

原因: 句が NULL 文字列と比較されています。

処置: 句が 1 つ以上の文字と比較されるように変更してください。

SQL*Loader-00270 TERMINATED BY EOF は、CHAR または RAW データ型にのみ有効です

原因: SQL*Loader 制御ファイルのフィールドの説明が、データ型が RAW または CHAR ではないときに、TERMINATED BY EOF オプションを使用しました。

処置: SQL*Loader 制御ファイルを変更して、TERMINATED BY EOF 句を削除するか、フィールドのデータ型を CHAR または RAW に変更してください。

SQL*Loader-00271 パラレル・ロードではありません。表レベル OPTIONS 文は無視されました。

原因: 表レベル OPTIONS 文が、非パラレル・ロードに指定されています。

処置: SQL*Loader 制御ファイルから OPTIONS 文を削除してください。

SQL*Loader-00272 表レベル OPTIONS 文は無視されました。

原因: パラレル・ロード・オプションでは、コマンドラインに指定されたファイルは、SQL*Loader 制御ファイル内で指定されたファイルを上書きします。

処置: SQL*Loader 制御ファイルから OPTIONS 文を削除してください。

SQL*Loader-00273 READBUFFERS はダイレクト・パスにのみ使用されます。

原因: READBUFFERS の指定がダイレクト・パスの一部として入力されませんでした。

処置: ダイレクト・パスを使用するか、SQL*Loader 制御ファイルから READBUFFERS 指定を削除してください。

SQL*Loader-00274 少なくとも 2 つの読み込みバッファを指定する必要があります。

原因: 指定されているバッファは 1 つのみです。

処置: SQL*Loader 制御ファイルの READBUFFERS 文には、2 つ以上の読み込みバッファを指定してください。

SQL*Loader-00275 制御ファイルにデータが入っていますが、"INFILE *" が指定されていません。

原因: INFILE 指定が SQL*Loader 制御ファイルに入力されませんでした。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内のデータを読み込む場合は、SQL*Loader 制御ファイルに INFILE * を指定してください。

SQL*Loader-00276 ローカル記憶領域オプションでグローバル記憶領域を上書きします。

原因: 記憶領域句が、表レベルのオプション文、およびグローバルのオプション文で指定されています。表レベルのオプションは、グローバルのオプションに優先します。これは警告メッセージです。

処置: 表レベルのオプション文が必要なければ削除してください。

SQL*Loader-00277 ローカルのファイル指定でグローバルのファイル指定を上書きします。

原因: ファイル名が、表レベルのオプション文、およびグローバルのオプション文で指定されています。表レベルのオプションは、グローバルのオプションに優先します。これは警告メッセージです。

処置: 表レベルのオプション文が必要なければ削除してください。

SQL*Loader-00278 パラレル・ロードに対するファイルの指定が無効です。

原因: パラレル・ロードを実行するために使用するファイル名が、正しく入力されていません。

処置: ファイル名を修正し、パラレル・ローダーを再起動してください。

SQL*Loader-00279 パラレル・ロードが指定されている場合、APPEND モードのみ有効です。

原因: パラレル・ロードが指定されている場合、APPEND モードのみが有効です。

処置: APPEND キーワードを使用するように SQL*Loader 制御ファイルを変更して、パラレル・ローダーを再起動してください。

SQL*Loader-00280 表 *string* は、一時表です。

原因: SQLLDR ユーティリティは、一時表をロードしません。SQLLDR が一時表をロードした場合は、ロード終了後にデータが消失するので注意してください。

処置: データを非一時表にロードしてください。

SQL*Loader-00281 警告: パラレル・モードの ROWS パラメータは無視されました。

原因: ROWS パラメータを使用した保存ポイントの指定は、パラレル・ロードではサポートされていません。

処置: コマンドライン引数から ROWS パラメータを削除するか、または非パラレル・ダイレクト・ロードを指定して保存ポイントを実行してください。

SQL*Loader-00282 キャラクタ・セット ID (*number*) のキャラクタ・セット・ハンドルが見つかりません。

原因: SQL*Loader が、指定されたキャラクタ・セット ID のキャラクタ・セット・ハンドルを見つけられませんでした。

処置: キャラクタ・セット ID をデータベース・サーバーから取得しましたが、SQL*Loader クライアントは指定されたキャラクタ・セット ID の情報を持っていません。クライアント側とサーバー側の NLS データが一致するようにしてください。

SQL*Loader-00283 INFILE * に対してファイル処理文字列 '*string*' は無視されました

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、オプションのファイル処理文字列とともにロード・データ・ファイルに INFILE * を指定しました。これは、データのレコード形式が SQL*Loader 制御ファイルのレコード形式と同じであると SQLLDR が予期するため、ファイル処理文字列が無視されることを警告するメッセージです。

処置: SQL*Loader 制御ファイルのデータが同じファイル内のその他のデータと同じ形式である場合、処置は必要ありません。ファイル処理文字列を削除すると、このエラー・メッセージは表示されません。SQL*Loader 制御ファイルのデータのレコード形式が異なる場合、データを別のファイルにコピーして、INFILE 句のそのファイル名を使用してください。

SQL*Loader-00284 警告: 入力データ・ファイル *string* が複数回指定されました

原因: 同一の入力データ・ファイルが複数回ロードされました。これは、INFILE キーワードが構文のロード文の中で不適切な位置に指定された場合に発生します。これによって、デフォルトで最初にロードされたデータ・ファイルのファイル名が、DAT という拡張子またはファイル・タイプの制御ファイルの名前になります。

処置: INFILE キーワードが、BADFILE/BADDN/DISCARDFILE/DISCARDDN/DISCARDS のいずれかの後に指定されていないことを確認してください。

SQL*Loader-00285 *string* は従来型パスのみで使用される場合があります。

原因: HIDDEN は、従来型パスによるロードのみで指定できます。

処置: 従来型パスによるロードを使用してください。

SQL*Loader-00287 制御ファイル名が指定されていません。

原因: 制御プロンプトで、制御ファイル名が指定されていません。

処置: プロンプトまたはコマンドラインで、有効な制御ファイル名を指定してください。

SQL*Loader-00288 SDF に格納されているコレクションにはデリミタを指定できません。

原因: TERMINATED BY または ENCLOSED BY 句が、ネストした表または VARRAY フィールドの SDF (セカンダリ・データ・ファイル) 句とともに使用されています。

処置: TERMINATED BY および ENCLOSED BY 句は、ネストした表または VARRAY データがメイン・データ・ファイルのレコードに格納されている場合のみに指定できます。ネストした表または VARRAY データをセカンダリ・データ・ファイルからロードする場合は、COUNT を使用して、ファイルに格納されたセカンダリ・データ・ファイルの要素数を指定してください。

SQL*Loader-00289 列 *string* の SQL 文字列は列 *string* の SQL 文字列を見えなくします。

原因: SQL 文字列は、制御ファイルの列オブジェクトとその属性の 1 つと関連しています。列オブジェクトの SQL 文字列が、INSERT 文の VALUE 句の列オブジェクト全体を置換するため、属性の SQL 文字列は無視されます。これによって、予期しない値または誤った値がロードされます。

処置: 列オブジェクトまたはその属性のいずれかが SQL 文字列を持つように、制御ファイルを修正してください。

SQL*Loader-00290 PIECED キーワード (列 *string*) は lob または long 列のみで使用できません

原因: PIECED キーワードは、lob または long 列以外では、使用できません。

処置: PIECED キーワードを削除するか、lob または long 列型を使用してください。

SQL*Loader-00291 SQL 文字列のバインド変数 *string* は列 *string* に対して無効です。

原因: バインド変数が、FILLER フィールドまたは存在しないフィールドを参照していない可能性があります。また、ダイレクト・パス・モードで実行している場合、バインド変数が、セカンダリ・ファイルまたはコレクションに格納された LOB 型のフィールドを参照していない可能性があります。

処置: SQL 文字列から無効なバインド変数を削除してください。

SQL*Loader-00303 16 進数が予想される場所で、16 進以外の文字が見つかりました。

原因: 16 進文字列で 16 進以外の文字が検出されました。

処置: その文字を 16 進文字に変更してください。

SQL*Loader-00304 英数字以外の無効な文字列があります

原因: SQL*Loader 制御ファイルには、SQL*Loader が認識できない英数字以外の文字の組合せが含まれています。たとえば、!= の組合せは「等しくない」と認識されますが、=! の組合せは無効です。

処置: 制御ファイルから認識できない文字を削除してください。

SQL*Loader-00305 ファイルの終わりを示す文字が複数見つかりました

原因: 制御ファイルの中にファイルの終わり (EOF) を示す文字が複数あります。

処置: 不要なファイルの終わり文字を削除してください。

SQL*Loader-00306 トークンが有効最大長 *number* 文字を超過しています

原因: SQL*Loader 制御ファイルの中で、許容最大長を超える単一文字または文字の組合せ (トークン) が見つかりました。使用できる最大値が示されます。このエラーは、空白が欠落しているため、複数のトークンが結合されて発生する場合があります。

処置: 正しい SQL*Loader 制御ファイルが実行されているかどうかを確認してください。トークンが結合されている場合は分離するか、トークンを短くしてください。

SQL*Loader-00307 警告: 長さ *number* と *number* (列 *string*、表 *string* で指定) が矛盾しています。

原因: SQL*Loader 制御ファイルで指定した列に、2 つの異なったフィールド長を指定しています。フィールド長の指定方法は、次の 3 通りがあります。

- POSITION キーワードで指定する: POSITION(1:3)
- 長さ指定子で指定する: CHAR(6)
- データ型の暗黙的な長さで決まる: INTEGER

競合はこれらのうち、どの 2 つの間でも発生する可能性があります (3 つ全部の間でも発生しますが、その場合も 2 つのみが示されます)。よくある例として、数値データにおいて外部形式 (INTEGER EXTERNAL 型) を指定すべきところに INTEGER 型を指定してしまう場合があります。また、文字データで構成される外部形式の場合、バイナリ・データを含む数値形式よりも非常に長くなります。

処置: SQL*Loader はいずれかの長さのみを使用するため、処置は必要ありません。表記述セクションにある見出し「Len」のログ・ファイルを確認して、どの長さが使用されたかを確認してください。SQL*Loader 制御ファイルを調整して、長さ指定の方法を同じにすると、警告は表示されなくなります。

SQL*Loader-00308 *string* SQL 文字列 (列 *string*) は二重引用符の中にある必要があります。

原因: 二重引用符で囲まれていない SQL 文字列があります。

処置: SQL 文字列は単一引用符ではなく、二重引用符で囲んでください。

SQL*Loader-00309 *string* フィールド指定の一部として使用できる SQL 文字列はありません

原因: 特定のフィールド型では、SQL 文字列をそのフィールド指定 (たとえば、LOB 列に対応するフィールドなど) の一部として使用できません。これは制約に違反しており、修正する必要があります。

処置: SQL 文字列をそのフィールド指定から削除してください。

SQL*Loader-00350 行 *number* に構文エラーがあります。

原因: *number* は、エラーが発生した SQL*Loader 制御ファイル内の行を示します。このメッセージの後には、次の形式のメッセージが表示されます。

```
Expecting str1, found str2
```

ここで、str1 は、SQL*Loader が SQL*Loader 制御ファイル内に存在すると予想した内容で、str2 は実際に見つかったものです。次に、SQL*Loader は SQL*Loader 制御ファイルからエラーが発生した行を表示し、行のどの場所でエラーが発生したかを、累乗記号 (^) またはアスタリスク (*) で示します。次に例を示します。

```
SQL*Loader-350: Syntax error at line 28
Expecting column name, found keyword CHAR
col3 ENCLOSED BY '"', CHAR ENCLOSED '"',
```

処置: DDL 構文を『Oracle9i データベース・ユーティリティ』の構文図と比較し、必要に応じて修正してください。

SQL*Loader-00401 フィールドの終了値 *number* は開始値 *number* 以上でなければなりません

原因: 指定されたフィールドに、終了値が開始値より小さい (START:END) 句が含まれています。

処置: 終了値が開始値以上になるように、その句を変更してください。

SQL*Loader-00402 指定から列 *string* の長さを決定できません

原因: 指定したデータ型は暗黙の長さ (たとえば、外部数値または RAW データ型) を持っておらず、デリミタとともに指定されていません。長さが指定されていないので、POSITION 句から長さは判別できません。

処置: POSITION 句が指定されている場合は、終わり位置を追加すると、長さ指定が作成されます。この句は次のような書式になっています。

```
POSITION(start:end)
```

次のように、長さをデータ型の後に指定することもできます。

```
INTEGER EXTERNAL (6)
```

最後に、デリミタとともにフィールドを指定したり、暗黙の長さを持つデータ型にデータ型を変更できます。

SQL*Loader-00403 参照した列 *string* が表 *string* の中に存在しません。

原因: 指定した列が指定した表に存在しません。

処置: 列名または表名を修正してください。

SQL*Loader-00404 列 *string* が *string* の INTO TABLE 文に複数個存在します。

原因：指定した列が、1 つの INTO TABLE 文の中に複数回指定されています。

処置：関係のない列指定を削除してください。

SQL*Loader-00405 オプションの囲みデリミタには終了デリミタが必要です：列 *string*、表 *string*

原因：指定された列は、オプションの囲みデリミタで指定されていますが、終了デリミタで指定されていません。終了デリミタが存在する場合は、囲みデリミタはオプションになります。

処置：終了デリミタを指定するか、または囲みデリミタを非オプションにしてください。

SQL*Loader-00406 データがすべて生成されている場合、ロード数に ALL を指定できません

原因：生成されるデータのみがロードされる場合、ロード数を指定します。これによって、SQL*Loader はロードを途中で停止できます。

処置：ロード数を指定してください。

SQL*Loader-00407 データをすべて生成する場合、スキップ数を指定できません

原因：データをすべて生成する場合は、スキップ数を指定できません。

処置：スキップ数の指定を削除してください。

SQL*Loader-00408 物理レコードのスタックがオーバーフローしました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00409 継続ロードではスキップ数はロード・レベルでなく表レベルにする必要があります

原因：コマンドラインまたは OPTION 文から SKIP パラメータが指定されましたが、ロードの継続が CONTINUE_LOAD で指定されています。複数の表のダイレクト・ロードが中断された場合は、個々の表に異なった数のレコードがロードされた可能性があります。したがって、ロードを続行する場合は、スキップするレコード数を表ごとに指定する必要があります。この場合、CONTINUE_LOAD を指定して、各表でスキップさせるレコード数は、対応する INTO TABLE 文で指定します。詳細は、SQL*Loader-00410 および SQL*Loader-00411 のエラー・メッセージを参照してください。

処置：ログ・ファイルを調べて、それぞれの表でスキップするレコードの適切な数を判断し、継続ロードのそれぞれの表に INTO TABLE 文で、または通常ロードのコマンドライン SKIP パラメータで、この数を指定してください。

SQL*Loader-00410 スキップ数は表レベルでなくロード・レベルにする必要があります

原因: 通常の (継続でない) ロードで、INTO TABLE 文に SKIP 句が指定されています。LOAD DATA で始まる通常のロードにおいては、表ごとにスキップするレコード数を指定できません。ロード全体にスキップ数を指定する場合は、コマンドラインから SKIP パラメータを使用するか、OPTION 句によって指定します。複数の表に異なったレコード数をロードさせるなど、表レベルでロードする必要がある場合は (ダイレクト・ロードのみ可能ですが)、CONTINUE_LOAD 文を使用することができます。詳細は、SQL*Loader-00409 および SQL*Loader-00411 のエラー・メッセージを参照してください。

処置: ロードが複数の表のダイレクト・パス・ロードでない場合は、SKIP 句を INTO TABLE 文からコマンドラインまたは OPTIONS 句に移動してください。複数の表へロードする場合は、CONTINUE_LOAD でロードの継続を指定してください。

SQL*Loader-00411 ダイレクト・パス・ロードのみ継続できます。

原因: ロードの継続が CONTINUE_LOAD を指定し、かつ DIRECT=FALSE の状態で実行されました。CONTINUE_LOAD は、ダイレクト・パス・ロードのみで使用可能で、すでに複数の表に対して異なったレコード数のデータがロードされているとき継続処理を行うためのものです。詳細は、SQL*Loader-00409 および SQL*Loader-00410 のエラー・メッセージを参照してください。

処置: CONTINUE_LOAD が必要な場合、ダイレクト・ロードを指定して、それぞれの INTO TABLE 文にスキップするレコード数を指定してください。CONTINUE_LOAD を使用しないで済む場合は、コマンドラインまたは OPTIONS 句でスキップするレコード数を指定し、CONTINUE_LOAD のかわりに LOAD DATA を使用してください。

SQL*Loader-00412 表 *string* に最大値 (*number*) より多い列が指定されています

原因: データベースで表に対して許可される列数を超えて列が指定されました。

処置: 関係のない列を削除してください。

SQL*Loader-00413 FILLER フィールド *string* (表 *string*) に NULLIF または DEFAULTIF 句が指定されています。

原因: SQL*Loader 制御ファイル内で、指定された FILLER フィールドに NULLIF または DEFAULTIF 句が指定されました。これらのオプションは、FILLER フィールドに指定できません。

処置: フィールドの定義から NULLIF または DEFAULTIF 句を削除してください。

SQL*Loader-00414 表 *string* にロードする列がありません。

原因: 表にロードするフィールドがデータ・ファイルにありません。すべてのフィールドが、FILLER フィールドとして識別された可能性があります。

処置: FILLER の属性がフィールドに正しく設定されたかを確認してください。

SQL*Loader-00415 列 *string* (表 *string*) は、SDF または LOBFILE のオブジェクトになることも、使用することもできません

原因: 指定された列は、セカンダリ・データ・ファイル (SDF) または LOBFILE 句のターゲットとして識別されます。ただし、列は SDF または LOBFILE から値を取得します。フィールド名が SDF または LOBFILE 句で指定された場合、そのフィールドには SDF または LOBFILE 句が存在できません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルの SDF および LOBFILE 句が正しいフィールドを指定したかを確認してください。また、SDF および LOBFILE 句が正しいフィールドに指定されたかも確認してください。

SQL*Loader-00416 フィールド *string* (表 *string*) の SDF 句は、実在しないフィールドを参照しています。

原因: フィールドのセカンダリ・データ・ファイル句が、SQL*Loader 制御ファイルの表定義に存在しないフィールドを指定しました。

処置: セカンダリ・データ・ファイルの定義を検証して、それが対象フィールドを指定するか確認してください。

SQL*Loader-00417 SQL 文字列 (列 *string*) は、ダイレクト・パスでは使用できません。

原因: SQL 文字列は、ダイレクト・パスでは省略されるので使用できません。

処置: SQL 文字列を削除するか、従来型パスを使用してください。

SQL*Loader-00418 列 *string* に対するデータ・ファイルのデータ型が正しくありません

原因: 列に指定されたデータ・ファイルのデータ型は、列のロードに使用できません。このメッセージは、特殊な機能でのロードが必要な列に対して表示されます。たとえば、BFILE 列は、制御ファイルの BFILE ディレクティブを経由してのみ、REF フィールドにロードできます。SQL*Loader 制御ファイルの REF フィールドに対しても同様です。REF 列は、SQL*Loader 制御ファイルの REF データ型のみでロードされます。

処置: データベースの列のデータ型を判断し、ドキュメントを確認して、その型の列のロードに使用する正しいメカニズムを指定してください。

SQL*Loader-00419 VARRAY のロード時に、列 *string* のデータ型はサポートされません。

原因: 列に対する SQL*Loader 制御ファイルのデータ型を使用して、VARRAY のデータをロードすることはできません。

処置: 別のデータ型を使用してください。

SQL*Loader-00420 列 *string* (表 *string*) に対してサポートされていないデータ型変換が要求されました。

原因: データをロードする前に、列には別の型に変換されたデータが必要です。SQL*Loader では、要求された変換を行うことはできません。

処置: 列に正しいデータ型が指定されたかを確認してください。

SQL*Loader-00421 データの変換でエラーが発生しました。

原因: 行を拒否する原因の 1 つとして、このメッセージが表示されます。SQL*Loader ユーティリティは、列のデータをデータ・ファイルのデータ型からデータベースの列のデータ型に変換しようとした。このメッセージの後には、変換エラーを説明する別のメッセージが続きます。

処置: データを変換できるように、データ・ファイルのデータを修正してください。

SQL*Loader-00422 固定要素数 *number* (列 *string*) が最大数 *number* を超過しています

原因: 表の VARRAY 列に指定された要素数が、VARRAY 列の型の許容最大要素数を超過しています。

処置: その型の許容要素数を増やすか、データ・ファイルから不要な要素を削除してください。

SQL*Loader-00423 要素数が、列に対して許可される最大数を超過しています

原因: データ・ファイルから VARRAY を作成中、SQL*Loader が列に許可される以上の VARRAY 要素を見つけました。

処置: 不正なデータを持つ列の名前および行数を含む、前のエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00424 表 *string* は、コレクション・フィールド *string* を不正に参照しています。

原因: 表の WHEN、OID または SID 句は、コレクション内で宣言されたフィールドを参照します。

処置: SID または OID 句の値を持つデータを、コレクションの定義の外に移動してください。

SQL*Loader-00425 列 *string* は、コレクション・フィールド *string* を不正に参照しています。

原因: NULLIF や BFILE 句など列の句は、コレクション内で宣言されたフィールドを参照します。

処置: SID または OID 句の値を持つデータを、コレクションの定義の外に移動してください。

SQL*Loader-00426 VARRAY*string* の要素数は、VARRAY に対するデータに従います

原因: VARRAY フィールドの COUNT 句は、VARRAY の要素数が別のデータ・フィールドに格納されていることを示します。ただし、そのデータ・フィールドは、データ・ファイルの VARRAY データより後に指定されています。SQL*Loader は、VARRAY の要素数を知るために件数のフィールドを見つける必要があります。そのため、件数のフィールドは VARRAY のデータより前にある必要があります。

処置: データ・ファイルのコレクション・データの前に、件数のフィールドを移動してください。

SQL*Loader-00427 フィールド条件は、非スカラー・フィールドまたは LOB フィールド *string* を参照します

原因: フィールド条件は、ネストした表、VARRAY、列のオブジェクト、LOB または BILE フィールドのいずれかを参照しています。その他のフィールドには、これらの型のフィールドを参照できません。

処置: NULLIF、DEFAULTIF または WHEN 句を修正して、非 LOB スカラー・データ・フィールドのみを参照するようにしてください。

SQL*Loader-00428 フィールド *string* の件数が、文字フィールドまたは整数フィールドに格納されていません。

原因: 件数のフィールドの句は、別のフィールドを参照しますが、参照されたフィールドは文字または整数のデータ型ではありません。

処置: フィールドの件数を変更して、整数または文字形式で件数を持つデータ・フィールドを参照するようにしてください。

SQL*Loader-00429 VARRAY の要素数が少なすぎます

原因: COUNT ディレクティブが VARRAY に対して指定されましたが、見つかった要素数が COUNT ディレクティブの指定以下です。

処置: 件数が要素数に一致するように、データを修正してください。

SQL*Loader-00430 ネストされた表で NULL は使用できません

原因: ネストされた表の行が NULL に設定されました。ネストされた表は、NULL フィールドを持つことができません。

処置: ネストされた表に NULL 行がないように、データを修正してください。

SQL*Loader-00431 ネストされた表の列 *string* に無効な NULLIF 句または DEFAULTIF 句が指定されました

原因: ネストされた表の行は、NULL に設定できません。ネストされた表を形成する行を定義する要素に、NULLIF 句が指定されると、SQL*Loader がこのエラーを表示します。また、DEFAULTIF 句が、名前の付いた型の要素に指定された場合も、このエラーが表示されます。これは、DEFAULTIF が TRUE と評価すると、SQL*Loader が NULL に名前付きの型を設定するためです。

処置: 有効な句のみを使用してください。

SQL*Loader-00432 変換したデータが大きすぎます。

原因: このメッセージの前のメッセージに、行および列が表示されます。入力ファイルのデータ型から、データベースの列のデータ型に変換するための十分な領域がない場合、このメッセージが表示されます。

処置: データベース・フィールドに合うように、データを変更してください。

SQL*Loader-00433 列オブジェクト *string* (表 *string*) の属性が見つかりません。

原因: 制御ファイルで名前が付けられた列オブジェクトの属性がロードされていません。これは、制御ファイルの列オブジェクトの定義にあるすべてのフィールドが、FILLER フィールドとして作成されている場合に発生します。

処置: 列オブジェクトにロードする属性を指定するか、または制御ファイルから列オブジェクトを削除してください。

SQL*Loader-00434 LOB を親表とともにネストされた表にロードすることはできません。

原因: LOB を親表とともにネストされた表にロードすることは、サポートされていません。

処置: LOB を親表とは別に、ネストされた表にロードしてください。

SQL*Loader-00440 REF の有効範囲に指定された表が無効です

原因: REF ディレクティブの一部が、表名または REF が参照する表の名前を含む別のフィールド名を指定します。

処置: 参照する表の名前を正しく指定してください。

SQL*Loader-00456 *number* 個の要素の後、コレクションの終わりが見つかりました (*number* 個の要素の検索時)。

原因: VARRAY またはネストした表の列に件数の値が指定され、行数は指定した行数以下です。

処置: フィールドの件数の値が正しいか、コレクションに欠落したデータがないかを確認してください。

SQL*Loader-00457 CONTINUEIF LAST の比較テキストの長さは *number* ではなく 1 にする必要があります

原因: 比較するテキストが長すぎます。1 文字にする必要があります。

処置: 比較するテキストを 1 文字に削減してください。

SQL*Loader-00458 CONTINUEIF LAST の比較テキスト ('*string*') は空白にはできません

原因: 比較するテキストが空白文字 (空白やタブ) になっています。

処置: 比較するテキストを空白文字以外に変更してください。

SQL*Loader-00459 列 (*string*) で順序の数値をフェッチ中にエラーが発生しました。

原因: 順次列で数値以外の値を取り出そうとしました。

処置: 順次列のデータが数値であることを確認して、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00460 列 (*string*)、使用フォーム (*number*) が、(*number*) のキャラクタ・セット ID と一致しません。

原因: 使用フォームを持つ列が、同じ使用フォームを持つ前の列と同じキャラクタ・セット ID を持っていない。

処置: これは発生してはならないエラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、ロードされている表の DDL、SQL*Loader の制御ファイルに関する情報を提供してください。

SQL*Loader-00461 列 *string* のデータ型は、ダイレクト・パス・ロードがサポートされていません

原因: 指定した列のデータ型は、ダイレクト・パス・ロードで使用できない型です。

処置: データ型が、従来型パスでサポートされる場合は、それを使用して表をロードしてください。

SQL*Loader-00462 列: *string*、行: *number* (表: *string*) への LOB の挿入でエラーが発生しました

原因: 行に LOB を書き込もうとしている間に、エラーが発生しました。

処置: LOB がロードされなかった原因、SQL*Loader の動作 (ある場合) およびエラーが発生した場所については、付随するメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00463 LOB のセカンダリ・データファイルは *string* です

原因: このメッセージは、エラーが発生したとき、LOB の移入に使用するセカンダリ・データファイルを示します。

SQL*Loader-00464 LOB の開始のためのファイル・オフセットは *string* です

原因: このメッセージは、エラーが発生したときに書き込まれた LOB の起動を含む、セカンダリ・データ・ファイルへのオフセットを示します。

SQL*Loader-00465 *string* ディレクティブの引数は *number* 個ですが、*number* 個見つかりました

原因: COUNT() や BFILE() などのディレクティブが、制御ファイルに指定されました。そのディレクティブは固定数の引数を指定しますが、SQL*Loader 制御ファイルには異なる数の引数があります。

処置: ディレクティブが正しい数の引数を含むように、SQL*Loader 制御ファイルを修正してください。

SQL*Loader-00466 列 *string* が表 *string* にありません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、存在しない表の列を指定しました。

処置: 表の列の名前を確認してください。

SQL*Loader-00467 属性 *string* は型 *string* (表 *string*) に存在しません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、指定された型には存在しない属性を指定しました。その型を持つ表も、エラー・メッセージに示されます。

処置: SQL*Loader 制御ファイルで、正しいスキーマの正しい表が指定されているかを確認してください。また、列名の綴りが正しいかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00468 OID 句の引数は1つですが、*number* 見つかりました。

原因: 複数の引数が OID 句に指定されました。

処置: OID に使用する値を含むフィールドの名前を指定してください。表の OID がユーザー定義の場合は、制御ファイルで OID 句を使用しないでください。

SQL*Loader-00469 SID 句の引数は1つですが、*number* 見つかりました。

原因: 複数の引数が SID 句に指定されました。

処置: SID 句で SID に使用する値を含むフィールドの名前のみを指定してください。

SQL*Loader-00470 表 *string* にはシステム生成の OID がありません。

原因: OID 句を表に指定しましたが、表がオブジェクト表ではないか、またはオブジェクト表であるが、行の OID が生成されたシステムではないかのいずれかです。

処置: 正しい表をロードしているかを確認してください。ロードしている場合、この表に OID 句を指定する必要はありません。表がオブジェクト表で、システムが OID を生成し、表の各行に割り当てる OID を指定する場合にのみ、OID を使用してください。

SQL*Loader-00471 OID 句に CONSTANT 引数があります

原因: OID 句の引数として CONSTANT を指定しました。OID は一意である必要があるため、CONSTANT を指定できません。

処置: FILLER フィールドの各行に OID を格納して、その FILLER フィールドの名前を引数として指定してください。

SQL*Loader-00472 コレクションは、FILLER フィールド以外の指定を1つのみ包むことができます

原因: 複数の FILLER フィールドでない指定が、コレクション・フィールドのメンバー・フィールド・リストで見つかりました。

処置: 『Oracle9i データベース・ユーティリティ』で正しい構文を参照してください。特定のコレクションを形成する複数の属性がある場合、これは、COLUMN OBJECT のフィールド指定の構文を使用して指定されるオブジェクト型のコレクションです。

SQL*Loader-00473 コレクションはネストできません。

原因: 1つのコレクション型のフィールド説明を、別のフィールドにネストできません。

処置: コレクションが SQL*Loader 制御ファイルでネストされるかを確認してください。誤りを修正してください。

SQL*Loader-00474 列 *string*、表 *string*、行 *number* の動的ファイルに値が設定されていません。

原因: 指定した列のデータが、動的 LOBFILE またはセカンダリ・データ・ファイルにあります。このフィールドのデータを持つファイルの名前があるフィールドが設定されていないか、NULL のとき、このメッセージが返されます。これは、データ・ファイルのレコードが、SQL*Loader 制御ファイルによって記述された形式と一致しないためです。

処置: データ・ファイルまたは SQL*Loader 制御ファイルのエラーを修正してください。

SQL*Loader-00475 動的ファイル名のフィールドは、*string* (表 *string*) です。

原因: このメッセージは、SQL*Loader-00474 のメッセージの後、常に表示されます。

SQL*Loader-00476 コレクションの要素数が設定されていないか、NULL または 0 (ゼロ) が使用されています。

原因: このメッセージは、問題のある列および行を指定するメッセージに続いて表示されます。このメッセージは、前のメッセージのコレクション・フィールドが、別のフィールドに格納されたコレクションに要素数を持っていることを示します。件数を含むフィールドが値を持っていないか、NULL に設定される場合に、このメッセージが表示されます。その場合、SQL*Loader は 0 を要素数として使用します。

処置: 0 がコレクションに対する要素数ではない場合、データ・ファイルのデータを修正してください。

SQL*Loader-00477 フィールド *string* の REF ディレクティブには、引数が少なくとも 2 つ必要です

原因: SQL*Loader 制御ファイルに、フィールドの REF ディレクティブがありますが、ディレクティブに指定された引数は 1 つのみです。REF ディレクティブには、常に 2 つ以上の引数が必要です。

処置: REF ディレクティブに足りない引数を指定してください。REF が有効範囲付きであっても、REF ディレクティブには、常に表名を指定する必要があります。

SQL*Loader-00478 LOBFILE または SDF のファイル名が欠落しているため、継続できません。

原因: LOBFILE またはセカンダリ・データ・ファイル名が欠落しているか、カレント行の NULL になっています。SQL*Loader が、次の行への LOB の取得方法を判断できないため、ロードを継続できません。

処置: LOBFILE およびセカンダリ・データ・ファイル名を含むすべてのフィールドに有効値が存在するように、データ・ファイルを修正してください。

SQL*Loader-00479 列 *string* の REF 命令では *number* 個の引数を予想していますが、*number* 個が検出されました。

原因: 列の REF 命令にある引数の数に誤りがあります。

処置: REF の引数の正しい数を指定してください。REF 命令には常に表名が必要であることに注意してください。また、主キーの REF には、主キーの各フィールドに 1 つの引数が必要であることにも注意してください。

SQL*Loader-00480 EXPRESSION はコレクションの要素とともに使用されない場合があります。

原因: EXPRESSION キーワードには、必要な SQL 文字列式が続き、入力データ・ファイルの値のかわりに、SQL 文字列式の結果を含む列のロードに使用されます。ただし、この機能は、コレクション要素では使用できません。

処置: 制御ファイルのコレクション要素から、EXPRESSION キーワードおよび関連する SQL 文字列を削除してください。

SQL*Loader-00481 HIDDEN は非スカラー・フィールドとともに使用されない場合があります。

原因: HIDDEN キーワードは、スカラー・フィールドのみで使用できます。

処置: 制御ファイルの非スカラー・フィールドから、HIDDEN キーワードを削除してください。

SQL*Loader-00500 ファイル (*string*) をオープンできません

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルをオープンできませんでした。

処置: ログ・ファイルに記録されたオペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00501 ファイル (*string*) を読み込めません

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルを読み込めませんでした。

処置: ログ・ファイルに記録されたこのメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00502 データ・ファイル '*string*' (フィールド *string*、表 *string*) をオープンできません

原因: LOBFILE またはセカンダリ・データファイルのオープンに失敗しました。

処置: オープンが失敗した理由については、このメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。正しい名前が、LOBFILE またはセカンダリ・データ・ファイルに指定されたかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00503 ファイル *string* に拡張子を追加中にエラーが発生しました

原因: SQL*Loader がデフォルトの拡張子を追加して、ファイル名を作成できませんでした。指定したファイル名が長すぎるか、ファイル名に無効な文字が含まれている可能性があります。

処置: 指定したファイル名を確認してください。

SQL*Loader-00504 ファイル *string* のレコードをスキップ中にエラーが発生しました

原因: SQL*Loader が、ファイルをオープンできなかったか、ファイルからの読み込みに失敗しました。

処置: ファイルが想定されている位置にあること、および読み込みアクセス権が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00505 LOBFILE 読み込みにエラーが発生しました

原因: セカンダリ・データ・ファイルの読み込みに失敗しました。

処置: 詳細は、このメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00506 SDF または LOBFILEstring (列 *string*、表 *string*) の読み込み中にフォーマット・エラーが発生しました

原因: 指定された LOBFILE または SDF ファイルのレコード形式に誤りがあります。

処置: ファイルのレコード形式の問題を修正してください。

SQL*Loader-00507 SDF または LOBFILEstring の読み込み (列 *string*、表 *string*) で予期しない EOF が読み込まれました

原因: カレント行のデータが見つかる前に、セカンダリ・データ・ファイルまたは LOBFILE のファイルの終わりに達しました。

処置: ファイルが LOBFILE の場合、フィールドに正しいデータ型が指定されたかを確認してください。ファイルがセカンダリ・データ・ファイルの場合、レコード形式が SQL*Loader 制御ファイルで、正しく指定されたかを確認してください。

SQL*Loader-00508 データ・ファイル *string* のレコード・フォーマットでエラーが発生しました

原因: データ・ファイルで見つかったデータが、SQL*Loader 制御ファイルのレコード形式に対応していません。

処置: データ・ファイルのすべてのレコードが、SQL*Loader 制御ファイルに記述されている形式と一致するかを確認してください。

SQL*Loader-00509 システム・エラー: *string*

原因: 処理中に、プラットフォーム固有のエラーが戻されました。このメッセージは、エラーのテキストを表示します。

SQL*Loader-00510 データ・ファイル (*string*) の物理レコードが最大長 (*number*) を超えています

原因: データ・ファイル内の物理レコードが長すぎます。

処置: CONCATENATE または CONTINUEIF を使用してください。物理レコードを分割してください。

SQL*Loader-00511 read 関数を初期化できません。

原因: SQL*Loader が、read 関数を初期化できませんでした。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のエラーを確認してください。

SQL*Loader-00512 読取りバッファを解放できません

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00513 ファイル (*string*) をクローズできません

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルをクローズできませんでした。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のエラーを確認してください。

SQL*Loader-00514 経過時間の取得に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、システムからの経過時間の取得に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00515 CPU 時間の取得に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、システムからの CPU 時間の取得に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00516 制御ファイル (*string*) の内容が空です

原因: 指定されたファイルの内容が空でした。

処置: 意図したファイルが参照され、そのファイルが空ではないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00517 ファイル名 (*string*) の分解に失敗しました

原因: SQL*Loader が、ファイル名を複数の部分に分解できませんでした。

処置: ファイル名に無効な文字が含まれていないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00518 ファイル名 (*string*) の再構成に失敗しました

原因: SQL*Loader が、複数の部分を再構成してファイル名を作成できませんでした。

処置: ファイル名に無効な文字が含まれていないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00520 ファイル (*string*) で lfimknam に失敗しました。

原因: LFI が、ファイルの名前オブジェクト作成に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00521 ファイル (*string*) で lfilini に失敗しました。

原因: LFI が、ファイルのファイル・オブジェクトの作成または初期化に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00522 ファイル (*string*) で lfiopn に失敗しました。

原因: LFI がファイルのオープンに失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのエラーまたはメモリーの問題（あるいはその両方）を確認してください。

SQL*Loader-00523 エラー *number* が、ファイル (*string*) への書込み中に発生しました

原因: 指定したファイルに書き込めませんでした。

処置: 次の点を確認してください。

- ファイルが指定された位置に常駐している。
- そのファイルへの書込み権限がある。
- ディスク領域が十分ある。
- ディスクの割当て制限を超えていない。

これらの条件がすべて満たされている場合は、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00524 データ・ファイル (*string*) の終わりで不完全なレコードが見つかりました。

原因: 指示されたデータ・ファイルの終わりで、不完全なレコードが見つかりました。

処置: データ・ファイルの最後のレコードが完全で、正しい終了文字を持っているかを確認してください。また、固定長レコードが使用中の場合、1つのレコードに対するプラットフォーム固有の長さを超えるレコードがないかを確認してください。

SQL*Loader-00525 OCI リターン状態: 成功。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00526 OCI リターン状態: 成功 (戻り情報あり)。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00527 OCI リターン状態: データがありません。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00528 OCI リターン状態: エラー。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00529 OCI リターン状態: 無効なハンドル。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00530 OCI リターン状態: データが必要です。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00531 OCI リターン状態: 実行中。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00532 OCI リターン状態: 継続。

原因: OCI コールによって返された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00533 OCI リターン状態: 不明、値は *number*

原因: 不明の状態が OCI コールによって返されました。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00552 ファイルをオープンする権限がありません。

原因: SQL*Loader が、ファイルをオープンするために必要な権限を持っていません。

処置: 適切なファイルが指定されたか、およびファイルが適切な権限を持っているかを確認してください。

SQL*Loader-00553 ファイルが見つかりません。

原因: 指定されたファイルが見つかりません。

処置: ファイル名および位置が正しいかを確認してください。

SQL*Loader-00554 ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。他に情報はありません。

処置: ファイルがアクセス可能であることを確認してください。

SQL*Loader-00555 認識できない処理オプションです。

原因: ファイルに指定された処理オプションを処理できません。

処置: ファイルに指定された処理オプションの構文が、SQL*Loader を実行するプラットフォームで有効であることを確認してください。

SQL*Loader-00556 読み込みバッファを割当てできません。

原因: 読み込みバッファの割当てに失敗しました。

処置: 可能な場合は、読み込みバッファに小さいサイズを指定してください。

SQL*Loader-00557 メモリーを割当てできません。

原因: ファイルの I/O を追跡するためのメモリーの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00558 リンクされたローダーに SKIP パラメータを使用しようとした

原因: リンクされたファイル・プロセッサに SKIP パラメータが指定されました。

処置: この場合、SKIP パラメータを使用しないでください。

SQL*Loader-00559 ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルのクローズ中に、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00560 ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中に、エラーが発生しました。

処置: ファイルがアクセス可能であることを確認してください。

SQL*Loader-00561 ファイルの終わりです

原因: ファイルの終わりに達しました。

SQL*Loader-00562 レコードが大きすぎます。

原因: ファイルのレコードが、読み込みバッファよりも大きいです。

処置: ファイルが破損していないことを確認してください。破損していない場合、読み込みバッファに大きいサイズを指定してください。

SQL*Loader-00563 VAR レコードの長さが正しくありません。

原因: VAR レコードの長さ部分が、数値でないデータを含んでいます。

処置: ファイルのデータを修正してください。

SQL*Loader-00564 レコード・デリミタに無効な 16 進リテラルが指定されました

原因: ファイルにレコード・デリミタを含む 16 進リテラルは、有効な 16 進文字列を含んでいません。

処置: ファイルの処理オプションに、適切な 16 進値が指定されていることを確認してください。

SQL*Loader-00565 スキップ中に予期しないエラーが発生しました

原因: レコードのスキップ中に、予期しないエラーが発生しました。

処置: このエラーに続いて、エラーの詳細を表示するメッセージが表示されます。

SQL*Loader-00600 *number* バイトのバインド・サイズは、1 行を保持するために *number* バイト増加しました。

原因: 単一行を格納するために必要な領域が、指定されたバインド・サイズを超えています。バインド・サイズに使用されている値は、より大きいサイズの領域を処理できるように増加します。

処置: 処置は必要ありません。このエラー・メッセージの新しい値がバインド・サイズに指定されると、このメッセージは表示されなくなります。

SQL*Loader-00601 INSERT オプションに対する表は空でなければなりません。表 *string* でエラーです。

原因: INSERT オプションで、空ではない表がロードされています。

処置: REPLACE キーワードを使用して古い表を空にしてから、その位置に新しいデータを格納してください。APPEND キーワードを使用して、表の内容を保持したまま、新しいデータを追加してください。

SQL*Loader-00602 最大変換長 *number* (列 *string*) がバインド配列に対して大きすぎます。

原因: この列は、指定されたキャラクタ・セット変換を実行できず、システムの連続したメモリー領域に格納されたままになっています。

処置: より短いデータ列を指定するか、またはキャラクタ・セット変換を削除してください。

SQL*Loader-00603 最大長 *number* (列 *string*) がバインド配列に対して大きすぎます。

原因: 指定された列をシステムの連続したメモリー領域に格納できません。

処置: 短いデータ列を指定してください。

SQL*Loader-00604 コミットの実行時にエラーが発生しました。

原因: 変更点をデータベースにコミットしようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイル内のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00605 データに依存しない Oracle エラーが発生しました -- ロードが停止しました。

原因：データに関係なくエラーが発生しました。たとえば、領域不足の場合などです。この時点より後のデータは拒否されるため、ロードは停止します（このエラーがデータに依存していた場合は、残りの行は正常にロードされるはずです）。

処置：詳細は、ログ・ファイル内のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00606 INTO TABLE 句のオブジェクト *string* はローカル表ではありません。

原因：SQL*Loader 制御ファイル内の INTO TABLE 句で指定されているシノニムは、データベース・リンクを使用してリモート・オブジェクトを指定しています。既存のローカル表に使用されるシノニムのみが、INTO TABLE 句で指定できます。

処置：ローカルの表名またはローカル表に使用されるシノニムを、INTO TABLE 句で完全に指定してください。表はすでに存在している必要があります。

SQL*Loader-00607 INSERT オプションのパーティションが空ではありません（表 *string*、パーティション *string*）。

原因：空でないパーティションに対して INSERT オプションを使用しようとした。

処置：パーティションを空にするか、REPLACE または TRUNCATE オプションを使用してください。

SQL*Loader-00608 INSERT オプションのサブパーティションが空ではありません（表 *string*、サブパーティション *string*）。

原因：空でないサブパーティションに対して INSERT オプションを使用しようとした。

処置：サブパーティションを空にするか、REPLACE または TRUNCATE オプションを使用してください。

SQL*Loader-00620 先頭の囲み文字が見つかりません

原因：必須の左囲みデリミタがありません。カレント・フィールドの左囲みデリミタが欠落しているか、または前のフィールドの同一の右デリミタが欠落しています。

処置：不足しているデリミタを指定してください。

SQL*Loader-00621 データ・ファイルのフィールドが最大長を超過しています

原因：フィールドが、許可される最大長を超えました。最大長は、SQL*Loader 制御ファイルで指定されている長さ、または長さが指定されていないデリミタで区切ることができるフィールドについては、対応するデータベースの列（char および varchar 列）の最大長になります。

処置：欠落しているデリミタを調べてください。またはフィールドを短縮してください。必要な場合は、両方を行ってください。

SQL*Loader-00622 論理レコードが終了する前に列が見つかりませんでした。(TRAILING NULLCOLS を使用)

原因: 指定したすべてのフィールドが検出される前に、論理レコードが終了しました。

処置: 欠落フィールドを NULL でロードする場合は、TRAILING NULLCOLS 句を使用してください。または、データを修正してください。

SQL*Loader-00623 2 番目の囲み文字列がありません

原因: 右側の囲みデリミタが検出される前に、レコードの論理的終了または LOBFILE の終わりに達しました。

処置: データ・ファイルを修正して、欠落しているデリミタを入れてください。

SQL*Loader-00624 TERMINATED と ENCLOSED フィールドに続く終了記号がありません。

原因: 囲みフィールドが終了した後に終了デリミタがありませんでした。

処置: 欠落している終了デリミタを入れてください。

SQL*Loader-00625 制御ファイル内でマルチバイト・キャラクタ・エラーが発生しました。

原因: SQL*Loader 制御ファイル内で、不完全なマルチバイト・キャラクタ文字列が検出されました。

処置: SQL*Loader 制御ファイルを編集して、すべてのマルチバイト・キャラクタ・データが有効であるかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00626 キャラクタ・セット変換バッファがオーバーフローしました。

原因: データ・ファイル・キャラクタ・セットからクライアント・キャラクタ・セットへの変換には、変換バッファに割り当てられていたものより多くの領域が必要でした。変換バッファのサイズは、VARCHAR2 列の最大サイズによって制限されます。

処置: 入力レコードが拒否されました。データが列に収まりません。

SQL*Loader-00627 キャラクタ・セット変換グラフは使用不可です。

原因: データ・ファイル・キャラクタ・セットからクライアント・キャラクタ・セットへの変換は、変換グラフが使用不可なために失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。NLSRTL インストールを確認してください。

SQL*Loader-00628 キャラクタ・セット変換エラーです。

原因: キャラクタ・セット変換エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。NLSRTL インストールを確認してください。エラーが出力される再現可能なテスト・ケースを提供してください。

SQL*Loader-00640 可変長フィールドが切り捨てられました。

原因：可変長フィールドの終わりになる前に、論理レコードの終わりに達しました。それぞれの可変長フィールドの長さはフィールドに埋め込まれているので、SQL*Loaderはこの後にもデータが続くことを認識しています。

処置：データを調べて不注意による切捨てを確認し、ログ・ファイルに対するSQL*Loader 制御ファイル指定を確認してください。フィールドが誤った場所で起動している可能性があります。

SQL*Loader-00641 無効なパック 10 進数ニブルです。

原因：パック 10 進数フィールドのそれぞれのバイトは、2 つのニブル（4 ビット）で構成されています。各ニブルは、有効な値を持つ必要があります。

処置：ログ・ファイルに対する SQL*Loader 制御ファイルの指定を確認し、フィールド位置を正しく指定してください。また、フィールドの内容も確認してください。

SQL*Loader-00642 フィールド相対開始位置の方が絶対終了位置よりも大きいです。

原因：POSITION(*+n:y) として指定されたフィールドが、絶対位置 y の後に発生しています。

処置：デリミタが欠落していないことと、n と y の値が正しいことを確認してください。

SQL*Loader-00643 表 *string* に対して INSERT 文の実行中にエラーが発生しました。

原因：表にデータを入力中に、致命的なエラーが発生しました。

処置：詳細は、続いて表示されるエラー・メッセージを参照してください。いずれかの列に SQL 文字列を指定した場合、文字列が正しいかを確認してください。特に、カッコおよび引用符が正しく使用されているかを確認してください。別の形式エラーです。

SQL*Loader-00644 可変長フィールドの長さの読み込み中に論理レコードの終わりを検出しました。

原因：可変長フィールドの長さの読み込み中に、論理レコードの終わりに達しました。

処置：SQL*Loader 制御ファイルがデータを正しく記述しているか、データ・ファイルのデータが SQL*Loader 制御ファイルの説明と一致するかを確認してください。

SQL*Loader-00645 文字長フィールドの数値への変換中にエラーが発生しました

原因：VARCHARC または VARRAWC フィールドの部分件数を含む文字の変換中に、エラーが発生しました。

処置：列に対する部分件数の値が正しいかを確認してください。

SQL*Loader-00646 列: *string*、行: *number* (表: *string*) で LOB が EMPTY に設定されました。

原因: LOB のロード中に、エラー (LOBFILE の解析エラーなど) が発生しました。行は表に残留し、LOB 列は EMPTY に初期化されます。別のレコードのロードは継続します。

処置: 付随するメッセージを参照してデータ・ファイルを修正し、再ロードしてください。

SQL*Loader-00647 整数から数値への変換エラー

原因: 整数から Oracle の数値書式への変換中にエラーが発生しました。

処置: データ・ファイルの整数フィールドが、有効な整数であることを確認してください。INTEGER(N) 構文が使用されている場合は、指定した長さが有効であることを確認してください。

SQL*Loader-00649 引用符付き文字列に閉じる引用符がありません。

原因: 制御ファイルで、引用符付き文字列の閉じる引用符がありません。

処置: 閉じる引用符を挿入してください。

SQL*Loader-00650 列 *string*、行 *number*、表 *string* に対して不完全な LOB データが書き込まれました

原因: ダイレクト・パスを使用した LOB のロード中に、エラー (LOBFILE の解析エラーなど) が発生しました。行は表に残り、LOB 列は不完全です。別のレコードのロードは継続します。

処置: 付随するメッセージを参照してデータ・ファイルを修正し、再起動してください。

SQL*Loader-00651 列 *string*、行 *number*、表 *string* に対する LOB をスキップ中にエラーが発生しました

原因: LOB のスキップ中に、エラー (LOBFILE の解析エラーなど) が発生しました。

処置: 付随するメッセージを参照してデータ・ファイルを修正し、再ロードしてください。

SQL*Loader-00652 無効なゾーン 10 進数バイトです。

原因: ゾーン 10 進数フィールドのそれぞれのバイトは、使用されるキャラクタ・セット・エンコーディングに基づく有効な値を持っている必要があります。ASCII に準拠したゾーン 10 進数は、『VAX Architecture Reference Manual』で指定された書式に従う必要があります。EBCDIC に準拠したゾーン 10 進数は、『ESA/390 Principles of Operations, version 8.1』で指定された書式に従う必要があります。

処置: ログ・ファイルに対する SQL*Loader 制御ファイルの指定を確認し、フィールド位置を正しく指定してください。また、フィールドの内容も確認してください。

SQL*Loader-00653 XML データが列 *string*、行 *number*、表 *string* で NULL に設定されました

原因：XML 列への LOB のロード中に、エラー（LOBFILE の解析エラーなど）が発生しました。行は表に残り、XML 列は NULL に初期化されます。別のレコードのロードは続きます。

処置：付随するメッセージを参照してデータ・ファイルを修正し、再ロードしてください。

SQL*Loader-00700 必須割当て中にメモリー不足が発生しました [*number*]

原因：SQL*Loader は、必要なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：オペレーティング・システムとプロセス・メモリーを確認してください。可能な場合は、SQL*Loader に使用可能なメモリーを増やしてください。ダイレクト・パスを使用している場合は、ログ・ファイルで現在のデフォルト値を参照して、columnarrayrows オプションの値を小さくしてください。

SQL*Loader-00702 内部エラー - *string*

原因：内部エラーが発生しました。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00703 内部エラー：引数 *number*

原因：内部エラーが発生しました。

処置：メッセージおよびエラー番号を記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00704 内部エラー： *string* [*number*]

原因：内部エラーが発生しました。

処置：メッセージおよびエラー番号を記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00705 内部エラー

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00706 ulerr[*number*] に不正な引数があります。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00707 SQL*Loader は、リターン・コード [*number*] で存在します。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00708 内部エラー: 不明なステータス *number* が SLLF レイヤーから戻りました

原因: SLLF レイヤーのコールによって、不明なステータスが戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00709 SLTS レイヤー: *string* のコールが失敗した内部エラーです。

原因: SLTS レイヤーのコールが失敗したというステータスが戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00710 内部エラー: ダイレクト・パス・ストリーム・バッファがロードされません。

原因: ダイレクト・パス・ストリーム・バッファが構築されましたが、ロードされません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00711 内部エラー: little endian UTF16 変換のアドレスが正しくありません

原因: little endian UTF16 データのアドレスが、有効なバッファにありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00712 内部エラー: big endian UTF16 変換のアドレスが正しくありません

原因: big endian UTF16 データのアドレスが、有効なバッファにありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00800 *string* が指定され、無視されました

原因: 外部表のロードでサポートされていないオプションが指定されました。

処置: サポートされていないオプションを指定しないか、外部表のロードを使用しないでください。

SQL*Loader-00801 すべての INTO TABLE 句に同じオプション (*string*) が含まれている必要があります

原因: 複数の INTO TABLE 句に異なるオプションが設定されています。

処置: 同じオプションを設定するか、別々にロードしてください。

SQL*Loader-00802 DEFAULTIF 句で指定した数値 EXTERNAL は外部表でサポートされていません

原因: DEFAULTIF 句で数値 EXTERNAL 型が指定されましたが、外部表のロードではサポートされていません。

処置: 句を削除するか (可能な場合)、外部表のロードを使用しないでください。

SQL*Loader-00803 *string* フィールド・タイプは外部表でサポートされていません

原因: 指定されたフィールド・タイプは、外部表のロードではサポートされていません。

処置: 指定したフィールド・タイプを削除するか、外部表のロードを使用しないでください。

SQL*Loader-00804 間隔で指定される SEQUENCES は外部表のロードでサポートされていません。

原因: 間隔で順序が指定されましたが、外部表のロードではサポートされていません。

処置: 順序から間隔または順序自体を削除するか、外部表のロードを使用しないでください。

SQL*Loader-00805 *string* は外部表でサポートされていません

原因: 指定されたオプションは、外部表のロードではサポートされていません。

処置: 指定したオプションを削除するか、外部表のロードを使用しないでください。

SQL*Loader-00806 データ・ファイルに不明のレコード形式が指定されました

原因: 制御ファイルのファイル処理オプションを含む `osd` 文字列に、不明のファイル処理オプションが指定されました。

処置: 使用しているプラットフォームに適したオプションが指定されているかを確認してください。

SQL*Loader-00807 表をロード中にエラーが発生しました

原因: 外部表または一時内部表からの表のロードに使用された `INSERT` 文が失敗しました。このメッセージの直前に、失敗した文が表示されます。

処置: エラーの詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00808 順序: *string* を作成中にエラーが発生しました

原因: ロードに必要な順序の作成に失敗しました。

処置: エラーの詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00809 順序: *string* を削除中にエラーが発生しました

原因: 作成する順序と同じ名前の順序が存在するか、ロードの最初の方で作成された順序がクリーンアップ中であるため、順序を削除する必要があります。

処置: エラーの原因の詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00810 外部表: *string* を作成中にエラーが発生しました

原因: ロードに必要な外部表の作成に失敗しました。

処置: エラーの詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00811 外部表: *string* を削除中にエラーが発生しました

原因: 外部表の削除中にエラーが発生しました。前回のロードから表が残っていた可能性があります。

SQL*Loader-00812 内部表: *string* を作成中にエラーが発生しました

原因: 一時内部表の作成中にエラーが発生しました。内部表は、複数の表を同じデータ・ファイルからロードする場合のみに使用されます。内部表が一度ロードされ、ターゲット表が内部表からロードされました。

SQL*Loader-00813 内部表: *string* を削除中にエラーが発生しました

原因: 一時内部表の削除中にエラーが発生しました。内部表は、複数の表を同じデータ・ファイルからロードする場合のみに使用されます。内部表が一度ロードされ、ターゲット表が内部表からロードされました。前回の作成から表が残っていた可能性があります。

SQL*Loader-00814 内部表: *string* をロード中にエラーが発生しました

SQL*Loader-00815 外部表ロードの平行 DML を有効化中にエラーが発生しました

SQL*Loader-00816 一時ディレクトリ・オブジェクト *string* をファイル *string* に対して作成中にエラーが発生しました

原因: ファイルを含むディレクトリのデータベースに、ディレクトリ・オブジェクトがありません。外部表によってロードされるすべてのファイルは、ディレクトリ・オブジェクトによって名前を付けられたディレクトリに存在する必要があるため、SQL*Loader は、ファイルのディレクトリ・オブジェクトを作成しようとします。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラー・メッセージを参照してください。

SQL*Loader-00817 ディレクトリ・オブジェクト *string* を削除中にエラーが発生しました

原因: SQL*Loader が、外部表のロードの一部として、ディレクトリ・オブジェクトを作成しました。ディレクトリ・オブジェクトのクリーンアップに失敗しました。

処置: エラーの詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00818 次の外部表を作成しています: *string*

SQL*Loader-00819 次のデータベース表に INSERT 文を実行しています: *string*

SQL*Loader-00820 表 *string* の範囲で WHERE 句を作成できません

原因: EXTERNAL_TABLE パラメータが複数の表のロードに指定され、その表のいずれか 1 つの WHEN 句に、レコードのバイト範囲への参照が含まれています。

SQL*Loader は、制御ファイルの WHEN 句を使用して、INSERT 文の WHERE 句を生成します。WHERE 句に表のバイト範囲への参照が含まれると、有効な WHERE 句は生成されません。SQL*Loader は、EXTERNAL_TABLE パラメータに GENERATE_ONLY が指定されているように処理を継続します。

処置: WHEN 句のフィールド参照のみを使用するように、制御ファイルを変更してください。FILLER フィールドの作成が必要な場合もあります。ロードされる各表に制御ファイルを作成して、表を別々にロードする方法もあります。

SQL*Loader-00821 GENERATE_ONLY に切り替えます

原因: SQL Loader は、外部表を使用してデータをロードするために生成された SQL 文を実行できません。詳細は、前のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00901 Oracle にログオン中にエラーが発生しました。

原因: ダイレクト・パス・ロード・モードで Oracle にログオンしようとしてしました。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下の Oracle メッセージを参照してください。

SQL*Loader-00902 カーソルのオープンでエラーが発生しました:[*number*]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下の Oracle メッセージを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00903 バージョン *number.number.number.number* 以降のデータベースは、ダイレクト・パスに対応しています

原因: 互換性のないデータベースでダイレクト・パス・ロード・モードを使用しています。

処置: 指定されたバージョンにデータベースをアップグレードするか、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00904 データベース V5 にリンクしている場合、ダイレクト・パスは使用できません

原因: データベース・バージョン 5 に SQL*Loader がリンクした後、ダイレクト・パスが使用されています。

処置: 従来型パスを使用してください。

SQL*Loader-00905 UPI での SQL 文解析でエラーが発生しました:[*number*]

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00906 UPI での SQL 文実行でエラーが発生しました : [number]

原因：内部エラーが発生しました。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00908 表 *string* が Oracle エラー *number* のためロックできません

原因：SQL*Loader が DML で表の排他ロックを実行できませんでした。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。USER_OBJECTS というカタログ・ビュー中の表のオブジェクト番号を調べてください。SQL*DBA MONITOR LOCK コマンドを実行して、すべてのプロセスの一覧と未処理のロックの状態を見ることができます。表をロックしているプロセスを確認してください。続いて、MONITOR PROCESS コマンドを実行し、Oracle プロセスとしてログインし、ロックを保持しているユーザーを調べます。そのユーザーにその表へのアクセスを中止してもらうか、またはそのユーザーの処理の終了を待つて再試行してください。

SQL*Loader-00909 ダイレクト・パスを使用するにはローダー・ビューを (SYS で) ロードする必要があります

原因：ダイレクト・パス・ロードに必要なデータベース・ビューが存在しません。

処置：必要なビューをロードするために、ユーザー SYS として必要なスクリプトを実行する方法については、『Oracle9i データベース管理者ガイド』を参照してください。

SQL*Loader-00910 UPI の入力変数のバインドでエラーが発生しました : [number]

原因：これはヘッダー・メッセージです。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00911 UPI の出力変数の定義でエラーが発生しました : [number]

原因：これはヘッダー・メッセージです。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00913 SELECT 文 (UPI) の結果をフェッチ中にエラーが発生しました : [number]

原因：これはヘッダー・メッセージです。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下のメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00914 表 *string* を排他モードでロックしようとしてエラーが発生しました。

原因: 指定した表をダイレクト・パス・ロード・モードでロックすることはできません。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。必要な権限が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00915 カーソルのクローズでエラーが発生しました : [number]

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00916 パスの同質性の検査でエラーが発生しました

原因: データベースのフロントエンドおよびバックエンドが別個のハードウェア・システム上にある場合にダイレクト・パス・ロードを行うには、相手のシステムが自分のシステムと同一である必要があります。このエラーは、SQL*Loader がシステム間の違いを検出した場合に発生し、これが解決されないとダイレクト・ロードは正常に実行されません。

処置: 従来型パス・ロードをこの構成に使用してください。

SQL*Loader-00918 SQL*Loader を使用するには、カタログを (SYS で) ロードする必要があります

原因: カタログがロードされていません。

処置: ユーザー SYS としてログインし、Oracle のカタログおよびスクリプト ULVIEW.SQL 内にあるビューをロードしてください。

SQL*Loader-00919 UPI をフェッチ中にエラーが発生しました : [number]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00925 *string* 実行時にエラーが発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。参照している表または列がアクセス不可能である可能性があります。

SQL*Loader-00926 *string* (表 *string*) で OCI エラーが発生しました

原因: OCI エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。参照している表または列がアクセス不可能である可能性があります。

SQL*Loader-00927 表 *string* が存在しません。

原因：SQL*Loader は、該当する名前の表を見つけられませんでした。指定した表が存在しない可能性があります。システムによっては、必要な権限が付与されていない場合にも、このメッセージが表示されることがあります。

処置：表が存在していて、表名の綴りに誤りがないことと、その表に対する必要な権限が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00929 表 *string* に対する INSERT 文の解析でエラーが発生しました。

原因：表の INSERT 文の解析でエラーが発生しました。

処置：使用されたすべての SQL 文字列を確認してください。

SQL*Loader-00930 表 *string*、列 *string* に対する INSERT 文の解析でエラーが発生しました。

原因：指定された列に対する INSERT 文の解析でエラーが発生しました。

処置：詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージの下メッセージを確認してください。この列に SQL 文字列が使用されているときは、その文字列を確認してください。

SQL*Loader-00931 列 *string* (表 *string*) に対する変数をバインド中に OCI エラーが発生しました

原因：OCI エラーが発生しました。

処置：詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。この列に対する SQL 文字列に問題がある可能性があります。

SQL*Loader-00932 表 *string* の切捨てに失敗しました。

原因：表を切り捨てようとしたましたが、失敗しました。

処置：詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。参照制約による切捨ては発生しないはずです。

SQL*Loader-00933 指定したファイル *string* は、データベースにありません。

原因：表をロードしようとして指定したファイル名は、データベースにはありません。

処置：有効なデータ・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-00934 データ・ファイル *string* (表 *string*) は無効です。

原因：表が常駐している表領域の一部ではない表をロードするために、データ・ファイル名が指定されました。

処置：有効なデータ・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-00935 パラレル・ロードに必要なオプションの検査中にエラーが発生しました。

原因：必要なオプションが見つからないかまたは無効だったため、エラーが発生しました。

処置：付随する Oracle メッセージの記述に従って問題を修正してください。

SQL*Loader-00936 表 *string*、パーティション / サブパーティション *string* が Oracle エラー *number* のためロックできません

原因：ローダーは、必要なパーティション / サブパーティションをロックできませんでした。

処置：ロックの保持者に解放を依頼するか、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00937 パラレル・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています。

原因：パラレル・ダイレクト・ロードを要求しましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約（確認、参照用）または使用可能なトリガー（あるいはその両方）があります。

処置：使用可能になっている制約またはトリガー（あるいはその両方）を使用不可にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00938 パーティション・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています

原因：シングル・パーティションのダイレクト・ロードを要求しましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約（確認、参照用）または使用可能なトリガー（あるいはその両方）があります。

処置：使用可能になっている制約またはトリガー（あるいはその両方）を使用不可にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00939 *string*（表 *string*、パーティション *string*）で OCI エラーが発生しました

原因：これはヘッダー・メッセージです。

処置：詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。参照している表またはパーティションがアクセス不能である可能性があります。

SQL*Loader-00940 NCHAR バインド属性（列 *string*、表 *string*）を設定中に UPI エラーが発生しました。

原因：NCHAR 列の CHARSETFORM 属性を設定中に、エラーが発生しました。

処置：これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00941 表 *string* の記述中にエラーが発生しました。

原因: 指定された表で SELECT リストの DESCRIBE を実行中に、エラーが発生しました。このエラーの直前のエラーを確認してください。

処置: SQL*Loader 制御ファイルで指定された表名、およびすべての列名を確認してください。

SQL*Loader-00942 パーティション *string* は、表 *string* の一部ではありません。

原因: 指定されたパーティションが、指定された表の一部ではありません。

処置: 指定されたパーティションが正しいかどうか、指定された表のパーティションかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00943 指定されたデータ・ファイル *string* が表 *string* のパーティション *string* にありません。

原因: 指定されたデータ・ファイルが、指定されたパーティションの表領域にありません。パーティション表で FILE= キーワードを使用したために、このエラーが発生しました。パーティション表のパーティションをすべてロードするときは、パーティションは同じ表領域にする必要があります。パーティションを 1 つロードするときは、ロードされるパーティションの表領域は、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じである必要があります。

処置: FILE= キーワードを使用して指定されたデータ・ファイルが、ロードされるパーティションの表領域にあることを確認してください。

SQL*Loader-00944 表 *string* に対して文の挿入の準備中にエラーが発生しました。

原因: 表の挿入文に対する OCISmtPrepare へのコールでエラーが返されました。

処置: OCISmtPrepare によって返されたエラーの詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。SQL*Loader 制御ファイル内で指定されたすべての SQL 文字列に対する構文が正しいことを確認してください。

SQL*Loader-00945 レコード・サイズ *number* はダイレクト・パスには大きすぎます

原因: データ・ファイルの最大レコード・サイズが、ダイレクト・パスがサポートする最大サイズ (65535) より大きいです。

処置: 従来型パスを使用して、データ・ファイルをロードしてください。

SQL*Loader-00946 *string* (表 *string*、サブパーティション *string*) で OCI エラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。参照している表またはサブパーティションがアクセス不能である可能性があります。

SQL*Loader-00947 サブパーティション・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています

原因: 1つのサブパーティションのダイレクト・ロードが要求されましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約（確認、参照用）または使用可能なトリガー（あるいはその両方）があります。

処置: 使用可能になっている制約またはトリガー（あるいはその両方）を使用不可にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00948 サブパーティション *string* は、表 *string* の一部ではありません。

原因: 指定されたサブパーティションが、指定された表の一部ではありません。

処置: サブパーティションおよび表名を確認してください。

SQL*Loader-00949 不適切なデータ・ファイル *string* が表 *string* のサブパーティション *string* に指定されました

原因: 指定されたデータ・ファイルが、指定されたサブパーティションの表領域にありません。サブパーティション表で FILE= キーワードを使用したために、このエラーが発生しました。サブパーティション表のサブパーティションをすべてロードするときは、サブパーティションは同じ表領域にする必要があります。サブパーティションを1つロードするときは、ロードされるサブパーティションの表領域は、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じにする必要があります。

処置: サブパーティションを1つロードするとき、ロードされるサブパーティションの表領域が、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じであることを確認してください。

SQL*Loader-00950 2 タスク間でのデータ構造体の受渡しでエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00951 once/load 初期化呼出しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00952 once/data ファイル初期化呼出しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00953 2 タスク間での読み込みバッファの受渡しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00954 2 タスク間での読み込みバッファの索引の受渡しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00955 列配列の構築でブロック・フォーマッタの呼出しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00956 once/data ファイル終了呼出しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00957 2 タスク間での文字列の受渡しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00958 データ再配置でアドレス・スタックのポップ中にエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00959 2 タスク間でのバッファの受渡しでエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00961 表 *string* の once/load 終了呼出しでエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00962 ユーザー側 Ctrl-C ハンドラの設定でエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00963 ユーザー側 Ctrl-C ハンドラの解除でエラーが発生しました

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00965 エラー *number* が発生したため、制約 *string* を表 *string* に対して適用できません

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00966 エラー *number* が発生したため、すべてのトリガーを表 *string* に対して適用できません

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、続いて表示されるエラーを確認してください。

SQL*Loader-00969 カーネル・サイドでファイル名解釈の実行中にエラーが発生しました

原因: パラレル・ロードに指定されたファイルが、有効なデータベース・ファイルではない可能性があります。

処置: 有効なデータベース・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-02050 マルチバイト・キャラクタでエラーが発生しました。

原因: POSITION によって指定されたテキスト、または改行で終了したテキストが無効です。

処置: SQL*Loader 制御ファイルまたはデータ・ファイルを編集して、列の配置を修正してください。

第IV部

ネットワーク・メッセージ

第IV部には、次の章があります。

- 第25章「Oracle Net メッセージ (TNS)」
- 第26章「Oracle Names Client メッセージ (NNC)」
- 第27章「Oracle Names Server メッセージ (NNO)」
- 第28章「Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)」
- 第29章「Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)」
- 第30章「External Naming メッセージ (NNF)」
- 第31章「簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)」
- 第32章「リモート操作メッセージ (NCR)」
- 第33章「ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)」

ネットワーク・トピックの詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』
- 『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』

Oracle Net メッセージ (TNS)

TNS-00001 INTCTL: 端末からコマンド行を獲得するときにエラーが発生しました。

原因: 端末からの標準入力接続が不正です。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00002 INTCTL: Interchange を起動中にエラーが発生しました。

原因: Interchange を起動できませんでした。

処置: Interchange 構成ファイル (INTCHG.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA) にエラーがないかを確認し、指定された ADDRESS を使用しているプロセスが他にないことを確認してください。エラーが繰り返される場合は、Interchange コンポーネントでトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決した後、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00003 INTCTL: Interchange に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: Interchange に不正なコマンドが送信されたか、または Interchange が応答していません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: Interchange に送信されたコマンドが有効であることを確認してください。INTCTL STATUS コマンドを使用して、Interchange が実行中であることも確認してください。必要に応じて、INTCTL START コマンドを使用して Interchange を起動してください。

TNS-00004 INTCTL: Navigator を起動中にエラーが発生しました。

原因: Navigator を起動できませんでした。

処置: Navigator (NAVGAIR) の実行ファイルが、プラットフォームの Oracle 実行可能ディレクトリに存在することを確認してください。構成ファイル TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA を確認して、エラーを見つけてください。エラーが繰り返される場合は、Interchange コンポーネントでトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決した後、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00005 INTCTL: Navigator に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因：Navigator が応答していません。Navigator が実行中でないか、または別のプロセスが応答しています。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Navigator が実行中であることを確認してください。TNSNAMES.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA 構成ファイルに、正しいアドレスがリストされていることを確認してください。

TNS-00006 INTCTL: HOST 変数が定義されていません。

原因：HOST 変数が設定されませんでした。

処置：HOST 変数を正しく設定し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00007 INTCTL: ホストが不明です。

原因：ポインタ・ホストに不明なホスト名が設定されています。

処置：ポインタ・ホストを正しく設定し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00008 INTCTL: 接続先 Navigator に接続できません。

原因：Navigator との接続を正しく確立できませんでした。指定された Navigator が実行中でないか、または Navigator アドレスが不正である可能性があります。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Navigator が実行中であることを確認してください。必要に応じて、Interchange Control Utility の START コマンドを使用して、Navigator を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00009 INTCTL: Connection Manager に接続できません。

原因：Connection Manager への接続が正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager が実行されていない可能性があります。指定された Connection Manager (Interchange) が実行中でないか、または Connection Manager のアドレスが不正である可能性があります。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。必要に応じて、Interchange Control Utility の START コマンドを使用して、Connection Manager を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00010 NS コンテキストをフラッシュ中にエラーが発生しました。

原因：内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置：接続が正しく確立されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00011 INTCTL: Connection Manager を起動中にエラーが発生しました。

原因：Connection Manager を起動できませんでした。

処置：実行可能ファイルが、標準の Oracle 実行可能領域に存在することを確認してください。構成ファイル INTCHG.ORA にエラーがないかを確認し、他に TNSNET.ORA で指定されている Connection Manager の ADDRESS を使用しているプロセスがないことを確認してください。Connection Manager のトレースをオンにすると、エラーの発生理由を確認できます。トレースをオンにする方法については、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-00012 INTCTL: Connection Manager の要求を処理中にエラーが発生しました。

原因：不正なコマンドが Connection Manager に送信されたか、または Connection Manager が応答していません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：TNSNAMES.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA 構成ファイルに、正しいアドレスがリストされていることを確認してください。Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00013 INTCTL: NS 切断コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因：内部 NS エラーです。接続のクローズ中に、エラーが発生しました。

処置：使用するネットワーク・プロトコルが、マシンに正しくインストールされていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00014 INTCTL: 端末入力チャネルをオープン中にエラーが発生しました。

原因：標準端末入力をオープンできませんでした。これは内部エラーです。

処置：通常、ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00015 INTCTL: 端末入力チャネルをクローズ中にエラーが発生しました。

原因：端末入力チャネルをクローズできませんでした。これは内部エラーです。

処置：通常、ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00016 INTCTL: NS 送信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因：内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置：エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00017 INTCTL: NS 受信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00018 INTCTL: TNS_ADMIN が定義されていません。

原因: TNS_ADMIN ポインタが正しく設定されていません。

処置: 処置は必要ありません。異なるネットワーク環境を使用する場合のみ、TNS_ADMIN を設定してください。

TNS-00019 INTCTL: 各国語インタフェースの初期化中にエラーが発生しました。

原因: メッセージ・ファイルは見つかりませんでした。

処置: Oracle 環境が設定され、メッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

TNS-00020 INTCTL: TNSNAV.ORA に NAVIGATOR_DATA がありません。

原因: TNSNAV.ORA には NAVIGATOR_DATA コンポーネントがありません。

処置: Navigator に ADDRESS を定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00021 INTCTL: INTCHG.ORA に INTERCHANGE_DATA がありません。

原因: INTCHG.ORA には INTERCHANGE_DATA コンポーネントがありません。

処置: Connection Manager に正しいデータを定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00022 INTCTL: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME がありません。

原因: INTCHG.ORA には CMANAGER_NAME コンポーネントがありません。

処置: CMANAGER_NAME に名前を定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00023 INTCTL: 構成ファイルに ADDRESS が見つかりません。

原因: 構成ファイルに ADDRESS/ADDRESS_LIST コンポーネントがありません。

処置: TNSNET.ORA ファイルに Connection Manager の ADDRESS を定義し、TNSNAV.ORA ファイルの Navigator の ADDRESS を確認して、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00024 INTCTL: Connection Manager のアドレスを取得する Navigator に接続できません。

原因: Navigator が実行中ではありません。

処置: Navigator でステータス要求を行って、Navigator が実行中であることを確認してください (Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用してください)。必要に応じて、Interchange Control Utility を使用して Navigator を起動してください。ネットワークが正しく構成されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00025 INTCTL: Oracle 環境が正しくセットアップされていません。

原因: Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置: Oracle 環境の設定方法については、プラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。修正して、INTCTL を再実行してください。Oracle 環境に正しいディレクトリが含まれていることを確認してください。

TNS-00026 INTCTL: TNS_ADMIN ディレクトリを設定し、それを使用中です。

原因: 環境変数 TNS_ADMIN が正しく設定されています。INTCTL は、TNS_ADMIN ディレクトリを使用します。これは、情報メッセージです。

処置: TNS_ADMIN ディレクトリではなくデフォルト・ディレクトリを使用する場合は、TNS_ADMIN を再設定し再実行してください。

TNS-00027 INTCTL: Navigator 名 / アドレスを解決できません。

原因: アドレス定義に対する Navigator の名前がありません。

処置: TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、指定された名前の定義が含まれていることを確認してください。

TNS-00028 INTCTL: Connection Manager 名 / アドレスが不明です。

原因: Connection Manager の名前に Navigator が認識する定義がないか、または TNSNAMES.ORA ファイルで使用可能な名前 / アドレスではありません。INTCHG.ORA ファイルで名前が不正である可能性もあります。

処置: Connection Manager の名前が、Navigator に読み込まれる TNSNET.ORA ファイルにあるか、または TNSNAMES.ORA ファイルにあることを確認してください。INTCHG.ORA が正しいことを確認してください。

TNS-00031 INTCTL: 内部 NT エラーです。

原因: インストールされたプロトコル・アダプタへのインタフェースで、問題が発生しました。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00032 INTCTL: 内部 NS エラーです。

原因: TNS に問題が発生しました。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00033 INTCTL: 内部 NL エラーです。

原因: 内部 TNS モジュール NL の問題です。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00034 INTCTL: 内部 NR エラーです。

原因: 内部 Interchange ルーチンの問題です。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00035 INTCTL: 完全ファイル名を作成中にエラーが発生しました。

原因: ファイルまたは環境変数へのパス名が不正なため、ファイル名のフルパスを作成中に問題が発生しました。検索されたファイルは、TNSNAMES.ORA、TNSNAV.ORA、INTCHG.ORA、および Navigator と Connection Manager のエラー・ファイルです。

処置: すべての環境変数が正しく定義され、すべての構成ファイルが正しい場所に存在することを確認してください。

TNS-00036 INTCTL: Navigator または Connection Manager のエラー・ファイル読み込みエラー。

原因: Navigator または Connection Manager が起動に失敗したときに生成したエラー・ファイルを読み込むときに、問題が発生しました。

処置: 標準ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリのすべての権限が適切であることを確認してください。

TNS-00037 INTCTL: Navigator/Connection Manager のエラー・ファイルのオープン・エラー。

原因: Navigator または Connection Manager が起動に失敗したときのエラー・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリのすべての権限が適切であることを確認してください。

TNS-00038 INTCTL: アドレスまたはコマンド文字列の構成に不備があります。

原因: Navigator または Connection Manager のいずれかにメッセージを送信しようとして、受け入れられない文字列が検出されました。Navigator または Connection Manager のいずれかに指定されたアドレスが、正しく記述されていない可能性があります。

処置: 構成ファイル (TNSNAMES.ORA、TNSNAV.ORA または TNSNET.ORA) のすべてのアドレス文字列を調べ、形式が正しいことを確認してください。可能な場合、ファイルを再生成してください。これらのすべてに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00039 INTCTL: プロセスを生成中にエラーが発生しました。

原因: 内部オペレーティング・システム依存の問題のため、処理を生成中にエラーが検出されました。マシン・リソースが制限されている可能性があります。

処置: コマンドを再実行してください。Interchange を実行できる権限および検索パスの現行の設定を確認してください。必要に応じて、その他のアプリケーションを終了して、マシン・リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00040 INTCTL: トレース・コンテキストの初期化に失敗しましたが、続行中です。

原因: INTCHG.ORA のエラーのため、ユーザーの権限が不正であるため、またはファイルが存在しないために、指定されたトレース・ファイルのオープン中に問題が発生しました。

処置: 構成ファイルの権限を確認し、確実にすべてが正しい場所に存在するようにしてください。

TNS-00041 INTCTL: Navigator はすでに実行されています。開始操作は取り消されました。

原因: Navigator はすでに実行され、同じアドレスでリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Navigator はすでに実行されています。

TNS-00042 INTCTL: CMANAGER はすでに実行されています。開始操作は取り消されました。

原因: Connection Manager はすでに実行され、同じアドレスでリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager はすでに実行されています。

TNS-00043 CMANAGER は接続されたままですが、それでも停止しますか (y/n) ?

原因: 停止しようとしている CMANAGER は接続されたままです。これは確認メッセージです。

処置: y または n を押してください。y を押すと、アクティブなデータベース接続は削除されます。通常、これはお薦めしません。

TNS-00044 INTCTL: Connection Manager とコンタクトするには INTCHG.ORA ファイルが必要です。

原因: 正しいディレクトリに INTCHG.ORA が存在しないのに、デフォルトの Connection Manager (Interchange) とコンタクトしようとしてしました。

処置: INTCHG.ORA ファイルを作成してください。INTCHG.ORA ファイルが正しいディレクトリにあり、コンタクトする Connection Manager の正しい名前を含んでいることを確認してください。

TNS-00045 INTCTL: そのアドレスでは Navigator とコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、Navigator とコンタクトしようとしてしました。

処置: TNSNAV.ORA ファイルでアドレスを確認してください。Navigator が、実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-00046 INTCTL: そのアドレスでは CMANAGER とコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、CMANAGER とコンタクトしようとしてしました。

処置: TNSNET.ORA ファイルに、そのアドレスが含まれていることを確認してください。INTCTL STATUS コマンドを使用して、CMANAGER が、実際にそのアドレスでリスニングしていることも確認してください。必要に応じて、INTCTL START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。

TNS-00060 INTCTL: 不適切なコマンド: リモート Interchange で使えるのは STATUS のみです。

原因: 存在しないコマンドが入力されました。または、リモート Interchange に STATUS 以外が要求されました。

処置: INTCTL コマンドのリストについては、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を参照してください。有効なコマンドのリストを参照するには、HELP と入力してください。

TNS-00061 INTCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: トレース・レベルの指定が必要です。

原因: トレース・レベルが指定されませんでした。

処置: トレース・レベルを指定して、コマンドを再実行してください。

TNS-00062 INTCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: ヘルプには help/h/? とタイプします。

原因: 無効なコマンドが入力されました。

処置: 有効なコマンドのリストについては、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を参照するか、HELP と入力してください。

TNS-00063 INTCTL: バッファに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: INTCTL が内部バッファに対するメモリーの割当てに失敗しました。

処置: マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確認してください。必要に応じて、実行するプログラム数を少なくしてメモリーを解放し、再試行してください。

TNS-00064 INTCTL: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME が見つかりませんでした。

原因: INTCTL は INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME パラメータを見つけることができませんでした。

処置: INTCHG.ORA ファイルが正しい構造になっているかを確認してください。

TNS-00065 INTCTL: コマンドはリモートでは実行できません。

原因: STATUS および VERSION 以外のコマンドがリモートから実行されました。

処置: STATUS および VERSION 以外のコマンドを実行する必要がある場合は、Interchange マシンで INTCTL を実行してください。

TNS-00070 INTCTL 使用方法: [intctl] command process_name [引数]

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00071 command は次の 1 つです:

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00072 * start - process_name を起動します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00073 * stop/abort - process_name を停止します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00074 * status - process_name から統計表示を取得します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00075 注意: 引数フィールドにコンポーネント名を指定して

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00076 リモート・コンポーネントのステータス情報を

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00077 獲得することもできます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00078 * log_on - ログを ON にする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00079 * log_off - ログを OFF にする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00080 * force_log - ステータスをダンプする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00081 * trace_on - トレースを ON にする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00082 注意: 引数フィールドでトレース・レベル (USER または

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00083 ADMIN) を指定する必要があります。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00084 * trace_off - トレースを OFF にする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00085 * reread - パラメータ・ファイルを再読み込みする process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00086 * reload - TNSNET.ORA を再ロードする Navigator を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00087 * version - バージョン番号を表示する process_name を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00088 * exit - Interchange コントローラを終了します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00089 process_name は、Interchange または CMANAGER、Navigator のいずれかです。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00090 * Interchange - Interchange に尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00091 * Navigator (または navgatr) - Navigator にだけ尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00092 * CMANAGER (または intlsnr) - Cmanager にだけ尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00093 引数は、status または trace_on の場合だけ指定します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00094 * status では - 引数はリモート process_name と見なされます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00095 * trace_on では - 引数はトレース・レベルと見なされます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00100 メモリーを割り当てられません。

原因: マシン上のメモリー不足です。

処置: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

TNS-00101 ファイル操作エラーです。

原因: 特定のファイルの読み込みまたは書き込みアクセス中に、エラーが発生しました。

処置: ログおよびトレース・ファイルの位置に対して、オペレーティング・システム・アクセスがあるかどうかを確認してください。

TNS-00102 キーワード値のバインディング操作エラーです。

原因: 通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。メモリー不足の可能性がります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00103 パラメータ・ファイルのロード・エラーです。

原因: パラメータ・ファイル・プロセスに失敗しました。

処置: Interchange に必要なすべてのパラメータ・ファイル (TNSNAV.ORA、TNSNET.ORA および INTCHG.ORA) が存在するかどうかを確認してください。これらのファイルが存在し、正しく構成されている場合は、トレースをオンにして、操作を繰り返してください。トレースが完了したら、トレースをオフにしてください。トレース・ファイルでパラメータ・ロード・プロセスでのエラーを調べてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00104 データ・ストリームのオープン/アクセス・エラーです。

原因: Interchange のログまたはトレース・ファイルのデータ・ストリームがオープンまたはアクセスできません。

処置: Oracle ファイルおよびディレクトリに対する読取り / 書き込み権限を確認してください。

TNS-00105 トレースを初期化できません。

原因: INTCHG.ORA ファイルが正しく構成されていません。指定されたトレース・パラメータを調べてください。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00106 ログファイルのオープンに失敗しました。

原因: アクセスまたは書き込み権限が取得できないため、ログ・ファイルが作成できません。

処置: ログ・ファイルのディレクトリが存在するかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。

TNS-00107 TNS グローバル・データを初期化できません。

原因: 通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00108 TNS_ADMIN が定義されていません。

原因: TNS_ADMIN ポインタが設定されていません。

処置: TNS_ADMIN ポインタを設定してから、アプリケーションを実行してください。

TNS-00109 メッセージを印刷できません。メモリー不足です。

原因: メモリー不足のため、メッセージの出力に失敗しました。通常、ユーザーには表示されません。

処置: マシンのリソースを増やしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00110 TNSNET.ORA ファイルからネットワークを初期化できません。

原因: ネットワーク・ファイルのネットワーク情報が不十分です。

処置: 1 つ以上の Interchange が TNSNET.ORA に定義されるように、ネットワーク構成データを修正してください。

TNS-00111 ファイルから構成データの取得に失敗しました。

原因: ネットワーク・ファイル TNSNET.ORA または TNSNAV.ORA の構成情報が不十分です。

処置: TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA が正しいかどうかを確認してください。

TNS-00112 構成ファイル名の検索に失敗しました。

原因: 指定された構成ファイル名が正しくありません。

処置: 構成ファイルが存在するかどうかを確認してください。

TNS-00113 エラー・ログファイルのオープンに失敗しました。

原因: Navigator または Connection Manager の起動時に、ログ・ファイルがオープンできませんでした。読取りまたは書込み権限に問題があるか、ディレクトリが存在しません。

処置: 標準エラー・ディレクトリを作成するか、ディレクトリが存在する場合は、Interchange 実行プロセスが書き込めるように設定してください。

TNS-00114 内部エラー - アドレスの割当てが実施されませんでした。

原因: これは内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00115 ポンプのグローバル・バッファを割り振れません。

原因: メモリー不足のため、ポンプ・バッファを割り振れません。

処置: INTCHG.ORA の PUMP_BUFFERS の数を少なくしてください。

TNS-00116 ポンプの初期配分に失敗しました。

原因: 新しいポンプに接続を割り当てているときに、エラーが発生しました。このエラーは、マシン・リソース不足が原因で発生する場合があります。

処置: 再接続してください。このような障害が発生した場合、ポンプをリカバリする必要があります。マシン・リソースに問題がある場合は、リソースを追加するか、アクティブなアプリケーションをいくつか停止してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00117 内部エラー - ポンプにデータが渡されませんでした。

原因: これは内部エラーです。予想されたデータが渡されていません。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00119 INTCHG.ORA に PUMP_CONNECTIONS がありません。

原因: INTCHG.ORA に PUMP_CONNECTIONS パラメータが指定されていません。

処置: PUMP_CONNECTIONS パラメータを INTCHG.ORA に追加してください。

TNS-00120 INTCHG.ORA に PUMPS がありません。

原因: PUMPS パラメータが指定されていません。

処置: 適切な数の PUMPS を INTCHG.ORA に追加してください。

TNS-00121 INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME がありません。

原因: CMANAGER_NAME パラメータが指定されていません。

処置: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME パラメータを定義してください。その Interchange の TNSNET.ORA で使用された CMANAGER_NAME パラメータと一致させる必要があります。

TNS-00122 TNSNET.ORA ファイルに ADDRESS がありません。

原因: ADDRESS または ADDRESS_LIST パラメータが TNSNET.ORA で指定されていません。

処置: TNSNET.ORA ファイルで Connection Manager に有効な ADDRESS のセットを定義してください。

TNS-00123 構成された ADDRESS ではリスニングを実施できません。

原因：別のプロセスがすでにこのアドレスでリスニングしているか、または ADDRESS が正しく定義されていません。

処置：TNSNET.ORA で (Connection Manager のために) 定義された ADDRESS を調べて、エラーを見つけてください。別のプログラムがそのアドレスを使用していないことを確認してください。

TNS-00124 内部エラー - 空のアドレスは作成できません。

原因：これは内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。

処置：エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00125 TNSNET.ORA の Interchange 番号の取得に失敗しました。

原因：TNSNET.ORA ファイルでエラーが発生しました。

処置：TNSNET.ORA の内容と出力されたエラーを確認してください。構成ファイルを再生成してください。

TNS-00126 TNSNET.ORA に Connection Manager 名およびアドレスがありません。

原因：INTCHG.ORA で指定されている Interchange 名が TNSNET.ORA ファイルに定義されていません。

処置：Connection Manager 名を 1 つとアドレス・セットを、ネットワーク内の各 Interchange に定義してください。構成ファイルを再生成してください。

TNS-00127 TNSNET.ORA に Connection Manager 名がありません。

原因：1 つ以上の Connection Manager がありません。

処置：Connection Manager 名を TNSNET.ORA に定義してください。TNSNET.ORA を再生成してください。

TNS-00128 TNSNET.ORA に COMMUNITY がありません。

原因：1 つ以上の ADDRESS に、COMMUNITY が割り当てられていません。

処置：ADDRESS に、TNSNET.ORA で定義した COMMUNITY を割り当ててください。

TNS-00129 内部エラー - コミュニティの新規作成に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。通常、このエラーは発生しません。マシンにリソース制限の問題がある可能性があります。

処置：Interchange を停止して、再起動してください。可能な場合、マシンに使用可能なメモリーを増やしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00130 Interchange の内部アドレスの作成に失敗しました。

原因: TNSNET.ORA でリストされたアドレスの 1 つにエラーがあります。

処置: このファイルの Interchange 定義のエラーを調べてください。

TNS-00131 TNSNET.ORA の COMMUNITY_COST_LIST に COMMUNITY がありません。

原因: TNSNET.ORA の COMMUNITY_COST_LIST 内に、COMMUNITY のキーワード - 値の組合せがありません。

処置: COMMUNITY 名および対応する COMMUNITY_COST_LIST の COST でコミュニティを定義してください。

TNS-00132 COST 値にはゼロより大きい整数が必要です。

原因: コミュニティが COST 値ゼロで TNSNET.ORA に定義されました。

処置: ゼロより大きい代替値を割り当ててください。

TNS-00133 TNSNAV.ORA に LOCAL_COMMUNITIES フィールドがありません。

原因: TNSNAV.ORA ファイルが正しく構成されていません。

処置: TNSNAV.ORA に正しく LOCAL_COMMUNITIES フィールドを定義してください。

TNS-00134 TNSNAV.ORA で、Navigator のアドレスに COMMUNITY コンポーネントがありません。

原因: Navigator に指定されたアドレスに COMMUNITY 名がありません。

処置: NAVIGATOR_ADDRESSES フィールドのすべてのアドレスが、TNSNAV.ORA ファイルの COMMUNITY エントリを持つようにしてください。

TNS-00135 TNS エラー・メッセージ・ファイルがありません。

原因: エラー・メッセージ・ファイルがありません。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあるようにしてください。

TNS-00136 TNS エラー・メッセージの製品 / 機能が登録されませんでした。

原因: エラー・メッセージ・ファイルのエラーです。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあるようにしてください。

TNS-00137 TNS エラー・メッセージ・ファイルの登録に失敗しました。

原因: TNS エラー・メッセージ・ファイルがありません。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあるようにしてください。

TNS-00138 ORACLE 実行ディレクトリの検索に失敗しました。

原因：Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置：Oracle 環境が正しく設定され、エラー・メッセージが正しい位置にあるようにしてください。

TNS-00139 内部 - Interchange リスナから渡されたデータは不完全な形式です。

原因：Interchange で内部エラーが発生しました。

処置：INTCTL VERSION コマンドを使用して、Interchange 製品の互換性のあるコンポーネントを使用していることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00140 指定された Interchange は、ネットワーク表で見つかりません。

原因：制御要求に指定された Interchange が見つかりませんでした。

処置：指定された Interchange が TNSNET.ORA にあることを確認してください。

TNS-00141 ファイル・ストリーム情報の取得に失敗しました。

原因：ファイル・ストリーム・パッケージでエラーが発生しました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00142 TNSNAV.ORA のコミュニティが不適当です。

原因：TNSNAV.ORA の LOCAL_COMMUNITIES エントリのコミュニティが、NAVIGATOR_ADDRESSES エントリのすべてのコミュニティと一致しません。

処置：NAVIGATOR_ADDRESSES のすべてのコミュニティが、LOCAL_COMMUNITIES コンポーネントのコミュニティと一致するようにしてください。

TNS-00143 TNSNAV.ORA にある PREFERRED_CMANAGERS 登録が不適当です。

原因：Connection Manager に使用される TNSNAV.ORA に、PREFERRED_CMANAGERS エントリがあります。PREFERRED_NAVIGATORS エントリがあるのは、Interchange の TNSNAV.ORA のみである必要があります。

処置：TNSNAV.ORA から PREFERRED_CMANAGERS エントリを削除して PREFERRED_NAVIGATORS エントリをなくすか、または、Interchange の TNSNAV.ORA のみにエントリが存在するようにしてください。

TNS-00144 INTCHG.ORA で指定されている PUMP_CONNECTIONS 値が大きすぎます。

原因：INTCHG.ORA で指定されている PUMP_CONNECTIONS の値が大きすぎて、このプラットフォームではサポートできません。

処置：PUMP_CONNECTIONS の最大値については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-00145 INTCHG.ORA で指定されている PUMPS 値が大きすぎます。

原因: INTCHG.ORA で指定されている PUMPS の値が大きすぎて、このプラットフォームではサポートできません。

処置: PUMPS の最大値については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-00146 内部 -- ポンプの範囲内でデータ要求を再試行してください。

原因: ポンプからデータを受け取るためのデータ領域が小さすぎます。

処置: 大きなバッファを指定して、操作を再試行してください。

TNS-00147 あらかじめ生成されているポンプの開始に失敗しました。

原因: Connection Manager が、起動時にポンプを開始できませんでした。

処置: すべての構成パラメータを調べて、正しいことを確認してください。トレースをオンにして、ポンプの開始に失敗した領域を確認してください。

TNS-00200 コンテキストで nsanswer を実行できません。結果 = string

原因: サービスのリクエストが異常終了したか、またはオプションのネゴシエーションに失敗した可能性があります。

処置: 接続を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00201 応答接続データを読み込みできません :string:

原因: 不正な形式の接続データが Interchange リスナーに送信されました。

処置: エラーが繰り返される場合は、Interchange を使用するアプリケーションを調べてください (アプリケーションがクローズまたはクラッシュしている可能性があります)。問題を特定できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00202 リダイレクト・コールに失敗しました:オリジナル:string リダイレクト:string

原因: これは内部エラーです。ポンプまたはその他の Interchange リスナーにコールをリダイレクトできませんでした。不十分なネットワークまたはマシン・リソースが原因である可能性があります。

処置: リソースを追加するか、実行しているアプリケーションをいくつかクローズして、リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00203 intlsnr でトレースを開始できません。

原因: Interchange リスナーにトレースを設定中に失敗しました。

処置: Network トレース・ディレクトリのファイル権限を調べ、トレース・ファイル名およびディレクトリが INTCHG.ORA に指定されている場合は、それらが正しいことを確認してください。

TNS-00204 intlsnr でトレースを開始しました。

原因：内部メッセージです。トレースの開始に成功しました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00205 intlsnr でトレースが OFF に切り換わりました。

原因：内部メッセージです。Interchange リスナーのトレースをオフにしました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00206 Interchange のステータス情報 : *string*:

原因：Interchange からステータス要求のヘッダーとして戻されるメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00207 アップ時間 : *number* 日 *number* 時 *number* 分 *number* 秒

原因：ステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00208 ロギング : *string*

原因：ステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00209 トレース : *string*

原因：ステータス要求 Interchange の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00210 使用可能ポンプ数合計 : *number*

原因：Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00211 アクティブ・ポンプ数合計 : *number*

原因：Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00212 開始済ポンプ数合計 : *number*

原因：Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00213 使用可能な接続数 : *number*

原因：Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00214 使用中の接続数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00215 正常接続数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00216 接続障害数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00217 データのバイト数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00218 カレント・バイト / 秒: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00219 ポンプ方針: *string*

原因: ステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00220 ポンプ内訳 -----

原因: ステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00221 ポンプ 接続 合計データ バイト / 秒

原因: ステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00222 -----

原因: ステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00223 *number number number number*

原因: ステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00224 これ以上接続できません。

原因: INTCHG.ORA に設定されている接続数より多く Interchange に接続しようとしています。

処置: Interchange がビジーでなくなるまで待機するか、または INTCHG.ORA の許可される接続数を変更して Interchange を再起動してください。

TNS-00225 ポンプへの接続を配分できません。

原因: 実行可能ポンプが見つからないか、またはマシンで現在実行しているプロセスが多すぎるために、ポンプを開始できません。

処置: マシンのプロセス数を減らすか、またはマシンのリソースを増やしてください。

TNS-00226 ポンプ *number* とコンタクトできず、ブロードキャスト・メッセージ *string* を送信できません。

原因: ポンプをコールできません。

処置: 処置は必要ありません。ただし、エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00227 ポンプとコンタクト不能。Connection Manager でポンプ休止が宣言されました。

原因: ポンプが親なしプロセスになりました。プロトコル・アダプタが正しく動作していないか、マシンのネットワーク・リソースが使用されすぎです。

処置: 致命的なエラーではありません。親なしポンプが動作し続ける可能性があります。Interchange を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00228 ポンプ・データの検索中に障害が発生しました。

原因: ポンプから渡されたデータの内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00229 コール中のエラー: メッセージを送達できません。: *string*: *stringstringstring*

原因: コールの宛先が使用不可です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00230 新規ポンプ・プロセスを開始不能。 *stringstring* プロトコル・アダプタ・エラー: *number*

原因: 新規プロセスを作成できません。マシンにプロセスが多すぎる可能性があります。

処置: Interchange マシンでその他のアプリケーションを終了して、マシンのリソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、マシンにメモリーがさらに必要である可能性があります。マシンにリソースが十分にあるにもかかわらず、エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00231 ポンプは稼働中です。

原因: ポンプのログ・メッセージが Interchange リスナーに送信されました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00232 接続を設定できません。

原因: エラー・ログ・メッセージがポンプから送信され、コール文字列のエラーによって接続の初期化が失敗したことを示しています。ネットワークの問題かリソースの制限です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00233 接続先のエラーで Interchange はコンタクト確立に失敗しました。

stringstringstring

原因: ポンプの接続先の呼出しに失敗しました。

処置: 接続先を確認してください。

TNS-00234 コール失敗の接続データ: コール・データ =string 受取りデータ =:string:

原因: エラー TNS-00233 を補足する接続データです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00235 接続を強制終了中: プロトコル・アダプタ・エラー

:string;number,numberstringnumber,number

原因: 接続時間が長すぎるか、またはその他のネットワーク・エラーのため、ポンプが接続を強制終了しています。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00236 トレースの初期化に失敗しました。

原因: ポンプがトレースの初期化に失敗しました。

処置: INTCHG.ORA が正しく構成されていることを確認してください。

TNS-00237 接続の拒否に失敗しました。

原因: ポンプでエラーが発生する前に、接続が異常終了した可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00238 ポンプ *number* @: *string*:

原因: すべてのポンプ・ログ・メッセージに付加されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00239 Connection Manager は停止しています。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00240 Connection Manager: ログインは ON です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00241 Connection Manager: ログインは OFF です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00242 Connection Manager: トレースは ON です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00243 Connection Manager: トレースは OFF です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00244 Connection Manager: 要求に失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00245 Connection Manager: ログ・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00246 Connection Manager: トレースの開始に失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00247 TNSNET.ORA ファイルからの構成データをメモリーに割当てできません。

原因: ナビゲータは、TNSNET.ORA 構成ファイルのための十分なメモリー割当てに失敗しました。

処置: Interchange の実行に使用可能なマシン・リソースを増やすか、または実行中のその他のアプリケーションをマシンから削除してください。

TNS-00248 ファイル: *string* から情報を取得できません。NR エラー: *number* で終了します。

原因: TNSNAV.ORA の構成が不正か、または指定されたアドレスが別のアプリケーションで使用されています。

処置: TNSNAV.ORA ファイルの構文を調べてください。必要に応じて、新しいアドレスを割り当ててください。

**TNS-00249 ファイル *string* からネットワーク構成データを読み込みできません。エラー
:*string***

原因: ネットワーク構成ファイル TNSNET.ORA がないか、またはその構成が不正です。

処置: TNSNET.ORA が正しく構成されているかどうかを確認してください。

TNS-00250 Navigator はすでに起動しています。

原因: Navigator 起動時のログ・ファイルへのメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00251 nstest で障害が発生しました。

原因: 内部エラーのため、nstest 操作に失敗しました。

処置: エラーが繰り返される場合は、ネットワークの問題またはマシンのリソース制限がある可能性があります。これらが問題の原因でない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00252 ルート要求をハンドルできません。 *string*

原因: 要求されたコマンドが存在しません。

処置: 処置は必要ありません。

**TNS-00253 ファイル *string* からのネットワーク構成データ読み込みでエラーが発生しました。
エラー *string***

原因: TNSNET.ORA の構成が不正か、または存在しません。

処置: TNSNET.ORA が正しく構成されているかどうかを確認してください。

TNS-00254 Navigator は停止しています。

原因: Navigator が停止していることを確認したときに、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00255 ログをクローズし、Navigator を停止しています。

原因: Navigator が停止している場合のログ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00256 Navigator のステータス:

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00257 正常終了した要求件数: *number*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00258 失敗した要求件数: *number*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00259 使用禁止 Interchange リスト:

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00260 -----

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00261 Interchange 名 コミュニティ・リンク ダウン時間残 (秒)

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00262 *stringstringnumber*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00263 Navigator: 要求に失敗しました。

原因: 要求に失敗したときの、Navigator からの応答です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00264 Navigator: 構成データの再ロードに失敗しました。

原因: ネットワーク構成の再ロードに失敗したときに、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージです。TNSNET.ORA の構成が不正か、またはファイルがありません。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00265 Navigator: ネットワーク構成データを再ロードしました。

原因: ネットワークの再ロードに成功したときに、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00266 Navigator: 不明な要求です。

原因: Navigator に認識されない要求を送信しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00267 Navigator: 内部エラーです。

原因: このエラーは、Navigator に認識されない要求を送信した場合に生成されます。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00268 ON

原因: メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00269 OFF

原因: メッセージの一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00270 *string*: 端末エラー *string*

原因: 起動が失敗したときに、実行可能なエラー・ファイルに出力されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00271 Connection Manager

原因: Connection Manager 名です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00272 Navigator

原因: Navigator 名です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00273 Navigator: ロギングは ON です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00274 Navigator: ロギングは OFF です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00275 Navigator: トレースは ON です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00276 Navigator: トレースは OFF です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00277 Navigator: 要求に失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00278 Navigator: ログ・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00279 Navigator: トレースの開始に失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00280 最大平均バイト / 秒: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00281 Connection Manager: ログの出力を強制しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00282 Connection Manager: ログの強制に失敗しました。ロギングは OFF です。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00283 TNS アドレスに続くリスニング:

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00284 Imm 最大平均バイト / 秒: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00285 平均接続時間 (秒): *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00286 最大接続時間 (秒) : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00287 最小接続時間 (秒) : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00288 Navigator: Interchange を使用禁止にできませんでした。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00289 Navigator: Interchange を使用禁止にしました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00290 Navigator: Interchange を使用可能にできませんでした。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00291 Navigator: Interchange を使用可能にしました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00292 ログ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムに戻されたログ・ファイル名を示すメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00293 トレース・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムに戻されたトレース・ファイル名を示すメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00294 Connection Manager: セキュリティは使用可能です。Interchange を停止できません。

原因: Connection Manager がセキュリティで保護されていることを示す、制御プログラムに戻されたメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00295 Navigator: セキュリティは使用可能です。Navigator を停止できません。

原因: Navigator がセキュリティで保護されていることを示す、制御プログラムに戻されたメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00296 停止可能: *string*

原因: プログラムを停止できるかどうかを示す、制御プログラムに戻されたメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00297 ログイン・レベル: *string*

原因: プログラムを停止できるかどうかを示す、制御プログラムに戻されたメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00298 Navigator への要求: *string*

原因: Navigator に対する要求のログ・エントリです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00299 Navigator からの応答: *string*

原因: Navigator に対する要求のログ・エントリです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00300 *Interchange を使用禁止にしています: *string***

原因: Interchange を使用禁止にするログ・エントリです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00301 *Interchange を使用可能にしています: *string***

原因: 特定の Interchange を使用可能にするログ・エントリです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00302 Connection Manager: 不明な要求です。

原因: Interchange 制御プログラムから送信された要求が不明です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00303 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込みしました。

原因: パラメータ・データが読み込まれたことを示す、制御マネージャから制御プログラムに送信された要求です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00304 Connection Manager のステータス情報：

原因：Interchange からステータス要求のヘッダーとして戻されるメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00305 Navigator は無効な / 不明なトレース・レベルに直面しました。

原因：無効なトレース・レベルを示す、Navigator から戻されたメッセージです。

処置：正しいトレース・レベルで要求を再試行してください。

TNS-00306 Connection Manager は無効な / 不明なトレース・レベルに直面しました。

原因：無効なトレース・レベルを示す、Connection Manager から戻されたメッセージです。

処置：正しいトレース・レベルで要求を再試行してください。

TNS-00307 Navigator: パラメータ・データを再読み込みしました。

原因：パラメータ・データが読み込まれたことを示す、Navigator から制御プログラムに送信された要求です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00308 Navigator: パラメータ・データを再読み込み中、ログのオープンに失敗しました。

原因：パラメータ・データの再読み込み後、ログ・ファイルを再オープンできなかったことを示す、Navigator から制御プログラムに送信された要求です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00309 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込み中、ログのオープンに失敗。

原因：パラメータ・データの再読み込み後、ログ・ファイルを再オープンできなかったことを示す、Connection Manager から制御プログラムに送信された要求です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00310 Navigator: パラメータ・データを再読み込み後、トレースの開始に失敗しました。

原因：Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00311 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込み後、トレースの開始に失敗。

原因：Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00312 Connection Manager: バージョン情報の取得に失敗しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00313 Navigator: バージョン情報の取得に失敗しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00314 プロトコル・アダプタ・エラー: *number,number*

原因: メッセージ TNS-00233 とともに表示されるプロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00315 ポンプ・データ取得用の広範な接続データ領域の割当てに失敗しました: *number*

原因: ポンプの統計情報取得に十分な領域を割り当てられませんでした。領域を無視して、操作を続行します。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00316 ポンプのデータ・バッファを使い果たしました。

原因: ポンプにデータ・バッファが少なすぎるため、Interchange はリソースが制限されています。

処置: エラーが繰り返される場合（ログ・メッセージが多数ある場合）は、INTCHG.ORA のパラメータ PUMP_BUFFERS の値を増加して、ポンプ・バッファの数を増やしてください。その後、停止して Interchange を再起動し、変更を有効にしてください。

TNS-00317 Connection Manager とのコンタクトに失敗しました。

原因: Connection Manager が実行されていません。

処置: Connection Manager を起動して、再試行してください。

TNS-00501 メモリーの割当てができません。

原因: 要求されたアクティビティを稼働する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-00502 無効な引数です。

原因: 内部機能が無効パラメータを受信しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00503 不適当な ADDRESS パラメータです。

原因: プロトコル・アダプタのパラメータの無効な集合が指定されました。

処置: TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。トレースをオンにして、トレース・ファイルに指定されたアドレスを調べ、綴りまたはエラーを確認してください。完了したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00504 サポートされない操作です。

原因: 内部機能が、(このマシン上で) サポートされていない操作の実行要求を受信しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00505 操作タイムアウトです。

原因: 要求された操作は、タイムアウト期限内に完了できませんでした。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-00506 この操作を行うとカレント・プロセスがブロックされます。

原因: 内部操作がカレント・プロセスをブロックしているときに、ユーザーが操作の非ブロック化を要求したため、操作は開始されませんでした。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00507 接続をクローズしました。

原因: 標準のファイル終わり条件に達したため、パートナが切断されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00508 そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: この接続に要求されたプロトコル・アダプタは存在しません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、使用可能なプロトコル・アダプタを使用してください。正しいプロトコルが構成ファイルにリストされていることを確認してください。

TNS-00509 バッファが桁溢れしました。

原因: バッファに対してデータが多すぎます。

処置: より大きな受信バッファまたはより小さな送信バッファで、再実行してください。

TNS-00510 内部制限を超えました。

原因: 多数のファイルまたはソケットが同時にオープンしています（または、その他のリソースが使い果たされました）。

処置: 詳細は、操作をトレースしてプロトコルの詳細を参照してください。

TNS-00511 リスナーがありません。

原因: アプリケーションが指定されたアドレスでリスニングしていないか、またはアプリケーションが適切なタイミングで接続要求をサービスできないので、接続要求を完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーが使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイル（接続が Connection Manager を介している場合は、CMAN.ORA）を比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-00512 そのアドレスはすでに使用中です。

原因: 指定されたリスナー・アドレスがすでに使用されています。

処置: 未使用のアドレスでリスナーを起動してください。

TNS-00513 接続先ホストに到達できません。

原因: リモート・パーティと接続できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能し、ネットワークが稼働しているかどうかを確認してください。

TNS-00514 コンテキストの待機 / テスト関数が異なります。

原因: 2 つのプロトコル・アダプタに、矛盾する待機 / テスト関数があります。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00515 接続に失敗しました。ターゲット・ホストまたはオブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたアドレスが有効でないか、接続先のプログラムがありません。

処置: ADDRESS パラメータが正しく入力されていることを確認してください。ノード名のパラメータが正しくない可能性があります。サーバーの実行可能プログラムが存在しているかどうかを確認してください。「oracle」が欠落している可能性があります。

TNS-00516 許可されません。

原因: 権限が不足しているため、ユーザーが要求した操作を実行できません。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-00517 コンタクトがなくなりました。

原因: パートナが消失しました。

処置: 異常終了したパートナ・アプリケーションを調べてください。

TNS-00518 読み込みまたは書き込みが不完全です。

原因: データの受信または送信に失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00519 オペレーティング・システムのリソース割当て制限を超えました。

原因: 現行のユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超えました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを取得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-00520 構文エラーです。

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: 接続記述子の構文が正しいかどうかを確認してください。

TNS-00521 キーワードが欠落しています。

原因: 指定された接続記述子に1つ以上の TNS キーワードがありません。

処置: 構文を確認して、すべての必須キーワードが指定されているかどうかを確認してください。

TNS-00522 操作が中断されました。

原因: 内部操作が中断され、操作を完了できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00523 前の操作はビジーでした。

原因: 要求されたリソースがビジーであるため、試行された操作が正常に完了できませんでした。

処置: 操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00524 カレント操作が進行中です。

原因：内部操作が進行中ですが、まもなく終了します。

処置：処置は必要ありません。操作が終了するまで待ってください。

TNS-00525 操作するには権限が不十分です。

原因：ユーザーに十分な権限がないため、オペレーティング・システムが操作の完了に失敗しました。

処置：プラットフォーム固有の権限を確認してください。

TNS-00526 発呼者がいません（偽の非同期イベントです）。

原因：これは内部エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-00527 プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因：一部のプラットフォーム（OS/2 など）上では、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ（DLL）が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーが戻されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ（または DLL）の名前が記述されています。

TNS-00528 プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因：一部のプラットフォーム（OS/2 など）上では、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ（または DLL）がロードされていない場合に、このエラーが戻されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ（または DLL）の名前が記述されています。

TNS-00530 プロトコル・アダプタ・エラーです。

原因：一般的なプロトコル・アダプタ・エラーが発生しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-00532 以前から待機中の非同期操作はありません。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00533 接続が解除済みか、またはまだ接続されていません。

原因: 内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00534 接続所有権の子への権限付与に失敗しました。

原因: 内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00535 切断メッセージの送信または受信に失敗しました。

原因: 内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00536 不適切な状態で接続が登録されました。

原因: 内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00537 プロトコル・アダプタ表の索引は有効範囲を逸脱しています。

原因: 内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00539 ネットワークまたはプロトコル・サービスはダウンしています。

原因: ノードのネットワーク・サービスまたはノードからのネットワーク・サービスが実行されていないか、あるいは実行が停止されました。

処置: このプラットフォームで、ネットワークまたはプロトコル・サービスを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00540 SSL プロトコル・アダプタに障害があります。

原因: SSL プロトコル・アダプタでエラーが発生しました。

処置: ほとんどの場合、このエラーは、重要な ORA- エラーと対になっています。

TNS-00541 基礎となる移送がありません。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、データの移送に使用するプロトコルのアダプタの位置を識別できませんでした。

処置: ほとんどの場合、基礎となる移送は TCP です。Oracle Net TCP/IP アダプタがインストールされていることを確認してください。

TNS-00542 SSL ハンド・シェイクに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、他のプロセスに接続できませんでした。

処置: ピア・プロセスの終了を含む様々な問題が原因である可能性があります。Oracle Net トレースを使用可能にし、再接続してください。トレース・ファイルに、問題を特定する手がかりが含まれています。

TNS-00543 内部エラー

原因: SSL プロトコル・アダプタで予期しないエラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00544 サポートされない操作です。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、コマンドを実行できませんでした。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00545 パラメータの取出しに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、構成パラメータを取り出せませんでした。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00546 制御に失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、コマンドを実行できませんでした。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00547 ユーザー情報の取出しに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタが、リモート・ユーザーの情報を取り出せませんでした。

処置: エラーの詳細は、エラー・スタックの最初のエラーを参照してください。

TNS-00548 クライアント認証パラメータに指定した値はブールではありません。

原因: SSL クライアント認証パラメータに指定した値はブールではありません。

処置: パラメータに適切な値を指定してください。

TNS-00549 SSL バージョンに指定した値が無効です。

原因: SSL バージョンに指定した値が無効です。

処置: SSL バージョンに有効な値を指定してください。

TNS-00550 切断エラーです。

原因: 基礎となる移送の切断時に、SSL プロトコル・アダプタでエラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00551 基礎となる移送接続に失敗しました。

原因: SSL アダプタが使用する基礎となる移送アダプタが、接続に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にし、再接続してください。接続できなかった場合は、トレース・ファイルを参照して、原因を判断してください。

TNS-00552 無効な Cipher Suites が指定されました。

原因: 無効な SSL Cipher Suites が指定されました。

処置: 適切な Cipher Suites を指定してください。

TNS-00553 読み込みに失敗しました。

原因: SSL アダプタが、接続先からのデータの読み込みに失敗しました。

処置: 詳細は、sqlnet.log の内容を参照してください。Oracle Net トレースを使用可能にし、再接続してください。接続できなかった場合は、トレース・ファイルを参照して、原因を判断してください。

TNS-00554 書き込みに失敗しました。

原因: SSL アダプタが、接続先へのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 詳細は、sqlnet.log の内容を参照してください。Oracle Net トレースを使用可能にし、再接続してください。接続できなかった場合は、トレース・ファイルを参照して、原因を判断してください。

TNS-00555 Wallet リソース・ロケータにディレクトリが指定されていません。

原因: Wallet の取出しに使用されるファイルが指定されましたが、Wallet のディレクトリが指定されていません。

処置: Wallet が存在するディレクトリを指定してください。

TNS-00556 Wallet の取出しにメソッドが指定されていません。

原因: Wallet のリソース・ロケータが指定されましたが、Wallet の取出しにメソッドが指定されていません。

処置: Wallet の取出しに使用するメソッドを指定してください。

TNS-00557 Wallet の検索メソッドはサポートされていません。

原因: Wallet の検索に指定したメソッドは、サポートされていません。現在、Wallet の検索にはファイルのみがサポートされています。

処置: Wallet の検索メソッドには、「FILE」を指定してください。

TNS-00558 委任ログインに失敗しました。

原因: 委任で指定したユーザー名、パスワードまたはプロファイル名（あるいはそのすべて）の認証に失敗しました。

処置: 正しいユーザー名、パスワードまたはプロファイル名を指定してください。データがプロンプトに表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00559 委任証明書のロードに失敗しました。

原因: 指定された委任証明書を検証しようとしてエラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00560 委任証明書からの名前の抽出に失敗しました。

原因: 委任証明書から名前を抽出しようとしてエラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。Oracle Net トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01000 spawn [*listener_name*] spawn_alias [(ARGUMENTS='arg0, arg1,...')]

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01001 start [*listener_name*] : start listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01002 stop [*listener_name*] : stop listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01003 status [*listener_name*] : get the status of listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01004 reload [*listener_name*] : reload the parameter files and SIDs

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01005 trace OFF | USER | ADMIN | SUPPORT [*listener_name*] : set tracing to the specified level

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01006 set password : set the password for subsequent calls

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01007 quit | exit : exit LSNRCTL

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01008 version [*listener_name*] : get the version information of the listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01009 service [*listener_name*] : get the service information of the listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01013 set | show trc_ [*value*] : set | show trace parameters of current listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01014 set | show log_ [*value*] : set | show log parameters of current listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01015 set | show parm_name [*value*] : sets | shows current listener parm values

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01016 change_password [listener_name]: changes the password of the listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01017 set | show current_listener [listener_name]: sets | shows current listener

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01018 save_config [listener_name]: saves configuration changes to parameter file

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01019 set rawmode ON | OFF: set output mode for services and status commands

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01020 リスナーのステータス

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01021 -----

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01022 別名 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01023 バージョン *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01024 トレース・レベル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01025 セキュリティ *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01026 開始日 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01027 トレース・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01028 ログ・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01029 サービスのサマリー ...

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01030 リスナーはサービスをサポートしていません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01033 パラメータ・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01034 アップ時間 *number* 日 *number* 時 *number* 分 *number* 秒

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01036 *string* 確立 :*string* 拒否 :*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01037 "*string*" 確立 :*string* 拒否 :*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01038 *string* 確立 :*string* 拒否 :*string* カレント :*string* 最大 :*string* 状態 :*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01039 *string* には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01040 SNMP *string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01041 *string* - パラメータ "*string*" を *string* に設定しました。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01042 カレント・リスナーは、*string* です。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01043 *string* のパスワードが変更されました。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01044 *string* (登録済み) には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01045 *string* (未登録) には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01046 *string* 個の構成パラメータを保存しました。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01047 旧パラメータ・ファイル *string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01048 *string* に対して保存すべき変更はありません。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01049 *string* (*string*) には、*string* サービス・ハンドラがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01050 *string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01052 コマンドは正常に終了しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01053 *string* に接続中

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01054 リスナーに正常にコンタクトされました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01055 リスナーを正常に停止しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01057 プログラム名 : *string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01058 引数 : *string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01059 環境 : *string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01060 パスワードはすでに設定されています : *string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01061 パスワードは設定されていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01062 データベース・サブエージェントはすでに実行されています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01063 データベース・サブエージェントは起動されていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01064 リスナー構成の変更は永続的ではありません。

原因：チェック・ポイントが LISTENER.ORA でオフにされた状態でリスナーが再起動すると、リスナーへの構成変更は表示されません。

処置：LISTENER.ORA を編集し、USE_CKPFIL_LISTENER=true を設定してください。

TNS-01065 ロー・モードは *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01066 プレゼンテーション: *string*

原因：リスナー開始メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01067 サービス表示モードは *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01070 *string* を起動しています。お待ちください ...

原因：リスナー開始メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01071 *string* は、*string* に設定されました。

原因：リスナー開始メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01072 *string* で起動しました。

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01073 リスニングしています: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01074 リスニング・エラーです: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01075 ログ・ファイルがオープンされました: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01076 トレース・ファイルがオープンされました: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01077 パラメータ・ファイルがオープンされました: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01078 名前参照ファイルがオープンされました: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01079 配分が試行されました: *string*

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01080 リスナーが起動に失敗しました。前述のエラー・メッセージを参照してください

...

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01081 pid=*string* で起動しました

原因: リスナー開始メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01090 リスニングしていません: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01093 *string* * *string* * *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01094 *string* * *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01095 *string* * *string* * *string* * *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01096 *string* * *string* * *string* * *string* * *string* * *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

**TNS-01097 TIMESTAMP * CONNECT DATA [* PROTOCOL INFO] * EVENT [* SID] *
RETURN CODE**

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

**TNS-01098 TIMESTAMP * CONNECT DATA * ADDRESS * [PRESENTATION *]
COMMAND * ERRORTIMESTAMP * [INSTANCE NAME *] [ADDRESS *]
[PRESENTATION *] COMMAND * ERROR**

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01099 *string * string * string * string * string * string * string * string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01100 リスナーの起動を試行中に、TNS によってエラー *number* が戻されました。

原因: LSNRCTL がリスナーの起動に使用する Bequeath (BEQ) メカニズムに、失敗しました。

処置: BEQ ドライバがインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合、戻される NSERROR コードは 12538 (NSENODRIVER) です。これを修正するには、Oracle Net を再インストールし、インストール時に、BEQ ドライバが選択されていることを確認してください。これが問題でない場合は、実行可能 TNSLSNR が、プラットフォームの ORACLE 環境に必要な場所に見つからないことが原因です。LSNRCTL によって表示される実行可能 TNSLSNR のフル・パス名が正しいことを確認してください。

TNS-01101 サービス名 *string* が見つかりません。

原因: サービス名が名前参照で解決できませんでした。

処置: LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名が、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA で定義された正しい名前およびアドレスであることを確認してください。

TNS-01102 コンタクトした TNS アプリケーションは、リスナーではありません。

原因: 別の TNS アプリケーション (Interchange など) がコンタクトされたアドレスでリスニングしています。コンタクトされたアドレスで別の TNS アプリケーションがリスニングし、戻されたデータ形式が適切でない可能性があります。

処置: LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名が、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA で定義された正しい名前およびアドレスであることを確認してください。

TNS-01103 プロトコル固有のコンポーネント・アドレスが正しく指定されていません。

原因: リスナーとのコンタクトに使用された ADDRESS が、正しく指定されていません。このエラーは、アドレスがリスナーの接続先の指定に失敗するために発生します。アドレスの形式は正しいのですが (たとえば、カッコが欠落していない)、プロトコル固有のコンポーネントがありません。たとえば、これは、HOST コンポーネントが TCP/IP アドレス文字列から欠落している場合に発生するエラーです。

処置: LISTENER.ORA の ADDRESS を編集して、要求されたプロトコル固有のキーワードを含めてください。異なるプロトコル・アダプタに要求されたキーワードに関する情報については、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-01106 リスナー名 *string* を使用するリスナーは、すでに起動されています。

原因: 別のリスナーが、指定された ADDRESS の 1 つですでにリスニングしています。

処置: このリスナーを起動する前に、そのリスナー名で指定された前のリスナーを停止してください。

TNS-01107 有効なトレース・レベルが指定されませんでした。

原因: LSNRCTL トレース・コマンドへの有効なトレース・レベルの指定に失敗しました。

処置: OFF、USER、ADMIN または SUPPORT のいずれかを指定してください。詳細は、「LSNRCTL help trace」と入力してください。

TNS-01108 リスナー・パスワードの指示に失敗しました。

原因: パスワードが TTY を介して入力されていません。

処置: リスナー・パスワードを TTY デバイスに入力してください。

TNS-01109 リスナー・パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 不明瞭なパスワードが入力された可能性があります。

処置: 有効な ASCII 文字を使用して、リスナー・パスワードを再入力してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01110 不適当 - パスワードは変更されていません。

原因: 新しいパスワードと再入力されたパスワードが異なります。

処置: リスナー・パスワードを再入力して、新しいパスワードと再入力された新しいパスワードが同じであることを確認してください。

TNS-01111 ログ・ステータスは、ON または OFF のどちらかです。

原因: LSNRCTL log_status コマンドへのログ・ステータスの指定に失敗しました。

処置: ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細は、「LSNRCTL help set log_status」と入力してください。

TNS-01112 「プラグおよび再生」は ON または OFF のどちらかです。

原因: LSNRCTL use_plugandplay コマンドへの有効な値の指定に失敗しました。

処置: ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細は、「LSNRCTL help set use_plugandplay」と入力してください。

TNS-01113 save_config_on_stop は ON または OFF のどちらかです。

原因: LSNRCTL save_config_on_stop コマンドへの有効な値の指定に失敗しました。

処置: ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細は、「LSNRCTL help set save_config_on_stop」と入力してください。

TNS-01150 指定されたリスナー名のアドレスが正しくありません。

原因: リスナーがリスニングしようとしたアドレスには、構文エラーがあります。

処置: LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名のアドレスまたは接続記述子の形式が正しいことを確認してください。リスナー名は LISTENER.ORA にあります。また、サービス名 TNSNAMES.ORA を使用してリスナーにアクセスできます。

TNS-01151 LISTENER.ORA にリスナー名 *string* はありません。

原因: リスナーが、指定されたリスナー名を見つけられませんでした。

処置: リスニングする有効なアドレスが、LISTENER.ORA でリスナー名に指定されていることを確認してください。

TNS-01152 リスナー名 *string* に指定されたアドレスではすべて失敗しました。

原因: リスナーは指定されたアドレスでのリスニングに失敗しました。

処置: 別のアプリケーションが指定されたアドレスでリスニングしていないこと、または適切なプロトコル・アダプタがインストールされていることを確認してください。詳細は、トレースをオンにして再実行してください。

TNS-01154 サポートされない旧式の SID が検出されました。

原因: SID の 1 つが廃止された形式で指定されました。

処置: 次の形式の行の LISTENER.ORA を確認してください。

```
sid = (SID=(ORACLE_HOME=oracle_home))
```

または

```
sid = (SID_DESC=(ORACLE_HOME=oracle_home))
```

この形式はサポートされていません。『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』に記述されている SID_LIST_listener_name 形式を使用してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER =  
(SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (ORACLE_HOME=oracle_home)))
```

TNS-01155 LISTENER.ORA に指定された SID_LIST_string パラメータが正しくありません。

原因: LISTENER.ORA の SID_LIST_listener_name にエラーがあります。

処置: このパラメータが、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』で記述されているように指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER =  
(SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (ORACLE_HOME=oracle_home)))
```

TNS-01156 PRESPAWN_DESC の PROTOCOL または TIMEOUT、POOL_SIZE パラメータが欠落 / 不適切。

原因: 各 SID_DESC の PRESPAWN_DESC が、要求されたフィールドを持っていません。

処置: PRESPAWN_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER =  
(SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_MAX=5) (ORACLE_HOME=oracle_home) (  
PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcps) (POOL_SIZE=10) (TIMEOUT=30))))
```

LISTENER.ORA ファイルで、これらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01157 アドレス *number* だけでリスニングできます - *string* は無視されます。

原因: リスニングに指定されたアドレスが多すぎます。

処置: リスニングするアドレス数を減らし、残ったアドレスを別のリスナーを使用してリスニングしてください。

TNS-01158 内部的な接続制限に達しました。ディスパッチャにより接続が防止されています。

原因: 内部 SQL*Net 接続リストが一杯です。リスナーに接続されているディスパッチャが多すぎます。そのため、これ以上ディスパッチャを接続できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01159 内部的な接続制限にすでに達しています。リスナーは停止されました。

原因: 内部 SQL*Net 接続リストが一杯です。リスナーが多くの SQL*Net 接続に使用されるように構成されています。

処置: リスナーに接続されたリスニング・アドレスまたはサービスの数を減らしてください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01167 コマンド *string* はコンタクトしているリスナーではサポートされません。

原因: リスナーはコマンドを認識しません。

処置: LSNRCTL の新しいバージョンが旧リスナーとコンタクトするときに、このエラーが発生します。このコマンドを実行する必要がある場合は、リスナーをアップグレードしてください。

TNS-01168 メモリーの割当てができません。

原因: 要求されたアクティビティを稼働する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-01169 リスナーでパスワードは認識されません。

原因: リスナーのセキュリティ機能によって、意図した操作が防止されています。

処置: リスナーの停止のようなコマンドは、データベース管理者によってのみ実行される必要があります。クライアントは、リスナーのステータスおよびリスナー・ソフトウェアのバージョンを取得するためのみに LSNRCTL を使用できます。クライアントが試行したコマンドが適切でない可能性があります。データベース管理者がコマンドを試行している場合は、LSNRCTL プロンプトから、LISTENER.ORA の `PASSWORDS_listener_name` エントリの適切なパスワードの 1 つとともに `set password` コマンドを使用してください。パスワードがわからない場合は、不適切なコマンドの実行を試行していることになります。

TNS-01170 アドレス: *string* のイベント検出は中止されました。

原因: 指定されたアドレスのイベント検出メカニズムから、エラーが戻されました。

処置: 今後、このアドレスでイベントを検出しようとしても失敗します。リスナーは、このリスニング・アドレスの割当てを解除し、このアドレスではもう接続を受け入れられません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01171 ディスパッチャ: *string* のイベント検出は中止されました。

原因: 指定されたディスパッチャのイベント検出メカニズムから、エラーが戻されました。

処置: 今後、このディスパッチャでイベントを検出しようとしても失敗します。リスナーはディスパッチャの割当てを解除し、接続はこのディスパッチャにはリダイレクトされません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01172 全リスニング・アドレスが割当て解除され、リスナーは停止済みです。

原因: イベント検出メカニズムが中止されたので、その結果、全リスニング・アドレスが削除されました。

処置: エラー TNS-01170 が発生し、全リスニング・アドレスの割当てが解除されました。全リスニング・アドレスが削除されたので、このリスナーにはこれ以上接続が確立されないため停止します。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01173 SID_DESC の PRESPAWN_MAX パラメータが欠落または不適切です。

原因: 各 SID_DESC の PRESPAWN_MAX が、要求されたフィールドを持っていません。

処置: SID_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER =  
(SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_MAX=15) (ORACLE_HOME=oracle_home)  
(PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcp) (POOL_SIZE=10) (TIMEOUT=30))))
```

LISTENER.ORA ファイルで、これらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01174 各 PRESPAWN_DESC の POOL_SIZE 合計が PRESPAWN_MAX を超過しています。

原因: PRESPAWN_MAX の最小値は、POOL_SIZE 合計である必要があります。

処置: PRESPAWN_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER =  
(SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_MAX=15) (ORACLE_HOME=oracle_home)  
(PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcp) (POOL_SIZE=10) (TIMEOUT=30))  
(PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=ipc) (POOL_SIZE=5) (TIMEOUT=15))))
```

LISTENER.ORA ファイルで、これらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01175 パスワードが変更されませんでした。

原因: 新しいパスワードを設定できません。

処置: 新しいパスワードの ASCII 文字が有効であることを確認してください。パスワードの設定を再試行してください。

TNS-01176 新規パラメータ値をロード中にエラーが発生しました。

原因: パラメータに無効な値が指定されました。

処置: パラメータ値が有効であることを確認してください。パラメータの有効な値については、ドキュメントを参照してください。

TNS-01177 ログ・ステータスは OFF。ログ・ファイル/ディレクトリは変更されていません。

原因: ログ・ファイルを変更するには、ログ・ステータスを ON に設定する必要があります。

処置: コマンド・セット log_status ON を使用して、リスナーのログ・ステータスを ON に設定してください。

TNS-01178 トレース・レベルはゼロ (0)。トレース・ファイル/ディレクトリは未変更です。

原因: トレース・ファイル / ディレクトリを変更するには、トレース・レベルを設定する必要があります。

処置: コマンド・セット `trc_level ON` を使用して、トレース・レベルを設定してください。

TNS-01179 インスタンス・クラス "*string*" をリスナーがロードできません。

原因: インスタンスが、リスナーに使用できないクラスを登録しようとした。

処置: `LISTENER.ORA` またはインスタンス構成、およびプラットフォーム固有のドキュメントを参照し、このプラットフォームのリスナーに使用可能なインスタンス・クラスを確認してください。

TNS-01180 ディレクトリ・サーバーでリスナー・オブジェクト *string* が欠落しています。

原因: リスナーが、指定されたリスナー・オブジェクトを見つけられませんでした。

処置: リスナー・オブジェクトがディレクトリ・サーバーにあることを確認してください。

TNS-01200 リスナーは `suid` ルートでなくてはなりません。

原因: 実行可能 `TNSLSNR` の所有者権限が不正です。

処置: データベース管理者またはシステム管理者に連絡し、ファイルの所有者を `SUID` ルートに変更して、リスナーを再起動してください。プロセスを開始したユーザーが所有者を要求するので、この処置が必要になります。

TNS-01201 リスナーでは、実行可能な *string* (`SID string`) を検索できません。

原因: 実行可能な Oracle 専用サーバー・プロセスが見つかりませんでした。

処置: `LISTENER.ORA` の適切な `SID_DESC` を調べて、`ORACLE_HOME` コンポーネントが有効な位置にポイントしていることを確認してください。このコンポーネントが設定されていない場合は、環境変数 `ORACLE_HOME` の値を確認してください。

TNS-01202 `SID_DESC` の `DBA_GROUP` で指定される DBA グループ (*string*) がありません。

原因: 指定された DBA グループが `/etc/group` から欠落しています。

処置: `LISTENER.ORA` の `SID_DESC` で `DBA_GROUP` パラメータを確認し、このパラメータが `/etc/group` で有効なエントリを持っていることを確認してください。

TNS-01203 SID_DESC の DEFAULT_USER_ACCOUNT で指定されるアカウント (*string*) がありません。

原因：非特権オペレーティング・システム・アカウントが /etc/passwd から欠落しています。

処置：LISTENER.ORA の SID_DESC で DEFAULT_USER_ACCOUNT に設定されているパラメータを確認し、このパラメータが /etc/passwd で有効なエントリを持っていることを確認してください。これは、接続するクライアントにデータベース権限があるか、またはこのマシンに存在しない場合に、Oracle シャドウ・プロセスが起動に使用するアカウントです。

TNS-01204 非特権アカウント (*string*) は、DBA グループ (*string*) にあります。

原因：非特権アカウントに DBA 権限があります。LISTENER.ORA の SID_DESC の DEFAULT_USER_ACCOUNT で指定される非特権アカウントは、SID_DESC で DBA_GROUP で指定される DBA グループのメンバーです。OPS\$ ログインのセキュリティ違反のため、非特権アカウントは DBA グループに所属できません。

処置：非特権アカウントを DBA グループから削除してください。

TNS-01300 *string* でエラーが発生しました。

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01301 TNS エラーです。構造体：

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01302 nr エラー・コード: *number*

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01303 ns メイン・エラー・コード: *number*

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01304 ns 二次エラー・コード: *number*

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01305 nt メイン・エラー・コード: *number*

原因：リスナー・ロギング・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01306 nt 二次エラー・コード: *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01307 nt OS エラー・コード: *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01400 インスタンス "string" には *number* 個のハンドラがあります。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01401 クラス: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01402 TYPE: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01403 ロード: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01404 最大ロード: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01405 ホスト: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01406 ID: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01407 状態: *string* **合計ハンドラ:** *string* **関連ハンドラ:** *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01408 インスタンス "*string*"、状態 *string* には、このサービスに対する *string* 件のハンドラがあります ...

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01409 インスタンス "*string*"

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01410 サービス "*string*" には *number* 個のインスタンスがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01411 サービス "*string*" には、*number* 件のインスタンスがあります。

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01412 ハンドラ：

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01413 "*string*" 確立 *:string* 拒否 *:string* カレント *:string* 最大 *:string* 状態 *:string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01414 "*string*"、状態 *string*、確立 *string*、拒否 *string*、カレント *string*、最大 *string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01415 エンドポイント・サマリーをリスニングしています ...

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01416 プロセス ID *string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01420 プレゼンテーション：*string*

原因：制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-01421 セッション: *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-02020 set displaymode RAW | COMPAT | NORMAL | VERBOSE: output mode for lsnrctl display

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-02021 DIRECT_HANDOFF can be either ON or OFF.

原因: LSNRCTL DIRECT_HANDOFF パラメータの値が無効です。

処置: ON または OFF を指定してください。

TNS-02401 gdbname *string* が長すぎます。 *number* 文字までです。

原因: GBNAME またはドメイン名が長すぎます。

処置: LISTENER.ORA の GBNAME パラメータを確認して、短くしてください。

TNS-02402 TNSNAMES.ORA の CLBGNAME パラメータが不正です。

原因: TNSNAMES.ORA の CLBGNAME パラメータが不正です。

処置: CLBGNAME のパラメータ書式を調べて修正してください。TNSNAMES.ORA ファイルがあることを確認してください。

TNS-02403 TNSNAMES.ORA に、別名 *string* が不正、または別名が提示されていません。

原因: TNSNAMES.ORA に必要な別名が見つかりません。または、正しい書式ではありません。

処置: TNSNAMES.ORA の別名を調べ、正しい書式であることを確認してください。

TNS-02404 サービス *string* に、ローカル・ハンドラは含まれていません。

原因: リスナーはリダイレクトに適したハンドラを見つけることができませんでした。

処置: このノードに、ハンドラが 1 つ以上あることを確認してください。

TNS-02405 GMS コールに失敗しました。GMS ログをチェックしてください。

原因: リスナーによる GMS コールが失敗しました。

処置: GMS が起動していることを確認してください。詳細は、GMS クライアント・トレース・ファイルを参照してください。

TNS-02501 認証: ロールがありません

原因: プロセスが認証サービスからロールを取り出そうとしましたが、使用可能なロールはありません。

処置: 処置は必要ありません。このエラーは内部で使用され、イベントの通常の進行中に表示されます。

TNS-02502 認証: 初期化関数が見つかりません

原因: 指定されたサービスの初期化関数が存在しないため、ネイティブ認証サービスはそれをコールできませんでした。

処置: このサービス・アダプタが Oracle 製品のサービスである場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください（これは発生してはならないエラーです）。そうでない場合は、使用されるサービスの初期化関数を追加してください。

TNS-02503 パラメータの取出しに失敗しました

原因: ネイティブ・サービス・レイヤーが、構成ファイルからパラメータを取り出せませんでした。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02504 パラメータ件数の取出しに失敗しました

原因: ネイティブ・サービス・レイヤーが、構成パラメータに指定された引数の数を判断できませんでした。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02505 認証: NULL コンテキスト・ポインタが指定されました

原因: `NAU_INI()` 関数に使用するコンテキストへのポインタとして NULL ポインタが渡されました。

処置: `NAU_INI()` に、コンテキスト構造体へのポインタを指定してコールしてください。

TNS-02506 認証: 型文字列がありません

原因: 認証コンテキスト構造体には、使用されている認証サービスを記述する文字列がありません。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02507 暗号化: アルゴリズムがインストールされていません

原因: アルゴリズムを選択した後、サーバーはアルゴリズム表でその索引を見つけられませんでした。アルゴリズムは（間接的に）そのリストから選択されたものなので、このエラーが発生することはありません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02508 暗号化: サーバー・ネゴシエーションの応答エラーです

原因: ネゴシエーション中のサーバーの応答にエラーが発生しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02509 認証: 無効なプロセス状態です

原因: 実行中のプロセスの状態が、有効な値のいずれとも一致しません。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02510 無効な数値データ型です

原因: 受け取られた数値データ型が、有効な値の数値データ型と一致しません。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02511 無効なデータ型です

原因: 受け取られたデータ型または送信されるデータ型が、正しい値のいずれとも一致しません。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02512 無効なステータスを受信しました

原因: プロセスが、不明なステータス・フラグの値を受け取りました。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02513 要求したデータ型が取り出した型と一致しません

原因: サービスが、その他のプロセスから送信されたセグメントの型と一致しない型のデータを要求しました。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02514 無効なパケットを受信しました

原因: プロセスが、ネイティブ・サービス・レイヤーが受け取るものではないデータ・パケットを受け取りました。

処置: 可能な場合、トレースを使用可能にし、問題を再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02515 暗号化 / 暗号チェックサム : コントロール・タイプが不明です

原因: 暗号化または暗号チェックサム・アルゴリズム control 関数がコールされましたが、それに指定された type 引数を認識しませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02516 使用可能なデータがありません

原因: ネイティブ・サービスがデータを取り出そうとしましたが、受取り可能なデータがありませんでした。

処置: 通常、このエラーは、データ・ストリームの終了の通知に使用されるため、ユーザーには表示されません。エラーが表示される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02517 要求したサイズより小さいサイズのキーです

原因: ネゴシエーションによって戻されたキーが、(暗号化または暗号チェックサムの) サービスで要求されたサイズより小さくなっています。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。エラーが繰り返される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02518 キー・ネゴシエーション・エラーが発生しました

原因: 接続の両側が暗号化または暗号チェックサム・キーをネゴシエーションしているときに、エラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。エラーが繰り返される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02519 適切なキー・ネゴシエーション・パラメータがありません

原因: 暗号化または暗号チェックサムのいずれかで要求されたキー・サイズに使用できる適切なキー・ネゴシエーション・パラメータがありません。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にして問題を再現し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02520 暗号化 / 暗号チェックサム : Diffie-Hellman シードがありません

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルに、sqlnet.crypto_seed パラメータがありません。

処置: 次の行を SQLNET.ORA に追加してください。

```
sqlnet.crypto_seed = "randomly-chosen text"
```

TNS-02521 暗号化 / 暗号チェックサム : Diffie-Hellman シードが小さすぎます

原因 : SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルの sqlnet.crypto_seed パラメータが小さすぎます。

処置 : パラメータに無作為選択テキストをさらに追加してください。

TNS-02524 認証 : 権限チェックに失敗しました

原因 : SQL*Net 認証サービスが、ユーザーに特定のデータベース権限があることを検証しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置 : 通常、このエラーは発生しません。トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02525 暗号化 / 暗号チェックサム : セルフ・テストに失敗しました

原因 : アクティブな暗号化またはチェックサム・アルゴリズムのテストの実行中に、ANO 暗号化 / 暗号チェックサム・サービスがエラーを検出しました。

処置 : オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02526 サーバー・プロキシの型がクライアント型と一致しません

原因 : サーバーで選択された認証の型が、クライアントで選択された型と一致しません。

処置 : オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-03501 OK

原因 : 操作が正しく完了しました。

処置 : 処置は必要ありません。

TNS-03502 引数が足りません。使用方法 : tnsping address [count]

原因 : 必要なコマンドライン引数が不足しています。

処置 : 正しい引数を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03503 NL を初期化できません。

原因 : ネットワーク・ライブラリを初期化できませんでした。通常、これは表示されない内部エラーです。

処置 : アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確認し、コマンドを再実行してください。

TNS-03504 サービス名が長すぎます。

原因 : ping しようとしているサービス名が長すぎます。

処置 : 正しいサービス名を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03505 名前の決定に失敗しました。

原因：入力したサービス名が、TNSNAMES.ORA、Oracle Names Server またはネーティブ・ネーミング・サービスで見つかりませんでした。

処置：サービス名を正しく入力したことを確認してください。名前はネットワーク構成に正しく入力されている必要があります。

TNS-03506 アドレス・バインディングの作成に失敗しました。

原因：TNSPING ユーティリティが要求されたアドレスまたはサービス名を見つけましたが、使用時に、内部エラーを受け取りました。通常、これは表示されない内部エラーです。

処置：アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確認し、コマンドを再実行してください。

TNS-03507 ADDRESS キーワードの検索に失敗しました。

原因：TNS アドレスに ADDRESS キーワードがありませんでした。

処置：TNS アドレスをコマンドラインに入力した場合は、構文が正しいことを確認してください。サービス名をコマンドラインに入力した場合は、アドレスは誤った情報を含んでいます。情報が正しく入力されたことを確認してください。

TNS-03508 アドレス文字列の作成に失敗しました。

原因：アドレスの生成中に、TNSPING ユーティリティが内部エラーを受け取りました。通常、これは表示されない内部エラーです。

処置：アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確認し、コマンドを再実行してください。

TNS-03509 OK (*number* ミリ秒)

原因：操作が時間内に正常に完了しました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-03510 I/O エラーで失敗しました。

原因：リソース不足またはウィンドウの終了が早すぎたため、I/O 操作に失敗しました。通常、これは表示されない内部エラーです。

処置：I/O 操作が完了してから、TNSPING ウィンドウをクローズしてください。

TNS-03511 パラメータ・ファイルを使用しました :string

原因：名前の解決処理で使用するパラメータ・ファイル (sqlnet.ora、tnsnames.ora) のパスが表示されます。

TNS-03512 エイリアスを解決するために *string* アダプタを使用しました。

原因: TNS エイリアスを解決するアダプタ名が表示されます。

TNS-03601 ルート情報の収集に失敗しました。

原因: ルートが接続できなかったか、または SQL*Net のサポートされていないバージョンを検出しました。

処置: すべてのノードの SQL*Net が、バージョン 2.3 以上であることを確認してください。

TNS-03602 引数が足りません。使用方法: *trcroute address*

原因: 必要なコマンドライン引数が不足しています。

処置: 正しい引数を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03603 SQL*Net の 2.3 以前のバージョンのノードに直面しました。

原因: バージョン 2.3 より前のすべての SQL*Net は TRCROUTE をサポートしていません。

処置: TRCROUTE に応答していないノードを検索してください。

TNS-04001 CMCTL: 端末からコマンド行を取得中にエラーが発生しました。

原因: 端末からの標準入力接続が不正です。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04002 CMCTL: Connection Manager を起動中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager を起動できませんでした。

処置: Connection Manager 構成ファイルを参照してエラーを見つけ、別のプログラムが指定された ADDRESS を使用していないことを確認してください。エラーが繰り返される場合は、Connection Manager でトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を確認してください。問題が解決した後、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-04003 CMCTL: Connection Manager に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: 不正なコマンドが Connection Manager に送信されたか、または Connection Manager が応答していません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: Connection Manager に送信されたコマンドが有効であることを確認してください。CMCTL STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることも確認してください。必要に応じて、CMCTL START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。

TNS-04004 CMCTL: Connection Manager Admin を起動中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager Admin を起動できませんでした。

処置: 実行可能な Connection Manager Admin (CMADMIN) が、Oracle ホーム・ディレクトリに存在することを確認してください。エラーが繰り返される場合は、Connection Manager Admin のトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を確認してください。問題が解決した後、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-04005 CMCTL: Connection Manager Admin に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager Admin が応答していないか、実行されていません。

処置: CMCTL STATUS コマンドを使用して、Connection Manager Admin が実行中であることを確認してください。必要に応じて、CMCTL START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。

TNS-04006 CMCTL: ホスト変数が定義されていません。

原因: ホスト変数が設定されませんでした。

処置: ホスト変数を正しく設定し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04007 CMCTL: 不明なホストです。

原因: ポインタ・ホストに不明なホスト名が設定されています。

処置: ポインタ・ホストを正しく設定し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04008 CMCTL: Connection Manager にコンタクトできませんでした。

原因: Connection Manager への接続が正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager が実行されていない可能性があります。

処置: STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04009 CMCTL: Connection Manager Admin にコンタクトできませんでした。

原因: Connection Manager Admin への接続が正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager Admin が実行されていない可能性があります。

処置: STATUS コマンドを使用して、Connection Manager Admin が実行中であることを確認してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04010 NS コンテキストをフラッシュ中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: 接続が正しく確立されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04011 CMCTL: NS 切断コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続のクローズ中に、エラーが発生しました。

処置: 使用するネットワーク・プロトコルが、マシンに正しくインストールされていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04012 CMCTL: 端末入力チャネルをオープン中にエラーが発生しました。

原因: 標準端末入力をオープンできませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04013 CMCTL: 端末入力チャネルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: 端末入力チャネルをクローズできませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04014 CMCTL: NS 送信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04015 CMCTL: NS 受信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04016 CMCTL: 各国語インタフェースの初期化でエラーが発生しました。

原因: メッセージ・ファイルが見つかりませんでした。

処置: Oracle 環境が設定され、メッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

TNS-04017 CMCTL: CMAN.ORA で Connection Manager データが欠落しています。

原因: CMAN.ORA に Connection Manager データがありません。

処置: Connection Manager に正しいデータを定義し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04018 CMCTL: cman.ora で Connection Manager 名 : *string* が欠落しています。

原因: CMAN.ORA に CMANAGER_NAME コンポーネントがありません。

処置: CMANAGER_NAME に名前を定義し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04019 CMCTL: config ファイルでアドレスが欠落しています。

原因: 構成ファイルに ADDRESS/ADDRESS_LIST コンポーネントがありません。

処置: CMAN.ORA ファイルに Connection Manager の ADDRESS を定義して、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04020 CMCTL: Connection Manager Admin にコンタクトできません。

原因: Connection Manager Admin が実行されていません。

処置: Connection Manager Admin でステータス要求を実施して、Connection Manager Admin が実行中であることを確認してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。

TNS-04021 CMCTL: ORACLE 環境が正しく設定されていません。

原因: Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置: Oracle 環境の設定方法については、プラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。修正して、CMCTL を再実行してください。Oracle 環境に、正しいディレクトリが含まれていることを確認してください。

TNS-04022 CMCTL: Connection Manager 名 / アドレスを解決できませんでした。

原因: アドレス定義に対する Connection Manager 名がありません。

処置: TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、指定された名前の定義が含まれていることを確認してください。

TNS-04023 CMCTL: Connection Manager Admin 名 / アドレスを解決できませんでした。

原因: アドレス定義に対する Connection Manager Admin 名がありません。

処置: TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、指定された名前の定義が含まれていることを確認してください。

TNS-04031 CMCTL: 内部 NT エラーです。

原因: インストールされたプロトコル・アダプタへのインタフェースで、問題が発生しました。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。CMCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04032 CMCTL: 内部 NS エラーです。

原因: TNS に問題が発生しました。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。CMCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04033 CMCTL: 内部 NL エラーです。

原因: 内部 TNS モジュール NL の問題です。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。CMCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04034 CMCTL: 内部 NFP エラーです。

原因: 内部 Connection Manager に問題が発生しました。

処置: 通常、ユーザーには表示されません。CMCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品が正しくインストールされているか確認してください。製品のインストールに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04035 CMCTL: 全ファイル名を組立て中にエラーが発生しました。

原因: ファイルのパス名または環境変数が不正なため、ファイル名のフルパスを作成中に問題が発生しました。該当するファイルは、CMAN.ORA および Connection Manager と Connection Manager Admin のエラー・ファイルです。

処置: すべての環境変数が正しく定義され、すべての構成ファイルが正しい場所に存在することを確認してください。

TNS-04036 CMCTL: Connection Manager エラー・ファイルからの読み込みエラーです。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin が起動に失敗したときに生成したエラー・ファイルを読み込むときに、問題が発生しました。

処置: 標準ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリのすべての権限が適切であることを確認してください。

TNS-04037 CMCTL: Connection Manager エラー・ファイルのオープン・エラーです。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin が起動に失敗したときのエラー・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリのすべての権限が適切であることを確認してください。

TNS-04038 CMCTL: アドレスまたはコマンド文字列の形式が不完全です。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin のいずれかにメッセージを送信しようとして、受け入れられない文字列が検出されました。Connection Manager または Connection Manager Admin のいずれかに指定されたアドレスが、正しく作成されていない可能性があります。

処置: 構成ファイル (TNSNAMES.ORA) のアドレス文字列をすべて調べ、形式が正しいことを確認してください。これらのすべてに問題がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04039 CMCTL: 処理を生成中にエラーが発生しました。

原因: 内部オペレーティング・システム依存の問題のため、処理を生成中にエラーが検出されました。マシン・リソースが制限されている可能性があります。

処置: コマンドを再実行してください。実行可能な Connection Manager (CMADMIN、CMGW) の許可、および検索パスの現行の設定を確認してください。必要に応じて、その他のアプリケーションを終了して、マシン・リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04040 CMCTL: トレース・コンテキストの初期化に失敗しました - それでも継続します。

原因: CMAN.ORA のエラーのため、ユーザーの権限が不正であるため、またはファイルが存在しないために、指定されたトレース・ファイルのオープン中に問題が発生しました。

処置: 構成ファイルの権限を確認し、確実にすべてが正しい場所に存在するようにしてください。

TNS-04041 CMCTL: Connection Manager はすでに実行中です。起動操作は取り消されました。

原因: Connection Manager はすでに実行され、同じアドレスにリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager はすでに実行されています。

TNS-04042 CMCTL: Connection Manager Admin はすでに実行中。起動操作は取り消されました。

原因: Connection Manager Admin はすでに実行され、同じアドレスにリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager Admin はすでに実行されています。

TNS-04043 Connection Manager にはアクティブな接続があります。それでも停止しますか (y/n) ?

原因: 停止しようとしている Connection Manager は接続されたままです。これは確認メッセージです。

処置: y または n を押してください。y を押すと、アクティブなデータベース接続は削除されます。通常、これはお薦めしません。

TNS-04044 CMCTL: Connection Manager にコンタクトするには CMAN.ORA ファイルが必要です。

原因: 正しいディレクトリに CMAN.ORA が存在しないのに、デフォルトの Connection Manager とコンタクトしようとしてしました。

処置: CMAN.ORA ファイルを作成してください。CMAN.ORA ファイルが正しいディレクトリにあり、コンタクトする Connection Manager の正しい名前を含んでいることを確認してください。

TNS-04045 CMCTL: そのアドレスでは Connection Manager にコンタクトできませんでした。

原因: 応答しないアドレスで、Connection Manager とコンタクトしようとしてしました。

処置: Connection Manager が実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-04046 CMCTL: そのアドレスでは Connection Manager Admin にコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、Connection Manager Admin とコンタクトしようとしてしました。

処置: Connection Manager Admin が実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-04047 CMCTL: Connection Manager Admin の IPC アドレスを作成できませんでした。

原因: 応答していない IPC アドレスを使用して、Connection Manager Admin とコンタクトしようとしてしました。

処置: Connection Manager Admin が実行されているかどうかを確認してください。

TNS-04060 CMCTL: 不正コマンド: リモート Connection Manager では STATUS コマンドのみ可。

原因: 存在しないコマンドが入力されました。または、リモート Connection Manager に STATUS 以外が要求されました。

処置: CMCTL コマンドのリストについては、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。有効なコマンドのリストを参照するには、HELP と入力してください。

TNS-04061 CMCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: トレース・レベルの指定が必要です。

原因: トレース・レベルが指定されませんでした。

処置: トレース・レベルを指定して、コマンドを再実行してください。

TNS-04062 CMCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: ヘルプ表示は help/h/? を入力します。

原因: 無効なコマンドが入力されました。

処置: 有効なコマンドのリストについては、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照するか、または HELP と入力してください。

TNS-04063 CMCTL: バッファ用のメモリー割当てに失敗しました。

原因: CMCTL が内部バッファ用のメモリー割当てに失敗しました。

処置: マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確認してください。必要に応じて、実行するプログラム数を少なくしてメモリーを解放し、再試行してください。

TNS-04064 CMCTL: CMAN.ORA で CMANAGER_NAME の検索に失敗しました。

原因: CMCTL は、CMAN.ORA で CMANAGER_NAME の検索に失敗しました。

処置: CMAN.ORA ファイルが正しい構造になっているかを確認してください。

TNS-04065 CMCTL: コマンドはリモートで実行できません。

原因: STATUS および VERSION 以外のコマンドがリモートから実行されました。

処置: STATUS および VERSION 以外のコマンドを実行する必要がある場合は、Connection Manager マシンで CMCTL を実行する必要があります。

TNS-04070 CMCTL 使用方法: [cmctl] *command process_name* [argument]

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04071 *command* は次の 1 つです:

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04072 * start - process_name を起動します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04073 * stop - process_name を停止します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04074 * status - process_name からステータスを取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04075 * stats - process_name から統計情報を取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04076 * version - CMCTL 制御プログラムのバージョンを取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04077 * exit - CMCTL 制御プログラムを終了します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04078 process_name は、cman、cm プロセスまたは adm プロセスの 1 つです。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04079 * cman - Connection Manager (cman と adm 両方) に尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04080 * cm - Connection Manager プロセスだけに尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04081 * adm - Connection Manager Admin プロセスだけに尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04082 * log_on - ログを ON にする process_name を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04083 * log_off - ログを OFF にする process_name を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04084 * trace_on - トレースを ON にする process_name を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04085 注意: 引数フィールドでトレース・レベル (USER または

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04086 ADMIN) を指定する必要があります。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04087 * trace_off - トレースを OFF にするプロセス名を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04088 引数は trace_on だけです。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04089 * trace_on では - 引数はトレース・レベルと見なされます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04090 string

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04091 accept_connections [ON|OFF]: acc/deny subsequent connections (default is ON)

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04092 show address : displays address list CMAN is listening on

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04093 show ALL : displays all information about current CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04094 set authentication_level [0|1]: default is 0

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04095 change_password [<cman name>]: changes the password of the CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04096 close_relay_number | ALL : forces relay(s) to be shut down

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04097 set | show current_cman [<cman_name>]: sets | shows current CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04098 set | show displaymode [COMPAT|VERB] : sets | shows display mode

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04099 set log_level [0-4] : default is 0

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04100 set password : set the password for subsequent calls

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04101 show profile : shows the parameter profile of the current CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04102 set relay_statistics [ON | OFF] : default is OFF

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04103 show relay number | ACTIVE: shows the status of relay(s) in the current CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04104 reload_rules : re-reads rule list from profile

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04105 set | show remote_admin ON | OFF : sets | shows remote administration capability

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04106 show rules : shows rule list used by current CMAN for connection filtering

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04107 save_config [<cmn_name>] : saves configuration changes to parameter file

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04108 shutdown [NORMAL | ABORT] [cmn] : stops CMAN in NORMAL or ABORT modes

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04109 start [cm | adm | cmn] : starts selected CMAN process(es)

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04110 stats [cm | cmn] : shows connection statistics

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04111 status [cm | adm | cman] : shows current status of selected CMAN process(es)

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04112 stop [cm | adm | cman] : stops CMAN process(es) interactively

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04113 stopnow [cm | adm | cman] : aborts CMAN process(es)

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04114 set TNS_info [ON | OFF] : turns on/off TNS logging (default is off)

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04115 set trc_level [<value>] : sets trace level of current CMAN

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04116 version [cman] : displays CMAN version information

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04117 show _dev_info <relay_num> : shows detailed device information about the relay

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04118 quit | exit : exits CMCTL

原因: 制御プログラムの使用方法のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04119 CMAN でパスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 不明瞭なパスワードが入力された可能性があります。

処置: 有効な ASCII 文字を使用して、CMAN パスワードを再入力してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04120 現在の CMAN は *string* です。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04121 コマンドは正常に完了しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04122 CMAN の状態 実行していません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04123 ADMIN の状態 実行していません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04124 現在の表示モードは *string* です。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04125 コマンドは不成功でした。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04126 *string* のバージョン *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04127 *string* に接続中

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04128 *string* の状態

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04129 起動時間 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04130 現在の状態 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04131 *string* を起動しています: お待ちください ...

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04132 CMAN の統計

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04133 処理した接続数の合計 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04134 現在アクティブなリレー数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04135 最大アクティブ・リレー数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04136 最大リレー数を越えたために拒否された合計数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04137 拒否された接続の合計数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04139 CMAN のプロファイル

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04140 MAXIMUM_RELAYS = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04141 RELAY_STATISTICS = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04142 AUTHENTICATION_LEVEL = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04143 LOG_LEVEL = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04144 SHOW_TNS_INFO = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04145 ANSWER_TIMEOUT = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04146 MAXIMUM_CONNECT_DATA = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04147 USE_ASYNC_CALL = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04148 TRACING = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04149 TRACE_DIRECTORY = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04150 MAX_FREELIST_BUFFERS = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04151 REMOTE_ADMIN = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04152 リレー情報

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04153 リレー番号 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04154 ソース *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04155 宛先 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04156 IN バイト数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04157 IN パケット数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04158 IN DCD プローブ数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04159 OUT バイト数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04160 OUT パケット数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04161 OUT DCD プローブ数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04162 アドレス・リスト

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04163 アクティブ・リレー

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04164 ルール・リスト

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04165 リレーはアクティブではありません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04201 Trace Assistant 使用エラー: ファイル名がありません。

原因: トレース・ファイル名の引数がありません。

処置: このツールの最後のコマンドライン引数にトレース・ファイル名を設定してください。

TNS-04202 Trace Assistant 使用エラー: 引数が不十分です。

原因: ファイル名またはオプション引数がありません。

処置: 正しい数のコマンドライン引数を設定してください。

TNS-04203 Trace Assistant 使用エラー: オプションが無効です。

原因: 指定されたオプションが無効です。

処置: このツールの有効なオプションを確認してください。

TNS-04204 Trace Assistant 内部エラー: トレース・ファイルをオープンできません。

原因: 指定されたトレース・ファイルが存在しないか、このユーザーはアクセスできません。

処置: 綴りおよびトレース・ファイルのアクセス権を確認してください。

TNS-04205 Trace Assistant 内部エラー：メモリーのエラーです。

原因：メモリーに問題がある可能性があります。

処置：システムの使用可能なメモリー量を確認してください。

TNS-04206 Trace Assistant 内部エラー：パケット・タイプのエラーです。

原因：trcAsst の読み込んだパケット・タイプが無効です。

処置：使用中のトレース・ファイルが破損していないことを確認してください。トレース・ファイルに不要な文字が含まれずに正常な場合、トレース・ファイルを準備して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04207 Trace Assistant 内部エラー：パケット長のエラーです。

原因：デコードしているパケットが破損しています。

処置：使用中のトレース・ファイルが破損していないことを確認してください。トレース・ファイルに不要な文字が含まれずに正常な場合、トレース・ファイルを準備して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04208 Trace Assistant 内部エラー：重大なエラーです。

原因：重大な内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04209 Trace Assistant 内部エラー：型のエラーです。

原因：型の内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04210 Trace Assistant 内部エラー：ファイルの終わりです。

原因：ファイルが短すぎます。トレース・ファイルが切り捨てられている可能性があります。このトレース・ファイルはデコードできません。

処置：別のトレース・ファイルを生成してください。

TNS-04211 Trace Assistant 内部エラー：中心部のエラーです。

原因：システムの内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04212 Trace Assistant 内部エラー：NACOM の型エラーです。

原因：ネットワーク認証情報をデコードできません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04231 Trace Assistant 警告：Oracle Trace の形式とみなされます。

原因：このトレース・ファイルは、Network トレース・ファイルではありません。デフォルト形式（Oracle Trace）とみなされます。

処置：処置は必要ありません。

TNS-04232 Trace Assistant 警告: すべての行を取出せません。

原因: Trace Assistant は、行のすべてのデータを取り出せません。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04233 Trace Assistant 警告: パケットの長さを超えてしまいます。

原因: パケットの長さを超えて読み込もうとしました。トレース・ファイルが破損しています。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04234 Trace Assistant 警告: TTC はデコードされません。

原因: Trace Assistant が、TTC データをデコードするために必要な情報を持っています。古いトレース・ファイルまたはトレース・ファイルが認識しないプラットフォームからのものである可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04235 Trace Assistant 警告: TTC プロトコルが不明です。

原因: Trace Assistant が、TTC プロトコルの認識できない点に到達しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12150 TNS: データを送信できません。

原因: データを送信できません。接続が切断された可能性があります。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。

TNS-12151 TNS: ネットワーク・レイヤーから不正なパケット型を受信しました。

原因: 通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12152 TNS: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: ブレーク・メッセージを送信できません。接続が切断された可能性があります。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。

TNS-12153 TNS: 接続されていません。

原因: 現在、リモート・ホストに接続していません。

処置: 再接続してください。

TNS-12154 TNS: サービス名を解決できませんでした。

原因: 指定されたサービスの名前が、TNSNAMES.ORA ファイル内で正しく定義されていません。

処置: 次のことを確認し、エラーを修正してください。

- TNSNAMES.ORA ファイルが、適切な位置に存在し、アクセスできることを確認してください。必須の名前および位置の詳細は、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。
- TNSNAMES.ORA ファイルの中にサービス名があることを確認し、必要に応じて追加してください。
- ファイル内に構文エラーがないかどうかを確認してください。特に一致しないカッコまたは文字を検索してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、使用できなくなります。『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。可能な場合は、Oracle Network Manager を使用して、構成ファイルを再作成してください。

TNS-12155 TNS: NSWMARKER パケットで不正なデータ型を受信しました。

原因: ブレーク・ハンドル中に内部エラーが発生しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12156 TNS: 不正確な状態から行をリセットしようとしてしました。

原因: ブレーク・ハンドル中の内部エラーです。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12157 TNS: ネットワーク通信の内部エラー。

原因: ネットワーク通信中に内部エラーが発生しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12158 TNS: パラメータ・サブシステムを初期化できませんでした。

原因: パラメータ・ファイルが見つかりません。

処置: 読取り可能で有効なパラメータ・ファイルがあるかどうかを確認してください。

TNS-12159 TNS: トレース・ファイルは書き込み禁止です。

原因：生成されるトレース・ファイルを書き込むことができません。

処置：ユーザーがトレース・ファイルを書き込むディレクトリに書き込み権限がない場合、データベース管理者に連絡して適切な権限を取得するか、SQLNET.ORA 内の TRACE_DIRECTORY_CLIENT を使用して、書き込み可能なディレクトリを指定してください。

TNS-12160 TNS: 内部エラー：エラーの数値が不正です。

原因：不正なエラーがサブシステムにレポートされました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12161 TNS: 内部エラー：データの一部を受信しました。

原因：接続が終了した可能性があります。

処置：接続して再実行してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12162 TNS: 指定されたサービス名は正しくありません。

原因：TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前に対応する接続記述子が誤って指定されています。

処置：接続記述子内に構文エラーがないことを確認してください。特に一致しないカッコまたは文字を検索してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、使用できなくなります。『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-12163 TNS: 接続記述子が長すぎます。

原因：TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前に対応する接続記述子が長すぎます。

処置：接続記述子の最大長は 512 バイトですが、この制限を超えました。接続記述子を短くしてください。接続記述子を短くできない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12164 TNS: Sqlnet.fdf ファイルがありません。

原因：\$ORACLE_HOME/network/admin に SQLNET.FDF ファイルがありません。

処置：SQLNET.FDF ファイルは、Oracle Trace を実行するために必須です。
\$ORACLE_HOME/network/admin 内に SQLNET.FDF ファイルをインストールするか、ORA ファイルのトレースをオフにしてください。

TNS-12165 TNS: スワップ領域にトレース・ファイルを書き込もうとしました。

原因: Oracle Trace がトレース情報をユーザーのスワップ領域に書くことができません。

処置: Oracle Trace がスワップ領域内にトレース情報を書き込むことができないので、トレースを使用禁止にするか、トレース・ファイルをディスクの他の領域にリダイレクトしてください。

TNS-12166 TNS: クライアントは HO エージェントに接続できません。

原因: NV 文字列に DESCRIPTION/HO が含まれています。

処置: 統合サーバーから HO エージェントをコールしてください。

TNS-12168 TNS: ディレクトリ・サーバーに接続できません。

原因: LDAP ベースのディレクトリ・サーバーを使用するように構成されています。

処置: ディレクトリ・サーバーを起動するか、LOCAL への構成を変更してください。

TNS-12196 TNS: TNS からエラーを受信しました。

原因: ナビゲーション・レイヤーが、TNS からエラーを受け取りました。

処置: エラー・ログ・ファイルを参照して、TNS エラーを調べてください。

TNS-12197 TNS: キーワード値宛先展開エラー

原因: ナビゲーション・レイヤーが、キーワードの値を調べようとしてエラーを受け取りました。

処置: 接続コマンドの構文を調べてください。

TNS-12198 TNS: 接続先へのパスが見つかりませんでした。

原因: Interchange を介して接続先へのパスをナビゲートできませんでした。このエラーは、アドレスの文字列内に無効なコミュニティがあるか、アドレスに使用不可のプロトコルがあるか、構成ファイルが正しいアドレスを持っていないか、Interchange が停止している場合に発生します。

処置: 要求された接続先を得るために必要な Interchange が実行されているかどうか、追加の接続に使用できる容量があるかどうかを確認してください。また、使用するアドレスに、正しいコミュニティおよびプロトコルが指定されているかどうかを確認してください。

TNS-12200 TNS: メモリーを割り当てられませんでした。

原因: マシン上のメモリー不足です。

処置: Interchange を実行しているときは、マシンを再構成して記憶域を増やすか、実行するアプリケーションを減らしてください。

TNS-12201 TNS: 接続バッファが小さすぎます。

原因: アプリケーションが提供する TNS 接続バッファが小さすぎるため、送信するデータを取り出せません。

処置: 接続バッファを大きくしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12202 TNS: 内部ナビゲーション・エラー。

原因: 内部ナビゲーション・エラーです。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

TNS-12203 TNS: 接続先に接続できません。

原因: 無効な TNS アドレスを指定したか、接続先がリスニングしていません。このエラーは、基になるネットワーク通信の問題でも発生します。

処置: コマンドラインに入力したサービスの名前が正しいかどうかを確認してください。リスナーがリモート・ノードで実行していること、および TNSNAMES.ORA 内で指定された ADDRESS パラメータが正しいことを確認してください。最後に、接続に必要な Interchange がすべて実行されていることを確認してください。

TNS-12204 TNS: 受信データはアプリケーションから拒否されました。

原因: Interchange または Connection Manager を使用しているアプリケーションが、リスナーでの接続を拒否しました。

処置: 接続先のアプリケーション・リスナーが正常に機能していることを確認してください。正常に機能しているにもかかわらず、エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12205 TNS: 障害アドレスを取得できませんでした。

原因: 内部ナビゲーション・エラーです。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

TNS-12206 TNS: ナビゲーション中に TNS エラーを受信しました。

原因: 予期しない TNS エラーによる内部ナビゲーションのエラーです。

処置: ログ・ファイルを参照して、TNS エラーを検索してください。必要に応じて、トレースをオンにして操作を繰り返してください。

TNS-12207 TNS: ナビゲーションを実行できません。

原因: ナビゲーション・ファイル TNSNAV.ORA が正しく構成されていません。

処置: アプリケーション・マシン上の TNSNAV.ORA ファイルの構文を確認し、正しいコミュニティをリストしていることを確認してください。

TNS-12208 TNS: TNSNAV.ORA ファイルが見つかりませんでした。

原因：入力した Oracle 環境が正しく設定されていないか、またはファイルが存在しません。

処置：Oracle 環境が、プラットフォーム上に適切に設定されていること、および TNSNAV.ORA ファイルが提示されていることを確認してください。

TNS-12209 TNS: 初期化されていないグローバル変数が見つかりました。

原因：アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンにあるグローバル変数が、正しく構成されていません。使用可能な TNSNAV.ORA ファイルがないか、欠落しています。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12210 TNS: ナビゲータ・データを検索中にエラーが発生しました。

原因：アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンが持つ TNSNAV.ORA ファイルが正しく構成されていません。

処置：TNSNAV.ORA ファイルの構文を調べてください。

TNS-12211 TNS: TNSNAV.ORA では PREFERRED_CMANAGERS 項目が必要です。

原因：TNSNAV.ORA で PREFERRED_CMANAGERS が定義されていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS エントリを TNSNAV.ORA に追加してください。

TNS-12212 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内にバインディングする PREFERRED_CMANAGERS が、指定された CMANAGER_NAME を持っていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS のバインディングの一部として、CMANAGER_NAME を定義してください。Oracle Network Manager を使用すると、このエラーは解決されます。

TNS-12213 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS バインディングに、指定された ADDRESS がありません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

TNS-12214 TNS: TNSNAV.ORA にローカル・コミュニティ項目がありません。

原因：TNSNAV.ORA 内に LOCAL_COMMUNITIES 項目がありません。

処置：TNSNAV.ORA のノードに LOCAL_COMMUNITIES を定義してください。

TNS-12215 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_NAVIGATORS アドレスが不正です。

原因：PREFERRED_NAVIGATORS 項目のアドレス・バインディングが正しく入力されていません。

処置：PREFERRED_NAVIGATORS 項目を確認し、TNSNAV.ORA に追加してください。

TNS-12216 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS アドレスが不正です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目のアドレス・バインディングが正しく入力されていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

TNS-12217 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS にコンタクトできませんでした。

原因：PREFERRED_CMANAGERS エントリに構文エラーがあるか、指定したアドレスが誤っているか、または Connection Manager が使用できません。

処置：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目を確認して修正するか、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Connection Managers が使用可能かどうかを調べてください。INTCTL STATUS コマンドで Interchange がアクティブになっているかどうかを確認してください。

TNS-12218 TNS: ネットワーク構成のデータは受け入れられません。

原因：ネットワーク構成のデータの構成が不十分です。たとえば、クライアントの TNSNAV.ORA ファイルの PREFERRED_CMANAGERS 項目に、誤った CMANAGER_NAME がある可能性があります。または、Navigator の Interchange 停止時間パラメータ (TIMEOUT_INTERVAL) が、INTCHG.ORA 内で 0 (ゼロ) に設定されている可能性があります。

処置：TNSNAV.ORA の項目および Interchange 構成ファイルを調べて、修正してください。必要に応じて、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Interchange (Connection Managers) が使用可能で、適切に構成されているかどうかを確認してください。必要に応じて、Oracle Network Manager を使用して構成ファイルを生成してください。

TNS-12219 TNS: ADDRESS_LIST 内のアドレスにコミュニティ名がありません。

原因：このエラーは、ADDRESS_LIST の一部の ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがなく、他の ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがある場合に発生します。

処置：使用している接続記述子のすべての ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがあるか、またはすべてにないことを確認してください。

TNS-12221 TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因: 無効なプロトコル・アダプタ・パラメータが指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に返されます。

処置: 指定されたプロトコルを使用して、接続先に接続できるかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システムに固有の Oracle マニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー (DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていないか、名前の綴りが誤っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

TNS-12222 TNS: そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ((PROTOCOL=..)) の TNS アドレス内のキーワード値の組合せ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラーを修正してください。注意: 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル (たとえば、TNSNAMES.ORA、LISTENER.ORA または TNSNET.ORA) 内のアドレスを確認してください。

TNS-12223 TNS: 内部制限を超えました。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

処置: 接続のクローズを待って、再試行してください。

TNS-12224 TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーが使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイルを比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-12225 TNS: 接続先ホストに到達できません。

原因: 接続先ホストに到達できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能し、ネットワークが稼働しているかどうかを確認してください。

TNS-12226 TNS: オペレーティング・システム・リソース割当て制限を超えました。

原因: 現行のユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超えました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを取得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-12227 TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: TNSNAMES.ORA の接続記述子の構文を調べてください。

TNS-12228 TNS: プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (または DLL) が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーが戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードできなかった共有ライブラリ (または DLL) の名前が記述されています。

TNS-12229 TNS: Interchange にはこれ以上使用可能な接続はありません。

原因: 必要な接続先へのパスに含まれる Interchange には、このコールにこれ以上使用できる接続はありません。

処置: Interchange がビジーでないときに再試行するか、ネットワーク管理者に連絡して、使用している Interchange を調べ、その Interchange に使用可能な接続数を増やしてください。

TNS-12230 TNS: この接続中に重大なネットワーク・エラーが起きました。

原因: 接続先の呼出し中に物理的なネットワーク・エラーが発生して、接続先との接続に失敗した場合に戻されます。

処置: ネットワーク・サービスが修復された後で再試行するか、問題をネットワーク管理者に連絡してください。

TNS-12231 TNS: 接続先に接続できません。

原因: このエラーは、接続先への可能な接続の検索に失敗した場合に戻されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を連絡し、問題を修復してください。

TNS-12232 TNS: 接続先へのパスがありません。

原因: このエラーは、接続先への可能なパスを検索できない場合に戻されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を連絡してください。

TNS-12233 TNS: 接続の受入れに失敗しました。

原因: このエラーは、Interchange が、リダイレクトの失敗が原因で接続を受け入れられなかった場合に戻されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を連絡し、Interchange の問題を分離してください。

TNS-12234 TNS: 接続先にリダイレクトしました。

原因: このエラーは、この Interchange が正しいゲートウェイではなく、接続先へのパスに従って他のゲートウェイに接続をリダイレクトする必要があると判断された場合に返されます。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12235 TNS: 接続先へのリダイレクトに失敗しました。

原因: このエラーは、接続先へのパスに従って別の Interchange への接続のリダイレクトに失敗した場合に返されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を連絡してください。

TNS-12236 TNS: プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。このエラーは、プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (または DLL) がロードされていない場合に返されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (または DLL) の名前が記述されています。

TNS-12500 TNS: リスナーが専用サーバー・プロセスの起動に失敗しました。

原因: 専用サーバー・プロセスの起動に失敗しました。実行可能なものが検索できないか、環境が誤って設定された可能性があります。

処置: ADMIN レベルでトレースをオンにして、操作を再実行してください。Oracle サーバーの実行可能プログラムがあり、実行権限が与えられているかどうかを確認してください。Oracle 環境が、LISTENER.ORA 内に正しく設定されていることを確認してください。コールされている Oracle プロトコル・アダプタは、ローカル・ハード・ドライブ上にインストールされていない可能性があります。正しいプロトコル・アダプタが正常にリンクされているかどうかを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12502 TNS: リスナーがクライアントから CONNECT_DATA を受信していません。

原因: リスナーに CONNECT_DATA が渡されていません。

処置: TNSNAMES.ORA から解決したサービス名に、接続記述子の CONNECT_DATA コンポーネントがあることを確認してください。

TNS-12504 TNS: リスナーは CONNECT_DATA の SID を取得できませんでした。

原因: CONNECT_DATA から SID が失われていました。

処置: TNSNAMES.ORA のサービス名に対応する接続記述子に、CONNECT_DATA の SID コンポーネントがあるかどうかを調べてください。

TNS-12505 TNS: リスナーは接続記述子にある SID を解決できませんでした。

原因: CONNECT_DATA の SID が、リスナーの表で見つかりませんでした。

処置: 指定した SID が正しいかどうかを確認してください。リスナーに現在登録されている SID は、「LSNRCTL SERVICES *listener_name*」と入力すると確認できます。これらの SID は TNSNAMES.ORA 内の SID_NAME、または INIT.ORA 内の DB_NAME に対応します。

TNS-12509 TNS: リスナーはサービス・ハンドラへのクライアントのリダイレクトに失敗しました。

原因: ディスパッチャが終了しました。

処置: 再接続してください。同じエラーが発生する場合は、データベース管理者に連絡して、この SID のディスパッチャの状態を確認してください。エラーが繰り返される場合は、リスナー内のトレースをオンにして、リダイレクトによる TNS エラーかどうかを確認してください。

TNS-12510 TNS: テンポラリ・データベースには要求を処理するリソースがありません。

原因: ディスパッチャが他の要求の処理でビジーです。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、ディスパッチャ数および（または）ディスパッチャの接続数またはセッション数の上限を上げるように、データベース管理者に依頼してください。

TNS-12511 TNS: サービス・ハンドラが見つかりましたが、接続を受け入れられません。

原因: ディスパッチャが、現在、新しい接続要求を受け入れられないことをリスナーに通知しました。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、ディスパッチャの状態の確認および（または）ディスパッチャ数の増加をデータベース管理者に依頼してください。

TNS-12512 TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、リダイレクト・アドレスが未登録です。

原因: ディスパッチャが起動した直後で、クライアントがリダイレクトされるアドレスをまだ登録していません。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、データベース管理者に連絡して、ディスパッチャ数を増やしてください。

TNS-12513 TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、別のプロトコル用に登録されています。

原因: このサービスに登録されているディスパッチャは、クライアントのものとは異なるネットワーク・プロトコルを使用して、リスナーに接続されています。

処置: データベース管理者に連絡して、使用するプロトコルのディスパッチャを登録してください。

TNS-12514 TNS: リスナーは接続記述子にある SERVICE_NAME を解決できませんでした。

原因: CONNECT_DATA の SERVICE_NAME が、リスナーの表に見つかりませんでした。

処置: 指定された SERVICE_NAME が正しいかどうかを確認してください。

TNS-12515 TNS: リスナーはこのプレゼンテーションに対するハンドラを検索できませんでした。

原因: リスナーが認識するサービス・ハンドラは、接続するクライアントが必要とするプレゼンテーション・プロトコルをサポートするものとして登録されていません。

処置: 接続先サービスがプレゼンテーション・プロトコルを受け入れるように構成されていることを確認してください。

TNS-12516 TNS: リスナーは、一致するプロトコル・スタックが使用可能なハンドラを検出できませんでした。

原因: 指定された SERVICE_NAME の既知および使用可能なサービス・ハンドラが、クライアントのプロトコル・スタック（トランスポート、セッションおよびプレゼンテーション・プロトコル）をサポートしていません。

処置: SERVICE_NAME のサービス・ハンドラ（ディスパッチャなど）が、リスナーに登録されているか、接続を許可されているか、および要求されたプロトコルをサポートするために適切に構成されているかを確認してください。

TNS-12517 TNS: ダイレクト・ハンドオフをサポートするサービス・ハンドラをリスナーで検出できませんでした。

原因: サービス・ハンドラが、このクライアント接続に必要なダイレクト・ハンドオフをサポートするものとして登録されていません。

処置: インスタンスがダイレクト・ハンドオフに対して正しく構成され、ダイレクト・ハンドオフをサポートする Oracle のバージョンであることを確認してください。

TNS-12518 TNS: リスナーはクライアント接続をハンドオフできません。

原因: クライアント接続を別のプロセスにハンドオフするプロセスが失敗しました。

処置: トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。リスナーおよびデータベース・インスタンスが、ダイレクト・ハンドオフに対して正しく構成されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12519 TNS: 適切なサービス・ハンドラが見つかりません。

原因: リスナーが、クライアント接続に適した使用可能なサービス・ハンドラを見つけられませんでした。

処置: lsnrctl services を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、接続を受け入れていることを確認してください。

TNS-12520 TNS: リスナーは、要求したサーバー・タイプに使用可能なハンドラを検出できませんでした。

原因: 要求したサーバー（専用または共有）・タイプの既知および使用可能なアクセス・ハンドラが、クライアント接続に不適切でした。

処置: `lsnrctl services` を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、適切なハンドラが接続を受け入れていることを確認してください。

TNS-12521 TNS: リスナーは接続記述子で指定した INSTANCE_NAME を解決できませんでした。

原因: `CONNECT_DATA` の `INSTANCE_NAME` が、指定された `SERVICE_NAME` のリスナーの表に見つかりませんでした。

処置: 指定した `INSTANCE_NAME` が正しいかどうかを確認してください。

TNS-12522 TNS: リスナーは、指定された INSTANCE_ROLE に使用可能なインスタンスを検出できませんでした

原因: リスナーに登録されたデータベース・インスタンスが、使用可能および適切ではありません。データベース・インスタンスは、接続記述子で指定された `SERVICE_NAME` によって識別されるサービスの一部であり、指定された `INSTANCE_ROLE`（および `INSTANCE_NAME`）を持つ必要があります。

処置: 指定した `INSTANCE_ROLE` が正しいかどうかを確認してください。 `lsnrctl services` を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、適切なハンドラが接続の受入れが可能であることを確認してください。

TNS-12523 TNS: リスナーは、クライアント接続に適したインスタンスを検出できませんでした

原因: リスナーが、クライアント接続に適した使用可能な（データベース・）インスタンスを見つけられませんでした。

処置: `lsnrctl services` を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、`READY` であることを確認してください。

TNS-12524 TNS: リスナーは、接続記述子に指定した HANDLER_NAME を解決できませんでした

原因: `CONNECT_DATA` の `HANDLER_NAME` が、指定した `SERVICE_NAME` および `INSTANCE_NAME` のリスナーの表に見つかりませんでした。

処置: 指定した `HANDLER_NAME` が正しいかどうかを確認してください。

TNS-12531 TNS: メモリーを割当てできません。

原因: 要求されたアクティビティを稼働する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-12532 TNS: 引数が無効です。

原因: 内部機能が無効パラメータを受信しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12533 TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因: 無効なプロトコル・アダプタ・パラメータが指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に返されます。

処置: 指定されたプロトコルを使用して、接続先に接続できるかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システムに固有の Oracle マニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー (DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていなかったり、名前の綴りが誤っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

TNS-12534 TNS: サポートされない操作です。

原因: 内部機能が、(このマシン上で) サポートされていない操作の実行要求を受信しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12535 TNS: 操作はタイム・アウトしました。

原因: 要求された接続は、LISTENER.ORA 内の CONNECT_TIMEOUT パラメータに指定されたタイム・アウト時間内に完了できませんでした。このエラーは、TNSLSNR から返されます。

処置: CONNECT_TIMEOUT を、無制限待機を意味する 0 (ゼロ) に再構成するか、CONNECT_TIMEOUT をより高い値に再構成してください。または、タイム・アウトが長すぎる場合は、トレースをオンにして詳細を調べてください。

TNS-12536 TNS: この操作を行うと現行プロセスがブロックされます。

原因: 内部操作が現行プロセスをブロックしているときに、ユーザーが操作の非ブロック化を要求したため、操作は開始されませんでした。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12537 TNS: 接続がクローズされました。

原因: ファイル終わり条件に達したため、パートナが切断されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12538 TNS: そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ((`PROTOCOL = ..`) の TNS アドレス内のキーワード値の組合せ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラーを修正してください。**注意:** 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル (たとえば、`TNSNAMES.ORA`、`LISTENER.ORA` または `TNSNET.ORA`) 内のアドレスを確認してください。

TNS-12539 TNS: バッファは上位または下位が桁溢れしました。

原因: 受信データのバッファが小さすぎるか、送信データのバッファが大きすぎます。

処置: 通常、この制限 (`CONNECT DATA` に対応付けられる) は、ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12540 TNS: 内部制限を超えました。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

処置: 接続のクローズを待って、再試行してください。

TNS-12541 TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーが使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。`TNSNAMES.ORA` 項目と該当する `LISTENER.ORA` ファイルを比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-12542 TNS: アドレスがすでに使用中です。

原因: 指定されたリスナー・アドレスがすでに使用されています。

処置: 一意のアドレスでリスナーを開始してください。

TNS-12543 TNS: 接続先ホストに到達できません。

原因: 接続先ホストに到達できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能し、ネットワークが稼働しているかどうかを確認してください。

TNS-12544 TNS: コンテキストの待機 / テスト関数が異なります。

原因: 2 つのプロトコル・アダプタに、矛盾する待機 / テスト関数があります。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12545 接続に失敗しました。ターゲット・ホストまたはオブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたアドレスが有効でないか、接続先のプログラムがありません。

処置: ADDRESS パラメータが正しく入力されていることを確認してください。ノード名のパラメータが正しくない可能性があります。サーバーの実行可能プログラムが存在しているかどうかを確認してください。「oracle」が欠落している可能性があります。プロトコルが TCP/IP である場合は、TNSNAMES.ORA ファイルを編集して、ホスト名を IP アドレスに変更し、再試行してください。

TNS-12546 TNS: 許可が拒否されました。

原因: 権限が不足しているため、ユーザーが要求した操作を実行できません。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-12547 TNS: 接続を失いました。

原因: プロセスの起動中に、パートナが消失しました。

処置: 異常終了したパートナ・アプリケーションを調べてください。Interchange の場合、マシンの負荷が高くなるとこのエラーが発生する可能性があります。

TNS-12548 TNS: 読み込みまたは書き込みが不完全です。

原因: データの受信または送信に失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12549 TNS: オペレーティング・システム・リソース割当て制限を超えました。

原因: 現行のユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超えました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを取得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-12550 TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: TNSNAMES.ORA の接続記述子の構文を調べてください。

TNS-12551 TNS: キーワードがありません。

原因: 指定された接続記述子に 1 つ以上の TNS キーワードがありません。

処置: 構文を確認して、すべての必須キーワードが指定されているかどうかを確認してください。

TNS-12552 TNS: 操作が中断されました。

原因: 内部操作が中断され、操作を完了できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12554 TNS: カレント操作はまだ進行中です。

原因: 内部操作がまだ進行中です。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12555 TNS: 許可が拒否されました。

原因: 権限が不足しているため、ユーザーが要求した操作を実行できません。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-12556 TNS: 発呼者がいません。

原因: TNS が受信接続要求を検出しましたが、発呼者がいませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12557 TNS: プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (または DLL) が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーが戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードできなかった共有ライブラリ (または DLL) の名前が記述されています。

TNS-12558 TNS: プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (または DLL) がロードされていない場合に、このエラーが戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (または DLL) の名前が記述されています。

TNS-12560 TNS: プロトコル・アダプタ・エラー

原因: 一般的なプロトコル・アダプタ・エラーが発生しました。

処置: 使用しているアドレスを調べて、正しいプロトコルが指定されているかどうかを確認してください。このエラーを報告する前に、エラー・スタックを調べて下位レベルの通信エラーを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。操作が完了したら、トレースをオフにしてください。

TNS-12561 TNS: 不明なエラーです。

原因: 一般的なプロトコル・エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-12562 TNS: 不正なグローバル・ハンドルです。

原因: コール側から TNS に無効な gbh 引数が渡されました。システムが古いライブラリにリンクされている可能性があります。これは内部エラーです。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12564 TNS: 接続が拒否されました。

原因: リモート・ユーザー（または TNS ソフトウェア）によって接続要求が拒否されました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。

TNS-12566 TNS: プロトコル・エラー

原因: 予期しない TNS プロトコル・エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12569 TNS: パケット・チェックサムに失敗しました。

原因: 受信したデータが送信したデータと異なります。

処置: トランザクションを再実行してください。エラーが繰り返される場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。

TNS-12570 TNS: パケット読取り機に障害が発生しました。

原因: データ受信中にエラーが発生しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12571 TNS: パケットの書き込み機に障害が発生しました。

原因：データ送信中にエラーが発生しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

また、次のいずれかの SQL*Plus コマンドが発行された場合に表示されます。

- SHUTDOWN ABORT
- SHUTDOWN IMMEDIATE
- SHUTDOWN TRANSACTIONAL

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12574 TNS: リダイレクションが拒否されました。

原因：リダイレクションが必要なときに、コール側がリダイレクションを要求しなかったため、接続要求が失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12582 TNS: 無効な操作です。

原因：内部機能が無効な要求を受信しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12583 TNS: 読取り機がありません。

原因：送信操作が要求されましたが、パートナーがすでに切断されています。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12585 TNS: データが切捨てられました。

原因：ユーザーの要求を満たすにはデータが不足しているため、受信操作が完了しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12589 TNS: 接続は継承可能ではありません。

原因: プロトコル・プロバイダがサポートしないため、あるプロセスから他のプロセスへ接続を継承できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12590 TNS: I/O バッファがありません。

原因: 使用可能なバッファがないため、I/O 操作の実行に失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12591 TNS: イベント信号障害

原因: TNS ソフトウェアは、イベント発生 of の信号を発することができません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12592 TNS: パケットが不正です。

原因: 不正なフォームのパケットが TNS ソフトウェアによって発見されました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12593 TNS: 登録済み接続がありません。

原因: イベント通知の接続が登録されていないため、ネットワーク・イベント・アクティビティが要求できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12595 TNS: 確認がありません。

原因: TNS がリモート・パートナーから要求された確認を得られません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12596 TNS: 内部的に矛盾があります。

原因：TNS が内部の矛盾を検出しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

TNS-12597 TNS: 接続記述子がすでに使用中です。

原因：接続記述子の使用が無効です。これは内部エラーです。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12598 TNS: パナー登録に失敗しました。

原因：Oracle サーバーでの製品パナーの登録に失敗しました。

処置：トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。再びエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12599 TNS: 暗号チェックサムが不適当です。

原因：受信したデータが送信したデータと異なります。

処置：トランザクションを再実行してください。エラーが繰り返される場合は、物理的な接続の整合性を確認し、修正してください。

TNS-12600 TNS: 文字列のオープンに失敗しました。

原因：Oracle NLS 書式内の文字列の作成に失敗しました。これは内部エラーです。

処置：トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。再びエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12601 TNS: 情報フラグのチェックに失敗しました。

原因：接続のネゴシエーションの前のプロセスで設定される TNS 情報フラグが、ネゴシエーション完了後も存在しません。これは内部エラーです。

処置：トレースを使用可能にし、エラーを再現してください。再びエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12611 TNS: 操作は移植できません。

原因：実行した操作は、移植できません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12612 TNS: 接続ビジー

原因: 実行中のアクションまたは接続状態と競合するため、実行した操作は失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12615 TNS: 優先使用エラーです。

原因: イベントの通知が転送されていないため、イベントを処理する要求が失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12616 TNS: イベント信号がありません。

原因: TNS ソフトウェアは、イベント信号を有効にすることができません。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12617 TNS:bad 'what' type

原因: 指定されたデータ型が不明であるため、処理に失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12618 TNS: バージョンに互換性がありません。

原因: 2つのマシンが、互換性のない TNS のバージョンで実行されています。

処置: バージョン番号を確認して、バージョンの低い方のマシンをアップグレードしてください。

TNS-12619 TNS: 要求されたサービスに権限付与できません。

原因: 要求されたサービスが、ローカル TNS ソフトウェアから提供されなかったため、接続要求が失敗しました。

処置: 必要に応じて、サービス要件を少なくして再実行してください。

TNS-12620 TNS: 要求された特性は不可能です。

原因: 要求されたトランスポート特性が、リモート TNS ソフトウェアによってサポートされなかったため、接続要求が失敗しました。

処置: 必要に応じて、サービス要件を少なくして再実行してください。

TNS-12622 TNS: イベント通知の型が不同です。

原因: イベント通知の型が既存の登録と矛盾するため、イベント通知の接続が登録されませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12623 TNS: この状態での操作は不適當です。

原因: 接続は半二重方式です。全二重方式の接続操作が行われました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12624 TNS: 接続はすでに登録済みです。

原因: すでに登録されているため、イベント通知の接続が登録されませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12625 TNS: 引数が欠落しています。

原因: 引数が欠落しているため、操作に失敗しました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12626 TNS: イベント型が不正です。

原因: イベントの型が不正なため、イベント通知の接続が登録できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12628 TNS: イベントのコールバックがありません。

原因: 非同期コールバックが使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12629 TNS: イベント・テストがありません。

原因: イベントをテストする機能が使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12630 固有サービス操作がサポートされていません。

原因: ユーザーによって要求された操作は、固有サービス・コンポーネントにサポートされていません。

処置: 操作がサポートされている場合は、内部エラーの可能性あります。

TNS-12631 ユーザー名の検索に失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー名の検索に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、どのルーチンが失敗しているかを確認してください。

TNS-12632 ロール・フェッチに失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー・ロールの 1 つの検索に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、どのルーチンが失敗しているかを確認してください。

TNS-12633 共用認証サービスがありません。

原因: ユーザーの指定した認証サービス・リストは、プロセスによってサポートされているものと一致しません。

処置: 他のリストを指定するか、要求されたサービスと実行可能ファイルを再リンクしてください。

TNS-12634 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: プロセスがメモリーを割り当てられませんでした。

処置: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

TNS-12635 使用可能な認証アダプタがありません。

原因: 実行可能ファイルが認証サービス・アダプタにリンクされていませんが、認証が必要かどうかを指定する SQLNET.ORA パラメータに TRUE が設定されています。

処置: パラメータを無効にするか、サービス・アダプタと実行可能ファイルを再リンクしてください。

TNS-12636 パケット送信に失敗しました。

原因：プロセスが、他のプロセスにパケットを送信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。

- 送信先のプロセスが終了している。
- 送信先のプロセスが実行中のマシンが停止した。
- その他の通信エラーが発生した。

処置：原因が不明な場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12637 パケット受信に失敗しました。

原因：プロセスが、他のプロセスからパケットを受信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。

- 送信先のプロセスが終了している。
- 送信先のプロセスが実行中のマシンが停止した。
- その他の通信エラーが発生した。

処置：原因が不明な場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12638 資格証明の取出しに失敗しました。

原因：認証サービスが、ユーザーの資格証明の取出しに失敗しました。

処置：トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12639 認証サービスの折衝に失敗しました。

原因：クライアントがサポートしている認証サービスのタイプとサーバーが使用している認証サービスのタイプが一致していません。

処置：考えられる解決方法は次のとおりです。

- 使用するサービスを指定する `SQLNET.ORA` のエントリを変更する。
- サーバーがサポートする認証サービス・アダプタの1つでクライアントに再リンクする。
- クライアントがサポートする認証サービス・アダプタの1つでサーバーに再リンクする。
- クライアントおよびサーバーの両方の認証を無効にする。

TNS-12640 認証アダプタの初期化に失敗しました。

原因: サービスの認証表エントリに指定された機能が失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12641 認証サービスが初期化に失敗しました。

原因: 初期化中に、認証サービスが失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12642 セッション・キーがありません。

原因: 使用されている認証サービスがセッション・キーを使用していないため、プロセスに対応するセッション・キーがありません。

処置: セッション・キーが必要な場合は、他の認証サービスを使用してください。

TNS-12643 クライアントがサーバーから内部エラーを受信しました。

原因: クライアント・プロセスが、SQL*Net ネイティブ・サービスの内部エラーが発生したことを示すエラーをサーバーから受信しました。

処置: 両方のプロセスのトレースをオンにして、問題を再現してください。問題が再現したら、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12644 認証サービスの初期化に失敗しました。

原因: ルーチンが認証アダプタの初期化の呼出しに失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。メモリー不足が原因である可能性があります。

TNS-12645 パラメータが存在しません。

原因: 値が必要な SQLNET.ORA パラメータがありません。

処置: パラメータ・ファイルのパラメータを設定してください。

TNS-12646 ブール・パラメータに無効な値が指定されました。

原因: パラメータに、TRUE/FALSE または ON/OFF 以外の値が設定されました。

処置: パラメータの値を修正してください。

TNS-12647 認証が必要です。

原因: 認証が必要かどうかを制御するパラメータに TRUE が設定されましたが、実行可能ファイルにリンクしている認証サービスがありません。

処置: 認証サービス・アダプタと実行可能ファイルを再リンクするか、パラメータを無効にしてください。

TNS-12648 暗号化またはデータ整合性アルゴリズム・リストが空です。

原因：SQL*Net list-of-algorithms パラメータが空（たとえば、「()」）でした。

処置：リストを変更して、インストールされたアルゴリズムから 1 つ以上を指定してください。インストールされたすべてのアルゴリズムが該当する場合は、リスト全体を削除してください。

TNS-12649 不明な暗号化またはデータ整合性のアルゴリズムです。

原因：SQL*Net list-of-algorithms パラメータに承認されていないアルゴリズム名が含まれています。

処置：アルゴリズム名を削除するか、綴りの誤りを修正するか、または欠落しているアルゴリズムのドライバをインストールしてください。

TNS-12650 共通の暗号化またはデータ整合性アルゴリズムがありません。

原因：クライアントとサーバーに、共通の暗号化またはデータ整合性（あるいはその両方）のアルゴリズムがありません。

処置：オーバーラップするアルゴリズムのセットを選択してください。サーバー・リストにクライアントのアルゴリズムを選択して追加するか、その逆を行ってください。

TNS-12651 暗号化またはデータ整合性アルゴリズムが受諾不能です。

原因：サーバーが暗号化またはデータの整合性に使用するために選択したアルゴリズムは、クライアントに認められる選択ではありません。これは、内部エラー、ネットワーク・データの送信エラー、または送信データが誤って書き換えられたことによるものです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして操作を再実行し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12652 文字列が切り捨てられました。

原因：文字列に十分なメモリーが割り当てられていないため、切り捨てられます。

処置：文字列を切り捨てても問題のない場合は、エラーにはなりません。そうでない場合は、より大きなバッファでエラーを通知したルーチンを再コールしてください。

TNS-12653 認証制御機能に障害が発生しました。

原因：認証サービス・ドライバによって利用される制御機能が失敗しました。

処置：トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12654 認証変換に失敗しました。

原因：認証サービスが、ユーザーの資格証明を特定の書式から Oracle 形式に変換できませんでした。

処置：トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12655 パスワード・チェックに失敗しました。

原因: 使用中の認証サービスが、指定されたパスワードを検証できません。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12656 暗号チェックサムが不適当です。

原因: 受入れデータの packets で受信した暗号のチェックサムが、受信の終わりで計算したチェックサムと一致していませんでした。packets が書き換えられたか、または通信中に破損した可能性があります。

処置: データが破損したソースを調べてください。誤って書き換えられている可能性があります。

TNS-12657 アルゴリズムがインストールされていません。

原因: サービスのアルゴリズムがインストールされていないのに、接続でそのサービス（暗号またはチェックサムのどちらか）の使用が要求されました。

処置: そのサービスの ON 要件を削除してください。

TNS-12658 ANO サービスが必要ですが、TNS バージョンには互換性がありません。

原因: 前のバージョンの TNS を実行しているクライアント・プロセスが接続しようとしたが、サーバー・プロセスで ANO サービス（認証、暗号化など）が必要だったため、接続に失敗しました。

処置: コールする実行可能ファイルを再リンクして接続を再試行するか、サーバー側で使用するサービス要件を削除してください。

TNS-12659 他のプロセスからエラーを受信しました。

原因: 接続の反対側のプロセスのサービスから 1 つ以上のエラーを受け取りました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。サーバーが生成するエラーはクライアント側では意味がなく、またクライアントが生成するエラーはサーバー側では意味がないため、エラーは直接戻されません。

TNS-12660 暗号化または暗号チェックサム・パラメータに互換性がありません。

原因: 接続の一方が、暗号化または暗号チェックサムに「REQUIRED」を指定していますが、もう一方は、「REJECTED」を指定しています。

処置: 暗号化または暗号チェックサムが必須でない場合は、「REQUIRED」側を「REQUESTED」に変更してください。そうでない場合は、「REJECTED」側を「ACCEPTED」に変更してください。

TNS-12661 使用されているプロトコル認証。

原因: SQL*Net 認証サービスが、使用中の SQL*Net 通信プロトコルをユーザーの ID 認証に使用可能と判断しました。

処置: このエラーは、認証サービスと SQL*Net セッション・レイヤーの間で情報を通信するためのみに使用され、通常、ユーザーには表示されません。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12662 プロキシ・チケットの検索に失敗しました。

原因: SQL*Net に使用される認証アダプタが、データベース・リンクの認証に必要な資格証明の検索に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。

TNS-12663 クライアントに必要なサービスがサーバーで使用可能ではありません。

原因: サーバー・プロセスに必要なサービスが、クライアント・プロセスで使用できませんでした。

処置: クライアントに必要なサービスを使用できるようにサーバーを構成してください（この方法をお薦めします）。または、クライアントの構成ファイルから要件を削除してください（これは、安全性が最も低い方法です）。

TNS-12664 サーバーに必要なサービスがクライアントで使用可能ではありません。

原因: クライアント・プロセスに必要なサービスが、サーバー・プロセスで使用できませんでした。

処置: サーバーに必要なサービスを使用できるようにクライアントを構成してください（この方法をお薦めします）。または、サーバーの構成ファイルから要件を削除してください（これは、安全性が最も低い方法です）。

TNS-12665 NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: 固有サービスが、各国語対応コンポーネントで使用できる文字列を作成できません。

処置: 各国語対応コンポーネントが適切かどうかを確認してください。適切な場合は、トレースを使用可能にして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問題を連絡してください。

TNS-12666 専用サーバー: アウトバウンド・トランスポートのプロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 専用サーバー（データベース・リンク）から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と異なるプロトコルが指定されています。SQL*Net は、専用サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

処置: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを、SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

TNS-12667 共有サーバー: アウトバウンド・トランスポート・プロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 共有サーバー（データベース・リンク）から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と異なるプロトコルが指定されています。SQL*Net は、共有サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

処置: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを、SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

TNS-12668 専用サーバー: アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因: 専用サーバー（データベース・リンク）から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

処置: SQL*Net 接続文字列または外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。

注意: SQL*Net の制限のため、プロキシ接続では、クライアントからサーバーへの接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを使用する必要があります。

TNS-12669 共有サーバー: アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因: 共有サーバー（データベース・リンク）から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

処置: SQL*Net 接続文字列または外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。

注意: SQL*Net の制限のため、プロキシ接続では、クライアントからサーバーへの接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを使用する必要があります。

TNS-12670 ロール・パスワードが正しくありません。

原因: ロールに指定されたパスワードは、認証サービスによって、有効と認められませんでした。

処置: 正しいパスワードを指定してください。

TNS-12671 共有サーバー: アダプタがコンテキストの保存に失敗しました。

原因: マルチスレッド・サーバーを使用してプロキシ接続（データベース・リンク）に必要なデータを保存するときに、認証サービスのアダプタが失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。原因が不明な場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12672 データベースのログオンに失敗しました。

原因：使用中の認証サービス・アダプタが、ユーザーのログオンを検証しているときにエラーを検出しました。

処置：トレースを使用可能にし、アダプタが検出したエラーの原因を調べてください。

TNS-12673 専用サーバー：コンテキストが保存されていません。

原因：専用サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

処置：通常、このエラーはユーザーには表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12674 共有サーバー：プロキシ・コンテキストが保存されていません。

原因：共有サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

処置：通常、このエラーはユーザーには表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12675 外部ユーザー名は使用できません。

原因：使用中の認証サービスが Oracle サーバーのユーザーの外部名を戻しませんでした。これは、まだ外部ユーザー名がサービスに使用できないためです。

処置：これは単なる情報メッセージであり、通常、ユーザーには表示されません。エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12676 サーバーはクライアントから内部エラーを受信しました。

原因：サーバー・プロセスが、SQL*Net 固有サービスの内部エラーが発生したことを示すエラーをクライアントから受信しました。

処置：両方のプロセスのトレースをオンにして、問題を再現してください。問題が再現したら、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12677 認証サービスはデータベース・リンクでサポートされません。

原因：プロキシ接続（データベース・リンク）によって使用される認証サービスが、認証メカニズムのリストからクライアントが使用するアダプタを見つけることができませんでした。

処置：データベース・リンクに使用されるクライアントとサーバーで共有する認証アダプタを指定してください。

TNS-12678 認証は使用禁止になっていますが必要です。

原因: SQL*Net 認証を使用禁止にするかどうかを制御する構成パラメータが、両方とも TRUE に設定されています。

処置: パラメータは両方とも FALSE に設定してください。

TNS-12679 他のプロセスで固有サービスが使用禁止になっていますが必要です。

原因: リモート・プロセスは固有サービスを使用禁止にしましたが、ローカル・プロセスは要求しています。

処置: リモート・プロセス上の固有サービスを使用可能にするか、それらをローカルで使用禁止にしてください。

TNS-12680 固有のサービスが使用禁止になっていますが必要です。

原因: プロセスは固有サービスを使用禁止にしましたが、1 つ以上のサービスが要求されています。

処置: 固有サービスを使用可能にするか、使用可能なサービスが要求されないように構成ファイルを変更してください。

TNS-12681 ログインに失敗しました: SecurID カードに PIN コードがありません。

原因: Oracle へのログインに使用された SecurID カードには、PIN コードが割り当てられていません。

処置: Security Dynamics 社製のプログラムの 1 つを使用して、カードに PIN コードを割り当ててください。

TNS-12682 ログインに失敗しました: SecurID カードは次の PRN モードにあります。

原因: SecurID カードと SecurID サーバーの同期が取れていません。サーバーは、カードを再度同期化するために、次のカード・コードを必要としています。

処置: Security Dynamics 社製のプログラムの 1 つを使用して、SecurID カードを再度同期化してください。

TNS-12683 暗号化 / 暗号チェックサム: Diffie-Hellman シードがありません。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルに、sqlnet.crypto_seed パラメータがありません。

処置: 次の行を SQLNET.ORA に追加してください。

```
sqlnet.crypto_seed = "randomly-chosen text"
```

TNS-12684 暗号化 / 暗号チェックサム: Diffie-Hellman シードが小さすぎます。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルの sqlnet.crypto_seed パラメータが小さすぎます。

処置: Oracle Net Assistant を使用するなどして、ランダムに選択したテキストをパラメータに追加してください。

TNS-12685 リモートに必要な固有サービスが、ローカルにありません。

原因：リモート・サービスでは固有サービスが要求されましたが、固有サービスはローカルでは使用禁止になっています。

処置：固有サービスをローカルで使用可能にするか、固有サービスが要求されないように、リモート・ホスト上の構成パラメータを変更してください。

TNS-12686 サービスに指定されたコマンドが無効です。

原因：存在しない操作が固有サービスに指定されました。これはプログラム・エラーであり、通常、ユーザーには表示されません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12687 データベース・リンクに失敗しました：資格証明が期限切れになりました。

原因：要求されたデータベース・リンクでユーザーの認証に使用された資格証明が期限切れになりました。

処置：新しい資格証明を使用してください。方法は、ご使用の Network Authentication Adapter のドキュメントを参照してください。

TNS-12688 ログインに失敗しました：SecurID サーバーが新規 PIN コードを拒否しました。

原因：Secur ID サーバーが PIN コードを拒否する場合、次の原因が考えられます。

- ユーザーに自分の PIN コードを構成する権限がない。
- PIN コードが長すぎるか短すぎる。有効な PIN コードの構成は 4 ～ 8 文字。
- PIN コードに英数字以外の文字が含まれている。

処置：操作を再実行して、これらの要件を満たす PIN コードを使用しているかどうかを確認してください。エラーが繰り返される場合は、接続の Oracle サーバー側のトレースをオンにし、トレース・ファイルでエラーの原因を調べてください。

TNS-12689 サーバー認証が必要ですが、サポートされません。

原因：この接続でサーバー認証が必要になりましたが、接続の両側によってサポートされていません。

処置：接続の両側に正しいバージョンの Secure Network Service があることを確認してください。また、認証アダプタがサーバー認証をサポートすることを確認してください。

TNS-12690 サーバー認証に失敗しました。ログインは取り消されました。

原因：サーバー認証が必要になりましたが、サーバーの資格証明がクライアントによって無効になっていました。

処置：サーバーに有効な設定の資格証明があることを確認してください。方法は、認証アダプタのドキュメントを参照してください。

TNS-12696 暗号化オプションの両方がオンになっています。ログインできません。

原因：ASO 暗号化オプションおよび暗号化オプションがオンになっている保護プロトコル・アダプタが使用されました。

処置：可能な場合、ASO 暗号化オプションまたはプロトコル・アダプタ暗号化オプションをオフにしてください。方法は、『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-12699 固有サービスの内部エラーです。

原因：固有サービスで内部エラーが発生しました。

処置：トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Oracle Names Client メッセージ (NNC)

NNC-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNC-00001 最大数の接続が既にオープンされています。

原因：使用可能なすべてのネーム・サービス接続で要求を処理しています。

処置：ネーム・サーバーの実行中に問題が発生した場合、
NAMES.MAX_OPEN_CONNECTIONS の値を増やしてください。クライアント・プログラムで問題が発生した場合、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00002 ストリーム *string* のリスニングでエラーが発生しました。

原因：ネーム・サーバーが指定されたアドレスでリスニングすることを要求されましたが、失敗しました。アドレスが違っているか、インストールされていない SQL*Net プロトコル・アダプタを使用したためです。

処置：アドレスが正しい形式で指定され、システムにインストールされているプロトコル・アダプタを使用していることを確認してください。

NNC-00003 ストリーム *string* のオープンでエラーが発生しました。

原因：ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムで他のサーバーへの接続をオープンしようとして失敗しました。サーバーが停止しているか、そのサーバーへのネットワーク経路が機能していないためと考えられます。通常、このエラーはより詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置：接続先サーバーが正しいアドレスでリスニング中であり、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00004 接続が無効です。

原因: ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムから他のサーバーへの接続にエラーがあります。サーバーが停止したかそのサーバーへのネットワーク経路が機能していないためと考えられます。通常、このエラーはより詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置: 接続先サーバーが正しいアドレスで実行中およびリスニング中であり、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00005 ストリーム・サブシステムを初期化できません。

原因: ネーム・サービス・ストリーム・サブシステムが起動できません。TNS エラー・メッセージ・ファイルが見つからない可能性があります。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

NNC-00050 メッセージ・フォーマット・エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00051 メッセージ内容エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00052 クライアントとサーバー・プロトコルのバージョンが非互換です。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースが、プロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、クライアントとサーバーが様々なプロトコルで通信しようとしている場合に発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを、互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードしてください。

NNC-00053 メッセージの送受信中に ASN.1 エラーが発生しました。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバー・プログラム・インタフェースがメッセージを送信または受信しようとしたが、ASN.1 エラーのために失敗しました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00400 メモリーが足りません。

原因: プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

処置: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NNC-00401 プログラム・インタフェース初期化に失敗しました。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを初期化できません。TNS またはネーム・サーバーのエラー・メッセージのファイルが見つからないためであると考えられます。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

NNC-00402 プログラム・インタフェース初期化解除に失敗しました。

原因: 内部機能によるネーム・サーバーのプログラム・インタフェースの初期化解除中に内部エラーが発生しました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00403 プログラム・インタフェースが初期化されていません。

原因: 内部機能が、まだ初期化されていないネーム・サービスのプログラム・インタフェースを初期化解除しようとした。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00404 供給されたバッファ・サイズ *string* が最小値 *string* より小さいです。

原因: コール側からネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに供給されたメモリー・バッファが、インタフェースの要件に対し小さすぎます。通常、このエラーはより詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00405 ネットワーク障害が発生しました。

原因：クライアント・プログラムとネーム・サーバー間のネットワーク接続に障害が発生しました。サーバーが停止されたか、サーバーへのネットワーク経路が機能を停止しているためと考えられます。通常、このエラーはより詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置：ネーム・サーバー管理者に連絡し、接続先サーバーが使用しているアドレスで実行中およびリスニング中であり、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00406 名前 "string" がありません。

原因：存在していないグローバル名に関連する情報を要求しました。

処置：存在するグローバル名を使用し、失敗した操作を再試行してください。

NNC-00407 名前要求の別名ループです。

原因：グローバル名に関連する情報を取り出そうとするとときに、ネーム・サービスが別名ループを検出しました。別名ループは、別名 X が他の別名 Y を指すとき、その Y もまた、データを含むグローバル名ではなく、X を指している場合に発生します。

処置：ネーム・サーバーの管理者に連絡し、別名ループを調査および修正してもらってください。

NNC-00408 名前 "string" はありますが必要なデータがありません。

原因：グローバル名に関連した情報を要求しました。名前は存在しますが、必要な情報のタイプが含まれていません。

処置：必要な名前が含まれているタイプを使用して、失敗した操作を再試行してください。

NNC-00409 一時名前サービスは使用できません。

原因：クライアントの要求を処理できるネーム・サーバーがないか、ネーム・サーバーが一時的にクライアントの要求を処理できません。通常、この状態は一時的なもので、プログラム・インタフェースがネーム・サーバー要求を発行したが、優先サーバーから適時に応答が返ってこなかった場合に発生します。このような遅延は、一時的にネットワークやネーム・サーバーの負荷が大きい場合に発生します。

処置：操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、クライアントおよび優先ネーム・サーバー間のネットワークが接続されていることを確認し、ネーム・サーバーの管理者に連絡して、ネーム・サーバーが実行中であることを確認してもらってください。

NNC-00410 優先サーバー・アドレス・リストが無効です。

原因：SQLNET.ORA 内の NAMES.PREFERRED_SERVERS パラメータの形式が誤っています。

処置：アドレス・リストが正しい形式になっているかどうか確認してください。

NNC-00411 デフォルト・ゾーン名 "string" が無効です。

原因：SQLNET.ORA の NAMES.DEFAULT_DOMAIN パラメータが無効です。

処置：パラメータの値が有効なグローバル名であることを確認してください。グローバル名に使用できる文字については、ドキュメントを参照してください。

NNC-00412 名前 "string" が無効です。

原因：ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに、無効なグローバル名を処理するように指定されました。

処置：有効なドメイン名を指定してください。エラーの原因が内部機能による場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00413 一般障害が発生しました。

原因：特定のエラー状況には該当しないネーム・サーバーのプログラム・インタフェース・エラーが発生しました。通常、このエラーの後に、より特定された低レベルの情報が表示されます。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00414 名前 - 値文字列 "string" が無効です。

原因：無効な名前 - 値文字列がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な名前 - 値文字列引数で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00415 セクション識別子 *string* が無効です。 *string* から *string* の間に設定してください。

原因：内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースをコールしました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00416 ユーザー・コールバック・ファンクションがエラー番号 *string* を返しました。

原因：内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースをコールしました。通常、このメッセージはユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00417 名前 "string" があります。

原因: コール側が、すでに存在する名前を新しいグローバル名として作成しようとしています。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、まだ存在していない名前で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00418 子がいるので、名前 "string" を変更できません。

原因: コール側でグローバル名を削除または変更しようとしたが、ネーム・スペースでこの名前の下に子の名前があるので変更できません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、リーフ・ノードの名前で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00419 認可サーバーに到達できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーが要求に指定された名前を所有せず、その名前を所有するサーバーの位置が確認できないため、ネーム・サーバー要求を処理できません。通常、このエラーは一時的なもので、要求を受け取るサーバーと要求の最終的な接続先サーバー間の経路が切断されているか、または最終的な接続先が停止しているために発生します。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。通常、エラーは一時的なものなので、通常は失敗した操作を再試行することで解決します。エラーが繰り返される場合は、失敗した操作を処理できるネーム・サーバーが停止しているか、またはアクセスできない状態である可能性があります。ネーム・サーバーの管理者に連絡し、サイトのネーム・サーバーが実行中であり、正しく構成されていることを確認してください。

NNC-00420 操作できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーがそれを処理することが許可されていないため、ネーム・サーバー要求を処理できません。問題が発生するのは、通常、管理者がなんらかの理由で特定のサーバーで要求処理を使用禁止にしたためと考えられます。

処置: ネーム・サーバー管理者に連絡し、要求を処理できなくなっている理由を調べてください。

NNC-00421 修正の指定 *string* が無効です。 *string* から *string* の間に設定してください。

原因：内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースをコールしました。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00422 データ型名 "*string*" が無効です。

原因：ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型名を渡しました。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00423 データ項目構文コード *string* が無効です。

原因：ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型コードを渡しました。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00424 アドレス "*string*" が無効です。

原因：ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なアドレス値を渡しました。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効なアドレス引数で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00425 メタデータ違反です。

原因: コール側が、ネーム・サーバーの変更要求を発行しましたが、データ型メタデータ制約に違反するため、その要求は処理されません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、データ型のメタデータ制約を違反せずに操作してください。典型的な制約違反の例には、新規データ項目をすでに別名情報を持つ名前に追加しようとする、別名情報をすでにその他のデータを持つ名前に追加しようとする、データ項目を誤った構文を持つ他の項目で置換しようとするなどがあります。制御プログラム外でエラーが発生する場合、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00426 データ型が無効です。

原因: コール側でデータ項目を作成しようとしたのですが、そのデータ項目の型が存在しないため作成できません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、現在のデータ型で、操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00427 サーバーがこのバージョンのプロトコルをサポートしていません。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースが、プロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、クライアントとサーバーが様々なプロトコルで通信しようとしている場合に発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを、互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードしてください。

NNC-00428 メタデータのデータ項目が無効です。

原因: 無効なメタデータのデータ項目が、ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効なメタデータ引数で、失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00429 8 進数文字列リテラル "string" が無効です。

原因：無効な 8 進数文字列が、ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な 8 進数文字列引数で失敗した操作を再試行してください。そうでない場合は、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00430 データベースにアクセスできません。

原因：データベースが異なるネーム・サーバー間の一貫性のために使用されるとき、なんらかの変更操作はキャッシュのみでなくデータベースもまた変更します。そのとき、そのデータベースがアクセス不可であると、このエラーが発生します。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、データベースが使用可能なことを確認してから操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00431 NS のアドレスが現行のアドレスのいずれとも一致しません。

原因：ドメインを委任するとき、ネーム・サーバーのアドレスはクライアントによって渡されます。ネーム・サーバーがすでに存在する場合、対応付けられたアドレスがすでにあります。そのため、クライアントによって渡されたアドレスは、すでにあるアドレスの 1 つと一致している必要があります。一致しない場合、エラーが発生します。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除いて、通常、ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用している時にエラーが発生する場合、ネーム・サーバーの既存のアドレスの 1 つを渡すか、または新しいネーム・サーバーにドメインを委任してください。

NNC-00500 警告: "string" パラメータ値は無効です。string に設定します。

原因：指定されたパラメータ値が無効です。

処置：パラメータ値が正しい形式であることを確認してください。ブール・パラメータ値に対する有効な値は TRUE、FALSE、YES、NO、ON および OFF です。

NNC-00501 警告: "string" パラメータ値は number から number の間で設定しなければなりません。number に設定します。

原因：指定したパラメータ値が、無効または有効な範囲境界値を超えています。

処置：エラー・テキストで示されたパラメータ値が、有効な最小値から最大値の間の数値であることを確認してください。

Oracle Names Server メッセージ (NNO)

NNO-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00050 構成データに重大なエラーがあります。サーバーが稼働しません。

原因：サーバーの構成データに問題があるため、サーバーを起動できません。

処置：ログ・ファイルにある前回のエラー・メッセージに、停止の実際の要因が記述されています。この問題は、ネットワーク上に複数の管理領域があり、委任ポイントが正確でない場合に頻繁に発生します。Oracle Names のドキュメントで領域委任に関する項を参照して、その指示に従ってください。

NNO-00051 ドメイン数 *number* が最大数 *number* を超えました。最初の *number* がロードされます。

原因：サーバーの構成に、そのサーバーでサポートできるドメイン数より多いドメインが含まれています。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00052 ドメイン記述リストが無効です。

原因：サーバーの構成に、無効なドメイン記述リストが含まれています。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00053 ドメイン "*string*" の記述が重複しています。

原因：サーバーの構成で、ドメイン記述リストの中に重複したドメインの記述がありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00054 ドメイン名 "string" が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な名前がありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00055 ドメインの最小合計 "string" が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小合計がありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00056 警告: ドメインの最小 TTL は *number* から *number* の間です。 *number* 秒に設定してください。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小 TTL がありました。このエラーは致命的ではありません。サーバーは、自動的に TTL をデフォルト値に設定します。この値は、通常の使用では標準的な値です。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00057 トポロジ・データのロードと検査を行っています。

原因: サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00058 構成データベースからトポロジ・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのトポロジ・データをロードしようとして、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合は、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーは停止します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00059 トポロジ・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00060 チェックポイント・ファイル"*string*" からサーバー・トポロジをロードしています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新のトポロジ・チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00061 ドメイン"*string*" にデータをロードしています。

原因: サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00062 構成データベースからドメイン・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのドメイン・データをロードしようとして、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合は、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーは停止します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00063 ドメイン・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00064 チェックポイント・ファイル"*string*" からドメイン・データをロードしています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新のドメイン・チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00065 チェックポイント・ファイル "*string*" からキャッシュ・データをロードしています。

原因: サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00066 サーバーは、管理領域の再ロード・チェックを *number* 秒後に行ないます。

原因: この情報メッセージは、Oracle Net Assistant または Oracle Names 制御プログラムがサーバーに再ロード要求を送信すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00067 サーバーの再ロード・チェックのカウンタダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された再ロード要求を停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00068 警告: 管理領域の再ロード・チェックが失敗しました。次のチェックは *number* 秒後に行われます。

原因: この警告は、サーバーが構成データが変更されていないかどうかを調べるために構成データベースに接続しようとして失敗したときに、発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを自動的に再発行し、連続 3 日間接続に失敗すると、再発行を停止します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。

NNO-00069 警告: 管理領域の再ロード・チェックの失敗が多すぎるため、チェックは使用不可になりました。

原因: この警告は、サーバーが連続して 3 日間構成データベースに接続できない場合に発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを使用不可にします。再ロード・チェックは、Oracle Net Assistant または Oracle Names 制御プログラムで再び使用可能にすることができます。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00070 管理領域が変更されています。ドメイン・データを再ロードしています。

原因：この情報メッセージは、サーバーの構成データが変更され、サーバーが新しい構成を構成データベースから再ロードすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00071 キャッシュ・チェックポイント・ファイル名を作成できません

原因：サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。

処置：通常、ユーザーには表示されない内部エラーです。詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00072 リージョン・データベースをロードしています

原因：通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：トレースを使用可能にし、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00073 リージョン・データベースからサーバー構成をロードしています

原因：サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00074 サーバー *string* からリージョンをダウンロードしています

原因：サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00080 ドメイン "*string*" は、親が既に委任されているので、委任できません。

原因：内部委任エラーが発生しました。委任は、Oracle Net Assistant によって制御されます。Oracle Net Assistant は、正しい委任ルールを施行します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00081 ドメイン "*string*" にネーム・サーバーがありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Oracle Net Assistant は、Oracle Names Server を正しく構成する必要があります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00082 ドメイン "*string*" に自分の名前 "*string*" がネーム・サーバーとしてありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Oracle Net Assistant は、Oracle Names Server を正しく構成する必要があります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00083 ドメイン "*string*" サーバー "*string*" にアドレスがありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Oracle Net Assistant は、Oracle Names Server を正しく構成する必要があります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00084 ドメイン "*string*" は認証ドメイン・リストにありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Oracle Net Assistant は、Oracle Names Server を正しく構成する必要があります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00104 行 *string*: 構文エラーです。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに構文エラーがありました。このメッセージは、サーバーの内部チェックポイント・ファイルが破損している場合にも表示されます。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00105 行 *string*: 名前 "*string*" は無効です。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに無効なグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00106 行 *string*: TTL "*string*" は無効です。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに無効な TTL がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00107 行 *string*: 古いチェックポイント・データは無視されます。

原因: この情報メッセージは、サーバー起動時に、サーバーのキャッシュ・チェックポイント・ファイルに古くなったキャッシュ・データが見つかった場合に表示されます。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00108 行 *number*: *number* 秒の TTL はドメイン最小値 *number* より小さいです。最小値を使用します。

原因: サーバーのドメイン・データに無効な TTL 値がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00109 行 *string*: データ型名 "*string*" は無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00110 行 *string*: データ型 "*string*" が不明です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに不明なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00111 行 *string*: データ型 "*string*" の構文 "*string*" は "*string*" です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なデータ型構文がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00112 行 *string*: データ型 "*string*" が重複しています。無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに重複したレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00113 行 *string*: 別名データが既に存在しています。他のデータはすべて無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに、同じグローバル名を持つ、別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00114 行 *string*: 別のデータが存在します。別名データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに、同じグローバル名を持つ、別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00115 行 *string*: 単一値のデータ型 "*string*" です。他のインスタンスは無視されました。

原因: 名前および型が同じレコードが複数見つかりましたが、この型は1つの名前にはレコードを1つのみ許可します。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00116 警告: データ型 "*string*"(*string* ロード)

原因: サーバーのドメイン・データにデータ型が無効なレコードがありました。

処置: 処置は必要ありません。データを調整すると、この警告はなくなります。

NNO-00117 行 *string*: データ型がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データにデータ型がないレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00118 行 *string*: データ長 *string* が最長 *string* を超えています。データは無視されました。

原因: 内部制限を超えた長さのレコードが見つかりました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00119 行 *string*: サーバー名 "*string*" に対し権限がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに権限のないグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00120 行 *string*: トポロジ名 "*string*" はここでは、使用できません。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00121 LDIF ファイル *string* のオープンに失敗しました: エラー =*number*

原因: サーバーのドメイン・データに無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

処置: 通常、ユーザーには表示されない内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00122 無効な名前、データが無視されました: エントリ *string*

原因: サーバーのドメイン・データに無効なグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00123 ノード "*string*" には権限を持つ上位ノードがありません、データは無視されます

原因: ドメイン・データのオブジェクトが、サーバーが認可するドメインにありません。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。

処置: データの非一貫性について確認し、認可ドメイン外のトポロジ定義またはドメイン・データのエラーを修正してください。

NNO-00150 警告: ヒント・リストが無効です。ヒントはロードされません。

原因: サーバーの構成に、無効なヒント記述リストが含まれています。サーバーは処理を継続しますが、ヒントはロードされません。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00151 警告: ドメイン "*string*" に対するヒントを無視します。サーバーは認証があります。

原因: サーバーの構成に、サーバーの管理領域のドメインに対するヒントが含まれています。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00152 警告: ヒント数 *number* が最大数 *number* を超えました。最初の *number* がロードされます。

原因: サーバーのヒント・リストにヒントが多すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒントをロードし、残りのヒントは無視して処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00153 警告: ヒント・ドメイン *number* の名前 "*string*" が無効です。ヒント・ドメインは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒント・ドメインに無効な名前がありました。ドメインは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00154 警告: ヒント *number* のサーバー名 "*string*" が無効です。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒントに無効なサーバー名がありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00155 警告: ヒント *number* にアドレスがありません。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、サーバーのアドレスがないヒントがありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00156 警告: ヒント *number* のアドレス長 *number* が最大長 *number* を超えています。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレス長が内部制限を超えているヒントがありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00157 警告: ヒント *number* に無効なアドレスがあります。ヒントは無視されました。

原因: サーバーの構成で、アドレスが無効なヒントがありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00158 警告: ヒント・ドメイン数 *number* が最大数 *number* を超えています。最初の *number* のみロード。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストが長すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒント・ドメインをロードし、残りのヒント・ドメインは無視して処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00159 警告: ヒント・ドメイン *number* 名前 "*string*" は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストに重複したドメインがありました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00160 警告: ヒント・サーバー "*string*" は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・サーバー・リストに重複したサーバーがありました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00250 管理領域の記述が無効です。

原因: サーバーの起動時に、無効な管理領域の記述が見つかりました。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域の記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00251 管理領域パラメータ *string* がありません。

原因: サーバーの管理領域の記述に必要なパラメータがありません。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域の記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00252 管理領域パラメータ *string* の値 "*string*" が無効です。

原因: サーバーの管理領域の記述に無効なパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域の記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00253 管理領域パラメータ *string* の長さ *string* が最大長 *string* を超えています。

原因: サーバーの管理領域の記述に長さが内部制限を超えているパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理領域の記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00254 警告: パラメータ *string* の値は *number* から *number* までです。 *number* 秒に設定します。

原因: サーバーの管理領域の記述に無効な値を持つパラメータがあります。値は、多くのアプリケーションに適したデフォルト値に設定され、サーバーは処理を継続します。管理領域の記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00255 ROS を初期化できません。

原因：サーバーの起動時に ROS が初期化できませんでした。このエラーにより、サーバーは停止しました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00256 管理領域 "string" を使用します。

原因：これは、サーバーの起動時に表示される情報メッセージです。後で管理者が診断にできるように、管理領域の名前が表示されます。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00257 警告：リージョン・ストアからシリアル番号を取得できません

原因：構成データベースのシリアル番号を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合に発生します。このエラーがサーバーの起動時に発生すると、サーバーは停止します。このエラーがサーバーの操作中（再ロード可能かどうかを調べるために、定期的にシリアル番号をチェックしているとき）に発生すると、サーバーは一時的な障害が発生したと判断して、しばらくしてから操作を繰り返します。連続 3 日間失敗すると、サーバーは別のエラーを記録し、シリアル番号のロード操作を停止します。

処置：まず、NETADMIN プログラムがこのネーム・サーバーのサーバー構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。次に、データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。サーバーの起動時にエラーが発生した場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定すると、チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動させることができます。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00258 構成データベースから構成をロードできません。

原因：構成データベースからサーバーの構成をロードしているときに、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合は、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーは停止します。

処置：データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00259 構成表がインストールされていないか、アクセスできません。

原因: 構成データベースが正しくインストールされていません。

処置: Oracle Net Assistant とそのデータベースが正しくインストールされているかどうかを確認してください。

NNO-00260 チェックポイント・ファイル "string" から構成データをロードしています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新の構成チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00261 構成チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00262 警告: チェックポイント・ファイル "string" に書き込めません。

原因: 指定されたチェックポイント・ファイルに書き込むことができません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、チェックポイント・データが作成されません。構成データベースが次のサーバー起動時に使用できない場合、チェックポイント・データがないと、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを使用して、サーバーを強制的に起動させることができません。

処置: エラー・メッセージに示されたファイルに対する書き込み権限がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00263 構成データベースでエラーが発生しました。

原因: 構成データベースへのアクセス中に、エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00264 構成データベース問合せがデータを戻しませんでした。

原因: 構成データベースからデータをフェッチしようとしたましたが、データが見つかりませんでした。

処置: このエラーは、より具体的なエラーの下に示されます。問題の原因は、そのエラーを調べてください。

NNO-00265 警告: チェックポイント・ファイルからデータをロードできません。

原因: チェックポイント・データを使用してサーバーを起動しようとしたましたが、チェックポイント・データが読み込めませんでした。エラー・スタック上のこの後のエラーに、問題についての詳しい説明があります。

処置: エラー・メッセージに示されたファイルが存在するかどうか、サーバーに、そのファイルに対する読取り権限があるかどうかを確認してください。

NNO-00266 構成データベースで文書 "string" が見つかりません。

原因: 構成データベースからサーバーの構成 ID を取得しようとして、エラーが発生しました。このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合に発生します。このエラーが発生すると、サーバーは停止します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00267 警告: サーバー: "string" に対する構成データが構成データベースにありません。

原因: 構成データベースに正しく接続できましたが、このサーバー名に関連する構成情報が見つかりませんでした。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。多くの場合、このエラーはサーバーの構成が NETADMIN プログラムからエクスポートされていないために発生します。

処置: NETADMIN プログラムがこのネーム・サーバーのサーバー構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。

NNO-00268 警告: 構成データベースは使用されておらず、代わりにチェックポイント・データが使用されています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して構成データベースにアクセスせずに、チェックポイント・データを使用してサーバーを起動すると、この情報メッセージが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00269 構成データベースのバージョンは *string* ですが、サーバーには最低、バージョン *string* が必要です。

原因: データベースのバージョンが正しくないため、サーバーは指定された構成データベースを使用できません。

処置: Oracle Net Assistant 提供のドキュメント変換ユーティリティを実行して、ネットワークを再度エクスポートしてください。変換ユーティリティは、古いドキュメントをネーム・サーバーが認識できるバージョンにアップグレードします。

NNO-00270 Oracle エラー *string*

原因: 構成データベースへのアクセス中に Oracle エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Oracle Net Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names Server とデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合は、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合は、サーバーは停止します。

NNO-00271 警告: names.ora 領域のバージョンが *string* ですが、ネットワーク定義のバージョンは *string* です。

原因: NAMES.ORA の領域記述がネットワーク定義と同期が取れていません。

処置: ネットワーク定義を使用してネーム・サーバーが実行できれば、処置は必要ありません。安全のため、ネットワーク定義と一貫性があるように NAMES.ORA を更新しておいてください。

NNO-00272 行 *string*: 無効な DIT/DN です

原因: 領域の記述で、DIT/DN の構文エラーがあります。

処置: エラーを修正し、サーバーを再起動してください。

NNO-00300 リスナー・アドレスが指定されていません。1つ以上必要です。

原因: サーバーの構成でリスナー・アドレスが指定されていません。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00301 *number* 秒後にサーバーが停止します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムから停止要求を受け取ると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00302 サーバーが停止しました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00303 サーバー "*string*" が起動しました。プロセス ID は: *number* です。

原因: この情報メッセージは、サーバーが正常に起動すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00304 リスナー・アドレス *string* の長さ *string* が最大長 *string* を超えています。

原因: サーバーのリスナー・アドレスの中に、長さが内部制限を超えているものがあります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00305 トレース・レベルが *number* から *number* に変更されました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してトレース・レベルを変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00306 サーバーの停止までのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された停止要求を停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00307 サーバー名 "*string*" が無効です。

原因: サーバーの名前が無効です。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.SERVER_NAME パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00308 *number* 秒後にサーバーが再起動します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムから再起動要求を受け取ると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00309 サーバーを再起動しています。

原因: この情報メッセージは、サーバーが再起動すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00310 サーバーの再起動までのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された再起動要求を停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00311 リスナー・アドレスのリストが無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスナー・アドレスのリストがありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00312 リスナー・アドレス *string* が無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスナー・アドレスがありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00313 サーバーのパスワード長 *string* が最大長 *string* を超えています。

原因: サーバーのパスワード長が内部制限を超えています。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00314 トレース・レベルを *number* から *number* に変更中にエラーが発生しました。レベルは変更されません。

原因: Oracle Names 制御プログラムの要求に応答して、トレース・レベルを変更しようとしたときに、エラーが発生しました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00315 サーバーはアドレス *string* でリスナーを実行しています。

原因: この情報メッセージは、サーバーの起動中に、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00316 統計カウンタのリセットが使用不可です。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのリセットを使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00317 統計カウンタのリセット間隔を *number* 秒に変更しました。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのリセット間隔を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00318 次の統計カウンタのリセットを上書きします。 *number* 秒後にリセットします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタをリセットすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00320 サーバー名パラメータがありません。

原因：NAMES.SERVER_NAME パラメータがありません。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。

処置：NAMES.ORA の NAMES.SERVER_NAME パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Oracle Net Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00321 統計カウンタのダンプが使用不可です。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計のダンプを使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00322 統計カウンタのダンプ間隔を *number* 秒に変更しました。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのダンプ間隔を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00323 次の統計カウンタのダンプを上書きします。 *number* 秒後にダンプを実行します。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタをダンプすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00326 サーバーの統計カウンタのダンプが続きます。

原因: この情報メッセージは、統計カウンタのダンプの開始時にログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージの後には一連のサーバーの統計が表示され、最後にダンプの終了を示す別の情報メッセージが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00327 サーバーの統計カウンタのダンプが終了します。

原因: この情報メッセージは、統計カウンタのダンプの終了時にログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージの前には一連のサーバーの統計が表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00328 サーバーが統計カウンタを 0 にリセットします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタを 0 にリセットすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00329 *number* 秒でサーバーに構成ファイルが保存されます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して構成を構成ファイルに保存すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00330 サーバーに config ファイル "*string*" が保存されました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して構成を config ファイルに保存すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00331 新規の値 *string* の *string* は、構成保管表への保存時にエラーが発生しました。

原因: この情報メッセージは、集合演算が実行され、その変更の保存先である構成保管表に保存できない場合に、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00332 警告: リージョンではシリアル番号は *number* から *number* に削減して格納されます。

原因: この情報メッセージは、リージョン・データベースのシリアル番号が、サーバーが前回リージョン・データをロードしたときのシリアル番号よりも小さいことをサーバーが発見すると、ログ・ファイルに書き込まれます。通常は、リージョンが更新されるたびにシリアル番号は増加するはずなので、これは不自然な状況です。このリージョン・データベースまたは他のリージョン表に対して、不正な変更または手動で偶発的な変更が行われ、その結果としてシリアル番号が削減された可能性があります。

処置: 管理者は、シリアル番号が減少した原因を調べてください。

NNO-00333 警告: ROS admin_region 型は廃止です; SQL を使用します。

原因: names.admin_region に設定された値は、廃止された ROS 型です。

処置: 処置は必要ありません。管理者は、値を適切な型 (SQL、LDAP または LDIF) に設定してください。

NNO-00334 リージョン・ロード障害: ROS admin_region 型 number はサポートされていません。

原因: names.admin_region に設定された値は、廃止された ROS 型です。

処置: 処置は必要ありません。管理者は、適切な型 (SQL、LDAP または LDIF) に値を設定してください。

NNO-00600 警告: 転送先の数 number が最大数 number を超えています。最初の number をロードします。

原因: サーバーの構成で、デフォルトの転送先が多すぎます。サーバーは、指定された最大数の転送先をロードしますが、残りの転送先は無視して処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00601 警告: 転送先はありません。「デフォルトの転送先のみに転送」は無視されます。

原因: サーバーの構成で「デフォルトの転送先のみに転送」が使用可能になっていましたが、デフォルトの転送先がありませんでした。サーバーは要求を無視し、処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00602 警告: 転送先 number に無効なアドレスがあります。転送先は無視されます。

原因: デフォルトの転送先リストの中に、アドレスが無効な転送先がありました。転送先定義は無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00603 すべての要求処理を可能にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求処理を可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00604 すべての要求処理を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求処理を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00605 変更要求を使用可能にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して変更要求を使用可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00606 変更要求を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して変更要求を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00607 サーバーはデフォルトの転送先のみに転送します。

原因: この情報メッセージは、サーバーの構成で「デフォルトの転送先のみに転送」が使用可能なときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00608 受取ったメッセージが壊れています。

原因: サーバーが、壊れた要求を受け取りました。要求は無視されます。

処置: 一時的なネットワーク上の問題により、要求が壊れています。壊れたメッセージを多く受け取った場合は、トレースをオンにして、詳しい情報を入手してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00609 警告: 転送先 *number* のアドレス長: *number* が最大長: *number* を超えています。転送先は無視されます。

原因: サーバーの構成に、アドレス長が内部制限を超えている転送先があります。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00610 名前 "*string*" を含む別名でループが発生している可能性があります。

原因: サーバーが、指定された名前を含む別名ループを検出しました。ある別名「X」が他の別名「Y」を指していて、それがアドレスや他のネーム・サーバーのデータではなく、「X」を指していると、別名ループが発生します。このループには複数のホップが含まれている場合もありますが、基本的には同じです。管理者がネットワーク・データの入力を誤ったり、ある管理領域の別名が他の管理領域のデータを指している場合に、ループが発生します。

処置: Oracle Names 制御プログラムを使用して、指定された名前を問い合わせてください。制御プログラムは別名パスを記述するので、この情報を使用して、正しくない名前および誤ったデータのある管理領域を見つけてください。

NNO-00611 「要求の転送」を使用不可にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求の転送を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00612 「要求の転送」を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求の転送を使用可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00613 システム問合せの「要求の転送」を使用不可にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで「要求の転送」属性を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00614 システム問合せの「要求の転送」を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで「要求の転送」属性を使用可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00615 「デフォルトの転送先のみに転送」を使用不可にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して「デフォルトの転送先のみに転送」を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00616 「デフォルトの転送先のみに転送」を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して「デフォルトの転送先のみに転送」を使用可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00617 システム問合せの「高信頼度を要求」を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで「高信頼度を要求」属性を使用可能にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00618 システム問合せの「高信頼度を要求」を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで「高信頼度を要求」属性を使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00622 警告: 名前: "string" の自動リフレッシュの失敗が多すぎます。問合せは時間切れです。

原因: 自動リフレッシュ問合せが発行されて、連続して 3 日間エラーが戻されると、自動リフレッシュ・キューから問合せが削除され、警告がログに書き込まれます。この問合せは、Oracle Names 制御プログラムから再起動することができます。

処置: このメッセージの前に出された数値の警告が、失敗した問合せを示しています。Oracle Names 制御プログラムを使用して、失敗した問合せを調べてください。問合せを要求されたサーバーが稼働しているかどうか、問合せを発行したサーバーと要求されたサーバーの間でネットワーク接続が確立しているかどうかを確認してください。

NNO-00623 自動リフレッシュ再試行間隔を *number* 秒に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュ再試行間隔を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00624 自動リフレッシュ時間切れ期間を *number* 秒に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュ時間切れ期間を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00625 名前 "string" タイプ "string" の自動リフレッシュを上書きします。 *number* 秒後にリフレッシュを実行します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが次の自動リフレッシュ問合せの発行時間を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00626 「デフォルトの転送先のみに転送」を使用可能にできません。デフォルトの転送先がありません。

原因: Oracle Names 制御プログラムが、「デフォルトの転送先のみに転送」を使用可能にするために要求を発行しましたが、サーバーにデフォルトの転送先がないため、要求は無視されました。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00627 名前 "string" タイプ "string" の自動リフレッシュを取り消します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュ・キューから問合せを削除すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00628 問合せ当りの最大再転送を *number* に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して最大再転送数を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00629 警告: 転送先リストが無効です。デフォルトの転送先がロードされていません。

原因: サーバーの構成に、無効な転送先記述リストが含まれています。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00630 要求処理遅延を *number* 秒に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して人工的な要求処理遅延を設定すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00631 警告: フォワーダ: *number* の名前: "string" が無効です。フォワーダは無視されます。

原因: サーバーの構成で、サーバー名が無効なフォワーダ記述がありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00632 警告: 転送先: *number* にアドレスがありません。転送先は無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスのない転送先記述がありました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00633 サーバー "string" を含む致命的委任ループが発生しています。

原因: 要求の先送り中に、致命的委任ループが検出されました。サーバーのトポロジ・データで要求自身への先送りが指定されていると、ループが発生します。このエラーが発生すると、サーバーはすぐに停止します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00634 認証名 "string" を受け取りましたが、既に認証があります。

原因：サーバー「X」が別のサーバー「Y」から認証データを受け取りましたが、サーバー「X」は、そのデータの認証をすでに持っていました。サーバー「X」が要求されたデータの認証を持っている場合は、要求を別のサーバーに先送りしないため、このような状況は発生しません。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00635 警告: 重複したフォワーダ: "string" を無視します。

原因：サーバーのデフォルト・フォワーダ・リストに重複したサーバーが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00700 警告: キャッシュをチェックポイントできません。number 秒後に再試行します。

原因：通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・チェックポイント・ファイルに書き込めない可能性があります。サーバーの起動時に、キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

処置：キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書込み権限がサーバーにあり、ファイルに書き込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

NNO-00701 警告: チェックポイント・ファイル名を作成できません。チェックポイントは使用不可です。

原因：サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00702 キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュ・チェックポイントを使用不可にすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00703 チェックポイント間隔を *number* 秒に変更します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュ・チェックポイント間隔を変更すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00705 警告: チェックポイント・ファイル: "*string*" をオープンできません。使用不可です。

原因: 指定されたチェックポイント・ファイルがオープンできないため、書き込めません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、キャッシュはチェックポイントされません。

処置: エラー・メッセージに示されたファイルに対する書き込み権限がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00706 次のキャッシュ・チェックポイントを上書きします。 *number* 秒後にチェックします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュをチェックポイントすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00707 サーバーのキャッシュは *number* 秒後にフラッシュされます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュをフラッシュすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00708 キャッシュ・フラッシュのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信されたキャッシュ・フラッシュ要求を停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00709 キャッシュ・チェックポイント・ファイル "*string*" の削除が失敗しました。

原因: サーバーがキャッシュをフラッシュ（キャッシュ・チェックポイント・ファイルを削除）しようとして失敗しましたが、キャッシュ・フラッシュの残りの処理が行われました。付随するエラーに、削除に失敗した理由が示されます。

処置: キャッシュ・フラッシュ操作の後にキャッシュ・チェックポイント操作（この操作でファイルが再作成されます）を行わずに、再度キャッシュ・フラッシュを行うと、このエラーが発生します。最初にキャッシュ・ファイルが削除されるので、次の操作で削除しようとするエラーが発生します。このような場合、致命的なエラーではないため、メッセージを無視してもかまいません。ただし、サーバーにファイルの削除権限がないためにエラーが発生している場合は、サーバーがファイルを削除できるようにファイル・システムの権限を変更してください。

NNO-00710 サーバーのキャッシュは *number* 秒後にトレース・ファイルにダンプされます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してトレース・ファイルにキャッシュをダンプすると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00711 キャッシュ・ダンプのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信されたキャッシュ・ダンプ要求を停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00712 警告: グループ *string* キャッシュ・ポイントチェックが失敗しました。

原因: 通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・チェックポイント・ファイルに書き込めない可能性があります。サーバーの起動時に、キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

処置: キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書込み権限がサーバーにあり、ファイルに書き込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

NNO-00800 エラー: 構成データベースからバージョンを読み込めません。

原因: リージョン・データベースのバージョンに対する問合せに失敗しました。データベースが停止されているか、または表が NAMES.ORA に指定したスキーマ内に存在しません。

処置: 必要に応じてアクセス問題を修正してください。

NNO-00801 エラー: OCI_SUCCESS_WITH_INFO: *string*

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、OCI から診断情報が戻されました。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00802 エラー: OCI_NEED_DATA

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、サーバーが十分な OCI インタフェースへのデータを戻しませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00803 エラー: OCI_INVALID_HANDLE

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、サーバーが無効なハンドルで OCI をコールしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00804 エラー : OCI_STILL_EXECUTE

原因 : サーバーとデータベース間の OCI 操作が進行中です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNO-00806 エラー : OCI_ERROR: *string*

原因 : リージョン・データベースへのアクセス中に OCI エラーが発生しました。詳細はログ・ファイルに書き込まれます。

処置 : ログ・ファイル内の適切なエントリを見つけて、可能な場合は障害の原因を修正してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00807 フェッチの終了 : OCI_NO_DATA

原因 : すべての行は、リージョン表から戻されます。

処置 : 処置は必要ありません。

NNO-00850 エラー : LDAP の問合せで *string* が返されました

原因 : LDAP API からエラーが戻されました。詳細はログ・ファイルに書き込まれます。

処置 : ログ・ファイル内の適切なエントリを見つけて、可能な場合は障害の原因を修正してください。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00851 LDAP のオープン / バインドに失敗しました : エラー = *number*

原因 : サーバーが、LDAP ディレクトリへの接続に失敗しました。

処置 : エラーの原因を調べて修正し、サーバーを再起動してください。

NNO-00852 LDAP エントリの取得に失敗しました : エラー = *number*

原因 : サーバーが、LDAP API から問合せエントリを検出できませんでした。

処置 : エラーの原因を調べて修正し、サーバーを再起動してください。

NNO-00853 LDAP 属性 / 値の取得に失敗しました : エラー = *number*

原因 : サーバーが、LDAP ディレクトリへの接続に失敗しました。

処置 : エラーの原因を調べて修正し、サーバーを再起動してください。

NNO-00854 LDAP のアンバインド中にエラーが発生しました : エラー = *number*

原因 : サーバーが、LDAP ディレクトリへの接続に失敗しました。

処置 : エラーの原因を調べて修正し、サーバーを再起動してください。

Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)

NNL-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00001 要求引数 "*string*" は無効です。

原因：ユーザーが無効な要求コマンド引数を入力しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00002 要求引数 "*string*" はこの操作で使用できません。

原因：ユーザーが特定の要求コマンドでは有効でない要求コマンド引数を指定しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00003 メモリーが足りません。

原因：プログラムのメモリーが足りません。

処置：マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確認してください。必要に応じて、実行するプログラム数を少なくしてメモリーを解放し、再試行してください。

NNL-00004 コマンド引数 "*string*" が無効です。

原因：ユーザーが無効なコマンド引数を入力しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00005 サーバーが設定されていません。まず、"SET SERVER" コマンドを使用してサーバーを設定してください。

原因：デフォルト管理の Oracle Names Server を最初に設定する必要があるコマンドを発行しようとしてしました。

処置：SET SERVER コマンドを使用してデフォルト・サーバーを設定し、コマンドを再発行してください。また、コマンドが許可した場合、特定のサーバー名で再発行してください。そうすれば制御プログラムがデフォルトを使用する必要はありません。

NNL-00006 タイムアウトが発生しました。サーバーが応答しません。

原因：制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、適時に応答がありませんでした。制御プログラムとサーバー間のネットワーク接続が不正であるか、サーバーに非常に大きな負荷がかかっているか、または制御プログラムとサーバー間に重大なネットワークの遅延がある可能性があります。後者は特に WAN に該当します。

処置：コマンドを再発行してください。エラーが繰り返される場合は、管理されているサーバーが正しく稼働し、サーバーと制御プログラム間のネットワーク接続が正しく作動していることを調べてください。

NNL-00007 サーバーの応答でエラーが発生しました。

原因：制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーがエラーで応答しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00008 サーバーが要求を認識しません。

原因：制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーが要求を認識できませんでした。

処置：サーバーおよび制御プログラムが異なるバージョンの場合、交信できません。バージョンの互換性の制約は、ドキュメントを確認してください。サーバーが制御プログラムと互換性がある場合は、トレースをオンにして詳細を表示し、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00009 サーバー・パスワードの暗号化に失敗しました。

原因：制御プログラムが SET PASSWORD コマンドまたは NAMESCTL.SERVER_PASSWORD 構成パラメータで指定されたサーバー・パスワードを暗号化しようとして失敗しました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00010 サーバー "*string*" のアドレス取得中にエラーが発生しました。

原因: 制御プログラムがサーバー名を対応するアドレスに変換しようとしたが、失敗しました。このエラーの原因は多数考えられます。制御プログラムの `SQLNET.ORA` ファイルはシステム固有の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ

`NAMES.PREFERRED_SERVERS` エントリを含む必要があります。ユーザーが `SET SERVER` コマンドで管理するサーバーを変更した場合、新規サーバーが稼働している必要があり、アドレスを解決できるか、またはアドレスを解決できる別のサーバーに要求を転送する必要があります。または、有効なネーム・サーバー名を持つ `TNSNAMES.ORA` ファイルがシステム固有の正しい位置に存在する必要があります。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00011 "*string*" という名前のサーバーはありません。

原因: ユーザーが `SET SERVER` 要求を発行しましたが、現在、管理されている Oracle Names Server はその名前をアドレスに変換できませんでした。または、ユーザーが制御プログラム要求を特定のサーバーに発行しましたが、サーバーの名前はアドレスに変換できませんでした。通常、どちらの問題もサーバーの入力ミスによって発生します。

処置: 有効なサーバー名を指定して、要求を再発行してください。

NNL-00012 "*string*" は無効です (値 "*string*").

原因: 最初の引数はデータ型で、2 番目は値です。ユーザーは指定された型に対して無効なデータ値を受け渡しました。

処置: 正しいデータを使用して、失敗した操作を再発行してください。

NNL-00013 実行されませんでした。入力されたパスワードに対する許可はありません。

原因: ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、この要求で渡されたパスワードが正しくありませんでした。

処置: 制御プログラムによってサーバーに送信されるパスワードがそのサーバーに対して正しいことを確認してください。SET PASSWORD 制御プログラムのコマンドで新しいパスワードを設定できます。

NNL-00014 データ型 "*string*" は不明です。

原因: 不明なデータ型を含むネーム・サーバー要求が発行されました。

処置: サーバーには型情報がないにもかかわらず、失敗した要求に反応してそれを自動的にフェッチした可能性があります。失敗した要求を再発行してください。その間サーバーが適切なデータ型情報をフェッチした場合、エラーは消滅します。エラーが繰り返される場合、データ型が無効である可能性があります。

NNL-00015 型 "string" に "string" 構文がありますが、テキスト表現がありません。

原因: すべてのデータ型構文がテキストとして表現されるわけではありません。このメッセージは、ユーザーが非テキスト表示の型にネーム・サーバー要求を発行したことを示しています。

処置: テキスト表現の構文を持つデータ型で操作を再発行してください。

NNL-00016 サーバーを起動できません。プログラムのディレクトリ名を取得中にエラーが発生しました。

原因: ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールがあるディレクトリ名を検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00017 サーバーを起動できません。プログラム "string" がありません。

原因: ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールを検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。

処置: システムの Oracle 実行モジュール・ディレクトリに、サーバー実行モジュールが存在することを確認してください。

NNL-00018 警告: デフォルトのネーム・サーバーにコンタクトできません。

原因: 起動中に、制御プログラムがそのデフォルト・ネーム・サーバーに交信できませんでした。このエラーの原因はいくつか考えられます。制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステム固有の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み取り可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリを含む必要があります。また、優先サーバー・リストの最初のサーバーが稼働し、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。

処置: 前述の条件を満たしていることを確認してください。条件を満たしていても、制御プログラムがそのデフォルト・サーバーに交信できない場合、トレースをオンにして制御プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00019 警告: サーバーが要求を変更したか、無視しました。

原因: ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、要求がなんらかの形で変更されました。通常は、ユーザーが無効な引数を指定したために、サーバーが要求を無視したか、または無効な引数を適切なデフォルトと置換した場合が考えられます。

処置: 制御プログラムを使用して、変更する値の現在の状態を確認してください。サーバーのログ・ファイルが問題の確かな原因についての情報を含んでいる可能性もあります。操作を正しい引数で再発行してください。

NNL-00020 警告: TNSNAMES.ORA ファイルが存在せず、SQLNET.ORA には優先ネーム・サーバーが指定されていません。

原因: 制御プログラムが TNSNAMES.ORA ファイルを検索できず、デフォルト・ネーム・サーバーを SQLNET.ORA で検索できませんでした。制御プログラムはこの状態でも操作しますが、デフォルト・サーバーを設定するまでは名前を解決できません。さらに、サーバーの設定には TNS アドレスを使用する必要があります。

処置: 制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステム固有の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリを含む必要があります。優先サーバー・リストの最初のサーバーが稼働し、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。または、有効なネーム・サーバー情報を持つ TNSNAMES.ORA ファイルがシステム固有の正しい位置に存在する必要があります。

NNL-00022 *string* から *string* ヘトレース・レベルを変更中にエラーが発生し、レベル変更は無視されました。

原因: 制御プログラムのローカル・トレース・レベルを変更しようとしたが、レベルの変更中に、プログラムがエラーを表示しました。通常は、(トレース・レベルを OFF から別のものに変更して) トレースを初めてとるとき、そのトレース・ファイルが制御プログラムから書き込み不可能になっている場合に問題となります。

処置: トレース・ファイルが書き込み可能であることを調べてください。トレース・ファイル名は、ドキュメントを参照してください。

NNL-00023 SET コマンドに引数がありません。

原因: 引数を指定せずに SET コマンドを発行しようとした。

処置: 有効な引数を SET コマンドに指定してください。

NNL-00024 警告: SQLNET.ORA に優先ネーム・サーバーがありません。

原因: 制御プログラムが SQLNET.ORA で優先ネーム・サーバーを検索できず、そのためデフォルト・サーバーに接続できません。

処置: SQLNET.ORA ファイルに有効な NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリがあることを確認してください。

NNL-00035 ファイル *string* またはネストされた IFILE が見つかりません。

原因: TNSFILE からのロードにエラーがあります。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00036 レコードがロードされませんでした。

原因: ロード可能なデータがありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00037 エラー *number* がパラメータ表の順序に発生しました。

原因: 表から次の名前を取り出しているときに、NL パラメータ・システムからエラーが報告されました。通常、これは、ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00038 識別名の構文エラーです。

原因: 指定された識別名が正しくありません。

処置: 有効な識別名を指定してください。

NNL-00039 RR がありません。

原因: オブジェクトには、LDAP オブジェクトにマップされた関連 RR がありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00040 識別名がバッファ長: *string* を超えています。

原因: ドメイン名から導出される識別名が長すぎます。

処置: オブジェクトを短い名前のドメインに移動するか、または LDAP オブジェクトを更新してください。

NNL-00041 オブジェクト *string* がドメイン *string* にありません。

原因: オブジェクトには、LDAP オブジェクトにマップされた関連 RR がありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00042 LDAP でバインドに失敗しました: *number, string*

原因: LDAP_BIND のコールに失敗して、表示されている番号の設定が戻されました。

処置: ユーザー名およびパスワードのパラメータ、または定義を修正してください。

NNL-00043 LDAP でオープンに失敗しました。

原因: LDAP サーバーにコンタクトできません。

処置: 接続情報を修正するか、またはサーバーを使用可能にしてください。

NNL-00044 サポートされないデータ型 *string* はマップされません。

原因: ONames データ型は、LDAP 属性にマップされません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00045 LDAP サーバー用ホストが未指定です。

原因: LDAP のオープンで、ホストを指定しないとコア・ダンプが発生します。

処置: -h オプションを使用して、適切なホスト名を指定してください。

NNL-00046 名前 *string* は DN テンプレートの限界を超えています。

原因：DN テンプレートで指定された以上のドメインが、名前に指定されています。

処置：テンプレートにフィールドを追加するか、または個別のダンプ操作でサブドメインを移行してください。

NNL-00047 LDAP の変更でエラーが返されました :0xnumber, string

原因：LDAP が失敗し、コードを戻しました。

処置：エラーの意味については、LDAP ドキュメントを参照してください。

NNL-00048 ファイル・オープン・エラー : string

原因：指定されたファイルをオープンできません。

処置：ファイルにアクセス権限を付与してください。

NNL-00049 string の出力は string に名前変更できません。

原因：指定されたファイルは、作成できません。

処置：コマンドの実行前に、指定されたファイルが作成可能であることを確認するか、テンポラリ・ファイルを使用してください。

NNL-00201 string で停止します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00202 現在停止はスケジュールされていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00203 スケジュールされている停止が string で行なわれます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00204 停止は取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00205 string で再ロード・チェックが行なわれます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00206 現在再ロード・チェックはスケジュールされていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00207 スケジュールされている再ロード・チェックが *string* で行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00208 再ロード・チェックが取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00209 現在キャッシュ・チェックポイント間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00210 現在キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00211 現在キャッシュ・チェックポイント間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00212 現在キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00213 索引番号で指定されたエントリがありません。"SHOW SYSTEM_QUERIES" を試してください。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00214 指定された索引番号の次の自動リフレッシュは *string* 後に行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00215 スケジュールされている指定索引番号の次の自動リフレッシュは *string* 後に行なわれます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00216 指定された索引番号の自動リフレッシュは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00217 コントローラは *number* 秒スリープしています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00218 後続の余分なテキスト "*string*" は無視します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00219 現在、統計カウンタのログ間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00220 現在、統計カウンタのログは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00221 現在、統計カウンタのログ間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00222 現在、統計カウンタのログは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00223 次の統計カウンタは *string* でログインされます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00224 スケジュールされている統計カウンタは *string* でログインされます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00225 現在、ネーム・サーバー "string" を管理しています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00226 現在の要求処理遅延は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00227 現在、要求処理遅延は使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00228 現在、要求処理遅延は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00229 現在、要求処理遅延は使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00230 現在、コントローラ NOCONFIRM モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00231 現在、コントローラ NOCONFIRM モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00232 現在、自動リフレッシュの失敗再試行間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00233 現在、自動リフレッシュの失敗再試行間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00234 現在、自動リフレッシュの失敗再試行期限切れ期間は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00235 現在、自動リフレッシュの失敗再試行期限切れ期間は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00236 現在、統計カウンタの再設定間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00237 現在、統計カウンタの再設定は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00238 現在、統計カウンタの再設定間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00239 現在、統計カウンタの再設定は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00240 "*string*" を起動しています ...

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00241 現在、変更要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00242 現在、変更要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00243 現在、変更要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00244 現在、変更要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00245 現在、一般要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00246 現在、一般要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00247 現在、一般要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00248 現在、一般要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00249 現在、「デフォルトの転送先のみに転送」は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00250 現在、「デフォルトの転送先のみに転送」は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00251 現在、「デフォルトの転送先のみに転送」は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00252 現在、「デフォルトの転送先のみに転送」は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00253 現在、サーバー生成要求は転送を要求しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00254 現在、サーバー生成要求は転送を要求していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00255 現在、サーバー生成要求は転送を要求しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00256 現在、サーバー生成要求は転送を要求していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00257 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00258 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要ではありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00259 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00260 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要ではありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00261 現在、転送要求は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00262 現在、転送要求は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00263 現在、転送要求は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00264 現在、転送要求は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00266 往復時間は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00267 アドレスは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00268 ネーム・サーバーのパスワードを入力:

原因: ユーザーが SET PASSWORD を発行した後のパスワードを要求するプロンプトです。

処置: パスワードを入力してください。入力した文字は見えません。

NNL-00270 現在のデフォルト・ドメインは "*string*" です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00271 現在のデフォルト・ドメインは "*string*" です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00272 次のパスでキャッシュから名前 "*string*" は削除されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00273 サーバーは正常に起動されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00274 サーバーは起動されませんでした。エラーは次のとおりです。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00275 現在、トレース・レベルは *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00276 現在、トレース・レベルは *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00277 現在、要求が再転送される最大回数は *number* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00278 現在、要求が再転送される最大回数は *number* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00279 *string* で再起動が発生しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00280 現在、再起動はスケジュールされていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00281 *string* でスケジュールされた再起動が発生しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00282 再起動が取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00283 *string* で次のキャッシュ・チェックポイントが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00284 *string* でスケジュールされたキャッシュ・チェックポイントが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00285 サーバーの待ち行列に入っているシステム問合せはありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00286 サーバーはどのドメインも所有していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00287 *string* でキャッシュ・フラッシュが発生します。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00288 現在、キャッシュ・フラッシュはスケジュールされていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00289 *string* でスケジュールされたキャッシュ・フラッシュが発生します。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00290 キャッシュ・フラッシュが取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00291 *string* で統計カウンタが次に再設定されます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00292 スケジュールされた統計カウンタは *string* で再設定されます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00293 コントローラのトレース・レベルが変更されていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00294 エントリが見つかりません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00295 現在、コントローラのローカル・トレース・レベルは *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00296 コントローラのローカル・トレース・レベルは *number* から *number* に変更されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00297 *string* でキャッシュはトレース・ファイルにダンプされました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00298 現在スケジュールされているキャッシュ・ダンプはありません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00299 スケジュールされたサーバー・キャッシュ・ダンプが *string* で発生しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00300 サーバー・キャッシュ・ダンプが取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00301 サーバーが停止中です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00302 サーバーが再起動中です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00303 再ロードのためにサーバーがチェック中です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00304 サーバーはキャッシュをフラッシュしています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00305 サーバーは統計をログ・ファイルにダンプしています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00306 サーバーは統計カウンタをすべてゼロに設定しています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00307 サーバーはキャッシュのチェックポイントを実行しています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00308 サーバーは統計をトレース・ファイルにダンプしています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00309 指定した索引番号の次の自動リフレッシュは直ちに実行されます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00340 トレース・ファイル名は現在は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00341 トレース・ファイル名は現在は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00342 ログファイル名は現在は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00343 ログファイル名は現在は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00344 Save_config_on_stop は現在オンです。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00345 Save_config_on_stop は現在オフです。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00346 Save_config_on_stop は現在オンです。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00347 Save_config_on_stop は現在オフです。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00348 構成ファイルは現在サーバーに保存されています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00349 構成は *string* に保存されます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00350 構成ファイルの保存は現在スケジュールされていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00351 スケジュールされた構成は *string* で起こるように保存されています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00352 構成ファイルの保存が取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00353 許可されていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00400 応答の状況：

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00401 認証応答：*string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00402 認証サーバー：*string*

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00403 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00404 TTL: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00405 転送先情報:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00406 正規化された名前: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00407 別名変換:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00408 応答:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00409 データ型は "*string*"

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00410 平均応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00411 最小応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00412 要求数: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00413 合計応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00414 最大応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00415 名前: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00416 最終タイムスタンプ: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00417 識別名: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00418 マップ済み属性: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00500 サーバーからのドメイン情報を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00501 `set | show log_stats_interval [seconds] [server_list]`: サーバーの統計カウンタのログ間隔を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00502 サーバーが統計カウンタを次にダンプする時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00503 `repeat number command [args]`: コマンドの *number* 回数を報告します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00505 `log_stats [server_list]`: Name Server 統計表示をログ・ファイルへ書き込みます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00506 `reset_stats [server_list]`: Name Server 統計表示をリセットします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00507 自動リフレッシュ問合せが次に実行する時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00508 `show system_queries [server_list]`: システム問合せ情報を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00509 `set|show cache_checkpoint_interval [seconds] [server_list]`: キャッシュ・チェックポイント間隔を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00510 既存の名前ヘデータ・レコードを追加します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00511 サーバーのシステム問合せ認可用件を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00512 サーバーの自動リフレッシュ制限時間を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00513 サーバーの自動リフレッシュ失敗の再試行間隔を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00514 デフォルト TTL で新規に名前を作成します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00515 名前とそのデータを削除します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00516 サーバーのステータスをすべて表示します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00517 既存の名前のデータ項目を挿入 / 置換します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00518 サーバーが要求を再転送可能な最大回数を表示、または設定します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00519 変更要求の処理を表示、使用可能、使用不可にします。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00520 既存の名前の TTL を変更します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00521 サーバーのシステム問合せのフォワード要件を表示、または設定します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00522 値または型によって名前からデータ項目を削除します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00523 既存の名前を改名します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00524 データ項目を他のデータ項目に置き換えます。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00525 サーバーのデフォルト・フォワード・ステータスを表示、または設定します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00526 非標準実行ファイルとオプションの引数を使用してサーバーを起動します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00527 サーバーが次にキャッシュのチェックポイントを実行する時間を表示、設定、取り消します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00528 [set] password *password* : 後続のコールのためにパスワードを設定します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00529 set|show default_domain [*domain_name*] : 現行のデフォルト・ドメインを設定または表示します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00530 quit|exit : 名前制御プログラムを終了します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00531 flush_name *name* : 認証サーバーへのルートに沿ってキャッシュから名前を削除します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00532 set|show forwarding_available [on|off] [*server_list*] : サーバー要求の転送を使用可能 / 禁止に設定または表示します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00533 ping [*server_list*] : 1 つ以上の Name Server を ping します。

原因：制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00534 **query name [type]**: 必要な名前と RR タイプを問い合わせます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00535 **reload [server_list]**: 変更がある場合にサーバー・キャッシュ・データを再ロードします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00536 **set|show requests_enabled [on|off] [server_list]**: サーバー要求の処理を使用可能 / 禁止に設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00537 **set|show server [server_name]**: 現在管理されているサーバーを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00538 **stop|shutdown [server_list]**: 1 つ以上の Name Server を停止します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00539 **start|startup [args]**: オプションの引数を使って Name Server を起動します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00540 **[show] status [server_list]**: サーバーのステータス・サマリーを表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00541 **set|show trace_level [level] [server_list]**: サーバーのトレース・レベルを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00542 **restart [server_list]**: 1 つ以上の Name Server を再起動します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00543 [show] version [server_list] : 1 つ以上の Name Server の名前とバージョンを表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00544 操作統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00545 問合せ要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00546 削除要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00547 改名要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00548 更新要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00549 ストリーム使用統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00550 flush [server_list] : 1 つ以上のサーバーのキャッシュをフラッシュします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00551 キャッシュ統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00553 フォワード統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00555 **メタ・データ統計を表示します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00556 **set|show reset_stats_interval [seconds] [server_list]: サーバー統計カウンタのリセット間隔を設定または表示します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00557 **コントローラを N 秒間スリープさせます。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00558 **set|show namesctl_trace_level: コントローラのトレース・レベルを設定または表示します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00559 **次にキャッシュをトレース・ファイルにダンプする時間を表示、設定、取り消します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00560 **サーバーの要求処理の遅延を表示、または設定します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00561 **register name [-ttype] [-daddress] [-hhostname] [-llistener_name]: Oracle Names でオブジェクトを登録します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00562 **unregister name [-daddress] [-llistener_name]: Oracle Names を使ってオブジェクトを登録解除します。**

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00563 `timed_query [timestamp]`: Name Server のキャッシュ内のすべてのオブジェクトを問い合わせます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00565 `set trace_file_name [filename] [server_list]`: サーバーのトレース・ファイル名を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00566 `set|show log_file_name [filename] [server_list]`: ログ・ファイル名またはサーバーを設定あるいは表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00567 `reorder_ns [server_address]`: 強化表示ファイルを生成します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00568 `delegate_domain domain_name NS_name NS_Addr`: 所定のドメインを所定のネームサーバーに委任します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00569 `domain_hint domain_name NS_name NS_Addr`: 所定のドメインにネームサーバーのヒントを提供します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00570 `save_config [server_list]`: サーバーの構成をパラメータ・ファイルに保存。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00571 `set|show save_config_on_stop [on|off]`

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00572 set|show save_config_interval [seconds] [server_list]: 次回の config 保存時間を設定。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00573 load_tnsnames [file, ...]: tnsnames を ONames にロードします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00574 dump_tnsnames [<file>]: ONames アドレスを tnsnames ファイルにダンプします

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00575 list_objects: ドメインまたはサブツリー内の全オブジェクトをリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00576 list_delegated: リージョンまたはサブツリー内の代表的なドメインをすべてリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00577 list_domains: リージョンまたはサブツリー内の認可されたドメインをリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00578 dump_ldap: リージョンまたはドメイン内のデータを LDAP にダンプします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00579 _scan: 所定の型に一致するオブジェクトまたはレコードを検索します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00580 register_ns: <name server> <address> <domain>

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00581 unregister_ns: <name server> <domain>

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00800 受信した問合せ要求数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00801 受信した問合せ数、ANY 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00802 受信した問合せ、ADDRESS 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00803 受信した問合せ、ALIAS 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00804 受信した問合せ、META-DATA 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00805 受信した問合せ、NAME-SERVER 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00806 受信した問合せ、RELATED-INFO 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00807 受信した問合せ、SOA 型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00808 受信した問合せ、すべてのユーザー定義型: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00809 受信した問合せ、複数の型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00810 受信した問合せ、型なし : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00811 再高速問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00812 再低速問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00813 平均問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00814 問合せ処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00830 受信した削除要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00831 削除の拒否、名前がリーフ名でない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00832 削除の拒否、名前がトポロジ名である : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00833 最高速削除処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00834 最低速削除処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00835 平均削除処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00836 削除処理合計時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00850 受信した改名要求数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00851 改名拒否、名前がリーフ名でない : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00852 改名拒否、名前がトポロジ名でない : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00853 改名拒否、新規名が既に存在する : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00854 最高速改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00855 最低速改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00856 平均改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00857 改名処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00870 受信した更新要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00871 更新の拒否、名前がトポロジ名でない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00872 更新の拒否、データがトポロジ・データでない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00873 最高速更新処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00874 最低速更新処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00875 平均更新処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00876 更新処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00890 受信メッセージ数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00891 受信した壊れたメッセージ数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00892 受信した重複要求数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00893 受信した類似要求数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00894 要求の拒否、権限不足: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00895 要求の拒否、処理不能: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00896 要求の拒否、変更不能: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00897 送信したメッセージ数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00898 送信した応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00899 送信した OK 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00900 送信した NO SUCH NAME 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00901 送信した CONTENT ERROR 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00902 送信した ALIAS LOOP 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00903 送信した SERVER FAILURE 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00904 送信した NAME EXISTS 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00905 送信した NOT AUTHORITY 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00906 送信した NOT A LEAF NAME 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00907 送信した NOT ALLOWED 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00908 送信した UNKNOWN TYPE 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00909 送信した META VIOLATION 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00910 送信した VERSION SKEW 応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00911 無効なエラー・コードで送信された応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00912 別名ループの検出 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00913 送信したサーバー生成要求 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00914 サーバー問合せのフォワードが必要 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00915 サーバー問合せの許可が必要 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00916 使用可能な変更要求 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00917 遅延処理の人為的要求 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00918 サーバー再起動までの時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00919 サーバー停止までの時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00920 次回の config ファイル保存までの時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00930 要求の拒否、データ型不明 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00931 要求の拒否、キャッシュ・メタ・データなし : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00932 要求の拒否、型の構文が無効 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00933 要求の拒否、OTHER-DATA 違反 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00934 要求の拒否、ALIAS-EXISTS 違反 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00935 要求の拒否、SINGLE-VALUE 違反 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00936 要求の拒否、DATA-EXISTS 違反 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00950 キャッシュ・ルックアップ要求 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00951 ルックアップで作成された名前 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00952 キャッシュ・ルックアップ障害 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00953 キャッシュ・ルックアップ完全一致 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00954 ハッシュ表が作成された : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00955 ハッシュ表が拡張された : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00956 ハッシュ表が解放された : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00957 名前ノードが作成された : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00958 名前ノードが解放された : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00959 トレース・ファイルへのキャッシュ・ダンプまでの時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00960 キャッシュ・フラッシュまでの時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00961 キャッシュ・チェックポイント : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00962 キャッシュ・チェックポイント障害 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00963 タイムアウト、名前 TTL 期限切れ : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00970 システム問合せ索引番号: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00971 問合せ ID: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00972 次に実行される問合せ: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00973 問合せ状態: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00974 名前: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00975 希望データ型: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00980 フォワード障害: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00981 タイムアウト、サーバー応答なし: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00982 フォワード失敗、サーバーが見つからない: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00983 名前からヒントへの変換: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00984 名前からヒントへの変換の失敗 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00985 参照を使用して再転送された要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00986 再転送された期限切れ要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00987 認証応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00988 非認証 NACK の受信 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00989 TTL なしで受信したオブジェクト数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00990 DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モード : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00991 1 要求あたりの再転送最大回数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00992 自動リフレッシュ失敗の再試行間隔 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00993 自動リフレッシュ失敗の再試行期限 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00994 受信した応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00995 受信した不一致応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00996 受信した OK 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00997 受信した NO SUCH NAME 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00998 受信した CONTENT ERROR 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00999 受信した ALIAS LOOP 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01000 受信した SERVER FAILURE 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01001 受信した NAME EXISTS 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01002 受信した NOT AUTHORITY 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01003 受信した NON LEAF 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01004 受信した NOT ALLOWED 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01005 受信した UNKNOWN TYPE 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01006 受信した META VIOLATION 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01007 受信した VERSION SKEW 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01008 Outbound メッセージ・コンテキスト割当て: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01009 Outbound メッセージ・コンテキスト解放: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01010 割当てられた転送コンテキスト数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01011 解放されたコンテキスト数: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01030 ドメイン索引番号: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01031 名前: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01032 最小 TTL: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01040 サーバーのデータ・ストリームのオープン: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01041 データ・ストリームのオープン失敗: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01042 サーバーのデータ・ストリームの応答: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01043 データ・ストリームの応答失敗: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01044 データ・ストリーム読み込みエラー: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01045 データ・ストリーム書き込みエラー: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01050 バージョン・バナーは "*string*"

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01051 サーバー名: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01052 サーバー実行時間: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01053 使用可能な要求処理 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01054 使用可能な転送要求 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01055 要求の受信 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01056 要求のフォワード : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01057 キャッシュした外部データ項目 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01058 再ロードで次にチェックされる領域データ : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01059 領域データの再ロードチェック失敗 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01060 次にチェックポイントが実行されるキャッシュ : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01061 キャッシュ・チェックポイント間隔 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01062 キャッシュ・チェックポイント・ファイル名 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01063 次に再設定される統計カウンタ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01064 統計カウンタの再設定間隔 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01065 次にログインされる統計カウンタ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01066 統計カウンタのログイン間隔 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01067 トレース・レベル : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01068 トレース・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01069 ログ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01070 システム・パラメータ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01071 コマンド行パラメータ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01072 管理領域名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01073 管理領域の記述 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01074 ApplTable 索引 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01075 コンタクト *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01076 操作状態 *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01077 停止時に構成を保存 *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01078 ファイルのアクセス / 作成エラー : *string*

原因: 適切な権限が付与されていないため、指定されたファイルまたはバックアップ・ファイルのアクセス / 作成に失敗しました。

処置: ファイルにアクセス権限を付与してください。

Oracle Names Server ネットワークの プレゼンテーション層メッセージ (NPL)

NPL-00000 正常に完了しました。

原因: 操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

NPL-00100 ASN.1 コンテキストを初期化できません。

原因: エラー・メッセージ・ファイルが見つからなかったため、ASN.1 プログラム・インタフェースを初期化できませんでした。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

NPL-00101 初期化されていない ASN.1 コンテキストです。

原因: ASN.1 プログラム・インタフェースが初期化されていない ASN.1 ハンドルを受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00102 missing stream functions in ASN.1 context initialization

原因: 内部ファンクションが、ASN.1 ハンドルを不適切に初期化しようとしていました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00103 unusable ASN.1 context

原因: ASN.1 プログラム・インタフェースが、使用できない ASN.1 ハンドルを受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00300 maximum ASN.1 element nesting depth *string* exceeded on read

原因: ASN.1 構造が複雑すぎるため、プログラム・インタフェースはこれを読み込めません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00301 maximum ASN.1 element nesting depth *string* exceeded on write

原因: ASN.1 構造が複雑すぎるため、プログラム・インタフェースはこれを書き込めません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00302 ASN.1 type tag is greater than maximum of 16383

原因: 内部ファンクションが、不正な ASN.1 構造を作成しようとしてしました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00303 uninitialized ASN.1 class attribute

原因: 内部ファンクションが、不正な ASN.1 構造を作成しようとしてしました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00304 uninitialized ASN.1 tag attribute

原因: 内部ファンクションが、不正な ASN.1 構造を作成しようとしてしました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00305 unsupported ASN.1 "UNIV" type *string*

原因：内部ファンクションが、不正な ASN.1 構造を作成しようとしてしました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00307 ASN.1 sequence has already been ended on write

原因：内部ファンクションが、ASN.1 構造を途中で終了しようとしてしました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00308 requested ASN.1 class *string* does not match received class *string*

原因：内部ファンクションが要求した ASN.1 構造が、ASN.1 プロトコル・エンジンが受信した ASN.1 構造と異なります。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00309 requested ASN.1 type tag *string* does not match received type tag *string*

原因：内部ファンクションが要求した ASN.1 構造が、ASN.1 プロトコル・エンジンが受信した ASN.1 構造と異なります。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00310 ASN.1 sequence has already been ended on read

原因：内部ファンクションが、すでに読み込みが終了している ASN.1 構造の読み込みを終了しようとしてしました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00311 cannot end constructed ASN.1 encoding, *string* encoding octets unread

原因：内部ファンクションが、ASN.1 構造体の読み込みを途中で終了しようとしてしました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00312 attempt to put ASN.1 "UNIV" type with illegal tag *string*

原因: 内部ファンクションが、不正な ASN.1 構造を作成しようとしてしました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00313 requested form *string* does not match actual form *string*

原因: 内部ファンクションが予期しない ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00410 入力された ASN.1 値が大きすぎて (*string* 8 進) ローカルに格納できません。

原因: 構造が大きすぎるため、ASN.1 プロトコル・エンジンは ASN.1 構造をホスト表現に変換できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00411 入力された ASN.1 NULL コード化でゼロでない長さ *:string* があります。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00412 入力された ASN.1 BOOLEAN コード化で長さ *:string* が無効です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00413 入力された ASN.1 コード化の長さが *string* で、*string* が使用できる最大長です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、大きすぎて処理できない不正な ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00414 入力された ASN.1 タイプ・タグが最大の 16383 を超えています。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、不正な ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00415 サポートされていない ASN.1 IDENFINITE-LENGTH をコード化を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00416 無効な ASN.1 コード化長 *string* を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00417 最長 *string* より長い ASN.1 長 (8 進) を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00418 無効な形式の ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00419 副識別子が大きすぎる ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンが、実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00420 副識別子が 256 より大きい ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因：ASN.1 プロトコル・エンジンが、実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

External Naming メッセージ (NNF)

NNF-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNF-00001 TNS アドレスではありません。

原因：アドレスの読み込み中に、ネーム・サービスがアドレスではないレコードを戻しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00002 ファンクション・コールに渡された値が無効です。

原因：インタフェース・ファンクションに無効な値が渡されました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00003 指定アダプタ *string* は存在していません。

原因：要求されたネーム・サービス・アダプタは、現在のアダプタ表にありません。

処置：アダプタの綴りを確認してください。このプラットフォームでアダプタが実行可能であること、また、アダプタが実行可能ファイルにリンクされたアダプタ表にコンパイルされていることを確認してください。

NNF-00004 *string* ではこの操作はサポートされていません。

原因：要求された操作は、このアダプタではサポートされていません。

処置：読取り専用のネーム・サービスに対する書込みなど、実行された操作が制限されていないかどうかを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00005 機能が実装されていません。

原因: この操作は、この実装ではサポートされていません。

処置: このエラーが本番リリースで発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。それ以外の場合は、リリース・ノートでこのリリースに制限がないかどうかを調べてください。

NNF-00501 現行の指定ネイティブ・アダプタを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00502 最後の問合せで取り出された情報を表示します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00503 内部バッファのサイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00504 ネーム・サービス操作の制御フラグを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00505 次の変更操作に使用される現行データを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00506 TNSNAMES.ORA ファイルで見つかったアドレスを DCE CDS にロードします。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00507 名前とその属性をすべて削除します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00508 現行のデフォルト・ドメインを表示または削除します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00509 指定のファイルで見つかったアドレスを現行のアダプタにロードします。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00510 名前の内容を変更します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00511 名前に対応付けられているアドレスをディレクトリ・パスを介して取り出します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00512 現行のアダプタに従って未修飾の名前を修飾します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00513 現行のアダプタで名前を問い合わせます。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00514 プログラムを終了します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00515 現行のアダプタで名前を変更します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00516 次の変更操作に使用される置換データを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00517 名前が現行のアダプタで有効であることを検証します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00518 show_entry で使用される検索パスを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00519 エントリ（アドレス、プロファイルなど）のコンテンツを表示。8.1+ NNFG API を対象。使用方法: `show_entry name type`

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00520 エントリ更新。8.1+ NNFG API. `update_entry name> <c,a,r,d [type] attr value`

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00521 認証情報を表示または設定。使用方法: `set authinfo type [param]`

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00531 内部アドレス・バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00532 内部名前バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00533 内部 cname バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00540 名前 *string* の挿入に失敗しました。

原因: 固有サービスに名前が挿入できませんでした。

処置: 名前が固有ネームスペースに存在しないこと、また、そのネームスペースに適切なアクセス権限が設定されていることを確認してください。

NNF-01001 `ds_initialize`: ワークスペース初期化に失敗しました。

原因: `DS_INITIALIZE()` によって設定された DCE ワークスペースが初期化できませんでした。

処置: このプラットフォームが `DS_INITIALIZE()` コールを正常に行うために必要な条件を満たしていること（たとえば、メモリーが十分かどうか）を確認してください。このプログラムを別のワークスペースのユーザーが使用していないことを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01002 DCE が構成ファイルをオープンできません。

原因：DCE 構成ファイルにアクセスできません。

処置：このプラットフォームに DCE 構成ファイルがあること、また、アクセス可能であることを確認してください。UNIX では、このファイルは DCE_CF.DB です。DCE_CF_GET_CELL_NAME() のコールが成功するかどうかを確認してください。

NNF-01003 DCE がセル名を検出できません。

原因：DCE 構成ファイル内にセル名がありません。

処置：このマシンに DCE セルが構成されていることを確認してください。DCE 構成ファイルが破損していないことを確認してください。UNIX では、このファイルは DCE_CF.DB です。DCE_CF_GET_CELL_NAME() のコールが成功するかどうかを確認してください。

NNF-01004 DCE が未定義のエラー *string* を戻しました。

原因：DCE コールが、この実装のこの DCE コールが戻す可能性のあるステータス値のリストにないステータスを戻しました。

処置：このプラットフォームの DCE リリースが、この Oracle アプリケーションでサポートされているリリースであることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01005 内部 XOM クラス違反です。

原因：DCE XOM が、DCE ドキュメントのクラス定義と矛盾するステータスを戻しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01006 属性 *string* は使用できません。

原因：DCE 属性に変換できない属性が、挿入コールで使用されました。

処置：別の属性を使用するか、または変換を DCE に挿入してください。

NNF-01007 DCE LONG 文字列はサポートされていません。

原因：問合せで XOM OM_S_LONG_STRING があるオブジェクトが戻されました。現在の実装では、このようなオブジェクトはサポートされていません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01008 XDS 属性の構文 *string* は Oracle Name 構文 *string* に対して無効です。

原因: XDS オブジェクトに指定した構文が、Oracle Names 構文と異なります。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01009 未知の DCE クラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01010 DCE 問題コード *number* が XDS クラス *string* と一致しません。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01011 DCE が OS エラーを報告しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01012 DCE の全体セキュリティが失敗しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01100 DS_C_COMMUNICATIONS_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01101 DS_C_LIBRARY_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01102 DS_C_NAME_ERROR (一致 *string*)

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01103 DS_C_SECURITY_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01104 DS_C_SERVICE_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01105 DS_C_SYSTEM_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01106 DS_C_UPDATE_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01107 DS_C_ATTRIBUTE_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01108 DS_C_ABANDON_FAILED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01109 DS_C_ATTRIBUTE_ERROR (オブジェクト名 *string*)

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01110 未知のクラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01500 xds コールが正常に実行されました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01501 ADMIN_LIMIT_EXCEEDED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01502 AFFECTS_MULTIPLE_DSAS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01503 ALIAS_DEREFERENCING_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01504 ALIAS_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01505 ATTRIBUTE_OR_VALUE_EXISTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01506 BAD_ARGUMENT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01507 BAD_CLASS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01508 BAD_CONTEXT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01509 BAD_NAME

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01510 BAD_SESSION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01511 BAD_WORKSPACE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01512 BUSY

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01513 CANNOT_ABANDON

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01514 CHAINING_REQUIRED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01515 COMMUNICATIONS_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01516 CONSTRAINT_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01517 DIT_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01518 ENTRY_EXISTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01519 INAPPROP_AUTHENTICATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01520 INAPPROP_MATCHING

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01521 INSUFFICIENT_ACCESS_RIGHTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01522 INVALID_ATTRIBUTE_SYNTAX

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01523 INVALID_ATTRIBUTE_VALUE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01524 INVALID_CREDENTIALS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01525 INVALID_REF

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01526 INVALID_SIGNATURE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01527 LOOP_DETECTED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01528 MISCELLANEOUS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01529 MISSING_TYPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01530 MIXED_SYNCHRONOUS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01531 NAMING_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01532 NO_INFO

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01533 NO_SUCH_ATTRIBUTE_OR_VALUE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01534 NO_SUCH_OBJECT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01535 NO_SUCH_OPERATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01536 NOT_ALLOWED_ON_NON_LEAF

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01537 NOT_ALLOWED_ON_RDN

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01538 NOT_SUPPORTED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01539 OBJECT_CLASS_MOD_PROHIB

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01540 OBJECT_CLASS_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01541 OUT_OF_SCOPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01542 PROTECTION_REQUIRED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01543 TIME_LIMIT_EXCEEDED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01544 TOO_LATE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01545 TOO_MANY_OPERATIONS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01546 TOO_MANY_SESSIONS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01547 UNABLE_TO_PROCEED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01548 UNAVAILABLE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01549 UNAVAILABLE_CRIT_EXT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01550 UNDEFINED_ATTRIBUTE_TYPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01551 UNWILLING_TO_PERFORM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01590 DS エラー・オブジェクトの操作中に XOM エラーが発生しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01600 xom コールが正常に実行されました。

原因: 操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-01601 ENCODING_INVALID

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01602 FUNCTION_DECLINED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01603 FUNCTION_INTERRUPTED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01604 MEMORY_INSUFFICIENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01605 NETWORK_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01606 NO_SUCH_CLASS

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01607 NO_SUCH_EXCLUSION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01608 NO_SUCH_MODIFICATION

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01609 NO_SUCH_OBJECT

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01610 NO_SUCH_RULES

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01611 NO_SUCH_SYNTAX

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01612 NO_SUCH_TYPE

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01613 NO_SUCH_WORKSPACE

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01614 NOT_AN_ENCODING

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01615 NOT_CONCRETE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01616 NOT_PRESENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01617 NOT_PRIVATE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01618 NOT_THE_SERVICES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01619 PERMANENT_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01620 POINTER_INVALID

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01621 SYSTEM_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01622 TEMPORARY_ERROR

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01623 TOO_MANY_VALUES

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01624 VALUES_NOT_ADJACENT

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01625 WRONG_VALUE_LENGTH

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01626 WRONG_VALUE_MAKEUP

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01627 WRONG_VALUE_NUMBER

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01628 WRONG_VALUE_POSITION

原因：DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01629 WRONG_VALUE_SYNTAX

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01630 WRONG_VALUE_TYPE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードと失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01901 名前パラメータ *string* がありません。名前は解決されません。

原因: 指定された TNS 別名が CDS にありません。

処置: DCELOAD を使用して名前を挿入し、操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02001 NIS クライアント・エラー文字列: *string*

原因: NIS (YP) ファンクションのコールに失敗しました。このメッセージには、戻された NIS エラー・コードのテキストが含まれます。

処置: これは、別のエラーの一部として戻される場合のみ表示されます。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02002 NIS 値がアダプタ・スキーマ: *string* に従っていません。

原因: NIS アダプタに使用されるマップの値は、内部フォーマット規則の特定のセットに準拠する必要があります。戻された値は、これらの規則に準拠していませんでした。

処置: これは、ユーザー独自のマップを作成する場合のみに表示されます。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02003 未知の NIS エラー・コード: *string*

原因: NIS (YP) ファンクションから戻されたエラー・コードは、このプログラムが予期したリストにありません。

処置: このプラットフォームの YP ファンクションで生成されたエラーであることを確認してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02004 NIS マップ *string* が存在しません。

原因: 要求された属性が存在しません。

処置: 属性が未使用の場合は、予期したエラーなので処置は必要ありません。それ以外の場合は、属性を追加し、NIS (YP) マップを再ロードしてください。

NNF-02005 NIS キー *string* はマップ *string* 内に存在していません。

原因：要求された名前が見つかりません。

処置：名前が未使用の場合は、予期したエラーなので処置は必要ありません。それ以外の場合は、名前を追加し、NIS (YP) マップを再ロードしてください。

NNF-03002 未知の BIND エラー・コード: *string*

原因：BIND (DNS) 問合せ応答のリターン・コードが、RFC 1035 に記載されている値に準拠していません。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーであることを確認してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-03003 サーバーの応答を解析中に形式エラーが発生しました。

原因：BIND (DNS) API から戻された問合せ応答パッケージが、RFC 1035 に記載されているフォーマットに準拠していません。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーであることを確認してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-03004 DNS クラスが一致しません。(*string*)

原因：問合せ応答パッケージの戻したクラスが、インタフェースの予期したクラスと異なっています。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーであることを確認してください。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-04000 ファイルは正常に変換されました。

原因：要求された変換が実行されました。

処置：通常の状態です。処置は必要ありません。

NNF-04001 入力ファイルの変換中にエラーが発生しました。

原因：変換プログラムで変換できない行が入力ファイルにあります。

処置：入力ファイルの構文を確認してください。

NNF-04002 出力ファイルがすでに存在しています。

原因：カレント・ディレクトリに古い出力ファイルが存在しています。

処置：既存のファイルを削除して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04003 入力ファイル内のエントリが長すぎます。

原因：MAKEDBM プログラムが扱うことのできるマップ・ファイルのエントリの長さは、1017 文字までです。したがって、変換ツールは、1017 文字より長い TNS アドレスを処理できません。

処置：問題のあるエントリの長さを短くしてください。

NNF-04004 入力ファイルに無効な文字列があります。

原因：入力ファイルに無効な行があります。

処置：入力ファイルの構文を確認してください。

NNF-04005 入力ファイルをオープンできません。

原因：入力ファイルは見つかりませんでした。

処置：正しい入力ファイルを使用して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04006 出力ファイルを作成できません。

原因：カレントの作業ディレクトリに出力ファイルを作成できません。

処置：カレント・ディレクトリの権限を変更して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04007 入力ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

原因：入力ファイルの読取り中に問題が発生しました。入力ファイルの途中に予期しない EOF が存在するとこのエラーが発生します。

処置：ファイルが破損していないこと、また、入力ファイルの構文が正しいことを確認してください。

NNF-04008 出力ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：出力ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

処置：使用可能なディスク領域を確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-04009 指定方法 : *tns2nis filename*

原因：変換ツールが正しく起動されていません。ファイル名は TNSNAMES.ORA または NATIVE.ORA のいずれかである必要があります。

処置：正しいパラメータを指定して、変換ツールを再起動してください。

簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)

NMP-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NMP-00001 値が大きすぎます。

原因：SNMP プログラム・インタフェースが受信した値が大きすぎて処理できません。通常、このエラーは、問題の原因を記述する他のエラーに続いて表示されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00002 SNMP 変数の名前が無効です。

原因：存在しない変数名が1つ以上含まれているため、SNMP 要求は処理されませんでした。通常、このエラーは、ユーザーには表示されませんが、トレース・ファイルには記録されます。トレース・ファイルには軽度のエラーとして記録されますが、これは正常な状態です。

処置：このエラーは、管理サーバーがバージョンの非互換などから制御プログラムによって要求される操作をサポートしていないことを示します。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返され、軽度のエラーの一部としてトレース・ファイルに記録されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00003 SNMP 変数の値が無効です。

原因: SNMP プログラム・インタフェースは、サポートされていないデータ型の変数値を受信しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、このエラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返され、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00004 SNMP 変数は読取り専用です。

原因: リモート・サーバー上の変数値を変更しようとしたますが、その変数は読取り専用です。通常、このエラーは、より詳細に問題を記述するエラーに続いて表示されます。

処置: 読取り専用の変数は変更しないようにしてください。

NMP-00005 一般 SNMP エラーです。

原因: 他の特定された状況には該当しない SNMP のエラーが発生しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、このエラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返され、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00006 SNMP コンテキストが初期化されていません。

原因: 内部機能が、初期化されていない SNMP ハンドルを使用しようとした。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00007 I/O 障害が発生しました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースが SNMP 要求の送信または受信を実行しましたが、ある種のネットワーク障害のため不可能でした。通常、このエラーは、より詳細に問題を記述するエラーに続いて表示されます。通常、この問題は、制御プログラムがサービスと交信しようとして、サービスが予期せず終了したとき、または制御プログラムとサービス間のネットワークに問題が発生したときに発生します。

処置: 問題の管理プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を送信していることを確認してください。エラーが繰り返され、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00008 SNMP メッセージのバージョンが無効です。バージョン 0 が要求されました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースは、不正なバージョン番号のプロトコル要求を受信しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに無効な形式の要求を送信した場合に、このエラーが発生します。

処置: 問題の管理プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を送信していることを確認してください。エラーが繰り返され、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00009 SNMP 初期化障害が発生しました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースは、エラー・メッセージ・ファイルが存在しないか、またはパラメータ表に不正な形式の SNMP.COMMUNITIES パラメータ値が存在するときは初期化されません。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。トレースをオンにして、パラメータ表のロードに失敗していないかどうかを確認してください。

NMP-00010 メモリーが足りません。

原因: プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

処置: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NMP-00011 内部 SNMP プログラム・インタフェース・エラーです。

原因: SNMP プログラム・インタフェース内で内部エラーが発生しました。通常、このエラーは、より詳細に問題を記述するエラーに続いて表示されます。通常、このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

リモート操作メッセージ（NCR）

NCR-00001 NCR: メモリーを割り当てられませんでした。

原因: スワップ領域またはシステム・メモリーの量が不足しています。

処置: スワップ領域またはシステム・メモリーの量を増やしてください。

NCR-00002 NCR: 使用方法が無効です。

原因: ファンクションのパラメータが無効です。

処置: ファンクション・コールを確認してください。

NCR-00003 NCR: 初期化が失敗しました。

原因: スワップ領域またはシステム・メモリーの量が不足しています。

処置: スワップ領域またはシステム・メモリーの量を増やしてください。

NCR-01003 NCRS: 読み込みエラーです。

原因: 入力デバイスからのデータの読み込みに失敗しました。

処置: 詳細は、入力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01004 NCRS: 書き込みエラーです。

原因: 出力デバイスへのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 詳細は、出力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01005 NCRS: 出力バッファをフラッシュできませんでした。

原因: 出力バッファ内のデータの出力デバイスへの書き込みに失敗しました。

処置: 詳細は、出力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01006 NCRS: データ・バッファのオーバーフローが発生しました。

原因: 指定されたデータ・バッファ外のデータの読み込みまたは書き込みを実行しようとした。

処置: データ・バッファ・サイズを確認してください。

NCR-01007 NCRS: この操作は指定のモードではサポートされていません。

原因: 現在のモードではサポートされていない操作を実行しようとした。

処置: モードおよびサポートされている操作のリストについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-01008 NCRS: トランスポート・パラメータを取得できませんでした。

原因: トランスポート・レイヤーのパラメータを識別できませんでした。

処置: 詳細は、トランスポート・レイヤーのリターン・コードを参照してください。

NCR-01009 NCRS: レコード処理エラーです。

原因: 無効なレコードを見つけたか、最後のレコードを越えて読み込もうとしました。

処置: レコード処理方法の説明については、ドキュメントを参照してください。

NCR-01010 NCRS: ネットワーク・アドレスの長さが無効です。

原因: ネットワーク・アドレスのサイズが 0（ゼロ）に設定されています。

処置: 有効なネットワーク・アドレスのサイズについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-01011 NCRS: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワーク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: 詳細は、ネットワーク・インタフェースのリターン・コードを参照してください。

NCR-01012 NCRS: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワーク・メッセージの受信に失敗しました。

処置: 詳細は、ネットワーク・インタフェースのリターン・コードを参照してください。

NCR-01013 NCRS: 無効な接続タイプです。

原因: ストリームまたはメッセージ以外の接続タイプです。

処置: 接続タイプの説明は、ドキュメントを参照してください。

NCR-01018 NCRS: 暗号化が失敗しました。

原因: データを暗号化できません。

処置: 詳細は、SNS ドキュメントを参照してください。

NCR-01019 NCRS: チェックサムが失敗しました。

原因: データにチェックサムを追加できません。

処置: 詳細は、SNS ドキュメントを参照してください。

NCR-01020 NCRS: 操作はブロックします。

原因: トランスポート接続がブロック化されていないため、読み込みまたは書き込みをせずに I/O 操作が戻されました。正常に実行するには、ブロック化が必要です。

処置: これは軽度のエラーです。操作を再試行してください。

NCR-02003 NCRF: フォーマット・インタプリタに渡されたタイプが無効です。

原因: フォーマット・インタプリタに、認識できないタイプのデータが渡されました。

処置: タイプ・コールバック・ルーチンまたはタイプ・コンテキスト構造からインタプリタに戻されたタイプを確認してください。

NCR-02004 NCRF: フォーマット・インタプリタ・タイプ・コンテキストが無効です。

原因: フォーマット・インタプリタに、無効なタイプ・コンテキストが渡されました。

処置: 通常、このエラーは、集計が適切に記述されなかったときに発生します。たとえば、コンテキスト内の `NCRF_END_STRUCT_DATA_TYPE` の宣言は、相補的な `NCRF_STRUCT_DATA_TYPE` がなければ無効です。

NCR-02005 NCRF: セッション・モードが無効です。

原因: データ・フォーマット・レイヤーが、GET、PUT または FREE 以外のセッション・モードを受信しました。

処置: 処置は必要ありません。

NCR-02006 NCRF: 無効な浮動小数点表現を受信しました。

原因: データ・フォーマット・レイヤーは浮動小数点表現を受信しましたが、それを認識しませんでした。

処置: エラーになった受信フォーマット記述子を確認してください。

NCR-02007 NCRF: 無効なフォーマット記述子を受信しました。

原因: データ・フォーマット・レイヤーが、不正な形式のフォーマット記述子を受信しました。後続のデータは、フォーマットされませんでした。

処置: リモート・ホストから受信したデータの整合性を確認してください。

NCR-02008 NCRF: フォーマット・インタプリタでストリームの処理中にエラーが発生しました。

原因: インタプリタで、`NCRF_STREAM_DATA_TYPE` の処理中にエラーが発生しました。

処置: データの整合性またはストリームの存在を確認してください。

NCR-02009 NCRF: トレース・ファイルをオープンできません。

原因: トレース・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: 有効なファイル名であること、また、ユーザーが書き込みアクセス権を持っていることを確認してください。

NCR-03002 NCRO: コンテキストの最大数に達しました。

原因: すべてのコンテキスト・スロットが使用中であるため、コール・コンテキストまたはサービス・コンテキストの作成に失敗しました。

処置: 不要なコンテキストを破棄して、コンテキスト・スロットを解放してください。または、NCRO を再構築して、コンテキスト・スロットを増やしてください。

NCR-03003 NCRO: 予期されていないメッセージです。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージは、予期されたタイプではありません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03004 NCRO: 未定義のメッセージです。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージは、定義されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03005 NCRO: 孤立したメッセージです。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージは、すでに存在しないコール・コンテキストのためのものです。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03006 NCRO: 無効な操作です。

原因: コール・コンテキストでの操作が無効です。たとえば、IN 引数を持つことを定義されていないプロシージャに IN 引数を送信すると、このエラーが発生します。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03007 NCRO: コンテキストは使用中です。

原因: サービス / コール・コンテキストが前の操作を実行しているため、試行した操作に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03008 NCRO: コールが拒否されました。

原因: サーバーがプロシージャ ID を拒否したため、リモート・プロシージャの実行に失敗しました。

処置: プロシージャ ID が誤っている場合は、正しい ID を送信してください。接続したサーバーが誤っている場合は、正しいサーバーに接続してください。

NCR-03009 NCRO: プロトコルのバージョンが一致しません。

原因: クライアントとサーバーの NCRO レイヤーのバージョン・レベルに、互換性がありません。

処置: 最新の NCRO バージョンにアップグレードしてください。

NCR-03010 NCRO: 転送コールバック・エラーです。

原因: アプリケーションの転送コールバック関数が FAILED の状態を戻しました。

処置: 転送コールバック関数をデバッグしてください。

NCR-03012 NCRO: セッション・モードが無効です。

原因: セッション・コンテキストが無効状態のため、試行した操作に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03013 NCRO: サポートされていない操作です。

原因: リモート・アプリケーションの NCRO バージョン・レベルと互換性がないため、試行した操作はこのサービス接続ではサポートされません。

処置: 最新の NCR ライブラリをリモート・アプリケーションにリンクしてください。

NCR-03014 NCRO: トランスポート・アドレスが正しくありません。

原因: トランスポート・アドレス記述子（バインド・コンテキストに含まれている）が無効であるため、サービス・コンテキストが作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: トランスポート・アドレス記述子を正しく初期化してください。

NCR-03015 NCRO: トランスポート・アドレスがありません。

原因: トランスポート・アドレスが（バインド・コンテキスト内で）提供されず、またトランスポート・プロトコルがデータグラムを使用しているため、サービス・コンテキストが作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: トランスポート・アドレスを提供してください。

NCR-03016 NCRO: メッセージのアドレスが正しくありません。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージが持つアドレス情報が正しくありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03017 NCRO: トランスポート・タイプ RSLV はサポートされていません。

原因: トランスポート・タイプ RSLV のサポートが構築されていません。

処置: NCR_USE_RSLV を定義して NCR ライブラリを再コンパイルしてください。

NCR-03018 NCRO: RSLV 接続を確立できませんでした。

原因: RSLV 接続の確立に失敗しました。通常、これは、名前の解決に失敗したか、または解決した TNS アドレスが誤っているために発生します。

処置: 名前が TNSNAMES.ORA 内にあり、正しい TNS アドレスに設定されていることを確認してください。

NCR-03019 NCRO: スレッド・サポートを初期化できません。

原因: コア・スレッド・パッケージの初期化に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03020 NCRO: コール・コンテキストが無効です。

原因: コール・コンテキストが無効です。

処置: コール・コンテキストが破棄されています。ブレークを受信した可能性があります。

NCR-03021 NCRO: インバンド・ラインをリセットしてください。

原因: Oracle パートナが、ブレークを受信した後、インバンド・ラインのリセットを要求しています。

処置: インバンド・ラインをリセットしてください。

NCR-03022 NCRO: ブレークを送信できません。

原因: サイドバンド・チャネルを使用してブレークを送信したとき、エラーが発生しました。

処置: サイドバンド・ブレークのサポートについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-03023 NCRO: ブレークを受信できません。

原因: サイドバンド・チャネルを使用してブレークを受信したとき、エラーが発生しました。

処置: サイドバンド・ブレークのサポートについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-03024 NCRO: 伝送タイプ LIST はサポートされていません。

原因: 伝送タイプ LIST のサポートが構築されていません。

処置: NCR_USE_LIST を定義して NCR ライブラリを再コンパイルしてください。

NCR-03025 NCRO: LIST 接続の確立に失敗しました。

原因: LIST 接続の確立に失敗しました。通常、これは、次のいずれかを示します。

- アドレス・リスト構文のエラー
- 指定されたアドレスへの接続の失敗

処置: アドレス・リスト構文を確認し、指定されたアドレスごとにリスナー・プロセスが存在することを確認してください。

NCR-03026 NCRO: 結果バッファのオーバーフローが生じました。

原因: 保持しておく結果を格納する結果バッファが小さすぎます。

処置: 結果バッファを拡張して再実行してください。

NCR-03027 NCRO: リモート・サービス・セッションが設定されていません。

原因: sender-makes-right には、リモート FID が必要です。

処置: Send Make の Right オプションを使用する前に、リモート・セッションを設定してください。

NCR-03028 NCRO: パートナが sender-makes-right の要求を拒否しました。

原因: カレント・サイドから sender-makes-right が要求されましたが、サーバーに拒否されました。

処置: サーバー側を確認し、SMR が拒否された原因を調べてください。

NCR-04002 NCR: インタフェース記述子が無効です。

原因: インタフェース記述子が無効であるため、インタフェースの登録に失敗しました。

処置: NCRRI_REGISTER_INTERFACE コールに渡されたインタフェース記述子を確認してください。

NCR-04003 NCR: インタフェースは存在します。

原因: インタフェースがすでに存在するため、インタフェースの登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規インタフェースを登録して旧インタフェースを破棄するか、または旧インタフェースの置換を指示してください。

NCR-04004 NCR: インタフェース・インスタンス・ハンドルが無効です。

原因: インスタンス・ハンドルが無効であるため、サービス登録 API コールに失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04005 NCCR: プロシージャ・ハンドルが無効です。

原因: プロシージャ・ハンドルが無効であるため、プロシージャ / オブジェクト登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04006 NCCR: 引数記述子が無効です。

原因: 引数記述子が無効であるため、プロシージャ登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04007 NCCR: オブジェクト・ハンドルが無効です。

原因: オブジェクト・ハンドルが無効であるため（たとえば、オブジェクト・ハンドルが存在しないため）、サービス登録 API コールに失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04008 NCCR: プロシージャは存在します。

原因: このインタフェースに同じプロシージャがすでに存在するため、リモート・プロシージャの登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規プロシージャを登録して旧プロシージャを破棄するか、または旧プロシージャの置換を指示してください。

NCR-04009 NCCR: オブジェクトは存在します。

原因: このインタフェースに同じオブジェクトがすでに存在するため、オブジェクトの登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規オブジェクトを登録して旧オブジェクトを破棄するか、または旧オブジェクトの置換を指示してください。

NCR-04010 NCCR: Oracle Names Server と連絡が取れません。

原因: サービス・エクスポートまたはサービス・インポートが、Names Server との連絡に失敗しました。

処置: Oracle Names 構成が正しいことを確認してください。エラーが発生する場合は、Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04011 NCCR: Oracle Names のエラー。

原因: Names Server との通信中に、サービス・エクスポートまたはサービス・インポートが失敗しました。

処置: Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04012 NCR: アドレス記述子が無効です。

原因: アドレス記述子が無効であるため、NCRREI_EXPORT_INTERFACE コールに失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04013 NCR: 認可が十分ではありません。

原因: 認可が十分でないため、Names Server 操作に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04014 NCR: インスタンス名が無効です。

原因: インスタンス名が無効であるため、サービス・エクスポートまたはサービス・インポートが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04015 NCR: インタフェース名が無効です。

原因: インタフェース名が無効であるため、サービス・エクスポートまたはサービス・インポートが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04016 NCR: 最後のインタフェース・インスタンス・ハンドルです。

原因: 渡されたインスタンス・ハンドルは、リストの最後のインスタンス・ハンドルです。これは、リストの終わりに達したことを示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NCR-04017 NCR: インタフェース・インスタンス・ハンドルが見つかりません。

原因: インスタンス名に対応するインスタンス・ハンドルが見つかりませんでした。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04018 NCR: TNS アドレス・リストを作成できません。

原因: インタフェース・インスタンス・リストから TNS アドレス・リストを作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04019 NCR: インタフェースまたはインスタンス名はすでに存在しています。

原因: ネーム・サーバーに名前がすでに存在するため、サービス・エクスポートが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04020 NCR: インタフェースまたはインスタンス名は存在しません。

原因: ネーム・サーバーに名前が存在しないため、サービスの削除または問合せに失敗しました。

処置: Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04021 NCR: Pickler のエラー。

原因: Pickler のエラーのため、サービス・エクスポートまたは問合せに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04022 NCR: プロシージャ記述子が無効です。

原因: プロシージャ記述子が無効であるため、プロシージャ登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04023 NCR: オブジェクト記述子が無効です。

原因: オブジェクト記述子が無効であるため、オブジェクト登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: アプリケーションをデバッグして修正してください。

ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)

NZE-28750 不明なエラーが発生しました。

原因：不明なタイプの Oracle Security Server エラーが発生しました。通常、このエラーは、アプリケーションから参照できません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28751 メモリーの割当てに失敗しました。

原因：システム・メモリーを使い果たしたため、メモリーの割当てに失敗しました。

処置：他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

NZE-28752 データ・ソースの初期化に失敗しました。

原因：データ・ソースの初期化に失敗しました。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの正確な原因を判断してください。このエラーは、多くの場合、システム・リソースが使い果たされていることが原因で発生します。

NZE-28753 データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因：データ・ソースの使用終了に失敗しました。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの正確な原因を判断してください。このエラーは、メモリーまたはディスクの破損が原因である可能性があります。

NZE-28754 オブジェクトの保管に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：処置は必要ありません。

NZE-28755 オブジェクトの検索に失敗しました。

原因: ファイルまたはデータベースからの情報の検索に失敗しました。

処置: データ・ソースが存在することを確認してください。または、検索対象の情報が正しいことを確認してください。

NZE-28756 コールバックでメモリーの割当てに失敗しました。

原因: コール側が提供した関数でメモリーの割当てに失敗しました。

処置: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

NZE-28757 0 (ゼロ) バイトのメモリーを割り当てようとしてしました。

原因: これ以上メモリーがありません。

処置: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

NZE-28758 メモリーの解放に失敗しました。

原因: メモリーの断片の解放に失敗しました。アプリケーションまたは Oracle Security Server ライブラリ内のメモリーが破損している可能性があります。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、操作に失敗した原因を判断してください。

NZE-28759 ファイルのオープンに失敗しました。

原因: 指定されたファイルのオープンに失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、オープンできなかったファイル名とその原因を判断してください。

NZE-28760 リストの作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28761 要素の作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28762 要素の追加に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28763 パラメータ・タイプが無効です。

原因: SQLNET.ORA 内のパラメータにエラーがある可能性があります。

処置: SQLNET.ORA ファイルで、このパラメータ値を確認してください。

NZE-28764 構成パラメータの検索に失敗しました。

原因: 構成パラメータの検索に失敗しました。

処置: 必要な構成パラメータを提供してください。

NZE-28765 データ・メソッド・リストが存在しません。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28766 データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因: データ・ソースの使用を終了したときにエラーが発生しました。システム・エラーの可能性があります。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの正確な原因を判断してください。

NZE-28767 バージョン番号が無効です。

原因: ファイルのバージョン番号が正しくありません。

NZE-28768 マジック番号が正しくありません。

原因: データ・ファイルに無効なマジック番号が指定されました。

処置: ディスクが破損しているか、または他のプロセスがファイルを上書きした可能性があります。トレースを使用可能にして、エラーの正確な原因を判断してください。

NZE-28769 指定されたメソッドが存在しません。

原因: 構成ファイルに指定されているデータ・アクセス・メソッドは、サポートされていません。

処置: サポートされているメソッドを指定してください。サポートされているタイプについては、Oracle Security Server のドキュメントを参照してください。

NZE-28770 データ・ソースはすでに初期化されています。

原因: コール側が、すでに初期化されているデータ・ソースを初期化しようとしてしました。

処置: これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは、データ・ソースを 2 回以上初期化してはなりません。

NZE-28771 データ・ソースはまだ初期化されていません。

原因: コール側が、まだ初期化されていないデータ・ソースを使用しようとしてしました。これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは必ずデータ・ソースを初期化する必要があります。

処置: エラーを修正してください。

NZE-28772 無効なファイル ID です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28773 マジック番号およびバージョン番号の書込みに失敗しました。

原因: マジック番号とバージョン番号の書込みに失敗しました。

処置: 通常、このエラーは、ディスク領域が使い果たされたために発生します。

NZE-28774 ディスクへのファイルの書込みに失敗しました。

原因: ファイルの出力に失敗しました。

処置: 通常、このエラーは、ディスク領域が使い果たされたために発生します。

NZE-28775 ファイルのクローズに失敗しました。

原因: データ・アクセス・メソッドで使用するファイルのクローズに失敗しました。

処置: 通常、このエラーは、メモリーの破損やシステム・エラーなどを示しています。トレースを使用可能にし、エラーの正確な原因をトレース・ファイルで調べてください。

NZE-28776 供給された出力バッファが小さすぎます。

原因: 関数から戻されるデータが大きすぎるため、供給されたバッファに入りません。

処置: より大きなバッファを使用して、ルーチンを再コールしてください。

NZE-28777 バインドの作成に失敗しました

原因: パラメータ値の解析で使用するバインドの作成に失敗しました。このエラーは、パラメータ値の形式に誤りがあること（たとえば、必要な位置に右カッコがない）、またはシステム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

処置: パラメータが正しい形式で指定されていることを確認してください。形式が正しい場合は、プロセスを終了してシステム・メモリーを解放するか、またはメモリーを追加してください。

NZE-28778 指定されたパラメータの形式が正しくありません。

原因: 構成パラメータが正しい形式で指定されていません。

処置: このパラメータの正しい形式については、Oracle Security Server のドキュメントを参照してください。

NZE-28779 パラメータにデータ・アクセス・メソッドが指定されていません。

原因: パラメータ値に、データ・アクセス用のメソッドが指定されていませんでした。

処置: パラメータ・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドについては、Oracle Security Server のドキュメントを参照してください。

NZE-28780 パラメータにより指定されたメソッドが無効です。

原因: パラメータ値で指定されたデータ・アクセス・メソッドは、サポートされていません。

処置: データ・アクセス・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドについては、Oracle Security Server のドキュメントを参照してください。

NZE-28781 パラメータにメソッド・データが指定されていません。

原因: 指定されたアクセス・メソッドで使用するパラメータに、データが指定されていません。

処置: アクセス・メソッド用に指定する必要があるデータについては、Oracle Security Server のドキュメントを参照してください。

NZE-28782 データ・ソースが割り当てられていません。

原因: データ・ソースにメモリーが割り当てられていません。

処置: アプリケーションは、データ・ソースの初期化関数をコールする必要があります。

NZE-28783 無効なパラメータです。

原因: 構成ファイル内のパラメータ名と一致しません。

処置: SQLNET.ORA ファイル内のパラメータを確認してください。

NZE-28784 ファイル名の変換に失敗しました。

原因: ファイル名の、Oracle 形式から固有形式への変換に失敗しました。

処置: 正しい名前を指定してください。正しいファイル名形式については、Oracle のドキュメントを参照してください。

NZE-28785 パラメータが存在しません。

原因: 構成パラメータがパラメータ・ファイルに存在しません。

処置: 必要なパラメータを提供してください。

NZE-28786 暗号化されたプライベート・キーの復号化に失敗しました

原因: 複合化に、不正なパスワードが使用されました。

処置: 正しいパスワードを入力してください。

NZE-28787 プライベート・キーの暗号化に失敗しました。

原因: SQLNET.ORA 内の MKWALLET のパラメータにエラーがある可能性があります。

処置: SQLNET.ORA ファイルを確認してください。また、トレースをオンにして、MKTOKEN.TRC ファイルでその他のエラーを確認してください。

NZE-28788 ユーザーが無効な情報を入力したか、または不明なエラーが発生しました。

原因: ユーザーの、プロンプトに対する入力为正しくありません。または、不明なエラーです。

処置: 正しく入力するか、またはトレースを使用可能にしてトレース・ファイルでエラーを確認してください。

NZE-28789 名前型が見つかりません

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28790 NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: NLS サブシステムが使用する文字列のオープンに失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28791 証明の照合に失敗しました。

原因: ユーザーが提供した証明の照合に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28792 PL/SQL の操作に失敗しました

原因: Oracle Security Server が実行した PL/SQL 操作は失敗しました。これは内部エラーです。

処置: Oracle Net を使用可能にし、操作を再試行してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28793 変数のバインドに失敗しました

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28794 データ型の属性初期化に失敗しました。

原因: データ型の属性の初期化に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、エラーの原因を調べてください。このエラーは、システム・リソースを使い果たしたことが原因の可能性があります。

NZE-28795 属性データ型の使用終了に失敗しました。

原因：属性データ型サブシステムの使用終了に失敗しました。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28796 アクセス・メソッドがサポートされていません。

原因：データのアクセスに指定されたメソッドはサポートされていません。

処置：サポートされているアクセス・メソッドを使用してください。

NZE-28797 データ型が無効です。

原因：キーに指定された型はサポートされていません。

処置：キー型を修正してください。

NZE-28798 バインドするサブキーの数がキーの数と一致しません

原因：バインドするためにアプリケーションから渡されたキーの数が、キーの作成に使用される数と一致しません。これは内部プログラミング例外です。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28799 共有メモリーの割当てに失敗しました。

原因：共有サーバーに関連する操作で使用する、共有メモリーの割当てに失敗しました。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。このエラーは、Oracle サーバーで供給されているメモリー・ヒープが使い果たされたことが原因で発生する可能性があります。

NZE-28800 オープンに失敗しました。

原因：データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のオープンに失敗しました。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28801 無効なオブジェクト型です。

原因：これは内部エラーです。

処置：処置は必要ありません。

NZE-28802 指定されたモードが無効です。

原因：構成ファイルに指定されているモードまたはデータ・ソースが正しくありません。

処置：SQLNET.ORA ファイルでメソッド・パラメータを確認してください。また、Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28803 入出力操作に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）へのアクセスに失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28804 クローズに失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のクローズに失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28805 検索に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）からの情報の検索に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28806 保存に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）の書込みに失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28807 更新に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）の更新に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28808 メソッド情報の検索に失敗しました。

原因: メソッド（ファイル / データベース）情報の検索に失敗しました。

処置: SQLNET.ORA ファイルでメソッド構成パラメータを確認してください。また、Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28809 削除に失敗しました。

原因: データ・ソースからの情報の削除に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28810 作成に失敗しました。

原因: キー記述子の作成に失敗しました。

処置: Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーの原因を判断してください。

NZE-28811 無効なアクセス記述子です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28812 レコード操作に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：処置は必要ありません。

NZE-28813 無効なレコード型です。

原因：これは内部エラーです。

処置：処置は必要ありません。

NZE-28814 Oracle 形式から固有形式への数値変換に失敗しました。

原因：Oracle 形式で指定された数値を固有形式に変換することに失敗しました。これは内部プログラミング例外です。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーを再現してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを提供してください。

NZE-28815 固有形式から Oracle 形式への数値変換に失敗しました。

原因：固有形式で指定された数値を Oracle と移植性のある形式に変換することに失敗しました。これは内部プログラミング例外です。

処置：Oracle Net トレースを使用可能にして、エラーを再現してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを提供してください。

NZE-28816 パスワードが提供されていません

原因：要求されたパスワードが PL/SQL ファンクションに渡されていません。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28817 PL/SQL ファンクションからエラーが返されました

原因：PL/SQL ファンクションから予期しないエラーが返されました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28818 パッケージ・コンテキストが提供されていません

原因：セキュリティ・パッケージの状態を保持するコンテキストが、それを必要としているファンクションまたはプロシージャに渡されていません。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28819 識別名が提供されていません

原因：ユーザーの識別名が、PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに提供されていません。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28820 状態が提供されていません

原因: 署名または複合化 / 暗号化のいずれかの状態が、PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28821 入力バッファが提供されていません

原因: 期待したバッファが、PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28822 シードがありません。

原因: PL/SQL のシード初期化関数にシードを指定していません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28823 バイト数が指定されていません。

原因: PL/SQL 乱数発生ルーチンに発生させる乱数のバイト数を指定していません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28824 暗号化 / 復号化 / 署名の状態が無効です

原因: PL/SQL の暗号化、複合化または署名のプロシージャまたはファンクションに、無効な状態が渡されています。

処置: 正しい状態値を指定してください。

NZE-28825 暗号エンジン関数が指定されていません。

原因: 暗号エンジン関数が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28826 暗号エンジン関数が無効です

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、不正な暗号エンジン関数が渡されています。

処置: 正しいエンジン関数を指定してください。

NZE-28827 暗号型が無効です

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、不正な暗号型が渡されています。

処置: 正しい暗号型を指定してください。

NZE-28828 認証型が無効です

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、不正な認証型が渡されています。

処置: 正しい認証型を指定してください。

NZE-28829 暗号型が指定されていません

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、暗号型が渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28830 認証型が指定されていません

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、認証型が渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28831 データ単位フォーマットが提供されていません

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、データ単位フォーマットが渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28832 データ単位フォーマットが無効です

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、不正なデータ単位フォーマットが渡されています。

処置: データ単位フォーマットを指定してください。

NZE-28833 十分な情報が提供されていません。

原因: PL/SQL ファンクションに、十分な情報（通常はパラメータ）が提供されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28834 バッファが小さすぎます。

原因: PL/SQL が Oracle Security Server Toolkit 関数に提供しているバッファが、戻されるデータには小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28835 認証記述子がないか、または小さすぎます

原因: PL/SQL ファンクションまたは記述子に、認証が提供されていないか、渡された認証記述子のサイズが正しくありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28836 Wallet がオープンしていません。

原因: 使用される Wallet がまだオープンしていません。

処置: Wallet をオープンする関数をコールしてください。

NZE-28837 Wallet 記述子がありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、Wallet 記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28838 認証記述子がありません

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、認証記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28839 Persona 記述子がありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに、Persona 記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28840 Wallet はすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしている Wallet をオープンしようとしました。これはプログラミング・エラーです。Wallet をオープンするのは一度のみです。

処置: エラーを修正してください。

NZE-28841 この操作はサポートされていません。

原因: サポートされていない操作を実行しようとしました。これはプログラミング・エラーです。

処置: エラーを修正してください。

NZE-28854 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: システム・メモリーを使い果たしたため、メモリーの割当てに失敗しました。

処置: 他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

NZE-28855 サポートされない SSL 操作です。

原因: 不明な暗号指定、不適切なバージョンなど、サポートされない操作が行われました。

処置: 正しい値を指定してください。

NZE-28856 オーバーフロー・エラーが発生しました。

原因：SSL ハンドシェイク中に、バッファがオーバーフローしました。

処置：通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28857 不明な SSL エラーが発生しました

原因：不明な SSL エラーが発生しました。

処置：通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28858 SSL プロトコル・エラーが発生しました

原因：2つのプロセス間の SSL ハンドシェイク中に、エラーが発生しました。

処置：通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28859 SSL でネゴシエーションに失敗しました

原因：SSL プロトコルの一部である 2つのプロセス間のネゴシエーション中にエラーが発生しました。このエラーは、両プロセスの接続で同じ暗号セットがサポートされていない場合、または両方の接続の SSL バージョンに互換性がない場合に発生します。

処置：同じ暗号セットをサポートし、互換性のあるバージョンを使用するように、それぞれのプロセスを再構成した後、再接続してください。

NZE-28860 致命的な SSL エラーが発生しました

原因：SSL 接続中にエラーが発生しました。

処置：通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28861 SSL 接続がブロックされます

原因：これは情報メッセージです。このメッセージは、ユーザーには表示されません。

処置：通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28862 SSL 接続に失敗しました。

原因: このエラーは、プロセスが終了するなど、接続の一方に問題が発生した場合に発生します。

処置: 再接続してください。

NZE-28863 SSL セッションが見つかりません。

原因: これは情報メッセージです。指定したセッションが存在しない場合に表示されます。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28864 SSL 接続は正常にクローズしました

原因: これは情報メッセージです。接続が正常にクローズした場合に表示されます。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28865 SSL 接続はクローズしました。

原因: 基礎となるトランスポート層でエラーが発生したか、接続先のプロセスが突然停止したため、SSL 接続がクローズしました。

処置: トレースを使用可能にし、再接続してください。トレースの出力に、エラーの原因が示されます。

NZE-28866 無効な認証のコード化です

原因: 提示された認証には、認識できないフィールドがあります。

処置: 認証が正しいことを確認してください。認証が正しい場合は、トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28867 整数の値が大きすぎます。

原因: 提示された認証には、値が大きすぎる整数フィールドがあります。

処置: 認証が正しいことを確認してください。認証が正しい場合は、トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28868 認証連鎖のチェックに失敗しました

原因: リモート・プロセスが提示した認証リストのチェックに失敗しました。次の原因が考えられます。

1. 認証が期限切れである。
2. 認証の認証局がトラスト・ポイントとして認識されていない。
3. 認証の署名が確認できない。

処置: 次のことを確認してください。

1. Wallet にインストールされているすべての認証が使用可能である。
2. 必要な認証がすべて Wallet にロードされている。
3. すべての認証に有効な署名がある。

NZE-28869 認証が期限切れです

原因: クライアントまたはサーバーの認証に使用された認証が期限切れです。

処置: 期限切れでない認証を取得して、再接続してください。

NZE-28870 名前の比較に失敗しました。

原因: 2 つの認証フィールドに含まれる名前の比較に失敗しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28871 認証連鎖が不完全です

原因: 提示された認証連鎖が不完全です。連鎖が、自己署名のルート認証で終了していません。

処置: ルートに指定した認証が、自己署名であることを確認してください。

NZE-28872 認証の形式が無効です

原因: 他のプロセスで提示された認証が X.509v3 規格に準拠していません。

処置: 規格に準拠した認証を取得し、再接続してください。

NZE-28873 パラメータが無効です。

原因: NULL パラメータを持つ関数が提示されました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28874 SSL: I/O をクローズしました - goodbye kiss をオーバーライドします

原因: これは情報メッセージです。指定したセッションが存在しない場合に表示されます。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28875 SSL: サーバー・ゲートの暗号セットを使用します。

原因: これは、エラーではなく、内部状態インジケータとして使用されます。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28876 Internet Explorer の SGC エラーが発生しました

原因: Microsoft Internet Explorer から送信された認証の処理時に、エラーが発生しました。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28879 プロトコル側の設定がありません。

原因: アプリケーションが、SSL 接続に資格証明を提示しようとしたましたが、プロセスがクライアントであるかサーバーであるかが事前に示されていませんでした。

処置: 通常、このエラーは、ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28884 無効な暗号セットです

原因: アプリケーションが暗号セットを文字列表現に変換しようとしたましたが、値が既知の暗号セットに対応していません。

処置: 暗号セットに適切な値を指定してください。ただし、Oracle Net SSL プロトコル・アダプタからこのエラーが返された場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28890 委任ログインに失敗しました。

原因：アプリケーションが、委任プロファイル・フィールドにログインしようとして失敗しました。次の原因が考えられます。

1. 委任管理または委任認証がオンラインではない。
2. 指定した委任プロファイルのパスワードが無効である。
3. 指定した委任プロファイルへのパスが無効である。
4. 指定した委任初期化ファイルが無効である。
5. 委任サーバー・ログイン・プログラムが実行されていない（サーバー側のみ）。

処置：次のことを確認してください。

1. 委任認証がオンラインである。
2. 委任プロファイルのパスワードが正しく指定されている。
3. 委任プロファイルのパスが正しく指定されている。
4. 有効な委任初期化ファイルが指定されている。
5. データベースの起動前に、委任サーバー・ログイン・プログラムが実行されている。

詳細は、トレースを使用可能にして、トレースの出力が示す委任エラー・コードを参照してください。

NZE-29002 SSL トランスポートでは無効または古いサーバー認証を検出しました

原因：クライアントが、サーバーの認証から一致しない識別名を検出しました。サーバーの識別名が、SID またはサービス名を反映していません。

処置：サーバーへの接続は、安全ではない可能性があります。管理者に連絡し、サーバーのデータベース名またはサービス名を反映するように、サーバーの認証を更新してください。

NZE-29003 SSL トランスポートでは一致しないサーバー認証を検出しました

原因：クライアントが、サーバーの識別名およびセキュリティ構成の不一致を検出しました。

処置：サーバーへの接続は、安全ではない可能性があります。管理者に連絡し、サーバーの識別名を反映するように、クライアントの TNS 接続データを構成してください。

NZE-29228 出力のバイト数を計算できませんでした。

原因：暗号エンジンがアルゴリズムについて混乱しています。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29229 ヘッダーで検出されたマジック番号が期待値と一致しません。

原因: 入力 TDU が破損しているか、または正しく使用されていません。

処置: TDU が最初から使用されているものであることを確認してください。可能な場合は、生成時の TDU のサイズと使用しようとしたサイズを比較してください。

NZE-29230 メッセージ・ヘッダーのヘッダー長が不十分です。

原因: 入力 TDU が破損しているか、または正しく使用されていません。

処置: TDU が最初から使用されているものであることを確認してください。可能な場合は、生成時の TDU のサイズと使用しようとしたサイズを比較してください。

NZE-29231 暗号エンジンの初期化に失敗しました。

原因: 暗号エンジンの初期化中に、なんらかのエラーが発生しました。このエラーの原因には、メモリーの不足や乱数発生ルーチンをシードしようとしたことなどがあります。

処置: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、およびスワップ領域が使い果たされていないことを確認してください。

NZE-29232 暗号エンジン・キーの初期化に失敗しました。

原因: 暗号化用のキーの初期化中に、なんらかのエラーが発生しました。このエラーの原因には、メモリーの不足や不正な引数の受渡しなどがあります。

処置: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、および暗号関数に正しいパラメータが使用されていることを確認してください。

NZE-29233 キー・オブジェクトをコード化できませんでした。

原因: キー・オブジェクトが破損しているか、またはサポートされていないタイプです。

処置: コード化ルーチンに渡されているキー・オブジェクトを確認してください。

NZE-29234 キー・オブジェクトがコード化されませんでした。

原因: コード化が破損しているか、またはキー・オブジェクトではありません。

処置: 復号化ルーチンに渡されたコード化およびパラメータを確認してください。

NZE-29235 キー情報を取得できませんでした。

原因: キーが破損しているか、またはサポートされない型です。

処置: 暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29236 ランダム・ナンバー・ジェネレータがシードを受け入れません。

原因: 暗号エンジンがメモリーを使い果たした可能性があります。

処置: 実行可能ファイルが、互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていることを確認してください。

NZE-29237 暗号エンジンでアルゴリズムを終了できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムの適用を正しく完了するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29238 暗号エンジンでアルゴリズムを適用できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく適用するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29239 暗号エンジンでアルゴリズムを初期化できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく初期化するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29240 暗号エンジンでアルゴリズムを認識できません。

原因：アプリケーションが誤ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29241 バッファ・ブロックにさらに領域が必要ですが、長さが固定されています。

原因：アプリケーションは、その操作には小さすぎる出力バッファを事前割当てし、必要に応じてバッファを拡張しないことを指定しました。

処置：より大きなバッファを事前割当てするか、または Toolkit が必要に応じて出力バッファを拡張できるようにしてください。

NZE-29242 非対称キーが短すぎてデータに使用できません。

原因：非対称キーは、暗号化に使用されるデータより 11 バイト以上長い必要があります。

処置：より長い非対称キーを使用するか、またはデータをより小さな断片に分割してください。

NZE-29243 使用しているキーの型がツールキットに認識されません

原因：アプリケーションが誤ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29245 使用している関数がツールキットに認識されません

原因：アプリケーションが誤ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29246 ツールキットで TDU を解析できませんでした

原因: tdu が破損している可能性があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29247 オープンする前にツールキット・オブジェクトが使用されました

原因: 一部の Toolkit オブジェクトは、使用する前にオープンする必要があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29248 認識されない WRL が Wallet のオープンに使用されました

原因: WRL は、特定の型セットを持ち、正しくフォーマットされている必要があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29249 暗号関数に渡された状態が認識されません。

原因: アプリケーションが誤ったパラメータを渡している可能性があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

第 V 部

プリコンパイラ・メッセージ

第 V 部には、次の章があります。

- 第 34 章「SQL*Module メッセージ (MOD)」
- 第 35 章「Object Type Translator 型ファイル・メッセージ (O2F)」
- 第 36 章「Object Type Translator 初期化メッセージ (O2I)」
- 第 37 章「Object Type Translator 解析解除メッセージ (O2U)」
- 第 38 章「Pro*COBOL メッセージ (PCB)」
- 第 39 章「PCF FIPS メッセージ (PCF)」
- 第 40 章「Pro*C/C++ メッセージ (PCC)」
- 第 41 章「SQL ランタイム・メッセージ (SQL)」

SQL*Module メッセージ (MOD)

MOD-00001 ファイル *string* をオープンできません。

原因：SQL*Module は、内部的に使用するテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、ファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリが読取り専用に保護されている可能性があります。

処置：十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること（システム管理者に問い合わせてください）、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許可していることを確認してください。

MOD-00002 列 *number*、行 *number* (ファイル *string*) に無効な構文があります。

原因：SQL 文に構文エラーが存在するか、またはこの文がモジュール・ファイル内で正しく終了していません。

処置：SQL 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の SQL 文が正しく終了していることを確認してください。

MOD-00003 列 *number*、行 *number* (ファイル *string*) に無効な SQL 識別子があります。

原因：SQL 識別子の記号が無効です。

処置：文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、モジュール・ファイルの宣言文で識別子を定義してください。

MOD-00004 行 *number* (ファイル *string*) にサポートされないデータ型があります。

原因：モジュール・ファイルのプロシージャ定義で定義したホスト変数が、サポートされていないデータ型であるか、またはサポートされている範囲外の位取りまたは精度です。

処置：サポートされているデータ型を使用して、ホスト変数を再定義してください。数値変数の位取りおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

MOD-00005 列 *number*、行 *number* (ファイル *string*) に無効な include file 名があります。

MOD-00006 列 *number*、行 *number* (ファイル *string*) に無効なホスト変数があります。

原因: SQL 文で使用されるホスト変数が、プロシージャ定義で定義されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

処置: サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言してください。

MOD-00007 行 *number* (ファイル *string*) でカーソルをオープンできません。

原因: SQL 文の構文が不完全です。モジュール・コンパイラはホスト言語を想定していますが、それ以外のものがあります。

処置: 構文および綴りを調べて、SQL 文を修正してください。

MOD-00008 include file "*string*" をオープンできません (行 *number*、ファイル *string*)。

MOD-00009 入力ファイル "*string*" をオープンできません。

原因: SQL*Module が、INAME オプションで指定した入力ファイルをオープンできません。このエラーの原因としては、次のことが考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- ファイルは存在するが、指定されたパス以外のディレクトリ内にある。
- ファイルを読み込むための権限またはアクセス権がない。

処置: ファイルの読み込みに必要な権限が与えられていることを確認してください。名前およびディレクトリ階層が正しく指定されていることを確認してください。コンパイラを再実行してください。

MOD-00010 リスト・ファイル "*string*" をオープンできません。

原因: SQL*Module がリスト出力ファイルを作成できません。通常、このエラーは、カレント・ディレクトリまたは LNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書き込み権限がない場合に発生します。また、名前またはディレクトリ・パスが不適切であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

処置: 指定されているパスおよびファイルに対する権限があることを確認してください。LNAME オプションを使用していない場合は、カレント・ディレクトリに対する権限を確認してください。

MOD-00011 出力ファイル"string" をオープンできません。

原因：SQL*Module が、仕様ファイルや出力コード・ファイルなどの出力ファイルを生成できません。通常、このエラーは、カレント・ディレクトリか、ONAME または SNAME オプション用に指定したディレクトリに対して書き込み権限がない場合に発生します。また、名前またはディレクトリ・パスが不適切であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

処置：指定されているパスおよびファイルに対する書き込み権限があることを確認してください。ONAME または SNAME オプションを使用していない場合は、カレント・ディレクトリに対する権限を確認してください。

MOD-00012 行 number (ファイル string) で文を解析できません。

原因：モジュール言語ファイル内に構文エラーがあります。次に SQL 文の例を示します。

```
SELECT ename INTO :name FROM emp WHERE ...
```

たとえば、この SQL 文がモジュール・プロシージャ内にある場合に、このメッセージが表示されます。このメッセージは、意味的なエラーによってトリガーされるものではありません。詳細は、MOD-00075 を参照してください。

処置：構文エラーを修正し、再コンパイルしてください。

MOD-00013 "string" のはずでしたが、"string" でした (行 number、ファイル string)。

原因：SQL 文の構文が誤っています。モジュール・コンパイラは予想外のトークンまたは不適切なトークンを見つけました。

処置：構文および綴りを調べて、SQL 文を修正してください。

MOD-00014 行 number (ファイル string) でバインド変数を取得できません。

原因：モジュール・コンパイラは、SQL 文の中で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置：入力ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言し、SQL 文で正しく使用していることを確認してください。

MOD-00015 ORACLE エラー: string

原因：このメッセージは、バインド変数のモードに対して値が無効であるなどの、内部エラーによって発行されます。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00016 領域不足 -number バイトを割当てられません。

原因: SQL*Module が、SQL*Module の実行用または必要な処理の実行用に、十分なメモリーを割り当てられませんでした。

処置: あまり重要でないプロセスを削除して、SQL*Module を再実行してください。オペレーティング・システムによっては、プロセスが割り当てられるメモリー量に割当て制限がある場合があります。システム管理者に問い合わせてください。必要に応じて、マシンのメモリーを増やしてください。

MOD-00017 "string: string/string" で Oracle に接続できません。Oracle エラー番号: number

原因: 指定したデータベース接続、ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。このメッセージは、コマンドラインの指定の誤り、またはモジュールの AUTHORIZATION 句内のユーザー名またはパスワード（あるいはその両方）の指定の誤りによって発生することがあります。

処置: このマニュアルの ORA メッセージの章でこのエラー番号を探して、障害に関する情報を参照してください。識別子を修正して、SQL*Module を再実行してください。

MOD-00018 Oracle から切断できません。

原因: Oracle が停止されたため、モジュールがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

処置: Oracle が使用可能であることを確認してください。その後、再実行してください。

MOD-00019 標識変数 "string" の型または長さが正しくありません (行 number、ファイル string)。

原因: プロシージャ定義内で、インジケータ変数を 2 バイトの整数として宣言していません。インジケータ変数は、2 バイトの整数として定義する必要があります。

処置: インジケータ変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

MOD-00020 オプション "string" は EXEC ORACLE OPTION として有効ではありません。

原因: プリコンパイラ・オプションを EXEC ORACLE 文内にインラインで指定しました。オプションの中にはコマンドラインのみから指定できるものもあります。たとえば、INAME はインラインでは指定できません。

処置: EXEC ORACLE 文ではなく、コマンドラインにプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

MOD-00021 オプション "string" はあいまいです。

原因: モジュール・コマンドライン・オプション名の使用があいまいです。

処置: 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。モジュール・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）MODADA コマンドを入力してください。

MOD-00022 オペランド "string" は、オプション "string" に対して無効です。

原因: モジュール・オプションに指定された値が誤っています。その値は、このモジュール・オプションに対して不適切です。

処置: 適切なオプション値を再指定してください。

MOD-00023 オプション "string" は無効です。

原因: モジュール・コンパイラは無効なモジュール・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプションが存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が欠落しているか、等号の前後に空白が入っている。

処置: オプションが存在すること、また、オプション名の綴りが正しいことを確認してください。モジュール・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）MODADA コマンドを入力してください。オプション名と値の間の等号があることを確認してください。

MOD-00024 オプション "string" に対するオペランドがありません。

原因: モジュール・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落しているか、等号の前後に空白があります。

処置: 各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

MOD-00025 アクセス・モジュールを作成できません。

原因: モジュールがモジュール・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。

処置: ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

MOD-00026 ホスト言語が指定されていません。

原因: ホスト言語名が、モジュール・ファイルの LANGUAGE 句に指定されていません。

処置: LANGUAGE 句に Ada（大文字および小文字の区別はありません）を指定してください。

MOD-00027 入力ファイル名が指定されていません。

原因: STORE_PACKAGE=YES オプションが入力されましたが、INAME オプションを使用して入力ファイルが指定されていません。

処置: コマンドラインで INAME を使用してください。

MOD-00028 この SQL 文で配列ホスト変数は無効です。

原因: SQL 文で使用されるホスト変数が、プロシージャ定義で宣言されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

処置: サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をプロシージャ定義内で宣言してください。

MOD-00029 VARCHARstring(number) は 65533 を超えています（行 number/ ファイル string）。

原因: VARCHAR ホスト変数に宣言したサイズが、モジュールの制限である 65533 バイトを超えています。

処置: それぞれの VARCHAR 変数のサイズが 65533 バイトを超えていないか、宣言を確認してください。

MOD-00030 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります（行 number、ファイル string）。

原因: 2 つの AT 句が同じ SQL 文に属していて、一方は DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方は DECLARE CURSOR 文にあります。AT 句は、DECLARE STATEMENT または DECLARE CURSOR のいずれかに指定できますが、この両方に指定することはできません。

処置: いずれかの文から AT 句を削除してください。

MOD-00031 行 number、列 number でエラーが発生しました。PLS-number: string

原因: SQL 文または PL/SQL ブロックで、モジュールがエラーを検出しました。

処置: 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または PL/SQL ブロックを修正してください。

MOD-00032 構文が無効です。PL/SQL を実行できません (行 *number*、ファイル *string*)。

原因: モジュールが SQL 文を想定しているときに、PL/SQL ブロックを見つけました。

処置: PL/SQL ブロックを、SQL 構文を使用した文に置き換えてください。

MOD-00033 IRECLLEN の値を超過しました (行 *number* ファイル *string*)。

原因: 入力ファイルの読み込み中に、モジュールが IRECLLEN より長い行を検出しました。

処置: この入力行を短くするか、またはコマンドラインでより長い IRECLLEN を指定してください。

MOD-00034 *string* を実行するには認可が不十分です。

原因: MODADA コンパイラを実行する認可またはライセンスの期限が切れました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00035 *string* への認可が期限切れになります。

原因: MODADA プリコンパイラを実行する認可またはライセンスが期限切れになります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00036 内部プログラミング例外が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00037 SQL 文または PL/SQL ブロックの終わりが見つかりません。

原因: SQL 文または PL/SQL ブロックの最後に、モジュールが想定していた文の終了記号以外のものがありました。このエラーは、モジュール・ファイルにタブが埋め込まれている場合に発生する可能性があります。

処置: ソース・コードにタブが埋め込まれている場合は、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を確認し、SQL 文に終了記号があることを確認してください。

MOD-00038 出力言語が Ada の場合は、モジュール名が必要です。

原因: モジュール・ソース・ファイルに MODULE 句が指定されなかったか、モジュールの名前が指定されませんでした。

処置: モジュール・ファイル内でモジュール名を指定してください。

MOD-00039 仕様部ファイル "string" をオープンできません。

原因: SQL*Module が仕様部（ヘッダー）出力ファイルを作成できません。通常、このエラーは、カレント・ディレクトリまたは SNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書き込み権限がない場合に発生します。また、名前やディレクトリ・パスが不正である場合、パス上にディレクトリが存在しない場合、またはディスクやファイル・システムが一杯の場合にも発生します。

処置: 指定されているパスおよびファイルに対する書き込み権限があることを確認してください。SNAME オプションを使用していない場合は、カレント・ディレクトリに対する書き込み権限を確認してください。ディスクまたはファイル・システムに空きがあることを確認してください。

MOD-00040 出力言語が未指定です。コンパイルは強制終了されました。

原因: LANGUAGE 句がモジュール・ソース・ファイルに指定されていません。

処置: モジュール・ファイル内で LANGUAGE 句を指定してください。

MOD-00041 行 *number*、列 *number* に ANSI 違反があります: *string*

原因: FIPS=YES が指定されていて、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル規格に準拠していません。

処置: FIPS=NO（デフォルト）を指定するか、またはコードを修正してください。

MOD-00042 カーソル "string" は 2 度以上宣言できません。

原因: メッセージに示されているカーソルが、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

処置: (モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で) 各カーソル名が一意であることを確認してください。

MOD-00043 プロシージャ "string" は 2 度以上宣言できません。

原因: プロシージャ名 X が、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

処置: (モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で) 各プロシージャ名が一意であることを確認してください。

MOD-00044 パラメータ "string" は、プロシージャ "string" で 2 度以上宣言できません。

原因: メッセージに示されているプロシージャで、他のパラメータ名に使用されている名前がパラメータ名として宣言されています。

処置: プロシージャ内の各パラメータ名が一意であることを確認してください。

MOD-00045 文字列の長さ *number* は無効です。

原因: CHAR[n] ホスト変数に、2 文字未満の長さが指定されました。文字列の長さは 2 文字以上にする必要があります。

処置: 2 文字以上の長さを指定するように、宣言を修正してください。

MOD-00046 カーソル "string" は未宣言です。

原因: モジュール・ファイル内で、まだ宣言されていないカーソルに対して、OPEN、FETCH または CLOSE を実行しようとしてしました。

処置: モジュール・ファイルに適切なカーソル宣言を挿入してください。カーソルに対して動作を行う前に、ファイル内でカーソル宣言を行う必要があります。

MOD-00047 カーソル "string" に対するオープン文はすでに存在しています。

原因: このモジュール内に、指定されたカーソルに対する OPEN コマンドを含むプロシージャが複数あります。

処置: 複数ある必要はないので、OPEN コマンドを 1 つ削除してください。

MOD-00048 カーソル "string" はオープンされていません。

原因: このメッセージに示されているカーソルに対する OPEN コマンドが、モジュール内に存在しません。

処置: OPEN コマンドを追加するか、またはカーソルが必要なければ削除してください。

MOD-00049 PL/SQL を初期化できません。

原因: 通常、このメッセージは、SQL*Module が、モジュールの AUTHORIZATION 句またはコマンドライン上で USERID オプションによって記述されたユーザー名およびパスワードを使用して、データベースに接続できないときに出力されます。

処置: Net Services を使用して接続している場合は、リスナー・プロセスが実行中であること、および AUTHORIZATION 句またはコマンドライン上で指定されたサービス名が TNSNAMES.ORA ファイル内にあることを確認してください。接続パラメータが正しいにもかかわらず、この問題が繰り返し発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00050 仮パラメータ "string" はプロシージャ "string" では使用されません。

原因: プロシージャ内で宣言された仮パラメータが使用されていません。

処置: パラメータ宣言を削除するか、またはパラメータをプロシージャ内で使用してください。

MOD-00051 パラメータ "string" に対して無効な参照モードが指定されました。

原因: このパラメータのモードは無効です。モードは、IN、OUT または IN OUT のいずれかである必要があります。

処置: 参照モードを IN、OUT または IN OUT の適切なものに修正してください。

MOD-00052 STORE_PACKAGE データベースが接続ホストと一致しません。

原因: モジュールがデータベースのパッケージを格納できません。

MOD-00053 重複しているマクロ定義は一致しません。

MOD-00054 参照 "string" は無効なカーソル参照です。

原因: 宣言されていないカーソルを OPEN しようとしてしました。

処置: カーソルを宣言するか、またはカーソルへの誤った参照を削除してください。

MOD-00055 プリプロセッサ擬似命令が解釈されていません。

MOD-00056 配列結合は 0（ゼロ）より大きくなければなりません。

原因: 不正な配列索引が指定されています。

処置: 索引が 0（ゼロ）より大きくなるように、配列索引を再指定してください。

MOD-00057 マクロの引数リストが見つかりません。

MOD-00058 マクロの起動にある引数の数が正しくありません。

MOD-00059 INTO 変数 "string" が仮パラメータとしてリストされていません。

原因: SELECT 文内の INTO 句の対象が、プロシージャのパラメータではありません。

処置: プロシージャのパラメータ・リスト内で正しいデータ型を使用してパラメータを宣言してください。

MOD-00060 パッケージの仕様部のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

原因: SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズで意味的なエラーが発生しました。

処置: データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE を指定して SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード仕様ファイル（拡張子 .pks）を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00061 パッケージの本体のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

原因: SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズで意味的なエラーが発生しました。

処置: データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE を指定して SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル（拡張子 .pkb）を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00062 標識のホスト変数を認識できません。

原因: インジケータ変数として使用されたホスト変数が宣言されていません。

処置: ホスト変数を宣言するか、可能な場合は、SQL 文からインジケータ変数を削除してください。

MOD-00063 プロシージャ *string*、パラメータ *string*: 無効なインタフェース型 "*string*" です。

原因: インタフェース・プロシージャ (スタブ)・ファイルの生成時、参照されるストア・パッケージまたはストア・プロシージャ内の WITH INTERFACE PROCEDURE 句に、無効なデータ型を持つパラメータが含まれていました。

処置: データ型を修正してください。WITH INTERFACE 句内のデータ型は、PL/SQL データ型ではなく、SQL のデータ型である必要があります。

MOD-00064 プロシージャ *string*: インタフェースに余分なパラメータ "*string*" があります。

原因: ストアド・パッケージまたはストア・プロシージャの WITH INTERFACE 句で未使用パラメータが宣言されています。

処置: パッケージの WITH INTERFACE 句を修正してください。

MOD-00065 プロシージャ *string* に対するインタフェース定義がありません。

原因: 1 つ以上のプロシージャの WITH INTERFACE 句を含まないパッケージに対してスタブを生成しようとしていました。

処置: パッケージ仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください。

MOD-00066 データベースからパッケージ "*string*" をロードできません。

原因: PNAME オプションを使用して指定したパッケージ名が正しくないか、または SQL*Module が必要なデータベース・スキーマにアクセスできませんでした。

処置: 指定したパッケージが存在していて、有効な状態であることを確認してください。このスキーマに対する USER_OBJECTS 表の STATUS 列を調べ、パッケージが有効であることを確認してください。

MOD-00067 パッケージ名が必要ですが、指定されていません。

原因: オプションおよび値 RPC_GENERATE=YES と STORE_PACKAGE=YES は指定されましたが、PNAME オプションを使用するパッケージ名が指定されていません。

処置: PNAME オプションを追加してください。

MOD-00068 システム構成ファイルが見つからないか、またはオープンできません。

原因: これは警告メッセージです。SQL*Module がシステム構成ファイルを見つけられないか、ファイルをオープンできません。システム構成ファイルの格納場所は、システム固有です。使用しているシステム上での格納場所については、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

処置: ファイルが存在すること、また、そのファイルに読取り権限または適切なアクセス権限が設定されていることを確認してください。この警告メッセージが出力されないようにするには、システム構成ファイルが存在する必要があります。ファイルは空でもかまいません。

MOD-00069 パッケージの格納時に ORACLE エラー *number* が発生しました。

原因: SQL*Module が、データベースにパッケージを格納しようとして失敗しました。

処置: このマニュアルでこのエラー番号を探し、問題を解決してください。

MOD-00070 プロシージャ *string* インタフェースには *string* に対する宣言がありません。

原因: WITH INTERFACE 句内にインジケータ変数が指定されていますが、対応する主変数が宣言されていません。

処置: WITH INTERFACE 句を修正してください。インジケータ変数を削除するか、またはホスト変数を宣言してください。

MOD-00071 PNAME オプションが必要ですが設定されていません。

原因: データベースに格納されたパッケージの名前が指定されていません。これはストアド・パッケージからスタブを生成するために必要です。

処置: データベースに格納されたパッケージの名前を指定してください。

MOD-00072 PNAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因: 必要がないときに、PNAME オプションが使用されました。PNAME オプションは、RPC_GENERATE および STORE_PACKAGE のいずれかまたはその両方を指定する場合にのみ必要です。

処置: コマンドラインを修正してください。

MOD-00073 INAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因: 必要がないときに、INAME オプションが使用されました。たとえば、RPC_GENERATE=YES および PNAME オプションを指定した場合は、INAME は必要ありません。

処置: INAME オプションを使用しないでください。

MOD-00074 ONAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因: 必要がないときに、ONAME オプションが使用されました。たとえば、RPC_GENERATE=NO および STORE_PACKAGE=YES を指定した場合、または OUTPUT 値リストに CODE 値が含まれていない場合は、ONAME オプションは必要ありません。

処置: ONAME オプションを使用しないでください。

MOD-00075 行 *number* でエラーが発生しました。PLS-*number*: *string*

原因: SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズで意味的なエラーが発生しました。

処置: データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE を指定して SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル (拡張子 .pkb) を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00076 行 *number* に ANSI 違反があります。PLS-number: string

原因: FIPS=YES が指定されており、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル規格に準拠していません。

処置: FIPS=NO (デフォルト) を指定するか、またはコードを修正してください。

MOD-00077 SQLCODE または SQLSTATE など、必須のステータス・パラメータがありません。

原因: すべてのパラメータ定義に、ステータス・パラメータ SQLCODE または SQLSTATE (あるいはその両方) を入れる必要があります。

処置: SQLCODE または SQLSTATE を入れてください。

MOD-00078 格納されたパッケージからスタブを生成する場合は、ユーザーの指定が必要です。

原因: USERID の指定がないので、SQL*Module は、サーバーに接続してストアド・パッケージからスタブ (インタフェース・プロシージャ・ファイル) を生成できません。

処置: (デフォルト・データベースへの接続時以外は) サービス名、ユーザー名およびパスワードを指定してください。この操作は、コマンドライン上または構成ファイル内で行ってください。

MOD-00079 RPC=yes の場合は SQLCHECK は必ず SEMANTICS でなければなりません。

原因: スタブ・ファイルの作成時は、SQLCHECK=SYNTAX (または SQLCHECK=NONE) を指定できません。

処置: コマンドラインまたは構成ファイルから、SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE 指定を削除してください。

MOD-00080 格納されたパッケージ・ソースの抽出でエラーが発生しました。

原因: コマンドライン上または構成ファイル内で OUTPUT=PACKAGE が要求されましたが、指定された名前のパッケージがスキーマ内に存在しないか、INVALID のマークが付けられています。

処置: 指定された名前のパッケージが存在し、有効であることを確認してください。

MOD-00081 アサーションに失敗しました。

原因: SQL*Module への入力の一部でエラーまたは警告状態が発生しました。このメッセージは、必ず特定のエラー・メッセージまたは警告メッセージの後に出力されます。

処置: このメッセージに対する処置は必要ありません。前出のエラーを解決してください。

MOD-00082 [パッケージ本体をコンパイルしています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00083 [パッケージ本体がコンパイルされました]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00084 [パッケージ仕様部をコンパイルしています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00085 [パッケージ仕様部がコンパイルされました]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00086 エラー: ユーザー名をインストールできません。強制終了されました ...

原因: ユーザー名はサーバーによって拒否されました。

処置: ユーザー名が有効である場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00087 [パッケージをデータベースに格納しています]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00088 その機能はまだ実装されていません。

原因: SQL*Module が、コンパイルは可能ですが、まだ実装されていない機能を使用している SQL 文を検出しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00089 プロシージャ *string: string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00090 カーソル *string: string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00091 [格納されたパッケージへの RPC コールを生成しています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00092 [RPC コールの生成が完了しました。]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00093 SNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: 必要がないときに、SNAME オプションが使用されました。たとえば、OUTPUT オプションの値リストに SPECIFICATION が含まれていない場合は、SNAME オプションは必要ありません。

処置: SNAME オプションを使用しないでください。

MOD-00094 PNAME オプションのエクステンションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: PNAME オプションの値にファイル名エクステンションが含まれていました。パッケージはデータベース・オブジェクトであり、ファイルではありません。

処置: エクステンションを削除してください。

MOD-00095 データ型 "string" は、このホスト言語に対して無効です。

原因: ホスト言語に対してサポートされていないデータ型が使用されました。たとえば、データ型 NUMERIC は、Ada および C に対してはサポートされていません。

処置: 各ホスト言語においてサポートされるデータ型については、各言語の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

MOD-00096 LNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: OUTPUT オプション・リストに値 LIST が含まれていません。

処置: OUTPUT オプションの値リストに LIST を追加してください。

MOD-00097 このホスト言語にはインタフェース付きの指定が必要です。

原因: PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部に、WITH INTERFACE 句が含まれていませんでした。現在は、PL/SQL ファンクションまたはパッケージへのコールを作成するために、MODADA が WITH INTERFACE 句の存在を必要とします。

処置: WITH INTERFACE 句を含めるように、PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を修正してください。または、WITH INTERFACE 句を持つ PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を使用して、元の PL/SQL パッケージをコールさせてください。

MOD-00098 bind=late の場合のみ、インタフェース付きがデフォルトになります。

原因： WITH INTERFACE 句を持たない PL/SQL パッケージまたはファンクションへのコールの作成中に、コマンドライン・オプション bind=early が指定されました。

処置： コマンドライン・オプションを bind=late に変更するか、または PL/SQL 仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください（エラー MOD-00097 の処置を参照）。

MOD-00099 モジュールを保存する場合 (store=yes)、型 *string* は無効です。

原因： モジュールに含まれている型と等しい PL/SQL 型が、現在はありません。その型はデータベースへは格納できません。

処置： コマンドライン・オプションを STORE=NO に設定するか、または無効な型を含むプロシージャを別のモジュールへ移動し、そのモジュールを STORE=NO でコンパイルしてください。

Object Type Translator 型ファイル・メッセージ (O2F)

O2F-00301 INTYPE ファイルからの読み込み試行中にエラーが発生しました。

原因：INTYPE ファイルからの読み込み試行中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00302 メモリーを割り当てられません。

原因：Object Type Translator (OTT) がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00303 INTYPE ファイルが指定されていません。

原因：必須オプションの INTYPE が指定されていません。

処置：INTYPE オプションに、OTT が変換する型の名前を含むファイルの名前を設定してください。INTYPE オプションは、コマンドラインまたは CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00304 INTYPE のファイル名が無効です。

原因：指定された INTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

処置：INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00305 INTYPE ファイルを読み込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因：INTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルへのアクセス権があることを確認してください。

O2F-00306 INTYPE ファイルをクローズできません。

原因：INTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00307 INTYPE ファイルを読み込めません。

原因：INTYPE ファイルの最初のトークンが読み込めませんでした。INTYPE ファイルから読み込もうとしたときにオペレーティング・システム・エラーが発生したか、または INTYPE ファイルの行がすべて空白行またはコメント行です。

処置：エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定が含まれていることを確認してください。

O2F-00308 INTYPE ファイルに型指定がありません。

原因：INTYPE ファイルに型指定がないか、または前に発生したエラーが原因で、最初の型指定を読み込むことができません。

処置：前に発生したエラーをすべて修正してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定があることを確認してください。

O2F-00309 ユーザー定義型の名前が無効か、または指定されていません。

原因：ユーザー定義型の名前は、型指定の先頭にあるキーワード TYPE に続けて指定する必要があります。有効な型名が見つかりません。

処置：型指定の構文が正しく、型名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00310 識別子名が無効か、または指定されていません。

原因：AS の後ろに C または C++ の有効な識別子が必要ですが、それが見つかりません。

処置：先頭が数字で始まらない、英文字、数字およびアンダースコアで構成される C または C++ の有効な識別子を使用してください。

O2F-00311 ファイル名が無効か、または指定されていません。

原因：有効なファイル名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいファイル名を使用してください。

O2F-00312 型バージョンの文字列が無効か、または指定されていません。

原因：型バージョン名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいバージョン名を使用してください。

O2F-00313 属性名が無効か、または指定されていません。

原因：INTYPE ファイル内に属性名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しい属性名を使用してください。

O2F-00314 INTYPE ファイルに AS がありません。

原因：INTYPE ファイルの構文は不正です。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。

O2F-00315 型の属性が型指定に 2 回記述されています。

原因：ユーザー定義型の属性が、INTYPE ファイルの型指定に 2 回記述されています。2 番目の指定は無視されます。

処置：いずれかの属性を削除してください。

O2F-00316 型指定の最後で予期せぬトークンが検出されました。

原因：INTYPE ファイルに構文エラーがあります。

処置：ドキュメントを参照して、INTYPE ファイルの型指定の構文が正しいことを確認してください。

O2F-00317 ERRTYPE ファイルを書込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因：書込み用の ERRTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：ERRTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ERRTYPE ファイルの作成または更新ができるかを試し、ファイルへの書込み権限があることを確認してください。

O2F-00318 OUTTYPE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：このファイルに対するオペレーティング・システムの書込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2F-00319 OUTTYPE ファイルが指定されていません。

原因：必須オプションの OUTTYPE が指定されていません。

処置：OUTTYPE オプションに、OTT によって生成される TYPE ファイルの書込み先のファイル名を設定してください。OUTTYPE オプションはコマンドラインまたは CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00320 OUTTYPE ファイルのファイル名が無効です。

原因: 指定された OUTTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

処置: OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00321 OUTTYPE を書き込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因: OUTTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。このファイルをオープンするための、オペレーティング・システムの権限があることを確認してください。

O2F-00322 OUTTYPE ファイルをクローズできません。

原因: OUTTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: エディタで OUTTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00323 OTT の機能 O2F で内部エラーが発生しました。

原因: OTT の O2F コンポーネントで、内部 OTT エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00324 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換できません。

原因: 型、属性またはメソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

処置: 名前は、最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットは、プラットフォームに依存した方法で指定されます。UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 NLS_LANG を設定することによって指定されます。コンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。コンパイラのキャラクタ・セット自体は、そのようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2F-00325 名前の文字に適切な識別子の文字がありません。

原因: データベース・エンティティの名前として使用されている文字を、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

処置: INTYPE ファイルで、名前に対して明示的な変換を指定してください。

O2F-00326 この名前の文字に不正な識別子の文字があります。

原因: データベース・エンティティ名の 1 つ以上の文字を、英文字、アンダースコア、数字などの C または C++ の識別子で使われる文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

処置: 名前の綴りが正しく、名前の最後が空白、行の終わりまたは等号 (=) で終わっていることを確認してください。変換されたアンダースコア付きの名前を使用するか、INTYPE ファイルで名前に対して明示的な変換を指定してください。

O2F-00327 CASE オプションの値が無効です。

原因: INTYPE ファイルで CASE オプションに指定された値は無効です。

処置: CASE オプションに指定した値を、SAME、LOWER、UPPER または OPPOSITE のいずれかの有効な値に変更してください。

O2F-00328 INITFUNC 名が無効です。

原因: INTYPE ファイルで INITFUNC オプションに指定された関数名は、C または C++ の有効な識別子ではありません。

処置: INITFUNC 関数の名前を、C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で指定されるか、コマンドライン上で指定されるか、または INITFILE 名から導出されます。

O2F-00329 型またはオプションを指定してください。

原因: INTYPE ファイル内に型指定またはオプション指定が必要ですが、見つかりません。

処置: INTYPE ファイルに構文エラーがないことを確認してください。型指定またはオプション指定を記述してください。型指定は TYPE で開始してください。オプション指定は CASE、INITFILE または INITFUNC で開始してください。

O2F-00330 名前が 265 バイトを超えています。

原因: INTYPE ファイル内の名前の長さが 265 バイトを超えています。

処置: より短い名前を指定してください。

O2F-00331 INTYPE ファイルに構文上不正な名前があります。

原因: INTYPE ファイル内で使用している名前に構文エラーが発生しました。

処置: 名前が引用符で囲まれている場合は、左の引用符と右の引用符の両方があることを確認してください。ピリオド（スキーマ名と型名を分ける）が記述されている場合は、スキーマ名および型名の両方があることを確認してください。

O2F-00332 ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクは設定できません。

原因: ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクが設定されています。この機能はサポートされていません。

処置: OTT が接続するデータベースで、ユーザー定義型を宣言してください。

O2F-00333 INTYPE ファイルに、キーワードが必要な場所に予期せぬトークンがあります。

原因: INTYPE ファイル内に TYPE などのキーワードが必要ですが、不正なキーワードまたは綴りの正しくないキーワードが見つかりました。

処置: 型指定がドキュメントに記述されている構文に準拠していることを確認してください。キーワードの綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00334 INTYPE ファイルにユーザー定義型が複数記述されています。

原因: 複数の型指定に同じ名前のユーザー定義型が記述されています。重複した型指定は無視されます。

処置: 単一の型指定についての情報（すべての型名および属性名）をすべて調べて、重複している型指定を削除してください。

O2F-00335 OTT の O2F コンポーネントで内部エラーが発生しました。

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。OTT のコンポーネント O2F で内部エラーが発生しました。

処置: INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00336 サブシステムでエラーが発生しました。

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。データベースへのアクセス時に、サブシステムでエラーが発生しました。

処置: サブシステムからレポートされたエラー・メッセージを使用して、エラーの原因を調べてください。INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。

O2F-00337 スキーマが見つからないか、またはスキーマに型が見つかりません。

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。スキーマが見つからないか、スキーマにユーザー定義型が見つからないか、または Oracle に接続できません。

処置: OTT のログイン / パスワード文字列が指定され、Oracle データベースが OTT で接続可能であることを確認してください。データベースの USER_TYPES 表に、1 行以上が含まれていることを確認してください。

O2F-00338 パッケージ名が見つからないか、または不適切です。

原因: IN、PACKAGE または IN PACKAGE の後に、有効な Java パッケージ名が必要ですが、それが見つかりません。

処置: 有効な Java パッケージ名を使用してください。

O2F-00339 CODE オプションの値が無効です。

原因: INTYPE ファイルで CODE オプションに指定された値は無効です。

処置: CODE オプションに指定した値を、有効な値（C、ANSI_C、KR_C、JAVA、NATIVE_JAVA または ORACLE_JAVA のいずれか）に変更してください。

O2F-00340 名前が NULL です。

原因：名前の長さが 0（ゼロ）文字です。

処置：このエラーは、ユーザーには表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00341 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因：このエラーの原因がレポートされませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Object Type Translator 初期化メッセージ (O2I)

O2I-00101 USERID パラメータの値が無効です。

原因：USERID パラメータに入力された値が、ユーザー名 / パスワード [@ データベース名] 文字列ではありません。

処置：データベースの接続時に使用する USERID オプションは、ユーザー名 / パスワードまたはユーザー名 / パスワード @ データベース名の正しい組合せに設定してください。OPS\$ アカウントがある場合は、USERID オプションを省略できます。その場合 Object Type Translator (OTT) は、OPS\$ ユーザー名のユーザー ID を使用してデータベースに接続しようとします。USERID オプションは、コマンドラインまたは CONFIG ファイルでも指定できます。

O2I-00102 Oracle に接続できません。

原因：OTT が、指定されたユーザー名およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。USERID オプション値が誤っています。または、USERID が入力されていない場合は、ユーザー ID の OPS\$ ユーザー名が受け入れられません。

処置：カレントのユーザー名およびパスワードが正しいことを確認してください。Oracle に接続する別のプログラムを実行し、そのユーザー名およびパスワードを使用して接続できることを確認してください。

O2I-00103 INTYPE ファイルで、同じ HFILE ファイルを 2 つのファイル名で参照しています。

原因：INTYPE ファイルで、同じ HFILE ファイルを参照するために 2 つの異なるファイル名が使用されているか、またはコマンドラインと INTYPE ファイルで、同じ HFILE を参照するために異なるファイル名が使用されています。

処置：HFILE ファイルは一貫して同じファイル名で参照してください。

O2I-00110 OTT のコンポーネント O2I で内部エラーが発生しました。

原因: OTT のコンポーネント O2I で内部 OTT エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00111 メモリーを割り当てられません。

原因: OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00112 HFILE ファイルに書き込みできません。

原因: OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: このファイルに対するオペレーティング・システムの書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00113 HFILE ファイルが指定されていません。

原因: OTT によって生成される C の宣言の書き込み先の HFILE ファイルが指定されていません。

処置: コマンドラインまたは CONFIG ファイルで、グローバルな HFILE オプションを指定してください。型を記述する INTYPE ファイルのエントリで別の HFILE を指定することによって、特定の型に別の HFILE を選択している可能性があります。INTYPE ファイルの各エントリで HFILE を指定し、HFILE のすべての型がそこに記述されている型の宣言のみを必要とする場合、グローバルな HFILE オプションは省略できます。以前に起動した OTT が生成した INTYPE ファイルは、これらの条件を満たしています。

O2I-00114 HFILE ファイル名が無効です。

原因: 不正な構文の HFILE ファイル名が指定されました。

処置: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00115 HFILE ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 書き込み用の HFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込み権限があることを確認してください。

O2I-00116 HFILE ファイルをクローズできません。

原因: HFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00117 内部エラー: コンポーネント O2U のメッセージ・ファイルがありません。

原因: 内部 OTT コンポーネント O2U 用のメッセージ・ファイルが見つかりません。
OTT が正しくインストールされていない可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00118 ユーザー定義のこの型はデータベース内で見つかりません。

原因: INTYPE ファイルで指定されたユーザー定義型が、データベース内で見つかりません。

処置: 型の名前の綴りが正しいことを確認してください。この型が実際にデータベースで宣言されていることを確認してください。

O2I-00119 サブシステムでレポートされた警告:

原因: OTT によって起動されたサブシステムから警告がレポートされました。その警告は、「サブシステムでレポートされた警告」メッセージに続いて表示されます。

処置: サブシステムからレポートされた警告を使用して、エラーの原因を調べてください。

O2I-00120 サブシステムでエラーが発生しました。

原因: OTT によって起動されたサブシステムからエラーがレポートされました。そのエラーは、「サブシステムでレポートされたエラー」メッセージに続いて表示されます。

処置: サブシステムからレポートされたエラー・メッセージを使用して、エラーの原因を調べてください。

O2I-00121 CODE オプションに対する値が指定されていません。

原因: コマンドラインまたは構成ファイルに、必要な CODE オプションが指定されていません。

処置: コマンドラインまたは構成ファイルで、CODE オプションを指定してください。
現在、コード・オプションの値は、CODE=ANSI_C、CODE=KR_C および CODE=C がサポートされています。

O2I-00122 INITFILE ファイルのファイル名が無効です。

原因: INITFILE ファイルで指定されたファイル名は構文的に正しくありません。

処置: INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00123 INITFILE ファイルをクローズできません。

原因: INITFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: エディタで INITFILE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00124 書き込み用に INITFILE ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

原因：書き込み用の INITFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。INITFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込み権限があることを確認してください。

O2I-00125 INITFILE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：INITFILE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：このファイルに対するオペレーティング・システムの書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00126 SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE の場合は INTYPE ファイルを指定する必要があります。

原因：オプション SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE は、INTYPE ファイルに指定されているように OUTTYPE ファイルにスキーマ名を書込むように要求していますが、INTYPE ファイルが指定されていません。

処置：INTYPE ファイルの名前を指定するか、SCHEMA_NAMES オプションに ALWAYS または IF_NEEDED を指定してください。

O2I-00127 INITFUNC 名が無効です。

原因：INITFUNC 関数の名前が、C または C++ の有効な識別子ではありません。

処置：INITFUNC 関数の名前を、C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で指定されるか、コマンドライン上で指定されるか、または INITFILE 名から導出されます。

O2I-00128 Java ファイルに書き込めません。

原因：Java ソース・ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：このファイルに対するオペレーティング・システムの書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00129 指定された Java ファイルはありません。

原因：OTT によって生成される Java の宣言の書き込み先のファイルが指定されていません。

処置：Java ファイルはそれを宣言したクラスの名前に基づいて命名されるため、このメッセージが表示されることはありません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00130 Java ファイル名が無効です。

原因：不正な構文の Java ファイル名が指定されました。

処置：Java ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00131 Java ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因：書き込み用の Java ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込み権限があることを確認してください。

O2I-00132 Java ファイルをクローズできません。

原因：Java ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：Java ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00133 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因：このエラーの原因がレポートされませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Object Type Translator 解析解除メッセージ (O2U)

O2U-00200 OTT の機能 O2U で内部エラーが発生しました。

原因：Object Type Translator (OTT) の O2U 機能で内部 OTT エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00201 関数 o2upt() への引数が正しくありません。

原因：関数 o2upt() へ無効な引数が渡されました。これは、通常は発生しない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00202 無効なデータが関数に渡されました。

原因：無効な値を持つ引数が関数 o2upt() に渡されました。これは、通常は発生しない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00203 宣言される型はオブジェクト型か名前付きコレクション型でなければなりません。

原因：OTT がサポートしていない型のコードを生成するよう要求されました。Java コードを生成する場合、OTT はオブジェクト型のコードのみを生成します。C の宣言を生成する場合、OTT はオブジェクト型および名前付きコレクション型の宣言のみを生成します。

処置：OTT に組み込み型を宣言するように要求しているか、または Java コードを生成している場合に名前付きコレクション型を宣言するように要求している可能性があります。このような型の宣言の生成を OTT に要求しないでください。

O2U-00204 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換できません。

原因: 型、属性またはメソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

処置: 名前は、最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットは、プラットフォームに依存した方法で指定されます（UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 `NLS_LANG` を設定することによって指定されます）。INTYPE ファイルのキャラクタ・セットを含み、かつコンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。データベースのキャラクタ・セットは、このようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2U-00205 型の名前に正当な識別子の文字がありません。

原因: ユーザー定義型の名前として使用されている文字はすべて、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

処置: INTYPE ファイルで、型名に対する明示的な変換を指定してください。

O2U-00206 型の名前の文字で不正な識別子の文字があります。

原因: ユーザー定義型の名前の 1 つ以上の文字を、英文字、アンダースコア、数字などの C または C++ の識別子で使われる文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

処置: INTYPE ファイルで型名に対する明示的な変換を指定するか、変換されたアンダースコア付きの型名を使用してください。

O2U-00207 属性名に正当な識別子の文字がありません。

原因: 型の属性名の文字を、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。問題のある属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で明らかに不正なデータ・メンバー名がないか調べてください。

処置: INTYPE ファイルで、属性名に対して明示的な変換を指定してください。

O2U-00208 属性名の 1 つまたは複数の文字が正当な識別子文字ではありませんでした。

原因: C または C++ の有効な識別子の文字に変換できない文字が属性名に 1 つ以上含まれている場合、変換できない文字はアンダースコアに置き換えられます。問題のある属性または属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で、元の属性名にない不要なアンダースコアを含むデータ・メンバー名がないか調べてください。

処置: INTYPE ファイルで問題のある属性に対する明示的な変換を指定するか、変換されたアンダースコア付きの属性名を使用してください。

O2U-00209 変換する属性名または関数名が見つかりません。

原因：変換が要求された属性名または関数名は、現在の型の属性名または関数名ではありません。

処置：名前の綴りが正しく、現在の型で定義された属性名または関数名であることを確認してください。

O2U-00210 メモリーを割り当てられません。

原因：OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00211 属性のない型が変換されました。

原因：OTT が属性のない型を変換しました。対応する C 型は構成要素のない構造体で、C の有効な型ではありません。型の作成中のエラーにより、データベース内に無効な型が生成される場合があります。また、互いに参照する型の作成時に不完全な型が一時的に使用される場合があります。

処置：データベースに対応する型を再作成し、OTT を再実行してください。

O2U-00212 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因：このエラーの原因がレポートされませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Pro*COBOL メッセージ (PCB)

Pro*COBOL の詳細は、『Pro*COBOL Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCB-00001 *string*

原因: これはコマンドライン・プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCB-00002 コマンドライン・プロセッサで重大なエラーが見つかりました。

原因: コマンドライン・プロセッサが重大なエラーを検出しました。

処置: すべてのコマンドライン・オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションと構成ファイルのすべてのアカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCB-00003 DBMS オプションの値は、指定した MODE オプションの値に対して無効です。

原因: MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 または V8 が指定されたか、または MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは、Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 より前では無効であることに注意してください。

処置: DBMS=V7 または V8 の場合は、MODE={ANSI14 | ANSI13} ではなく、MODE={ANSI | ORACLE} を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSI ではなく MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE} を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

PCB-00004 UNSAFE_NULL=YES は DBMS=V7 または V8、および MODE=ORACLE とともに使用しなければなりません。

原因: UNSAFE_NULL=YES オプションが、DBMS=V6 または DBMS=NATIVE (デフォルト) とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

処置: UNSAFE_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 または V8、および MODE=ORACLE (デフォルト) を指定してください。または、UNSAFE_NULL=YES を使用しないでください。

PCB-00005 コマンドラインでオプションが NLS_LOCAL=YES のとき MODE=ANSI である必要があります。

原因: MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES を使用しました。NLS_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定する必要があります。

処置: NLS_LOCAL=YES を使用する場合はプリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定してください。または、NLS_LOCAL=YES は設定しないでください。

PCB-00006 ユーザー ID は SQLCHECK=FULL のときのみ使用されます、ユーザー ID は無視されました。

原因: SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

処置: USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICS の場合のみに指定してください。

PCB-00007 *string*

原因: これはコマンドライン・プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCB-00008 埋込み PL/SQL で SQLCHECK=SEMANTICS(FULL) が指定されていません。

原因: SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE のときに、プリコンパイラが PL/SQL ブロックを解析しようとした。SQLCHECK=SEMANTICS を指定している場合のみに、PL/SQL ブロックを解析できます。

処置: PL/SQL ブロックを削除するか、または SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCB-00009 EXEC SQL 文の後で、MAXLITERAL の変更はできません。

原因: EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で、MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

処置: MAXLITERAL オプションは、コマンドラインまたは入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文のみで使用してください。

PCB-00010 EXEC ORACLE 文にある SQLCHECK 値がコマンドラインの値を超えています。

原因：SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンドラインで指定された（またはデフォルトで受け入れられた）レベルより高いチェック・レベルが指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンドラインで SQLCHECK={SYNTAX} を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL} をインラインで指定することはできません。これは情報メッセージです。プリコンパイラはインライン値を無視して処理を続けます。

処置：EXEC ORACLE 文を修正するか、またはコマンドラインのチェック・レベルを低くしてください。

PCB-00011 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。

原因：V6 との互換性はサポートされていません。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されたものとしてプリコンパイルします。

処置：指定した DBMS オプションの値を、V6 以外の値に変更してください。

PCB-00012 オプション TYPE_CODE=ANSI の場合、コマンド行オプション DYNAMIC=ANSI が必要です。

原因：DYNAMIC=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション TYPE_CODE=ANSI が使用されました。TYPE_CODE=ANSI の場合は、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を指定する必要があります。

処置：TYPE_CODE=ANSI を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を設定してください。または、TYPE_CODE=ANSI は設定しないでください。

PCB-00100 テンポラリ・ファイル *string* を再オープンできません。

原因：プリコンパイラはテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置：ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

PCB-00101 システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因: プリコンパイラがシステム構成ファイルをオープンできませんでした。システム構成ファイルが存在しないか、ディレクトリが正しくありません。

処置: システム構成ファイルが正しいディレクトリにあることを確認してください。システム構成ファイルの配置は、Oracle インストレーション・ドキュメントで確認してください。デフォルト・オプションを指定した PCCCOB.CFG の新しいコピーを、適切なディレクトリに置いてください。

PCB-00102 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムでは、ファイル名の最大長に制限があります。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCB-00104 入力ファイル"string" をオープンできません。

原因: プリコンパイラが、INAME プリコンパイラ・オプションで指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00105 挿入されたファイル名"string" は、number 文字の名前制限を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムでは、ファイル名の最大長に制限があります。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCB-00106 INCLUDE ファイル "*string*" をオープンできません。

原因：プリコンパイラは INCLUDE 文で指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置：ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00108 リスト・ファイル "*string*" をオープンできません。

原因：プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定されたリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置：ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンドラインに LTYPE=NONE を指定してください。

PCB-00109 生成されたソース・ファイル"string" をオープンできません。

原因: プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00110 テンポラリ・ファイル"string" をオープンできません。

原因: プリコンパイラはテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 同じ名前のファイルがすでに存在し、ロックされている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルがロックされていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00200 PIC N または PIC G 変数"string" は同等化できません。

原因: PIC N/G 変数、暗黙の VARCHAR グループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）またはグループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

処置: EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型と等価にする場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

PCB-00201 標識変数 *string* はグループ項目ではありません。

原因：ホスト変数は表を含むグループ項目です。この種類のホスト変数とともに使用するインジケータ変数は、グループ項目ホスト変数の表に対応するインジケータの表のグループ項目である必要があります。

処置：インジケータ変数をインジケータ表のグループ項目になるように変更してください。

PCB-00202 標識変数 *string* はグループ項目または表ではありません。

原因：ホスト変数はグループ項目です。この種類のホスト変数とともに使用するインジケータ変数は、グループ項目またはインジケータ変数の表である必要があります。

処置：グループ項目またはインジケータ変数の表を使用してください。

PCB-00203 ネストされたグループ項目 "*string*" はサポートされていません。

原因：ホスト変数として使用されている変数は、他のグループ項目を含むグループ項目です。

処置：ホスト変数として使用されているグループ項目からすべてのグループ項目を削除してください。

PCB-00204 グループ項目は INTO または VALUES 句以外で使用できません。

原因：グループ項目ホスト変数が INTO または VALUES 句以外で使用されました。グループ項目ホスト変数は、INTO または VALUES 句のみで使用できます。

処置：グループ項目ホスト変数を INTO または VALUES 句以外で使用しないでください。

PCB-00205 NLS_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で PIC N または PIC G 変数は使用できません。

原因：プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES が使用されているときに、埋込み PL/SQL ブロックで PIC N または PIC G 変数が使用されました。この状況での PIC N または PIC G 変数はサポートされていません。

処置：PL/SQL ブロック内で PIC N または PIC G 変数を使用しないでください。または、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=NO を使用してください。

PCB-00206 NLS_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で引用符リテラルの N は使用できません。

原因：プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES が使用されているときに、PL/SQL ブロック内で N リテラル (N'...' 形式のリテラル) が使用されました。この状況での N リテラルはサポートされていません。

処置：通常のリテラル (N のないリテラル) を PL/SQL ブロック内で使用するか、またはプリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=NO を使用してください。

PCB-00207 NLS_LOCAL=YES のとき、PIC N または PIC G 表変数は使用できません。

原因： OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。NLS_LOCAL=YES のとき、PIC N 変数の表はサポートされていません。

処置： OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。または、SQL 文で PIC N 変数を使用しないでください。

PCB-00208 ホスト変数 "string" の型が正しくありません。

原因： SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックに、サポートされていないデータ型の変数が使用されています。

処置： サポートされているデータ型のホスト変数を使用してください。

PCB-00209 ホスト変数 "string" に対してスケールはサポートされていません。

原因： SQL 文または埋込み PL/SQL で、スケールをサポートしていない形式の変数が使用されました。次の形式はスケールをサポートしていません。

```
PIC S9(n) COMP
PIC S9(n) COMP-4
PIC S9(n) COMP-5
PIC S9(n) BINARY
PIC 9(n) COMP
```

処置： スケールを削除するか、またはスケールをサポートするデータ型を使用してください。

PCB-00210 PIC G および PIC N 変数 "string" では DISPLAY-1 だけ可能です。

原因： USAGE 句で DISPLAY-1 を指定しているときに、PICTURE 句で PIC G または PIC N を指定しないで宣言された変数が、SQL 文で使用されました。

処置： DISPLAY-1 を DISPLAY に置き換えるか、PICTURE 句を PIC N または PIC G を使用するように変更してください。

PCB-00211 VARYING は PIC N または PIC G 変数 "string" でサポートされていません。

原因： PIC N 変数宣言でキーワード VARYING が使用されました。

処置： 変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次に示すとおり、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN
DECLARE SECTION END-EXEC.

...

01 ENAME.
05 ENAME-LEN PIC S9(4) COMP.
05 ENAME-ARR PIC N(20).

...
EXEC SQL END DECLARE
SECTION END-EXEC.
```

PCB-00212 PICTURE 句はホスト変数 "string" に対して使用できません。

原因：PIC 句および COMP-1 または COMP-2 で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：PIC 句を削除するか、または変数宣言で COMP-1 または COMP-2 以外のデータ型を使用してください。

PCB-00214 JUSTIFIED 句はホスト変数 "string" に対して使用できません。

原因：JUSTIFIED 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：変数宣言から JUSTIFIED 句を削除してください。

PCB-00215 OCCURS TO TIMES 句はホスト変数 "string" に対して使用できません。

原因：TO TIMES 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：変数宣言から TO TIMES 副次句を削除してください。

PCB-00216 OCCURS ASCENDING/DESCENDING は "string" に対して使用できません。

原因：ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：変数宣言から ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を削除してください。

PCB-00217 OCCURS INDEXED 句はホスト変数 "string" に対して使用できません。

原因：OCCURS INDEXED 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：変数宣言から OCCURS INDEXED 句を削除してください。

PCB-00218 RENAMES 句はホスト変数 "string" に対して使用できません。

原因：RENAMES 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：宣言から RENAMES 句を削除してください。

PCB-00219 EXEC SQL VAR 文で指定したサイズは無効です。

原因：指定されたデータ型に無効なサイズが指定されました。

処置：指定された型に有効なサイズを指定してください。

PCB-00220 EXEC SQL VAR 文で指定したスケールは無効です。

原因：指定されたデータ型に無効なスケールが指定されました。

処置：指定された型に有効なスケールを指定してください。

PCB-00221 ホスト変数 "string" に OCCURS DEPENDING ON 句は使用できません。

原因：DEPENDING ON 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置：変数宣言から DEPENDING ON 副次句を削除してください。

PCB-00222 ホスト変数 string のサイズが最大サイズを超えています。

原因：既存のプラットフォームで許可されているものより大きい n を指定した PIC S9 (n) で宣言した変数が、埋込み SQL 文で使用されました。32 ビット・マシンでは、n に 9 を超える値を指定することはできません。64 ビット・マシンでは、n に 18 を超える値を指定することはできません。

処置：PICTURE 句で小さい値を指定し、使用しているプラットフォームの最大許容サイズを超えないようにするか、または COMP-3 を使用してください。

PCB-00223 変数 "string" が宣言されていません。

原因：SQL 文で使用する変数が宣言されていないか、名前の綴りが誤っています。または、オプションで DECLARE_SECTION=YES を指定しているときに、宣言が DECLARE SECTION にありませんでした。

処置：変数の宣言を追加するか、または修正してください。

PCB-00224 変数 "string" への参照が不明瞭です。

原因：同じ名前の変数が複数個あり、指定された修飾子がどの変数を参照するのか判別できません。

処置：変数参照で明確な修飾子を使用してください。

PCB-00225 SQL 識別子 "string" が宣言されていません。

原因：記述子、文またはカーソルの名称を宣言していないか、またはその綴りが誤っています。または、別のタイプの SQL 識別子として宣言されています。

処置：記述子、文またはカーソルの宣言を追加するか、または修正してください。

PCB-00226 SQL 識別子 "string" はすでに定義されています。

原因：SQL 識別子（カーソル名、文名など）がすでに別の方法で定義されています。

処置：別の名前を使用してください。

PCB-00227 標識変数 "string" が宣言されていません。

原因：SQL 文で使用しているインジケータ変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが誤っています。

処置：インジケータ変数の宣言を追加するか、または修正してください。

PCB-00228 グループ項目変数 "string" が無効です。

原因: SQL 文で使用できないグループ項目変数が使用されたか、名前の綴りが誤っています。

処置: グループ項目変数の宣言または SQL 文での使用を修正してください。

PCB-00229 標識変数 "string" の型または長さが誤りです。

原因: インジケータ変数を宣言節内で 2 バイトの整数として宣言していません。インジケータ変数は、2 バイトの整数として定義する必要があります。

処置: インジケータ変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

PCB-00230 標識表のサイズはホスト変数より大きくなければなりません。

原因: ホスト変数配列が、より小さいディメンションで宣言されたインジケータ配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 EMP-NUM          OCCURS 4 TIMES PIC S9(4) COMP.  
01 EMP-NUM-IND      OCCURS 2 TIMES PIC S9(4) COMP.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.  
...  
SELECT ... INTO EMP-NUM;EMP-NUM-IND ...
```

処置: インジケータ配列のサイズを大きくしてください。

PCB-00231 ホスト変数名と標識変数名が一致してはいけません。

原因: 1 つの EXEC SQL 文内で、インジケータ変数の名前がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けたインジケータ変数の名前は異なっている必要があります。また、インジケータ変数はホスト変数としては使用できません。

処置: ホストまたはインジケータ変数の名前を変更してください。

PCB-00232 SELECT 文では表を入力バインド変数として使用できません。

原因: ホスト表を SELECT-INTO 文の WHERE 句内または SELECT-INTO 文の SELECT リストで使用しています。

処置: 表を使用しないように SELECT 文を修正するか、またはカーソルを使用してください。

PCB-00233 INTO/USING 句の表サイズが一致しません。最小値: number

原因: INTO/USING 句内の表変数のサイズが、処理された行数に対して小さすぎます。

処置: INTO/USING 句内のすべての表変数を、表示された最小サイズ以上になるように宣言してください。

PCB-00234 FOR 句の変数 "string" の型が無効です。

原因: FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型（あるいは NUMBER 型または LONG 型と互換性のあるデータ型）である必要があります。

処置: 宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG（あるいは、互換性のある Oracle またはホスト言語のデータ型）であることを確認してください。

PCB-00235 INTO/USING 句の表サイズが一致しません。最小値: number

原因: 動的 EXECUTE 文の INTO/USING 句内の表変数サイズが ARRAYLEN...EXECUTE されましたが、他のホスト変数は ARRAYLEN...EXECUTE されておらず、1 次元の表または標準の表ではないホスト変数でもありません。次に例を示します。

```
01 X PIC X(10) OCCURS 10.  
01 Y PIC S9(4) COMP OCCURS 10.  
01 Z PIC S9(4) COMP. ... EXEC SQL ARRAYLEN X (DIM) EXECUTE END-EXEC.  
... EXEC SQL EXECUTE S1 USING :X, :Y END-EXEC. <-- error EXEC SQL  
EXECUTE S1 USING :X, :Z END-EXEC. <-- ok
```

警告ではなく、エラーであるという点において、このエラーは PCB-00233 とは異なることに注意してください。

処置: INTO/USING 句のすべての表変数または 1 次元である必要がある ARRAYLEN...EXECUTE されていないホスト変数を、ARRAYLEN...EXECUTE してください。

PCB-00236 PIC N/G 変数を使用できません。NLS_NCHAR が未設定か、設定が正しくありません。

原因: ホスト変数として PIC N または PIC G 変数を使用するには、環境変数の NLS_LANG および NLS_NCHAR の両方を正しい値で設定する必要があります。次のいずれかの問題が発生すると、Pro*COBOL が PIC N および PIC G 変数をホスト変数として使用できません。

- NLS_LANG および NLS_NCHAR のいずれか、または両方が設定されていない。
- NLS_LANG が有効な言語、地域またはキャラクタ・セットで設定されていない。
- NLS_NCHAR が、有効な NCHAR キャラクタ・セットに設定されていない。
- NLS_NCHAR で指定したキャラクタ・セットが、固定幅のキャラクタ・セットではない。Pro*COBOL は、PIC N または PIC G ホスト変数に対して、固定幅のキャラクタ・セットのみを使用できます。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR を有効な固定幅のキャラクタ・セット名に設定してください。NLS_LANG に有効な言語、地域またはキャラクタ・セットを設定してください。

PCB-00237 "string" の宣言では、レベル番号が 48 を超えることはできません。

原因：レベル番号が 49 以上の VARYING または SQL-CURSOR 宣言が発生しました。

処置：レベルを 48 以下に変更してください。

PCB-00238 この表グループ項目のホスト変数は、表を要素にできません。

原因：表であり、かつ表を要素にするグループ項目が、SQL 文で使用されました。

処置：OCCURS 句をグループ項目の要素から削除してください。

PCB-00239 表グループ項目の標識は、表またはグループ項目を要素にできません。

原因：表であり、かつインジケータとして使用されるグループ項目に、表またはグループ項目の要素があります。

処置：インジケータのネストした表またはグループ項目が要素項目となるように変更してください。

PCB-00240 このホスト変数を含むグループ項目には、表を使用できません。

原因：OCCURS 句で、グループ項目に属する基本項目が参照されました。これは許可されていません。

処置：グループ項目の表の要素ではない項目に使用された基本項目を変更してください。

PCB-00241 ここではホスト変数が必要です。

原因：動的 SQL 文の COUNT 項目はホスト変数にする必要がありますが、ホスト変数が使用されていません。

処置：動的 SQL 文の COUNT 項目にホスト変数を使用してください。

PCB-00242 ここではホスト変数または真数値定数が必要です。

原因：動的 SQL 文のこの項目は、ホスト変数または真数値（整数）定数にする必要がありますが、定数が使用されていません。

処置：動的 SQL 文の項目を変更し、ホスト変数または真数値定数を使用してください。

PCB-00300 ホスト変数のデータ型は ANSI "string" でサポートされていません。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARCHAR などのポインタまたは非標準型データ型が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 USERNAME          PIC X(10) VARYING.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。

PCB-00301 Non-ANSI 機能の使用は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NON-ANSI 機能が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この機能を使用しないでください。

PCB-00302 この文は ANSI ではサポートされません。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、PREPARE などの非準拠 SQL 文が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL PREPARE SQL-STMT FROM :HV END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠文を使用しないでください。

PCB-00303 動的 SQL と PL/SQL は、ANSI SQL への Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

PCB-00304 WHENEVER 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NOTFOUND、STOP、RAISE、DO などの非準拠キーワードが WHENEVER 文に使用されました（ただし、NOT FOUND は ANSI 準拠です。）たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠キーワードを使用しないでください。

PCB-00305 COMMIT 文と ROLLBACK 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、パラメータ RELEASE、COMMIT または FORCE が、COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠パラメータを使用しないでください。

PCB-00306 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は、Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCB-00307 DROP TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DROP TABLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、DROP 文を使用しないでください。

PCB-00308 FOR 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、FOR 句が表処理 SQL 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL FOR :LIMIT INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO)  
VALUES (:EMPNUM, :JOB, :DEPTNO) END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR 句を使用しないでください。

PCB-00309 CONNECT 文は、Oracle 依存処理系です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、CONNECT 文が Oracle にログオンするために使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL CONNECT:USERNAME IDENTIFIED BY:PSSWORD END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、CONNECT 文を使用せずに AUTO_CONNECT コマンドライン・オプションを指定してください。

PCB-00310 AT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、SQL 文で AT *db_name* 句が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、AT *db_name* 句を使用しないでください。

PCB-00311 データ型の同値化は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC SQL VAR 文が使用されました。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、EXEC SQL VAR 文を使用しないでください。

PCB-00312 ここにはキーワード WORK が必要です (ANSI)。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、キーワード WORK を使用しないでください。

PCB-00313 TO SAVEPOINT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、TO SAVEPOINT *save_id* 句が ROLLBACK 文で使用されました。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、TO SAVEPOINT 句を使用しないでください。

PCB-00314 DECLARE DATABASE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DECLARE DATABASE 文が使用されました。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00315 DECLARE TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DECLARE TABLE 文が使用されました。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00316 SQL FORMS 文は、Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- EXEC IAF GET
- EXEC IAF PUT
- EXEC TOOLS GET
- EXEC TOOLS SET

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCB-00317 グループ項目のホスト変数は、Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数としてグループ項目の変数が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、グループ項目をホスト変数として使用しないでください。

PCB-00318 ARRAYLEN は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ARRAYLEN 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00319 EXEC ORACLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC ORACLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00320 VARYING ホスト変数 "string" は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARYING 型で宣言された変数が SQL 文に使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00321 暗黙の VARCHAR ホスト変数は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、暗黙の VARCHAR 変数が SQL 文で使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00322 EXEC SQL LOB 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC SQL LOB 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00400 *string*

原因：構文エラーが検出されました。

処置：適切に処置し、表示されたエラーを修正してください。

PCB-00401 文字列が正しく終了していません。

原因：文字列が適切な引用符またはアポストロフィで終了していません。または、行継続の構文が不正です。

処置：文字列が正しく終了していること、および行継続の構文が正しいことを確認してください。

PCB-00402 擬似テキストが正常に終了していません。

原因：擬似テキストのブロックが、正常に「==」で終了していません。

処置：適切な位置に「==」を付けて擬似テキストを終了してください。

PCB-00403 EXEC 文は領域 A からは開始できません。

原因：EXEC 文が領域 A（12 列より前）から開始されています。

処置：EXEC 文を右に移動し、領域 B（12 列以降）から開始してください。

PCB-00404 *string*

原因：構文エラーが検出されました。

処置：適切に処置し、表示されたエラーを修正してください。

PCB-00500 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因：EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されずに、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置：必要な（SQL_CONTEXT 型の）コンテキスト変数が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割当ておよび使用されていることを確認してください。

PCB-00501 実行時コンテキスト変数 "*string*" の型が正しくありません。

原因：EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照される実行時コンテキスト変数の型が、SQL_CONTEXT ではありません。

処置：SQL_CONTEXT 型の実行時コンテキスト変数を宣言してください。

PCB-00502 この文は THREADS=YES を指定した場合のみ使用可能です。

原因：THREADS オプションが NO と設定されているときに、EXEC SQL ENABLE THREADS が使用されました。

処置：オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

PCB-00525 ここで AT 句は使用できません。

原因：明示的な AT 句が、ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文（SQL_CURSOR 宣言を使用）とともに使用されました。

処置：AT 句の指定を削除してください。

PCB-00550 "*string*" で Oracle にログオンできません。Oracle エラー番号: *number*

原因：プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワードで Oracle にログオンできませんでした。ログオン時に、表示された番号の Oracle エラーが発生しました。

処置：表示された Oracle データベースのエラー・メッセージを探して、適切に処置してください。

PCB-00551 SQLCA はすでに挿入されています。

原因: SQLCA がすでに組み込まれた後で、プリコンパイラは SQLCA 文の組込みを検出しました。SQLCA は 1 度のみ組み込みます。

処置: 重複した組込み SQLCA 文を削除してください。

PCB-00552 SQLCA と SQLCODE 変数は、両方同時に使用できません。

原因: SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで、COBOL コンパイラ・エラーが発生する可能性があるため、これは許可されていません。

処置: SQLCA または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。SQLCA の組込みまたは SQLCODE 変数宣言のいずれかを削除してください。

PCB-00553 この文に FOR 句は使えません。

原因: FOR 句が SELECT、LOB または DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。FOR 句はこれらの文では使用できません。SELECT 文の場合、SELECT を実行して最後のループから戻されたデータは、前のループで戻されたデータを上書きします。

処置: FOR 句を文から削除してください。ホスト言語構造を使用して、文を繰り返し実行してください。

PCB-00554 Mode=ANSI で WHENEVER SQLWARNING 文を使うとき、SQLCA が必要です。

原因: MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を指定宣言せずに WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとしてしました。MODE={ANSI|ANSI14} の場合は、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

処置: プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA をハードコーディングして宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

PCB-00555 WHERE CURRENT OF 句で定義するカーソルには FOR UPDATE 句も必要です。

原因: MODE=ORACLE の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

処置: カーソル定義を修正してください。

PCB-00556 リカバリ不能なエラー。前のエラーを修正して再事前コンパイルしてください。

原因: 致命的な解析エラーまたはトークン・スタック・オーバーフローが検出されました。

処置: 解析エラーの原因となっている構文エラーを修正してください。

PCB-00557 USING 句は、PREPARE の動的な文でのみ使用できます。

原因：OPEN カーソル文で USING 句が使用され、カーソル宣言が PREPARE された文に対するものでなかったため、重大な意味エラーが発生しました。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL prepare sv from :sel_stmt END-EXEC.  
EXEC SQL declare csv cursor for sv END-EXEC.  
EXEC SQL open csv USING :hv1, :hv2 END-EXEC.
```

処置：SQL 文および DECLARE CURSOR 文で PREPARE 文を使用してください。

PCB-00558 EXEC SQL VAR 文で無効な外部データ型が指定されました。

原因：無効な外部データ型が EXEC SQL VAR 文で指定されました。

処置：有効な外部データ型を指定してください。

PCB-00575 PLS-number: string

原因：表示された PL/SQL エラー・メッセージからエラー条件を調べてください。

処置：表示された PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCB-00576 PLS-number: string

原因：埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

処置：表示された PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCB-00577 SQL 文内でホスト表を宣言した ARRAYLEN 文を使用しても無視されます。

原因：ARRAYLEN は PL/SQL のみで有効です。

処置：適切な表タイプを使用してください。

PCB-00578 変数 "string" は表である必要があります。

原因：ARRAYLEN 文に、事前に宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は表である必要があります。2 番目のホスト変数には 4 バイトの整数で配列を指定します。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN HTABLE (DIM) END-EXEC.
```

ARRAYLEN 文は、HOST_TABLE および要素数の宣言より後にある必要があります。

処置：ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、不足しているホスト配列名を指定してください。

PCB-00579 "string" に対する ARRAYLEN 文の長さの変数型が無効です。

原因: ARRAYLEN 文に有効な表の要素数が指定されませんでした。表の要素数は、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ETABLE (25) END-EXEC. -- illegal dimension
```

処置: 有効な表の要素数を指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

PCB-00580 以前に使用したホスト変数 "string" では異なる識別子が使用されています。

原因: PL/SQL 文内で、ホスト変数に異なる 2 つのインジケータ変数を使用されているか、あるインスタンスのインジケータ変数を使用して別のインスタンスのインジケータ変数を使用していません。

処置: ホスト変数に対する参照をすべて変更して、すべてのホスト変数が同じインジケータ変数を使用するか、またはインジケータ変数を使用しないように設定してください。

PCB-00581 "string" は、ホスト変数と識別子の両方で使用されました。

原因: PL/SQL 文内で、同じ変数がホスト変数とインジケータ変数の両方に使用されています。

処置: ホスト変数およびインジケータ変数に異なる変数を使用してください。

PCB-00600 EXEC IAF 文で標識変数は使用できません。

原因: ホスト変数と対応付けられているインジケータ変数は、ユーザー・イグジットの EXEC IAF 文 (GET や PUT など) で使用できません。

処置: インジケータ変数を削除してください。可能な場合は (たとえば、Forms V4 などのように)、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、インジケータ変数を許可しています。EXEC IAF および EXEC TOOLS 文の詳細は、『Pro*COBOL Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCB-00603 EXEC TOOLS MESSAGE 文で使用するホスト変数がキャラクタ・タイプではありません。

原因: EXEC TOOLS MESSAGE 文にメッセージを指定するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置: CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

PCB-00625 この属性では標識変数は必要ありません。

原因: LOB DESCRIBE で、インジケータ変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、インジケータ変数がホスト変数とともに使用されました。

処置: インジケータ変数を削除してください。

PCB-00626 LOB の型が一致しません。

原因：型が一致していない LOB の間で、LOB 操作を実行しようとした。たとえば、LOB を別の LOB に ASSIGN している場合、LOB は両方とも同じ型である必要があります。同じ型でない場合は、このエラーが発生します。

処置：同じ型の LOB 間で機能するように、LOB 操作を修正してください。指定の操作を実行する LOB 文で使用される LOB の 1 つを、再宣言する必要があります。

PCB-00627 ホスト変数がキャラクタ・タイプではありません。

原因：指定されたホスト変数が、必要なキャラクタ・タイプとして宣言されませんでした。この場合、いくつかの可能なキャラクタ・タイプの 1 つが受け入れられます。ただし、ホスト変数型は、そのいずれにも一致しませんでした。

処置：許可されているキャラクタ・タイプの 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

PCB-00628 バッファ型が LOB の型と一致しません。

原因：このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- LOB から LOB 型と一致しない型のバッファへ読み込もうとした。
- バッファ型と一致しない型の LOB へバッファを書き込もうとした。

処置：LOB 型およびバッファ型が指定された操作と互換性を持つように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

PCB-00629 ホスト変数が内部 LOB 型ではありません。

原因：指定されたホスト変数が内部 LOB 型として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は、内部 LOB 型です。

処置：内部 LOB 型の 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCB-00630 ホスト変数が LOB 型ではありません。

原因：指定されたホスト変数は、内部 LOB 型または外部 LOB 型のいずれにも宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は内部 LOB 型です。BFILE は外部 LOB 型です。

処置：内部 LOB 型または外部 LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCB-00631 ホスト変数が外部 LOB 型ではありません。

原因：指定されたホスト変数は、外部 LOB 型として宣言されませんでした。BFILE は外部 LOB 型です。

処置：外部 LOB 型 (BFILE) を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCB-00632 READ WRITE モードで外部 LOB をオープンできません。

原因: BFILE を READ WRITE モードでオープンしようとした。書込み可能な BFILE は現在サポートされていないため、この操作はエラーになります。

処置: READ WRITE モードを使用して、BFILE をオープンしないでください。BFILE は、READ ONLY モードのみでオープンできます。

PCB-00633 ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。

原因: LOB DESCRIBE のホスト変数および属性の組み合わせが無効でした。この場合、ホスト変数に問題がある可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合に、このエラーが発生します。

処置: 通常、さらに明確なその他のエラーが出力されます。その中の一部またはすべての問題を修正すると、このエラーを解決できます。

PCB-00635 この属性は内部 LOB 型に対してのみ有効です。

原因: LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置: LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を、内部 LOB として宣言された変数に置き換えてください。

PCB-00636 この属性は外部 LOB 型に対してのみ有効です。

原因: LOB が外部 LOB 型 (BFILE) でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置: 外部 LOB 型 (BFILE) ホスト変数を LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCB-00637 ホスト変数が正しい 2 進整数ではありません。

原因: 受入れ可能な正しい 2 進整数型として宣言されていないホスト変数が指定されました。一般に、このエラーが発生した場合には、符号ありまたは符号なしの整数型が必要です。浮動小数点または正確でない数値型は、エラーになります。

処置: 問題のあるホスト変数を、正しい 2 進整数型を使用して宣言された変数に置き換えてください。

PCB-00638 この属性は内部または外部 LOB 型に対してのみ有効です。

原因: LOB DESCRIBE 文で LOB 属性が要求されましたが、そこで指定されたソースは内部または外部 LOB 型ではありません。

処置: LOB DESCRIBE 文で LOB ホスト変数を使用してください。

PCB-00639 LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。

原因: 宛先オフセットが LOB WRITE APPEND 文で指定されました。宛先オフセットは LOB の終わりとみなされるので、明示的な宛先オフセットを指定するとエラーになります。

処置: LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

PCB-00700 この文は DYNAMIC=ANSI を指定しないと使用できません。

原因：DYNAMIC=ANSI を指定しないで、次の文のいずれかが使用されました。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ...USING ... *descriptor_name*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ...USING... *descriptor_name*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ...USING... *descriptor_name*
- SCROLL in DECLARE CURSOR
- EXEC SQL FETCH *orientation* (*orientation* は NEXT、PRIOR、FIRST、LAST、ABSOLUTE または RELATIVE のいずれか)

処置：DYNAMIC=ANSI を指定するか、または前述の文を削除してください。

PCB-00701 MAX OCCURRANCES は 1 から 65535 の間でなければなりません。

原因：EXEC SQL ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

処置：値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCB-00702 項目番号が範囲外です。

原因：EXEC SQL GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUES 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

処置：値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCB-00901 Pro*COBOL の内部エラー条件が見つかりました (コード = *number*)。

原因：Pro*COBOL は、内部データ構造に異常を検出しました。通常は、このエラー・メッセージは、表示されません。エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

処置：レポートされるその他のエラーを修正してください。修正後も、内部エラーが発生する場合は、この状況が検出されたソース・コード部分を調べて、なんらかの方法で変更を試みてください。これによって内部エラーを解決できる可能性があります。

PCB-00902 メッセージ・ファイルを読み込みません (機能 PCB)。

原因：Pro*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。このファイルは破損している可能性があります。

処置：Pro*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

PCB-00903 Pro*COBOL で、その解析機能を初期化できません。

原因：Pro*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。このファイルは破損している可能性があります。

処置：Pro*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

PCF FIPS メッセージ (PCF)

この章では、プリコンパイラ・コマンドライン・オプション FIPS=YES を指定するとき、および ANSI/ISO 埋込み SQL 規格への Oracle 拡張機能を使用するときに生成されるメッセージを示します。コードを規格に準拠させる場合は、メッセージ中に記述されている Oracle 拡張機能は使用しないでください。

PCF-00251 SQLCODE は使用すべきでない機能です。

PCF-00252 SQL 内での C プリプロセッサの使用

PCF-00253 AT 句の使用

PCF-00254 FOR 句の使用

PCF-00255 CONNECT 文の使用

PCF-00256 SQLCODE は非標準値を戻します

PCF-00257 COMMIT の後にはキーワード WORK が必要です。

PCF-00258 ROLLBACK の後にはキーワード WORK が必要です。

PCF-00259 TO SAVEPOINT 句の使用

PCF-00260 RELEASE 句の使用

PCF-00261 動的 SQL の使用

PCF-00262 PL/SQL の使用

PCF-00263 WHENEVER 句内の SQLWARN の使用

PCF-00264 WHENEVER 句内の NOTFOUND の使用

PCF-00265 COMMIT と COMMENT 句の使用

PCF-00266 WHENEVER 句内の STOP の使用

PCF-00267 FORCE TRANSACTION 句の使用

PCF-00268 WHENEVER 句内の DO の使用

PCF-00269 DECLARE TABLE 文の使用

PCF-00270 DECLARE DATABASE 文の使用

PCF-00271 EXEC SQL INCLUDE の使用

PCF-00272 データ型同値化の使用

PCF-00273 SQL FORMS 文の使用

PCF-00274 EXEC ORACLE 文の使用

PCF-00275 データ型が無効です。

PCF-00276 DROP TABLE 文の使用

PCF-00277 非 ANSI 機能の使用

PCF-00278 ALLOCATE 文の使用

PCF-00279 PL/SQL オブジェクト作成のための CREATE の使用

PCF-00280 OBJECT Navigational Interface の使用

PCF-00281 LOB 文の使用

PCF-00282 COLLECTION 文の使用

Pro*C/C++ メッセージ (PCC)

Pro*C/C++ の詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-00001 ファイル *string* をオープンできません。

原因：プリコンパイラは内部的に使用するためのテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、オープンするファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリは読み取り専用に保護されている可能性があります。

処置：十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること（システム管理者に問い合わせてください）、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許可していることを確認してください。

PCC-00002 構文が無効です（列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*）。

原因：EXEC 文に構文エラーがあるか、または文が正しく終了していません。

処置：EXEC 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の EXEC 文が正しく終了していることを確認してください。

PCC-00003 SQL 識別子が無効です（列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*）。

原因：条件付きプリコンパイル文（EXEC ORACLE IFDEF など）内の記号に誤りがあります。または、SQL の記述子、文またはカーソルの名前に誤りがあるか、あるいは正しく宣言されていません。

処置：文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、エラーのある行の前の変数宣言または DECLARE 文に記述子を定義してください。

PCC-00004 対応していない IF/ELSE/ENDIF ブロックがあります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC ORACLE IFDEF 文と一致しない EXEC ORACLE ELSE 文または EXEC ORACLE ENDIF 文があります。

処置: 欠落している EXEC ORACLE IFDEF 文を追加するか、または EXEC ORACLE ELSE または EXEC ORACLE ENDIF 文を削除または移動してください。

PCC-00005 サポートされていないデータ型があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節で定義したホスト変数がサポートしていないデータ型であるか、またはサポートされている範囲外の位取りまたは精度です。

処置: サポートされているデータ型を使用して、ホスト変数を再定義してください。数値変数の位取りおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

PCC-00007 WHENEVER 条件が無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQLERROR、SQLWARNING または NOT FOUND 以外の状態を EXEC SQL WHENEVER 文で指定したか、あるいはこれらのいずれかの綴りが誤っています。

処置: WHENEVER 条件の綴りを修正するか、またはホスト言語の IF 文を使用して特殊な条件をテストしてください。

PCC-00008 WHENEVER アクションが無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 次のいずれかの原因が考えられます。

- CONTINUE、DO、GOTO または STOP 以外のアクションを EXEC SQL WHENEVER 文で指定した。
- 指定したアクションの 1 つに綴りの誤りがある。
- ホスト言語がこのアクションを許可していない。
- GOTO ラベルが誤っている。

処置: 指定された WHENEVER アクションがホスト言語で許可されているかどうかを確認してください。必要に応じて、WHENEVER アクションの綴りを修正するか、または GOTO ラベルを修正してください。

PCC-00009 ホスト変数が無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC SQL 文で使用されているホスト変数が、宣言節で宣言されていないか、サポートされていないデータ型です。

処置: サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数を宣言節内に宣言してください。

PCC-00010 文の位置が正しくありません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC 文がホスト・プログラム内の正しい位置にありません。たとえば、宣言節内に DML 文がある場合などです。

処置: この文を削除するか、または位置を変更してください。

PCC-00011 すでに declare section 内です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節内に BEGIN DECLARE SECTION 文が見つかりました。

処置: 不要な BEGIN DECLARE SECTION 文を削除してください。

PCC-00012 declare section 内ではありません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: BEGIN DECLARE SECTION 文と一致しない END DECLARE SECTION 文が見つかりました。BEGIN_DECLARE_SECTION 文が欠落しているか、綴りが誤っているか、または不要な END DECLARE SECTION 文があるかのいずれかです。

処置: BEGIN DECLARE SECTION 文を追加または修正するか、不要な END DECLARE SECTION 文を削除してください。

PCC-00013 include ファイル "*string*" をオープンできません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは INCLUDE 文で指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。さらに、ディスク領域が十分にあり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることを確認してください (システム管理者に問い合わせてください)。

PCC-00014 SQL 識別子 "*string*" が宣言されていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 記述子、文またはカーソルの名前が宣言されていないか、またはその綴りが誤っています。

処置: 記述子、文またはカーソルの宣言を追加するか、または修正してください。

PCC-00015 不明なホスト言語構文は無視されました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節内にホスト変数を定義するために使用しているホスト言語の構文に誤りがあります。

処置: 構文および綴りを調べ、宣言を修正してください。

PCC-00016 カーソルをオープンできません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラはホスト言語を想定しているのにそれ以外のものがあります。

処置: 構文および綴りを調べて、SQL 文を修正してください。

PCC-00017 文を解析できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 配列の宣言に構文エラーがあります。プリコンパイラは右大カッコ (]) を想定しているのにそれ以外のものがあります。

処置: 構文を調べて、配列宣言を修正してください。

PCC-00018 "string" が必要ですが、"string" が見つかりました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラは予想外の不適切なトークンを見つけました。

処置: 構文および綴りを調べて、SQL 文を修正してください。

PCC-00019 バインド変数を取得できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは、SQL 文内で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置: 入力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

PCC-00020 定義変数を取得できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは SQL 文内で使用している出力ホスト変数 (定義変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置: 出力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

PCC-00021 Oracle エラーが発生しました : *string*

原因: Oracle エラーが発生しました。

処置: 表示されたメッセージを、このマニュアルの ORA メッセージの章で参照してください。

PCC-00022 領域が足りません。number バイトを割り当てられません。

原因：プリコンパイラ・プロセスがメモリーを使い果たしました。

処置：このプロセスに、より多くのメモリーを割り当ててください。その後、再実行してください。

PCC-00023 Oracle からログオフできません。

原因：Oracle が停止されたため、プリコンパイラがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

処置：Oracle が使用可能であることを確認してください。その後、再実行してください。

PCC-00024 標識変数 "string" の型または長さが正しくありません (行 number, ファイル string)。

原因：インジケータ変数を宣言節内で 2 バイトの整数として宣言していません。インジケータ変数は、2 バイトの整数として定義する必要があります。

処置：インジケータ変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

PCC-00025 標識変数 "string" は宣言されていません (行 number, ファイル string)。

原因：SQL 文で使用しているインジケータ変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが誤っています。

処置：インジケータ変数の宣言を追加するか、または修正してください。

PCC-00026 ホスト変数 "string" は無効です (行 number, ファイル string)。

原因：SQL 文で使用しているホスト変数が正しく宣言されていません。次のような原因が考えられます。

- 宣言節で宣言されていない。
- そのデータ型がサポートされていない。
- 名前の綴りが誤っている。

処置：ホスト変数の宣言を追加または修正してください。

PCC-00027 SQL 識別子 "string" が重複して宣言されています (行 number, ファイル string)。

原因：SQL 記述子、文またはカーソルの名前が再宣言されました (2 回宣言されました)。

処置：この識別子の綴りを調べ、必要に応じて不要な宣言を削除してください。

PCC-00028 オプション "string" は正しい EXEC ORACLE OPTION ではありません。

原因: プリコンパイラ・オプションを EXEC ORACLE 文内にインラインで指定しました。オプションの中には、コマンドラインのみから指定できないものもあります。たとえば、INAME はインラインでは指定できません。

処置: EXEC ORACLE 文ではなく、コマンドラインにプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

PCC-00029 オプション "string" があいまいです。

原因: プリコンパイラ・オプションの名前をあいまいに短縮して指定しました。たとえば、MAX= は、MAXLITERAL または MAXOPENCURSORS とみなされる場合があります。

処置: 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

PCC-00031 オプション "string" に無効な値が指定されています。

原因: 値の綴りが誤っている（たとえば、LTYPE=HORT）か、または値が範囲外である（たとえば、PAGELEN=-55）ために、プリコンパイラ・オプションに無効な値が指定されています。

処置: 綴りが正しいかどうか、および値が有効な範囲内であることを確認してください。

PCC-00032 オプション "string" が無効です。

原因: プリコンパイラが無効なプリコンパイラ・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプションが存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が欠落しているか、等号の前後に空白が入っている。

処置: オプションが存在すること、また、オプション名の綴りが正しいことを確認してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。オプション名と値の間に等号があることを確認してください。

PCC-00033 オプション "string" にオペランドがありません。

原因: プリコンパイラ・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落しているか、等号の前後に空白があります（LTYPE=SHORT など）。

処置: 各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

PCC-00036 入力ファイル名が指定されていません。

原因：コマンドラインで入力ファイルを指定しませんでした。

処置：INAME コマンドライン・オプションを使用して入力ファイルを指定してください。

PCC-00037 "string" で Oracle にログオンできません。Oracle エラー番号: *number*

原因：プリコンパイラは指定されたユーザー名およびパスワードで ORACLE へログオンできませんでした。ログオンしようとしたときに、表示された番号の Oracle エラーが発生しました。

処置：表示されたメッセージを、このマニュアルの ORA メッセージの章で参照してください。

PCC-00038 カーソルをオープンできません。

原因：通常、これは出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。アプリケーションで、SQL 文の構文チェックまたは意味チェックが不要で、PL/SQL を使用しない場合は、コマンドラインに SQLCHECK=NONE を指定してください。

PCC-00039 入力ファイル "string" をオープンできません。

原因：プリコンパイラが、INAME プリコンパイラ・オプションで指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置：ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。さらに、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCC-00040 リスト・ファイル "*string*" をオープンできません。

原因: プリコンパイラが、LNAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイル数の上限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンドラインに LTYPE=NONE を指定してください。

PCC-00041 出力ファイル "*string*" をオープンできません。

原因: プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在すること、ファイルに対する検索パスが正しいことを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されていること、そのファイルを他のユーザーがロックしていないことを確認してください。さらに、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCC-00042 mode=ANSI と WHENEVER SQLWARNING が指定されている場合は EXEC SQL INCLUDE SQLCA を実行しなければなりません。

原因：MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を宣言せずに WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとしていました。MODE={ANSI|ANSI14} の場合は、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

処置：プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA を静的に宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

PCC-00044 INTO/USING 句の配列サイズが不適切です。最小値: *string(number: number)*

原因：INTO/USING 句内の配列変数のサイズが、処理された行数に対して小さすぎます。

処置：表示された最小サイズ以上を持つように、INTO/USING 句内のすべての配列変数を宣言してください。

PCC-00045 不適当な *string* 句があります (行 *number*, ファイル *string*)。無視されました。

原因：EXEC SQL 文の最後に位置が誤っている句があります (たとえば、SELECT 文の最後にある AT 句)。FOR 句内で指定した処理に誤りがあります (たとえば、FOR :loop INTO...)。

処置：この文の構文を調べ、位置が誤っている場合はその句の位置を変え、句に誤りがある場合はそれを修正してください。

PCC-00047 行 *number*、ファイル *string* の付近から始まるコメントまたは文字定数が未終了です。

原因：文字定数で終端引用符が欠落しているか、またはコメントで終了デリミタが欠落しています。

処置：すべてのコメントが区切られていて、すべての文字定数が引用符で囲まれていることを確認してください。

PCC-00050 プログラム単位終了行 *number* に記述子を生成できません。ファイル *string*

原因：プリコンパイラが、コンパイル単位の記述子を生成できませんでした。このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- 存在しない、または正しく実装されていない宣言節。
- ソース・ファイルの先頭付近、または END DECLARE SECTION 文の直前にある検出されなかった構文エラー。

処置：宣言節が正しく実装されていることを確認してください。次に、コンパイル単位の先頭および END DECLARE SECTION 文の前で構文エラーを確認し、適切に修正してください。

PCC-00051 VARCHARstring のサイズが 65533 を超えています (行 number, ファイル string)。

原因: 宣言された VARCHAR ホスト変数のサイズが、プリコンパイラの制限である 65533 バイトを超えています。

処置: 宣言節を調べて、各 VARCHAR 変数のサイズが、65533 バイトの制限値を超えていないことを確認してください。

PCC-00053 FOR 変数列 string のデータ型が無効です (行 number, ファイル string)。

原因: FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型 (あるいは NUMBER 型または LONG 型と互換性のあるデータ型) である必要があります。

処置: 宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG (あるいは、互換性のある Oracle またはホスト言語のデータ型) であることを確認してください。

PCC-00054 文の終わりがが必要です (列 number, 行 number, ファイル string)。

原因: プリコンパイラは EXEC 文の最後に文終了記号を想定しているのに、それ以外のものでありました。このエラーは、ソース・コードにタブが埋め込まれていた場合に発生することがあります (プリコンパイラには、1 つのタブがいくつかの空白を表しているかを認識する方法がないため)。

処置: ソース・コードにタブが埋め込まれている場合は、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を調べ、EXEC 文に文終了記号があることを確認してください。各埋込み CREATE {FUNCTION | PROCEDURE | PACKAGE} 文および埋込み PL/SQL ブロックでは、文終了記号が END-EXEC であることを確認してください。

PCC-00055 配列 : "string" はバインド変数として無効です (行 number, ファイル string)。

原因: ホスト配列を SELECT 文の WHERE 句内でバインド (入力) 変数として使用しています。これは許可されていません。

処置: ホスト配列を削除するか、またはホスト配列を単純なホスト変数で置き換えてください。

PCC-00056 FOR 句は SELECT 文中で使用できません (行 number, ファイル string)。

原因: FOR 句が SELECT 文で使用されました。これは、SELECT の実行で最後のループから戻されたデータが、前のループで戻されたデータを上書きするため、許可されません。

処置: SELECT 文から FOR 句を削除して、ホスト言語構造を使用し、繰り返し SELECT 文を実行してください。

PCC-00060 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 2 つの AT 句が同じ SQL 文に属していて、一方は DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方は DECLARE CURSOR 文にあります。AT 句は、DECLARE STATEMENT または DECLARE CURSOR のいずれかに指定できますが、この両方に指定することはできません。

処置: いずれかの文から AT 句を削除してください。

PCC-00061 構文エラーが発生しました (行 *number*, 列 *number*, PLS-*number*: *string*)。

原因: 埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

処置: 表示される PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCC-00062 埋込み PL/SQL で SQLCHECK=SEMANTICS(FULL) が指定されていません。

原因: SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE のときに、プリコンパイラが PL/SQL ブロックを解析しようとしてしました。SQLCHECK=SEMANTICS を指定している場合のみに、PL/SQL ブロックを解析できます。

処置: PL/SQL ブロックを削除するか、または SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCC-00063 eofstring が文終了子の前で検出されました (行 *number*!)

原因: PL/SQL ブロックの解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置: PL/SQL ブロックに適切な文の終了記号 (;) またはブロックの終わりを示す文 (END;) を追加してください。

PCC-00064 複数のホスト変数が同一の標識変数に対応しています。

原因: EXEC SQL 文内のホスト変数の複数の状態変化が、異なるインジケータ変数に対応付けられています。これは許可されていません。

処置: ホスト変数の各状態変化が同一のインジケータ変数に対応付けられるように、インジケータ変数の名前を変更してください。

PCC-00065 Userid が指定されていません。

原因: SQLCHECK=SEMANTICS オプションが指定されましたが、コマンドラインで USERID オプションが指定されていません。

処置: USER ID= ユーザー名 / パスワードを指定するか、プロンプトが表示されたら ユーザー名およびパスワードを入力してください。または SQLCHECK={SYNTAX|NONE} を指定してください。

PCC-00066 Userid は SQLCHECK = FULL のときのみ使用。userid は無視されます。

原因：SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

処置：USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICS の場合のみに指定してください。

PCC-00067 IRECLEN の値を超過しました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：入力ファイルの読み込み中に、プリコンパイラが IRECLEN より長い行を検出しました。

処置：この入力行を短くするか、またはコマンドラインでより長い IRECLEN を指定してください。

PCC-00068 ホスト変数名と標識変数名が一致してはいけません。

原因：1 つの EXEC SQL 文内で、インジケータ変数の名前がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けたインジケータ変数の名前は異なる必要があります。また、インジケータ変数はホスト変数としては使用できません。

処置：ホストまたはインジケータ変数の名前を変更してください。

PCC-00069 ホスト変数 "*string*" のデータ型はサポートされていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：ホスト変数のデータ型がサポートされていません。サポートされているデータ型については、言語固有の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

処置：サポートされているデータ型を指定して宣言節内にホスト変数を再定義します。

PCC-00070 SQL 文: *string* で、構文または指数値が無効です。

原因：プリコンパイラが、科学表記法で指定した数値を解析中に構文エラーを見つけました。プリコンパイラは指数インジケータ (E) の後に符号付きの整数を想定していますが、別のものが見つかりました。

処置：数値を正しく再フォーマットしてください。

PCC-00071 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因：プリコンパイラはプリコンパイラによって発行されるメッセージが含まれているメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。これは、オープンしているファイルが多すぎるか、またはプリコンパイラのインストールに問題がある場合に発生する可能性があります。

処置：オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることを確認してください (システム管理者に問い合せてください)。解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-00072 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムでは、ファイル名の最大長に制限があります。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCC-00073 カーソルが宣言されましたが OPEN されませんでした (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: カーソルが宣言されましたが、OPEN 文で参照されませんでした。これは情報メッセージです。

処置: カーソル宣言を削除するか、カーソルの OPEN 文をコーディングしてください。

PCC-00075 標識変数の前に ":" が必要です。

原因: インジケータ変数の前に必要なコロンがありません。

処置: 問合せのインジケータ変数の前にコロンを付けてください。

PCC-00076 DISPLAY タイプは SIGN LEADING SEPARATE である必要があります。

原因: このメッセージは、Pro*COBOL によってのみ発行されます。DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE は、Pro*COBOL でサポートする唯一の DISPLAY タイプです。

処置: 変数宣言の綴りを確認してください。必要に応じて、サポートされていない DISPLAY タイプへの参照を削除してください。

PCC-00077 WHENEVER 文の数値ラベルのコロンは無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、数値 WHENEVER...GOTO ラベルの前にコロンが付いています。たとえば、コードは次のようになっている可能性があります。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR GOTO :99;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字 (数字ではない) の WHENEVER ...GOTO ラベルの前にはコロンを付けてください。

PCC-00078 FIPS 警告: SQL 識別子が無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数に次のいずれかの名前が指定されました。

- 18 文字より長い名前
- 英文字以外で始まる名前
- アンダースコアが連続するまたは最後にアンダースコアがある名前

次の Pro*C の例では、ホスト変数名が 19 文字のため、準拠していません。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
int department_location:  -- not ANSI/ISO compliant  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ホスト変数名は、18 文字以下の長さで、英文字で始まり、連続したアンダースコアや末尾にアンダースコアを含まないように変更してください。

PCC-00079 WHENEVER 文のラベルにはコロンが必要です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、英数字の WHENEVER...GOTO ラベルの前にコロンが付いていません。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO NO_MORE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字（数字ではない）の WHENEVER ...GOTO ラベルの前にはコロンを付けてください。

PCC-00080 TYPE 識別子は既に TYPE 指定されています。

原因: EXEC SQL TYPE 文で TYPE されている識別子は、前の EXEC SQL TYPE 文ですでに宣言されています。指定された識別子は、1 つの EXEC SQL TYPE 文のみに宣言できます。

処置: 識別子の綴りを確認してください。各 EXEC SQL TYPE 文で異なる識別子を使用するか、EXEC SQL TYPE 文のいずれか 1 つを削除してください。

PCC-00081 このデータ型での位取り (Scale) 指定は無効です。

原因: EXEC SQL VAR または EXEC SQL TYPE 文で参照される Oracle 外部データ型には、位取り指定は認められません。

処置: 精度の指定を確認し、位取り指定を削除してください。

PCC-00082 長さや位取り (Scale) 指定では整数を使用します。

原因: 長さまたは位取りの指定に、浮動小数点数または数字以外が使用されました。整数のみを使用できます。

処置: 長さまたは位取りの指定 (あるいはその両方) を修正または削除してください。

PCC-00083 CREATE 文でのバインドと変数宣言は無効です。

原因: ホスト変数は CREATE 文では使用できません。CREATE 文の作成が実行時まで認識できない場合は、この CREATE 文の実行に動的 SQL 文を使用する必要があります。プログラムは実行時に CREATE 文を受け入れるかまたは作成し、ホスト文字列に格納して実行します。

処置: CREATE 文を修正するか、または削除してください。

PCC-00085 ファイル *string* への書き込み中にエラーが発生しました。

原因: プリコンパイラは指定された出力ファイルへの書き込みを行えませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうか調べてください。さらに、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認してください (システム管理者に問い合せてください)。

PCC-00086 ソース・ファイル *string* の長さがゼロです。

原因: コマンドラインで指定したソース・ファイルにはコードがありません。したがって、プリコンパイラは何も処理できません。

処置: 埋込み SQL 文を含む有効なソース・ファイルを指定してください。

PCC-00087 EXEC SQL TYPE 文は、現ホスト言語で使用できません。

原因: ユーザー定義のデータ型の同等化をサポートしていないホスト言語で EXEC SQL TYPE 文を使用しました。この機能は、Pro*C と Pro*Pascal のみで使用可能です。

処置: 無効な EXEC SQL TYPE 文を削除してください。

PCC-00088 ユーザー定義データ型の識別子を使用してください。

原因: EXEC SQL TYPE 文のユーザー定義データ型名が欠落しているか、綴りが誤っているか、予約語であるか、ホスト言語の有効な識別子でないか、またはその言語のベース・データ型と矛盾します。

処置: ユーザー定義データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、有効なユーザー定義データ型を宣言してください。ユーザー定義データ型の同等化は、Pro*C と Pro*Pascal のみで使用可能です。

PCC-00089 ORACLE TYPE 指定が無効です。

原因: EXEC SQL TYPE または EXE SQL VAR 文において Oracle 外部データ型名が欠落しているか、綴りが誤っています。

処置: 外部データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているデータ型名を指定してください。

PCC-00090 DECIMAL データ型で精度 / 位取り指定が必要です。

原因: EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文で、Oracle 外部データ型 DECIMAL に対して精度および位取り（またはそのいずれか）の指定が省略されました。

処置: EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、精度および位取り（またはそのいずれか）の指定を追加してください。

PCC-00091 この ORACLE データ型では、TYPE 文に書式指定が必要です。

原因: EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、長さ、精度および位取り（またはそのいずれか）の指定が省略されました。

処置: EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、外部データ型の長さ、精度および位取り（またはそのいずれか）の指定を追加してください。

PCC-00092 長さ / 位取りは、指定された ORACLE データ型には無効です。

原因: EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、無効な長さまたは位取りが指定されました。

処置: 外部データ型に適応できるだけの十分な長さが指定されていることを確認してください。位取りを指定する場合は、-84 ～ 99 の範囲内にあることを確認してください。

PCC-00093 オプションが無効なため無視しました。

原因: プリコンパイラは、以前のバージョンまたは異なるホスト言語において（現在のバージョンまたはホスト言語ではなく）、使用可能なオプションを検出しました。

処置: そのオプション指定を削除してください。

PCC-00094 char[n] データ型では、配列のサイズは 2 以上でなければなりません。

原因：MODE={ANSI|ANSI14} のときに、char[n] ホスト変数に対して 2 文字未満の長さが指定されたか、char 単純変数が指定されました。MODE={ANSI|ANSI14} のとき、その長さは 2 文字以上である必要があります。このメッセージは、Pro*C プリコンパイラによってのみ出力されます。

処置：2 文字以上の長さが指定されるように、宣言を修正してください。

PCC-00095 PROGRAM または SUBROUTINE, FUNCTION, BULOCK DATA 文が欠落しています。

原因：FORTRAN ソース・ファイルには 1 つ以上の PROGRAM、SUBROUTINE、FUNCTION または BLOCK DATA 文が必要です。それらは、プリコンパイラがルーチンまたはコンパイル単位の始まりを検出するために使用します。

処置：ソース・ファイルにこれらの文のいずれかを追加します。

PCC-00096 MODE=ANSI14 では配列の FETCH は認められません。

原因：MODE=ANSI14 のときに、配列を SELECT または FETCH しようとした。MODE=ANSI14 のときは、配列の操作は行えません。

処置：MODE=ANSI14 を指定する場合は、配列インタフェースを使用せずに、ホスト言語のループに SELECT または FETCH 文を指定してください。

PCC-00097 COBOL と PL/I でのみ DECIMAL、DISPLAY 型を使用できます。

原因：Pro*COBOL または Pro*PL/I 以外の Oracle プリコンパイラで、EXEC SQL VAR 文または EXEC SQL TYPE 文で DECIMAL および DISPLAY 外部データ型が使用されました。これらの外部データ型は、Pro*COBOL および Pro*PL/I のみで使用できます。

処置：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文から、DECIMAL または DISPLAY 外部データ型への参照を削除してください。

PCC-00098 現コンテキストでの位取り (Scale) 指定は無効です。

原因：Pro*C、Pro*FORTRAN または Pro*Pascal などのプログラムの場合、現行の文脈では EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に位取りを指定できません。

処置：EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から、位取り指定を削除してください。

PCC-00099 長さの指定は ROWID または DATE、MLSLABEL 型では使用できません。

原因：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に、ROWID、DATE または MLSLABEL 外部データ型の長さが指定されました。これらの文は固定長の型であるため、指定する必要はありません。

処置：EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から、長さの指定を削除してください。

PCC-00100 非整数ラベルは無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、整数でない WHENEVER...GOTO ラベルが Pro*Pascal プログラム内にありました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO quit;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、Pro*Pascal プログラムでは整数の WHENEVER... GOTO ラベルのみを使用してください。

PCC-00101 小文字 'e' は浮動小数点指定として正しくありません (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、科学表記法で小文字の「e」が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
maxnum = 10e38;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、科学表記法には大文字の「E」を使用してください。

PCC-00102 FOR UPDATE は ORACLE の拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、カーソル宣言で FOR UPDATE OF 句が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL DECLARE emp_cursor CURSOR FOR SELECT ENAME, SAL FROM EMP WHERE  
DEPTNO = :dept_number FOR UPDATE OF SAL;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、FOR UPDATE OF 句を使用しないでください。

PCC-00103 AT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、SQL 文で AT *db_name* 句が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、AT *db_name* 句を使用しないでください。

PCC-00104 FOR 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、FOR 句が配列処理 SQL 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL FOR :limit INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO) VALUES  
(:emp_number, :job_title, :dept_number);
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR 句を使用しないでください。

PCC-00105 ここにはキーワード WORK が必要です (ANSI)。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、キーワード WORK を使用しないでください。

PCC-00106 RELEASE は COMMIT や ROLLBACK 文に対する ORACLE の拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、パラメータ RELEASE が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、パラメータ RELEASE を使用しないでください。

PCC-00107 CONNECT 文は、Oracle 依存処理系です。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、Oracle へのログインに CONNECT 文が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL CONNECT :username IDENTIFIED BY :password;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、CONNECT 文を使用せずに AUTO_CONNECT コマンドライン・オプションを指定してください。

PCC-00108 この文は ANSI ではサポートされません。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、PREPARE などの非標準 SQL 文が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL PREPARE sql_statement FROM :sql_string;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合は、非標準文を使用しないでください。

PCC-00109 動的 SQL と PL/SQL は、ANSI SQL への Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合は、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

PCC-00110 WHENEVER 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NOTFOUND、STOP、RAISE、DO などの非標準キーワードが WHENEVER 文に使用されました（ただし、NOT FOUND は ANSI 標準です。）たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合は、非標準キーワードを使用しないでください。

PCC-00111 EXEC ORACLE 文にある SQLCHECK 値がコマンドラインの値を超えています。

原因: SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンドラインで指定された（またはデフォルトで受け入れられた）レベルより高いチェック・レベルが指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンドラインで SQLCHECK={SYNTAX} を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL} をインラインで指定することはできません。

処置: EXEC ORACLE 文を修正するか、またはコマンドラインのチェック・レベルを低くしてください。

PCC-00112 データ型がサポートされていません (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 規格に対する Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARCHAR などのポインタまたは非標準型データ型が使用されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
VAECHAR username [20];  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準型の場合、ポインタまたは非標準型データ型を使用しないでください。

PCC-00113 DBMS オプションの値は、指定した MODE オプションの値に対して無効です。

原因: MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 が指定されたか、または MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは、Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 より前では無効であることに注意してください。

処置: DBMS=V7 では、MODE={ANSI14|ANSI13} ではなく、MODE={ANSI|ORACLE} を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSI ではなく MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE} を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

PCC-00114 EXEC SQL VAR 文での VARxxx 型にはサイズ指定が必要です。

原因: EXEC SQL VAR 文で、長さのない VARCHAR または VARRAW 外部データ型が指定されました。他の型とは異なり、VARCHAR および VARRAW には、データ・フィールドの最大長を指定する必要があります。

処置: EXEC SQL VAR 文に長さの指定を追加してください。

PCC-00115 ここでは配列が必要です。

原因: ARRAYLEN 文に、以前宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は配列である必要があります。2 番目のホスト変数には 4 バイトの整数で配列を指定します。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN host_array (dimension);
```

宣言節内の ARRAYLEN 文は、*host_array* および *dimension* の宣言の後にある必要があります。

処置: ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているホスト配列名を指定してください。

PCC-00116 配列は既に ARRAYLEN 文で指定されています。

原因：2つの異なる ARRAYLEN 文に、同じホスト配列が指定されました。指定されたホスト配列は、複数の ARRAYLEN 文に指定できません。

処置：両方の ARRAYLEN 文のホスト配列名の綴りを確認してください。異なるホスト配列名を参照するように一方のホスト配列名を修正するか、または一方の ARRAYLEN 文を削除してください。

PCC-00117 ARRAYLEN サイズ変数が無効です。

原因：ARRAYLEN 文に有効な配列数が指定されませんでした。配列数は、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ename_array (25); -- illegal dimension
```

処置：有効な配列数を指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

PCC-00118 ANSI SQL でホスト変数の初期化はサポートしていません。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数がその宣言内で初期化されました。次に Pro*C の例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
int dept_number = 20; -- not ANSI/ISO-compliant  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言内でホスト変数を初期化しないでください。

PCC-00119 INTO 句の const 変数が変更されます。

原因：型指定子「const」とともに宣言した変数が、INTO 句で使用されました。この変数は、INTO 句で変更および使用できません。

処置：INTO 句の識別子の綴りがすべて正しいかどうかを確認してください。必要に応じて、ホスト変数宣言から「const」を削除するか、または別のホスト変数を使用してください。

PCC-00120 コードの生成中にファイル I/O エラーが発生しました。

原因：コード生成中にファイル I/O エラーが発生しました。このエラーは、ディスク領域不足が原因で発生することがあります。

処置：十分なディスク領域があることを確認してください。

PCC-00121 VARCHAR 型ポインタの配列はサポートされません。

原因：許可されていないポインタの配列が宣言されました。ただし、スカラー型のポインタは許可されています。Pro*C で、char[n] 変数および varchar[n] 変数のポインタを、CHAR または VARCHAR のポインタとして（長さを指定しないで）宣言しました。

処置：宣言を修正または削除してください。

PCC-00122 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因：コマンドラインで、INAME と ONAME に同じパス名が指定されました。INAME はプリコンパイラ入力ファイルを指定し、ONAME はプリコンパイラ出力ファイルを指定します。

処置：パス名またはファイル名のいずれかを変更してください。

PCC-00123 VARCHAR の宣言が 1 行に納まっていません。

原因：Pro*C プログラムの場合、VARCHAR 宣言が 2 行以上になることは許可されていません。

処置：宣言が 1 行になるように修正してください。

PCC-00124 COMMON_NAME オプションは PROGRAM やサブルーチンの開始位置より前です。

原因：FORTRAN プログラム、サブルーチンまたはファンクションで、PROGRAM 文、SUBROUTINE 文または FUNCTION 文の後に、プリコンパイラ・オプション COMMON_NAME を誤って指定しました。COMMON_NAME をインラインで指定する場合は、その EXEC ORACLE OPTION 文が PROGRAM 文、SUBROUTINE 文、FUNCTION 文の前にある必要があります。

処置：EXEC ORACLE OPTION 文の位置を変更するか、コマンドラインで COMMON_NAME を指定してください。

PCC-00126 システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因: プリコンパイラは、システム構成ファイル（事前設定コマンドライン・オプションが指定されているテキスト・ファイルで、プリコンパイラがデフォルトで使用する）を検出またはオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

このメッセージは、単なる警告です。システム構成ファイルがなくても処理は続行されます。

処置: ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうか、また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうかを確認してください。また、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

PCC-00127 *string*

原因: これはコマンドライン・プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCC-00128 コマンドライン・プロセッサで重大なエラーが見つかりました。

原因: コマンドライン・プロセッサが重大なエラーを検出しました。

処置: すべてのコマンドライン・オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションと構成ファイルのすべてのアカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-00129 オプション "*string*" が必要です。

原因: 必要なコマンドライン・オプションが欠落しています。たとえば、入力ファイル名を指定する INAME オプションが欠落している可能性があります。

処置: 必要なコマンドライン・オプションを指定してください。

PCC-00132 標識配列サイズは、ホスト変数のものより小さくできません。

原因: ホスト変数配列が、より小さい数で宣言されたインジケータ配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;
int   dept_no[20];
short dept_no_ind[10];
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
... SELECT ... INTO dept_no:dept_no_ind ...
```

処置: インジケータ配列のサイズを大きくしてください。

PCC-00133 コマンドラインでオプションが NLS_LOCAL=YES のとき MODE=ANSI である必要があります。

原因：MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES を使用しました。NLS_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定する必要があります。

処置：NLS_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定してください。または、NLS_LOCAL=YES は設定しないでください。

PCC-00135 結果セット・カーソルの使用は標準 SQL ではありません。

原因：ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、Oracle Result Set Cursor が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、Result Set Cursor を使用しないでください。

PCC-00136 SQL_CURSOR 宣言部が無効です。

原因：SQL_CURSOR ホスト変数が配列として宣言されたか、または Pro*COBOL の場合に、SQL_CURSOR 宣言に対して PICTURE 句が指定されました。Pro*FORTRAN の場合は、SQL_CURSOR 宣言に対する長さ指定 (*n) が行われました。このような使用方法はサポートされていません。

処置：SQL_CURSOR 変数が配列として宣言されていないかどうかを確認してください。Pro*COBOL の場合は、SQL_CURSOR に PICTURE 句が指定されていないことを確認してください。Pro*FORTRAN では、SQL_CURSOR に対する長さ指定 (*n) がないことを確認してください。

PCC-00137 SQL_CURSOR ホスト変数の指定が無効です。

原因：SQL_CURSOR 変数が INTO 句または WHERE 句で使用されました。SQL_CURSOR 変数は、通常のカーソル識別子、または PL/SQL ブロックではカーソルが通常使用される場所のみで使用できます。

処置：INTO 句または WHERE 句から SQL カーソル変数参照を削除するか、INTO 句または WHERE 句に別の型のホスト変数を使用してください。

PCC-00138 結果セット・カーソルはこのプリコンパイラに実装されていません。

原因：ホスト変数をカーソルの参照として参照しようとしてしました。カーソル変数が Pro*Pascal または Pro*PL/I に実装されていません。

処置：標準 SQL のカーソルを使用するように、ホスト言語コードを修正してください。

PCC-00139 EXEC SQL 文の後で、MAXLITERAL の変更はできません。

原因: EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で、MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

処置: MAXLITERAL オプションは、コマンドラインまたは入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文のみで使用してください。

PCC-00140 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は、Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

これらの文は、ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能です。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCC-00141 スレッド・セーフティはこのプリコンパイラに実装されていません。

原因: CONTEXT SQL 文を使用しようとしました。スレッド・セーフティ機能は、Pro*Pascal、Pro*PL/I または Pro*C 1.x には実装されていません。

処置: コンテキストを使用しないように、ホスト言語コードを修正してください。

PCC-00142 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されずに、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置: 必要な (SQL_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割当ておよび使用されているかどうかを確認してください。

PCC-00143 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照される実行時コンテキスト変数の型が、SQL_CONTEXT ではありません。

処置: SQL_CONTEXT 型の実行時コンテキスト変数を宣言してください。

PCC-00144 UNSAFE_NULL=YES は DBMS=V7 かつ MODE=ORACLE を指定して使用しなければなりません。

原因：UNSAFE_NULL=YES オプションが、DBMS=V6 または DBMS=NATIVE（デフォルト）とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

処置：UNSAFE_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 および MODE=ORACLE（デフォルト）を指定してください。または、UNSAFE_NULL=YES を使用しないでください。

PCC-00145 この文は THREADS=YES を指定した場合のみ使用可能です。

原因：オプション THREADS に NO が指定されているときに、EXEC SQL ENABLE THREADS または EXEC SQL CONTEXT 文が使用されました。

処置：オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC SQL ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

PCC-00146 ホスト・オプションの値が間違っています。無視されました。

原因：コマンドライン・ホスト・オプションを使用して、無効なホスト言語が指定されました。ホスト・オプションの有効値は Pro* 言語固有です。たとえば、PROFOR の場合、有効値は FORTRAN のみです。PROCOB の場合、有効値は COBOL および COB74 のみです。

処置：ホスト・オプションで、有効なホスト言語を指定してください。

PCC-00147 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。

原因：V6 との互換性はサポートされていません。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されたものとしてプリコンパイルします。

処置：指定した DBMS オプションの値を、V6 以外の値に変更してください。

PCC-01000 Pro*COBOL の実行は認可されていません。

原因：Pro*COBOL コンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01001 Pro*COBOL 認可期間は間もなく満了します。

原因：Pro*COBOL プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01002 標識領域内の文字 "string" は無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: Pro*COBOL プリコンパイラ・プログラムで使用できるのは、インジケータ領域には空白、ハイフン (-)、アスタリスク (*)、スラッシュ (/) または文字「D」のみです。それ以外の文字が見つかりました。

処置: 不適切な文字を削除するかまたは置き換えてください。FORMAT=ANSI オプションを指定している場合は、列 7 の行の終わりを確認してください。

PCC-01003 継続行が無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: Pro*COBOL プログラムで、継続行が継続文字以外は完全に空白です。

処置: 空の継続行を削除するか、または置き換えてください。

PCC-01004 EXEC 文の途中でファイルが終了しました。

原因: Pro*COBOL 入力ファイルで、最後の EXEC 文が正しく終了していません。

処置: 最後の EXEC 文を END-EXEC で終了してください。

PCC-01005 PROCEDURE DIVISION が見つかりません。

原因: プリコンパイラは、Pro*COBOL に PROCEDURE DIVISION ヘッダーを見つけれませんでした。次のような原因が考えられます。

- ヘッダーにキーワードが欠落しているか、キーワードの綴りに誤りがある。
- REMARKS セクションにアポストロフィがある (プリコンパイラがアポストロフィを文字列リテラルの開始とみなした)。
- WORKING-STORAGE SECTION のリテラルにリテラルの終わりのアポストロフィがない。
- FORMAT オプションに誤った値を指定した。

処置: PROCEDURE DIVISION ヘッダーが適切な位置にあって綴りが正しいこと、REMARKS セクションにアポストロフィがないこと、WORKING-STORAGE SECTION のすべてのリテラルが終了されていること、FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

PCC-01006 EXEC 文を領域 A 内で始めることはできません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: Pro*COBOL プログラムでは、EXEC 文が領域 B で始まる必要がありますが、プリコンパイラは領域 A 内で始まる文を見つけました。

処置: この文を領域 B で始まるように右側に移動してください。

PCC-01007 WORKING-STORAGE SECTION が見つかりません。

原因：キーワードが欠落しているか綴りが誤っている、または FORMAT オプションに誤った値が指定されているため、プリコンパイラが Pro*COBOL プログラムの WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーを検索できませんでした。

処置：WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーが適切な位置にあり、綴りが正しいことおよび FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

PCC-01008 DECLARE セクションで複数のエレメント・レコードは宣言できません。

原因：COBOL コンパイラの中には、CALL 文でグループ項目をパラメータとして引き渡すことができないものがあります (COBOL コンパイラのユーザーズ・ガイドを参照してください)。このようなコンパイラを使用している場合は、DECLARE セクション内のグループ項目には 1 つの要素項目のみを含むことができます。

処置：各ホスト変数に独自のグループ項目を割り当ててください。

PCC-01009 SQL 文の終わりには ELSE またはピリオドを使用します (HOST=COB74)。

原因：Pro*COBOL プログラムでは、同一の文内で EXEC SQL 文の後に別の文が続きます。COBOL-74 の文では EXEC SQL 文は最後の文である必要があるため、キーワードの ELSE またはピリオドで終了する必要があります。

処置：プログラム・ロジックを変更して、最後の文が EXEC SQL 文であるようにしてください。

PCC-01010 文字リテラル中に無効な NULL 文字が存在します。

原因：文字列リテラル中で NULL 文字 (バイナリのゼロ) が見つかりました。これは Pro*COBOL では許可されていません。

処置：文字列リテラルから NULL を削除してください。

PCC-01011 USAGE IS BINARY 句は、同じ行で、"." で終了しなければなりません。

原因：USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドは、USAGE 句と同じ行に存在する必要があります。このメッセージは、COMP-5 が BINARY に代用されている Pro*COBOL の COMP5=YES コマンドライン・オプションをサポートするオペレーティング・システムのみで発生します。

処置：USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドが、USAGE 句と同じ行にあることを確認してください。

PCC-01012 DATA DIVISION が見つかりません。

原因：Pro*COBOL プリコンパイラが、入力ソース・ファイルの DATA DIVISION を検索しませんでした。Pro*COBOL アプリケーションには、DATA DIVISION が必要です。

処置：入力ソース・ファイルに DATA DIVISION を追加してください。

PCC-01013 PIC N 配列変数: "string" (行 *number*、ファイル *string*) の使用が無効です。

原因: OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。PIC N 変数の表は、Pro*COBOL プリコンパイラによってサポートされていません。

処置: OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。SQL 文で PIC N 変数を使用しない場合は、宣言節の外側で宣言してください。

PCC-01014 PIC N PICTURE 句で "VARYING" はサポートされていません。

原因: PIC N 変数宣言でキーワード VARYING が使用されました。

処置: 変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次に示すとおり、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
...  
01 ENAME.  
05 ENAME-LEN PIC S9(4) COMP.  
05 ENAME-ARR PIC N(20).  
...  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

PCC-01015 PIC N 変数 *string* を等価にできません。

原因: PIC N 変数または暗黙の VARCHAR グループ項目（基本項目として PIC N 変数を使用）が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

処置: EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型と等価にする場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

PCC-01016 "N" 文字リテラルは、埋込み PL/SQL でサポートされません。

原因: 「N」文字リテラルが PL/SQL ブロック内で使用されました。

処置: PL/SQL ブロックから「N」文字リテラルを削除してください。

PCC-01017 SQLCA と SQLCODE 変数は、両方同時に使用できません。

原因: SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで、COBOL コンパイラ・エラーが発生する可能性があるため、これは許可されていません。

処置: SQLCA または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。SQLCA の組み込みまたは SQLCODE 変数宣言のいずれかを削除してください。

PCC-01018 変換バッファ・サイズが指定できるのはキャラクタ・タイプのみです。

原因: CONVBUFSZ 句が EXEC SQL VAR 文で使用されましたが、変数がキャラクタ・タイプではありません。

処置: EXEC SQL VAR 文から CONVBUFSZ 句を削除してください。

PCC-01019 変換バッファ・サイズが無効です。

原因：CONVBUSZ 句に指定するサイズは、1 ～ 32765 の範囲内の整数である必要があります。指定されたサイズが整数でないか、範囲外の値が指定されています。

処置：1 ～ 32765 の範囲内の整数を指定してください。

PCC-01100 Pro*FORTRAN の実行は認可されていません。

原因：Pro*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01101 Pro*FORTRAN 認可期間は間もなく満了します。

原因：Pro*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01102 ラベルが無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：Pro*FORTRAN プリコンパイラは、列 1 ～ 6 の無効な FORTRAN 文ラベルを見つけました。

処置：文ラベルを修正または削除してください。

PCC-01200 Pro*C の実行は認可されていません。

原因：Pro*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01201 Pro*C 認可期間は間もなく満了します。

原因：Pro*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01202 識別子 "*string*" は 31 文字に切り捨てられました。

原因：ホスト識別子 (たとえばホスト変数など) が、プリコンパイラの許可する最大長 (31 文字) に切り捨てられました。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

PCC-01300 Pro*PL/I の実行は認可されていません。

原因：Pro*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01301 Pro*PL/I の認可期間は間もなく満了します。

原因：Pro*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01400 Pro*Pascal の実行は認可されていません。

原因: Pro*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01401 Pro*Pascal の認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01500 Pro*Ada の実行は認可されていません。

原因: Pro*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01501 Pro*Ada の認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01510 *string* に Package または Procedure、Function の文がありません。

原因: すべての Ada ソース・ファイルには Package、Procedure または Function の文が存在する必要があります。プリコンパイラは1つも検出できませんでした。

処置: ソース・ファイルに適切な文を追加し、Pro*Ada を再実行してください。

PCC-01511 識別子 (行 *number*, ファイル *string*) がファイル *string* で生成されたコードに対して長すぎます。

原因: ホスト・プログラムで使用している識別子が長すぎるため、プリコンパイラで生成するコード長がソース行での制限を超えています。

処置: 識別子を短くするか、または ORECLEN オプションを使用して許可される行の長さを長くしてください。

PCC-01512 ファイル *string* への無効な EXEC SQL INCLUDE があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC SQL INCLUDE 文は Pro*Ada では許可されていません。

処置: 必要なソース・テキストを Pro*Ada ファイルに直接埋め込んでください。「with」コンテキスト句を使用して、必要なパッケージを組み込んでください。

PCC-01513 FIPS 警告: データ型がサポートされていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ANSI/ISO 規格以外の型でホスト変数が宣言されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ANSI/ISO 規格の型のみを使用してください。

PCC-01515 FIPS 警告: ホスト変数 "*string*" が宣言されていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: ANSI/ISO 規格への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、宣言節外でホスト変数が宣言されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言節内にホスト変数を宣言してください。

PCC-02010 文字列リテラルのスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因: SQL 文の文字列は引用符で区切る必要がありますが、正しく終了されていません。

処置: すべての文字列が区切られていることを確認してください。

PCC-02011 識別子が 128 文字を超えているのが見つかりました (切捨て済)。

原因: プリコンパイラが長すぎる識別子を見つけました。

処置: 識別子を短くしてください。SQL の識別子は 128 文字に制限されています。

PCC-02012 文字定数に合致する引用符が見つかりません。

原因: 引用符付き文字定数が終了されませんでした。

処置: 文字定数を終了させてください。

PCC-02013 不明なエスケープ・シーケンスがあります。

原因: プリコンパイラが文字列リテラル内で処理できないエスケープ・シーケンスを見つけました。このエラーは、シフトインまたはシフトアウト・エスケープ・シーケンスを含むマルチバイト文字列を使用している場合に発生することがあります。

処置: 文字列を修正してください。

PCC-02014 構文エラー (行 *number*、列 *number*、ファイル *string*) :

原因: プリコンパイラが C または埋込み SQL 構文でエラーを検出しました。このメッセージの後に、詳細なエラー・メッセージが表示されます。

処置: 構文エラーを修正してください。

PCC-02015 挿入ファイルをオープンできません。

原因: #include 文または EXEC SQL INCLUDE 文を使用して指定したヘッダー・ファイルを、プリコンパイラがオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルまたはパス内の 1 つ以上のディレクトリに対する読取り権限や読取りアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

処置: ファイルの指定が正しいこと、ファイルが存在すること、また、読み取るファイルに対して読取り権限があることを確認してください。

PCC-02016 挿入ファイルのパス名が長すぎます。

原因: 挿入ファイルのパス名が最大長の 80 文字を超えています。

処置: 挿入ファイルを移動するか、あるいは環境変数または論理パスを作成してパス名を短くしてください。

PCC-02017 出力ファイルをオープンできません。

原因: プリコンパイラが出力ファイルをオープンできませんでした。このファイルは、生成コード出力ファイル (.c ファイル) またはリスト・ファイルのどちらかです。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定した出力ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクが一杯であるため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- パス内の指定したディレクトリ（複数の場合もある）に対する書込み権限がない。

処置: 前述のエラーの原因を調べて、修正してください。

PCC-02018 コメントのスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因: C コードまたは埋込み SQL 文の中の C コメントが終了していません。

処置: 終わっていないコメントを見つけて、「*/」で終了させてください。

PCC-02019 プリプロセッサの警告（行 *number*、列 *number*、ファイル *string*）:

原因: プリコンパイラがプリプロセッサのパスを実行中に、警告が発生しました。このメッセージの後に、詳細なエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、条件を修正してください。

PCC-02020 プリプロセッサのエラー（行 *number*、列 *number*、ファイル *string*）:

原因: プリコンパイラがプリプロセス・フェーズにあるとき、エラーが発生しました。このメッセージの後に、詳細なエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、エラーを修正してください。

PCC-02021 文字列リテラルのスキャン中に改行が見つかりました。

原因: 文字列定数が、次のように改行文字を含んでいます。

```
char x[] = "Hello world";
```

処置: 改行文字を削除してください。

PCC-02022 SQL 文のスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因：EXEC SQL 文の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置：文終了記号 (;) を追加するか、または EXEC SQL 文を終了してください。

PCC-02023 PL/SQL 文のスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因：PL/SQL 文 (EXEC SQL EXECUTE ...) の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置：PL/SQL 文を終了してください。

PCC-02035 CMD-LINE: 構成ファイルの CONFIG= オプションが無効です。

原因：ユーザー構成ファイル内にユーザー構成ファイルを指定できません。ネストした構成ファイルをネストできません。

処置：ネストした構成ファイルがある場合は、ネストしたファイルから最上位のファイルにオプションを移動してください。

PCC-02040 CMD-LINE: オプションが選択されましたが、値がありません。

原因：コマンドラインにオプションが指定されましたが、そのオプションの値が組み込まれません。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
proc iname=sample1.pc oname=
```

処置：オプションに値を指定してください。

PCC-02041 CMD-LINE: オプションが存在しません：

原因：存在しないオプションをコマンドラインに指定しました。

処置：有効なコマンドライン・オプションおよびその値の詳細は、言語固有の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02043 CMD-LINE: オプション構文が無効です。

原因：コマンドライン・オプションの値が正しく指定されませんでした。

処置：指定するコマンドライン・オプションの値の正しい構文の詳細は、言語固有の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02044 CMD-LINE: オプションの値が無効か範囲外です：

原因：コマンドライン・オプションに指定した値が許容範囲内ではありません。たとえば、MAXOPENCURSORS オプションの範囲は 5 ～ 256 です。範囲外の値が指定されると、メッセージが出力されます。

処置：オプション値の範囲の詳細は、言語固有の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02045 CMD-LINE: オプションが一意ではありません：

原因：一意ではないオプション名がコマンドラインに部分的に指定されました。たとえば、次のような場合です。

```
% proc in=t.pc
```

この「in」オプションは、INAME または INCLUDE オプションのどちらの意味も示すことができます。

処置：コマンドラインに十分な文字を指定して、オプション名が一意に示されるようにしてください。

PCC-02046 CMD-LINE: 構成ファイルをオープンできません：

原因：存在しないユーザー構成ファイルが、構成オプションでコマンドラインに指定されました。

処置：構成ファイルに有効なファイル名を指定してください。

PCC-02047 CMD-LINE: オプションはインラインでは使用できません。

原因：コマンドラインまたは構成ファイルのみで入力できるオプションが、インラインで入力されました。たとえば、問題のコードは次のようになっています。

```
EXEC ORACLE OPTION (NLS_CHAR=name) ;
```

NLS_CHAR オプションは、コマンドラインまたは構成ファイルのみで入力できます。

処置：ソース・ファイルからオプションを削除して、コマンドラインで指定してください。

PCC-02066 CMD-LINE: システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因：システム構成ファイルは、標準名（PMSCFG.H）とオペレーティング・システム固有の位置で構成されています。UNIX システムでは ORACLE_HOME/proc ディレクトリです。PMSCFG.H という名前のファイルが標準の位置に見つからないと、この警告メッセージが出力されます。

処置：標準の位置にシステム構成ファイルを作成してください。ファイルは空でもかまいません。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

PCC-02081 CMD-LINE: 未終了のオプション値リストまたは値リストが切捨てられました。

原因：値リストが必要なオプションが入力されましたが、値リストは閉じカッコを持っていませんでした。1 行に入力された値リストが長すぎて、Pro*C によって切り捨てられた場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

処置：すべての値リストを閉じカッコで終了してください。長い値リストは個々のエントリに分割してください。

PCC-02100 PL/SQL を初期化できません。

原因：プリコンパイラが Oracle に接続しましたが、PL/SQL エンジンを実動できませんでした。このエラーは、プロシージャ・オプションがない以前のリリースの Oracle7 が使用された場合に発生することがあります。

処置：PL/SQL を使用するには、Oracle7 のより新しいリリースにアップグレードしてください。

PCC-02101 入力ファイルをオープンできません。

原因：プリコンパイラが入力ファイルをオープンできませんでした。これは INAME= オプションで指定された .pc ファイルです。つまり、ファイルが存在しないか、パス名にディレクトリを正しく指定しなかったか、プリコンパイラを実行しているユーザーがファイルに対する読取り権限がないことを示します。また、このメッセージは、オペレーティング・システムのエラーが原因で出力される場合もあります。たとえば、マウントされていないファイル・システムやディスクの I/O エラーがこのエラーの原因となります。

処置：ファイルの読取り権限があり、フルパス名が正しく指定されたことを確認してください。オペレーティング・システム固有の問題を確認してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

PCC-02102 C プリプロセッサ処理を実行中に致命エラーが発生しました。

原因：プリコンパイラは、より詳細なメッセージの後にこのメッセージを発行します。

処置：前のメッセージで指定された問題を修正してください。

PCC-02103 パスワード：

原因：パスワードを入力しないで、コマンドラインにユーザー名を入力しました。次に例を示します。

```
proc sqlcheck=full iname=sample1.pc userid=scott
```

処置：コマンドラインを再入力して、パスワードを入力するかまたはプロンプトが表示されたらパスワードを指定してください。

PCC-02104 Oracle に接続できません。

原因：プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。これはプリコンパイラ・メッセージであって、実行時メッセージでないことに注意してください。このメッセージは、コマンドラインまたは構成ファイルの USERID オプション値が不正であることを示します。

処置：カレントのユーザー名およびパスワードが正しいことを確認してください。SVRMGR または SQL*Plus を実行し、そのユーザー名とパスワードを使用して接続できることを確認してください。

PCC-02105 リスト・ファイルをオープンできません。

原因: プリコンパイラがリスト・ファイルをオープンできませんでした。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定したリスト・ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクが一杯であるため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- 指定したディレクトリへの書き込み権限がない。

処置: 前述のエラーの原因を調べて、修正してください。

PCC-02106 ユーザー ID は SQLCHECK = FULL のときのみ使用。ユーザー ID は無視されます。

原因: コマンドラインで USERID オプションが指定されましたが、SQLCHECK が FULL または SEMANTICS ではありませんでした。SQLCHECK=FULL または SQLCHECK=SEMANTICS でないかぎり、USERID は無効です。これは単なる警告メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

PCC-02107 CODE = CPP のときは PARSE = FULL は指定できません。

原因: コマンドラインで PARSE=FULL オプションおよび CODE=CPP オプションの両方が指定されました。PARSE=FULL オプションは、C 解析機能を起動します。C 解析機能は、CODE=CPP オプションの指定によってプリコンパイラで生成される C++ 構文を認識しません。

処置: CODE=CPP オプションが指定される場合は、PARSE オプションを NONE または PARTIAL のどちらかに設定してください。

PCC-02108 MODE=ORACLE で DBMS=V7 または V8 の場合に、UNSAFE_NULL=YES が指定できます。

原因: UNSAFE_NULL=YES がコマンドラインに指定されましたが、MODE が ORACLE でないか、または DBMS が V7 または V8 ではありませんでした。

処置: UNSAFE_NULL=YES を使用する場合は、MODE=ORACLE および DBMS=V7 または V8 を指定してください。

PCC-02109 SQLCHECK=NONE はサポートされません。SYNTAX を使用します。

原因: SQLCHECK=NONE がコマンドラインに指定されましたが、そのオプションは、サポートされていません。SQLCHECK=SYNTAX がかわりに使用されました。

処置: これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCC-02110 DBMS=V6_CHAR は使用不可です。CHAR_MAP=VARCHAR2、DBMS=V7 を使用してください。

原因：DBMS=V6_CHAR がコマンドラインに指定されましたが、そのオプションはサポートされていません。CHAR_MAP=VARCHAR2 および DBMS=V7 オプションがかわりに使用されました。

処置：これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、CHAR_MAP=VARCHAR2 と必要に応じて DBMS=V7 を指定してください。

PCC-02111 CHAR_MAP オプションは無視されました。DBMS=V6 では CHAR_MAP=VARCHAR2 のみ使用可能です。

原因：DBMS=V6 が指定され、さらに VARCHAR2 以外の値の CHAR_MAP が指定されました。CHAR_MAP 値は無視されました。

処置：これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、DBMS=V6 以外の DBMS 値を指定するか、または CHAR_MAP=VARCHAR2 を使用してください。

PCC-02112 OBJECTS オプションは無視されました。OBJECTS=YES は DBMS=V6、V7 では使用不可です。

原因：Pro*C コマンドラインで OBJECTS=YES が指定されましたが、DBMS オプション値が無効です。

処置：これは単なる警告メッセージです。OBJECTS=YES に対して、この警告を回避するには、V8 データベースで DBMS=V8 または DBMS=NATIVE を使用してください。

PCC-02113 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE、CHAR_MAP=VARCHAR2 を使用してください。

原因：コマンドラインで DBMS=V6 が指定されましたが、このオプション値はサポートされていません。オプション DBMS=NATIVE および CHAR_MAP=VARCHAR2 がかわりに使用されました。

処置：プログラムを調べて、V6 の動作に依存していないことを確認してください。DBMS=V6 指定の影響については、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02114 コマンドライン引数 MODE=ANSI は DBMS=V6 と一緒に使用できません。

原因：Oracle バージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO 規格に 100% 準拠しているわけではありません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6_CHAR オプションを使用した V6 の方法が必要な場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

処置：V6 オプションでは、ANSI モードを使用しないでください。

PCC-02115 書き込むための出力ファイルをオープンできません。

原因: 書き込みで、出力データ・ファイルがオープン（または作成）できなかったヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

処置: ディレクトリの適切な権限、および可能なファイル・オブジェクト（データ・ファイルがすでに存在している場合）を調べて、書き込み権限が付与されているかどうかを確認してください。

PCC-02116 HEADER オプションを使用してファイル拡張子を指定する必要があります。

原因: 生成されたデータ・ファイルを作成するときに、使用する拡張子の名前を指定せずに、ヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

処置: HEADER オプションを使用して、プリコンパイルされたヘッダーのデータ・ファイルを作成するときに、使用するファイル拡張子の名前を指定してください。

PCC-02129 CMD-LINE: クライアントからの静的オプション表が無効です。

原因: これは、通常は発生しない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-02132 CMD-LINE: メモリーを割当てできません。

原因: これは、通常は発生しない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-02133 CMD-LINE: 文字列処理機能にエラーがあります。

原因: これは、通常は発生しない内部エラー・メッセージです。STRCPY または STRLEN などの C 文字列機能がエラーを戻したことを示しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-02134 CMD-LINE: オプションが NULL です。

原因: コマンドラインで長さゼロのオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションを指定して、コマンドラインを再入力してください。

PCC-02135 CMD-LINE: ヘルプが要求されました。

原因: これは、コマンドライン・オプションに関する情報が要求されたときにプリコンパイラが発行する最後のメッセージです。たとえば、proc? コマンドが発行され、コマンドライン・オプションのカレントのデフォルト値リストが表示された場合、このメッセージがリストの最後に表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

PCC-02138 CMD-LINE: 内部一貫性エラーです。

原因: プログラムの例外に関係する内部メッセージです。コマンドライン・プロセッサが予期しない条件を検出し、一貫性チェックに失敗しました。このようなメッセージが発生する原因として、次のものが考えられます。

- 無効なコマンドライン・オプション
- メモリーの破損

処置: 次の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

- エラーが発生するまでの経過
- 実行しようとしてエラーが発生した操作
- このエラーが発生する前の通常と異なる状況

PCC-02144 CMD-LINE: 等号記号(=)の両側には空白文字を使用できません。

原因: 空白文字が等号記号(=)の直前または直後にありました。

処置: コマンドラインでは等号記号(=)の前後に空白文字を入れないようにして、プログラムを再コンパイルしてください。

PCC-02150 行 *number*、列 *number* でエラーが発生しました。ファイル *string*

原因: 示された場所でエラーが検出されました。

処置: 示されたソース・ファイルを確認し、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

PCC-02151 行 *number*、列 *number*、ファイル *string*:

原因: 示された場所でエラーが検出されました。

処置: リストされたソース・ファイルを確認し、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

PCC-02152 ファイル *string* をオープンしてソース行 *number* を表示またはリストアップできません。

原因: ファイルにエラーが含まれていますが、ファイルを再オープンして誤りのある行をリストまたは表示できません。

処置: ファイルが破損していないこと、および読取り権限があることを確認してください。操作を再実行してください。

PCC-02153 ファイル: *string* をオープン

原因: リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがオープンされました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

PCC-02154 ファイル: *string* をクローズ

原因: リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがクローズされました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

PCC-02200 不明な句読点の順序が見つかりました。

原因: このエラーは、プリコンパイラ解析機能が不正確な識別子またはキーワードを検出したことを示します。

処置: 構文を修正してください。

PCC-02201 構文エラーが見つかりました。

原因: この一般メッセージの後に続いて、エラーの詳細を示す 1 つ以上の詳細なメッセージが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。続いて表示されるメッセージで示されるエラーを修正してください。

PCC-02202 typedef 名が付けられていません。

原因: プリコンパイラ解析機能が、型指定の後に名前のない TYPEDEF 文を発見しました。次に例を示します。

```
typedef int;
```

処置: 構文を修正してください。

PCC-02203 予期しないときにファイルの終りが見つかりました。

原因: たとえば、一致しない「}」および「(」のように、一般的な構文エラーの発生時に解析機能がこのメッセージを出力することがあります。

処置: 構文を修正してください。

PCC-02204 EXEC SQL INCLUDE は、挿入ファイルからは使用できません。

原因: EXEC SQL INCLUDE 文はネストできません。また、#include 文を使用して組み込まれたファイルに EXEC SQL INCLUDE 文は置けません。

処置: ネストした組込み文が必要ないように、プログラムをコーディングしなおしてください。

PCC-02205 解析機能エラー (行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*) :

原因: プリコンパイラ解析機能が、C コードまたは SQL コードの構文エラーを検出しました。さらに詳細なメッセージが続いて表示されます。

処置: このメッセージに対する処置は必要ありません。続いて表示されるメッセージに対し、適切に処置してください。

PCC-02206 DDL 文で、ホスト変数は使用できません。

原因：データ定義言語文ではホスト変数を使用できません。次に例を示します。

```
CREATE TABLE :table_name (c1 char(10));
```

この文は、CREATE TABLE 文の表名をホスト変数で表現できないため無効となります。

処置：実行時にデータベース・オブジェクト（表、ビュー、列など）の名前を作成するには、動的 SQL を使用してください。動的 SQL の詳細は、言語固有の Precompiler プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02207 マクロ名が無効です。

原因：プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているマクロ名を持たない #define 文を検出しました。次に例を示します。

```
#define
```

処置：構文を修正してください。

PCC-02208 #include 文でファイル名が指定されていません。

原因：プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているファイル名を持たない #include 文を検出しました。次に例を示します。

```
#include
```

処置：#include 文で適切なファイル名を指定するか、または構文を修正してください。

PCC-02209 マクロ起動の引数の数が無効です。

原因：ソースのマクロ起動に、#define 行のマクロ定義と同じ引数の数値がありません。

処置：マクロ参照またはマクロ定義を修正してください。

PCC-02210 C++ の句読点シーケンスをサポートしていません。

原因：C++ 句読点シーケンスは、Pro C/C++ プリコンパイラによってサポートされていません。

処置：句読点シーケンスを使用しないように C++ コードを修正し、再プリコンパイルしてください。

PCC-02301 読み込み用の入力ファイルを再オープンできません。

原因：プリコンパイラの意味分析フェーズで、入力ファイルを再オープンして出力コードを生成できませんでした。

処置：プリコンパイルの途中で入力ファイルとディレクトリの保護および権限が変更されていないことを確認してください。

PCC-02302 コード生成用の出力ファイル"string"をオープンできません。

原因: Pro*C が、コード生成に必要なテンポラリ・ファイルの一方または両方をオープンできませんでした。プリコンパイラを実行しているユーザーには、カレント・ディレクトリの書き込み権限または適切な権限（あるいはその両方）が必要です。

処置: 権限があり、プリコンパイルするディレクトリでファイルを作成できることを確認してください。

PCC-02303 挿入ファイルをオープンできません。

原因: プリコンパイラが、`#INCLUDE` プリプロセッサ・ディレクティブまたは `EXEC SQL INCLUDE` 文を使用して指定されたヘッダー・ファイルをオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルまたはパス内の 1 つまたは複数のディレクトリに対する読取り権限や読取りアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

処置: ファイルの指定が正しいこと、ファイルが存在すること、また、読み取るファイルに対して読取り権限があることを確認してください。

PCC-02304 C 機能の宣言が無効です。

原因: C 関数が無効な構文を使用して宣言されました。

処置: C プログラミング・マニュアルを調べて、宣言を修正してください。

PCC-02305 新旧スタイルの C 機能宣言の混合が正しくありません。

原因: 旧スタイル (K&R スタイル) または新スタイル (ANSI スタイル) のいずれかの関数宣言で使用するすべての C 関数が宣言されている必要があります。2 つのスタイルを混合することはできません。

処置: 一貫した関数の宣言スタイルを採用してください。

PCC-02306 C 機能の名前が正しくありません。

原因: 有効な C 識別子でない名前 で C 関数が宣言されました。

処置: すべての関数名に有効な C 識別子を使用してください。

PCC-02307 void はシングル・パラメータのときのみ使用できます。

原因: 次の構文を使用して、関数を宣言または定義できます。

```
int func1(void)
```

関数がパラメータを持たないことを示すために、この場合、`void` を 1 度のみ使用できます。

処置: 関数定義または宣言で不要な `void` を削除してください。

PCC-02308 この関数定義には識別子が必要です。

原因: ANSI_C で書かれた関数定義には、すべてのパラメータに名前と型の両方が必要です。

処置: 関数定義を書き換えて、各パラメータの名前を含むようにしてください。

PCC-02309 仮パラメータの宣言が正しくありません。

原因: 関数宣言で、型を指定しないで仮パラメータを指定しました。

処置: 関数宣言を書き換えて、すべてのパラメータの型を関数宣言に含めてください。

PCC-02310 仮パラメータ VARCHAR はポインタとして宣言してください。

原因: 多くの C コンパイラでは、構造体が関数に渡されたり、関数から戻されたりするようになっています。VARCHAR は C 構造体として実装されますが、ポインタとして関数に渡す必要があります。

処置: VARCHAR が関数に渡されるときはアドレスを指定してください。詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02311 VARCHAR のビット・フィールドを含めることはできません。

原因: ホスト変数にビット・フィールドを含めることはできません。

処置: アプリケーションのコードを修正して、ビット・フィールドを削除してください。

PCC-02312 2 つのディメンションを超える VARCHAR の配列はできません。

原因: 2 次元を超える VARCHAR 変数が宣言されました。多次元の配列は、ホスト変数としてサポートされません。

処置: アプリケーションのコードを修正して、多次元の配列を削除してください。

PCC-02313 VARCHAR 宣言の作成に間違いがあります。- サイズがありません。

原因: VARCHAR 宣言のとき、サイズの指定は必須です。たとえば、次に示す VARCHAR 宣言は意味がなく無効です。

```
VARCHAR v1[];
```

処置: それぞれの宣言された VARCHAR にサイズを指定してください。

PCC-02314 定数の SIZEOF 式を評価できません。

原因: プリコンパイラ式が想定されているところで、SIZEOF 演算子を使用されました。たとえば、VARCHAR の長さが指定されました。

処置: このインスタンスの SIZEOF 演算子を削除してください。

PCC-02315 式は定数として評価できません。

原因：指定された式は定数として評価されません。たとえば、VARCHAR の長さなどのような式が必要です。

処置：定数整数として評価される式に変更してください。

PCC-02316 定数式にある演算子が正しくありません。

原因：定数式の中に非算術演算子があります。

処置：式を修正して非算術演算子を削除してください。

PCC-02317 式のキャスト型が正しくありません。

原因：式の中に無効なキャストがあります。

処置：無効なキャストを削除してください。

PCC-02318 式に型がありません。

原因：指定した式には型の宣言がありません。

処置：式の型を指定してください。

PCC-02319 式の型が使用方法に合っていないです。

原因：変数の型がその使用方法に合っていないです。たとえば、動的 SQL で SQL のテキスト文を含んでいるホスト変数は、C 文字列型として宣言されるか、または SQL 型の STRING と同値化される必要があります。

処置：宣言を削除してください。

PCC-02320 算術式のオペランド型が正しくありません。

原因：算術式は整数型で指定する必要があります。

処置：整数型を使用して式を修正してください。

PCC-02321 2 つのポインタ間では、減算のみ可能です。

原因：ポインタ値の加算、乗算または除算はできません。ポインタで許可されている算術演算は減算のみです。

処置：コードを修正して、このエラー・メッセージが発生しないようにしてください。

PCC-02322 未定義の識別子が見つかりました。

原因：SQL 文に使用されている識別子が定義されていません。たとえば、宣言されていないカーソル名が参照されたり、まだ PREPARE されていない文名が DECLARE CURSOR 文で使用されました。

処置：カーソル名や文名などのすべての SQL 識別子が、使用前に定義されていることを確認してください。変数またはそのタイプの識別子（あるいはその両方）を宣言してください。

PCC-02323 typedef 名が式の中（値が入るところ）で使用されています。

原因：変数が想定されている場所で TYPEDEF 名が見つかりました。

処置：式を修正して、TYPEDEF に対する参照を削除してください。

PCC-02324 変数名が typedef 名に使用されています。

原因：TYPEDEF が想定されている場所では変数名が見つかりました。

処置：式を修正して、正しい TYPEDEF 参照を指定してください。

PCC-02325 間接演算が正しくありません。

原因：非ポインタ型をポインタとして使用しようとしてしました。

処置：式を修正してください。

PCC-02326 構造体の参照演算が正しくありません。

原因：無効な構文を使用して構造体の構成要素が参照されました。たとえば、「.」演算子ではなく、「->」演算子が使用されました。

処置：不正な参照を修正してください。

PCC-02327 構造体またはそのポインタが必要です。

原因：構造体（またはそのポインタ）が必要なコンテキストで、スカラー・ホスト変数が使用されました。

処置：ホスト変数を構造体にするか、または SQL 構文の要件を満たすようにスカラー・ホスト変数をさらに追加してください。

PCC-02328 構造体の構成要素が未定義です。

原因：宣言されていない構造体の構成要素が参照されました。

処置：構造体を再定義してください。

PCC-02329 宣言されていない関数への参照が見つかりました。

原因：宣言されていない関数が参照されました。すべての関数の参照を宣言する必要があります。

処置：関数を宣言してください。

PCC-02330 整数型の式が入ります。

原因：式が整数として評価されません。たとえば、SQL FOR 式は整数型として評価される必要があります。

処置：式を修正してください。

PCC-02331 SQL の識別子が未定義です。

原因：すべての SQL 識別子は使用前に定義する必要があります。このメッセージは、CURSOR または STATEMENT が参照前に宣言（定義）されていない場合に出力されます。

処置：使用前に SQL 識別子を定義してください。

PCC-02332 SQL の識別子を再定義しようとしてしました。

原因：SQL 識別子（たとえばカーソル名など）は1度のみ定義できます。

処置：SQL 識別子を再定義しないでください。別の名前を使用してください。

PCC-02333 SQL の識別子が文として宣言されていません。

原因：SQL 文の識別子が、PREPARE されてない DECLARE... CURSOR 文で参照されました。

処置：すべての SQL 文名が宣言されていることを確認してください。SQL 文名は識別子であって変数ではないこと、およびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

PCC-02334 SQL の識別子がカーソルとして宣言されていません。

原因：宣言されていないカーソル名が OPEN、FETCH または CLOSE 文で使用されました。

処置：すべての SQL カーソル名が宣言されていることを確認してください。カーソルは識別子であって変数ではないこと、およびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

PCC-02335 カーソル本体で文の識別子に名前をつける必要があります。

原因：動的 SQL メソッド4のアプリケーションでは、DECLARE... CURSOR 文は、前の文中で PREPARE された文の識別子に名前をつける必要があります。PREPARE 文は（論理的にではなく）物理的に DECLARE コマンドの前にある必要があります。

処置：このメッセージに続いて、文を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。アプリケーションのコードを修正してください。

PCC-02336 ホスト変数式のタイプが正しくありません。

原因：ホスト変数として許可されていない C のタイプを使用してホスト変数が宣言されました。ホスト変数に許可されている C のタイプのリストは、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置：許可されているホスト変数のタイプを使用してください。

PCC-02337 このタイプに対してはマルチディメンション配列を宣言できません。

原因: 複数のディメンションを持つスカラーのホスト変数配列は宣言できません。マルチディメンションを許可されているホスト変数は、CHAR および VARCHAR のみです。

処置: 変数宣言を修正してください。

PCC-02338 構造体にネストされた構造体または共用体が含まれています。

原因: ホスト変数として使用される構造体は、ネストされた構造体または共用体を含むことができません。

処置: 変数宣言を修正してください。

PCC-02339 ホスト変数は共用体型にできません。

原因: ホスト変数として C 共用体を使用することはできません。

処置: このメッセージに続いて、無効な共用体を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。構造体または対応するスカラー・ホスト変数を使用して、コードを修正してください。

PCC-02340 構造体にビット・フィールドが含まれています。

原因: ビット・フィールドはデータベース DML 操作では意味をなさないため、ホスト変数では許可されていません。

処置: このメッセージに続いて、無効なホスト変数を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。アプリケーションのコードを修正してください。

PCC-02341 ホスト変数の型が正しくありません。

原因: ホスト変数に許可されていない (ENUM または VOID などの) 型が使用されています。

処置: 許可されたホスト変数の型を使用して、ホスト変数の宣言を修正してください。

PCC-02342 FOR UPDATE 句なしで定義されたカーソルで WHERE CURRENT OF が使用されています。

原因: MODE=Oracle の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

処置: カーソル定義を修正してください。

PCC-02343 カーソルの本体は問合せ式でなければなりません。

原因: カーソル定義は SELECT 文である必要があります。

処置: カーソル定義を修正してください。

PCC-02344 ホスト変数の配列サイズが合っていないです。最小値: *number* を使用しています。

原因: 1つの文のホスト変数の配列は、すべて同じサイズである必要があります。

処置: バインド変数の配列の長さを、すべて同じサイズに再定義してください。

PCC-02345 組込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、SQLCHECK=SEMANTICS でなければなりません。

原因: 組み込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、コマンドライン・フラグ SQLCHECK=SEMANTICS を使用する必要があります。

処置: SQLCHECK=SEMANTICS オプションを使用してください。これには、USERID 接続オプションも必要です。

PCC-02346 PL/SQL で意味エラーが見つかりました。

原因: 存在しない表名や列名などのデータベース・エンティティが参照されました。これはコンパイル時のエラーで、実行時エラーではありません。

処置: PL/SQL 文で参照されたオブジェクトがすべて存在し、それらに必要なアクセス権限が付与されていることを確認してください。

PCC-02347 PL/SQL で構文エラーが見つかりました。

原因: PL/SQL 文の使用方法が正しくありません。

処置: 正しい構文の詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

PCC-02348 EXEC IAF 文で標識変数は使用できません。

原因: ホスト変数と対応付けられているインジケータ変数は、EXEC IAF 文（ユーザー・イグジットの GET、PUT など）では使用できません。

処置: インジケータ変数を削除してください。可能な場合は（たとえば、Forms V4 などのように）、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、インジケータ変数を許可しています。詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02349 この型には精度を指定する必要があります。

原因: VAR 文または TYPE 文で、特定の Oracle 型に精度の指定が必要です。たとえば、VARCHAR2 や CHAR 型などです。

処置: 精度を指定してください。

PCC-02350 この SQL の型は同値化できません。

原因: NUMBER または DECIMAL データ型に同値化するデータ型または変数は使用できません。詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置: アプリケーションに適切なデータ型を使用してください。

PCC-02351 データ型の同値化演算が正しくありません。

原因：指定されたデータ型を同値化できないか、VAR 文または TYPE 文の構文が不正です。

処置：同値化できるデータ型のリストおよび VAR 文や TYPE 文の正しい構文の詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02352 バインド位置が PL/SQL から外れています。

原因：PL/SQL が存在しないバインド位置を要求しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-02353 セマンティック・エラーです (行 *number*、列 *number*、ファイル *string*) :

原因：このエラー・メッセージに続いて、明確なエラー・メッセージが表示されます。

処置：処置は必要ありません。続いて表示されるメッセージに示されるエラーを修正してください。

PCC-02354 #include で挿入されたファイルに SQL 文を含めることはできません。

原因：Pro*C プリコンパイラは、#include ディレクティブで参照されたヘッダー・ファイルを読み取り、そこに定義された値を使用します。ただし、ヘッダー・ファイルの文を使用してコード生成しないので、ヘッダー・ファイルでの SQL 文の使用は無効です。

処置：SQL 文をアプリケーションの本体に移動するか、または EXEC SQL INCLUDE を使用して、挿入ファイルがプリコンパイルされることを確認してください。

PCC-02355 オプションが無効なため無視しました。

原因：Pro*C リリース 2.0 では使用されないコマンドライン・オプションが指定されました。たとえば、AREASIZE オプションは Oracle7 サーバーで使用するプリコンパイラでは無効です。

処置：処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

PCC-02356 警告 (行 *number*、列 *number*、ファイル *string*) :

原因：これは一般的な警告メッセージです。詳細な警告が続いて表示されます。

処置：処置は必要ありません。続いて表示されるメッセージに示されるエラーを修正してください。

PCC-02357 ファンクション・コールはホスト変数式として使用できません。

原因：LVALUE (アドレスが決まっているもの) であるオブジェクトのみがホスト変数になることができます。ファンクション・コールが LVALUE ではないため、ホスト変数の代用にはなりません。

処置：アプリケーションのコードを修正してください。

PCC-02358 ARRAYLEN の後の識別子は配列名でなければなりません。

原因：ARRAYLEN 文の引数には、宣言された配列を指定する必要があります。ARRAYLEN 文を指定する前に配列を宣言してください。ARRAYLEN 文の構文の詳細は、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置：引数としてホスト配列を指定し、文を修正してください。

PCC-02359 ARRAYLEN を指定する識別子は 4 バイトの整数でなければなりません。

原因：ARRAYLEN のディメンションを指定する式は、整数として評価される必要があります。たとえば、EXEC SQL ARRAYLEN my_array(1,3) という文は解析できません。

処置：整数のディメンションを使用して、文を修正してください。

PCC-02360 この配列型は、ARRAYLEN 文と一緒に使用できません。

原因：いくつかのホスト変数型の配列は許可されていないため、ARRAYLEN 文では使用できません。VARCHAR や DATE などを使用できません。

処置：ホスト配列で利用できるデータ型で配列を指定してください。

PCC-02361 ARRAYLEN は SQL バインド配列と一緒に使用できません。

原因：ARRAYLEN は、PL/SQL ブロックにバインドできる配列のみで有効です。

処置：適切な配列型を使用してください。

PCC-02362 ホスト変数は SQL DECLARE セクションで宣言されていません。

原因：プリコンパイル時に MODE=ANSI を指定する場合、すべてのホスト変数は宣言節内部で宣言される必要があります。MODE=ANSI は、ANSI C ではなく ANSI SQL を示すことに注意してください。

処置：EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION... EXEC SQL END DECLARE SECTION 文内ですべてのホスト変数を宣言してください。

PCC-02363 標識変数は構造体でなければなりません。

原因：ホスト変数が構造体である場合、使用するインジケータ変数も構造体にする必要があります。

処置：アプリケーションのコードを修正して、インジケータ変数を構造体として作成してください。

PCC-02364 構造体のホスト変数およびその標識変数の数はフィールド数と同じでなければなりません。

原因：インジケータ変数を含む構造体を宣言して、ホストの構造と対応付ける場合、インジケータ変数構造体はホストの構造と同じフィールド数を含む必要があります。これは、一部のインジケータ変数が使用されない場合や、使用しても意味がない場合（たとえば、NON NULL として制約されているフィールドの場合）にも該当します。

処置：正しいフィールド数を持つインジケータ変数を再宣言してください。

PCC-02365 標識変数の配列サイズはホスト変数の配列サイズより大きくなければなりません。

原因：インジケータ変数の配列サイズは、対応するホスト変数の配列サイズ以上にする必要があります。

処置：インジケータ変数の配列サイズを変更してください。

PCC-02366 コマンドライン引数 MODE=ANSI は DBMS=V6 と一緒に使用できません。

原因：Oracle バージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO 規格に 100% 準拠しているわけではありません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6_CHAR オプションを使用した V6 の方法が必要な場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

処置：V6 オプションでは、ANSI モードを使用しないでください。

PCC-02367 この標識変数は SHORT 型で宣言しなければなりません。

原因：この型のホスト変数のインジケータ変数は、C の SHORT 型である必要があります。このようなインジケータ変数の配列は、SHORT 型の配列である必要があります。

処置：インジケータ変数またはインジケータ変数配列を SHORT 型で宣言してください。

PCC-02368 EXEC TOOLS のホスト変数コンテキスト名が CHAR 型ではありません。

原因：EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文にコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置：CHAR 型のホスト変数に対してコンテキスト名を宣言してください。

PCC-02369 EXEC TOOLS のホスト・ポインタ変数がポインタではありません。

原因：EXEC TOOLS コンテキストを指定するホスト変数はポインタ型である必要があります。

処置：変数がポインタであることを確認して、再宣言してください。

PCC-02370 EXEC TOOLS MESSAGE のホスト変数が CHAR 型ではありません。

原因：EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文でコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置：CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

PCC-02371 FOR 句が正しくありません。

原因：FOR 句の引数は、整数または整数を含む識別子として指定する必要があります。

処置：FOR 句を修正してください。

PCC-02372 SELECT 文に FOR 句を含めることはできません。

原因: SELECT コマンドを含む SQL 文に FOR 句は指定できません。このような文の意味は不明です。

処置: FOR 句を削除して、SELECT 文を修正してください。

PCC-02373 EXEC SQL DECLARE セクションでの宣言が無効です。

原因: DECLARE セクションに不適切な宣言があります。通常、このメッセージは、DECLARE セクション内に EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR の宣言を組み込むことによって発生します。

処置: 宣言を SQL DECLARE セクションの外に移動してください。

PCC-02374 SQLCHECK の値がコマンドラインの値を超えています。

原因: EXEC ORACLE 文で SQLCHECK オプションに指定した値がコマンドラインで指定した値より大きい、または SQLCHECK オプションがコマンドラインで指定されていない場合にデフォルト値より大きくなりました。オプション値の順序は、SEMANTICS>SYNTAX>NONE です。このメッセージが表示される場合、SQLCHECK の元の値（デフォルト値またはコマンドライン値）が有効です。

処置: .PC ソース・ファイルで EXEC ORACLE オプションを削除するか、またはコードを修正して、この警告メッセージが発生しないようにしてください。

PCC-02375 SQL 文がファンクション本体の外にあります。

原因: PARSE=FULL のときに、宣言、データ型同値化または WHENEVER 文以外の SQL 文がファンクション本体の外で検出されました。

処置: SQL 文をファンクション本体の中に移動してください。

PCC-02376 DEF_SQLCODE = TRUE の場合、SQLCODE を宣言できません。

原因: SQLCODE 宣言がすでに明示的にプログラム内にある場合は、DEF_SQLCODE オプションを指定できない可能性があります。

処置: プログラムから SQLCODE 宣言を削除するか、または DEF_SQLCODE=NO（デフォルト）を指定してください。

PCC-02377 暗黙の VARCHARS の配列は使用できません。

原因: HOST_VARCHAR=TRUE の場合、暗黙の VARCHAR の配列が宣言されました。

処置: 配列を使用しないで、暗黙の VARCHAR 宣言を修正してください。

PCC-02378 各国語キャラクタ変数の型が無効です。

原因: NLS_CHAR オプションを使用して各国語キャラクタとして宣言された変数が、CHAR または暗黙の VARCHAR として宣言されませんでした。

処置: CHAR または暗黙の VARCHAR として変数を宣言するか、または NLS_CHAR オプションを使用して指定しないでください。

PCC-02379 各国語キャラクタ変数を同値化できません。

原因：各国語キャラクタ変数（NLS_CHAR オプションを使用して指定）が、EXEC SQL VAR 文または TYPE 文を使用して、データ型の同値化を行いました。

処置：各国語キャラクタ変数を同値化しないでください。

PCC-02380 ユーザーのパスワードの変更時に接続モードを指定できません。

原因：同じ CONNECT 文で ALTER AUTHORIZATION 句を使用してパスワードを変更しようとしたときに、SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続されました。

処置：SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続中のパスワードの変更は禁止されています。ALTER AUTHORIZATION 句または CONNECT MODE 句のいずれかを削除して、CONNECT 文を修正してください。

PCC-02382 NLS_LOCAL=YES を使用するときは、MODE=ANSI と指定しなければなりません。

原因：MODE=ANSI を指定しないで、NLS マルチバイト文字変数を指定するために、NLS_CHAR が使用されました。

処置：NLS_LOCAL=TRUE を使用する場合は、コマンドラインで MODE=ANSI を指定してください。

PCC-02383 OCIExtProcContext 型の式が必要です。

原因：REGISTER CONNECT USING 文で指定されるバインド変数の型が、OCIExtProcContext（のポインタ）ではありません。

処置：型 OCIExtProcContext（のポインタ）を持つ変数を宣言して、REGISTER CONNECT USING 文で使用してください。

PCC-02384 配列長指定子がありません。

原因：配列長指定子を使用しないで配列宣言を指定しました。

処置：配列宣言の長さを指定してください。

PCC-02385 NLS_CHAR および NLS_LOCAL=TRUE を使用するときは、CHAR_MAP は使用できません。

原因：NLS マルチバイト文字変数としてプリコンパイラが処理するホスト変数を示しているときに、CHAR_MAP オプションが指定されました。このマッピングは、NLS_LOCAL=TRUE オプションで実行できません。このエラーは、NLS_CHAR および NLS_LOCAL=TRUE とともに DBMS=V6 が使用される場合も発生します。

処置：CHAR_MAP オプションを削除するか、または NLS_LOCAL=FALSE を設定してください。DBMS が V6 に設定されていないことを確認してください。

PCC-02386 ここで AT 句は使用できません。

原因: 明示的な AT 句が ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文 (SQL_CURSOR 宣言を使用) とともに使用されました。

処置: AT 句の指定を削除してください。

PCC-02387 型には sql_cursor の式が必要です。

原因: 結果セット SQL_CURSOR として宣言されなかった ALLOCATE 文、FETCH 文または CLOSE 文でホスト・バインド変数が使用されました。

処置: SQL_CURSOR 型の変数を宣言してください。

PCC-02388 SELECT 文の FROM/WHERE 句では配列は使用できません。

原因: ホスト配列を SELECT-INTO 文の WHERE 句内で使用しています。

処置: 配列を使用しないように SELECT 文を修正するか、またはカーソルを使用してください。

PCC-02389 配列は SELECT リストの入力バインド変数として使用できません。

原因: ホスト配列を SELECT-INTO 文の SELECT リスト内で使用しています。

処置: SELECT リスト内で配列を使用しないように SELECT 文を修正してください。

PCC-02390 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つからず、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置: 必要な (SQL_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が宣言され、実行可能な SQL 文の前で割り当てられ、使用されているかどうかを確認してください。

PCC-02391 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文または REGISTER CONNECT 文の RETURNING 句にあるホスト変数が、SQL_CONTEXT 型として宣言されませんでした。

処置: SQL_CONTEXT 型のランタイム・コンテキスト変数を宣言してください。

PCC-02392 すでに EXEC SQL DECLARE SECTION 内に入っています。

原因: 1 つの SQL DECLARE SECTION が別の SQL DECLARE SECTION 内にネストされています。

処置: DECLARE SECTION をネストしないようにしてください。ネスト内の DECLARE SECTION を削除してください。

PCC-02393 SQL 文が EXEC SQL DECLARE SECTION の中に見つかりました。

原因: 実行可能な SQL 文が DECLARE SECTION 内にあります。

処置: SQL 文をファンクション本体の中に移動してください。

PCC-02394 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因：INAME および ONAME の値が同じであるか、またはデフォルトの出力ファイル名が ONAME で指定したものと同じです。

処置：ONAME を使用して、出力ファイルに別のファイル名を指定してください。

PCC-02395 構造体の配列を使用する場合、その構造体に名前がついていなければなりません。

原因：名前の付いていない構造体の配列がホスト変数として使用されました。構造体の配列を使用する場合は、構造体に名前またはタグが必要です。

処置：構造体に名前を指定してください。

PCC-02396 構造体の配列内での配列の使用方法が正しくありません。

原因：スカラーの配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドが含まれている構造体の配列が、ホスト変数として使用されました。

処置：スカラー配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドを使用しないように構造体を修正してください。

PCC-02397 #include ファイル内では VARCHAR 宣言は許可されません。

原因：#include 形式を使用して組み込まれたファイル内に VARCHAR 宣言が見つかりました。

処置：EXEC SQL INCLUDE 形式を使用して、VARCHAR 宣言を指定したファイルを組み込んでください。

PCC-02398 この文のその型に対しては標識変数は無視されます。

原因：インジケータ変数を必要としない文で、ある型に対するインジケータ変数が、ホスト変数およびインジケータ変数の組合せで使用されました。通常、ALLOCATE および FREE 文では、オブジェクトまたはコレクション型以外の型に対してインジケータ変数は使用されません。OBJECT CREATE/DEREF 文でも、REF 型に対しては使用されません。

処置：指定された文でこの型に対するインジケータ変数を使用しないでください。そうでない場合、インジケータ変数は無視されます。

PCC-02399 DBMS=V6 に対して CHAR_MAP オプションが不正です。オプションを無視します。

原因：CHAR_MAP=VARCHAR2 以外の CHAR_MAP オプションがインラインで指定されました。DBMS=V6 であるため、このオプションは問題の文における文字変数または文字列変数では無視されます。

処置：DBMS を V6 以外に設定するか、または CHAR_MAP=VARCHAR2 を指定してください。

PCC-02400 このホスト変数はポインタ型で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたホスト変数は、ポインタ型として宣言されていません。

処置: ホスト変数をポインタ型として宣言してください。

PCC-02401 この型のホスト変数配列は現在サポートされていません。

原因: 指定された型のホスト変数配列はサポートされていません。

処置: この型の配列を使用しないようにプログラムを修正してください。

PCC-02402 オブジェクト・キャッシュを使用するには、Pro*C オプション、OBJECTS=YES が必要です。

原因: このホスト変数に対してオブジェクト・キャッシュが使用されますが、Pro*C コマンドラインで OBJECTS=NO が指定されました。

処置: オブジェクト・キャッシュを使用する場合は、Pro*C コマンドラインで OBJECTS=YES を指定してください。

PCC-02403 このホスト変数に対しては無効な型の標識変数です。

原因: インジケータ変数の型が、指定されたホスト変数には適切ではありません。

処置: インジケータ変数の型を有効な型に変更してください。適切なインジケータ変数については、『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02404 この標識変数はポインタ型で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたホスト・インジケータ変数は、ポインタ型として宣言されていません。

処置: インジケータ変数をポインタ型として宣言してください。

PCC-02405 変数の型が未定義です。

原因: 変数の型識別子に対する宣言が見つかりませんでした。

処置: ホスト変数の型に有効な宣言を指定してください。プログラムでオブジェクトを使用している場合、オブジェクト型の OTT 生成ヘッダーが組み込まれ、その型のファイルが Pro*C コマンドラインの INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

PCC-02406 フォーム 'RETURN[ING] REF INTO :ref' のみが入ります。

原因: OBJECT CREATE で RETURNING 句を使用している場合は、1 つの「REF INTO :host_variable」のみが必要です。このエラーが発生するのは、REF が属する式リストが 1 つ以上であるか、または 1 つ以上のホスト変数がリストに指定されている場合です。

処置: RETURNING 句をそれぞれの指定ごとに修正してください。

PCC-02407 オブジェクトと REF 型が合致していません。

原因：OBJECT CREATE または DEREV 文で、指定されたオブジェクトとそれに対応する REF の型が合致しません。

処置：オブジェクトとその REF の型が同じであることを確認してください。型情報は OTT によって生成され、OTT が作成するヘッダー・ファイルに明記されます。

PCC-02408 オブジェクト型の式が入ります。

原因：式がオブジェクト型ではありません。たとえば、ナビゲーションル文の多数のホスト変数式は、変数がいくつかのオブジェクト型に宣言される必要があります。

処置：式を修正するか、または変数をオブジェクト型に宣言してください。

PCC-02409 REF 型の式が入ります。

原因：式が REF 型ではありません。たとえば、ナビゲーションル CREATE および DEREV 文のホスト変数は、REF 型に宣言される必要があります。

処置：式を修正するか、または変数を REF 型に宣言してください。

PCC-02410 コレクション型の式が必要です。

原因：式がコレクション型ではありません。VARRAY またはネストした表オブジェクトが必要ですが、指定されたホスト変数が有効なコレクション型に変換されませんでした。

処置：コレクション型の OTT 生成ヘッダーが Pro*C/C++ プログラムに正しく組み込まれ、型ファイルが Pro*C/C++ コマンドラインの INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

PCC-02411 INDICATOR 記述子項目のホスト変数に対して型が無効です。

原因：INDICATOR 記述子項目と対になっているホスト変数の型が無効です。INDICATOR 項目に許可されている型は、符号付き 2 バイトの数値型、またはユーザー定義のオブジェクト型用に OTT によって生成されたインジケータ変数の構造体です。

処置：INDICATOR ホスト変数を有効な型を持つものと置き換えるか、既存のホスト変数を有効な型に再宣言してください。

PCC-02412 FOR 句は、OBJECT GET または SET 文で使用できません。

原因：明示的な FOR 句が OBJECT GET または OBJECT SET 文で使用されました。これらの文に FOR 句を使用することはできません。

処置：FOR 句を削除してください。

PCC-02413 属性の数がホスト変数の数と一致しません。

原因：GET 文の OBJECT SET の属性リストに指定された属性の数が、この文に指定されたホスト変数の合計数と一致しません。

処置：その文から属性またはホスト変数をいくつか削除して、合計数を同じにしてください。

PCC-02414 この属性は指定したオブジェクトにありません。

原因: OBJECT SET または GET 文の属性リストに指定された属性が、その文に指定されたオブジェクトのメンバーではありません。

処置: リストから属性を削除してください。

PCC-02415 OBJECT GET または SET にあるオブジェクト属は操作できません。

原因: それ自身がオブジェクトまたは REF 型であるオブジェクトの属性を GET または SET しようとしてしました。

処置: 文の属性リストから属性を削除してください。

PCC-02416 OBJECT GET または SET にあるオブジェクトは配列であってはなりません。

原因: OBJECT GET または SET 文で指定されたオブジェクトが配列であるため無効です。

処置: オブジェクトが配列でないように、オブジェクトを再宣言してください。または、オブジェクト配列の要素を 1 つのみ指定するようにオブジェクトをサブスクリプトしてください。

PCC-02417 属性とホスト変数との型変換が不適当です。

原因: ナビゲーション GET または SET 文で、属性型とホスト変数型の間で、無効な型変換をしようとしてしました。

処置: 属性またはホスト変数のどちらかの型を変更してください。

PCC-02418 オブジェクトと REF ホスト変数との配列サイズが一致しません。

原因: OBJECT CREATE または Deref でのオブジェクトおよび REF 変数の配列サイズが一致しません。

処置: 2 つのホスト変数の配列が等しくなるように調整してください。

PCC-02419 OBJECT SET または GET でホスト変数は配列にできません。

原因: OBJECT SET または GET 文のホスト変数リストで、配列が見つかりました。

処置: (1 次元の CHAR または VARCHAR 変数以外の) スカラーのみが、OBJECT SET または GET のホスト変数リストで許可されます。これらの文では、スカラーのみを使用してください。

PCC-02420 型指定が不完全（または欠落）です。

原因: SQL 文で使用するホスト変数の宣言時に、不完全または欠落している型が指定されました。

処置: SQL 文で使用するホスト変数を宣言する場合は、完全な型の定義を指定してください。

PCC-02421 このホスト変数には標識変数を使用する必要があります。

原因：インジケータ変数が明示的に必要とする特定のホスト変数に、インジケータ変数が指定されていません（一致していません）。

処置：SQL 文で指定されたホスト変数に使用するインジケータ変数を指定してください。

PCC-02422 所定のコンテキスト・オプションに指定した値が無効です。

原因：CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された実行時コンテキスト・オプションの値が無効です。

処置：特定のオプションの文で、有効なオプション値を使用してください。

PCC-02423 このオプション値のホスト変数に無効な型があります。

原因：CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文の特定のオプション値に対応するホスト変数の型が無効です。

処置：特定の値に適した型を使用してください。

PCC-02424 値とホスト変数の数が一致しません。

原因：CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された値の数と、指定された有効なホスト変数の数が一致していません。

処置：特定の文で指定した値と同じ数のホスト変数を使用してください。

PCC-02425 この属性では標識変数は必要ありません。

原因：LOB または DESCRIBE コレクションで、インジケータ変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、インジケータ変数がホスト変数とともに使用されました。

処置：インジケータ変数を削除してください。

PCC-02426 LOB の型が一致しません。

原因：型が一致していない LOB の間で、LOB 操作を実行しようとしてしました。たとえば、LOB を別の LOB に ASSIGN している場合、LOB は両方とも同じ型である必要があります。同じ型でない場合は、このエラーが発生します。

処置：同じ型の LOB 間で機能するように、LOB 操作を修正してください。指定の操作を実行する LOB 文で使用する LOB の 1 つを、再宣言する必要があります。

PCC-02427 式が正しい文字列型ではありません。

原因：指定されたホスト変数式が、要求された文字列型で宣言されませんでした。この場合、いくつかの可能な文字列型の 1 つが受け入れられます。ただし、ホスト変数型は、そのいずれにも一致しませんでした。

処置：許可されている文字列型の 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

PCC-02428 バッファ型が LOB の型と一致しません。

原因: このエラーは、次に示す状況で発生します。

1. LOB からその LOB 型と互換性のないバッファ型へ読み込もうとしました。
2. バッファ型と一致しない型の LOB へバッファを書き込もうとしました。

処置: LOB 型およびバッファ型が指定された操作と互換性を持つように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

PCC-02429 内部 LOB 型の式が必要です。

原因: 指定されたホスト変数は、内部 LOB として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB が受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのどれにも一致しませんでした。

処置: 内部 LOB 型のいずれか 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02430 任意の LOB 型の式が必要です。

原因: 指定されたホスト変数は、内部 LOB 型または外部 LOB 型のいずれにも宣言されませんでした。内部 LOB 型のみでなく、BFILE も受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのいずれにも一致しませんでした。

処置: 内部 LOB 型または外部 LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02431 外部 LOB 型 (BFILE) の式が必要です。

原因: 指定されたホスト変数は、外部 LOB 型として宣言されませんでした。この場合、BFILE のみが受け入れられます。

処置: 外部 LOB 型 (BFILE) を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02432 READ WRITE モードで外部 LOB (BFILE) をオープンできません。

原因: BFILE を READ WRITE モードでオープンしようとしてしました。書き込み可能な BFILE は現在サポートされていないため、この操作はエラーになります。

処置: READ WRITE モードを使用して、BFILE をオープンしないでください。BFILE は、READ ONLY モードのみでオープンできます。

PCC-02433 ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。

原因: LOB または DESCRIBE コレクションで、ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。この場合、ホスト変数に問題がある可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合、または指定されていない場合に、このエラーが発生します。

処置: 通常、さらに明確なその他のエラーが出力されます。その中の一部またはすべての問題を修正すると、このエラーを解決できます。

PCC-02434 LOB 文では FOR 句を使用できません。

原因: 明示的な FOR 句が LOB 文で使用されました。FOR 句を LOB 文で使用すると、エラーとなります。

処置: FOR 句を削除してください。

PCC-02435 この属性は内部 LOB 型に対してのみ有効です。

原因：LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置：LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を、内部 LOB として宣言された変数に置き換えてください。

PCC-02436 この属性は外部 LOB 型 (BFILE) に対してのみ有効です。

原因：LOB が外部 LOB 型 (BFILE) でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置：外部 LOB 型 (BFILE) ホスト変数を LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCC-02437 2 進整数型の式が必要です。

原因：有効な 2 進整数型のホスト変数が指定されませんでした。一般的に、このエラーが発生する場合、符号付きまたは符号のない整数型が必要です。浮動小数点または正確でない数値型は、エラーになります。

処置：問題のあるホスト変数を正確な整数値型を使用して宣言された変数と置き換えてください。

PCC-02438 コレクション・オブジェクトの配列は使用できません。

原因：コレクション・オブジェクトの配列が COLLECTION 文で指定されました。スカラー (配列でない)・コレクション・オブジェクトのみが COLLECTION 文で使用できます。

処置：配列にならないようにホスト変数コレクションの宣言を変更してください。

PCC-02439 この COLLECTION 文では FOR 句を使用できません。

原因：FOR 句を使用できない COLLECTION 文 (TRIM または DESCRIBE COLLECTION 文) で、無効な FOR 句が使用されました。

処置：FOR 句を文から削除してください。

PCC-02440 この属性は内部または外部 LOB に対して有効です。

原因：LOB DESCRIBE 文で LOB 属性が要求されましたが、その文で指定された LOB ホスト変数は、内部または外部 LOB 型 (BFILE) のいずれでもありません。

処置：内部 LOB 型ホスト変数または外部 LOB 型ホスト変数のいずれかを LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCC-02441 属性の数がホスト変数の数と一致しません。

原因：LOB または DESCRIBE コレクションで、属性の数と有効なホスト変数の間に不一致があります。

処置：要求されている各属性に、ホスト変数の値を持つように指定された有効なホスト変数が 1 つでも存在することを確認してください。

PCC-02442 値は 1 から 65535 の間でなければなりません。

原因: ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句または GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUE 句で指定される値が、1 未満かまたは 65535 を超えました。

処置: 値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCC-02443 この使用法は、DYNAMIC=ANSI が指定されている場合のみ有効です。

原因: 次の文のいずれかが、DYNAMIC=ANSI コマンドライン・オプション設定を指定しないで使用されました。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL OPEN ... USING ... *descriptor*

処置: DYNAMIC=ANSI を指定するか、またはプログラムから前述の文を削除してください。

PCC-02444 記述子句と非記述子句の組み合わせが無効です。

原因: ANSI 動的 SQL 文に記述子句および非記述子句が混在しています。

処置: 問合せの ANSI 文では、記述子と非記述子を混在させないでください。

PCC-02445 USING 句は PREPARE 動的文でのみ有効です。

原因: PREPARE されていない文によってカーソル宣言されたカーソルに対して OPEN 時に USING 句が指定されています。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL PREPARE s FROM :stmt;  
EXEC SQL DECLARE c CURSOR FOR s;  
EXEC SQL OPEN c USING ...;
```

処置: SQL 文に対して PREPARE 文を実行し、これを DECLARE CURSOR 文で使用してください。

PCC-02446 DEALLOCATE 文では FOR 句を使用できません。

原因: 明示的な FOR 句が DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。

処置: FOR 句を文から削除してください。

PCC-02447 LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。

原因：宛先オフセットが LOB WRITE APPEND 文で指定されました。宛先オフセットは LOB の終わりとみなされるので、明示的な宛先オフセットを指定するとエラーになります。

処置：LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

PCC-02448 NLS_NCHAR オプションに UCS2 変数は指定できません。

原因：UTEXT、UVARCHAR または LONGUVARCHAR として宣言された変数が、NLS_NCHAR コマンドライン・オプションで指定されています。

処置：NLS_NCHAR コマンドライン・オプションで変数を指定せずに、再プリコンパイルしてください。

PCC-02449 UCS2 型は型同値にできません。

原因：UCS2 型が EXEC SQL TYPE 文で同値化指定されたか、または UCS2 型が EXEC SQL VAR 文で同値化指定されました。

処置：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文を削除してください。

SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

SQL-02100 メモリーが足りないため割当てできません。

原因：SQLLIB がプログラムを実行するために十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：ユーザー・プロセス用に、より多くのメモリーを割り当ててください。その後、プログラムを再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL-02101 無効なカーソル・キャシュです。ユニット・カーソル/グローバル・カーソルが一致しません。

原因：通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02102 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・キャッシュ・エントリがありません。

原因：通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02103 無効なカーソル・キャッシュです。カーソル・キャッシュ参照の範囲を超えています。

原因：通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02104 無効なホスト・キャッシュです。使用可能なカーソル・キャッシュがありません。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02105 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・カーソルがありません。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02106 無効なカーソル・キャッシュです。Oracle カーソル番号が無効です。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02107 実行時ライブラリに対してプログラムが古すぎます。プログラムを再度プリコンパイルしてください。

原因: プログラムが、このリリースの SQLLIB と互換性のない古いバージョンの Oracle プリコンパイラでプリコンパイルされています。

処置: より新しいバージョンの Oracle プリコンパイラを使用して、このプログラムをプリコンパイルしてください。

SQL-02108 実行時ライブラリに無効な記述子が渡されました。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02109 無効なホスト・キャッシュです。ホスト参照が範囲外です。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02110 ホスト・キャッシュが無効です。ホスト・キャッシュ・エントリの型が無効です。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02111 ヒープ一貫性エラーが発生しました。

原因：通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02112 SELECT..INTO が戻す行が多すぎます。

原因：SELECT ...INTO 文が、指定したホスト変数に格納できる行数より多くの行を戻しました。

処置：3つの解決方法が考えられます。

- プリコンパイラ・オプション SELECT_ERROR=NO を使用する。
- より大きな配列のホスト変数を宣言する。
- SELECT 文のカーソルまたはカーソル変数を宣言する。

SQL-02113 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因：SQLLIB は、SQLLIB メッセージ・ファイルの SQL*.MSB を検出またはオープンできませんでした。

処置：このファイルが MESS ディレクトリに存在し、読み込み可能であることを確認してください。

SQL-02114 無効な SQL カーソルの使用：すでにクローズしているカーソルをクローズしようとしてしました。

原因：MODE={ANSI|ANSI14} で、すでにクローズされているカーソルをクローズしようとしてしました。クローズされているカーソルを再クローズできるのは、MODE={ORACLE|ANSI13} のときのみです。

処置：MODE={ANSI|ANSI14} の場合は、カーソルをクローズする前にカーソルがすでにクローズされていないかどうかを確認してください。クローズされているカーソルを再クローズする場合は、MODE={ORACLE|ANSI13} を指定してください。

SQL-02115 コード解析の問題 -- COMMON_NAME の使用法をチェックしてください。

原因：Pro*FORTRAN プログラムで、プリコンパイラ・オプション COMMON_NAME が正しく指定されていない場合にこのエラーが発生します。また、その他の Oracle プリコンパイラでは、プリコンパイラがコード・セクションの生成ができないときにこのエラーが発生します。

処置：Pro*FORTRAN で、COMMON_NAME を使用して複数のソース・モジュールをプリコンパイルしている場合は、各モジュールに異なる共通名を指定しているかどうかを確認してください。その他の Oracle プリコンパイラでこのエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL-02116 FATAL ERROR: 再入可能なコード・ジェネレータが無効なコンテキストを与えました。

原因: 通常、これはメモリー関係の内部エラーです。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02117 無効な SQL カーソルの使用:すでにオープンしているカーソルをオープンしようとしてしました。

原因: MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} で、すでにオープンされているカーソルをオープンしようとしてしました。オープンしているカーソルを再オープンできるのは、MODE=ORACLE のときのみです。

処置: MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} の場合は、カーソルをオープンする前に、カーソルがすでにオープンされていないかどうかを確認してください。オープンされているカーソルを再オープンする場合は、MODE=ORACLE を指定してください。

SQL-02118 WHERE CURRENT OF 操作の列が無効です。

原因: UPDATE 文または DELETE 文の CURRENT OF 句を使用して、存在していない行を参照しようとしてしました。このエラーは、FETCH が実行されなかった場合、あるいは FETCH が「no data found」（データが見つかりません）というエラーを返したのに対しプログラムがそのエラーをトラップできなかった場合に発生します。

処置: 最後のカーソル操作が正しく完了したかどうか、カーソルのカレント行が有効かどうかを確認してください。カーソル操作の結果は、WHENEVER 文で暗黙的に確認するか、または SQLCA の SQLCODE で明示的に確認できます。

SQL-02119 HSTDEF 引数が無効です。

原因: 最初の引数が使用されたときに、SQLRCN コールの 2 番目の引数として NULL 以外のポインタが HSTDEF に対して指定されました。SQLRCN の最初または 2 番目の引数のいずれかが NULL である必要があります。

処置: SQLRCN に対する最初または 2 番目の引数のいずれかに NULL ポインタを渡してください。

SQL-02120 SQLRCN の第 1 引数および第 2 引数が両方とも NULL です。

原因: SQLRCN の最初の引数と 2 番目の引数が両方とも NULL でした。OCI LDA（最初の引数）の形式で、または HSTDEF ポインタ自体（2 番目の引数）として、HSTDEF を SQLRCN に渡す必要があります。

処置: OCI LDA または HSTDEF のいずれかを渡してください。ただし、両方は渡さないでください。

SQL-02121 ホスト名が無効です。

原因: SQLFCN コールに渡されたホスト名は、SQLRCN への以前のコールで使用されませんでした。

処置: 対応する SQLRCN コールで使用された同じ識別子を使用してください。

SQL-02122 データベースへ接続での OPEN または PREPARE が無効です。

原因：別のデータベース接続のために現在オープンしているカーソルを使用して、OPEN 文または PREPARE 文を実行しようとしてしました。このカーソルは、この接続では使用できません。

処置：現在接続しているデータベースでできるようにカーソルをクローズするか、現在の接続に使用可能な他のカーソルに対して実行してください。

SQL-02123 EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で参照されているコンテキストが見つかりません。

原因：EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で指定されたコンテキスト名が、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文で保存されていませんでした。

処置：後で検索できるように、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文を使用して、すべてのコンテキストを保存してください。

SQL-02124 EXEC TOOLS 文から NULL 値が戻されました。

原因：EXEC TOOLS から、インジケータ変数が指定されていないホスト変数に対して NULL 値が戻されました。このエラーが戻されるのは、MODE=ANSI の場合のみです。MODE=ORACLE のときには、ホスト変数の値が不足していても、エラーは生成されません。

処置：NULL を戻す可能性のあるホスト変数とインジケータ変数を関連付けてください。

SQL-02125 接続エラーでメッセージを取り出せません。

原因：接続できませんでした（デフォルト・ホストにも）。その結果、SQLLIB は、発生した Oracle エラーのメッセージ・テキストを読み取れませんでした。ただし、SQLLIB は、メッセージを調べるために使用できる Oracle エラー番号を返します。

処置：このマニュアルで該当するメッセージを調べて、その原因および処置を参照してください。

SQL-02126 配列要素の数は 0 以上でなければなりません。

原因：プリコンパイラによって SQLDA（動的 SQL 方法 4 で使用する SQL 記述子領域）の N 変数または F 変数の配列変数に負数が検出されました。DESCRIBE 文を実行する前に、N に記述配列の次元を設定してください。DESCRIBE 文の実行後、F 変数に格納されている、DESCRIBE された変数の実際の数に N を再設定してください。

処置：N または F 変数が負以外の値に設定されているかどうかを確認してください。

SQL-02127 プリコンパイラと SQLLIB のバージョンが一致しません。

原因：プログラムが、旧バージョンの SQLLIB にリンクされ、Oracle プリコンパイラのこのリリースとの互換性がありません。

処置：プログラムを SQLLIB の新しいバージョンに再リンクしてください。

SQL-02128 セッションがまだ存在します。ログオフしません。

原因: XA が依然としてセッションをそのホストと対応付けているため、SQLLIB からホストが削除（ログオフ）されませんでした。

処置: SQLXDH をコールしてホストを削除する前に、XA によってそのホストのすべてのセッションを削除するか、または「doit_anyway」フラグを設定してください。

SQL-02129 取出されたバイト数が奇数です。

原因: プログラムが、無効な列値をマルチバイト NLS ホスト変数に FETCH しようとしてしました。具体的には、有効な 2 バイト・データがその列に含まれていませんでした。

処置: 列が 2 バイトのデータのみを含むようにしてください。これを確認するには、SQL*Plus または Server Manager を使用してください。

SQL-02130 EXEC TOOLS インタフェースが使用できません。

原因: EXEC TOOLS インタフェースをサポートしていないバージョンの Oracle のツール製品にリンクしようとしてしました。

処置: Oracle のツール製品をアップグレードするか、または EXEC IAF インタフェースを使用してください。

SQL-02131 ランタイム・コンテキストは使用中です。

原因: アプリケーションがすでに使用中のランタイム・コンテキストを使用して、SQL 文を実行しようとしてしました。

処置: 同一のランタイム・コンテキストで 1 つのスレッドが完了するまで待ってから別の SQL 文を実行するようにするか、または各スレッドごとに別々のランタイム・コンテキストを割り当てて使用するよう、アプリケーションを修正してください。

SQL-02132 実行時コンテキスト sdfla asdjklfajs jfja ajsdf を割り当てできません。

原因: 実行時コンテキストを割り当てようとしてしましたが、できませんでした。

処置: 通常、このエラーは、プロセス・メモリーのサイズが小さいときに発生します。より多くのメモリーを割り当て、アプリケーションを再実行してください。

SQL-02133 スレッドで使用するプロセスを初期化できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL-02134 ランタイム・コンテキストが無効です。

原因: この文に関連するランタイム・コンテキストが適切に割り当てられていません。

処置: SQL 文を実行する前に、EXEC SQL CONTEXT ALLOCATE 文を実行するようにアプリケーションを修正してください。

SQL-02135 与えられたマスクでは日付書式を初期化できません。

原因: ランタイム・ライブラリは与えられた日付書式マスクで日付書式設定文を発行できませんでした。

処置: 日付書式の妥当性を検査し、必要に応じて修正してください。詳細は、ORA エラー番号で調べてください。

SQL-02136 NCHAR キャラクタ・セット ID が無効です。

原因: NCHAR ホスト変数をバインドまたは定義しようとしたますが、環境変数 NLS_NCHAR が正しく設定されていませんでした。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR を有効な固定幅キャラクタ・セット ID に設定し、アプリケーションを再実行してください。

SQL-02137 RETURNING 句のないマルチスレッド・エージェントがあります。

原因: EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に RETURNING 句が含まれず、エージェントはスレッド・モードで実行しています。

処置: 宣言された SQL_CONTEXT ホスト変数を参照する RETURNING 句を使用した文に修正してください。

SQL-02138 外部プロシージャのコンテキストが存在しません。

原因: EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に渡された外部プロシージャ・コンテキストが有効ではありません。

処置: 次のことを確認してください。

1. CONTEXT パラメータで PL/SQL プロシージャおよびファンクションを作成したか。
2. 外部プロシージャの仮パラメータ・リストに OCIExtProcContext が含まれているか。
3. OCIExtProcContext が EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に正しく渡されたか。

SQL-02139 OCI ハンドルを取得できません。

原因: OCIExtProcGetEnv へのコールに失敗しました。

処置: OCIExtProcContext を確認し、外部プロシージャが CONTEXT パラメータで作成されていることを確認し、このコンテキストが EXEC SQL REGISTER CONNECT 文で正しく参照されていることを確認してください。

SQL-02140 名前のない接続がすでに存在しています。

原因: ランタイム・コンテキストに名前のない接続がすでに存在するときに、外部プロシージャ・コンテキストを登録しようとした。

処置: 外部プロシージャから EXEC SQL CONNECT 文で、接続を設定しないでください。

SQL-02141 コレクション記述子が割当てられていません。

原因：割り当てられていないコレクション記述子を COLLECTION SET 文または COLLECTION GET 文で参照しました。

処置：EXEC SQL ALLOCATE 文でコレクション記述子を割り当ててください（たとえば、EXEC SQL ALLOCATE :coldesc_p; など）。

SQL-02142 コレクションが NULL です。

原因：EXEC SQL COLLECTION 文で参照されるコレクションが NULL です。

処置：EXEC SQL COLLECTION 文を実行する前に、関連付けられたインジケータ変数の状態を確認してください。

SQL-02143 ターゲット・オブジェクトが適切に割当てられていません。

原因：コレクションから、割り当てられていないオブジェクト・ポインタに、要素を取り出そうとしました。

処置：EXEC SQL ALLOCATE 文でオブジェクト・ポインタを割り当ててください。

SQL-02144 ANSI Dynamic の使用方法が無効です。

原因：Dynamic オプションを設定していないときに、ANSI の割当て記述子文、割当て解除記述子文、取得記述子文または設定記述子文が検出されました。

処置：オプション DYNAMIC=ANSI でソースをプリコンパイルしてください。

SQL-02145 Dynamic 記述子が無効です。

原因：割り当てられていない記述子または無効な記述子へアクセスしようとしてしました。

処置：ANSI 記述子用に、記述子名が有効であること、および記述子が割り当てられ、以前に割当て解除されていないことを確認してください。MODE=ANSI で Oracle 記述子（SQLDA）を使用する場合は、DYNAMIC=ORACLE も使用してください。

SQL-02146 既存の記述子を割当てようとしてしました。

原因：以前に割り当てられた記述子を割当てようとしてしました。

処置：一意の記述子名を使用するか、または記述子を再割当てする前に、その記述子の割当てを解除してください。

SQL-02147 ANSI Dynamic のオカレンス値が範囲外です。

原因：ANSI Dynamic GET 文または ANSI Dynamic SET 文の VALUE 句が、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値より大きくなっています。

処置：記述子が割り当てられたとき、VALUE 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

SQL-02148 ANSI Dynamic のカウント値が範囲外です。

原因：ANSI Dynamic GET 文または ANSI Dynamic SET 文のカウントが、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値より大きくなっています。

処置：記述子が割り当てられたとき、COUNT 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

SQL-02149 ANSI Dynamic で項目記述子の領域が不足しています。

原因：記述されている SQL 文に、記述子への割当てより多くの出力項目（または列）が含まれています。

処置：記述子を割り当てるとき、オカレンスの最大値を増やしてください。

SQL-02150 ANSI Dynamic SET 文の長さが 0（ゼロ）です。

原因：ANSI Dynamic 文に、無効な長さ 0（ゼロ）が検出されました。

処置：0 ではない長さを設定してください。

SQL-02151 絶対数値の SET 文項目に対するホスト変数が無効です。

原因：無効な型または長さのホスト変数を使用して、ANSI Dynamic 文で絶対数値項目を取得または設定しました。

処置：ホスト変数が C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S9(9) の BINARY/COMP/DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE であることを確認してください。

SQL-02152 配列の GET/SET 文で使用する数値変数が無効です。

原因：C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S9(9) の BINARY または COMP 以外の型のホスト変数が 1 より大きい配列サイズで使用されました。

処置：配列を示すために、FOR 句で論理積の絶対数値を指定する場合、C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S(9) の BINARY または COMP のみを使用してください。特に、このコンテキストでは DIPLAY SIGN LEADING SEPARATE は使用できません。

SQL-02153 GET/SET 文で使用する文字変数が無効です。

原因：ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）項目名として、CHARACTER、STRING または VARCHAR 以外の型のホスト変数が検出されました。

処置：ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）文字項目のホスト変数型に、LONG または LONG VARCHAR 型を指定しないでください。ホスト変数を CHARACTER、STRING または VARCHAR に再宣言してください。

SQL-02154 ANSI Dynamic にあるホスト変数用のデータ型が無効または未設定です。

原因：以前に設定された有効な型を持たない項目名 DATA の ANSI Dynamic SET 文が検出され、オプション MODE=ANSI が使用されました。

処置：MODE=ANSI で、DATA を設定する前に型を設定する必要があります。正しい項目型の SET 文または出力用に DESCRIBE を発行して、項目型を設定してください。あるいは、バインドまたは定義したホスト変数に対してデフォルトとして型が設定される MODE=ORACLE を使用してください。

SQL-02155 日付時間間隔は Dynamic=ANSI のみで有効です。

原因：TYPE_CODE オプションが ANSI に設定されていないときに、日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスしようとした。

処置：日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスするには、プリコンパイラ・オプション TYPE_CODE=ANSI を使用してください。

SQL-02156 標識の型または戻り値の長さが無効です。

原因：項目インジケータまたは戻り値の長さに関連付けられたホスト変数は、SHORT 型または S9(4)COMP である必要があります。値構文およびスカラーの場合、DIPLAY SIGN LEADING SEPARATE ホスト変数に取得されます。

処置：C の場合、インジケータ、REF インジケータ、戻り値の長さおよび REF 戻り値の長さのホスト変数には、符号付き SHORT を使用してください。COBOL の場合は、S9(4) COMP を使用してください。配列以外の場合、GET には DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE ホスト変数を使用できます。

SQL-02157 ソースまたは宛先 LOB が無効です。

原因：LOB の追加コールに使用されている LOB の 1 つが無効であるか、または NULL である可能性があります。

処置：追加コールに使用されている LOB が NULL ではないことを確認してください。

第 VI 部

オプション・メッセージ

第 VI 部には、次の章があります。

- [第 42 章「interMedia Audio メッセージ \(AUD\)」](#)
- [第 43 章「interMedia Image メッセージ \(IMG\)」](#)
- [第 44 章「interMedia Video メッセージ \(VID\)」](#)
- [第 45 章「Oracle Text メッセージ \(DRG\)」](#)
- [第 46 章「Time Series メッセージ \(TS\)」](#)
- [第 47 章「Spatial Data Option メッセージ \(SDO\)」](#)
- [第 48 章「Visual Information Retrieval メッセージ \(VIR\)」](#)

interMedia Audio メッセージ (AUD)

interMedia Audio オプションの詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

AUD-00702 オーディオ処理環境の初期化できません。

原因：オーディオ処理プロシージャの初期化に失敗しました。

処置：データベース管理者に連絡して、JVM に十分なメモリが割り当てられているかを確認してください。JVM に十分なメモリが割り当てられている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00703 オーディオ・データの読み込みできません。

原因：オーディオ・ソースにアクセス中にエラーが発生しました。

処置：オーディオ・ソースが有効かを確認してください。外部のソースに対しては、すべてのアクセス権限が付与されているかを確認してください。

AUD-00704 入力形式が無効です。

原因：ソースのオーディオ・データが、オーディオ・オブジェクトの形式フィールドで指定した形式ではありません。オーディオ・データが破損しているかもしれません。

処置：形式フィールドに適切な値を指定してください。適切な値が不明な場合は、形式フィールドに NULL を指定して、デフォルトの形式プラグインをコールしてください。

AUD-00705 入力形式がサポートされていません。

原因：オーディオ・データのファイル形式がサポートされていません。このエラーは、デフォルト形式プラグイン・パッケージのみで発生します。

処置：サポートされる形式については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

AUD-00706 入力形式がサポートされていないか、または破損しています。

原因：ファイル形式がサポートされていないか、オーディオ・データが破損しています。

処置：サポートされる形式については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。ファイル形式がサポートされ、オーディオ・データが破損していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00713 オーディオ・データの解析中に内部エラーが発生しました。

原因：解析中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00714 内部エラーが発生しました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

interMedia Image メッセージ (IMG)

interMedia Image オプションの詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00001 Oracle *interMedia* 環境を初期化できません

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00002 リカバリ不能なエラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00502 位取りの値が無効です。

原因: イメージ処理関数のパラメータ解析中に無効な位取りの値が検出されました。

処置: 有効な位取りの値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列の詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00505 CUT 四角形を指定する値の数が足りません

原因: 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

処置: 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

IMG-00506 CUT 四角形を指定する値の数が余分にあります

原因: 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

処置: 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

IMG-00510 *string*

原因: イメージ処理関数のパラメータ解析中に構文エラーが検出されました。

処置: 正しい有効なパラメータ値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列の詳細は、『Oracle interMedia ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00511 *string*

原因: イメージ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00512 適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。

原因: イメージ処理コマンド文字列に、適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。処理コマンド文字列で一緒に使用できる XSCALE および YSCALE を除き、スケール関数は相互に排他的であり、結合できません。

処置: スケール関数を削除して 1 つのみにしてください (XSCALE および YSCALE の場合は 2 つ)。

IMG-00513 スケール変更操作で値が欠落しています。

原因: イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに 2 つの整数値が必要です。

処置: FixedScale および MaxScale に 2 つの値を使用してください。

IMG-00514 スケール変更操作で余分な値があります。

原因: イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに 2 つの整数値が必要です。

処置: FixedScale および MaxScale に 2 つの値を使用してください。

IMG-00515 入力チャネル数が正しくありません。

原因: 入力チャネルの指定に、不正な値を使用しています。入力チャネルには、灰色または赤、緑および青のチャネル割当てに対して、1 つまたは 3 つのチャネル番号が必要です。

処置: 1 つまたは 3 つの値を使用して、入力チャネルを指定してください。

IMG-00516 デフォルトのチャネルが範囲外です。

原因: デフォルトのチャネル選択の指定に、不正な値を使用しています。

処置: バンド数以下で 0 を超えるチャネル数を使用してください。

IMG-00517 パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。

原因: `setProperty` パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。

処置: 高さおよび幅を指定してください。

IMG-00518 高さまたは幅の値が無効です。

原因: 高さおよび幅は正の整数である必要があります。

処置: 高さおよび幅を正の整数で指定してください。

IMG-00519 パラメータの組合せが無効です。

原因: `CCITTG3` または `CCITTG4` が `compressionFormat` として使用されている場合、`setProperty` パラメータ文字列に、高さ、幅、`dataOffset` および `userString` 以外のパラメータを指定できません。

処置: `compressionFormat` が `CCITTG3` または `CCITTG4` のいずれかである場合、高さおよび幅のみを指定してください。`dataOffset` および `userString` もオプションで指定できます。

IMG-00520 `numberOfBands` の値が無効です。

原因: `NumberOfBands` は正の整数である必要があります。

処置: `numberOfBands` を正の整数で指定してください。

IMG-00521 `dataOffset` の値が無効です。

原因: `dataOffset` は正の整数である必要があります。

処置: `dataOffset` を正の整数で指定してください。

IMG-00522 パラメータ値のフォーマットが無効です

原因: パラメータ値に整数ではなく、浮動小数点値が指定されています。または、数値ではなく、文字が指定されています。

処置: パラメータに適切なタイプの値を指定してください。

IMG-00523 処理動詞が無効です

原因: `interMedia` が認識しない処理動詞が指定されました。

処置: 有効な処理動詞については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00524 引用符が一致しません

原因: 処理コマンド文字列で使用された引用符が一致しません。

処置: 引用符が対になっているかを確認してください。

IMG-00525 ローカル・エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00526 外部イメージの説明を解析中にエラーが発生しました

原因: 外部イメージの処理中に内部エラーが発生しました。

処置: SetPropertyies を使用して、外部イメージの記述を修正してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00530 コマンドの解析中にエラーが発生しました。

原因: イメージ処理関数または外部イメージ setproperties 関数に渡されたコマンドの解析中に、内部エラーが発生しました。

処置: 関数に渡されたコマンドを確認してください。正しい使用方法、イメージ処理コマンド文字列および外部イメージ setproperties 関数の構文の詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。使用しているコマンドが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00531 イメージ処理コマンドが空または NULL です。

原因: 空または NULL のイメージ処理コマンドが、イメージ処理関数に渡されました。

処置: 正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列の詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00540 contentFormat とインタリーブが矛盾します

原因: contentFormat およびインタリーブ動詞の両方を使用して、インタリーブ値が指定されました。

処置: contentFormat またはインタリーブ動詞のいずれか一方を使用して、インタリーブ値を指定してください。

IMG-00541 無効な contentFormat が指定されました

原因: 指定された contentFormat は無効です。

処置: 有効な contentFormat の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00542 contentFormat に無効な余分の情報が含まれています

原因: 指定された contentFormat のパラメータ文字列の終わりに、無効な文字が含まれています。

処置: 有効な contentFormat の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00543 無効な compressionFormat が指定されました

原因: 指定された compressionFormat は無効です。

処置: 有効な compressionFormat の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00544 無効な compressionQuality が指定されました

原因: 指定された compressionQuality は無効です。

処置: 有効な compressionQuality の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00545 無効な cut 値が指定されました

原因: cut 処理のパラメータ解析中に無効な値が検出されました。

処置: cut の有効な値を使用して、文を修正してください。cut には、負でない値を指定してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列の詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00546 無効なページ番号が指定されました

原因: 無効なページ番号が指定されました。

処置: 負でないページ番号を指定してください。

IMG-00547 無効な channelOrder が指定されました

原因: 指定された channelOrder は無効です。

処置: 有効な channelOrder の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00548 無効なインターリーブが指定されました

原因: 指定されたインターリーブは無効です。

処置: 有効なインターリーブの指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00549 無効な pixelOrder が指定されました

原因: 指定された pixelOrder は無効です。

処置: 有効な pixelOrder の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00550 無効な scanlineOrder が指定されました

原因: 指定された scanlineOrder は無効です。

処置: 有効な scanlineOrder の指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00551 無効なディザー・タイプが指定されました

原因: 指定されたディザー・タイプは無効です。

処置: 有効なディザー・タイプの指定については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00552 無効な inputChannel が指定されました

原因: inputChannels 動詞に無効な値が指定されました。

処置: inputChannels には、負でない値を指定してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列の詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00560 入力フォーマットではページ選択をサポートしません

原因: ページ選択をサポートしない入力フォーマットにページ動詞が指定されました。

処置: ページ選択動詞を削除してください。ページ選択をサポートするイメージ・フォーマットについては、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00561 入力フォーマットではチャンネル選択をサポートしません

原因: チャンネル選択をサポートしない入力フォーマットに inputChannels 動詞が指定されました。

処置: inputChannels 動詞を削除してください。入力チャンネル選択をサポートするイメージ・フォーマットについては、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00580 指定したフォーマットでは出力をサポートしません

原因: fileFormat によって指定された出力フォーマットでは、出力をサポートしません。

処置: 指定された fileFormat を、出力をサポートするフォーマットに変更してください。出力をサポートするフォーマットについては、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00581 出力フォーマットでは指定した contentFormat をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した contentFormat をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる contentFormat 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00582 出力フォーマットでは指定したインタリーブをサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定したインタリーブをサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされるインタリーブ値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00583 出力フォーマットでは指定した `compressionFormat` をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した `compressionFormat` をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる `compressionFormat` 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00584 出力フォーマットでは指定した `compressionQuality` をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した `compressionQuality` をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる `compressionQuality` 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00585 出力フォーマットでは指定した `channelOrder` をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した `channelOrder` をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる `channelOrder` 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00586 出力フォーマットでは指定した `pixelOrder` をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した `pixelOrder` をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる `pixelOrder` 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00587 出力フォーマットでは指定した `scanlineOrder` をサポートしません

原因: 明示的または暗黙的に指定された出力フォーマットでは、指定した `scanlineOrder` をサポートしません。

処置: 各出力フォーマットでサポートされる `scanlineOrder` 値については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00599 内部エラー

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00601 イメージのコピー中にメモリー不足になりました。

原因: イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00602 イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・データの読取りまたは書込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

IMG-00603 ソースのイメージ・データにアクセスできません。

原因: ソース・イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: ソース・イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00604 宛先のイメージ・データにアクセスできません。

原因: 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00606 イメージ・データにアクセスできません。

原因: 無効なイメージにアクセスしようとしてしました。

処置: イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00607 宛先イメージへの書込みができません。

原因: 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

IMG-00609 BFILE に格納されているイメージの読込みができません。

原因: BFILE に格納されているイメージをオープンして読み取ることができません。

処置: イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルがあるディレクトリに読取り権限があるかどうかを確認してください。

IMG-00701 空のイメージのプロパティは設定できません

原因: イメージ・オブジェクトにデータがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよび**リファレンス』を参照してください。**

IMG-00702 イメージ処理環境を初期化できません

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00703 イメージ・データの読み込みができません。

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00704 イメージ・データの読み込みができません。

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00705 入力形式がサポートされていないか、または破損しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00706 出力形式がサポートされていないか、または破損しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00707 イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・データの読取りまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

IMG-00710 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

IMG-00711 宛先イメージのプロパティを設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00712 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。宛先イメージを含む行がロックされていることを確認してください (テンポラリ BLOB には適用されません)。

IMG-00713 ビデオ・データの解析中に内部エラーが発生しました。

原因: サポートされていない形式にイメージを変換しようとしています。

処置: サポートされる形式については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00714 内部エラー

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00715 BFILE に格納されているイメージをオープンできません。

原因: BFILE に格納されているイメージをオープンして読み取ることができません。

処置: イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルがあるディレクトリに読取り権限があるかどうかを確認してください。

IMG-00716 ソースのイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。

原因: ソースのイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

処置: サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00717 宛先のイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。

原因: 宛先のイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

処置: サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00718 同じテンポラリー LOB をソースと宛先両方に使用することはできません。

原因: ソースおよび宛先の両方に指定されている同じテンポラリー LOB で、processCopy がコールされました。

処置: パラメータ dest に異なる LOB を指定してください。

IMG-00719 イメージ処理の内部エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00720 イメージ処理の内部エラーが発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00730 空のイメージを処理できません

原因: 入力したイメージ・オブジェクトにデータがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00731 指定したページが入力イメージにありません

原因: 指定したページが入力イメージにありません。

処置: 入力イメージ・オブジェクトに存在するページをページ・パラメータに指定してください。

IMG-00732 指定した inputChannel が入力イメージにありません

原因: 指定した入力チャンネルが入力イメージにありません。

処置: 入力イメージ・オブジェクトに存在するチャンネルを inputChannels パラメータに指定してください。

IMG-00800 属性文字列の解析中に内部エラーが発生しました

原因: 属性の重み付けを含む属性文字列の解析中に内部エラーが発生しました。

処置: 関数に渡されたコマンドを確認してください。正しい使用方法およびイメージの一致に必要な属性文字列の構文は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。使用しているコマンドが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00801 高さおよび幅を抽出できません

原因: イメージ・オブジェクトの高さおよび幅が設定されていません。

処置: setProperties をコールして、イメージ・オブジェクトのプロパティを設定した後、署名を生成してください。

IMG-00802 属性文字列が空または NULL です

原因: 空または NULL の属性文字列がイメージ一致演算子に渡されました。

処置: 正しい使用方法および属性文字列の構文は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00803 無効な属性値

原因: イメージ一致演算子の属性文字列の解析中に無効な値が検出されました。

処置: 正しい使用方法および属性文字列の構文は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。重みは 0.0 ～ 1.0 の間で指定してください。

IMG-00804 属性文字列の構文エラー

原因: イメージ一致演算子の属性文字列の解析中に構文エラーが検出されました。

処置: 正しい使用方法および属性文字列の構文は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00805 SIGNATURE データが破損しているかまたは無効です

原因: 署名のデータが有効な署名ではありません。

処置: generateSignature メソッドを使用して署名を再作成してください。

IMG-00806 無効な入力イメージ

原因: イメージ・データが破損しているか、サポートされていないフォーマットです。

処置: イメージ・オブジェクトを再移入し、イメージのプロパティを設定した後、署名を生成してください。

IMG-00807 weight 文字列に重みが指定されていません

原因: 渡されたすべての重みが 0 です。1 つ以上の属性に重みを指定する必要があります。

処置: 1 つ以上の属性に 0 以外の重みを指定してください。

IMG-00808 空のイメージは読み込むことができません

原因: イメージ・オブジェクトにデータがありません。

処置: イメージ・オブジェクトをイメージ・データとともに移入する方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00809 IMGSimilar の使用方法が不適切です

原因: IMGSimilar の使用中に構文エラーが発生しました。

処置: IMGSimilar 演算子の使用方法については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。IMGSimilar によって返された値が 1 の値と比較されているかを確認してください。

IMG-00810 境界キューの初期化に失敗しました

原因: 境界キューの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00811 障害キューの初期化に失敗しました

原因: 障害キューの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00812 マージ領域キューの初期化に失敗しました

原因：マージ領域キューの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置：データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00813 境界キューの解放に失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00814 障害キューの解放に失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00815 マージ領域キューの解放に失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00820 領域 0 キューの消去に失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00821 領域 N キューの消去に失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00822 領域キューのリセットに失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00823 境界キューのポップに失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00824 障害キューのポップに失敗しました

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00825 マージ領域キューのポップに失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00830 境界キューが NULL です

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00831 境界キューのサイズが予想したサイズを超えています

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00832 障害キューが NULL です

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00833 境界キューのサイズが予想したサイズを超えています

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00834 マージ領域キューが NULL です

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00835 マージ領域キューのサイズが予想したサイズを超えています

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00836 領域キューのマージに失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00840 イメージ構造の割当てに失敗しました

原因: イメージ構造の初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00841 イメージ・データの割当てに失敗しました

原因: イメージ・データの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00842 イメージ索引の割当てに失敗しました

原因: イメージ索引の初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00843 内部イメージ構造の割当てに失敗しました

原因: 内部イメージ構造の初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00844 内部イメージ・データの割当てに失敗しました

原因: 内部イメージ・データの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00845 内部イメージ索引の割当てに失敗しました

原因: 内部イメージ索引の初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00846 隣接マトリクスの割当てに失敗しました

原因: 隣接マトリクスの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00847 領域リストの割当てに失敗しました

原因: 領域リストの初期化中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00850 イメージ構造の解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00851 イメージ・データの解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00852 イメージ索引の解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00853 内部イメージ構造の解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00854 内部イメージ・データの解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00855 内部イメージ索引の解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00856 隣接マトリクスの解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00857 領域リストの解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号を、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00860 アサートに失敗しました。リージョンの数が割当てを超えています

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00861 アサートに失敗しました。領域マージ処理に矛盾があります

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00862 アサートに失敗しました。マージ領域ラベルに矛盾があります

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00870 サポートされないアスペクト比率またはイメージ・サイズ

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00871 予期しないシード数

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00872 サポートされないイメージ・モデル

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: エラー番号およびこの問題の原因となったイメージを、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00899 署名が生成できません

原因: generateSignature メソッドは署名を生成できませんでした。

処置: 入力イメージのフォーマットが *interMedia* にサポートされているかを確認してください。

IMG-00901 VIR 署名バージョンが一致しません

原因: 比較する 2 つの署名のバージョンが異なります。

処置: 同じプラットフォームの署名を再計算し、署名の比較を再試行してください。

IMG-00902 VIR 署名の解放に失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00910 基本データ構造の割当てに失敗しました

原因: イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00911 基本データ構造の解放に失敗しました

原因: イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い果たしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00921 しきい値が範囲外です

原因: しきい値は、0 ～ 100 の間である必要があります。

処置: 0 ～ 100 の間のしきい値を使用し、問合せを再試行してください。

IMG-00922 場所は機能なしで指定されました

原因: 場所のみの指定は無効です。

処置: 1 つ以上の別のパラメータ（色、テキストまたは形）を場所とともに指定してください。詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00923 署名が空です

原因: 署名が生成されていません。

処置: generateSignature メソッドをコールして、イメージの署名を生成してください。

interMedia Video メッセージ (VID)

interMedia Video オプションの詳細は、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

VID-00702 ビデオ処理環境の初期化に失敗しました。

原因: ビデオ処理プロシージャの初期化に失敗しました。

処置: データベース管理者に連絡して、JVM に十分なメモリーが割り当てられているかを確認してください。JVM に十分なメモリーが割り当てられている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00703 ビデオ・データの読み込みができません。

原因: ビデオ・ソースにアクセス中にエラーが発生しました。

処置: ビデオ・ソースが有効かを確認してください。外部のソースに対しては、すべてのアクセス権限が付与されているかを確認してください。

VID-00704 入力形式が無効です。

原因: ソースのビデオ・データが、ビデオ・オブジェクトの形式フィールドで指定した形式ではありません。この場合、ビデオ・データは破損しています。

処置: 形式フィールドに適切な値を指定してください。適切な値が不明な場合は、デフォルト形式プラグインを起動するために、形式フィールドに NULL を指定してください。

VID-00705 入力形式がサポートされていません。

原因: ビデオ・データのファイル形式はサポートされていません。このエラーは、デフォルト形式プラグイン・パッケージのみで発生します。

処置: サポートされる形式については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

VID-00706 入力形式がサポートされていないか、または破損しています。

原因：ファイル形式がサポートされていないか、ビデオ・データが破損してます。

処置：サポートされる形式については、『Oracle *interMedia* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。ファイル形式がサポートされ、ビデオ・データが破損していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00713 ビデオ・データの解析で内部エラーが発生しました。

原因：解析中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00714 内部エラーが発生しました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Oracle Text メッセージ (DRG)

Oracle Text の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Text リファレンス』
- 『Oracle Text アプリケーション開発者ガイド』

DRG-10000 列 *string.string* の読み込みに失敗しました。

原因: 指定されたテキスト列の読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 列の存在と権限を確認してください。

DRG-10001 結果表 *string* にアクセスできません。

原因: 指定された表が存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

処置: 指定された結果表を確認してください。

DRG-10002 結果表に挿入できません。

原因: テキスト・サーバーに挿入権限がないか、表領域に空き領域がなくなりました。

処置: 権限および表領域を確認してください。

DRG-10011 オブジェクト名 *string* が無効です。

原因: 指定された表、列またはプロシージャ名の形式が無効です。名前が長すぎるか、無効な文字が含まれています。無効なパラメータを渡した可能性があります。

処置: パラメータ値を確認してください。

DRG-10015 ID が数値の制限 (2147483642) を超えています。

原因: ID の制限は 2147483642 です。

処置: ID には、2147483642 以下の値を使用してください。

DRG-10016 このオブジェクトを変更するには所有者である必要があります。

原因: 所有していないオブジェクトを修正しようとしてしました。

処置: 所有者にオブジェクトを修正してもらってください。

DRG-10017 これを実行するには *string* である必要があります: *string*

原因: 権限のないオブジェクトを修正しようとしてしました。

処置: 所有者にオブジェクトを修正してもらってください。

DRG-10100 無効な引数: *string* が見つかりました。

原因: 無効なコマンド引数が指定されました。

処置: ドキュメントで正しい引数を調べて、コマンドを再実行してください。

DRG-10101 引数: *string* の値がありません。

原因: この引数には値が必要です。

処置: 正しい引数値を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10102 必須の引数: *string* が足りません。

原因: この引数は必須です。

処置: 引数を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10103 引数の値が無効です: *string*

原因: この引数に無効な値が渡されました。

処置: ドキュメントでこの引数に有効な値を確認してください。

DRG-10200 サーバー・パーソナリティ・マスク: *string* は無効です。

原因: サーバー・パーソナリティ・マスクの指定が無効です。

処置: ドキュメントを参照して、正しいマスクを指定してください。

DRG-10202 サーバーは登録に失敗しました。

原因: データ・ディクショナリへのサーバーの登録に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを確認してください。

DRG-10203 サーバー名 *string* のサーバーは存在しません。

原因: 存在しないサーバー名で更新が行われました。

処置: サーバー名を修正してください。

DRG-10204 サーバーの更新に失敗しました。

原因: サーバーの更新に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを確認してください。

DRG-10205 サーバーの登録解除に失敗しました。

原因: データ・ディクショナリからのサーバーの登録解除に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを確認してください。

DRG-10206 サーバーまたはクライアントのリカバリに失敗しました。

原因: サーバーまたはクライアントのリカバリに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10301 サーバーからの応答待機中にタイム・アウトしました。

原因: 現在のシステム・ロードを処理するには実行しているサーバー数が十分でなく、コマンドの未処理分が大きくなりました。実行中のサーバーがない可能性があります。このメッセージは、要求を処理しようとしてサーバーの1つがクラッシュした場合にも、内部エラーとして表示されます。

処置: 実行しているサーバー数が十分かどうか、正しい型のコマンドを処理しているかどうかを確認してください。たとえば、すべてのサーバーが問合せコマンドを排他的に処理するように設定されていると、DDL コマンドはタイム・アウトになります。サーバーのログ・ファイルも確認してください。

DRG-10302 サーバーからの応答待機中に中断されました。

原因: 要求が完了する前に、ユーザーが割り込みました。

処置: 要求を再起動してください。

DRG-10303 処理すべきコマンドをキューに入れられませんでした。

原因: 指定されたコマンド（複数の場合もある）が、キューに入りませんでした。これは、システムの負荷が非常に高くなっていることを表しますが、内部エラーが発生している可能性もあります。

処置: コマンドを処理するサーバーが実行されているかどうかを確認してください。

DRG-10304 Oracle Text サーバーへコマンドの送信中に予期しないエラーが発生しました

原因: Oracle Text サーバーへのコマンドの送信中に、予期しないエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10305 パイプ *string* が満杯です。

原因: パイプが満杯のため、パイプ・コマンドを送信できません。

処置: パイプ・コマンドを処理する Oracle Text サーバーが実行されているかどうかを確認してください。

DRG-10306 サーバーはコマンド処理中に予期せず終了しました。

原因: コマンドの実行中にサーバーが停止しました。これは、SHUTDOWN ABORT の実行、またはサーバーの内部エラーが原因です。

処置: 終了したサーバーで内部エラーが発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10307 サーバーが稼働していません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている Oracle Text サーバーがないため、コマンドを処理できません。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで Oracle Text サーバーを起動してください。

DRG-10308 要求された *string* パーソナリティ・マスクで稼働しているサーバーはありません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている Oracle Text サーバーがないため、コマンドを処理できません。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで Oracle Text サーバーを起動してください。

DRG-10309 ジョブ・キュー・プロセスが不十分です。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている Oracle Text サーバーがないため、コマンドを処理できません。

処置: JOB_QUEUE_PROCESSES 初期化パラメータを増やすか、この文の平行度を減らしてください。

DRG-10310 要求を処理する前にサーバーが停止されました。

原因: 要求を処理する前に、Oracle Text サーバーが停止または終了したため、コマンドを完了できませんでした。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで別の Oracle Text サーバーを起動してください。

DRG-10311 リモート送信はサポートされていません。

原因: 索引指定でデータベース・リンクを指定しようとしました。

処置: ローカルな索引名のみを指定してください。

DRG-10312 ログ・ファイル名を指定する必要があります。

原因: ログ・ファイル名なしでロギングを開始しようとしました。

処置: ログ・ファイル名を指定してください。

DRG-10313 ロギングはすでに開始されています。

原因: ロギングがすでに開始されているのに、ロギングを開始しようとしました。

処置: ロギングを停止するか、このメッセージを無視してください。

DRG-10314 ロギングは開始されていません。

原因: ロギングが開始されていないにもかかわらず、ロギングを停止しようとした。

処置: ロギングを開始するか、このメッセージを無視してください。

DRG-10315 ロギングは MTS でサポートされません。

原因: MTS にてロギングしようとした。

処置:

DRG-10500 CREATE_INDEX に失敗しました: 列指定: *string*

原因: 指定された列にテキスト索引を作成できませんでした。

処置: スタック上の次のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10501 ストップ・ワード: *string* は無効です。

原因: 指定されたストップ・ワードは、カレントのレクサー・プリファレンスで複数のトークンへ字句展開されました。

処置: レクサー・プリファレンスを確認し、ストップ・ワードを再指定してください。

DRG-10502 索引 *string* は存在しません。

原因: 指定された索引が存在しないか、アクセス権がありません。

処置: 索引の名前と索引へのアクセス権を調べてください。

DRG-10503 主キーがないため、表 *string* の索引を作成できません。

原因: テキスト・キーには、1 列の一意キーが必要です。このキーの長さは、64 バイト以下である必要がありますが、このようなキーが一意索引として定義されていないか、主キーまたは一意キー制約として宣言されていません。

処置: 表に適切なテキスト・キーを作成するか、このプロシージャ・コールにテキスト・キーを明示的に指定してください。

DRG-10504 DETAIL_DATASTORE の使用時には主キーが必要です。

原因: 主キー制約のない表の索引付けに、DETAIL_DATASTORE を使用しようとした。

処置: その表に主キー制約を追加してください。

DRG-10506 表: *string* が存在しません。

原因: 指定した表、ビュー、シノニムがありません。表の読取り中に、権限に関する問題が発生した可能性もあります。

処置: 正しい表名を指定して再実行してください。

DRG-10507 索引名: *string* は重複しています。

原因: 指定された索引は、すでにディクショナリ内に存在します。

処置: この索引は、更新または削除できますが、これは、テキスト列に使用可能なテキスト索引がない場合のみ実行できます。

DRG-10509 *string* は無効なテキスト列です。

原因: 指定された列が無効です。

処置: 次の値が有効かどうかを確認してください。

- Oracle Text でサポートされているデータ型のテキスト列
- 仕様部内の有効な表名、列名

DRG-10510 ストップ・ワードが欠落しています。

原因: 追加するストップ・ワードが指定されていません。

処置: ストップ・ワードを指定してください。

DRG-10511 索引 *string* は存在しないか、または不完全です。

原因: 索引の作成が不完全です。

処置: 索引を作成してから、この操作を行ってください。

DRG-10513 索引 *string* メタデータが壊れています。

原因: ディクショナリ内に、この索引に対して無効なプリファレンスがあります。

処置: データベース管理者に連絡してください。

DRG-10516 Oracle エラーが発生したため、DDL 操作の実行に失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、要求された DDL 操作に失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10517 索引 *string* はすでに有効です。

原因: 索引は有効な状態で、要求した操作を必要としていません。

処置: 要求した操作を確認してください。

DRG-10518 *string* 要求と矛盾する操作が進行中です。

原因: 別のセッションでこの索引が使用されています。次のような原因が考えられます。

- DML が要求され、DDL が処理中である。
- DDL が要求され、その索引で DML が処理中である。

処置: 後で再実行してください。

DRG-10520 索引: *string* の削除に失敗しました。

原因: 指定された索引を削除できませんでした。

処置: スタック上の Oracle エラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10525 REBUILD キーワードがありません。

原因: Oracle Text のすべての変更オプションには、REBUILD キーワードが必要です。

処置: 索引変更を REBUILD キーワードとともに指定してください。

DRG-10528 主キーに *string* 型は使用できません。

原因: 無効な主キーのデータ型で表に索引を作成しようとしてしました。

処置: テキスト・キーを VARCHAR2、NUMBER、VARCHAR、DATE、CHAR または MLSLABEL のいずれかに変更してください。

DRG-10531 パラレル・パラメータは 1 以上でなければなりません。

原因: パラレルが 0 で索引の作成がコールされました。

処置: 1 以上の値を指定してください。

DRG-10532 表がパーティション化されていません。

原因: パーティション化されていない表で、パラレル作成索引をコールしました。

処置: 表をパーティション化して再作成するか、PARALLEL 句を削除してください。

DRG-10533 ユーザー名: *string* は無効です。

原因: 無効なユーザー名が指定されました。

処置: 正しいユーザー名を指定してください。

DRG-10535 テキスト索引 *string* の最適化に失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、要求された最適化操作に失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10549 オブジェクト名 *string* の長さが制限を超えています。

原因: オブジェクト名が 30 バイトの最大長を超えています。

処置: オブジェクト名を再作成する場合は、オブジェクト名を短くしてください。

DRG-10550 索引、プリファレンス、ソースまたはセクション名の構文に誤りがあります。

原因: 名前に不要なピリオド (.) が含まれています。

処置: 名前の構文を確認してください。

DRG-10553 列指定 *string* の構文に誤りがあります。

原因: 列指定に不要なピリオド (.) が含まれています。

処置: 再作成する場合は、列指定の構文を確認してください。

DRG-10561 索引 *string* は要求した操作を実行できる状態ではありません。

原因: 以前のエラーによって、索引は有効な状態ではありません。

処置: 索引を削除して、再作成してください。

DRG-10562 索引変更パラメータが足りません。

原因: パラメータ文字列が不足しています。

処置: 要求した索引の変更操作に関して、正しいパラメータ文字列を入力してください。

DRG-10569 表または列: *string* が存在しません。

原因: 指定された表、ビュー、シノニムまたは列が存在しません。表の読取り中に、権限に関する問題が発生した可能性もあります。

処置: 正しい表名または列名を指定して再実行してください。

DRG-10573 索引 *string* は旧式です。

原因: 旧式の索引が指定されています。

処置: 索引に対して UPGRADE_INDEX を実行してください。

DRG-10574 テキスト索引 *string* のアップグレードに失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、アップグレード操作に失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10579 テキスト問合せ基準が必要です。

原因: テキスト問合せ基準は必須です。

処置: テキスト問合せ基準を指定してください。

DRG-10580 パラレルの索引作成はサポートされていません: *string*

原因: パラレル・サーバーで索引を作成しようとしてしました。

処置: 索引を削除して、索引作成のパラレルを 1 に設定してください。

DRG-10581 間接データストアは、LONG または LOB のテキスト列では使用できません。

原因: LONG または LOB 列に、ファイルや URL データストアなどの間接データストアを使用して索引を作成しようとしてしました。

処置: 直接データストアまたは VARCHAR 列を使用してください。

DRG-10582 列 *string* が表 *string* がありません。

原因：無効な列が指定されています。

処置：有効な列を指定してください。

DRG-10583 TRUNCATE INDEX に失敗しました : *string*

原因：指定された索引の Oracle Text 索引の切捨てに失敗しました。

処置：スタック上の次のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10584 Oracle エラーのため *stringstringstring* は失敗しました。

原因：SQL エラーのため、索引オブジェクトの DDL 操作に失敗しました。

処置：付随するエラーを参照してください。

DRG-10595 ALTER INDEX *string* に失敗しました。

原因：Oracle Text 索引の変更に失敗しました。

処置：スタック上の次のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10597 再構築のオンライン操作はサポートされていません。

原因：REBUILD ONLINE は、要求された操作ではサポートされていません。

処置：ONLINE オプションを付けずに索引を変更してください。

DRG-10599 列に索引が作成されていません。

原因：指定された列に索引が作成されていません。

処置：列に索引を作成してから、この操作を行ってください。

DRG-10601 この索引に対する保留 DML の削除に失敗しました。

原因：要求された表に対する更新を監視するために設定されたトリガーを削除できません。

処置：スタック上の次のエラーを参照して、処置を判断してください。必要に応じて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対して更新を行っても、索引付けされません。

DRG-10602 列 *string* (主キー *string*) に対する DML 変更のキューイングに失敗しました。

原因：指定された列に対する変更が記録できません。

処置：スタック上の次のエラーを参照して、処置を判断してください。必要に応じて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対して更新を行っても、索引付けされません。

DRG-10606 サーバーは DML キューへのアクセスに失敗しました。

原因：サーバーの DML キューへのアクセス中にエラーが発生しました。

処置：スタック上の次のエラーを参照してください。

DRG-10700 プリファレンスが存在しません: *string*

原因: 指定されたプリファレンス名が存在しません。

処置: 正しいプリファレンス名を指定して再試行してください。

DRG-10701 プリファレンス *string.string* はすでに存在しています。

原因: 指定されたプリファレンスはすでに存在しています。

処置: プリファレンスを再作成する場合は、そのプリファレンスを削除してください。

DRG-10702 別のユーザーのスキーマにあるプリファレンスは作成または変更できません。

原因: 別のユーザーの表を作成または修正しようとしました。

処置: 所有者、CTXSYS または CTXADMIN ロールを持つユーザーがプリファレンスを作成してください。

DRG-10703 フレームワーク・オブジェクト *string* は無効です。

原因: 無効なオブジェクト型が指定されました。

処置: 有効なフレームワーク・オブジェクトを使用してください。

DRG-10704 プリファレンス *string* には *string* という名の属性はありません。

原因: 無効な属性に値を設定しようとしています。この属性は、このオブジェクトではサポートされていません。

処置: 正しい属性名を指定してください。

DRG-10705 値 *string* (属性 *string* に対する) が無効です。

原因: 属性に無効な値を設定しようとしています。

処置: 属性のデータ型に正しい属性値を指定してください。

DRG-10706 *string* の長さが最大サイズ *string* を超えています。

原因: パラメータのバイト数が大きすぎます。

処置: プリファレンスの設定を修正し、再実行してください。

DRG-10707 属性 *string* (プリファレンス *string*) に値が必要です。

原因: 必要な属性が指定されていません。

処置: プリファレンスの設定を修正し、再実行してください。

DRG-10708 プリファレンス *string* のクラス ID *string* が無効です。

原因: 指定されたクラス ID が、指定されたプリファレンスに対して適切ではありません。

処置: 正しいクラス ID を指定してください。

DRG-10709 このプリファレンスは *string* から参照されているため、削除できません。

原因: 指定されたプリファレンスは、他のプリファレンスの一部として使用されているため、参照しているプリファレンスに変更されるまで削除できません。

処置: 参照しているプリファレンスを変更してください。

DRG-10750 パラメータ *string* は不明です。

原因: パラメータを認識できません。

処置: 正しいパラメータを指定してください。

DRG-10751 パラメータの値が無効です。

原因: データ型が誤っているか、または範囲外です。

処置: 正しいパラメータ値を指定してください。

DRG-10752 DEFAULT_INDEX_MEMORY は、MAX_INDEX_MEMORY より大きくできません。

原因: DEFAULT_INDEX_MEMORY に、MAX_INDEX_MEMORY に設定した最大値より大きい値を設定しようとしてしました。

処置: 最大値より小さい値を指定してください。

DRG-10753 メモリー・サイズの文字列 *string* が無効です。

原因: 不適切にフォーマットされたメモリー文字列が指定されました。

処置: 正しくフォーマットされたメモリー文字列を指定してください。

DRG-10754 メモリー・サイズは *string* から *string* までです。

原因: 範囲外のメモリー・サイズが指定されました。

処置: 許可されている範囲内のメモリー・サイズを指定してください。

DRG-10755 *string* と *string* に共通する文字があります。

原因: 結合キャラクタ・セットは、共通する文字を持つことができません。

処置: 属性値を修正して、再実行してください。

DRG-10756 テキスト索引も、題名索引も選択されていません。

原因: 設定項目 INDEX_TEXT および INDEX_THEMES の両方を FALSE にすることはできません。

処置: INDEX_TEXT または INDEX_THEMES のいずれか（あるいはその両方）を TRUE に設定してください。

DRG-10757 ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。

原因: ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。これには、ストップ・テーマが含まれます。

処置: 4096 を超えるストップ・ワードを使用しないでください。

DRG-10758 索引所有者には、この作業環境を使用する権限がありません。

原因: 索引所有者は、FILE_DATASTORE_ROLE で定義されたロールを持っていません。

処置: 索引所有者に適切なロールを付与してください。

DRG-10759 無効なロールです。

原因: このロールは、データベースに存在しません。

処置: ロール名を確認するか、ロールを作成してください。

DRG-10800 問合せ: *stringstringstring* に失敗しました。

原因: 問合せ処理に失敗しました。

処置: スタック上のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10801 別のユーザーの SQE を作成することはできません。

原因: 別のユーザーの SQE を作成しようとしてしました。

処置: SQE 名指定から所有者を削除してください。

DRG-10816 表示 / ハイライト・コールに失敗しました。

原因: スタック上の次のエラーを参照してください。

処置: スタック上の次のエラーを参照してください。

DRG-10817 CONTAINS の検索語指定がストップ・ワードまたはストップ・ワードの句: *string* で構成されています。

原因: CONTAINS 問合せ内の 1 つ以上の検索語が、ストップ・ワードのみ、またはストップ・ワードのみの句で構成されています。

処置: ストップ・ワードを置換するか、ストップ・ワードを含まない句の中でストップ・ワードを使用してください。

DRG-10819 CONTAINS カーソルをオープンできませんでした。

原因: CONTAINS カーソルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

処置: スタック上の次のエラー・メッセージを参照してください。

DRG-10820 CONTAINS カーソル ID が無効です。

原因: ID が存在しない CONTAINS カーソルをフェッチまたはクローズしようとしてしました。

処置: フェッチまたはクローズの起動を確認してください。

DRG-10821 CONTAINS カーソルがオープンされていません。

原因: オープンしていない CONTAINS カーソルからフェッチしようとしてしました。

処置: フェッチを実行する前に、カーソルをオープンしてください。

DRG-10822 問合せ名が重複しています。

原因：すでに存在する名前を使用して、ストアド・クエリーを作成しようとしてしました。

処置：別の名前を使用してください。

DRG-10823 問合せ名が無効です。

原因：指定した問合せ名が無効です。

処置：問合せ名を確認してください。

DRG-10825 ストアド・クエリーが存在しません: *string*

原因：ストアド・クエリーが存在しません。

処置：問合せ名を確認してください。

DRG-10826 指定したテキストキーをもつ文書が見つかりません。

原因：指定したテキスト・キーを持つ文書がありません。

処置：テキスト・キーを確認してください。

DRG-10827 OPEN_CON は、COUNT_LAST より前に実行しなければなりません。

原因：LAST_COUNT はメモリー内問合せに該当したものを戻すので、メモリー内問合せは、COUNT_LAST を使用する前に実行する必要があります。

処置：COUNT_LAST を実行する前に、OPEN_CON を実行してください。

DRG-10828 トークン *string* が列 *string* の最大長を超えています。

原因：フィードバック表に挿入するトークンが、列サイズの最大値を超えています。

処置：問合せを変更するか、あるいはフィードバック表の列サイズまたはフィードバック・プロシージャ引数をあわせて変更してください。

DRG-10829 フィードバック ID *string* が最大長 *string* バイトを超えています。

原因：FEEDBACK_ID が、FEEDBACK_ID 列で許可される最大長を超えています。

処置：最大長より小さい FEEDBACK_ID を指定してください。

DRG-10830 SHARELEVEL が 0 または 1 ではありません。

原因：SHARELEVEL に無効な値が指定されました。

処置：SHARELEVEL には 0 または 1 を使用してください。

DRG-10831 フィードバック表 *string* に挿入できません。

原因：挿入権限がありません。

処置：権限の有無を確認してください。

DRG-10832 フィードバック表 *string* から削除できません。

原因: 削除権限がありません。

処置: 権限の有無を確認してください。

DRG-10833 フィードバックに失敗しました。

原因: フィードバック要求の処理に失敗しました。

処置: スタック上のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-10834 セクション名 *string* の大文字フォームが長すぎます。

原因: セクション名の大文字フォームが、サポートされている長さより長くなっています。

処置: セクションを加える場合は、セクション名を短くしてください。

DRG-10835 題名索引で WITHIN 演算子はサポートされていません。

原因: WITHIN 演算子が題名索引問合せに使用されています。

処置: WITHIN 演算子を削除して、問合せを修正してください。

DRG-10836 フィールド・セクションおよび属性セクションはネストできません。

原因: ネストしたセクションの検索で、フィールド・セクションまたは属性セクションが指定されています。

処置: ネストしたフィールド・セクションのない問合せに修正してください。

DRG-10837 セクション *string* が存在しません。

原因: 指定されたセクション名が、USER_SECTIONS に存在しません。

処置: 有効なセクション名で問合せを修正してください。

DRG-10838 無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。

原因: 無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。

処置: 有効な SPAN を指定してください。有効な値は、0 ～ 100 の整数です。

DRG-10839 無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。

原因: 無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。

処置: 有効な ORDER を指定してください。有効値は T、TRUE、F または FALSE です (大 / 小文字は区別されません)。

DRG-10840 0 (ゼロ) を含む CONTAINS 述語は、FIRST_ROWS ヒントでサポートされません。

原因: FIRST_ROWS ヒントを持つ 0 を含む CONTAINS 述語を使用して、問合せを発行しようとした。

処置: FIRST_ROWS ヒントを削除してください。

DRG-10841 無効な SCORE 引数が FUZZY に指定されました。

原因：無効な SCORE 引数が FUZZY に指定されました。

処置：有効な SCORE を指定してください。有効な値は、0 ～ 80 の整数です。

DRG-10842 無効な NUMRESULTS 引数が FUZZY に指定されました。

原因：無効な NUMRESULTS 引数が FUZZY に指定されました。

処置：有効な NUMRESULTS を指定してください。有効な値は、0 ～ 5000 の整数です。

DRG-10843 無効な WEIGHT 引数が FUZZY に指定されました。

原因：無効な WEIGHT 引数が FUZZY に指定されました。

処置：WEIGHT を WEIGHT または NOWEIGHT に指定してください。

DRG-10844 索引はこの構造化述語を有効に実行できません。

原因：条件と、索引の索引設定で実行できない CATSEARCH 問合せの ORDER BY 列を組み合わせて指定しようとした。

処置：

DRG-10845 列: *string* は索引付けされていません。

原因：条件、または CTXCAT 索引の一部ではない ORDER BY で列が指定されました。

処置：

DRG-10846 列の順序は、すべて昇順またはすべて降順である必要があります。

原因：昇順と降順が混在した列を持つ ORDER BY 句が指定されました。CATSEARCH では、現在サポートされていません。

処置：

DRG-10847 このタイプの問合せで catsearch を実行するには同一キー索引が必要です

原因：VGRAM 問合せを効果的に実行するには、同一キー索引が必要です。

処置：同一キー索引を作成してください。

DRG-10848 無効な構造化句です

原因：無効な構造化句が指定されています。

処置：

DRG-10849 catsearch は機能の起動をサポートしていません

原因：問合せの実行計画は、CATSEARCH 演算子を索引スキャンで実行していません。CATSEARCH 演算子は機能の起動をサポートしていません。

処置：オプティマイザ・ヒントを追加して、すべての CATSEARCH 演算子が索引スキャンを使用して実行されるようにしてください。

DRG-10850 CTXRULE 索引タイプは、オペレータをサポートしていません

原因: CTXRULE 索引でサポートしない演算子が指定されました。現在、サポートされている演算子は、AND、NEAR、phrase、NOT、WITHIN、OR、ABOUT、EQUIVALENCE、STEM および THESAURUS です。

処置: 演算子を削除して、問合せを修正してください。

DRG-10900 メモリー不足です。

原因: これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11000 無効なキーワード *string* です。

原因: 無効なキーワードが指定されました。

処置: 正しいキーワードでパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11001 *string* の 1 つを予定していましたが、キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: キーワードとともにパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11002 *string* の値がありません。

原因: 引数に値がありません。

処置: 値とともにパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11003 値 *string* は、*string* に対して無効です。

原因: 引数に無効な値が指定されました。

処置: 有効な値を指定してください。

DRG-11004 *string* の値が重複または競合します。

原因: 引数に複数の値が指定されました。

処置: パラメータ文字列を確認して、問題のあるパラメータを修正してください。

DRG-11005 CREATE INDEX のパラメータ文字列が無効です。

原因: 指定されたパラメータが正しくありません。

処置: 索引を削除して、正しいパラメータで索引を再作成してください。

DRG-11006 ALTER INDEX のパラメータ文字列が無効です。

原因: 無効なパラメータ文字列が指定されました。

処置: 正しいパラメータ文字列で文を再実行してください。

DRG-11007 複数のストップワードが指定されました。

原因: 複数のストップ・ワードを追加しようとしてしました。

処置: 1 回に 1 つのストップ・ワードを指定してください。

DRG-11008 CREATE INDEX PARTITION のパラメータ文字列が無効です

原因: パラメータ文字列が無効です。

処置: 索引を削除し、適切なパラメータを指定して再作成してください。

DRG-11100 データベースに接続できません。

原因: Oracle データベースに接続できません。

処置: Oracle エラーおよび接続文字列を確認してください。

DRG-11101 ファイル *string* のオープンに失敗しました。

原因: ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

DRG-11102 割り当てられたレクサーは、言語設定 *string* では動作できません。

原因: マルチバイト言語の設定で、シングルのレクサーが選択されました。

処置: RDBMS 言語設定またはテキスト列のレクサー設定を確認してください。

DRG-11104 Oracle Text エラー:

原因: スタック上の次のエラーを参照してください。

処置: スタック上の次のエラーを参照してください。

DRG-11106 ユーザー・データベース・セッションが、この操作中に強制終了されました。

原因: このデータベース・セッションが存在しないか、または強制終了されました。

処置: Oracle Text 操作の実行中にユーザー・データベース・セッションが強制終了した理由を調べてください。

DRG-11107 パス指定: *string* は無効です。

原因: 指定されたパスが無効です。

処置: パス指定を確認してください。

DRG-11108 指定したファイル名: *string* は無効です。

原因: 指定したファイル名が無効です。

処置: ファイル名が空白で開始または終了していないかどうか、無効な文字が含まれていないかどうかなどの問題を調べてください。

DRG-11109 割り当てられたレクサーは、*string* 問合せオペレータをサポートしていません。

原因: このレクサーは、この問合せオペレータをサポートしていません。

処置: 問合せでこのオペレータを使用しないでください。

DRG-11110 *string*

DRG-11111 *string* の値は、*string* から *string* までの値でなければなりません。

原因: 指定されたパラメータ値が範囲外です。

処置: 範囲内のパラメータ値を指定してください。

DRG-11112 *string* の長さが最大値 *string* を超過しています。

原因: 指定されたパラメータ値が長すぎます。

処置: 正しい長さのパラメータ値を指定してください。

DRG-11113 *string* の値は、*string* の 1 つでなければなりません。

原因: 指定されたパラメータ値が無効です。

処置: 有効なパラメータ値を指定してください。

DRG-11114 この操作に対する結果、表の形式が正しくありません。

原因: この操作に対して、列の番号、型または名前の異なる結果表が指定されました。

処置: 結果表を確認してください。それぞれの操作に対する正しい形式については、ドキュメントを参照してください。

DRG-11115 *string* に対する値の指定が必要です。

原因: パラメータの値が指定されていません。

処置: そのパラメータに値を指定してください。

DRG-11116 *string* の値は *string* の値以下である必要があります。

原因: 2 つのパラメータに指定された値が無効です。

処置: そのパラメータに有効な値を指定してください。

DRG-11117 すでに使用されているオブジェクト名です。

原因: 既存のオブジェクト名と競合するオブジェクト名で、オブジェクトを作成しようとした。

処置: 新しい名前を指定してください。

DRG-11118 オブジェクト: *string* は存在しません。

原因: 存在しないオブジェクトを変更または削除しようとした。

処置: 正しいオブジェクト名を指定してください。

DRG-11119 操作はこの索引タイプでサポートされません。

原因: この索引タイプでサポートされない索引で操作を起動しようとしました。

処置:

DRG-11120 ファイル *string* への書込みに失敗しました

原因: ファイルの書込みに失敗しました。

処置: ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

DRG-11121 ファイル *string* からの読取りに失敗しました

原因: ファイルの読取りに失敗しました。

処置: ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

DRG-11203 INSO フィルタは、このプラットフォームでサポートされていません。

原因: INSO フィルタをサポートしていないプラットフォームでこれを使用しようとしました。

処置: INSO フィルタを使用しないでください。

DRG-11204 ユーザー・フィルタ・コマンドが長すぎます。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドは、32 文字以下である必要があります。

処置: 32 文字以下のユーザー・フィルタ・コマンドを使用してください。

DRG-11205 ユーザー・フィルタ・コマンドに無効な文字が含まれています。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドには、スラッシュ、カッコ、セミコロンなどの特殊文字は使用できません。

処置: ユーザー・フィルタ・コマンドに特殊文字を使用しないでください。

DRG-11206 ユーザー・フィルタ・コマンド *string* を実行できませんでした。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドを実行できません。

処置: コマンドが \$ORACLE_HOME/ctx/bin にあるかどうか、そのコマンドが実行可能かどうかを確認してください。

DRG-11207 ユーザー・フィルタ・コマンドが状態 *string* で終了しました。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドが特定のエラー状態で終了しました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11208 ORACLE_HOME が設定されていません。

原因: ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: CTXSRV 実行時に ORACLE_HOME が設定されているかどうかを確認してください。

DRG-11209 *string* のファイル名が最大長 *string* を超えています。

原因: ファイル名の値が長すぎます。

処置: ファイル名を短くしてください。

DRG-11210 列フォーマットには、**char**、**varchar** または **varchar2** 型が必要です。

原因: 列フォーマットに、**char**、**varchar** または **varchar2** 型が指定されていません。

処置: 列フォーマットに正しい型を指定してください。

DRG-11211 列キャラクタ・セットには、**char**、**varchar** または **varchar2** 型が必要です。

原因: 列キャラクタ・セットに、**char**、**varchar** または **varchar2** 型が指定されていません。

処置: 列キャラクタ・セットに正しい型を指定してください。

DRG-11212 プロシージャ・フィルタ・プロシージャ名にセミコロンが含まれています。

原因: 指定されたプロシージャ名にセミコロンが含まれています。

処置: セミコロンを削除するか、プロシージャの名前を変更してください。正しい形式は、**PACKAGENAME.PROCEDURE_NAME** です。

DRG-11213 CTXSYS はプロシージャ・フィルタ・ストアド・プロシージャ:*string* を所有していません。

原因: CTXSYS に、プロシージャ・フィルタ・ストアド・プロシージャに対する実行権限がありません。

処置: パッケージが CTXSYS によって所有され、プロシージャが存在することを確認してください。

DRG-11214 プロシージャ・フィルタ・ストアド・プロシージャの実行に失敗しました。

原因: プロシージャ・フィルタ・ストアド・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

処置: ストアド・プロシージャを確認またはデバッグしてください。

DRG-11215 索引所有者にはフィルタ・ストアド・プロシージャ:*string* にアクセスする権限がありません。

原因: 索引所有者がプロシージャの実行権限を持っていません。

処置: CTXSYS で、索引所有者にプロシージャの実行権限を付与してください。

DRG-11216 データストア・データの長さが制限を超過しています。

原因: フィルタ・ストアド・プロシージャに渡されたデータストア・データの長さが、最大長（32767 バイト）を超えています。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11217 INSO セーフ・コールアウトに失敗しました

原因: INSO セーフ・コールアウトが実行できませんでした。

処置: Oracle エラーを確認してください。

DRG-11301 文書の索引付けでエラーが発生しました

原因: 文書の索引付け中にエラーが発生しました。レクサー、セクションの解析または文書のトークン作成中の動作中に、エラーが発生しました。

処置: 文書を確認し、有効なデータで更新してください。文書の内容が部分的に索引付けされている場合は、問合せによって戻される場合があります。

DRG-11303 2 次索引はこの索引タイプではサポートされていません

原因: 索引構成表でテキスト索引を作成しようとしたのですが、これは、索引タイプでサポートされていません。

DRG-11304 ファンクション索引はこの索引タイプではサポートされていません

原因: ファンクション・テキスト索引を作成しようとしたのですが、これは、サポートされていません。

DRG-11400 キー *string* での文書の解析に失敗しました。

原因: 言語抽出に指定された文書が解析できませんでした。この文書は、完全な英文になっていません。

処置: 文書の内容を確認してください。

DRG-11403 主キーの値は長すぎます。

原因: サービス要求に、主キーの最大長（64 バイト）を超えた主キー・パラメータが渡されました。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11404 主キーの値は指定されていません。

原因: サービス要求に NULL の主キー・パラメータが渡されました。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11410 結果表 *string* に挿入できませんでした。

原因: 結果表への言語出力の挿入中に Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラー・コードに対応する処置を行ってください。

DRG-11418 言語解析機能用の文書の内容が十分ではありません。

原因: 言語抽出に指定した文書は、指定された解析機能で解析されましたが、文書の内容が言語抽出には不十分でした。

処置: 文書の内容を確認するか、言語の設定を変更してください。

DRG-11422 言語サービスの初期化に失敗しました。

原因：言語サービスの初期化に失敗しました。

処置：言語にナレッジ・ベース・ファイルが提示されているかを確認してください。

DRG-11425 gist レベル *string* が無効です。

原因：指定された gist レベルが無効です。

処置：有効な gist レベルを指定してください。

DRG-11427 有効な gist レベルの値は *string* です。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

DRG-11432 ナレッジ・ベースへのアクセス中にファイル・エラーが発生しました

原因：ナレッジ・ベースへのアクセス中に Oracle エラーが発生しました。

処置：言語にナレッジ・ベース・ファイルが提示されているかを確認してください。

DRG-11435 主キーの値が無効です。

原因：サービス要求に有効でない主キー・パラメータが渡されました。

処置：主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11439 索引名の長さが最大値 25 文字を超えています。

原因：索引の長さが索引名の最大サイズを超えています。

処置：索引を削除して、短い索引名で再作成してください。

DRG-11440 *string* 言語ではサポートされない操作です。

原因：要求された操作は現行の言語ではサポートされません。

処置：サポートされている操作のみ使用してください。

DRG-11441 gist numParagraphs*string* が無効です。

原因：gist numParagraphs に無効な値が指定されました。

処置：gist numParagraphs に有効な値のみを指定してください。

DRG-11442 有効な gist numParagraphs の値は、*string* です。

原因：gist numParagraphs に無効な値が指定されました。

処置：このメッセージで示される gist numParagraphs に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

DRG-11443 gist maxPercent*string* が無効です。

原因：gist maxPercent に無効な値が指定されました。

処置：gist maxPercent に有効な値のみを指定してください。

DRG-11444 有効な gist maxPercent の値は、*string* です。

原因：gist maxPercent に無効な値が指定されました。

処置：このメッセージで示される gist maxPercent に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

DRG-11445 ROWID の値が無効です：*string*

原因：サービス要求に有効でない ROWID の値のパラメータが渡されました。

処置：ROWID パラメータを確認してください。

DRG-11500 列名が正しくありません。*string* (行 *string*) が見つかりました。

原因：列名またはキーワードの綴りが誤っている可能性があります。

処置：指定された行の近くの綴りおよび句読点を確認してください。

DRG-11501 識別子 *string* が、列名のかわりに行 *string* で見つかりました。

原因：列名の綴りが誤っている可能性があります。

処置：指定された行の近くの綴りを確認してください。

DRG-11502 行 *string* で、ファイル *string* の読み込みに失敗しました。

原因：ファイル名が誤っているか、FILE_TYPE が正しくないか、またはファイル・システムのエラーです。

処置：ファイル名、タイプまたはファイル（あるいはそのすべて）の整合性を確認してください。

DRG-11503 文の挿入により文の最大サイズを超えました。

原因：文の合計の長さが、データベースの最大値を超えました。

処置：列名を短くするか、列数を少なくしてください。

DRG-11504 指定した LONG 値のパラメータ *string* は無効です。

原因：オプション引数が無効です。

処置：LONG バッファ・サイズに 0 より大きい値を KB 単位で指定してください。

DRG-11505 行 *string* の LONG データは見つからないか、無効です。

原因：データまたはデータ・ファイルのいずれかが無効です。

処置：ファイルが存在しているかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。

DRG-11506 エラーのため、行 *string* のレコードは無視されました。

原因：この行のデータの解析中に、エラーが発生しました。

処置：エラーのある行を別のロード・ファイルに移動して、修正してください。

DRG-11507 ファイル *string* の読み込みでファイル・エラーが発生しました。

原因: ファイルが見つからないか、読み込めません。

処置: ファイルの名前と位置を確認してください。

DRG-11508 *string* トークン (行 *string*) が誤っているか、または存在しません。

原因: 必要なトークンが見つかりません。

処置: エラーのあるロード・ファイルに移動して、影響のあるレコードを修正してください。

DRG-11509 行 *string* に値を指定してください。

原因: テキストに値がありません。

処置: エラーのあるロード・ファイルに移動して、影響のあるレコードを修正してください。

DRG-11510 行 *string* でリカバリ不能なエラーが発生しました。

原因: 前のメッセージを参照してください。

処置: 前のメッセージを参照してください。

DRG-11511 指定した表に LONG RAW 列はありません。

原因: テキストは、LONG RAW 型の列に挿入する必要があります。

処置: データの表および型を確認してください。

DRG-11512 シソーラス・ロード・ファイルの行: *string* に構文の誤りがあります。

原因: ロード・ファイルは、ロードするシソーラスに固有の形式である必要があります。

処置: ドキュメントで正しい構文を調べてください。

DRG-11513 ファイル *string* のオープンまたは書き込みができません。

原因: ファイルのオープンまたは書き込みをしようとして、失敗しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11514 ユーザー *string* に、*string* の UPDATE または SELECT 権限はありません。

原因: ユーザーには、UPDATE または SELECT 権限は付与されていません。

処置: ユーザー権限を確認してください。

DRG-11515 テキスト・キーの値が不十分です。

原因: 指定された値の数がテキスト・キーの数と一致しません。

処置: テキスト・キーの数と同じ数の値を指定してください。

DRG-11516 この操作を実行するには、少なくとも CTXUSER のロールが必要です。

原因：ユーザーに CTXUSER、CTXAPP または CTXADMIN のロールがありません。

処置：ユーザーに適切なロールを与えてください。

DRG-11517 テキスト・オブジェクトの妥当性検査中にエラーが発生しました。

原因：付随する Oracle エラーを参照してください。

処置：付随する Oracle エラーを参照してください。

DRG-11518 テキスト表 *string* に LONG または LONG RAW 列がありません。

原因：指定された表に LONG または LONG RAW 列がありません。

処置：指定された表を確認してください。

DRG-11519 LONG または LONG RAW 列のエクスポート中にエラーが発生しました。

原因：付随するエラー・メッセージを参照してください。

処置：付随するエラー・メッセージを参照してください。

DRG-11520 ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：ファイルが存在しません。

処置：ファイルが存在するかどうかを確認してください。

DRG-11521 LONG または LONG RAW 列の更新中にエラーが発生しました。

原因：付随するエラー・メッセージを参照してください。

処置：付随するエラー・メッセージを参照してください。

DRG-11522 指定したテキスト・キーをもつ行が存在しません。

原因：表の中の行に指定されたテキスト・キーがありません。

処置：正しいテキスト・キーを使用してください。

DRG-11523 指定した行を更新用にロックできません。

原因：他プロセスが指定した行をロックしています。

処置：ロックを解放するか、またはロックが解放されるまで持ってください。

DRG-11524 主キーの値が指定されていません。

原因：主キー値が指定されていません。

処置：主キー値を指定してください。

DRG-11525 無効な commitafter パラメータ *string* が指定されました。

原因：オプション引数が無効です。

処置：0 より大きい commitafter を指定してください。

DRG-11526 ファイル名が最大長を超えています。

原因: ファイル名の値が長すぎます。

処置: 最大長を超えないファイル値を使用してください。

DRG-11527 行 *string* で終了トークンが見つかりません。

原因: レコードの終わりに <TEXTEND> が見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11528 LONG または LONG RAW 列定義が構造体データで見つかりました。

原因: 位置が誤っていることが考えられます。

処置: 構造体データから LONG または LONG RAW 列への参照を削除してください。

DRG-11529 トークンが最大長を超えています。

原因: 列の名前または値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11530 トークンが最大長を超えています。

原因: 句またはリレーション・ワードの値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11531 行 *string* で開始トークンが見つかりません。

原因: <TEXTSTART がレコードの始めに見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11532 行 *string* (ファイル *string*) の終わりで読み込みエラーが発生しました。

原因: 行の終わりまで読み込んだところで文字が見つかりました。

処置: 不要な文字を削除してください。

DRG-11533 列 *string* の値が正しくありません。

原因: 列の値が長すぎるか、引用符が一致していません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11534 列 *string* が存在しない、またはスペルミスです。

原因: 列が存在しないか、綴りが誤っています。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11535 メモリーへの書込み時に句または修飾子: *string* (行 *string*) でエラーが発生しました。

原因: メモリーが不十分です。

処置: メモリーを増やしてください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-11600 URL 保存: *string* が永続的に移動されました。

原因: URL が参照している文書が永続的に移動されました。

処置: 文書の新しいアドレスを調べてください。

DRG-11601 URL 保存: *string* に対する要求の構文に誤りがあります。

原因: クライアントが正しい要求を作成できません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11602 URL 保存: *string* へのアクセスには認証が必要です。

原因: ユーザーにパスワードまたは認証が必要です。

処置: 必要なアクセス権を取得するか、URL を確認してください。

DRG-11603 URL 保存: *string* へアクセスするにはペイメントが必要です。

原因: URL にアクセスするにはペイメントが必要です。

処置: URL を確認するか、またはアクセスに必要な場合はペイメントを行ってください。

DRG-11604 URL 保存: *string* へのアクセスは否認されました。

原因: URL へのアクセスが否認されました。

処置: URL を確認してください。URL が正しい場合は、URL へアクセスしないでください。

DRG-11605 URL 保存: *string* で指定された文書が見つかりません。

原因: 指定されたホストに文書が見つかりません。

処置: URL を確認してください。

DRG-11606 URL 保存: *string* へのアクセスがクライアント要求の待機中にタイム・アウト。

原因: タイムアウト周期内にクライアントから応答がありませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11607 URL 保存: 誤った応答が原因で、*string* へのアクセスが否認されました。

原因: URL の Web サーバーが HTTP プロトコルに準拠していません。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11608 URL 保存: *string* のホスト部分が誤って指定されています。

原因: URL のホスト部分が解析できません。

処置: URL を確認してください。

DRG-11609 URL 保存: *string* で指定されたローカル・ファイルをオープンできません。

原因: ローカル・ファイルをオープンできませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11610 URL 保存: *string* で指定されたローカル・ファイルを読み込むことができません。

原因: ローカル・ファイルが読み込めませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11611 URL 保存: *string* で指定されたプロトコルが不明です。

原因: 解析したプロトコルが HTTP またはファイルのいずれでもありませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11612 URL 保存: *string* で指定されたホストが不明です。

原因: 指定されたホストのアドレスを解決できませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11613 URL 保存: *string* で指定されたホストへの接続が拒否されました。

原因: 指定されたホストへの接続が拒否されました。

処置: URL を確認してください。

DRG-11614 URL 保存: *string* に指定されたホストとの通信がタイム・アウトしました。

原因: ネットワーク操作がタイムアウトしました。

処置: 後で再試行してください。Web サーバーとのネットワーク接続が切断されている可能性があります。

DRG-11615 URL 保存: ネットワーク内の *string* へ送信する書込みが失敗しました。

原因: Web サーバーへの書込み中に不明なエラーが発生しました。

処置: ネットワーク接続を確認してください。

DRG-11616 URL 保存: *string* へアクセスしようとするリダイレクションが多すぎます。

原因: URL へアクセスしようとする HTTP リダイレクションの連鎖が多すぎます。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11617 URL 保存: URL: *string* が長すぎます。

原因: URL 文字列の長さが URLSIZE を超えています。

処置: URLSIZE 属性の値を大きくしてください。

DRG-11618 URL 保存: *string* で示された文書が大きすぎます。

原因: 文書の大きさがユーザーが設定した最大サイズを超えています。

処置: URL にアクセスしないか、文書サイズの制限を大きくしてください。

DRG-11619 URL 保存: 表内の行が空です。

原因: 行が削除されているか、または欠落しています。

処置: 必要に応じて、表を確認してください。

DRG-11620 URL 保存: スレッド操作のエラー。

原因: スレッド操作に失敗しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11621 URL 保存: *string* に関するソケット・オープン・エラー。

原因: ソケット・オープンに失敗しました。オープンしているファイル記述子が多すぎる可能性があります。

処置: 起動するスレッドの最大数を減らしてください。

DRG-11622 URL 保存: *string* の読取りについての不明な HTTP のエラー。

原因: Oracle Text が認識できない HTTP エラーが発生しました。

処置: HTTP エラー・コードを調べてください。有効な場合は、システム管理者に連絡してください。

DRG-11623 URL 保存: *string* の読取りについての不明なエラー。

原因: Oracle Text が認識できないエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11624 属性 *string* (*string*) は無効です: 有効範囲は *string* から *string* の間です。

原因: Oracle Text が認識できないエラーが発生しました。

処置: 属性値を変更してください。

DRG-11625 MAXURLS * URLSIZE は、*string* よりも小さくなければなりません。

原因: MAXURLS × URLSIZE は制限値を超えることはできません。

処置: MAXURLS または URLSIZE のいずれかの値を小さくしてください。

DRG-11700 シソーラス *string* はすでに存在しています。

原因: 同じ名前のシソーラスが存在します。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-11701 シソーラス *string* は存在しません。

原因: シソーラスが存在しません。

処置: 別のシソーラスを使用するか、またはシソーラスを作成してください。

DRG-11702 *string*

原因: 問合せでのシソーラス演算子の解析中にエラーが発生しました。

処置: 詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

DRG-11703 この機能を実行するには、ユーザー *string* には最低 CTXAPP ロールが必要です。

原因: 権限が不十分です。

処置: ユーザーに CTXAPP ロールを付与してください。

DRG-11704 句 *string* が存在しません。

原因: 句が存在しません。

処置: 別の句を使用するか、または句を作成してください。

DRG-11705 *string* から *string* へのマルチレベル・ジャンプです。

原因: シソーラス・ロード・ファイルに、解析できないマルチレベル・ジャンプがあります。

処置: シソーラス・ファイルを修正してください。

DRG-11706 リレーション *string* が無効です。

原因: 指定されたリレーションが無効です。

処置: 有効なリレーションのセットが表示されます。さらに、構文言語名（最大 10 バイトまでの文字列で指定可能）のある翻訳を指定できます。有効なリレーションを指定して、再送信してください。

DRG-11707 有効なリレーション: *string*

原因: 指定されたリレーションが無効です。

処置: 有効なリレーションのセットが表示されます。さらに、構文言語名（最大 10 バイトまでの文字列で指定可能）のある翻訳を指定できます。

DRG-11708 シソーラスが多すぎます。

原因: CTXKBTC では 16 を超えるシソーラスはコンパイルできません。

処置: 指定する値を少なくしてください。

DRG-11709 シソーラスの語句が多すぎます。

原因：シソーラスの語句数が最大値を超えています。

処置：シソーラスの語句数を減らしてください。

DRG-11710 シソーラスの語句 *string* が長すぎます。

原因：ナレッジ・ベースでは、80 文字を超える語句は許可されません。

処置：80 文字を超える語句を使用しないでください。

DRG-11711 語句 *string* のデータが多すぎます。

原因：語句のデータ・サイズは内部的に制限されています。

処置：シソーラスを再設計してください。

DRG-11712 語句 *string* に対して複数の上位概念語があります。

原因：語句に対して複数の上位概念語は許可されません。

処置：それぞれの語句が、上位概念を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11713 1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語があります。

原因：1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれのシノニム・リングが、優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11714 シノニムに異なる上位概念語があります。

原因：すべてのシノニムには、同じ上位概念語が必要です。

処置：すべてのシノニムに、同じ上位概念語があることを確認してください。

DRG-11715 2KB カテゴリ *string* と *string* 間に上位概念語関係を追加しようとしてしました。

原因：上位概念語関係は、2 つのナレッジ・ベース・カテゴリ間には追加できません。

処置：上位概念語階層を再設計してください。

DRG-11716 下位概念語 *string* を非優先語 *string* に対して追加しようとしてしました。

原因：下位概念語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：下位概念語を優先語に付加してください。

DRG-11717 類義語 *string* を非優先語 *string* に対して追加しようとしてしました。

原因：類義語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：類義語を優先語に付加してください。

DRG-11718 語句 *string* に対して複数の優先語があります。

原因：語句に対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれの語句が優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11719 上位概念語の階層が深すぎます。

原因: 上位概念語の階層が深すぎます。

処置: 最適な結果が得られるように、階層を均一にしてください。

DRG-11720 シノニム・リング当りのシノニムが多すぎます。

原因: 1 つの優先語に対するシノニムが多すぎます。

処置: さらに区分して、階層を深くしてください。

DRG-11721 シソーラス *string* が空です。

原因: シソーラスにエントリが存在しません。

処置: エントリを追加するか、シソーラスを削除してください。

DRG-11722 言語の指定が無効です。

原因: 10 文字を超える言語を指定することはできません。

処置: 言語を 10 文字以下で指定してください。

DRG-11723 句は NULL にできません。

原因: シソーラスに NULL 句を追加しようとしてしました。

処置: 有効な句を指定してください。

DRG-11724 句 *string* はすでに存在しています。

原因: 同じ名前の句がすでに存在します。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-11725 句にシノニムがありません。

原因: シノニムのない句を優先語にしようとしたか、またはシノニムのない句から SYN を削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11726 句は優先語ではありません。

原因: 優先語のリレーションを優先語ではない句から削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11727 関連した項が句にありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11728 句にこの型の上位概念語はありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11729 句にこの型の下位概念語はありません。

原因：存在しないリレーションを削除しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-11730 リレーションがありません。

原因：存在しないリレーションを削除しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-11731 翻訳がありません。

原因：存在しない翻訳を削除しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-11732 句には翻訳がありません。

原因：存在しない翻訳を削除しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-11733 用語に対する指定言語の翻訳が複数あります。

原因：用語に対する指定言語の翻訳が複数あります。

処置：1つの翻訳を指定してください。

DRG-11801 継続

原因：継続が必要かどうかをユーザーに確認しています (HTTP_ERROR = 100)。

処置：必要であると応答した場合は、元の操作が継続されます。

DRG-11802 プロトコルを切り替えています。

原因：クライアントに、プロトコルの切替えを通知しています (HTTP_ERROR = 101)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11803 OK

原因：クライアントの状況が正常であることを通知しています (HTTP_ERROR = 200)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11804 作成されました。

原因：クライアントで作成されたことを通知しています (HTTP_ERROR = 201)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11805 アクセプトされました。

原因：クライアントがアクセプトされましたが、コミットされていないことを通知しています (HTTP_ERROR = 202)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11806 非認可の情報です。

原因: 返されたメタ情報は、最終的なセットではありません (HTTP_ERROR = 203)。

処置: ユーザー・エージェントは、非認可の情報であることを認識します。

DRG-11807 内容がありません。

原因: 要求は実行されましたが、新しい情報はありません (HTTP_ERROR = 204)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11808 リセットされた内容です。

原因: クライアントにドキュメント・ビューのリセットを通知しています (HTTP_ERROR = 205)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11809 一部の内容です。

原因: クライアントのドキュメントの内容は、不完全です (HTTP_ERROR = 206)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11810 一部更新は OK です。

原因: クライアントのドキュメントは、一部更新されています (HTTP_ERROR = 207)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11811 複数の選択です。

原因: クライアントに複数のリソースを選択できることを通知しています (HTTP_ERROR = 300)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11812 永久に移動しました。

原因: URI に、新しい永続 URI が割り当てられました (HTTP_ERROR = 301)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11813 一時的に移動しました。

原因: その URI は、一時的に別の URI へ移動されました (HTTP_ERROR = 302)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11814 他を参照してください。

原因: その URI は、別の URI で GET METHOD を使用して検索できます (HTTP_ERROR = 303)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11815 変更されませんでした。

原因：条件付き GET の応答は、ドキュメントが変更されていないことを示します (HTTP_ERROR = 304)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11816 プロキシを使用します。

原因：要求を繰り返すには、クライアントは指定されたプロキシを使用する必要があります (HTTP_ERROR = 305)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11818 一時リダイレクトです。

原因：そのリソースは、一時的に別の URI へ移動されました (HTTP_ERROR = 307)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11819 不正な要求です。

原因：URL の構文が正しくありません。要求はサーバーに拒否されました (HTTP_ERROR = 400)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11820 認可されていません。

原因：その要求にはさらに認可が必要です (HTTP_ERROR = 401)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11822 禁止されています。

原因：サーバーは、クライアントからの要求の実行を拒否しました (HTTP_ERROR = 403)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11823 見つかりません。

原因：サーバーは、要求された URI を検索できません (HTTP_ERROR = 404)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11824 使用できないメソッドです。

原因：ユーザー・エージェントが使用できないメソッドを指定しました (HTTP_ERROR = 405)。

処置：ユーザー・エージェントは、使用できるヘッダーを読んでかわりのメソッドを判断します。

DRG-11825 アクセプトできません。

原因: 要求されたリソースは、要求ヘッダーによってアクセプトできません (HTTP_ERROR = 406)。

処置: ユーザー・エージェントは、ユーザーに次の処置を問い合わせる必要があります。

DRG-11826 プロキシ認証が必要です。

原因: クライアント自身にプロキシ認証が必要です (HTTP_ERROR = 407)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11827 要求がタイムアウトしました。

原因: サーバーは要求をタイムアウトしました (HTTP_ERROR = 408)。

処置: ユーザー・エージェントは要求を繰り返します。

DRG-11828 競合します。

原因: その URI の現在の状態と要求が競合します (HTTP_ERROR = 409)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11829 存在しません。

原因: リソースが使用できず、フォワードするアドレスがありません (HTTP_ERROR = 410)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11830 長さが必要です。

原因: サーバーは、コンテンツ長ヘッダーを受信する必要があります (HTTP_ERROR = 411)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11831 事前の条件設定に失敗しました。

原因: リソースが事前の条件設定に失敗したことをユーザー・エージェントに通知しています (HTTP_ERROR = 412)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11832 エンティティ要求が大きすぎます。

原因: エンティティ要求が大きすぎるため、要求が拒否されました (HTTP_ERROR = 413)。

処置: Retry-After にヘッダーが見つかった場合、ユーザー・エージェントは再試行する必要があります。

DRG-11833 URI 要求が大きすぎます。

原因：サーバーは、大きすぎる URI のアクセプトを拒否しています (HTTP_ERROR = 414)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11834 サポートされないメディア・タイプです。

原因：サーバーは、メディア・タイプによって要求を拒否しています (HTTP_ERROR = 415)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11835 要求した範囲では条件を満足できません。

原因：リソースの範囲によって、バイト範囲の要求は満たされませんでした。 (HTTP_ERROR = 416)。

処置：ユーザー・エージェントは、応答でコンテンツの範囲ヘッダーを読み取ります。

DRG-11836 見込みが外れました。

原因：サーバーは、ユーザー・エージェントの要求に応じられません (HTTP_ERROR = 417)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11839 内部サーバー・エラーです。

原因：要求の実行中に、サーバーの内部エラーが発生しました (HTTP_ERROR = 500)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11840 実装されていません。

原因：サーバーに要求された機能はまだ実装されていないため、サポートできません (HTTP_ERROR = 501)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11841 ゲートウェイが正しくありません。

原因：要求の送出時、サーバーはゲートウェイから無効な応答を受信しました (HTTP_ERROR = 502)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11842 サービスは使用可能ではありません。

原因：サーバーはオーバーロードしたか、またはメンテナンス・モードです (HTTP_ERROR = 503)。

処置：応答に Retry-After ヘッダーがあった場合、要求を再試行してください。

DRG-11843 ゲートウェイ・タイムアウトです。

原因: アップストリーム・サーバーは、ゲートウェイ・サーバーに適時に応答しませんでした (HTTP_ERROR = 504)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11844 HTTP バージョンはサポートされません。

原因: 要求ヘッダーの HTTP バージョンは、サーバーに拒否されました (HTTP_ERROR = 505)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11846 応答は無効です。

原因: ユーザー・エージェントは、返された応答が失効していることを認識しています (HTTP_CACHE_ERROR = 10)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11847 妥当性再チェックに失敗しました。

原因: ユーザー・エージェントは、失効した応答の失敗を妥当性再チェックしようとしています (HTTP_CACHE_ERROR = 11)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11848 操作が切断されました。

原因: キャッシュは、時間切れのため切断されました (HTTP_CACHE_ERROR = 12)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11849 存続期限切れです。

原因: キャッシュの確実な存続期間および応答の寿命が、いずれも 24 時間を超えています (HTTP_CACHE_ERROR = 13)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11850 変換は適用されました。

原因: キャッシュ内容のエンコーディング / メディア・タイプが変更されたことを、キャッシュ・マネージャに通知しています (HTTP_CACHE_ERROR = 14)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11851 キャッシュ関連の警告です。

原因: キャッシュの存続時間が長すぎる場合の不定期な情報です (HTTP_CACHE_ERROR = 99)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントは、何も処置をしません。

DRG-11852 リモート・ホストの位置を特定できません。

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11853 ホスト名が見つかりません。

原因: ホスト名が URI に指定されていません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11854 ファイル名が見つからないか、またはファイルがアクセス不可です。

原因: 指定されたファイルをオープンできません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11855 FTP サーバーが応答しました。

原因: FTP サーバーは、エージェントの要求に応答します (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11856 FTP サーバーからの応答がありません。

原因: 操作中、FTP サーバーからの応答がありません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11857 サーバーがタイムアウトしました。

原因: サーバー操作がタイムアウトしました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11858 ゴーファ・サーバーの応答です。

原因: ゴーファ・サーバーは、エージェントの要求に応答します (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11859 データ転送中に割込みが発生しました。

原因: URL 要求の処理中に割込みが発生しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11860 接続を確立中に割込みが発生しました。

原因: 接続操作中に割込みが発生しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11861 CSO サーバーが応答しました。

原因：クライアントの状況が OK であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11862 HTTP サーバー 0.9 またはそれ以前である可能性があります。

原因：Web サーバーが古すぎます (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11863 不正、不完全または不明な応答です。

原因：サーバーが応答した数値は意味不明です (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11864 不明なアクセス認証スキームです。

原因：サーバーが使用しているアクセス認証スキームが不明です (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11865 ニュース・サーバーの応答です。

原因：ニュース・サーバーが応答しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11866 `file://` ではなく、`ftp://` で試行してください。

原因：誤ったアクセス方式が使用されています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11867 自動リダイレクションに対してメソッドが適合しません。

原因：クライアントの状況が OK であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11868 リダイレクションが多すぎます。

原因：Web サーバーの設定は、リダイレクションが多すぎる構成です (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11869 早すぎるファイルの終りが見つかりました。

原因：予期しない位置でファイルが終わっています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11870 WAIS サーバーからの応答が長すぎます -- 余分な行は無視されました。

原因：WAIS からの応答によってバッファがオーバーフローしました (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11871 WAIS サーバーからデータが戻りません。

原因：WAIS サーバーが不良です (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11872 WAIS サーバーに接続できません。

原因：WAIS サーバーへの接続に失敗しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11873 システム・コールの応答です。

原因：システム・コールの応答を登録します (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11874 アクセス・スキームが不正または不明です。

原因：プロトコルのクラスが、サーバーに不正に接続しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11875 アクセス・スキームは使用できません

原因：クライアントの状況が OK であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11876 接続していれば、ログインできます。

原因：telnet エージェントに情報を渡しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11877 このキャッシュ・バージョンは期限切れで、自動的に再ロードされます。

原因：キャッシュ・エントリが再ロードされていることをユーザーに通知する必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11878 新規規則のロードには、明示的な承認が必要です。

原因：ユーザー・エージェント・クライアントに新規規則のロードを認識させる必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11879 自動プロキシ・リダイレクションには、明示的な承認が必要です。

原因：ユーザー・エージェント・クライアントにプロキシ・リダイレクションを認識させる必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-12001 ユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 0)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12002 プロキシ認証のユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 1)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12003 この FTP サーバーのユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 2)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12004 パスワード：

原因：ユーザーにパスワードの入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 3)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12005 保存するファイル名を指定してください：

原因：ユーザーにファイル名を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 4)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12006 アカントを入力してください：

原因：ユーザーにアカウントの入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 5)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12007 ここではこのメソッドを使用できない可能性があります。継続しますか？

原因：ユーザーにサービスが使用不可能であることを警告しています (W3CLIB_MSG = 6)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12008 位置が変更されました。継続しますか？

原因：ユーザーに位置の変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 7)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12009 一連の新規ルールをこの設定に追加する必要があります。継続しますか？

原因：ユーザーにルールの変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 8)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12010 このファイルはすでに存在しています。既存のファイルを置き換えますか？

原因：ユーザーに置換の保留を警告しています (W3CLIB_MSG = 9)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12011 認証に失敗しました。再試行しますか？

原因：ユーザーに認証の失敗を警告しています (W3CLIB_MSG = 10)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12012 プロキシ認証に失敗しました。再試行しますか？

原因：ユーザーにプロキシ認証の失敗を警告しています (W3CLIB_MSG = 11)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12013 このメソッドはすでに実行済です。操作を繰り返しますか？

原因：ユーザーに以前使用したメソッドの繰返しを警告しています (W3CLIB_MSG = 12)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12014 非常に大きいドキュメントです。操作を継続しますか？

原因：ユーザーに非常に大きいドキュメントの処理を警告しています (W3CLIB_MSG = 13)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12015 この操作に対するソース・ドキュメントは移動しました。継続しますか？

原因：ユーザーに位置の変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 14)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12016 この操作に対するターゲット・ドキュメントは移動しました。継続しますか？

原因：宛先のドキュメントの変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 15)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12017 リダイレクションでこのメソッドの動作が変わる可能性があります。継続しますか？

原因：ユーザーにリダイレクションのメソッドに対する影響を警告しています (W3CLIB_MSG = 16)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12018 プロキシ変更の自動要求です。継続しますか？

原因：ユーザーにプロキシの自動的な変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 17)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12201 セクション・グループ *string* はすでに存在しています。

原因：同じ名前のセクション・グループがすでに存在します。

処置：別名を使用するか、または既存のセクション・グループを削除してください。

DRG-12202 セクション・グループの作成でエラーが発生しました。

原因：セクション・グループの作成時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12203 セクション・グループ *string* がありません。

原因：指定されたセクション・グループは存在しません。

処置：既存のセクション・グループを指定してください。

DRG-12204 セクション・グループ *string* の削除でエラーが発生しました。

原因：セクション・グループの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12206 タグ *string* は、すでにセクション・グループ *string* にあります。

原因：指定された開始タグは同じセクションにすでに存在します。

処置：別の開始タグを指定してください。

DRG-12210 セクション *string* の追加でエラーが発生しました。

原因：セクションの追加時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12211 セクションまたはセクション ID *string* は存在しません。

原因：削除するセクション名またはセクション ID が存在しません。

処置：存在するセクション名またはセクション ID を指定してください。

DRG-12212 セクション *string* の削除でエラーが発生しました。

原因：セクションの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12213 他のユーザーのセクション・グループまたはセクションは作成 / 削除できません。

原因：自分のセクション・グループ・オブジェクトのみを作成または削除できます。

処置：オブジェクトを所有するユーザーが、作成または削除してください。

DRG-12217 タグは 64 バイト以下でなければなりません。

原因：開始または終了タグの最大値は 64 バイトです。

処置：64 バイト以内の開始または終了タグを指定してください。

DRG-12218 セクション・グループ名が欠落しています。

原因：セクション・グループ名を指定する必要があります。

処置：セクションまたはセクション・グループの作成時にセクション・グループ名を指定してください。

DRG-12219 セクション名が欠落しています。

原因：セクションを作成する場合、セクション名を指定する必要があります。

処置：セクション名を指定してください。

DRG-12220 有効なタグを指定してください。

原因：セクションをセクション・グループに追加する場合、タグを指定する必要があります。

処置：タグを指定してください。

DRG-12223 セクション名 *string* は確保されている名前です。

原因：セクションに予約名を割り当てようとした。

処置：予約名を使用しないでください。

DRG-12224 セクション・グループの作成には `ctx_ddl.create_section_group` を使用します。

原因：CTX_DDL.CREATE_PREFERENCE を使用して、セクション・グループを作成しようとした。

処置：CTX_DDL.CREATE_SECTION_GROUP を使用してください。

DRG-12225 この型のセクションは、このセクション・グループに追加できません。

原因：セクションを NULL セクション・グループへ追加しようとしたか、停止セクションを非自動セクション・グループへ追加しようとしたか、ゾーンまたはフィールド・セクションを自動セクション・グループへ追加しようとした。

処置：このセクション・グループに、その型のセクションは追加できません。

DRG-12226 *string* という名前のフィールド・セクションは、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因：属性またはゾーン・セクションに、既存のフィールド・セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置：別の名前を使用してください。

DRG-12227 *string* という名前のゾーン・セクションは、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: 属性またはゾーン・セクションに、既存のフィールド・セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-12228 フィールド・セクション (*string*) の最大数を超過しました。

原因: セクション・グループの一意のフィールド・セクション数が、最大数を超過しています。

処置: 一意のフィールド・セクションの数を減らしてください。

DRG-12229 特殊セクション *string* は、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: すでに存在している特殊セクションを追加しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-12230 特殊セクション名は、*string* の1つでなければなりません。

原因: 無効な特殊セクションを追加しようとした。

処置: 有効な特殊セクションを使用してください。

DRG-12231 属性セクション *string* は、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: フィールドまたはゾーン・セクションに、既存の属性セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-12232 属性タグ形式が無効です。

原因: 属性タグとして使用するタグに、誤った形式のタグが指定されました。属性タグは、TAG@ATTR 形式である必要があります。

処置: 正しいフォーマットを使用してください。

DRG-12233 *xml* セクションは他のセクション・タイプと共存できません

原因: ゾーン、フィールド、属性または特殊セクションを持つセクション・グループまたは索引に、*xml* セクションを追加しようとした。または、*xml* セクションを持つセクション・グループまたは索引に、ゾーン、フィールド、属性または特殊セクションを追加しようとした。

処置:

DRG-12300 この列リストを持つ索引は、索引セットにすでに存在しています。

原因: 索引セットに索引を追加しようとしたが、指定された列リストを持つ索引はすでに存在しています。

処置:

DRG-12301 索引セットに索引がありません。

原因：索引セットから索引を削除しようとしたが、指定された索引が見つかりません。

処置：

DRG-12302 無効な列リストです。

原因：構文エラー、重複列または無効な列名などを持つ無効な列リストが指定されました。

処置：

DRG-12303 索引セットに追加できる索引は 99 個までです。

原因：索引セットに 100 個以上の索引を追加しようとした。

処置：

DRG-12304 索引セット: *string* は存在しません。

原因：無効な索引セット名が指定されました。

処置：

DRG-12305 列: *string* のデータ型は、索引セット列に対してはサポートされません。

原因：無効なデータ型を持つ索引セットの索引の列リストにある列を指定しようとした。

処置：索引列リストには、DATE、NUMBER、CHAR または VARCHAR2 の列のみを使用してください。

DRG-12306 列: *string* は、索引セット列に対しては長すぎます。

原因：長すぎる索引セットの索引の列リストにある列を指定しようとした。

処置：CHAR および VARCHAR2 列は、30 バイトまたは最大長より短くする必要があります。

DRG-12307 列: *string* は NULL で、索引付けできません。

原因：1 つ以上のメタ列が NULL である行を索引付けしようとした。

処置：メタ列に値を指定し、行を索引付けしなおしてください。

DRG-12308 ctx_ddl.create_index_set を使用して索引セットを作成してください

原因：CTX_DDL.CREATE_PREFERENCE を使用して、索引セットを作成しようとした。

処置：CTX_DDL.CREATE_INDEX_SET を使用してください。

DRG-12400 テンプレート *string* が空です。

原因：テンプレートが空です。

処置：テンプレートが正しくインストールされているかを確認してください。

DRG-12401 無効なテンプレート: ループ内の問合せ

原因: CTX REPEAT タグ内では CTX EXEC タグを付けることはできません。

処置: CTX EXEC タグを削除してください。

DRG-12402 テンプレート *string*、行 *string* の処理でエラーが発生しました。

原因: テンプレートの処理時にエラーが発生しました。

処置: スタック上の他のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-12403 テンプレート *string* が見つかりません。

原因: テンプレートが存在しません。

処置: テンプレート名とそのテンプレートがインストールされているかどうかを確認してください。

DRG-12404 テンプレート *string* が複数見つかりました。

原因: 同じ名前のテンプレートが複数見つかりました。

処置: 必要に応じてテンプレートを削除してください。

DRG-12405 CTX REDIRECT または CTX LABEL タグの処理でエラーが発生しました。

原因: タグの構文エラーです。

処置: タグ構文を修正してください。

DRG-12406 CTX EXEC タグ属性 (*string*) が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

処置: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12407 CTX REPEAT タグ属性 (*string*) が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

処置: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12408 変数参照が無効です: *string.string*

原因: 参照された変数が存在しません。

処置: ラベルおよび列名を確認してください。

DRG-12409 *string* のラベルに構文エラーがあります。

原因: CTX EXEC タグの SQL に、ラベルまたはラベル型の正しくない構文があります。

処置: CTX EXEC タグの SQL 属性を確認してください。

DRG-12410 CTX EXEC タグを処理できません。

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性の処理時にエラーが発生しました。

処置: スタック上の他のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-12411 SQL 処理エラー : *string*

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性から SQL を誤って実行しました。

処置: SQL 属性の SQL を確認してください。

DRG-12412 テンプレート処理属性 (*string*) が欠落しているかまたは無効です。

原因: 指定された属性が HTML 入力フィールドでは欠落しているか、または無効です。

処置: テンプレートの INPUT、SELECT、RADIO および CHECKBOX タグでテンプレート処理固有の属性を確認してください。

DRG-12422 クライアントへの書き込みに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12430 必須の引数がありません : *string*

原因: この引数は必須です。

処置: この引数を指定した状態で URL を再送信してください。

DRG-12431 構成セクション *string* が見つかりません。

原因: 指定された構成引数が無効です。

処置: 引数を修正して URL を再送信してください。

DRG-12432 構成ファイル *string* が見つからないか、または読み込み不能です。

原因: 構成ファイルの処理時にエラーが発生しました。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12433 *string* JDBC ドライバ・クラスのロードに失敗しました。

原因: ドライバ・クラスが無効です。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12434 構成情報 *string* を使用した接続に失敗しました。

原因: 構成情報が正しくありません。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12435 ハイライト表の割当てに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12436 ドキュメント表の割当てに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12437 ハイライト表のリリースに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12438 ドキュメント表のリリースに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12439 ハイライト表の読込みに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12440 ドキュメント表の読込みに失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12441 ハイライト数の計算に失敗しました。

原因: 続いて表示されるメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12500 ストップ・リスト *string* はすでに存在しています。

原因: 指定されたストップ・リストはすでに存在しています。

処置: ストップ・リストを再作成する場合は、重複しているストップ・リストを削除してください。

DRG-12501 NULL のストップ・リストは許可されていません。

原因: 指定されたストップ・リストが NULL です。

処置: 有効なストップ・リストを指定してください。

DRG-12502 他のユーザーのストップ・リストは変更できません。

原因: 自分のストップ・リストまたはストップ・ワード・オブジェクトのみを作成または削除できます。

処置: オブジェクトを所有するユーザーが、作成または削除してください。

DRG-12503 ストップ・リストの作成または削除中にエラーが発生しました。

原因: ストップ・リストの作成時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12504 ストップ・リスト *string* は存在しません。

原因: 指定したストップ・リストが存在しません。

処置: ストップ・リストが有効であることを確認してください。

DRG-12505 ストップ・ワードの追加または削除中にエラーが発生しました。

原因: ストップ・ワードの追加または削除中に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切に処置してください。

DRG-12506 ストップ・ワード *string* はストップ・リスト *string* にありません。

原因: 指定したストップ・ワードが存在しません。

処置: ストップ・ワードが有効であることを確認してください。

DRG-12507 ストップ・ワード *string* は、すでにこのストップ・リストにあります。

原因: 指定されたストップ・ワードはすでに存在しています。

処置: 再作成する場合は、重複しているストップ・ワードを削除してください。

DRG-12508 ストップ・ワードは NULL にできません。

原因: 指定されたストップ・ワードが NULL です。

処置: 再作成する場合は、NULL のストップ・ワードを削除してください。

DRG-12509 ストップ・ワード *string* の長さがその制限である *string* バイトを超えています。

原因: ストップ・リスト・エントリが最大長を超えています。

処置: ストップ・リスト・エントリの長さを短くしてください。

DRG-12511 ストップ・リストの作成には `ctx_ddl.create_stoplist` を使用します。

原因: CTX_DDL.CREATE_PREFERENCE を使用して、ストップ・リストを作成しようとした。

処置: CTX_DDL.CREATE_STOPLIST を使用してください。

DRG-12512 無効なストップ・クラス *string* です。

原因: 無効なストップ・クラスが指定されました。

処置: 有効なストップ・クラスを指定してください。

DRG-12513 有効なストップ・クラス: *string*

原因: 無効なストップ・クラスが指定されました。

処置: 有効なストップ・クラスがリストされています。

DRG-12514 MULTI_STOPLIST のストップワードに言語を指定する必要があります。

原因: ストップ・ワードの言語を指定しないで、MULTI_STOPLIST にストップ・ワードを追加しようとしてしました。

処置: ストップ・ワードの言語を追加してください。

DRG-12515 BASIC_STOPLIST のストップワードには言語を指定できません。

原因: BASIC_STOPLIST に言語固有のストップ・ワードを追加しようとしてしました。

処置: ストップ・ワードには言語を指定しないでください。

DRG-12516 複数のストップリストを使用する場合は、言語列の指定が必要です。

原因: MULTI_STOPLIST を使用して索引を作成しようとしてしましたが、言語列が指定されていません。

処置: 言語列を指定してください。

DRG-12517 MULTI_STOPLIST にストップテーマは追加できません。

原因: MULTI_STOPLIST にストップ・テーマを追加しようとしてしました。このバージョンではサポートされていません。

処置:

DRG-12600 ユーザー・データストア・プロシージャ名にセミコロンが含まれています。

原因: 指定されたプロシージャ名にセミコロンが含まれています。

処置: セミコロンを削除するか、プロシージャの名前を変更してください。正しい形式は、*packagename.procedurename* です。

DRG-12601 ユーザー・データストア・プロシージャ名:stringは無効です。

原因: プロシージャ名の形式が無効です。形式は、*packagename.procedurename* または *procedurename* である必要があります。

処置: PROCEDURE 属性の形式が、*packagename.procedurename* または *procedurename* であることを確認してください。

DRG-12602 索引所有者には、ユーザー・データストア・プロシージャ:stringへのアクセス権がありません。

原因: 索引所有者には、プロシージャに対する実行権限がありません。

処置: CTXSYS を使用して、プロシージャに対する実行権限を索引所有者に付与してください。

DRG-12603 CTXSYS は、ユーザー・データストア・プロシージャ: *string* を所有していません。

原因: CTXSYS に、ユーザー・データストア・プロシージャに対する実行権限がありません。

処置: パッケージが CTXSYS によって所有され、プロシージャが存在することを確認してください。

DRG-12604 ユーザー・データストア・プロシージャの実行に失敗しました。

原因: ユーザー・データストア・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

処置: データストア・プロシージャを確認してください。

DRG-12605 COLUMNS リストで列: *number* のデータ型はサポートされません。

原因: マルチ・データストアの列リストにある 1 つ以上の列が、マルチ・データストアでは処理できない型です。

処置: サポートされる型のみを使用するように、マルチ・データストアの列リストを変更してください。PL/SQL ファンクションを列リストで使用して、サポートされない型をサポートされる型に変換できます。

DRG-12606 COLUMNS リストの解析中にエラーが発生しました。

原因: マルチ・データストアの COLUMNS リストの解析中に Oracle エラーが発生しました。

処置: スタック上の次のエラーを参照して、適切に処置してください。

DRG-12607 MULTI_COLUMN 作業環境を作成できるのは ctxsys のみです。

原因: MULTI_COLUMN データストア・プリファレンスは、ctxsys ユーザーのみが作成できます。

処置: データベース管理者に連絡して、ctxsys として作業環境を作成してください。

DRG-12700 シード・ワードは必ずシングル・ワードです。

原因: シード・ワードがシングル・ワードではありません。

処置: シングル・ワードのシード・ワードを使用してください。

DRG-12800 NESTED_TYPE 属性には、接頭辞に所有者名が必要です。

原因: NESTED_TYPE 属性の接頭辞に所有者名がありません。

処置: NESTED_TYPE 属性を設定しなおして、接頭辞に所有者名を含めてください。

DRG-12801 型が無効です: *string*

原因: NESTED_TYPE が無効です。

処置: 所有者およびその型の属性名を確認してください。

DRG-12802 列の型が無効です: *string*

原因: 指定された列は、その型表には存在しません。

処置: 型表を確認してください。

DRG-12803 テキストのデータ型が無効です。

原因: ネストした表では、LONG および LONG RAW データ型はサポートされません。

処置: テキスト列をサポートされているデータ型に変更してください。

DRG-12900 操作: *string* (索引: *string*) はすでに開始しています。

原因: 指定された操作はすでに開始しています。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-13000 サブ・レクサーの追加または削除でエラーが発生しました。

原因: 次のエラーを参照してください。

処置: 次のエラーを参照してください。

DRG-13001 サブ・レクサーとマルチ・レクサーには同じ所有者が必要です。

原因: 指定されたサブ・レクサーの所有者は、そのサブ・レクサーを含むマルチリンガル・レクサー・プリファレンスの所有者ではありません。

処置: 所有者がマルチ・レクサー・プリファレンスの所有者と同じであるサブ・レクサーを指定してください。

DRG-13002 プリファレンス *string* は MULTI_LEXER ではありません。

原因: サブ・レクサーをアクセプトできないレクサー・プリファレンスに、サブ・レクサーを追加しようとしてしました。サブ・レクサーをアクセプトできるのは、マルチリンガル・レクサーのみです。

処置: マルチリンガル・レクサーを指定してください。

DRG-13003 プリファレンス *string* はサブ・レクサーとして使用できません。

原因: レクサーではないか、またはマルチリンガル・レクサーであるサブ・レクサーにプリファレンスが指定されました。

処置: マルチリンガル・レクサーではないサブ・レクサーを指定してください。

DRG-13004 言語が無効です。

原因: サブ・レクサーまたはストップ・ワードに、無効な言語が指定されました。

処置: 有効な言語を指定してください。有効な言語のリストについては、『Oracle9i グローバリゼーション・サポート・ガイド』を参照してください。

DRG-13005 alt_value は、NLS 言語名にできません。

原因: NLS 言語名が alt_value に指定されました。

処置: NLS 以外の値を指定してください。

DRG-13006 この言語用のサブ・レクサーが定義されていません。

原因：言語のサブ・レクサーを削除しようとしたますが、その言語にはサブ・レクサーが定義されていません。

処置：処置は必要ありません。

DRG-13007 デフォルトのサブ・レクサーに対する代替値を定義できません。

原因：デフォルトのサブ・レクサーに代替値を定義しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-13008 デフォルトのサブ・レクサーを削除できません。

原因：デフォルトのサブ・レクサーを削除しようとした。

処置：処置は必要ありません。

DRG-13009 マルチ・レクサー・プリファレンスにデフォルトのサブ・レクサーがありません。

原因：デフォルトのサブ・レクサーが定義されていないマルチ・レクサー・プリファレンスを使用しようとした。

処置：デフォルトのサブ・レクサーをマルチ・レクサー・プリファレンスに追加し、再試行してください。

DRG-13010 alt_value は、別のサブ・レクサーですすでに使用されています。

原因：レクサー・プリファレンスですすでに他のサブ・レクサーに使用されている alt_value を指定しようとした。

処置：異なる alt_value を指定してください。

DRG-13011 マルチ・レクサーを使用する場合は、言語列の指定が必要です。

原因：マルチ・レクサー・プリファレンスを使用して索引を作成しようとしたが、言語列が指定されていません。

処置：言語列を指定してください。

DRG-13012 言語列には、char、varchar または varchar2 型が必要です。

原因：CHAR、VARCHAR または VARCHAR2 型ではない言語列が指定されました。

処置：正しい型の言語列を指定してください。

DRG-13100 索引がパーティション化されていません

原因：パーティション化されていない索引で、パーティション・レベル操作を起動しようとした。

処置：適切な索引レベル操作を起動してください。

DRG-13101 パーティション *string* はこの索引に存在しません

原因: 存在しないパーティション名を指定しました。

処置: 正しいパーティション名を指定してください。

DRG-13102 索引パーティション名を指定する必要があります

原因: 索引パーティション名を指定せずに、パーティション・レベル操作をパーティション索引で起動しようとした。

DRG-13200 ディクショナリ・ファイル *string* のロードに失敗しました

原因: ディクショナリ・ファイルのロードに失敗しました。

処置: ディクショナリ・ファイルが `ORACLE_HOME/ctx/data/kolx` に存在するか、またはアクセス権限が使用可能かを確認してください。

DRG-50000 requested size larger than pagesize

原因: 要求されたメモリー・サイズがページ・サイズよりも大きいです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50100 CORE LSF error: *string*

原因: CORE LSF エラーを検出しました。

処置: このコア・エラーを調べて、適切に処置してください。

DRG-50101 CORE LEM error: *string*

原因: エラー・スタックの読取り中に CORE LEM エラーを検出しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50300 error sending message from server to client

原因: 内部データベース・エラーまたは内部 Oracle Text エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50301 server error reading request queue

原因: データベース・エラーまたは内部 Oracle Text エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50302 OOB ブレーク・キュー読込み中のサーバー・エラーで、割込みの検出ができません。

原因: データベース・エラーまたは内部 Oracle Text エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50303 error in bufout

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50304 error in execute()

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50305 getcmd() called when one of the queue names is NULL

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50400 maximum number of fuzzy match candidates exceeded: *string*

原因: これは内部エラーです。索引用語が多すぎたために、発生した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50401 failed to retrieve fuzzy match candidates from db: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50600 assertion failed

原因: 内部チェック条件に違反しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50601 fatal error

原因: 致命的なエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50603 unrecognized operation code *string*

原因: 認識できない操作コードが検出されました (切替えデフォルトに達しました)。

処置: .h ファイルのバージョンを確認してください。

DRG-50607 failed to obtain column info for cid *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50608 unexpected end of data

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50609 pipe internal error

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50610 internal error: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50700 unknown command (args=queue, command)

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50701 error in listener.get_cmd()

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50702 error in drttsleep()

原因: テスト機能の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50703 listener startup error

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50704 Net8 リスナーが実行されていないか、または外部プロシージャを起動できません。

原因: Net8 は、要求を完了するために外部コードをコールする必要がありますが、EXTPROC エージェント・プロセスを起動できませんでした。

処置: 外部プロシージャが構成されているが、実行されていない場合は、リスナーを起動してください。リスナーが実行されている場合は、外部プロシージャを起動するように構成し、再起動してください。詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

DRG-50800 failed to open cursor

原因: 内部問合せのために、オープンされているカーソルが多すぎます。

処置: カーソル・クリーンアップ・ルーチンを実行してください。

DRG-50801 failed to parse cursor

原因: 内部問合せで解析エラーが発生しました。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50802 failed to bind input

原因: 内部問合せでバインド・エラーが発生しました。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50803 failed to define output

原因: 内部問合せで定義エラーが発生しました。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50804 failed to exec cursor

原因: 内部問合せで実行エラーが発生しました。

処置: コードをデバッグしてください。

DRG-50805 failed to close cursor

原因: 内部問合せでカーソルのクローズに失敗しました。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50806 failed to rollback

原因: トランザクションのロールバックに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50807 failed to commit

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50850 *string*

原因: これは ORA エラーです。

処置: このマニュアルの ORA エラーの章を参照してください。

DRG-50851 SQL execute failed

原因: SQL 文の実行に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50852 failed to turn SQL trace on

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50853 fetch error

原因: 内部問合せでフェッチ・エラーが発生しました。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50855 logoff fail

原因: データベースからログオフできませんでした。

処置: コードのバージョンを確認してください。

DRG-50857 oracle error in *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-50858 OCI error: *string*

原因: 一般的な OCI エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50859 failed to allocate statement handle

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50860 failed to prepare statement

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50861 failed to obtain type descriptor

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50862 failed to create new Oracle object

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50863 string assignment failed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50864 number assignment failed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50865 failed to append to collection

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50866 failed to resize string

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50867 failed to free Oracle object

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50868 failed to free statement handle

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50900 行 *string*、列 *string* のテキスト問合せパーサー・エラー

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50901 行 *string*、列 *string* のテキスト問合せパーサー構文エラー

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50902 予期しない文字 *string*

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50903 無効な重さ *string*

原因: 無効な重さです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50904 重さ *string* は有効範囲 0.1 から 10.0 以外です。

原因: 無効な重さです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50905 無効なスコアしきい値 *string*

原因: 無効なスコアしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50906 スコアしきい値 *string* 整数ではありません。

原因: 無効なスコアしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50907 スコアしきい値 *string* は有効範囲 1 から 100 以外です。

原因: 無効なスコアしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50908 無効なドキュメントの最大番号 *string*

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50909 ドキュメントの最大番号 *string* は整数ではありません。

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50910 要求した最大ドキュメント数 *string* は有効範囲 1 から 65535 以外です。

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50911 無効な最初のドキュメント番号 *string*

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50912 最初のドキュメント番号 *string* は整数ではありません。

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50913 要求された最初のドキュメント *string* は正数ではありません。

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50914 無効な最終ドキュメント番号 *string*

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50915 最終ドキュメント番号 *string* は整数ではありません。

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50916 最終ドキュメント *string* が最初のドキュメント以下です。

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50917 テキスト問合せ文字列がエスケープで終わっています。

原因: 一致しないエスケープ文字があります。

処置: エスケープをオフにしてください。

DRG-50918 誤って組み合されたクローズ・エスケープ文字

原因: オープン・エスケープ文字とクローズ・エスケープ文字が一致していません。

処置: オープン・エスケープとクローズ・エスケープを一致させてください。

DRG-50919 NEAR オペランドは句、同等化またはその他の NEAR 式です。

原因: NEAR 演算子のオペランドの型が無効です。

処置: オペランドの型を修正してください。

DRG-50920 句の一部が句または同等化ではありません。

原因: 句の一部である式の型が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50921 EQUIV オペランドが単語または他の EQUIV 式ではありません。

原因: EQUIV 演算子のオペランドの型が無効です。

処置: オペランドの型を修正してください。

DRG-50922 PL/SQL 式が *string* で失敗しました。

原因: PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を返している可能性があります。

処置: PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を返している可能性があります。

DRG-50923 could not rewrite PL/SQL for execution

原因: 解析内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50924 PL/SQL 中の PL/SQL はサポートされていません。

原因: PL/SQL ファンクション・コールは、別の PL/SQL コールを返しました。

処置: 再帰 PL/SQL を削除してください。

DRG-50925 PL/SQL のパーサー戻り値はできませんでした。

原因: PL/SQL ファンクションから返された文字列を解析できませんでした。

処置: コールする PL/SQL ファンクションを修正してください。

DRG-50926 無効なテキスト問合せ文字列

原因: 問合せ文字列が空か、無効な文字で構成されています。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50927 parser failed on line *string* on column *string*

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50928 reserved failure on line *string* on column *string*

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50929 parser internal on line *string* on column *string*

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50930 parser memory failure on line *string* on column *string*

原因：メモリーの割当てエラーまたは解放エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50931 parser not opened

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50932 parser preference initialization failed

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50933 parser hash insert failure

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50934 parser hash create failure

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50935 parser component failure

原因：これは内部エラーです。

処置：他のエラーを調べてください。

DRG-50936 query word *string* is too complex for index

原因：これは内部エラーです。

処置：他のエラーを調べてください。

DRG-50937 問合せが複雑すぎます。

原因：問合せが複雑すぎます。

処置：問合せを小さくしてください。

DRG-50938 parser already bound

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50939 parser not set

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50940 parser not parsed

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50941 PL/SQL ファンクション *string* は実行できません。

原因：PL/SQL ファンクションが存在していないか、ユーザーによって実行されていない可能性があります。

処置：問合せに指定された PL/SQL ファンクションを修正してください。

DRG-50942 エラー：*stringstring*

原因：PL/SQL ファンクションでエラーが見つかりました。そのエラー・メッセージです。

処置：エラー・メッセージを参照してください。

DRG-50943 行 *string*、列 *string* の問合せトークンが長すぎです。

原因：問合せトークンの長さが 256 バイトを超えています。

処置：問合せを修正してください。

DRG-50944 NEAR 演算子はテーマ索引はサポートされていません。

原因：NEAR 演算子がテーマ索引問合せに使用されています。

処置：NEAR 演算子を削除して、問合せを修正してください。

DRG-50945 無効なテーマ索引のための問合せ句

原因：テーマ索引問合せに不正な句が指定されています。

処置：問合せを修正してください。

DRG-50946 無効なテーマ索引のための単一演算子

原因: STEM、ファジー・マッチおよび SOUNDEX は、テーマ索引では許可されていません。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50947 ABOUT 句はテーマ索引以外では許可されていません。

原因: 問合せに ABOUT 句が含まれていますが、それをサポートするテーマ索引がありません。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50948 ABOUT 句はテキスト索引がないので要求されました。

原因: テキスト索引がありませんが、問合せに ABOUT 句が含まれていません。1 つのみテーマ索引が存在する状態で、それぞれの検索語が ABOUT 句に属している必要があります。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50949 SQE が多すぎます。

原因: SQE が多すぎて拡張できません。

処置: 問合せまたは SQE を修正してください。

DRG-50950 循環 SQL が見つかりました。

原因: 循環 SQE 参照が見つかりました。

処置: 問合せまたは SQE を修正してください。

DRG-50951 属性 *string* のエレメント名を決定できません。

原因: A/*/@B、A//@B などの XPATH 式はサポートされていません。

処置: 問合せを書きなおしてください。

DRG-50952 セクションは PATH セクション・グループではありません。

原因: XPATH 式が、PATH セクション・グループを使用しないで作成されたセクションを持っています。

処置: XPATH 式を使用しないように問合せを書きなおすか、PATH セクション・グループを持つ索引を作成してください。

DRG-50953 セクション名を判断できません。

原因: XPATH 式は、ピリオド (.) またはアスタリスク (*) 以外で終了する必要があります。

処置: ピリオド (.) またはアスタリスク (*) 以外で終了するように、XPATH 式を書きなおしてください。

DRG-50954 問合せに関する CTXCAT にはテーマ索引が必要です

原因：テーマ索引がありませんが、CATSEARCH 問合せに ABOUT 句が含まれています。CTXCAT 索引に ABOUT 問合せを使用する前に、テーマ索引を作成する必要があります。

処置：テーマ索引を作成してください。

DRG-51002 unexpected component failure

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51017 unable to open storage buffer for fuzzy match candidates

原因：これは内部エラーです。メモリが不十分である可能性があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51019 ファジー・マッチ・データ・ファイル: *string* は無効なフォーマットで開けません。

原因：ファジー・マッチ情報を含むオペレーティング・システム・ファイルをオープンできませんでした。または、ファイルが無効なフォーマットでした。

処置：ファジー・マッチ・データ・ファイルの適切な位置について、Oracle Text のドキュメントを調べ、ファイルの破損状態を確認してください。

DRG-51020 out of memory in fuzzy matcher

原因：これ以上メモリーを割り当てるできません。

処置：システム管理者に連絡してください。

DRG-51021 undefined error in fuzzy matcher

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51022 undefined error in stemmer

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51023 stemmer ファイルを開けません。

原因：stemmer 辞書を含むオペレーティング・システム・ファイルをオープンできないか、またはファイルの内容が正しくありません。

処置：Oracle Text のドキュメントを参照して、stemmer 辞書が正しい位置にあるかを確認し、ファイルの破損状態を確認してください。

DRG-51024 out of memory in stemmer

原因: これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-51025 an invalid character was passed to the stemmer

原因: stemmer に入力されたワードに無効な文字があります。

処置: stem するワードから無効な文字を削除してください。

DRG-51028 unexpected error in fuzzy match expansion: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51029 unexpected error in stemmer expansion: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51030 wildcard query expansion resulted in too many terms

原因: これはユーザー・エラーです。

処置: ワイルド・カードを使用した問合せの範囲を絞り込んでください。

DRG-51100 プログラムの項の索引が正しくありません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51101 項の作成のコールバックが失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51200 open keymap failed for index id = *string*

原因: 指定された列 ID のキー・マップの初期化に失敗しました。

処置: 索引 ID を確認してください。内部エラーが原因である場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51201 failed to perform DDL operation: database object *string*

原因: DDL 操作で、テキスト・キーのマッピング・サービスに失敗しました。

処置: Oracle エラーを調べて、対処措置を行ってください。

DRG-51202 invalid key mapping operation mode : *string*

原因: 無効なキー・マップ・モード値が見つかりました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51203 found doc ids without mappings during get maps

原因: doc ID によるマッピングの取得中に、マッピングのない doc ID が見つかりました。索引データおよびキー・マップ・サービスの同期がとれていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51300 error getting dml Queue lock

原因: DML キューの処理中、サーバーは停止し、ロックされた状態になる必要があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51301 error releasing dml Queue lock

原因: 内部データベース・エラー、または使用中にロックが削除された可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51309 Get_batch() failed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51310 batch_done() failed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51311 DML lock handle previously allocated

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51312 DML lock internal error string

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51403 New index name not provided by kernel

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51801 ファイル: *string* のシークに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51802 ファイル: *string* の読み込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51803 ファイル: *string* のオープンに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51804 ファイル: *string* への書き込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52100 *string* returned internal error code *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52101 an invalid session handle was passed to Oracle Text

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52102 an invalid transaction handle was passed to Oracle Text

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52103 the Oracle Text environment could not reset

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52104 the Oracle Text environment could not initialize

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52105 no delete function found

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52106 Oracle Text service results could not be committed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52107 ctxkbt internal error

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52108 failed to delete knowledge base user extension

原因: これは内部エラーです。

処置: ファイルのアクセス権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52109 error in reading thesaurus

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52110 error in writing extended knowledge base

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52111 error in knowledge base cache

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52200 エクスポート中の無効な状態

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52201 Oracle Text バージョンには互換性がありません

原因: 互換性のないバージョンの Oracle Text のデータをインポートしようとしてしました。

処置: ソースおよびターゲットの Oracle Text のバージョンに互換性があることを確認してください。

DRG-52202 無効なクラス名: *string*

原因: 指定したクラス名が無効です。

処置: 有効なクラス名を指定してください。

DRG-52203 無効なオブジェクト名: *string*

原因: 指定したオブジェクト名が無効です。

処置: 有効なオブジェクト名を指定してください。

DRG-52204 索引登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52205 クラス *string* とオブジェクト *string* はすでに索引に存在しています。

原因: クラスおよびオブジェクトのエントリが重複しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52206 索引オブジェクト登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52207 指定した属性: *string* が存在しません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52208 指定した属性: *string* はすでに存在しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52210 属性: *string* の値を登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Time Series メッセージ (TS)

Time Series の詳細は、『Oracle Time Series User's Guide』を参照してください。

TS-00500 internal error

原因：これは、Time Series 例外に対する内部エラーの一括エラー番号です。処理で例外条件が検出されたことを示します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TS-00501 the input patterns are not of the same length

原因：入力カレンダーに異なる長さのパターンがあります。

処置：同じ長さのパターンを持つカレンダーを使用してください。

TS-00502 patanchor cannot be on the 29th or 30th day of the month

原因：Time Series が、その月の 29 日または 30 日にあるパターン・アンカーを持つカレンダーを検出しました。

処置：すべてのパターン・アンカーがその月の 29 日または 30 日でないことを確認してください。

TS-00503 patanchor can be null only for all-zero or all-one patterns

原因：パターン・アンカーは NULL ですが、NULL *patanchor* が受け入れられるパターンではありません。アンカーは、すべて 0 またはすべて 1 のパターンの場合のみ NULL にできます。

処置：パターン・アンカー日付を指定するか、パターンを調整してください。

TS-00504 illegal validflag parameter was passed to DisplayValCal/DisplayValTS

原因：無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValTS がコールされました。

処置：それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力のみで、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

TS-00505 illegal outmessage parameter was passed to DisplayValCal/DisplayValTS

原因: 無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValTS がコールされました。

処置: それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力のみで、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

TS-00506 the calendar pattern is null

原因: Time Series が、NULL パターンを持つカレンダーを検出しました。

処置: すべてのカレンダーが、NULL パターンを持たないようにしてください。

TS-00507 the calendar has an imprecise mindate or maxdate

原因: Time Series が、不正確な MINDATE または MAXDATE を持つカレンダーを検出しました。

処置: すべてのカレンダーの MINDATE または MAXDATE が正確であることを確認してください。

TS-00508 a NULL patanchor is illegal for calendars with frequencies - 5,7,10,16,18

原因: Time Series が、次の頻度で、NULL パターン・アンカーを持つカレンダーを検出しました。

- 週 (5)
- 四半期 (7)
- 10 日間 (10)
- 半月 (16)
- 半年 (18)

処置: 5、7、10、16、18 の頻度値を持つすべてのカレンダーに、NULL パターン・アンカーがないことを確認してください。

TS-00509 the input calendars have unequal pattern bits greater than 1

原因: Time Series が、パターン・ビットが 1 より大きく、対応するパターン・ビットが等しくないパターンを持つカレンダーを検出しました。Union & Intersection 操作では、ビットが 1 より大きい場合、2 つの入力カレンダーは一致するパターン・ビットを持っている必要があります。

処置: 渡されたカレンダーのパターン・ビットが一致することを確認してください。

TS-00510 datetab has dates outside the bounds of the calendar

原因: DeriveExceptions が、入力カレンダーの MINDATE/MAXDATE の範囲外の日付を検出しました。

処置: MINDATE/MAXDATE を調整するか、入力 DateTab から不要な日付を削除してください。

TS-00511 calendar pattern bits array is either empty or null

原因：Time Series が、空または NULL パターン・ビット配列を持つカレンダーを検出しました。

処置：カレンダーを更新して、有効なパターンを含めてください。

TS-00512 invalid frequency value

原因：Time Series が、サポートされていない頻度を持つカレンダーを検出しました。

処置：すべてのカレンダーを、サポートされている頻度（1、2、3、4、5、6、7、8、10、16、18）に制限してください。

TS-00513 the input dates are in the wrong order

原因：指定された日付範囲の順序が逆です。

処置：日付範囲では、必ず早い方の日付を先に指定してください。

TS-00514 calendar pattern has an imprecise anchor date

原因：Time Series が、誤った精度のアンカーを持つカレンダーを検出しました。

処置：アンカーの精度を調整して、カレンダー頻度を一致させてください。

TS-00515 input date is beyond the calendar mindate/maxdate

原因：Time Series が、MINDATE より小さい、または MAXDATE より大きい日付を検出しました。

処置：入力したすべての日付が、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

TS-00516 input date is greater than calendar maxdate

原因：Time Series が、MAXDATE より大きい日付を検出しました。

処置：入力したすべての日付が、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

TS-00517 unable to set precision of calendar pattern anchor

原因：Time Series が、頻度を設定できないパターン・アンカーを持つカレンダーを検出しました。アンカーに設定した頻度が、許可された Oracle 日付を超えています。

処置：カレンダー・パターン・アンカーが最小 Oracle 日付（ユリウス 1）の頻度単位以上であることを確認してください。パターン・アンカーは、[Oracle MinDate + 頻度, Oracle Maxdate] の範囲内である必要があります。

TS-00519 the series attribute of the time series type is null

原因：Time Series が、時系列内で NULL 系列を検出しました。

処置：すべての時系列が、確実に NULL 系列の構成要素を持たないようにしてください。

TS-00520 the input calendar is null

原因: Time Series が、NULL カレンダを検出しました。

処置: すべてのカレンダが NULL ではないことを確認してください。

TS-00522 error scaling date to calendar

原因: 入力した日付は指定されたカレンダへスケールできません。

処置: 指定されたカレンダが有効で、カレンダの MINDATE/MAXDATE が可能性のあるすべてのタイム・スタンプ値を含んでいることを確認してください。

TS-00523 the input date is null

原因: スケールアップが NULL 日付を検出しました。NULL 日付に対して定義されているスケール方法はありません。

処置: スケールアップへのすべての入力が、NULL でないことを確認してください。

TS-00525 the input time series is null

原因: Time Series が、NULL 時系列を検出しました。

処置: すべての時系列が、小さい構成要素まで、NULL でないことを確認してください。

TS-00526 the input time series has a null calendar

原因: Time Series が、時系列内で NULL カレンダを検出しました。

処置: すべての時系列が、有効な (NULL ではない) カレンダを持つことを確認してください。

TS-00527 error scaling up to the target calendar frequency

原因: スケールアップが、入力した時系列のカレンダより短い頻度のターゲット・カレンダを検出しました。

処置: スケールアップでは、ターゲット・カレンダは同じ頻度か、それより長い頻度に行ってください。

TS-00528 calendar has a null mindate or a null maxdate

原因: Time Series が、NULL の MINDATE または MAXDATE を持つカレンダを検出しました。

処置: すべてのカレンダが、有効な MINDATE または MAXDATE を持つことを確認してください。

TS-00529 calendar mindate is greater than its maxdate

原因: Time Series が、MAXDATE より大きい MINDATE を持つカレンダを検出しました。

処置: すべてのカレンダが、有効な MAXDATE 以下の MINDATE を持つことを確実にしてください。

TS-00530 series indexes must be greater than 0

原因: GetNthElement が 1 未満の索引を検出しました。

処置: 0 より大きい索引を使用してください。

TS-00531 the input time series has a null calendar reference

原因: Time Series が、NULL のカレンダー参照を持つ時系列を検出しました。

処置: すべてのカレンダーが有効であることを確実にしてください。

TS-00532 unable to DEREf calendar referenced by time series

原因: Time Series が、カレンダー参照を非参照にできません。

処置: 問合せを実行しているユーザーが、オブジェクトを保存しているカレンダー表の選択権限を持っていること、および正しいカレンダーが時系列参照により参照されていることを確認してください。

TS-00533 the time series has data beyond its calendar mindate/maxdate

原因: Time Series が、MINDATE/MAXDATE を超える日付を持つ時系列を検出しました。

処置: すべてのタイム・スタンプが、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にあることを確認してください。

TS-00534 the number of rows requested must be a positive integer

原因: 要求した行数が 0 未満でした。

処置: 正数を使用して、要求する行数を指定してください。

TS-00535 the time series ref has a null table_name parameter

原因: Time Series が、NULL の TABLE_NAME を持つ時系列参照を検出しました。

処置: すべての時系列参照に有効な表名が含まれていることを確認してください。

TS-00536 the time series ref has a null tstamp_colname parameter

原因: Time Series が、NULL の TSTAMP_COLNAME を持つ時系列参照を検出しました。

処置: すべての時系列参照に有効なタイム・スタンプ列名が含まれていることを確認してください。

TS-00537 the time series ref has a null value_colname parameter

原因: Time Series が、NULL の VALUE_COLNAME を持つ時系列参照を検出しました。

処置: すべての時系列参照に有効な列名が含まれていることを確認してください。

TS-00538 the time series ref has a null qualifier_colname parameter

原因: Time Series が、NULL の QUALIFIER_COLNAME を持つ時系列参照を検出しました。

処置: すべての時系列参照に有効な修飾子列名が含まれていることを確認してください。

TS-00539 the time series ref has a null qualifier_value parameter

原因: Time Series が、NULL の QUALIFIER_VALUE を持つ時系列参照を検出しました。

処置: すべての時系列参照に有効な修飾子値が含まれていることを確認してください。

TS-00540 the projected lead timestamp is beyond the calendar mindate/maxdate

原因: 指定されたパラメータが、MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイム・スタンプになります。

処置: リード・タイム・スタンプやリード単位を調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

TS-00541 the projected lag timestamp is beyond the calendar mindate/maxdate

原因: 指定されたパラメータが、MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイム・スタンプになります。

処置: ラグ・タイム・スタンプやラグ単位を調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

TS-00542 the window size for mavg/msum must be >= 1

原因: moving average/sum に渡されたウィンドウ・サイズ・パラメータが、0 以下でした。

処置: 1 以上のウィンドウ・サイズ・パラメータを使用してください。

TS-00547 the input fill type is invalid

原因: Fill が、0 より小さいか、2 より大きい塗りつぶしタイプでコールされました。

処置: 有効な塗りつぶしタイプを使用してください。0、1 または 2 を入力してください。

TS-00548 the target timestamp for leading is invalid

原因: Lead へのターゲット・タイム入力が、入力した時系列カレンダーに関して無効です。

処置: Lead 関数に入力したターゲット・タイムは、入力した時系列カレンダーに関して有効なタイム・スタンプであることを確認してください。

TS-00551 error parsing the SQL statement with the time series ref

原因: 時系列参照で構成された SQL 文が無効でした。

処置: 時系列参照の妥当性を次のように検証してください。

- 時系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証する。
- 表名や列名に、空白や無効な句読点がないかどうかを確認する。
- 参照されている表の選択権限がユーザーにあるかを確認する。
- 表名がスキーマ名で修飾されているかどうかを確認する。

TS-00552 error executing the SQL statement with the time series ref

原因: 時系列参照で構成された SQL 文が無効でした。

処置: 時系列参照の妥当性を次のように検証してください。

- 時系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証する。
- 表名や列名に、空白や無効な句読点がないかどうかを確認する。
- 参照されている表の選択権限がユーザーにあるかを確認する。
- 表名がスキーマ名で修飾されているかどうかを確認する。

TS-00553 divide by zero error

原因: TSDivide に対して 0 で除算しようとしてしました。

処置: 定数による除算の場合、定数が 0 でないことを確認してください。

TS-00554 the input calendar patterns are not equal

原因: DeriveExceptions には、参照時系列のカレンダが処理中の時系列と同じパターンを持っている必要があります。

処置: DeriveExceptions が、同じパターンを持つ時系列のみでコールされていることを確認してください。

TS-00555 the input calendar frequencies are not equal

原因: DeriveExceptions には、参照時系列のカレンダが処理中の時系列と同じ頻度を持っている必要があります。

処置: DeriveExceptions が、同じ頻度を持つ時系列のみでコールされることを確認してください。

TS-00556 mindate of the ref calendar exceeds the mindate of the target calendar

原因: DeriveExceptions が、ターゲット時系列のカレンダより大きい MINDATE を持つ参照時系列のカレンダを検出しました。

処置: DeriveExceptions が、適切な時系列のみでコールされることを確認してください。

TS-00557 maxdate of the target calendar exceeds the maxdate of the ref calendar

原因: DeriveExceptions が、ターゲット時系列のカレンダより小さい MAXDATE を持つ参照時系列のカレンダを検出しました。

処置: DeriveExceptions が、適切な時系列のみでコールされることを確認してください。

TS-00558 the target calendar should have empty on/off exception lists

原因: DeriveExceptions が、空でない例外リストを持つターゲット時系列を検出しました。

処置: DeriveExceptions が、空の例外リストを持つターゲット時系列のみでコールされていることを確認してください。

TS-00559 the caltype field in the calendar has an illegal value

原因: Time Series が、無効のカレンダ・タイプを持つカレンダを検出しました。

処置: すべてのカレンダが、有効なカレンダ・タイプ値を持つことを確認してください。有効なカレンダ・タイプ値は、(Exception-driven calendars = 0) です。

TS-00560 the input data includes imprecise timestamps

原因: DeriveExceptions ファンクションが、時系列（または datetab）入力に不正確な日付を検出しました。

処置: DeriveExceptions をコールする前に、時系列（または datetab）内のすべてのタイム・スタンプが、ターゲット・カレンダに関して正確であることを確認してください。

TS-00561 begin_create_ts_group has not been called

原因: BEGIN_CREATE_TS_GROUP は、このプロシージャがコールされる前にコールする必要があります。

処置: このファンクションをコールする前に、BEGIN_CREATE_TS_GROUP をコールしてください。

TS-00562 the column name is a duplicate

原因: 時系列に指定された 2 つの名前が同じでした。

処置: 各時系列には、一意の列名を付けてください。この列名が、TSTAMP 列の明示的列名やデフォルトの列名または GROUP_NAME 列の列名と競合しないことを確認してください。デフォルト値を判断するには、GET_ATTRIBUTES を使用してください。

TS-00563 missing column attributes

原因: 時系列が定義列なしで定義されました。

処置: ADD_VARCHAR2、ADD_NUMBER または ADD_INTEGER で時系列に 1 つ以上の列を定義してください。

TS-00564 unknown storage model

原因: 指定された時系列格納モデルが、有効な格納モデルに対応していません。

処置: プロシージャが、有効な格納モデル記述子「OBJECT」または「FLAT」でコールされていることを確認してください。

TS-00565 wrong storage model

原因: 時系列プロシージャは、現在定義されている格納モデルではコールできません。

処置: プロシージャが有効な格納モデル記述子「OBJECT」または「FLAT」でコールされていることを確認してください。

TS-00566 unknown time series group

原因: 指定された時系列の定義が不明です。

処置: コールが、既知の時系列定義を確実に参照するようにしてください。

TS-00567 unsupported datatype

原因: 時系列に指定された列データ型はサポートされていません。

処置: 時系列の列データ型が、NUMBER、INTEGER または VARCHAR2 であることを確認してください。

TS-00568 illegal call sequence

原因: 正しい順序でファンクションがコールされていません。

処置: 正しい順序でファンクションをコールしてください。

TS-00569 not all attributes dropped

原因: 時系列グループに属するオブジェクトのすべては削除できませんでした。これは基礎となるオブジェクトがすでに存在していないか、他の時系列定義が基礎となるオブジェクトを参照しているためです。

処置: オブジェクトを直接削除するための権限を取得してください。

TS-00570 too many columns declared

原因: 時系列に宣言された列が多すぎます。許可される最大数に制限については、ドキュメントを参照してください。

処置: 不要な列を格納するための時系列を宣言してください。

TS-00571 detail table must exist

原因: デティール表が存在しない場合、ADD_EXISTING_COLUMN は不正です。

処置: ADD_VARCHAR2_COLUMN または ADD_NUMBER_COLUMN プロシージャをコールしてください。

TS-00572 column not found

原因: ADD_EXISTING_COLUMN がディテール表に存在しない列に対してコールされました。

処置: 既存のディテール表に、NUMBER または VARCHAR2 列表を指定してください。

TS-00573 detail table must not exist

原因: ディテール表が存在しない場合、ADD_VARCHAR2_COLUMN および ADD_NUMBER_COLUMN は不正です。

処置: ディテール表が存在する場合、ADD_COLUMN ファンクションをコールしてください。

TS-00574 log file is already open

原因: ログ・ファイルがすでにオープンしているとき、OPEN_LOG がコールされました。

処置: OPEN_LOG をコールする前に、CLOSE_LOG をコールしてカレントのログ・ファイルをクローズしてください。

TS-00575 parameters conflict with detail_table_exists

原因: DETAIL_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、DETAIL_TABLE_ATTR、DETAIL_TABLE_PK または TSNAME_LENGTH フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を DETAIL_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、DETAIL_TABLE_ATTR、DETAIL_TABLE_PK および DETAIL_TSNAME_LENGTH パラメータは NULL にしてください。

TS-00576 parameters conflict with map_table_exists

原因: MAP_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、MAP_TABLE_ATTR または MAP_TABLE_PK フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を MAP_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、MAP_TABLE_ATTR または MAP_TABLE_PK パラメータは NULL にしてください。

TS-00577 parameters conflict with cal_table_exists

原因: CAL_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、CAL_TABLE_ATTR または CAL_TABLE_PK フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を CAL_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、CAL_TABLE_ATTR または CAL_TABLE_PK パラメータは NULL にしてください。

TS-00578 detail table not found

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたディテール表が見つかりませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたディテール表が存在することを確認してください。

TS-00579 the tstamp field specified in SET_FLAT_ATTRIBUTES does not exist

原因: TSTAMP フィールドが既存のディテール表に見つかりません。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された TSTAMP 列名が、ディテール表に存在することを確認してください。

TS-00580 the tstamp field specified is not a DATE column

原因: コールに DATE データ型でない TSTAMP フィールドを指定しました。

処置: DATE データ型である TSTAMP フィールドを指定してください。

TS-00581 the tsname field specified in SET_FLAT_ATTRIBUTES does not exist

原因: TSNAME フィールドが既存のディテール表に見つかりません。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された TSNAME 列名が、ディテール表に存在することを確認してください。

TS-00582 the tsname field specified is not a VARCHAR2 column

原因: コールは VARCHAR2 データ型でない TSNAME フィールドを指定しました。

処置: VARCHAR2 データ型である TSNAME 列を指定してください。

TS-00583 existing detail table missing primary key constraint

原因: 必要な主キー制約が指定されていないディテール表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: ディテール表が、TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00584 existing detail table missing index with tsname as first column

原因: TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないディテール表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: ディテール表が、TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00585 existing detail table missing index with tstamp as second column

原因: TSTAMP フィールドを主キー索引の 2 番目の列として指定していないディテール表で時系列を作成しようとしてしました。

処置: ディテール表が、TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00586 calendar table not found

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダー表が見つかりませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたカレンダー表が存在することを確認してください。

TS-00587 calendar table not correct type

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダー表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表ではありませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダー表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表であることを確認してください。

TS-00588 calendar table missing primary key constraint

原因: 必要な主キー制約が指定されていないカレンダー表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: カレンダー表が、NAME フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00589 existing calendar table missing index with NAME as first column

原因: NAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないカレンダー表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: カレンダー表が、NAME フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00590 map table not found

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているマップ表が見つかりませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたマップ表が存在することを確認してください。

TS-00591 existing map table missing CALNAME field

原因: 指定したマップ表には、VARCHAR2(256) 型の CALNAME と呼ばれるフィールドが必要です。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00592 the CALNAME field in the existing map table is not a VARCHAR2 field

原因: 指定した既存のマップ表には、VARCHAR2 型の CALNAME と呼ばれるフィールドが必要です。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00593 the CALNAME VARCHAR2 field is not of length 256

原因: 指定した既存のマップ表には、長さ 256 の CALNAME と呼ばれる VARCHAR2 フィールドが必要です。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00594 the existing map table is missing the tname column

原因: 指定した既存のマップ表には、ディテール表の TSNAME 列と同じ名前のフィールドが必要です。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00595 the tname field in the map table is not a VARCHAR2 column

原因: 既存のマップ表内の TSNAME フィールドは、VARCHAR2 フィールドである必要があります。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00596 the length of the tname field in the existing map table is incorrect

原因: 既存のマップ表にある TSNAME フィールドの長さは、ディテール表にある TSNAME フィールドの長さと同じである必要があります。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00597 the map table is missing a primary key constraint

原因: 指定されたマップ表には、TSNAME フィールドに主キー制約が必要です。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00598 the map table is missing an index on the tname field

原因: TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないマップ表で時系列を作成しようとしました。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00599 illegal input param values

原因: 入力パラメータの値または組合せが不正です。

処置: コールで入力したパラメータの値および組合せが正しいかどうかを確認してください。

TS-00600 update of tstamp value is illegal

原因: instead of トリガーが、TSTAMP フィールドを更新しようとしています。

処置: 時系列で TSTAMP フィールドを更新することはできません。

TS-00601 update of tname value is illegal

原因: 更新トリガーが、TSNAME フィールドを更新しようとしています。

処置: 時系列で TSNAME フィールドを更新することはできません。

TS-00602 no calendar found

原因: 挿入トリガーまたは削除トリガーが、標準の時系列のカレンダの取出しに失敗しました。

処置: 更新中の時系列に、トリガーと関連付けられたカレンダーがあるかどうかを確認してください。

TS-00603 tstamp date not valid

原因: カレンダーに対して有効でないタイム・スタンプ日付値を使用して挿入が行われました。

処置: タイム・スタンプ日付が、時系列のカレンダーに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00604 time stamp must be next valid date before startdate

原因: 開始日付前の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしてしました。

処置: タイム・スタンプ日付が、時系列のカレンダーに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00605 time stamp must be next valid date after enddate

原因: 終了日付後の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしてしました。

処置: タイム・スタンプ日付が、時系列のカレンダーに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00606 cannot delete a legal date in the middle of a time series

原因: 時系列の途中でタイム・スタンプを削除しようとしてしました。

処置: 時系列の終わりでタイム・スタンプを削除してください。

TS-00607 time series group exists

原因: 指定した時系列グループはすでに存在しています。

処置: BEGIN_CREATE_TS_GROUP が、まだ存在していない時系列を指定していることを確認してください。

TS-00608 no time series instance found

原因: 挿入トリガーまたは削除トリガーが、時系列インスタンスの取出しに失敗しました。

処置: 指定された時系列インスタンスが存在しているかどうかを確認してください。

TS-00609 begin_create_ts_group already called

原因: 時系列グループの定義中に、BEGIN_CREATE_TS_GROUP をコールしようとしてしました。

処置: CANCEL_CREATE_TS_GROUP をコールするか、開始された時系列グループ定義を完了してください。

TS-00610 nothing to cancel

原因: 開始されている時系列グループ定義がないときに、`CANCEL_CREATE_TS_GROUP` をコールしようとしてしました。

処置: 時系列定義が開始されていないときに、このコールを実行しないでください。

TS-00611 the frequency is not valid

原因: ファンクションに渡された頻度が、有効なカレンダー頻度値に対応しません。

処置: コールに有効なカレンダー頻度値を渡していることを確認してください。

TS-00612 the time series type specified is not supported

原因: 作成する時系列オブジェクト表に誤った型が指定されています。

処置: 時系列オブジェクト表でサポートされる型は、`ORDSYS.ORDTNUMSERIEA` および `ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES` のみです。

TS-00613 time series object table not found

原因: `SET_OBJECT_ATTRIBUTES` に指定された時系列オブジェクト表が見つかりません。

処置: `SET_OBJECT_ATTRIBUTES` に指定された時系列オブジェクト表が存在することを確認してください。

TS-00614 existing object table is of different type

原因: (既存の) オブジェクト表の型が、指定された時系列の型と一致しません。

処置: 既存のオブジェクト表での時系列グループの作成中に、時系列の型がオブジェクト表の型と一致していることを確認してください。時系列オブジェクト表でサポートされる型は、`ORDSYS.ORDTNUMSERIES` および `ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES` のみです。

TS-00615 time series object table missing primary key constraint

原因: 必要な主キー制約が指定されていないオブジェクト表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: 時系列オブジェクト表が、`NAME` フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00616 existing time series object table missing index on the NAME attribute

原因: `NAME` フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないオブジェクト表で、時系列を作成しようとしてしました。

処置: 時系列表が、`NAME` フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00617 parameters conflict with object_table_exists

原因: OBJECT_TABLE_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールされたとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES、STORAGE_TABLE_NAME、STORAGE_TABLE_ATTRIBUTES または OBJECT_TABLE_PK フィールドが NULL でない値に設定されていました。

処置: OBJECT_TABLE_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールするとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES、STORAGE_TABLE_NAME、STORAGE_TABLE_ATTRIBUTES および OBJECT_TABLE_PK はすべて NULL を設定してください。

TS-00618 setprecision was called with unsupported arguments

原因: 引数として日付および頻度を使用して、SetPrecision をコールしようとしてしました。このインタフェースはサポートされていません。SetPrecision には引数としてカレンダーと日付が必要です。

処置: カレンダーと日付を指定して SetPrecision をコールするか、データベースの互換モードを 8.0.5 に変更してください。データベースの互換モードを変更すると、新しい機能が動作しなくなることにご注意してください。

TS-00619 OVERFLOW clause required in storage_table_attributes

原因: OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES が、OVERFLOW を含まない句に SET_OBJECT_ATTRIBUTES を使用するように設定されています。OVERFLOW 句は、ORDTVARCHAR2SERIES のオブジェクト格納を作成するときが必要です。

処置: ORDTVARCHAR2SERIES に設定された OBJECT_TABLE_TYPE で SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールされるとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES 内に指定された OVERFLOW 句が存在することを確認してください。

TS-00620 time series is invalid

原因: 新しい時系列インスタンスが有効な時系列でないので、オブジェクト・ビューの挿入または更新トリガーが失敗しました。

処置: 挿入中または更新中の新しい時系列が、有効な時系列かどうかを確認してください。

TS-00630 an irregular time series is not a valid input

原因: DeriveExceptions ファンクションには、入力した時系列が正規の時系列である必要があります（正規でない時系列には関連するカレンダーがないので、DeriveExceptions ファンクションへの入力は不正となります）。

処置: DeriveExceptions ファンクションに入力した時系列が、正規の時系列であることを確認してください。

TS-00631 lead and lag operations not supported for irregular timeseries

原因: リード操作およびラグ操作では、カレンダーが時系列のタイム・スタンプの結果を計算する必要があります。

処置: リードおよびラグが、カレンダーのある時系列のみで使用されていることを確認してください。

TS-00632 fill is not supported for irregular timeseries

原因: Fill では、カレンダーが時系列のタイム・スタンプの結果を計算する必要があります。

処置: Fill が、カレンダーのある時系列のみで使用されていることを確認してください。

TS-00633 table attribute value is too large

原因: 渡された表属性値が大きすぎます。

処置: 表属性 VARCHAR2 値が 1023 未満であることを確認してください。

TS-00640 time series cannot be scaled to target calendar - frequencies incompatible

原因: 時系列およびカレンダーの頻度に互換性がありません。

処置: スケール変更された時系列に関連付けられたカレンダーが、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

TS-00641 time series cannot be scaled to target calendar - calendar anchors incompatible

原因: 時系列とカレンダーに関連付けられたカレンダー・アンカーが一致していません。

処置: スケール変更された時系列に関連付けられたカレンダーが、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

TS-00642 time scaling error: input interval straddles two or more output intervals

原因: ソース時系列の 1 回の間隔が、スケール変更するターゲット・カレンダーの 2 回以上の間隔に渡っています。

処置: スケール変更される時系列が、ターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。

TS-00643 time scaling error: input interval maps to non-existing output interval

原因: 入力した時系列の 1 つ以上のセルに、ターゲット・カレンダーの関連付けられた間隔がありません。

処置: スケール変更される時系列が、ターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。

TS-00644 time scaling error: permitDropData parameter out of bounds

原因: permitDropData の無効な値が、Scaleup のパラメータとして指定されました。

処置: permitDropData パラメータが、0 または 1 であることを確認してください。

TS-00645 scaledownrepeat is not supported for irregular time series

原因: NULL カレンダのある時系列が、ScaleDownRepeat へ渡されました。

処置: ScaleDownRepeat で使用する時系列に、カレンダがあることを確認してください。

TS-00646 scaledownsplit is not supported for irregular time series

原因: NULL カレンダのある時系列が、ScaleDownSplit へ渡されました。

処置: ScaleDownSplit で使用する時系列に、カレンダがあることを確認してください。

TS-00647 invalid scaleup option

原因: 認識できないオプションを ScaleUp ファンクションで使用しました。

処置: 有効なオプションのリストについては、ドキュメントを参照してください。

TS-00648 invalid combination of scaleup options

原因: 複数の数値オプション、または数値と名前付きオプションの組合せが、ScaleUp で使用されました。

処置: 有効なオプションのリストについては、ドキュメントを参照してください。名前付きオプションが数値オプションとともに使用されていないこと、および1つ以上の数値オプションが指定されていないことを確認してください。

TS-00649 invalid scaleup option

原因: 認識できない数値オプションを ScaleUp ファンクションで使用しました。有効な数値オプションには、0、1、10 および 11 があります。

処置: 有効な数値オプションのみを使用することを確認してください。名前付きオプションの使用については、ドキュメントを参照してください。

TS-00650 duplicate scaleup option

原因: 複数の数値オプションまたは数値と名前付きオプションの組合せが、ScaleUp で使用されました。

処置: 複数の名前付きオプションを使用する場合は、オプションが重複しないように、また矛盾するオプションを使用しないように注意してください。矛盾するオプションのリストについては、ドキュメントを参照してください。

Spatial Data Option メッセージ (SDO)

Spatial Data Option の詳細は、『Oracle Spatial User's Guide and Reference』を参照してください。

SDO-00000 正常に完了しました。

原因: 操作が正常に完了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

SDO-00002 *string* ではエラーが多すぎます - 強制終了中です。

原因: 許可されるエラーの最大数に達しました。

処置: エラーを修正するか、または許可されるエラーの最大数を増やしてください。

SDO-00200 内部ヒープ・マネージャの初期化用にメモリーを割当てできませんでした。

原因: 必須メモリーを割当てできませんでした。

処置: 使用可能なメモリー量を増やすか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00201 メッセージ・ハンドラを初期化できません。

原因: 必須メモリーを割り当てることができなかった可能性があります。

処置: 使用可能なメモリー量を増やすか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00202 必須メモリーの割当て実行中にメモリー不足になりました。

原因: 必須メモリーを割当てできませんでした。

処置: 使用可能なメモリー量を増やすか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00203 最大バインド配列サイズが無効です。

原因: 必要な処理を行うために割り当てられた空間が、十分ではありません。

処置: バインド・サイズ値を増やしてください。

SDO-00250 処理用に *string* をオープンできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをオープンできませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00251 *string* をクローズできません。

原因: 指定された名前のファイルをクローズできませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00252 *string* を読み込めません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルを読み込めませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00253 *string* に書き込めません。

原因: 指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00254 *string* でシークできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをシークできませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00255 ログ・ファイルに書き込めません。

原因: ログ・ファイルに書き込めませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00256 *string* を削除できません。

原因: 指定された名前のファイルを削除できませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00257 *string* を改名できません。

原因：指定されたファイルの名前を変更できませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00258 処理用に一時ファイルをオープンできません。

原因：指定された名前の処理用ファイルをオープンできませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00259 一時ファイルをクローズできません。

原因：指定された名前のファイルをクローズできませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00260 一時ファイルから読み込めません。

原因：指定された名前の処理用ファイルを読み込めませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00261 一時ファイルに書き込めません。

原因：指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00262 一時ファイルでシークできません。

原因：指定された名前の処理用ファイルをシークできませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00263 他と重複しない一時ファイル名を作成できません。

原因：一意のファイル名を作成できませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00264 一時ファイルを削除できません。

原因：一時ファイルを削除できませんでした。

処置：このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00265 一時ファイルを改名できません。

原因: 一時ファイルの名前を変更できませんでした。

処置: このメッセージに付随するオペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00267 パスで環境変数を変換できません。

原因: 環境変数が無効か、または定義されていません。

処置: 環境変数が正しいことを確認してください。

SDO-00269 プロセスを分岐できません (エラー番号 = *string*)。

原因: 表示されたオペレーティング・システム・エラーのため、デーモンを分岐できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してください。

SDO-00270 デーモン・プロセスを連結解除できません (エラー番号 = *string*)。

原因: デーモンが制御ターミナルから連結解除できませんでした。

処置: 表示されたオペレーティング・システムのエラーを修正してください。

SDO-01000 キーワードまたは引数番号: *string* の値が無効です。

原因: キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、または引数値の型が不正です。

処置: コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

SDO-01001 必須のキーワードが欠落しています。

原因: キーワードがコマンドラインで省略されました。

処置: 必須のキーワードをコマンドラインに設定してください。

SDO-01002 キーワード *string* の引数が無効です。

原因: 引数が欠落しているか、または範囲外です。

処置: 引数が、表示されたキーワードに対して正しいことを確認してください。

SDO-01003 *string* が有効なキーワードでないか、またはキーワードの値が欠落しています。

原因: キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、またはキーワードの値が欠落しています。

処置: コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

SDO-01004 コマンド行の組み合わせが無効です。

原因: 使用されたキーワードは、コマンドラインの前のキーワードと組み合わせることができません。

処置: コマンドラインの構文を確認してください。

SDO-01005 コマンド行にエラーが検出されました。

原因：コマンドライン・パラメータが不正に定義されています。

処置：すべてのコマンドライン・パラメータが正しく指定されていることを確認してください。

SDO-01006 コマンド行にユーザー ID が指定されていません。

原因：コマンドラインに USER ID が指定されていません。

処置：コマンドラインに USER ID（たとえば、USER ID = sims/sims）を指定してください。

SDO-01007 接続文字列を解析できません。

原因：指定された接続文字列を正しく解析できませんでした。

処置：接続文字列が有効であることを確認してください。有効な場合は、メッセージを記録してから、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01008 NULL のユーザー ID が指定されました。

原因：NULL の USER ID が指定されました。

処置：USER ID を入力してください。

SDO-01009 NULL のパスワードが指定されました。

原因：NULL のパスワードが指定されました。

処置：パスワードを入力してください。

SDO-01200 内部エラー:[string]

原因：内部の一致操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01201 内部エラー:[string]

原因：内部の副文字列操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01202 内部エラー:[string]

原因：内部の増分値操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01203 内部エラー:[string]

原因: 内部の ID 設定操作中に、エラーが発生しました。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01204 内部エラー:[string]

原因: 内部の ID 取得操作中に、エラーが発生しました。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01500 ユーザー名 / パスワードが無効です。ログオンは拒否されました。

原因: Oracle にログオンするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

処置: 有効なユーザー名 / パスワードの組合せを、正しい形式で入力してください。

SDO-01501 Oracle にログオンできません。

原因: Oracle へのログオンに失敗しました。

処置: Oracle 接続文字列が有効であることを確認してください。

SDO-01502 MDSYS として接続できません。

原因: Oracle MDSYS アカウントへの接続に失敗しました。

処置: このアカウントが存在し、正しく設定されていることを確認してください。

SDO-01503 パーティションはロックされています。

原因: パーティションは現在使用されています。

処置: パーティションがロック解除されるまで待機してください。

SDO-01507 パーティションは不明な状態でロックされています。

原因: パーティションの状態が不明です。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリが正しいことを確認してください。

SDO-01508 他で実行された後に、パーティション・レコードを挿入しました。

原因: 複数のロードが同時に同じパーティションを作成しました (1 つのみ有効)。

処置: ロード・プロセスを再実行してください。

SDO-01600 表を作成できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を作成できることを確認してください。

SDO-01601 一時表を作成できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を作成できることを確認してください。

SDO-01602 表を削除できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を削除できることを確認してください。

SDO-01603 一時表を削除できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を削除できることを確認してください。

SDO-01604 表を切り捨てられません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を切り捨てることを確認してください。

SDO-01605 一時表を切り捨てられません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を切り捨てることを確認してください。

SDO-01607 HHCODE 列には領域情報がありません。

原因: HHCODE 列の領域情報が見つかりませんでした。

処置: 領域情報が正しいことを確認してください。

SDO-01608 HHCODE 列には *string* の領域情報が欠落しています。

原因: 領域情報が入力されていません。

処置: 領域情報が正しいことを確認してください。

SDO-01609 指定された所有者に対する領域表名が存在しません。

原因: 領域表名の綴りに誤りがあるか、存在しません。

処置: 表が存在すること、および綴りを確認してください。

SDO-01610 非 NULL フィールド: *string* に NULL が渡されました。

原因: 非 NULL フィールドとして設定された列に、NULL フラグが設定されました。

処置: フラグを非 NULL に設定してください。

SDO-01611 *string* の領域値は境界外です。

原因: 領域値が、ディメンションの上限および下限範囲内にありません。

処置: データが正しく、ディメンションの下限および上限が正しいかどうかを確認してください。

SDO-01612 列: *string* にはサポートされないデータ型があります。

原因: 列が、サポートされていないデータ型で定義されています。

処置: この列には別のデータ型を使用してください。

SDO-01613 *string* は、パーティションで区切られていない領域表として検索できませんでした。

原因: 指定された表は存在しないか、またはパーティションで区切られていない領域表ではありません。

処置: 指定された表が存在し、パーティションで区切られていない領域表であることを確認してください。

SDO-01614 一時表からディメンション情報を検索できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01615 一時列表から HHCODE 列情報を検索できません。

原因: 一時表が不正です。

処置: 表が存在し、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01616 領域表には HHCODE 列が含まれていません。

原因: HHCODE 列が指定された領域表に存在しません。

処置: HHCODE 列が指定された領域表に存在することを確認してください。

SDO-01617 指定された表にパーティション・キー列がありません。

原因: パーティション・キーとして指定された HHCODE 列がありませんでした。

処置: 空間表を変更して、パーティション・キーを持たせてください。

SDO-01618 HHCODE 列の領域情報が見つかりませんでした。

原因: HHCODE 列の領域情報が存在しません。

処置: 対応する空間表の、Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01619 細目の最大レベルを超えました。

原因: パーティション上の最大細目点で、最高水位標を超えています。

処置: 空間表をより高い水位標で変更してください。

SDO-01620 指定されたロールバック・セグメントにトランザクションを割り当てられません。

原因: 指定されたロールバック・セグメントは無効です。

処置: ロールバック・セグメントが正しいことを確認してください。

SDO-01621 一時ビューを作成できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: ビューを作成できることを確認してください。

SDO-01622 一時ビューを削除できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: ビューを削除できることを確認してください。

SDO-01700 パーティションで基本トリガーを作成できません。

原因: トリガーを作成できませんでした。

処置: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

SDO-01701 パーティションで基本トリガーを使用可能にできません。

原因: トリガーを使用可能にできませんでした。

処置: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

SDO-01702 表から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表から選択できることを確認してください。

SDO-01703 一時表から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表から選択できることを確認してください。

SDO-01704 user_users ビューから情報を選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: このビューから選択できることを確認してください。

SDO-01705 一時列表から選択できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01706 一時表から選択できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01707 一時表に挿入できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表に挿入できることを確認してください。

SDO-01708 all_tables ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置: ビューへのアクセス権があり、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01800 sys.col\$ から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.COL\$ から選択できることを確認してください。

SDO-01801 sys.obj\$ から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.OBJ\$ から選択できることを確認してください。

SDO-01802 sys.ts\$ から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.TS\$ から選択できることを確認してください。

SDO-01803 sys.tab\$ から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.TAB\$ から選択できることを確認してください。

SDO-01804 sys.dba_tables から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.DBA_TABLES から選択できることを確認してください。

SDO-01805 sys.dba_users から選択できません。

原因: このメッセージに付随する Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.DBA_USERS から選択できることを確認してください。

SDO-01850 string の HHCODE 列名が無効です。

原因: 指定された空間表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

処置: HHCODE 列が指定された空間表に存在することを確認してください。

SDO-01851 all_md_columns ビューでは列情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された空間表では非 HHCODE 列が見つかりませんでした。

処置: ALL_MD_COLUMNS ビューが正しいことを確認してください。

SDO-01852 all_md_tables ビューではクラス情報が見つかりませんでした。

原因: 空間表のクラス情報が見つかりませんでした。

処置: ALL_MD_TABLES ビューが正しいことを確認してください。

SDO-01853 all_md_tables ビューから情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01854 領域表の HHCODE 列名 : *string* が見つかりませんでした。

原因：指定された領域表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

処置：HHCODE 列が指定された領域表に存在することを確認してください。

SDO-01855 指定された HHCODE 列のディメンション名 : *string* が見つかりませんでした。

原因：指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置：入力されたディメンション名が有効であり、または指定された HHCODE 列のディメンション名が指定された空間表に存在することを確認してください。

SDO-01856 指定された領域表の列名 : *string* が見つかりませんでした。

原因：指定された領域表に列名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置：入力された列名が正しく、指定された領域表に存在することを確認してください。

SDO-01857 パーティション・キー列のディメンション名 : *string* が見つかりませんでした。

原因：指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置：入力されたディメンション名が有効であり、または指定されたパーティション・キー列のディメンション名が指定された空間表に存在することを確認してください。

SDO-01858 *string* の非 NULL フィールドに値が渡されていません。

原因：非 NULL フィールドとして設定された列に値が渡されませんでした。

処置：この列には、NULL 以外の値を渡してください。

SDO-01859 *string* のデータ型が無効です。

原因：COL 構造体データ型の記述が、空間表を記述するデータ型と一致しません。

処置：データを記述するデータ型が正しく、空間表の列が正しいデータ型であることを確認してください。

SDO-01860 パーティション名の順序がオーバーフローしました。

原因：順序の可能な値をすべて使い果たしました。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01900 md\$col 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01901 md\$dim 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01902 md\$ptab 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01903 mdv\$tab ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01904 mdv\$col ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01905 mdv\$dim ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01906 all_md_dimensions ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01907 all_md_columns ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01908 all_tab_columns ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置: ビューへのアクセス権があり、正しく動作していることを確認してください。

SDO-01909 all_md_dimensions ビューからディメンション情報を検索できません。

原因: ビューが存在しない可能性があります。

処置: ビューが存在し、正しく作動していることを確認してください。

SDO-01910 all_md_columns ビューから列情報を検索できません。

原因：ビューが存在しない可能性があります。

処置：ビューが存在し、正しく作動していることを確認してください。

SDO-01911 md\$ler 表から情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01912 md\$pts 表から情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01913 md\$tab 表から情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01914 md\$exc 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01915 md\$ler 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01916 md\$ptab 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01917 md\$exc 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01918 md\$ler 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01919 md\$ptab 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01920 md\$ptab 表で情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01921 md\$ler 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01922 md\$pts 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01923 md\$tab 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01924 dba_md_columns ビューから情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-01925 dba_md_dimensions ビューから情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを確認してください。

SDO-05000 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルが、パーティションで区切られた空間表、またはパーティションで区切られていない空間表に構築されています。SLF ファイルが誤ったクラスにロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05001 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルの HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05002 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの各 HHCODE 列に対するディメンションの合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05003 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの非 HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05004 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05005 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション数が、空間表でのディメンション数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05006 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの最大レベルが、空間表での最大レベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05007 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05008 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05009 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05010 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション番号が、空間表でのディメンション番号と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05011 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション・レベルが、空間表でのレベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05012 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの下限が、空間表での下限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05013 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの上限が、空間表での上限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05014 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05015 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05016 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列タイプが、空間表での列タイプと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05017 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列の精度フィールドが、空間表での精度フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05018 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列のスケール・フィールドが、空間表でのスケール・フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05019 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05020 SLF ファイルではデータが見つかりません (ヘッダー情報のみ)。

原因: 変換処理中に、SLF レコードの書き込みプロセスが停止しました。

処置: SLF ファイルを再作成して、SLF データが書き込まれていることを確認してください。

SDO-05200 *string* の行は複雑すぎて解析できません。

原因: 制御ファイルのデータが、最大のフィールド制限を超えました。

処置: メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-05201 *string* のフィールド数が不十分です。

原因: 制御ファイルのフィールドが3つより少なくなっています。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05202 *string* で必要な行またはキーワードが見つかりません。

原因: 必要なキーワードまたは行が見つかりませんでした。

処置: 指定されたキーワードの順序が正しいことを確認してください。

SDO-05203 無効なパーティション・キー列数が *string* に指定されました。

原因: 複数のパーティション・キーが、指定された名前の制御ファイルに指定されました。

処置: 指定された名前の制御ファイルに、HHCODE が1つのみパーティション・キーとして指定されていることを確認してください。

SDO-05204 HHCODE 列には *string* のディメンション順序が欠落しています。

原因: 空間情報を指定された名前の制御ファイルに入力しているときに、ディメンション順序が省略されました。

処置: ディメンションの順序値が正しいことを確認してください。

SDO-05205 *string* でファイル型キーワードが見つかりません。

原因: 指定されたファイルに、必要なファイル型が欠落しています。

処置: 制御ファイルに正しい情報があることを確認してください。

SDO-05206 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。

原因: 制御ファイルにフィールドが複数ありました。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05207 制御ファイルに指定された *string* は無効なファイル型です。

原因: ファイル型の綴りが不正です。有効なファイル型は BINARY と ASCII のみです。

処置: 制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを確認してください。

SDO-05208 *string* で書式キーワードが見つかりません。

原因: 指定された名前のファイルで、要求された書式キーワードが欠落しています。

処置: 制御ファイルに正しい情報があることを確認してください。

SDO-05209 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。

原因: 制御ファイルにフィールドが 2 つ以上ありました。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05210 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: キーワード FIXED が制御ファイル内に見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを確認してください。

SDO-05211 データ・ファイルに指定された *string* は無効なレコード長です。

原因: 与えられたデータ・ファイルに指定されたレコード長が無効です。

処置: 指定されたレコード長が正しいことを確認してください。

SDO-05212 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 有効なキーワードは DIMENSION と COLUMN のみです。

処置: 制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを確認してください。

SDO-05213 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 欠落しているキーワード POSITION が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを確認してください。

SDO-05214 *string* に無効なポジション値が指定されました。

原因: フィールド位置が不正に指定されました。

処置: 指定されたフィールド位置が正しいことを確認してください。

SDO-05215 制御ファイルに指定された *string* は無効なデータ型です。

原因: 指定されたデータ型の綴りが不正でした。有効なデータ型は INTEGER、SMALLINT、FLOAT、DOUBLE、BYTEINT、DATE、RAW および CHAR のみです。

処置: 指定されたデータ型が正しいことを確認してください。

SDO-05216 指定された位置の長さが *string* と矛盾します。

原因: フィールド位置が不正に指定されました。

処置: 指定されたフィールド位置が正しいことを確認してください。

SDO-05217 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 欠落しているキーワード NULLIF が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを確認してください。

SDO-05218 制御ファイルの *string* は無効な NULL 標識です。

原因: NULL インジケータが不正に指定されました。

処置: NULL インジケータが正しいかどうかを確認してください。

SDO-05219 *string* では領域情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された名前のファイルで、領域情報が見つかりませんでした。

処置: 指定された名前のファイルに、ディメンション情報を入力してください。

SDO-05220 *string* では領域情報または列情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された名前のファイルで、領域情報が見つかりませんでした。

処置: 指定された名前のファイルに、列情報およびディメンション情報を入力してください。

SDO-05221 データ・ファイルの *string* は予期せぬ値です。

原因: 必要な値が見つかりませんでした。

処置: 指定されたファイルが正しいかどうかを確認してください。

SDO-05222 列: *string* を使用してデータを変換できません。

原因: 不正なデータが渡されたか、または不正なフォーマット文字列が使用されました。

処置: データおよびフォーマット文字列が正しいかどうかを確認してください。

SDO-05500 ユーザーにより SD*Loader が強制終了されました。

原因: ユーザーによりプログラムが強制終了されました。

処置: 処置は必要ありません。

SDO-05501 SQL*Loader で全レコードをパーティションにロードできません。

原因: レコードのいくつかが不正か、または拒否されました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-05502 SQL*Loader でエラーが発生しました。

原因: SQL*Loader プロセスが停止しました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-07506 RESTORE 要求に失敗しました。

原因: RESTORE 要求に失敗しました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-07510 不正なブール値です。

原因：不正なブール値が指定されました。

処置：値が TRUE または FALSE であることを確認してください。

SDO-07511 端末からユーザー入力を読み込みません。

原因：端末からのユーザー入力のプロンプトを試行中に、エラーが検出されました。これは内部エラーです。

処置：メッセージを記録して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

Visual Information Retrieval オプションの詳細は、『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01001 ANALYZE failed to generate the SIGNATURE

原因: Analyze ファンクションは Signature を生成できませんでした。

処置: アナライズされるイメージが有効であることを確認してください。

VIR-01002 SCORE failed to compare the SIGNATURES

原因: Score ファンクションは 2 つの Signature を比較できませんでした。

処置: Signature が正しく生成されていることを確認してください。

VIR-01003 SIGNATURE buffer too small

原因: 生成される Signature が、それを受け取るために割り当てられた記憶域より小さくなっています。

処置: Signature に割り当てる領域を増加してください。分析するイメージの複雑さを軽減してください。また、分析するイメージを切り取って、不要な特徴を削減してください。

VIR-01005 empty or null attribute string

原因: 空または NULL の重み付け属性文字列が Score または Similar ファンクションに渡されました。

処置: 正しい使用方法および属性の重み付け文字列の構文は、『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01006 invalid attribute value

原因: Score または Similar ファンクションで属性の重み付け文字列を解析しているときに、無効な値が見つかりました。

処置: 有効な属性値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および Score と Similar 属性の重み付け文字列の構文は、『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01007 internal error

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VIR-01008 string

原因: Score または Similar ファンクションで属性の重み付け文字列を解析しているときに、構文エラーが見つかりました。

処置: 正しい有効なパラメータ値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および属性の重み付け文字列の構文は、『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01009 unable to read image data

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01010 SIGNATURE data has been corrupted or is invalid

原因: Signature 内のデータが有効な Virage Signature ではありません。

処置: Analyze メソッドを使用して Signature を再作成してください。

VIR-01011 SIGNATURE is in incorrect byte order

原因: Signature 内のデータは有効な Virage Signature の可能性がありますが、バイト順序が正しくありません。

処置: Convert メソッドを使用してバイト順序を変更してください。

VIR-01012 SIGNATURE conversion failed

原因: Signature 内のデータが有効な Viisage Signature でない可能性があります。

処置: 有効な Viisage Signature で Signature を再作成してください。

VIR-01013 invalid conversion operation

原因: 指定された変換操作が無効です。

処置: 正しい使用方法および変換操作文字列の構文は、『Oracle Visual Information Retrieval User’s Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01014 specified weights are not valid

原因: 指定された重み付けが Score には無効です。標準とフェイシャルの両方の重み付けが指定されました。

処置: 標準とフェイシャルの両方に重み付けを指定しないでください。

VIR-01015 no weights specified

原因: 渡されたすべての重み付けが 0 です。1 つ以上の属性に重み付けを指定する必要があります。

処置: 1 つ以上の属性に重み付けを指定してください。

VIR-01016 internal error during initialization

原因: VIR イメージ・エンジンを初期化しようとしているときに、内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VIR-01017 out of memory while analyzing image

原因: イメージの分析中に、外部プロシージャ・エージェントがオペレーティング・システムのメモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、外部プロセス・エージェントのプロセス・メモリーの割当てを増やしてください。

VIR-01018 unable to convert SIGNATURE to native byte order

原因: Signature データが破損している可能性があります。

処置: Analyze メソッドを使用して Signature を再作成してください。

VIR-01019 SIGNATURE is not a Viisage signature

原因: 受け取った Signature が Viisage Signature ではありません。

処置: 有効な Viisage Signature で Signature を再作成してください。

A

AUD, 42-1

B

BACKGROUND_DUMP_DEST 初期化パラメータ, 1-5

D

DRG, 45-1

E

EPC, 15-1

EXP, 16-1

I

IMG, 43-1

IMP, 17-1

L

LCD, 19-1

LFI, 20-1

LRM, 18-1

M

MOD, 34-1

N

NCR, 32-1

NMP, 31-1

NNC, 26-1

NNF, 30-1

NNL, 28-1

NNO, 27-1

NPL, 29-1

NZE, 33-1

O

O2F, 35-1

O2I, 36-1

O2U, 37-1

ORA-00000 ～ ORA-00899, 2-1

ORA-00900 ～ ORA-01499, 3-1

ORA-01500 ～ ORA-02099, 4-1

ORA-02100 ～ ORA-04099, 5-1

ORA-04100 ～ ORA-07499, 6-1

ORA-07500 ～ ORA-09857, 7-1

ORA-09858 ～ ORA-12299, 8-1

ORA-12300 ～ ORA-12399, 9-1

ORA-12400 ～ ORA-12699, 10-1

ORA-12700 ～ ORA-19399, 11-1

ORA-19400 ～ ORA-24279, 12-1

ORA-24280 ～ ORA-29249, 13-1

ORA-29250 ～ ORA-32767, 14-1

P

PCB, 38-1

PCC, 40-1

PCF, 39-1

PLS, 21-1

Q

QSM, 22-1

R

RMAN, 23-1

S

SDO, 47-1

SQL, 41-1

SQL*Loader, 24-1

T

TNS, 25-1

TS, 46-1

U

USER_DUMP_DEST 初期化パラメータ, 1-5

V

VID, 44-1

VIR, 48-1

し

初期化パラメータ

 BACKGROUND_DUMP_DEST, 1-5

 USER_DUMP_DEST, 1-5

め

メッセージ・スタック, 1-3

メッセージにおける埋込み変数, 1-3